

シ ラ バ ス

農 学 部 授 業 計 画

2 0 2 6 年 度



明 治 大 学

明治大学2026年度学年暦

春 学 期		4 月 1 日 (水) ~ 9 月 1 9 日 (土)
入 学 式		4 月 7 日 (火)
学 習 指 導		4 月 1 日 (水) ~ 4 月 9 日 (木)
授 業 期 間		4 月 1 0 日 (金) ~ 7 月 2 2 日 (水)
	前半集中開講科目 (S1) ※	4 月 1 0 日 (金) ~ 6 月 3 日 (水)
	後半集中開講科目 (S2) ※	6 月 4 日 (木) ~ 7 月 2 2 日 (水)
臨時休業(休講)日		5 月 1 日 (金) ・ 5 月 2 日 (土)
休日授業実施日①		4 月 2 9 日 (水) [昭 和 の 日]
休日授業実施日②		7 月 2 0 日 (月) [海 の 日]
補 講 日	※土曜日の通常時限を利用	5 月 2 3 日 (土) ・ 5 月 3 0 日 (土)
		7 月 1 1 日 (土) ・ 7 月 1 8 日 (土)
定 期 試 験	※予備日を含む	7 月 2 3 日 (木) ~ 7 月 3 1 日 (金)
夏 季 休 業		8 月 1 日 (土) ~ 9 月 1 9 日 (土)
秋 季 卒 業 式		9 月 1 9 日 (土)
秋 学 期		9 月 2 0 日 (日) ~ 3 月 3 1 日 (水)
秋 季 入 学 式		9 月 1 9 日 (土)
学 習 指 導		9 月 1 8 日 (金)
授 業 期 間		9 月 2 0 日 (日) ~ 1 月 2 3 日 (土)
	前半集中開講科目 (F1) ※	9 月 2 0 日 (日) ~ 1 1 月 1 4 日 (土)
	後半集中開講科目 (F2) ※	1 1 月 1 5 日 (日) ~ 1 月 2 3 日 (土)
休日授業実施日①		9 月 2 1 日 (月) [敬 老 の 日]
休日授業実施日②		9 月 2 2 日 (火) [国 民 の 休 日]
休日授業実施日③		1 0 月 1 2 日 (月) [ス ポ ー ツ の 日]
休日授業実施日④		1 1 月 2 3 日 (月) [勤 労 感 謝 の 日]
補 講 日	※土曜日の通常時限を利用	1 0 月 1 7 日 (土) ・ 1 0 月 2 4 日 (土)
	※全日補講のみ実施	1 2 月 2 2 日 (火) ・ 1 月 2 2 日 (金)
大 学 祭 週 間	※当該期間中は全日休講	1 0 月 2 9 日 (木) ~ 1 1 月 3 日 (火)
明 大 祭		1 0 月 3 0 日 (金) ~ 1 1 月 1 日 (日)
生 明 祭		1 0 月 3 0 日 (金) ~ 1 1 月 1 日 (日)
創 立 記 念 祝 日		1 1 月 1 日 (日)
臨時休業(休講)日		1 2 月 2 3 日 (水) ・ 1 2 月 2 4 日 (木)
		1 月 1 6 日 (土)
冬 季 休 業		1 2 月 2 5 日 (金) ~ 1 月 7 日 (木)
創 立 記 念 日		1 月 1 7 日 (日)
定 期 試 験	※予備日を含む	1 月 2 5 日 (月) ~ 2 月 3 日 (水)
春 季 休 業		2 月 4 日 (木) ~ 3 月 3 1 日 (水)
卒 業 式		3 月 2 6 日 (金)

※各学期の前半集中・後半集中開講科目の利用は、一部の授業で7週完結授業を導入する学部に限る。

※大学祭週間中の授業休講措置は全キャンパスに適用する。ただし、大学院、専門職大学院において大学祭週間に授業を実施する場合がある。

明治大学2026年度学年暦

全キャンパス共通

【 春 学 期 】

曜日	日	月	火	水	木	金	土
4				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		
5						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
7				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
8							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
9	30	31					
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19

前半集中開講科目【S1】

後半集中開講科目【S2】

前半集中開講科目【F1】

後半集中開講科目【F2】

【 秋 学 期 】

曜日	日	月	火	水	木	金	土
9							
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			
10					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
12			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
1						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
2		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28						
3		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

授業回数

14 14 14 14 14 14

授業回数

14 14 14 14 14 14

学習指導日

休日

休日授業実施日

定期試験日(予備日を含む)

大学祭週間

※大学祭週間中は全キャンパス休講

臨時休業(休講)日

土曜通常時限使用補講日

完全補講日(秋学期のみ)

明大祭:10月30日(金)~11月1日(日)

生明祭:10月30日(金)~11月1日(日)

2026 Academic Year Schedule

Spring Semester		April 1 (Wed.)	~	September 19 (Sat.)
Entrance Ceremony		April 7 (Tue.)		
Orientation		April 1 (Wed.)	~	April 9 (Thu.)
Course Terms		April 10 (Fri.)	~	July 22 (Wed.)
	First Half Intensive Course (S1) *	April 10 (Fri.)	~	June 3 (Wed.)
	Second Half Intensive Course (S2) *	June 4 (Thu.)	~	July 22 (Wed.)
Temporary Closure (No Classes)		May 1 (Fri.)	.	May 2 (Sat.)
Classes held on this holiday (1)		April 29 (Wed.)		[Showa Day]
Classes held on this holiday (2)		July 20 (Mon.)		[Marine Day]
Make-up Classes (1)	*Held on periods available on Saturdays	May 23 (Sat.)	.	May 30 (Sat.)
Make-up Classes (2)	*Held on periods available on Saturdays	July 11 (Sat.)	.	July 18 (Sat.)
Final Examinations	*Including days in reserve	July 23 (Thu.)	~	July 31 (Fri.)
Summer Break		August 1 (Sat.)	~	September 19 (Sat.)
Fall Graduation Ceremony		September 19 (Sat.)		
Fall Semester		September 20 (Sun.)	~	March 31 (Wed.)
Fall Entrance Ceremony		September 19 (Sat.)		
Orientation		September 18 (Fri.)		
Course Terms		September 20 (Sun.)	~	January 23 (Sat.)
	First Half Intensive Course (F1) *	September 20 (Sun.)	~	November 14 (Sat.)
	Second Half Intensive Course (F2) *	November 15 (Sun.)	~	January 23 (Sat.)

Classes held on this holiday (1)		September 21 (Mon.)	[Respect for the Aged Day]
Classes held on this holiday (2)		September 22 (Tue.)	[National Holiday]
Classes held on this holiday (3)		October 12 (Mon.)	[Sports Day]
Classes held on this holiday (4)		November 23 (Mon.)	[Labor Thanksgiving Day]
Make-up Classes (1)	*Held on periods available on Saturdays	October 17 (Sat.)	October 24 (Sat.)
Make-up Classes (2)	* Make-up Classes ONLY will be held on these days	December 22 (Tue.)	January 22 (Fri.)
University Festival Week	*No Classes during this period	October 29 (Thu.)	~ November 3 (Tue.)
Meiji Festival ("Meidaisai")		October 30 (Fri.)	~ November 1 (Sun.)
Ikuta Meiji Festival ("Ikumeisai")		October 30 (Fri.)	~ November 1 (Sun.)
University Foundation Memorial Holiday		November 1 (Sun.)	
Temporary Closure (No Classes)		December 23 (Wed.)	December 24 (Thu.)
		January 16 (Sat.)	
Winter Break		December 25 (Fri.)	~ January 7 (Thu.)
University Foundation Day		January 17 (Sun.)	
Final Examinations	*Including days in reserve	January 25 (Mon.)	~ February 3 (Wed.)
Spring Break		February 4 (Thu.)	~ March 31 (Wed.)
Graduation Ceremony		March 26 (Fri.)	

*First and second half intensive courses for each semester are only provided in schools which have a 7-week completion system for some of their courses.

*No undergraduate classes will be held on any of the campuses during the University Festival Week. However, classes may be held in the Graduate School or Professional Graduate School during this week.

2026 Academic Year Calendar

Applies to All Campuses

【Spring Semester】

	Sun.	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	Sat.
4 Apr.				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		
5 May						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6 Jun.		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
7 Jul.				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
8 Aug.							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
9 Sep.	30	31					
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19

First Half Intensive Course (S1)

First Half Intensive Course (F1)

Second Half Intensive Course (S2)

Second Half Intensive Course (F2)

The Number of Classes

14 14 14 14 14 14

- Orientation
- Holiday (School Closure)
- Classes held on the Holiday
- Final Examinations (Including reserve days)
- University Festival Week

*No undergraduate classes at any campuses

【Fall Semester】

	Sun.	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	Sat.
9 Sep.							
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			
10 Oct.					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
11 Nov.	25	26	27	28	29	30	31
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
12 Dec.	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
			1	2	3	4	5
1 Jan.	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
2 Feb.						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
3 Mar.	24	25	26	27	28	29	30
	31						
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
4 Apr.	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

The Number of Classes

14 14 14 14 14 14

- Temporary Closure (No Classes)
- Make-up Classes (Held on periods available on Saturdays)
- Make-up Classes ONLY are held on these days and ONLY in the Fall Semester

Meidaisai: October 30 (Fri.)~November 1 (Sun.)

Ikumeisai: October 30 (Fri.)~November 1 (Sun.)

目 次

1. シラバスについて

科目読替え表

科目ナンバリングについて

2. シラバス

総合教育科目/総合科目 教養科目群＜第一分野＞

総合教育科目/総合科目 教養科目群＜第二分野＞

総合教育科目/総合科目 教養科目群＜第三分野＞

総合教育科目/総合科目 共通専門科目群

総合教育科目/総合科目 外国語科目群＜第一外国語＞

総合教育科目/総合科目 外国語科目群＜第二外国語＞

総合教育科目/総合科目 保健・体育科目群

総合教育科目/総合科目 総合教育ゼミナール/総合科目ゼミナール（サブ・ゼミナール）

複数学科設置科目

農学科

農芸化学科

生命科学科

食料環境政策学科

1. シラバスについて

このシラバスには授業の概要、成績評価の方法など、履修をする際の重要な情報が掲載されています。各自の入学年度の「農学部便覧」と併せて熟読し、充実した履修計画を検討してください。

〈注意事項〉

シラバスは各学科ごとに科目を並べてあります。必要に応じてPDFの検索機能より検索してください。

〈2026年度・2027年度・2028年度未開講・廃止科目〉

以下の表は2026年度・2027年度・2028年度の未開講・廃止科目になりますので、履修計画を組む際の参考にしてください。

また、入学年度によって科目名が異なる場合がありますので、注意してください。

なお、未開講・廃止科目については変更になる可能性があります。

2026年度～2028年度未開講・廃止科目一覧

【2026年度未開講・廃止科目】

開設	2026年度以降入学者	2022～2025年度入学者	備考
農学科	土壌物理学	土壌物理学	未開講
	農村計画学	農村計画学	未開講
	プロジェクト計画法	プロジェクト計画法	未開講
	測量実習Ⅰ	測量実習Ⅰ	未開講
農芸化学科	測量実習Ⅱ	測量実習Ⅱ	未開講
		生物学	未開講
	生物機能化学	生物機能化学	未開講
生命科学科		生体制御学	未開講
		動物栄養学Ⅱ	未開講
		発生工学	未開講
食料環境政策学科	環境社会学	環境社会学	未開講
	環境問題と地域社会	環境問題と地域社会	未開講
総合教育科	国際農業文化理解(バリ)	国際農業文化理解(バリ)	未開講

【2027年度未開講・廃止科目】

開設	2026年度以降入学者	2022～2025年度入学者	備考
農学科	生産システム学	生産システム学	未開講
	生産システム学概論	生産システム学概論	未開講
	動物資源繁殖学	動物資源繁殖学	未開講
農芸化学科			
生命科学科			
食料環境政策学科			
総合教育科	地域文化研究(1)(2)	地域文化研究(1)(2)	未開講

【2028年度未開講・廃止科目】

開設	2026年度以降入学者	2022～2025年度入学者	備考
農学科	土壌物理学	土壌物理学	未開講
農芸化学科			
生命科学科			
食料環境政策学科			
総合教育科	国際農業文化理解(バリ)	国際農業文化理解(バリ)	未開講

上記の表は2026年度・2027年度・2028年度の未開講・廃止科目になりますので、履修計画を組む際の参考にしてください。

また、入学年度によって科目名が異なる場合がありますので、注意してください。

なお、未開講・廃止科目については変更になる可能性があります。

〈実務経験のある教員による授業科目〉

以下の表中の科目は、実践的教育として実務経験のある教員によって実施されます。

2026年度実務経験のある教員による授業科目

以下の表中の科目は、実践的教育として実務経験のある教員によって実施されます。

開設	2026年度以降入学者	2022～2025年度入学者	備考
総合教育科	生命倫理学	生命倫理学	
	Global Competence A	Global Competence A(実りある海外体験)	
	Global Competence B	Global Competence B(異文化理解と適応力)	
	Global Competence C	Global Competence C(日本文化の理解と発信力)	
農学科	ランドスケープ設計学	ランドスケープ設計学	
	動物感染症学	動物感染症学	
	(プロジェクト計画法)	(プロジェクト計画法)	26年度未開講
	技術者倫理	技術者倫理	
農芸化学科	応用微生物学	応用微生物学	
	農薬化学	農薬化学	
	化粧品科学	化粧品科学	
	発酵食品学	発酵食品学	
	分子生物学(農化)	分子生物学(農化)	
	環境バイオテクノロジー	環境バイオテクノロジー	
	環境科学	環境科学	
	微生物化学	微生物化学	
	微生物生理学	微生物生理学	
生命科学科	微生物学Ⅱ	微生物学Ⅱ	
食料環境政策学科	環境学入門	環境学入門	
	国際協力論	国際協力論	
	協同組合論	協同組合論	
	「食料環境政策」総合講座	「食料環境政策」総合講座	
	食農メディア論A・B	食農メディア論A・B	
	先進国の食と環境	先進国の食と環境	

【科目読み替え表】

入学年度により科目名や分野系列が異なる場合があります。
以下の読み替え表を必要に応じて参照してください。

2026年4月1日～

2026年度以降入学者カリキュラム	2022～2025年度入学者カリキュラム	2017～2021年度入学者カリキュラム科目
総合教育科目	総合科目	総合科目
教養科目群	教養科目群	共通科目群
<第一分野>	<第一分野>	<第一分野>
Global Competence A	Global Competence A ★科目名の適及措置	Global Competence A ★科目名の適及措置
Global Competence B	Global Competence B ★科目名の適及措置	Global Competence B ★科目名の適及措置
Global Competence C	Global Competence C ★科目名の適及措置	Global Competence C ★科目名の適及措置
<第二分野>	共通専門科目群	<第二分野>
教養としての食料環境政策学	農業経済初歩概説	農業経済初歩概説
<第三分野>	共通専門科目群	<第三分野>
教養としての生物生産学	生物生産学初歩概説	生物生産学初歩概説
教養としての農芸化学	農芸化学初歩概説	農芸化学初歩概説
教養としての生命科学	生命科学初歩概説	生命科学初歩概説
共通専門科目群	共通専門科目群	<学際的分野>
生命倫理学	生命倫理学	生命倫理学
共通専門科目群	共通専門科目群	各学科基礎科目群・専攻科目群・フィールドサイエンス科目群
-	英語農学Ⅰ	英語農学Ⅰ
-	英語農学Ⅱ	英語農学Ⅱ
英語農学入門	- 【食料環境政策学科 基礎科目群「英語農学入門」】	- 【食料環境政策学科 基礎科目群「英語農学入門」】
英語農学 A : Agri-Food Science	英語農学 A : Agri-Food Science ★開講の適及措置	-
英語農学 B : Biosciences	英語農学 B : Biosciences ★開講の適及措置	-
英語農学 C : Environmental Management and Climate Change	英語農学 C : Environmental Management and Climate Change ★開講の適及措置	-
英語農学 D : Rural Resource Management	英語農学 D : Rural Resource Management ★開講の適及措置	-
英語農学 E : Environmental Pollution and Control	英語農学 E : Environmental Pollution and Control ★開講の適及措置	-
農場実習Ⅰ	農場実習	農場実習
農場実習Ⅱ	農場実習Ⅱ ★開講の適及措置	-
アグリサイエンス論	アグリサイエンス論	アグリサイエンス論
フィールド先端農学	フィールド先端農学	フィールド先端農学
国際農業文化理解 (タイ)	国際農業文化理解 (タイ)	国際農業文化理解 (タイ)
国際農業文化理解 (バリ)	国際農業文化理解 (バリ) (2025年度から) ★開講の適及措置	国際農業文化理解 (バリ) (2025年度から) ★開講の適及措置
総合教育ゼミナール (サブ・ゼミナール)	総合科目ゼミナール (サブ・ゼミナール)	総合科目ゼミナール (サブ・ゼミナール)
留学認定科目	留学認定科目	<学際的分野>
留学認定科目 (総合教育科目)	留学認定科目 (総合科目)	留学認定科目 (総合科目・学際的分野)
農学科	農学科	農学科
基礎科目群	基礎科目群	基礎科目群
導入科目	導入科目	導入科目
アニマルサイエンス入門	アニマルサイエンス入門	基礎動物生産学
ランドスケープ入門	ランドスケープ入門	緑地学入門
農学基礎科目	農学基礎科目	農学基礎科目
植物生理学	植物生理学	植物生理生態学
マクロ生物学入門	マクロ生物学入門	植物分類・形態学
基礎図法	基礎図法	図学
バイオテクノロジー	バイオテクノロジー	遺伝子工学 (農)
動物生理・栄養学	動物生理・栄養学	動物生理学入門
動物生産制御学【履修可能年次：1年次】	- 【専攻科目群 食糧生産関係「動物生産制御学」】	- 【専攻科目群 食糧生産関係「動物生産制御学」】
生物多様性進化学	生物多様性進化学	-
専攻科目群	専攻科目群	専攻科目群
基幹科目	基幹科目	基幹科目
動物生産・福祉学	動物生産・福祉学	動物生産学
動物行動学【履修可能年次：1年次】	動物行動学【履修可能年次：2年次】	動物行動学【履修可能年次：2年次】
保全生態学	保全生態学	植物保全生態学
ランドスケープデザイン学	ランドスケープデザイン学	環境デザイン学
食料生産関係	食糧生産関係	食糧生産関係
動物資源繁殖学【履修可能年次：3年次】	動物資源繁殖学【履修可能年次：2年次】	動物資源繁殖学【履修可能年次：2年次】
野生動物学【履修可能年次：2年次】	野生動物学【履修可能年次：3年次】	有害動物学【履修可能年次：3年次】
- 【基礎科目群 農学基礎科目「動物生産制御学」】	動物生産制御学【履修可能年次：3年次】	動物生産制御学【履修可能年次：3年次】
食料生産・環境関係	食糧生産・環境関係	食糧生産・環境関係
土壌物理学【履修可能年次：1年次】	土壌物理学 ★履修可能年次の適及措置：2年次→1年次へ引下げ	土壌物理学 ★履修可能年次の適及措置：2年次→1年次へ引下げ
環境関係	環境関係	環境関係
生物多様性再生学	生物多様性再生学	生物多様性デザイン学
ランドスケープ工学	ランドスケープ工学	緑地工学
ランドスケープエコロジー	ランドスケープエコロジー	緑地環境学
ランドスケープ情報論	ランドスケープ情報論	自然公園論
アグロエコロジー	ランドスケープ活用学	緑地管理学
ランドスケープ設計学	ランドスケープ設計学	緑空間設計学
ランドスケープ計画学	ランドスケープ計画学	緑地計画学
農芸化学科	農芸化学科	農芸化学科
基礎科目群	基礎科目群	基礎科目群
-	-	化学
必修化学	生物学	生物学
有機化学	必修化学	分析化学
微生物学	有機化学	有機化学Ⅰ
微生物学	微生物学Ⅰ (化)	微生物学Ⅰ (化)
生物有機化学 (化)	微生物学Ⅱ (化)	微生物学Ⅱ (化)
基礎生物統計学【履修可能年次：1年次】	生物有機化学 (化)	有機化学Ⅱ
-	基礎生物統計学 ★履修可能年次の適及措置：2年次→1年次へ引下げ	基礎生物統計学 ★履修可能年次の適及措置：2年次→1年次へ引下げ
専攻科目群	インターンシップ (2023年度まで) ★履修不可	インターンシップ (2023年度まで) ★履修不可
化粧品科学	化粧品科学 (2025年度から) ★開講の適及措置	化粧品科学 ★開講の適及措置
生命科学科	生命科学科	生命科学科
基礎科目群	基礎科目群	基礎科目群
基礎生化学	生化学Ⅰ (生体成分・酵素)	生化学Ⅰ (生体成分・酵素)
動物生化学	生化学Ⅱ (動物代謝)	生化学Ⅱ (動物代謝)
植物生化学	生化学Ⅲ (植物代謝)	生化学Ⅲ (植物代謝)
遺伝子工学【履修可能年次：2年次】	- 【専攻科目群「遺伝子工学」】	- 【専攻科目群「遺伝子工学」】
キャリア教育	インターンシップ (2023年度まで) →キャリア教育 (2024年度から)	インターンシップ (2023年度まで) →キャリア教育 (2024年度から)
専攻科目群	専攻科目群	専攻科目群
生殖生物学【履修可能年次：3年次】	生殖生物学 ★履修可能年次の適及措置：2年次→3年次へ引上げ	生殖生物学 ★履修可能年次の適及措置：2年次→3年次へ引上げ
-	生体制御学	生体制御学
動物栄養学	動物栄養学Ⅰ	動物栄養学Ⅰ
-	動物栄養学Ⅱ	動物栄養学Ⅱ
-	発生工学	発生工学
神経科学	神経科学 ★開講の適及措置	神経科学 ★開講の適及措置
- 【基礎科目群「遺伝子工学」】	遺伝子工学 ★履修可能年次の適及措置：3年次→2年次へ引下げ	遺伝子工学 ★履修可能年次の適及措置：3年次→2年次へ引下げ
食料環境政策学科	食料環境政策学科	食料環境政策学科
基礎科目群	基礎科目群	基礎科目群
- 【削除】	<専攻基礎科目>	<専攻基礎科目>
- 【総合教育科 共通専門科目群「英語農学入門」】	英語農学入門	英語農学入門
専攻科目群	専攻科目群	専攻科目群
専攻科目Ⅱ	専攻科目Ⅱ	専攻科目Ⅱ
比較農業論	比較農業論	国際比較農政論
食と農の貿易ルール	食と農の貿易ルール	国際貿易協定論
国際協力論	国際協力論	国際協力と国際機関
アグリデータサイエンス	-	-
キャリア探求実習	インターンシップ (2023年度まで) →キャリア探求実習 (2024年度から)	インターンシップ (2023年度まで) →キャリア探求実習 (2024年度から)

科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバーを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

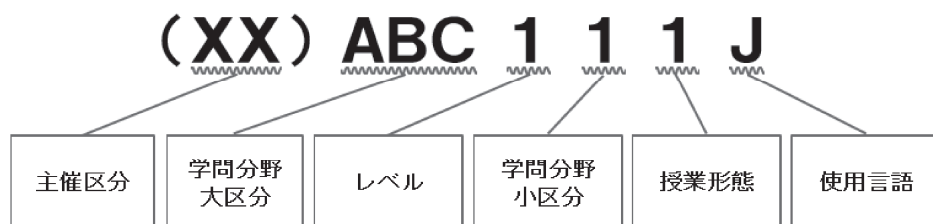
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバーを付番します。

＜科目ナンバーの構造＞



＜各ナンバリングコードの定義＞

① 主催区分コード

当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。

② 学問分野 大区分コード

学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。

③ レベルコード

当該科目のレベルを数字1文字で示しています。

④ 学問分野 小区分

本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。

⑤ 授業形態コード

当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。

⑥ 使用言語コード

当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

＜各コードの詳細＞

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバーについては、本学ホームページ又はOh-o! Meiji システムにて確認ください。

以 上

2026年度以降入学者

総合教育科目教養科目群＜第一分野＞

2022～2025年度入学者

総合科目教養科目群＜第一分野＞

科目ナンバー (AG)PHL111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 宗教の哲学	2 単位	長田 蔵人
2022～2025 年度入学者 宗教の哲学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 科学の正しさに対する「信念」と宗教的な「信念」との違いは何だろうか？本講義では、科学と宗教という、もっとも人間らしいとも言える 2 つの精神活動のうち、宗教的な信念（信仰）を取り上げ、その特質や働き、またその多様なあり方について学ぶことが目指される。 授業ではまず、宗教を哲学的考察の対象とすることの意味と方法についての議論を確認したうえで、世界の代表的な宗教を概観する。そのうえで、信仰の問題に対して合理的な知がいかんにして関わりうるかという問いを通じて、現代社会における宗教の意味や問題点について理解を深めたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の B に対応する科目である。 《到達目標》 （１）「信じる」ということの複数の意味を区別して説明できる。 （２）「合理的である」ということの意味を説明できる。 （３）宗教の役割や問題点について、自分なりの考え方を説明することができる。		
2. 授業内容 第 1 回 a のみ： イントロダクション ― 宗教的世界観と科学的世界観 第 2 回 宗教学および宗教哲学の方法 第 3 回 世界の諸宗教 1（ユダヤ教） 第 4 回 宗教の心理学的解釈 第 5 回 世界の諸宗教 2（キリスト教） 第 6 回 信仰と合理性 第 7 回 世界の諸宗教 3（イスラーム教） 第 8 回 想像力と信念の力 第 9 回 世界の諸宗教 4（インドの宗教） 第 10 回 合理主義的宗教批判 第 11 回 世界の諸宗教 5（日本の宗教） 第 12 回 現代日本と宗教 第 13 回 宗教と倫理 第 14 回 信念の根拠への問い		
3. 履修上の注意 出席数が授業回数の 3 分の 2 を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。 また、特段の事情がない限り、20 分以上の遅刻は出席としては認められませんので、注意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ配布されるレジュメや資料を熟読のうえ、疑問点をまとめておくこと。 また授業後は、レジュメを中心にノートを整理し、正確な理解と自分なりの考えを深めたうえで、ミニ・レポート課題を提出する。		
5. 教科書 教科書は使用せず、レジュメや資料を配布する。		
6. 参考書 棚次正和、山中宏、『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005 年） 中村圭志、『教養としての宗教入門―基礎から学べる信仰と文化』（中公新書、2014 年） 阿満利磨、『日本人はなぜ無宗教なのか』（ちくま新書、1996 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ミニ・レポート 30%、 期末試験 70%		
9. その他 連絡先： kurandoo@meiji.ac.jp 研究室： 哲学研究室（3 号館 4 階 401 号室）		

科目ナンバー (AG) PHL111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学の哲学	2 単位	長田 蔵人
2022～2025 年度入学者 科学の哲学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 科学の正しさに対する「信念」と宗教的な「信念」（信仰）との違いは何だろうか？本講義では、科学と宗教という、もっとも人間らしいとも言える2つの精神活動のうち、科学的な信念を取り上げ、その信頼性の特質や源泉について学ぶことが目指される。 授業ではまず、ヨーロッパ古代・中世の世界観の理解から始め、近代科学の形成の構造について考察する。そのうえで、科学的説明の性質や、その正当性の根拠にかかわる問いに進み、最後に、現代人の世界観と科学的世界像との関係について理解を深めたい。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のBに対応する科目である。 《到達目標》 （1）科学的知識の「正しさ」に対する私たち信念が、どのような考え方の上に成立しているのかを説明できる。 （2）科学的世界像と日常的な世界理解の違いと関わりを説明できる。		
2. 授業内容 第1回 a のみ： イントロダクション — 科学と哲学 第2回 古代・中世の世界観（1） 第3回 古代・中世の世界観（2） 第4回 宇宙の調和 第5回 数学的自然観の確立 第6回 17 世紀科学革命の完成 第7回 理論と観察 第8回 パラダイム論と科学的相対主義 第9回 化学における遅れた革命 第10回 対象の数量化と仮説の役割 第11回 科学の方法と科学的説明 第12回 進化論と神の放逐 第13回 科学の正当性の問題 第14回 科学的世界像と生活世界		
3. 履修上の注意 出席数が授業回数の3分の2を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。 また、特段の事情がない限り、20 分以上の遅刻は出席としては認められませんので、注意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ配布されるレジュメと資料を熟読のうえ、疑問点をまとめておくこと。 また授業後は、レジュメを中心にノートを整理し、正確な理解と自分なりの考えを深めたうえで、ミニ・レポート課題を提出する。		
5. 教科書 教科書は使用せず、レジュメを配布する。		
6. 参考書 伊勢田哲治、『疑似科学と科学の哲学』（名古屋大学出版会、2003 年） 内井惣七、『科学哲学入門 — 科学の方法・科学の目的』（世界思想社、1995 年） 小林道夫、『科学哲学』（産業図書、1996 年） 渡辺正雄、『文化としての近代科学 — 歴史的・学際的視点から』（講談社学術文庫、2000 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ミニ・レポート 30%、 期末試験 70%		
9. その他 連絡先： kurandoo@meiji.ac.jp 研究室： 哲学研究室（3 号館 4 階 401 号室）		

科目ナンバー (AG)PHL121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 現代倫理学の諸問題	2 単位	中野 愛理
2022～2025 年度入学者 現代倫理学の諸問題		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 技術は、現代社会において私たちの生活のあらゆる側面に浸透しているとても身近なトピックです。インターネットやAI など日々触れる技術から、農業技術、気候工学、宇宙開発にいたるまで、その規模は多岐に渡ります。 本講義では、こうした様々な現代技術に関わる問題について、技術哲学の観点から検討します。技術哲学とは、技術的な人工物やプロセスの性質、意義、倫理的意味を考察する比較的新しい哲学の一分野です。 この講義を通して、学生は具体的な問題やそれに関連する学説を学ぶとともに、それらに対して倫理的観点から自律的に思考し、判断力を磨くことになります。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のBに対応する科目です。 《到達目標》 （１）現代技術に関わる具体的問題の要点とその背景を正確に説明できる。 （２）それらの問題に対する様々な学説や議論を批判的に検討し、その良し悪しを評価できる。 （３）自分自身の考え方を筋道立てて論じることが出来る。		
2. 授業内容 第1回 aのみ：技術哲学とは何か、技術と哲学 第2回 技術と政治 第3回 技術と歴史 第4回 技術とデザイン 第5回 原子力発電 第6回 AI とロボット 第7回 テレプレゼンス 第8回 農業技術 第9回 宇宙開発 第10回 気候工学 第11回 都市 第12回 遺伝子ドライブ 第13回 ゲノム編集作物 第14回 期末試験と総括		
3. 履修上の注意 ・授業資料は Oh-o! Meiji のクラスページ内に授業前にアップロードしますので、必要であれば印刷して持参してください。紙での配布は行いません。 ・毎回、授業課題として内容に関する簡単な記述問題を課します。また、授業内でわからなかった箇所は課題内の質問欄で積極的に質問をしてください。 ・授業課題の提出率が3分の2を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：授業で扱う章（各回約10ページ）に予め目を通しておくこと。（40分程度） 復習：内容を正確に理解するよう教科書を再読し、内容を自分の言葉で整理して、各回の課題に取り組み、提出すること。（30分から1時間程度）		
5. 教科書 金光秀和・吉永明弘編、『技術哲学』（3 STEP シリーズ）（昭和堂、2024 年） ※第一回講義から使いますので、初回までに購入しておいてください。		
6. 参考書 教科書の各章末尾に記載されている文献を参照してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の冒頭で前回の課題を解説しますが、その際、学生の回答を複数取り上げて全体講評を行います。		
8. 成績評価の方法 授業課題 30%、期末試験 70%		

9. その他

授業に関する質問は、授業課題内の質問欄にて対応します。

科目ナンバー (AG) PHL191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 論理的思考の技法	2 単位	長田 蔵人
2022～2025 年度入学者 論理的思考の技法		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 論理とは、文と文、主張と主張との関係の仕方である。この授業では、「論理的に思考する姿勢」、つまり、言葉や文同士の関係性の意味と正しさに注意を払う姿勢を身につけ、主張の論証、議論の一貫性の保持、議論の良し悪しの判定、推論の正しさの判定、などの実践的な技術の習得を目指す。 授業ではまず、議論を理解・評価するうえで必要となる、「接続」関係と「指示」関係の構造を理解する（第 2～4 回）。ついで、議論のなかでも特に、「論証」と呼ばれるものを取り上げ、そのさまざまなパターンと評価の仕方を学習する（第 6～8 回）。さらに、最も厳格な推論である「演繹」に焦点を絞り、厳密な論理的思考がどのようなものであるかを理解してもらう（第 10～13 回）。また、それぞれの節目で練習問題に取り組み、学習内容の定着を図る（第 5 回、第 9 回、第 14 回）。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の F に対応する科目である。 《到達目標》 （１）議論の構造を正確にとらえ、議論における主張とその根拠を把握することができる。 （２）議論の適切性を評価できる。 （３）正しい推論形式を身に付け、運用することができる。		
2. 授業内容 第 1 回 a のみ: イントロダクション — 言葉と論理 第 2 回 順接の論理 第 3 回 逆説の論理 第 4 回 指示の論理および議論の骨格 第 5 回 練習問題（１） 第 6 回 論証の構造 第 7 回 論証の適切性 第 8 回 評価判断の論証と適切性 第 9 回 練習問題（２） 第 10 回 帰納的推論 第 11 回 否定の論理 第 12 回 演繹的推論（１） 第 13 回 演繹的推論（２） 第 14 回 練習問題（３）		
3. 履修上の注意 出席数が授業回数の 3 分の 2 を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。 また、特段の事情がない限り、20 分以上の遅刻は出席として認められませんので、注意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回宿題が出されるので、必ずやってくること。 また授業後は、例題や練習問題を再度解き、理解の定着を図るように。		
5. 教科書 教科書は使用せず、レジュメを配布す。		
6. 参考書 野矢茂樹、『論理トレーニング』（産業図書、1997 年） 野矢茂樹、『論理トレーニング 101 題』（産業図書、2001 年） 金子洋之、『記号論理学入門』（産業図書、1994 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 課題 30%、 期末試験 70%		
9. その他 連絡先： kurandoo@meiji.ac.jp		

研究室： 哲学研究室（3号館4階 401号室）

科目ナンバー (AG) PSY111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 心理学 A	2 単位	浅井 健史
2022～2025 年度入学者 心理学 A		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 人間は多面的な存在であり、活動領域も広範である。それを反映して「心理学」にも多くの分野がある。「心理学 A」では、大学生の日常生活や現代社会のトピックと関連づけながら、社会心理学を中心に人間理解や実践の方法を学ぶ。社会・集団と個人の相互作用から生じる心理的現象を理解するとともに、社会と調和をとりながら私たちの心の健康や幸福を追求していく方途を受講者と考える。動画資料の視聴、自ら考える「ワーク」などの体験学習を多く取り入れるため、受講者には主体的・能動的な参加姿勢が求められる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・G に対応する科目である。 【到達目標】 ・社会心理学の基本概念や発想を理解し、説明できる。 ・身近な人間行動や社会的問題を心理学的視点から考察できる。		
2. 授業内容 各回は以下の内容を予定している。 第 1 回：集団の定義 第 2 回：社会的存在としての人間：人はなぜ集団を求めるのか？ 第 3 回：集団心理の基本原理 第 4 回：集団意思決定の心理 第 5 回：群衆行動の心理 第 6 回：災害発生時の心理 第 7 回：リーダーシップの心理 第 8 回：偏見・差別の心理 第 9 回：組織不祥事の心理 第 10 回：「いじめ」の心理 第 11 回：オンライン・コミュニティの心理 第 12 回：迷惑行動の心理 第 13 回：マインド・コントロールと説得の心理 第 14 回：学習意欲の心理		
3. 履修上の注意 履修希望者が 100 名を超えた場合は、抽選を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 初回授業で提示する関連文献リストと各回で紹介する参考文献を活用し、準備学習と発展的学習に努めること。		
5. 教科書 クラスウェブにアップしたプリントを用いて講義を進めるため、教科書は使用しない。		
6. 参考書 各回の講義で関連文献を紹介する。各自が関心をさらに掘り下げて、学期末レポートに結実させること。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーおよび学期末レポートへのフィードバックは、希望者に対してのみ行う。		
8. 成績評価の方法 学期末レポート（70%）と各回のリアクションペーパーの提出状況と内容（30%）で評価。 学期末レポートは、掘り下げた考察がなされているか（50%）、自己の意見が明確に述べられているか（50%）を評価する。		
9. その他 質問や連絡は、浅井のメールアドレスまで。 aae19090@gmail.com		

科目ナンバー (AG)PSY111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 心理学B	2 単位	浅井 健史
2022～2025 年度入学者 心理学B		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 人間は多面的な存在であり、活動領域も広範である。それを反映して「心理学」にも多くの分野がある。「心理学B」では、臨床心理学を中心に「心の健康」に関わる理論と実践方法を学ぶ。自分の「心の健康」を維持・増進するだけでなく、周りの人々や社会全体の「心の健康」を守るための方途を受講者と考える。動画の視聴、自ら考える「ワーク」などの体験学習を多く取り入れるため、受講者には主体的・能動的な参加姿勢が求められる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のC・Gに対応する科目である。 【到達目標】 心の健康と心理的支援に関する基本概念を理解し、以下の点に活用できる。 ・自分自身のストレスをマネジメントし、心のセルフケアができる ・カウンセリングなど、心の専門家による心理的支援を理解する ・周囲の他者を支援し、心のケアができる ・心理学の理論・概念にもとづき、人々が生きやすい社会のあり方を構想できる		
2. 授業内容 以下の内容を予定している。 第1回：ストレス・マネジメント（1）ーストレス概念とコーピング 第2回：ストレス・マネジメント（2）ー認知行動療法、自律訓練法 第3回：ストレス・マネジメント（3）ーマインドフルネス、アサーション 第4回：「居場所」と心の健康（1）ー大人の居場所 第5回：「居場所」と心の健康（2）ー子どもの居場所 第6回：大学生期とアイデンティティの形成 第7回：心理アセスメントによる人間理解 第8回：心理検査とパーソナリティの測定 第9回：カウンセリングの概要、職域、環境づくり 第10回：カウンセリング面接の進め方 第11回：心の専門家によるコミュニティ支援 第12回：ピアサポートと勇気づけの心理（1）ーピアサポートの意義 第13回：ピアサポートと勇気づけの心理（2）ー言葉の影響力 第14回：ピアサポートと勇気づけの心理（3）ー支え合いの力		
3. 履修上の注意 履修希望者が100 名を超えた場合、抽選を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 初回の授業で提示する関連文献リスト、各回で紹介する参考文献を活用し、準備学習と発展的学習に努めること。		
5. 教科書 クラスウェブにアップしたプリントを用いて講義を進めるため、教科書は使用しない。		
6. 参考書 各回の講義で関連文献を紹介する。各自が関心をさらに掘り下げて、学期末レポートに結実させること。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーおよび学期末レポートへのフィードバックは、希望者に対してのみ行う。		
8. 成績評価の方法 学期末レポート（70%）と各回のリアクションペーパー（30%）の提出状況と内容で評価。 学期末レポートは、選択したテーマについて掘り下げた考察がなされているか（50%）、自己の意見が明確に述べられているか（50%）を評価する。		
9. その他 質問や連絡は浅井のメールアドレスまで。 aee19090@gmail.com		

科目ナンバー (AG)LIT111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本文学 (1)	2 単位	西連寺 成子
2022～2025 年度入学者 日本文学 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 当授業のテーマは、日本近代文学を代表する作家の作品を通して、人間や社会、制度、歴史等について考察を深めることである。また、作品を細やかに読み解く中で、豊かな人間性と他者への想像力を培っていくことも大切にしたい。趣味で本を読む姿勢とは異なる作品への向き合い方と解釈の仕方を身につけ、文学から深く学び取る力を得ることを達成目標とする。 現代の若者にとって近代文学は遠い時代のものであり、日常的に手に取る機会も少ないだろう。だが、普遍的なテーマを持ち、現代社会に通じる問題を浮かび上がらせる作品は数多く存在する。そのような近代文学を読む楽しさも味わってもらいたいと思う。 《授業の概要》 授業は講義が中心になるが、受け身に聴くだけでなく受講生自身の解釈も大切にしてほしいと考えている。授業時間や試験において作品に対する自分の意見や解釈などを書く機会があるので、受講生各自の積極的な取り組みを期待する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション・日本近代文学概説 第 2 回：石川啄木「呼子と口笛」 第 3 回：石川啄木「呼子と口笛」 第 4 回：石川啄木「呼子と口笛」 第 5 回：宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」 第 6 回：宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」 第 7 回：中間テスト 第 8 回：樋口一葉「たけくらべ」 第 9 回：樋口一葉「たけくらべ」 第 10 回：樋口一葉「たけくらべ」 第 11 回：樋口一葉「たけくらべ」 第 12 回：坂口安吾「桜の森の満開の下」 第 13 回：坂口安吾「桜の森の満開の下」 第 14 回：坂口安吾「桜の森の満開の下」 進行上の必要に応じて、扱う作品の実施回数を変更する場合もある。		
3. 履修上の注意 授業には必ずテキスト（紙のテキストが望ましい）を持参すること。作品は授業を受ける前に必ず読み終えていること。以上を前提に授業を進める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、作品は必ず授業の前に読み終えておくこと。ストーリーや登場人物を確認し、わからない言葉の意味なども調べてきてほしい。 授業では、講義内容に従ってテキストに傍線などの書き込みを自主的に行い、復習に役立てるようにすること。復習では、講義内容を振り返りながら、自分なりにわかりやすくまとめておくことが望ましい。		
5. 教科書 原則として、テキストはオンライン上にて事前に配布するので、授業前に各自でプリントアウトをして持参すること。授業では、オンライン上でテキストを見るよりも、紙のテキストを使用する方が望ましい。 オンライン上配布困難なテキストの場合は、教室でのプリント配付または「青空文庫」（インターネットの電子図書館）HP や入手しやすい文庫本を案内する。		
6. 参考書 『本の読み方 スロー・リーディングの実践』平野啓一郎（PHP 新書）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間テストの後に口頭解説を行う。 リアクションペーパーはコメントを付して返却する。		
8. 成績評価の方法 期末試験 40％、中間テスト 40％、作品に対するリアクションペーパー 20％ なお、私語や周囲への迷惑行為等、目に余る事態があった場合は総合評価より減点する。		

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する。
連絡先：最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)LIT111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本文学 (2)	2 単位	松下 浩幸
2022～2025 年度入学者 日本文学 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 夏目漱石と日本の近代―恋愛・家族・他者― 夏目漱石の作品に描かれた近代日本の問題点は、三角関係という男女の〈恋愛〉を通して描かれる。それは多くの場合〈友情〉を裏切り、また〈家族〉との葛藤を引き起こす。西洋化を突き進む明治時代の日本人が直面したアイデンティティー（存在証明）の揺らぎを、漱石はなぜ〈恋愛〉の問題として描いたのだろうか。この授業では漱石作品のジェンダー表象（男らしさ／女らしさ）に注目し、作品世界を形作っている文化的・歴史的背景を掘り起こしながら、漱石が描く近代日本の姿を、恋愛・家族・他者という3つのキーワードを通して考察する。また原作と映画との比較も行う。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。		
2. 授業内容 〔第1回〕イントロダクション 夏目漱石が生きた時代 〔第2回〕夏目漱石という作者（1）―生立ち・イギリス留学・職業作家 〔第3回〕夏目漱石という作者（2）―生立ち・イギリス留学・職業作家 〔第4回〕夏目漱石という作者（3）―生立ち・イギリス留学・職業作家 〔第5回〕『こころ』（1）―先生と青年― 〔第6回〕『こころ』（2）―先生と青年― 〔第7回〕『こころ』（3）―地方と家族― 〔第8回〕『こころ』（4）―地方と家族― 〔第9回〕『こころ』（5）―三角関係と明治時代の学生― 〔第10回〕『こころ』（6）―三角関係と明治時代の学生― 〔第11回〕映画「こころ」（監督・市川崑）との比較（1） 〔第12回〕映画「こころ」（監督・市川崑）との比較（2） 〔第13回〕『こころ』（7）―「明治の精神」そして人間の〈心〉とは何か― 〔第14回〕漱石の文明批評		
3. 履修上の注意 授業には必ずテキストおよび配布プリントを持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：指定された章を読んで授業に臨むこと。また、物語内容を追うだけでなく、わからない言葉の意味などを調べておくこと。 復習：講義内容をノートにまとめ、また授業で紹介した文献などに目を通しておくこと。		
5. 教科書 夏目漱石『こころ』（新潮文庫）などの文庫本を各自で用意すること。		
6. 参考書 ・夏目鏡子『漱石の思い出』（文春文庫） ・江藤淳『漱石とその時代』全5巻 新潮選書・ ・三好行雄編『夏目漱石事典』學燈社 ・江藤淳編『朝日小事典 夏目漱石』朝日新聞社 ・中島国彦『漱石の地図帳』大修館書店 ・宮地正人他著『ビジュアル・ワイド 明治時代館』小学館		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業においてリアクションペーパーの内容について適宜、応答する。		
8. 成績評価の方法 毎回の出席＋リアクション・ペーパーの作成（30％）、および期末試験（70％）により評価する。また、単位取得のためには全体の3分の2以上の出席を原則とする。		
9. その他 オフィスアワー 月曜日 13：00～14：30 研究室・第一校舎 3 号館 402 号（日本語研究室） メールアドレス：matuhiro@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG)LIT131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 外国文学	2 単位	辻 朋季
2022～2025 年度入学者 外国文学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「文学とは何か・文学研究とは何かを、ドイツ語圏の文学とその歴史を通して考える」 ドイツ文学と聞いて、思い浮かぶ作家や作品は何でしょうか？ドイツ文学にはなじみのない人でも、ゲーテやカフカ、ヘッセといった名前はどこかで聞いたことがあるのではないのでしょうか。では、彼らはどんな作品を、どのような時代背景のもとで書いたのでしょうか。また作品はその時代の社会にどのような影響を及ぼし、またいかなる今日的な意義を持っているのでしょうか。あるいは、そもそも文学とは一体どのようなもので、文学を研究するという行為はどんな意味を持つのでしょうか。この授業では、こうした「そもそも論」から始まって、普段あまり語られることのない文学（と文学研究）について、ドイツ語圏を例として考えていきます。ドイツの歴史と関連付けて代表的な作家や作品について学びながら、ドイツ文学への知識を深めましょう。授業では、著名な作品の一部を抜粋して取り上げ、一緒に鑑賞するとともに、関連する映画なども扱っていきます。 《授業の概要》 ドイツ文学の主要な作家と作品について、その社会的・文化的背景とも関連づけて学びます。また創作活動の成果としての「文学」と文学研究としての「文(芸)学」の違い、文学の文学性に関する考察、時代思潮についての知識も深めていきます。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（授業の進め方についての説明。読書体験についてのアンケート） 第2回：文学とは何か（「文学」の二重性）、外国文学とは・ドイツ文学とは何か（岩波文庫の「色」に注目） 第3回：文学は科学として扱えるのか？文学を読む説くための様々な理論について 第4回：中世は暗黒時代？中世ドイツ文学とその「再発見」について（『ニーベルンゲンの歌』など） 第5回：グーテンベルクと出版革命。マルチン・ルターの宗教改革とドイツ語の普及 第6回：ドイツ古典主義Ⅰ（フリードリヒ・シラー）、『走れメロス』とシラーの意外な関係 第7回：ドイツ古典主義Ⅱ（シラーと『第九』、ゲーテ『若きウェルテルの悩み』） 第8回：19世紀ドイツと統一運動、ナショナリズムと文学・芸術について 第9回：ドイツロマン主義（本当は怖いグリム童話：『白雪姫』を例に） 第10回：ドイツ帝国成立から第二次世界大戦（フランツ・カフカ『変身』『城』など） 第11回：ナチス時代のドイツ文学Ⅰ（シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』） 第12回：ナチス時代のドイツ文学（抵抗の手段としての文学：エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』） 第13回：ドイツ文学における「過去との取り組み」（ベルンハルト・シュリンク『朗読者』） 第14回 a：今学期のまとめ b：期末試験		
3. 履修上の注意 欠席が5回以上になると、履修の意志がないものとして定期試験を受ける資格がなくなります。ドイツ語の知識は必要ありませんが、ドイツの文化や歴史に興味を持って授業に臨むことを期待します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で読むドイツ文学の作品（抜粋）を事前に配布しますので、必ず読んで準備してくること。		
5. 教科書 プリントを配布。		
6. 参考書 『ドイツ文学案内』（岩波文庫）、手塚富雄・神品芳夫、岩波書店、1993 年。 『はじめて学ぶドイツ文学史』、柴田翔、ミネルヴァ書房、2003 年。 『ニーベルンゲンの歌』（岩波文庫、前編・後編）、相良守峯訳、岩波書店、1973 年。 『若きウェルテルの悩み』（岩波文庫）、ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ（竹山道雄訳）、岩波書店、1973 年。 『変身』（新潮文庫）、フランツ・カフカ（高橋義孝訳）、新潮社、1952 年。 『訴訟』（光文社古典新訳文庫）、フランツ・カフカ（丘沢静也訳）、光文社、2009 年。 『車輪の下』（岩波文庫）、ヘルマン・ヘッセ（実吉捷郎訳）、岩波書店、1952 年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験 60%、平常点（授業参加、課題提出、リアクションペーパーなど）40%。		

9. その他

研究室：第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスアワー等は初回授業時に伝えます。

科目ナンバー (AG)LIN111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ことばと文化 A	2 単位	下永 裕基
2022～2025 年度入学者 ことばと文化 A		
1. 授業の概要・到達目標 「言語を思考対象とする意義をさぐる（英語学編）」 言語はわれわれにとって最も身近なもののひとつであり、また思考の道具として、大学に学ぶ者はその重要性をしっかりと認識すべきものでもあります。 したがって言語についてある程度学問的にとらえ、見つめなおすことは、その知的生活において大きな意味のあることです。 日本語・英語・第二外国語として学ぶ言語、そのほか世界には多くの言語が存在しますが、それぞれは孤立した存在ではありません。そればかりか、言語は人間の思考パターンや世界の認識法と密接にかかわっていることから、言語の枠を超えて普遍的にみられる現象が存在するのです——意味変化・音韻変化・言語の誕生と死など。そうしたテーマを学ぶことによって、言語についての理解を深め、学生諸君の世界についての理解がより成熟したものとなることを、この講義は目指しています。 《授業の概要》 多くの学生が第二言語として接する「英語」について、それを歴史的側面を中心にさまざまな角度から眺めてみたい。そのうえで英語の歴史において生じている出来事をより身近に感じられるように、日本語の事例を考察する機会も多く取り入れる予定です。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回： Introduction：英語はいつから「国際共通語」なのか？ 第 2 回：英語をさかのぼる——メディアの変化とともに 第 3 回：英語とはなにか——印欧語族の世界 第 4 回：単語の出自——三層の同義語と外来語 第 5 回：意味は広がり、変化する 第 6 回：英語史にみる発音と綴り字の変化 第 7 回：英語史にみる文法の変化（1）——名詞と語順 第 8 回：英語史にみる文法の変化（2）——代名詞と動詞 第 9 回：英語史にみる文法の変化（3）——形容詞と副詞 第 10 回：世界に広がる英語（1）——辺境言語コンプレックスの克服 第 11 回：世界に広がる英語（2）——英語・米語・Englishes と和製英語 第 12 回：変わる力・抑える力——教育と言語 第 13 回：第 13 回：品詞の転換——“Google” は名詞なのか？ 第 14 回：英語の歴史が映し出すもの 定期試験期間中に期末試験を行う。 なお、やむを得ない事情により、この通りに展開しない場合がありますが、その場合は授業時に変更を告知するので、それにしただけでください。		
3. 履修上の注意 遅刻厳禁（授業冒頭にリアクション・ペーパーが配布されます）。 なお、リアクション・ペーパーは、単に提出すればよいものではなく、読み手に誤解なく伝わる言葉の使い方を常に意識して記入し、提出してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 言語を観察するうえでのさまざまなポイントが、講義において紹介されます。 それらを参考にしつつ、ふだんから「ことば」をよく観察し、面白いと感じる点を見つけ、それを漠然とした印象ではなく、「なにが」「どのように」面白いと感じたかを表現できるよう、感性を磨いておいてください。そうした感性によって気づいたことを言語化する（verbalize）ことが、授業のより深い理解に役立ちます。 （なお、授業時のリアクション・ペーパーや定期試験の自由記述では、そうした感性が評価されます。） 参考書籍は下記のもの以外にも多数、講義で紹介しますので、それらをぜひ読んでさらに理解を深めてください。		
5. 教科書 ハンドアウト教材を使用。		
6. 参考書 織田哲司（著）、『英語の語源探訪』（大修館書店）。 寺澤盾（著）、『英語の歴史—過去から未来への物語』（中公新書）。 ブラッグ、メルヴィン（著）三川基好（訳）『英語の冒険』（講談社学術文庫）。 渡部昇一（著）、『英語の歴史』（大修館書店）。 渡部昇一（著）、『英文法を撫でる』（PHP 新書）。		

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題はリアクションの提出です。講義内容への単なる感想ではなく、個々人の「ことば」観を踏まえたリアクションについて、そのフィードバックを各回講義の冒頭で、口頭で行い、他の受講者と分かち合います。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の3分の2以上）が、期末試験を受けるための条件である。授業回ごとにリアクションを書いて提出することができるが、それを義務とはしていない。そのうえで定期試験の成績を評価基準とする。

9. その他

研究室は3号館4階，3-405にある。

オフィスアワー：火曜16時～17時。水曜13時30分～16時。

オフィスアワー以外でも，在室時には可能な限り，対応します。

授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先＝ ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LIN111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ことばと文化B	2 単位	下永 裕基
2022～2025 年度入学者 ことばと文化B		
1. 授業の概要・到達目標 「言語を思考対象とする意義をさぐる（言語学編）」 言語はわれわれにとって最も身近なもののひとつであり、また思考の道具として、大学に学ぶ者はその重要性をしっかりと認識すべきものでもあります。 したがって言語についてある程度学問的にとらえ、見つめなおすことは、その知的生活において大きな意味のあることです。 日本語・英語・第二外国語として学ぶ言語、そのほか世界には多くの言語が存在しますが、それぞれは孤立した存在ではありません。そればかりか、言語は人間の思考パターンや世界の認識法と密接にかかわっていることから、言語の枠を超えて普遍的にみられる現象が存在するのです——意味変化・音韻変化・言語の誕生と死など。そうしたテーマを学ぶことによって、言語についての理解を深め、学生諸君の世界についての理解がより成熟したものとなることを、この講義は目指しています。 《授業の概要》 日本語や英語を中心に、言語一般にみられる諸現象と人間の文化的営みとのかかわりを論じます。言語を考察する上で、歴史的観点からの観察と、共時的観点からの観察の双方の重要性を指摘します。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回：ことばを考察する意味 第2回：記号とことば 第3回：人間にとっての「ことば」と「文化」 第4回：言語・民族・国家・文化の関係性 第5回：地方語・共通語・国際語と民主化・グローバル化 第6回：ある文明語の死——言語が廃用となることについて 第7回：人工言語の試み（1） 第8回：人工言語の試み（2） 第9回：言語と文字（1） 第10回：言語と文字（2） 第11回：世界に意味を与える言語（1） 第12回：世界に意味を与える言語（2） 第13回：世界観とメタファー 第14回：人間とともに歩む言語——手話の事例から 定期試験期間中に期末試験を行う。		
3. 履修上の注意 遅刻厳禁（授業冒頭にリアクション・ペーパーが配布されます）。 なお、リアクション・ペーパーは、単に提出すればよいものではなく、読み手に誤解なく伝わる言葉の使い方を常に意識して記入し、提出してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 言語を観察するうえでのさまざまなポイントが、講義において紹介されます。 それらを参考にしつつ、ふだんから「ことば」をよく観察し、面白いと感じる点を見つけ、それを漠然とした印象ではなく、「なにが」「どのように」面白いと感じたかを表現できるよう、感性を磨いておいてください。そうした感性によって気づいたことを言語化する（verbalize）ことが、授業のより深い理解に役立ちます。 （なお、授業時のリアクション・ペーパーや定期試験の自由記述では、そうした感性が評価されます。） 参考書籍は下記のもの以外にも多数、講義で紹介しますので、それらをぜひ読んでさらに理解を深めてください。		
5. 教科書 ハンドアウト教材を使用。		
6. 参考書 池上忠彦（著）、『記号論への招待』（岩波新書）。 佐々木 健一（著）、『辞書になった男 ケンボー先生と山田先生』（文藝春秋） 祖父江 孝男（著）、『文化人類学入門』（中公新書）。 ハリソン、K. デイビッド（著）、川島満重子（訳）、『亡びゆく言語を話す最後の人々』（原書房）。 渡部昇一（著）、『英語の語源』（講談社現代新書）。		

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題はリアクションの提出です。講義内容への単なる感想ではなく、個々人の「ことば」観を踏まえたリアクションについて、そのフィードバックを各回講義の冒頭で、口頭で行い、他の受講者と分かち合います。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の3分の2以上）が、期末試験を受けるための条件である。授業回ごとにリアクションを書いて提出することができるが、それを義務とはしていない。そのうえで定期試験の成績を評価基準とする。

9. その他

研究室は3号館4階，3-405にある。

オフィスアワー：火曜 16 時～17 時。水曜 13 時 30 分～16 時。

オフィスアワー以外でも，在室時には可能な限り，対応します。

授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先＝ ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LIN131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本語表現 A (1) (2)	2 単位	西連寺 成子
2022～2025 年度入学者 日本語表現 A (1) (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 読むことや書くことに対して私達はさほど訓練の必要がないものと思いがちである。しかし、実際には読みこなすことの困難な文章に遭遇したり、紙を前にしても書くことができずに躊躇した覚えがある者は少なくないだろう。殊に大学という学びの場において、日本語能力は大きく影響してくると思われる。そこで当授業のテーマを他の学習の基礎になる文章の読解や文章作成に必要な力を養うこととし、主に論理的な文章能力の充実を図ることを達成目標とする。 《授業の概要》 授業では文章表現に関する基本的事項を確認しながら、論理的文章の読解や作成を繰り返すことが中心となる。受講生には毎回何らかの課題について作業し提出してもらうことになる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：a タームのみ：イントロダクション 第 2 回：文章表現・表記に関する基礎事項の確認（悪文訂正・原稿用紙の使い方・表記ルール） 第 3 回：論理的な文章における基礎事項の確認（1）接続語、文の整序・文のねじれなど 第 4 回：レポート作成の注意点（引用・参考文献記載の方法など） 第 5 回：論理的な文章における基礎事項の確認（2）パラグラフライティング 第 6 回：縮約文～社説から学ぶ 第 7 回：論理的文章の読解（1）読解の基礎 第 8 回：論理的文章の読解（2）短めの文章・要点 第 9 回：論理的文章の読解（3）やや長めの文章・要約 第 10 回：論理的文章の読解（4）論文 第 11 回：論証と批判的思考 第 12 回：小論文の作成（1） 第 13 回：小論文の作成（2） 第 14 回：春学期講義内容の補足説明、定期試験対策 ※必要に応じて授業内容や順番に変更が生じる場合がある。		
3. 履修上の注意 ・文章の添削指導を行うので、履修希望者が 40 名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録（日本語表現 B）も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。 ・授業で取り組んだ課題は、授業終了時まで提出することを原則とする。仕上がっていなくても、時間が来たら提出しなければならない。 ・オンライン上での提出を認める場合でも、教室にとどまって課題に取り組み、授業時間内に提出をすること。例外を除き、課題の持ち帰りや授業時間外の提出、後日提出は許可しない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習として、当日行った授業の内容をノートにわかりやすくまとめ、使用した文献については読み直して理解を深めること。授業で取り組んだ練習問題や文章作成の返却物を見直して、不十分だった点を確認し次の課題に生かすようにすること。		
5. 教科書 教科書は指定しない。作業に必要な資料等はプリントを配布する。		
6. 参考書 『最新版 論文の教室—レポートから卒論まで』戸田山和久（日本放送出版協会） 『文章工房—表現の基本と実践』中村明（ちくま新書） 『悪文—裏返し文章読本』中村明（ちくま新書）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題は、採点または添削の上、各自に返却する。 また、必要に応じて授業内での課題の振り返りや解説を行う。		
8. 成績評価の方法		

毎回の課題提出とその評価（70%）、及び期末試験の評価（30%）によって行う。また、全体の3分の2以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する。

連絡先：最初の講義で提示する。

科目ナンバー (AG)LIN131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本語表現 A (3) (4)	2 単位	川島 みどり
2022～2025 年度入学者 日本語表現 A (3) (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 私たちは日々、「ことば」と葛藤しながら思考を構築し、他者とのコミュニケーションを繰り返している。この授業を通して「ことば」の重要性を自覚し、さまざまな状況において適切な文章を創出できる力を身に付けてもらいたい。自分と他者とをつなぐ「ことば」を磨くとともに、みずからの論理的思考力・表現の可能性を広げてゆくことが本授業の目標である。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。 《授業の概要》 日本語表現の根幹となる「書く」力の向上を目的とし、さまざまな状況に応じた論理的文章作成方法を習得するための実践的授業を行う。大学生としてだけでなく、社会人にとっても必要な論述文の基礎を身に付けよう。文章表現の授業である以上、要約文・説明文・資料意見文など毎回テーマに沿った演習問題や作文課題に取り組むことになる。また、「伝わる」文章・説得力のある文章を書くためには、自己を見つめ直すための他者が不可欠である。教員による添削指導はもちろん、ペアワークや相互評価など学生間のコミュニケーションを通して、刺激しあいながらスキルアップしていきたい。各課題に真摯に向き合い、確かな文章構成力・論理的文章を書く力を養おう。		
2. 授業内容 日本語表現 A では大学生が身に付けるべき基礎的な文章表現力の向上を目標とし、以下のような構成で授業を行う。 第 1 回 a のみ：イントロダクション——履修者確認と授業上の注意点。 第 2 回 基礎を学ぶ〈1〉—原稿用紙のルールを学ぶ。 第 3 回 基礎を学ぶ〈2〉—語彙・表現力を高める。 第 4 回 文章を組み立てる〈1〉—パラグラフライティングを学ぶ。 第 5 回 文章を組み立てる〈2〉—推敲を学ぶ。 第 6 回 要点をつかむ〈1〉—文章の要約を学ぶ。 第 7 回 要点をつかむ〈2〉—資料活用を学ぶ。 第 8 回 レポートの基本—構成・引用のルールを学ぶ。 第 9 回 情報を収集しまとめる〈1〉—推薦文の書き方を学ぶ。 第 10 回 情報を収集しまとめる〈2〉—インタビュー・聞き取り力を高める。 第 11 回 情報を収集しまとめる〈3〉—インタビュー・まとめる力を高める。 第 12 回 批評をする——コメント力を高める。 第 13 回 意見を述べる〈1〉—根拠を示し、意見を述べる。 第 14 回 意見を述べる〈2〉—反論を想定し、意見を述べる。		
3. 履修上の注意 文章の添削指導を行うので、履修希望者が 40 名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録（日本語表現 B）も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回授業についての課題を課す場合と、授業内容の振り返りプリント等を配布する場合がある。指示に従い、適宜予習復習を行ってほしい。		
5. 教科書 特に指定しない。講義の際に必要な資料・教材を配布する。		
6. 参考書 梅田卓夫『文章表現 四〇〇字からのレッスン』（筑摩書房） 樺島忠夫『文章術——「伝わる書き方」の練習』（角川学芸出版） 野村進『調べる技術・書く技術』（講談社現代新書） 石黒圭『「読む」技術——速読・精読・味読の力をつける』（光文社新書） 木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で課題の講評を行う。また、添削対象作文の課題については、随時 Oh-o! Meiji を通して個別にフィードバックを行うので、確認してほしい。		
8. 成績評価の方法		

毎回の課題提出とその評価（70%）、及び期末試験の評価（30%）によって行う。また、全体の3分の2以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー・連絡先は最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)LIN131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本語表現 A (5) (6)	2 単位	深津 謙一郎
2022～2025 年度入学者 日本語表現 A (5) (6)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 大学生としてふさわしい文章力の修得と、日本語運用能力の向上を目標とする。具体的には、研究レポート、就職活動における自己 PR 文、ビジネス文書など、今後必要に迫られて書くことになるであろう文章作法に関する講義とその内容を踏まえた実践演習（作文）を、毎回積み重ねていく。ペアワークやピアレビュー（受講生同士がそれぞれの書いた文章を互いに読んでコメントし合う学習活動）も適宜取り入れる。 《到達目標》 ・読み手の心を動かすために必要な文章作法に関する知識や技能を習得し、実践できるようになる。 ・論理的思考法の意義や方法を理解し、それを資料分析や着想、論理構成に応用できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンス（授業のねらいと内容、進め方、成績評価の方法と割合、受講上のルール説明）と受講者アンケート 第 2 回：「言葉選び」と「言い回し」について 第 3 回：表現を工夫する 第 4 回：論理的な書き言葉 第 5 回：「パラグラフ・ライティング」 第 6 回：「事実」と「意見」 第 7 回：引用のルール 第 8 回：意見文を書く 第 9 回：議論文を書く(1)（ブレインストーミング～アウトライン完成） 第 10 回：議論文を書く(2)（アウトライン作成～完成） 第 11 回：インタビュー記事を書く 第 12 回：ビジネス文書（依頼文）を書く 第 13 回：自己 PR 文を書く 第 14 回：ふりかえり		
3. 履修上の注意 文章の添削指導を行うので、履修希望者が 40 名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録（日本語表現 B）も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。 初回の授業で履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 返却された前回課題に対するフィードバックをふまえ、課題に対する理解と適切な文章表現に関する理解を深め、実践できるようにする。次回課題についての説明を受け、必要な準備をする。		
5. 教科書 教科書は指定しない。必要な資料や教材はその都度プリント配布する。		
6. 参考書 ・森村稔『自己プレゼンの文章術』ちくま新書 ・西山春文（他）『実践文章表現』明治書院 ・戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス ・永江朗『インタビュー術！』講談社現代新書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対する授業内での解説・講評と個別の提出物に対する添削・返却。		
8. 成績評価の方法 毎回の課題提出とその評価（70%）、及び期末試験の評価（30%）によって行う。また、全体の 3 分の 2 以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。		
9. その他 オフィスアワー・連絡先等については初回の授業で説明する。		

科目ナンバー (AG) LIN131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本語表現B (1) (2) (3)	2 単位	西連寺 成子
2022～2025 年度入学者 日本語表現B (1) (2) (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 自己を伝えることも他者とコミュニケーションを取ることも、言葉に対して無自覚な状態のままでは適切な対応ができない。日本語に対する意識を高めること、これが当授業の主要テーマである。 たとえば読み手の記憶に残り、感動を与え、感性に訴えかけるような文章は、どのような言語表現上の工夫によって成立するのか。書く練習を重ねながらその技術を身に付ける。また、敬語や手紙、メールの正しい用法や自己 PR に関する表現のコツを知り、的確に相手に伝えていく方法を習得する。 さらに、私達が当たり前のように使用している日本語の歴史について学び、言葉への漫然とした向き合い方を改める一つの機会として生かしてもらいたいと考える。 様々な方法と知識を身に付けることで、より良い日本語の表現者となることが当授業の達成目標である。 《授業の概要》 授業では、講義内容に応じた課題に毎回取り組むことになる。課題は文章作成のほか練習問題などを予定している。「日本語の歴史から」の授業においても同様である。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション・自己 PR 文作成準備 第 2 回：自己 PR 文（1） 第 3 回：自己 PR 文（2） 第 4 回：敬語（1） 第 5 回：敬語（2） 第 6 回：ビジネスメール・手紙の基本 第 7 回：作文（1）作文の鑑賞 第 8 回：作文（2）基本ポイント 第 9 回：作文（3）描写 第 10 回：作文（4）レトリック 第 11 回：日本語の歴史から（1）日本人と漢字・古典編 第 12 回：日本語の歴史から（2）日本人と漢字・近代篇 第 13 回：日本語の歴史から（3）日本人とローマ字 第 14 回：a タームのみ：秋学期の講義の補足説明など ※必要に応じて授業進行の順番に変更が生じる場合がある。		
3. 履修上の注意 ・文章の添削指導を行うので、履修希望者が 40 名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録（日本語表現B）も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。なお初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。 ・授業で取り組んだ課題は、授業終了時まで提出することを原則とする。オンライン上での提出を認める場合でも、教室にとどまって課題に取り組み、授業時間内に提出をすること。例外を除き、提出課題の持ち帰りや授業時間外の提出、後日提出は許可しない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・復習として、当日行った講義の内容をノートにわかりやすくまとめておくこと。特に「日本語の歴史から」の授業では、自分でノートを作って理解を深めることが肝要である。 ・授業中に取り組んだ練習問題や文章作成の返却物を見直して、不十分だった点を確認し次の課題に生かすようにすること。		
5. 教科書 教科書は指定しない。作業に必要な資料等はプリントを配布する。		
6. 参考書 『文章工房』中村明（ちくま新書） 『文章の書き方』辰濃和男（岩波新書） 『文章のみがき方』辰濃和男（岩波新書）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題は採点または添削の上、各自に返却する。 また、必要に応じて授業内で課題の振り返りや解説を行う。		

8. 成績評価の方法

毎回の課題提出とその評価（70％）、及び期末試験（30％）によって行う。また、全体の3分の2以上の課題提出を単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する。

連絡先：最初の講義で提示する。

科目ナンバー (AG)LIN131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本語表現B (4) (5)	2 単位	川島 みどり
2022～2025 年度入学者 日本語表現B (4) (5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「ことば」は、自己表現に欠かせないものである。しかし、私たちは「ことば」を十分に使いこなせていると言えるだろうか。この授業を通して、「ことば」への意識を高めるとともに、文章表現を工夫・模索し、「私」の思いや考えを発信する力を獲得してもらいたい。自己表現を追求することは、自己と真摯に向き合い、自分を見つめ直す機会となるだろう。文章表現はもとより、己を知り、自己の可能性を広げてゆく試みの場でもあることを認識してもらいたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。 《授業の概要》 日本語表現の根幹となる「書く」力の向上を目的とし、効果的な文章作成のための実践的授業を行う。紹介文や手紙文、エントリーシートなど、自己を語る文章の作成を通して、自己と向き合い、自分の「核」を探ることとなる。また、教員による添削指導や講評・学生間のペアワークや相互評価など他者との交流を通して、「私」を読み手にアピールする工夫・技術を高めてゆこう。各課題を通して、表現の多様性や語彙の豊かさを育み、「私」を伝える文章を生き生きと書く力を伸ばしてゆきたい。		
2. 授業内容 日本語表現Bでは、自分の思い・考えを伝えるための文章表現向上を目標とし、以下のような構成で授業を行う。 第1回 aのみ：イントロダクション——履修者確認と授業上の注意点。 第2回 文章の基本を確認する—語彙力・文の構成力を高める。 第3回 「私」を伝える〈1〉—レビューの書き方を学ぶ。 第4回 思いを伝える〈1〉—メール文書作成・敬語表現を学ぶ。 第5回 思いを伝える〈2〉—葉書の書き方を学ぶ。 第6回 思いを伝える〈3〉—手紙文の書き方を学ぶ。 第7回 「私」を伝える〈2〉—自己紹介文作成・表現の工夫を学ぶ。 第8回 推敲する—自己紹介文推敲・推敲力を高める。 第9回 批評する—ブックレビュー相互評価・コメント力を高める。 第10回 「私」の人生を考える〈1〉—語彙の確認・履歴書の書き方を学ぶ。 第11回 「私」の人生を考える〈2〉—エントリーシートの書き方を学ぶ・自己分析。 第12回 「私」の人生を考える〈3〉—エントリーシートの書き方を学ぶ・企業分析。 第13回 「私」の人生を考える〈4〉—エントリーシート作成・アピール力を高める。 第14回 マナーを学ぶ—電話応対を学ぶ。		
3. 履修上の注意 文章の添削指導を行うので、履修希望者が40名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録（日本語表現B）も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回授業についての課題を課す場合と、授業内容の振り返りプリント等を配布する場合がある。指示に従い、適宜予習復習を行ってほしい。		
5. 教科書 特に指定しない。講義の際に必要な資料・教材を配布する。		
6. 参考書 梅田卓夫『文章表現 四〇〇字からのレッスン』（筑摩書房） 樺島忠夫『文章術——「伝わる書き方」の練習』（角川学芸出版） 野村進『調べる技術・書く技術』（講談社現代新書） 石黒圭『「読む」技術——速読・精読・味読の力をつける』（光文社新書） 木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で課題の講評を行う。また、添削対象作文の課題については、随時 Oh-o! Meiji を通して個別にフィードバックを行うので、確認してほしい。		
8. 成績評価の方法		

毎回の課題提出とその評価（70%）、及び期末試験の評価（30%）によって行う。また、全体の3分の2以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー・連絡先は最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)LIN131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本語表現B (6)	2 単位	松下 浩幸
2022～2025 年度入学者 日本語表現B (6)		
1. 授業の概要・到達目標 「読むことは人を豊かにし、話し合うことは人を機敏にし、書くことは人を確かにする。」（フランシス・ベーコン） 本授業では「自分史」を書くことを通して、実践的な文章作成のトレーニング及び総合的なコミュニケーション・スキルの習得をめざす。 書くことは考えることと同義である。深く考え表現するためには、やみくもに練習するのではなく、適切な「技術」の習得が必要である。 書くことを中心に、上手に読み・聞き・話すためのヒントを、少しでもこの授業から習得してもらえればと思う。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（履修者の確認・授業上の注意点）＋練習問題 第 2 回 人間と言葉の関係を考える 1（映画「マイ・フェア・レディー」前半） 第 3 回 人間と言葉の関係を考える 2（映画「マイ・フェア・レディー」後半） 第 4 回 思考マップの活用 1（世界と私をつなぐもの一物） 第 5 回 思考マップの活用 2（世界と私をつなぐもの一場所） 第 6 回 思考マップの活用 3（世界と私をつなぐもの一想像力） 第 7 回 引用文をどう活かすか（他者の言葉 1） 第 8 回 自己評価と向き合う（他者の言葉 2） 第 9 回 セルフィメージを考える（他者の言葉 3） 第 10 回 失敗から学ぶ 第 11 回 メールの書き方 第 12 回 反省と抱負 第 13 回 手紙の力（想いを伝える） 第 14 回 私の未来予想図 ※授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 文章の添削指導を行うので、履修希望者が 40 名を越えた場合は抽選を行う。 また、秋学期の履修登録（日本語表現B）も春学期に行い、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。 ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。 なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習－授業で示した課題について各自で考え、準備をしておく。 復習－添削された課題を再考し、正確な文章表現と課題に対する理解を深める。		
5. 教科書 教科書は指定しない。必要な資料や教材はその都度、配布する。		
6. 参考書 ・榎本博明『〈私〉の心理学的探究－物語としての自己の視点から－』（有斐閣選書） ・梅田卓夫『文章表現 400 字からのレッスン』（ちくま学芸文庫） ・本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫） ・岩淵悦太郎『悪文』（角川ソフィア文庫） ・花村太郎『思考のための文章読本』（ちくま学芸文庫） ・齋藤孝『原稿用紙 10 枚を書く力』（だいわ文庫）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業において適宜、課題についてのコメントを、個別または全体に対して行う。		
8. 成績評価の方法 毎回の課題提出とその評価（70%）、及び期末試験の評価（30%）によって行う。 また、全体の 3 分の 2 以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。		
9. その他 オフィスアワー 月曜日 13：00～14：30 研究室・第一校舎 3 号館 402 号（日本語研究室）		

メールアドレス : matuhiro@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)ART111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 文芸思潮	2 単位	狩野 晃一
2022～2025 年度入学者 文芸思潮		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 西洋における文学伝統を概観し、「古典」が人生に与えてくれる叡智の一端に触れる。本講では特にトロイ物語を中心に据え、いかにそれが文学伝統の中で受容され変容してきたかについて見て行きたい。 《授業の概要》 ヨーロッパ文化の根底にある精神を理解するにはそこで醸成された文学に触れるのがよい。いわゆる古典と呼ばれるものは長く残っているだけではなく、それらは第一級のものである。古典は難しいと思われがちだが、読み始めればきっと現代に生きる自分と同じ問題に直面する登場人物に共感し、自らの考えを深めることができるだろう。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション、ヨーロッパ文学の源流 第 2 回：[古代] ギリシア文学 2（概観、抒情詩） 第 3 回：ギリシア文学 2（叙事詩、ホメロス） 第 4 回：ギリシア文学 3（叙事詩、ホメロス他） 第 5 回：ラテン文学 1（概観、抒情詩、ウェルギリウス） 第 6 回：ラテン文学 2（叙事詩） 第 7 回：中世文学 1（ダンテ） 第 8 回：中世文学 2（ダンテ） 第 9 回：中世文学 3（チョーサー） 第 10 回：中世文学 4（チョーサー） 第 11 回：近代文学 1（概観、抒情詩） 第 12 回：近代文学 2（シェイクスピア） 第 13 回：近代文学 3（シェイクスピア） 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 古典は難しいと思わず、まず読み始めてみよう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 イントロダクションで指定する資料を事前にそれぞれ通読しておくことが必要である。		
5. 教科書 配布する資料に基づいて進める。		
6. 参考書 『ギリシア・ラテン古典文学案内』高津春繁、齋藤忍随（岩波文庫） 『シチリア派恋愛抒情詩選』瀬谷幸男、狩野晃一訳（論創社） 『中世イタリア民間説話集』瀬谷幸男、狩野晃一訳（論創社） 『神曲』（上・中・下）原基晶（講談社学術文庫） 『カンタベリ物語』（共同新訳版）チョーサー著、池上忠弘監訳（悠書館）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中、開始時、後半に入る前、授業のまとめの時期に クラスウェブ「アンケート機能」を利用します。		
8. 成績評価の方法 授業中に課される小レポート 40%、期末試験 60%の総合評価とする。出席は 3 分の 2 以上すること。		
9. その他 オフィス・アワー：金曜日・3 時限目 英語第Ⅱ研究室（3 号館 4 階 3-404 号室）		

科目ナンバー (AG)ARS121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 地域文化研究	2 単位	織田 哲司
2022～2025 年度入学者 地域文化研究		
1. 授業の概要・到達目標 日本文化の源流である古代日本人の世界を概観する-古代人の「農学」を中心に 《授業の概要》 「私はだれ、ここはどこ？」というのは大学の4年間、そしてわれわれが生きているかぎり探求し続けるべき問いです。 この講義では日本人とはいかなる民族なのか、また日本人が生きているこの空間—日本列島—はいかなるところなのかという問題を、できるだけ過去—神話の時代、あるいはそれよりも前の時代—toにさかのぼって考えていきます。そうすると土や稲や森が古代以前から日本人とは切っても切れない関係にあること、農業なくして日本人はありえないことなども理解されるようになるでしょう。 ただ日本人が日本のことを見ようとしても、なかなか客観的には見られないかもしれませんから、ときおり西洋文化も参照して相対化を図ります。したがってこの講義は日本に若干のウェイトを置いた日本と西洋の比較文化論あるいは比較神話論といえるでしょう。 《到達目標》 歴史学や考古学が明らかにしてきた知見をもとに日本の古代文化を概観することにより、次のような学習目標が達成できると期待される： 1. 現代まで連綿と続く日本文化の根源的な世界観を理解することができる。 2. 西洋文化と日本文化の相違点を比較することができる。 3. 日本そして日本人の成り立ちを理解することにより、それを自分のことばで説明することができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回 ガイダンスとイントロダクション 1 人間らしさとは 第2回 言霊幸はふ国 2.1 言語と認識 2.2 神とやりとりすることば 2.3 母語は世界を作る 第3回 日本人はどこから来た 3.1 神話的説明 3.2 人類学的説明 第4回 縄文文化 1 4.1 世界遺産 北海道・北東北の縄文遺産群 4.2 原始社会ではない縄文時代 第5回 縄文文化 2 5 土器を使用する定住生活 第6回 縄文文化 3 6.1 農業以前の狩猟文化 6.2 海人族と稲作の到来 第7回 弥生文化 1 7 縄文時代後半のイネの到来 第8回 弥生文化 2 8.1 日本語の成立 8.2 やまとことば 第9回 弥生文化 3 9.1 王の発生 第10回 日本神話 1 10.1 天地開闢 10.2 イザナギとイザナミによる国産み 10.3 アマテラスの誕生 第11回 日本神話 2 11.1 国譲り神話 1 11.2 天孫降臨と天照大神の神勅 第12回 歴史時代 1 12 仏教伝来 第13回 歴史時代 2 13.1 『古事記』と『日本書紀』の成立事情：大陸との関係 13.2 なんでも日本化する文化力 第14回 まとめ 14 歴史を知ること		

3. 履修上の注意

十分な予習、復習と出席というまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、日本語や日本文化のみならず西洋文化にも興味をもつことが非常に重要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o! Meiji System から配信する資料の該当箇所をふり返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料や下に掲げる教科書・参考書に目を通しておくこと。

5. 教科書

とくになし。Oh-o! Meiji System から資料を配信する。

6. 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の冒頭に前回分リアクションペーパーの講評を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。リアクションペーパーの提出をもって出席確認とする。Oh-o! Meiji System の小テスト機能を用いた毎回の課題 50%、レポート 50%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

レポートは書籍一覧より一冊選び、読んで考えたことを書評としてまとめる。

分量：A4 レポート用紙 3 枚以内

提出時期：学期末前の 1 か月間

提出方法：Oh-o! Meiji レポート機能を利用して WORD ファイルにてオンライン提出

9. その他

英語第IV研究室（3 号館 3 階 3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HIS111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本の歴史 A	2 単位	中村 友一
2022～2025 年度入学者 日本の歴史 A		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 この科目は人文学の日本史の分野の授業である。古代を中心にして、中世までの日本において、人々が何を生産し、どのようなものを食してきたかを概説する。上記の視点から、古代～中世の人々の文化・歴史を把握し、現在の私たちの立脚する意識を理解することを到達目標とする。 《授業の概要》 古代・中世における生産と消費を、天皇・貴族層と民衆レベルを対比しつつ重層的な歴史像を提示していく。 国史や古記録・律令格式といった文献史料を中心に講義する。それに加え、考古資料や実験考古学の成果なども随時取り入れながら、複合的に歴史観を構築できるような講義を行う。 なお、農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a ガイダンス・日本人の来歴と狩猟・採集（以下、順番は多少前後あり） 第 2 回 稲作の由来と生産体制 第 3 回 稲以外の穀物・畑作 第 4 回 薬草の採取と栽培や園地 第 5 回 貢納される水産物 第 6 回 肉食忌避とその実態 第 7 回 蘇や醍醐の製造と家畜 第 8 回 塩など調味料の生産 第 9 回 古代～中世の酒造 第 10 回 天皇・貴族・下級官人の食膳 第 11 回 民衆や武家の食膳 第 12 回 中世の穀物と農業生産 第 13 回 農具と飲食具 第 14 回 補足・小試験（ミニレポート）		
3. 履修上の注意 講義形式で行う。特に履修を前提とする授業科目はない。 遅刻時の入室や雑談などの騒音の発生などには注意を与えるので、留意していただきたい。 出席とコメントや質疑などの授業へ取り組む姿勢も試験と併せて評価対象となるので、留意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の形式は、講義形式で行う。 授業は、レジュメとパワーポイントを使用する。 予習はとくに必要ないが、日本史の概説書や用語集、電子辞書などを参看して、基礎的な事項や用語には対応できるようにしておくこと。 初回以降の授業では、授業内でのメモをとるなどをして、レジュメと併せて復習して知識を蓄積することが肝要である。		
5. 教科書 教科書は使用しない。レジュメを配付する。 後日、レジュメとパワーポイントは PDF を掲示する。		
6. 参考書 ①佐原真『食の考古学』（東京大学出版会） ②関根真隆『奈良朝食生活の研究』（吉川弘文館） ③江原絢子他『日本食物史』（吉川弘文館） ④広野卓『食の万葉集』（中公新書） ⑤武光誠・山岸良二編『古代日本の稲作』（雄山閣出版） ⑥三舟隆之・馬場基編『古代の食を再現する』（吉川弘文館）など。 その他は、適宜レジュメに提示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時のコメントやプリントなどに反映させる。 オー明治の活用などでフィードバックする。		

8. 成績評価の方法

全授業日数の3分の2以上の出席で、試験（三ニレポート）を受ける資格を有する。ただし、問題のある授業態度や遅刻は減点の対象とする。

成績評価は、定期試験 60%と出席とコメントなどの授業に対する姿勢を 40%合算で評価する。満点の 60%以上が合格点である。

9. その他

質問・相談は適宜出席と併せて実施するコメントペーパー、もしくはオー明治のアンケート機能）の記載によって受け付ける。

科目ナンバー (AG)HIS111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本の歴史B	2 単位	森 朋久
2022～2025 年度入学者 日本の歴史B		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 日本の歴史のうち、日本の原風景、伝統的な景観であり、主に耕地と集落で成り立つ、村（ムラ）の歴史について、各時代の政治と経済を背景としながら、通史的に明らかにする。特に、現在の市町村の基盤となる村が成立する、近世・近代に重点を置く。耕地と集落は、棚田に代表されるように、人間と自然との共同作品である、文化的景観として近年注目されている。世界的に優良なその景観は、世界遺産の選定項目となり、日本でも優良な景観は、文化財保護法、農林水産業の重要文化的景観に選定されており、文化財としての意義がある。授業では前提として、日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）を紹介するとともに、耕地や集落が文化財としてどのような意義があるのかを明らかにする。（学問分野：日本史、日本地域史、日本村落史、環境歴史学、文化財学） 《到達目標》 日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）や耕地と集落の文化財的な意義を踏まえ、日本の農林水産業の地域基礎単位である村（ムラ）に関する通史的な学習を通し、教科書的な理解を越え日本史に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のAに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（日本史における耕地と集落の意義日本史研究の基礎） 第1回 b：日本史学入門（1）…歴史資料の提示、解説 第2回：日本史学入門（2）…歴史資料の内容解説、背景 第3回：文化財保護法と耕地と集落…文化財・重要文化的景観からみた村（耕地と集落） 第4回：弥生・古墳時代の村…縄文・弥生移行期、弥生・古墳時代の耕地と集落 第5回：古代の政治と経済：古代の村と領主支配との関係 第6回：古代の村：古代の開発、条里と村、荘園と村、初期武士団の村 第7回：中世の政治と経済：中世の村と領主支配との関係 第8回：中世の村…村の景観、惣村と在家、開発と経営、近世の村との関係 第9回：近世の村の景観…村の基本構成要素、様々な村のかたち 第10回：近世の村の機能…村で作成される様々な文書、ムラの運営 第11回：幕藩領主の農政と近世の村（1）…近世中期までの領主財政と年貢収奪 第12回：幕藩領主の農政と近世の村（2）…吉宗政権の年貢増徴策と新田開発、土地政策 第13回：近代の村…地租改正、戸長制、大区小区制、地方三新法、地方改良運動と村 第14回 a：現代の村…農地改革、昭和の市町村合併と村、高度成長下の耕地と集落 第14回 b：試験		
3. 履修上の注意 〈1〉履修前提科目、同時履修が望ましい科目については、指定しない。 〈2〉授業全体を通して、日本の地域の歴史に注目しながら話を進める。 〈3〉授業後の復習用、関連知識の習得用に、参考書〈1, 2〉を紹介する。 〈4〉参考書以外の文献・論文（文化財および環境歴史学関係）は、適宜紹介する。 〈5〉すべてまたはそれに近い回数を出席できる履修者を求める。小テストや授業内レポート等で出席状況を確認する。（重要）		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈1〉予習：あらかじめ配信または配布した資料を一読、一覧しておくこと。各授業の時代背景を、日本史年表で調べておくことが望ましい。 〈2〉復習：日本各地の地名が出てくるので、馴染みがない地名は地名辞典などで調べておくこと。授業内レポートに備えて、授業の内容を各回まとめておくこと。		
5. 教科書 特に定めない。適宜配信・配布した資料に沿って授業を行う。		
6. 参考書 〈1〉『村の語る日本の歴史 古代・中世編』（1983 年 そしえて）『村の語る日本の歴史 近世編①』、『村の語る日本の歴史 近世編②』木村礎著（1983 年 そしえて） 本書は、絶版、出版社は解散しており、現物の購入は古本屋等からとなる。但し、国立国会図書館デジタルコレクション遠隔複写サービスを利用すると、そのコピーが入手できる。（国会図書館に利用登録をし、コピー代、送料、消費税を払う必要があり、かなりの出費となる。注文からコピー入手までかなり日数がかかる 以上を念頭に置くこと）、本学図書館で閲覧することは可能である。 〈2〉『日本の農業150年 1850～2000年』暉峻衆三編著（2003 年 有斐閣）		

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラス web のレポート欄に「授業に関する質問」を設定し、質問のある履修者にコメント欄で返答する。授業内レポートに関しては、各レポート項目のコメントでフィードバックを行う。

8. 成績評価の方法

平常点（小テスト・授業内レポート 40％）と定期試験（手書き筆記試験 60％）で、評価を決める。

9. その他

オフィスアワー：最初の授業および明治大学授業サイト Oh-o! Meiji で指示する。

連絡先：明治大学授業サイト Oh-o! Meiji を利用した連絡を行うので、週に最低一度は閲覧のこと。その方法や他の手段については最初の授業で指示する。

本年度は、学芸員養成課程設置科目「博物館情報メディア論」と内容が一部関連するので、同課程受講者の履修を歓迎する。（強制ではない）

科目ナンバー (AG)HIS131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 西洋の歴史	2 単位	渡辺 知
2022～2025 年度入学者 西洋の歴史		
1. 授業の概要・到達目標 16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。		
2. 授業内容 以下の通り授業を進める予定ですが、進行具合によって若干の変更を加えることもあります。 第 1 回 授業内容の紹介 16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。 第 2 回 16 世紀のイギリス 1 バラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。 第 3 回 16 世紀のイギリス 2 16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。 第 4 回 イギリス帝国の形成 1 15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。 第 5 回 イギリス帝国の形成 2 17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。 第 6 回 イギリス帝国の形成 3 17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。 第 7 回 イギリス商業革命 1 イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。 第 8 回 イギリス商業革命 2 イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。 第 9 回 イギリス生活革命 イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。 第 10 回 砂糖と西インド諸島 イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。 第 11 回 大西洋黒人奴隷貿易 イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。 第 12 回 13 植民地の独立 13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。 第 13 回 産業革命と帝国 産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。 第 14 回 まとめ 第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します		
3. 履修上の注意 西洋やイギリスの歴史に興味のある方はもちろん、これまで歴史にあまりなじみがなかったという方も受講を歓迎します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した問題について参考文献等で調べてください。授業前に前回の授業ノート、参考文献を見返し、まとめておいてください。		
5. 教科書 特に使用しません。		
6. 参考書 適宜、プリントを配布し、参考文献を紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業でコメントします。		
8. 成績評価の方法 授業の区切りに授業内容のまとめや感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20%、学期末の試験 80%）。		
9. その他 オフィスアワーは最初の授業でお知らせします。		

科目ナンバー (AG)HIS121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 アジアの歴史	2 単位	小松原 ゆり
2022～2025 年度入学者 アジアの歴史		
1. 授業の概要・到達目標 （1）授業の概要 内陸アジアは、中央ユーラシアや中央アジアとも呼ばれる地域です。多様な自然や民族、宗教、文化などを有し、遊牧民と定住民が相互に影響し合いながら歴史を築いてきました。この多様な世界は、13 世紀からはモンゴル帝国、その後清朝とロシアという東西の二大帝国による支配を受け、その「周縁」と位置づけられてきました。この講義は、内陸アジアの「多様性」に注目しながら、13～20 世紀初頭にかけての内陸アジアの歴史を、「モンゴル帝国」「大清帝国」「近現代」の三つの時期に分け、内陸アジアから東アジアにかけて信仰されていた「チベット仏教」を鍵に考察していきます。さらに、1912 年清朝の崩壊が内陸アジアに与えた影響にも注目し、「いま」の内陸アジアについても概観したいと思います。 （2）到達目標 内陸アジアの歴史・文化・宗教に関する基礎的知識を習得し、その「大きな枠組み」を理解することを目標とします。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 1. モンゴル帝国の興亡 第 1 回：内陸アジア・中央ユーラシアとは？内陸アジアの地理・民族・宗教 第 2 回：モンゴル帝国の成立と拡大 第 3 回：クビライとチベット仏教の関係 第 4 回：西から来た人々が見た元の政治・経済・文化 第 5 回：モンゴルの王権とダライラマの誕生 2. 大清帝国のはじまりと全盛期 第 6 回：「大清帝国」とは？ 第 7 回：清初期の皇帝たちとチベット仏教 第 8 回：朝鮮人が見た清朝とチベット仏教 第 9 回：カルムイクとロシア・清朝 3. 内陸アジアの近現代 第 10 回：グレート・ゲームのなかの内陸アジア (1) イギリスの覇権争いとチベット 第 11 回：グレート・ゲームのなかの内陸アジア (2) ロシアの南下とチベット 第 12 回：チベットをめざす日本人たち 第 13 回：グレート・ゲームのなかの内陸アジア (3) 清朝の崩壊とモンゴル・チベット 第 14 回：a. まとめ b. テスト ※授業の進行具合によって内容が前後することがあります。		
3. 履修上の注意 授業はレジュメおよびパワーポイントや映像を用いて行います。授業中の私語やスマホの使用は厳禁。高校までの世界史、日本史の履修経験は不問です。 毎回の授業後に確認ミニテストを行います（Oh-o! Meiji 上から行う予定）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：各回の授業に出てくる人物やトピックなどを前もって調べておくと、理解が深まるはずです。 復習：授業の内容を振り返りながら確認ミニテストを行いましょう。また、各回の授業では関連する参考文献を紹介するので、興味を持ったテーマやトピックについてどんどん調べましょう。質問は確認ミニテスト上や授業後に気軽に聞いてください。		
5. 教科書 特になし。毎回レジュメを配布します。		
6. 参考書 小松久男編『中央ユーラシア史』（山川出版社、2000 年） 石濱裕美子編『チベットを知るための 50 章』（明石書店、2004 年） 宮脇淳子『モンゴルの歴史：遊牧民の誕生からモンゴル国まで（増補新版）』（刀水書房、2018 年）※初版は 2002 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の確認ミニテストの総評や質問・意見については、次回以降の授業で紹介する予定です。		
8. 成績評価の方法 平常点（出欠、積極性、授業態度など）＋確認ミニテスト：50%、期末テスト：50%。		

9. その他 特になし。

科目ナンバー (AG) IND112E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 Global Competence A	2 単位	長谷川 安代
2022～2025 年度入学者 Global Competence A		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 本授業科目は、アクティブラーニング型で実施します。授業では、毎時、異なるアクティビティに取り組んでいただきます。 他国を知るには何を手掛かりにすればよいのか？異なる文化的背景を有する人と上手くコミュニケーションをとるにはどうすれば良いのか？困難な課題に直面したときに、どう糸口を見出すのか？履修学生同士で共に考え、実践を重ねていくことで、グローバル化する社会に柔軟に対応するためのスキルを培っていきます。講師が、主に国際協力分野での業務を通じて習得してきたツールや多文化間でのコミュニケーション・協働のスキルを共有しながら、授業を進めていきます。 ＜授業の到達目標＞ ・「国」や「文化」を概観することができる。 ・「違い」を尊重しながらコミュニケーションを図ることができる ・課題を分析し、解決に向けての行動を考えることができる。（ロジカルに考えることができる。） ・他者と協力して、行動することの意義を見出せる。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション／「ファシリテーション」とは [第 2 回] 国を見る力① [第 3 回] 国を見る力② [第 4 回] 「違い」に気付く [第 5 回] 異文化を疑似体験する [第 6 回] 日本における多文化化／「やさしい」日本語 [第 7 回] 宗教（リサーチ）/チームワーキング①アサーション [第 8 回] 宗教（発表）/チームワーキング② [第 9 回] さまざまな英語／「日本」について発信する [第 10 回] 身近なところから関心を広げる [第 11 回] 課題分析・目的分析（ロジカルシンキング①） [第 12 回] アクション・プラン作成（ロジカルシンキング②） [第 13 回] アサーション [第 14 回] 期末レポートの共有/全体の振り返り ※授業内容の順番は変更になる可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・本授業は基本的には日本語で行いますが、英語の資料や英語での事例を扱う授業回もあります。 ・本授業は講義型の授業ではありません。アクティビティへの積極的参加は必須です。 ・毎回の授業時のグループ分けはランダムに行います。 ・授業には、PC、Tablet 等のデバイスを持参してください。 ・異文化理解に関する知識を深めるためには、Global Competence B の履修を推奨します。 ・Global Issue に関する知識を深めるためには、Global Competence C の履修を推奨します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・期末レポートに向けて、計画的に課題図書を読み進める必要があります。詳細は第 1 回の授業時に説明します。 ※ 課題図書は、次の 4 冊の中から、各自 1 冊を選定してください。 1) ウサビ・サコ（2020）『アフリカ出身 サコ学長、日本を語る』、朝日新聞出版 2) 小西公大（2024）『ヘタレ人類学者、沙漠をゆく～僕はゆらいで、自由になった。』、大和書房 3) 原貫太（2025）『世界は誰かの正義でできている アフリカで学んだ二元論に囚われない生き方』、KADOKAWA 4) 前野ウルド浩太郎（2017）『パッタを倒しにアフリカへ』、光文社新書		
5. 教科書 教科書は使用しません。必要な資料は教員が準備し、Oh-o ! Meiji での共有、あるいは印刷資料を配布します。		
6. 参考書 山本志都ほか（2022）『異文化コミュニケーション・トレーニング --「異」と共に成長する』、三修社 原沢伊都夫（2013）『異文化理解入門』、研究社 エリン・メイヤー（2015）『異文化理解力：相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』、英治出版 平木典子（2012）『アサーション入門：自分も相手も大切にする自己表現法』、講談社現代新書		

そのほか、必要に応じて、授業内で紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内やオンラインシステム等を活用して、振り返りシートに対するコメントを共有します。

8. 成績評価の方法

- ・ 平常点（アクティビティへの参加態度・振り返りシート）:60%
- ・ 期末レポート:40%

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

科目ナンバー (AG) IND112E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 Global Competence B	2 単位	長谷川 安代
2022～2025 年度入学者 Global Competence B		
1. 授業の概要・到達目標 <Course Summary> In this course, students will learn the knowledge and skills to communicate smoothly with people from different cultures, which are the components of Global Competence. When we think of different cultures, we may imagine cultural differences between countries, but we are exposed to cultural differences on a daily basis, such as generational, regional, and gender differences. How can we think and act to build better relationships with people who think and act differently due to cultural differences? In addition to acquiring the fundamental knowledge of intercultural communication through the textbook, students develop skills and attitudes through participation in group work and discussions. The instructor will conduct the course while sharing her experiences working in the cross-cultural fields as an international cooperation consultant. <Course Objectives> Having completed this course, students will: - Acquire fundamental knowledge of intercultural understanding and intercultural communication. - Understand that each person has different ways of thinking and values -Be able to communicate with others while respecting differences 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [class 1] Introduction [class 2] Unit 1 Communication [class 3] Unit 2 Culture [class 4] Unit 3 Nonverbal Communication [class 5] Unit 4 Communicating Clearly [class 6] Unit 5 Culture and Values [class 7] Unit 6 Culture and Perception [class 8] Unit 7 Diversity [class 9] Unit 8 Stereotypes [class 10] Unit 9 Culture Shock [class 11] Unit 10 Culture and Change [class 12] Unit 11 Talking about Japan [class 13] Unit 12 Becoming a global person [class 14] Review and Reflection		
3. 履修上の注意 ・Both English and Japanese will be used in class. The ratio of English to Japanese will be adjusted according to the proficiency level of the students. There is a possibility that classes may be conducted only in English. ・This course is not a lecture-based course. Students are expected to actively participate in class. ・For group discussions or pair work, students will be randomly grouped or paired. ・We will use a textbook designed for English learning, but the primary objective of this course is not language acquisition. We will expand and deepen our thought based on the topics and activities covered in the textbook. ・As a general rule, arriving more than 20 minutes late will be treated as an absence.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・For each class, students should work on the assignments before attending the class (90 mins.) Details will be explained in the first class.		
5. 教科書 『Speaking of Intercultural Communication 異文化理解の英語コミュニケーション』、Peter Vincent 著、(南雲堂)		
6. 参考書 Reference books will be announced in class, if any.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Reflection sheets will be commented in class or online.		

8. 成績評価の方法

- ・Attitudes in class (participation in discussion, reflection sheets):50%
- ・Final paper:50%

(Meeting the required number of attendance days is a prerequisite for grade evaluation.)

9. その他

Details regarding office hours will be explained during the first class.

科目ナンバー (AG) IND112E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 Global Competence C	2 単位	長谷川 安代
2022～2025 年度入学者 Global Competence C		
1. 授業の概要・到達目標 <Course Summary> Global Competence consists of several components. Among them, this course focuses on acquiring knowledge about global issues and developing the skills to analyze and critically examine, as well as speak out one's own ideas to others. Through discussions in class, students will realize that each person holds different perspectives, each with a reasonable reason, and learn how to communicate each other while respecting different viewpoints. They will also consider actions they can take themselves. Global issues are closely linked to our daily lives. It means that our future depends on what actions we are taking in our daily lives. The lecturer will share professional experience in the field of international cooperation to help students deepen their knowledge and make their ideas more realistic. <Course Objectives> Having completed this course students will: -deepen their knowledge about global issues. -be able to logically express their thoughts and opinions -be able to discuss with others while respecting different viewpoints. -be able to consider actions they can take and put them into practice. 食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [class 1] Introduction / Chapter 1 Global Perspectives [class 2] Chapter 2 Climate Change [class 3] Chapter 3 Water [class 4] Chapter 4 Clean Energy [class 5] Chapter 5 Poverty [class 6] Chapter 6 Hunger [class 7] Chapter 7 Children [class 8] Chapter 8 Gender [class 9] Chapter 9 Refugees [class 10] Chapter 10 Insects [class 11] Chapter 11 Vegetarianism [class 12] Chapter 12 Plastic Waste [class 13] Chapter 13 Shopping [class 14] Chapter 14 Partnership / Reflection		
3. 履修上の注意 ・Both English and Japanese are used in class. The ratio of English to Japanese will be adjusted according to the proficiency level of the students. There is a possibility that classes may be conducted only in English. ・Students must bring their own device(PC or tablet). ・This course is not a lecture-based course. Students are expected to actively participate in class. ・For group discussions or pair work, students will be randomly grouped or paired. ・We will use a textbook designed for English learning, but the primary objective of this course is not language acquisition. Based on the topics covered in the textbook, we will expand and deepen our knowledge and opinions on global issues. ・As a general rule, arriving more than 20 minutes late will be treated as an absence.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・For each class, students should work on the assignments before attending the class (90 mins.) Details will be explained in the first class.		
5. 教科書 『Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals「地球市民として生きる：英語で学ぶ SDGs 実践入門」』 小関一也・マクス・ケン著、(南雲堂)		
6. 参考書 Reference books and websites will be announced in class, if any.		

7. 課題に対するフィードバックの方法

Reflection sheets will be commented in class or online.

8. 成績評価の方法

- ・Attitudes in class (participation in discussion, reflection sheets): 50%
 - ・Final paper:50%
- (Meeting the required number of attendance days is a prerequisite for grade evaluation.)

9. その他

Details regarding office hours will be explained in the first class.

2026年度以降入学者

総合教育科目教養科目群＜第二分野＞

2022～2025年度入学者

総合科目教養科目群＜第二分野＞

科目ナンバー (AG)ECN111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 経済学	2 単位	深澤 竜人
2022～2025 年度入学者 経済学		
1. 授業の概要・到達目標 本科目では農学部を受講生という点を鑑みて、経済学と関連させた農業・食料・資源・環境等々の側面に関する研究と、その概略に関して照射していき、近年国際社会で見直されている経済理論に至るまでの過程の理解を到達目標とします。また講師・深澤が実践している小規模農業も提示し、そこからの研究成果や、また持論としての「非農家による農業参画」「家庭内供給的な小規模農業展開論」を開陳していきます。 (なお食糧生産・環境コース(2023 年度以前に入学した学生が対象)においては、学習・教育目標の A および B に対応する科目です。)		
2. 授業内容 第 1 回：《序論》経済学から見た日本の農業 国際競争力強化 v.s 保護政策 第 2 回：《新自由主義経済学の基本原理①》 市場・価格メカニズムの有効性 第 3 回：《新自由主義経済学の基本原理②》 比較生産費説 貿易の有効性と問題点 第 4 回：《新自由主義経済学の問題点①》 日本の米農家の現状 第 5 回：利潤の発生や経済成長の根本を経済学的に考える 第 6 回：《マクロ経済学①》 生産活動の重要性 農業労働を例に 労働価値説① 第 7 回：《マクロ経済学②》 再生産という考え・視点 労働価値説② 第 8 回：《地方・地域経済学 観光経済学》 貨幣の循環 地域・地方の活性化・再生という課題 第 9 回：《資源・エネルギー経済学》 エネルギー問題 人口問題・マルサス理論 第 10 回：《環境・生態系経済学》 慣行農業と有機農業 環境問題 第 11 回：《株式会社論》 株式会社の特性を考える 第 12 回：《新自由主義経済学の基本原理③》バブルの崩壊後の政策① 構造改革路線 第 13 回：《自由主義経済学の問題点②》バブルの崩壊後の政策② 国連の SDGs 宣言 「家族農業の 10 年」 第 14 回：《家庭内供給的小規模農業展開論》 全体のまとめ * 理解度や進具合、日程の都合上など状況に応じて、上記項目は変化する場合があります。		
3. 履修上の注意 講義は教科書と合わせた板書で行っていきます。板書内容をノートに取っておいてください。そうしないとレポートの作成に支障をきたし、試験に望めなくなります。 対面授業の場合、講義が一方通行にならないように、また理解度を確認するため、皆さんにかなり質問し、マイクを持って答えてもらうかもしれません。この点を了解しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義でその都度示していきますが、特に自主的に講義内容を復習しておくといよいです。		
5. 教科書 深澤竜人『市民がつくる半自給農の世界―農的参加で循環・共生型の社会を―』農林統計協会（2022 年、第 2 刷）。		
6. 参考書 同上。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回簡単なレポートを出してもらいまして、それで質問には答え、間違った理解などには修正して返信していました。		
8. 成績評価の方法 実際の受講人数等々を見た後に決めていきますが、今時点では出席・平常点、授業でのレポート、および期末レポートとしておきます。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー (AG)S0C111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 社会学	2 単位	福重 清
2022～2025 年度入学者 社会学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》《授業の概要》 社会学とは、ごく単純に言えば、社会の中に生じる様々な現象（社会現象、社会的事実）を対象に、その成り立ちやメカニズムを説明しようとする学問である。私たちが日々当たり前のものとして経験している現象―それは例えば、「家族」であったり、「恋愛」であったり、「格差社会」であったり、あるいは「限界集落」などといった“社会問題”であったりするが―は、なぜそのようなものとして私たちの前に立ち現れるのであろうか。社会学は、そんな「当たり前」として日々経験される社会現象に、改めて論理的な（因果関係についての）説明を与えるものである。 この授業では、こうした説明のし方、考え方、理論枠組を学習する。社会学的なものの見方、考え方、社会理論を身につけることを通じて、日頃は自明で不変だと思っている現象が、実は様々な社会的なメカニズムの中でできあがったものであることがわかり、それによってより良い社会のあり方を構想することができるようになるだろう。社会の成り立ちを論理的・科学的・客観的に説明できるようになることが、この講義の最大の目標である。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の B・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 社会とは何か、社会学とはどういう学問か 第 2 回 社会を分析・把握する社会学の基本的な考え方（1）―方法論的個人主義と方法論的集合主義 第 3 回 社会を分析・把握する社会学の基本的な考え方（2）―社会構造と社会変動 第 4 回 社会を知る技法としての社会調査（1）―社会調査の種類と考え方 第 5 回 社会を知る技法としての社会調査（2）―量的調査の手順 第 6 回 社会を知る技法としての社会調査（3）―量的調査の活用と質的調査 第 7 回 ジェンダー（1）―ジェンダーに関する基本的な考え方 第 8 回 ジェンダー（2）―現代社会におけるジェンダー問題 第 9 回 家族（1）―家族とは何か 第 10 回 家族（2）―現代社会と家族の変容 第 11 回 都市と農村、地域社会（1）―都市および農村とは 第 12 回 都市と農村、地域社会（2）―今日の地域が抱える問題 第 13 回 社会階層と格差（1）―現代日本の階級・階層構造 第 14 回 社会階層と格差（2）―「一億層中流」から格差社会へ		
3. 履修上の注意 毎回、授業の際にプリントを配布する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回授業開始前にプリントを配流するのでその内容をよく読み、内容を予習した上で次の授業に臨むこと。プリントには各回の講義に関連した文献一覧を掲載するので、授業後にはそれらを一読し、理解を深めるようにすることが望ましい。また、毎回授業後にその日の授業内容の修得を確認する小テストをクラスウェブを使用して実施するので、復習の一助としてもらいたい。		
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。各回のテーマに関連する重要な文献や資料については、その授業内および配布プリント内で紹介する。		
6. 参考書 『社会学講義』橋爪大三郎・大澤真幸ほか著（ちくま新書） 『社会学入門』森岡清志編（日本放送出版協会） 『社会学になにができるか』奥村隆編（八千代出版） その他、授業の中で随時参考文献を紹介をする。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを使用して受講内容の修得を確認する小テストを毎回実施する。その中にはリアクションを書いてもらう設問も用意し、必要に応じて適宜授業内でコメントする。		
8. 成績評価の方法 レポート 70%、平常点（授業参加・貢献度、毎回の小テスト）30% レポートでは、現代社会に関する問いを社会的に分析・考察して自ら解答を導き、その説明を論理的・説得的に他人に伝える能力が身についているかどうかを評価する。		
9. その他 オフィスアワー：出講日 16:50 まで（中央校舎講師控室）		

科目ナンバー (AG) ANT121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 民俗学	2 単位	安倍 宰
2022～2025 年度入学者 民俗学		
1. 授業の概要・到達目標 民俗学は生活そのものの成り立ちを研究する学問といえます。この中でも、本講義では、「都市」「暴力」「現代社会」に焦点を当てて、ともすれば抱かれがちな「民俗学とは古臭い（廃れた）風習を研究する学問」という固定概念を相対化していきたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：民俗学とはどのような学問か 第 2 回：民俗とはどのような現象か 第 3 回：都市と民俗学 第 4 回：京都五山送り火 第 5 回：京都五山送り火 (2) 第 6 回：京都五山送り火 (3) 第 7 回：江戸・東京の盛り場の重層性 第 8 回：新宿の成立 第 9 回：「新宿文化」の発生 (1) 第 10 回： " (2) 第 11 回： " (3) 第 12 回：トランスジェンダーの民俗 (1) 第 13 回： " (2) 第 14 回： " (3) ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本講座で触れられるテーマは、皆さんの生活にどこかでかかわりを持つものだと思います。「では自分（達）は」と考える形で受講してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 すべての回にノート整理（復習）		
5. 教科書 特に指定なし。		
6. 参考書 参考書は適宜指示するが、主だったものは以下の通り。一冊でも多く読破していただきたい（できれば全部）。 「都市のドラマトゥルギー」吉井俊哉、弘文堂		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 原則として期末試験で評価します。出席点は予定しませんが、状況次第では大きな意味を持つこともあるかもしれません。		
9. その他		

科目ナンバー (AG)LAW111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 法学	2 単位	田村 翔
2022～2025 年度入学者 法学		
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、そもそも法とは何であるのか、法と道徳とはどのような関係にあるのか、法の種類・体系、法を解釈するとはどういうことか、などの基本的な事項について確認したうえで、私たちの社会生活における様々な具体的場面を素材として、そこに実際にかかわりうる法律にはどのようなものがあるのか、そのそれぞれの法律の目的や具体的な内容を学習していきます。 また、本講義では、全 14 回の授業を通じ、私たちの社会生活と大きなかわりを有する様々な法（法律）を概観し、その目的や具体的な内容を理解していくことで、法（法律）の役割の重要性を一層強く意識し、法的思考力（リーガル・マインド）、すなわち、様々な利益を有する様々な人々が共同生活を送る現代社会において時としてそれらの利益が対立し（法的）紛争が起きた際に、そこではそもそもどのような利益がどのように対立し問題となっているのか、複雑に絡み合う事情を整理したうえで真の問題点を見出し、そこで見出された問題点を説得力のある形で他者にも説明することで紛争解決のための交渉を可能にする力、法的コミュニケーション能力を獲得することを到達目標とします。		
2. 授業内容 第 1 回：法とは何か 第 2 回：法の発展 第 3 回：法と裁判，裁判の基準となるもの 第 4 回：法の解釈 第 5 回：法の分類 第 6 回：国家と法（1）—日本国憲法の基本原理 第 7 回：国家と法（2）—基本的人権の尊重 第 8 回：犯罪と法（1）—刑法の機能と刑罰の目的 第 9 回：犯罪と法（2）—犯罪の成立要件と刑法の基本原理 第 10 回：財産関係と法（1）—民法・財産法の内容と基本原則 第 11 回：財産関係と法（2）—物権と債権，契約の意義 第 12 回：家族生活と法（1）—民法・家族法の基本原則，婚姻と離婚 第 13 回：家族関係と法（2）—親子と相続 第 14 回 a：国際社会と法—国際法 b：試験		
3. 履修上の注意 本講義の授業は、基本的に指定の教科書や適宜配布する授業プリント，板書などを用い講義形式で行いますが，随時こちらから授業内容と関連した質問を投げかけ，学生からの発言を求めたり，リアクションペーパーを配布し，その提出をしてもらうことがあります。 また，各回の授業内容は原則として上記の計画に沿って実施しますが，その進行具合などによっては一部計画が変更されることもあります。 授業に参加する際は，授業内容と関係のない私語の禁止など，一般的な授業マナーを守ってください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の授業に参加するにあたっては，あらかじめシラバス（上記授業内容計画）で実施する授業内容を確認したうえで，教科書でその内容が記載された箇所に目を通してください（予習）。 また，各回の授業後には，授業内での板書や指定の参考書，配布プリントがあった場合にはそれも利活用し，再度教科書を読み込むなどしてその回に実施した授業内容を自分なりに理解できるようにしてください（復習）。 もっとも，法学の講義においては，回によっては非常に抽象度の高い授業内容が実施されることもあり，事前の予習段階で完全に授業内容を理解・把握することは難しいものとも思われます。そのため，予習段階ではその回の授業内容の大枠をつかみ，準備学習としては，とくに復習に力を入れるよう心がけてください（決して，予習が重要ではない，という意味ではありません）。 なお，授業内容についてわからなかった点・不明な点などは，授業中ないし授業終了後に質問を受け付けますので，必ず，疑問を疑問のままに終わらせないようにしてください。		
5. 教科書 『法学入門』早川吉尚（有斐閣，2016 年） なお，教科書については，初回の授業時にその使用方法について説明をします。教科書の購入は，その説明を受けてからで構いません。		
6. 参考書 『現代法学入門〔第 4 版〕』伊藤正己・加藤一郎編（有斐閣双書，2005 年） 『エッセンシャル法学〔第 8 版〕』大谷實編（成文堂，2025 年） 『現代実定法入門〈第 3 版〉』原田大樹（弘文堂，2023 年） 『高校生からの法学入門』中央大学法学部編（中央大学出版部，2016 年）		

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題等があった場合には、その提出日以降の授業時間内で説明します。

8. 成績評価の方法

試験 80%, 授業への貢献度 20%で評価します（あくまで予定であり、変更の可能性があります。変更する場合は適宜アナウンスいたします）。

9. その他

科目ナンバー (CC)LAW111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本国憲法	2 単位	小出 幸祐
2022～2025 年度入学者 日本国憲法		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 日本国憲法の基本原理と構造を概説する。社会で話題になっているテーマについて憲法の観点から取り上げることで、社会制度を形作っている憲法への関心を高めて、その理解を深めることを目指す。 到達目標 履修者が憲法の基礎知識を身につけて、社会や日常生活における様々なケースで、憲法の視点から主体的に考える能力を養うことを目標にする 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のB・Gに対応する科目である。		
2. 授業内容 〔第1回〕 憲法とは何か 〔第2回〕 統治の原理と権力分立 〔第3回〕 国会の地位と権能 〔第4回〕 国会議員と参政権 〔第5回〕 地方自治 〔第6回〕 内閣の構成と権能 〔第7回〕 財政と予算 〔第8回〕 司法権と裁判官 〔第9回〕 国民の司法参加と刑事手続上の権利 〔第10回〕 思想良心の自由と信教の自由 〔第11回〕 表現の自由 〔第12回〕 職業選択の自由と財産権 〔第13回〕 生存権 〔第14回〕 幸福追求権と法の下での平等		
3. 履修上の注意 Oh-o! Meiji で授業資料を配信する（授業前日までに配信する）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の準備学習時間は、60分程度を想定しています。 各回で扱うテーマについて、授業資料に予め目を通しておくことをお勧めします。		
5. 教科書 『憲法五重奏』、大津浩＝大藤紀子＝高佐智美＝長谷川憲＝江藤英樹、（有信堂）、2025、定価 3520 円。		
6. 参考書 履修者が必ず用意しなければならないものではありませんが、以下の書籍が大学図書館に配架されています。必要になったら、図書館で利用してください。 ①『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第8版）』、長谷部恭男＝石川健治＝矢野常寿 編著、（有斐閣）、2025、定価 2750 円。 ②『図録 日本国憲法（第2版）』、斎藤一久＝堀口悟郎 編集、（弘文堂）、2021、定価 2530 円。 ③『リーガル・リサーチ&レポート（第2版）』、田高寛貴、＝秋山靖浩、＝原田昌和、（有斐閣）、2019、定価 1870 円。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、以下のA.とB.の合計点で評価をします。 A. 授業内試験（30％） B. レポート（70％） A. 授業内試験は、多肢択一式問題（正しい記述を選択肢の中から選ぶ問題）によって行います。なお、授業第1回から第3回までは授業内試験を行いません。 B. レポート成績の評価要素として、以下の2つの面を考慮して判定を行います。 1. 形式面 ・体裁が整っているか ・誤字脱字がないか		

2. 実質面

- ・ 法的知識の正確性
- ・ 論旨または論理的思考の一貫性

9. その他

欠席の連絡は不要です。何か連絡したいことがある場合には、koidek45@meiji.ac.jp に送ってください。

科目ナンバー (AG)ECN121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 教養としての食料環境政策学	2 単位	長岡 佑治
2022～2025 年度入学者 農業経済初歩概説		
1. 授業の概要・到達目標 この科目は、食料環境政策学科以外の学科に在籍する学生が、「食料環境政策学科ではどんなことを学んでいるのだろうか？」ということ を理解するために設置された科目です。本講義では、主として農業・食料に焦点を当てます。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の B・E に対応する科目です。		
2. 授業内容 〔第 1 回〕 授業イントロダクション 〔第 2 回〕 日本の農業と食料 〔第 3 回〕 経済発展と農業 〔第 4 回〕 食料の需要と供給 〔第 5 回〕 農業生産と土地 〔第 6 回〕 農業の経営組織 〔第 7 回〕 農産物の市場組織 〔第 8 回〕 農産物貿易と農業保護政策 〔第 9 回〕 世界の人口と食料 〔第 10 回〕 「食文化」の形成 〔第 11 回〕 食生活の「成熟」とフードシステム 〔第 12 回〕 農業の「近代化」 〔第 13 回〕 資源・環境と農業 〔第 14 回〕 まとめ		
3. 履修上の注意 食料環境政策学科の学生は、学科に設置された各専攻科目を履修して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 経済学をベースとしますが、特別な準備は必要ありません。 疑問を持った部分については、参考文献を読むなど主体的に調べることが望ましいです。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 『農業経済学 第 6 版』荏開津典生・鈴木宣弘（岩波書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問が出た際のフィードバックは次回の講義にて行います。		
8. 成績評価の方法 学期末レポート 40%＋学期末試験 60%		
9. その他 連絡先および学期末レポートの提出方法と期限は初回の講義で示します。		

2026年度以降入学者

総合教育科目教養科目群＜第三分野＞

2022～2025年度入学者

総合科目教養科目群＜第三分野＞

科目ナンバー (AG)CBI111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生物学基礎 (1) (4)	2 単位	東郷 建
2022～2025 年度入学者 生物学基礎 (1) (4)		
1. 授業の概要・到達目標 本授業は、農学を学ぶうえで不可欠な、生物学の基本的な考え方を理解することを目的とします。主な対象者は、高等学校「生物基礎」および「生物」のうち、特に「生物」を履修していない学生です。 授業では、細胞の構造、代謝、遺伝子のはたらきなど、生物学の基礎となる内容について、下記のスケジュールに沿って学習します。 なお、本科目は、食糧生産・環境コース（2023 年度以前入学者対象）における学習・教育目標 C に対応する科目です。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション：生物とは [第 2 回] 細胞の構造 [第 3 回] 生体の化学成分（タンパク質）、酵素反応 [第 4 回] 呼吸、発酵 [第 5 回] 光合成 [第 6 回] 生体の化学成分（核酸）、遺伝情報の発現 [第 7 回] 細胞増殖：遺伝情報の複製と分配 [第 8 回] 生殖 [第 9 回] 発生 [第 10 回] 動物の反応と行動 [第 11 回] 植物の環境応答 [第 12 回] 生物群集と生態系 [第 13 回] 生物の進化 [第 14 回] 生物の系統と分類		
3. 履修上の注意 本授業は、高等学校で学ぶ「生物基礎」および「生物」のうち、特に「生物」を未履修の学生、または履修済みであっても高校レベルの内容を再確認したい学生を対象としています。そのため、高等学校で「生物」の内容を十分に学習している学生にとっては、既知の内容が中心となります。該当する学生は、より発展的な科目の履修を推奨します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：各回の授業資料は、概ね 1 週間前に Oh-o! Meiji で公開します。事前に資料をダウンロードし、授業内容の概要を把握しておいてください。 復習：授業で理解できなかった点や疑問点については、参考書の該当箇所を読んだり、質問したりすることで理解を深めてください。また、授業の振り返りを目的として、Oh-o! Meiji に小テスト（確認クイズ：多肢選択、正誤判断、空所補充）を用意しますので、積極的に活用してください。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 『やさしい基礎生物学 第 3 版』南雲 保 ・編（羊土社） 高等学校教科書『生物基礎』、『生物』		
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 2 回から第 14 回までの各授業において、基本事項の理解を確認するための小テスト（確認クイズ）を実施し、正答および解説を Oh-o! Meiji にて公開します。 また、毎回の授業でリアクションペーパーを配布します。授業内容の理解や感想、疑問点を記入してください。多くの受講者にとって有益と考えられる質問やコメントについては、翌週の授業冒頭でフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 試験：60% 平常点：40%（Oh-o! Meiji に公開した授業資料および確認クイズの利用状況、リアクションペーパーの記入状況等を基に、授業への参加状況を総合的に評価します）		
9. その他 オフィスアワー・連絡先：第 1 回の授業において示します。		

科目ナンバー (AG) CBI111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生物学基礎 (2) (3)	2 単位	荒川 航平
2022～2025 年度入学者 生物学基礎 (2) (3)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 農学は、生物学を基礎として成立している分野です。本科目では、生物学の基礎である生命現象と物質、生物の環境応答、遺伝子情報の発現と発生、生態と環境、生物の進化についての基礎知識を解説します。高校で「生物」を履修していない、もしくは十分に履修してこなかった学生を対象としています。 ＜到達目標＞ 高校で「生物」を履修していない学生が、今後、農学を学ぶ上で必要不可欠な最低限の生物学的な知識を習得することを目標とします。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C に該当する科目です。		
2. 授業内容 [第 1 回] 生物の共通性と多様性 [第 2 回] 生物の系統と分類 [第 3 回] 細胞の構造と働き [第 4 回] 代謝とエネルギー [第 5 回] 遺伝子情報の発現 [第 6 回] 生殖と発生 1（生殖と遺伝） [第 7 回] 生殖と発生 2（動物と植物の発生） [第 8 回] 植物の環境応答 [第 9 回] 動物の環境応答 1（恒常性の維持） [第 10 回] 動物の環境応答 2（刺激の受容と反応） [第 11 回] 生物群集と生態系 [第 12 回] 生物の進化 [第 13 回] 現代社会と生命科学（バイオテクノロジー、ライフサイエンス） [第 14 回] a まとめ b 試験		
3. 履修上の注意 高校で生物を履修していない学生を対象とした講義となるため、すでに生物学を履修してきた学生には不向きです。講義資料については、事前に Oh-o! Meiji 上で配布します。各自でダウンロードしてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に予習は求めません。講義資料を見直し、復習、質問を通して内容理解に努めてください。		
5. 教科書 特に指定はありません。		
6. 参考書 「キャンベル生物学」（丸善） 高校教科書「生物基礎」「生物」		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの正答・解説について、Oh-o!Meiji 上、もしくは講義内でフィードバックを実施します。		
8. 成績評価の方法 定期試験 (50%)、及び講義での小テスト (50%) の合計で評価します。		
9. その他 連絡先などは初回講義時に示します。		

科目ナンバー (AG)BPH191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 物理学基礎	2 単位	小山 岳人
2022～2025 年度入学者 物理学基礎		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 農学を含む多くの分野で、現象の数理的理解の基礎として、物理学が使われます。そこでは、物理的概念や物理法則に基づいた考え方が必要とされます。これを踏まえてこの授業では、物理学の基本分野である力学・波動学・熱力学・電磁気学について、そこに現れる基礎的な概念を、微分積分を用いずに、説明していきます。 《到達目標》 物理学の知識を必要とする科目を履修する上での最低限の知識の修得を目指します。基本的な法則や公式から多くの現象を説明できることを示し、物理学は多くの現象に共通する法則を抽出して体系化された学問であることの理解や、物理学で用いられる筋道だった考え方の理解を図ります。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の C に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回：《イントロダクション》 《力学 1》運動を表す物理概念 第 2 回：《力学 2》力とその種類・万有引力と重力/力と運動の法則・重力の下での運動 第 3 回：《力学 3》仕事とエネルギー/エネルギー保存則 第 4 回：《力学 4》力積と運動量/回転運動と角運動量 第 5 回：《力学 5》剛体の基礎/振動 第 6 回：《波動学》波動/音と光 第 7 回：《熱力学 1》圧力と内部エネルギー/温度と状態方程式 第 8 回：《熱力学 2》圧力と仕事・温度と熱/物質の状態変化と潜熱 第 9 回：《熱力学 3》熱力学第 1 法則/熱力学第 2 法則 第 10 回：《電磁気学 1》電荷と電場/電圧 第 11 回：《電磁気学 2》コンデンサ/電流と抵抗 第 12 回：《電磁気学 3》電流と磁場 第 13 回：《電磁気学 4》電磁誘導/インダクタンスと電磁波の基礎 第 14 回：《総合復習》		
3. 履修上の注意 高校程度の数学の知識があれば大丈夫です。 ＊秋学期「物理学概論」の単位取得を目指す方に：高校での物理・数学の履修がない方・少ない方で「物理学概論」を履修される必要のある方は、春学期「物理学基礎」から秋学期「物理学概論」への連続履修をお勧めします。このように履修すると、ベクトル・微積分の数学を用いない「物理学基礎」で、まずは物理的内容の基礎に慣れておくことができます。その後に「物理学概論」では、「物理学基礎」ですでに学んでいる内容を高度な数学とともに再度学ぶことができます。これによって皆さんが必要な単位を取得しやすくなると思いますので、是非ご検討ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義では物理のいろいろな概念・法則が出てきます。その理解を深めるため、講義の前に、配布される講義用スライドを資料に目を通しておくとともに、教科書の対応箇所を読んでおいて下さい。そして講義後に内容の確認・補強のため、講義資料・教科書を参照してもらいながらレポートに取り組んでもらいます。さらにこのレポートの締め切り後に、レポートの解答例を配布しますので、これを見ながらレポートの答え合わせをしてください。		
5. 教科書 『物理学へのガイド』田辺行人・塚田昌甫（裳華房）		
6. 参考書 『東大の先生！文系の私に超わかりやすく物理を教えてください』西成活裕・郷和貴（かんき出版） 『はじめて学ぶ物理学』阿部龍蔵（サイエンス社） 『エネルギーの物理学』砂川重信（河出書房新社） 『第 3 版 物理学入門』原 康夫（学術図書出版社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回のレポートに質問があれば、同じ回のクラスウェブ・レポート欄に、フィードバックファイルを返します。		

8. 成績評価の方法

定期試験 60%, 毎回講義後のレポート・授業貢献 40%
総合点の 60%以上を単位修得の条件とする。

9. その他

オフィスアワー： 授業時間の前後に講師控室にいます。

科目ナンバー (AG) BCH191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 化学基礎	2 単位	小林 一幾
2022～2025 年度入学者 化学基礎		
1. 授業の概要・到達目標 農学部における学問や研究の対象は、主に生命体や生命関連物質である。生命現象およびその原理の解明を目的とする生命科学、さらにそれらの応用としての農学を学んでいくために、物質の性質と変化を取り扱う学問である化学の知識や手法を修得することを目的とする。本科目では、物質を構成する元素、原子の性質、原子や分子の電子配置、化学結合、物質の状態とその変化などについて講義する。 ・原子の構造や電子配置を説明することができる。 ・原子について一般的な性質を周期表と関連づけて説明することができる。 ・主要族元素の反応性について予測することができる。 ・化学結合の成り立ちについて例を挙げて説明することができる、などを到達目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] 物質の成分と構成元素 [第 3 回] 原子の構造と元素の周期表 [第 4 回] イオンとイオン結合 [第 5 回] 共有結合（1） [第 6 回] 共有結合（2）と金属結合 [第 7 回] 原子量・分子量・式量と物質量 [第 8 回] 溶液の濃度、化学式 [第 9 回] 酸と塩基（1） [第 10 回] 酸と塩基（2） [第 11 回] 酸化還元反応（1） [第 12 回] 酸化還元反応（2） [第 13 回] まとめ [第 14 回] 試験		
3. 履修上の注意 本講義は高校で化学を履修しなかった、あるいは履修したけれど理解できたとは言いがたいと感じている学生を対象とするので、高校の化学を十分に習得してきた学生には不向きである。講義内容に即した計算問題を行なうので電卓を持参のこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は求めませんが、講義を受けたあとは、資料プリントを振り返ったり、疑問に思ったことがあれば質問したりして、内容理解に努めてください。		
5. 教科書 特に指定しません プリントを適時配布します		
6. 参考書 特に指定しません		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 毎講義 10 分程度の時間を使い、その日の講義内容に関する演習問題を解き提出してもらう。演習問題 20%、定期試験 80%で評価する。ただし正当な理由なく欠席が 1/3 を超えた場合は、定期試験の受験を認めない。		
9. その他 ゲノム微生物学研究室（3 号館 3 階 308A） ikobayashi@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG)MAT151J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 数学基礎	2 単位	小林 徹平
2022～2025 年度入学者 数学基礎		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 高等学校で学習した数学（数学 I, II, A, B）を復習しつつ、高等学校の数学 III で学習する微積分学の理解と、将来において様々な分野へ応用できるような数学的なものの考え方や計算法の習得を目標とする。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C に対応する科目である。 《授業の概要》 一変数関数の微積分について関数の定義から始めて、高等学校の数学 II 程度の数学を復習しつつ、解析学の基礎概念の定着をはかる。厳密な論証よりは概念の理解と計算技術の習得を重視し、具体例を多く挙げて講義を進める予定である。		
2. 授業内容 第 1 回：関数の定義と三角関数 第 2 回：三角関数の演習 第 3 回：指数関数と対数関数 第 4 回：指数関数と対数関数の演習 第 5 回：関数の極限と連続 第 6 回：極限と連続の演習 第 7 回：中間テスト 第 8 回：関数の微分と様々な微分の公式 第 9 回：微分とその演習 第 10 回：合成関数の微分 第 11 回：合成関数の微分の演習 第 12 回：逆三角関数とその演習 第 13 回：ロピタルの定理とその演習 第 14 回：総復習		
3. 履修上の注意 高等学校の数学 I・II の履修を仮定する。 半期科目のため、講義内で演習に当てる時間が少ないので、各自、教科書等の問題を解いておくようにすること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 数学は復習が大切なので、教科書の練習問題などを多く解くこと。		
5. 教科書 『真基礎コース微分積分』坂田定久、中村拓司、萬代武史、山原英男（学術図書出版）		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にその都度解説する。		
8. 成績評価の方法 中間試験 20%, 期末試験 70%, レポート 10%で評価する。合計が満点の 60%以上を単位修得の条件とする。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGR121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 教養としての生物生産学	2 単位	農学科教員
2022～2025 年度入学者 生物生産学初歩概説		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 明治大学農学部に掲げる「食料・生命・環境」を広く研究している農学科の研究内容をオムニバス形式で紹介する。世界人口の増加などにより食料生産の増大の必要性が叫ばれているが、それと同時に資源・エネルギー消費型農業を見直し、食料生産と自然環境との調和も図らなければならない。生物生産学の基本的な考え方を理解できるように、生物生産を量的・質的に高める研究・技術、環境保全に関する研究・技術および農学の役割等を解説する。 《授業の概要》 基本的なところからわかりやすく、生物生産に関する研究項目を科学的に考察する。		
2. 授業内容 第 1 回～第 14 回：未定 シラバスの補足で掲示します。		
3. 履修上の注意 講義の内容と順番は変更になることがある。本科目に関しては農学科所属の学生は履修できません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第 1 回で農学科の紹介をするので、各回の授業内容に関連する事項について事前に学習すること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 特に指定はしない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 成績は、毎回の講義中に行う小テストまたは課題により評価する。5 回以上欠席した者は評価の対象としない。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGC191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 教養としての農芸化学	2 単位	農芸化学科教員
2022～2025 年度入学者 農芸化学初步概説		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「農芸化学」とは、農業生産や人類の持続性のための環境、動物・植物・微生物の生命現象、生物が生産する種々の物質とその機能、食品と健康などを主として化学的考え方に基づいて基礎から応用までを広く研究する学問領域です。特に、本農芸化学科では、化学的手法やバイオテクノロジーにより人間生活に密着した諸課題を研究しています。生物の生存環境、食品の機能と安全性、さらに生物機能の解析について紹介しますので、ヒトの生活環境の維持、食品の安全などについて自分なりの考えを持つ機会とされたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目である。 《授業の概要》 農芸化学科の複数教員から、個々の研究分野に関連する話題を、研究手法や考え方を含めて紹介します。さらに研究の展開や将来展望について講述します。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション 第2－3回：生物科学分野 第4－5回：環境科学分野 第6－7回：微生物科学分野 第8－9回：食品科学分野 第10－11回：栄養科学分野 第12－13回：生物有機分野 第14回：総括課題レポートの作成 日程は進行状況により変更することがあります。 具体的なスケジュールは、オリエンテーション時に提示します。		
3. 履修上の注意 授業では、幅広い農芸科学分野を紹介します。関連する解説書を授業で紹介します。図書館等を利用して自習し、理解を深めてください。講義の最後に小レポート（A5 版用紙）の提出を求めます。 オムニバス形式の授業ですので、特段の理由がない限り、遅刻は出席として認めない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日本農芸化学会のホームページ（ http://www.jsbba.or.jp/ ）から、「農芸化学とは？」および農芸化学の関連する学問分野、関連企業一覧などを閲覧すると、本講義の理解の助けとなる。		
5. 教科書 特に指定しない。講義はプリントを配布して行う。		
6. 参考書 「農芸化学に学ぶ」日本農芸化学会のHP https://www.jsbba.or.jp/manabu/ 各講義において関連図書を紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内で解説する。加えて Oh-o! Meiji システムも利用する。		
8. 成績評価の方法 毎回の授業で作成する小レポートを含む平常点と最終の課題レポートにより評価を行います。 レポートの作成等の指導はオリエンテーションで行います。		
9. その他 講義内容に関する質問等は担当教員に直接問い合わせてください。		

科目ナンバー (AG) AGR121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 教養としての生命科学	2 単位	渡辺 麻衣
2022～2025 年度入学者 生命科学初步概説		
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 本講義は、生命とは何か、生物はどのような仕組みで成り立ち、進化し、環境や社会と関わってきたのかを概説する。 細胞、遺伝子、進化、生態系、医療、バイオテクノロジーなど、現代生命科学の基礎的概念を取り上げ、教養として生命科学を理解することを目的とする。 〈到達目標〉 1. 生命科学の基礎的概念を理解し、説明できる。 2. 生命科学と社会との関係を理解する。 3. 生命に関わる課題を科学的視点から考察できる。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のB・Cに対応する科目である。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス：講義の進め方、生命科学とはなにか。 [第2回] 生命とはなにか：生命の定義および非生命との違いについて理解を深める。 [第3回] 細胞 — 生命の基本単位：細胞の構造と機能について理解を深める。 [第4回] 遺伝子と情報：遺伝情報の基本的な考え方について理解を深める。 [第5回] 生命を支える仕組み：代謝や酵素の働きについて概説し、生命とエネルギーの関係について理解を深める。 [第6回] 進化という考え方：自然選択を中心に生物進化の考え方について理解を深める。 [第7回] 生物の多様性：微生物から高等生物までの多様な生命の在り方を理解する。 [第8回] 生命科学の基礎整理：これまでの講義内容を整理し、生命科学の基礎概念について理解を深める。 [第9回] 環境と生命：生命と地球環境の関わりについて理解を深める。 [第10回] ヒトの生命：恒常性、免疫、老化などの仕組みについて理解を深める。 [第11回] 病気と生命科学：病気と生命科学との関係について理解を深める。 [第12回] 生命科学と技術：遺伝子工学やゲノム編集などの生命科学技術について概説し、その社会的影響を考察する。 [第13回] 生命倫理：生命科学の発展に伴う倫理的課題について考察する。 [第14回] まとめ — 教養としての生命科学：教養としての生命科学の意義について理解を深める。		
3. 履修上の注意 ・高校生物の知識がなくても理解できるよう配慮する。 ・専門用語はその都度解説する。 ・生命科学に関する社会問題について積極的な意見表明を歓迎する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業で使用する資料を事前にダウンロードし、関連する分野について調べておくこと。 講義内で生じた疑問について、自身で調べるなどして復習すること。授業後はリアクションペーパー等を通じて、自身の理解を整理することを推奨する。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎授業でリアクションペーパーを配布し、講義内でリアクションペーパーに書かれた質問などについて解説する。		
8. 成績評価の方法 レポート 40%、リアクションペーパー30%、授業への参加度 30%。 ※暗記ではなく、「自分の言葉で説明できるか」を重視する。		
9. その他 講義中にアンケートツールを使用する。QR コードを読み取れる端末をもっていることが望ましい。 電子メールにて質問等を受け付ける。連絡先は最初の講義で示す。		

2026年度以降入学者

総合教育科目共通専門科目群

2022～2025年度入学者

総合科目共通専門科目群

共通
専門
科目
群

科目ナンバー (AG)PHL121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生命倫理学	2 単位	川上 直人
2022～2025 年度入学者 生命倫理学		
1. 授業の概要・到達目標 ゲノム解析、遺伝子組換え、ゲノム編集、クローンなど、生物に関わる技術的な進歩は、20 世紀末から今世紀にかけて生命科学を大きく発展させた。これらの成果は、環境問題や食糧問題、生殖医療や難病治療などの解決に貢献しつつあり、今後も様々な応用が期待される。一方、不可能を可能とした科学技術の利用は人類に新たな選択肢を与え、倫理に関わる新たな課題を生んでいる。また、持つ者と持たざる者、生産と消費の地域バランスの偏りや、生物資源利用の実体は様々な問題を生じさせている。 この講座では、これらの課題に向き合うゲスト講師を招き、現場ではどのような問題が生じているのか、こうした研究開発や利用に当たってどのような倫理観があるか、一般社会との相互理解・コミュニケーションをどう行うかなどを学び、考える機会を提供する。本講義では、確立された考え方を学ぶのではなく、各講師の話題提供や問題提起を受けて、個々の学生が自ら考える姿勢を獲得することを目指す。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の B に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：講座の概要，成績評価方法等の説明 コーディネーター：川上直人 分子生物学とバイオテクノロジーの発展を間近に見ながら基礎研究を行ってきた中で、研究者としての論理的な理解と、科学の発展にさらされた一人の人間としての受け止め方に二面性を感じてきた。こうした経験も踏まえ、本講義が目指すもの、講義の内容について説明する。 第 2 回：科学的合理性と社会的合理性 農学部・哲学：長田蔵人 この講義では、科学的真理の追求において用いられる判断基準と、社会的な意思決定を行う際の判断基準との違いについて考察し、そのギャップに対する無理解が問題を悪化させてしまったケースについて学ぶ。特に危機管理とリスク管理に関わる考え方について説明するとともに、予防原則の考え方について説明する。 第 3 回：動物福祉と生命倫理 明治大学名誉教授：瀬瀬雄三 欧州の畜産先進国や米国でも、農業動物の福祉は大きな社会的問題となっている。日本国内では情緒的な福祉が言われていて、実践的な福祉考慮とはほど遠い。さらに日本は動物の生産技術でも遅れ、生産コストが高い。日本の生産現場では、福祉を考慮しつつ効率の良い生産技術が求められている。授業では養豚を例にして動物福祉について、履修学生が自分で考えられるようにする。 第 4 回：生殖医療の生命倫理（1） 先端生殖技術研究所・所長：桑山正成 現在日本では新たに結婚した 6 組に 1 組が不妊であり、みなさんの想像以上に不妊に悩んでいるカップルは多い。卵子や受精卵の凍結保存技術開発の第一線に立ち、生殖医療の世界的な発展に尽力している経験から、まずこうした実情を紹介しながら、不妊とは何か、どう対処するのかを知るため、女性はどうすれば妊娠するのか、どうして妊娠ができないのかを説明する。さらに、最先端の不妊治療の実際を紹介し、不妊治療がどこまで許されるのかを共に考える。 第 5 回：生殖医療の生命倫理（2） 先端生殖技術研究所・所長：桑山正成 世界で初めてヒト卵子の凍結保存に成功し、世界中へ卵子バンクを普及させた本講師の経験から、卵子凍結バンクとは何か、健康な未婚女性の卵子保存とガン患者（ガン治療により多くの女性は副作用として卵巣機能が廃絶し不妊になる）の卵子保存についてそれぞれの意義や実態、そして倫理を考える。 第 6 回：植物バイオテクノロジーと社会 筑波大学遺伝子実験センター准教授：小野道之 遺伝子組換え技術などを活用した基礎研究の傍ら、長年「サイエンス・カフェ」の運営に携わり、最新の科学の成果を一般に伝えることに尽力してきた。この立場から、まず内外の穀物自給と遺伝子組換え作物の栽培の現状を概説する。遺伝子組換え及び新規の植物バイオテクノロジーの技法と問題点、将来性について解説する。社会との接点としてのリテラシー教育・サイエンスコミュニケーションの重要性和研究者・技術者の役割について触れる。 第 7 回：生物多様性保全とそれに関わる法規制 国立環境研究所生物多様性領域・シニア研究員：中嶋信美 生物多様性条約は米国とバチカンを除く全ての国連加盟国が批准している。この条約の趣旨は生物の遺伝的多様性を守り種の絶滅を防ぐことであるが、具体的な措置として、国境を越える人為的な生物の移動規制や遺伝資源から得られる利益を原産国へ還元する措置が加盟国に課されている。そのため、海外の調査で得た研究試料を持ち出そうとして税関で逮捕されるなど、研究活動に大きな影響を与えている。生物多様性領域の研究者の立場から、本講義では生物多様性条約のうち遺伝資源由来の利益配分のルール（ABS）についての的を絞って解説する。時間が許せば、関連する国内法や条約についても解説する。 第 8 回：日本の生命倫理政策の実際と問題点（1） 生命倫理政策研究会・共同代表：櫛島次郎 まず総論として、倫理が問題とされる先端医療の全体を俯瞰し、日本でこれまでどのような公的対応（立法や行政指針の策定）が行われてきたかを概観する。次いで各論として、脳死論議と日本の臓器移植の問題点、再生医療の展開とその研究管理のあり方について考える。 第 9 回：日本の生命倫理政策の実際と問題点（2） 生命倫理政策研究会・共同代表：櫛島次郎		

前回に続き各論として、動物実験と動物保護のかねあいについて、生命と研究の倫理の観点から、歴史も踏まえて考える。 第 10 回：生命の研究のよりどころは何か～研究倫理基礎論 生命倫理政策研究会・共同代表：櫛島次郎 STAP 細胞捏造騒動は、研究倫理について大きな問題を提起した。では、生命科学に求められる研究倫理とは、どのようなものでなければならないだろうか。科学と倫理、法律などとの関係を考えることを通じて、生命の研究が社会の中にどのように位置付けられるべきなのか、議論してみたい。 第 11 回：消費者から見た生命科学・バイオテクノロジー（1） 日本生活協同組合連合会安全政策推進室室長：鬼武一夫 2003 年、国内で BSE 問題が発生したことを受けて、政府は食品安全行政を立て直すために、リスクアナリシスの考え方（リスクアセスメント、リスクマネジメント及びリスクコミュニケーションの 3 要素）を導入した。この 2 回の講義では、食品の安全に関する取組み及び消費者の視点をベースとして、1. 消費者の権利、2. 食品の安全とは、3. リスクアナリシス、4. ゲノム応用食品と表示の話題を提供する。第 1 回目はこれまでの食品安全行政の取組み、食品安全に関する国際的な動向、消費者の認知等の全体像を報告する。 第 12 回：消費者から見た生命科学・バイオテクノロジー（2） 日本生活協同組合連合会安全政策推進室室長：鬼武一夫 第 2 回の講義では、遺伝子組換え食品を中心にに関する国内外の経過や表示、特にリスク & ベネフィットの両面から課題の整理をおこなうこととしたい。更に話題の新しい育種技術（New Plant Breeding Technology）、ゲノム応用食品の動向については将来的な食品安全や食料問題の視点から皆さんと一緒に考えてみたい。 第 13 回：人間の認知特性と情報理解 立命館大学食マネジメント学部・教授：和田有史 人間の情報の理解は、知識や経験、さらに認知的な特性によっても異なる。従って同様の情報を与えられても、個人ごとにその理解は異なる可能性が高い。本講義では人間の認識についての心理学的な知見を紹介し、科学コミュニケーション、リスクコミュニケーションにおける留意点を考察する。 第 14 回：総括とレポート作成 コーディネーター：川上直人 これまでの講義をもとに、各自の考えをまとめたレポートを作成する。
3. 履修上の注意 本講義では多忙な外部の先生方に講義をお願いしていること、講義内容が倫理に関する内容であることなどから、履修時の態度を厳しくチェックする。授業中に寝ている場合は原則として出席と認めない。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 生命、生命科学、生命を扱う医療・農業・産業、生物資源、そして食品について、日頃感じていることを大事にする。また、様々な報道メディアや書籍から情報を引き出し、自分はどうか考えるかを意識する。
5. 教科書 特に指定しない。
6. 参考書 特に指定しないが、各回の講師が紹介することがある。
7. 課題に対するフィードバックの方法
8. 成績評価の方法 日常の受講姿勢（60%）および第 14 回に教室で作成する小論文（40%）により評価する。
9. その他 連絡、質問などは、随時コーディネーターの川上まで。 川上直人：5 号館 4 階、5-403 号室 メール：kawakami@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGR191E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語農学入門	2 単位	マクタガート, イアン
2022～2025 年度入学者 英語農学入門		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 The objective of the 英語農学入門 is to learn about food, agriculture, and the environment. You will read short English reports, learn new vocabulary, and discuss the meaning with other students in the class. Then you will do individual and group practice exercises to help you understand the meaning of the reports. The classes will be conducted mainly in English. このコースの目標は、食糧、農業と環境について学びます。授業では、英語の論文や記事を読み、専門の勉強に必要な英語の単語を学び、語彙力を高めるために他の受講生と専門用語の意味や使い方などを話し合います。論文や記事の内容の理解を高めるために、個人やグループ学習も取り入れます。授業は主に英語で行います。 《授業の概要》 In the course, you will learn about topics like sustainable food and agriculture, food nutrition, climate change, food waste, and urban agriculture. このコースでは持続可能食料と農業、食品栄養、気候変動、食品廃棄と都市農業などを中心に学びます。		
2. 授業内容 第1回： ガイダンス・Introduce yourself to other students in English 第2回： a Sustainable food and agriculture. Introduction + problems caused by agriculture 第2回： b Examples of sustainable food and agriculture management 第3回： a Group Work – discuss examples of sustainable food and agriculture 第3回： b Practice Exercise 1 第4回： a Food Nutrition – Main food nutrients + health benefits 第4回： b Examples of food nutrition problems 第5回： a Group Work – discuss examples of food nutrition problems and solutions 第5回： b Practice Exercise 2 第6回： a Climate Change – Causes of Climate Change 第6回： b Effects of Climate Change 第7回： a Group Work – discuss examples of how agriculture can reduce climate change problems 第7回： b Practice Exercise 3 第8回： Students start work on Semester Report 第9回： a Food Waste – Causes of Food Loss and Food Waste 第9回： b Examples of ways to reduce food loss and waste 第10回： a Group Work – discuss student ideas to reduce food loss and food waste 第10回： b Practice Exercise 4 第11回： a Urban agriculture. What is it? Why is it becoming more important in the world? 第11回： b Examples of urban agriculture in different countries 第12回： a Group Work – discuss benefits of urban agriculture in developed and advanced countries 第12回： b Practice Exercise 5 第13回： Introduction to UK agriculture and food 第14回： Revision (まとめ)		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。 Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practical exercises related to class handouts before coming to the next class.		
5. 教科書 There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class. 教科書は特に定めません。資料を配布します。		

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Semester Report = 45% 、Final Exam = 45% 、Class participation = 10%
(レポート 45% 、定期試験 45% 、平常点 10%)

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5 号館 (農学部) 205 号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR391E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語農学 A : Agri-Food Science	2 単位	マクタガート, イアン
2022~2025 年度入学者 英語農学 A : Agri-Food Science		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 The objective of this course on 英語農学 A - Agri-Food Science is to help students to understand and talk about agriculture and food science in English. Students will learn English terminology used in agricultural and food science fields and will practice reading, writing, discussing and presenting information about these topics in English. In the class, students will work in small groups to research information and case studies related to each class topic and present their findings to the other students in the class. Classes will be conducted mainly in English. 農業食品科学英語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、この分野の英語で読み、書き、討論し、発表 できるようになることを目指します。授業では、小グループに分かれて、各授業のトピックに関連した情報やケーススタディを学習し、その結果を他学生と話し合います。授業は主に英語で行います。 《授業の概要》 This course will study issues related to agriculture and food production. You will learn about topics related to food production, such as chemical and microbial food production processes and important food compounds and their functions, as well as crop growth and development, controlled environment agriculture and sustainable water management in agriculture. このコースでは、農業と食料生産に関連する課題を学習します。重要な食品化合物とその機能、食品化学と微生物学、作物の生育と発育、環境制御農業、農業における持続可能な水管理に焦点を中心に学びます。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス + Introducing yourself to other people 第2回：a Important Food Compounds - Introduction Quiz 第2回：b Carbohydrates and Fats 第3回：a Aroma Compounds and Proteins 第3回：b Group Work - Practice Exercise 1 第4回：a Uses of Chemistry and Microbiology in Food Production 第4回：b Examples of fungal and bacterial processes 第5回：a Examples of non-microbial processes. 第5回：b Group Work - Practice Exercise 2 第6回：Start Semester Report (中間レポート) 第7回：a Important plant processes 1 - photosynthesis 第7回：b Important plant processes 2 - respiration 第8回：a Plant growth & development 第8回：b Group Work - Practice Exercise 3 第9回：a Controlled environment agriculture (CEA) - Introduction 第9回：b Advantages and challenges of CEA 第10回：a Examples of CEA systems 第10回：b Group Work - Practice Exercise 4 第11回：Examples of UK agriculture and food production 第12回：a Water management in agriculture - Introduction 第12回：b Water footprint of food 第13回：a Ways to improve agriculture water use efficiency 第13回：b Group Work - Practice Exercise 5 第14回：Revision (まとめ)		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。 Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practice exercises related to class handouts before coming to the next class.		
5. 教科書 There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class. 教科書は特に定めません。資料を配布します。		

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Mid-Term Report 40%, Final Report 50%, Class Practice Exercises 10%

中間レポート 40%、学期末レポート 50%、平常点（グループワークと練習問題）10%

9. その他

Iain McTAGGART（マクタガート・イアン）

英語農学研究室、第一校舎、5号館（農学部）205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) CBI111E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語農学B : Biosciences	2 単位	マクタガート, イアン
2022～2025 年度入学者 英語農学B : Biosciences		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 The objective of this course on 英語農学B - Biosciences is to help students to understand and talk about biotechnology science and uses in English. Students will learn English terminology used in these fields and will practice reading, writing, discussing and presenting information about these topics in English. In the class, students will work in small groups to study information and case studies related to each class topic and discuss their findings to the other students in the class. Classes will be conducted mainly in English. 生物学・遺伝子科学英語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、この分野の英語で読み、書き、討論し、発表 できるようになることを目指します。授業では、小グループに分かれて、各授業のトピックに関連した情報やケーススタディを学習し、その結果を他学生と話し合います。授業は主に英語で行います。 《授業の概要》 This course will study about biotechnology issues related to agriculture, health and the environment. You will learn about genetic science, stem cells and gene therapy methods, as well as the use of genetic modification and gene editing methods in food production. このコースでは、農業、健康、環境に関連するバイオテクノロジーの課題について学びます。 遺伝子科学、幹細胞、遺伝子治療法、そして食品生産における遺伝子組み換えおよび遺伝子編集技術の活用などを中心に学びます。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス + Introduce yourself to other students 第2回：a Basic Genetics - Introduction & Quiz 第2回：b Cells, DNA and Genes 第3回：a Important genetic processes 第3回：b Group Work – Practice Exercise 1 第4回：a Stem Cells - Introduction and Quiz 第4回：b types and characteristics of naturally occurring stem cells 第5回：a Medical uses of stem cells 第5回：b Group Work – Practice Exercise 2 第6回：Start Semester Report (中間レポート) 第7回：a Genetically Modified Organisms: What are GMOs? 第7回：b Examples of GM uses in crops & food production 第8回：a Risks of GM crops and food + safety management 第8回：b Group Work – Practice Exercise 3 第9回：a Gene Editing - CRISPR-Cas9 & potential uses 第9回：b Uses of gene editing for health and disease treatment 第10回：a Uses of gene editing for food and agriculture 第10回：b Group Work – Practice Exercise 4 第11回：Examples of agri-food bioscience in the UK 第12回：a Gene Therapy - genetic disease + Introduction to gene therapy 第12回：b Gene therapy methods 第13回：a Examples of gene therapy treatments 第13回：b Group Work – Practice Exercise 5 第14回：Revision (まとめ)		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。 Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practice exercises related to class handouts before coming to the next class.		
5. 教科書 There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class. 教科書は特に定めません。資料を配布します。		

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Mid-Term Report 40%, Final Report 50%, Class Practice Exercises 10%

中間レポート 40%、学期末レポート 50%、平常点（グループワークと練習問題）10%

9. その他

Iain McTAGGART（マクタガート・イアン）

英語農学研究室、第一校舎、5号館（農学部）205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR381E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語農学C : Environmental Management and Climate Change	2 単位	マクタガート, イアン
2022~2025 年度入学者 英語農学C : Environmental Management and Climate Change		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 The objective of this course on 英語農学C - Environmental Management and Climate Change is to help students to understand and talk about the importance of climate change and agri-environmental management in English. Students will learn English terminology used in these fields and will practice reading, writing, discussing and presenting information about these topics in English. In the class, students will work in small groups to research information and case studies related to each class topic and present their findings to the other students in the class. Classes will be conducted mainly in English. 農業環境・気候変動に関する英語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、この分野の英語で読み、書き、討論し、発表 できるようになることを目指します。授業では、小グループに分かれて、各授業のトピックに関連した情報やケーススタディを学習し、その結果を他学生と話し合います。授業は主に英語で行います。 《授業の概要》 This course will study about issues related to environmental management and climate change. You will learn about the causes and effects of climate change, countermeasures to reduce climate change problems for agriculture and food production, as well as eco-friendly agricultural management. このコースでは、環境管理と気候変動に関する課題について学びます。 気候変動の原因と影響、農業と食料生産における気候変動問題を軽減するための対策、そして環境に配慮した農業経営などを中心に学びます。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス + Introduce yourself to other students 第2回：a Global Warming – Introduction Quiz 第2回：b Sources of greenhouse gases: society, industry, agriculture & land use 第3回：a Relationship between greenhouse gas emissions and food 第3回：b Group Work – Practice Exercise 1 第4回：a Climate Change - how is the climate changing? 第4回：b Effects of climate change on agriculture & food production 第5回：a Effects of climate change on health and the environment 第5回：b Group Work – Practice Exercise 2 第6回：Start Semester Report (中間レポート) 第7回：a Climate Smart Agriculture - Introduction 第7回：b Adaptation – ways to help agriculture adapt to climate change 第8回：a Mitigation – how agriculture can help to reduce greenhouse gases 第8回：b Group Work – Practice Exercise 3 第9回：a Agriculture and the environment - risks to the environment 第9回：b Eco-friendly agriculture: examples in Japan 第10回：a Eco-friendly agriculture: examples in other countries 第10回：b Group Work – Practice Exercise 4 第11回：Examples of agri-environmental management in the UK 第12回：a Invasive species - Introduction 第12回：b Threats to agriculture and local ecosystems 第13回：a Examples of countermeasures against invasive species 第13回：b Group Work – Practice Exercise 5 第14回：Revision (まとめ)		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。 Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practice exercises related to class handouts before coming to the next class.		

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.

教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Mid-Term Report 40%, Final Report 50%, Class Practice Exercises 10%

中間レポート 40%、学期末レポート 50%、平常点（グループワークと練習問題）10%

9. その他

Iain McTAGGART（マクタガート・イアン）

英語農学研究室、第一校舎、5号館（農学部）205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGE391E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語農学D : Rural Resource Management	2 単位	マクタガート, イアン
2022~2025 年度入学者 英語農学D : Rural Resource Management		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 The objective of this course on 英語農学D - Rural Resource Management is to help students to understand and talk in English about sustainable food production and management of natural resources. Students will learn English terminology used in these fields and will practice reading, writing, discussing and presenting information about these topics in English. In the class, students will work in small groups to research information and case studies related to each class topic and present their findings to the other students in the class. Classes will be conducted mainly in English. 農村資源の管理に関する英語を理解し、使えるようになることを目標とします。分野で用いられる英語の専門用語を学び、この分野の英語で読み、書き、討論し、発表 できるようになることを目指します。授業では、小グループに分かれて、各授業のトピックに関連した情報やケーススタディを学習し、その結果を他学生と話し合います。授業は主に英語で行います。 《授業の概要》 This course will study about issues related to sustainable food production and management of natural resources. You will learn about the ways to promote Japanese agriculture and rural areas, promoting urban agriculture to create sustainable, and healthy urban environments, problems and solutions related to food loss and food waste, as well as protecting the world's natural heritage. このコースでは、持続可能な食料生産と自然資源の管理に関する課題について学びます。 日本の農業と農村の振興、持続可能で健康的な都市環境を創出するための都市農業の推進、食品ロスと食品廃棄物に関する問題と解決策、そして世界の自然遺産の保護などを中心に学びます。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス + Introducing yourself to other people 第2回：a Improving Japanese agriculture and rural areas - Introduction 第2回：b Challenges facing Japan's Agri-Food Businesses and Rural Areas 第3回：a Examples of strategies to improve Japanese agri-food business & rural areas 第3回：b Group Work - Practice Exercise 1 第4回：a Sustainable Seafood - Introduction 第4回：b Challenges facing sustainable seafood and Japan's seafood business 第5回：a Cases studies - promoting sustainable seafood and fishing communities in Japan 第5回：b Group Work - Practice Exercise 2 第6回：Start Semester Report (中間レポート) 第7回：a Urban agriculture - Introduction 第7回：b How urban agriculture can improve city people's health and environment 第8回：a Examples of urban agriculture in different countries 第8回：b Group Work - Practice Exercise 3 第9回：a Food Loss and Food Waste - Introduction 第9回：b Causes of food loss and food waste in different countries 第10回：a Ways to reduce food loss and food waste 第10回：a Group work - Practice Exercise 4 第11回：Revitalizing rural communities in Scotland 第12回：a World Natural Heritage - criteria and world examples 第12回：b Japan's World Natural Heritage sites 第13回：a World Natural Heritage sites - challenges and sustainable management 第13回：b Group Work - Practice Exercise 5 第14回：Revision (まとめ)		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。 Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practice exercises related to class handouts before coming to the next class.		

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.

教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Mid-Term Report 40%, Final Report 50%, Class Practice Exercises 10%

中間レポート 40%、学期末レポート 50%、平常点（グループワークと練習問題）10%

9. その他

Iain McTAGGART（マクタガート・イアン）

英語農学研究室、第一校舎、5号館（農学部）205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGC381E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語農学E : Environmental Pollution and Control	2 単位	マクタガート, イアン
2022～2025 年度入学者 英語農学E : Environmental Pollution and Control		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 The objective of this course on 英語農学E - Environmental Pollution and Control is to help students to understand and talk in English about environmental pollution risks and management. Students will learn English terminology used in these fields and will practice reading, writing, discussing and presenting information about these topics in English. In the class, students will work in small groups to research information and case studies related to each class topic and present their findings to the other students in the class. Classes will be conducted mainly in English. 環境汚染と管理についての用語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、その分野の英語で読み、書き、討論し、発表 できるようになることを目指します。授業では、小グループに分かれて、各授業のトピックに関連した情報やケーススタディを学習し、その結果を他学生と話し合います。授業は主に英語で行います。 《授業の概要》 This course will study about issues related to environmental pollution risks and management. You will learn about important biogeochemical cycles, toxic chemical pollution, air pollution water pollution risks due to agriculture and industry, as well as ways to control these pollution risks. このコースでは、環境汚染のリスクと管理に関する問題について学びます。 重要な生物地球化学循環と農業や産業による有害化学物質問題、大気汚染、水質汚染とその防止に焦点を中心に学びます。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス + Introducing yourself to other people 第2回：a Nutrient Cycles - Introduction and examples (carbon, nitrogen cycles etc.) 第2回：b Important processes for life and the environment 第3回：a Environmental risks due to changes in natural balance of nutrient flows 第3回：b Group Work - Practice Exercise 1 第4回：a Toxic Chemicals - types of toxic chemicals and toxic effects 第4回：b Toxic chemical problems in Japan 第5回：a Persistent organic pollutants (POP) and radioactive pollution risks 第5回：b Group Work - Practice Exercise 2 第6回：Start Semester Report (中間レポート) 第7回：a Air Pollution 1 - Introduction 第7回：b Ozone Layer 第8回：a Air Pollution 2 - photochemical smog and industrial smog 第8回：b Group Work - Practice Exercise 3 第9回：a Water pollution and control - Introduction 第9回：b Sources and effects of water pollution 第10回：a Controlling agricultural and urban water pollution 第10回：b Group Work - Practice Exercise 4 第11回：Examples of pollution control in the UK 第12回：a Bioremediation - using natural processes to clean the environment 第12回：b Phytoremediation - different ways that plants can clean polluted soil and water 第13回：a Examples of using bioremediation and phytoremediation 第13回：b Group Work - Practice Exercise 5 第14回：Revision (まとめ)		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。 Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practice exercises related to class handouts before coming to the next class.		

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.

教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Mid-Term Report 40%, Final Report 50%, Class Practice Exercises 10%

中間レポート 40%、学期末レポート 50%、平常点（グループワークと練習問題）10%

9. その他

Iain McTAGGART（マクタガート・イアン）

英語農学研究室、第一校舎、5号館（農学部）205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR135J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅰ (農・1 班)	1 単位	伊藤・齋藤・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習 (農・1 班)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農作物の播種，育苗，施肥，除草，病虫害防除などの栽培管理，および収穫，出荷調製，農産加工などを体験し，農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに，里山の機能，自然循環機能，などについても実習・講義を通じて理解を深める。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては，学習・教育目標の D・G・H に対応する科目である。 《授業の概要》 農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行い，実際に圃場で，土作り，施肥，畝立て，播種，定植，除草などの栽培管理および収穫，出荷調製等の作物栽培に関する技術を実践する。		
2. 授業内容 （１） 第１回：オリエンテーション，安全教育，農場内施設，圃場，農機具等の説明 第２回：播種，果菜類の定植と圃場管理 第３回：果菜類の施設栽培管理に関する実習と講義 第４回：栽培管理（１）芽かき・誘引・仕立て 第５回：栽培管理（２）追肥 第６回：栽培管理（３）除草，野菜類の収穫 第７回：秋野菜の播種，定植 第８回：農産加工 第９回：里山の機能・物質循環に関する実習と講義 第１０回：野菜類の収穫，まとめ ※天候により内容が変更されることがあります。		
3. 履修上の注意 農作業のできる服装で臨むこと。なお、作業中は土を触って汚れたり、作物や土の中から虫が出てくることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実習内容について関連した情報を学習し，理解を深めること。 実習内容に関連した情報を調べ，レポートにして提出する。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席状況を含む実習への取り組み態度およびレポートの提出状況により評価する。		
9. その他 次年度以降に農場実習Ⅱの受講を希望する者は、農場実習Ⅰの単位習得が必須である。		

科目ナンバー (AG) AGR135J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅰ（農・2 班）	1 単位	伊藤・齋藤・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習（農・2 班）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農作物の播種、育苗、施肥、除草、病虫害防除などの栽培管理、および収穫、出荷調整、農産加工などを体験し、農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに、里山の機能、自然循環機能などについても実習・講義を通じて理解を深める。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の D・G・H に対応する科目である。 《授業の概要》 農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行い、実際に圃場で、土作り、施肥、畝立て、除草等の圃場管理、播種、定植等の栽培管理および収穫、出荷調整等の作物栽培に関する技術を実践する。		
2. 授業内容 （2） 第 1 回：オリエンテーション、安全教育、農機具、施設、圃場等の説明 第 2 回：秋野菜の播種、定植 第 3 回：ラッカセイの収穫、サツマイモの収穫 第 4 回：葉根菜類の栽培管理（1）、間引き 第 5 回：葉根菜類の栽培管理（2）、追肥 第 6 回：施設園芸の環境制御と測定に関する実習と講義 第 7 回：果菜類の施設栽培管理に関する実習と講義 第 8 回：農産加工 第 9 回：里山の機能・物質循環に関する実習と講義 第 10 回：葉根菜類の収穫と出荷調整 ※天候や生育状況により内容が変更になることがあります。		
3. 履修上の注意 農作業のできる服装で臨むこと。なお、作業中は土を触って汚れたり、作物や土の中から虫が出てくることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実習内容について関連した情報を学習し、理解を深めること。 実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。		
5. 教科書 特に使用しない。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席状況を含む実習への取り組み態度およびレポートの提出状況により評価する。		
9. その他 次年度以降に農場実習Ⅱの受講を希望する者は、農場実習Ⅰの単位習得が必須である。		

科目ナンバー (AG) AGR135J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅰ (化・4 組)	1 単位	岩崎・武田・鎌田・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習 (化・4 組)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農作業の実践及び講義を通じて、栽培技術を体系的に体験することにより、作物生理と栽培技術の意味を理解する。さらに、自然循環機能や食品加工などについても実習・講義を通じて理解を深める。 《授業の概要》 農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行うとともに、実際に圃場において、土作り、施肥、播種、定植、間引き、整枝、収穫などの栽培技術を実践する。また収穫された野菜等を利用して、加工を実践する。		
2. 授業内容 (1) 第1回：夏野菜の播種・定植 第2回：栽培管理(1) 誘引・仕立て 第3回：栽培管理(2) 追肥・収穫 第4回：野菜の収穫 夏期集中 1日目：圃場管理(夏野菜収穫及び片付け) 資源循環型農業技術に関する講義 2日目：野菜を使った食品加工実習 ICT活用農業技術に関する講義 ※天候や生育状況により内容が変更になることがあります。		
3. 履修上の注意 ・農作業のできる服装で臨むこと。 ・作業内容について関連情報を学習し、理解を深めること。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・農業や作物に関してのプリントを配付するので、その内容を理解するとともに、関連情報を調べ、理解を深めること。 ・実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実技と実習態度 50%, レポート 50%で評価する。		
9. その他 次年度以降に農場実習Ⅱの受講を希望する者は、農場実習Ⅰの単位習得が必須である。		

科目ナンバー (AG) AGR135J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅰ（化・5組）	1 単位	岩崎・武田・鎌田・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習（化・5組）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農作業の実践及び講義を通じて、栽培技術を体系的に体験することにより、作物生理と栽培技術の意味を理解する。さらに、自然循環機能や食品加工などについても実習・講義を通じて理解を深める。 《授業の概要》 農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行うとともに、実際に圃場において、土作り、施肥、播種、定植、間引き、整枝、収穫などの栽培技術を実践する。また収穫された野菜等を利用して、加工を実践する。		
2. 授業内容 （2） 第1回：野菜の播種・定植など 第2回：栽培管理（1） 誘引、仕立てなど 第3回：栽培管理（2） 仕立て、追肥、収穫など 第4回：野菜の収穫及び片付け 夏期集中 1日目：圃場管理（夏野菜収穫及び片付け） 資源循環型農業技術に関する講義 2日目：野菜を使った食品加工実習 ICT 活用農業技術に関する講義 ※天候や生育状況により内容が変更になることがあります。		
3. 履修上の注意 ・農作業のできる服装で臨むこと。 ・作業内容について関連情報を学習し、理解を深めること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・農業や作物に関してのプリントを配付するので、その内容を理解するとともに、関連情報を調べ、理解を深めること。 ・実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実技と実習態度 50%，レポート 50%で評価する。		
9. その他 次年度以降に農場実習Ⅱの受講を希望する者は、農場実習Ⅰの単位習得が必須である。		

科目ナンバー (AG) AGR135J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅰ（化・6組）	1 単位	岩崎・武田・鎌田・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習（化・6組）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農作業の実践及び講義を通じて、栽培技術を体系的に体験することにより、作物生理と栽培技術の意味を理解する。さらに、自然循環機能や食品加工などについても実習・講義を通じて理解を深める。 《授業の概要》 農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行うとともに、実際に圃場において、土作り、施肥、播種、定植、間引き、整枝、収穫などの栽培技術を実践する。また収穫された野菜等を利用して、加工を実践する。		
2. 授業内容 (3) 第1回：野菜の播種・定植など 第2回：栽培管理（1） 誘引，仕立てなど 第3回：栽培管理（2） 仕立て，追肥，収穫など 第4回：野菜の収穫及び片付け 夏期集中 1日目：圃場管理（夏野菜収穫及び片付け） 資源循環型農業技術に関する講義 2日目：野菜を使った食品加工実習 ICT 活用農業技術に関する講義 ※天候や生育状況により内容が変更になることがあります。		
3. 履修上の注意 ・農作業のできる服装で臨むこと。 ・作業内容について関連情報を学習し，理解を深めること		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・農業や作物に関してのプリントを配付するので，その内容を理解するとともに，関連情報を調べ，理解を深めること。 ・実習内容に関連した情報を調べ，レポートにして提出する。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実技と実習態度 50%，レポート 50%で評価する。		
9. その他 次年度以降に農場実習Ⅱの受講を希望する者は，農場実習Ⅰの単位習得が必須である。		

科目ナンバー (AG) AGR135J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅰ (生・1 班)	1 単位	伊藤・川岸・鎌田・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習 (生・1 班)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農作物の播種、育苗、定植、除草、トンネル設置等の栽培管理、および収穫、出荷調製、食品加工などを体験し、農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに、里山の機能、自然循環機能などについても実習・講義を通じて理解を深める。 《授業の概要》 農作物の栽培技術体系や各種野菜の特性、施肥設計などに関する解説を行い、実際に圃場で除草や片付けなどの圃場管理、播種、定植、トンネル設置等の栽培管理および水耕葉菜類の収穫、出荷調製等の作物栽培に関する技術を実践する。また、収穫された果実類を用いた加工の実践や里山における下草刈りなどを実践する。		
2. 授業内容 1 日目 オリエンテーション・安全教育・食品加工に関する講義 里山の機能と管理、物質循環に関する講義と実習（下草刈り） 圃場管理実習（除草など） 2 日目 野菜栽培管理の講義と実習（秋野菜の播種・定植・トンネル設置） 食品加工実習 3 日目 水耕栽培と植物工場に関する講義と実習（葉菜類の収穫・出荷調製） 各作物に関する講義 圃場管理実習（播種・収穫） 4 日目 セル成型トレイへの播種実習 各種野菜の特性と播種から収穫までの講義 施肥・肥料に関する講義と施肥設計演習 レポート作成 ※グループ分けや班分けの状況、天候や生育状況などにより順番が変更になります。		
3. 履修上の注意 農作業のできる服装で臨むこと。なお、作業中は土を触ることで汚れるとともに、作物や土の中から虫が出てくることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内容について関連した情報を学習し、理解を深めること。 小売店などにおける作物の販売状況を確認しておく。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。 また、野菜に関する用語集を配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実技と実習態度 50％、レポート 50％で評価する。 なお、欠席の際は欠席報告を行うとともに、代替え課題を提出した場合に限り出席について考慮する。		
9. その他 次年度以降に農場実習Ⅱの受講を希望する者は、農場実習Ⅰの単位修得が必須である。		

科目ナンバー (AG) AGR135J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅰ (生・2 班)	1 単位	伊藤・川岸・鎌田・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習 (生・2 班)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農作物の播種，育苗，定植，除草，トンネル設置等の栽培管理，および収穫，出荷調製，食品加工などを体験し，農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに，里山の機能，自然循環機能などについても実習・講義を通じて理解を深める。 《授業の概要》 農作物の栽培技術体系や各種野菜の特性，施肥設計などに関する解説を行い，実際に圃場で除草や片付けなどの圃場管理，播種，定植，トンネル設置等の栽培管理および水耕葉菜類の収穫，出荷調製等の作物栽培に関する技術を実践する。また，収穫された果実類を用いた加工の実践や里山における下草刈りなどを実践する。		
2. 授業内容 1 日目 オリエンテーション・安全教育・食品加工に関する講義 里山の機能と管理，物質循環に関する講義と実習（下草刈り） 圃場管理実習（除草など） 2 日目 野菜栽培管理の講義と実習（秋野菜の播種・定植・トンネル設置） 食品加工実習 3 日目 水耕栽培と植物工場に関する講義と実習（葉菜類の収穫・出荷調製） 各作物に関する講義 圃場管理実習（播種・収穫） 4 日目 セル成型トレイへの播種実習 各種野菜の特性と播種から収穫までの講義 施肥・肥料に関する講義と施肥設計演習 レポート作成 ※グループ分けや班分けの状況、天候や生育状況などにより順番が変更になります。		
3. 履修上の注意 農作業のできる服装で臨むこと。なお、作業中は土を触ることで汚れるとともに、作物や土の中から虫が出てくることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内容について関連した情報を学習し，理解を深めること。 小売店などにおける作物の販売状況を確認しておく。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。 また、野菜に関する用語集を配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実技と実習態度 50%，レポート 50%で評価する。 なお、欠席の際は欠席報告を行うとともに、代替え課題を提出した場合に限り出席について考慮する。		
9. その他 次年度以降に農場実習Ⅱの受講を希望する者は、農場実習Ⅰの単位修得が必須である。		

科目ナンバー (AG) AGR135J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅰ (政・木)	1 単位	川岸・齋藤・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習 (政・木)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農作物の播種，育苗，定植，間引き，除草，トンネル設置，片付けなどの栽培管理，および収穫，出荷調製，食品加工などを体験し，農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに，里山の機能，自然循環機能などについても実習・講義を通じて理解を深める。 《授業の概要》 農作物の栽培技術体系や各種野菜の特性，施肥設計などに関する解説を行い，実際に圃場で除草や片付けなどの圃場管理，播種，定植，間引き，整枝，トンネル設置等の栽培管理および水耕葉菜類の収穫，出荷調製等の作物栽培に関する技術を実践する。また，収穫された果実類を用いた加工の実践や里山における下草刈りなどを実践する。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション，安全教育，農場内施設，圃場などの説明，播種，トンネル設置 第2回：果菜類の栽培管理（定植，支柱立て），間引きと除草 第3回：水耕葉菜類の播種・定植，サツマイモの植え付け，トンネル除去 第4回：果菜類の栽培管理，水耕葉菜類の収穫・調製，葉菜類の収穫 第5回：食品加工実習（ジャムの製造とスコーンの作成） 第6回：セルトレイへの葉菜類の播種，果菜類の収穫，片付け 第7回：サツマイモの収穫，セル成型苗の定植 第8回：里山の機能，物質循環に関する講義と実習（下草刈り），秋野菜の収穫 第9回：サトイモ，秋野菜の収穫 第10回：秋野菜の収穫，圃場の片付け，施肥設計 ※加工実習の班分けや天候・生育状況などにより内容が変更になります。		
3. 履修上の注意 ・農作業のできる服装で臨むこと。なお、作業中は土を触ることで汚れるとともに、作物や土の中から虫が出てくることがある。 ・食料環境政策学科の授業日程については基礎ゼミの履修グループと連動しており、ガイダンス期間の学科の説明と配信された資料に従うこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内容について関連した情報を学習し，理解を深めること。 小売店などにおける作物の販売状況を確認しておく。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実技と実習態度 50%，レポート 50%で評価する。 なお、欠席の際は欠席報告を行うとともに、代替え課題を提出した場合に限り出席について考慮する。		
9. その他 次年度以降に農場実習Ⅱの受講を希望する者は、農場実習Ⅰの単位修得が必須である。		

科目ナンバー (AG) AGR135J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅰ (政・金)	1 単位	岩崎・武田・鎌田・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習 (政・金)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農作物の播種，育苗，定植，間引き，除草，トンネル設置，片付けなどの栽培管理，および収穫，出荷調製，食品加工などを体験し，農業生産の基本技術を理解する。 《授業の概要》 農作物の栽培技術体系や各種野菜の特性，施肥設計などに関する解説を行い，実際に圃場で除草や片付けなどの圃場管理，播種，定植，間引き，整枝，トンネル設置等の栽培管理および水耕葉菜類の収穫，出荷調製等の作物栽培に関する技術を実践する。また，収穫された果実類を用いた加工の実習を行う。 ※次年度以降に農場実習Ⅱの受講を希望する者は，農場実習Ⅰの単位習得が必須である。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション，安全教育，農場内施設，圃場などの説明，播種，トンネル設置 第2回：果菜類の栽培管理（定植，支柱立て），間引きと除草 第3回：果菜類の栽培管理，サツマイモの植え付け，葉菜類の収穫 第4回：果菜類の栽培管理，水耕葉菜類の播種，定植，葉菜類の収穫 第5回：果菜類の栽培管理，ジャガイモ，マメ類の収穫，水耕葉菜類の収穫・出荷調整 第6回：セルトレイへの葉菜類の播種，果菜類の収穫，片付け 第7回：サツマイモの収穫，セル成型苗の定植，葉菜類の収穫 第8回：食品加工実習（ジャムの製造とスコーンの作成） 第9回：サトイモ，秋野菜の収穫 第10回：秋野菜の収穫，圃場の片付け，施肥設計 ※天候や生育状況などにより順番が変更になります。		
3. 履修上の注意 ・農作業のできる服装で臨むこと。なお、作業中は土を触ることで汚れるとともに、作物や土の中から虫が出てくることがある。 ・食料環境政策学科の授業日程については基礎ゼミの履修グループと連動しており、ガイダンス期間の学科の説明と配信された資料に従うこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内容について関連した情報を学習し，理解を深めること。 小売店などにおける作物の販売状況を確認しておく。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実技と実習態度 50%，レポート 50%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGR235J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農場実習Ⅱ	1 単位	岩崎・川岸・鎌田・徳田
2022～2025 年度入学者 農場実習Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 卒業後に農業や食料生産に関わる人材の育成を目指し、農業の基本技術について、実習を通して学ぶ。実際の農業生産を理解するために必要な知識や技術を習得する。 《授業の概要》 「農場実習（農場実習Ⅰ）」の続編に位置づけられる。土壌管理、施肥、防除、収穫調製など農作業の基本的な知識、技術を実習する。環境保全型農業と慣行農業の違いを理解する。スマート農業技術のうちデータ駆動型農業の基本手法を実習する。「農場実習（農場実習Ⅰ）」単位修得者のみ履修可能。定員を超えた場合は抽選とする。定員は 30 名。※2-4 年生を対象とするが、主たる対象は 2 年生を想定している。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション、土壌調査の基本知識・技術の習得、圃場案内 第 2 回：施肥の基本知識・技術の習得 第 3 回：防除の基本知識・技術の習得 第 4 回：出荷規格に則った実際の収穫・調製作業および加工実習準備 第 5 回：環境保全型農業の理解 第 6 回：加工品生産の重要性と位置づけの理解 第 7 回：先進的な施設園芸技術（現地見学）の理解 第 8 回：データ駆動型農業の基本手法の習得 第 9 回：農業機械の基本知識 第 10 回：土壌管理の必要性、重要性の理解、実習まとめ （授業内容は変更になることがあります）		
3. 履修上の注意 農作業のできる服装で臨むこと。実習は黒川農場で実施する。 アレルギーのある方で受講を希望する場合は事前に相談する。 受講中は土やほこりによる汚れが生じたり、虫や小動物と接触することがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実習内容について関連した情報を学習し、理解を深めておく。 実習後にレポートを提出する。 農林水産省の「有機農業をめぐる事情」や「みどりの食料システム戦略」などを参考に、環境保全型農業について理解を深めておく。		
5. 教科書 適宜プリントなどを配布する。		
6. 参考書 野菜作り「コツ」の科学（講談社） みんなの有機農業技術大事典（農文協） 有機農業と慣行農業（農文協） 検証有機農業（農文協） アグロエコロジー 持続可能なフードシステムの生態学（農文協）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポート提出の際に適宜周知する。		
8. 成績評価の方法 実習態度・実技の習得程度ならびにレポートで評価する。		
9. その他 2026 年度の日程は以下の通り、第 1 回 4/11、第 2 回 4/25、第 3 回 6/6、第 4 回 6/27、第 5 回 10/3、第 6 回 10/10、第 7 回日程調整中、第 8 回 11/7、第 9 回 11/21、第 10 回 12/19 （日程は変更になることがあるので、都度クラスウェブで確認してください）		

科目ナンバー (AG) AGR121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 アグリサイエンス論	2 単位	岩崎 泰永
2022～2025 年度入学者 アグリサイエンス論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 農業の基本的な知識や技術を広く教養として学ぶとともに、日本および世界の農場や食料生産の現状や課題を理解し、解決策を考える。 《授業の到達目標》 今日、人口増加、食糧問題、環境問題、資源問題などが大きな課題として顕在化しつつある。作物を生産することで食糧を確保し、同時に環境を浄化し、生物資源を蓄積することが農業の持つ本来の姿である。安定的に食糧を生産・供給・備蓄できる農業技術の開発が急務であるが、将来に向けて生態系と調和し、地球環境に負荷のかからない持続的農業技術を確立することも必要であり、従来から行われてきた農業について今一度見直す時期にきている。本講義は上記の視点から、まず、現在の農業を理解するための基本的な知識や技術を広く学び、環境と農業の関わりを学術論文や現場の事例を紹介しながら理解し、農業の課題と解決策を考えることを目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション：国内外の農業の現状と課題 第 2 回：作型、作付け体系について 第 3 回：土壌の生成、役割、管理 第 4 回：灌水の考え方と基本技術、最新技術 第 5 回：施肥の考え方と基本技術、最新技術 第 6 回：防除の考え方と基本技術、最新技術 第 7 回：施設園芸とスマート農業の基礎知識、先端技術の紹介 第 8 回：省エネルギーと地球温暖化対策 第 9 回：生産現場を支える仕組み（普及指導員、営農指導員） 第 10 回：SDGs について考える 第 11 回：環境保全型農業 第 12 回：有機農業・有機栽培 第 13 回：水資源の有効利用 第 14 回：社会で仕事するための基礎知識（特許、種苗法） ※講義の順番や内容は変更する場合があります。		
3. 履修上の注意 ・外部講師による講義を行なう場合がある。 ・参加者同士で議論・発表を行う場合がある。 ・理解度を確かめるため小テストを実施する場合がある。 農業を取り巻く現状を把握するために、日頃から新聞・テレビ・ネット・書物等で情報を習得しておいてください。 （参考）番外編として、以下のようなこともやっています（希望者のみ。成績評価には関係ありません） 1）生産者や研究機関や企業の訪問 2）実践的な農業体験実習 ・近隣の生産者を訪問して作業を手伝う ・独自に借りている露地畑（露地野菜）やハウス（トマト、イチゴ、葉物野菜）における生産と販売		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義に関する事項に関して、新聞・テレビ・ネット・書物等で情報を習得しておくこと。		
5. 教科書 なし。必要に応じて資料を配布する。		
6. 参考書 『環境制御のための植物生理』エペ フーヴェリンクほか（著）、中野 明正ほか（翻訳）（農山漁村文化協会） 『植物生産技術学』秋田重誠・塩谷哲夫（文永堂出版） 『生物環境物理学の基礎 第 2 版』ゲイロン・サンフォード キャンベル ほか（著） 久米篤ほか（翻訳）、（文永堂出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 小課題（授業に関連することを調べたり、考える、あるいは関連分野の文献検索）または小テストを授業期間中に複数回（小課題と小テスト合わせて 2～5 回）行う（50％）。 期末に論文形式のレポート課題を出題する（50％）		

9. その他

アグリサイエンス研究室（黒川農場本館 2 階 1-203）

連絡はメールで対応。

iwasakiy@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGR131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フィールド先端農学	2 単位	伊藤 善一
2022～2025 年度入学者 フィールド先端農学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 先端農学の一分野である、施設園芸および植物工場における植物生産について理解することを目的とする。また、実際の栽培現場で用いられている各種技術（養液栽培、環境制御、栽培システム、栽培管理技術等）と植物の生理生態的・栽培学的特性について理解し、実際にフィールドで栽培を行うために必要となる基礎的な知識・技術についての理解を深めることを目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の D・E に対応する科目である。 《授業の概要》 施設園芸および植物工場における植物生産技術について講義する。また、関連する各種技術や環境問題・食糧問題についても概説する。		
2. 授業内容 第 1 回 工芸作物 第 2 回 染料植物・絶滅危惧植物「ムラサキ」と紫根染（1） 第 3 回 染料植物・絶滅危惧植物「ムラサキ」と紫根染（2） 第 4 回 絶滅危惧植物「アッケシソウ」研究の紹介 第 5 回 施設園芸 第 6 回 養液栽培 第 7 回 太陽光型植物工場 第 8 回 人工光型植物工場 第 9 回 人工光型植物工場でのイチゴ生産（植物工場の実例） 第 10 回 遺伝子組換え作物 第 11 回 熱帯農学（ハワイの農業） 第 12 回 熱帯農学（ハワイの農業と農薬） 第 13 回 ハワイ大学ヒロ校での研究紹介 第 14 回 ゲノム編集 ※講義内容、講義の順番は、必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 植物栽培の基礎と先端的な栽培技術、農業と食について講義する。 専門分野にかかわらず、ご理解頂けるような内容とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で取り上げた内容について、関連する書籍、雑誌等を読み、学習するとともに理解を深めること。		
5. 教科書 クラスウェブから資料を配信する。		
6. 参考書 講義の中で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末レポート 70%と出席回数 30%で評価する。		
9. その他 フィールド先端農学研究室（黒川農場） E-mail： yito@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) ABR925M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 国際農業文化理解 (タイ)	2 単位	島田 友裕
2022～2025 年度入学者 国際農業文化理解 (タイ)		
1. 授業の概要・到達目標 タイのバンコクを中心に、約 10 日間の実習を行う。明治大学農学部と協定を結んでいる大学を訪問し、講義やアクティビティを通してタイの文化を学ぶ。また、タイの農業についても学ぶ機会を提供する。参加者は、明治大学農学部の学年学科を越えた多様な人材から形成される。 このプログラムに参加することで、日本とは異なる風土・文化・歴史・言語・ライフスタイルなどを実感し、国際的な視点から農業についての知識や見聞を得られることを期待する。さらに、タイ協定校の学生との交流を通じて、国際性を身につけることを期待する。		
2. 授業内容 学部間協定校や日系企業訪問、市場視察等を実施する。また、学部間協定校の学生と、オンラインを通じて共同提案(Joint proposal)を作成し、現地にて共同で発表を行う。共同提案では、明治大学農学部とタイ協定校がそれぞれ取り組んでいる理系・文系の課題について、お互いに理解を深め、互いの技術や知識を提供しあうことによる解決策を考え、共同で提案することを目指す。タイ協定校は3校（シーナカリンウィロート大学、カセサート大学、パンヤピワット経営大学）が参加する予定である。 日程や履修条件等の詳細は、年度初めに実施する農学部留学ガイダンスにて説明するので、必ず確認すること。 また渡航前の事前研修や帰国後の報告書の提出および報告会への参加は必須となる。 ＜事前研修の例＞ ・タイの言語 ・渡航中の心得 ・英語でのプレゼンテーション ・共同提案(Joint proposal)の作成・発表に向けて 明治大学農学部が取り組んでいる課題や有する技術や知識の調査、 協定校が取り組んでいる課題や有する技術や知識の調査、 協定校の学生とのオンライン交流、 共同提案の現地発表に向けての議論・資料作成、 などを行う予定である。学年、学科を越えたチームでの取り組みとなる。		
3. 履修上の注意 海外での研修となるため、履修者数については17名を上限とする。 履修希望者は年度初めのガイダンスに必ず出席すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 様々なアクティビティにおいて、各自が積極的に行動することが望まれる。		
5. 教科書		
6. 参考書 事前研修の際に必要なに応じて周知する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 事前研修への参加態度、現地での学習態度・生活態度および事後の報告書により、総合的に判断する。		
9. その他 質問等があれば、農学部事務室の窓口にて問い合わせをすること。 担当教員の連絡先 島田：3-308A 室, tomoshimada@meiji.ac.jp マクタガート：5-205 室, imctagg@meiji.ac.jp		

2026年度以降入学者

総合教育科目
外国語科目群＜第一外国語＞

2022～2025年度入学者

総合科目
外国語科目群＜第一外国語＞

科 目 名	単位数	担当者
英語Ⅰ・英語Ⅱについて	各 1 単位	
1. 授業の概要・到達目標 言語はコミュニケーションの手段であると同時に、その言語を育んできた文化の一つの姿でもある。国際化・情報化が進んでいる今、コミュニケーションの能力を高めるためにも、また、外国の文化を理解するためにも、外国語を学ぶことはますます重要になってきている。 こうした認識に基づき、英語Ⅰはコミュニケーション能力を充実し強化することを目的とした総合的な授業を、英語Ⅱは英語Ⅰで養った力を基にして読解スキル・表現スキルなど目的を明確化した形での授業を行っている。		
2. 授業内容 英語Ⅰ（必修科目）。 ・ 1年次の春学期に「英語Ⅰa」を、秋学期に「英語Ⅰb」を履修する。 ・ 同一学科の1年生全員が、組の枠を外し、それぞれ指定のクラスで授業を受ける。春学期と秋学期は同一クラスを受講することとし、クラス替えは行わない。 英語Ⅱ（必修科目）。 ・ 2年次の春学期に「英語Ⅱa」を、秋学期に「英語Ⅱb」を履修する。 ・ 同一学科の2年生全員が、組の枠を外し、それぞれ指定のクラスで授業を受ける。春学期と秋学期は同一クラスを受講することとし、クラス替えは行わない。		
3. 履修上の注意 ・ 年度の初めに基礎・初級レベルの認定を受けた学生には別途指示があるのでそれに従うこと。 ・ 「英語Ⅰa」、「英語Ⅰb」、「英語Ⅱa」、「英語Ⅱb」の単位を修得できなかった者は、翌年度以降に当該科目を受講することによって、その単位を修得しなければならない。再履修者は、同一科目名であれば他学科用のクラスを選択することもできる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
5. 教科書		
6. 参考書		
7. 成績評価の方法		
8. その他		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 農 (1)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 英語 I a 農 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。 ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。 《到達目標》 ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。 ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。 ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせ、無理なく確実に理解してゆくことができる。 ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 インTRODクシヨン（授業方法・成績評価の説明） 第 2 回・第 3 回 Unit 1 第 4 回・第 5 回 Unit 2 第 6 回・第 7 回 Unit 3 第 8 回・第 9 回 Unit 4 第 10 回・第 11 回 Unit 5 第 12 回・第 13 回 Unit 6 第 14 回 a：まとめ b：試験 内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。		
5. 教科書 『British News Update 8 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 8』 Timothy Knowles 他 編著 出版社 金星堂 テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。 テキストがないと授業に参加できず欠席扱いとなります。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。		

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第 1 回授業で説明しますが、以下は基本方針です。
定期試験 50%, 平常点（授業中の発表・課題の提出等）50%。
毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。
皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはありません。
欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。
本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 農 (2)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 英語 I a 農 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜英語の運用能力を高める＞ 現代社会における世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。 《授業の概要》 上記の目標のために、テキストに沿って基本的に 2 回の授業で 1 つの Unit を進め、Unit6 まで終了することを目指す。授業 2 回で Reading の英文を読み、毎回テキストに付随した問題を出題する。テキストの Episode に関しては、課題として決められた範囲を各自で読んで付随した問題を解く。Reading、Episode どちらの課題ともに授業中にフィードバックをする。学生の要望やテキストのトピックにあわせて必要に応じて補足的なプリントを配布して読み、リーディング能力の増強をする。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（授業方法・テキストの説明） 第 2 回 Unit 1 Ukraine、Reading 第 3 回 Unit 1 つづき、Episode 課題割り当て 第 4 回 Unit 2 Ireland、Reading 第 5 回 Unit 2 つづき、Episode 課題割り当て 第 6 回 Unit 3 Brexit、Reading 第 7 回 Unit 3 つづき、Episode 課題割り当て 第 8 回 Unit 4 The Second Cold War?、Reading 第 9 回 Unit 4 つづき、Episode 課題割り当て 第 10 回 Unit 5 The Baltic States、Reading 第 11 回 Unit 5 つづき、Episode 課題割り当て 第 12 回 Unit 6 Rohingya、Reading 第 13 回 Unit 6 つづき、Episode 課題割り当て 第 14 回 a まとめ・b 試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週火曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞などでテキストの内容の理解を深めたり現時点での状況把握に努めること。別途クラスウェブ上に載せる PDF を参照して、各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。		
5. 教科書 『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues（国際問題のルーツを探る）』 石谷由美子 （南雲堂）		
6. 参考書 特に定めない。関連記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に載せる）。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 農 (3)	1 単位	下永 裕基
2022～2025 年度入学者 英語 I a 農 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「日常の英語力」と「未知を読むための英語力」 英語に限らず、書かれたものを読む方法は、読む目的やその内容によって異なる。しかし英語になると多くの場合、学生は偏った方法でしか読むことができないようである。一文ずつ読めても全体の意味が分からなかったり、ごく身近なトピックなら読めても、未知の領域の英文にはまったく手が出なかったり、音読しても英語とは思えない発音であったりするならば、それはこれまでの学習法が誤っていたことの証左である。 英文の印刷されたハンドアウトを配布する。基本方針は「訳読方式」である。学生はその英文を徹底して予習し、授業に臨めばよい。 授業では読解力の育成とともに、日常の英語発信に必要な語彙力も養っていく。 《到達目標》 この授業では、できるだけ多くの英文に触れ、英語を読むことの楽しさを再発見してもらいたい。英語は暗号ではなく、ことばである。ことばを大切に読む方法を探っていきたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a) イントロダクション「大学生に求められる読解力」 b) 公式予習シートを使用した予習の方法について 第 2 回：Reading Material 1：音読を取り入れる 1 第 3 回：Reading Material 1：音読を取り入れる 2 第 4 回：Reading Material 2：言語 1 第 5 回：Reading Material 2：言語 2 第 6 回：Reading Material 3：文化 1 第 7 回：Reading Material 3：文化 2 第 8 回：Reading Material 4：宗教 1 第 9 回：Reading Material 4：宗教 2 第 10 回：Reading Material 5：文化 3 第 11 回：Reading Material 5：文化 4 第 12 回：Reading Material 6：言語 3 第 13 回：Reading Material 6：言語 4 第 14 回 a) 学期末試験 b) 解説とふり返り * 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。 * 授業の一部をディクテーション課題に充てることがある。		
3. 履修上の注意 辞書を携帯すること（電子辞書可）。 遅刻厳禁。 予習前提。比較的難しめの長い英文を扱うが、授業の進行はゆっくりなので、予習が追いつかない事態にはならないはず。 授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。		
5. 教科書 Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立てます。		

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の3分の2以上）が、期末試験を受けるための必須条件である。
そのうえで、定期試験 80%、授業への積極性・リアクション・課題等 20%。

9. その他

研究室は3号館4階，3-405にある。
オフィスアワー：火曜 16 時～17 時。水曜 13 時 30 分～16 時。
オフィスアワー以外でも，在室時には可能な限り，対応します。
授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。
研究室連絡先＝ ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 農 (4)	1 単位	瀬端 睦
2022～2025 年度入学者 英語 I a 農 (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 英文法を復習しながら大学生に必要な英語コミュニケーションスキルを身につけ、4 技能の基礎固めを目指す。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。 《授業の概要》 50' s～現代までの洋楽を聴きながら、歌の歌詞や歌に関するエッセイを読み、歌に関する会話を聞いていく。歌の歌詞を理解すると同時に、その歌詞が書かれた歴史的・社会的背景を理解し、それに対する自分の意見を英語で発信できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業の進め方、辞書の使い方、成績評価の仕方など） b: Unit 1 Stand by Me (Ben E. King)：歌詞の理解 第 2 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King)：関係代名詞の that 第 3 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King)：読解 第 4 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King)：会話リスニング 第 5 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan)：現在進行形 第 6 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan)：読解 第 7 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan)：会話リスニング 第 8 回 Bohemian Rhapsody 鑑賞 第 9 回 Bohemian Rhapsody 会話リスニング 第 10 回 “We are the Champions” 解説 第 11 回 Unit 8 Imagine (John Lennon)：wonder if 第 12 回 Unit 8 Imagine (John Lennon)：読解 第 13 回 Unit 8 Imagine (John Lennon)：会話リスニング 第 14 回 a: 授業内容のまとめ b: 期末試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 次回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 歌詞の意味と文法、リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてくること。歌を繰り返し聞いて、聞き取り、意味が分かるようにすること。		
5. 教科書 『ソングス＆カルチャー』 関戸冬彦ほか著（朝日出版社）		
6. 参考書 英語辞書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 期末試験 60%＋平常点（授業への取り組み、課題など）40%で総合評価する。		
9. その他 オフィスアワー：授業後に対応する sebatamu@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 農 (5)	1 単位	熊田 和典
2022～2025 年度入学者 英語 I a 農 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 現在社会で起こっている世界の諸問題を扱っている AFP のニュースを教材に使い、英語の総合的な力の向上を目指す。各課では、AFP のニュースを学習するとともに、同一のテーマを扱った英文を読んで、英語を聴く力、読む力、文法力、語彙力、表現する力を養う。扱うテーマは、省エネ住宅、人と動物の触れ合いがもたらす癒しの力、ケニア森林伐採禁止解除の波紋、バウハウス（建築とデザインの運動）、使い捨てプラスチック、コアラの保護活動である。 現代社会の問題を扱った英語の教材を学習することを通して、将来専門教育や社会の要求に応えるための土台となる総合的な英語力を養成することをこの授業の目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 インTRODakション（授業の内容、成績評価の基準などの説明） 第 2 回 Lesson 1 Energy-Efficient House: Listening の解釈 第 3 回 Lesson 1 Energy-Efficient House: Reading の解釈 第 4 回 Lesson 2 Ex-Racehorses Provide Comfort to Children in Need: Listening の解釈 第 5 回 Lesson 2 Ex-Racehorses Provide Comfort to Children in Need: Reading の解釈 第 6 回 Lesson 3 Relief and Despair: Repeal of Logging Ban Divides Kenya: Listening の解釈 第 7 回 Lesson 3 Relief and Despair: Repeal of Logging Ban Divides Kenya: Reading の解釈 第 8 回 Lesson 4 Bauhaus Design Turns 100: Listening の解釈 第 9 回 Lesson 4 Bauhaus Design Turns 100: Reading の解釈 第 10 回 Lesson 5 How Single-Use Plastic Still Rules the World: Listening の解釈 第 11 回 Lesson 5 How Single-Use Plastic Still Rules the World: Reading の解釈 第 12 回 Lesson 6 Save Koalas from Chlamydia: Listening の解釈 第 13 回 Lesson 6 Save Koalas from Chlamydia: Reading の解釈 第 14 回 a. 講義（重要事項の確認、補足） b. 期末試験 * 講義内容、進度には必要に応じて若干変更を加えることがある。		
3. 履修上の注意 英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。 辞書を必ず携行すること。（電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。） 遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては、教科書の該当箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、意味がわからない部分を特定し、その部分を辞書で調べておくことは不可欠である。音声はあらかじめ何度も聴いて授業に臨むこと。復習としては、理解が及ばなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読んでみる。音声も何度も聴いて、音声だけでも内容が理解できるように努めていただきたい。		
5. 教科書 『AFP World News Report 8—AFP ニュースで見る世界 8—』 宋戸真、Kevin Murphy、高橋真理子（成美堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の講評については、この英語 I a の受講者が全員秋期の同時間帯の英語 I b を履修する場合は、英語 I b の第 1 回の授業にて行う。そうでない場合は、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（70%）と小テスト（単語テスト）（30%）で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。定期試験ではリスニングの形式では出題しない。		
9. その他 オフィスアワー：火曜日 10:40～17:10 の授業外の時間（中央校舎 3 階講師控室） 連絡先：メールアドレスを初回の授業で伝える。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 政 (1)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 英語 I a 政 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。 ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。 《到達目標》 ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。 ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。 ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせ、無理なく確実に理解してゆくことができる。 ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 インTRODクシヨン（授業方法・成績評価の説明） 第 2 回・第 3 回 Unit 1 第 4 回・第 5 回 Unit 2 第 6 回・第 7 回 Unit 3 第 8 回・第 9 回 Unit 4 第 10 回・第 11 回 Unit 5 第 12 回・第 13 回 Unit 6 第 14 回 a：まとめ b：試験 内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。		
5. 教科書 『British News Update 8 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 8』 Timothy Knowles 他 編著 出版社 金星堂 テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。 テキストがないと授業に参加できないので、欠席扱いとなります。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。		

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第 1 回授業で説明しますが、以下は基本方針です。
定期試験 50%, 平常点（授業中の発表・課題の提出等）50%。
毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。
皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはありません。
欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。
本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 政 (2)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 英語 I a 政 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜英語の運用能力を高める＞ 現代社会における世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。 《授業の概要》 上記の目標のために、テキストに沿って基本的に 2 回の授業で 1 つの Unit を進め、Unit6 まで終了することを目指す。授業 2 回で Reading の英文を読み、毎回テキストに付随した問題を出題する。テキストの Episode に関しては、課題として決められた範囲を各自で読んで付随した問題を解く。Reading、Episode どちらの課題ともに授業中にフィードバックをする。学生の要望やテキストのトピックにあわせて必要に応じて補足的なプリントを配布して読み、リーディング能力の増強をする。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（授業方法・テキストの説明） 第 2 回 Unit 1 Ukraine、Reading 第 3 回 Unit 1 つづき、Episode 課題割り当て 第 4 回 Unit 2 Ireland、Reading 第 5 回 Unit 2 つづき、Episode 課題割り当て 第 6 回 Unit 3 Brexit、Reading 第 7 回 Unit 3 つづき、Episode 課題割り当て 第 8 回 Unit 4 The Second Cold War?、Reading 第 9 回 Unit 4 つづき、Episode 課題割り当て 第 10 回 Unit 5 The Baltic States、Reading 第 11 回 Unit 5 つづき、Episode 課題割り当て 第 12 回 Unit 6 Rohingya、Reading 第 13 回 Unit 6 つづき、Episode 課題割り当て 第 14 回 a まとめ・b 試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週火曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞などでテキストの内容の理解を深めたり現時点での状況把握に努めること。別途クラスウェブ上に載せる PDF を参照して、各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。		
5. 教科書 『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues（国際問題のルーツを探る）』 石谷由美子 （南雲堂）		
6. 参考書 特に定めない。関連記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 政 (3)	1 単位	熊田 和典
2022～2025 年度入学者 英語 I a 政 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 現在社会で起こっている世界の諸問題を扱っている AFP のニュースを教材に使い、英語の総合的な力の向上を目指す。各課では、AFP のニュースを学習するとともに、同一のテーマを扱った英文を読んで、英語を聴く力、読む力、文法力、語彙力、表現する力を養う。扱うテーマは、省エネ住宅、人と動物の触れ合いがもたらす癒しの力、ケニア森林伐採禁止解除の波紋、パウハウス（建築とデザインの運動）、使い捨てプラスチック、コアラの保護活動である。 現代社会の問題を扱った英語の教材を学習することを通して、将来専門教育や社会の要求に応えるための土台となる総合的な英語力を養成することをこの授業の目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回 インTRODakション（授業の内容、成績評価の基準などの説明） 第 2 回 Lesson 1 Energy-Efficient House: Listening の解釈 第 3 回 Lesson 1 Energy-Efficient House: Reading の解釈 第 4 回 Lesson 2 Ex-Racehorses Provide Comfort to Children in Need: Listening の解釈 第 5 回 Lesson 2 Ex-Racehorses Provide Comfort to Children in Need: Reading の解釈 第 6 回 Lesson 3 Relief and Despair: Repeal of Logging Ban Divides Kenya: Listening の解釈 第 7 回 Lesson 3 Relief and Despair: Repeal of Logging Ban Divides Kenya: Reading の解釈 第 8 回 Lesson 4 Bauhaus Design Turns 100: Listening の解釈 第 9 回 Lesson 4 Bauhaus Design Turns 100: Reading の解釈 第 10 回 Lesson 5 How Single-Use Plastic Still Rules the World: Listening の解釈 第 11 回 Lesson 5 How Single-Use Plastic Still Rules the World: Reading の解釈 第 12 回 Lesson 6 Save Koalas from Chlamydia: Listening の解釈 第 13 回 Lesson 6 Save Koalas from Chlamydia: Reading の解釈 第 14 回 a. 講義（重要事項の確認、補足） b. 期末試験 * 講義内容、進度には必要に応じて若干変更を加えることがある。		
3. 履修上の注意 英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。 辞書を必ず携行すること。（電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。） 遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては、教科書の該当箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、意味がわからない部分を特定し、その部分を辞書で調べておくことは不可欠である。音声はあらかじめ何度も聴いて授業に臨むこと。復習としては、理解が及ばなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読んでみる。音声も何度も聴いて、音声だけでも内容が理解できるように努めていただきたい。		
5. 教科書 『AFP World News Report 8—AFP ニュースで見る世界 8—』 宍戸真、Kevin Murphy、高橋真理子（成美堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の講評については、この英語 I a の受講者が全員秋期の同時間帯の英語 I b を履修する場合は、英語 I b の第 1 回の授業にて行う。そうでない場合は、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（70％）と小テスト（単語テスト）（30％）で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。定期試験ではリスニングの形式では出題しない。		
9. その他 オフィスアワー：火曜日 10:40～17:10 の授業外の時間（中央校舎 3 階講師控室） 連絡先：メールアドレスを初回の授業で伝える。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 政 (4)	1 単位	瀬端 睦
2022～2025 年度入学者 英語 I a 政 (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 英文法を復習しながら大学生に必要な英語コミュニケーションスキルを身につけ、4 技能の基礎固めを目指す。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。 《授業の概要》 50' s～現代までの洋楽を聴きながら、歌の歌詞や歌に関するエッセイを読み、歌に関する会話を聞いていく。歌の歌詞を理解すると同時に、その歌詞が書かれた歴史的・社会的背景を理解し、それに対する自分の意見を英語で発信できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業の進め方、辞書の使い方、成績評価の仕方など） b: Unit 1 Stand by Me (Ben E. King)：歌詞の理解 第 2 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King)：関係代名詞の that 第 3 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King)：読解 第 4 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King)：会話リスニング 第 5 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan)：現在進行形 第 6 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan)：読解 第 7 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan)：会話リスニング 第 8 回 Bohemian Rhapsody 鑑賞 第 9 回 Bohemian Rhapsody 会話リスニング 第 10 回 “We are the Champions” 解説 第 11 回 Unit 8 Imagine (John Lennon)：wonder if 第 12 回 Unit 8 Imagine (John Lennon)：読解 第 13 回 Unit 8 Imagine (John Lennon)：会話リスニング 第 14 回 a: 授業内容のまとめ b: 期末試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 次回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 歌詞の意味と文法、リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてくること。歌を繰り返し聞いて、聞き取り、意味が分かるようにすること。		
5. 教科書 『ソングス＆カルチャー』 関戸冬彦ほか著（朝日出版社）		
6. 参考書 英語辞書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 期末試験 60%＋平常点（授業への取り組み、課題など）40%で総合評価する。		
9. その他 オフィスアワー：授業後に対応する sebatamu@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 政 (5)	1 単位	下永 裕基
2022～2025 年度入学者 英語 I a 政 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「日常の英語力」と「未知を読むための英語力」 英語に限らず、書かれたものを読む方法は、読む目的やその内容によって異なる。しかし英語になると多くの場合、学生は偏った方法でしか読むことができないようである。一文ずつ読めても全体の意味が分からなかったり、ごく身近なトピックなら読めても、未知の領域の英文にはまったく手が出なかったり、音読しても英語とは思えない発音であったりするならば、それはこれまでの学習法が誤っていたことの証左である。 英文の印刷されたハンドアウトを配布する。基本方針は「訳読方式」である。学生はその英文を徹底して予習し、授業に臨めばよい。 授業では読解力の育成とともに、日常の英語発信に必要な語彙力も養っていく。 《到達目標》 この授業では、できるだけ多くの英文に触れ、英語を読むことの楽しさを再発見してもらいたい。英語は暗号ではなく、ことばである。ことばを大切に読む方法を探っていきたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a) イントロダクション「大学生に求められる読解力」 b) 公式予習シートを使用した予習の方法について 第 2 回：Reading Material 1：音読を取り入れる 1 第 3 回：Reading Material 1：音読を取り入れる 2 第 4 回：Reading Material 2：言語 1 第 5 回：Reading Material 2：言語 2 第 6 回：Reading Material 3：文化 1 第 7 回：Reading Material 3：文化 2 第 8 回：Reading Material 4：宗教 1 第 9 回：Reading Material 4：宗教 2 第 10 回：Reading Material 5：文化 3 第 11 回：Reading Material 5：文化 4 第 12 回：Reading Material 6：言語 3 第 13 回：Reading Material 6：言語 4 第 14 回 a) 学期末試験 b) 解説とふり返り * 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。 * 授業の一部をディクテーション課題に充てることがある。		
3. 履修上の注意 辞書を携行すること（電子辞書可）。 遅刻厳禁。 予習前提。比較的難しめの長い英文を扱うが、授業の進行はゆっくりなので、予習が追いつかない事態にはならないはず。 授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。		
5. 教科書 Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立てます。		

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の3分の2以上）が、期末試験を受けるための必須条件である。
そのうえで、定期試験 80%、授業への積極性・リアクション・課題等 20%。

9. その他

研究室は3号館4階，3-405にある。
オフィスアワー：火曜 16 時～17 時。水曜 13 時 30 分～16 時。
オフィスアワー以外でも，在室時には可能な限り，対応します。
授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。
研究室連絡先＝ ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 化 (1)	1 単位	伊達 恵理
2022～2025 年度入学者 英語 I a 化 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「総合英語」 この授業では、文化論を扱った教科書 TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity を用い、Ia では美の概念、ルネサンス、物語の構造、演劇と演技の歴史をトピックとした 4 つの Reading を、速読・精読を交えて扱います。本文の読解・論旨の把握とともに、CD の音声聞き取りによって耳から英文の内容に馴染み、各 Reading に即したテキストの設問によって内容・語彙理解の確認、ライティング力の向上を図ります。各 Reading につき、テキストのより深い内容理解の一助としてプリント教材を配布し、必要に応じて映像資料の提示などを行います。 《授業の到達目標》 高校までに習得した英語力の上に立ち、大学レベルで必要とされる英語リーディング、リスニング、ライティングの基礎力を総合的に養うことを目的とします。特にこの授業では、論理的な英文読解の基礎技能、文法力・語彙力を向上させ、英語論説記事の内容・情報を的確に読みとるための土台作りを目標とします。		
2. 授業内容 第 1 回： Introduction 第 2 回： The Concept of Beauty (1) Reading 本文読解① 第 3 回： The Concept of Beauty (2) Reading 本文読解② 第 4 回： The Concept of Beauty (3) Reading 本文読解③・テキスト設問 第 5 回： Renaissance – Transcending Cultural Movements (1) Reading 本文読解① 第 6 回： Renaissance – Transcending Cultural Movements (2) Reading 本文読解② 第 7 回： Renaissance – Transcending Cultural Movements (3) Reading 本文読解③・テキスト設問 第 8 回： The Structure of Fictional Literature (1) Reading 本文読解① 第 9 回： The Structure of Fictional Literature (2) Reading 本文読解② 第 10 回： The Structure of Fictional Literature (3) Reading 本文読解③・テキスト設問 第 11 回： The Theater and Acting (1) Reading 本文読解① 第 12 回： The Theater and Acting (2) Reading 本文読解② 第 13 回： The Theater and Acting (3) Reading 本文読解③・テキスト設問 第 14 回： a. 試験 b. まとめ ＊講義の進度は必要に応じ変更することがあります		
3. 履修上の注意 テキストの内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとい良いでしょう。 授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 [予習] 授業では、各 Unit の初めに Reading 本文の内容理解・構成整理のための課題プリントを配布し、教員がそれらに基づいた質問・解説を行う形で Reading 本文の読解を進めます。課題プリントおよび各 Unit に設けられたテキストの練習問題に解答した上で、それらの設問以外の箇所についても疑問点があれば明らかにできるよう、単語・成句や構文を含めて Reading 本文を十分に読み込み、パラグラフの論旨を把握して授業に備えて下さい。 [復習] 授業で各パラグラフ内の文章構成・内容、論旨の展開を確認した後は、Reading 全体の中で各パラグラフの担う役割・関係性を理解し見通せるよう、復習すること。また、各パラグラフで学んだ語彙・成句について、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。		
5. 教科書 TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity 『多元文化論エッセイ – 響き合う文化たち』 Christopher Belton, 小田島恒志著（金星堂）		
6. 参考書 なし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各 Unit の予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。Oh-o!Meiji を通じて出された練習問題等については、Oh-o!Meiji 上にて解説を行います。		

8. 成績評価の方法

定期試験 60%，平常点（課題の提出とその内容，出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度，小テストなどの成績）40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。（欠席は3回まで）

9. その他

- ・オフィスアワー：木曜日 12：50～13：20 中央棟3F 講師控室
- ・質問・連絡は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡窓口として Oh-o!Meiji 「アンケート」を使用します。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 化 (2)	1 単位	中村 美帆子
2022～2025 年度入学者 英語 I a 化 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 「英語 4 技能の向上」 《授業の概要》 NHK の英語ニュースを教材として、英語の 4 技能（Listening, Speaking, Reading, Writing）を総合的に高める。ニュースを視聴して内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。その他の映像資料や新聞・雑誌記事等も併用する。 《到達目標》 1. 語彙や表現を習得する。 2. 時事問題に関する知識を得て、多方面から検討できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Unit 1-1 (Studying in the Metaverse) 第 3 回：Unit 1-2 第 4 回：Unit 3-1 (Recycling Car Parts Into Fashion Treasure) 第 5 回：Unit 3-2 第 6 回：小テスト 1、まとめ 第 7 回：Unit 6-1 (Deer Ramen) 第 8 回：Unit 6-2 第 9 回：Unit 7-1 (Making Sure the Message Is Heard) 第 10 回：Unit 7-2 第 11 回：小テスト 2、まとめ 第 12 回：Unit 14-1 (Bon Appétit! Ekiben) 第 13 回：Unit 14-2 第 14 回：a. 試験、b. まとめ		
3. 履修上の注意 1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 2. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。 3. この授業では教科書から 5 つの unit を選んで使用する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1 時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1 時間）。		
5. 教科書 『NHK NEWSLINE 7 / 映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本 7』、山崎達朗 他編著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。		
6. 参考書 資料を適宜配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%		
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 化 (3)	1 単位	狩野 晃一
2022～2025 年度入学者 英語 I a 化 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 高等学校までの英語学習を基礎として、高度な総合的な英語運用を目指す。 《授業の概要》 さまざまなタイプの英文を読み、英文のみならずそこに書かれた内容の理解に努める。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：History of Science (1) 第 3 回：History of Science (2) 第 4 回：History of Science (3) 第 5 回：History of Science (4) 第 6 回：History of Science (5) 第 7 回：History of Science (6) 第 8 回：History of Science (7) 第 9 回：History of Science (8) 第 10 回：History of Science (9) 第 11 回：History of Science (10) 第 12 回：History of Science (11) 第 13 回：History of Science (12) 第 14 回：まとめ、期末試験		
3. 履修上の注意 予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（20 分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40 分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。		
5. 教科書 授業内でプリントを配布する。		
6. 参考書 授業内で適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。		
9. その他 オフィス・アワー：金曜日・3 時限目 英語第Ⅱ研究室（3 号館 404 号室）		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 化 (4)	1 単位	小嶺 智枝
2022～2025 年度入学者 英語 I a 化 (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「4 技能向上を目指す」 リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングなど、各技能の向上を総合的に目指します。 《授業の概要》 多様なトピックを扱ったリーディング活動、シャドーイング、ロールプレイイング、ダイアログなど、様々な練習を通して英語能力の向上を目指します。学習した内容に応じてペアやグループで会話プラクティスやディスカッションを行います。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション 第2回：Unit 1 第3回：同上 第4回：Unit 2 第5回：同上 第6回：Unit 3 第7回：同上 第8回：Mid-term test/Unit 4 第9回：同上 第10回：Unit 5 第11回：同上 第12回：Unit 6 第13回：同上、発表 第14回：a. まとめ b. 学期末試験 ※講義内容や Unit の順番は必要に応じて変更になる場合がある。		
3. 履修上の注意 ペア・グループワークを多く取り入れます。積極的姿勢で授業に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading passage の予習を必ず行うこと。		
5. 教科書 Goro Yamamoto, Jonathan Brown, SDGs and Challenges We Face（松柏社）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%，平常点（出席、小テスト、授業貢献度などを含む）50%の総合評価		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 化 (5)	1 単位	樋渡 さゆり
2022～2025 年度入学者 英語 I a 化 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 「(5) 総合英語」 《授業の概要》 総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を高め、後半の Module b では論説文のリーディングを行う。論説文の内容は、英国文化の諸相をアカデミックな視点から読み解くエッセイで、4つの柱として「多様性」、「コミュニケーション」、「制度・組織」、「コモン・センス（常識）」を置き、グローバルな視点から現代の文化を考えさせる内容。テキスト難易度は、出版社の判断では TOEIC 500-600 点レベル。 《到達目標》 論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解定着などを目標とする。大学での研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターンの構築を目指す。		
2. 授業内容 第1回：Module a のみ：イントロダクション 第2回：リーディング Unit 1 から章立て順に講読する／Listening & Vocabulary Stage 1 第3回：辞書について／リーディング 第4回：リーディング／L&V Stage 2 第5回：リーディング／L&V Stage 3 第6回：リーディング／L&V Stage 4 第7回：リーディング／L&V Stage 5 第8回：復習と補足 第9回：リーディング／L&V Stage 6 第10回：リーディング／L&V Stage 7 第11回：リーディング／L&V Stage 8 第12回：リーディング 第13回：リーディング 第14回：a: 定期試験／b: まとめ * 毎回、履修者の発表に基づいて授業を進める。演習科目の特性上、「履修者の理解到達度を重要視してフィードバックを返すパターン」を反復して授業を展開し、リーディングの進度を最適化する * リーディングのテキストは、春学期は Chapter 1-5, 8 の順に精読する		
3. 履修上の注意 資料掲示や課題提出、連絡には Oh-o!Meiji のクラスウェブを使用します 高校で学んだ内容に基礎を置きますが、次のステップへ向けて新しい学習習慣を身につける心構えで授業に臨んでください		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Module a: 事前に各自でリスニングを行い、予習してくる。授業では答え合わせから始める。復習によってヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身につける Module b: テキストの指定された範囲を辞書を用いて予め読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認し、補足して理解を深める		
5. 教科書 Module a: 『TOEIC TEST 基本単熟語チェック 550 点レベル』 西谷恒志・吉塚弘・マイケル・シャワティ（音羽書房鶴見書店） Module b: 『Aspects of British Culture: Academic Approaches』 Harada, Houwen, Morita.（金星堂） * いずれも音声 URL 有り		
6. 参考書 辞書については授業で紹介。ステップアップし、下記と同程度の辞書を使用することを勧める 『プログレッシブ英和中辞典』（小学館） 『リーダーズ英和辞典』（研究社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出は原則としてクラスウェブを利用。フィードバックはクラスウェブのコメント欄で返すほか、授業展開に取り入れる、などの方法をとる		
8. 成績評価の方法 定期試験実施日を含めた授業実施回数の 2／3 以上に出席している履修者を評価対象とします		

定期試験 70%、平常点（出席状況・課題提出など）30%で評価します
出席状況を記録・認識しておくこと。良好な出席状況が前提となります

9. その他

1. 連絡方法→クラスウェブ上の連絡欄

2. オフィスアワー→質問対応は授業中または終了時（面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとってください）

場所： 英語第 I 研究室（第一校舎 3 号館 4 階 403）

時間： 在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 生 (1)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 英語 I a 生 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜英語の運用能力を高める＞ 現代社会における世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。 《授業の概要》 上記の目標のために、テキストに沿って基本的に 2 回の授業で 1 つの Unit を進め、Unit6 まで終了することを目指す。授業 2 回で Reading の英文を読み、毎回テキストに付随した問題を出題する。テキストの Episode に関しては、課題として決められた範囲を各自で読んで付随した問題を解く。Reading、Episode どちらの課題ともに授業中にフィードバックをする。学生の要望やテキストのトピックにあわせて必要に応じて補足的なプリントを配布して読み、リーディング能力の増強をする。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（授業方法・テキストの説明） 第 2 回 Unit 1 Ukraine、Reading 第 3 回 Unit 1 つづき、Episode 課題割り当て 第 4 回 Unit 2 Ireland、Reading 第 5 回 Unit 2 つづき、Episode 課題割り当て 第 6 回 Unit 3 Brexit、Reading 第 7 回 Unit 3 つづき、Episode 課題割り当て 第 8 回 Unit 4 The Second Cold War?、Reading 第 9 回 Unit 4 つづき、Episode 課題割り当て 第 10 回 Unit 5 The Baltic States、Reading 第 11 回 Unit 5 つづき、Episode 課題割り当て 第 12 回 Unit 6 Rohingya、Reading 第 13 回 Unit 6 つづき、Episode 課題割り当て 第 14 回 a まとめ・b 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週金曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞などでテキストの内容の理解を深めたり現時点での状況把握に努めること。別途クラスウェブ上に載せる PDF を参照して、各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。		
5. 教科書 『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues（国際問題のルーツを探る）』 石谷由美子 （南雲堂）		
6. 参考書 特に定めない。関連記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 生 (2)	1 単位	中須賀 稚子
2022～2025 年度入学者 英語 I a 生 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》「総合英語」 日本の学生のために書かれたエッセイを読む。 日本人的な発想でも読み解ける英文なので、受験英語を経験してきた学生ならばそれほど困難ではないレベルの英文であるが、多くの学生にとっては予習が必要なレベルである。 課によって英文のレベルに差があるので、読みやすい課、読みにくい課があるので、とりついた時点で分かりにくい、と感じても、諦めずに取り組んでほしい 《授業の概要》 学生の予習に基づいて授業は進行する。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業の進め方、辞書の使い方、成績評価の方法と基準についての説明） b：プリントを使った演習 第 2 回： 第 1 課 相手を説得するコツ 1 回目 第 3 回： 同 2 回目 第 4 回： 第 2 課 アイスホッケーはクールだ 1 回目 第 5 回： 同 2 回目 第 6 回： 第 3 課 キャンセルカルチャー 1 回目 第 7 回： 同 2 回目 第 8 回： 第 4 課 ニンテンドーパワー 1 回目 第 9 回： 同 2 回目 第 10 回： 第 5 課 偉大さを求めて 1 回目 第 11 回： 同 2 回目 第 12 回： 第 6 課 山火事から分かること 1 回目 第 13 回： 同 2 回目 第 14 回 a：まとめ b：到達度確認試験 履修した学生の希望があれば、中間試験を実施することもあり得る * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。 興味を持っていただけのが一番です。 授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。 自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください 2 つ、お願いがあります。 その 1 授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。 教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、 教室内の出入りは、最小限にとどめるよう、自分の体を制御してください その 2 教科書は必ず購入してください。 そして、必ず教科書をもって授業に出席してください。 コピー（その他写メ等）で授業に出席している場合、欠席扱いとします。 中須賀のクラスでは、コピーで授業に出席しても、出席とはみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 知らない語句は辞書を引き意味や用法を調べておくこと。 英文の内容を、自分なりに理解できているか、自分で考えておくこと。 単語の意味が分かれば英文の内容が分かる、ということではない部分もあるので、単語の意味は分かるのに、何を言っているのか分からない、という部分を自分なりに見つけ、授業内でその部分を「納得」できるよう、予習をしてきてください 翻訳アプリを使いたい、という誘惑に打ち勝てるよう、努力してください。		
5. 教科書 Rethinking the World—Dare to Know—（成美堂、2023）		

6. 参考書

授業内で指示する

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて全体に対して、または個別に、対面で、もしくはポートフォリオを通して行う

8. 成績評価の方法

筆記試験（授業内及び期末実施予定）60%、授業への取り組みや課題の提出（出席点ではない）40%で総合評価する。

期末の試験の受験資格は、授業3分の2以上出席が必要である。

欠席が4回を超えた時点で受験資格を失うが、遅刻は3回で欠席1回となり、遅刻、欠席のトータルの減点が、授業の3分の1を超えると、受験資格を失う。

つまり、4回欠席した後、一度遅刻をすると受験資格を失う、ということになる。

欠席と共に、遅刻にも注意するように。

また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください。

授業に出席したが課題は未提出、または、授業は欠席したが課題は提出、という場合、欠席扱いとなります。

授業に欠席したが課題を出した、という場合、課題の点数は配慮するケースもあります

初回授業でこの点については説明します

課題の期限は、授業後4～5日となっています。

学期末等の理由で、課題提出の締め切りが通常と異なるケースも起こりえます

必ず、自分で期限を確認するようにしてください。課題提出に関しては、自己責任となります。

また、遅れての提出は一切無効とさせていただきます。（解答編を直後にアップします）

9. その他

オフィス・アワー：金曜日の昼休み、(12:45～13:20) いずれかの講師控室

または

oh-o.meiji システムのメッセージ機能やメール、または授業後にコンタクトを取ってください

nakasuka@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 生 (3)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 英語 I a 生 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 英語は道具（ツール）である、といえます。もちろん意思疎通のためのツールでもあります。学修をより深く、広く、高くするためのツールでもあります。もし英語のスキルが上がれば、読むことのできる文献の数は増えるでしょうし、より深く理解することもできるでしょう。また、自分の考察をより適切に表現することもできるはずです。多くの先輩たちが「学生時代にやっておけばよかったこと」として「語学」を挙げていることから、語学は大学生にとって必要な学習であると言えるでしょう。 語学には 4 つの技能が関係すると言いますが、この授業では主に「リスニング」と「リーディング」に主眼をおきます。これは、研究を進めていく上での情報収集の基礎となります。教科書の素材をベースとして様々な素材に手を広げ、興味関心の幅を広げるとともにスキルアップも図ります。 春学期は、これまでの知識でどれだけ高度な英文が聞き取れるか、また読み取れるかに挑戦します。その過程で、補充すべき知識は補充し、努力すべきところを把握します。学期末には、教科書の英文はすらすらと読めるようになり、科学系の雑誌記事にも挑戦できるようになっているのが目標です。 《授業の達成目標及びテーマ》 1) 英文を自力で聞き取ることができるようになること 2) 英文を自力で読み取ることができるようになること		
2. 授業内容 第 1 回： a. 授業概要の説明 b. 英文を「聞く」「読む」ための準備学習 第 2 回： Unit 1-1 a. Listening b. Short Reading 第 3 回： Unit 1-2 a. Reading b. 発展学習 第 4 回： Unit 2-1 a. Listening b. Short Reading 第 5 回： Unit 2-2 a. Reading b. 発展学習 第 6 回： Unit 3-1 a. Listening b. Short Reading 第 7 回： Unit 3-2 a. Reading b. 発展学習 第 8 回： Unit 4-1 a. Listening b. Short Reading 第 9 回： Unit 4-2 a. Reading b. 発展学習 第 10 回：Unit 5-1 a. Listening b. Short Reading 第 11 回：Unit 5-2 a. Reading b. 発展学習 第 12 回：Unit 6-1 a. Listening b. Short Reading 第 13 回：Unit 6-2 a. Reading b. 発展学習 第 14 回： a. 期末試験 b. 総括と今後の学習の指針		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業回数の 3 分の 1 を超える欠席（5 回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 語学は実技科目です。聞くにせよ読むにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Listening（各ユニットの Part 1） 予習：特になし。 復習：英文の意味が理解できるまで付属の音声ファイルを聞くこと、シャドーイングなど声に出して練習すること。 Reading（各ユニットの Part 2） 予習：教科書の文章に目を通し、分からない単語は調べておくこと。分かる箇所と分からない箇所の区別をしておくこと。 復習：英文の意味が理解できるまで付属の音声ファイルを聞くこと、音読すること。		
5. 教科書 『English for Science（役に立つ科学技術英語）』南雲堂 ※この教科書は秋学期「英語 I b 生（3）」でも継続して使用します。		
6. 参考書 未知の英文を読んだり、母語でない言語の文章を書いたりするのに辞書が必要なのは言うまでもありません。もし手元に英和辞典と和英辞典があるのなら、ひとまずそれらを教室に持ってきてください。学習を続けていくうちに手持ちの辞書では歯が立たないと感じたり、		

何かしら不便に思ったりすることがあるはずです。その時にこそ、どのような辞書が自分にとって必要なのかを考え、新しい辞書の購入を検討しましょう。

また、英文法の解説書も学習には必携です。高等学校で使っていたものが手元があれば、ひとまずそれを活用しましょう。持っていない場合は、これを機に一冊手に入れておきましょう。一般的な高校生が使用する英文法の概説書でかまいません。分からなかったところ、または間違えたところは調べて確認する癖をつけましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や作文など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 生 (4)	1 単位	済藤 葵
2022～2025 年度入学者 英語 I a 生 (4)		
1. 授業の概要・到達目標 ・ 2 週で 1 ユニットの扱います。TOEIC の練習問題を解き、TOEIC の傾向と対策を学びます。 ・ 授業の詳細については、シラバスの補足や初回授業で説明を行います。		
2. 授業内容 第 1 回 : Introduction 第 2 回 : Unit 1: Travel 第 3 回 : Unit 1: Travel 第 4 回 : Unit 3: Media 第 5 回 : Unit 3: Media 第 6 回 : Unit 5: Purchasing 第 7 回 : Unit 5: Purchasing 第 8 回 : Unit 6: Clients 第 9 回 : Unit 6: Clients 第 10 回 : Unit 7: Recruiting 第 11 回 : Unit 7: Recruiting 第 12 回 : Unit 8: Personnel 第 13 回 : Unit 8: Personnel 第 14 回 : 授業内試験		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者は毎回、十分な準備をした上で自分の疑問点をはっきりとさせて授業に臨むこと。当然ながら、テキストや事前に配布したプリント等、予習可能な教材に関しては、しっかりと目を通し、予習した上で出席すること。		
5. 教科書 Score Booster for the TOEIC L&R Test Intermediate (2019)、金星堂		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ・ 授業参加点 20% ・ 小テスト（3 回）（オンライン授業がある場合はオンライン課題も含みます） 30% ・ 授業内試験 50% * 詳細は初回授業時に説明します。		
9. その他 連絡先：初回授業時に指示します。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I a 生 (5)	1 単位	狩野 晃一
2022～2025 年度入学者 英語 I a 生 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 さまざまな種類のエッセイを毎回読み進めます。 食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目である。 《授業の概要》 様々な読み物を通して、広い知見を英語で得るだけでなく、そこにある問題に対する理解を深める。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：English etymology (1) 第 3 回：English etymology (2) 第 4 回：English etymology (3) 第 5 回：Origin of English words (1) 第 6 回：Origin of English words (2) 第 7 回：Origin of English words (3) 第 8 回：Essays on English words (1) 第 9 回：Essays on English words (2) 第 10 回：Essays on English words (3) 第 11 回：History of English Expression (1) 第 12 回：History of English Expression (2) 第 13 回：History of English Expression (3) 第 14 回：まとめ、期末試験		
3. 履修上の注意 予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（20 分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40 分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。		
5. 教科書 毎回プリントを配布する。		
6. 参考書 授業内で適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。		
9. その他 オフィス・アワー：金曜日・3 時限目 英語第Ⅱ研究室（3 号館 404 号室）		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 農 (1)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 英語 I b 農 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。 ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。 《到達目標》 ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。 ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。 ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせ、無理なく確実に理解してゆくことができる。 ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回・第 2 回 Unit 7 第 3 回・第 4 回 Unit 8 第 5 回・第 6 回 Unit 9 第 7 回・第 8 回 Unit 10 第 9 回・第 10 回 Unit 11 第 11 回・第 12 回 Unit 12 第 13 回 Unit 13 第 14 回 a：まとめ b：試験 内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。		
5. 教科書 『British News Update 8 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 8』 Timothy Knowles 他 編著 出版社 金星堂 テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。 テキストがないと授業に参加できず、欠席扱いとなります。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。		

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第 1 回授業で説明しますが、以下は基本方針です。
定期試験 50%, 平常点（授業中の発表・課題の提出等）50%。
毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。
皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはありません。
欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。
本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 農 (2)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 英語 I b 農 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜英語の運用能力を高める＞ 現代社会における世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。 《授業の概要》 春学期と同じテキストを使用する。Unit 7 から開始予定だが、正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。テキストに沿って基本的に 2 回の授業で 1 つの Unit を進め、Unit12 まで終了することを目指す。授業 2 回で Reading の英文を読み、毎回テキストに付随した問題を出題する。テキストの Episode に関しては、課題として決められた範囲を各自で読んで付随した問題を解く。Reading、Episode どちらの課題ともに授業中にフィードバックをする。学生の要望やテキストのトピックにあわせて必要に応じて補足的なプリントを配布して読み、リーディング能力の増強をする。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（授業方法・Unit の導入） 第 2 回 Unit 7 Basques、Reading 第 3 回 Unit 7 つづき、Episode 課題割り当て 第 4 回 Unit 8 Korea、Reading 第 5 回 Unit 8 つづき、Episode 課題割り当て 第 6 回 Unit 9 Romani、Reading 第 7 回 Unit 9 つづき、Episode 課題割り当て 第 8 回 Unit 10 Switzerland、Reading 第 9 回 Unit 10 つづき、Episode 課題割り当て 第 10 回 Unit 11 Hong Kong、Reading 第 11 回 Unit 11 つづき、Episode 課題割り当て 第 12 回 Unit 12 The Pope and the Vatican City State、Reading 第 13 回 Unit 12 つづき、Episode 課題割り当て 第 14 回 a まとめ・b 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週火曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞などでテキストの内容の理解を深めたり現時点での状況把握に努めること。別途クラスウェブ上に載せる PDF を参照して、各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。		
5. 教科書 『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues（国際問題のルーツを探る）』 石谷由美子 （南雲堂）		
6. 参考書 特に定めない。関連記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 農 (3)	1 単位	下永 裕基
2022～2025 年度入学者 英語 I b 農 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「日常の英語力」と「未知を読むための英語力」 春学期の英語 I a に引き続き、Reading Material の種類に応じた読み方を模索する。未知を読む訓練として、とくにフィクションも取り入れたい。英文の印刷されたハンドアウトを配布する。基本方針は「訳読方式」なので、学生はその英文を徹底して予習し、授業に臨めばよい。授業では冒頭に発音アクセントのトレーニングや速読即解なども取り入れることがある。 《到達目標》 この授業では、できるだけ多くの英文に触れ、英語を読むことの楽しさを再発見してもらいたい。英語は暗号ではなく、ことばである。ことばを大切に読む方法を探っていきたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a) 速読即解 b) 夏休みについての英作文課題 第 2 回：Reading Material 7：未知の領域 3 第 3 回：Reading Material 7：未知の領域 4 第 4 回：Reading Material 8：言語 5 第 5 回：Reading Material 8：言語 6 第 6 回：Reading Material 9：文化 5 第 7 回：Reading Material 9：文化 6 第 8 回：Reading Material 10：宗教 3 第 9 回：Reading Material 10：宗教 4 第 10 回：Reading Material 11：文化 6 第 11 回：Reading Material 11：文化 8 第 12 回：Reading Material 12：言語 7 第 13 回：Reading Material 12：言語 8 第 14 回 a) 学期末試験 b) 解説とふり返り * 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。 * 授業の一部をディクテーション課題に充てることがある。		
3. 履修上の注意 辞書を携行すること（電子辞書可）。 遅刻厳禁。 予習前提。比較的難しめの長い英文を扱うが、授業の進行はゆっくりなので、予習が追いつかない事態にはならないはず。 授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。		
5. 教科書 Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立てます。		
8. 成績評価の方法 良好な出席状況（授業回数の 3 分の 2 以上）が、期末試験を受けるための必須条件である。 そのうえで、定期試験 80%、授業への積極性・リアクション・課題等 20%。		

9. その他

研究室は3号館4階，3-405にある。

オフィスアワー：火曜 16 時～17 時。水曜 13 時 30 分～16 時。

オフィスアワー以外でも，在室時には可能な限り，対応します。

業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先＝ ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 農 (4)	1 単位	瀬端 睦
2022～2025 年度入学者 英語 I b 農 (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 英文法の基礎を復習しながら大学生に必要な英語コミュニケーションスキルを身につけ、4 技能の基礎固めを目指す。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。 《授業の概要》 50's～現代までの洋楽を聴きながら、歌の歌詞や歌に関するエッセイを読み、歌に関する会話を聞いていく。歌の歌詞を理解すると同時に、その歌詞が書かれた歴史的・社会的背景を理解し、それに対する自分の意見を英語で発信できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業の進め方、辞書の使い方、成績評価の仕方など） b：Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters)：歌詞の理解 第 2 回 Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters)：仮定法過去 第 3 回 Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters)：読解・会話リスニング 第 4 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel)：to 不定詞の形容詞的用法 第 5 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel)：読解 第 6 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel)：会話リスニング 第 7 回 Greatest Showman 鑑賞 第 8 回 “This Is Me” 歌詞解説、映画の会話リスニング 第 9 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You (Stevie Wonder)：to 不定詞の副詞的用法 第 10 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You (Stevie Wonder)：読解 第 11 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You (Stevie Wonder)：会話リスニング 第 12 回 What Makes You Beautiful (One Direction)：歌詞理解 第 13 回 What Makes You Beautiful (One Direction)：読解 第 14 回 a：授業内容のまとめ b：期末試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 今回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 歌詞の意味と文法、リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてくること。歌を繰り返し聞いて、聞き取り、意味が分かるようにすること。		
5. 教科書 『ソングス＆カルチャー』 関戸冬彦ほか著（朝日出版社）		
6. 参考書 英語辞書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 期末試験 60%＋平常点（授業への取り組み、課題など）40%で総合評価する。		
9. その他 オフィスアワー：授業後に対応する sebatamu@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 農 (5)	1 単位	熊田 和典
2022～2025 年度入学者 英語 I b 農 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 現在社会で起こっている世界の諸問題を扱っている AFP のニュースを教材に使い、英語の総合的な力の向上を目指す。各課では、AFP のニュースを学習するとともに、同一のテーマを扱った英文を読んで、英語を聴く力、読む力、文法力、語彙力、表現する力を養う。扱うテーマは、ノートルダム大聖堂再生、福祉国家スウェーデンにおいて増える貧困、都市を捨てて陶芸に生きる中国の若者たちの選択、消えゆくフィリピンの伝統的な乗り物ジープニー、韓国ドラマ観光ブームの舞台裏、NASA 火星探査とエウロパ計画である。 現代社会の問題を扱った英語の教材を学習することを通して、将来専門教育や社会の要求に応えるための土台となる総合的な英語力を養成することをこの授業の目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 イン트로ダクション（春学期の英語 I a の授業の復習、秋学期英語 I b の授業に向けての導入など） 第 2 回 Lesson 7 Notre-Dame Cathedral: Risen from the Ashes: Listening の解釈 第 3 回 Lesson 7 Notre-Dame Cathedral: Risen from the Ashes: Reading の解釈 第 4 回 Lesson 8 Sweden Grapples with Poverty: Listening の解釈 第 5 回 Lesson 8 Sweden Grapples with Poverty: Reading の解釈 第 6 回 Lesson 9 Chinese Youths Trade City Rat Race for Pottery: Listening の解釈 第 7 回 Lesson 9 Chinese Youths Trade City Rat Race for Pottery: Reading の解釈 第 8 回 Lesson 10 Philippine Jeepneys Face Uncertain Future: Listening の解釈 第 9 回 Lesson 10 Philippine Jeepneys Face Uncertain Future: Reading の解釈 第 10 回 Lesson 11 From Screen to Reality: South Korea K-Drama Tourism Boom: Listening の解釈 第 11 回 Lesson 11 From Screen to Reality: South Korea K-Drama Tourism Boom: Reading の解釈 第 12 回 Lesson 12 NASA Mars Exploration and Europa Mission: Listening の解釈 第 13 回 Lesson 12 NASA Mars Exploration and Europa Mission: Reading の解釈 第 14 回 a. 講義（重要事項の確認、補足） b. 期末試験 * 講義内容、進度には必要に応じて若干変更を加えることがある。		
3. 履修上の注意 英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。 辞書を必ず携行すること。（電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。） 遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては、教科書の該当箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、意味がわからない部分を特定し、その部分を辞書で調べておくことは不可欠である。音声はあらかじめ何度も聴いて授業に臨むこと。復習としては、理解が及ばなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読んでみる。音声も何度も聴いて、音声だけでも内容が理解できるように努めていただきたい。		
5. 教科書 『AFP World News Report 8—AFP ニュースで見る世界 8—』 宍戸真、Kevin Murphy、高橋真理子（成美堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の講評については、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（70％）と小テスト（単語テスト）（30％）で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。定期試験ではリスニングの形式では出題しない。		
9. その他 オフィスアワー：火曜日 10:40～17:10 の授業外の時間（中央校舎 3 階講師控室） 連絡先：メールアドレスを初回の授業で伝える。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 政 (1)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 英語 I b 政 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。 ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。 《到達目標》 ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。 ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。 ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせ、無理なく確実に理解してゆくことができる。 ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回・第 2 回 Unit 7 第 3 回・第 4 回 Unit 8 第 5 回・第 6 回 Unit 9 第 7 回・第 8 回 Unit 10 第 9 回・第 10 回 Unit 11 第 11 回・第 12 回 Unit 12 第 13 回 Unit 13 第 14 回 a：まとめ b：試験 内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。		
5. 教科書 『British News Update 8 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 8』 Timothy Knowles 他 編著 出版社 金星堂 テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。 テキストがないと授業に参加できず、欠席扱いとなります。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。		

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第1回授業で説明しますが、以下は基本方針です。
定期試験 50%, 平常点（授業中の発表・課題の提出等）50%。
毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。
皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはありません。
欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。
本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 政 (2)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 英語 I b 政 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜英語の運用能力を高める＞ 現代社会における世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。 《授業の概要》 春学期と同じテキストを使用する。Unit 7 から開始予定だが、正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。テキストに沿って基本的に 2 回の授業で 1 つの Unit を進め、Unit12 まで終了することを目指す。授業 2 回で Reading の英文を読み、毎回テキストに付随した問題を出題する。テキストの Episode に関しては、課題として決められた範囲を各自で読んで付随した問題を解く。Reading、Episode どちらの課題ともに授業中にフィードバックをする。学生の要望やテキストのトピックにあわせて必要に応じて補足的なプリントを配布して読み、リーディング能力の増強をする。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（授業方法・Unit の導入） 第 2 回 Unit 7 Basques、Reading 第 3 回 Unit 7 つづき、Episode 課題割り当て 第 4 回 Unit 8 Korea、Reading 第 5 回 Unit 8 つづき、Episode 課題割り当て 第 6 回 Unit 9 Romani、Reading 第 7 回 Unit 9 つづき、Episode 課題割り当て 第 8 回 Unit 10 Switzerland、Reading 第 9 回 Unit 10 つづき、Episode 課題割り当て 第 10 回 Unit 11 Hong Kong、Reading 第 11 回 Unit 11 つづき、Episode 課題割り当て 第 12 回 Unit 12 The Pope and the Vatican City State、Reading 第 13 回 Unit 12 つづき、Episode 課題割り当て 第 14 回 a まとめ・b 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週火曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞などでテキストの内容の理解を深めたり現時点での状況把握に努めること。別途クラスウェブ上に載せる PDF を参照して、各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。		
5. 教科書 『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues（国際問題のルーツを探る）』 石谷由美子 （南雲堂）		
6. 参考書 特に定めない。関連記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 政 (3)	1 単位	熊田 和典
2022～2025 年度入学者 英語 I b 政 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 現在社会で起こっている世界の諸問題を扱っている AFP のニュースを教材に使い、英語の総合的な力の向上を目指す。各課では、AFP のニュースを学習するとともに、同一のテーマを扱った英文を読んで、英語を聴く力、読む力、文法力、語彙力、表現する力を養う。扱うテーマは、ノートルダム大聖堂再生、福祉国家スウェーデンにおいて増える貧困、都市を捨てて陶芸に生きる中国の若者たちの選択、消えゆくフィリピンの伝統的な乗り物ジープニー、韓国ドラマ観光ブームの舞台裏、NASA 火星探査とエウロパ計画である。 現代社会の問題を扱った英語の教材を学習することを通して、将来専門教育や社会の要求に応えるための土台となる総合的な英語力を養成することをこの授業の目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回 インTRODakション（春学期の英語 I a の授業の復習、秋学期英語 I b の授業に向けての導入など） 第 2 回 Lesson 7 Notre-Dame Cathedral: Risen from the Ashes: Listening の解釈 第 3 回 Lesson 7 Notre-Dame Cathedral: Risen from the Ashes: Reading の解釈 第 4 回 Lesson 8 Sweden Grapples with Poverty: Listening の解釈 第 5 回 Lesson 8 Sweden Grapples with Poverty: Reading の解釈 第 6 回 Lesson 9 Chinese Youths Trade City Rat Race for Pottery: Listening の解釈 第 7 回 Lesson 9 Chinese Youths Trade City Rat Race for Pottery: Reading の解釈 第 8 回 Lesson 10 Philippine Jeepneys Face Uncertain Future: Listening の解釈 第 9 回 Lesson 10 Philippine Jeepneys Face Uncertain Future: Reading の解釈 第 10 回 Lesson 11 From Screen to Reality: South Korea K-Drama Tourism Boom: Listening の解釈 第 11 回 Lesson 11 From Screen to Reality: South Korea K-Drama Tourism Boom: Reading の解釈 第 12 回 Lesson 12 NASA Mars Exploration and Europa Mission: Listening の解釈 第 13 回 Lesson 12 NASA Mars Exploration and Europa Mission: Reading の解釈 第 14 回 a. 講義（重要事項の確認、補足） b. 期末試験 * 講義内容、進度には必要に応じて若干変更を加えることがある。		
3. 履修上の注意 英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。 辞書を必ず携行すること。（電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。） 遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては、教科書の該当箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、意味がわからない部分を特定し、その部分を辞書で調べておくことは不可欠である。音声はあらかじめ何度も聴いて授業に臨むこと。復習としては、理解が及ばなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読んでみる。音声も何度も聴いて、音声だけでも内容が理解できるように努めていただきたい。		
5. 教科書 『AFP World News Report 8—AFP ニュースで見る世界 8—』 宍戸真、Kevin Murphy、高橋真理子（成美堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の講評については、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（70%）と小テスト（単語テスト）（30%）で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。定期試験ではリスニングの形式では出題しない。		
9. その他 オフィスアワー：火曜日 10:40～17:10 の授業外の時間（中央校舎 3 階講師控室） 連絡先：メールアドレスを初回の授業で伝える。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 政 (4)	1 単位	瀬端 睦
2022～2025 年度入学者 英語 I b 政 (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 英文法の基礎を復習しながら大学生に必要な英語コミュニケーションスキルを身につけ、4 技能の基礎固めを目指す。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。 《授業の概要》 50's～現代までの洋楽を聴きながら、歌の歌詞や歌に関するエッセイを読み、歌に関する会話を聞いていく。歌の歌詞を理解すると同時に、その歌詞が書かれた歴史的・社会的背景を理解し、それに対する自分の意見を英語で発信できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業の進め方、辞書の使い方、成績評価の仕方など） b：Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters)：歌詞の理解 第 2 回 Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters)：仮定法過去 第 3 回 Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters)：読解・会話リスニング 第 4 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel)：to 不定詞の形容詞的用法 第 5 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel)：読解 第 6 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel)：会話リスニング 第 7 回 Greatest Showman 鑑賞 第 8 回 “This Is Me” 歌詞解説、映画の会話リスニング 第 9 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You (Stevie Wonder)：to 不定詞の副詞的用法 第 10 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You (Stevie Wonder)：読解 第 11 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You (Stevie Wonder)：会話リスニング 第 12 回 What Makes You Beautiful (One Direction)：歌詞理解 第 13 回 What Makes You Beautiful (One Direction)：読解 第 14 回 a：授業内容のまとめ b：期末試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 今回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 歌詞の意味と文法、リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてくること。歌を繰り返し聞いて、聞き取り、意味が分かるようにすること。		
5. 教科書 『ソングス＆カルチャー』関戸冬彦ほか著（朝日出版社）		
6. 参考書 英語辞書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 期末試験 60%＋平常点（授業への取り組み、課題など）40%で総合評価する。		
9. その他 オフィスアワー：授業後に対応する sebatamu@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 政 (5)	1 単位	下永 裕基
2022～2025 年度入学者 英語 I b 政 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「日常の英語力」と「未知を読むための英語力」 春学期の英語 I a に引き続き、Reading Material の種類に応じた読み方を模索する。未知を読む訓練として、とくにフィクションも取り入れたい。英文の印刷されたハンドアウトを配布する。基本方針は「訳読方式」なので、学生はその英文を徹底して予習し、授業に臨めばよい。授業では冒頭に発音アクセントのトレーニングや速読即解なども取り入れることがある。 《到達目標》 この授業では、できるだけ多くの英文に触れ、英語を読むことの楽しさを再発見してもらいたい。英語は暗号ではなく、ことばである。ことばを大切に読む方法を探っていきたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a) 速読即解 b) 夏休みについての英作文課題 第 2 回：Reading Material 7：未知の領域 3 第 3 回：Reading Material 7：未知の領域 4 第 4 回：Reading Material 8：言語 5 第 5 回：Reading Material 8：言語 6 第 6 回：Reading Material 9：文化 5 第 7 回：Reading Material 9：文化 6 第 8 回：Reading Material 10：宗教 3 第 9 回：Reading Material 10：宗教 4 第 10 回：Reading Material 11：文化 6 第 11 回：Reading Material 11：文化 8 第 12 回：Reading Material 12：言語 7 第 13 回：Reading Material 12：言語 8 第 14 回 a) 学期末試験 b) 解説とふり返り * 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。 * 授業の一部をディクテーション課題に充てることがある。		
3. 履修上の注意 辞書を携行すること（電子辞書可）。 遅刻厳禁。 予習前提。比較的難しめの長い英文を扱うが、授業の進行はゆっくりなので、予習が追いつかない事態にはならないはず。 授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。		
5. 教科書 Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立てます。		
8. 成績評価の方法 良好な出席状況（授業回数の 3 分の 2 以上）が、期末試験を受けるための必須条件である。 そのうえで、定期試験 80%、授業への積極性・リアクション・課題等 20%。		

9. その他

研究室は3号館4階，3-405にある。

オフィスアワー：火曜 16 時～17 時。水曜 13 時 30 分～16 時。

オフィスアワー以外でも，在室時には可能な限り，対応します。

業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先＝ ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 化 (1)	1 単位	伊達 恵理
2022～2025 年度入学者 英語 I b 化 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「総合英語」 この授業では、文化論を扱った教科書 TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity を用い、Ib では民主主義という制度、結婚と国家の関係、祈りの意味、人間にとって笑いとは何かをトピックとした4つの Reading を、速読・精読を交えて扱います。本文の読解・論旨の把握とともに、CD の音声聞き取りによって耳から英文の内容に馴染み、各 Reading に即したテキストの設問によって内容・語彙理解の確認、ライティング力の向上を図ります。各 Reading につき、テキストのより深い内容理解の一助としてプリント教材を配布し、必要に応じて映像資料の提示などを行います。 《授業の到達目標》 高校までに習得した英語力の上に立ち、大学レベルで必要とされる英語リーディング、リスニング、ライティングの基礎力を総合的に養うことを目的とします。特にこの授業では、論理的な英文読解の基礎技能、文法力・語彙力を向上させ、英語論説記事の内容・情報を的確に読みとるための土台作りを目標とします。		
2. 授業内容 第1回： Introduction 第2回： How Democracy Works (1) Reading 本文読解① 第3回： How Democracy Works (2) Reading 本文読解② 第4回： How Democracy Works (3) Reading 本文読解③・テキスト設問 第5回： Marriage and the State (1) Reading 本文読解① 第6回： Marriage and the State (2) Reading 本文読解② 第7回： Marriage and the State (3) Reading 本文読解③・テキスト設問 第8回： The Meaning of Prayers (1) Reading 本文読解① 第9回： The Meaning of Prayers (2) Reading 本文読解② 第10回： The Meaning of Prayers (3) Reading 本文読解③・テキスト設問 第11回： Mankind and Laughter (1) Reading 本文読解① 第12回： Mankind and Laughter (2) Reading 本文読解② 第13回： Mankind and Laughter (3) Reading 本文読解③・テキスト設問 第14回： a. 試験 b. まとめ * 講義の進度は必要に応じ変更することがあります		
3. 履修上の注意 テキストの内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとういでしょう。 授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 [予習] 授業では、各 Unit の初めに Reading 本文の内容理解・構成整理のための課題プリントを配布し、教員がそれらに基づいた質問・解説を行う形で Reading 本文の読解を進めます。課題プリントおよび各 Unit に設けられたテキストの練習問題に解答した上で、それらの設問以外の箇所についても疑問点があれば明らかにできるよう、単語・成句や構文を含めて Reading 本文を十分に読み込み、パラグラフの論旨を把握して授業に備えて下さい。 [復習] 授業で各パラグラフ内の文章構成・内容、論旨の展開を確認した後は、Reading 全体の中で各パラグラフの担う役割・関係性を理解し見通せるよう、復習すること。また、各パラグラフで学んだ語彙・成句について、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。		
5. 教科書 TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity 『多元文化論エッセイ - 響き合う文化たち』 Christopher Belton, 小田島恒志著（金星堂）		
6. 参考書 なし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各 Unit の予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。Oh-o!Meiji を通じて出された練習問題等については、Oh-o!Meiji 上にて解説を行います。		

8. 成績評価の方法

定期試験 60%，平常点（課題の提出とその内容，出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度，小テストなどの成績）40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。（欠席は3回まで）

9. その他

- ・オフィスアワー：木曜日 12：50～13：20 中央棟 3F 講師控室
- ・質問・連絡は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡窓口として Oh-o!Meiji 「アンケート」を使用します。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 化 (2)	1 単位	中村 美帆子
2022～2025 年度入学者 英語 I b 化 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 「英語 4 技能の向上」 《授業の概要》 NHK の英語ニュースを教材として、英語の 4 技能（Listening, Speaking, Reading, Writing）を総合的に高める。ニュースを視聴して内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。その他の映像資料や新聞・雑誌記事等も併用する。 《到達目標》 1. 語彙や表現を習得する。 2. 時事問題に関する知識を得て、多方面から検討できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Unit 2-1（Japanese Firms Switching to English Amid Engineer Shortage） 第 3 回：Unit 2-2 第 4 回：Unit 4-1（Japanese Family Steps Up to Support Evacuee） 第 5 回：Unit 4-2 第 6 回：小テスト 1、まとめ 第 7 回：Unit 9-1（A Sea Turtle’ s Tale） 第 8 回：Unit 9-2 第 9 回：Unit 10-1（“Robot Cafe” Showcases AI’ s Potential） 第 10 回：Unit 10-2 第 11 回：小テスト 2、まとめ 第 12 回：Unit 13-1（Wood Would Do） 第 13 回：Unit 13-2 第 14 回：a. 試験、b. まとめ		
3. 履修上の注意 1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 2. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。 3. この授業では教科書から 5 つの unit を選んで使用する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1 時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1 時間）。		
5. 教科書 『NHK NEWSLINE 7 / 映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本 7』、山崎達朗 他編著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。		
6. 参考書 資料を適宜配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%		
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 化 (3)	1 単位	狩野 晃一
2022～2025 年度入学者 英語 I b 化 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 高等学校までの英語学習を基礎として、高度な総合的な英語運用を目指す。 《授業の概要》 さまざまなタイプの英文を読み、英文のみならずそこに書かれた内容の理解に努める。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：History of Science (1) 第3回：History of Science (2) 第4回：History of Science (3) 第5回：History of Science (4) 第6回：History of Science (5) 第7回：History of Science (6) 第8回：History of Science (7) 第9回：History of Science (8) 第10回：History of Science (9) 第11回：History of Science (10) 第12回：History of Science (11) 第13回：History of Science (12) 第14回：まとめ、期末試験		
3. 履修上の注意 予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（20 分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40 分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。		
5. 教科書 授業内でプリントを配布する。		
6. 参考書 授業内で適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。		
9. その他 オフィス・アワー：木曜日・昼休み 英語第Ⅱ研究室（3 号館 404 号室）		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 化 (4)	1 単位	小嶺 智枝
2022～2025 年度入学者 英語 I b 化 (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「4 技能向上を目指す」 リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングなど、各技能の向上を総合的に目指します。 《授業の概要》 多様なトピックを扱ったリーディング活動、シャドーイング、ロールプレイイング、ダイアログなど、様々な練習を通して英語能力の向上を目指します。学習した内容に応じてペアやグループで会話プラクティスやディスカッションを行います。		
2. 授業内容 第 1 回：Unit 7 第 2 回：同上 第 3 回：Unit 8 第 4 回：同上 第 5 回：Unit 9 第 6 回：同上 第 7 回：Unit 10 第 8 回：Mid-term test/同上 第 9 回：Unit 11 第 10 回：同上 第 11 回：Unit 12 第 12 回：同上 第 13 回：Unit 13、発表 第 14 回：a まとめ b. 学期末試験 * 講義内容や Unit の順番は必要に応じて変更になる場合がある。		
3. 履修上の注意 ペア・グループワークを多く取り入れます。積極的姿勢で授業に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading passage の予習を必ず行うこと。		
5. 教科書 Goro Yamamoto, Jonathan Brown, SDGs and Challenges We Face（松柏社）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験 50％、平常点（出席、小テスト、授業貢献度などを含む）50％の総合評価		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 化 (5)	1 単位	樋渡 さゆり
2022～2025 年度入学者 英語 I b 化 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 「(5) 総合英語」 《授業の概要》 総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を高め、後半の Module b では論説文のリーディングを行う。リーディングテキストの内容は、英国文化の諸相をアカデミックな視点から読み解くエッセイであり、4つの柱として「多様性」、「コミュニケーション」、「制度・組織」、「コモン・センス（常識）」を置いている。テキスト難易度は、出版社の判断では TOEIC 500-600 点レベル 《到達目標》 論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解定着などを目標とする。大学での研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターンの構築を目指す。		
2. 授業内容 第1回：Module a のみ： イントロダクション 第2回：リーディング（英語 I a (5) の続きから基本的には章立て順に講読する）／Listening & Stage 9 第3回：リーディング／L&V Stage 10 第4回：リーディング／L&V Stage 11 第5回：リーディング／L&V Stage 12 第6回：リーディング 第7回：リーディング／L&V Stage 13 第8回：復習と補足 第9回：リーディング／L&V Stage 14 第10回：リーディング／L&V Stage 15 第11回：リーディング 第12回：リーディング 第13回：リーディング 第14回：a: 定期試験／ b: まとめ ＊リーディングのテキストは、秋学期は Chapter 11, 13-15, 9 の順に精読する		
3. 履修上の注意 春学期 英語 IIa (5) から継続履修。再履修の場合は春学期シラバスを参照し、テキストは授業開始前に個人注文で入手のこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Module a: 事前に各自でリスニングを行い、予習してくる。授業では答え合わせから始める。復習によってヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身につける Module b: テキストの指定された範囲を辞書を用いて予め読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認し、補足して理解を深める		
5. 教科書 Module a: 『TOEIC TEST 基本単熟語チェック 550 点レベル』 西谷恒志・吉塚弘・マイケル・シャワティ（音羽書房鶴見書店） Module b: 『Aspects of British Culture: Academic Approaches』 Harada, Houwen, Morita.（金星堂） ＊いずれも音声 URL 有り		
6. 参考書 『プログレッシブ英和中辞典』（小学館） 『リーダーズ英和辞典』（研究社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出は原則としてクラスウェブを利用。フィードバックはクラスウェブのコメント欄で返す、授業展開に取り入れる、などの方法をとる		
8. 成績評価の方法 定期試験実施日を含めた授業実施回数の 2／3 以上に出席している履修者を評価対象とします 定期試験 70%、平常点（出席状況・課題提出など）30%で評価します 出席状況を記録・認識しておくこと。良好な出席状況が前提となります		

9. その他

1. 連絡方法→クラスウェブ上の連絡欄

2. オフィスアワー→質問対応は授業中または終了時（面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとってください）

場所： 英語第Ⅰ研究室（第一校舎 3号館 4階 403）

時間： 在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 生 (1)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 英語 I b 生 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜英語の運用能力を高める＞ 現代社会における世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。 《授業の概要》 春学期と同じテキストを使用する。Unit 7 から開始予定だが、正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。テキストに沿って基本的に 2 回の授業で 1 つの Unit を進め、Unit12 まで終了することを目指す。授業 2 回で Reading の英文を読み、毎回テキストに付随した問題を出題する。テキストの Episode に関しては、課題として決められた範囲を各自で読んで付随した問題を解く。Reading、Episode どちらの課題ともに授業中にフィードバックをする。学生の要望やテキストのトピックにあわせて必要に応じて補足的なプリントを配布して読み、リーディング能力の増強をする。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（授業方法・Unit の導入） 第 2 回 Unit 7 Basques、Reading 第 3 回 Unit 7 つづき、Episode 課題割り当て 第 4 回 Unit 8 Korea、Reading 第 5 回 Unit 8 つづき、Episode 課題割り当て 第 6 回 Unit 9 Romani、Reading 第 7 回 Unit 9 つづき、Episode 課題割り当て 第 8 回 Unit 10 Switzerland、Reading 第 9 回 Unit 10 つづき、Episode 課題割り当て 第 10 回 Unit 11 Hong Kong、Reading 第 11 回 Unit 11 つづき、Episode 課題割り当て 第 12 回 Unit 12 The Pope and the Vatican City State、Reading 第 13 回 Unit 12 つづき、Episode 課題割り当て 第 14 回 a まとめ・b 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週金曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞などでテキストの内容の理解を深めたり現時点での状況把握に努めること。別途クラスウェブ上に載せる PDF を参照して、各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。		
5. 教科書 『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues（国際問題のルーツを探る）』 石谷由美子 （南雲堂）		
6. 参考書 特に定めない。関連記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 生 (2)	1 単位	中須賀 稚子
2022～2025 年度入学者 英語 I b 生 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「総合英語」 春学期に続き、同じテーマのテキストを読み進める。微妙なニュアンスまで読み込めることに加え、速さも同時に目指したい。 《授業の概要》 英語の構成，構文，語法，関連語彙を理解しながら，エッセイの内容とその背景を学んでいく。		
2. 授業内容 第 1 回： a ガイダンス b 第 7 課 機械の台頭 1 回目 第 2 回： 第 8 課 野生の呼び声 第 3 回： 第 9 課 打ち上げ準備完了 第 4 回： 第 10 課 心の目 第 5 回： 第 11 課 選挙戦の動向 第 6 回： 第 12 課 武力行使 第 7 回： 第 13 課 民主主義の理想 第 8 回： 第 14 課 宣戦布告 第 9 回： 第 15 課 運任せ 第 10 回： 第 16 課 世界の始まり 第 11 回： 第 17 課 深みをのぞき込む 第 12 回： 第 18 課 自由意志は錯覚なのか？ 第 13 回： 第 19 課 命運尽きて 第 14 回 a：第 20 課 俯瞰的に見る b：到達度確認試験 履修した学生の希望があれば、中間試験を実施することもあり得る ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 教室に辞書（スマートフォンの辞書は内容が不十分なため望ましくない）を持って出席するようにしてください 春学期 英語 Ia（中須賀）の項を参照のこと 以下の 3 点をご確認ください。 1 授業中にはむやみに教室を抜け出ないこと、 2 教科書は必ず買って、コピーで授業を受けないこと、 3 出席と課題は不可分であること （課題の期限は、授業後 4～5 日となっています。 遅れての提出は一切無効とさせていただきます。） 春学期のシラバスを参照してください。 呉々も気を付けて下さい		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 知らない語句は辞書を引き意味や用法を調べておくこと。		
5. 教科書 Rethinking the World--Dare to Know--（成美堂、2023）		
6. 参考書 授業内で指示する		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中須賀 英語 Ia 春学期の項を参照の事		
8. 成績評価の方法 筆記試験 60%（授業内及び期末を予定）、課題提出や授業への取り組み 40%、トータル 100%のうち、60%以上を取れた場合に単位認定となります。		

詳細は中須賀 英語 I a（中須賀）を参照のこと
また、中須賀 英語 I a のシラバスでも述べた通り、欠席が授業回数の 3 分の 1 を超えると、受験資格を失うことも、
念を押しておきます。

9. その他

オフィス・アワー：金曜日の昼休み いずれかの講師控室
または
oh-o.meiji システムのメッセージ機能やメール、または授業後にコンタクトを取ってください
nakasuka@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 生 (3)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 英語 I b 生 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 英語は道具（ツール）である、といえます。もちろん意思疎通のためのツールでもあります。学修をより深く、広く、高くするためのツールでもあります。もし英語のスキルが上がれば、読むことのできる文献の数は増えるでしょうし、より深く理解することもできるでしょう。また、自分の考察をより適切に表現することもできるはずです。多くの先輩たちが「学生時代にやっておけばよかったこと」として「語学」を挙げていることから、語学は大学生にとって必要な学習であると言えるでしょう。 語学には 4 つの技能が関係すると言いますが、この授業では主に「リスニング」と「リーディング」に主眼をおきます。これは、研究を進めていく上での情報収集の基礎となります。教科書の素材をベースとして様々な素材に手を広げ、興味関心の幅を広げるとともにスキルアップも図ります。 秋学期は、春学期の成果を踏まえてより多くの英文を読み解きます。教科書の英文を基礎として、それに関連した様々な英文を用意します。英文に対する様々な読み方も練習します。 《授業の達成目標及びテーマ》 1) 英文を自力で聞き取ることができるようになること 2) 英文を自力で読み取ることができるようになること		
2. 授業内容 第 1 回： a. 春学期の振り返り b. 秋学期に向けての準備学習 第 2 回： Unit 7-1 a. Listening b. Short Reading 第 3 回： Unit 7-2 a. Reading b. 発展学習 第 4 回： Unit 8-1 a. Listening b. Short Reading 第 5 回： Unit 8-2 a. Reading b. 発展学習 第 6 回： Unit 9-1 a. Listening b. Short Reading 第 7 回： Unit 9-2 a. Reading b. 発展学習 第 8 回： Unit 10-1 a. Listening b. Short Reading 第 9 回： Unit 10-2 a. Reading b. 発展学習 第 10 回：Unit 11-1 a. Listening b. Short Reading 第 11 回：Unit 11-2 a. Reading b. 発展学習 第 12 回：Unit 12-1 a. Listening b. Short Reading 第 13 回：Unit 12-2 a. Reading b. 発展学習 第 14 回： a. 期末試験 b. 総括と今後の学習の指針		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業回数の 3 分の 1 を超える欠席（5 回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 語学は実技科目です。聞くにせよ読むにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Listening（各ユニットの Part 1） 予習：特になし。 復習：英文の意味が理解できるまで付属の音声ファイルを聞くこと、シャドーイングなど声に出して練習すること。 Reading（各ユニットの Part 2） 予習：教科書の文章に目を通し、分からない単語は調べておくこと。分かる箇所と分からない箇所の区別をしておくこと。 復習：英文の意味が理解できるまで付属の音声ファイルを聞くこと、音読すること。		
5. 教科書 『English for Science（役に立つ科学技術英語）』南雲堂 ※この教科書は春学期「英語 I a 生（3）」から継続して使用します。		
6. 参考書 未知の英文を読んだり、母語でない言語の文章を書いたりするのに辞書が必要なのは言うまでもありません。もし手元に英和辞典と和英辞典があるのなら、ひとまずそれらを教室に持ってきてください。学習を続けていくうちに手持ちの辞書では歯が立たないと感じたり、何かしら不便に思ったりすることがあるはずです。その時にこそ、どのような辞書が自分にとって必要なのかを考え、新しい辞書の購入を検討しましょう。		

また、英文法の解説書も学習には必携です。高等学校で使っていたものが手元にあれば、ひとまずそれを活用しましょう。持っていない場合は、これを機に一冊手に入れておきましょう。一般的な高校生が使用する英文法の概説書でかまいません。分からなかったところ、または間違えたところは調べて確認する癖をつけましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や作文など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 生 (4)	1 単位	済藤 葵
2022～2025 年度入学者 英語 I b 生 (4)		
1. 授業の概要・到達目標 ・ 2 週で 1 ユニットを扱います。TOEIC の練習問題を解き、TOEIC の傾向と対策を学びます。 ・ 授業の詳細については、シラバスの補足や初回授業で説明を行います。		
2. 授業内容 第 1 回：TOEIC 練習問題 第 2 回：Unit 10: Meetings 第 3 回：Unit 10: Meetings 第 4 回：Unit 11: Finance 第 5 回：Unit 11: Finance 第 6 回：Unit 12: Offices 第 7 回：Unit 12: Offices 第 8 回：Unit 13: Daily Life 第 9 回：Unit 13: Daily Life 第 10 回：Unit 14: Sales & Marketing 第 11 回：Unit 14: Sales & Marketing 第 12 回：Unit 15: Events 第 13 回：Unit 15: Events 第 14 回：授業内試験		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者は毎回、十分な準備をした上で自分の疑問点をはっきりとさせて授業に臨むこと。当然ながら、テキストや事前に配布したプリント等、予習可能な教材に関しては、しっかりと目を通し、予習した上で出席すること。		
5. 教科書 Score Booster for the TOEIC L&R Test Intermediate 番場直之、小山克明著 金星堂、ISBN：978-4-7647-4090-7		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ・ 授業参加点 20% ・ 小テスト（3 回）（オンライン授業がある場合はオンライン課題も含みます） 30% ・ 授業内試験 50% ＊ 詳細は初回授業時に説明します。		
9. その他 連絡先：初回授業時に指示します。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語 I b 生 (5)	1 単位	狩野 晃一
2022～2025 年度入学者 英語 I b 生 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 高等学校までの英語学習を基礎として、高度な総合的な英語運用を目指す。 《授業の概要》 さまざまなタイプの英文を読み、英文のみならずそこに書かれた内容の理解に努める。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：History of Science (1) 第3回：History of Science (2) 第4回：History of Science (3) 第5回：History of Science (4) 第6回：History of Science (5) 第7回：History of Science (6) 第8回：History of Science (7) 第9回：History of Science (8) 第10回：History of Science (9) 第11回：History of Science (10) 第12回：History of Science (11) 第13回：History of Science (12) 第14回：まとめ、期末試験		
3. 履修上の注意 予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（20 分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40 分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。		
5. 教科書 授業内でプリントを配布する。		
6. 参考書 授業内で適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。		
9. その他 オフィスアワー：木曜日・昼休み 英語第Ⅱ研究室（3 号館 404 号室）		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 農(1)	1 単位	中須賀 稚子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 農(1)		
1. 授業の概要・到達目標 昨今の大学生にとって、英語はいろいろな意味において必要不可欠であると言われている。一介の英語教師として、学生に、英語を楽しんでもらいたい、という思いは強いが、それぞれのニーズが異なる故、すべての学生がハッピーな授業はなかなか困難であるのが実情である。 今回のテキストは、英語を読みつつも、その内容が若い学生に何かを考えさせるきっかけとなれば、幸いである。 具体的には、様々なものの見方を与えてくれる内容の英文を、細かいニュアンスまで含めて、理解できることが目標である。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。 《授業の概要》 テキストだけに頼らずにさまざまな英語に触れ、自分で自分の理解度を確認しながらゆっくり、しかし確実に前進していく。授業では、学生が発表し、教師は補足・解説を加える。自発的学習が大いに期待されるクラスである。		
2. 授業内容 第 1 回：a イントロダクション b プリントを用いた演習 第 2 回：第 1 課 芸術の重要性 1 回目 第 3 回：同 2 回目 第 4 回：第 2 課 栄誉の証 1 回目 第 5 回：同 2 回目 第 6 回：第 3 課 ポップソングの力 1 回目 第 7 回：同 2 回目 第 8 回：第 4 課 面白いことわざ 1 回目 第 9 回：同 2 回目 第 10 回：第 5 課 笑いの絶叫 1 回目 第 11 回：同 2 回目 第 12 回：第 6 課 外はジャングル 1 回目 第 13 回：同 2 回目 第 14 回：a： まとめ b： 試験 授業内容は、進行状況に応じて変更もあり得る。 最初は少しずつ、だんだん読むスピードを上げていく予定です 履修した学生の希望があれば、中間試験等を実施することもあり得る		
3. 履修上の注意 必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。 興味を持っていただけるのが一番です。 授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。 自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください。 また、授業では課題をご提出頂きますが、授業に出席したが課題は未提出、授業は休んだが課題は提出した、という状況は、欠席扱いとなります。 授業出席と課題提出の二つを合わせて「出席」扱いとなります。 2 つ、お願いがあります。 その 1 授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。 教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、授業中の教室の出入りは、基本的には不可です。自分の体を制御してください その 2 教科書は必ず購入してください。 そして、必ず教科書をもって授業に出席してください。 コピー（その他写メ等）で授業に出席している場合、欠席扱いとします。 中須賀のクラスでは、コピーで授業に出席しても、出席とはみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に分らない点を自分なりにはっきりさせ、授業中は不明だった部分を解決し、帰宅後はその部分を中心に、確認作業を行うこと。		

5. 教科書

Grand Your--Future Paths (成美堂, 2026)

6. 参考書

授業内で指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて全体に、または個別に、対面で、もしくはポートフォリオを通して行う

8. 成績評価の方法

筆記試験(授業内及び期末を予定)で 60%, 課題提出や授業内での評価(出席点ではない) 40%, 計 100% で評価を決定する。総合で 60% 以上に単位を認定する。

欠席は 4 回を超えた時点で受験資格を失う。

遅刻は 3 回で欠席 1 回とするので、遅刻をしないよう気を付けること。

つまり、4 回欠席した後、遅刻一回で受験資格を失います。

また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください。

授業に出席したが課題は未提出、または、授業は欠席したが課題は提出、という場合、欠席扱いとなります。

課題の期限は、授業後 4 ~ 5 日となっています。

学期末等で、課題の締め切りが通常とは異なることもあり得ます。

提出が遅れることは、自己責任なので、必ず毎回自分で確認するようにお願いします。

遅れての提出は一切無効とさせていただきます。

9. その他

オフィスアワー: 金曜日 12:45~13:15 (いずれかの講師控え室)

または

oh-o.meiji システムのメッセージ機能やメール、または授業後にコンタクトを取ってください

nakasuka@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 農(2)	1 単位	狩野 晃一
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 農(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 高等学校までの英語学習を基礎として、高度な総合的な英語運用を目指す。 《授業の概要》 さまざまなタイプの英文を読み、英文のみならずそこに書かれた内容の理解に努める。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：History of Science (1) 第3回：History of Science (2) 第4回：History of Science (3) 第5回：History of Science (4) 第6回：History of Science (5) 第7回：History of Science (6) 第8回：History of Science (7) 第9回：History of Science (8) 第10回：History of Science (9) 第11回：History of Science (10) 第12回：History of Science (11) 第13回：History of Science (12) 第14回：まとめ、期末試験		
3. 履修上の注意 予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（20 分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40 分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。		
5. 教科書 授業内でプリントを配布する。		
6. 参考書 授業内で適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。		
9. その他 オフィスアワー：木曜日・昼休み 英語第Ⅱ研究室（3 号館 404 号室）		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 農(3)	1 単位	済藤 葵
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 農(3)		
1. 授業の概要・到達目標 ・2週で1ユニットを扱います。ニュース動画を使用し、リスニング力向上を目指します。 ・授業後半では、TOEIC のリスニング練習問題を解き、TOEIC の傾向と対策を学びます。練習問題プリントは教員が用意するため、TOEIC の指定教科書はありません。 ・授業の詳細については、シラバスの補足や初回授業で説明を行います。		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 Unit 1: Baseball in Japan 第3回 Unit 1: Baseball in Japan 第4回 Unit 2: Restaurant Robot 第5回 Unit 2: Restaurant Robot 第6回 Unit 3: Keeping Food Fresh 第7回 Unit 3: Keeping Food Fresh 第8回 Unit 4: The Metaverse 第9回 Unit 4: The Metaverse 第10回 Unit 6: Successful Football Player 第11回 Unit 6: Successful Football Player 第12回 Unit 7: Bringing Back Oysters to Hong Kong 第13回 Unit 7: Bringing Back Oysters to Hong Kong 第14回 授業内試験		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者は毎回、十分な準備をした上で自分の疑問点をはっきりとさせて授業に臨むこと。当然ながら、テキストや事前に配布したプリント等、予習可能な教材に関しては、しっかりと目を通し、予習した上で出席すること。		
5. 教科書 CNN 10 Student News 関戸冬彦、小暮正人、Jake Arnold、Christopher Mattson 著 朝日出版社、ISBN：978-4-255-15711-5		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ・授業参加点 20% ・小テスト（2回）（オンライン授業がある場合はオンライン課題も含みます） 20% ・授業内試験 60% * 詳細は初回授業時に説明します。		
9. その他 連絡先：初回授業時に指示します。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 農(4)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 農(4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜英文読解力と語彙力の強化＞ 社会、文化、歴史、芸術など、人類に共通する様々な普遍的テーマに関する英文エッセイを読み、異文化理解や内容を正確に読み取る読解力、語彙力の増強を図る。 《授業の概要》 上記の目的・目標のために、基本的にテキストに沿って 2 回の授業で 1 つの Unit を進め、Unit 6 もしくは進度によっては Unit 7 までを目標とする。前半回、後半回ともに Unit 付属の問題の決められた箇所を課題として出題する。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なリーディングのプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（授業方法・テキストの説明） 第 2 回 Unit 1 The Concept of Beauty (1) 第 3 回 Unit 1 The Concept of Beauty (2) 第 4 回 Unit 2 Greek Mythology (1) 第 5 回 Unit 2 Greek Mythology (2) 第 6 回 Unit 3 The Bible (1) 第 7 回 Unit 3 The Bible (2) 第 8 回 Unit 4 Renaissance (1) 第 9 回 Unit 4 Renaissance (2) 第 10 回 Unit 5 The Structure of Fictional Literature (1) 第 11 回 Unit 5 The Structure of Fictional Literature (2) 第 12 回 Unit 6 The Theater and Acting (1) 第 13 回 Unit 6 The Theater and Acting (2) 第 14 回 a: 授業内容のまとめ b: 確認テスト ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週金曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞、書籍などでテキストの内容の理解を深めること。		
5. 教科書 『TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity（多元文化論エッセイ響き合う文化たち）』 Christopher Belton、小田島恒志（金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。各 Unit の関連書籍や記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 農(5)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 農(5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業では、英語に関しては自立した学習者になれるよう、読む、聞く、書く、話すスキルを養います。 大学生にとって必要な語学のスキルは、一つには様々な情報源から情報が得られるようになることであり、これを支えるのがリーディング力とリスニング力です。それを高めるためには、どのようにすれば理解できるようになるのかを考えてトレーニングを続ける必要があります。もう一つは自分の意見を適切に述べられるようになることであり、それを支えるのがライティング力とスピーキング力です。それを高めるためには何らかの形でのアウトプットを続け、それに対するフィードバックを得る必要があります。 教科書掲載内容の他に様々な音声素材や雑誌記事などを提示し、リーディング力とリスニング力の向上に努めるとともに、その内容をペアやグループで共有したり、また自分で文章を書いたりといった作業につなげることでライティング力とスピーキング力の向上もはかります。 得意不得意、好き嫌いの程度に差はあるにせよ、今後も英語学習を続けていくための指針が得られることを期待します。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の達成目標及びテーマ》 1) 中級程度の英文の読み方を身に付け、雑誌記事を理解できるようになること。 2) 中級程度のニュース動画を理解できるようになること。 3) 見たり聞いたりした内容を適切な表現で説明できるようになること。		
2. 授業内容 第 1 回： a. 授業概要の説明 b. 英文を「読む」「書く」ための準備学習 第 2 回： Unit 1-1 a. Listening b. speaking 第 3 回： Unit 1-2 a. reading b. writing 第 4 回： Unit 2-1 a. Listening b. speaking 第 5 回： Unit 2-2 a. reading b. writing 第 6 回： Unit 3-1 a. Listening b. speaking 第 7 回： Unit 3-2 a. reading b. writing 第 8 回： Unit 4-1 a. Listening b. speaking 第 9 回： Unit 4-2 a. reading b. writing 第 10 回： Unit 5-1 a. Listening b. speaking 第 11 回： Unit 5-2 a. reading b. writing 第 12 回： Unit 6-1 a. Listening b. speaking 第 13 回： Unit 6-2 a. reading b. writing 第 14 回： a. 期末試験 b. 総括と今後の学習の指針		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業回数の 3 分の 1 を超える欠席（5 回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading 予習：その週に扱う英文に目を通し、分からない単語を調べておくこと。 復習：英文の意味が理解できるまで読み直すこと、音読すること、付属の音声ファイルを聞くこと。 Listening 予習：特になし 復習：ニュース動画または音声ファイルを理解できるようになるまで聞くこと。 Speaking 予習：配布資料に目を通し、疑問点を整理するとともに自分の考えをまとめること。 復習：配布資料を読み直し、他の人の意見を整理し、自分の意見を作ること。関連する資料を読むこと。 Writing 予習：配布資料に目を通し、疑問点を整理するとともに自分の考えをまとめること。 復習：返却された答案を見直し、修正された箇所を見直すこと。不得手な文法項目を確認しておくこと。		

5. 教科書

『Academic Foundation in English Level 2（理工系学生のための総合英語演習 2）』 センゲージラーニング

※この教科書は秋学期「英語Ⅱ Ⅱ 農（5）」でも継続して使用します。

6. 参考書

未知の英文を読んだり、母語でない言語の文章を書いたりするのに辞書が必要なのは言うまでもありません。もし手元に英和辞典と和英辞典があるのなら、ひとまずそれらを教室に持ってきてください。学習を続けていくうちに手持ちの辞書では歯が立たないと感じたり、何かしら不便に思ったりすることがあるはずです。その時にこそ、どのような辞書が自分にとって必要なのかを考え、新しい辞書の購入を検討しましょう。

また、英文法の解説書も学習には必携です。高等学校で使っていたものが手元にあれば、ひとまずそれを活用しましょう。持っていない場合は、これを機に一冊手に入れておきましょう。一般的な高校生が使用する英文法の概説書でかまいません。分からなかったところ、または間違えたところは調べて確認する癖をつけましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や作文など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 政(1)	1 単位	伊達 恵理
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 政(1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業では、英語リーディングを中心に、併せてパラグラフ・ライティングの基礎固めを行います。多岐にわたる分野の論説を扱った中級～準上級レベルの教科書 Reflect: Reading & Writing 4 を用い、IIa では、社会学、文化考古学、デザイン、科学の各分野を取り上げた教科書前半の 4 Units を扱います。各 Unit につき、ヴァーチャル・コミュニケーションとコミュニティ、文化とその影響力、遊び心とデザイン、ロボット開発の現在と将来をトピックとした記事を、速読・精読を交えて読み進めます。各記事に即したビデオと練習問題によってトピックの内容・語彙理解を深めるとともに、リスニング、読解技術、ライティング技術の基本を確認します。 《授業の到達目標及びテーマ》 1 年次までに習得した英語力の上に立って、主として英語を「読む」力をさらに養い、英語を通じて現代社会や私たちの生活を読み解く情報・知識を身につけることを目指します。大学レベルで必要と考えられる論理的な英文読解の基礎技能、文法力・語彙力を向上させ、長文の英語記事や論説の内容・情報を、パラグラフ構成をしっかりと理解した上で的確に読みとるための土台作りを目標とします。また、ライティングについては、種々の目的に応じたエッセイを書くために必要な文法事項・パラグラフ構成の基礎的技術を習得することを目指します。		
2. 授業内容 第 1 回： Introduction 第 2 回： Unit 1 Worlds within Worlds (1) Video / Reading① Exercises 第 3 回： Worlds within Worlds (2) Reading② 読解, Exercises 第 4 回： Worlds within Worlds (3) Writing / Grammar 第 5 回： Unit 2 Crossing Cultures Video / Reading① Exercises 第 6 回： Crossing Cultures (2) Reading② 読解, Exercises 第 7 回： Crossing Cultures (3) Writing / Grammar 第 8 回： Unit 3 Playing with Design Video / Reading① Exercises 第 9 回： Playing with Design (2) Reading② 読解, Exercises 第 10 回： Playing with Design (3) Writing / Grammar 第 11 回： Unit 4 Our Robot Future Video / Reading① Exercises 第 12 回： Our Robot Future (2) Reading② 読解, Exercises 第 13 回： Our Robot Future (3) Writing / Grammar 第 14 回： a. 試験 b. まとめ * 講義の進捗は必要に応じ変更することがあります		
3. 履修上の注意 テキストの内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、各記事 の内容把握とともに、テキストの設問に対する解答の準備等、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとい良いでしょう。 授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 [予習] 授業は、テキストの各種設問に加えて、各 Unit の初めに教員が英語記事本文の内容・構成の整理のためのプリント教材を配布、受講生にそれらの設問に解答してもらい、教員が解説を加える形で進めます。各 Unit のビデオ・パート、記事のリーディングおよびライティング・パートそれぞれの設問に解答できるよう、前もってビデオのストリーミングを見る、記事本文の単語・成句や構文を含めて丁寧に読み込み、パラグラフの論旨を把握する、ライティングのモデル文やポイントをチェックするなど、十分に準備して授業に臨んで下さい。 [復習] テキストの各パートおよびプリントの設問で不正解だった箇所については、よく見直し、その理由と注意点を再確認して下さい。リーディングの英語記事については、授業で各パラグラフ内の文章構成・内容、論旨の展開を理解した後は、記事全体の中で各パラグラフの担う役割・関係性を見通せるよう、復習すること。また、授業で扱った語彙・成句について、知らなかった語句、忘れていた語句は必ずチェックし、発音も確認・練習して下さい。		
5. 教科書 Reflect: Reading & Writing 4, Christien Lee 著 (National Geographic Learning)		
6. 参考書 なし		

7. 課題に対するフィードバックの方法

各 Unit の予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。Oh-o!Meiji を通じて出された練習問題等については、Oh-o!Meiji 上にて解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%，平常点（課題の提出とその内容，出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度，小テストなどの成績）40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。（欠席は3回まで）

9. その他

オフィスアワー：木曜日 12：50～13：20 中央棟 3F 講師控室

質問・連絡は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡については Oh-o!Meiji 「アンケート」も窓口として使用します。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 政(2)	1 単位	織田 哲司
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 政(2)		
1. 授業の概要・到達目標 ～Economist 誌の記事を読む～ 《授業の概要》 Economist 誌の記事を読む。テキストの内容は科学、文化、政治、経済などできるだけ新しく多岐にわたるトピックを取り上げる。将来的には専門科目における学術論文をも読む準備段階として、英文の構造をしっかりと把握し、それに忠実な日本語訳を作れるようになるための訓練の場とする。また「批判的読解(critical reading)」のセンスを身に付けることも目指す。 1つのトピックを約2週間かけて読む。授業の進む速さは受講者からの質問に答えながら進むのでゆっくりである。 《到達目標》 英語テキストを読むことによって具体的には次の到達目標をバランスよく達成する： 1. 英語で書かれた文章を読んで、主題を把握することができる。 2. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。 3. 言語・歴史・宗教を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 4. 文化に幅広く興味をもち、その価値について討議する。 5. 日本社会の成り立ちについて歴史などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを歴史などの観点から説明できる。 到達目標達成のための学問領域：英語、歴史、宗教、哲学、政治など。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：進化論1ー読解のポイント解説 第3回：進化論2ーテキストの読解 第4回：文化人類学1ー読解のポイント解説 第5回：文化人類学2ーテキストの読解 第6回：未来学1ー読解のポイント解説 第7回：未来学2ーテキストの読解 第8回：認知科学1ー読解のポイント解説 第9回：認知科学2ーテキストの読解 第10回：農業経済学1ー読解のポイント解説 第11回：農業経済学2ーテキストの読解 第12回：社会学1ー読解のポイント解説 第13回：社会学2ーテキストの読解 第14回：a まとめ；b 試験 ※各回のテーマは変更される場合がある。		
3. 履修上の注意 十分な予習、復習と出席というまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃から国際ニュースに触れて、いま世界で何が起きているのかについて絶えず関心を持ち続けることが必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。 1. 英和辞典を活用するー単語を調べる 事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書の余白のみならずノートに記入しておくといよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくといよい。 授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。 とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。 自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているので、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。 2. 百科事典を活用するー単語以外のさまざまな事項を調べる たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、などを百科事典を参照して、自分から進んで調べておくといよい。 以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。 さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。 3. 自分の五官を活用する		

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオやDVDを活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はいつそう楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用してプリントを配付する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

初級者向け：『総合英語フォレスト』石黒昭博（監修）（桐原書店）

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。ただし遅刻 3 回=欠席 1 回と換算する。課題小テスト（Oh-o! Meiji System）30%、試験 50%、授業中のパフォーマンス 20%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第Ⅳ研究室（3 号館 3 階 3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 政(3)	1 単位	中村 美帆子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 政(3)		
1. 授業の概要・到達目標 「英語 4 技能の向上」 《授業の概要》 英語記事を教材として、4 技能（Reading, Listening, Speaking, Writing）を総合的に高める。記事の内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。 《到達目標》 1. 語彙や表現を習得する。 2. 時事問題に関する知識を得て、多方面から検討できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Chapter 1 30 Years of Pokémon’ s Global Success 第 3 回：Chapter 2 All Eyes on the Chimps 第 4 回：Chapter 3 Making Helmets Safe and Cute 第 5 回：Chapter 4 Benefits of Sleeping on the Job 第 6 回：小テスト 1、まとめ 第 7 回：Chapter 5 Cosplaying Going Global 第 8 回：Chapter 6 Resume Photo Influences Hiring Decisions 第 9 回：Chapter 7 Online Pollution Produced by AI 第 10 回：Chapter 8 Finding Plastic Waste from Space 第 11 回：小テスト 2、まとめ 第 12 回：Chapter 9 Quiet Cuts 第 13 回：Chapter 10 Night Schools Open Doors 第 14 回：a. 試験、b. まとめ		
3. 履修上の注意 1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 2. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。 3. この授業では教科書の前半（Chapters 1-10）を使用する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1 時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1 時間）。		
5. 教科書 『Insights 2026 / 世界を読むメディア英語入門 2026』、幸重美津子 他編著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。		
6. 参考書 資料を適宜配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%		
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 政(4)	1 単位	樋渡 さゆり
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 政(4)		
1. 授業の概要・到達目標 「(4) 総合英語」 《授業の概要》 総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を高め、後半の Module b では論説文のリーディングを行う。リーディングのテキストは「食の文化と伝統」を主題とするエッセイであり、グローバル時代における文化の諸相について考えさせる内容である。 《到達目標》 論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解の定着などを目標とする。研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターンの構築を目指す。		
2. 授業内容 第1回：Module b のみ： イントロダクション 第2回：Listening & Vocabulary Stage 1／リーディング 第3回：Stage 2／リーディング 第4回：Stage 3／リーディング 第5回：Stage 4／リーディング 第6回：L & V 復習／リーディング 第7回：L & V Stage 5／リーディング 第8回：リーディングの復習／L & V Stage 6 第9回：L & V Stage 7／リーディング 第10回：Stage 8／リーディング 第11回：L & V 復習／リーディング 第12回：a, b とも：リーディング 第13回：a, b とも：リーディング 第14回：a：定期試験／b： まとめ ＊毎回、履修者の発表に基づいて授業を進める。演習科目の特性上、「履修者の理解到達度を重要視してフィードバックを返すパターン」を反復して授業を展開し、リーディングの進度を最適化する ＊リーディングのテキストは、春学期はUnit 1-4, 6 の順に精読する		
3. 履修上の注意 大学生にふさわしい辞書を使用していることが前提となる 辞書の選び方、使用方法については講義で取り上げる 資料掲示や課題提出、連絡等にクラスウェブを使用する		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Module a： 事前に各自でリスニングを行い、授業では答え合わせから始める。復習を行い、ヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身につける Module b： 指定範囲のテキストを、示されたポイントに注目して読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認・補足して理解を深める		
5. 教科書 Module a： 『TOEIC TEST 必修単熟語チェック 650 点レベル』 西谷・吉塚（音羽書房鶴見書店） Module b： 『Food in Tradition and Culture』 M.Heather Kotake, M. Shikoda, F. SHikoda（成美堂）		
6. 参考書 『プログレッシブ英和中辞典』（小学館） 『リーダーズ英和辞典』（研究社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出はおもにクラスウェブを利用。フィードバックはクラスウェブのコメント欄をとおして各履修者へ返す、授業展開に取り入れる、などの方法をとります		
8. 成績評価の方法 定期試験実施日を含めた授業実施回数の2／3以上に出席している履修者を評価対象とします 定期試験 70%、平常点（リスニング、出席・参加状況、課題提出など）30%で評価します		

各自、出席状況を記録・認識しておくこと。良好な出席状況が前提です

9. その他

1. 連絡方法→クラスウェブ上の連絡欄

2. オフィスアワー→質問対応は授業中または終了時（面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとってください）

場所： 英語第 1 研究室（第一校舎 3 号館 4 階 403）

時間： 在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 政(5)	1 単位	小嶺 智枝
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 政(5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・リーディング・リスニング力を付ける。 ・思考力を養い、自分の意見を述べるスピーキング・ライティング力向上を目指す。 ・英語で発信できるようになるための語学トレーニングを行う。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。 《授業の概要》 難易度中程度の語彙が含まれる Reading Passage を読み、練習問題にて理解度を確認する。会話例を通してリスニングの練習を行う。 Discussion 問題について考え、話し合い、意見を述べる練習を行う。		
2. 授業内容 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：Unit 1 第 3 回：同上 第 4 回：Unit 2 第 5 回：同上 第 6 回：Unit 3 第 7 回：同上 第 8 回：Unit 4 第 9 回：同上 第 10 回：Unit 5 第 11 回：同上 第 12 回：Unit 6 第 13 回：同上、発表 第 14 回：a. まとめ b. 学期末試験 * 講義内容や Unit の順番は必要に応じて変更になる場合がある。		
3. 履修上の注意 ペア・グループワークを多く取り入れます。積極的姿勢で授業に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading passage の予習を行うこと。		
5. 教科書 David Peaty, You, Me and the World -3rd Edition featuring SDGs（金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、平常点（出席、課題の提出、小テスト、授業貢献度などを含む）50%の総合評価		
9. その他 *Smartphones are not allowed unless specifically stated otherwise.		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 化(1)	1 単位	平野 桃子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 化(1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 Reason & Respond—A Critical Thinking Course Level 1 を教材として利用し、英語の 4 技能を使い、伸ばしながら情報を精査し、根拠のある意見を述べられるようにします。ペアワークやグループワークを通して、相手の意見を聞き、それに対する自分の意見を言えるようにします。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の到達目標》 英語を聞き、英語で考え、英語で発言する練習になることを目指します。加えて情報に対して論理的根拠を持って反応し、自分の意見を言えるようにしましょう。		
2. 授業内容 第 1 回 a: イントロダクション（授業の進め方と成績評価基準など） b: 自己紹介／ Introduction: What is Critical Thinking? ＊以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。 第 2 回 Unit1: Facts 第 3 回 Unit1: Facts 第 4 回 Unit2: Opinions 第 5 回 Unit2: Opinions 第 6 回 Unit3: The Art of Listening 第 7 回 Unit3: The Art of Listening 第 8 回 Unit4: Beliefs 第 9 回 Unit4: Beliefs 第 10 回 Unit5: Assumptions 第 11 回 Unit5: Assumptions 第 12 回 Unit6: Bias 第 13 回 Unit6: Bias 第 14 回 a: まとめ b: 期末テスト		
3. 履修上の注意 各回の授業で扱う範囲の予習をして下さい。自身の専攻や分野にとらわれず、様々な主題に触れながら英語を使って幅広い知識を吸収したいという学生を歓迎します。 全日程の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は 3 回で 1 回分の欠席とみなします。また授業開始後 20 分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にテキストを一読し、分からない単語を辞書で調べておいて下さい。授業内で英語を話しますので、単語の意味だけでなく発音やアクセントも必ず確認するようにして下さい。自分に合う学習アプリ等を使って、普段から英語のリスニングをすることを勧めます。		
5. 教科書 Reason & Respond—A Critical Thinking Course Level 1— Andy Boon （金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的に口頭で行います。Oh-o!meiji を使うこともあります。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、プレゼンテーション 20%、授業への参加度 30%で総合的に評価する。		

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 化(2)	1 単位	柏原 俊樹
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 化(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。 《授業の概要》 主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、使われている英語を通じた学習のきっかけとして、随時実践的な［やや難しい］リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。		
2. 授業内容 【第1回】SCENE 1: THORNTON SQUARE 【第2回】SCENE 1: Gregory looks questioningly at Paula. 【第3回】SCENE 1: HOTEL ROOM 【第4回】SCENE 2: THORNTON SQUARE GARDENS 【第5回】SCENE 2: Paula takes out a glove. 【第6回】SCENE 3: NUMBER 9 THORNTON SQUARE 【第7回】SCENE 3: Gregory takes Paula's handbag. 【第8回】SCENE 3: JEWEL ROOM IN THE TOWER 【第9回】SCENE 4: THE PARK OPPOSITE NUMBER 9 THORNTON SQUARE 【第10回】SCENE 4: The Police Commissioner's Office 【第11回】SCENE 5: THE DRAWING ROOM AT NUMBER 9 THORNTON SQUARE 【第12回】SCENE 5: THE ENTRANCE HALL 【第13回】まとめ及び理解度確認試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。 積極的に発言してください（思い込み歓迎）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習は必須。次回の範囲の教科書の文章に目を通しておくこと、各回にメモを取った内容を復習・整理することが望ましい。 リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。		
5. 教科書 ガス灯（開文社出版）		
6. 参考書 英語辞書は、できる限り語源欄の付いているものを使用してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70%）。英語を使うための知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30%）。		
9. その他 第一外国語		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 化(3)	1 単位	大須賀 寿子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 化(3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「英語のどの能力を伸ばしていきたい？」と質問されたら、あなた方はどのように答えますか？きっと多くの人は、「英語を使っている、英語ができる」＝ 「スピーキングがうまくできる」という考えが強いと思います。しかし、すべての基本はリーディングにあります。ゆえに、リーディングというインプットの作業から得た知識、文法事項、語彙などがライティングやスピーキングのアウトプットの作業に生かされていきます。 また私たちも、英語で書かれたホームページにもアクセスする機会や英語でメールを書く機会も増えています。つまり、英語で自分の意見を述べる必要性が増えています。本授業では、英語を読むことを中心にし、その知識を生かし基本的な文章の作成から意見を論理的に書ける、そして伝えられるようにすること、そして専門科目に偏らない広い視野を持つことを目標とします。 《授業の概要》 さまざまな話題を扱った英語教材を読むことによって、専門分野以外の内容にも柔軟な思考を持てるような一助にしたいと思います。また、教材を介して語彙や情報を知り、正確な文法事項を再確認し、そして情報から得た知識などをライティングや リスニング、スピーキングにも応用していきます。読解教材を利用して、英文を暗記し、重要なフレーズを学習し、時には良い文章のサンプルをまねて学ぶことによって、writing の学習やリスニングの練習を進めていくようにします。英文読解を春学期は sentence writing の練習及び文法事項の確認を丁寧にやることを基本として、まとまった内容の英語を書けるようにすることを目標とします その日に学習した表現を使って、writing の練習をしていきます。少しずつでも英文を書くことを習慣づけるようにします。		
2. 授業内容 英文読解を中心に授業を進めていきますが、段落ごとの要約毎回少しずつでも英文を書いていくことを習慣づけるようにします。時々グループワークやペアワークを取り入れていきます。Unit 1つ（2つの読みもの）が終了するたびに小テストを行います。授業の進行状況によって、読む Unit や小テストの日程が変わる場合があります。 (授業内のいずれかに Writing の assignment の作業はあります) 第1回：オリエンテーション, self-introduction 第2回：Unit 1A The Visual Village 第3回：Unit 1 B My Journey in Photographs 第4回：Unit 2 A Living Light 第5回：Unit 2B Feathers of Love 第6回：Unit 3A How Safe is Our Food? 第7回：Unit 3B The Battle for Biotech 第8回：Unit 4A Design by Nature: Biomimetics 第9回：Unit 4B Weaving the Future 第10回：Writing , Notetaking Practice 第11回：Unit 5A The DNA Trail 第12回：Unit 6A How Money Made Us Modern 第13回：Timed Writing 第14回：a: 春学期試験 b: 春学期試験解答と解説 小テストのほかにも、随時授業内で演習を行います。 授業の準備として、Oh-o meiji 上での作業も授業内外でやることになります。		
3. 履修上の注意 oh-o meiji を利用して、資料配布および課題提出、連絡事項をするので必ず確認すること。 また授業中に oh-o meiji 上での作業をやってもらうこともありますので、わからないところをはっきりさせるために、授業には予習をして臨んでください。 教科書で書かれている英文は単語などから見ると、一見簡単そうに見えるかもしれませんが、しかし比喩などもあるので、丁寧に英語を自分で読んでください。翻訳ソフトに本文をかけることは予習ではありません 辞書、とくに英英辞典は必ず持参してください。 授業時には私語以外は積極的に発言したり、授業内作業に取り組んでください。 また、授業以外でも必ず英語を読んだり、書いたりする機会を持つようにしてください。 欠席回数が4回に達した場合には単位を認定しません。 遅刻2回で欠席1回とカウントします。授業開始後20分までの入室を遅刻とみなし、以降は欠席とみなします。 教科書を持参していない場合には欠席とみなします。 途中退室をしたまま、10分以上戻らない場合には欠席とします。 授業中の睡眠時間が多い学生、授業に参加する意思の見られない学生も同じように欠席とみなします 欠席に関して、感染症の罹患による登校停止や長期入院などやむをえない事情がある場合には、必ず申し出ること。 同様に、交通事情などやむをえない事情で遅れた場合は必ず申し出ること 正当な理由と判断できない自己都合による小テストの再受験は一切許可しません。		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む際には、予習を行い教科書および配布された教材を読み、内容を把握しておく。わからない単語などは辞典で調べる。パラグラフごとに、内容をどのようにパラフレーズできるのか考えておきましょう。復習として、授業時に判明したことを見直しましょう。授業で学習する予定の教材を翻訳ソフトにかけた日本語を読むことは予習ではありません。必ず自分で英語を読み、文章を作成すること。

5. 教科書

Reading Explorer 4 Third Edition (National Geographic Learning)

必ず大学内の丸善ブックセンターで購入してください。メルカリなどで購入した場合には版が異なる可能性があります。テキストにはシリアルコードがあります。

6. 参考書

National Geographic

書籍の英和辞典は中辞典以上のもの、そして用例の多いものを勧めます。

授業中は電子辞書を使用してかまいません。場合によってはオンライン上の辞書の使用を認めます。

英語に関する参考書、授業教材の内容に関する参考書は必要に応じて指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は返却時に個別にコメントをして返却します。全体的に間違いが多かった箇所など全員で共有すべき内容は全体に行います。小テストは返却し、全体に向けて答えあわせをしてコメントをします。

8. 成績評価の方法

学期末試験（50％）と平常点（50％：小テスト 20，課題 20，授業時の演習 10 など）を合わせて総合的に評価します。授業回数の 1/3 の欠席回数に達した場合は単位を認定できません。

この授業では、学習を習慣づけるため授業時の作業、そして、普段からの積み重ねが大切なので提出物はどうしても多くなります。

欠席、遅刻、課題の未提出は評価が不利になります。出欠に関する事項は「履修上の注意」を確認してください。

9. その他

出席は各自で管理をしてください。

オフィス・アワー、および教員への連絡は基本的にが授業終了時に教室で対応します。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 化(4)	1 単位	織田 哲司
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 化(4)		
1. 授業の概要・到達目標 -Economist 誌の記事を読む- 《授業の概要》 Economist 誌の記事を読む。テキストの内容は科学、文化、政治、経済などできるだけ新しく多岐にわたるトピックを取り上げる。将来的には専門科目における学術論文をも読む準備段階として、英文の構造をしっかりと把握し、それに忠実な日本語訳を作れるようになるための訓練の場とする。また「批判的読解(critical reading)」のセンスを身に付けることも目指す。 1つのトピックを約2週間かけて読む。授業の進む速さは受講者からの質問に答えながら進むのでゆっくりである。 《到達目標》 英語テキストを読むことによって具体的には次の到達目標をバランスよく達成する： 1. 英語で書かれた文章を読んで、主題を把握することができる。 2. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。 3. 言語・歴史・宗教を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 4. 文化に幅広く興味をもち、その価値について討議する。 5. 日本社会の成り立ちについて歴史などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを歴史などの観点から説明できる。 到達目標達成のための学問領域：英語、歴史、宗教、哲学、政治など。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：進化論1ー読解のポイント解説 第3回：進化論2ーテキストの読解 第4回：文化人類学1ー読解のポイント解説 第5回：文化人類学2ーテキストの読解 第6回：未来学1ー読解のポイント解説 第7回：未来学2ーテキストの読解 第8回：認知科学1ー読解のポイント解説 第9回：認知科学2ーテキストの読解 第10回：農業経済学1ー読解のポイント解説 第11回：農業経済学2ーテキストの読解 第12回：社会学1ー読解のポイント解説 第13回：社会学2ーテキストの読解 第14回：a まとめ；b 試験 ※各回のテーマは変更される場合がある		
3. 履修上の注意 十分な予習、復習と出席というまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃から国際ニュースに触れて、いま世界で何が起きているのかについて絶えず関心を持ち続けることが必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。 1. 英和辞典を活用するー単語を調べる 事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書の余白のみならずノートに記入しておくといよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくといよい。 授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。 とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。 自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているので、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。 2. 百科事典を活用するー単語以外のさまざまな事項を調べる たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、などを百科事典を参照して、自分から進んで調べておくといよい。 以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。 さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。 3. 自分の五官を活用する		

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオやDVDを活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はいつそう楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用して教材を配付する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

初級者向け：『総合英語フォレスト』石黒昭博（監修）（桐原書店）

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。ただし遅刻 3 回=欠席 1 回と換算する。課題小テスト（Oh-o! Meiji System）30%、試験 50%、授業中のパフォーマンス 20%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第Ⅳ研究室（3 号館 3 階 3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 化(5)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 化(5)		
1. 授業の概要・到達目標 このクラスでは英語の実践的な力を効率よく向上させることを目標とします。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能全てを練習しますが、主にリーディングに焦点を当てて練習します。英語を読んで理解するということは一文一文英語を日本語に置き換えるのではなく、読みながら同時に理解し、理解した意味を積み重ねながら文章全体の趣旨を把握することです。ただ訳すのではなく、理解したことを自分の言葉で伝えるという練習を積み重ねていくことによって、より実践的なリーディングスキルを身につけていきます。 授業ではテキストの各章を読み、自分の言葉（日本語・英語共に）で説明してもらいます。さらに練習問題をこなしながら、自分の意見を発表することも練習の一部となります。また各章の終わりにクイズで学んだことを確認します。		
2. 授業内容 第1回：a. シラバスと評価方法の説明 b. ウォームアップアクティビティ 第2回：Unit 1A: Sports and Fitness; Reading A, 設問解説など 第3回：Unit 1A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第4回：Unit 2A: Skin Deep; Reading A, 設問解説など 第5回：Unit 2A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第6回：Unit 3A: Animals in Danger; Reading A, 設問解説など 第7回：Unit 3A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第8回：Unit 4A: Violent Earth; Reading A, 設問解説など 第9回：Unit 4A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第10回：Unit 6A: Global Addictions; Reading A, 設問解説など 第11回：Unit 6A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第12回：Review and Video 第13回：Review and Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) 第14回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 テキストと辞書は毎回必ず授業に持参すること。持参しない学生には平常点は加点されません。また、一学期に 2/3 以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週欠かさず予習を行うことが重要です。準備ができて入れば積極的に参加することができます。ただし、予習で Google 翻訳などを使用して日本語を用意して来るのは予習ではありません。個々の語彙や文構造、文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことが予習です。読みながら同時に理解する実践的な練習も予習の段階で行いましょう。		
5. 教科書 Reading Explorer 3, 3rd ed. (2020, Cengage Learning Inc.)		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題 20～30%、各種テスト（予習テスト、小テスト、期末テスト等）70～80%をもとに総合的に評価します。総合点 60 点以上を合格とします。また欠席が 1/3（5 回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		
9. その他 オフィスアワー：火曜 12：30－13：20（中央棟 3F 講師控室）		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 生(1)	1 単位	樋渡 さゆり
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 生(1)		
1. 授業の概要・到達目標 「(1) 総合英語」 ≪授業の概要≫ 総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を高め、後半の Module b では論説文のリーディングを行う。リーディングのテキストは「食の文化と伝統」を主題とするエッセイであり、グローバル時代の文化の諸相について考えさせる内容である。 ≪到達目標≫ 論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解の定着などを目標とする。研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターンの構築を目指す。		
2. 授業内容 第1回：Module b のみ：イントロダクション 第2回：Listening & Vocabulary Stage 1／リーディング 第3回：Stage 2／リーディング 第4回：Stage 3／リーディング 第5回：Stage 4／リーディング 第6回：L & V 復習／リーディング 第7回：L & V Stage 5／リーディング 第8回：リーディングの復習／L & V Stage 6 第9回：L & V Stage 7／リーディング 第10回：Stage 8／リーディング 第11回：L & V 復習／リーディング 第12回：a, b とも：リーディング 第13回：a, b とも：リーディング 第14回：a：定期試験／b：まとめ ＊毎回、履修者の発表に基づいて授業を進める。演習科目の特性上、「履修者の理解到達度を重要視してフィードバックを返すパターン」を反復して授業を展開し、リーディングの進度を最適化する ＊リーディングのテキストは、春学期は Unit 1-4, 6 の順に精読する		
3. 履修上の注意 大学生にふさわしい辞書を使用していることが前提となります 辞書の選び方、使用方法については講義で取り上げます 資料掲示や課題提出、連絡等にクラスウェブを使用します		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Module a: 事前に各自でリスニングを行い、授業では答え合わせから始める。復習を行い、ヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身につける Module b: 指定範囲のテキストを、示されたポイントに注目して読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認・補足して理解を深める		
5. 教科書 Module a: 『TOEIC TEST 必修単熟語チェック 650 点レベル』西谷・吉塚（音羽書房鶴見書店） Module b: 『Food in Tradition and Culture』M. Heather Kotake, M. Shikoda, F. Shikoda（成美堂）		
6. 参考書 『プログレッシブ英和中辞典』（小学館） 『リーダーズ英和辞典』（研究社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出はおもにクラスウェブを利用。フィードバックはクラスウェブのコメント欄をとおして各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業展開に取り入れる、などの方法をとる		
8. 成績評価の方法 定期試験実施日を含めた授業実施回数の 2／3 以上に出席している履修者を評価対象とします 定期試験 70%、平常点（リスニング、出席・参加状況、課題提出など）30%で評価します		

各自、出席状況を記録・認識しておくこと。良好な出席状況が前提です

9. その他

1. 連絡方法→クラスウェブ上の連絡欄

2. オフィスアワー→質問対応は授業中または終了時（面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとってください）

場所： 英語第 1 研究室（第一校舎 3 号館 4 階 403）

時間： 在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 生(2)	1 単位	柏原 俊樹
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 生(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。 《授業の概要》 主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、使われている英語を通じた学習のきっかけとして、随時実践的な［やや難しい］リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。		
2. 授業内容 第1回：Unit 1: GEORGE’ S BEACH SHACK 第2回：Unit 1: KIMBALL’ S DINING ROOM 第3回：Unit 2: KIMBALL’ S KITCHEN 第4回：Unit 2: COMMUTER TRAIN 第5回：Unit 3: HOSPITAL ROOM 第6回：Unit 3: SAN JUAN CAPISTRANO TRAIN STATION 第7回：Unit 4: GEORGE’ S GARAGE 第8回：Unit 4: GEORGE’ S SHACK 第9回：Unit 4: GEORGE’ S SHACK 第10回：Unit 4: GEORGE’ S SHACK 第11回：Unit 6: JOSH’ S PORSCHE 第12回：Unit 7: GEORGE’ S SHACK 第13回：総復習 第14回：まとめと理解度確認試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。 積極的に発言してください（思い込み歓迎）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習は必須。次回の範囲の教科書の文章に目を通しておくこと、各回にメモを取った内容を復習・整理することが望ましい。 リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。		
5. 教科書 映画シナリオ『海辺の家』（英宝社）		
6. 参考書 英語辞書は、できる限り語源欄の付いているものを使用してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に口頭で、もしくは Oh-o Meiji を活用します。		
8. 成績評価の方法 学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70%）。英語を使うための知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30%）。		
9. その他 第一外国語		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 生 (3)	1 単位	大須賀 寿子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 生 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「英語のどの能力を伸ばしていきたい？」と質問されたら、あなた方はどのように答えますか？きっと多くの人は、「英語を使っている、英語ができる」＝ 「スピーキングがうまくできる」という考えが強いと思います。しかし、すべての基本はリーディングにあります。ゆえに、リーディングというインプットの作業から得た知識、文法事項、語彙などがライティングやスピーキングのアウトプットの作業に生かされていきます。 また私たちも、英語で書かれたホームページにもアクセスする機会や英語でメールを書く機会も増えています。つまり、英語で自分の意見を述べる必要性が増えています。本授業では、英語を読むことを中心にし、その知識を生かし基本的な文章の作成から意見を論理的に書ける、そして伝えられるようにすること、そして専門科目に偏らない広い視野を持つことを目標とします。 《授業の概要》 さまざまな話題を扱った英語教材を読むことによって、専門分野以外の内容にも柔軟な思考を持ち、を持てるような一助にしたいと思います。また、教材を介して語彙や情報を知り、正確な文法事項を再確認し、そして情報から得た知識などをライティングや リスニング、スピーキングにも応用していきます。 読解教材を利用して、英文を暗記し、重要なフレーズを学習し、時には良い文章のサンプルをまねて学ぶことによって、writing の学習やリスニングの練習を進めていくようにします。春学期は sentence writing の練習及び文法事項の確認を丁寧にやることを基本として、まとまった内容の英語を書けるようにすることを目標とします その日に学習した表現を使って、writing の練習をしていきます。少しずつでも英文を書くことを習慣づけるようにします。		
2. 授業内容 英文読解を中心に授業を進めていきますが、段落ごとの要約毎回少しずつでも英文を書いていくことを習慣づけるようにします。時々グループワークやペアワークを取り入れていきます。Unit 1つ（2つの読みもの）が終了するたびに小テストを行います。授業の進行状況によって、読む Unit や小テストの日程が変わる場合があります。（授業内のいずれかに Writing の assignment の作業はあります） 第1回：オリエンテーション, self-introduction 第2回：Unit 1A The Visual Village 第3回：Unit 1 B My Journey in Photographs 第4回：Unit 2 A Living Light 第5回：Unit 2B Feathers of Love 第6回：Unit 3A How Safe is Our Food? 第7回：Unit 3B The Battle for Biotech 第8回：Unit 4A Design by Nature: Biomimetics 第9回：Unit 4B Weaving the Future 第10回：Writing , Notetaking Practice 第11回：Unit 5A The DNA Trail 第12回：Unit 6A How Money Made Us Modern 第13回：Timed Writing 第14回：a: 春学期試験 b: 春学期試験解答と解説 小テストのほかにも、随時授業内で演習を行います。 授業の準備として、Oh-o meiji 上での作業も授業内外でやることになります。		
3. 履修上の注意 oh-o meiji を利用して、資料配布および課題提出、連絡事項をするので必ず確認すること。 また授業中に oh-o meiji 上での作業をやってもらうこともありますので、わからないところをはっきりさせるために、授業には予習をして臨んでください。 教科書で書かれている英文は単語などから見ると、一見簡単そうに見えるかもしれませんが、しかし比喩などもあるので、丁寧に英語を自分で読んでください。翻訳ソフトに本文をかけることは予習ではありません辞書、とくに英英辞典は必ず持参してください。 授業時には私語以外は積極的に発言したり、授業内作業に取り組んでください。 また、授業以外でも必ず英語を読んだり、書いたりする機会を持つようにしてください。 欠席回数が4回に達した場合には単位を認定しません。 遅刻2回で欠席1回とカウントします。授業開始後20分までの入室を遅刻とみなし、以降は欠席とみなします。 教科書を持参していない場合には欠席とみなします。 途中退室をしたまま、10分以上戻らない場合には欠席とします。 授業中の睡眠時間が多い学生、授業に参加する意思の見られない学生も同じように欠席とみなします 欠席に関して、感染症の罹患による登校停止や長期入院などやむをえない事情がある場合には、必ず申し出ること。 同様に、交通事情などやむをえない事情で遅れた場合は必ず申し出ること		

正当な理由と判断できない自己都合による小テストの再受験は一切許可しません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む際には、予習を行い教科書および配布された教材を読み、内容を把握しておく。わからない単語などは辞典で調べる。パラグラフごとに、内容をどのようにパラフレーズできるのか考えておきましょう。復習として、授業時に判明したことを見直しましょう。授業で学習する予定の教材を翻訳ソフトにかけた日本語を読むことは予習ではありません。必ず自分で英語を読み、文章を作成すること。

5. 教科書

Reading Explorer 4 Third Edition (National Geographic Learning)
教科書は必ず学内の丸善ブックセンターで購入してください。版が違ったりシリアルナンバーがない場合があります。
必要に応じて、プリントを配布します。

6. 参考書

National Geographic
書籍の英和辞典は中辞典以上のもの、そして用例の多いものを勧めます。
授業中は電子辞書、場合によってはオンライン上の辞書の使用を認めます。
英語に関する参考書、授業教材の内容に関する参考書は必要に応じて指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は返却時に個別にコメントをして返却します。全体的に間違いが多かった箇所など全員で共有すべき内容は全体に行います。小テストは返却し、全体に向けて答えあわせをしてコメントをします。

8. 成績評価の方法

学期末試験（50％）と平常点（50％：小テスト20、課題20、授業時の演習10など）を合わせて総合的に評価します。授業回数の1/3の欠席回数に達した場合は単位を認定できません。
この授業では、学習を習慣づけるため授業時の作業、そして、普段からの積み重ねが大切なので提出物はどうしても多くなります。欠席、遅刻、課題の未提出は評価が不利になります。出欠に関する事項は「履修上の注意」を確認してください。

9. その他

出席は各自で管理をしてください。
オフィス・アワー、および教員への連絡は基本的にが授業終了時に教室で対応します。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 生(4)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 生(4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。 ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。 《到達目標》 ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。 ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。 ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせ、無理なく確実に理解してゆくことができる。 ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のAに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシOn（授業方法・成績評価の説明） 第2回・第3回 Unit1 第4回・第5回 Unit2 第6回・第7回 Unit3 第8回・第9回 Unit4 第10回・第11回 Unit5 第12回・第13回 Unit6 第14回 a：まとめ b：試験 内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。		
5. 教科書 『British News Update8 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース8』 Timothy Knowles 他 編著 出版社 金星堂 テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。 テキストがないと授業に参加できず、欠席扱いとなります。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。		

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第1回授業で説明しますが、以下は基本方針です。
定期試験 50%, 平常点（授業中の発表・課題の提出等）50%。
毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。
皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはありません。
欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。
本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱa 生 (5)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱa 生 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 このクラスでは英語の実践的な力を効率よく向上させることを目標とします。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能全てを練習しますが、主にリーディングに焦点を当てて練習します。英語を読んで理解するということは一文一文英語を日本語に置き換えることではなく、読みながら同時に理解し、理解した意味を積み重ねながら文章全体の趣旨を把握することです。ただ訳すのではなく、理解したことを自分の言葉で伝えるという練習を積み重ねていくことによって、より実践的なリーディングスキルを身につけていきます。 授業ではテキストの各章を読み、パラグラフごとに自分の言葉（日本語・英語）で説明する練習をし、最終的には自分の意見を発表できるように段階を踏んで学習していただきます。		
2. 授業内容 第1回：a. シラバスと評価方法の説明 b. ウォームアップアクティビティ 第2回：Unit 1: Worlds Within Worlds 第3回：Unit 1: Worlds Within Worlds 第4回：Grammar and Speaking Practice 第5回：Unit 2: Crossing Cultures 第6回：Unit 2: Crossing Cultures 第7回：Grammar and Speaking Practice 第8回：Unit 3: Playing With Design 第9回：Unit 3: Playing With Design 第10回：Grammar and Speaking Practice 第11回：Unit 4: Our Robot Future 第12回：Unit 4: Our Robot Future 第13回：Grammar and Speaking Practice 第14回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 テキストと辞書は毎回必ず授業に持参すること。授業中に使用を許可する辞書は電子辞書か紙の辞書です。スマホに入った辞書及び Google 検索は授業中に使用することはできません。テキスト及び辞書を持参しない学生には平常点は加点されません。また、一学期に 2/3 以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週欠かさず予習を行うことが重要です。予習ができて入れば授業に積極的に参加する意欲も湧き、学習効果も上がります。ただし、予習で Google 翻訳などを使用して英文全体の日本語訳を用意して来るのは予習ではありません。日本語を読む時間は英語の学習になりませんから、全体の日本語訳を AI 翻訳で作成し、授業中にそれを参照することは許可いたしません。一つ一つの英語の語彙や文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことまでが予習です。テキストに書き込みたくないという人は、単語リストなどをノートに作成し持参することが必要です。単語の意味がわかったら、読みながら同時に理解する実践的な練習も予習の段階で行いましょう。		
5. 教科書 Reflect, Reading & Writing 4 (2022, Cengage Learning Inc.)		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。また、授業内テストに関しては、その場で答え合せ及びフィードバックをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題 20-30%, 各種テスト（予習テスト、小テスト、期末テスト等）70-80%をもとに総合的に評価します。総合点 60 点以上を合格とします。また欠席が 1/3（5 回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		

9. その他

オフィスアワー：火曜 12：30－13：20（中央棟 3F 講師控室）

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 農(1)	1 単位	中須賀 稚子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 農(1)		
1. 授業の概要・到達目標 昨今の大学生にとって、英語はいろいろな意味において必要不可欠であると言われている。一介の英語教師として、学生に、英語を楽しんでもらいたい、という思いは強いが、それぞれのニーズが異なる故、すべての学生がハッピーな授業はなかなか困難であるのが実情である。 今回のテキストは、英語を読みつつも、その内容が若い学生に何かを考えさせるきっかけとなれば、幸いである。 具体的には、様々なものの見方を与えてくれる内容の英文を、細かいニュアンスまで含めて、理解できることが目標である。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。 《授業の概要》 テキストだけに頼らずにさまざまな英語に触れ、自分で自分の理解度を確認しながらゆっくり、しかし確実に前進していく。授業では、学生が発表し、教師は補足・解説を加える。自発的学習が大いに期待されるクラスである。		
2. 授業内容 第 1 回：a イントロダクション b 第 7 課 地図の重要性 第 2 回：第 8 課 健全な身体に健全な魂 第 3 回：第 9 課 あなたは誰？ 第 4 回：第 10 課 間違え事でうまくいく 第 5 回：第 11 課 ギャンブルが社会に及ぼす影響 第 6 回：第 12 課 サプリメントの力 第 7 回：第 13 課 模造品とコピー 第 8 回：第 14 課 苦情から利益を産めるか 第 9 回：第 15 課 退職年齢を引き上げる 第 10 回：第 16 課 わが祖国 第 11 回：第 17 課 オンラインテロ 第 12 回：第 18 課 有名人の影響 第 13 回：第 19 課 海は誰のもの？ 第 14 回：a： 第 20 課 美食外交 b： 期末試験 授業内容は、進行状況に応じて変更もあり得る。 履修した学生の希望があれば中間試験等を実施することもあり得る		
3. 履修上の注意 必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。 興味を持っていただけるのが一番です。 授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。 自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください 2 つ、お願いがあります。 その 1 授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。 教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、 教室内の出入りは、最小限にとどめるよう、自分の体を制御してください その 2 教科書は必ず購入してください。 そして、必ず教科書をもって授業に出席してください。 コピー（その他写メ等）で授業に出席している場合、欠席扱いとします。 中須賀のクラスでは、コピーで授業に出席しても、出席とはみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に分らない点を自分なりにはっきりさせ、授業中に解決すること。 帰宅後はその部分を中心に、確認作業を行うこと。		
5. 教科書 Grand Tour—Future Paths（成美堂、2026）		

6. 参考書

授業内で指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、全体に、もしくは個別に、対面で、またはポートフォリオを通じて行う

8. 成績評価の方法

筆記試験（授業内及び期末を予定）で 60%、課題提出や授業内での評価（出席点ではない）40%、計 100% で評価を決定する。総合で 60% 以上に単位を認定する

欠席は 4 回を超えた時点で受験資格を失う

遅刻は 3 回で欠席 1 回とするので、遅刻をしないよう気を付けること

つまり、4 回欠席し、次に遅刻をしたら受験資格を失う、ということです

また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください

授業に出席したが課題は未提出、または、授業は欠席したが課題は提出、という場合、欠席扱いとなります

授業に欠席したが課題を出した、という場合、課題の点数は配慮するケースもあります

課題の期限は、授業後 4 ～ 5 日となっています。

課題提出の締め切りは、学期末等の理由で、必ず同じではない可能性もあります。

必ず、各人自分で期限を確認し、遅れずに課題を提出してください

課題の未提出は、すべて自己責任となります

遅れての提出は一切無効とさせていただきます。

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12：45～13：15（いずれかの講師控え室）

または

oh-o.meiji システムのメッセージ機能やメール、または授業後にコンタクトを取ってください

nakasuka@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 農(2)	1 単位	狩野 晃一
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 農(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 高等学校までの英語学習を基礎として、高度な総合的な英語運用を目指す。 《授業の概要》 さまざまなタイプの英文を読み、英文のみならずそこに書かれた内容の理解に努める。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：English etymology (1) 第3回：English etymology (2) 第4回：English etymology (3) 第5回：Origin of English words (1) 第6回：Origin of English words (2) 第7回：Origin of English words (3) 第8回：Essays on English words (1) 第9回：Essays on English words (2) 第10回：Essays on English words (3) 第11回：History of English Expression (1) 第12回：History of English Expression (2) 第13回：History of English Expression (3) 第14回：まとめ、期末試験		
3. 履修上の注意 予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（20 分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40 分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。		
5. 教科書 授業内でプリントを配布する。		
6. 参考書 授業内で適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。		
9. その他 オフィスアワー：木曜日・昼休み 英語第Ⅱ研究室（3 号館 404 号室）		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 農(3)	1 単位	済藤 葵
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 農(3)		
1. 授業の概要・到達目標 ・2週で1ユニットを扱います。ニュース動画を使用し、リスニング力向上を目指します。 ・授業後半では、TOEIC のリスニング練習問題を解き、TOEIC の傾向と対策を学びます。練習問題プリントは教員が用意するため、TOEIC の指定教科書はありません。 ・授業の詳細については、シラバスの補足や初回授業で説明を行います。		
2. 授業内容 第1回 TOEIC 練習問題 第2回 Unit 8: To Qatar by Bicycle 第3回 Unit 8: To Qatar by Bicycle 第4回 Unit 9: Food for the Food Bank 第5回 Unit 9: Food for the Food Bank 第6回 Unit 10: Big Ben Restoration 第7回 Unit 10: Big Ben Restoration 第8回 Unit 12: Raleigh's Museums and Galleries 第9回 Unit 12: Raleigh's Museums and Galleries 第10回 Unit 13: Community Farmer 第11回 Unit 13: Community Farmer 第12回 Unit 15: Green Energy Buildings 第13回 Unit 15: Green Energy Buildings 第14回 授業内試験		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者は毎回、十分な準備をした上で自分の疑問点をはっきりとさせて授業に臨むこと。当然ながら、テキストや事前に配布したプリント等、予習可能な教材に関しては、しっかりと目を通し、予習した上で出席すること。		
5. 教科書 CNN 10 Student News 関戸冬彦、小暮正人、Jake Arnold、Christopher Mattson 著 朝日出版社、ISBN：978-4-255-15711-5		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ・授業参加点 20% ・小テスト（2回）（オンライン授業がある場合はオンライン課題も含みます） 20% ・授業内試験 60% * 詳細は初回授業時に説明します。		
9. その他 連絡先：初回授業時に指示します。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 農(4)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 農(4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜英文読解力と語彙力の強化＞ 社会、文化、歴史、芸術など、人類に共通する様々な普遍的テーマに関する英文エッセイを読み、異文化理解や内容を正確に読み取る読解力、語彙力の増強を図る。 《授業の概要》 春学期と同じテキストを使用する。秋学期は Unit 7 から開始する。基本的にテキストに沿って 2 回の授業で 1 つの Unit を進めるが、授業回数の関係上 Unit 8, 10, 12 はとばして Unit 15 まで進める。前半回、後半回ともに Unit 付属の問題のそれぞれ決められた箇所を課題として出題する。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なリーディングのプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（授業方法・Unit の導入） 第 2 回 Unit 7 The English Language (1) 第 3 回 Unit 7 The English Language (2) 第 4 回 Unit 9 Trusting in Recorded History (1) 第 5 回 Unit 9 rusting in Recorded History (2) 第 6 回 Unit 11 How Democracy Works (1) 第 7 回 Unit 11 How Democracy Works (2) 第 8 回 Unit 13 The Meaning of Prayers (1) 第 9 回 Unit 13 The Meaning of Prayers (2) 第 10 回 Unit 14 Mankind and Laughter (1) 第 11 回 Unit 14 Mankind and Laughter (2) 第 12 回 Unit 15 The Importance of Dicipline (1) 第 13 回 Unit 15 The Importance of Dicipline (2) 第 14 回 a: 授業内容のまとめ b: 確認テスト * 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週金曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞、書籍などでテキストの内容の理解を深めること。		
5. 教科書 『TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity（多元文化論エッセイ響き合う文化たち）』 Christopher Belton、小田島恒志（金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。各 Unit の関連書籍や記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 農(5)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 農(5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業では、英語に関しては自立した学習者になれるよう、読む、聞く、書く、話すスキルを養います。 大学生にとって必要な語学のスキルは、一つには様々な情報源から情報が得られるようになることであり、これを支えるのがリーディング力とリスニング力です。それを高めるためには、どのようにすれば理解できるようになるのかを考えてトレーニングを続ける必要があります。もう一つは自分の意見を適切に述べられるようになることであり、それを支えるのがライティング力とスピーキング力です。それを高めるためには何らかの形でのアウトプットを続け、それに対するフィードバックを得る必要があります。 教科書掲載内容の他に様々な音声素材や雑誌記事などを提示し、リーディング力とリスニング力の向上に努めるとともに、その内容をペアやグループで共有したり、また自分で文章を書いたりといった作業につなげることでライティング力とスピーキング力の向上もはかります。 得意不得意、好き嫌いの程度に差はあるにせよ、今後も英語学習を続けていくための指針が得られることを期待します。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の達成目標及びテーマ》 1) 英文を自力で読み解くことができ、専門書や論文を読む手掛かりを得ること 2) 様々なニュース動画を聞き取ることができ、興味のある分野の探究ができること 3) 文章や映像から得られた情報について、適切な表現で要約し、自分の考えが述べられること		
2. 授業内容 第 1 回： a. 春学期の振り返り b. 秋学期に向けての準備学習 第 2 回： Unit 7-1 a. Listening b. speaking 第 3 回： Unit 7-2 a. reading b. writing 第 4 回： Unit 8-1 a. Listening b. speaking 第 5 回： Unit 8-2 a. reading b. writing 第 6 回： Unit 9-1 a. Listening b. speaking 第 7 回： Unit 9-2 a. reading b. writing 第 8 回： Unit 10-1 a. Listening b. speaking 第 9 回： Unit 10-2 a. reading b. writing 第 10 回： Unit 11-1 a. Listening b. speaking 第 11 回： Unit 11-2 a. reading b. writing 第 12 回： Unit 12-1 a. Listening b. speaking 第 13 回： Unit 12-2 a. reading b. writing 第 14 回： a. 期末試験 b. 総括と今後の学習の指針		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業回数の 3 分の 1 を超える欠席（5 回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading 予習：その週に扱う英文に目を通し、分からない単語を調べておくこと。 復習：英文の意味が理解できるまで読み直すこと、音読すること、付属の音声ファイルを聞くこと。 Listening 予習：特になし 復習：ニュース動画または音声ファイルを理解できるようになるまで聞くこと。 Speaking 予習：配布資料に目を通し、疑問点を整理するとともに自分の考えをまとめること。 復習：配布資料を読み直し、他の人の意見を整理し、自分の意見を作ること。関連する資料を読むこと。 Writing 予習：配布資料に目を通し、疑問点を整理するとともに自分の考えをまとめること。 復習：返却された答案を見直し、修正された箇所を見直すこと。不得手な文法項目を確認しておくこと。		

5. 教科書

『Academic Foundation in English Level 2（理工系学生のための総合英語演習 2）』 センゲージラーニング

※この教科書は春学期「英語Ⅱa 農（5）」から継続して使用します。

6. 参考書

未知の英文を読んだり、母語でない言語の文章を書いたりするのに辞書が必要なのは言うまでもありません。もし手元に英和辞典と和英辞典があるのなら、ひとまずそれらを教室に持ってきてください。学習を続けていくうちに手持ちの辞書では歯が立たないと感じたり、何かしら不便に思ったりすることがあるはずです。その時にこそ、どのような辞書が自分にとって必要なのかを考え、新しい辞書の購入を検討しましょう。

また、英文法の解説書も学習には必携です。高等学校で使っていたものが手元にあれば、ひとまずそれを活用しましょう。持っていない場合は、これを機に一冊手に入れておきましょう。一般的な高校生が使用する英文法の概説書でかまいません。分からなかったところ、または間違えたところは調べて確認する癖をつけましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や作文など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 政(1)	1 単位	伊達 恵理
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 政(1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業では、英語リーディングを中心に、併せてパラグラフ・ライティングの基礎固めを行います。多岐にわたる分野の論説を扱った中級-準上級レベルの教科書 Reflect: Reading & Writing 4 を用い、IIb では、技術と環境、ビジネス、行動心理学、教育の各分野を取り上げた教科書後半の 4 Units を扱います。各 Unit につき、技術革新と環境の関係、売り手と買い手の戦略、認知バイアスが行動にもたらす影響、教育が果たす役割をトピックとした記事を、速読・精読を交えて読み進めます。各記事に即したビデオと練習問題によってトピックの内容・語彙理解を深めるとともに、リスニング、読解技術、ライティング技術の基本を確認します。 《授業の到達目標及びテーマ》 1 年次までに習得した英語力の上に立って、主として英語を「読む」力をさらに養い、英語を通じて現代社会や私たちの生活を読み解く情報・知識を身につけることを目指します。大学レベルで必要と考えられる論理的な英文読解の基礎技能、文法力・語彙力を向上させ、長文の英語記事や論説の内容・情報を、パラグラフ構成をしっかりと理解した上での確に読みとるための土台作りを目標とします。また、ライティングについては、種々の目的に応じたエッセイを書くために必要な文法事項・パラグラフ構成の基礎的技術を習得することを目指します。		
2. 授業内容 第 1 回: Introduction 第 2 回: Unit 5 There Is No Planet B (1) Video / Reading① Exercises 第 3 回: There Is No Planet B (2) Reading② 読解, Exercises 第 4 回: There Is No Planet B (3) Writing / Grammar 第 5 回: Unit 6 Savvy Shoppers (1) Video / Reading① Exercises 第 6 回: Savvy Shoppers (2) Reading② 読解, Exercises 第 7 回: Savvy Shoppers (3) Writing / Grammar 第 8 回: Unit 7 Who We Are, How We Act (1) Video / Reading① Exercises 第 9 回: Who We Are, How We Act (2) Reading② 読解, Exercises 第 10 回: Who We Are, How We Act (3) Writing / Grammar 第 11 回: Unit 8 Learn to Change (1) Video / Reading① Exercises 第 12 回: Learn to Change (2) Reading② 読解, Exercises 第 13 回: Learn to Change (3) Writing / Grammar 第 14 回: a. 試験 b. まとめ * 講義の進度は必要に応じ変更することがあります		
3. 履修上の注意 テキストの内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、各記事の内容把握とともに、テキストの設問に対する解答の準備等、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとい良いでしょう。 授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 [予習] 授業は、テキストの各種設問に加えて、各 Unit の初めに教員が記事本文の内容・構成の整理のためのプリント教材を配布、受講生にそれらの設問に解答してもらい、教員が解説を加える形で進めます。各 Unit のビデオ・パート、記事のリーディングおよびライティング・パートそれぞれの設問に解答できるよう、前もってビデオのストリーミングを見る、記事本文を単語・成句や構文を含めて丁寧に読み込み、パラグラフの論旨を把握する、ライティングのモデル文やポイントをチェックするなど、十分に準備して授業に臨んで下さい。 [復習] テキストの各パートおよびプリントの設問で不正解だった箇所については、よく見直し、その理由と注意点を再確認して下さい。リーディングの英語記事については、授業で各パラグラフ内の文章構成・内容、論旨の展開を理解した後は、記事全体の中で各パラグラフの担う役割・関係性を見通せるよう、復習すること。また、授業で扱った語彙・成句について、知らなかった語句、忘れていた語句は必ずチェックし、発音も確認・練習して下さい。		
5. 教科書 Reflect: Reading & Writing 4 , Christien Lee 著 (National Geographic Learning)		
6. 参考書 なし		

7. 課題に対するフィードバックの方法

各 Unit の予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。Oh-o!Meiji を通じて出された練習問題等については、Oh-o!Meiji 上にて解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%，平常点（課題の提出とその内容，出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度，小テストなどの成績）40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。（欠席は3回まで）

9. その他

オフィスアワー：木曜日 12：50～13：20 中央棟 3F 講師控室

質問・連絡は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡については Oh-o!Meiji 「アンケート」も窓口として使用します。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 政(2)	1 単位	織田 哲司
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 政(2)		
1. 授業の概要・到達目標 ～Economist 誌の記事を読む～ 《授業の概要》 Economist 誌の記事を読む。テキストの内容は科学、文化、政治、経済などできるだけ新しく多岐にわたるトピックを取り上げる。将来的には専門科目における学術論文をも読む準備段階として、英文の構造をしっかりと把握し、それに忠実な日本語訳を作れるようになるための訓練の場とする。また「批判的読解(critical reading)」のセンスを身に付けることも目指す。 1つのトピックを約2週間かけて読む。授業の進む速さは受講者からの質問に答えながら進むのでゆっくりである。 《到達目標》 英語テキストを読むことによって具体的には次の到達目標をバランスよく達成する： 1. 英語で書かれた文章を読んで、主題を把握することができる。 2. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。 3. 言語・歴史・宗教を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 4. 文化に幅広く興味をもち、その価値について討議する。 5. 日本社会の成り立ちについて歴史などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを歴史などの観点から説明できる。 到達目標達成のための学問領域：英語、歴史、宗教、哲学、政治など。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：パンデミック 1ー読解のポイント解説 第3回：パンデミック 2ーテキストの読解 第4回：ソーシャル・メディア 1ー読解のポイント解説 第5回：ソーシャル・メディア 2ーテキストの読解 第6回：君主制 1ー読解のポイント解説 第7回：君主制 2ーテキストの読解 第8回：都市の問題 1ー読解のポイント解説 第9回：都市の問題 2ーテキストの読解 第10回：グローバル化 1ー読解のポイント解説 第11回：グローバル化 2ーテキストの読解 第12回：健康 1ー読解のポイント解説 第13回：健康 2ーテキストの読解 第14回：a まとめ；b 試験 ※各回のテーマは変更される場合がある		
3. 履修上の注意 十分な予習、復習と出席というまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃から国際ニュースに触れて、いま世界で何が起きているのかについて絶えず関心を持ち続けることが必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。 1. 英和辞典を活用するー単語を調べる 事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書の余白のみならずノートに記入しておくことよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくことよい。 授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。 とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。 自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているのも、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。 2. 百科事典を活用するー単語以外のさまざまな事項を調べる たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、など百科事典を参照して、自分から進んで調べておくことよい。 以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。 さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。 3. 自分の五官を活用する		

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオやDVDを活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はいつそう楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用してプリントを配付する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

初級者向け：『総合英語フォレスト』石黒昭博（監修）（桐原書店）

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。ただし遅刻 3 回=欠席 1 回と換算する。課題小テスト（Oh-o! Meiji System）30%、試験 50%、授業中のパフォーマンス 20%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第Ⅳ研究室（3 号館 3 階 3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 政(3)	1 単位	中村 美帆子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 政(3)		
1. 授業の概要・到達目標 「英語 4 技能の向上」 《授業の概要》 英語記事を教材として、4 技能（Reading, Listening, Speaking, Writing）を総合的に高める。記事の内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。 《到達目標》 1. 語彙や表現を習得する。 2. 時事問題に関する知識を得て、多方面から検討できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Chapter 11 From Weight-Loss Tip to Delicious Fish 第 3 回：Chapter 12 Saudi Arabia’ s Big Dream: A Dragon Ball Theme Park 第 4 回：Chapter 13 Breakthrough AI System for Nankai Trough Earthquakes 第 5 回：Chapter 14 Stop That Noise! 第 6 回：小テスト 1、まとめ 第 7 回：Chapter 15 Light Up to Freshen Up 第 8 回：Chapter 16 Women at the Center of Celtic Society 第 9 回：Chapter 17 Making Omikuji Accessible for Everyone 第 10 回：Chapter 18 Japan’ s Evolving Vending Machines 第 11 回：小テスト 2、まとめ 第 12 回：Chapter 19 Nuclear Energy for Japan 第 13 回：Chapter 20 Growing Fine Wine with AI 第 14 回：a. 試験、b. まとめ		
3. 履修上の注意 1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 2. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。 3. この授業では教科書の後半（Chapters 11-20）を使用する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1 時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1 時間）。		
5. 教科書 『Insights 2026 / 世界を読むメディア英語入門 2026』、幸重美津子 他編著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。		
6. 参考書 資料を適宜配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%		
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 政(4)	1 単位	樋渡 さゆり
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 政(4)		
1. 授業の概要・到達目標 「(4) 総合英語」 《授業の概要》 総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を高め、後半の Module b では論説文のリーディングを行う。リーディングのテキストは「食の文化と伝統」を主題とするエッセイであり、グローバル時代における文化の諸相について考えさせる内容である。 《到達目標》 論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解の定着などを目標とする。研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターンの構築を目指す。		
2. 授業内容 第1回：Module b のみ：イントロダクション／L & V Stage 9 第2回：L & V Stage 10／リーディング 第3回：L & V Stage 11／リーディング 第4回：L & V Stage 12／リーディング 第5回：L & V 復習／L & V Stage 12 第6回：L & V Stage 13／リーディング 第7回：L & V Stage 14／リーディング 第8回：復習と補足 第9回：L & V Stage 15／リーディング 第10回：L & V 復習／リーディング 第11回：a, b とも：リーディング 第12回：a, b とも：リーディング 第13回：a, b とも：リーディング 第14回：a: 定期試験／b: まとめ ＊リーディングのテキストは、秋学期は Unit 8, 10, 11, 13, 17 を順番に精読する		
3. 履修上の注意 春学期 英語Ⅱa (4) から継続履修。再履修の場合は春学期シラバスを参照し、テキストは授業開始前に個人注文で入手のこと		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Module a: 事前に各自でリスニングを行い、授業では答え合わせから始める。復習を行い、ヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身につける Module b: 指定範囲のテキストを、示されたポイントに注目して読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認・補足して理解を深める		
5. 教科書 Module a: 『TOEIC TEST 必修単熟語チェック 650 点レベル』西谷・吉塚（音羽書房鶴見書店） Module b: 『Food in Tradition and Culture』M. Heather Kotake, M. Shikoda, F. Shikoda（成美堂）		
6. 参考書 『プログレッシブ英和中辞典』（小学館） 『リーダーズ英和辞典』（研究社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出はおもにクラスウェブを利用。フィードバックはクラスウェブのコメント欄をとおして各履修者へ返す、授業展開に取り入れる、などの方法をとる		
8. 成績評価の方法 定期試験実施日を含めた授業実施回数の2／3以上に出席している履修者を評価対象とします 定期試験 70%、平常点（リスニング、出席・参加状況、課題提出など）30%で評価します 各自、出席状況を記録・認識しておくこと。良好な出席状況が前提です		

9. その他

1. 連絡方法→クラスウェブ上の連絡欄

2. オフィスアワー→質問対応は授業中または終了時（面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとってください）

場所： 英語第Ⅰ研究室（第一校舎 3号館 4階 403号室）

時間： 在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 政(5)	1 単位	小嶺 智枝
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 政(5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・リーディング・リスニング力を付ける。 ・思考力を養い、自分の意見を述べるスピーキング・ライティング力向上を目指す。 ・英語で発信できるようになるための語学トレーニングを行う。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。 《授業の概要》 難易度中程度の語彙が含まれる Reading Passage を読み、練習問題にて理解度を確認する。会話例を通してリスニングの練習を行う。 Discussion 問題について考え、話し合い、意見を述べる練習を行う。		
2. 授業内容 第 1 回：Unit 7 第 2 回：同上 第 3 回：Unit 8 第 4 回：同上 第 5 回：Unit 9 第 6 回：同上 第 7 回：Unit 10 第 8 回：同上 第 9 回：Unit 11 第 10 回：同上 第 11 回：Unit 12 第 12 回：同上 第 13 回：Unit 13 第 14 回：a まとめ b. 学期末試験 * 講義内容や Unit の順番は必要に応じて変更になる場合がある。		
3. 履修上の注意 ペア・グループワークを多く取り入れます。積極的姿勢で授業に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading passage の予習を行うこと。		
5. 教科書 David Peaty, You, Me and the World – 3rd Edition featuring SDGs（金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、平常点（出席、課題の提出、小テスト、授業貢献度などを含む）50%の総合評価		
9. その他 *Smartphones are not allowed unless specifically stated otherwise.		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 化(1)	1 単位	平野 桃子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 化(1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 Reason & Respond—A Critical Thinking Course Level 1 を教材として利用し、英語の 4 技能を使い、伸ばしながら情報を精査し、根拠のある意見を述べられるようにします。ペアワークやグループワークを通して、相手の意見を聞き、それに対する自分の意見を言えるようにします。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の到達目標》 英語を聞き、英語で考え、英語で発言する練習になることを目指します。加えて情報に対して論理的根拠を持って反応し、自分の意見を言えるようにしましょう。		
2. 授業内容 * 以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。 第 1 回 Unit7: Review of Units 1-6 第 2 回 Unit8: Categorizing 第 3 回 Unit8: Categorizing 第 4 回 Unit9: Evaluating 第 5 回 Unit9: Evaluating 第 6 回 Unit10: Persuading 第 7 回 Unit10: Persuading 第 8 回 Unit11: Logical Fallacies I: Ad Hominem & Straw Man 第 9 回 Unit11: Logical Fallacies I: Ad Hominem & Straw Man 第 10 回 Unit12: Logical Fallacies II: Either/ Or & Appeal to Emotion 第 11 回 Unit12: Logical Fallacies II: Either/ Or & Appeal to Emotion 第 12 回 Unit13: Review of Units 8-12 第 13 回 Extension Activities 第 14 回 a: まとめ b: 期末試験		
3. 履修上の注意 各回の授業で扱う範囲の予習をするようにして下さい。自身の専攻や分野にとらわれず、様々な主題に触れながら英語を使って幅広い知識を吸収したいという学生を歓迎します。 全日程の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は 3 回で 1 回分の欠席とみなします。また授業開始後 20 分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にテキストを一読し、分からない単語を辞書で調べておいて下さい。授業内で英語を話しますので、単語の意味だけでなく発音やアクセントも必ず確認するようにして下さい。自分に合う学習アプリ等を使って、普段から英語のリスニングをすることを勧めます。		
5. 教科書 Reason & Respond—A Critical Thinking Course Level 1— Andy Boon （金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的に口頭で行います。Oh-o!meiji を使うこともあります。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、プレゼンテーション 20%、授業への参加度 30%で総合的に評価する。		
9. その他 質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 化(2)	1 単位	柏原 俊樹
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 化(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。 《授業の概要》 主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、使われている英語を通じた学習のきっかけとして、随時実践的な［やや難しい］リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。		
2. 授業内容 【第1回】SCENE 5: THE HALLWAY 【第2回】SCENE 6: BRIAN'S HOUSE 【第3回】SCENE 6: THE DRAWING ROOM 【第4回】SCENE 7: LADY DALROY'S MUSIC ROOM 【第5回】SCENE 7: PAULA'S BEDROOM 【第6回】SCENE 8: THE STREET 【第7回】SCENE 8: BRIAN'S APARTMENT 【第8回】SCENE 9: THE HALLWAY OF NUMBER 9 【第9回】SCENE 9: THE UPPER HALLWAY 【第10回】SCENE 9: GREGORY'S ROOM 【第11回】SCENE 10: PAULA'S BEDROOM 【第12回】SCENE 10: THE ATTIC 【第13回】総復習 【第14回】まとめ及び理解度確認試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。 積極的に発言してください（思い込み歓迎）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習は必須。次回の範囲の教科書の文章に目を通しておくこと、各回にメモを取った内容を復習・整理することが望ましい。 リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。		
5. 教科書 ガス灯（開文社出版）		
6. 参考書 英語辞書は、できる限り語源欄の付いているものを使用してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70%）。英語を使うための知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30%）。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 化(3)	1 単位	大須賀 寿子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 化(3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 春学期での学習を発展させて、さらに英語の4技能を伸ばしていくことを目標とします。秋学期では、読解をすることを介して、基本的な文章の作成を進めて、最終的には paragraph 単位のまとまった文章を書くことを目標にします。春学期は英文を丁寧に読み、sentence を正確に丁寧に書くことに注意を払ってきましたが、秋学期は春学期で学習した内容をさらに発展させて、自分の意見を複数の paragraph で文章とそて、Presentation をすることを目標にしていきます。 《授業の概要》 春学期と同様に、さまざまな話題を扱った英語教材を読むことによって、専門分野以外の内容にも柔軟な思考を持てるような一助にしたいと思います。また、教材を介して語彙や情報を知り、正確な文法事項を理解し、そして情報から得た知識などをライティングや リスニング、スピーキングにも応用していきます。読解教材を利用して、英文を暗記し、重要なフレーズを学習し、時には良い文章のサンプルをまねて学ぶことによって、writing の学習やリスニングの練習を進めていくようにします。春学期で学習した sentence writing の練習及び文法事項、表現の確認に加え、さらにまとまった内容の英語を書けるようにすることを目標とします。そして最終的には、自分の意見を英語で論理的に述べられるようにします。		
2. 授業内容 春学期に使用したテキストを引き続き使用します Reading を中心としつつ、総合的に英語の知識の取得をめざします。授業の終盤には、Presentation を入れます。 読む Unit や小テストの実施日が変更になる可能性があります。 第1回：春学期の復習 第2回：Unit 7A A Cloud in Harmony 第3回：Unit 8A Who Killed the Emperor? 第4回：Unit 8B In the Crime Lab 第5回：Unit 9A Virtually Immortal 第6回：Unit 10 A Living Longer 第7回：Unit 10B In Search of Longevity 第8回：Presentation の方法 第9回：Unit 11 A Saving Water 第10回：Presentation 1 第11回：Presentation 第12回：Presentation 第13回：Wrap up (Presentation が終了した場合には読解) 第14回：a 秋学期試験 b 秋学期試験解説 * 授業内容は必要に応じて変更する可能性があります。授業内で Presentation の説明、準備などもします		
3. 履修上の注意 授業には予習をして臨んでください。自分で必ず文章を作成してから授業に参加してください。授業時は英英辞典も入っている電子辞書などが使用することもあります。ゆえに辞書類は必ず持参してください。 授業では、積極的に発言し、課題にとりくんで下さい 授業以外でも英文を書く機会を作ってください。私語以外は積極的に発言したり、課題に取り組んでください。 授業では oh-o meiji を使って、資料を配ることもあるので、ノートパソコン、タブレット端末、およびスマートフォンのどれかを持参してあることが望ましい。 欠席や遅刻は減点となる。欠席回数が4回に達した場合には単位を認定しません。 遅刻2回で欠席1回とカウントします。授業開始後20分までの入室を遅刻とみなし、以降は欠席とみなします。 教科書を持参していない場合には欠席とみなします。 途中退室をしたまま、10分以上戻らない場合には欠席とします。 授業中の睡眠時間が多い学生、授業に参加する意思の見られない学生も同じように欠席とみなします 感染症の罹患による登校停止、長期入院などやむをえない事情で欠席した場合には、必ず申し出ること。 また交通事情などが原因で遅刻した場合には必ず申し出ること。 正当な理由と判断できない自己都合による小テストの再受験は一切許可しません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に臨む際には、予習を行い教科書および配布された教材を読み、内容を把握しておく。わからない単語などは辞典で調べること。パラグラフごとに、内容をどのようにパラフレーズできるのか考えておきましょう。復習として、授業時に判明したことを見直しましょう。授業で学習する予定の教材を翻訳ソフトにかけた日本語を読むことは予習ではありません。必ず自分で英語を読み、文章を作成すること。秋学期は英作文の作業も多くなってくるので、授業時に学んだ英語表現も復習しましょう。本文の音読は必ずしてください。		

5. 教科書

Reading Explorer 4 Third Edition (National Geographic Learning)
春学期に使用した教科書を引き続き利用します。

6. 参考書

辞書は自分の使いやすい、なるべく用例の多いものを使ってください。
授業内容に関係のある資料も併せて提示します

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は返却時に個別にコメントをして返却します。全体的に間違いが多かった箇所など全員で共有すべき内容は全体に行います。小テストは返却し、全体に向けて答えあわせをしてコメントをします

8. 成績評価の方法

学期末試験（50％）と平常点（50％：小テスト 20, presentation 20, 授業時の演習, 授業における積極的な発言 10 など）を合わせて総合的に評価します。授業回数の 1/3 にあたる欠席回数に達した場合には単位を認定できません。欠席、遅刻に関する説明を開講時にします

この授業では学習を習慣づけるようにするために、課題が多くなってしまうかもしれません。その分日々の努力を評価します。
欠席、遅刻、課題の未提出（あるいは期限を遅れての提出）は評価が不利になるので、気をつけること
出欠に関しては「履修上の注意」を読んでください。

9. その他

教員への連絡方法は春学期と同じです

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 化(4)	1 単位	織田 哲司
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 化(4)		
1. 授業の概要・到達目標 -Economist 誌の記事を読む- 《授業の概要》 Economist 誌の記事を読む。テキストの内容は科学、文化、政治、経済などできるだけ新しく多岐にわたるトピックを取り上げる。将来的には専門科目における学術論文をも読む準備段階として、英文の構造をしっかりと把握し、それに忠実な日本語訳を作れるようになるための訓練の場とする。また「批判的読解(critical reading)」のセンスを身に付けることも目指す。 1つのトピックを約2週間かけて読む。授業の進む速さは受講者からの質問に答えながら進むのでゆっくりである。 《到達目標》 英語テキストを読むことによって具体的には次の到達目標をバランスよく達成する： 1. 英語で書かれた文章を読んで、主題を把握することができる。 2. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。 3. 言語・歴史・宗教を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 4. 文化に幅広く興味をもち、その価値について討議する。 5. 日本社会の成り立ちについて歴史などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを歴史などの観点から説明できる。 到達目標達成のための学問領域：英語、歴史、宗教、哲学、政治など。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：パンデミック 1ー読解のポイント解説 第3回：パンデミック 2ーテキストの読解 第4回：ソーシャル・メディア 1ー読解のポイント解説 第5回：ソーシャル・メディア 2ーテキストの読解 第6回：君主制 1ー読解のポイント解説 第7回：君主制 2ーテキストの読解 第8回：都市の問題 1ー読解のポイント解説 第9回：都市の問題 2ーテキストの読解 第10回：グローバル化 1ー読解のポイント解説 第11回：グローバル化 2ーテキストの読解 第12回：健康 1ー読解のポイント解説 第13回：健康 2ーテキストの読解 第14回：a まとめ；b 試験 ※各回のテーマは変更される場合がある		
3. 履修上の注意 十分な予習、復習と出席というまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃から国際ニュースに触れて、いま世界で何が起きているのかについて絶えず関心を持ち続けることが必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。 1. 英和辞典を活用するー単語を調べる 事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書の余白のみならずノートに記入しておくとい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくとい。 授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。 とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。 自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているので、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。 2. 百科事典を活用するー単語以外のさまざまな事項を調べる たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、など百科事典を参照して、自分から進んで調べておくとい。 以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。 さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。 3. 自分の五官を活用する		

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオやDVDを活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はいつそう楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用してプリントを配付する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

初級者向け：『総合英語フォレスト』石黒昭博（監修）（桐原書店）

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。ただし遅刻 3 回=欠席 1 回と換算する。課題小テスト（Oh-o! Meiji System）30%、試験 50%、授業中のパフォーマンス 20%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第Ⅳ研究室（3 号館 3 階 3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 化(5)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 化(5)		
1. 授業の概要・到達目標 このクラスでは英語の実践的な力を効率よく向上させることを目標とします。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能全てを練習しますが、主にリーディングに焦点を当てて練習します。英語を読んで理解するということは一文一文英語を日本語に置き換えることではなく、読みながら同時に理解し、理解した意味を積み重ねながら文章全体の趣旨を把握することです。ただ訳すのではなく、理解したことを自分の言葉で伝えるという練習を積み重ねていくことによって、より実践的なリーディングスキルを身につけていきます。 授業ではテキストの各章を読み、パラグラフごとに自分の言葉（日本語・英語）で説明する練習をし、最終的には自分の意見を発表できるように段階を踏んで学習していただきます。		
2. 授業内容 第1回：a. シラバスと評価方法の説明 b. ウォームアップアクティビティ 第2回：Unit 7A: Energy Solutions; Reading A, 設問解説など 第3回：Unit 7A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第4回：Unit 9A: High-Tech Solutions; Reading A, 設問解説など 第5回：Unit 9A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第6回：Unit 10A: All in the Mind; Reading A, 設問解説など 第7回：Unit 10A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第8回：Unit 11A: Visual Pioneers; Reading A, 設問解説など 第9回：Unit 11A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第10回：Unit 12A: Far Out; Reading A, 設問解説など 第11回：Unit 12A-B: Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) & Quiz 第12回：Review and Video 第13回：Review and Speaking (Paraphrasing/Summarizing Exercise) 第14回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 テキストと辞書は毎回必ず授業に持参すること。持参しない学生には平常点は加点されません。また、一学期に 2/3 以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週欠かさず予習を行うことが重要です。準備ができて入れれば積極的に参加することができます。ただし、予習で Google 翻訳などを使用して日本語を用意して来るのは予習ではありません。個々の語彙や文構造、文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことが予習です。読みながら同時に理解する実践的な練習も予習の段階で行いましょう。		
5. 教科書 Reading Explorer 3, 3rd ed. (2020, Gengage Learning Inc.)		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。 また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題 20～30%、各種テスト（予習テスト、小テスト、期末テスト等）70～80%をもとに総合的に評価します。総合点 60 点以上を合格とします。また欠席が 1/3（5 回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		
9. その他 オフィスアワー：火曜 12：30～13：20（中央棟 3F 講師控室）		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 生(1)	1 単位	樋渡 さゆり
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 生(1)		
1. 授業の概要・到達目標 「(1) 総合英語」 ≪授業の概要≫ 総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を高め、後半の Module b では論説文のリーディングを行う。リーディングのテキストは「食の文化と伝統」を主題とするエッセイであり、グローバル時代の文化の諸相について考えさせる内容である。 ≪到達目標≫ 論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解の定着などを目標とする。研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターンの構築を目指す。		
2. 授業内容 第1回：Module b のみ：イントロダクション／L & V Stage 9 第2回：L & V Stage 10／リーディング 第3回：L & V Stage 11／リーディング 第4回：L & V Stage 12／リーディング 第5回：L & V 復習／L & V Stage 12 第6回：L & V Stage 13／リーディング 第7回：L & V Stage 14／リーディング 第8回：復習と補足 第9回：L & V Stage 15／リーディング 第10回：L & V 復習／リーディング 第11回：a, b とも：リーディング 第12回：a, b とも：リーディング 第13回：a, b とも：リーディング 第14回：a: 定期試験／b: まとめ ＊リーディングのテキストは、秋学期は Unit 8, 10, 11, 13, 17 を順番に精読する		
3. 履修上の注意 春学期 英語Ⅱa (1) から継続履修。再履修の場合は春学期シラバスを参照し、テキストは授業開始前に個人注文で入手のこと		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Module a: 事前に各自でリスニングを行い、授業では答え合わせから始める。復習を行い、ヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身につける Module b: 指定範囲のテキストを、示されたポイントに注目して読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認・補足して理解を深める		
5. 教科書 Module a: 『TOEIC TEST 必修単熟語チェック 650 点レベル』西谷・吉塚（音羽書房鶴見書店） Module b: 『Food in Tradition and Culture』M. Heather Kotake, M. Shikoda, F. Shikoda（成美堂）		
6. 参考書 『プログレッシブ英和中辞典』（小学館） 『リーダーズ英和辞典』（研究社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出はおもにクラスウェブを利用。フィードバックはクラスウェブのコメント欄へ返す、授業展開に取り入れる、などの方法をとる		
8. 成績評価の方法 定期試験実施日を含めた授業実施回数の2／3以上に出席している履修者を評価対象とします 定期試験 70%、平常点（リスニング、出席・参加状況、課題提出など）30%で評価します 各自、出席状況を記録・認識しておくこと。良好な出席状況が前提です		
9. その他 1. 連絡方法→クラスウェブ上の連絡欄		

2. オフィスアワー→質問対応は授業中または終了時（面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとってください）

場所： 英語第 I 研究室（第一校舎 3 号館 4 階 403）

時間： 在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 生(2)	1 単位	柏原 俊樹
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 生(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。 《授業の概要》 主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、使われている英語を通じた学習のきっかけとして、随時実践的な「やや難しい」リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。		
2. 授業内容 第1回：Unit 7: GEORGE’ S GARAGE 第2回：Unit 8: GEORGE’ S SHACK 第3回：Unit 8: ALYSSA’ S HOUSE 第4回：Unit 9: GEORGE’ S GARAGE 第5回：Unit 9: DAVID DOKOS’ HOUSE 第6回：Unit 10: GEORGE’ S SHACK 第7回：Unit 10: GEORGE’ S HOUSE 第8回：Unit 11: ROBIN’ S KITCHEN 第9回：Unit 11: GEORGE’ S HOUSE 第10回：Unit 12: GEORGE’ S GARAGE 第11回：Unit 12: GEORGE’ S HOUSE 第12回：Unit 13: COLLEEN’ S FAMILY ROOM 第13回：総復習 第14回：まとめと理解度確認試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。 積極的に発言してください（思い込み歓迎）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習は必須。次回の範囲の教科書の文章に目を通しておくこと、各回にメモを取った内容を復習・整理することが望ましい。 リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。		
5. 教科書 映画シナリオ『海辺の家』（英宝社）		
6. 参考書 英語辞書は、できる限り語源欄の付いているものを使用してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70%）。英語を使うための知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30%）。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 生(3)	1 単位	大須賀 寿子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 生(3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 春学期での学習を発展させて、さらに英語の4技能を伸ばしていくことを目標とします。秋学期では、読解をすることを介して、基本的な文章の作成を進めて、最終的には paragraph 単位のまとまった文章を書くことを目標にします。春学期は英文を丁寧に読み、sentence を正確に丁寧に書くことに注意を払ってきましたが、秋学期は春学期で学習した内容をさらに発展させて、自分の意見を複数の paragraph で自分の意見を述べ、最終的に Presentation での確に自分の主張を述べられるようにします。 《授業の概要》 春学期と同様に、さまざまな話題を扱った英語教材を読むことによって、専門分野以外の内容にも柔軟な思考を持てるような一助にしたいと思います。また、教材を介して語彙や情報を知り、正確な文法事項を理解し、そして情報から得た知識などをライティングや リスニング、スピーキングにも応用していきます。読解教材を利用して、英文を暗記し、重要なフレーズを学習し、時には良い文章のサンプルをまねて学ぶことによって、writing のやリスニングを進めていくようにします。春学期で学習した sentence writing の練習及び文法事項、表現の確認のほかに Presentation をします。		
2. 授業内容 春学期に使用したテキストを引き続き使用します Reading を中心としつつ、総合的に英語の知識の取得をめざします。授業の終盤には、Presentation を入れます。 読む Unit や小テストの実施日が変更になる可能性があります。 第1回：春学期の復習 第2回：Unit 7A A Cloud in Harmony 第3回：Unit 8A Who Killed the Emperor? 第4回：Unit 8B In the Crime Lab 第5回：Unit 9A Virtually Immortal 第6回：Unit 10 A Living Longer 第7回：Unit 10B In Search of Longevity 第8回：Presentation の方法 第9回：Unit 11 A Saving Water 第10回：Presentation 1 第11回：Presentation 第12回：Presentation 第13回：Wrap up (Presentation が終了した場合には読解) 第14回：a 秋学期試験 b 秋学期試験解説 * 授業内容は必要に応じて変更する可能性があります。授業内で Presentation の説明、準備などもします。		
3. 履修上の注意 授業には予習をして臨んでください。自分で必ず文章を作成してから授業に参加してください。授業時は英英辞典も入っている電子辞書などが使用することもあります。ゆえに辞書類は必ず持参してください。 授業では、積極的に発言し、課題にとりくんで下さい 授業以外でも英文を書く機会を作ってください。私語以外は積極的に発言したり、課題に取り組んでください。 授業では oh-o meiji を使って、資料を配ることもあるので、ノートパソコン、タブレット端末、およびスマートフォンのどれかを持参してあることが望ましい。 欠席や遅刻は減点となる。欠席回数が4回に達した場合には単位を認定しません。 遅刻2回で欠席1回とカウントします。授業開始後20分までの入室を遅刻とみなし、以降は欠席とみなします。 教科書を持参していない場合には欠席とみなします。 途中退室をしたまま、10分以上戻らない場合には欠席とします。 授業中の睡眠時間が多い学生、授業に参加する意思の見られない学生も同じように欠席とみなします 感染症の罹患による登校停止、長期入院などやむをえない事情で欠席した場合には、必ず申し出ること。 また交通事情などが原因で遅刻した場合には必ず申し出ること。 正当な理由と判断できない自己都合による小テストの再受験は一切許可しません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に臨む際には、予習を行い教科書および配布された教材を読み、内容を把握しておく。わからない単語などは辞典で調べること。パラグラフごとに、内容をどのようにパラフレーズできるのか考えておきましょう。復習として、授業時に判明したことを見直しましょう。授業で学習する予定の教材を翻訳ソフトにかけた日本語を読むことは予習ではありません。必ず自分で英語を読み、文章を作成すること。 秋学期は英作文の作業も多くなってくるので、授業時に学んだ英語表現も復習しましょう。本文の音読は必ずしてください。		

5.教科書

Reading Explorer 4 Third Edition (National Geographic Learning)

春学期から使用しているテキストを引き続き利用します。

6.参考書

National Geographic

辞書は自分の使いやすい、なるべく用例の多いものを使ってください。

授業内容に関係のある資料も併せて提示します

7.課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は返却時に個別にコメントをして返却します。全体的に間違いが多かった箇所など全員で共有すべき内容は全体に行います。小テストは返却し、全体に向けて答えあわせをしてコメントをします

8.成績評価の方法

学期末試験（50％）と平常点（50％：小テスト 20, presentation20 と授業時の演習，授業における積極的な発言や課題など 10）を合わせて総合的に評価します。授業回数の 1/3 にあたる欠席回数に達した場合には単位を認定できません。欠席、遅刻に関する説明を開講時にします

この授業では学習を習慣づけるようにするために、課題が多くなってしまうかもしれません。その分日々の努力を評価します。

欠席、遅刻、課題の未提出（あるいは期限を遅れての提出）は評価が不利になるので、気をつけること

出欠に関しては「履修上の注意」を読んでください。

9.その他

教員への連絡方法は春学期と同じです

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 生(4)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 生(4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。 ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。 《到達目標》 ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。 ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。 ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせ、無理なく確実に理解してゆくことができる。 ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回・第 2 回 Unit 7 第 3 回・第 4 回 Unit 8 第 5 回・第 6 回 Unit 9 第 7 回・第 8 回 Unit 10 第 9 回・第 10 回 Unit 11 第 11 回・第 12 回 Unit 12 第 13 回 Unit 13 第 14 回 a：まとめ b：試験 内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。		
5. 教科書 『British News Update 8 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 8』 Timothy Knowles 他 編著 出版社 金星堂 テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。 テキストがないと授業に参加できず、欠席扱いとなります。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。		

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第 1 回授業で説明しますが、以下は基本方針です。

定期試験 50%，平常点（授業中の発表・課題の提出等）50%。

毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。

皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはありません。

欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。

本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。

科目ナンバー (AG) LAN111M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅱb 生 (5)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅱb 生 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 このクラスでは英語の実践的な力を効率よく向上させることを目標とします。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能全てを練習しますが、主にリーディングに焦点を当てて練習します。英語を読んで理解するということは一文一文英語を日本語に置き換えることではなく、読みながら同時に理解し、理解した意味を積み重ねながら文章全体の趣旨を把握することです。ただ訳すのではなく、理解したことを自分の言葉で伝えるという練習を積み重ねていくことによって、より実践的なリーディングスキルを身につけていきます。 授業ではテキストの各章を読み、パラグラフごとに自分の言葉（日本語・英語）で説明する練習をし、最終的には自分の意見を発表できるように段階を踏んで学習していただきます。		
2. 授業内容 第1回：a. シラバスと評価方法の説明 b. ウォームアップアクティビティ 第2回：Unit 5: There is no Planet B 第3回：Unit 5: There is no Planet B 第4回：Grammar and Speaking Practice 第5回：Unit 6: Savvy Shoppers 第6回：Unit 6: Savvy Shoppers 第7回：Grammar and Speaking Practice 第8回：Unit 7: Who We Are, How We Act 第9回：Unit 7: Who We Are, How We Act 第10回：Grammar and Speaking Practice 第11回：Unit 8: Learn to Change 第12回：Unit 8: Learn to Change 第13回：Grammar and Speaking Practice 第14回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 テキストと辞書は毎回必ず授業に持参すること。授業中に使用を許可する辞書は電子辞書か紙の辞書です。スマホに入った辞書及び Google 検索は授業中に使用することはできません。テキスト及び辞書を持参しない学生には平常点は加点されません。また、一学期に 2/3 以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週欠かさず予習を行うことが重要です。予習ができて入れば授業に積極的に参加する意欲も湧き、学習効果も上がります。ただし、予習で Google 翻訳などを使用して英文全体の日本語訳を用意して来るのは予習ではありません。日本語を読む時間は英語の学習になりませんから、全体の日本語訳を AI 翻訳で作成し、授業中にそれを参照することは許可いたしません。一つ一つの英語の語彙や文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことまでが予習です。テキストに書き込みたくないという人は、単語リストなどをノートに作成し持参することが必要です。単語の意味がわかったら、読みながら同時に理解する実践的な練習も予習の段階で行いましょう。		
5. 教科書 Reflect, Reading & Writing 4 (2022, Cengage Learning Inc.)		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。また、授業内テストに関しては、その場で答え合せ及びフィードバックをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題 20-30%, 各種テスト（予習テスト、小テスト、期末テスト等）70-80%をもとに総合的に評価します。総合点 60 点以上を合格とします。また欠席が 1/3（5 回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		

9. その他

オフィスアワー：火曜 12：30-13：20（中央棟 3F 講師控室）

科 目 名	単位数	担当者
英語Ⅲ・科学英語・英語コミュニケーションについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 言語はコミュニケーションの手段であると同時に、その言語を育んできた文化の一つの姿でもある。国際化・情報化が進んでいる今、コミュニケーションの能力を高めるためにも、また、外国の文化を理解するためにも、外国語を学ぶことはますます重要になってきている。 そのような認識のもと、農学部では必修科目とならんで選択必修科目である「英語Ⅲ」・「科学英語」・「英語コミュニケーション」を開講している。これらの授業はいずれもテーマやトピック、鍛錬する技能が特化されており、各自の関心に応じて英語力を伸ばし、教養を深めていくことができる。		
2. 授業内容 「英語Ⅲ」・「科学英語」・「英語コミュニケーション」の中から、次の条件を満たすかたちで選択し、履修しなければならない。 ・ 2017年度以降入学者は、1年次から4年次までの間に最低4単位を履修する。4単位を越えて履修した場合、超過分の修得単位は卒業要件単位として認められる。 ・ 授業によっては、「基礎・初級レベル」対象のものがあり、年度の初めに基礎・初級レベルの認定を受けた学生しか受講を許可されないクラスがあるので、個別の授業のシラバスをよく読んで選択すること。 ・ 「科学英語」はすべて中・上級者用クラスで、基礎・初級レベルのクラスは設置されていない。 ・ 英語力の確実なものとするために、内容面でバランスのとれた授業選択をすることが望ましいが、選択必修の単位数を満たす上では、「英語Ⅲ」・「科学英語」・「英語コミュニケーション」の組み合わせに制限はなく、いっさい自由である。		
3. 履修上の注意 ・ 学部間共通外国語の「英会話科目」は、2単位までに限り「英語Ⅲ（英会話）」として「英語Ⅲ」の修得単位に振り替えることができる。 ・ 履修者が適正規模を越えた場合、抽籤による人数制限を行うことがある。 ・ 「英語Ⅲ」・「科学英語」・「英語コミュニケーション」を受講してその単位を修得できなかった場合、翌年度以降、改めてこれら選択必修科目を履修すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
5. 教科書		
6. 参考書		
7. 成績評価の方法		
8. その他		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (1)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業は「音声面からの英語力向上」をテーマとし、英語の音声の仕組みを学んだ上でその知識を発音とリスニングに生かす実践的な演習を行います。この授業で想定されている英語力は中級程度です。 発音は語学の入口でもあり、基礎でもありながら、また永遠の目標であったりもします。外国語を学び始めるときに触れるのも発音ならば、聞き取れるようになるために必要なのも発音なのです。しかし、自分で色々なものを聞いていても、聞き取れない、違いが分からないという人は少なくありません。そこで、英語の音声はどのような仕組みになっているのかを知り、発音できるようになり、聞き取れるようになることを目指すのがこの授業です。また、辞書を引いたときに発音記号が理解でき、自分で正しい発音ができるようになるのも目標です。 単語レベルでの発音の違いを把握し、発音が違うことで語の意味が変わることを認識した上で、実際に声に出して練習します。教科書以外に早口言葉や歌、スピーチなどさまざまなものを教材として使います。前提知識を必要としないので、英語を苦手とする人でも十分に学ぶことができると思いますし、英語が得意な人はさらにスキルを上げることができるでしょう。 《授業の達成目標及びテーマ》 1) 発音記号を読めるようになること 2) 単語の標準的な発音を把握できること 3) 英文を分かりやすく読み上げられること 4) 文字を介さずに英語の音声を聞き取れるようになること ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回：a. 授業概要、履修上の注意、評価方法などの説明 b. 発音学習の基本トレーニング 第 2 回：Unit 1 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 3 回：Unit 2 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 4 回：Unit 3 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 5 回：Unit 4 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 6 回：Unit 5 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 7 回：Unit 6 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 8 回：Unit 7 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 9 回：Unit 8 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 10 回：Unit 9 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 11 回：Unit 10 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 12 回：Unit 11 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 13 回：Unit 12 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 14 回：a. 期末試験 b. 今後の学習指針		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業時数の 3 分の 1 を超える欠席（5 回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 発音は実技です。したがって授業では音を聞いたり発音したりと、能動的な学習姿勢が求められます。得手不得手はともかく声に出して発音する意思のない人、居眠りをしている人、別の作業をしている人などは、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は特に必要ありませんが、復習を重視してください。 その週に学習したことをまとめておくだけでなく、音声ファイルを何度も聞くこと、それに合わせて発音することは最低限行ってください。 それ以外にも、各自の興味関心に応じて各種ニュース動画や映画、音楽など様々な音声を聞くことを勧めます。また、今年度受講している他の英語科目の付属 CD や音声ファイルを聞いたり、それに合わせて発音したりすることは、それらの科目の学習としても役立つことでしょう。		
5. 教科書 『Sounds of English for Communication（英語音声の基礎リスニング）』 金星堂		
6. 参考書 岩村圭南（2019）. 『【改訂版】英語の正しい発音の仕方（基礎編）』 研究社 岩村圭南（2019）. 『CD 【改訂版】英語の正しい発音の仕方（基礎編）』 研究社		

岩村圭南（2019）．『【改訂版】英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編）』研究社
岩村圭南（2019）．『CD 【改訂版】英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編）』研究社

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（ディクテーションなど）と Oh-o! Meiji の「レポート」に提出する発音実技課題、Oh-o! Meiji への出席登録の際に記入する授業へのコメントがあります。紙媒体の課題については提出後コメントをつけて返却し、発音実技課題はレポート提出画面の「教員からのコメント」でフィードバックを行います。授業へのコメントについては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
発音実技課題	20%
授業へのコメント	10%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (2)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (2)		
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 このコースでは、特にスピーキングやリスニングスキルを磨き、より効果的なコミュニケーションに必要な豊富な語彙力を身につけます。 情報共有、問題解決、意思決定といった没入型の課題に挑戦します。 〈授業の達成目標及びテーマ〉 このコースの終了時には以下のことができることを目標としています。 －日常生活の様々な話題について話すことができる。 －自信を持って英語で他者を理解し、自己表現することができる。 －カジュアルな会話に熱心に参加することができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 1. Course work, Presentation of syllabus, Class rules 2. Unit 1.1 What's your personality? 3. Unit 1.2 True friends? 4. Unit 1.3 Nice talking to you. 5. Unit 1.4 We're family! 6. Unit 1.5 What makes a leader? 7. Unit 2.1 My Garage 8. Unit 2.2 So many features 9. Unit 2.3 Guess what! 10. Unit 2.4 It's useless, right? 11. Unit 2.5 Things to bring 12. Unit 3.1 Ins and Outs 13. Unit 3.2 A map like spaghetti 14. a) Exam, b) Wrap up 尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習：テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認、テキストの音声やビデオを視聴、テキストの読解問題に挑戦しましょう。 ・復習：授業で取り扱った表現の口頭練習を繰り返し行い、さらに定着させましょう。また、オンライン上の教材を活用し、音声や映像を視聴して復習しましょう。		
5. 教科書 書名： Evolve 3A Student' s Book with Digital Pack 著者：Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, and Kathryn O' Dell 出版社：ケンブリッジ大学出版 ISBN： 9781009231831 ・春学期と秋学期で同じ教科書を使用しますが、学習範囲が異なります。		
6. 参考書 BBC Learning English: https://www.bbc.co.uk/learningenglish/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 口頭で行います。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験：80%、平常点（授業参加と課題）：20%。 ・遅刻は（授業開始後 30 分までに入室）3 回で欠席 1 回とみなします。授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となります。		

9. その他

- ・オフィスアワーは対面授業のある月曜日の 12:30-13:10、中央校舎 3 階講師控室です。
- ・連絡先のメールアドレスは、k_nakamura@meiji.ac.jp です。メールを送る際、「件名」に、「月曜 4 限 英語 III, クラス ID30 番、鈴木花子」のように「曜日、時限、授業科目名、クラス ID 番号、氏名」を書いて、明治大学から提供されているメールアカウントから送信してください。また、お返事に数日かかることもあります。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (3)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標》 このクラスでは人間と動物の共存、生態系の保全をテーマに英語の文章を読みながら、英語の4技能を向上させることを目標とします。 《授業の概要》 授業ではテキストを読み、練習問題や関連したトピックについてのディスカッションなどを行います。 テキストは全 15 課で構成されており、春学期は主に奇数の章を扱います。(秋学期は同じテキストの主に偶数の章を扱う予定です。)		
2. 授業内容 第1回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります) b. ウォームアップ練習など 第2回：Unit 1 Jane Goodall’ s Chimpanzee Revolution (チンパンジーとの心のつながりを求めて) 第3回：Unit 1 Exercise, Discussion & Speaking 第4回：Unit 3 Releasing Keiko, the “Free Willy” Star (映画「フリー・ウィリー」のスター、シャチのケイコの解放) 第5回：Unit 3 Exercise, Discussion & Speaking 第6回：Unit 5 Understanding your Dog’ s Behavior (犬の行動を理解しよう) 第7回：Unit 5 Exercise, Discussion & Speaking 第8回：Unit 9 Caring for Aging Dogs: Coco’ s Case (老いていく犬の世話をする-ココの場合) 第9回：Unit 9 Exercise, Discussion & Speaking 第10回：Unit 11 The Emerging Challenge of Zoonoses (人獣伝染病という新たな課題) 第11回：Unit 11 Exercise, Discussion & Speaking 第12回：Unit 13 Pigs: Misunderstood Animals (豚のことをもっと知ろう) 第13回：Unit 13 Exercise, Discussion & Speaking 第14回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 春学期は奇数章、秋学期は偶数章を読みます。春秋両方受講すると1冊読み終わります。また、一学期に2/3以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必ず行ってください。ただし予習で Google 翻訳などを使用して日本語を用意して来るのは予習ではありません。個々の単語や文構造や文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことが予習です。また予習の段階でよくわからなかった部分に印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speaking に関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います。		
5. 教科書 English for Students of Veterinary Science「獣医学系学生のための総合英語」(2013, 南雲堂)		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題 20-30%, 各種テスト（予習テスト、小テスト, 期末テスト等）70-80%をもとに総合的に評価します。総合点 60 点以上を合格とします。また欠席が1/3（5回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		
9. その他 オフィス・アワー：火曜 12:30-13 :20（中央棟 3F 講師控室）		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (4)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (4)		
1. 授業の概要・到達目標 到達目標》 実話を元にした映画を題材としたテキストを使用して、英語の4技能を向上させることを目標とします。 《授業の概要》 エンターテインメント、スポーツ、科学技術、歴史などのさまざまな分野で社会に影響を与えた人々の伝記映画を題材としたテキストを使い、周囲にどのような影響を与え、世界をどの湯に動かしてきたかを学びながら、リスニング、長文読解、文法、簡単なスピーキングなどの英語力を身につける練習をします。 テキストは全 15 課で構成されており、春学期は主に奇数、秋学期は偶数の章を扱います。		
2. 授業内容 第 1 回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります) b. テキストの構成と授業の進め方などの説明 第 2 回：Unit 1 The Impossible Adaptation 前半 (リーディング) 第 3 回：Unit 1 後半 (文法、スピーキング)、Mini Quiz 第 4 回：Unit 5 Changing Public Opinion 前半 (リーディング) 第 5 回：Unit 5 後半 (文法、スピーキング)、Mini Quiz 第 6 回：Unit 7 A Vision Completed 前半 (リーディング) 第 7 回：Unit 7 後半 (文法、スピーキング)、Mini Quiz 第 8 回：Unit 9 Power and Accountability 前半 (リーディング) 第 9 回：Unit 9 後半 (文法、スピーキング)、Mini Quiz 第 10 回：Unit 11 Copper, Steel, and Courage 前半 (リーディング) 第 11 回：Unit 11 後半 (文法、スピーキング)、Mini Quiz 第 12 回：Unit 13 Justice vs. Power 前半 (リスニング、リーディング) 第 13 回：Unit 13 後半 (文法、スピーキング)、Mini Quiz 第 14 回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 春学期は奇数章、秋学期は偶数章を読みます。春秋両方受講すると 1 冊読み終えます。また、一学期に 2/3 以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必ず行ってください。ただし予習で Google 翻訳などを使用して日本語を用意して来るのは予習ではありません。細かい語彙や文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことが予習です。また予習の段階でよくわからなかった部分に印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speaking に関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います		
5. 教科書 True Lives in Movies「実話映画で読み解く人生の物語」(2026, 金星堂)		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題 20-30%, 各種テスト（予習テスト、小テスト、期末テスト等）70-80%をもとに総合的に評価します。総合点 60 点以上を合格とします。また欠席が 1/3（5 回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		
9. その他 オフィス・アワー：火曜 12:30-13 :20（中央棟 3F 講師控室）		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (5)	1 単位	平野 桃子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 Our World Now with SDGs を教材として利用します。SDGs の目標に関連する記事を読みながら、語彙の増強、内容の確認、文法の復習を行います。リスニングや発音の練習、短いプレゼンテーションも行い、基礎的な英語力を伸ばします。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 またこのクラスは、授業内容が基礎・初級レベルであるため、成績点が良い場合でも、S、A、および B の成績評価はつきません。 《授業の到達目標》 基礎的なインプットの力（読む／聞く）とアウトプットの力（文章を作成する（書く）／話す）を総合的に伸ばすことを目標とします。英語を聞き取り、話題になっているテーマについて自分の意見を言えるようにしましょう。		
2. 授業内容 第 1 回 a: イントロダクション（授業の進め方と成績評価基準） b: プレゼンテーションの担当決め * 以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。 第 2 回 Unit1: A New Style of Agriculture（貧困をなくすための農業サポート） 第 3 回 Unit1: A New Style of Agriculture（貧困をなくすための農業サポート） 第 4 回 Unit2: Every 'C' Counts（新たながん治療研究サポート） 第 5 回 Unit2: Every 'C' Counts（新たながん治療研究サポート） 第 6 回 Unit3: Growing the Future with Safe Water（安全な飲み水を手にするために） 第 7 回 Unit3: Growing the Future with Safe Water（安全な飲み水を手にするために） 第 8 回 Unit4: Noticing Microaggressions（無自覚な先入観や偏見に気づく） 第 9 回 Unit4: Noticing Microaggressions（無自覚な先入観や偏見に気づく） 第 10 回 Unit5: Traveling with Respect（誰もが幸せになる観光） 第 11 回 Unit5: Traveling with Respect（誰もが幸せになる観光） 第 12 回 Unit6: Turning Rain into Power（雨水を電力に） 第 13 回 Unit6: Turning Rain into Power（雨水を電力に） 第 14 回 a: まとめ b: 期末試験		
3. 履修上の注意 各回の授業で扱う範囲の予習をするようにして下さい。自身の専攻や分野にとらわれず、様々な主題に触れながら英語を使って幅広い知識を吸収したいという学生を歓迎します。 全日程の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は 3 回で 1 回分の欠席とみなします。また授業開始後 20 分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業には必ず辞書を持参して下さい。 事前にテキストに目を通し、単語調べをして来て下さい。構文等が分からない文に関して、どこがどう分からないか質問できるようにして下さい。 学期中に全員が短いプレゼンテーションを行います。聴衆が聞き取れるスピーチになるよう、発音練習を重ねて下さい。		
5. 教科書 Our World Now with SDGs Shin Mayama, Hidehiro Tsukada, Takayuki Mizuno, Brian Wistner （金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的に口頭で行いますが、oh-o!meiji も使用します。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、プレゼンテーション 20%、授業への参加度（含小テスト）30%で総合的に評価する。		

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (6)	1 単位	下永 裕基
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (6)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「語幹を軸にした語彙増強」(中・上級) 英語力を身につけるための骨格として、十分な語彙力は不可欠である。それは「英語が外国語だから」ではなく、英語を母語とする人々も同じであって、英語圏で成功している人々は皆、日常レベルをはるかに超えた語彙を備えていることがわかっている。 この授業では、英語圏の人々が長年、利用してきた信頼できる vocabulary building のワークブックをもとにした教材を使用し、英文を正確に読む訓練とあわせて語彙を増強する。ターゲットとなる英単語は主としてギリシア語・ラテン語に由来する hard words が中心であるが、教材の内容以外にも、授業では適宜、英語本来のゲルマン系の単語の語源についても扱って、語源を知る楽しみをも味わいたい。 農学科食糧生産・環境コース(2023 年度以前に入学した学生が対象)においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の到達目標》 語彙増強としては、ギリシア語・ラテン語に由来する語彙を中心に体系的に学び、未知の語であっても語源的に推測できる力を身につける。		
2. 授業内容 第 1 回 a イン트로ダクション(授業の進め方と成績評価基準) b: 英語学習用ツールの紹介、担当範囲の確認など * 以下、テキスト上の Session 番号です。 第 2 回 Session 1 - 1 第 3 回 Session 1 - 2 第 4 回 Session 1 - 3 第 6 回 Session 1 - 4 第 8 回 Session 2 - 1 第 9 回 Session 2 - 2 第 10 回 Session 2 - 3 第 11 回 Session 3 - 1 第 12 回 Session 3 - 2 第 13 回 Session 3 - 3 第 14 回 a: 学期末試験 b: 解説および総括 * 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。		
3. 履修上の注意 辞書を携行すること(電子辞書可)。 遅刻厳禁。 授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。 ・テキストには練習問題が付されているが、それには解答がついているので、授業では扱わない。各自で取り組むこと。		
5. 教科書 Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。		
6. 参考書 織田哲司『英語の語源探訪』(大修館書店) 渡部昇一『英語の語源』(講談社現代新書)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立てます。		
8. 成績評価の方法 良好な出席状況(授業回数の 3 分の 2 以上)が、期末試験を受けるための必須条件である。		

そのうえで、定期試験 80%、授業への積極性 20%。

9. その他

研究室は 3 号館 4 階，3-405 にある。

オフィスアワー：火曜 16 時～17 時。水曜 13 時 30 分～16 時。

オフィスアワー以外でも，在室時には可能な限り，対応します。

授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先＝ ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (7)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (7)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ピジン・クレオール及びハワイの言語文化に関する英語文献を精読する。 受講者は指定された箇所を全訳したものを用意し毎回発表する。 授業中の既習事項については毎回小テストを行い理解度の確認をする。 《到達目標》 言語学に関する英語文献の読み方を習得することを第一の目標とする。 将来的に Biolinguistics（統語論の進化論的及び生物学的ルーツの解明を目標とした研究）の専門書を読めるようになる準備をする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 機器の使用法、教材の入手方法と予習の進め方、単位認定等についての詳しい説明、小テスト 第 2 回～第 13 回 テキストの精読・小テスト 第 14 回 まとめ 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 第 1 回目は単なるイントロダクションではないので、履修を迷っている場合でも必ず出席すること。 毎回出席することは「当然の義務」であるから、欠席・遅刻・早退についてはそれぞれ大幅に減点をする。 皆勤とは無縁の学生にはお勧めしない。 課題未提出の場合には、大幅に減点する。 理由のいかんにかかわらず提出期限を過ぎたものや形式等に不備があるものは無効となる。 また、指示に従わず内容が不十分な場合にも評価対象外となることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ配布された英文資料を全訳し、毎回授業前に提出する（評価対象）。 準備にかなりの時間を要することを覚悟すること。		
5. 教科書 特に定めない。 英文資料の入手方法については第 1 回の授業で説明する。 欠席した場合には第 2 回以降の授業に参加できないなど支障をきたすことがあるので注意すること。		
6. 参考書 授業中に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に詳細に解説するので、各自で丁寧に添削する必要がある。 また、この添削済のノート原本は、学期末に提出する必要がある（評価対象）。		
8. 成績評価の方法 成績評価の基本方針 毎回の小テスト 40%、平常点（提出物・授業中の発表および添削等）60%の総合評価である。 授業中に各自で添削したノートの原本は、学期の終盤に提出する必要がある（評価対象）。 授業回数の 3 分の 2 以上に参加していない者は成績評価の対象から外す。 皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはない。 欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をする。 評点算出方法等については、第 1 回の授業で詳細に説明する。		
9. その他 オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。 本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (8)	1 単位	平野 桃子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (8)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 イギリスの BBC の番組を題材にした、World Travelers—A Learning Journey with Videos from BBC's The Travel Show をテキストを使います。内容理解を補助するリーディングを行なった後で旅番組を見ながらリスニングの練習をし、自分の意見や見解を発信することに繋がります。英語の 4 技能を総合的に使う練習をします。 農業科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の到達目標》 英語の 4 技能を総合的に伸ばすことを目標にします。リスニングやリーディングといったインプットだけでなく、グループワークやプレゼンテーションを通して日本人が苦手とするアウトプットも積極的に行うことを目指します。		
2. 授業内容 第 1 回 a: イントロダクション（授業の進め方と成績評価基準など） b: 担当決め／自己紹介（行ってみたい国、そこでやりたいこと） ＊以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。 第 2 回 Unit1: Malaysia（動物保護とエコツーリズム） 第 3 回 Unit1: Malaysia（動物保護とエコツーリズム） 第 4 回 Unit2: Egypt（地元のエジプト料理を広めるフード・ツアー） 第 5 回 Unit2: Egypt（地元のエジプト料理を広めるフード・ツアー） 第 6 回 Unit3: Italy（死にゆく町「チヴィタ・ディ・バーニョレージョ」） 第 7 回 Unit3: Italy（死にゆく町「チヴィタ・ディ・バーニョレージョ」） 第 8 回 Unit4: The Democratic Republic of Congo（コンゴのおしゃれ集団「サブール」） 第 9 回 Unit4: The Democratic Republic of Congo（コンゴのおしゃれ集団「サブール」） 第 10 回 Unit5: Sweden（氷点下の客室を誇る幻想的な氷のホテル） 第 11 回 Unit5: Sweden（氷点下の客室を誇る幻想的な氷のホテル） 第 12 回 Unit6: The United Arab Emirates（世界最大の花の庭園「ドバイ・ミラクル・ガーデン」） 第 13 回 Unit6: The United Arab Emirates（世界最大の花の庭園「ドバイ・ミラクル・ガーデン」） 第 14 回 a: まとめ b: 期末試験		
3. 履修上の注意 各回の授業で扱う範囲の予習、復習をするようにして下さい。英語力、特にアウトプットする力の向上に意欲のある学生を歓迎します。 全日程の 3 分の 1 以上を欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は 3 回で 1 回分の欠席とみなします。また授業開始後 20 分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの動画や音声ダウンロードできるので、リスニングはそれを利用して予習、復習をして下さい。繰り返し見て、聞くことを勧めます。 リスニングとシャドウイングの自主練習で英語のアウトプット能力が向上しますので、ぜひ継続してやってみて下さい。		
5. 教科書 World Travelers—A Learning Journey with Videos from BBC's The Travel Show Rima Uraguchi, Yukiko Takeoka, Tom Dillon (金星堂)		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的には口頭で行います。Oh-o!Meiji を使うこともあります。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、プレゼンテーション 20%、授業への参加度 30%で総合的に評価する。		

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (9)	1 単位	貝塚 泰幸
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (9)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 Rosemary Sutcliff が翻案した中世ヨーロッパのアーサー王物語 Sword and the Circle より、“The Round Table,” “Beaumains, the Kitchen Knight,” “Gawain and the Loathely Lady” を読む。現代日本と中世ヨーロッパの間には大きな時空の隔たりとキリスト教に根差した思想的・文化的な差異があるにも拘らず、1000 年以上の歴史を持つアーサー王物語は現在でもアニメやファンタジーの源泉となっている。この授業では現代人をも魅了するアーサー王物語の魅力や時代の制約を受けることのない普遍的なテーマを探究していく。 《授業の到達目標》 Rosemary Sutcliff が翻案した中世ヨーロッパのアーサー王物語の精読を通して、英文を多様に解釈する深い洞察力を養うことを目標とし、また教養として中世ヨーロッパの文化や価値観に親しみながら、異国の古い文学と文化、宗教や思想、倫理的価値観などに関する知識を身につけ、知見を広めることも目指す。同時に登場人物へ共感する力を培い、作品の本質的な魅力ともいえる人物造形や物語の主題に見られる普遍性を探究することで読書の楽しみを再発見する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明 b. Introduction 第 2 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 3 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 4 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 5 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 6 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 7 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 8 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 9 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 10 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 11 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 12 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 13 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 14 回： a. まとめ b. 期末試験 * 授業内容は進度などに応じて変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 学生は積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、意味のわからない単語については予め調べておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参することが望ましい。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。 準備学習の不足や、不適切な授業への参加態度（私語やスマートフォンの使用など）は成績評価に加味される。 教科書を購入しない学生については、原則として成績評価の対象外とする。 全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。 遅刻・早退は 3 回で 1 回分の欠席とし、授業開始後 30 分以上遅れて来た者および授業終了 30 分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者については欠席扱いとする場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語や表現については教科書についている注釈や辞書を参考にしながら、授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。特に関心を持った内容や難解な箇所、あるいは理解できない内容や英文法に関しては学生全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。		
5. 教科書 プリント配布		
6. 参考書 Rosemary Sutcliff, The King Arthur Trilogy, (Red Fox, 1999). ――, The Sword and the Circle, (Puffin Books, 1994). ローズマリ・サトクリフ、『アーサー王と円卓の騎士』、(原書房、2001)。 アンドレア・ホブキンズ、『図説アーサー王物語』、(原書房、1995)。		

高宮利行、『アーサー王物語の魅力ーケルトから漱石へ』、(秀文インターナショナル, 1999)。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験：70%

授業への貢献度：30%（和訳作成、授業内の質疑応答・発言など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

欠席連絡や課題についての問い合わせ先は、Oh-o! Meiji にて連絡先を公開する。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (10)	1 単位	松井 恭子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (10)		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要・到達目標 本教科書は、現代英国が直面する多面的な課題を取り上げている。例えば、英国とヨーロッパ諸国との関係、ウェールズ地方の文化や音楽、サイバー窃盗団、スコットランドの風力発電の成功、スポーツ界における女性の躍進、現役を退いた第三世代の在り方などである。英国の今を、BBCのジャーナリストが読みやすい英語で描いている。英国の社会事情を読解し、パラグラフの構成の正確な理解を目指し、精読・速読する力をつける。トピックに関連した英文資料も配布し、読解に役立て知見を広げる。実践的なリスニング力の向上も図ることができる構成となっている。 英語を聞き取るリスニング問題を解いていく。そして、クラスメートと楽しく、学んだことについて英語で意見を出し合う練習も行い、理解を深める。発音練習も行います。		
2. 授業内容 授業内容 第1回 イントロダクション（評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明） と UK について Chapter 1: Top Issue (1) 第2回 Chapter 1: Top Issue (2) How to express your opinion briefly 第3回 Chapter 1: Top Issue (3) The three structures in your comment 第4回 Chapter 2: Wales (1) Wales に関する資料と動画 第5回 Chapter 2: Wales (2) How to use visual effects when you talk about your opinion. 第6回 Chapter 3: The Royal Family (1) Supporting your opinion with evidence 1 第7回 Chapter 3: The Royal Family. (2) The Royal Family に関する資料と動画 第8回 Chapter 5: Cyber Crime (1), Supporting your opinion with evidence 2 第9回 Chapter 5: Cyber Crime (2) Group Discussion 1 第10回 Chapter 6: Technology & Politics in Scotland (1). Scotland に関する資料 第11回 Chapter 6: Technology & Politics in Scotland (2). Group Discussion 2 第12回 Chapter 7: Sport. Group Discussion 3 第13回 Chapter 8 : The Third Age. 第14回 期末試験とまとめ		
3. 履修上の注意 履修上の注意 春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、春学期はテキストの前半、Chapter1 から Chapter 8、秋学期はテキストの後半、Chapter 9 から Chapter 15 を扱い重複していません。お渡しする資料は、忘れずに授業に持参して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、準備して授業に望みましょう。授業で自分の意見や調べたことを発表することは、順番に当てます。担当に当たったときは、頑張って取り組んで下さい。 Group Discussion では、積極的に discussion に参加しましょう。		
5. 教科書 教科書 Britain Today: Modern Britain: Culture, Society and History. James C. House 他著、 (松伯社) ISBN 978-4-88198775 -9C3082		
6. 参考書 毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できます。英語辞書は、ときに英英辞典を使用して下さい。 参考になる本などは、授業時にお知らせします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小課題については、締め切りの後、授業で解説をする。期末試験の解答については、Oh-Meiji のシステムを通じて、最後の授業から約2、3週間後に Oh-Meiji に配信する。		
8. 成績評価の方法 期末テスト (40%)、 英語で自分の意見を発表、Group Discussion、単語小テスト (30%)、		

授業の平常点（30%）

9. その他

オフィスアワーや連絡方法（email）については、第一回目の授業でお伝えする。Oh-Meiji にも載せる。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (11)	1 単位	織田 哲司
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (11)		
1. 授業の概要・到達目標 英文法への理解を深める（中級・上級者用） 《授業の達成目標及びテーマ》 これまででは英文法をただ規則として覚えるだけであったかもしれないが、ここではときにはその歴史的な成り立ちにも言及しながら、システムとして「なぜこう言うのか」に焦点を当てながら英文法への理解を深める機会にしたい。 《授業の概要》 したがって、文法説明はこれまでとは違う切り口で行われるはずである。春学期の「英語 III」は「相当語句」という切り口から英文法を解説する。受講者は解説を聞くだけでなく、例文を訳したり、英語を書いたりしながら英文法を身につけられるようにする。できるだけ多くミニテストも用意する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション―「文法」とは 第 2 回 相当語句：名詞 1 第 3 回 相当語句：名詞 2 第 4 回 相当語句：形容詞 1 第 5 回 相当語句：形容詞 2 第 6 回 相当語句：副詞 1 第 7 回 相当語句：副詞 2 第 8 回 不定詞 1 第 9 回 不定詞 2 第 10 回 分詞構文 1 第 11 回 分詞構文 2 第 12 回 比較 第 13 回 仮定法（叙想法） 第 14 回 a：まとめ b：期末試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 充分な予習、復習と出席というまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃からことばそのものに関心を持ち続けることが必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。 1. 英和辞典を活用する―単語を調べる 事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書（資料）の余白のみならずノートに記入しておくといよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくといよい。 授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。 とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。 自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているのも、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。 2. 百科事典を活用する―単語以外のさまざまな事項を調べる たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、などを百科事典を参照して、自分から進んで調べておくとよい。 以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。 さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。 3. 自分の五官を活用する これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオや DVD を活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はあっという間楽しいものになるはずである。		

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用して教材を配信する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

さらなる参考書について必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji System から学生個々人にコメントを配信するほか、授業においても前回授業に関する課題を解説する。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。ただし遅刻 3 回=欠席 1 回と換算する。小テスト 40%、期末テスト 40%の配分、授業中のパフォーマンス 20%で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第Ⅳ研究室（3 号館 3 階 3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (12)	1 単位	松井
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (12)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本授業では、教科書に収録された映画『Bohemian Rhapsody』および『Moneyball』を題材として、総合的な英語力の向上を目指す。教科書はリーディングパート、映画を題材とした口語表現の学習、さらに映画視聴に基づくリスニング演習で構成されている。授業では、内容理解を深めるためのディスカッション活動や、自身の感想や意見を英語で表現する練習も行う。 映画音声を確認しながら、生きた英語に触れ、実践的なリスニング力の向上を目標とする。また、基礎的な英語スピーキング力をつけるためのスピーキング練習や、平易な英文を用いた感想を話す練習も行い、英語で発信する練習が楽しく出来るよう進める。さらに、教科書のリーディングの箇所でも目指す。 『Bohemian Rhapsody』は、UK ロックバンド “Queen “のリード・ボーカル、Freddie Mercury の生涯を描いた 2018 年公開の大ヒット映画で主演男優賞・編集賞・録音賞・音響編集賞の 4 部門を受賞した、音楽映画の金字塔ともいえる作品だ。物語はバンド結成から、Freddie が亡くなるまで、葛藤しながらも、強い絆で結ばれたメンバーと共に音楽史に残る名曲を生み出していく姿を描く感動の作となっている。とりわけ終盤のライブパフォーマンスは圧巻である。 『Moneyball』は、MLB のアスレチックスというプロ野球チームのオーナー、ビリー・ベーンが、彼独自の経営哲学によって、破産寸前だった球団を再建する姿を描く。各種統計から選手の価値を見極め、ベーンが率いる球団は、メジャーリーグの歴史を変えた。Beane は、他球団からは評価されていない埋もれた選手を安く雇って飛躍的に成績を上げていく。メジャーリーグの歴史を変えた Beane は、アスレチックス球団を改革し、常勝球団に育てあげた彼の苦悩と栄光のドラマを描く。 2. 授業内容 授業内容 第 1 回 イントロダクション（評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明） Unit 1: Forming the Band, Queen in Bohemian Rhapsody (1) 第 2 回 Unit 1: Forming the Band, Queen in Bohemian Rhapsody (2) 発音音練習 1 第 3 回 Unit 1: Forming the Band, Queen in Bohemian Rhapsody (3) 役柄の Role Play 1 第 4 回 Unit 2: Bohemian Rhapsody in Bohemian Rhapsody (1) How to express your opinion briefly 第 5 回 Unit 2: Bohemian Rhapsody in Bohemian Rhapsody (2) 発音練習 2 第 6 回 Unit 3: Drifting Apart in Bohemian Rhapsody (1) The structure of your opinion or comment 1 第 7 回 Unit 3: Drifting Apart in Bohemian Rhapsody (2) 発音練習 3 第 8 回 Unit 4: The Truth Comes Out in Bohemian Rhapsody (1) 役柄の Role Play 2 第 9 回 Unit 4: The Truth Comes Out in Bohemian Rhapsody (2) Group Discussion 1 第 10 回 Unit 5: Performing in Live Aid in Bohemian Rhapsody (1) Group Discussion 2 第 11 回 Unit 11: The Evaluation of Players in Moneyball (1) Group Discussion 3 第 12 回 Unit 11: The Evaluation of Players in Moneyball (2) Speed Reading 1 第 13 回 Unit 12: Managing Team Conflicts in Moneyball Speed Reading 2 第 14 回 Unit 13: The Trading of Players in Moneyball Speed Reading 3 まとめと期末レポート提出		

3. 履修上の注意

履修上の注意

春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、春学期はテキストの中の映画 Bohemian Rhapsody と映画 Moneyball を扱い、秋学期はテキストの布する映画教材『ヒマラヤ杉に降る雪』を扱うため重複していない。

単位を取得するために欠席の回数に気を付けて下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を理解し、和訳出来るように準備して授業に望みましょう。

授業での英語での自分の意見発表担当者は順番に当てるので、原稿を用意して取り組んで頂きたいです。

5. 教科書

教科書

Active English Through Movies. 『アクティブ・ラーニング型映画で学ぶ英語 4 技能』

塩見佳代子 他著。金星堂 ISBN 9784764741256

6. 参考書

参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考にな

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法

課題については、締め切りの後、授業で解説をする。

8. 成績評価の方法

期末レポート（40%）、単語小テストと意見発表など(30%)、

授業中の参加と平常点（30%）

9. その他

連絡方法（email）については、第一回目の授業でお伝えし、Oh-Meiji に 4 月に載せます。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (13)	1 単位	伊達 恵理
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (13)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「英国事情を学ぶ」レベル（中級） 英語及び英語文化圏に対する理解を深める作業の一環として、英国事情を学びます。Life and Society in Modern Britain [Revised Edition] 『現代イギリスの暮らしと文化』[改訂版] をテキストに用い、春学期は階級制度、教育、スポーツ、宗教をトピックとした4章を通じて、現代の英国社会とその背景にある歴史・文化伝統、人々の生活の中にうかがわれる英国人の考え方・感じ方を概観します。内容に応じて随時視聴覚関連資料なども採り入れる予定です。 《授業の到達目標》 現代英国の生活と文化に関するリーディングを通じて長文の英語論説文的確な読解を目指し、テキストから見えてくる英国の歴史・社会的背景や文化伝統について学ぶと同時に、それらに対する現代英国人の捉え方、価値観への理解や親しみを深めることを目標とします。英国社会・文化においてよく用いられる表現・語彙に馴染み、音声教材によってイギリス英語の聴き取りに慣れることを目指すとともに、テキストの練習問題により英文読解・ライティング力の向上を目指します。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回： Introduction 第2回： Class (1) Class and Politics 本文読解① 第3回： Class (2) Class Difference 本文読解② 第4回： Class (3) Class Mobility 本文読解③, Exercises 第5回： Education (1) Schools 本文読解① 第6回： Education (2) Universities 本文読解② 第7回： Education (3) Educational Worries and Problems / Private Schools 本文読解③, Exercises 第8回： Sport (1) Team Sport 本文読解① 第9回： Sport (2) Sport in Schools 本文読解② 第10回： Sport (3) Sport, Class and Regions/Shooting, Hunting and Fishing 本文読解③, Exercises 第11回： Religion (1) The Church of England 本文読解① 第12回： Religion (2) Other Christians 本文読解② 第13回： Religion (3) Two Influences of Religion / Other Religions 本文読解③, Exercises ③, Exercises 第14回： a. 試験 b. まとめ * 講義の進度は必要に応じ変更することがあります。		
3. 履修上の注意 テキストの的確な内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとい良いでしょう。 授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 [予習] テキスト各 Chapter の本文については、授業に先立って配布されるパラグラフ内容のポイント確認・整理のプリントを用いて予習を行い、プリントの設問および各 Chapter の Exercises（練習問題）の設問に答えられるよう、準備して下さい。設問以外の箇所についても、辞書を引いて語句の意味を確認し、リーディング全体の構文・意味内容を理解できるよう、予習を十分にしてください。日頃から、英国関連のニュース・情報にも目を配ると良いでしょう。 [復習] 授業でパラグラフ内の語彙や構文、テキストの意味内容を確認した後は、各節とリーディング全体の文章構成、論旨の展開を理解し見通せるよう、復習すること。また、各パラグラフで学んだ語彙・成句について、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。		
5. 教科書 Life and Society in Modern Britain [Revised Edition] 『現代イギリスの暮らしと文化』[改訂版], Simon Rosati 著（英宝社）		
6. 参考書 なし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各章の予習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。Oh-o!Meiji を通じて出された課題については、Oh-o!Meiji 上にて解説を行います。		

8. 成績評価の方法

定期試験 60%，平常点（課題の提出とその内容，出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度，小テストなどの成績）40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。（欠席は3回まで）

9. その他

- ・オフィスアワー：木曜日 12：50～13：20 中央棟3F 講師控室
- ・質問・連絡等は授業の前後に受け付けます。また，緊急の連絡の窓口として Oh-o!Meiji の「アンケート」を使用します。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (14)	1 単位	貝塚 泰幸
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (14)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 30 年以上に及ぶ日本経済の閉塞感によって拍車がかけられたかのように英語によるコミュニケーション能力を測る試験の需要は高まり、その種類も多様化している。数ある英語能力検定試験のなかで、とりわけ TOEIC は、その手頃さと高い知名度から高校・大学から企業に至るまで広く活用されている。そのため、分野を問わず TOEIC 受験とハイ・スコア取得は将来のキャリア形成のために不可欠といえる。授業はテキストに沿って進めていく。毎回の語彙テストを織り交ぜながら、実践的なリスニング問題とリーディング問題に取り組み、文法事項や英語の発音の特性などについて戦略的な復習と確認を通して TOEIC のスコアアップに必要な「語彙力」、「文法力」、「リスニング力」、「リーディング力」を養う。 《授業の到達目標》 教科書の実践的な問題を解きながら、TOEIC スコア 600 点以上を目指す。受験したことがない学生については、TOEIC の問題の特徴をしっかりと理解して、問題形式に慣れることを目標とする。すでに受験したことがある学生については、正解率を維持あるいは改善しながら、問題解答速度のスピードアップを目標とする。また、TOEIC だけでなく他の様々な英語能力検定試験に対応できる「語彙力」、「文法力」、「リスニング力」、「リーディング力」といった英語の基礎力の向上も目指す。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明 b. イントロダクション 第 2 回：Chapter 1 第 3 回：Chapter 2 第 4 回：Chapters 3 & 4 第 5 回：Chapters 5 & 6 第 6 回：Chapters 7 & 8 第 7 回：Chapters 9 & 10 第 8 回：Chapters 11 & 12 第 9 回：Chapters 13 & 14 第 10 回：Chapters 15 & 16 第 11 回：Chapters 17 & 18 第 12 回：Chapters 19 & 20 第 13 回：追加教材 第 14 回：a. まとめ b. 期末試験 * 授業内容は進度などに応じて変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 ・学生は積極的な授業参加が求められる。毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参するが望ましい。なお授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。 ・準備学習の不足や、不適切な授業への参加態度（私語やスマートフォンの使用など）は成績評価に加味される。 ・教科書を購入しない学生については、原則として成績評価の対象外とする。 ・全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。 ・遅刻・早退は 3 回で 1 回分の欠席とし、授業開始後 30 分以上遅れて来た者および授業終了 30 分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者については欠席扱いとする場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・あらかじめ指定された範囲の語彙問題については授業までに必ず解答を用意しておくこと。 ・難解な箇所や理解できない点、特に文法事項に関してはクラス全体で共有できるようメモなどを残しておくこと。 リスニング・セクションの復習と課題確認は特に重要となる。		
5. 教科書 松岡 昇・傍島 一夫 著『ポキャビル重視型 TOEIC L&R 総合演習』（松柏社）。		
6. 参考書 TOEIC 公式サイト https://www.iibc-global.org/		

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30% （予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

- ・ 授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。
- ・ 欠席連絡や課題についての問い合わせ先は、Oh-o! Meiji にて連絡先を公開する。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (15)	1 単位	貝塚 泰幸
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (15)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 私たちが何気なく毎日口にする食物には歴史がある。西洋化した私たちの食生活のなかには、それ以前までには口をつけることさえ考えられなかったような食物もあれば、日本人の食生活に溶けこみ海外から取りいられたということに気づかないような食物もあるだろう。この授業では、パンや塩、チョコレートといった私たちの身近にあるさまざまな食べものに関する英文を読み、それら食べものの歴史と西洋の文化の一端を探求する。 《授業の到達目標》 さまざまな食物に関する英文を読み、そこで使用される語彙や表現に慣れ親しみながら基礎的な語彙や表現を身につけ、一般的な語彙力と読解力を向上させ、批判的な視点からテキストを読み、学生が独自の意見を形成できるようになることを目標とする。また英文の精読を通して英文法に関する知識を再確認するだけでなく、演習問題の解答やペア・ワーク、グループ・ワークを通して英語で発信する能力の向上も図る。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明 b. イントロダクション 第 2 回：Lesson 1 The Pig or the Pork 第 3 回：Lesson 2 Do You Like Garlic? 第 4 回：Lesson 3 Sweet as Sugar 第 5 回：Lesson 4 Our Daily Bread 第 6 回：Lesson 5 Do You Like Caviar? 第 7 回：Lesson 6 Apples 第 8 回：Lesson 7 The White Gold: Salt 第 9 回：Lesson 10 Foie Gras 第 10 回：Lesson 11 Rice: An Important Cereal 第 11 回：Lesson 12 Pasta 第 12 回：Lesson 13 Chocolate 第 13 回：Lesson 15 Tea Etiquette 第 14 回：a. まとめ b. 期末試験 * 授業内容は進度などに応じて変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 ・学生は積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、意味のわからない単語については予め調べておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参することが望ましい。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。 ・準備学習の不足や、不適切な授業への参加態度（私語やスマートフォンの使用など）は成績評価に加味される。 ・教科書を購入しない学生については、原則として成績評価の対象外とする。 ・全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。 ・遅刻・早退は 3 回で 1 回分の欠席とし、授業開始後 30 分以上遅れて来た者および授業終了 30 分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者については欠席扱いとする場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語や表現については教科書についている注釈や辞書を参考にしながら、授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。特に関心を持った内容や難解な箇所、あるいは理解できない内容や英文法に関しては学生全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。 ・各 Lesson 毎にある“Exercises,” “Drills” については予め解答を用意した上で授業に臨むこと。		
5. 教科書 Elena Taralunga Tamura, 『英語で学ぶ食の歴史』（英宝社）。		
6. 参考書		

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30% （予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

欠席連絡や課題についての問い合わせ先は、Oh-o! Meiji にて連絡先を公開する。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (16)	1 単位	木内 祥太
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (16)		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 様々な文化論に関する英文を中心に読む。また、基本的な文法や他のテーマの文章も扱う。 【到達目標】 英文を読み、様々な時代・文化に対する理解を深めると同時に、基本的な英語読解力と語彙力を習得する。またそのような英文に触れることとで、テキストを超えた「そもそも英語とは何か」「言葉とは何か」という意識を持つことができる。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] chapter 1 [第 3 回] chapter 2 [第 4 回] 文法・英文読解 (1) [第 5 回] chapter 3 [第 6 回] chapter 4 [第 7 回] 文法・英文読解 (2) [第 8 回] chapter 5 [第 9 回] chapter 6 [第 10 回] 文法・英文読解 (3) [第 11 回] chapter 7 [第 12 回] chapter 8 [第 13 回] 文法・英文読解 (4) [第 14 回] 前期まとめ		
3. 履修上の注意 単位取得には 2/3 以上の出席が必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめテキストに目を通し、わからない単語や文章を辞書を用いながら調べておくこと。		
5. 教科書 『Transculture-Transcending Time, Region, and Ethnicity』Christopher Belton、小田島恒志（金星堂）		
6. 参考書 授業中にて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内にて行うリアクションペーパーに対して、その都度フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 レポート 60% 平常点（授業参加・貢献度、小テスト） 40%		
9. その他 連絡先：shota.k1115@keio.jp		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (17)	1 単位	木内 祥太
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (17)		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現代のイギリス文化・社会に関する英文を中心に読む。また、基本的な文法や他のテーマの文章も扱う。 【到達目標】 英文を読み、現代のイギリスに対する理解を深めると同時に、基本的な英語読解力と語彙力を習得する。また様々な英文に触れることで、テキストを超えた「そもそも英語とは何か」「言葉とは何か」という意識を持つことができる。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] chapter 1 [第 3 回] chapter 2 [第 4 回] 文法・英文読解 (1) [第 5 回] chapter 3 [第 6 回] chapter 4 [第 7 回] 文法・英文読解 (2) [第 8 回] chapter 5 [第 9 回] chapter 6 [第 10 回] 文法・英文読解 (3) [第 11 回] chapter 7 [第 12 回] chapter 8 [第 13 回] 文法・英文読解 (4) [第 14 回] 前期まとめ		
3. 履修上の注意 単位取得には 2/3 以上の出席が必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめテキストに目を通し、わからない単語や文章を辞書を用いながら調べておくこと。		
5. 教科書 『Reading Contemporary Britain: 15 Critical Views of Culture and Society』Christopher J. Armstrong, Anthony Piccolo, 板倉巖一郎（松柏社）		
6. 参考書 授業中にて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内にて行うリアクションペーパーに対して、その都度フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 レポート 60% 平常点（授業参加・貢献度、小テスト） 40%		
9. その他 連絡先：shota.k1115@keio.jp		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (18)	1 単位	中須賀 稚子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (18)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 〈現代アメリカを探る〉(中級) 英語で書かれた文章を読んで内容を理解する。これは、実はなかなか難しいことである。 書かれている英語を、文字だけでなく、その内容を理解するために必要なのが、背景知識である。 この授業は、教科書のタイトルが示す通り、アメリカのサブカルチャーを扱う。 身近なトピックを読むことになるので、学生諸氏には興味を持って英語に取り組んでもらえることを願っている。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である 《授業の概要》 学生の発表に、教師が補足説明を加えることになる。出席者は全員予習をして授業に出席するように。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業の進め方、成績評価の仕方など） b：プリントによる演習 第 2 回：Chapter 1 What is Subculture? 1 回目 第 3 回：Chapter 1 2 回目 第 4 回：Chapter 2 Trekkies 1 回目 第 5 回：Chapter 2 2 回目 第 6 回：Chapter 3 American Cosplay1 回目 第 7 回：Chapter 3 2 回目 第 8 回：Chapter 4 Comic Books 1 回目 第 9 回：Chapter 4 2 回目 第 10 回：Chapter 5 Punk Rock 1 回目 第 11 回：Chapter 5 2 回目 第 12 回：Chapter 6 Hip Hop 1 回目 第 13 回：Chapter 6 2 回目 第 14 回：a：授業内容のまとめ b：期末試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。 興味を持っていたただけるのが一番です。 授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。 自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください 2 つ、お願いがあります。 その 1 授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。 教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、 教室内の出入りは、最小限にとどめるよう、自分の体を制御してください その 2 教科書は必ず購入してください。 そして、必ず教科書をもって授業に出席してください。 コピー（その他写メ等）で授業に出席している場合、欠席扱いとします。 中須賀のクラスでは、コピーで授業に出席しても、出席とはみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストを読み、わからない単語は調べ、不明な点はどこか、を認識して授業に出席のこと。 授業内で問題を解決できるように。		
5. 教科書 American Subcultures 『現代アメリカのサブカルチャー事情』Edward K. Chan 著 英宝社 (2016, 2022 改)		
6. 参考書 あれば授業内で指示する		

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要な折に全体、または個人に、対面で、もしくはポートフォリオを通じて行う。

8. 成績評価の方法

筆記試験（中間を実施すれば中間試験及び到達度確認試験）60％，平常点（出席点ではない。授業内参加や課題など）40％の割合で評価を出す。総合で 60％以上に単位を認定する。

欠席は 4 回を超えた時点で受験資格を失う。

遅刻は 3 回で欠席 1 回と換算するので注意のこと。

つまり、欠席と遅刻の減点を合わせて、授業の 3 分の 1 を超えると試験を受ける資格を失うので、

欠席、遅刻とも気を付けるようにしてください。

（欠席 4 回＋遅刻 1 回になると受験資格を失う、と考えてください）

また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください。

授業に出席したが課題は未提出、または授業には欠席したが課題は提出した、は欠席扱いとなります。

ただし、授業は欠席したが課題を出した場合、点数を配慮するケースもあります

（初回授業にもこの点については説明します）

課題の期限は、授業後 4～5 日となっています。

提出期限がいつも一定とは限りませんので、そのたびに、各人責任をもって期限を確認してください。

遅れての提出は一切無効とさせていただきます。

9. その他

oh-o.meiji システムのメッセージ機能やメール、または授業後にコンタクトを取ってください

nakasuka@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (19)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (19)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ このコースでは、教科書を用いて身近な 2 つのトピックに関する短い会話の練習、語彙の強化、リスニングのスキルアップ、基礎的な文法項目の復習をします。 トピックは、「Public and Private」と「Getting Information」です。音声やビデオも活用します。 ＜授業の達成目標及びテーマ＞ ペアワークやグループワークで英語の口頭練習を繰り返し、それまでに学んできた英語を定着させ、自信を持って使えるようになることを目標としています。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 1. Course work, Presentation of syllabus, Class rules 2. Unit 1 (A): Your Space (Warm-up video & Vocabulary) 3. Unit 1 (A): Your Space (Listening & Speaking) 4. Unit 1 (A): Your Space (Grammar & Active English) 5. Unit 1 (B): Our Space (Vocabulary & Reading) 6. Unit 1 (B): Our Space (Listening & Grammar) 7. Unit 1 (B): Our Space (Active English & Global Voices) 8. Unit 2 (A): Explain It to Me (Warm-up video & Vocabulary) 9. Unit 2 (A): Explain It to Me (Listening & Speaking) 11. Unit 2 (A): Explain It to Me (Grammar & Active English) 11. Unit 2 (B): Have You Heard the News? (Vocabulary & Reading) 12. Unit 2 (B): Have You Heard the News? (Listening & Grammar) 13. Unit 2 (B): Have You Heard the News? (Active English & Global Voices) 14. a) Final Exam, b) Wrap up 尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認、テキストの音声やビデオを視聴、テキストの読解問題に挑戦しましょう。 ・復習： 授業で取り扱った表現の口頭練習を繰り返し行い、さらに定着させましょう。また、オンライン上の教材を活用し、音声や映像を視聴して復習しましょう。		
5. 教科書 書名：World Link 3A 第4版（『World Link 3（全12課）』の前半のUnit 1からUnit 6が集約されている分冊版です）。 著者： James R. Morgan and Nancy Douglas 出版社：センゲージ・ラーニング ISBN：978-0-357-50393-5 ・春学期と秋学期で同一の教科書を使用しますが、学習範囲が異なります。 ・教科書の音声とビデオは、オンラインでアクセスできます。		
6. 参考書 BBC Learning English: https://www.bbc.co.uk/learningenglish/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 口頭で行います。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験：80%、平常点（授業参加と課題）：20%。 ・遅刻は（授業開始後 30 分までに入室）3 回で欠席 1 回とみなします。授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となります。		
9. その他 ・オフィスパワーは対面授業のある金曜日の 12:30-13:10、中央校舎 3 階講師控室です。		

・連絡先のメールアドレスは、k_nakamura@meiji.ac.jp です。メールを送る際、「件名」に、「金曜 3 限 英語 III, クラス ID 3 0 番、鈴木花子」のように「曜日、時限、授業科目名、クラス ID 番号、氏名」を書いて、明治大学から提供されているメールアカウントから送信してください。また、お返事に数日かかることもあります。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (20)	1 単位	木内 祥太
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (20)		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 時事英語を中心に読む。今世界で話題になっている様々な事案を英語を通して学ぶ。さらにそれに加えて、基本的な文法や時事英語以外の文章も扱う。 【到達目標】 時事英語を読み、現代に対する視野を広げると同時に、基本的な英語読解力と語彙力を習得する。また様々な英文に触れることで、テキストを超えた「そもそも英語とは何か」という意識を持つことができる。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] chapter 1 [第 3 回] chapter 2 [第 4 回] chapter 3 [第 5 回] 文法・英文読解 (1) [第 6 回] chapter 4 [第 7 回] chapter 5 [第 8 回] chapter 6 [第 9 回] 文法・英文読解 (2) [第 10 回] chapter 7 [第 11 回] chapter 8 [第 12 回] chapter 9 [第 13 回] chapter 10 [第 14 回] 文法・英文読解 (3)		
3. 履修上の注意 単位取得には 2/3 以上の出席が必要である。また、この授業は初級クラスである。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめテキストに目を通し、わからない単語や文章を辞書を用いながら調べておくこと。		
5. 教科書 『Insights 2026 世界を読むメディア英語入門 2026』 幸重美津子、蔦田和美、赤尾美和、Christopher Gladis、石川有香(金星堂)		
6. 参考書 授業中にて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内にて行うリアクションペーパーに対して、その都度フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 レポート 60% 平常点（授業参加・貢献度、小テスト） 40%		
9. その他 連絡先：shota.k1115@keio.jp		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (21)	1 単位	松井 恭子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (21)		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要・到達目標 この教科書はアメリカの 3 大テレビネットワークの一つである CBS の看板ニュース報道番組“CBS Evening News”と朝の番組“CBS Mornings”などで取り上げられたニュースを収録したものです。アンカーや記者たちが、様々な話題についてレポートしているため、英語を外国語として学んでいる学習者にとっても興味深いものがある。本教科書は、特にアメリカ人の生活や文化を直接反映しているニュースを厳選している。また、日本における社会問題や文化を取り上げている話題も含まれている。日本が現在のアメリカ人にどのように受け止められているかを垣間見ることもできる。 ニュースのビデオ映像を視聴し、次にそのスクリプトの読解を通じてニュースの理解を深めていく。単に情報のインプットだけにとどまらず、リスニング力の強化、英語の語彙の増強、自分の感想なりを英語で簡単に話す力をつけることを到達点として英語学習をすることを目指している教材である。 取り上げている話題には、例えば、A I はどんな仕事を人間から奪い、どんな仕事を人間のために生み出しているか、人を繋ぐチョコレート、アメリカの高校生が高齢者のためにしている心温まる活動、日本でビジネスに役立つために開かれている笑顔をつくるトレーニング講座、従来の森よりも早く成長するという日本の生態学者によるミヤワキ方式小規模森林の植樹がカリフォルニア州で行われている、などがある。 クラスメイトとの簡単な意見交換や、英語で発信する練習が楽しく出来るよう進める。リスニング力と読解力をつけ、更に簡単な英文で簡単な感想を英語で話す練習も行う予定である。英語動画を活用してリスニング力、読解力をつけ、基礎的な英語スピーキング力をつけると同時に様々なジャンルの最新情報を知ること知見を広げる。ボキャブラリーを増やしていくことが求められる。		
2. 授業内容 授業内容 第 1 回 イントロダクション（評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明） Unit 2: Will Artificial Intelligence Take Your Job? (1) 第 2 回 Unit 2: Will Artificial Intelligence Take Your Job? (2) The tips of how to express your opinion briefly 1 第 3 回 Unit 2: Will Artificial Intelligence Take Your Job? (3) 第 4 回 Unit 3: 3D Chalk art on Fourth of July Celebration (1) 第 5 回 Unit 3: 3D Chalk art on Fourth of July Celebration (2) How to express your opinion briefly 2 第 6 回 Unit 4: Youth Orchestra Works to Narrow Racial Gap (1) 発音音練習 1 第 7 回 Unit 4: Youth Orchestra Works to Narrow Racial Gap (2) 発音練習 2 第 8 回 Unit 5: Can Robots and Humans Coexist? (1) The structure of your opinion or comment 1 第 9 回 Unit 5: Can Robots and Humans Coexist? (2) How to show sources you make research. 1 発音練習 3 第 10 回 Unit 6: Teens Help Seniors Learn How to Use Technology (1) Group Discussion 1 第 11 回 Unit 6: Teens Help Seniors Learn How to Use Technology (2) Group Discussion 2 第 12 回 Unit 7: Japanese Employees Take Part in Simile Classes Group Discussion 3 第 13 回 Unit 8: Planting Tiny Forests in Fight to Slow Climate Change Speed Reading 第 14 回 まとめと期末テスト		
3. 履修上の注意 履修上の注意 春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、春学期はテキストの前半 Unit 2 から Unit 8、秋学期はテキストの後半 Unit 9 から Unit 15 を扱い重複していない。 教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。また、Oh-Meiji にも 4 月に載せる。欠席の回数に気を付けて下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容		

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を理解し、和訳出来るように準備して授業に望みましょう。各 Unit のトピックはインターネットなどで調べて、予習すると理解しやすいでしょう。授業での英語での自分の意見発表担当者は順番に当てるので、原稿を用意して取り組んで頂きたいです。

5. 教科書

教科書

CBS NewsBreak 7. Nobuhiro Kumai 他著、成美堂。
978-4-7919-7309-5 松伯社

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。

英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法

課題については、締め切りの後、授業で解説をする。期末試験の解説については、Oh-Meiji のシステムを通じて、試験後 2, 3 週間後に配信する。

8. 成績評価の方法

成績評価の方法

期末試験 (40%)、課題や単語小テスト (30%)、授業中の参加と平常点 (30%)

9. その他

連絡方法 (email) については、第一回目の授業でお伝えする。Oh-Meiji にも 4 月に載せます。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (22)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (22)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業は「音声面からの英語力向上」をテーマとし、英語の音声の仕組みを学んだ上でその知識を発音とリスニングに生かす実践的な演習を行います。この授業で想定されている英語力は中級程度です。 発音は語学の入口でもあり、基礎でもありながら、また永遠の目標であったりもします。外国語を学び始めるときに触れるのも発音ならば、聞き取れるようになるために必要なのも発音なのです。しかし、自分で色々なものを聞いていても、聞き取れない、違いが分からないという人は少なくありません。そこで、英語の音声はどのような仕組みになっているのかを知り、発音できるようになり、聞き取れるようになることを目指すのがこの授業です。また、辞書を引いたときに発音記号が理解でき、自分で正しい発音ができるようになるのも目標です。 単語レベルでの発音の違いを把握し、発音が違うことで語の意味が変わることを認識した上で、実際に声に出して練習します。教科書以外に早口言葉や歌、スピーチなどさまざまなものを教材として使います。前提知識を必要としないので、英語を苦手とする人でも十分に学ぶことができると思いますし、英語が得意な人はさらにスキルを上げることができるでしょう。 《授業の達成目標及びテーマ》 1) 発音記号を読めるようになること 2) 単語の標準的な発音を把握できること 3) 英文を分かりやすく読み上げられること 4) 文字を介さずに英語の音声を聞き取れるようになること ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回：a. 授業概要、履修上の注意、評価方法などの説明 b. 発音学習の基本トレーニング 第 2 回：Unit 1 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 3 回：Unit 2 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 4 回：Unit 3 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 5 回：Unit 4 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 6 回：Unit 5 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 7 回：Unit 6 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 8 回：Unit 7 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 9 回：Unit 8 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 10 回：Unit 9 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 11 回：Unit 10 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 12 回：Unit 11 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 13 回：Unit 12 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習 第 14 回：a. 期末試験 b. 今後の学習指針		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業時数の 3 分の 1 を超える欠席（5 回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 発音は実技です。したがって授業では音を聞いたり発音したりと、能動的な学習姿勢が求められます。得手不得手はともかく声に出して発音する意思のない人、居眠りをしている人、別の作業をしている人などは、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は特に必要ありませんが、復習を重視してください。 その週に学習したことをまとめておく他、付属の CD あるいは音声ファイルを何度も聞くこと、それらに合わせて発音することは最低限行ってください。 その他、各自の興味関心に応じて各種ニュース動画や映画、音楽など様々な音声を聞くことを勧めます。また、今年度受講している英語科目の付属 CD や音声ファイルを聞いたり、それに合わせて発音したりすることは、それらの科目の学習としても役立つことでしょう。		
5. 教科書 『Improving Listening and Pronunciation with Rhythm（なれよう、英語の音とリズム）』英宝社		
6. 参考書 岩村圭南（2019）『【改訂版】英語の正しい発音の仕方（基礎編）』研究社 岩村圭南（2019）『CD【改訂版】英語の正しい発音の仕方（基礎編）』研究社 岩村圭南（2019）『【改訂版】英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編）』研究社		

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（ディクテーションなど）と Oh-o! Meiji の「レポート」に提出する発音実技課題、Oh-o! Meiji への出席登録の際に記入する授業へのコメントがあります。紙媒体の課題については提出後コメントをつけて返却し、発音実技課題はレポート提出画面の「教員からのコメント」でフィードバックを行います。授業へのコメントについては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
発音実技課題	20%
授業へのコメント	10%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (23)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (23)		
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 このコースでは、特にスピーキングやリスニングスキルを磨き、より効果的なコミュニケーションに必要な豊富な語彙力を身につけます。 情報共有、問題解決、意思決定といった没入型の課題に挑戦します。 〈授業の達成目標及びテーマ〉 このコースの終了時には以下のことができることを目標としています。 一日常生活の様々な話題について話すことができる。 一自信を持って英語で他者を理解し、自己表現することができる。 一カジュアルな会話に熱心に参加することができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 1. Course work, Presentation of syllabus, Class rules 2. Unit 4.1 Hero or Zero? 3. Unit 4.2 A Peruvian adventure 4. Unit 4.3 A driving test 5. Unit 4.4 Business and pleasure 6. Unit 4.5 Micro adventures 7. Unit 5.1 Lost...and then found 8. Unit 5.2 Help from a stranger 9. Unit 5.3 You're kidding! 10. Unit 5.4 Storytelling 11. Unit 5.5 Believe it or not... 12. Unit 6.1 Moving to a megacity 13. Unit 6.2 Intelligent solutions 14. a) Final Exam, b) Wrap up 尚、授業内容や進度は、受講者のニーズや受講生の人数など、必要に応じて変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習：テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認、テキストの音声やビデオを視聴、テキストの読解問題に挑戦しましょう。 ・復習：授業で取り扱った表現の口頭練習を繰り返し行い、さらに定着させましょう。また、オンライン上の教材を活用し、音声や映像を視聴して復習しましょう。		
5. 教科書 書名：Evolve 3A Student's Book with Digital Pack 著者：Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, and Kathryn O'Dell 出版社：ケンブリッジ大学出版 ISBN：9781009231831 ・春学期と秋学期で同じ教科書を使用しますが、学習範囲が異なります。		
6. 参考書 BBC Learning English: https://www.bbc.co.uk/learningenglish/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 口頭で行います。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験：80%、平常点（授業参加と課題）：20%。 ・遅刻は（授業開始後 30 分までに入室）3 回で欠席 1 回とみなします。授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となります。		

9. その他

- ・オフィスアワーは金曜日の 12:30-13:10、中央校舎 3 階講師控室です。
- ・連絡先のメールアドレスは、k_nakamura@meiji.ac.jp です。メールを送る際、「件名」に、「金曜 4 限 英語 III, クラス ID 30 番、鈴木花子」のように「曜日、時限、授業科目名、クラス ID 番号、氏名」を書いて、明治大学から提供されているメールアカウントから送信してください。また、お返事に数日かかることもあります。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (24)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (24)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標》 このクラスでは人間と動物の共存、生態系の保全をテーマに英語の文章を読みながら、英語の4技能を向上させることを目標とします。 《授業の概要》 授業ではテキストを読み、練習問題や関連したトピックに関してのディスカッションなどを行います。テキストは全15課で構成されており、春学期は主に奇数の章を扱います。(秋学期は同じテキストの主に偶数の章を扱う予定です。)		
2. 授業内容 第1回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります) b. ウォームアップ練習など 第2回：Unit 2 Dian Fossey: A Champion for the Conservation of Gorillas (マウンテンゴリラに生涯を捧げた女性) 第3回：Unit 2 Exercise, Discussion & Speaking 第4回：Unit 4 Alex the Parrot and Irene M. Pepperberg (ヨウムのアレックスとアイリーン・ペッパーバーグ) 第5回：Unit 4 Exercise, Discussion & Speaking 第6回：Unit 6 Pet Lovers] Japan' s Evolving Relationship with Dogs and Cats (日本のペット-犬と猫と人間の現状) 第7回：Unit 6 Exercise, Discussion & Speaking 第8回：Unit 8 The Horse in Veterinary Medicine (ウマの獣医-その魅力と課題) 第9回：Unit 8 Exercise, Discussion & Speaking 第10回：Unit 12 Producing Healthy Beef: Yakumo Experimental Farm (健康な、健康に良い、牛を育てる-八雲牧場の挑戦) 第11回：Unit 12 Exercise, Discussion & Speaking 第12回：Unit 14 Feline AIDS: Can Cats Catch AIDS? (猫エイズ-猫もエイズにかかるのか?) 第13回：Unit 14 Exercise, Discussion & Speaking 第14回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 春学期は奇数章、秋学期は偶数章を読みます。春秋両方受講すると1冊読み終わります。また、一学期に2/3以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必ず行ってください。ただし予習でGoogle翻訳などを使用して日本語を用意して来るのは予習ではありません。個々の単語や文構造や文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことが予習です。また予習の段階でよくわからなかった部分に印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speakingに関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います。		
5. 教科書 English for Students of Veterinary Science「獣医学系学生のための総合英語」(2013, 南雲堂)		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書(電子、紙のいずれか)を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題20-30%, 各種テスト(予習テスト、小テスト、期末テスト等)70-80%をもとに総合的に評価します。総合点60点以上を合格とします。また欠席が1/3(5回以上)を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		
9. その他 オフィス・アワー：火曜12:30-13:20(中央棟3F 講師控室)		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (25)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (25)		
1. 授業の概要・到達目標 到達目標》 実話を元にした映画を題材としたテキストを使用して、英語の 4 技能を向上させることを目標とします。 《授業の概要》 エンターテインメント、スポーツ、科学技術、歴史などのさまざまな分野で社会に影響を与えた人々の伝記映画を題材としたテキストを使い、周囲にどのような影響を与え、世界をどの湯に動かしてきたかを学びながら、リスニング、長文読解、文法、簡単なスピーキングなどの英語力を身につける練習をします。 テキストは全 15 課で構成されており、春学期は主に奇数、秋学期は偶数の章を扱います。		
2. 授業内容 第 1 回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります) b. テキストの構成と授業の進め方などの説明 第 2 回：Unit 2 Identity and Friendship 前半（リーディング） 第 3 回：Unit 2 後半（文法、スピーキング）、Mini Quiz 第 4 回：Unit 4 Driven by Conflict 前半（リーディング） 第 5 回：Unit 4 後半（文法、スピーキング）、Mini Quiz 第 6 回：Unit 6 Strength From a Stutter 前半（リーディング） 第 7 回：Unit 6 後半（文法、スピーキング）、Mini Quiz 第 8 回：Unit 8 More Than a Vote 前半（リーディング） 第 9 回：Unit 8 後半（文法、スピーキング）、Mini Quiz 第 10 回：Unit 12 The Cost of a Miracle 前半（リーディング） 第 11 回：Unit 12 後半（文法、スピーキング）、Mini Quiz 第 12 回：Unit 14 Understanding the Cost of Walking Away 前半（リーディング） 第 13 回：Unit 14 後半（文法、スピーキング）、Mini Quiz 第 14 回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 春学期は奇数章、秋学期は偶数章を読みます。春秋両方受講すると 1 冊読み終わります。また、一学期に 2/3 以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必ず行ってください。ただし予習で Google 翻訳などを使用して日本語を用意して来るのは予習ではありません。細かい語彙や文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことが予習です。また予習の段階でよくわからなかった部分に印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speaking に関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います		
5. 教科書 True Lives in Movies「実話映画で読み解く人生の物語」（2026、金星堂）		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題 20-30%、各種テスト（予習テスト、小テスト、期末テスト等）70-80%をもとに総合的に評価します。総合点 60 点以上を合格とします。また欠席が 1/3（5 回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		
9. その他 オフィス・アワー：火曜 12:30-13 :20（中央棟 3F 講師控室）		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (26)	1 単位	平野 桃子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (26)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 Our World Now with SDGs を教材として利用します。SGDs の目標に関連する記事を読みながら、語彙の増強、内容の確認、文法の復習を行います。リスニングや発音の練習、短いプレゼンテーションも行い、基礎的な英語力を伸ばします。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 またこのクラスは、授業内容が基礎・初級レベルであるため、成績点が高い場合でも、S、A、および B の成績評価はつきません。 《授業の到達目標》 基礎的なインプットの力（読む／聞く）とアウトプットの力（文章を作成する（書く）／話す）を総合的に伸ばすことを目標とします。英語を聞き取り、話題になっているテーマについて自分の意見を言えるようにしましょう。		
2. 授業内容 第 1 回 a: イントロダクション（授業の進め方と成績評価基準） b: プレゼンテーションの担当決め * 以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。 第 2 回 Unit7: Designed to Break Barriers（みんなにやさしいまちの形） 第 3 回 Unit7: Designed to Break Barriers（みんなにやさしいまちの形） 第 4 回 Unit8: Closing the Digital Divide（ルワンダの学校にインターネットを） 第 5 回 Unit8: Closing the Digital Divide（ルワンダの学校にインターネットを） 第 6 回 Unit9: 'TABLE FOR TWO' for All（食料提供の支援をする NPO） 第 7 回 Unit9: 'TABLE FOR TWO' for All（食料提供の支援をする NPO） 第 8 回 Unit10: Making Impacts for Women and Children（女性と子どもに等しいチャンス） 第 9 回 Unit10: Making Impacts for Women and Children（女性と子どもに等しいチャンス） 第 10 回 Unit11: Planting the Seeds of Ethical Fashion（ファッションと私たちの未来） 第 11 回 Unit11: Planting the Seeds of Ethical Fashion（ファッションと私たちの未来） 第 12 回 Unit12: Underwater Plants for Climate Hope（ふるさとの味がくれる希望） 第 13 回 Unit12: Underwater Plants for Climate Hope（ふるさとの味がくれる希望） 第 14 回 a: まとめ b: 期末試験		
3. 履修上の注意 各回の授業で扱う範囲の予習をするようにして下さい。自身の専攻や分野にとらわれず、様々な主題に触れながら英語を使って幅広い知識を吸収したいという学生を歓迎します。 全日程の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は 3 回で 1 回の欠席とみなします。また授業開始後 20 分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者と欠席扱いとなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業には必ず辞書を持参して下さい。 事前にテキストに目を通し、単語調べをして来て下さい。構文等が分からない文に関して、どこがどう分からないか質問できるようにして下さい。 学期中に全員が短いプレゼンテーションを行います。聴衆が聞き取れるスピーチになるよう、発音練習を重ねて下さい。		
5. 教科書 Our World Now with SDGs Shin Mayama, Hidehiro Tsukada, Takayuki Mizuno, Brian Wistner （金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的に口頭で行いますが、oh-o!meiji も使用します。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、プレゼンテーション 20%、授業への参加度（含小テスト）30%で総合的に評価する。		

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (27)	1 単位	下永 裕基
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (27)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「語幹を軸にした語彙増強」(中・上級) 英語力を身につけるための骨格として、十分な語彙力は不可欠である。それは「英語が外国語だから」ではなく、英語を母語とする人々も同じであって、英語圏で成功している人々は皆、日常レベルをはるかに超えた語彙を備えていることがわかっている。 この授業では、英語圏の人々が長年、利用してきた信頼できる vocabulary building のワークブックをもとにした教材を使用し、英文を正確に読む訓練とあわせて語彙を増強する。ターゲットとなる英単語は主としてギリシア語・ラテン語に由来する hard words が中心であるが、教材の内容以外にも、授業では適宜、英語本来のゲルマン系の単語の語源についても扱って、語源を知る楽しみをも味わいたい。 農学科食糧生産・環境コース(2023 年度以前に入学した学生が対象)においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の到達目標》 語彙増強としては、ギリシア語・ラテン語に由来する語彙を中心に体系的に学び、未知の語であっても語源的に推測できる力を身につける。		
2. 授業内容 第1回 a イン트로ダクション(授業の進め方と成績評価基準) b: 英語学習用ツールの紹介、担当範囲の確認など * 以下、テキスト上の Session 番号です。 Session 4 以降を使用しますが、それ以前の内容には関係なく、独立した授業内容です。 第2回 Session 4 - 1 第3回 Session 4 - 2 第4回 Session 4 - 3 第6回 Session 4 - 4 第8回 Session 5 - 1 第9回 Session 5 -2 第10回 Session 5 - 3 第11回 Session 6 - 1 第12回 Session 6 - 2 第13回 Session 6 - 3 第14回 a: 学期末試験 b: 解説および総括 * 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。		
3. 履修上の注意 辞書を携帯すること(電子辞書可)。 遅刻厳禁。 授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。 ・テキストには練習問題が付されているが、それには解答がついているので、授業では扱わない。各自で取り組むこと。		
5. 教科書 Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。		
6. 参考書 織田哲司『英語の語源探訪』(大修館書店) 渡部昇一『英語の語源』(講談社現代新書)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立てます。		

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の3分の2以上）が、期末試験を受けるための必須条件である。
そのうえで、定期試験 80%、授業への積極性 20%。

9. その他

研究室は3号館4階，3-405にある。
オフィスアワー：火曜 16 時～17 時。水曜 13 時 30 分～16 時。
オフィスアワー以外でも，在室時には可能な限り，対応します。
授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。
研究室連絡先＝ ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (28)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (28)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ピジン・クレオール及びハワイの言語文化に関する英語文献を精読する。 受講者は指定された箇所を全訳したものを用意し毎回発表する。 授業中の既習事項については毎回小テストを行い理解度の確認をする。 《到達目標》 言語学に関する英語文献の読み方を習得することを第一の目標とする。 将来的に Biolinguistics（統語論の進化論的及び生物学的ルーツの解明を目標とした研究）の専門書を読めるようになる準備をする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 機器の使用方法、教材の入手方法と予習の進め方、単位認定等についての詳しい説明、小テスト 第 2 回～第 13 回 テキストの精読・小テスト 第 14 回 まとめ 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 第 1 回目は単なるイントロダクションではないので、履修を迷っている場合でも必ず出席すること。 毎回出席することは「当然の義務」であるから、欠席・遅刻・早退についてはそれぞれ大幅に減点をする。 皆勤とは無縁の学生にはお勧めしない。 課題未提出の場合には、大幅に減点する。 理由のいかんにかかわらず提出期限を過ぎたものや形式等に不備があるものは無効となる。 また、指示に従わず内容が不十分な場合にも評価対象外となることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ配布された英文資料を全訳し、毎回授業前に提出する。 準備にかなりの時間を要することを覚悟すること。		
5. 教科書 特に定めない。 英文資料の入手方法については第 1 回の授業で説明する。 欠席した場合には第 2 回以降の授業に参加できないなど支障をきたすことがあるので注意すること。		
6. 参考書 授業中に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に詳細に解説するので、各自で丁寧に添削する必要がある。 また、この添削済のノート原本は、学期末に提出する必要がある（評価対象）。		
8. 成績評価の方法 成績評価の基本方針 毎回の小テスト 40%、平常点（提出物・授業中の発表および添削等）60%の総合評価である。 授業中に各自で添削したノートの原本は、学期の終盤に提出する必要がある（評価対象）。 授業回数の 3 分の 2 以上に参加していない者は成績評価の対象から外す。 皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはない。 欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をする。 評点算出方法等については、第 1 回の授業で詳細に説明する。		
9. その他 オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。 本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (29)	1 単位	平野 桃子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (29)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 イギリスの BBC の番組を題材にした、World Travelers—A Learning Journey with Videos from BBC's The Travel Show をテキストを使います。内容理解を補助するリーディングを行なった後で旅番組を見ながらリスニングの練習をし、自分の意見や見解を発信することに繋がります。英語の 4 技能を総合的に使う練習をします。 農業科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の到達目標》 英語の 4 技能を総合的に伸ばすことを目標にします。リスニングやリーディングといったインプットだけでなく、グループワークやプレゼンテーションを通して日本人が苦手とするアウトプットも積極的に行うことを目指します。		
2. 授業内容 第 1 回 a: イントロダクション（授業の進め方と成績評価基準など） b: 担当決め／自己紹介（行ってみたい国、そこでやりたいこと） ＊以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。 第 2 回 Chapter7: Estonia（観光客に人気の「サウナマラソン」） 第 3 回 Chapter7: Estonia（観光客に人気の「サウナマラソン」） 第 4 回 Chapter8: Peru（標高 4,800m の巡礼祭「コイヨリッティ」） 第 5 回 Chapter8: Peru（標高 4,800m の巡礼祭「コイヨリッティ」） 第 6 回 Chapter9: Japan（日本発祥の森林浴） 第 7 回 Chapter9: Japan（日本発祥の森林浴） 第 8 回 Chapter10: Australia（先住民族の言語保護） 第 9 回 Chapter10: Australia（先住民族の言語保護） 第 10 回 Chapter11: Rwanda（国を支える女性たちとバナナビール） 第 11 回 Chapter11: Rwanda（国を支える女性たちとバナナビール） 第 12 回 Chapter12: Denmark（スキーができるゴミ処理発電所） 第 13 回 Chapter12: Denmark（スキーができるゴミ処理発電所） 第 14 回 a: まとめ b: 期末試験		
3. 履修上の注意 各回の授業で扱う範囲の予習、復習をするようにして下さい。英語力、特にアウトプットする力の向上に意欲のある学生を歓迎します。 全日程の 3 分の 1 以上を欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は 3 回で 1 回分の欠席とみなします。また授業開始後 20 分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの動画や音声ダウンロードできるので、リスニングはそれを利用して予習、復習をして下さい。繰り返し見て、聞くことを勧めます。 リスニングとシャドウイングの自主練習で英語のアウトプット能力が向上しますので、ぜひ継続してやってみて下さい。		
5. 教科書 World Travelers—A Learning Journey with Videos from BBC's The Travel Show Rima Uraguchi, Yukiko Takeoka, tom Dillon （金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的に口頭で行います。Oh-o!Meiji を使うこともあります。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、プレゼンテーション 20%、授業への参加度 30%で総合的に評価する。		

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (30)	1 単位	貝塚 泰幸
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (30)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ヴィクトリア朝時代のロンドンで活躍した私立探偵シャーロック・ホームズの扱った事件をリトールド版 Three Adventures of Sherlock Holmes を使って読む。推理小説の金字塔であるこの作品が、後世の人々に与えた影響は計り知れない。その人気は止まることを知らず、現在でも多様な媒体で新たな作品が作られていることは言うまでもない。今も人々を惹きつけてやまないホームズの推理と相棒ワトソンの事件に関する記録を、リーディングのために編集された平易な英文テキストで楽しむ。 《授業の到達目標》 テキストを丁寧に読みながら、英文を多様に解釈する深い洞察力を養うことを目標とし、また教養として 19 世紀ヴィクトリア朝時代のイギリス社会や文化などに関する知識を身につけ、知見を広めることも目指す。同時に登場人物へ共感する力を培い、作品の本質的な魅力ともいえる人物造形の分析やホームズの推理を追体験することで読書の楽しみを再発見する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明 b. Introduction 第 2 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 3 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 4 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 5 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 6 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 7 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 8 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 9 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 10 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 11 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 12 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 13 回：英文精読・考察およびディスカッション 第 14 回：英文精読・考察およびディスカッション ＊授業内容は進度などに応じて変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 ・学生は積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、意味のわからない単語については予め調べておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参することが望ましい。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。 ・準備学習の不足や、不適切な授業への参加態度（私語やスマートフォンの使用など）は成績評価に加味される。 ・教科書を購入しない学生については、原則として成績評価の対象外とする。 ・全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。 ・遅刻・早退は 3 回で 1 回分の欠席とし、授業開始後 30 分以上遅れて来た者および授業終了 30 分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者については欠席扱いとする場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語や表現については教科書についている注釈や辞書を参考にしながら、授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。特に関心を持った内容や難解な箇所、あるいは理解できない内容や英文法に関しては学生全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。		
5. 教科書 Sir Arthur Conan Doyle, Three Adventures of Sherlock Holmes, (Pearson Education, 2008). ＊紙媒体のものを購入すること。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。		

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30% （和訳提出、授業内の質疑応答・発言など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

欠席連絡や課題についての問い合わせ先は、Oh-o! Meiji にて連絡先を公開する。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (31)	1 単位	松井 恭子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (31)		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要・到達目標 授業の概要・到達目標 本教科書は、現代英国が直面する多面的な課題を取り上げている。例えば、英国が国家利益を優先するあまり国家主義へと傾きつつあるのかという問いをはじめ、気候変動と地球規模の危機への取り組み、デモや抗議活動に対する警察権限を強化する法整備のもたらす危険性、ワクチン開発研究の最前線、教育格差とそれに伴う社会の分断、そしてブレクジット以降の英国の未来像など、これらのテーマを、BBC のジャーナリストが平易で読みやすい英語で描き出している点が本書の特長である。 各エッセイの読解に加え、関連するリスニング問題に取り組むことで、内容理解を深めるとともに、実践的なリスニング力の向上も図ることができる構成となっている。英国の社会事情を読解し、知見を広げ、パラグラフの構成の正確な理解を目指し精読する力をつける。関連した英文資料も配布し、読解に役立てる。そして、クラスメートと楽しく、学んだことについて英語で意見を出し合う練習も行い、理解を深める。		
2. 授業内容 授業内容 第 1 回 イントロダクション（評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明） と UK について Chapter 9: The New Nationalism (1) 第 2 回 Chapter 9: The New Nationalism (2), The three structures in your comment: Introduction and conclusion parts 第 3 回 Chapter 9: The New Nationalism (3), The New Nationalism に関する資料 How to express your opinion briefly 第 4 回 Chapter 11: Environment (1), How to use visual effects in comment 第 5 回 Chapter 11: Environment (2) Group Discussion 1 Supporting your opinion with evidence 1 第 6 回 Chapter 12: The New Crime Bill (1) The three structures in your comment 1 第 7 回 Chapter 12: The New Crime Bill (2) に関する資料と動画 第 8 回 Chapter 13 : Vaccination & Freedom Day (1), Supporting your opinion with evidence 2 第 9 回 Chapter 13 : Vaccination & Freedom Day (2) How to use visual effects in mini-presentation 1 第 10 回 Chapter 14: Education: Disparity (1), Group Discussion 第 11 回 Chapter 14: Education: Disparity (2), 第 12 回 Chapter 15: Britain' s Future (1), Group Discussion 2 第 13 回 Chapter 15: Britain' s Future (2), 第 14 回 期末試験とまとめ		
3. 履修上の注意 履修上の注意 春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、春学期はテキストの前半、Chapter1 から Chapter 8、秋学期はテキストの後半、Chapter 9 から Chapter 15 を扱い重複していません。お渡しする資料は、忘れずに授業に持参して下さい。 欠席の回数に気を付けて下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、準備して授業に望みましょう。 授業で自分の意見や調べたことを発表することは、順番に当てます。 担当に当たったときは、頑張って取り組んで下さい。Group Discussion では、積極的に discussion に参加しましょう。		
5. 教科書 教科書 Britain Today: Modern Britain: Culture, Society and History. James C. House 他著、 （松柏社）ISBN 978-4-88198775 -9C3082		
6. 参考書 毎回辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できます。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。 参考になる本などは、授業時にお知らせします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小課題については、締め切りの後、授業で解説をします。期末試験の振り返りについては、試験後に解説します。		

8. 成績評価の方法

成績評価の方法

期末テスト（40%）、
英語で自分の意見を発表、単語小テスト、Group Discussion（30%）、
授業の平常点（30%）

9. その他

連絡方法、教員のメールアドレスについては、第一回目の授業でお伝えします。9 月に Oh-Meiji にも載せます。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (32)	1 単位	織田 哲司
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (32)		
1. 授業の概要・到達目標 英文法への理解を深める 《授業の達成目標及びテーマ》 これまででは英文法をただ規則として覚えるだけであったかもしれないが、ここではときにはその歴史的な成り立ちにも言及しながら、システムとして「なぜこう言うのか」に焦点を当てながら英文法への理解を深める機会にしたい。 《授業の概要》 したがって、文法説明はこれまでとは違う切り口で行われるはずである。秋学期の「英語 III」は基本 5 文型を中心に英文法を解説する。受講者は解説を聞くだけでなく、例文を訳したり、英語を書いたりしながら英文法を身につけられるようにする。できるだけ多くミニテストも用意する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション：ことばと化学記号は同じなのかがうのか 第 2 回 Time flies like an arrow を訳してみよう 第 3 回 文法用語の確認と整理 第 4 回 品詞 1 第 5 回 品詞 2 第 6 回 品詞 3 第 7 回 文の構造 第 8 回 文の要素 第 9 回 文型 1 第 10 回 文型 2 第 11 回 文型 3 第 12 回 文型 4 第 13 回 文型 5 第 14 回 a：まとめ b：期末試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 充分な予習、復習と出席はいうまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃からことばそのものに関心を持ち続けることが必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。 1. 英和辞典を活用する―単語を調べる 事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書（資料）の余白のみならずノートに記入しておくといよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくといよい。 授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。 とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。 自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているので、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。 2. 百科事典を活用する―単語以外のさまざまな事項を調べる たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、などを百科事典を参照して、自分から進んで調べておくといよい。 以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。 さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。 3. 自分の五官を活用する これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオや DVD を活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておく、講義はいつそう楽しいものになるはずである。		
5. 教科書 Oh-o! Meiji System を利用して教材を配付する。		

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

さらなる参考書について必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。小テスト 40%、期末テスト 40%の配分、授業中のパフォーマンス 20%で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第Ⅳ研究室（3 号館 3 階 3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2026 年度以降入学者
英語Ⅲ (33)

2022～2025 年度入学者
英語Ⅲ (33)

1 単位

松井 恭子

1. 授業の概要・到達目標

授業の概要・到達目標

本授業では、教科書に収録された映画『The Intern』と印刷して配布する『Snow Falling on Cedars』(ヒマラヤ杉に降る雪)を題材として、総合的な英語力の向上を目指す。教科書は、映画の内容や背景情報を扱うリーディングパート、映画を題材とした口語表現の学習、さらに映画視聴に基づくリスニング演習、自身の感想や意見を英語で表現するライティング練習で構成されている。

授業では、内容理解を深めるための設問に取り組むとともに、映画音声を確認しながら、生きた英語に触れ、実践的なリスニング力の向上を目標とする。また、基礎的な英語スピーキング力をつけられるよう、クラスメイトとの簡単な意見交換や登場人物のロールプレイ活動も行う。平易な英文を用いて感想を話す練習も行い、英語で発信する練習が楽しくできるよう進める。さらに、教科書のリーディングの箇所を活用し、精読力および速読力の向上も目指す。

『The Intern』の舞台はニューヨーク。ファッション通販サイトを起業し、仕事と家庭を両立させながら若くして成功を掴んだ女性社長 Jules。彼女の会社に、シニア・インターン制度で採用された 70 歳の男性 Ben が新人としてやってくる。Ben は、最初は社内で浮いた存在だったが、その穏やかで誠実な人柄によって、次第に周囲と Jules と信頼関係を築いていく。その過程がコメディタッチで描かれている。セリフの英語は、短く聞き取りやすい。

『Snow Falling on Cedars』は、アメリカ人青年と日系人の娘の愛と葛藤を軸に、戦争と差別の影を描いた重厚な人間ドラマである。物語の舞台は、ワシントン州北西部の島。そこで育ったアメリカ人の少年イシュマエルと、日系人の少女ハツエは、思春期のひとときの中で恋に落ちる。しかし、太平洋戦争の勃発と日系人に対する根強い人種偏見という時代のうねりは、二人の運命を無情にも引き裂いていく。

やがてハツエは日本人強制収容所へ送られ、その後、同じ日系人であるカズオ・ミヤモトと結婚する。戦後 9 年が経った 1954 年の冬、島で一人の漁師が水死体となって発見される。同じ漁船に乗っていたカズオは殺人容疑で起訴され、裁判にかけられることになる。地元新聞の記者となったイシュマエルは、この裁判取材の中で、法廷の被告席に座るカズオを静かに見守るハツエと再会する。彼の胸によみがえるのは、かつての恋と別れの記憶。過去への想いと記者としての使命の狭間で、彼の心は揺れ動く。取材を進めるうちに、イシュマエルはカズオの無実を示す可能性のある重要な証拠をつかむ。彼は、私情を優先するのか、それとも正義を貫くのか、どのような選択をするのか? 戦時下における日系人の差別という歴史的事実を知ることができる映画である。

2. 授業内容

授業内容

第 1 回 イントロダクション (評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明)

Unit 6: Applying for a Senior Internship in The Intern (1)

第 2 回 Unit 6: Applying for a Senior Internship in The Intern (2)

発音音練習 1

第 3 回 Unit 6: Applying for a Senior Internship in The Intern (3)

役柄の Role Play 1

第 4 回 Unit 7: The Working Environment at ATF in The Intern (1)

How to express your opinion briefly

第 5 回 Unit 7: The Working Environment at ATF in The Intern (2)

発音練習 2

第 6 回 Unit 8: The Problems ATF faces in The Intern (1)

The structure of your opinion or comment 1

第 7 回 Unit 8: The Problems ATF faces in The Intern (2)

発音練習 3

第 8 回 Unit 9: Working Women & Work-Life Balance in The Intern (1)

役柄の Role Play 2

第 9 回 Unit 9: Working Women & Work-Life Balance in The Intern (2)

Group Discussion 1

第 10 回 Unit 10: The Possibility of Hiring a New CEO in The Intern (1)

Group Discussion 2

第 11 回 A Death in the Fog in Snow Falling on Cedars (1)

Group Discussion 3

第 12 回 A Death in the Fog in Snow Falling on Cedars (2)

Speed Reading 1

第 13 回 A Kendo Wound in Snow Falling on Cedars (1)

Speed Reading 2

第 14 回 A Kendo Wound in Snow Falling on Cedars (2)

Speed Reading 3

3. 履修上の注意

履修上の注意

春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、春学期はテキストの中の映画 Bohemian Rhapsody と映画 Moneyball を扱い、秋学期はテキストの中の映画 The Intern とプリントで配布する映画教材 Snow Falling on Cedars を扱うため重複していない。
欠席の回数に気を付けて下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、和訳出来るように準備して授業に望みましょう。授業での英語での自分の意見発表担当者は順番に当てるので、原稿を用意して取り組んで頂きたいです。

5. 教科書

教科書

Active English Through Movies. 『アクティブ・ラーニング型映画で学ぶ英語 4 技能』
塩見佳代子 他著。金星堂 ISBN 9784 7 6 4 7 41256

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法

課題については、締め切りの後、授業で解説をする。

8. 成績評価の方法

期末レポート（40%）、単語小テストと意見発表(30%)、授業中の参加と平常点（30%）

9. その他

連絡方法（email）については、第一回目の授業でお伝えする。
Oh-Meiji に 9 月にも載せます。

科目ナンバー (AG) LAN211M				
科目名		単位数	担当者	
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (34)		1 単位	伊達 恵理	
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (34)				
1. 授業の概要・到達目標				
《授業の概要》 「英国事情を学ぶ」レベル（中級） 英語及び英語文化圏に対する理解を深める作業の一環として、英国事情を学びます。Life and Society in Modern Britain [Revised Edition] 『現代イギリスの暮らしと文化』[改訂版] をテキストに用い、秋学期は英国の君主制、恋愛と結婚のあり方、移民と民族、ヨーロッパとの関係をトピックとした4章を通じて、現代の英国社会とその背景にある歴史・文化伝統、人々の生活の中にうかがわれる英国人の考え方・感じ方を概観します。内容に応じて随時視聴覚関連資料なども採り入れる予定です。				
《授業の到達目標》 現代英国の生活と文化に関するリーディングを通じて長文の英語論説文的確な読解を目指し、テキストから見えてくる英国の歴史・社会的背景や文化伝統について学ぶと同時に、それらに対する現代英国人の捉え方、価値観への理解や親しみを深めることを目標とします。英国社会・文化においてよく用いられる表現・語彙に馴染み、音声教材によってイギリス英語の聴き取りに慣れることを目指すとともに、テキストの練習問題により英文読解・ライティング力の向上を目指します。				
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。				
2. 授業内容				
第1回：	Introduction			
第2回：	Chapter 9	The Monarchy (1)	Some History	本文読解①
第3回：	Chapter 9	The Monarchy (2)	The Monarchy Today	本文読解②
第4回：	Chapter 9	The Monarchy (3)	The Royal Family	本文読解③
第5回：	Chapter 10	Love and Marriage (1)	Introduction	本文読解①
第6回：	Chapter 10	Love and Marriage (2)	Weddings / Refusing Marriage	本文読解②
第7回：	Chapter 10	Love and Marriage (3)	Divorce / The Road to Same Sex Marriage	本文読解③
第8回：	Chapter 12	Immigration & Race (1)	Some Early History	本文読解①
第9回：	Chapter 12	Immigration & Race (2)	Later History / Today	本
文読解②				
第10回：	Chapter 12	Immigration & Race (3)	Racism, Xenophobia and Overpopulation / The Future	本文読解③
第11回：	Chapter 13	Europe (1)	Some History	
本文読解①				
第12回：	Chapter 13	Europe (2)	British Attitudes to Europe / Brexit	本
文読解②				
第13回：	Chapter 13	Europe (3)	The Future	
本文読解③				
第14回：	a. 試験 b. まとめ			
* 講義の進度は必要に応じ変更することがあります				
3. 履修上の注意				
テキストの的確な内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとい良いでしょう。				
授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
[予習] テキスト各 Chapter の本文については、授業に先立って配布されるパラグラフ内容のポイント確認・整理のプリントを用いて予習を行い、プリントの設問および各 Chapter の Exercises（練習問題）の設問に答えられるよう、準備して下さい。設問以外の箇所についても、辞書を引いて語句の意味を確認し、リーディング全体の構文・意味内容を理解できるよう、予習を十分にしてくる。日頃から、英国関連のニュース・情報にも目を配ると良いでしょう。				
[復習] 授業でパラグラフ内の語彙や構文、テキストの意味内容を確認した後は、各節とリーディング全体の文章構成、論旨の展開を理解し見通せるよう、復習すること。また、各パラグラフで学んだ語彙・成句について、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。				
5. 教科書				
Life and Society in Modern Britain [Revised Edition] 『現代イギリスの暮らしと文化』[改訂版]， Simon Rosati 著（英宝社）				

6. 参考書

なし

7. 課題に対するフィードバックの方法

各章の予習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。Oh-o!Meiji を通じて出された課題については、Oh-o!Meiji 上にて解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%，平常点（課題の提出とその内容，出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度，小テストなどの成績）40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。（欠席は3回まで）

9. その他

- ・オフィスアワー：木曜日 12：50～13：20 中央棟 3F 講師控室
- ・質問・連絡等は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡の窓口として Oh-o!Meiji の「アンケート」を使用します。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (35)	1 単位	貝塚 泰幸
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (35)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 30 年以上に及び日本経済の閉塞感によって拍車がかけられたかのように英語によるコミュニケーション能力を測る試験の需要は高まり、その種類も多様化している。数ある英語能力検定試験のなかで、とりわけ TOEIC は、その手頃さと高い知名度から高校・大学から企業に至るまで広く活用されている。そのため、分野を問わず TOEIC 受験とハイ・スコア取得は将来のキャリア形成のために不可欠といえる。授業はテキストに沿って進めていく。毎回の語彙テストやグループ・ワークあるいはペア・ワークを織り交ぜながら、TOEIC スコアアップに必要な文法事項を効率的に再確認し、実践的なリーディング問題に取り組みことで、その定着を図る。 《授業の到達目標》 教科書の実践的な問題を活用しながら TOEIC スコアアップに必要な文法項目を習得し、TOEIC スコア 600 点以上を目指す。受験をしたことがある学生もそうでない学生についても、特にリーディング・セクションの問題の特徴と形式を把握し、高い正解率を維持しながら問題解答速度のスピードアップを目標とする。また、TOEIC だけでなく他の様々な英語能力検定試験に対応できる語彙力、文法に関する知識、読解力といった英語の基礎力の向上も目指す。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明 b. イントロダクション 第 2 回：Section 1, Unit 1 (1) 第 3 回：Unit 1 (2) 第 4 回：Unit 2 第 5 回：Unit 3 第 6 回：Unit 4 第 7 回：Unit 5 第 8 回：Unit 6 第 9 回：Unit 7 第 10 回：Unit 8 第 11 回：Section 2, Unit 1 第 12 回：Unit 2 第 13 回：Unit 6 第 14 回：a. まとめ b. 期末試験 * 授業内容は進度などに応じて内容は変更される場合がある。		
3. 履修上の注意 ・学生は積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、意味のわからない単語については予め調べておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参することが望ましい。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。 ・準備学習の不足や、不適切な授業への参加態度（私語やスマートフォンの使用など）は成績評価に加味される。 ・教科書を購入しない学生については、原則として成績評価の対象外とする。 ・全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。 ・遅刻・早退は 3 回で 1 回分の欠席とし、授業開始後 30 分以上遅れて来た者および授業終了 30 分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者については欠席扱いとする場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・難解な箇所や理解できない点、特に文法事項に関してはクラス全体で共有できるようメモなどを残しておくこと。 ・授業で扱った文法事項および問題の復習は必須。		
5. 教科書 西谷 敦子・James G. Wong 編著『[新訂版] TOEIC テスト文法・読解頻出ポイント』（朝日出版社）		
6. 参考書 TOEIC 公式サイト https://www.iibc-global.org/		

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30% （予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

欠席連絡や課題についての問い合わせ先は、Oh-o! Meiji にて連絡先を公開する。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (36)	1 単位	貝塚 泰幸
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (36)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 司法による判断は常に公平であるという先入観と期待が悉く裏切られる現代社会の状況を見るにつけ、裁判の歴史は私たちの興味や関心を惹きつけ、未来への洞察を与えてくれるテーマの一つになるかもしれない。この授業では古代から現代に至るまで世界各地で行われたいくつかの裁判の事例とアメリカ合衆国史上重要な意義を持ついくつかの裁判について英文で読んでいく。さまざまな裁判の事例を読むことで、実は裁判が権力者により都合よく使われてきたこと、人権と民主主義という私たちにとって当たり前のものが先駆者たちの犠牲のもとに勝ち取られたことを改めて認識することになるだろう。 《授業の到達目標》 古今東西さまざまな裁判事例に関する英文を読み、英文読解に不可欠な基礎的な語彙と表現を身につけ読解力を向上させるとともに、批判的な視点からテキストを読み、学生が独自の意見を形成できるようになることを目的とする。また英文の精読を通して英文法に関する知識を再確認するだけでなく、ペア・ワーク、グループ・ワークを通してさまざまな裁判の事例から現代社会に通じる普遍的な問題についての意識を高めていく。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のAに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明 b. イントロダクション 第2回：Chapter 1 Socrates Sentenced to Death! 第3回：Chapter 2 Joan of Arc Burned at Stake! 第4回：Chapter 4 Danton Succumbs to Reign of Terror! 第5回：Chapter 7 Bukharin victim of Stalinist Purges! 第6回：Chapter 8 Nuremberg War Crimes Trials Convict Nazis! 第7回：Chapter 9 Mandela Jailed for Anti-Apartheid Activities! 第8回：Chapter 11 Salem “Witches” Tough off Hysteria! 第9回：Chapter 12 John Brown Dies for Abolition! 第10回：Chapter 15 Witch-Hunt Comes to Hollywood! 第11回：Chapter 17 Criminal Suspects’ Rights Defended! 第12回：Chapter 19 White Student Fights Back! 第13回：Chapter 20 Rose Banned from Baseball! 第14回：a. まとめ b. 期末試験 * 授業内容は進度などに応じて内容は変更される場合がある。		
3. 履修上の注意 ・学生は積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、意味のわからない単語については予め調べておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参することが望ましい。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。 ・準備学習の不足や、不適切な授業への参加態度（私語やスマートフォンの使用など）は成績評価に加味される。 ・教科書を購入しない学生については、原則として成績評価の対象外とする。 ・全授業回数の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。 ・遅刻・早退は3回で1回分の欠席とし、授業開始後30分以上遅れて来た者および授業終了30分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者については欠席扱いとする場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語や表現については教科書についている注釈や辞書を参考にしながら、授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。特に関心を持った内容や難解な箇所、あるいは理解できない内容や英文法に関しては学生全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。 各 Chapter 毎にある “Exercises” については予め解答を用意した上で授業に臨むこと。		
5. 教科書 ジム・クヌーセン、『裁判の歴史』（南雲堂）。		
6. 参考書		

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30% （予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

欠席連絡や課題についての問い合わせ先は、Oh-o! Meiji にて連絡先を公開する。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (37)	1 単位	木内 祥太
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (37)		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 様々な文化論に関する英文を中心に読む。また、基本的な文法や他のテーマの文章も扱う。 【到達目標】 英文を読み、様々な時代・文化に対する理解を深めると同時に、基本的な英語読解力と語彙力を習得する。またそのような英文に触れることとで、テキストを超えた「そもそも英語とは何か」「言葉とは何か」という意識を持つことができる。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] chapter 9 [第 3 回] chapter 10 [第 4 回] 文法・英文読解 (1) [第 5 回] chapter 11 [第 6 回] chapter 12 [第 7 回] 文法・英文読解 (2) [第 8 回] chapter 13 [第 9 回] chapter 14 [第 10 回] 文法・英文読解 (3) [第 11 回] chapter 15 [第 12 回] 文法・英文読解 (4) [第 13 回] 文法・英文読解 (5) [第 14 回] 後期まとめ		
3. 履修上の注意 単位取得には 2/3 以上の出席が必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめテキストに目を通し、わからない単語や文章を辞書を用いながら調べておくこと。		
5. 教科書 『Transculture-Transcending Time, Region, and Ethnicity』Christopher Belton、小田島恒志（金星堂）		
6. 参考書 授業中にて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内にて行うリアクションペーパーに対して、その都度フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 レポート 60% 平常点（授業参加・貢献度、小テスト） 40%		
9. その他 連絡先：shota.k1115@keio.jp		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (38)	1 単位	木内 祥太
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (38)		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現代のイギリス文化・社会に関する英文を中心に読む。また、基本的な文法や他のテーマの文章も扱う。 【到達目標】 英文を読み、現代のイギリスに対する理解を深めると同時に、基本的な英語読解力と語彙力を習得する。また様々な英文に触れることで、テキストを超えた「そもそも英語とは何か」「言葉とは何か」という意識を持つことができる。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] chapter 9 [第 3 回] chapter 10 [第 4 回] 文法・英文読解 (1) [第 5 回] chapter 11 [第 6 回] chapter 12 [第 7 回] 文法・英文読解 (2) [第 8 回] chapter 13 [第 9 回] chapter 14 [第 10 回] 文法・英文読解 (3) [第 11 回] chapter 15 [第 12 回] 文法・英文読解 (4) [第 13 回] 文法・英文読解 (5) [第 14 回] 後期まとめ		
3. 履修上の注意 単位取得には 2/3 以上の出席が必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめテキストに目を通し、わからない単語や文章を辞書を用いながら調べておくこと。		
5. 教科書 『Reading Contemporary Britain: 15 Critical Views of Culture and Society』Christopher J. Armstrong, Anthony Piccolo, 板倉巖一郎（松柏社）		
6. 参考書 授業中にて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内にて行うリアクションペーパーに対して、その都度フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 レポート 60% 平常点（授業参加・貢献度、小テスト） 40%		
9. その他 連絡先：shota.k1115@keio.jp		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (39)	1 単位	中須賀 稚子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (39)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 〈現代アメリカを探る〉(中級) 英語で書かれた文章を読んで内容を理解する。これは、実はなかなか難しいことである。 書かれている英語を、文字だけでなく、その内容を理解するために必要なのが、背景知識である。 この授業は、教科書のタイトルが示す通り、アメリカのサブカルチャーを扱う。 身近なトピックを読むことになるので、学生諸氏には興味を持って英語に取り組んでもらえることを願っている。 春学期よりもスピード、正確さを増す事を目指す。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である 《授業の概要》 学生の発表に、教師が補足説明を加えることになる。出席者は全員予習をして授業に出席するように。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業の進め方、成績評価の仕方など） b：プリントによる演習 第 2 回：Chapter 7 Heavy Metal and Headbangers 1 回目 第 3 回：Chapter 7 2 回目 第 4 回：Chapter 8 Street Gangs Trekkies 1 回目 第 5 回：Chapter 8 2 回目 第 6 回：Chapter 9 Beauty Pageants 1 回目 第 7 回：Chapter 9 2 回目 第 8 回：Chapter 10 Lesbian, Gay, Bisexual, Transgendered, Queer +Communities 1 回目 第 9 回：Chapter 10 2 回目 第 10 回：Chapter 11 Surfing 1 回目 第 11 回：Chapter 11 2 回目 第 12 回：Chapter 12 Skateboarding 1 回目 第 13 回：Chapter 12 2 回目 第 14 回：a：授業内容のまとめ b：期末試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。 興味を持っていただけのが一番です。 授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。 自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください 2 つ、お願いがあります。 その 1 授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。 教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、 教室内の出入りは、最小限にとどめるよう、自分の体を制御してください その 2 教科書は必ず購入してください。 そして、必ず教科書をもって授業に出席してください。 コピー（その他写メ等）で授業に出席している場合、欠席扱いとします。 中須賀のクラスでは、コピーで授業に出席しても、出席とはみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストを読み、わからない単語は調べ、不明な点はどこか、を認識して授業に出席のこと。 授業内で問題を解決できるように。		
5. 教科書 American Subcultures『現代アメリカのサブカルチャー事情』Edward K. Chan 著 英宝社(2016, 2022 改)		

6. 参考書

あれば授業内で指示する

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要な折に全体、または個人に、対面で、もしくはポートフォリオを通じて行う。

8. 成績評価の方法

筆記試験（中間を実施すれば中間試験及び到達度確認試験）60%，平常点（出席点ではない。授業内参加や課題など）40%の割合で評価を出す。総合で 60%以上に単位を認定する。

欠席は 4 回を超えた時点で受験資格を失う。

遅刻は 3 回で欠席 1 回と換算するので注意のこと。

つまり、欠席と遅刻の減点を合わせて、授業の 3 分の 1 を超えると試験を受ける資格を失うので、

欠席、遅刻とも気を付けるようにしてください。

（欠席 4 回＋遅刻 1 回になると受験資格を失う、と考えてください）

また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください。

授業に出席したが課題は未提出、または授業には欠席したが課題は提出した、は欠席扱いとなります。

ただし、授業は欠席したが課題を出した場合、点数を配慮するケースもあります

（初回授業にもこの点については説明します）

課題の期限は、授業後 4～5 日となっています。

提出期限がいつも一定とは限りませんので、そのたびに、各人責任をもって期限を確認してください。

遅れての提出は一切無効とさせていただきます。

9. その他

oh-o.meiji システムのメッセージ機能やメール、または授業後にコンタクトを取ってください

nakasuka@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (40)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (40)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ このコースでは、教科書を用いて身近な 2 つのトピックに関する短い会話の練習、語彙の強化、リスニングのスキルアップ、基礎的な文法項目の復習をします。 トピックは、「Milestones」と「Men and Women」です。音声やビデオも活用します。 ＜授業の達成目標及びテーマ＞ ペアワークやグループワークで英語の口頭練習を繰り返し、それまでに学んできた英語を定着させ、自信を持って使えるようになることを目標としています。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 1. Course work, Presentation of syllabus, Class rules 2. Unit 3 (A): Growing up (Warm-up video & Vocabulary) 3. Unit 3 (A): Growing up (Listening & Speaking) 4. Unit 3 (A): Growing up (Grammar & Active English) 5. Unit 3 (B): Big changes (Warm-up video & Vocabulary) 6. Unit 3 (B): Big changes (Listening & Speaking) 7. Unit 3 (B): Big changes (Grammar & Active English) 8. Unit 4 (A): Appearance (Warm-up video & Vocabulary) 9. Unit 4 (A): Appearance (Listening & Speaking) 10. Unit 4 (A): Appearance (Grammar & Active English) 11. Unit 4 (B): Dating (Warm-up video & Vocabulary) 12. Unit 4 (B): Dating (Listening & Speaking) 13. Unit 4 (B): Dating (Grammar & Active English) 14. a) Final Exam, b) Wrap up 尚、授業内容や進度は、受講者のニーズや受講生の人数など、必要に応じて変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認、テキストの音声やビデオを視聴、テキストの読解問題に挑戦しましょう。 ・復習： 授業で取り扱った表現の口頭練習を繰り返し行い、さらに定着させましょう。また、オンライン上の教材を活用し、音声や映像を視聴して復習しましょう。		
5. 教科書 書名：World Link 3A 第 4 版 （『World Link 3（全 12 課）』の前半の Unit 1 から Unit 6 が集約されている分冊版です）。 著者： James R. Morgan and Nancy Douglas 出版社：センゲージ・ラーニング ISBN：978-0-357-50393-5 ・春学期と秋学期で同一の教科書を使用しますが、学習範囲が異なります。 ・教科書の音声、ビデオは、オンラインでアクセスできます。		
6. 参考書 BBC Learning English: https://www.bbc.co.uk/learningenglish/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 口頭で行います。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験：80%、平常点（授業参加と課題）：20%。 ・遅刻は（授業開始後 30 分までに入室）3 回で欠席 1 回とみなします。授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となります。		
9. その他 ・オフィスアワーは対面授業のある金曜日の 12:30-13:10、中央校舎 3 階講師控室です。		

・連絡先のメールアドレスは、k_nakamura@meiji.ac.jp です。メールを送る際、「件名」に、「金曜 3 限 英語 III, クラス ID 3 0 番、鈴木花子」のように「曜日、時限、授業科目名、クラス ID 番号、氏名」を書いて、明治大学から提供されているメールアカウントから送信してください。また、お返事に数日かかることもあります。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (41)	1 単位	木内 祥太
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (41)		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 時事英語を中心に読む。今世界で話題になっている様々な事案を英語を通して学ぶ。さらにそれに加えて、基本的な文法や時事英語以外の文章も扱う。 【到達目標】 時事英語を読み、現代に対する視野を広げると同時に、基本的な英語読解力と語彙力を習得する。また様々な英文に触れることで、テキストを超えた「そもそも英語とは何か」という意識を持つことができる。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] chapter 11 [第 3 回] chapter 12 [第 4 回] chapter 13 [第 5 回] 文法・英文読解 (1) [第 6 回] chapter 14 [第 7 回] chapter 15 [第 8 回] chapter 16 [第 9 回] 文法・英文読解 (2) [第 10 回] chapter 17 [第 11 回] chapter 18 [第 12 回] chapter 19 [第 13 回] chapter 20 [第 14 回] 文法・英文読解 (3)		
3. 履修上の注意 単位取得には 2/3 以上の出席が必要である。また、この授業は初級クラスである。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめテキストに目を通し、わからない単語や文章を辞書を用いながら調べておくこと。		
5. 教科書 『Insights 2026 世界を読むメディア英語入門 2026』 幸重美津子、蔦田和美、赤尾美和、Christopher Gladis、石川有香(金星堂)		
6. 参考書 授業中にて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内にて行うリアクションペーパーに対して、その都度フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 レポート 60% 平常点（授業参加・貢献度、小テスト） 40%		
9. その他 連絡先：shota.k1115@keio.jp		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語Ⅲ (42)	1 単位	松井 恭子
2022～2025 年度入学者 英語Ⅲ (42)		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要・到達目標 この教科書はアメリカの 3 大テレビネットワークの一つである CBS の看板ニュース報道番組“CBS Evening News”と朝の番組“CBS Mornings”などで取り上げられたニュースを収録したものです。アンカーや記者たちが、様々な話題についてレポートしているため、英語を外国語として学んでいる学習者にとっても興味深いものがある。本教科書は、特にアメリカ人の生活や文化を直接反映しているニュースを厳選している。また、日本における社会問題や文化を取り上げている話題も含まれている。日本が現在のアメリカ人にどのように受け止められているかを垣間見ることもできる。 ニュースのビデオ映像を視聴し、次にそのスクリプトの読解を通じてニュースの理解を深めていく。単に情報のインプットだけにとどまらず、リスニング力の強化、英語の語彙の増強、自分の感想なりを英語で簡単に話す力をつけることを到達点として英語学習をすることを目指している教材である。 取り上げている話題には、例えば、高校や大学教育における ChatGPT の影響、アメリカにおけるチップの高等化に国民はうんざり、英語がわからない子供、自閉症の子供に寄り添い子供たちに喜びをもたらすサンタクロース、今やスニーカーは職場でも席卷しており、一部の政治家は時代遅れの服装規定を変えようとしているが、議事堂では伝統を変えることがまだ難しい、日本の千年以上の歴史を誇る旅館や酒造メーカーが続く秘訣は何であろう、などがある。 クラスメイトとの簡単な意見交換や、英語で発信する練習が楽しく出来るよう進める。リスニング力と読解力とをつけ、更に簡単な英文で簡単な感想を英語で話す練習も行う予定である。英語動画を活用してリスニング力、読解力をつけ、基礎的な英語スピーキング力をつけると同時に様々なジャンルの最新情報を知ること知見を広げる。ボキャブラリーを増やしていくことが求められる。		
2. 授業内容 授業内容 第1回 イントロダクション（評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明） 		

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を理解し、和訳出来るように準備して授業に望みましょう。各 Unit のトピックはインターネットなどで調べて、予習すると理解しやすいでしょう。授業での英語での自分の意見発表担当者は順番に当てるので、原稿を用意して取り組んで頂きたいです。

5. 教科書

教科書

CBS NewsBreak 7. Nobuhiro Kumai 他著、成美堂。
978-4-7919-7309-5 松伯社

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題については、締め切りの後、授業で解説をする。

8. 成績評価の方法

成績評価の方法

期末試験（40%）、課題、単語小テスト(30%)、授業中の参加と平常点（30%）

9. その他

教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。
また、Oh-Meiji にも 9 月に載せる。欠席の回数に気を付けて下さい。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (1)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 科学英語 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ 「科学英語」という授業を通じて身につけたいスキルは、専門文献や研究論文を自力で正確に読み取れるようになることです。そのためには、日常生活で使われる単語とは異なった学術用語を知らなくてはいいませんが、それで終わりというわけにもいきません。1 文 1 文を正確に読み取り、背景知識を得て、パラグラフを理解し、文章全体を把握しなくてはいいけません。そのために必要な作業は、まずは文章に目を通し、何が理解を妨げているのかを把握することです。そして、英語に関する知識や様々な背景知識を学び、文章が何についてどのように述べられているかを理解することになります。そのためのトレーニングとして、短くまとまった難解な理科系の英文を読み解きます。まずは自分で読んで難しいと感じることから始め、授業ではどのような知識をどのように活用すれば内容を理解できるようになるのかの手ほどきを行います。教科書の文章を理解した後で、教科書の文章の元になった論文を読みます。内容は知っているはずなのになぜ読めないのか、どうすれば読めるようになるのかを考えます。 ≪授業の到達目標≫ 1) 科学系の英文を自力で正確に理解するためのスキルを身につけること 2) 自分の考えを自力で正確に表現するためのスキルを身につけること ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回： a. 授業概要、授業の進め方、履修上の注意など b. 科学英語を理解するポイント 第 2 回： Unit 1 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 3 回： Unit 2 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 4 回： Unit 4 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 5 回： Unit 5 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 6 回： Unit 7 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 7 回： Unit 8 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 8 回： Unit 9 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 9 回： Unit 10 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 10 回：Unit 11 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 11 回：Unit 12 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 12 回：Unit 13 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 13 回：Unit 14 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 14 回：a 期末試験・b 解説、総括、今後の指針 原則として 1 回の授業で 1 つのユニットを読み切ります。この教科書には 5 つのテーマがあり、すべてのテーマに触れるため、Unit 3 と Unit 6 は授業では扱わず、自習課題とします。		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業回数の 3 分の 1 を超える欠席（5 回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、知らない単語が文章中にあるのは当たり前のことであると考え、未知の単語をピックアップしてその意味を調べておくこと、その週に扱うユニットに目を通し、分かりそうなところと難しいところを把握しておくことくらいは最低でも行ってください。それに加えて疑問点をいくつか持っておくこと、質問したいことをまとめておくことを期待します。 復習としては、記憶が新鮮なうちに新たに得た知識をまとめておくこと、CD または音声ファイルを、英文の意味が理解できるようになるまで繰り返し聞くこと、英文をすらすら読めるようになるまで音読すること、授業内容に関連した新聞記事やウェブ記事、専門書などを読むことが理想的です。 半期の学習を通じ、教科書の英文は自信をもって読める、同じくらいのレベルの英文は自力で読むことができる、さらに高度な英文でも理解するための手法が身についている、という目標の元で取り組んでください。		
5. 教科書 『Fresh Eyes on Science (テーマ別で読み解く科学の世界)』松柏社		

6. 参考書

専門性の高い英文に専門用語や学術用語など、分からない単語があるのは当たり前であり、それらの意味は各自で調べて理解するしかなく、いくら英文を眺めていても分かるようにはなりません。そのためには辞書や学術用語集が必要ですが、電子辞書であれ紙媒体であれ、まずは手持ちの辞書を活用することから考えましょう。手持ちの辞書できちんと読めているうちは新しいものに手を出す必要はありません。教科書や学術書、雑誌記事や学術論文を読み進めていくと、ある時手持ちの辞書では太刀打ちできないと感じる時があるはずです。その時にこそ、新しい辞書の購入を検討しましょう。何にせよ、辞書も持たずに教室に来るのはやめてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や考察など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (2)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 このコースでは「生花の取引」、「香水の威力」「十代の脳」、「そっくりな人に会う」、「大きな雪解け」、「瀬戸際の暮し」など、社会的テーマを含むサイエンス分野のトピックのエッセイや写真、ビデオ使用し五感を使って語彙力と読解力の向上を目指します。さらにまた、これまでに備わった自然科学分野の知識に加え、教科書の内容や、クラスメートとのディスカッションを通じ、クリティカル・シンキングスキル（批判的な思考力）も養っていきます。 〈授業の到達目標〉 コース終了時には自然科学分野のテキストを読んで、その主旨を理解し、そのトピックに対する自分の考えを英語で表現できることを目標としています。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 1. Introduction (Course work, Presentation of syllabus, Class rules) 2. Uniy 7A: The Flower Trade 3. Unit 7A: The Flower Trade 4. Unit 7B: The Power of Perfume 5. Unit 7: Video “Flowers from Ecuador” 6. Unit 9A: The Teenage Brain 7. Unit 9A: The Teenage Brain 8. Unit 9B: Seeing Double 9. Unit 9: Video “The Global Village” 10. Unit 10A: The big thaw 11. Unit 10A: The big thaw 12. Unit 10B: Life on the Edge 13. Unit 10: Video “The sled dogs of greenland” 14. Exam and wrap up 尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認しテキストを読みましょう。 ・復習： 単語や練習問題を復習しましょう。		
5. 教科書 書名：Reading Explorer, 2B（第三版） 著者：Paul MacIntyre and David BohLke 著 出版社：センゲージ・ラーニング ISBN：9798214085845 注意：使用するテキストは、Reading Explorer, Level 2（全 12 課）のうち、後半の 6 課を集約した分冊版、「Split 2B」です。		
6. 参考書 ・自然と生物をテーマにした TED: https://digitalcast.jp/vc/nature/ ・バイオをテーマにした TED: https://digitalcast.jp/vc/biotechnology/ （字幕付きのものもあります）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 口頭で行います。		
8. 成績評価の方法 ・定期テスト：50%、平常点（授業参加と課題）：50%。 ・遅刻（授業開始後 3 0 分までに入室） 3 回で欠席 1 回とみなします。授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となります。		

9. その他

・オフィスアワーは対面授業のある月曜日の 12:30-13:10、中央校舎 3 階講師控室です。

・連絡先のメールアドレスは、k_nakamura@meiji.ac.jp です。メールを送る際、「件名」に、「月曜 3 限 科学英語, クラス ID 30 番、鈴木花子」のように「曜日、時限、授業科目名、クラス ID 番号、氏名」を書いて、明治大学から提供されているメールアカウントから送信してください。また、お返事に数日かかることもあります。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (3)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 科学英語 (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 Linguistic Science (言語科学) に関する英語文献を精読する。 受講者は指定された箇所を全訳したものを用意し毎回発表する。 授業中の既習事項については毎回小テストを行い理解度の確認をする。 《到達目標》 Linguistic Science (言語科学) に関する英語文献の読み方を習得することを第一の目標とする。 将来的に Biolinguistics (統語論の進化論的及び生物学的ルーツの解明を目標とした研究) の専門書を読めるようになる準備をする。 農学科食糧生産・環境コース (2023 年度以前に入学した学生が対象) においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 機器の使用方法, 教材の入手方法と予習の進め方, 単位認定等についての詳しい説明, 小テスト 第 2 回～第 13 回 テキストの精読・小テスト 第 14 回 まとめ 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 第 1 回目は単なるイントロダクションではないので、履修を迷っている場合でも必ず出席すること。 毎回出席することは「当然の義務」であるから、欠席・遅刻・早退についてはそれぞれ大幅に減点をする。 皆勤とは無縁の学生にはお勧めしない。 課題未提出の場合には、大幅に減点する。 理由のいかんにかかわらず提出期限を過ぎたものや形式等に不備があるものは無効となる。 また、指示に従わず内容が不十分な場合にも評価対象外となることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ指定された英文資料を全訳し、毎回授業前にオンラインで提出する（評価対象）。 難解なテキストであるので準備にかなりの時間を要することを覚悟すること。		
5. 教科書 特に定めない。（クラスウェブで指示する） 教科書として使用する英文資料は、Language (Linguistic Society of America), Linguistic Inquiry(The MIT Press)などの学術誌に掲載された論文を予定している。 英文資料の入手方法については第 1 回の授業で説明する。 欠席した場合には第 2 回以降の授業に参加できないなど支障をきたすことがあるので注意すること。		
6. 参考書 以下の書籍については購入する必要はない。 Biological Foundations and Origin of Syntax 著者 Derek Bickerton and Eörs Szathmáry 出版社 The MIT Press		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に詳細に解説するので、各自で丁寧に添削する必要がある。 また、この添削済の和訳レポートの原本は、学期末に提出する必要がある（評価対象）。		
8. 成績評価の方法 成績評価の基本方針 毎回の小テスト 40%, 平常点（提出物・授業中の発表および添削等）60%の総合評価である。 授業中に各自で添削したノートの原本は、学期の終盤に提出する必要がある（評価対象）。 授業回数の 3 分の 2 以上に参加していない者は成績評価の対象から外す。 皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはない。 欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をする。 評点算出方法等については、第 1 回の授業で詳細に説明する。		

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。

本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (4)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜科学の話題を英語で読む＞ この授業では、科学についての素朴な疑問を扱ったテキストを用いて、内容と英文の論理展開を正確に理解する能力を養う。また、科学英語を読む際に必要となる語彙力の増強を図る。 《授業の概要》 2 回の授業で 1 つの Unit を終わらせることを基準に授業を進め、Unit 6 もしくは 7 までこなすことを目標とする。必要に応じてテキストの内容に関連した記事をクラスで取り上げ、読む時間を設けることがある。Unit の前半回はテキストの Vocabulary および Comprehension Check の A と B を、後半回は Writing a Summary の A と B を課題として出題しフィードバックを行う。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（授業の諸注意、テキストの説明） 第 2 回：Unit 1 Relativistic Baseball 第 3 回：Unit 1 つづき 第 4 回：Unit 2 Sunset on the British Empire 第 5 回：Unit 2 つづき 第 6 回：Unit 3 Soul Mates 第 7 回：Unit 3 つづき 第 8 回：Unit 4 Everybody Jump 第 9 回：Unit 4 つづき 第 10 回：Unit 5 A Mole of Moles 第 11 回：Unit 5 つづき 第 12 回：Unit 6 Machine-gun Jetpack 第 13 回：Unit 6 つづき 第 14 回：a まとめ・b 試験 ※講義内容は必要に応じて変更になる場合がある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で、授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 授業では Microsoft Forms を利用してテキスト内容に即した課題をクラスウェブ上で出題する。課題は原則授業後に割り当て、翌週の火曜日朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 初回に公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。Writing の部分については、クラスウェブに公開する PDF と辞書やテキストの内容を確認してあらかじめ取り組んでおくこと。 関連項目や科学についての基礎知識は新聞記事やネット検索などを活用して補うこと。		
5. 教科書 『What If?: Serious Scientific Answers to Absurd Hypothetical Questions（科学の答え：地球上の全人類がジャンプして同時に地面に降りたらどうなるか）』 Randall Munroe 他 （松柏社）		
6. 参考書 参考書は特に定めない。必要に応じて関連書籍や記事を授業中に紹介し、プリントを配布して講読することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭に解説をする。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (5)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標》 様々な日常の科学の話題をテーマにした英語文章を読みながら、科学分野の文章構成や語彙に慣れ、英語の論理的な説明文を、日本語を読むように理解を積み重ねて全体の趣旨を把握することを目標に 4 技能を学習します。 《授業の概要》 テキストは動物、環境、エネルギー資源、技術、健康などのテーマを含む全 20 章で構成されており、春学期は奇数章、秋学期は偶数章を行う予定です。一回の授業で 1 章を終えるスケジュールで、リーディング、練習問題、小テストなどを毎回行います。		
2. 授業内容 第 1 回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります) b. テキストの構成と授業の進め方などの説明 第 2 回：Unit 1: Sink or Swim「生存を懸けた大航海」 第 3 回：Unit 3: The Last Moments Matters「命をつなぐ戦略」 第 4 回：Unit 5: Drift Ice Comes「流氷がやってくる」 第 5 回：U1-5: Agree or Disagree? (Discussion in English) 第 6 回：Unit 7: Pollution Solution「待ったなしの環境汚染対策」 第 7 回：Unit 9: Between Low and High Tides「海がもたらす再生可能エネルギー」 第 8 回：Unit 11: Fusion Power「太陽の活動を地球で再現」 第 9 回：U7-11: Agree or Disagree? (Discussion in English) 第 10 回：Unit 15: Moon Tunnels「世界が注目、月の溶岩洞」 第 11 回：Unit 17: Hay Fever Horror「花粉症を知ったうえでの対策を」 第 12 回：Unit 19: Stem Cell Heaven or Hell「幹細胞研究への期待」 第 13 回：U15-19: Agree or Disagree? (Discussion in English) 第 14 回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 春学期は奇数章、秋学期は偶数章を読みます。春秋両方受講すると 1 冊読み終わります。また、一学期に 2/3 以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必ず行ってください。ただし予習で Google 翻訳などを使用して日本語を用意して来るのは予習ではありません。個々の単語や文構造や文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことが予習です。また予習の段階でよくわからなかった部分に印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speaking に関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います。		
5. 教科書 Science Stream「覗いてみよう、科学の世界」(2022, 成美堂)		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題 20-30%, 各種テスト（予習テスト、小テスト, 期末テスト等）70-80%をもとに総合的に評価します。総合点 60 点以上を合格とします。また欠席が 1/3（5 回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		
9. その他 オフィス・アワー： 火曜 12:30-13 :20（中央棟 3F 講師控室）		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (6)	1 単位	熊田 和典
2022～2025 年度入学者 科学英語 (6)		
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、科学の知識と情報の普及を目指して発行されている週刊科学雑誌 Science News の記事を精読する。科学の現場を伝える Science News の記事は、読み応えがあり、扱われているテーマは多岐にわたる。本授業では、テキストの前半部分を精読する。さらに練習問題にも取り組み、精読した英文のさらなる理解や科学英語の語彙の習得に努める。 科学英語の基礎的な語彙を身につけ、英語で書かれた科学分野の文章を理解できるようになることを到達目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（授業の内容、英語の学習の仕方、成績評価の基準などの説明） 第 2 回 Unit 1 Talk to the Hand（チンパンジーのジェスチャー）：長文精読 第 3 回 Unit 1 Talk to the Hand（チンパンジーのジェスチャー）：練習問題 第 4 回 Unit 2 No Place Like Om（瞑想トレーニングの効用）：長文精読 第 5 回 Unit 2 No Place Like Om（瞑想トレーニングの効用）：練習問題 第 6 回 Unit 3 Unstoppable Bot（自己修復機能を搭載したロボット）：長文精読 第 7 回 Unit 3 Unstoppable Bot（自己修復機能を搭載したロボット）：練習問題 第 8 回 Unit 4 Mafia Cowbirds（コウウチョウの風変りな習性）：長文精読 第 9 回 Unit 4 Mafia Cowbirds（コウウチョウの風変りな習性）：練習問題 第 10 回 Unit 5 Nice Shot（E 型肝炎のワクチン）：長文精読 第 11 回 Unit 5 Nice Shot（E 型肝炎のワクチン）：練習問題 第 12 回 Unit 6 Cleaning Treasures（フレスコ画の修復—ナノテク）：長文精読 第 13 回 Unit 6 Cleaning Treasures（フレスコ画の修復—ナノテク）：練習問題 第 14 回 a. 講義（重要事項の確認、補足） b. 期末試験 * 講義内容、進度には必要に応じて若干変更を加えることがある。		
3. 履修上の注意 英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。 辞書を必ず携行すること。（電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。） 遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては、教科書の次回講読する箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、わからない部分を明確にし、その部分を辞書で調べておくこと。その他の練習問題においては、練習問題のタイプによって何を身につけるかを意識して解答を用意すること。復習としては、科学英語特有の語彙を中心に新しい語彙を覚えるとともに、できなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読む、あるいは解いてみること。		
5. 教科書 『Science Speaks』Kevin Cleary、松本和子、野崎嘉信（金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の講評については、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（70％）と小テスト（単語テスト）（30％）で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。		
9. その他 オフィスアワー：火曜日 10:40～17:15 の授業外の時間（中央校舎 3 階講師控室） 連絡先：メールアドレスを初回の授業で伝える。		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (7)	1 単位	樋渡 さゆり
2022～2025 年度入学者 科学英語 (7)		
1. 授業の概要・到達目標 「英語で読む近代科学の歴史」 《授業の概要》 Jacob Bronowski による自然科学史、The Ascent of Man から、おもに産業革命期を扱う章、“The Drive for Power”を精読する。英文の難易度は、出版社の判断では TOEIC 600 点以上レベル。論説文を読み、自然科学史を文化史的な広い視野から学び、グローバル時代に生きる私たちの文化や生活について考える。 《到達目標》 長文の論説文の正確な読解と、そのために効果的な学習方法を身につける。自然科学史の基礎的な知識を身につけ、そのヴォキャブラリーになじむ。そして、文系理系を問わず各学科の研究活動に対応できる学術英語の運用能力を身につける。 ＊農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）の学習・教育目標 A に対応		
2. 授業内容 第 1 回：Module a のみ： イントロダクション 第 2 回：“The Drive for Power”の章の初めからテキストを精読。The English revolution 第 3 回：Everyday technology: James Brindley 第 4 回：The revolt against privilege: Figaro 第 5 回：Benjamin Franklin and the American revolution 第 6 回：The new men: master of iron 第 7 回：The new outlook: Wedgwood and the Lunar society (1) 第 8 回：第 7 回までの復習・補足 第 9 回：The new outlook: Wedgwood and the Lunar society (2) 第 10 回：The driving factory 第 11 回：The new preoccupation: energy 第 12 回：The cornucopia of invention 第 13 回：The unity of nature 第 14 回：a: 定期試験/ b: 発展的学習のために		
3. 履修上の注意 上級レベル。履修を考えている場合は仮登録をして、クラスウェブ上の資料（テキストの一部）を参照のこと。 秋学期まで通して履修すると、18 世紀の産業革命期からチャールズ・ダーウィン(1809-82)の時代までの近代科学の歴史を概観できる		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：あらかじめ示された範囲のテキストを、段階的・発展的に指示されたポイントに注目し、脚注と辞書を用いて読む 復習：授業で注目したヴォキャブラリーやセンテンス、文法事項を見直して定着に努める		
5. 教科書 『The Ascent of Man』 Jacob Bronowski（金星堂） テキストは、履修登録決定後、指定期間内に各自で用意すること。		
6. 参考書 出版社は問わず、下記と同等レベル（内容・情報量）の英和辞典を使用のこと。予習の際には紙媒体の辞書を勧める 『プログレッシブ英和中辞典』（小学館） 『リーダーズ英和辞典』（研究社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出はおもにクラスウェブを利用 フィードバックはクラスウェブのコメント欄で各履修者へ返す、授業展開に取り入れる、などの方法をとる		
8. 成績評価の方法 期末試験実施日を含めた授業実施回数の 2／3 以上に出席している履修者を評価対象とします 期末定期試験 60％，平常点（出席・参加状況、課題提出など）40％で評価します 各自、出席状況を記録・認識しておくこと。良好な出席状況が前提です		

9. その他

1. 連絡方法→クラスウェブ上の連絡欄

2. オフィスアワー→質問対応は授業中または終了時（面談を希望する場合は授業終了時または事前連絡でアポイントメントをとってください）

場所： 英語第 I 研究室（第一校舎 3 号館 4 階 403）

時間： 在室時は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (8)	1 単位	貝塚 泰幸
2022～2025 年度入学者 科学英語 (8)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 私たちは科学に関する日本語の表現や言い回しを幼い頃より耳にしており慣れ親しんでいる。しかし科学に関する英語の表現や言い回しとなるとそれらを読み聞きする機会は極端に少ない。結果として科学に関する基礎的な内容や概念を英語で理解して表現することはもちろん、そういった内容の英文を日本語で説明することや要約することさえも難しいと感ずることがあるだろう。そこで「サイエンス・コミュニケーション」に関するさまざまな英文を読み、日常的に使用される表現から専門的な語彙まで幅広く、科学に関する英語表現の基礎を学んでいく。 《授業の到達目標》 「サイエンス・コミュニケーション」に関するさまざまな英文を読み、そこで使用される英語表現に慣れ親しみながら科学英語の基礎的な語彙力や表現力を習得して、それらを用いて学習した分野に関する知識と自らの考えをわかりやすく伝える力を身につけることを目標とする。また英文の精読を通して英文法に関する知識を再確認するとともに一般的な語彙力と読解力を向上させ、批判的な視点からテキストを読み、学生が独自の意見を形成できるようになることも目的とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明 b. イントロダクション 第 2 回：Unit 1 Science and Communication 第 3 回：Unit 2 Engineered Sakura 第 4 回：Unit 3 Science Is for Everyone 第 5 回：Unit 4 Galileo and Science Communication 第 6 回：Unit 5 What Is Information? 第 7 回：Unit 6 The Advent of Writing 第 8 回：Unit 7 Leonardo da Vinci's Perspective 第 9 回：Unit 8 Scientific Insight into Colors 第 10 回：Unit 9 Science Communication Activity 第 11 回：Unit 10 Into the Future 第 12 回：Unit 11 Communication through Occupation 第 13 回：Unit 14 Cats and Snacks in Rome 第 14 回： a. まとめ b. 期末試験 ＊授業内容は進度などに応じて変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 ・学生は積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、特に科学分野に関する英語表現については対応する正確な日本語による表現を調べておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。 ・準備学習の不足や、不適切な授業への参加態度（私語やスマートフォンの使用など）は成績評価に加味される。 ・教科書を購入しない学生については、原則として成績評価の対象外とする。 ・全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。 ・遅刻・早退は 3 回で 1 回分の欠席とし、授業開始後 30 分以上遅れて来た者および授業終了 30 分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者については欠席扱いとする場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語については授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。また 各 Unit にある 「内容確認問題」、「内容応用問題」、「演習問題」 については解答を用意しておくこと。特に難解な箇所や理解できない内容、文法に関する質問については授業内で指摘できるように準備しておくことが望ましい。		
5. 教科書 谷口真理 編、『サイエンス・コミュニケーション』（朝日出版社）		
6. 参考書		

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30% （予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

欠席連絡や課題についての問い合わせ先は、Oh-o! Meiji にて連絡先を公開する。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (9)	1 単位	長谷川 安代
2022～2025 年度入学者 科学英語 (9)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 本授業では、持続可能な開発目標（SDGs）の進捗状況を示す国連の報告書『The Sustainable Development Goals Report 2025』を教材とし、世界の貧困や飢餓、保健衛生、気候、生物多様性等について、英語で学んでいきます。英語学習者のために編集されたテキストではなく、国際機関の報告書を教材とすることで、「英語を学ぶ」ために英文を読むことから、「情報を得る」ために英文を読むことへと意識転換を行い、情報を得るための英文の読み方を学んでいきます。図表の読み取り方についても学びます。さらに、一つの報告書を継続して読んでいくことで当該分野で頻出する単語や表現を自然と習得することを目指します。 ＜授業の到達目標＞ 1. 英語資料から、必要な情報を抽出することができる。 2. 科学分野の英語資料（長文やグラフ）を読むことへの抵抗を軽減する。 3. 国際機関の報告書を読むときのスキルを身につけることができる。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] b のみ : Introduction [第 2 回] Goal 1 No Poverty (p. 8-p. 9) [第 3 回] Goal 2 Zero hunger (p. 10-p. 11) [第 4 回] Goal 3 Good health and well-being (p. 12-p. 15) [第 5 回] Goal 4 Quality education (p. 16-p. 17) [第 6 回] Goal 5 Gender equality (p. 18-p. 19) [第 7 回] Goal 6 Clean water and sanitation (p. 20-p. 21) [第 8 回] Goal 7 Affordable and clean energy (p. 22-p. 23) [第 9 回] Goal 10 Reduced inequalities (p. 28-p. 29) [第 10 回] Goal 12 Responsible consumption and production (p. 32-p. 33) [第 11 回] Goal 13 Climate action (p. 34～p. 35) [第 12 回] Goal 14 Life below water (p. 36～p. 37) [第 13 回] Goal 15 Life on land (p. 38～p. 39) [第 14 回] Review ※ 受講学生の習熟度等に応じて、変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・授業はペアワークを中心に進めていきます。授業毎にランダムにペアを決めます。 ・授業には、PC、Tablet 等のデバイスを持参してください。 ・原則として、20 分以上の遅刻は欠席扱いとします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】テキストの該当箇所を読み、課題に取り組んだ上で、授業に参加してください（各回の予習 90 分）。詳細については、第 1 回の授業時に説明します。		
5. 教科書 United Nations (2025), The Sustainable Development Goals Report 2025 次のサイトよりダウンロードしてください。 https://unstats.un.org/sdgs/report/2025/		
6. 参考書 必要に応じて授業内で紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内や Oh-o! Meiji 等を活用して、振り返りシートに対するコメントを共有します。		
8. 成績評価の方法 ・平常点（グループワークへの参加態度・振り返りシート）: 50% ・期末レポート: 50% （単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。）		

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (10)	1 単位	中村 美帆子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (10)		
1. 授業の概要・到達目標 「科学の話題について英語で読み、考える」 《授業の概要》 科学関連の記事の講読を通じて、リーディング能力を高める。科学関連の記事をまとめた教科書と、その他の新聞・雑誌記事等を使用する。記事の内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。 《到達目標》 1. 科学関連の記事を英語で読み、リーディング能力を高める。 2. 専門的な語彙や表現を習得する。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Unit 1 Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dalí 第 3 回：新聞・雑誌記事講読 1 第 4 回：Unit 4 Plastic Waste Can Be Transformed into Vanilla Flavoring 第 5 回：新聞・雑誌記事講読 2 第 6 回：小テスト 1、まとめ 第 7 回：Unit 7 Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells 第 8 回：新聞・雑誌記事講読 3 第 9 回：Unit 12 These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Decade 第 10 回：新聞・雑誌記事講読 4 第 11 回：小テスト 2、まとめ 第 12 回：Unit 15 New Tech Can Distinguish Brushwork of Different Artists 第 13 回：新聞・雑誌記事講読 5 第 14 回：a. 試験、b. まとめ		
3. 履修上の注意 1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 2. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。 3. この授業では教科書から 5 つの unit を選んで使用する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1 時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1 時間）。		
5. 教科書 『Science in Progress: More Articles from Smithsonian Magazine’ s Smart News / 最新の科学をスミソニアンで読み解く』、宮本恵子 編著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。		
6. 参考書 資料を適宜配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%		
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (11)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 科学英語 (11)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「科学英語」という授業を通じて身につけたいスキルは、専門文献や研究論文を自力で正確に読み取れるようになることです。そのためには、日常生活で使われる単語とは異なった学術用語を知らなくてはいけませんが、それで終わりというわけにもいきません。1文1文を正確に読み取り、背景知識を得て、パラグラフを理解し、文章全体を把握しなくてはいけません。そのために必要な作業は、まずは文章に目を通し、何が理解を妨げているのかを把握することです。そして、英語に関する知識や様々な背景知識を学び、文章が何についてどのように述べられているかを理解することになります。そのためのトレーニングとして、短くまとまった難解な理科系の英文を読み解きます。まずは自分で読んで難しいと感じることから始め、授業ではどのような知識をどのように活用すれば内容を理解できるようになるのかの手ほどきを行います。教科書の文章を理解した後で、教科書の文章の元になった論文を読みます。内容は知っているはずなのになぜ読めないのか、どうすれば読めるようになるのかを考えます。 《授業の到達目標》 1) 科学系の英文を自力で正確に理解するためのスキルを身につけること 2) 自分の考えを自力で正確に表現するためのスキルを身につけること ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回： a. 授業概要、授業の進め方、履修上の注意など b. 科学英語を理解するポイント 第2回： Unit 1 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第3回： Unit 2 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第4回： Unit 3 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第5回： Unit 4 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第6回： Unit 5 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第7回： Unit 6 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第8回： Unit 7 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第9回： Unit 8 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第10回：Unit 9 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第11回：Unit 10 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第12回：Unit 11 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第13回：Unit 12 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第14回：a 期末試験・b 解説、総括、今後の指針		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業回数の3分の1を超える欠席（5回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、知らない単語が文章中にあるのは当たり前のことであると考え、未知の単語をピックアップしてその意味を調べておくこと、その週に扱うユニットに目を通し、分かりそうなところと難しいところを把握しておくことくらいは最低でも行ってください。それに加えて疑問点をいくつか持っておくこと、質問したいことをまとめておくことを期待します。 復習としては、記憶が新鮮なうちに新たに得た知識をまとめておくこと、CD または音声ファイルを、英文の意味が理解できるようになるまで繰り返し聞くこと、英文をすらすら読めるようになるまで音読すること、授業内容に関連した新聞記事やウェブ記事、専門書などを読むことが理想的です。 半期の学習を通じ、教科書の英文は自信をもって読める、同じくらいのレベルの英文は自力で読むことができる、さらに高度な英文でも理解するための手法が身についている、という目標の元で取り組んでください。		
5. 教科書 『Get up STEAM（総合英語：科学・文化・テクノロジーの世界）』三修社		
6. 参考書 専門性の高い英文に専門用語や学術用語など、分からない単語があるのは当たり前であり、それらの意味は各自で調べて理解するしかなく、いくら英文を眺めていても分かるようにはなりません。そのためには辞書や学術用語集が必要ですが、電子辞書であれ紙媒体であれ、まずは手持ちの辞書を活用することから考えましょう。手持ちの辞書できちんと読めているうちは新しいものに手を出す必要はありません。		

ん。教科書や学術書、雑誌記事や学術論文を読み進めていくと、ある時手持ちの辞書では太刀打ちできないと感じる時があるはずです。その時にこそ、新しい辞書の購入を検討しましょう。何にせよ、辞書も持たずに教室に来るのはやめてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や考察など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (12)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (12)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜科学の話題を英語で読む＞ この授業では、科学についての様々な話題を扱ったテキストを用いて、内容と論理展開を正確に理解する能力を養う。また、科学英語を読む際に必要となる語彙力の増強を図る。 《授業の概要》 1 回の授業で 1 つの Unit を終わらせることを基準に授業を進め、Unit 11 までを目標とする。必要に応じて、関連記事をクラスで取り上げ、読む時間を設けることがある。それぞれの Unit に付属の問題を課題として出題する。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（授業の諸注意、テキストの説明） 第 2 回：Unit 1: The Origin of Life on Earth 第 3 回：Unit 2: Fossils 第 4 回：Unit 3: The Diversity of Life 第 5 回：Unit 4: Endangered and Extinct Species 第 6 回：Unit 5: Ancient DNA 第 7 回：Unit 6: Little People 第 8 回：Unit 7: Waste Disposal 第 9 回：Unit 8: The Biggest Challenge 第 10 回：Unit 9: Stem Cells 第 11 回：Unit 10: Malaria 第 12 回：Unit 11: Superconductivity 第 13 回：テキスト関連の記事など 第 14 回：a まとめ・b 試験 〔対面授業〕 ※講義内容は必要に応じて変更になる場合がある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週金曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞などでテキストの内容の理解を深めること。		
5. 教科書 『Our Unique Planet』 Ian Bowring, Ruth Urbom （成美堂）		
6. 参考書 特に定めない。各 Unit の関連書籍や記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		
9. その他 オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (13)	1 単位	松井 恭子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (13)		
1. 授業の概要・到達目標		
授業の概要 科学の発展は、現代社会および生活文化に多大な影響を及ぼしている。本教科書は、科学分野における最先端の情報や専門的知見を英語で精読することを通して、科学的知識の習得と英語運用能力の向上を図ることを目的とする。各章は、学術的内容を踏まえつつも平易かつ明快な英語で記されており、ユーモアを交えた記述によって読解への関心を高める構成となっている。本授業では、本書の講読を通して、専門的内容を英語で理解・考察する力を養成する。 教科書には、科学のテーマとして、5つのジャンルが載せられています。「動物」(1章～3章)、「環境」(4章～6章)、「宇宙」(7章～9章)、「人間」(10章～12章)、「未来の科学技術」(13章～15章)である。各章には、英語の5つの力(語彙力、文法力、リーディング、リスニング、スピーキング)の問題が載っており、英語の力を養うために活用します。 ◆到達目標 内容の正確な理解と科学英語の論理展開を把握する力を養うことを第一目標とする。精読する力をつけていくことを第一に進める。科学の話題について、自分の短いコメントを簡単に英語で書き、それを読む用意してもらい、クラスメイトとペアワークやグループで意見交換を楽しめるようにしていく予定である。 自分で少し調べたりすることで、自分自身の視点で各 chapter の話題に向き合い、深く読み取る楽しさを味わってみたい。学生ひとりひとりの英語の発音についても、アドバイスしていきたい。		
2. 授業内容		
授業内容 第1回：イントロダクション(評価基準などの説明、クラスの進め方、自分の意見の言い方のコツ、予習の仕方などの説明) Unit 3: Walking Dead: Are zombies real? (1) 第2回：Unit 3: Walking Dead: Are zombies real?? (2) (読みの練習1) 第3回：Unit 5: Phone Waste: Can we build a repairable smartphone? (1) (意見を言うときの3つの構造 Introduction, Body, Conclusionのうちの Introduction partの大切さ) 第4回：Unit 5: Phone Waste: Can we build a repairable smartphone? (2) (意見を言うときの3つの構造のうちの Body partの大切さ) 第5回：Unit 6: Body Heat: How can you heat a home with sewage? (1) (意見を言うときの3つの構造のうちの Conclusion partの要点) 第6回：Unit 6: Body Heat: How can you heat a home with sewage? (2) (読みの練習2) 第7回：Unit 9: Space Living: What is the Mars simulation test? (1) (意見を言うときの Voiceの声の出し方) 第8回：Unit 9: Space Living: What is the Mars simulation test? (2) (速読練習1) 第9回：Unit 11: Let Down Your Hair: Is Rapunzel's fairy tale possible?(1) (速読練習2) 第10回：Unit 11: Let Down Your Hair: Is Rapunzel's fairy tale possible? (2) (Group Discussion 1) 第11回：Unit 12: Impossible to Bear: Why do we itch? (1) 第12回：Unit 12: Impossible to Bear: Why do we itch? (2) (Group Discussion 2) 第13回：Unit 14: Brain Chip: Will humans have microchips in their heads? (1) (Group Discussion 3) 第14回：期末試験とまとめ		
3. 履修上の注意		
履修上の注意 春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、扱う Unit は重複していません。お渡しする資料は、忘れずに授業に持参して下さい。 教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせします。また、Oh-Meiji にも4月に載せます。欠席の回数に気を付けて下さい。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容		
準備学習(予習・復習等)の内容 事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容をある程度は理解出来るように準備して授業に望みましょう。 授業での英語でコメント・意見など話してもらうときは、担当者を順番に当てるので、原稿を用意して取り組んで欲しい。 単語テストは、1週間前に範囲などをお伝えします。		

5. 教科書

教科書

Science Spark. Dave Rear 著 成美堂 (2025) ISBN 9784791973385

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。

英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせします。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小課題については、締め切りの後、授業で解説をする。期末テストの振り返りは、テスト後に解説します。

8. 成績評価の方法

成績評価の方法

期末レポート (40%)、

自分の意見発表と課題や単語小テスト (30%)、

授業中の参加と平常点 (30%)

9. その他

教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせします。また、Oh-Meiji にも 4 月に載せます。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (14)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (14)		
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 このコースでは英文記事やエッセイを読み、読解力の向上を目指します。これらの文章を通して、スキミング・スキル、筆者の考えを裏付ける支持文、要約、物事や出来事の順番や順序の理解、言葉や例の引用などについて学びます。 また、使用する教科書には Web 上で視聴できるビデオ映像、音声、さらに練習問題（オンライン・ワークブック）もありますので、五感を使って読解力や語彙力も強化していきます。 〈授業の到達目標〉 コース終了時にはアカデミックな文章の主旨を理解、必要な情報を見つけ、読解し要約できることを目標としています。また、自分のこれまでに備わった知識やクラスメートとのディスカッションを通じ、クリティカル・シンキングスキル（批判的な思考力）を伸ばします。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 1. Course work, Presentation of syllabus, Class rules 2. Unit 6, Lesson A: Food Revolution 3. Unit 6, Lesson A: Food Revolution 4. Unit 6, Lesson B: Teach every child about food 5. Unit 6, Lesson B: Teach every child about food 6. Unit 6, Project 7. Unit 7, Lesson A: Power poses 8. Unit 7, Lesson A: Power poses 9. Unit 7, Lesson B: Your body language shapes who you are 10. Unit 7, Lesson B: Your body language shapes who you are 11. Unit 7, Project 12. Unit 2, Lesson A: Trouble for the air plants 13. Unit 2, Lesson A: Trouble for the air plants 14. a) Exam, b) Wrap up 尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認しテキストを読みましょう。指定された関連のビデオを視聴しましょう。 ・復習： 科書及びオンラインワークブックで読解問題や語彙を復習しましょう。		
5. 教科書 書名：21st Century Reading, Creative thinking and reading with TEDTalks 著者：Laurie Blass, Mari Vargo, and Eunice Yeates 出版社：センゲージ・ラーニング ISBN：978-1-305-26570-7		
6. 参考書 ・自然と生物をテーマにした TED: https://digitalcast.jp/vc/nature/ ・バイオをテーマにした TED: https://digitalcast.jp/vc/biotechnology/ （字幕付きのものもあります）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 口頭で行います。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験：80%、平常点（授業参加と課題）：20%。 ・遅刻は（授業開始後 30 分までに入室）3 回で欠席 1 回とみなします。授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となります。		

9. その他

- ・オフィスアワーは対面授業のある金曜日の 12:30-13:10、中央校舎 3 階講師控室です。
- ・連絡先のメールアドレスは、k_nakamura@meiji.ac.jp です。メールを送る際、「件名」に、「金曜 4 限 科学英語, クラス ID 30 番、鈴木花子」のように「曜日、時限、授業科目名、クラス ID 番号、氏名」を書いて、明治大学から提供されているメールアカウントから送信してください。また、お返事に数日かかることもあります。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (15)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 科学英語 (15)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「科学英語」という授業を通じて身につけたいスキルは、専門文献や研究論文を自力で正確に読み取れるようになることです。そのためには、日常生活で使われる単語とは異なった学術用語を知らなくては いけません、それで終わりというわけにもいきません。1 文 1 文を正確に読み取り、背景知識を得て、パラグラフを理解し、文章全体を把握しなくては いけません。そのために必要な作業は、まずは文章に目を通し、何が理解を妨げているのかを把握することです。そして、英語に関する知識や様々な背景知識を学び、文章が何についてどのように述べられているかを理解することになります。そのためのトレーニングとして、短くまとまった難解な理科系の英文を読み解きます。まずは自分で読んで難しいと感じることから始め、授業ではどのような知識をどのように活用すれば内容を理解できるようになるのかの手ほどきを行います。教科書の文章を理解した後で、教科書の文章の元になった論文を読みます。内容は知っているはずなのになぜ読めないのか、どうすれば読めるようになるのかを考えます。 《授業の到達目標》 1) 科学系の英文を自力で正確に理解するためのスキルを身につけること 2) 自分の考えを自力で正確に表現するためのスキルを身につけること ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回： a. 授業概要、授業の進め方、履修上の注意など b. 科学英語を理解するポイント 第 2 回： Unit 1 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 3 回： Unit 2 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 4 回： Unit 3 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 5 回： Unit 4 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 6 回： Unit 5 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 7 回： Unit 6 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 8 回： Unit 7 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 9 回： Unit 8 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 10 回：Unit 9 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 11 回：Unit 10 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 12 回：Unit 11 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 13 回：Unit 12 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第 14 回：a 期末試験・b 解説、総括、今後の指針		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業回数の 3 分の 1 を超える欠席（5 回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、知らない単語が文章中にあるのは当たり前のことであると考え、未知の単語をピックアップしてその意味を調べておくこと、その週に扱うユニットに目を通し、分かりそうなところと難しいところを把握しておくことくらいは最低でも行ってください。それに加えて疑問点をいくつか持っておくこと、質問したいことをまとめておくことを期待します。 復習としては、記憶が新鮮なうちに新たに得た知識をまとめておくこと、CD または音声ファイルを、英文の意味が理解できるようになるまで繰り返し聞くこと、英文をすらすら読めるようになるまで音読すること、授業内容に関連した新聞記事やウェブ記事、専門書などを読むことが理想的です。 半期の学習を通じ、教科書の英文は自信をもって読める、同じくらいのレベルの英文は自力で読むことができる、さらに高度な英文でも理解するための手法が身についている、という目標の元で取り組んでください。		
5. 教科書 『Engineering the Everyday – English Readings in Science and Technology (日常を支える科学と技術 ー英語で学ぶサイエンスー)』朝日出版社		
6. 参考書 専門性の高い英文に専門用語や学術用語など、分からない単語があるのは当たり前であり、それらの意味は各自で調べて理解するしかなく、いくら英文を眺めていても分かるようにはなりません。そのためには辞書や学術用語集が必要ですが、電子辞書であれ紙媒体であれ、		

まずは手持ちの辞書を活用することから考えましょう。手持ちの辞書できちんと読めているうちは新しいものに手を出す必要はありません。教科書や学術書、雑誌記事や学術論文を読み進めていくと、ある時手持ちの辞書では太刀打ちできないと感じる時があるはずです。その時にこそ、新しい辞書の購入を検討しましょう。何にせよ、辞書も持たずに教室に来るのはやめてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や考察など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (16)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (16)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 主に自然科学分野関連のエッセイ、写真、ビデオ使用しながら読解力と語彙力の強化します。 また、これまでに学んできた知識に加え、クラスメートとのディスカッションなどを通じ、クリティカル・シンキングスキル（批判的な思考力）を向上させます。協同作業やコミュニケーション、問題解決のタスクに取り組み、対人スキルアップも目指します。 ＜授業の到達目標＞ コース終了時には自然科学分野のエッセイの主旨が理解でき、そのトピックに対する自分の考えを英語で表現できることを目標としています。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 1. Course work, Presentation of syllabus, Class rules 2. Unit 1, Reading 1, Is there a recipe for happiness? 3. Unit 1, Reading 1, Is there a recipe for happiness? 4. Unit 1, Video, Llama Therapy 5. Unit 1, Reading 2, Four keys to happiness 6. Unit 4, Reading 1, Where have all the fish gone? 7. Unit 4, Reading 1, Where have all the fish gone? 8. Unit 4, Video, The story of Cabo Pulmo 9. Unit 4, Reading 2, An interview with Barton Seaver 10. Unit 5, Reading 1, Down memory lane 11. Unit 5, Reading 1, Down memory lane 12. Unit 5, Video, House of cards 13. Unit 5, Reading 2, Sleep and Memory 14. a) Final Exam, b) Wrap up 尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認しテキストを読みましょう。 ・復習： 単語や練習問題を復習しましょう。		
5. 教科書 書名：Pathways 2A（分冊版）、Reading, Writing, and Critical Thinking 第3版 著者：Mari Vargo, Laurie Blass, and Kristin Sherman 出版社：センゲージ・ラーニング ISBN：978-0-357-97984-6		
6. 参考書 ・自然と生物をテーマにした TED: https://digitalcast.jp/vc/nature/ ・バイオをテーマにした TED: https://digitalcast.jp/vc/biotechnology/ （字幕付きのものもあります）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・口頭でお伝えします。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験：70%、平常点（授業参加と課題）：30%。 ・遅刻（授業開始後 30 分までに入室）3 回で欠席 1 回とみなします。授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となります。		
9. その他 ・オフィスアワーは金曜日の 12:30-13:10、中央校舎 3 階講師控室です。		

・インストラクターのメールアドレスは、k_nakamura@meiji.ac.jp です。メールを送る際は、「件名」に、「金曜 3 限 科学英語, クラス ID 30 番、鈴木花子」のように「曜日、時限、授業科目名、クラス ID 番号、氏名」を書いて、明治大学から提供されているメールアカウントから送信してください。また、お返事に数日かかることもあります。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (17)	1 単位	行田 勇
2022～2025 年度入学者 科学英語 (17)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 Linguistic Science (言語科学) に関する英語文献を精読する。 受講者は指定された箇所を全訳したものを用意し毎回発表する。 授業中の既習事項については毎回小テストを行い理解度の確認をする。 《到達目標》 Linguistic Science (言語科学) に関する英語文献の読み方を習得することを第一の目標とする。 将来的に Biolinguistics (統語論の進化論的及び生物学的ルーツの解明を目標とした研究) の専門書を読めるようになる準備をする。 農学科食糧生産・環境コース (2023 年度以前に入学した学生が対象) においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 機器の使用方法, 教材の入手方法と予習の進め方, 単位認定等についての詳しい説明, 小テスト 第 2 回～第 13 回 テキストの精読・小テスト 第 14 回 まとめ 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 第 1 回目は単なるイントロダクションではないので、履修を迷っている場合でも必ず出席すること。 毎回出席することは「当然の義務」であるから、欠席・遅刻・早退についてはそれぞれ大幅に減点をする。 皆勤とは無縁の学生にはお勧めしない。 課題未提出の場合には、大幅に減点する。 理由のいかんにかかわらず提出期限を過ぎたものや形式等に不備があるものは無効となる。 また、指示に従わず内容が不十分な場合にも評価対象外となることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ配布された英文資料を全訳し、毎回授業前に提出する。 準備にかなりの時間を要することを覚悟すること。		
5. 教科書 特に定めない。(クラスウェブで指示する) 教科書として使用する英文資料は、Language (Linguistic Society of America), Linguistic Inquiry(The MIT Press)などの学術誌に掲載された論文を予定している。 英文資料の入手方法については第 1 回の授業で説明する。 欠席した場合には第 2 回以降の授業に参加できないなど支障をきたすことがあるので注意すること。		
6. 参考書 以下の書籍については購入する必要はない。 Biological Foundations and Origin of Syntax 著者 Derek Bickerton and Eörs Szathmáry 出版社 The MIT Press		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に詳細に解説するので、各自で丁寧に添削する必要がある。 また、この添削済の和訳レポート原本は、学期末に提出する必要がある（評価対象）。		
8. 成績評価の方法 成績評価の基本方針 毎回の小テスト 40%, 平常点（提出物・授業中の発表および添削等）60%の総合評価である。 授業中に各自で添削したノートの原本は、学期の終盤に提出する必要がある（評価対象）。 授業回数の 3 分の 2 以上に参加していない者は成績評価の対象から外す。 皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはない。 欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をする。 評点算出方法等については、第 1 回の授業で詳細に説明する。		

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。

本授業の履修前に、各自で必ず MIND 利用講習会を受講しておいてください。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (18)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (18)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜科学の話題を英語で読む＞ この授業では、科学についての素朴な疑問を扱ったテキストを用いて、内容と英文の論理展開を正確に理解する能力を養う。また、科学英語を読む際に必要となる語彙力の増強を図る。 《授業の概要》 春学期と同じテキストを使用する。Unit 7 から開始予定だが、正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。2 回の授業で 1 つの Unit を終わらせることを基準に授業を進め、Unit 12 もしくは進度によっては 14 までこなすことを目標とする。必要に応じてテキストの内容に関連した記事をクラスで取り上げ、読む時間を設けることがある。Unit の前半回はテキストの Vocabulary および Comprehension Check の A と B を、後半回は Writing a Summary の A と B を課題として出題しフィードバックを行う。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（授業の諸注意、テキストの導入） 第 2 回：Unit 7 Rising Steadily 第 3 回：Unit 7 つづき 第 4 回：Unit 8 Orbital Submarine 第 5 回：Unit 8 つづき 第 6 回：Unit 9 Little Planet 第 7 回：Unit 9 つづき 第 8 回：Unit 10 common Cold 第 9 回：Unit 10 つづき 第 10 回：Unit 11 Alien Astronomers 第 11 回：Unit 11 つづき 第 12 回：Unit 12 Interplanetary Cessna 第 13 回：Unit 12 つづき 第 14 回：a まとめ・b 試験 ※講義内容は必要に応じて変更になる場合がある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で、授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 授業では Microsoft Forms を利用してテキスト内容に即した課題をクラスウェブ上で出題する。課題は原則授業後に割り当て、翌週の火曜日朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 初回に公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。Writing の部分については、クラスウェブに公開する PDF と辞書やテキストの内容を確認してあらかじめ取り組んでおくこと。 関連項目や科学についての基礎知識は新聞記事やネット検索などを活用して補うこと。		
5. 教科書 『What If?: Serious Scientific Answers to Absurd Hypothetical Questions（科学の答え：地球上の全人類がジャンプして同時に地面に降りたらどうなるか）』 Randall Munroe 他（松柏社）		
6. 参考書 参考書は特に定めない。必要に応じて関連書籍や記事を授業中に紹介し、プリントを配布して講読することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭に解説をする。		

8. 成績評価の方法

定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (19)	1 単位	宮川 敬子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (19)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標》 様々な日常の科学の話題をテーマにした英語文章を読みながら、科学分野の文章構成や語彙に慣れ、英語の論理的な説明文を、日本語を読むように理解を積み重ねて全体の趣旨を把握することを目標に 4 技能を学習します。 《授業の概要》 テキストは動物、環境、エネルギー資源、技術、健康などのテーマを含む全 20 章で構成されており、春学期は奇数章、秋学期は偶数章を行う予定です。一回の授業で 1 章を終えるスケジュールで、リーディング、練習問題、小テストなどを毎回行います。		
2. 授業内容 第 1 回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります) b. テキストの構成と授業の進め方などの説明 第 2 回：Unit 2: Biology of Microbes「微生物が開く道の扉」 第 3 回：Unit 4: Owning and Cloning Your Pet「未来を拓くクローン技術」 第 4 回：Unit 6: Linear Precipitation Band「列島を襲う線状降水帯」 第 5 回：U2-6: Agree or Disagree? (Discussion in English) 第 6 回：Unit 8: Natural Hazards「牙をむく自然」 第 7 回：Unit 10: Underground Source of Energy「地熱の恵みを活かす」 第 8 回：Unit 12: Ensuring Marine Resources「限りある海洋資源」 第 9 回：U8-12: Agree or Disagree? (Discussion in English) 第 10 回：Unit 14: Nature is Our Greatest Teacher「自然はアイディアの宝庫」 第 11 回：Unit 16: Intelligence Driving Our Future「未来へ発信する自動運転車」 第 12 回：Unit 18: Pleasure Threshold「依存をもたらす脳の働き」 第 13 回：U14-18: Agree or Disagree? (Discussion in English) 第 14 回：a. 期末テスト b. まとめと今後の学習		
3. 履修上の注意 春学期は奇数章、秋学期は偶数章を読みます。春秋両方受講すると 1 冊読み終わります。また、一学期に 2/3 以上の出席が合格の条件とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必ず行ってください。ただし予習で Google 翻訳などを使用して日本語を用意して来るのは予習ではありません。個々の単語や文構造や文法を確認し、パラグラフごとに要点をメモしておくことが予習です。また予習の段階でよくわからなかった部分に印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speaking に関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います。		
5. 教科書 Science Stream「覗いてみよう、科学の世界」(2022, 成美堂)		
6. 参考書 毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットの使用は許可しません。インターネット上で調べるのは授業前に自習の段階ですませておくこと。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。		
8. 成績評価の方法 授業中の参加と課題 20-30%, 各種テスト（予習テスト、小テスト, 期末テスト等）70-80%をもとに総合的に評価します。総合点 60 点以上を合格とします。また欠席が 1/3（5 回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。		
9. その他 オフィス・アワー： 火曜 12:30-13 :20（中央棟 3F 講師控室）		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (20)	1 単位	熊田 和典
2022～2025 年度入学者 科学英語 (20)		
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、科学の知識と情報の普及を目指して発行されている週刊科学雑誌 Science News の記事を精読する。科学の現場を伝える Science News の記事は、読み応えがあり、扱われているテーマは多岐にわたる。本授業では、テキストの後半部分を精読する。さらに練習問題にも取り組み、精読した英文のさらなる理解や科学英語の語彙の習得に努める。 科学英語の基礎的な語彙を身につけ、英語で書かれた科学分野の文章を理解できるようになることを到達目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 イン트로ダクション（授業の内容、英語の学習の仕方、成績評価の基準などの説明） 第 2 回 Unit 7 Pothole Pals（アリがエサを巣に持ち帰るために）：長文精読 第 3 回 Unit 7 Pothole Pals（アリがエサを巣に持ち帰るために）：練習問題 第 4 回 Unit 9 Why So Dry?（干ばつの新たな原因）：長文精読 第 5 回 Unit 9 Why So Dry?（干ばつの新たな原因）：練習問題 第 6 回 Unit 11 Low Life（南極海で新たに発見された生物）：長文精読 第 7 回 Unit 11 Low Life（南極海で新たに発見された生物）：練習問題 第 8 回 Unit 12 In the Zone（太陽系外で発見された地球に似た惑星）：長文精読 第 9 回 Unit 12 In the Zone（太陽系外で発見された地球に似た惑星）：練習問題 第 10 回 Unit 13 Ancient Extract（ティラノサウルスのタンパク質からわかること）：長文精読 第 11 回 Unit 13 Ancient Extract（ティラノサウルスのタンパク質からわかること）：練習問題 第 12 回 Unit 15 New Black（ナノスケール素材のフィラメント）：長文精読 第 13 回 Unit 15 New Black（ナノスケール素材のフィラメント）：練習問題 第 14 回 a. 講義（重要事項の確認、補足） b. 期末試験 * 講義内容、進度には必要に応じて若干変更を加えることがある。		
3. 履修上の注意 英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。 辞書を必ず携帯すること。（電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。） 遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては、教科書の次回講読する箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、わからない部分を明確にし、その部分を辞書で調べておくこと。その他の練習問題においては、練習問題のタイプによって何を身につけるかを意識して解答を用意すること。復習としては、科学英語特有の語彙を中心に新しい語彙を覚えるとともに、できなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読む、あるいは解いてみること。		
5. 教科書 『Science Speaks』Kevin Cleary、松本和子、野崎嘉信（金星堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の講評については、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（70％）と小テスト（単語テスト）（30％）で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。		
9. その他 オフィスアワー：火曜日 10:40～17:15 の授業外の時間（中央校舎 3 階講師控室） 連絡先：メールアドレスを初回の授業で伝える。		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (21)	1 単位	樋渡 さゆり
2022～2025 年度入学者 科学英語 (21)		
1. 授業の概要・到達目標 「英語で読む自然科学史：チャールズ・ダーウィンとその時代」 《授業の概要》 Jacob Bronowski による自然科学史、The Ascent of Man から、おもに C. Darwin の時代を扱う章、“The Ladder of Creation”を中心に精読する。英文の難易度は、出版社の判断では TOEIC 600 点以上レベル。論説文を読み、自然科学史を文化史的な広い視野から学び、グローバル時代に生きる私たちの文化や生活について考える。 《到達目標》 長文の論説文の正確な読解と、そのために効果的な学習方法を身につける。自然科学史の基礎的な知識を身につけ、そのヴォキャブラリーになじむ。そして、文系理系を問わず各学科の研究活動に対応できる学術英語の運用能力を身につける。 ＊農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）の学習・教育目標の A に対応		
2. 授業内容 第 1 回：Module a のみ：イントロダクション 第 2 回：“The Ladder of Creation”の章のテキストを精読。The naturalists--Charles Darwin 第 3 回：Alfred Wallace 第 4 回：Impact of South America 第 5 回：The wealth of species 第 6 回：Wallace loses his collection 第 7 回：Natural selection conceived 第 8 回：第 7 回までの復習・補足 第 9 回：The continuity of evolution 第 10 回：Louis Pasteur: right hand left hand 第 11 回：Chemical constants in evolution 第 12 回：The origin of life--The four bases 第 13 回：Are other forms of life possible? 第 14 回：a: 定期試験 / b: 発展的学習のために		
3. 履修上の注意 上級レベル。履修を考えている場合は仮登録をしてクラスウェブ上の資料（テキストの一部）を参照のこと。 春学期から通して履修すると、18 世紀の産業革命期からチャールズ・ダーウィンが活動した 19 世紀ヴィクトリア朝時代までの近代科学の歴史を概観できる		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：あらかじめ示された範囲のテキストを、段階的・発展的に指示されたポイントに注目し、脚注と辞書を用いて読む 復習：授業で注目したヴォキャブラリーやセンテンス、文法事項を見直して、定着に努める		
5. 教科書 『The Ascent of Man』Jacob Bronowski（金星堂）		
6. 参考書 『プログレッシブ英和中辞典』（小学館） 『リーダーズ英和辞典』（研究社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出はおもにクラスウェブを利用 フィードバックはクラスウェブのコメント欄で各履修者へ返す、授業展開に取り入れる、などの方法をとる		
8. 成績評価の方法 期末試験実施日を含めた授業実施回数の 2／3 以上に出席している履修者を評価対象とします 期末定期試験 60％、平常点（出席・参加状況、課題提出など）40％で評価します 各自、出席状況を記録・認識しておくこと。良好な出席状況が前提です		
9. その他 1. 連絡方法→クラスウェブ上の連絡欄		

2. オフィスアワー→質問対応は授業中または終了時（面談を希望する場合は授業終了時または事前連絡でアポイントメントをとってください）

場所： 英語第 1 研究室（第一校舎 3 号館 4 階 403）

時間： 在室時は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (22)	1 単位	貝塚 泰幸
2022～2025 年度入学者 科学英語 (22)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 私たちは科学に関する日本語の表現や言い回しを幼い頃より耳にしており慣れ親しんでいる。しかし科学に関する英語の表現や言い回しとなるとそれらを読み聞きする機会は極端に少ない。結果として科学に関する基礎的な内容や概念を英語で理解して表現することはもちろん、そういった内容の英文を日本語で説明することさえも難しいと感ずることがあるだろう。そこでさまざまな科学の分野における近年の重要な科学的な進歩や革新的な発明、研究の動向などに関する英文を読み、日常的に使用される表現から専門的な語彙まで幅広く、科学に関する英語表現の基礎を学んでいく。 《授業の到達目標》 さまざまな科学の分野に関する英文を読み、そこで使用される英語表現に慣れ親しみながら科学英語の基礎的な語彙力や表現力を身につけ、それらを用いて学習した分野に関する知識を伝え自らの考えを表現できるようになることを目標とする。また、英文の精読を通して英文法に関する知識を再確認するとともに一般的な語彙力と読解力を向上させ、批判的な視点からテキストを読み、学生が独自の意見を形成できるようになることも目的とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明 b. イントロダクション 第 2 回：Lesson 1 Artificial Intelligence 第 3 回：Lesson 2 Ecology/Environmental Science (1) 第 4 回：Lesson 3 Archeology/Anthropology 第 5 回：Lesson 4 Criminology/Sociology/Psychology 第 6 回：Lesson 5 Everyday Science and Technology (1) 第 7 回：Lesson 6 Ecology/Environmental Science (2) 第 8 回：Lesson 7 Biology/Botany/Mycology 第 9 回：Lesson 10 Everyday Science and Technology (2) 第 10 回：Lesson 11 Physiology/Psychology 第 11 回：Lesson 12 Geophysics/Ornithology 第 12 回：Lesson 13 Engineering/Medicine 第 13 回：Lesson 15 Everyday Science and Technology (3) 第 14 回：a. まとめ b. 期末試験 * 授業内容は進度などに応じて変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 学生は積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、特に科学分野に関する英語表現については対応する正確な日本語による表現を調べておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。 準備学習の不足や、不適切な授業への参加態度（私語やスマートフォンの使用など）は成績評価に加味される。 教科書を購入しない学生については、原則として成績評価の対象外とする。 全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。 遅刻・早退は 3 回で 1 回分の欠席とし、授業開始後 30 分以上遅れて来た者および授業終了 30 分以内に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者については欠席扱いとする場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語については授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。また Lesson 毎にある“Comprehension”, “Vocabulary Studies” については解答を用意しておくこと。特に難解な箇所や理解できない内容、文法に関する質問については授業内で指摘できるように準備しておくことが望ましい。		
5. 教科書 ジム・カヌーセン、『日常生活に見る現代の科学技術を読む』（南雲堂）		
6. 参考書		

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30% （予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

欠席連絡や課題についての問い合わせ先は、Oh-o! Meiji にて連絡先を公開する。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (23)	1 単位	長谷川 安代
2022～2025 年度入学者 科学英語 (23)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 本授業では、WWF の『Living Planet Report 2024 – A System in Peril』を教材とします。本報告書では、地球の生物多様性や健全性についてどのような傾向がみられるのかが、Living Planet Index (LPI) という指標を用いて、数値で示されています。(野生生物の絶滅危機の増大や、健全な生態系の劣化の可能性など) 英語学習者のために編集されたテキストではなく、国際的な機関の英文の報告書を教材とすることで、「英語を学ぶ」ために英文を読むことから、「情報を得る」ために英文を読むことへと意識転換を行い、情報を得るための英文の読み方を学んでいきます。また、同じ分野の文章を継続して読んでいくことで当該分野で頻出する単語や表現を自然と習得することを目指します。 ＜授業の到達目標＞ 1. 英語資料から、必要な情報を抽出することができる。 2. 科学分野の英語資料（長文やグラフ）を読むことへの抵抗を軽減する。 3. 国際的な機関の報告書を読むときのスキルを身につけることができる。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] b のみ：Introduction [第 2 回] Chapter 1. Measuring nature's decline/What is biodiversity and why is it important?/How do we measure nature?(p. 18～p. 23) [第 3 回] The global Living Planet Index 2024 (p. 24～p. 25)/Case studies(p. 32～p. 33) [第 4 回] Understanding drivers of change to nature through regional perspectives (p. 26～p. 31) [第 5 回] Chapter 2. Tipping points / Early warning signals/・North America: fire suppression, drought and invasive species(p. 34～p. 37) [第 6 回] ・Great Barrier Reef: overfishing, pollution and warming waters・India: wetland loss, drought and flooding/Tipping points with global significance/ A wake-up call(p. 38～p. 43) [第 7 回] Chapter 3. Global goals and progress/ Reaching 2030 on the pathway to a sustainable future(p. 44～p. 49) [第 8 回] Chapter 4. Sustainable solutions/ Nature conservation/・Evolving approaches to conservation/ ・Transforming conservation(p. 50～p. 55) [第 9 回] ・Transforming conservation (つづき) (p. 56～p. 60) [第 10 回] The food system/・Challenges with the current food system(p. 61～p. 64) [第 11 回] ・Food system transformation:what's needed?(p. 65～p. 69) [第 12 回] The energy system/・Challenges with the current energy system/・Energy transformation:what's needed? (p. 70～p. 73) [第 13 回] ・How do we achieve a transformation that is faster, greener and fairer?(p. 74～p. 76) [第 14 回] Review ※ 受講学生の習熟度に応じて、変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・授業はペアワークを中心に進めていきます。授業毎にランダムにペアを決めます。 ・授業には、PC, Tablet 等のデバイスを持参してください。 ・原則として、20 分以上の遅刻は欠席扱いとします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】テキストの該当箇所を読み、課題に取り組んだ上で、授業に参加してください（各回の予習 90 分）。詳細については、第 1 回の授業時に説明します。		
5. 教科書 WWF (2024) Living Planet Report 2024-A System in Peril. WWF, Gland, Switzerland. 次のサイトよりダウンロードしてください。 https://livingplanet.panda.org/		
6. 参考書 下記サイトより、日本語のサマリーをダウンロードすることができます。 英文の Full Report を読み始める前に、日本語のサマリーに目を通すことを推奨します。報告書全体のイメージをつかむことができます。 https://wedocs.unep.org/xmlui/bitstream/handle/20.500.11822/34949/MPN_ESEN.pdf		

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内や Oh-o ! Meiji 等を活用して、振り返りシートに対するコメントを共有します。

8. 成績評価の方法

- ・ 平常点（グループワークへの参加態度・振り返りシート）:50%
 - ・ 期末レポート:50%
- （単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。）

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (24)	1 単位	中村 美帆子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (24)		
1. 授業の概要・到達目標 「科学の話題について英語で読み、考える」 《授業の概要》 科学関連の記事の講読を通じて、リーディング能力を高める。科学関連の記事をまとめた教科書と、その他の新聞・雑誌記事等を使用する。記事の内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。 《到達目標》 1. 科学関連の記事を英語で読み、リーディング能力を高める。 2. 専門的な語彙や表現を習得する。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Unit 6 This Mushroom-Based Leather Could Be the Next Sustainable Fashion Material 第3回：新聞・雑誌記事講読 1 第4回：Unit 8 Research Shows Checking Your Phone Is Contagious Like Yawning 第5回：新聞・雑誌記事講読 2 第6回：小テスト1、まとめ 第7回：Unit 11 Space Is Destroying Astronauts’ Red Blood Cells 第8回：新聞・雑誌記事講読 3 第9回：Unit 13 Scientists Create First 3-D Printed Wagyu Beef 第10回：新聞・雑誌記事講読 4 第11回：小テスト2、まとめ 第12回：Unit 14 Scientists Unveiled the World’ s First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce 第13回：新聞・雑誌記事講読 5 第14回：a. 試験、b. まとめ		
3. 履修上の注意 1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 2. 5回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は3回で1回の欠席とみなす。 3. この授業では教科書から5つの unit を選んで使用する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1時間）。		
5. 教科書 『Science in Progress: More Articles from Smithsonian Magazine’ s Smart News / 最新の科学をスミソニアンで読み解く』、宮本恵子 編著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。		
6. 参考書 資料を適宜配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。		
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%		
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (25)	1 単位	原 功
2022～2025 年度入学者 科学英語 (25)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「科学英語」という授業を通じて身につけたいスキルは、専門文献や研究論文を自力で正確に読み取れるようになることです。そのためには、日常生活で使われる単語とは異なった学術用語を知らなくてはいけませんが、それで終わりというわけにもいきません。1文1文を正確に読み取り、背景知識を得て、パラグラフを理解し、文章全体を把握しなくてはなりません。そのために必要な作業は、まずは文章に目を通し、何が理解を妨げているのかを把握することです。そして、英語に関する知識や様々な背景知識を学び、文章が何についてどのように述べられているかを理解することになります。そのためのトレーニングとして、短くまとまった難解な理科系の英文を読み解きます。まずは自分で読んで難しいと感じることから始め、授業ではどのような知識をどのように活用すれば内容を理解できるようになるのかの手ほどきを行います。教科書の文章を理解した後で、教科書の文章の元になった論文を読みます。内容は知っているはずなのになぜ読めないのか、どうすれば読めるようになるのかを考えます。 《授業の到達目標》 1) 科学系の英文を自力で正確に理解するためのスキルを身につけること 2) 自分の考えを自力で正確に表現するためのスキルを身につけること ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回： a. 授業概要、授業の進め方、履修上の注意など b. 科学英語を理解するポイント 第2回： Unit 1 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第3回： Unit 2 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第4回： Unit 3 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第5回： Unit 4 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第6回： Unit 7 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第7回： Unit 8 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第8回： Unit 10 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第9回： Unit 11 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第10回：Unit 12 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第11回：Unit 13 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第12回：Unit 14 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第13回：Unit 15 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習 第14回：a 期末試験・b 解説、総括、今後の指針 ※この教科書は 5 つのセクションで構成していますが、後半のセクションは特に農学部に関係すると考えられるため、授業で扱うユニットは変則的となります。授業で扱わなかったユニットは自習課題となります。		
3. 履修上の注意 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。 2) 授業回数の3分の1を超える欠席（5回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、知らない単語が文章中にあるのは当たり前のことであると考え、未知の単語をピックアップしてその意味を調べておくこと、その週に扱うユニットに目を通し、分かりそうなところと難しいところを把握しておくことくらいは最低でも行ってください。それに加えて疑問点をいくつか持っておくこと、質問したいことをまとめておくことを期待します。 復習としては、記憶が新鮮なうちに新たに得た知識をまとめておくこと、CD または音声ファイルを、英文の意味が理解できるようになるまで繰り返し聞くこと、英文をすらすら読めるようになるまで音読すること、授業内容に関連した新聞記事やウェブ記事、専門書などを読むことが理想的です。 半期の学習を通じ、教科書の英文は自信をもって読める、同じくらいのレベルの英文は自力で読むことができる、さらに高度な英文でも理解するための手法が身についている、という目標の元で取り組んでください。		
5. 教科書 『The Great Intersection (グレート・インターセクション)』南雲堂		

6. 参考書

専門性の高い英文に専門用語や学術用語など、分からない単語があるのは当たり前であり、それらの意味は各自で調べて理解するしかなく、いくら英文を眺めていても分かるようにはなりません。そのためには辞書や学術用語集が必要ですが、電子辞書であれ紙媒体であれ、まずは手持ちの辞書を活用することから考えましょう。手持ちの辞書できちんと読めているうちは新しいものに手を出す必要はありません。教科書や学術書、雑誌記事や学術論文を読み進めていくと、ある時手持ちの辞書では太刀打ちできないと感じる時があるはずです。その時にこそ、新しい辞書の購入を検討しましょう。何にせよ、辞書も持たずに教室に来るのはやめてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や考察など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (26)	1 単位	原田 英子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (26)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ＜科学の話題を英語で読む＞ この授業では、科学についての様々な話題を扱ったテキストを用いて、内容と論理展開を正確に理解する能力を養う。また、科学英語を読む際に必要となる語彙力の増強を図る。 《授業の概要》 春学期と同じテキストを使用する。Unit 12 から開始予定だが、正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。1 回の授業で1つの Unit を終わらせることを基準に授業を進め、Unit 22 までを目標とする。必要に応じて、関連記事をクラスで取り上げ、読む時間を設けることがある。それぞれの Unit に付属の問題を課題として出題する。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（授業の諸注意、テキストの説明） 第2回：Unit 12: Cell Phones 第3回：Unit 13: The Formation of the Solar System 第4回：Unit 14: Volcanoes 第5回：Unit 15: Tsunamis 第6回：Unit 16: The Atmosphere 第7回：Unit 17: Undersea Mining 第8回：Unit 18: Space Probes 第9回：Unit 19: Lunar Laboratory 第10回：Unit 20: Detecting Planets 第11回：Unit 21: Little Particles 第12回：Unit 22: Big Science 第13回：テキスト関連の記事など 第14回：a まとめ・b 試験 〔対面授業〕 ※講義内容は必要に応じて変更になる場合がある。		
3. 履修上の注意 初回の授業で使用する Microsoft Forms の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証に必要な作業を済ませておくこと。 課題は原則授業後にクラスウェブに割り当て、翌週金曜日の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。 メールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。 授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブの「お知らせ」に反映させる（各自の Meiji-mail に転送させる、もしくはアプリの通知を受けられるようにしておく）。 必ず本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。 毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。また、ネットや新聞などでテキストの内容の理解を深めること。		
5. 教科書 『Our Unique Planet』 Ian Bowring, Ruth Urbom （成美堂）		
6. 参考書 特に定めない。各 Unit の関連書籍や記事などについては授業中に紹介することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業貢献・参加度 20%、課題 30%		

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスはクラスウェブ上に示す）。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (27)	1 単位	松井 恭子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (27)		
1. 授業の概要・到達目標 ◆授業の概要 科学の発展は、現代の生活文化に大きな影響を与えています。この教科書は、科学分野の最先端の情報、奥深い知見を英語で読み、科学の知識と英語力を身につけることを目的としている。 教科書には、科学のテーマとして、5つのジャンルを載せられている。「人間」(1 章～3 章)、「健康」(4 章～6 章)、「テクノロジー」(7 章～9 章)、「動物」(10 章～12 章)、「物理化学」(13 章～15 章)である。各章には、英語の5つの力(語彙力、文法力、リーディング、リスニング、スピーキング)の滋養に貢献できるような問題が載っており、英語の滋養に貢献するよう活用する。 ◆到達目標 内容の正確な理解と科学英語の論理展開を把握する力を養うことを第一目標とする。精読する力をつけていくことを第一に進める。科学の話題について、自分の短いコメントを簡単に英語で書き、それを読む用意してもらい、クラスメイトとペアワークやグループで意見交換を楽しめるようにしていく予定である。 自分で少し調べたりすることで、自分自身の視点で各 chapter の話題に向き合い、深く読み取る楽しさを味わってもらいたい。学生ひとりひとりの英語の発音についても、アドバイスしていきたい。		
2. 授業内容 授業内容 第1回： イントロダクション(評価基準などの説明、クラスの進め方、自分の意見の言い方のコツ、予習の仕方などの説明) Unit 3: Walking Dead: Are zombies real? (1) 第2回： Unit 3: Walking Dead: Are zombies real?? (2) (読みの練習1) 第3回： Unit 5: Phone Waste: Can we build a repairable smartphone? (1) (意見を言うときの3つの構造 Introduction, Body, Conclusion のうちの Introduction part の大切さ) 第4回： Unit 5: Phone Waste: Can we build a repairable smartphone? (2) (意見を言うときの3つの構造のうちの Body part の大切さ) 第5回： Unit 6: Body Heat: How can you heat a home with sewage? (1) (意見を言うときの3つの構造のうちの Conclusion part の要点) 第6回： Unit 6: Body Heat: How can you heat a home with sewage? (2) (読みの練習2) 第7回： Unit 9: Space Living: What is the Mars simulation test? (1) (意見を言うときの Voice の声の出し方) 第8回：Unit 9: Space Living: What is the Mars simulation test? (2) (速読練習1) 第9回：Unit 11: Let Down Your Hair: Is Rapunzel’s fairy tale possible?(1) (速読練習 2) 第10回：Unit 11: Let Down Your Hair: Is Rapunzel’s fairy tale possible? (2) (Group Discussion 1) 第11回：Unit 12: Impossible to Bear: Why do we itch? (1) 第12回：Unit 12: Impossible to Bear: Why do we itch? (2) (Group Discussion 2) 第13回：Unit 14: Brain Chip: Will humans have microchips in their heads? (1) (Group Discussion 3) 第14回：期末試験とまとめ		
3. 履修上の注意 履修上の注意 春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、扱う Unit は重複していません。お渡しする資料は、忘れずに授業に持参して下さい。 教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせします。また、Oh-Meiji にも 9 月に載せます。欠席の回数に気を付けて下さい。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 準備学習(予習・復習等)の内容 事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容のある程度は理解出来るように準備して授業に望みましょう。各 Chapter のトピックはインターネットなどで調べて、深い知識も得られるよう積極的に予習しましょう。 授業での英語でコメント・意見など話してもらうときは、担当者を順番に当てるので、原稿を用意して取り組んで欲しい。単語テストは、1 週間前に範囲などをお伝えします。		

5.教科書

教科書
Science Spark. Dave Rear 著 成美堂 (2025) ISBN 9784791973385

6.参考書

毎回、辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせします。

7.課題に対するフィードバックの方法

小課題については、締め切りの後、授業で解説をする。

8.成績評価の方法

成績評価の方法
期末試験 (40%)、 自分の意見発表と課題や単語小テスト (30%)、
授業中の参加と平常点 (30%)

9.その他

連絡方法は、第一回目の授業時に指示します。Oh-Meiji にも 9 月に載せます。

科目ナンバー (AG) LAN211M		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 科学英語 (28)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 科学英語 (28)		
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 自然科学分野の記事やエッセイを読み、読解力の向上を目指します。これらの文章を通して、スキミング・スキル、筆者の考えを裏付ける支持文、要約、物事や出来事の順番や順序の理解、言葉や例の引用などについて学びます。 また、使用する教科書には Web 上で視聴できるビデオ映像、音声、さらに練習問題（オンライン・ワークブック）もあり、五感を使って読解力や語彙力も強化していきます。 〈授業の到達目標〉 コース終了時には文章の主旨を理解、必要な情報を見つけ、読解し要約できることを目標としています。また、自分のこれまでに備わった知識やクラスメートとのディスカッションを通じ、クリティカル・シンキングスキル（批判的な思考力）を伸ばします。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 1. Course work, Presentation of syllabus, Class rules 2. Unit 1, Animals (Watch and Listen) 3. Unit 1, Animals (Reading 1) 4. Unit 1, Animals (Reading 2) 5. Unit 1, Animals (Language Development) 6. Unit 2, The environment (Watch and Listen) 7. Unit 2, The environment (Reading 1) 8. Unit 2, The environment (Reading 2) 9. Unit 2, The environment (Language Development) 10. Unit 5, Health and fitness (Watch and Listen) 11. Unit 5, Health and fitness (Reading 1) 12. Unit 5, Health and fitness (Reading 2) 13. Unit 5, Health and fitness (Language Development) 14. a) Final Exam, b) Wrap up 尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。		
3. 履修上の注意 ・ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認しテキストを読みましょう。 ・復習： 単語や練習問題を復習しましょう。		
5. 教科書 書名：Unlock Reading, Writing & Critical Thinking, Level 3（第3版） 著者：Lida Baker, Carolyn Westbrook, Jessica Williams with Chris Sowton 出版社：ケンブリッジ大学出版 ISBN：978-1-009-79752-8		
6. 参考書 ・自然と生物をテーマにした TED: https://digitalcast.jp/vc/nature/ ・バイオをテーマにした TED: https://digitalcast.jp/vc/biotechnology/ （字幕付きのものもあります）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 口頭で行います。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験：80%、平常点（授業参加と課題）：20%。 ・遅刻は（授業開始後 30 分までに入室）3 回で欠席 1 回とみなします。授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となります。		
9. その他 ・オフィスアワーは対面授業のある金曜日の 12:30-13:10、中央校舎 3 階講師控室です。		

・連絡先のメールアドレスは、k_nakamura@meiji.ac.jp です。メールを送る際、「件名」に、「金曜 4限 科学英語, クラス ID30番、鈴木花子」のように「曜日、時限、授業科目名、クラス ID 番号、氏名」を書いて、明治大学から提供されているメールアカウントから送信してください。また、お返事に数日かかることもあります。

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (1)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 英語コミュニケーション (1)		
1. 授業の概要・到達目標 〈Course Descriptions〉 On this course, you will enhance your communication skills which enable you to actively participate in conversations and strengthen grammatical competence and building a strong vocabulary for better communication. You will also challenge immersive tasks that involve information sharing, problem solving, and decision making. The language of instruction is English. Use English as much as possible in the class. 〈Course Objectives〉 By the end of this course, you should be better able to: - talk about variety of topics of everyday life; - communicate in English with other with confidence; - participate in an informal conversation enthusiastically. In the Food Production and the Environment Course in the Department of Agriculture, this course corresponds to A in the educational objectives (This applies only to those students who enrolled prior to the 2023 academic year).		
2. 授業内容 1. Course work, Presentation of syllabus, Class rules 2. Unit 1 Good memories 3. Unit 1 Good memories 4. Unit 1 Good memories 5. Unit 2 Life in the city 6. Unit 2 Life in the city 7. Unit 2 Life in the city 8. Unit 3 Making changes 9. Unit 3 Making changes 10. Unit 3 Making changes 11. Unit 4 Have you ever tried it? 12. Unit 4 Have you ever tried it? 13. Unit 4 Have you ever tried it? 14. a) Exam, b) Wrap up *The schedule is subject to change. Changes, if necessary, will be announced in class or on the ClassWeb.		
3. 履修上の注意 ・ If you arrive within 30 minutes after the start of the lesson, you will be considered late. Three late arrivals will be counted as one absence. ・ In principle, an attendance record of less than two-thirds of the total class hours will automatically result in a grade of F.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ Outside of class time, you are expected to read assigned parts of the textbook for the next class, and complete the relevant sections of the textbook to review classes.		
5. 教科書 Title: Interchange 5th edition 2A Student' s Book with Digital Pack Author: Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor Publisher: Cambridge University Press ISBN: 9781009040709 ・ The same textbook will be used for both the spring and autumn terms, but the units covered differ.		
6. 参考書 BBC Learning English: https://www.bbc.co.uk/learningenglish/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbally		

8. 成績評価の方法

Final examination: 75%, Active Participation and Assignments: 25%.

9. その他

- The office hours are from 12:30–13:10 on Mondays in the lecturers' lounge on the 3rd floor of the Central Building.
- Alternatively, the instructor can be contacted at: k_nakamura@meiji.ac.jp.
- When sending an email, please write 'day of the week, time, course name, class ID number and your name' in the 'subject (件名)'. For example, 'Monday, 2nd period, English Communication, Class ID No. 30, Hanako Suzuki'.
- Also, please use the email account provided by Meiji University when you send an email.
- Please be aware that it might take a few days for the instructor to reply.

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (2)	1 単位	長谷川 安代
2022～2025 年度入学者 英語コミュニケーション (2)		
1. 授業の概要・到達目標 <Course Description> When speaking English with foreigners, we often need to talk about ourselves and Japan including topics like culture, food, history, politics, and tourist attractions. Therefore, we use a textbook focused on these topics and practice talking about them. Furthermore, to overcome hesitation in speaking English, we will do plenty of speaking practice. By speaking a lot, students will get the hang of English conversation. <Learning Objectives> Having completed this course, students will: -be able to speak in English without worrying about their English ability. -be able to talk about him/herself and Japan in simple English. -be able to carry on conversations using simple English -be able to build up vocabularies and expressions frequently used in natural English conversation -be able to keep learning by themselves 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [class 1] aのみ: Introduction [class 2] LESSON 1 Tell Me About Yourself (1) [class 3] LESSON 1 Tell Me About Yourself (2) [class 4] LESSON 2 Tell Me About Your Childhood (1) [class 5] LESSON 2 Tell Me About Your Childhood (2) [class 6] LESSON 6 Tell Me About Japanese Food and Cuisine (1) [class 7] LESSON 6 Tell Me About Japanese Food and Cuisine (2) [class 8] LESSON 7 Tell Me About Japanese Culture and Customs (1) [class 9] LESSON 7 Tell Me About Japanese Culture and Customs (2) [class 10] LESSON 11 Tell Me About Japanese History (1) [class 11] LESSON 11 Tell Me About Japanese History (2) [class 12] LESSON 12 Tell Me About Japanese Nature (1) [class 13] LESSON 12 Tell Me About Japanese Nature (2) [class 14] Review		
3. 履修上の注意 ・Students must be in classroom on time. ・Students are required to actively participate in class. ・For group discussions or pair work, students will be randomly grouped or paired. ・Classes will be taught both in English and Japanese. ・The English level of the textbook is equivalent to a TOEIC score of 500 to 600.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For each class, students should work on the assignments before attending the class(90mins.). Details will be explained in the first class.		
5. 教科書 Todd Jay Leonard(2025) , TALK!TALK!TALK! Tell Me About Yourself and Japan, kinseido(金星堂) (The sample textbook can be viewed at the following website: https://www.kinsei-do.co.jp/books/4225/)		
6. 参考書 Reference books will be announced in class, if any.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Reflection sheets will be commented in class or online.		

8. 成績評価の方法

- ・Attitudes in class(participation in discussion, reflection sheets):50%
- ・Final Report:50%

9. その他

For Office Hours, please email the lecturer. The email address will be provided in first class.

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (3)	1 単位	ティベール
2022~2025 年度入学者 英語コミュニケーション (3)		
1. 授業の概要・到達目標 0- <THEME> ab (1) Autonomy in English with Answer Project Parts & (2) Introduction to computer software. Participants learn experientially by matching models and recreating them with their own personal answers using computer and online tools. [Bring Your Own Windows 11 PC] 1- <ACHIEVEMENT GOALS> ab Following spoken and written instructions, as well as demonstrations and remote help, participants will be able (0) to improve their English skills toward a better communicative fluency. The real objective is (1) to achieve better mutual understanding by using English for communication in class, especially by speaking (and writing by speaking with technological assistance). All skills are used to these ends. Technological help provides models, supplementary support, and purpose. Improvement (0) happens along the assignment production. Addendum [not on all school page by lack of space] In other words, given our limited time in class for formative feedback and evaluation, the tangible weekly goals remain: (2) to create project parts with personal answers; (3) to share project parts with the group; (4) to participate in class interaction; (5) to evaluate one's own project parts; (6) to manage a long-term report of the project parts in a PORTFOLIO folder; (7) to evaluate one's performance; and (8) to compile one's own RESULTS. The instructor demonstrates every of these steps, and provides detailed instructions and guidelines for a motivating experience in English. On the side of attitudes, participants will be able: (2) to get more confident and autonomous in English; (3) to create a daily habit of (a) reading & listening to their production, and (b) speaking English with Google Translate (GT); and (4) to become more aware of the learning process with GT [(a) understanding, (b) demonstrating the use of technologies, and (c) managing favorite answers and project parts weekly] through project management and PAL&PR updating. Specifically, participants will be able: (5) to speak about their personal interests; (6) to become better communicators, using proper tense aspects, stories, and webpages to carry their message; and (hopefully) (7) to enjoy doing so in English. 2- <COURSE OUTLINE> ab This project-driven course offers a unique opportunity to break through the English language barrier for beginners to highly motivated participants. Though it is in English entirely, easy-to-follow instructions and demonstrations make it a breeze. In, and out of, class, participants learn experientially by matching models and recreating them with their own answers. Language acquisition occurs by complying to spoken and written instructions in English. Written (and translatable) instructions provide additional support to complete the project parts in solo. Communicative achievement arises through preparation, practice, and media creation. Participants produce project parts with their own personal computer, which must be a Windows 11 PC. This is needed (1) to participate, (2) to obtain feedback on assignments, (3) to share, and (4) to correct one's work swiftly.		
2. 授業内容 ABBREVIATIONS GUGIN = G' s Unique Group Identification Number (for spring) TUGIN = T' s Unique Group Identification Number (for autumn) AYS = Academic Year Semester [example: 1992a] S = Semester (a = spring / b = autumn) PNf = Pseudo Name (final) PAL&PR = Progressive Assignment List & Proof Report PPU = PAL&PR Update (max sum: 84/ weekly 3+3) QMC = Question Memo Card S&LACJ = Short & Long Answer Challenge Journal (max sum: 140/ weekly => 0~14) SPart = Speaking Part (max sum: 70/ weekly => 7) SC = Speaking Challenge (max sum: 100/ weekly => 10) ATT =Attendance (min sum: 10/ max sum: 14/ weekly => 0~1) [Absence is indicated "00" / Online joining is 0.5.] BYOW11PC = Bring Your Own Windows 11 PC =====COURSE CONTENTS 3- <LECTURE PLAN> ab Spring and Autumn Semester Course Contents Most of the specific contents cannot be described in advance. Participants partly choose the contents by adapting their answers to their own preferences. Participants refer to the Progressive Assignment List & Proof Report (PAL&PR) for the specific weekly details. 4- 2026ab <MEETING CONTENTS ab>		

<Tentative Schedule> ??

The schedule is explained in the colorful version of PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report).

From Meeting one (M01), we create the progressive parts that will form a complete project as practice.

The instructor selects the required target sites, types, tools, and format for the projects.

Participants create Short & Longer Answer Challenge Journals (S&LACJ) from a TEMPLATE and Question Memo Cards (QMC).

The assignment parts, which are graded tasks leading to the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

The Speaking Parts (SPart) and the Speaking Challenges (SC) are the corresponding communicative tasks in class.

Summary

Meeting Tools & Targets

[M00 PAL&PR & PPU]

M01 New Gmail signup & Ninite (8 apps) & Microsoft Word & Dropbox PROOFS

M02 Taskbar Changes & Chrome Settings & Google Extensions & Portfolio Folder PROOFS

M03 S&LACJ00 template

M04 QMC01 & S&LACJ01

M05 QMC02 & S&LACJ02

M06 QMC03 & S&LACJ03

M07 QMC04 & S&LACJ04

M08 QMC05 & S&LACJ05

M09 QMC06 & S&LACJ06

M10 QMC07 & S&LACJ07

M11 QMC08 & S&LACJ08

M12 QMC09 & S&LACJ09

M13 QMC10 & S&LACJ10

M14 Last compilation for Final Report & Final Portfolio.

3. 履修上の注意

5- <PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS> ab

A- To be willing to produce files in English and share them in English. That is the main prerequisite.

Most of the sharing is made with the participants' own (windows 11) laptop PC.

We use online technology in class to share our screens and request remote help.

B- To bring one's own (Windows 11) laptop Personal Computer (BYOW11PC) in class.

Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC. Be smarter than a smartphone.

C- To attend the FIRST 5 MEETINGS to understand the basic process.

Participants need:

a) to confirm their registration;

b) to get their Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN);

c) to get the target report URL;

d) to give the instructor their PAL&PR encrypted Dropbox link.

Otherwise, they start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), they won't exist on the instructor's list until they ask for it in class directly in order to confirm and update their data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

6- <PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE>ab

a. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) to complete the reports, tasks, and projects. It may take more at the beginning and much less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

b. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

c. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, text-to-speech and speech-to-text devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding and better pronunciation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English. Doing nothing brings nothing.

d. Participants are willing to prepare their media before class with the instruction documents or models.

e. The project time is meant to share your personal project parts with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These project parts certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

f. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly.

g. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

h. Both the Final Report.pdf and PORTFOLIO.zip must be reachable by the end of the semester to avoid a lower grade or failure.

5. 教科書

7- <TEXTBOOKS> ab

The instructor progressively adapts his instruction manuals to the perceived participants' understanding. They consist of guides (LG) and how-to (HT) documents (translatable PDFs). Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PAL&PR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

8- <REFERENCE BOOKS> ab

The best references are the class documents, and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. ??

7. 課題に対するフィードバックの方法

9- <METHOD OF FEEDBACK TO PROJECT PARTS AND ISSUES> ab

a. Bring Your Own Device (BYOD): A Windows 11 PC laptop (& charger) is best to get Participation points.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant assessment, correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW and TELL for more points.

b. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

c. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (1) evaluate their projects with criteria given in the PAL&PR; (2) confirm their scores in class by sharing their screen; (3) update their improved (or corrected) projects within their personal (free) DROPBOX.COM account; (4) practice / participate with partners; and (5) share their personal projects with the group.

d. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (1) Attendance & lateness; (2) Project Part Points; (3) Practice/Participation points; and (4) Sharing marks in their personal PAL&PR. They must (5) document (keep proof of) how these scores were obtained in the PAL&PR, (6) take screenshots as proof of completion, (7) identify these screenshots properly as demonstrated, (8) calculate their various scores, and (9) connect them with Dropbox links in their personal PAL&PR.

e. There is no return of assignments by the instructor, since assignments never leave the participants. Participants create project parts with the help of models. Participants may update their assignments, or make better attempts with the following project part models.

8. 成績評価の方法

10- <GRADING & EVALUATION> ab

The negotiation process consists of self-evaluation, self-management and self-grading by the participants and the instructor.

(A) NECESSARY CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

1. The Attendance number must reach 10.

2. The points must reach 54.

3. The weekly report (in DOCX and PDF forms) must be completed with openable Dropbox links.

4. The points must be compiled in the PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report) table.

5. The points must be compiled in the Weekly Results Table 1 (above the PAL&PR).

6. The final grade must be calculated in the FSMR (Final Self-Management Report) table (below the PAL&PR).

7. The personal PORTFOLIO.ZIP Dropbox link must be inserted in the FSMR (Final Self-Management Report) table.

8. A Dropbox link to the personal PAL&PR (PDF version) must be passed through ZOOM chat to the instructor.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate after attendance)

These 10 thresholds (F~S+) values are for groups of less than 10 participants.

F= 0~27 (0~44%), F+=28~53 (45~59%);

C=54~80 (60~64%), C+=81~107 (65~69%),

B=108~134 (70~74%), B+=135~161 (75~79%),

A=162~188 (80~84%), A+=189~215 (85~89%).

S= 216~242 (90~94%), and S+=243~ (95~99%)

These points have to be adjusted to the participant levels, especially when most participants reach the S threshold too quickly. The adjustment usually is a factor of x1.5 for the intermediate level, and x2 for the advanced level.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The main evaluation criteria are:

ACCESSIBLE (through ZOOM & DROPBOX) & DONE / PARTIALLY DONE [updatable for more points]

/ NOT DONE (not acceptable) / LATE (not acceptable).

The evaluation distribution takes care of itself with the accumulation of project parts that are more or less completed.

9. その他

11- <ACCESS TO THE INSTRUCTOR> ab

· Participants may reach the instructor with the email address and protocol from the first meeting.

· The Zoom meeting invitation is notified in class only (from the first meeting).

- Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC.
- Only 4 absences are permitted (Any extra absence loses 0.5 threshold.)
- In cases of emergency (or absence of the instructor), enter the Zoom meeting to reach the class or consult the school notifications.

12- <WEEKLY ACTIONS>ab

- Practice, produce, evaluate, and LINK the weekly assignment with Dropbox links in the PAL&PR (pdf).
The instructor confirms the marking in class from the first meeting and on.
- Participants must identify the WEEKLY project parts with the naming protocol in PAL&PR, and make them available through permanent Dropbox links within their weekly report (personal PAL&PR).
- The deadline for each project corresponds to the meeting number (and before the next meeting for correction and updates).
- Participants' projects are transmitted weekly through their Dropbox link by updating both versions (docx & pdf) of the PAL&PR.
- The 2 final versions are due for the last meeting of the semester the same way.

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (4)	1 単位	小嶺 智枝
2022～2025 年度入学者 英語コミュニケーション (4)		
1. 授業の概要・到達目標 This class is designed to help students engage in English for academic purposes. Students will master the art of delivering speeches in academic presentations and actively participate in discussions of social, political, and economic issues within the international community. ・ Master the essential rules of effective presentations ・ Improve knowledge and use of vocabulary and expressions ・ Conduct research with precision and efficiency ・ Deliver public speeches with clarity and persuasion ・ Foster collaborative learning and teamwork		
2. 授業内容 1) Course Guidance, introduction 2) Unit 1-1 3) Unit 1-2 4) Unit 2-1 5) Unit 2-2 6) Unit 3-1 7) Unit 3-2 8) Unit 4-1 9) Unit 4-2 10) Unit 5-1 11) Unit 5-2 12) Unit 6-1 13) Unit 6-2 14) Final Presentation *The content of the lessons may vary depending on progress.		
3. 履修上の注意 Students are required to be active participants in class.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare the designated sections before each class.		
5. 教科書 M. Shishido, et al., Deliver Your Message (Seibido)		
6. 参考書 N/A		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Attendance and class activities 30% Presentations 70%		
9. その他 Students may post their questions and comments to the O-Meiji Discussion Section.		

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (5)	1 単位	ティベール
2022~2025 年度入学者 英語コミュニケーション (5)		
1. 授業の概要・到達目標 0- <THEME> ab (1) Autonomy in English with Answer Project Parts & (2) Introduction to computer software. Participants learn experientially by matching models and recreating them with their own personal answers using computer and online tools. [Bring Your Own Windows 11 PC] 1- <ACHIEVEMENT GOALS> ab Following spoken and written instructions, as well as demonstrations and remote help, participants will be able (0) to improve their English skills toward a better communicative fluency. The real objective is (1) to achieve better mutual understanding by using English for communication in class, especially by speaking (and writing by speaking with technological assistance). All skills are used to these ends. Technological help provides models, supplementary support, and purpose. Improvement (0) happens along the assignment production. Addendum [not on all school page by lack of space] In other words, given our limited time in class for formative feedback and evaluation, the tangible weekly goals remain: (2) to create project parts with personal answers; (3) to share project parts with the group; (4) to participate in class interaction; (5) to evaluate one's own project parts; (6) to manage a long-term report of the project parts in a PORTFOLIO folder; (7) to evaluate one's performance; and (8) to compile one's own RESULTS. The instructor demonstrates every of these steps, and provides detailed instructions and guidelines for a motivating experience in English. On the side of attitudes, participants will be able: (2) to get more confident and autonomous in English; (3) to create a daily habit of (a) reading & listening to their production, and (b) speaking English with Google Translate (GT); and (4) to become more aware of the learning process with GT [(a) understanding, (b) demonstrating the use of technologies, and (c) managing favorite answers and project parts weekly] through project management and PAL&PR updating. Specifically, participants will be able: (5) to speak about their personal interests; (6) to become better communicators, using proper tense aspects, stories, and webpages to carry their message; and (hopefully) (7) to enjoy doing so in English. 2- <COURSE OUTLINE> ab This project-driven course offers a unique opportunity to break through the English language barrier for beginners to highly motivated participants. Though it is in English entirely, easy-to-follow instructions and demonstrations make it a breeze. In, and out of, class, participants learn experientially by matching models and recreating them with their own answers. Language acquisition occurs by complying to spoken and written instructions in English. Written (and translatable) instructions provide additional support to complete the project parts in solo. Communicative achievement arises through preparation, practice, and media creation. Participants produce project parts with their own personal computer, which must be a Windows 11 PC. This is needed (1) to participate, (2) to obtain feedback on assignments, (3) to share, and (4) to correct one's work swiftly.		
2. 授業内容 ABBREVIATIONS GUGIN = G' s Unique Group Identification Number (for spring) TUGIN = T' s Unique Group Identification Number (for autumn) AYS = Academic Year Semester [example: 1992a] S = Semester (a = spring / b = autumn) PNf = Pseudo Name (final) PAL&PR = Progressive Assignment List & Proof Report PPU = PAL&PR Update (max sum: 84/ weekly 3+3) QMC = Question Memo Card S&LACJ = Short & Long Answer Challenge Journal (max sum: 140/ weekly => 0~14) SPart = Speaking Part (max sum: 70/ weekly => 7) SC = Speaking Challenge (max sum: 100/ weekly => 10) ATT =Attendance (min sum: 10/ max sum: 14/ weekly => 0~1) [Absence is indicated "00" / Online joining is 0.5.] BYOW11PC = Bring Your Own Windows 11 PC =====COURSE CONTENTS 3- <LECTURE PLAN> ab Spring and Autumn Semester Course Contents Most of the specific contents cannot be described in advance. Participants partly choose the contents by adapting their answers to their own preferences. Participants refer to the Progressive Assignment List & Proof Report (PAL&PR) for the specific weekly details. 4- 2026ab <MEETING CONTENTS ab>		

<Tentative Schedule> ??

The schedule is explained in the colorful version of PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report).

From Meeting one (M01), we create the progressive parts that will form a complete project as practice.

The instructor selects the required target sites, types, tools, and format for the projects.

Participants create Short & Longer Answer Challenge Journals (S&LACJ) from a TEMPLATE and Question Memo Cards (QMC).

The assignment parts, which are graded tasks leading to the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

The Speaking Parts (SPart) and the Speaking Challenges (SC) are the corresponding communicative tasks in class.

2026a Spring Semester (Summary)

Meeting Tools & Targets

[M00 PAL&PR & PPU]

M01 New Gmail signup & Ninite (8 apps) & Microsoft Word & Dropbox PROOFS

M02 Taskbar Changes & Chrome Settings & Google Extensions & Portfolio Folder PROOFS

M03 S&LACJ00 template

M04 QMC01 & S&LACJ01

M05 QMC02 & S&LACJ02

M06 QMC03 & S&LACJ03

M07 QMC04 & S&LACJ04

M08 QMC05 & S&LACJ05

M09 QMC06 & S&LACJ06

M10 QMC07 & S&LACJ07

M11 QMC08 & S&LACJ08

M12 QMC09 & S&LACJ09

M13 QMC10 & S&LACJ10

M14 Last compilation for Final Report & Final Portfolio.

3. 履修上の注意

5- <PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS> ab

A- To be willing to produce files in English and share them in English. That is the main prerequisite.

Most of the sharing is made with the participants' own (windows 11) laptop PC.

We use online technology in class to share our screens and request remote help.

B- To bring one's own (Windows 11) laptop Personal Computer (BYOW11PC) in class.

Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC. Be smarter than a smartphone.

C- To attend the FIRST 5 MEETINGS to understand the basic process.

Participants need:

a) to confirm their registration;

b) to get their Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN);

c) to get the target report URL;

d) to give the instructor their PAL&PR encrypted Dropbox link.

Otherwise, they start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), they won't exist on the instructor's list until they ask for it in class directly in order to confirm and update their data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

6- <PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE>ab

a. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) to complete the reports, tasks, and projects. It may take more at the beginning and much less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

b. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

c. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, text-to-speech and speech-to-text devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding and better pronunciation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English. Doing nothing brings nothing.

d. Participants are willing to prepare their media before class with the instruction documents or models.

e. The project time is meant to share your personal project parts with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These project parts certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

f. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly.

g. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

h. Both the Final Report.pdf and PORTFOLIO.zip must be reachable by the end of the semester to avoid a lower grade or failure.

5. 教科書

7- <TEXTBOOKS> ab

The instructor progressively adapts his instruction manuals to the perceived participants' understanding. They consist of guides (LG) and how-to (HT) documents (translatable PDFs). Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PAL&PR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

8- <REFERENCE BOOKS> ab

The best references are the class documents, and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. ??

7. 課題に対するフィードバックの方法

9- <METHOD OF FEEDBACK ON PROJECT PARTS AND ISSUES> ab

a. Bring Your Own Device (BYOD): A Windows 11 PC laptop (& charger) is best to get Participation points.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant assessment, correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW and TELL for more points.

b. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

c. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (1) evaluate their projects with criteria given in the PAL&PR; (2) confirm their scores in class by sharing their screen; (3) update their improved (or corrected) projects within their personal (free) DROPBOX.COM account; (4) practice / participate with partners; and (5) share their personal projects with the group.

d. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (1) Attendance & lateness; (2) Project Part Points; (3) Practice/Participation points; and (4) Sharing marks in their personal PAL&PR. They must (5) document (keep proof of) how these scores were obtained in the PAL&PR, (6) take screenshots as proof of completion, (7) identify these screenshots properly as demonstrated, (8) calculate their various scores, and (9) connect them with Dropbox links in their personal PAL&PR.

e. There is no return of assignments by the instructor, since assignments never leave the participants. Participants create project parts with the help of models. Participants may update their assignments, or make better attempts with the following project part models.

8. 成績評価の方法

10- <GRADING & EVALUATION> ab

The negotiation process consists of self-evaluation, self-management and self-grading by the participants and the instructor.

(A) NECESSARY CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

1. The Attendance number must reach 10.

2. The points must reach 54.

3. The weekly report (in DOCX and PDF forms) must be completed with openable Dropbox links.

4. The points must be compiled in the PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report) table.

5. The points must be compiled in the Weekly Results Table 1 (above the PAL&PR).

6. The final grade must be calculated in the FSMR (Final Self-Management Report) table (below the PAL&PR).

7. The personal PORTFOLIO.ZIP Dropbox link must be inserted in the FSMR (Final Self-Management Report) table.

8. A Dropbox link to the personal PAL&PR (PDF version) must be passed through ZOOM chat to the instructor.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate after attendance)

These 10 thresholds (F~S+) values are for groups of less than 10 participants.

F= 0~27 (0~44%), F+=28~53 (45~59%);

C=54~80 (60~64%), C+=81~107 (65~69%),

B=108~134 (70~74%), B+=135~161 (75~79%),

A=162~188 (80~84%), A+=189~215~ (85~89%).

S= 216~242 (90~94%), and S+=243~ (95~99%)

These points have to be adjusted to the participant levels, especially when most participants reach the S threshold too quickly. The adjustment usually is a factor of x1.5 for the intermediate level, and x2 for the advanced level.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The main evaluation criteria are:

ACCESSIBLE (through ZOOM & DROPBOX) & DONE / PARTIALLY DONE [updatable for more points]

/ NOT DONE (not acceptable) / LATE (not acceptable).

The evaluation distribution takes care of itself with the accumulation of project parts that are more or less completed.

9. その他

11- <ACCESS TO THE INSTRUCTOR> ab

· Participants may reach the instructor with the email address and protocol from the first meeting.

· The Zoom meeting invitation is notified in class only (from the first meeting).

- Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC.
- Only 4 absences are permitted (Any extra absence loses 0.5 threshold.)
- In cases of emergency (or absence of the instructor), enter the Zoom meeting to reach the class or consult the school notifications.

12- <WEEKLY ACTIONS>ab

- Practice, produce, evaluate, and LINK the weekly assignment with Dropbox links in the PAL&PR (pdf).
The instructor confirms the marking in class from the first meeting and on.
- Participants must identify the WEEKLY project parts with the naming protocol in PAL&PR, and make them available through permanent Dropbox links within their weekly report (personal PAL&PR).
- The deadline for each project corresponds to the meeting number (and before the next meeting for correction and updates).
- Participants' projects are transmitted weekly through their Dropbox link by updating both versions (docx & pdf) of the PAL&PR.
- The 2 final versions are due for the last meeting of the semester the same way.

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (6)	1 単位	ティベール
2022~2025 年度入学者 英語コミュニケーション (6)		
1. 授業の概要・到達目標 0- <THEME> ab (1) Autonomy in English with Answer Project Parts & (2) Introduction to computer software. Participants learn experientially by matching models and recreating them with their own personal answers using computer and online tools. [Bring Your Own Windows 11 PC] 1- <ACHIEVEMENT GOALS> ab Following spoken and written instructions, as well as demonstrations and remote help, participants will be able (0) to improve their English skills toward a better communicative fluency. The real objective is (1) to achieve better mutual understanding by using English for communication in class, especially by speaking (and writing by speaking with technological assistance). All skills are used to these ends. Technological help provides models, supplementary support, and purpose. Improvement (0) happens along the assignment production. Addendum [not on all school page by lack of space] In other words, given our limited time in class for formative feedback and evaluation, the tangible weekly goals remain: (2) to create project parts with personal answers; (3) to share project parts with the group; (4) to participate in class interaction; (5) to evaluate one's own project parts; (6) to manage a long-term report of the project parts in a PORTFOLIO folder; (7) to evaluate one's performance; and (8) to compile one's own RESULTS. The instructor demonstrates every of these steps, and provides detailed instructions and guidelines for a motivating experience in English. On the side of attitudes, participants will be able: (2) to get more confident and autonomous in English; (3) to create a daily habit of (a) reading & listening to their production, and (b) speaking English with Google Translate (GT); and (4) to become more aware of the learning process with GT [(a) understanding, (b) demonstrating the use of technologies, and (c) managing favorite answers and project parts weekly] through project management and PAL&PR updating. Specifically, participants will be able: (5) to speak about their personal interests; (6) to become better communicators, using proper tense aspects, stories, and webpages to carry their message; and (hopefully) (7) to enjoy doing so in English. 2- <COURSE OUTLINE> ab This project-driven course offers a unique opportunity to break through the English language barrier for beginners to highly motivated participants. Though it is in English entirely, easy-to-follow instructions and demonstrations make it a breeze. In, and out of, class, participants learn experientially by matching models and recreating them with their own answers. Language acquisition occurs by complying to spoken and written instructions in English. Written (and translatable) instructions provide additional support to complete the project parts in solo. Communicative achievement arises through preparation, practice, and media creation. Participants produce project parts with their own personal computer, which must be a Windows 11 PC. This is needed (1) to participate, (2) to obtain feedback on assignments, (3) to share, and (4) to correct one's work swiftly.		
2. 授業内容 ABBREVIATIONS GUGIN = G' s Unique Group Identification Number (for spring) TUGIN = T' s Unique Group Identification Number (for autumn) AYS = Academic Year Semester [example: 1992a] S = Semester (a = spring / b = autumn) PNf = Pseudo Name (final) PAL&PR = Progressive Assignment List & Proof Report PPU = PAL&PR Update (max sum: 84/ weekly 3+3) QMC = Question Memo Card S&LACJ = Short & Long Answer Challenge Journal (max sum: 140/ weekly => 0~14) SPart = Speaking Part (max sum: 70/ weekly => 7) SC = Speaking Challenge (max sum: 100/ weekly => 10) ATT =Attendance (min sum: 10/ max sum: 14/ weekly => 0~1) [Absence is indicated "00" / Online joining is 0.5.] BYOW11PC = Bring Your Own Windows 11 PC =====COURSE CONTENTS 3- <LECTURE PLAN> ab Spring and Autumn Semester Course Contents Most of the specific contents cannot be described in advance. Participants partly choose the contents by adapting their answers to their own preferences. Participants refer to the Progressive Assignment List & Proof Report (PAL&PR) for the specific weekly details. 4- 2026ab <MEETING CONTENTS ab>		

<Tentative Schedule> ??

The schedule is explained in the colorful version of PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report).

From Meeting one (M01), we create the progressive parts that will form a complete project as practice.

The instructor selects the required target sites, types, tools, and format for the projects.

Participants create Short & Longer Answer Challenge Journals (S&LACJ) from a TEMPLATE and Question Memo Cards (QMC).

The assignment parts, which are graded tasks leading to the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

The Speaking Parts (SPart) and the Speaking Challenges (SC) are the corresponding communicative tasks in class.

2026a Spring Semester (Summary)

Meeting Tools & Targets

[M00 PAL&PR & PPU]

M01 New Gmail signup & Ninite (8 apps) & Microsoft Word & Dropbox PROOFS

M02 Taskbar Changes & Chrome Settings & Google Extensions & Portfolio Folder PROOFS

M03 S&LACJ00 template

M04 QMC01 & S&LACJ01

M05 QMC02 & S&LACJ02

M06 QMC03 & S&LACJ03

M07 QMC04 & S&LACJ04

M08 QMC05 & S&LACJ05

M09 QMC06 & S&LACJ06

M10 QMC07 & S&LACJ07

M11 QMC08 & S&LACJ08

M12 QMC09 & S&LACJ09

M13 QMC10 & S&LACJ10

M14 Last compilation for Final Report & Final Portfolio.

3. 履修上の注意

5- <PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS> ab

A- To be willing to produce files in English and share them in English. That is the main prerequisite.

Most of the sharing is made with the participants' own (windows 11) laptop PC.

We use online technology in class to share our screens and request remote help.

B- To bring one's own (Windows 11) laptop Personal Computer (BYOW11PC) in class.

Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC. Be smarter than a smartphone.

C- To attend the FIRST 5 MEETINGS to understand the basic process.

Participants need:

a) to confirm their registration;

b) to get their Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN);

c) to get the target report URL;

d) to give the instructor their PAL&PR encrypted Dropbox link.

Otherwise, they start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), they won't exist on the instructor's list until they ask for it in class directly in order to confirm and update their data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

6- <PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE>ab

a. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) to complete the reports, tasks, and projects. It may take more at the beginning and much less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

b. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

c. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, text-to-speech and speech-to-text devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding and better pronunciation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English. Doing nothing brings nothing.

d. Participants are willing to prepare their media before class with the instruction documents or models.

e. The project time is meant to share your personal project parts with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These project parts certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

f. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly.

g. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

h. Both the Final Report.pdf and PORTFOLIO.zip must be reachable by the end of the semester to avoid a lower grade or failure.

5. 教科書

7- <TEXTBOOKS> ab

The instructor progressively adapts his instruction manuals to the perceived participants' understanding. They consist of guides (LG) and how-to (HT) documents (translatable PDFs). Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PAL&PR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

8- <REFERENCE BOOKS> ab

The best references are the class documents, and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. ??

7. 課題に対するフィードバックの方法

9- <METHOD OF FEEDBACK ON PROJECT PARTS AND ISSUES> ab

a. Bring Your Own Device (BYOD): A Windows 11 PC laptop (& charger) is best to get Participation points.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant assessment, correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW and TELL for more points.

b. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

c. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (1) evaluate their projects with criteria given in the PAL&PR; (2) confirm their scores in class by sharing their screen; (3) update their improved (or corrected) projects within their personal (free) DROPBOX.COM account; (4) practice / participate with partners; and (5) share their personal projects with the group.

d. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (1) Attendance & lateness; (2) Project Part Points; (3) Practice/Participation points; and (4) Sharing marks in their personal PAL&PR. They must (5) document (keep proof of) how these scores were obtained in the PAL&PR, (6) take screenshots as proof of completion, (7) identify these screenshots properly as demonstrated, (8) calculate their various scores, and (9) connect them with Dropbox links in their personal PAL&PR.

e. There is no return of assignments by the instructor, since assignments never leave the participants. Participants create project parts with the help of models. Participants may update their assignments, or make better attempts with the following project part models.

8. 成績評価の方法

10- <GRADING & EVALUATION> ab

The negotiation process consists of self-evaluation, self-management and self-grading by the participants and the instructor.

(A) NECESSARY CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

1. The Attendance number must reach 10.

2. The points must reach 54.

3. The weekly report (in DOCX and PDF forms) must be completed with openable Dropbox links.

4. The points must be compiled in the PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report) table.

5. The points must be compiled in the Weekly Results Table 1 (above the PAL&PR).

6. The final grade must be calculated in the FSMR (Final Self-Management Report) table (below the PAL&PR).

7. The personal PORTFOLIO.ZIP Dropbox link must be inserted in the FSMR (Final Self-Management Report) table.

8. A Dropbox link to the personal PAL&PR (PDF version) must be passed through ZOOM chat to the instructor.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate after attendance)

These 10 thresholds (F~S+) values are for groups of less than 10 participants.

F= 0~27 (0~44%), F+=28~53 (45~59%);

C=54~80 (60~64%), C+=81~107 (65~69%),

B=108~134 (70~74%), B+=135~161 (75~79%),

A=162~188 (80~84%), A+=189~215 (85~89%).

S= 216~242 (90~94%), and S+=243~ (95~99%)

These points have to be adjusted to the participant levels, especially when most participants reach the S threshold too quickly. The adjustment usually is a factor of x1.5 for the intermediate level, and x2 for the advanced level.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The main evaluation criteria are:

ACCESSIBLE (through ZOOM & DROPBOX) & DONE / PARTIALLY DONE [updatable for more points]

/ NOT DONE (not acceptable) / LATE (not acceptable).

The evaluation distribution takes care of itself with the accumulation of project parts that are more or less completed.

9. その他

11- <ACCESS TO THE INSTRUCTOR> ab

· Participants may reach the instructor with the email address and protocol from the first meeting.

· The Zoom meeting invitation is notified in class only (from the first meeting).

- Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC.
- Only 4 absences are permitted (Any extra absence loses 0.5 threshold.)
- In cases of emergency (or absence of the instructor), enter the Zoom meeting to reach the class or consult the school notifications.

12- <WEEKLY ACTIONS>ab

- Practice, produce, evaluate, and LINK the weekly assignment with Dropbox links in the PAL&PR (pdf).
The instructor confirms the marking in class from the first meeting and on.
- Participants must identify the WEEKLY project parts with the naming protocol in PAL&PR, and make them available through permanent Dropbox links within their weekly report (personal PAL&PR).
- The deadline for each project corresponds to the meeting number (and before the next meeting for correction and updates).
- Participants' projects are transmitted weekly through their Dropbox link by updating both versions (docx & pdf) of the PAL&PR.
- The 2 final versions are due for the last meeting of the semester the same way.

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (7)	1 単位	中村 啓子
2022～2025 年度入学者 英語コミュニケーション (7)		
1. 授業の概要・到達目標 〈Course Descriptions〉 On this course, you will enhance your communication skills which enable you to actively participate in conversations and strengthen grammatical competence and building a strong vocabulary for better communication. You will also challenge immersive tasks that involve information sharing, problem solving, and decision making. The language of instruction is English. Use English as much as possible in the class. 〈Course Objectives〉 By the end of this course, you should be better able to: - talk about variety of topics of everyday life; - communicate in English with other with confidence; - participate in an informal conversation enthusiastically. In the Food Production and the Environment Course in the Department of Agriculture, this course corresponds to A in the educational objectives (This applies only to those students who enrolled prior to the 2023 academic year).		
2. 授業内容 1. Course work, Presentation of syllabus, Class rules 2. Unit 5 Hit the road! 3. Unit 5 Hit the road! 4. Unit 5 Hit the road! 5. Unit 6 Sure! I’ ll do it. 6. Unit 6 Sure! I’ ll do it. 7. Unit 6 Sure! I’ ll do it. 8. Unit 7 What do you use this for? 9. Unit 7 What do you use this for? 10. Unit 7 What do you use this for? 11. Unit 8 Time to celebrate! 12. Unit 8 Time to celebrate! 13. Unit 8 Time to celebrate! 14. a) Final Exam, b) Wrap up *The schedule is subject to change. Changes, if necessary, will be announced in class or on the ClassWeb.		
3. 履修上の注意 ・ If you arrive within 30 minutes after the start of the lesson, you will be considered late. Three late arrivals will be counted as one absence. ・ In principle, an attendance record of less than two-thirds of the total class hours will automatically result in a grade of F.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ Outside of class time, you are expected to read assigned parts of the textbook for the next class, and complete the relevant sections of the textbook to review classes.		
5. 教科書 Title: Interchange 5th edition 2A Student’ s Book with Digital Pack Author: Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor Publisher: Cambridge University Press ISBN: 9781009040709 ・ The same textbook will be used for both the spring and autumn terms, but the units covered differ.		
6. 参考書 BBC Learning English: https://www.bbc.co.uk/learningenglish/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbally		

8. 成績評価の方法

Active Participation and Assignments: 25%, Final examination: 75%.

9. その他

- The office hours are from 12:30–13:10 on Mondays in the lecturers' lounge on the 3rd floor of the Central Building.
- Alternatively, the instructor can be contacted at: k_nakamura@meiji.ac.jp.
- When sending an email, please write 'day of the week, time, course name, class ID number and your name' in the 'subject (件名)'. For example, 'Monday, 2nd period, English Communication, Class ID No. 30, Hanako Suzuki'.
- Also, please use the email account provided by Meiji University when you send an email.
- Please be aware that it might take a few days for the instructor to reply.

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (8)	1 単位	長谷川 安代
2022～2025 年度入学者 英語コミュニケーション (8)		
1. 授業の概要・到達目標 <Course Description> When speaking English with foreigners, we often need to talk about ourselves and Japan including topics like culture, food, history, politics, and tourist attractions. Therefore, we use a textbook focused on these topics and practice talking about them. Furthermore, to overcome hesitation in speaking English, we will do plenty of speaking practice. By speaking a lot, students will get the hang of English conversation. <Learning Objectives> Having completed this course, students will: -be able to speak in English without worrying about their English ability. -be able to talk about him/herself and Japan in simple English. -be able to carry on conversations using simple English -be able to build up vocabularies and expressions frequently used in natural English conversation -be able to keep learning by themselves		
2. 授業内容 [class 1] a のみ : Introduction [class 2] LESSON 3 Tell Me About Your Family (1) [class 3] LESSON 3 Tell Me About Your Family (2) [class 4] LESSON 4 Tell Me About Your Major (1) [class 5] LESSON 4 Tell Me About Your Major (2) [class 6] LESSON 8 Tell Me About Sports in Japan (1) [class 7] LESSON 8 Tell Me About Sports in Japan (2) [class 8] LESSON 10 Tell Me About Good Places to Travel in Japan (1) [class 9] LESSON 10 Tell Me About Good Places to Travel in Japan (2) [class 10] LESSON 14 Tell Me About Japanese Politics (1) [class 11] LESSON 14 Tell Me About Japanese Politics (2) [class 12] LESSON 15 Tell Me About Japanese Religions (1) [class 13] LESSON 15 Tell Me About Japanese Religions (2) [class 14] Review		
3. 履修上の注意 ・ Students must be in the classroom on time. ・ Students are required to actively participate in class. ・ For group discussions or pair work, students will be randomly grouped or paired. ・ Classes will be taught both in English and Japanese. ・ The English level of the textbook is equivalent to TOEIC score of 500 to 600.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For each class, students should work on the assignments before attending the class(90mins.). Details will be explained in the first class.		
5. 教科書 Todd Jay Leonard(2025), TALK!TALK!TALK!Tell Me About Yourself and Japan, Kinseido(金星堂) (The sample textbook can be viewed at the following website: https://www.kinsei-do.co.jp/books/4225/)		
6. 参考書 Reference books will be announced in class, if any.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Reflection sheets will be commented in class or online.		
8. 成績評価の方法 ・ Attitudes in class(participation in discussion, reflection sheets):50%		

・Final Report:50%

9. その他

For Office Hours, please email the lecturer. The email address will be provided in first class.

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (9)	1 単位	ティベール
2022~2025 年度入学者 英語コミュニケーション (9)		
1. 授業の概要・到達目標 0- <THEME> ab (1) Autonomy in English with Answer Project Parts & (2) Introduction to computer software. Participants learn experientially by matching models and recreating them with their own personal answers using computer and online tools. [Bring Your Own Windows 11 PC] 1- <ACHIEVEMENT GOALS> ab Following spoken and written instructions, as well as demonstrations and remote help, participants will be able (0) to improve their English skills toward a better communicative fluency. The real objective is (1) to achieve better mutual understanding by using English for communication in class, especially by speaking (and writing by speaking with technological assistance). All skills are used to these ends. Technological help provides models, supplementary support, and purpose. Improvement (0) happens along the assignment production. Addendum [not on all school page by lack of space] In other words, given our limited time in class for formative feedback and evaluation, the tangible weekly goals remain: (2) to create project parts with personal answers; (3) to share project parts with the group; (4) to participate in class interaction; (5) to evaluate one's own project parts; (6) to manage a long-term report of the project parts in a PORTFOLIO folder; (7) to evaluate one's performance; and (8) to compile one's own RESULTS. The instructor demonstrates every of these steps, and provides detailed instructions and guidelines for a motivating experience in English. On the side of attitudes, participants will be able: (2) to get more confident and autonomous in English; (3) to create a daily habit of (a) reading & listening to their production, and (b) speaking English with Google Translate (GT); and (4) to become more aware of the learning process with GT [(a) understanding, (b) demonstrating the use of technologies, and (c) managing favorite answers and project parts weekly] through project management and PAL&PR updating. Specifically, participants will be able: (5) to speak about their personal interests; (6) to become better communicators, using proper tense aspects, stories, and webpages to carry their message; and (hopefully) (7) to enjoy doing so in English. 2- <COURSE OUTLINE> ab This project-driven course offers a unique opportunity to break through the English language barrier for beginners to highly motivated participants. Though it is in English entirely, easy-to-follow instructions and demonstrations make it a breeze. In, and out of, class, participants learn experientially by matching models and recreating them with their own answers. Language acquisition occurs by complying to spoken and written instructions in English. Written (and translatable) instructions provide additional support to complete the project parts in solo. Communicative achievement arises through preparation, practice, and media creation. Participants produce project parts with their own personal computer, which must be a Windows 11 PC. This is needed (1) to participate, (2) to obtain feedback on assignments, (3) to share, and (4) to correct one's work swiftly.		
2. 授業内容 ABBREVIATIONS GUGIN = G' s Unique Group Identification Number (for spring) TUGIN = T' s Unique Group Identification Number (for autumn) AYS = Academic Year Semester [example: 1992a] S = Semester (a = spring / b = autumn) PNf = Pseudo Name (final) PAL&PR = Progressive Assignment List & Proof Report PPU = PAL&PR Update (max sum: 84/ weekly 3+3) QMC = Question Memo Card S&LACJ = Short & Long Answer Challenge Journal (max sum: 140/ weekly => 0~14) SPart = Speaking Part (max sum: 70/ weekly => 7) SC = Speaking Challenge (max sum: 100/ weekly => 10) ATT =Attendance (min sum: 10/ max sum: 14/ weekly => 0~1) [Absence is indicated "00" / Online joining is 0.5.] BYOW11PC = Bring Your Own Windows 11 PC 3- <LECTURE PLAN> ab Spring and Autumn Semester Course Contents Most of the specific contents cannot be described in advance. Participants partly choose the contents by adapting their answers to their own preferences. Participants refer to the Progressive Assignment List & Proof Report (PAL&PR) for the specific weekly details. 4- 2026ab <MEETING CONTENTS ab> From Meeting one (MO1), we create the progressive parts that will form a complete project as practice.		

The instructor selects the required target sites, types, tools, and format for the projects. Participants create Short & Longer Answer Challenge Journals (S&LACJ) from a TEMPLATE and Question Memo Cards (QMC). The assignment parts, which are graded tasks leading to the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

The Speaking Parts (SPart) and the Speaking Challenges (SC) are the corresponding communicative tasks in class.

<Tentative Schedule> ??

The schedule is explained in the colorful version of PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report).

Summary

Meeting	Tools & Targets
[MOO	PAL&PR & PPU]
M01	New Gmail signup & Ninite (8 apps) & Microsoft Word & Dropbox PROOFS
M02	Taskbar Changes & Chrome Settings & Google Extensions & Portfolio Folder PROOFS
M03	S&LACJ00 template
M04	QMC01 & S&LACJ01
M05	QMC02 & S&LACJ02
M06	QMC03 & S&LACJ03
M07	QMC04 & S&LACJ04
M08	QMC05 & S&LACJ05
M09	QMC06 & S&LACJ06
M10	QMC07 & S&LACJ07
M11	QMC08 & S&LACJ08
M12	QMC09 & S&LACJ09
M13	QMC10 & S&LACJ10
M14	Last compilation for Final Report & Final Portfolio.

3. 履修上の注意

5- <PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS> ab

A- To be willing to produce files in English and share them in English. That is the main prerequisite.

Most of the sharing is made with the participants' own (windows 11) laptop PC.

We use online technology in class to share our screens and request remote help.

B- To bring one's own (Windows 11) laptop Personal Computer (BYOW11PC) in class.

Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC. Be smarter than a smartphone.

C- To attend the FIRST 5 MEETINGS to understand the basic process.

Participants need:

a) to confirm their registration;

b) to get their Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN);

c) to get the target report URL;

d) to give the instructor their PAL&PR encrypted Dropbox link.

Otherwise, they start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), they won't exist on the instructor's list until they ask for it in class directly in order to confirm and update their data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

6- <PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE>ab

a. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) to complete the reports, tasks, and projects. It may take more at the beginning and much less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

b. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

c. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, text-to-speech and speech-to-text devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding and better pronunciation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English. Doing nothing brings nothing.

d. Participants are willing to prepare their media before class with the instruction documents or models.

e. The project time is meant to share your personal project parts with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These project parts certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

f. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly.

g. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

h. Both the Final Report.pdf and PORTFOLIO.zip must be reachable by the end of the semester to avoid a lower grade or failure.

5. 教科書

7- <TEXTBOOKS>ab

The instructor progressively adapts his instruction manuals to the perceived participants' understanding. They consist of guides (LG) and how-to (HT) documents (translatable PDFs). Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PAL&PR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

8- <REFERENCE BOOKS> ab

The best references are the class documents, and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. ??

7. 課題に対するフィードバックの方法

9- <METHOD OF FEEDBACK TO PROJECT PARTS AND ISSUES> ab

a. Bring Your Own Device (BYOD): A Windows 11 PC laptop (& charger) is best to get Participation points.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant assessment, correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW and TELL for more points.

b. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

c. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (1) evaluate their projects with criteria given in the PAL&PR; (2) confirm their scores in class by sharing their screen; (3) update their improved (or corrected) projects within their personal (free) DROPBOX.COM account; (4) practice / participate with partners; and (5) share their personal projects with the group.

d. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (1) Attendance & lateness; (2) Project Part Points; (3) Practice/Participation points; and (4) Sharing marks in their personal PAL&PR. They must (5) document (keep proof of) how these scores were obtained in the PAL&PR, (6) take screenshots as proof of completion, (7) identify these screenshots properly as demonstrated, (8) calculate their various scores, and (9) connect them with Dropbox links in their personal PAL&PR.

e. There is no return of assignments by the instructor, since assignments never leave the participants. Participants create project parts with the help of models. Participants may update their assignments, or make better attempts with the following project part models.

8. 成績評価の方法

10- <GRADING & EVALUATION> ab

The negotiation process consists of self-evaluation, self-management and self-grading by the participants and the instructor.

(A) NECESSARY CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

1. The Attendance number must reach 10.

2. The points must reach 54.

3. The weekly report (in DOCX and PDF forms) must be completed with openable Dropbox links.

4. The points must be compiled in the PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report) table.

5. The points must be compiled in the Weekly Results Table 1 (above the PAL&PR).

6. The final grade must be calculated in the FSMR (Final Self-Management Report) table (below the PAL&PR).

7. The personal PORTFOLIO.ZIP Dropbox link must be inserted in the FSMR (Final Self-Management Report) table.

8. A Dropbox link to the personal PAL&PR (PDF version) must be passed through ZOOM chat to the instructor.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate after attendance)

These 10 thresholds (F~S+) values are for groups of less than 10 participants.

F= 0~27 (0~44%), F+=28~53 (45~59%);

C=54~80 (60~64%), C+=81~107 (65~69%),

B=108~134 (70~74%), B+=135~161 (75~79%),

A=162~188 (80~84%), A+=189~215 (85~89%).

S= 216~242 (90~94%), and S+=243~ (95~99%)

These points have to be adjusted to the participant levels, especially when most participants reach the S threshold too quickly. The adjustment usually is a factor of x1.5 for the intermediate level, and x2 for the advanced level.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The main evaluation criteria are:

ACCESSIBLE (through ZOOM & DROPBOX) & DONE / PARTIALLY DONE [updatable for more points]

/ NOT DONE (not acceptable) / LATE (not acceptable).

The evaluation distribution takes care of itself with the accumulation of project parts that are more or less completed.

9. その他

11- <ACCESS TO THE INSTRUCTOR> ab

· Participants may reach the instructor with the email address and protocol from the first meeting.

· The Zoom meeting invitation is notified in class only (from the first meeting).

· Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC.

· Only 4 absences are permitted (Any extra absence loses 0.5 threshold.)

- In cases of emergency (or absence of the instructor), enter the Zoom meeting to reach the class or consult the school notifications.

12- <WEEKLY ACTIONS>ab

- Practice, produce, evaluate, and LINK the weekly assignment with Dropbox links in the PAL&PR (pdf). The instructor confirms the marking in class from the first meeting and on.

- Participants must identify the WEEKLY project parts with the naming protocol in PAL&PR, and make them available through permanent Dropbox links within their weekly report (personal PAL&PR).

- The deadline for each project corresponds to the meeting number (and before the next meeting for correction and updates).

- Participants' projects are transmitted weekly through their Dropbox link by updating both versions (docx & pdf) of the PAL&PR.

- The 2 final versions are due for the last meeting of the semester the same way.

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (10)	1 単位	小嶺 智枝
2022～2025 年度入学者 英語コミュニケーション (10)		
1. 授業の概要・到達目標 This class is designed to help students engage in English for academic purposes. Students will master the art of delivering speeches in academic presentations and actively participate in discussions of social, political, and economic issues within the international community. ・ Master the essential rules of effective presentations ・ Improve knowledge and use of vocabulary and expressions ・ Conduct research with precision and efficiency ・ Deliver public speeches with clarity and persuasion ・ Foster collaborative learning and teamwork		
2. 授業内容 1) Course Guidance, introduction 2) Unit 7-1 3) Unit 7-2 4) Unit 8-1 5) Unit 8-2 6) Unit 9-1 7) Unit 9-2 8) Unit 10-1 9) Unit 10-2 10) Unit 11-1 11) Unit 11-2 12) Unit 12-1 13) Unit 12-2 14) Final Presentation *The content of the lessons may vary depending on progress.		
3. 履修上の注意 * Students are required to be active participants in class.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare the designated secitons before each class.		
5. 教科書 M. Shishido, et al., Deliver Your Message (Seibido)		
6. 参考書 N/A		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Attendance and class activities 30% Presentations 70%		
9. その他 Students may post their questions and comments to the O-Meiji Discussion.		

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (11)	1 単位	ティベール
2022~2025 年度入学者 英語コミュニケーション (11)		
1. 授業の概要・到達目標 0- <THEME> ab (1) Autonomy in English with Answer Project Parts & (2) Introduction to computer software. Participants learn experientially by matching models and recreating them with their own personal answers using computer and online tools. [Bring Your Own Windows 11 PC] 1- <ACHIEVEMENT GOALS> ab Following spoken and written instructions, as well as demonstrations and remote help, participants will be able (0) to improve their English skills toward a better communicative fluency. The real objective is (1) to achieve better mutual understanding by using English for communication in class, especially by speaking (and writing by speaking with technological assistance). All skills are used to these ends. Technological help provides models, supplementary support, and purpose. Improvement (0) happens along the assignment production. Addendum [not on all school page by lack of space] In other words, given our limited time in class for formative feedback and evaluation, the tangible weekly goals remain: (2) to create project parts with personal answers; (3) to share project parts with the group; (4) to participate in class interaction; (5) to evaluate one's own project parts; (6) to manage a long-term report of the project parts in a PORTFOLIO folder; (7) to evaluate one's performance; and (8) to compile one's own RESULTS. The instructor demonstrates every of these steps, and provides detailed instructions and guidelines for a motivating experience in English. On the side of attitudes, participants will be able: (2) to get more confident and autonomous in English; (3) to create a daily habit of (a) reading & listening to their production, and (b) speaking English with Google Translate (GT); and (4) to become more aware of the learning process with GT [(a) understanding, (b) demonstrating the use of technologies, and (c) managing favorite answers and project parts weekly] through project management and PAL&PR updating. Specifically, participants will be able: (5) to speak about their personal interests; (6) to become better communicators, using proper tense aspects, stories, and webpages to carry their message; and (hopefully) (7) to enjoy doing so in English. 2- <COURSE OUTLINE> ab This project-driven course offers a unique opportunity to break through the English language barrier for beginners to highly motivated participants. Though it is in English entirely, easy-to-follow instructions and demonstrations make it a breeze. In, and out of, class, participants learn experientially by matching models and recreating them with their own answers. Language acquisition occurs by complying to spoken and written instructions in English. Written (and translatable) instructions provide additional support to complete the project parts in solo. Communicative achievement arises through preparation, practice, and media creation. Participants produce project parts with their own personal computer, which must be a Windows 11 PC. This is needed (1) to participate, (2) to obtain feedback on assignments, (3) to share, and (4) to correct one's work swiftly.		
2. 授業内容 ABBREVIATIONS GUGIN = G' s Unique Group Identification Number (for spring) TUGIN = T' s Unique Group Identification Number (for autumn) AYS = Academic Year Semester [example: 1992a] S = Semester (a = spring / b = autumn) PNf = Pseudo Name (final) PAL&PR = Progressive Assignment List & Proof Report PPU = PAL&PR Update (max sum: 84/ weekly 3+3) QMC = Question Memo Card S&LACJ = Short & Long Answer Challenge Journal (max sum: 140/ weekly => 0~14) SPart = Speaking Part (max sum: 70/ weekly => 7) SC = Speaking Challenge (max sum: 100/ weekly => 10) ATT =Attendance (min sum: 10/ max sum: 14/ weekly => 0~1) [Absence is indicated "00" / Online joining is 0.5.] BYOW11PC = Bring Your Own Windows 11 PC =====COURSE CONTENTS 3- <LECTURE PLAN> ab Spring and Autumn Semester Course Contents Most of the specific contents cannot be described in advance. Participants partly choose the contents by adapting their answers to their own preferences. Participants refer to the Progressive Assignment List & Proof Report (PAL&PR) for the specific weekly details. 4- 2026ab <MEETING CONTENTS ab>		

<Tentative Schedule> ??

The schedule is explained in the colorful version of PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report).

From Meeting one (M01), we create the progressive parts that will form a complete project as practice.

The instructor selects the required target sites, types, tools, and format for the projects.

Participants create Short & Longer Answer Challenge Journals (S&LACJ) from a TEMPLATE and Question Memo Cards (QMC).

The assignment parts, which are graded tasks leading to the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

The Speaking Parts (SPart) and the Speaking Challenges (SC) are the corresponding communicative tasks in class.

Summary

Meeting Tools & Targets

[M00 PAL&PR & PPU]

M01 New Gmail signup & Ninite (8 apps) & Microsoft Word & Dropbox PROOFS

M02 Taskbar Changes & Chrome Settings & Google Extensions & Portfolio Folder PROOFS

M03 S&LACJ00 template

M04 QMC01 & S&LACJ01

M05 QMC02 & S&LACJ02

M06 QMC03 & S&LACJ03

M07 QMC04 & S&LACJ04

M08 QMC05 & S&LACJ05

M09 QMC06 & S&LACJ06

M10 QMC07 & S&LACJ07

M11 QMC08 & S&LACJ08

M12 QMC09 & S&LACJ09

M13 QMC10 & S&LACJ10

M14 Last compilation for Final Report & Final Portfolio.

3. 履修上の注意

5- <PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS> ab

A- To be willing to produce files in English and share them in English. That is the main prerequisite.

Most of the sharing is made with the participants' own (windows 11) laptop PC.

We use online technology in class to share our screens and request remote help.

B- To bring one's own (Windows 11) laptop Personal Computer (BYOW11PC) in class.

Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC. Be smarter than a smartphone.

C- To attend the FIRST 5 MEETINGS to understand the basic process.

Participants need:

a) to confirm their registration;

b) to get their Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN);

c) to get the target report URL;

d) to give the instructor their PAL&PR encrypted Dropbox link.

Otherwise, they start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), they won't exist on the instructor's list until they ask for it in class directly in order to confirm and update their data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

6- <PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE>ab

a. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) to complete the reports, tasks, and projects. It may take more at the beginning and much less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

b. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

c. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, text-to-speech and speech-to-text devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding and better pronunciation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English. Doing nothing brings nothing.

d. Participants are willing to prepare their media before class with the instruction documents or models.

e. The project time is meant to share your personal project parts with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These project parts certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

f. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly.

g. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

h. Both the Final Report.pdf and PORTFOLIO.zip must be reachable by the end of the semester to avoid a lower grade or failure.

5. 教科書

7- <TEXTBOOKS> ab

The instructor progressively adapts his instruction manuals to the perceived participants' understanding. They consist of guides (LG) and how-to (HT) documents (translatable PDFs). Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PAL&PR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

8- <REFERENCE BOOKS> ab

The best references are the class documents, and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. ??

7. 課題に対するフィードバックの方法

9- <METHOD OF FEEDBACK TO PROJECT PARTS AND ISSUES> ab

a. Bring Your Own Device (BYOD): A Windows 11 PC laptop (& charger) is best to get Participation points.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant assessment, correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW and TELL for more points.

b. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

c. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (1) evaluate their projects with criteria given in the PAL&PR; (2) confirm their scores in class by sharing their screen; (3) update their improved (or corrected) projects within their personal (free) DROPBOX.COM account; (4) practice / participate with partners; and (5) share their personal projects with the group.

d. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (1) Attendance & lateness; (2) Project Part Points; (3) Practice/Participation points; and (4) Sharing marks in their personal PAL&PR. They must (5) document (keep proof of) how these scores were obtained in the PAL&PR, (6) take screenshots as proof of completion, (7) identify these screenshots properly as demonstrated, (8) calculate their various scores, and (9) connect them with Dropbox links in their personal PAL&PR.

e. There is no return of assignments by the instructor, since assignments never leave the participants. Participants create project parts with the help of models. Participants may update their assignments, or make better attempts with the following project part models.

8. 成績評価の方法

10- <GRADING & EVALUATION> ab

The negotiation process consists of self-evaluation, self-management and self-grading by the participants and the instructor.

(A) NECESSARY CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

1. The Attendance number must reach 10.

2. The points must reach 54.

3. The weekly report (in DOCX and PDF forms) must be completed with openable Dropbox links.

4. The points must be compiled in the PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report) table.

5. The points must be compiled in the Weekly Results Table 1 (above the PAL&PR).

6. The final grade must be calculated in the FSMR (Final Self-Management Report) table (below the PAL&PR).

7. The personal PORTFOLIO.ZIP Dropbox link must be inserted in the FSMR (Final Self-Management Report) table.

8. A Dropbox link to the personal PAL&PR (PDF version) must be passed through ZOOM chat to the instructor.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate after attendance)

These 10 thresholds (F~S+) values are for groups of less than 10 participants.

F= 0~27 (0~44%), F+=28~53 (45~59%);

C=54~80 (60~64%), C+=81~107 (65~69%),

B=108~134 (70~74%), B+=135~161 (75~79%),

A=162~188 (80~84%), A+=189~215 (85~89%).

S= 216~242 (90~94%), and S+=243~ (95~99%)

These points have to be adjusted to the participant levels, especially when most participants reach the S threshold too quickly. The adjustment usually is a factor of x1.5 for the intermediate level, and x2 for the advanced level.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The main evaluation criteria are:

ACCESSIBLE (through ZOOM & DROPBOX) & DONE / PARTIALLY DONE [updatable for more points]

/ NOT DONE (not acceptable) / LATE (not acceptable).

The evaluation distribution takes care of itself with the accumulation of project parts that are more or less completed.

9. その他

11- <ACCESS TO THE INSTRUCTOR> ab

· Participants may reach the instructor with the email address and protocol from the first meeting.

· The Zoom meeting invitation is notified in class only (from the first meeting).

- Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC.
- Only 4 absences are permitted (Any extra absence loses 0.5 threshold.)
- In cases of emergency (or absence of the instructor), enter the Zoom meeting to reach the class or consult the school notifications.

12- <WEEKLY ACTIONS>ab

- Practice, produce, evaluate, and LINK the weekly assignment with Dropbox links in the PAL&PR (pdf).
The instructor confirms the marking in class from the first meeting and on.
- Participants must identify the WEEKLY project parts with the naming protocol in PAL&PR, and make them available through permanent Dropbox links within their weekly report (personal PAL&PR).
- The deadline for each project corresponds to the meeting number (and before the next meeting for correction and updates).
- Participants' projects are transmitted weekly through their Dropbox link by updating both versions (docx & pdf) of the PAL&PR.
- The 2 final versions are due for the last meeting of the semester the same way.

科目ナンバー (AG) LAN212E		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 英語コミュニケーション (12)	1 単位	ティベール
2022~2025 年度入学者 英語コミュニケーション (12)		
1. 授業の概要・到達目標 0- <THEME> ab (1) Autonomy in English with Answer Project Parts & (2) Introduction to computer software. Participants learn experientially by matching models and recreating them with their own personal answers using computer and online tools. [Bring Your Own Windows 11 PC] 1- <ACHIEVEMENT GOALS> ab Following spoken and written instructions, as well as demonstrations and remote help, participants will be able (0) to improve their English skills toward a better communicative fluency. The real objective is (1) to achieve better mutual understanding by using English for communication in class, especially by speaking (and writing by speaking with technological assistance). All skills are used to these ends. Technological help provides models, supplementary support, and purpose. Improvement (0) happens along the assignment production. Addendum [not on all school page by lack of space] In other words, given our limited time in class for formative feedback and evaluation, the tangible weekly goals remain: (2) to create project parts with personal answers; (3) to share project parts with the group; (4) to participate in class interaction; (5) to evaluate one's own project parts; (6) to manage a long-term report of the project parts in a PORTFOLIO folder; (7) to evaluate one's performance; and (8) to compile one's own RESULTS. The instructor demonstrates every of these steps, and provides detailed instructions and guidelines for a motivating experience in English. On the side of attitudes, participants will be able: (2) to get more confident and autonomous in English; (3) to create a daily habit of (a) reading & listening to their production, and (b) speaking English with Google Translate (GT); and (4) to become more aware of the learning process with GT [(a) understanding, (b) demonstrating the use of technologies, and (c) managing favorite answers and project parts weekly] through project management and PAL&PR updating. Specifically, participants will be able: (5) to speak about their personal interests; (6) to become better communicators, using proper tense aspects, stories, and webpages to carry their message; and (hopefully) (7) to enjoy doing so in English. 2- <COURSE OUTLINE> ab This project-driven course offers a unique opportunity to break through the English language barrier for beginners to highly motivated participants. Though it is in English entirely, easy-to-follow instructions and demonstrations make it a breeze. In, and out of, class, participants learn experientially by matching models and recreating them with their own answers. Language acquisition occurs by complying to spoken and written instructions in English. Written (and translatable) instructions provide additional support to complete the project parts in solo. Communicative achievement arises through preparation, practice, and media creation. Participants produce project parts with their own personal computer, which must be a Windows 11 PC. This is needed (1) to participate, (2) to obtain feedback on assignments, (3) to share, and (4) to correct one's work swiftly.		
2. 授業内容 ABBREVIATIONS GUGIN = G' s Unique Group Identification Number (for spring) TUGIN = T' s Unique Group Identification Number (for autumn) AYS = Academic Year Semester [example: 1992a] S = Semester (a = spring / b = autumn) PNf = Pseudo Name (final) PAL&PR = Progressive Assignment List & Proof Report PPU = PAL&PR Update (max sum: 84/ weekly 3+3) QMC = Question Memo Card S&LACJ = Short & Long Answer Challenge Journal (max sum: 140/ weekly => 0~14) SPart = Speaking Part (max sum: 70/ weekly => 7) SC = Speaking Challenge (max sum: 100/ weekly => 10) ATT =Attendance (min sum: 10/ max sum: 14/ weekly => 0~1) [Absence is indicated "00" / Online joining is 0.5.] BYOW11PC = Bring Your Own Windows 11 PC =====COURSE CONTENTS 3- <LECTURE PLAN> ab Spring and Autumn Semester Course Contents Most of the specific contents cannot be described in advance. Participants partly choose the contents by adapting their answers to their own preferences. Participants refer to the Progressive Assignment List & Proof Report (PAL&PR) for the specific weekly details. 4- 2026ab <MEETING CONTENTS ab>		

From Meeting one (M01), we create the progressive parts that will form a complete project as practice. The instructor selects the required target sites, types, tools, and format for the projects. Participants create Short & Longer Answer Challenge Journals (S&LACJ) from a TEMPLATE and Question Memo Cards (QMC). The assignment parts, which are graded tasks leading to the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

The Speaking Parts (SPart) and the Speaking Challenges (SC) are the corresponding communicative tasks in class.

<Tentative Schedule> ??

The schedule is explained in the colorful version of PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report).

Summary

Meeting	Tools & Targets
[M00	PAL&PR & PPU]
M01	New Gmail signup & Ninite (8 apps) & Microsoft Word & Dropbox PROOFS
M02	Taskbar Changes & Chrome Settings & Google Extensions & Portfolio Folder PROOFS
M03	S&LACJ00 template
M04	QMC01 & S&LACJ01
M05	QMC02 & S&LACJ02
M06	QMC03 & S&LACJ03
M07	QMC04 & S&LACJ04
M08	QMC05 & S&LACJ05
M09	QMC06 & S&LACJ06
M10	QMC07 & S&LACJ07
M11	QMC08 & S&LACJ08
M12	QMC09 & S&LACJ09
M13	QMC10 & S&LACJ10
M14	Last compilation for Final Report & Final Portfolio.

3. 履修上の注意

5- <PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS> ab

A- To be willing to produce files in English and share them in English. That is the main prerequisite. Most of the sharing is made with the participants' own (windows 11) laptop PC. We use online technology in class to share our screens and request remote help.

B- To bring one's own (Windows 11) laptop Personal Computer (BYOW11PC) in class. Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC. Be smarter than a smartphone.

C- To attend the FIRST 5 MEETINGS to understand the basic process.

Participants need:

- a) to confirm their registration;
- b) to get their Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN);
- c) to get the target report URL;
- d) to give the instructor their PAL&PR encrypted Dropbox link.

Otherwise, they start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), they won't exist on the instructor's list until they ask for it in class directly in order to confirm and update their data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

6- <PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE>ab

- a. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) to complete the reports, tasks, and projects. It may take more at the beginning and much less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.
- b. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.
- c. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, text-to-speech and speech-to-text devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding and better pronunciation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English. Doing nothing brings nothing.
- d. Participants are willing to prepare their media before class with the instruction documents or models.
- e. The project time is meant to share your personal project parts with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These project parts certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.
- f. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly.
- g. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

- h. Both the Final Report.pdf and PORTFOLIO.zip must be reachable by the end of the semester to avoid a lower grade or failure.

5. 教科書

7- <TEXTBOOKS> ab

The instructor progressively adapts his instruction manuals to the perceived participants' understanding. They consist of guides (LG) and how-to (HT) documents (translatable PDFs). Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PAL&PR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

8- <REFERENCE BOOKS> ab

The best references are the class documents, and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. ??

7. 課題に対するフィードバックの方法

9- <METHOD OF FEEDBACK TO PROJECT PARTS AND ISSUES> ab

a. Bring Your Own Device (BYOD): A Windows 11 PC laptop (& charger) is best to get Participation points.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant assessment, correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW and TELL for more points.

b. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

c. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (1) evaluate their projects with criteria given in the PAL&PR; (2) confirm their scores in class by sharing their screen; (3) update their improved (or corrected) projects within their personal (free) DROPBOX.COM account; (4) practice / participate with partners; and (5) share their personal projects with the group.

d. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (1) Attendance & lateness; (2) Project Part Points; (3) Practice/Participation points; and (4) Sharing marks in their personal PAL&PR. They must (5) document (keep proof of) how these scores were obtained in the PAL&PR, (6) take screenshots as proof of completion, (7) identify these screenshots properly as demonstrated, (8) calculate their various scores, and (9) connect them with Dropbox links in their personal PAL&PR.

e. There is no return of assignments by the instructor, since assignments never leave the participants. Participants create project parts with the help of models. Participants may update their assignments, or make better attempts with the following project part models.

8. 成績評価の方法

10- <GRADING & EVALUATION> ab

The negotiation process consists of self-evaluation, self-management and self-grading by the participants and the instructor.

(A) NECESSARY CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

1. The Attendance number must reach 10.

2. The points must reach 54.

3. The weekly report (in DOCX and PDF forms) must be completed with openable Dropbox links.

4. The points must be compiled in the PAL&PR (Progressive Assignment List & Proof Report) table.

5. The points must be compiled in the Weekly Results Table 1 (above the PAL&PR).

6. The final grade must be calculated in the FSMR (Final Self-Management Report) table (below the PAL&PR).

7. The personal PORTFOLIO.ZIP Dropbox link must be inserted in the FSMR (Final Self-Management Report) table.

8. A Dropbox link to the personal PAL&PR (PDF version) must be passed through ZOOM chat to the instructor.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate after attendance)

These 10 thresholds (F~S+) values are for groups of less than 10 participants.

F= 0~27 (0~44%), F+=28~53 (45~59%);

C=54~80 (60~64%), C+=81~107 (65~69%),

B=108~134 (70~74%), B+=135~161 (75~79%),

A=162~188 (80~84%), A+=189~215 (85~89%).

S= 216~242 (90~94%), and S+=243~ (95~99%)

These points have to be adjusted to the participant levels, especially when most participants reach the S threshold too quickly. The adjustment usually is a factor of x1.5 for the intermediate level, and x2 for the advanced level.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The main evaluation criteria are:

ACCESSIBLE (through ZOOM & DROPBOX) & DONE / PARTIALLY DONE [updatable for more points]

/ NOT DONE (not acceptable) / LATE (not acceptable).

The evaluation distribution takes care of itself with the accumulation of project parts that are more or less completed.

9. その他

11- <ACCESS TO THE INSTRUCTOR> ab

· Participants may reach the instructor with the email address and protocol from the first meeting.

· The Zoom meeting invitation is notified in class only (from the first meeting).

- Participants must attend in person with a (Windows 11) laptop PC.
- Only 4 absences are permitted (Any extra absence loses 0.5 threshold.)
- In cases of emergency (or absence of the instructor), enter the Zoom meeting to reach the class or consult the school notifications.

12- <WEEKLY ACTIONS>ab

- Practice, produce, evaluate, and LINK the weekly assignment with Dropbox links in the PAL&PR (pdf).
The instructor confirms the marking in class from the first meeting and on.
- Participants must identify the WEEKLY project parts with the naming protocol in PAL&PR, and make them available through permanent Dropbox links within their weekly report (personal PAL&PR).
- The deadline for each project corresponds to the meeting number (and before the next meeting for correction and updates).
- Participants' projects are transmitted weekly through their Dropbox link by updating both versions (docx & pdf) of the PAL&PR.
- The 2 final versions are due for the last meeting of the semester the same way.

2026年度以降入学者

総合教育科目
外国語科目群＜第二外国語＞

2022～2025年度入学者

総合科目
外国語科目群＜第二外国語＞

科 目 名	単位数	担当者
ドイツ語Ⅰについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 日本とドイツ語圏との結びつきは長く深いもので、私たちはドイツから医学や化学、生物学などの自然科学の知識をはじめ、音楽や美術、哲学、文学など人間の創造的分野でもさまざまな影響を受けてきました。そして現在、農学部が重要な課題のひとつとして取り組んでいる環境問題の分野においてドイツが世界をリードしていることはよく知られています。 意外に思われるかもしれませんが、ドイツ語はヨーロッパで最も多くの人（約1億人）に話されている言語です。ドイツ語を学ぶことによって、欧州の最先端の情報に直接触れる機会が得られることも意味のあることといえます。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAIに対応する科目です。		
2. 授業内容 主に文法に重点をおいて、初級ドイツ語を学びます。 発音も重視し、日常的なやさしい表現も習得しながら、1年間で初級文法のあらましを学びます。ごく簡単な会話ができ、やさしい文章なら辞書を用いて自分で読める水準に達することを目標にしています。またドイツ語の文法はきわめて論理的であるため、思考の訓練にも役立つと考えています。		
3. 履修上の注意 語学の学習は、予習・復習なしには成り立ちません。初級クラスでは音声データ等を活用して、授業中に習ったことをしっかりと身につけ、つぎの段階に進む基礎を作っていく必要があります。 必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。 「ドイツ語Ⅰa」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「ドイツ語Ⅰa」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。 「ドイツ語Ⅰb」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「ドイツ語Ⅰb」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当者の指示に従って下さい。		
5. 教科書 ドイツ語Ⅱと同一の教科書を使用し、2人の担当者がリレー方式で授業を進めていきます。 教科書は、教科書販売所の教科書一覧に従って購入してください。		
6. 参考書 各科目のシラバスを参照。		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「ドイツ語会話」、夏期に実施される「ドイツ語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語 I a 農	1 単位	辻 朋季
2022～2025 年度入学者 ドイツ語 I a 農		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語の文法の基礎を一つ一つ着実に学んでいきます。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、日常的な会話表現を習得したり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。また授業と並行して、現代のドイツ事情や日本とドイツのつながりなどについても適宜解説を加えていきます。 《授業の概要》 教科書に従って、各課ともまず文法事項を学んだうえで、練習問題を通して定着を図ります。ドイツ語の文法は英語に比べると複雑に見えますが、格（が・の・に・を）がしっかりしている分、文の構造がわかりやすく、主客の関係が読み取りやすいという利点もあります。ドイツ語学習を通して、こうした外国語の奥深さに触れてもらえたらと思います。		
2. 授業内容 第 1 回： イントロダクション（第二外国語学習の意義、ドイツ語の仕組み）、 第 2 回： アルファベットと発音 第 3 回： Lektion 1 動詞の現在人称変化（規則動詞） 第 4 回： Lektion 1 語順と文の作り方 第 5 回： Lektion 2 人称代名詞・冠詞の変化 第 6 回： Lektion 2 定冠詞、不定冠詞、複数形 第 7 回： Lektion 3 動詞の現在人称変化（不規則動詞）、命令形 第 8 回： Lektion 3 冠詞の変化（定冠詞類、不定冠詞類） 第 9 回： Lektion 4 話法の助動詞の現在人称変化 第 10 回： Lektion 4 前置詞 第 11 回： Lektion 5 複合動詞（分離動詞、非分離動詞） 第 12 回： Lektion 5 接続詞 第 13 回： 文法事項の補足 第 14 回： a: 今学期のまとめと復習、b: 試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 語学の勉強は継続が大切です。授業には必ず紙の独和辞典（下記の「参考書」を閲覧のこと）を持参してください。ドイツ語専用の授業ノート（大学ノート等を使用のこと）で復習を必ず行って授業に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の終わりに、次週までの課題を出すので、必ずやってくること。		
5. 教科書 『ドイツに行ってみませんか<Ver. 4>』（Deutsch, mein Schlüssel zur neuen Welt, Ver. 4）、佐藤和宏ほか著、2025 年、郁文堂、ISBN：9784261012835。 ＊ドイツ語 II a と同一の教科書を使用します。		
6. 参考書 和独辞典：収録語彙数が多く、例文も充実している辞書として以下のものがあります。 『アクセス独和辞典』（三修社）／『クラウン独和辞典』（三省堂）／『アポロン独和辞典』（同学社） 文法解説書： 『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』、平尾浩三ほか著、2020 年、白水社。 問題集： 『だいたい楽しいドイツ語入門ー使える文法』、辻朋季著、2014 年、三修社。 『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季著、2023 年、三修社。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブ経由、またはリアクションペーパーへのコメントを通してフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70％ 平常点 30％（課題へ取り組み、受講態度・授業参加）		

9. その他

研究室は第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスアワーは開講時にお伝えします。

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語 I a 政	1 単位	松島 渉
2022～2025 年度入学者 ドイツ語 I a 政		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。ドイツ語文法の基礎を一通り学びます。教科書に従って文法事項を学び、練習問題で知識を確認します。 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語の基礎文法を学び、活用できるようにします。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。		
2. 授業内容 第 1 回 授業の進行についてのガイダンス。ドイツ語の文字や発音についての説明。 第 2 回 主語になる代名詞と、動詞の現在人称変化 第 3 回 sein/haben の変化、動詞の位置 第 4 回 名詞の性と冠詞 第 5 回 名詞の性・格にともなう冠詞の変化 第 6 回 不規則変化動詞 第 7 回 名詞の複数形 第 8 回 名詞の格（3 格） 第 9 回 前置詞 第 10 回 副文 第 11 回 人称代名詞 第 12 回 再帰代名詞と再帰動詞 第 13 回 2 格・不定冠詞・否定表現 第 14 回 前期学習授業内容の確認		
3. 履修上の注意 予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくること。学生の主体的な授業参加が求められます。 無断欠席が 4 回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、次回までにやっておくべき練習問題を指定します。教科書のほかにプリントを使います。		
5. 教科書 『ドイツ語の時間〈恋するベルリン〉』清野智昭 2017 年 朝日出版社		
6. 参考書 辞書は必ず買しましょう。以下に例を挙げます。簡素過ぎる辞書は避けてください。 『クラウン独和辞典』（三省堂） 『アクセス独和辞典』（三修社） 『アポロン独和辞典』（同学社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題がある場合は添削し返却します。		
8. 成績評価の方法 定期試験 7 割、平常点（出席・授業参加・小テストなど）3 割。		
9. その他 連絡先：初回授業時に示します。		

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語 I a 化	1 単位	金子 祥之
2022～2025 年度入学者 ドイツ語 I a 化		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語を読み・書き・話すためのツールである基礎文法及び発音を学んでいきます。まずは基本的な発音のルールから始めていきます。最終的には辞書を使って簡単なドイツ語の文を読み・書くことができるようになることが目標です。ドイツ語圏の文化や社会に関する解説も適宜加えていきます。 《授業の概要》 教科書に基づいてまず文法を学び、練習問題を用いて作文を行います。		
2. 授業内容 第 1 回：a: イントロダクション b: 発音のルール 第 2 回：動詞の人称変化 第 3 回：名詞と冠詞（1） 第 4 回：名詞と冠詞（2） 第 5 回：不規則変化動詞（1） 第 6 回：不規則変化動詞（2）・名詞の 3 格 第 7 回：前置詞（1） 第 8 回：前置詞（2） 第 9 回：副文 第 10 回：人称代名詞 3・4 格 第 11 回：再帰代名詞・再帰動詞 第 12 回：定冠詞類 第 13 回：不定冠詞類 第 14 回：まとめ・定期テスト		
3. 履修上の注意 辞書を一冊用意してください（電子辞書も可）。必要な文法や単語に関しては授業時に解説いたします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 入念に予習を行ってください。不明な部分に関しては放置せずに必ず質問するよう心掛けてください。		
5. 教科書 『ドイツ語の時間＜恋するベルリン＞Web 改訂版 エピローグ付き』（清野智明著 朝日出版社）を使用いたします。		
6. 参考書 適宜指示いたします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業評価（30 パーセント）及び定期テスト（70 パーセント）		
9. その他 連絡先：初回授業時に示します。		

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語 I a 生	1 単位	辻 朋季
2022～2025 年度入学者 ドイツ語 I a 生		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語の文法の基礎を一つ一つ着実に学んでいきます。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、日常会話で用いる表現を習得したり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。授業と並行して、現代のドイツ事情や日本とドイツのつながりなどについても適宜解説を加えていきます。 《授業の概要》 教科書に従って、各課ともまず文法事項を学んだうえで、練習問題を通して定着を図ります。ドイツ語の文法は英語に比べると複雑に見えますが、格（が・の・に・を）がしっかりしている分、文の構造がわかりやすく、主客の関係が読み取りやすいという利点もあります。ドイツ語学習を通して、こうした外国語の奥深さに触れてもらえたらと思います。		
2. 授業内容 第 1 回： イントロダクション（第二外国語学習の意義、ドイツ語の仕組み）、 第 2 回： アルファベットと発音 第 3 回： Lektion 1 動詞の現在人称変化（規則動詞） 第 4 回： Lektion 1 語順と文の作り方 第 5 回： Lektion 2 人称代名詞・冠詞の変化 第 6 回： Lektion 2 定冠詞、不定冠詞、複数形 第 7 回： Lektion 3 動詞の現在人称変化（不規則動詞）、命令形 第 8 回： Lektion 3 冠詞の変化（定冠詞類、不定冠詞類） 第 9 回： Lektion 4 話法の助動詞の現在人称変化 第 10 回： Lektion 4 前置詞 第 11 回： Lektion 5 複合動詞（分離動詞、非分離動詞） 第 12 回： Lektion 5 接続詞 第 13 回： 文法事項の補足 第 14 回： a: 今学期のまとめと復習, b: 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 必ず紙の独和辞典（下記の「参考書」欄を参照のこと）を持参してください。また、ドイツ語学習専用の授業ノート（大学ノート等）を作成し、授業内容を整理するようにして下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の終わりに、次週までの課題を出すので、必ずやってくることを。		
5. 教科書 『ドイツに行ってみませんか<Ver. 4>』（Deutsch, mein Schlüssel zur neuen Welt Ver.4）、佐藤和宏ほか著、2025 年、郁文堂、ISBN: 9784261012835。 * ドイツ語 II a と同一の教科書を使用します。		
6. 参考書 和独辞典：収録語彙数が多く、例文も充実している辞書として以下のものがあります。 『アクセス独和辞典』（三修社）／『クラウン独和辞典』（三省堂）／『アポロン独和辞典』（同学社） 文法解説書： 『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』、平尾浩三ほか著、2020 年、白水社。 問題集： 『だいたい楽しいドイツ語入門ー使える文法』、辻朋季著、2014 年、三修社。 『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季著、2023 年、三修社。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブ経由、またはリアクションペーパーへのコメントを通してフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70% 平常点 30% （課題への解答と、受講態度・授業参加）		

9. その他

研究室は第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスアワーは開講時にお伝えします。

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語 I b 農	1 単位	辻 朋季
2022～2025 年度入学者 ドイツ語 I b 農		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語の文法の基礎を一つ一つ着実に学んでいきます。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、日常的な会話表現を習得したり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。また授業と並行して、現代のドイツ事情や日本とドイツのつながりなどについても適宜解説を加えていきます。 《授業の概要》 教科書に従って、各課ともまず文法事項を学んだうえで、練習問題を通して定着を図ります。ドイツ語の文法は英語に比べると複雑に見えますが、格（が・の・に・を）がしっかりしている分、文の構造がわかりやすく、主客の関係が読み取りやすいという利点もあります。ドイツ語学習を通して、こうした外国語の奥深さに触れてもらえたらと思います。		
2. 授業内容 第1回：春学期の復習 第2回：Lektion 6 動詞の三基本形 第3回：Lektion 6 過去形・現在完了形 第4回：Lektion 7 受動態 第5回：Lektion 7 比較級と最上級 第6回：Lektion 8 関係代名詞 第7回：Lektion 8 再帰代名詞 第8回：Lektion 9 zu 不定詞 第9回：Lektion 9 分詞の用法 第10回：Lektion 10 接続法 II 式 第11回：Lektion 10 接続法 I 式 第12回：文法の補足(1) 第13回：文法の補足(2) 第14回：a: 今学期のまとめ b: 試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 語学の勉強は継続が大切です。授業には必ず紙の独和辞典（下記の「参考書」を閲覧のこと）を持参してください。ドイツ語専用の授業ノート（大学ノート等を使用のこと）で復習を必ず行って授業に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の終わりに、次週までの課題を出すので、必ずやってくること。		
5. 教科書 『ドイツに行ってみませんか<Ver. 4>』（Deutsch, mein Schlüssel zur neuen Welt, Ver. 4）、佐藤和宏ほか著、2025 年、郁文堂、ISBN: 9784261012835。 ＊ドイツ語 II b と同一の教科書を使用します。		
6. 参考書 和独辞典：収録語彙数が多く、例文も充実している辞書として以下のものがあります。 『アクセス独和辞典』（三修社）／『クラウン独和辞典』（三省堂）／『アポロン独和辞典』（同学社） 文法解説書： 『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』、平尾浩三ほか著、2020 年、白水社。 問題集： 『だいたい楽しいドイツ語入門ー使える文法』、辻朋季著、2014 年、三修社。 『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季著、2023 年、三修社。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブ経由、またはリアクションペーパーへのコメントを通してフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70% 平常点 30% （課題への解答と受講態度・授業参加、小テスト等）		

9. その他

研究室は第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスアワーは開講時にお伝えします。

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語 I b 政	1 単位	松島 渉
2022～2025 年度入学者 ドイツ語 I b 政		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 Ia に引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。教科書に従って文法事項を学び、練習問題で知識を確認します。 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語の基礎文法を学び、活用できるようにします。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、応用する力を養ったりするのが狙いです。		
2. 授業内容 第 1 回 既習学習事項の確認 第 2 回 冠詞類の格変化 第 3 回 zu 不定詞 第 4 回 分離動詞・非分離動詞 第 5 回 話法の助動詞 第 6 回 未来形 第 7 回 過去形 第 8 回 完了形 第 9 回 受動態 第 10 回 形容詞の格変化 第 11 回 比較表現 第 12 回 関係代名詞 第 13 回 命令形 第 14 回 後期学習内容理解度の確認		
3. 履修上の注意 予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくること。学生の主体的な授業参加が求められます。 無断欠席が 4 回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、次回までにやっておくべき練習問題を指定します。教科書のほかにプリントも使います。		
5. 教科書 『ドイツ語の時間<恋するベルリン>』 清野智昭 2017 年 朝日出版社		
6. 参考書 辞書は必ず買しましょう。以下に例を挙げます。簡素過ぎる辞書は避けてください。 『クラウン独和辞典』（三省堂） 『アクセス独和辞典』（三修社） 『アポロン独和辞典』（同学社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題がある場合は添削し返却します。		
8. 成績評価の方法 定期試験 7 割、平常点（出席・授業参加・小テストなど）3 割。		
9. その他 履修者の理解度によって進度を変更することがあります。		

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語 I b 化	1 単位	金子 祥之
2022～2025 年度入学者 ドイツ語 I b 化		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 春学期同様に、教科書に沿って基礎文法及び発音を学んでいきます。秋学期は助動詞の使い方から再開し、過去時制を中心に学んでいきます。 《授業の概要》 教科書に基づいてまず文法を学び、練習問題を用いて作文を行います。		
2. 授業内容 第 1 回：a: イントロダクション b: 春学期内容の確認 第 2 回：冠詞類の復習・否定冠詞 第 3 回：zu 不定詞句 第 4 回：分離動詞 第 5 回：話法の助動詞 1 第 6 回：話法の助動詞 2 第 7 回：動詞の 3 基本形・過去形 第 8 回：現在完了形 第 9 回：受動態 第 10 回：形容詞・比較 第 11 回：命令形 第 12 回：関係代名詞 第 13 回：接続法 第 14 回：まとめ・定期テスト		
3. 履修上の注意 教科書のほかに辞書を必ず持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で学習した事柄に関しては必ず復習を行うよう心掛けてください。		
5. 教科書 『ドイツ語の時間＜恋するベルリン＞Web 改訂版 エピローグ付き』（清野智明著 朝日出版社）を使用いたします。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業評価 3 割、定期テスト 7 割から算出します。		
9. その他 ドイツ語検定試験（4 級以上）にも挑戦してください。		

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語 I b 生	1 単位	辻 朋季
2022～2025 年度入学者 ドイツ語 I b 生		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語の文法の基礎を一つ一つ着実に学んでいきます。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、日常会話で用いる表現を習得したり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。授業と並行して、現代のドイツ事情や日本とドイツのつながりなどについても適宜解説を加えていきます。 《授業の概要》 教科書に従って、各課ともまず文法事項を学んだうえで、練習問題を通して定着を図ります。ドイツ語の文法は英語に比べると複雑に見えますが、格（が・の・に・を）がしっかりしている分、文の構造がわかりやすく、主客の関係が読み取りやすいという利点もあります。ドイツ語学習を通して、こうした外国語の奥深さに触れてもらえたらと思います。		
2. 授業内容 第1回：春学期の復習 第2回：Lektion 6 動詞の三基本形 第3回：Lektion 6 過去形・現在完了形 第4回：Lektion 7 受動態 第5回：Lektion 7 比較級と最上級 第6回：Lektion 8 関係代名詞 第7回：Lektion 8 再帰代名詞 第8回：Lektion 9 zu 不定詞 第9回：Lektion 9 分詞の用法 第10回：Lektion 10 接続法 II 式 第11回：Lektion 10 接続法 I 式 第12回：文法の補足(1) 第13回：文法の補足(2) 第14回：a: 今学期のまとめ b: 試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 必ず紙の独和辞典（下記の「参考書」欄を参照のこと）を持参してください。また、ドイツ語学習専用の授業ノート（大学ノート等）を作成し、授業内容を整理するようにして下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の終わりに次週までの課題を出すので、必ずやってくるように。		
5. 教科書 『ドイツに行ってみませんか<Ver. 4>』（Deutsch, mein Schlüssel zur neuen Welt, Ver. 4）、佐藤和宏ほか著、2025 年、郁文堂、ISBN：9784261012835。 ＊ドイツ語 II b と同一の教科書を使用します。		
6. 参考書 和独辞典：収録語彙数が多く、例文も充実している辞書として以下のものがあります。 『アクセス独和辞典』（三修社）／『クラウン独和辞典』（三省堂）／『アポロン独和辞典』（同学社） 文法解説書： 『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』、平尾浩三ほか著、2020 年、白水社。 問題集： 『だいたい楽しいドイツ語入門ー使える文法』、辻朋季著、2014 年、三修社。 『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季著、2023 年、三修社。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブ経由、またはリアクションペーパーへのコメントを通してフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70% 平常点 30% （課題への解答、受講態度・授業参加、小テスト等）		

9. その他

研究室は第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスアワーは開講時にお伝えします。

科 目 名	単位数	担当者
ドイツ語Ⅱについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 日本とドイツ語圏との結びつきは長く深いもので、私たちはドイツから医学化学、生物学などの自然科学の知識をはじめ、音楽や美術、哲学、文学など人間の創造的分野でもさまざまな影響をうけてきました。そして現在、農学部が重要な課題のひとつとして取り組んでいる環境問題の分野においてドイツが世界をリードしていることはよく知られています。 意外に思われるかもしれませんが、ドイツ語はヨーロッパで最も多くの人（約1億人）に話されている言語です。ドイツ語を学ぶことによって、欧州の最先端の情報に直接触れる機会が得られることも意味のあることといえます。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 主に読解と会話に重点をおいて、初級ドイツ語を学びます。 発音も重視し、日常的なやさしい表現も習得しながら、1年間で初級文法のあらましを学びます。ごく簡単な会話ができ、やさしい文章なら辞書を用いて自分で読める水準に達することを目標にしています。		
3. 履修上の注意 語学の学習は、予習・復習なしには成り立ちません。初級クラスでは音声データ等を活用して、授業中に習ったことをしっかりと身につけ、つぎの段階に進む基礎を作っていく必要があります。 必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。 「ドイツ語Ⅱa」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「ドイツ語Ⅱa」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。 「ドイツ語Ⅱb」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「ドイツ語Ⅱb」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当者の指示に従って下さい。		
5. 教科書 ドイツ語Ⅰと同一の教科書を使用し、2人の担当者がリレー方式で授業を進めていきます。 教科書販売所の教科書一覧に従って購入してください。		
6. 参考書 各科目のシラバスを参照。		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「ドイツ語会話」、夏期に実施される「ドイツ語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅱa 農	1 単位	松島 渉
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅱa 農		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語の基本的な会話を学びます。教科書の会話文で扱われたテーマに関しても適宜補足し、ドイツの日常生活や社会的・文化的背景も学んでいきます。 《授業の概要》 教科書の例文に従って、会話練習を行います。同じ表現の一部を変えるパターンプラクティスで基本表現を覚えます。		
2. 授業内容 第1回：導入、ドイツ語で使う文字と発音、自分の名前を言う 第2回：アルファベット、人名、数詞、ドイツ語ならではの発音 第3回：自己紹介、出身地、居住地、専攻、好きなこと 第4回：ものの表し方、名詞の性、形容詞 第5回：複数形、名詞の4格 第6回：家族、「私の～」「あなたの～」所有冠詞、否定冠詞 第7回：「～に」「～の」名詞の3格、2格 第8回：否定表現、人称代名詞 第9回：不規則変化動詞、「～ないの？」否定疑問文とその答え方 第10回：「～できる」「～つもり」「～ねばならない」話法の助動詞 第11回：「～してよい」、man、「～をつかって」「～といっしょに」前置詞 mit 第12回：助動詞、前置詞を使った会話表現 第13回：後半で学んだ内容を組み合わせた会話練習 第14回：a: 今学期のまとめと復習, b: 試験		
3. 履修上の注意 授業では教室でとなりに座った人とのパートナー練習や音声メディアを使ったヒアリング等を行います。原則として予習は必要ありませんが、その分受講者には集中して授業を受けることが求められます。コミュニケーション能力は語学力だけによるものではありません。積極的に授業に参加しましょう。無断欠席が4回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習として授業内で練習した会話表現を、最低1回は実際に声に出して発音しましょう。また、教科書内の問題を復習の課題として指定することがあります。次回までに準備すべきことがある場合、授業内で指示します。		
5. 教科書 『ドイツに行ってみませんか〈Ver.4〉』佐藤和弘、Heike Pinnau、中村雅美 2025 年 郁文堂		
6. 参考書 外国語学習に辞書は必須です。自学自習のためにも必要です。特に指定はしませんが必ず辞書は持っておきましょう。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説します。		
8. 成績評価の方法 定期試験 7 割、平常点（出席・授業参加・小テストなど）3 割		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅱa 政	1 単位	木村 裕一
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅱa 政		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業ではドイツ語を初めて学ぶ人を対象に、簡単な会話表現や短いテキストの読解練習などを通じ、基礎的な語彙や発音、文法事項に関する理解を深めていきます。 また、語学学習と同時にドイツ語圏の文化や社会について関心をもってもらうことも目的としています。少しでも第二外国語学習のモチベーションを高めてもらうために、できるだけ無理なく楽しく授業していきたいと思います。 〈到達目標〉 初歩的なドイツ語の語彙や表現、文法規則を理解し、短いテキストであれば理解できるようになること、またそれらを正確に発音できるようになること 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：ドイツ語の発音規則 第 3 回：Lektion 1 Ankunft in Berlin (1) 第 4 回：Lektion 1 Ankunft in Berlin (2) 第 5 回：Lektion 2 Beim Bäcker (1) 第 6 回：Lektion 2 Beim Bäcker (2) 第 7 回：Lektion 3 Sprachkurs (1) 第 8 回：Lektion 3 Sprachkurs (2) 第 9 回：Lektion 4 In der Mensa (1) 第 10 回：Lektion 4 In der Mensa (2) 第 11 回：Lektion 5 Beim Arzt (1) 第 12 回：Lektion 5 Beim Arzt (2) 第 13 回：Lektion 6 Beim Studentenwohnheim 第 14 回：今学期のまとめ ＊ 授業進度やクラスの理解度に応じて、計画を変更する可能性があります		
3. 履修上の注意 ・対面授業における 10 分以上の遅刻は、理由にかかわらず、3 回で 1 回分の欠席とみなします。 ・5 回以上欠席がある場合、履修意思がないものと判断し、不合格とします（ただし特別な事由等がある場合は適宜対応しますので必ず連絡すること）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 ・予定されている課で学習する文法事項を確認すること ・新しく出てきた単語を辞書で調べ、意味を確認すること 〈復習〉 ・各回ごとに学習した例文やテキストの発音を正確に再現できるよう練習すること ・宿題がある場合はそれらを行うこと ・小テストがある場合は、そのための準備をすること		
5. 教科書 清野智昭『ドイツ語の時間 <恋するベルリン>』朝日出版、ISBN：978-4-255-25393-0		
6. 参考書 ドイツ語の辞書（電子辞書も可）は必ず購入し、毎授業持参するようにしてください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを用いた課題の場合、提出後に表示される解答・解説を確認すること。		
8. 成績評価の方法 オンデマンド型小テスト： 50％ 授業内筆記テスト： 50％ 1 課ごとにオンデマンド形式にて小テストを実施します。		

また、授業内で筆記テストを対面形式にて実施します。

授業内筆記テストのスケジュールについては授業内で告知します。

その他、授業態度も考慮します。特に積極的な発言や質問などは評価します。

授業中の課題指示に従わず関係のない行為を続け、数回の注意を経ても改善されない場合、履修意思がないものとみなしそれまでの成績にかかわらず不合格とします。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅱa 化	1 単位	木村 裕一
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅱa 化		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業ではドイツ語を初めて学ぶ人を対象に、簡単な会話表現や短いテキストの読解練習などを通じ、基礎的な語彙や発音、文法事項に関する理解を深めていきます。 また、語学学習と同時にドイツ語圏の文化や社会について関心をもってもらうことも目的としています。少しでも第二外国語学習のモチベーションを高めてもらうために、できるだけ無理なく楽しく授業していきたいと思います。 〈到達目標〉 初歩的なドイツ語の語彙や表現、文法規則を理解し、短いテキストであれば理解できるようになること、またそれらを正確に発音できるようになること 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：ドイツ語の発音規則 第 3 回：Lektion 1 Ankunft in Berlin (1) 第 4 回：Lektion 1 Ankunft in Berlin (2) 第 5 回：Lektion 2 Beim Bäcker (1) 第 6 回：Lektion 2 Beim Bäcker (2) 第 7 回：Lektion 3 Sprachkurs (1) 第 8 回：Lektion 3 Sprachkurs (2) 第 9 回：Lektion 4 In der Mensa (1) 第 10 回：Lektion 4 In der Mensa (2) 第 11 回：Lektion 5 Beim Arzt (1) 第 12 回：Lektion 5 Beim Arzt (2) 第 13 回：Lektion 6 Beim Studentenwohnheim 第 14 回：今学期のまとめ * 授業進度やクラスの理解度に応じて、計画を変更する可能性があります		
3. 履修上の注意 ・対面授業における 10 分以上の遅刻は、理由にかかわらず、3 回で 1 回分の欠席とみなします。 ・5 回以上欠席がある場合、履修意思がないものと判断し、不合格とします（ただし特別な事由等がある場合は適宜対応しますので必ず連絡すること）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 ・予定されている課で学習する文法事項を確認すること ・新しく出てきた単語を辞書で調べ、意味を確認すること 〈復習〉 ・各回ごとに学習した例文やテキストの発音を正確に再現できるよう練習すること ・宿題がある場合はそれらを行うこと ・小テストがある場合は、そのための準備をすること		
5. 教科書 清野智昭『ドイツ語の時間 <恋するベルリン>』朝日出版、ISBN：978-4-255-25393-0		
6. 参考書 ドイツ語の辞書（電子辞書も可）は必ず購入し、毎授業持参するようにしてください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを用いた課題の場合、提出後に表示される解答・解説を確認すること。		
8. 成績評価の方法 オンデマンド型小テスト： 50％ 授業内筆記テスト： 50％ 1 課ごとにオンデマンド形式にて小テストを実施します。		

また、授業内で筆記テストを対面形式にて実施します。

授業内筆記テストのスケジュールについては授業内で告知します。

その他、授業態度も考慮します。特に積極的な発言や質問などは評価します。

授業中の課題指示に従わず関係のない行為を続け、数回の注意を経ても改善されない場合、履修意思がないものとみなしそれまでの成績にかかわらず不合格とします。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅱa 生	1 単位	羽田野 まち子
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅱa 生		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語の基礎的な知識を養うこと。また、ドイツ語の学習を通してヨーロッパ（とくにドイツ語圏）の文化・社会についての理解を深める。 《授業の概要》 ドイツ語初習者を対象に、ドイツ語文法の基礎的な知識を身につけ、1 年後には簡単なドイツ語を自力で読んだり書いたり話したりできるように練習をしていく。		
2. 授業内容 第1回：a. イン트로ダクション b. ドイツ語の発音 第2回：Lektion 1: Willkommen 第3回：Lektion 1: 出会いと自己紹介 第4回：Lektion 2 :Nanas Universität 第5回：Lektion 2：カフェで注文 第6回：Lektion 3：Meine Familie 第7回：Lektion 3：何をするのが好き？ 第8回：ここまでのまとめ 第9回：Lektion 4: Eine Reise nach Wien 第10回：Lektion 4：週末の予定 第11回：Lektion 5：Genießen wir jeden Sonntag! 第12回：Lektion 5：好み、休暇について 第13回：ここまでのまとめ 第14回：a. 春学期のまとめ b. 定期試験		
3. 履修上の注意 事前に必ず辞書をひいて予習をしてくること。また授業には毎回辞書を持参すること。なお、5 回以上の欠席は履修放棄と見なします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、Dialog と購読部分（Für Leseratten）の発音を練習をし、わからない単語は辞書で調べておく。その際、完璧な日本語訳を作ってくる必要はないので、文の構造を考え、学習する（した）文法事項を確認しながら意味をとっておくことが大事です。 復習は、教科書に出てきた単語を覚えること。そして、テキストを音読したり、音声を聞いたりしながら、学習した文法事項を再度確認してください。そして、わからないことがあった場合は、次の授業で質問できるよう準備をしておくこと。		
5. 教科書 『ドイツに行ってみませんか〈Ver. 4〉』、佐藤和弘、Heike Pinnau、中村俊子著、郁文堂（¥2500＋税） （ドイツ語Ⅰa と同じ教科書を使用します。）		
6. 参考書 授業内で適宜紹介します。辞書についても初回の授業で案内をします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験 60% 平常点（授業への参加度、小テストなど）40%		
9. その他 語学は練習と実践が大事です。授業に積極的に参加して下さい。なお、授業中のスマホ使用は、基本的には禁止とします。タブレットやパソコンをノートとして使用する場合は、授業に集中できるように、通知などを切る設定をお願いします。		

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅱb 農	1 単位	松島 渉
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅱb 農		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 Ⅱbに引き続き、ドイツ語の基本的な会話を学びます。教科書の会話文で扱われたテーマに関しても適宜補足し、ドイツの日常生活や社会的・文化的背景も学んでいきます。 《授業の概要》 教科書の例文に従って、会話練習を行います。同じ表現の一部を変えるパターンプラクティスで基本表現を覚えます。		
2. 授業内容 第1回： 春学期の復習、時刻の言い方 第2回： 非人称の es、分離動詞、従属接続詞、動詞をつかった表現の語順 第3回： 名詞の前につく形容詞の変化 第4回： 日付の言い方、序数 第5回： 体調が悪いときの言い方、過去形 第6回： 過去に起きたことの表現方法、現在完了形 第7回： 受動文、比較表現 第8回： ここまで学んだ表現を組み合わせた会話練習 第9回： 自分自身に向けた表現、再帰代名詞 第10回： 所有の3格、再帰動詞 第11回： zu 不定詞、ドイツのクリスマス 第12回： ここまで学んだ表現を組み合わせた会話練習 第13回： 春学期で学んだ事項も含めた表現のおさらい 第14回： a: 今学期のまとめ, b: 試験		
3. 履修上の注意 授業ではパートナー練習や音声メディアを使ったヒアリング等を行います。原則として予習は必要ありませんが、その分受講者には集中して授業を受けることが求められます。コミュニケーション能力は語学力だけによるものではありません。積極的に授業に参加しましょう。無断欠席が4回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習として授業内で練習した会話表現を、最低1回は実際に声に出して発音しましょう。また、教科書内の問題を復習の課題として指定することがあります。次回までに準備すべきことがある場合、授業内で指示します。		
5. 教科書 『ドイツに行ってみませんか〈Ver. 4〉』佐藤和弘、Heike Pinnau、中村雅美 2025 年 郁文堂		
6. 参考書 外国語学習に辞書は必須です。自学自習のためにも必要です。特に指定はしませんが必ず辞書は持っておきましょう。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説します。		
8. 成績評価の方法 定期試験 7 割、平常点（出席・授業参加・小テストなど）3 割		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅱb 政	1 単位	木村 裕一
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅱb 政		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 前期に引き続き、会話表現や短いテキストの読解練習などを通じ、ドイツ語の語彙や発音、文法事項に関する理解を深めていきます。 また、語学学習と同時にドイツ語圏の文化や社会について関心をもってもらうことも目的としています。少しでも第二外国語学習のモチベーションを高めてもらうために、できるだけ無理なく楽しく授業していきたいと思います。 〈到達目標〉 基礎的なドイツ語の語彙や表現、文法規則を理解し、短いテキストや日常的な会話内容であれば理解できるようになること、またそれらを正確に発音できるようになること 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回： 前期の復習 第 2 回： Lektion 6 Beim Studentenwohnheim 第 3 回： Lektion 7 Zum Wannsee (1) 第 4 回： Lektion 7 Zum Wannsee (2) 第 5 回： Lektion 8 Beim Friseur (1) 第 6 回： Lektion 8 Beim Friseur (2) 第 7 回： Lektion 9 In einem Biergarten (1) 第 8 回： Lektion 9 In einem Biergarten (2) 第 9 回： Lektion 10 In einer Boutique (1) 第 10 回： Lektion 10 In einer Boutique (2) 第 11 回： Lektion 11 Philipps Geburtstag (1) 第 12 回： Lektion 11 Philipps Geburtstag (2) 第 13 回： Lektion12 Vor der Abreise 第 14 回： 今学期のまとめ		
3. 履修上の注意 ・対面授業における 10 分以上の遅刻は、理由にかかわらず、3 回で 1 回分の欠席とみなします。 ・5 回以上欠席がある場合、履修意思がないものと判断し、不合格とします（ただし特別な事由等がある場合は適宜対応しますので必ず連絡すること）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 ・予定されている課で学習する文法事項を確認すること ・新しく出てきた単語を辞書で調べ、意味を確認すること 〈復習〉 ・各回ごとに学習した例文やテキストの発音を正確に再現できるよう練習すること ・宿題がある場合はそれらを行うこと ・小テストがある場合は、そのための準備をすること		
5. 教科書 清野智昭『ドイツ語の時間 <恋するベルリン>』朝日出版、ISBN：978-4-255-25393-0		
6. 参考書 ドイツ語の辞書（電子辞書も可）は必ず購入し、毎授業持参するようにしてください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを用いた課題の場合、提出後に表示される解答・解説を確認すること。		
8. 成績評価の方法 オンデマンド型小テスト： 50％ 授業内筆記テスト： 50％ 1 課ごとにオンデマンド形式にて小テストを実施します。 また、授業内で筆記テストを対面形式にて実施します。 授業内筆記テストのスケジュールについては授業内で告知します。		

その他、授業態度も考慮します。特に積極的な発言や質問などは評価します。

授業中の課題指示に従わず関係のない行為を続け、数回の注意を経ても改善されない場合、履修意思がないものとみなしそれまでの成績にかかわらず不合格とします。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅱb 化	1 単位	木村 裕一
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅱb 化		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 前期に引き続き、会話表現や短いテキストの読解練習などを通じ、ドイツ語の語彙や発音、文法事項に関する理解を深めていきます。 また、語学学習と同時にドイツ語圏の文化や社会について関心をもってもらうことも目的としています。少しでも第二外国語学習のモチベーションを高めてもらうために、できるだけ無理なく楽しく授業していきたいと思います。 〈到達目標〉 基礎的なドイツ語の語彙や表現、文法規則を理解し、短いテキストや日常的な会話内容であれば理解できるようになること、またそれらを正確に発音できるようになること 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回： 前期の復習 第 2 回： Lektion 6 Beim Studentenwohnheim 第 3 回： Lektion 7 Zum Wannsee (1) 第 4 回： Lektion 7 Zum Wannsee (2) 第 5 回： Lektion 8 Beim Friseur (1) 第 6 回： Lektion 8 Beim Friseur (2) 第 7 回： Lektion 9 In einem Biergarten (1) 第 8 回： Lektion 9 In einem Biergarten (2) 第 9 回： Lektion 10 In einer Boutique (1) 第 10 回： Lektion 10 In einer Boutique (2) 第 11 回： Lektion 11 Philipps Geburtstag (1) 第 12 回： Lektion 11 Philipps Geburtstag (2) 第 13 回： Lektion12 Vor der Abreise 第 14 回： 今学期のまとめ		
3. 履修上の注意 ・対面授業における 10 分以上の遅刻は、理由にかかわらず、3 回で 1 回分の欠席とみなします。 ・5 回以上欠席がある場合、履修意思がないものと判断し、不合格とします（ただし特別な事由等がある場合は適宜対応しますので必ず連絡すること）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 ・予定されている課で学習する文法事項を確認すること ・新しく出てきた単語を辞書で調べ、意味を確認すること 〈復習〉 ・各回ごとに学習した例文やテキストの発音を正確に再現できるよう練習すること ・宿題がある場合はそれらを行うこと ・小テストがある場合は、そのための準備をすること		
5. 教科書 清野智昭『ドイツ語の時間 <恋するベルリン>』朝日出版、ISBN：978-4-255-25393-0		
6. 参考書 ドイツ語の辞書（電子辞書も可）は必ず購入し、毎授業持参するようにしてください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストは採点后、授業あクラスウェブを用いた課題の場合、提出後に表示される解答・解説を確認すること。内にて返却します。		
8. 成績評価の方法 オンデマンド型小テスト： 50％ 授業内筆記テスト： 50％ 1 課ごとにオンデマンド形式にて小テストを実施します。 また、授業内で筆記テストを対面形式にて実施します。 授業内筆記テストのスケジュールについては授業内で告知します。		

その他、授業態度も考慮します。特に積極的な発言や質問などは評価します。
授業中の課題指示に従わず関係のない行為を続け、数回の注意を経ても改善されない場合、履修意思がないものとみなしそれまでの成績にかかわらず不合格とします。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN121N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅱb 生	1 単位	羽田野 まち子
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅱb 生		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツ語の基礎を養うこと。また、ドイツ語の学習を通してヨーロッパ（とくにドイツ語圏）の文化・社会についての理解を深める。 《授業の概要》 ドイツ語初習者を対象に、ドイツ語文法の基礎的な知識を身につけ、簡単なドイツ語を自力で読んだり書いたり話したりできるように練習をしていく。春学期に引き続き、練習問題や会話練習、テキスト講読を通じてドイツ語の構造を読み解く力を養っていく。		
2. 授業内容 第1回：春学期の復習・確認 第2回：Lektion 6：Der Beginn des Wintersemesters 第3回：Lektion 6：週末に何をした？ 第4回：Lektion 7：Unser Wald 第5回：Lektion 7：一番好きなのは… 第6回：Lektion 8：Berlin hat viele Gesichter 第7回：Lektion 8：ケガ・病気 第8回：ここまでのまとめ 第9回：Lektion 9：Auf dem Weihnachtsmarkt 第10回：Lektion 9：気持ちや状況を相手に伝えよう 第11回：Lektion 10：Klimaschutz und Zukunft 第12回：Lektion 10：議論・意見を交わそう！ 第13回：ここまでのまとめ 第14回：a. 1年間のまとめ b. 定期試験		
3. 履修上の注意 必ず事前に辞書を引いて教科書の練習問題や読解問題の予習をしてくること。また授業にも辞書を持参すること。なお、5回以上の欠席は履修放棄と見なします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、Dialog と購読部分（Für Leseratten）の発音を練習をし、わからない単語は辞書で調べておく。その際、完璧な日本語訳を作ってくる必要はないので、文の構造を考え、学習する（した）文法事項を確認しながら意味をとっておくことが大事です。 復習は、教科書に出てきた単語を覚えること。そして、テキストを音読したり、音声を聞いたりしながら、学習した文法事項を再度確認してください。そして、わからないことがあった場合は、次の授業で質問できるよう準備をしておくこと。		
5. 教科書 『ドイツに行ってみませんか〈Ver. 4〉』、佐藤和弘、Heike Pinnaу、中村俊子著、郁文堂（¥2500＋税） （ドイツ語Ⅱaと同じ教科書を使用します。）		
6. 参考書 授業内で適宜紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験 60% 平常点（授業への参加度、小テストなど）40%		
9. その他 語学は練習と実践が大事です。授業に積極的に参加して下さい。授業中のスマホ使用は、基本的に禁止とします。タブレットやパソコンをノートとして使用する場合は、授業に集中できるように、通知を切るようにしておいてください。		

科 目 名	単位数	担当者
ドイツ語Ⅲについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 ドイツ語をさらに深く学びたい人のために、自由選択科目として設けられています。二年次から四年次までのどの時期にも履習でき、重複履習が可能なうえ、同一年度内に複数のドイツ語Ⅲ科目を履習することもできます。少人数でじっくり学ぶことができ、大学の語学授業の楽しみを味わうことのできる科目です。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 一年次の授業で扱い切れなかった事柄を補いつつ、さらにドイツ語の運用能力を高めるため、一年次の学習を基礎に、履修者の希望も取り入れながら、コミュニケーション力の強化や、中級・上級テキストの講読などを行います。又、ことばの背景となる文化・社会の理解にも踏み込んだ解説を行います。 個々の授業内容に関しては該当するシラバスを参照してください。		
3. 履修上の注意 語学の授業なので予習することが必要です。そして自分なりの目標をたてることがそれを容易にしてくれるものと思います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当者の指示に従って下さい。		
5. 教科書 各科目のシラバスを参照して下さい。		
6. 参考書 担当者の指示に従うこと。		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「ドイツ語会話」、夏期に実施される「ドイツ語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN221N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅲ (1)	1 単位	辻 朋季
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅲ (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 1 年次に学んだ文法事項を復習しつつ、中級文法も習得し、込み入ったドイツ語の文章を正確に読み解く力を養います。読解テキストのテーマに関連して、ドイツの現代事情や人々の暮らしなどについても学び、ドイツ語の奥深さやドイツ人の思考様式にも触れていきたいと思ひます。またテーマに関する議論の場も設け、会話の練習もします。 《授業の概要》 履修者の興味・関心に応じて、こちらで読解用のテキストを用意します（ドイツ語圏のニュースサイトから引用しますが、難解な語句や表現には注を付けます）。ドイツ語の読解を通して、応用力を身に付けるとともに、ドイツ語圏の社会・文化事情についての知識も高めていきます。		
2. 授業内容 （以下の内容は、現時点で想定している内容ですが、履修者の希望に応じて適宜変更も可能です。またレベルについても、受講者に応じて柔軟に設定していきたいと思ひます。） 第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 初級文法の復習・短いテキストの速読 第 3 回： 2025 年のドイツ（オーストリア・スイス）を振り返る 第 4 回： ドイツの公共交通機関定期（ドイツチケット）について 第 5 回： ドイツ人と兵役 第 6 回： 閉店法と休日営業の是非について 第 7 回： ドイツ語圏のキャッシュレス事情 第 8 回： ドイツの夏とグリルパーティー 第 9 回： ドイツ語圏の宅配サービス事情 第 10 回： ドイツの若者とシェアハウス (WG) 第 11 回： ドイツのビール（の消費量減少）について 第 12 回： ドイツのスイーツについて 第 13 回： ドイツ映画の鑑賞 第 14 回： a：今学期のまとめ		
3. 履修上の注意 予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくること。学生の主体的な授業参加が求められます。 無断欠席が 4 回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に当たっては、単に辞書の意味を調べるだけでなく、単語の用例やイディオムにも気を配り、文脈全体の流れを掴めるようにすることが重要です。		
5. 教科書 読解テキストのプリントを配布します。		
6. 参考書 『必携ドイツ文法総まとめ』、中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著、白水社、2003 年。 『もやもやを解消！ドイツ語文法ドリル』、辻朋季、三修社、2015 年。 『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季、三修社、2023 年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の一部は、クラスウェブを通して返却・コメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業参加・小テストなど）6 割、定期試験 4 割（但し受講者が少なく、平常点で評価が可能な場合には試験を課さない場合もあります）。		
9. その他 研究室は第一校舎 3 号館 407 号室、オフィスアワーは授業時に伝えます。		

科目ナンバー (AG) LAN221N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅲ (2)	1 単位	木村 裕一
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅲ (2)		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ドイツ語の初級文法をひとつとおり学んだ学生を対象とし、基礎文法を確認しながら会話に重点をおいた授業を行います。また、短めのドイツ語のテキスト読解を通じ、語彙力や辞書の引き方なども確認していきます。 授業では主にグループワークで会話練習や読解練習を行います。 〈到達目標〉 ドイツ語で簡単な会話ができるようにするための語彙力や表現力、またドイツ語での情報収集のために必要な最低限の読解力を要請することを目標とします。 食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回： ガイダンス、基本的な会話表現の確認 第 2 回： Lektion1 Reisen (1) 第 3 回： Lektion1 Reisen (2) 第 4 回： Lektion1 Reisen (3) 第 5 回： Lektion2 In der Stadt (1) 第 6 回： Lektion2 In der Stadt (2) 第 7 回： Lektion2 In der Stadt (3) 第 8 回： Lektion3 Typisch Stadt, typisch Land (1) 第 9 回： Lektion3 Typisch Stadt, typisch Land (2) 第 10 回： Lektion3 Typisch Stadt, typisch Land (3) 第 11 回： Lektion4 Sport, Gesundheit und Freizeit (1) 第 12 回： Lektion4 Sport, Gesundheit und Freizeit (2) 第 13 回： Lektion4 Sport, Gesundheit und Freizeit (3) 第 14 回： 今学期のまとめ		
3. 履修上の注意 進捗に応じて授業計画を一部変更する可能性があります、その際には授業内で連絡します。 平常点（授業参加態度や授業内課題に対する評価）を重視します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習内容については、授業ごとに指示を出しますので、それに従ってください。 復習としては、授業時に不明だった点がないかどうか確認し、次回以降にきちんと質問の形でアウトプットができるようにしておいてください。		
5. 教科書 藤原三枝子ほか著『Start frei! 2』三修社、2019 年		
6. 参考書 初級ドイツ語学習時に使っていた教科書や参考書、辞書。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内にて講評します。		
8. 成績評価の方法 授業内課題： 80% 授業内で指示された課題に対する評価です。 欠席の場合、その回については 0 点となります（ただし、特別な事情がある場合は適宜対応します）。 期末課題： 20% 授業内で扱ったドイツ語の会話練習を口述で行います。 こちらの質問をきちんと聞き取って理解できているか、それに対し適切に解答できているかを評価基準とします。 質問内容や答え方については授業内で事前に指導します。		

9. その他

学習者のレベルに合わせて、適宜学習計画を調整・変更する可能性があります。

科目ナンバー (AG) LAN221N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅲ (3)	1 単位	金子 祥之
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅲ (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「旅行」「グリム童話」「世界遺産」など、ドイツの現代文化をテーマとするテキストを読みながら、ドイツ語文法と読解の練習を行います。まとまった量のドイツ語を読むことでドイツ語の読み方を学び、単に日本語に訳すだけではなく、ドイツ語の言語表現の多様性を楽しむことができるようになることを目標とします。テキストを読むための基礎的知識である初級文法や単語の意味、発音のルールについては授業中に説明や復習を行いますので、ドイツ語が苦手な方でも大丈夫です。ドイツ語で書かれた文章を音読をしながら読みすすめて、ドイツ語表現を学びながら、ドイツ語圏の歴史や文化、抱えている様々な社会問題なども学んでいきたいと思います。また、テキストの内容に関する補足資料の紹介なども併せて行っていこうと考えています。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 まとまった量のドイツ語を読み、基本文法を用いた作文ができることを目標とします。 《授業の概要》 ドイツ語で書かれた文化論を読みながら、ドイツ語文法の定着と読解力の向上を目指します。		
2. 授業内容 第 1 回：a：イントロダクション b：基本文法の復習 第 2 回：読解演習 第 3 回：読解演習 第 4 回：読解演習 第 5 回：読解演習 第 6 回：読解演習 第 7 回：読解演習 第 8 回：読解演習 第 9 回：読解演習 第 10 回：読解演習 第 11 回：読解演習 第 12 回：読解演習 第 13 回：読解演習 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 辞書を一冊用意してください（電子辞書も可）。必要な文法や単語に関しては授業時に解説いたします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 入念に予習を行ってください。不明な部分に関しては放置せずに必ず質問するよう心掛けてください。		
5. 教科書 『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化 8 章 プラス・エクストラ』（和泉雅人ほか著 三修社）		
6. 参考書 適宜指示いたします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（50％）及び課題評価（50％）		
9. その他 連絡先：初回授業時に示します。		

科目ナンバー (AG) LAN221N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅲ (4)	1 単位	辻 朋季
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅲ (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 1 年次に学んだ文法事項を復習しつつ、中級文法も習得し、込み入ったドイツ語の文章を正確に読み解く力を養います。読解テキストのテーマに関連して、ドイツの現代事情や人々の暮らしなどについても学び、ドイツ語の奥深さやドイツ人の思考様式にも触れていきたいと思ひます。またテーマに関する議論の場も設け、会話の練習もします。 《授業の概要》 履修者の興味関心に応じて、こちらで読解用のテキストを用意します。ドイツ語の読解を通して、応用力を身に付けるとともに、ドイツ語圏の社会・文化事情についての知識も高めていきます。		
2. 授業内容 (以下のテーマは暫定的なものなので、履修者の興味に応じて適宜変更可能です。またレベルについても、受講者に応じて柔軟に設定していきたいと思ひます。) 第 1 回： オリエンテーション（授業の進め方について・テーマについての意見募集） 第 2 回： ドイツ人と政治、選挙について 第 3 回： ドイツ人と有機食品 (BIO) 第 4 回： オーストリアのカフェ文化について 第 5 回： スイスの言語事情について (4 つの公用語) 第 6 回： ドイツとオリンピック (ベルリン、ミュンヘンなど) 第 7 回： ベルリンの壁について 第 8 回： 映画鑑賞 (東西ドイツ分断に関して) 第 9 回： ドイツの学生生活について 第 10 回： ドイツのアルバイト事情、最低賃金 第 11 回： ドイツ人と旅行 第 12 回： ドイツと日本のつながり 第 13 回： ドイツの就活事情 第 14 回： a：今学期のまとめ		
3. 履修上の注意 予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくることを。学生の主体的な授業参加が求められます。 無断欠席が 4 回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に当たっては、単に辞書の意味を調べるだけでなく、単語の用例やイディオムにも気を配り、文脈全体の流れを掴めるようにすることが重要です。		
5. 教科書 読解プリントを配布します。		
6. 参考書 『必携ドイツ文法総まとめ』、中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著、白水社、2003 年。 『もやもやを解消！ドイツ語文法ドリル』、辻朋季、三修社、2015 年。 『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季、三修社、2023 年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の一部は、クラスウェブを通して返却・コメントを行います。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業参加・小テストなど）6 割、定期試験 4 割（但し受講者が少なく、平常点で評価が可能な場合には試験を課さない場合もあります）。		
9. その他 研究室は第一校舎 3 号館 407 号室、オフィスアワーは授業時に伝えます。		

科目ナンバー (AG) LAN221N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅲ (5)	1 単位	木村 裕一
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅲ (5)		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ドイツ語の初級文法をひとつとおり学んだ学生を対象とし、基礎文法を確認しながら会話に重点をおいた授業を行います。また、短めのドイツ語のテキスト読解を通じ、語彙力や辞書の引き方なども確認していきます。 前学期に引き続き、同様の教科書の後半を扱う予定です。 授業では主にグループワークで会話練習や読解練習を行います。 〈到達目標〉 ドイツ語で簡単な会話ができるようにするための語彙力や表現力、またドイツ語での情報収集のために必要な最低限の読解力を要請することを目標とします。 食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回： ガイダンス、基本的な会話表現の確認 第 2 回： Lektion5 Schule und Ausbildung (1) 第 3 回： Lektion5 Schule und Ausbildung (2) 第 4 回： Lektion5 Schule und Ausbildung (3) 第 5 回： Lektion6 Dienstleistungen (1) 第 6 回： Lektion6 Dienstleistungen (2) 第 7 回： Lektion6 Dienstleistungen (3) 第 8 回： Lektion7 Feste feiern (1) 第 9 回： Lektion7 Feste feiern (2) 第 10 回： Lektion7 Feste feiern (3) 第 11 回： Lektion8 Prüfungstraining A2 (1) 第 12 回： Lektion8 Prüfungstraining A2 (2) 第 13 回： Lektion8 Prüfungstraining A2 (3) 第 14 回： 今学期のまとめ		
3. 履修上の注意 進捗に応じて授業計画を一部変更する可能性があります、その際には授業内で連絡します。 平常点（授業参加態度や授業内課題に対する評価）を重視します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習内容については、授業ごとに指示を出しますので、それに従ってください。 復習としては、授業時に不明だった点がないかどうか確認し、次回以降にきちんと質問の形でアウトプットができるようにしておいてください。		
5. 教科書 藤原三枝子ほか著『Start frei! 2』三修社、2019 年		
6. 参考書 初級ドイツ語学習時に使っていた教科書や参考書、辞書。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内にて講評します。		
8. 成績評価の方法 授業内課題： 80% 授業内で指示された課題に対する評価です。 欠席の場合、その回については 0 点となります（ただし、特別な事情がある場合は適宜対応します）。 期末課題： 20% 授業内で扱ったドイツ語の会話練習を口述で行います。 こちらの質問をきちんと聞き取って理解できているか、それに対し適切に解答できているかを評価基準とします。 質問内容や答え方については授業内で事前に指導します。		

9. その他

学習者のレベルに合わせて、適宜学習計画を調整・変更する可能性があります。

科目ナンバー (AG) LAN221N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ドイツ語Ⅲ (6)	1 単位	金子 祥之
2022～2025 年度入学者 ドイツ語Ⅲ (6)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 春学期と同様に、ドイツ語で書かれたエッセイを読み、ドイツ語の読解力と表現力のさらなる向上をめざします。ドイツ語で書かれた文章を音読をしながら読みすすめ、ドイツ語表現を学びながら、ドイツ語圏の歴史や文化、抱えている様々な社会問題なども学んでいきたいと思ひます。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 まとまった量のドイツ語を読み、基本文法を用いた作文ができることを目標とします。 《授業の概要》 ドイツ語で書かれた現代文化論を読みながら、ドイツ語文法の定着と読解力の向上を目指します。		
2. 授業内容 第 1 回：a: イントロダクション b: 基本文法の復習 第 2 回：読解演習 第 3 回：読解演習 第 4 回：読解演習 第 5 回：読解演習 第 6 回：読解演習 第 7 回：読解演習 第 8 回：読解演習 第 9 回：読解演習 第 10 回：読解演習 第 11 回：読解演習 第 12 回：読解演習 第 13 回：読解演習 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 辞書を一冊用意してください（電子辞書も可）。必要な文法や単語に関しては授業時に解説いたします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 入念に予習を行ってください。不明な部分に関しては放置せずに必ず質問するよう心掛けてください。		
5. 教科書 『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化 8 章 プラス・エクストラ』（和泉雅人ほか著 三修社）		
6. 参考書 適宜指示いたします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（50％）及び課題評価（50％）		
9. その他 連絡先：初回授業時に示します。		

科 目 名	単位数	担当者
フランス語Ⅰについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語が話されているのはフランス本土のみではありません。ヨーロッパ・アフリカを中心に現在世界の30カ国以上で約3億人にのぼる人々がフランス語を公用語または共通語として話しています。フランス語は、国連やオリンピック、またビジネスにおいても、英語に次いでスペイン語などと並ぶ世界で最も使用頻度の高い言語の1つだといえるでしょう。 「フランス語Ⅰ」の授業では、大学1年目に初めて触れるフランス語のしくみ（文法）とその機能を知ると同時に、言語の背景となる文化にふれる機会が提供されます。フランス語という新たな外国語を学ぶ過程を通し、世界の多様性に目を向けるベースを築くことが、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ（別欄参照）に共通する目的です。 尚、農学科食糧生産・環境コースにおいて「フランス語Ⅰ」は、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 フランス語Ⅰでは、原則として言葉のしくみである文法の習得に重点が置かれます。 様々な国の出身者が国境を越えて出会う機会の多い現代社会において、言語はコミュニケーションの道具として習得されることが望まれます。従って、規則を暗記するのみに留まらず、初歩的な会話や、短い文章に触れ、色々な文法事項が実際にどのようなはたらきを持つかを確かめ取ることに重点が置かれます。 （各回の授業内容の詳細、準備の必要性等については、担当教員の指導に従って下さい。）		
3. 履修上の注意 仏和辞典を購入すること。外国語取得の早道は、なるべく多くの時間、学習言語に触れることだと言われます。従って、授業への出席は基本条件といえるでしょう。各授業で使用される教材のCDを聴く努力も大切です。また、授業以外でも生のフランス語に触れることができる、メディア・ライブラリー（中央校舎）所蔵の音声・映像資料なども利用しましょう。 「フランス語Ⅰa」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「フランス語Ⅰa」の授業(学科は問いません)から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。 また「フランス語Ⅰb」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「フランス語Ⅰb」の授業から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
5. 教科書 担当者の指示に従って下さい。		
6. 参考書 『Le Dico 現代フランス語辞典』（白水社） 『クラウン仏和辞典』（三省堂） 『ロワイヤル仏和中辞典』（旺文社） 『新スタンダード仏和辞典』（大修館）		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。（基本的に期末試験60点以上が単位修得の最低条件となります。また、出席は加点の対象にはならず、全授業の3分の1以上の欠席があった場合は原則として評価の対象から外れます。）		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「フランス語会話」、夏期に実施される「フランス語会話（集中講座）」などについての説明を参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語 I a 農	1 単位	小谷 奈津子
2022～2025 年度入学者 フランス語 I a 農		
1. 授業の概要・到達目標 初級文法と、短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典が引ける、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。		
2. 授業内容 [第1回] a: イントロダクション、b: アルファベ、あいさつ表現 [第2回] 1 課 名詞、冠詞、提示表現、国名、練習 [第3回] 練習・Par coeur [第4回] 2 課 主語人称代名詞、-er 動詞、曜日、数詞、練習 [第5回] 練習・Par coeur [第6回] 3 課 動詞 etre、形容詞、国籍、職業 [第7回] 練習・Par coeur [第8回] 4 課 動詞 avoir、否定文、疑問文 [第9回] 練習・Par coeur [第10回] 5 課 動詞 prendre／faire、指示形容詞、所有形容詞 [第11回] 練習・Par coeur [第12回] 6 課 動詞 aller／venir、近接未来／近接過去、疑問副詞 [第13回] 練習・Par coeur [第14回] a: 試験、b: まとめ		
3. 履修上の注意 連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。 授業には仏和辞典を必ず持参すること。初回授業で案内します。 音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もって録音を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書で調べておくこと。 授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、毎日の積み重ねが重要です。 以上の準備学習には毎週2時間は必要です。		
5. 教科書 『エスプラナード1』、久富、小谷、森著、（朝日出版社）		
6. 参考書 必要とあれば授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で回答します。		
8. 成績評価の方法 平常点（発表・課題提出・小テスト）60％、定期試験（筆記）40％で評価します。 教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語 I a 政	1 単位	宮川 慎也
2022～2025 年度入学者 フランス語 I a 政		
1. 授業の概要・到達目標 ＜人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう＞。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。 外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。 この授業では、アルファベや綴り字の読み方から始めて、初級文法の前半程度の知識を身につけ、現在形の簡単な文章が読めるようになることを目指します。そして、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端にも触れていきましょう。 到達目標は以下のようです。 ・日常生活に必要な程度のフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになるための文法を身につける。 ・国際的な分野で活躍できる視野を養う。 ・資格を増やすため、フランス語検定の受験準備をも念頭に置いて進める。		
2. 授業内容 受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。 第1回 アルファベ、発音と綴り字（前） 第2回 発音と綴り字（後）、主語人称代名詞、動詞 être 第3回 形容詞の性数一致、名詞の性と数、不定冠詞 第4回 動詞 avoir、否定文 第5回 定冠詞、第一群規則動詞 第6回 疑問文の作り方、指示形容詞 第7回 所有形容詞、強勢形 第8回 形容詞の位置・女性形と複数形 第9回 疑問代名詞、疑問副詞 第10回 近接未来・近接過去、前置詞と定冠詞の縮約 第11回 中性代名詞 y、疑問形容詞 第12回 非人称動詞と非人称構文 第13回 部分冠詞、数量の表現、中性代名詞 en 第14回 a 期末試験 / b 正答解説		
3. 履修上の注意 読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・次回の授業の読解箇所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう（辞書を引いて、各自訳しておく）。 ・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。 ・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。		
5. 教科書 『新・東京-パリ、初飛行』（新訂増補版）藤田裕二ほか著（駿河台出版）		
6. 参考書 仏和辞典は毎回持参しましょう。なお、辞書の選び方は初回授業やクラスウェブで説明します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。		
8. 成績評価の方法 試験…100%。ただし、平常点（和訳の発表、受講態度など）を、20%程度の範囲で加点・減点する場合があります。 評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。		
9. その他 教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語 I a 化	1 単位	今関 アン
2022～2025 年度入学者 フランス語 I a 化		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語は世界の多くの国や地域で使用され、国際機関の公用語・作業言語にもなっています。この授業では、フランスの誇るパリの街の映像や情報が盛り込まれたテキストを中心に、将来の実践的なフランス語を使いこなせるよう基礎学習を行います。 《授業の概要》 まず文法を学んでこれを使って表現できる優しい日常会話も同時に練習します。教室での学習時には、声を出して練習してください。またフランス語の発音についても細かく学んでいきます。		
2. 授業内容 第 1 回 a: アンケート／座席決め／イントロダクション：フランスについて、フランス語の歴史 b: アルファベ／単母音字の発音 第 2 回 綴り字と発音／数 第 3 回 パン屋で／名詞の性／不定冠詞・定冠詞 第 4 回 提示の表現 第 5 回 パリ発祥の地、シテ島／主語人称代名詞 第 6 回 être / avoir 第 7 回 まとめと復習 (1) 第 8 回 凱旋門とエッフェル塔／-er 動詞 第 9 回 疑問文 第 10 回 パリのマルシェ／部分冠詞 第 11 回 複数形／否定文 第 12 回 美術館で／形容詞 第 13 回 指示形容詞／所有形容詞 第 14 回 まとめと復習 (2)		
3. 履修上の注意 ・小テスト未受験-3、課題未提出-5 点と減点するので要注意。 ・Web コンテンツを使って十分に復習した後、各課の小テストを受け、ポートフォリオに記録して提出すること ・宿題・連絡事項は oh-o! Meiji の class web で告知するので、必ず確認すること。 ・教科書・辞書を忘れた場合、受講態度不良と見なし、欠席とする。 ・必要教材は oh-o! meiji から各自ダウンロードやプリントアウトしておくこと。また授業ではノートパソコン、タブレット端末、スマートフォンを持参するように。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 小テスト・課題のマイナス点が大きいので、日々の予習・復習を欠かさないように。 予習は該当箇所の単語調べ、これまで学んだつづり字と発音の規則を確認して新しいところを読めるようにする。予習時間の目安は 30 分。 復習 60 分は学習事項の練習問題、会話練習、ネット教材での復習にあてること。 また随時フランス関係の展覧会・映画・講演を紹介する。語学のみならずフランス文化に積極的に接することを期待する。		
5. 教科書 『改訂版 なびふらんせ 1』有富智世他著、朝日出版社		
6. 参考書 http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解答・説明する。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験 100% ・小テスト未受験、課題未提出点は定期試験の点数から減じる。評点 60 点以上を合格とする。		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語 I a 生	1 単位	小谷 奈津子
2022～2025 年度入学者 フランス語 I a 生		
1. 授業の概要・到達目標 初級文法と短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典を引いて語彙を調べられる、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。		
2. 授業内容 〔第 1 回〕 a: イントロダクション、b: アルファベ、あいさつ表現 〔第 2 回〕 1 課 名詞、冠詞、提示表現、国名、練習 〔第 3 回〕 練習・Par coeur 〔第 4 回〕 2 課 主語人称代名詞、-er 動詞、曜日、数詞、練習 〔第 5 回〕 練習・Par coeur 〔第 6 回〕 3 課 動詞 etre、形容詞、国籍、職業 〔第 7 回〕 練習・Par coeur 〔第 8 回〕 4 課 動詞 avoir、否定文、疑問文 〔第 9 回〕 練習・Par coeur 〔第 10 回〕 5 課 動詞 prendre／faire、指示形容詞、所有形容詞 〔第 11 回〕 練習・Par coeur 〔第 12 回〕 6 課 動詞 aller／venir、近接未来／近接過去、疑問副詞 〔第 13 回〕 練習・Par coeur 〔第 14 回〕 a: 試験、b: まとめ		
3. 履修上の注意 連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。 授業には仏和辞典を必ず持参すること。初回授業で案内します。 音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もって録音を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書をひいて調べておくこと。 授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、日々の積み重ねが重要です。 以上の準備学習には毎週 2 時間は必要です。		
5. 教科書 『エスプラナード 1』、久富、小谷、森著、（朝日出版社）		
6. 参考書 必要とあれば授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で回答します。		
8. 成績評価の方法 平常点（発表・課題提出・小テスト）60%、試験 40% で評価します。 教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語 I b 農	1 単位	小谷 奈津子
2022～2025 年度入学者 フランス語 I b 農		
1. 授業の概要・到達目標 春学期に引き続き、初級文法と短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典を引いて語彙を調べられる、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。実用フランス語検定 4 級に挑戦できるだけの力をつけていきます。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。		
2. 授業内容 [第 1 回] 春学期の復習 [第 2 回] 7 課 補語人称代名詞、疑問代名詞、疑問形容詞 [第 3 回] 練習・Par coeur [第 4 回] 8 課 比較級と最上級、命令形、花、動詞 attendre／voir [第 5 回] 練習・Par coeur [第 6 回] 9 課 過去分詞、複合過去形、動詞 écrire／lire [第 7 回] 練習・Par coeur [第 8 回] 10 課 代名動詞、代名動詞の複合過去、一日の時の表現 [第 9 回] 練習・Par coeur [第 10 回] 11 課 半過去、中性代名詞 [第 11 回] 練習・Par coeur [第 12 回] 12 課 関係代名詞、強調構文、動詞 pouvoir／vouloir [第 13 回] 練習・Par coeur [第 14 回] a：定期試験、b：まとめ		
3. 履修上の注意 連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。 授業には仏和辞典を必ず持参すること。 音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もってフランス語を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書をひいて調べておくこと。 授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、日々の積み重ねが重要です。 以上の準備学習に毎週 2 時間は必要です。		
5. 教科書 『エスプラナード 1』、久富、小谷、森著、（朝日出版社）		
6. 参考書 必要とあれば授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で回答します。		
8. 成績評価の方法 平常点（発表・課題提出・小テスト）60%、定期試験（筆記）40%で評価します。 教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語 I b 政	1 単位	宮川 慎也
2022～2025 年度入学者 フランス語 I b 政		
1. 授業の概要・到達目標 ＜人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう＞。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。 外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台上で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。 春学期の後を受けて、この授業では、様々な時制の出てくる初級文法後半程度の知識を身につけ、時制の混ざった簡単な文章が読めるようになることを目指します。また、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端にも触れていきましょう。 到達目標は以下のようです。 ・日常生活に必要な程度のフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになるための文法を身につける。 ・国際的な分野で活躍できる視野を養う。 ・資格を増やすため、フランス語検定 4 級～3 級程度の力が身につくことを目指す。		
2. 授業内容 受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。 第 1 回 補語人称代名詞 第 2 回 代名動詞 第 3 回 命令法、命令・義務を表す表現 第 4 回 直説法単純未来 第 5 回 直説法複合過去（前） 第 6 回 直説法複合過去（後） 第 7 回 直説法半過去・大過去 第 8 回 関係代名詞、指示代名詞 第 9 回 比較級、最上級 第 10 回 受動態 第 11 回 現在分詞、ジェロンディフ 第 12 回 条件法 第 13 回 接続法 第 14 回 a 期末試験 / b 正答解説		
3. 履修上の注意 読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・次回の授業の読解箇所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう（辞書を引いて、各自訳しておく）。 ・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。 ・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。		
5. 教科書 『新・東京-パリ、初飛行』（新訂増補版）藤田裕二ほか著（駿河台出版）		
6. 参考書 仏和辞典は毎回持参しましょう。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。		
8. 成績評価の方法 試験…100%。ただし、平常点（和訳の発表、受講態度など）を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。 評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。		
9. その他 教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語 I b 化	1 単位	今関 アン
2022～2025 年度入学者 フランス語 I b 化		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語は世界の多くの国や地域で使用され、国際機関の公用語・作業言語にもなっています。この授業では、フランスの誇るパリの街の映像や情報が盛り込まれたテキストを中心に、将来の実践的なフランス語を使えるようになるよう基礎学習を行います。 《授業の概要》 まず文法を学んでこれを使って表現できる優しい日常会話も同時に練習します。教室での学習時には、声を出して練習してください。またフランス映画を鑑賞して、フランス文化の一端に触れます。		
2. 授業内容 第1回 カフェに誘う／ aller ／ venir 第2回 近接未来／近接過去／強勢形 第3回 レストランで注文する／疑問代名詞 第4回 疑問副詞／ prendre 第5回 モンマルトル散策／ -ir 動詞 第6回 疑問形容詞／非人称構文 第7回 まとめと復習（1） 第8回 買い物をする／準助動詞 第9回 比較級 第10回 道案内／命令法／目的語人称代名詞 第11回 代名動詞 第12回 過去を語る／複合過去 第13回 指示代名詞 第14回 定期試験		
3. 履修上の注意 ・小テスト未受験-3 点、課題未提出-5 点と減点するので、要注意。 ・Web コンテンツを使って十分に復習した後、各課の小テストを受け、ポートフォリオに記録して提出すること ・その他、提出物の期限は必ず守り、授業に遅刻しないこと ・宿題・連絡事項は Oh-o! Meiji の class web で告知するので、必ず確認すること ・教科書忘れは受講態度不良と見なし欠席とする		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 小テスト・課題の原点が大きいのので、日々の予習・復習を欠かさないように。 予習は該当箇所の単語調べ、これまで学んだつづり字と発音の規則を確認して新しいところを読めるようにする。予習時間の目安は 30 分。 復習 60 分は学習事項の練習問題、会話練習、ネット教材での復習にあてること。 また随時フランス関係の展覧会・映画・講演を紹介する。語学のみならずフランス文化に積極的に接することを期待する。		
5. 教科書 『改訂版 なびふらんせ 1』有富智世他著、朝日出版社		
6. 参考書 http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に解答・説明する。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験 100% ・小テスト未受験、課題未提出点は定期試験の点数から減じる。評点 60 点以上を合格とする。		
9. その他 ・出席・成績管理は各自で行うこと。出席・成績状況の質問は一切受け付けない。 ・教科書忘れ、無断退席は欠席と見なす。		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語 I b 生	1 単位	小谷 奈津子
2022～2025 年度入学者 フランス語 I b 生		
1. 授業の概要・到達目標 春学期に引き続き、初級文法と短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典を引いて語彙を調べられる、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。実用フランス語検定 4 級に挑戦できるだけの力をつけていきます。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。		
2. 授業内容 [第 1 回] 春学期の復習 [第 2 回] 7 課 補語人称代名詞、疑問代名詞、疑問形容詞 [第 3 回] 練習・Par coeur [第 4 回] 8 課 比較級と最上級、命令形、花、動詞 attendre／voir [第 5 回] 練習・Par coeur [第 6 回] 9 課 過去分詞、複合過去形、動詞 écrire／lire [第 7 回] 練習・Par coeur [第 8 回] 10 課 代名動詞、代名動詞の複合過去、一日の時の表現 [第 9 回] 練習・Par coeur [第 10 回] 11 課 半過去、中性代名詞 [第 11 回] 練習・Par coeur [第 12 回] 12 課 関係代名詞、強調構文、動詞 pouvoir／vouloir [第 13 回] 練習・Par coeur [第 14 回] a: 試験、b : まとめ		
3. 履修上の注意 連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。 授業には仏和辞典を必ず持参すること。 音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もって録音を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書をひいて調べておくこと。 授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、日々の積み重ねが重要です。 以上の準備学習に毎週 2 時間は必要です。		
5. 教科書 『エスプラナード 1』、久富、小谷、森著、(朝日出版社)		
6. 参考書 必要とあれば授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で回答します。		
8. 成績評価の方法 平常点（発表・課題提出・小テスト）60%、定期試験（筆記）40%で評価します。 教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。		
9. その他		

科 目 名	単位数	担当者
フランス語Ⅱについて	各 1 単位	
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語が話されているのはフランス本土のみではありません。ヨーロッパ・アフリカを中心に現在世界の30カ国以上で約3億人にのぼる人々がフランス語を公用語・共通語として話しています。フランス語は、国連やオリンピック、またビジネスにおいても、英語に次いでスペイン語などと並ぶ世界で最も使用頻度の高い言語の1つだといえるでしょう。 「フランス語Ⅰ」の授業では大学1年目に初めて触れるフランス語のしくみ一文法とその機能を知ると同時に、この言語の背景となる文化にふれる機会が提供されます。フランス語という新たな外国語を学ぶ過程を通し、世界の多様性に目を向けるベースを築くことが、フランス語Ⅰ（別欄参照）、フランス語Ⅱに共通する目的です。 尚、農学科食糧生産・環境コースにおいて「フランス語Ⅱ」は、学習・教育目標のA に対応する科目です。		
2. 授業内容 フランス語Ⅱでは原則として平易な文章読解や口頭表現を通して初級フランス語を学びます。フランス語Ⅰで学習した文法が、日常会話や映画・メディア、あるいはフランス語を母語とする人々を対象に書かれた記事や小説、生活に必要な説明書などの中で、どのように息づいているか観察し、また自分でも初歩的な文を書き、簡単な会話をかわせるようになることを目標とします。（各回の授業内容の詳細については、担当教員の指導に従って下さい。）		
3. 履修上の注意 担当教員の指導に従い、仏和辞典を購入すること。外国語取得の早道は、なるべく多くの時間、学習言語に触れることだと言われます。従って、授業への出席は基本条件といえるでしょう。各授業で使用される教材の音源を聴く努力も大切です。また、授業以外でも生のフランス語に触れることができる、メディア・ライブラリー（中央校舎）所蔵の音声・映像資料なども利用しましょう。 尚、「フランス語Ⅱa」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「フランス語Ⅱa」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。 また「フランス語Ⅱb」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「フランス語Ⅱb」の授業から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各授業で学んだことに関する課題・宿題等を通してしっかり復習をしましょう。初習言語の場合は、予習よりも復習がさらに大切です。		
5. 教科書 担当者の指示に従って下さい。		
6. 参考書 『Le Dico 現代フランス語辞典』（白水社） 『クラウン仏和辞典』（三省堂） 『ロワイヤル仏和中辞典』（旺文社） 『新スタンダード仏和辞典』（大修館）		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。（基本的に期末試験 60 点以上が単位修得の最低条件となります。また、出席は加点の対象にはならず、全授業の3分の1以上の欠席があった場合は原則として評価の対象から外れます。）		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「フランス語会話」、夏期に実施される「フランス語会話（集中講座）」などについての説明を参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅱa 農	1 単位	宮川 慎也
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅱa 農		
1. 授業の概要・到達目標 ＜人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう＞。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。 外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。 この授業では、初級文法前半程度の知識を身につけ、現在形の簡単な文章が読めるようになることを目指します。そして、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端にも触れていきましょう。 到達目標は以下のようです。 ・日常生活に必要なフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになる。 ・国際的な分野で活躍できる視野を養う。 ・資格を増やすため、フランス語検定の受験準備をも念頭に置いて進める。 なお、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。 第 1 回　アルファベ、綴り字の読み方 第 2 回　主語人称代名詞、基本動詞の活用 第 3 回　国籍を表す形容詞 第 4 回　名詞と不定冠詞、指示代名詞 ce 第 5 回　形容詞の性数一致と位置 第 6 回　規則動詞の活用、定冠詞 第 7 回　疑問文 第 8 回　指示形容詞 ce、動詞 avoir の活用 第 9 回　否定文、動詞 aller と近接未来 第 10 回　疑問代名詞 que, qui 第 11 回　不規則動詞 faire, partir 第 12 回　所有形容詞、疑問形容詞 第 13 回　強勢形、指示代名詞 celui 第 14 回　a 期末試験　/　b 正答解説		
3. 履修上の注意 読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・次回の授業の読解箇所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう（辞書を引いて、各自訳しておく）。 ・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。 ・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。		
5. 教科書 『パリ・ポルドー』藤田裕二著（朝日出版社）		
6. 参考書 仏和辞典は毎回持参しましょう。なお、辞書の選び方は初回授業やクラスウェブで説明します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。		
8. 成績評価の方法 試験…100%。ただし、平常点（和訳の発表、受講態度など）を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。 評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。		
9. その他 教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅱa 政	1 単位	高瀬 智子
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅱa 政		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語Ⅰで学んだ文法の知識を会話のレベルで実践するための授業です。自分について、また、身近な世界について話すことができるようになるのを目的としています。 《授業の概要》 2人あるいは3-4人のグループで、モデル表現をもとに会話練習をし、日常的な単語とその使い方を身につけます。		
2. 授業内容 [第1回] a イン트로ダクション：外国語を学ぶ意味 b 挨拶・自己紹介／教室で用いる表現 [第2回] 出合いの挨拶・別れの挨拶 [第3回] 夕方の挨拶／アルファベ／名前の綴りを言う [第4回] 名前・職業・住んでいる場所についてたずねる [第5回] 人について名前、職業、住んでいる場所をたずねる [第5回] 就きたい職業についてたずねる・答える [第6回] 国籍・話せる言語についてたずねる・答える [第7回] 人・場所について知っているかをたずねる [第8回] 色々な国で話されている言語についてたずねる・答える [第9回] 好きなものを言う・好き嫌いの程度を言い表す [第10回] どちらが好きが言う [第11回] 好きなことを言う [第12回] 週末にしたいことを言う [第13回] 電話で話す [第14回] a 表現のまとめ・口頭インタビュー b 期末試験		
3. 履修上の注意 遅刻をしないように気をつけて下さい。 遅刻2回で欠席1回とします。 授業日数の3分の1以上の欠席があった場合、原則として期末試験の受験資格は失われます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 どのような言語も間違えながら習得されるものです。授業中の積極的発言，参加が求められます。 コミュニケーションを中心とする授業となります。予習よりも復習を心がけましょう。		
5. 教科書 『新・スピラル』 ガエル・クレピュー他著 アシエット・ジャポン		
6. 参考書 『現代フランス社会を知るための62章』 三浦信孝・西山教行編著 明石書店 『地図でスッと頭に入るフランス』 ジュリ・ブランシャン・フジタ 昭文社 (その他、開講後に順次ご案内します。)		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験：70% 平常点：30%		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅱa 化	1 単位	高瀬 智子
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅱa 化		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語Ⅰで学んだ文法の知識を会話のレベルで実践するための授業です。自分について、また、身近な世界について話すことができるようになるのを目的としています。 《授業の概要》 2人あるいは3-4人のグループで、モデル表現をもとに会話練習をし、日常的な単語とその使い方を身につけます。		
2. 授業内容 [第1回] a イントロダクション：外国語を学ぶ意味 b 挨拶・自己紹介/教室で用いる表現 [第2回] 出合いの挨拶・別れの挨拶 [第3回] 夕方の挨拶／アルファベ／名前の綴りを言う [第4回] 名前・職業・住んでいる場所についてたずねる [第5回] 人について名前、職業、住んでいる場所をたずねる [第6回] 就きたい職業についてたずねる・答える [第7回] 国籍・話せる言語についてたずねる・答える [第8回] 人・場所について知っているかをたずねる [第9回] 色々な国で話されている言語についてたずねる・答える [第10回] 好きなものを言う・好き嫌いの程度を言い表す [第11回] どちらが好きか言う・好きなことを言う [第12回] 週末にしたいことを言う [第13回] 電話で話す [第14回] a 表現のまとめ・口頭インタビュー b 期末試験		
3. 履修上の注意 どのような言語も間違えながら習得されるものです。授業中の積極的発言，参加が求められます。 授業時に情報が提供される映画や展覧会などに足を運び，教室以外でもフランス語に触れましょう。 授業日数の3分の1以上の欠席があった場合，原則として期末試験の受験資格は失われます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習よりも復習をこころがけましょう（初習言語では、音源をよく聞くことが大切です）。		
5. 教科書 『新・スピラル』 ガエル・クレピュー 他著 アシエット・ジャポン		
6. 参考書 『現代フランス社会を知るための62章』 三浦信孝・西山教行編著 明石書店 『地図でスッと頭に入るフランス』 ジュリ・ブランシャン・フジタ監修 昭文社		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験：70% 平常点：30%		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅱa 生	1 単位	今関 アン
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅱa 生		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語は世界の多くの国や地域で使用され、国際機関の公用語・作業言語にもなっています。この授業では、フランスの誇るパリの街の映像や情報が盛り込まれたテキストを中心に、将来の実践的なフランス語を使えるように基礎学習を行います。 《授業の概要》 教科書に従って、DVD・発音・文法・表現・演習・読解の順に進めていきます。随時暗唱、会話、訳読などを行い、毎回発音、動詞活用・単語などのテストがあります。		
2. 授業内容 [第1回] a：アンケート，座席決め，イントロダクション：フランスについて。フランス語の歴史 b：アルファベ，単母音字の発音 [第2回] 小テスト，Lecon 1. DVD，主語人称代名詞，動詞 etre，国籍・身分を言う [第3回] 小テスト，Lecon 1. Expressions，挨拶，自己紹介，Exercices，Lecon 2. DVD [第4回] 小テスト，Lecon 2. 動詞 avoir，名詞と不定冠詞，形容詞 [第5回] 小テスト，Lecon 2. Exercices，Lecon 3. DVD，定冠詞，-er 動詞，否定文 [第6回] 小テスト，Lecon 3. Expressions，Exercices，暗唱 [第7回] L. 3 までの総復習 [第8回] 小テスト，Lecon 4. DVD，指示形容詞，動詞 faire，descendre [第9回] 小テスト，Lecon 4. 疑問文，Expressions，Exercices，Lecon 5. DVD [第10回] 小テスト，Lecon 5. 動詞 aller，venir，命令形，Expressions，Exercices [第11回] 小テスト，Lecon 5. 暗唱，Lecon 6，所有形容詞，強勢形，数字 [第12回] 小テスト，Lecon 6. 疑問形容詞，数字，Expressions，Exercices [第13回] Lecon 7. DVD，部分冠詞，動詞-ir，vouloir，Expressions，Exercices [第14回] a：試験 b：試験の解説		
3. 履修上の注意 ・小テスト未受験-3、課題未提出-5 点と減点するので要注意。 ・宿題・連絡事項は oh-o! Meiji の class web で告知するので、必ず確認すること。 ・教科書を忘れた場合、受講態度不良と見なし欠席とする。 ・必要教材は oh-o! meiji から各自ダウンロードやプリントアウトしておくこと。また授業ではノートパソコン、タブレット端末、スマートフォンを持参するように。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 小テストの比重が高いので、日々の予習・復習を欠かさないように。 予習は該当箇所の単語調べ、これまで学んだつづり字と発音の規則を確認して新しいところを読めるようにする。予習時間の目安は 30 分。 復習 60 分は学習事項の練習問題、会話練習、ネット教材での復習にあてること。 また随時フランス関係の展覧会・映画・講演を紹介する。語学のみならずフランス文化に積極的に接することを期待する。		
5. 教科書 『ピエールとユゴー[三訂版]』小笠原洋子著，白水社		
6. 参考書 http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/ ネット教材 web なびふらんせ		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解答・説明する。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験 100% ・小テスト未受験、課題未提出点は定期試験の点数から減じる。評点 60 点以上を合格とする。 ・小テスト未受験-3、課題未提出-5 点と減点するので要注意。		

9. その他

- ・出席・成績管理は各自で行うこと。出席・成績状況の質問は一切受け付けない。
- ・教科書・辞書忘れ，無断退席は欠席と見なす。

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅱb 農	1 単位	宮川 慎也
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅱb 農		
1. 授業の概要・到達目標 ＜人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう＞。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。 外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台上で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。 春学期の後を受けて、この授業では、様々な時制の出てくる初級文法後半程度の知識を身につけ、時制の混ざった文章が読めるようになることを目指します。また、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端にも触れていきましょう。 到達目標は以下のようです。 ・日常生活に必要なフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになる。 ・国際的な分野で活躍できる視野を養う。 ・資格を増やすため、フランス語検定 4 級～3 級程度の力が身につくことを目指す。 なお、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。 第 1 回 il y a～と je voudrais～の表現、定冠詞の縮約 第 2 回 補語人称代名詞 第 3 回 代名動詞 第 4 回 中性代名詞 y、動詞 vouloir 第 5 回 非人称構文、命令形 第 6 回 感嘆文、部分冠詞 第 7 回 中性代名詞 en、数量の表現 第 8 回 比較級 第 9 回 直説法単純未来形 第 10 回 直接法複合過去形 第 11 回 直説法半過去形 第 12 回 条件法現在 第 13 回 接続法現在 第 14 回 a 期末試験 / b 正答解説		
3. 履修上の注意 読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・次回の授業の読解箇所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう（辞書を引いて、各自訳しておく）。 ・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。 ・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。		
5. 教科書 『パリ・ポルドー』藤田裕二（朝日出版社）		
6. 参考書 仏和辞典は毎回持参しましょう。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。		
8. 成績評価の方法 試験…100%。ただし、平常点（和訳の発表、受講態度など）を、20%程度の範囲で加点・減点する場合があります。 評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。		
9. その他 教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅱb 政	1 単位	高瀬 智子
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅱb 政		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語Ⅰで学んだ文法の知識を会話のレベルで実践するための授業です。自分について、また、身近な世界について話すことができるようになるのを目的としています。 《授業の概要》 2人あるいは3-4人のグループで、モデル表現をもとに会話練習をし、日常的な単語とその使い方を身につけます。		
2. 授業内容 [第1回] a イン트로ダクション b 好きなことについて、その理由を話す [第2回] 色々な人を描写する [第3回] 年齢、学年について話す [第4回] 科目、時間割について話す [第5回] 持ち物について話す [第6回] ものの貸し・借りを [第7回] 色々な場所について説明する [第8回] 場所についての情報を集める [第9回] 建物に位置関係についてたずねる・答える [第10回] どの曜日・時間帯に何をするのかたずねる・答える [第11回] 手帳を見て予定を話す [第12回] 本や映画のジャンルについてたずねる・答える [第13回] 趣味について話す [第14回] a 表現のまとめ・口頭インタビュー b 期末試験		
3. 履修上の注意 遅刻をしないように気をつけて下さい。 遅刻2回で欠席1回とします。 授業日数の3分の1以上の欠席があった場合、原則として期末試験の受験資格は失われます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はしないこと（発音等、間違っ て記憶しないよう）。復習を心がけま しょう！ 提出物は平常点の対象になります （休講の場合の補講はオンデマンド配 信で行い、確認のための課題提出が求 められます。）		
5. 教科書 『新・スピラル』 ガエル・クレピュー 他著 アシェット・ジャポン		
6. 参考書 『地図でスッと頭に入るフランス』ジュリ・ブランシャン・フジタ 昭文社 雑誌『ふらんす』（白水社）Web 版：https://webfrance.hakusuisha.co.jp/		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験：70% 平常点 30%		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅱb 化	1 単位	高瀬 智子
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅱb 化		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語Ⅰで学んだ文法の知識を会話のレベルで実践するための授業です。自分について、また、身近な世界について話すことができるようになるのを目的としています。 《授業の概要》 2人あるいは3～4人のグループで、モデル表現をもとに会話練習をし、日常的な単語とその使い方を身につけます。		
2. 授業内容 [第1回] a イン트로ダクション b 好きなことについて、その理由を話す [第2回] 色々な人を描写する [第3回] 年齢、学年について話す [第4回] 科目、時間割について話す [第5回] 持ち物について話す [第6回] ものの貸し・借りを [第7回] 色々な場所について説明する [第8回] 場所についての情報を集める [第9回] 建物やモニュメントの位置関係についてたずねる・答える [第10回] どの曜日・時間帯に何をするのかたずねる・答える [第11回] 手帳を見て予定を話す [第12回] フランス映画を見てみよう！（予定） [第13回] 秋学期総復習 [第14回] a 表現のまとめ・口頭インタビュー b 期末試験		
3. 履修上の注意 どのような言語も間違えながら習得されるものです。授業中の積極的発言，参加が求められます。 授業時に情報が提供される映画や展覧会などに足を運び，教室以外でもフランス語に触れましょう。 学んだことが少しでも現実の中に現れると，フランス語の勉強もきっと楽しくなってくるのではないのでしょうか。 授業日数の3分の1以上の欠席があった場合，原則として期末試験の受験資格は失われます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習よりも復習をこころがけて下さい。教材の音源をよく聞くこと。動詞の活用なども覚えましょう！ https://www.hachette-japon.jp/spirale-complet		
5. 教科書 『新・スピラル』 ガエル・クレピュー 他著 アシェット・ジャポン		
6. 参考書 『地図でスッと頭に入るフランス』 ジュリ・ブランシャン・フジタ 昭文社 雑誌『ふらんす』（白水社）Web 版： https://webfrance.hakusuisha.co.jp/ 開講後に順次お知らせします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験：70％ 平常点：30％		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN131N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅱb 生	1 単位	今関 アン
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅱb 生		
1. 授業の概要・到達目標 授業の達成目標及びテーマ》 半期間学んだフランス語をいっそう確実なものにし、実用フランス語検定 4 級合格レベルのコミュニケーション能力、文法、読解など総合的な力を養う。また発音と綴り字の関係を完全に理解する。 《授業の概要》 春学期同様教科書に従って、DVD、会話、文法、表現、問題の順に進めていく。毎回発音・動詞活用・学習事項に関する小テスト、暗唱、会話、訳読などを行う。		
2. 授業内容 [第 1 回] 小テスト, Lecon 8. DVD, 非人称構文, 直接目的の代名詞, 動詞 pouvoir, Vocabulaire [第 2 回] 小テスト, Lecon 8. Expressions, Exercices, Lecon 9. DVD [第 3 回] 小テスト, Lecon 9. 発音, 目的の代名詞, 動詞 prendre, 代名動詞. Expressions [第 4 回] 小テスト, Lecon 9. Exercices, Lecon 10. DVD, 近接未来・過去, 中性代名詞, Expressions [第 5 回] 小テスト, Lecon 10. Exercices, Lecon 11. DVD, 比較級・最上級 [第 6 回] 小テスト, Lecon 11. Expressions. Exercices [第 7 回] L. 11 までの総復習, Lecon 12. DVD, 過去分詞, 複合過去 (1), Expressions [第 8 回] Lecon 12. Exercices, Lecon 13. DVD, 複合過去 (2), Expressions, Exercices, 小テスト [第 9 回] Lecon 14. DVD, 半過去, 大過去, Expressions, Exercices 1, 2, 小テスト [第 10 回] Lecon 14. Exercices 3. Lecon 15. DVD, 単純未来, 前未来, Expressions, 小テスト [第 11 回] Lecon 15. Exercices, Lecon 16. DVD, 条件法現在・過去, Expressions, 小テスト [第 12 回] Lecon 16. Exercices, Lecon 17. DVD, 接続法現在・過去, Expressions, 小テスト [第 13 回] Lecon 18. DVD, 関係代名詞, 小テスト [第 14 回] a : 試験 b : 解説		
3. 履修上の注意 ・小テスト未受験-3、課題未提出-5 点と減点するので要注意。 ・宿題・連絡事項は oh-o! Meiji の class web で告知するので、必ず確認すること。 ・教科書を忘れた場合、受講態度不良と見なし欠席とする。 ・必要教材は oh-o! meiji から各自ダウンロードやプリントアウトしておくこと。また授業ではノートパソコン、タブレット端末、スマートフォンを持参するように。 小テストの比重が高いので、日々の予習・復習を欠かさないように。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は該当箇所の単語調べ、これまで学んだつづり字と発音の規則を確認して新しいところを読めるようにする。予習時間の目安は 30 分。 復習 60 分は学習事項の練習問題、会話練習にあてること。 また随時フランス関係の展覧会・映画・講演を紹介する。語学のみならずフランス文化に積極的に接することを期待する。		
5. 教科書 『ピエールとユゴー [三訂版]』小笠原洋子著、白水社		
6. 参考書 http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解答・説明する。		
8. 成績評価の方法 ・定期試験 100% ・小テスト未受験、課題未提出点は定期試験の点数から減じる。評点 60 点以上を合格とする。 ・小テスト未受験-3、課題未提出-5 点と減点するので要注意。		
9. その他		

科 目 名	単位数	担当者
フランス語Ⅲについて	各 1 単位	
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 1 年次に身につけたフランス語の基礎をさらに発展させたいと考える者のために、自由選択科目として設けられています。2 年次から 4 年次までのどの時期に履修することもでき、また重複履修も可能です(春・秋学期、継続の履修も可能)。 フランス語文法の復習をしつつ、さらに学習を進めることで使用できる表現の幅を広げて行きます。フランス語の背景にあるものとして紹介されて来たフランスの文化が、実は、この言語そのものの性質と深くかかわっていることが、様々な資料を通して知識を深める中から実感できるでしょう。ここで初めてフランス語を通して見る世界の入り口に立つことになります。 尚、農学科食糧生産・環境コースにおいて「フランス語Ⅲ」は、学習・教育目標のA に対応する科目です。		
2. 授業内容 1 年次の学習を基礎に、フランス語圏の文化事情（映画や音楽等）の紹介、中級レベルのテキストの講読、多文化理解力を培う会話練習、など、受講生の希望を入れながら経験豊かな担当者によって、フランス語、その文化への理解をさらに深めます。 個々の授業に関しては、各担当者のシラバスを参照して下さい。		
3. 履修上の注意 講読中心の授業の場合、辞書を持参すること。また、予習をすることが重要です。文法のスキル練習中心の授業においても、自習時間は学習効果と比例します。会話を中心とする授業では復習の時間を確保しましょう。以上を念頭に置き、自分なりの目標を立てて、フランス語の学習スタイルを作して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当者の指示に従うこと。		
5. 教科書 担当者の指示に従うこと。		
6. 参考書 担当者の指示に従うこと。		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。		
8. その他 特に会話表現を学びたいと考える場合、学部間共通外国語の「フランス語会話」の説明を参照すること。また、夏期実施予定の「フランス語会話（集中講座）」や、フランス現地での語学研修などのプログラムについても大学 HP でご確認下さい。		

科目ナンバー (AG) LAN231N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅲ (1)	1 単位	今関 アン
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅲ (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 邦画やハリウッド映画を見る機会はたくさんありますが、映画を生んだ国フランスの映画はあまりなじみがないかもしれません。この授業では最近制作され、大ヒットしたフランス映画を通して、フランス人の暮らしや思考、文化、歴史、地理の理解に努めていきます。またフランス語の基本語彙や使い方を学び、台詞を聞き取り、シナリオの抜粋や原作を読んで、一年時に習得したフランス語の能力（文法・聴き取り・会話）を深めるのを目標にします。 《授業の概要》 今学期は 2011 年以降に制作されヒットした映画を見ていきます。テーマを「若者が自分に相応しい職業を見つける」「移民・社会階層」「教育」「フランス・パリ」「家族」「冒険」「アニメ」に分けました。いずれも難解なアート系映画ではありません。同じテーマ、監督、出演者などの別の映画も紹介しますから、メディア室で借りたり、Amazon プライムで見て視野を広げて見ましょう。フランス映画の多様性をよく感じてください。		
2. 授業内容 授業内容は受講者の希望を優先します。 第 1 回：＜若者が自分に相応しい職業を見つける＞「タイピスト」、挨拶などの日常会話 第 2 回：＜若者が自分に相応しい職業を見つける＞「タイピスト」、＜若者・社会階層＞「ローズ・メイカー」、職業についてのフランス語 第 3 回：＜若者・社会階層＞「オートクチュール」 第 4 回：＜家族・移民＞「最高の花婿」、フランスの家族関係 第 5 回：＜家族・移民＞「最高の花婿」、＜家族・フランス＞「おかえり、ブルゴーニュへ」 第 6 回：＜家族・フランス＞「おかえり、ブルゴーニュへ」 第 7 回：＜パリ＞「パリタクシー」パリの名所説明 第 8 回：＜若者・パリ・フランス＞「ダンサーイン Paris」 第 9 回：＜フランス・家族＞「美しき人生の作り方」 第 10 回：＜冒険＞「グランド・ジャーニー」 第 11 回：＜アニメ＞「シチリアを征服したクマ王国の物語」 第 12 回：＜アニメ＞「ぼくの名前はズッキーニ」 第 13 回：＜アニメ＞「アヴリルと奇妙な世界」 第 14 回：a. まとめ b. レポート作成		
3. 履修上の注意 履修者のこれまでの習熟度を考慮するので、フランス語が苦手な人も臆せず受講してください。 映画を数回に分けて鑑賞するので欠席しないように、告知は 0h-o! Meiji で行います。 授業で視聴した映画に関連する他の作品も積極的に見てください。 生田所蔵の DVD や Amazon プライムの無料映画を紹介します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は対象映画の監督・出演者・音楽などをネットで調べてくること。 復習は授業時間に配布されたプリント（映画内容・シナリオ・基本語彙）を完成させましょう。 授業内や 0h-o! Meiji で紹介した関連映画を必ず見てください。		
5. 教科書 必要に応じてプリントを使用		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内、または 0-oh! Meiji 上で行う。		
8. 成績評価の方法 平常点 50%、レポート 50%（授業内で見た映画以外に関連した映画を含めます）		

科目ナンバー (AG) LAN231N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅲ (2)	1 単位	森 真太郎
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅲ (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語を 1 年生の時に学んだものの、表現を使いこなすところまでは行けなかったという印象を持っていませんか。 フランス語 III (3) は、身近な表現を用い、フランス語でコミュニケーションできるようにすることを目的としています。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の概要》 前半は配布プリントで授業を行います。また随時 DVD や新聞記事などを用いて「読む」「話す」「書く」ことを伸ばす授業を行います。 全体的には、ディクテ（聴いて書く）に力を入れていきます。中級に接続するのが目的です。		
2. 授業内容 [第 1 回] a イン트로ダクション b 自己紹介・好きなことについて話す [第 2 回] フランス語の基本の復習 (1) [第 3 回] フランス語の基本の復習 (2) [第 4 回] アルザス。ロレーヌ風キッシュ [第 5 回] 複合過去・代名動詞 [第 6 回] ストラスブール。シュークルート。 [第 7 回] 半過去・第過去 [第 8 回] ディジョン。エスカルゴ。 [第 9 回] 関係代名詞 [第 10 回] ブルゴーニュ地方。ワイン。 [第 11 回] 現在分詞・ジェロンディフ。 [第 12 回] シャモニー。フォンデュ。 [第 13 回] 比較級、受動態。 [第 14 回] a:総復習 b:まとめ * 学生と協議して配布プリントにより授業を進めるため、上記の予定は変化します、		
3. 履修上の注意 1 年次でフランス語を学習済であることが前提です。 教室ではできるだけたくさんフランス語を話しましょう！		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習を心がけましょう。		
5. 教科書 『新・彼女は食いしん坊 2』朝日出版社		
6. 参考書 開講時にお知らせします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（参加・授業内課題等）100%		
9. その他 オフィスアワー：月曜日 12：50～12：20 （中央校舎講師控室） 身近なフランスを見つけるアンテナを張りましょう！		

科目ナンバー (AG) LAN231N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅲ (3)	1 単位	高瀬 智子
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅲ (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 映画を通して、フランスの現代社会の色々な様相を知ると共に、日常的なコミュニケーションの場面を抜粋し、フランス語を実践する時間を組み込むことで、フランス語力・文化に関する知識を深めていきます。 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語を 1 年生の時に学んだものの、表現を使いこなすところまでは行けなかったという印象を持っていませんか。 フランス語 III (3) は、身近な表現を用い、フランス語でコミュニケーションできるようにすることを目的としています。そのツールとして映画を用います。 フランス語の表現は、「描写する」「相談する」「議論する」「自己表現する」というように段階を踏んで、自らの考えを組み立て、お互いの調和を保ちつつ、自己表現をできるようにと進んでいきます。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 [第 1 回] a イン트로ダクション b 自己紹介・復習タイム：フランス語の基礎 [第 2 回] Le Fabuleux Destin d' Amélie Poulain 1：自分の性格・癖について話す [第 3 回] Amélie 2：カフェでの会話・人を紹介する [第 4 回] 「La Famille Béliet エール！」1：家族について話す・友人にアドバイスする（恋愛・進路について） [第 5 回] 「La Famille Béliet エール！」2：感情表現…最近嬉しかったこと・困ったこと [第 6 回] 「Les Misérables (2019)」1：登場人物の立場を説明する・意見交換 [第 7 回] 「Les Misérables (2019)」2：ロールプレイ：相手との対立→妥協点を見いだす [第 8 回] 「La fine fleur ローズメイカー」1：「理想の～」について話す [第 9 回] 「La fine fleur ローズメイカー」2：ロールプレイ：就職面接？ [第 10 回] 「Une belle course パリタクシー」1：タクシーに乗る時には？ [第 11 回] 「Une belle course パリタクシー」2：経験を語る・大切にしたいものについて語る [第 12 回] 「Auberge espagnole」1：同居人の条件について議論する [第 13 回] 「Auberge espagnole」2：意見の違う相手と関わるには？ [第 14 回] ショートスケッチの準備・発表～まとめ		
3. 履修上の注意 1 年次でフランス語の初級を学習済であることが前提です。 （テキストでは、1 年次の学習内容の続きを学んでいきます。） 教室ではできるだけたくさんフランス語を話しましょう！ 履修学生の積極的参加が期待されます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習の時間をとると、上達につながります。 このため、クラスウェブを介して、時々、学習内容に関する小さい課題を提出していただきます。 東京やその近郊で開催されるフランス語圏関連の展覧会や映画上演、イベントにも、足を運ぶ機会を作る予定です（状況が許せば）。 身近なフランスを見つけるアンテナを張りましょう！		
5. 教科書 授業時に資料を Oh-oMeiji にアップ、または配布します。		
6. 参考書 授業時に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験あるいはプレゼンテーション・レポート：70% 平常点：30%		

科目ナンバー (AG) LAN231N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅲ (4)	1 単位	今関 アン
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅲ (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 邦画やハリウッド映画を見る機会はたくさんありますが、映画を生んだ国フランスの映画はなじみが薄いかもしれません。この授業では最近制作されたフランスやフランス語圏の映画を鑑賞して、彼らの暮らし・思考の変化、抱える問題、異文化への接し方などについて考えていきます。また台詞を聞き取り、シナリオの抜粋を読んで、一年時に習得したフランス語の能力（文法・聞き取り・会話）を深めることを目標にします。 《授業の概要》 今学期は 2010 年以降フランス語圏（カナダ・ベルギーなど）で制作された映画で、ユニークな視点を持った作品を見ていきます。ヨーロッパの難民・移民・テロ問題、さまざまな恋愛事情、教育をテーマにした作品やアニメ、小説の映画化作品、伝記映画などを視聴します。シナリオの翻訳、聞き取り、関連する語彙や文法の説明もあわせて行います。また皆さんが見たい映画があれば 2010 年代以前の作品でも取り上げるつもりです。		
2. 授業内容 授業内容は受講者の希望を優先する。 第 1 回：イントロダクションー世界のフランス語圏、映画史。＜難民＞「サンバ」 第 2 回：「サンバ」、＜郊外・移民問題＞ 「レ・ミゼラブル」 第 3 回：＜難民問題＞ 「ル・アーヴルの靴磨き」 第 4 回：＜難民問題＞ 「君を想って海をゆく」 第 5 回：＜文学作品映像化＞ 「幻滅」 第 6 回：＜文学作品映像化＞ 「幻滅」 第 7 回：＜様々な恋愛＞ 「Summer 85」「胸騒ぎの恋人」 第 8 回：＜テロ＞ 「アマンダと僕」 第 9 回：＜イスラム原理主義＞ 「その手に触れるまで」 第 10 回：＜教育＞ 「奇跡の教室」 第 11 回：＜教育＞ 「奇跡の教室」「ぼくたちのムッシュ・ラザール」 第 12 回：＜伝記映画＞ 「シュヴァルの理想宮 ある郵便配達員の夢」 第 13 回：＜アニメ＞ 「ベルヴィル・ランデブー」 第 14 回：a. まとめ b. レポート作成		
3. 履修上の注意 履修者のこれまでの習熟度を考慮するので、フランス語が苦手な人も臆せず受講してください。 映画を数回に分けて鑑賞するので欠席しないように、告知は Oh-o! Meiji で行います。 授業で視聴した映画に関連する他の作品も積極的に見てください。 生田所蔵の DVD や Amazon プライムの無料映画を紹介します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内や Oh-o! Meiji で紹介した関連映画を必ず見てください。		
5. 教科書 必要に応じてプリントを使用		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内、または Oh-o! Meiji 上で行う。		
8. 成績評価の方法 平常点 50%、レポート 50%（授業内で見た映画以外に関連した映画を含めます）		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN231N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅲ (5)	1 単位	森 真太郎
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅲ (5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 1 年次に学んだフランス語の文法や表現は、実際にはどのように使うことができるでしょうか。フランス語Ⅲ（6）では、フランス語でのコミュニケーションをとると同時に、「自分の意志・考えを伝える」基盤を作ることを目的としています。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。 《授業の概要》 当面は配布プリントを用い、随時 DVD や新聞記事などを用いて「話す」ことを中心においた授業を行います。日常的な表現を用いるところから見え隠れするフランス語圏の生活文化に触れる機会として、できるだけフランス語を用います。		
2. 授業内容 [第 1 回] a イン트로ダクション b 前期の振り返り [第 2 回] シャモニーとチーズ。 [第 3 回] 強調構文・中性代名詞 [第 4 回] マルセイユとブイヤベース [第 5 回] 条件法現在・条件法過去 [第 6 回] アルルとラタトゥイユ [第 7 回] 接続法現在・接続法過去 [第 8 回] レンヌとクレープ [第 9 回] 間接話法 [第 10 回] サン・マロと海の幸 [第 11 回] 前置詞と接続詞 [第 12 回] 仏検 3 級の問題に挑戦 (1) [第 13 回] 仏検 3 級の問題に挑戦 (2) [第 14 回] a. 期末考査 b. まとめ * 学生と協議したうえで教材を配布する。		
3. 履修上の注意 1 年次にフランス語の基礎を学んでいることが履修の前提条件です。 受講者の積極的な参加が大切です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習をしっかりとしましょう！		
5. 教科書 『新・彼女は食いしん坊 2』朝日出版社		
6. 参考書 授業時に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（参加・授業内課題への取り組みなど）100%		
9. その他 オフィスアワー：水曜日 12：30～13：30 （中央校舎講師控室）		

科目ナンバー (AG) LAN231N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フランス語Ⅲ (6)	1 単位	高瀬 智子
2022～2025 年度入学者 フランス語Ⅲ (6)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 映画を通して、フランスのみならず、フランス語圏の現代社会の色々な様相を知ると共に、日常的なコミュニケーションの場面を抜粋し、フランス語を実践する時間を組み込むことで、フランス語力・文化に関する知識を深めていきます。 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語を1年生の時に学んだものの、表現を使いこなすところまでは行けなかったという印象を持っていませんか。 フランス語 III (6) は、身近な表現を用い、フランス語でコミュニケーションできるようにすることを目的としています。 そのツールとして、映画の色々なシーンを見ていきます。 また、秋学期には、フランス以外のフランス語圏、スイス、ベルギー、ケベック（カナダ）の文化にも目を向けてみたいと思います。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目です。		
2. 授業内容 [第1回] a イン트로ダクション b 自己紹介・好きなことについて話す [第2回] 復習タイム [第3回] どんなパリをしていますか？ [第4回] 「Babel」 [第5回] スイスについて知っていることを話す。質問する。 [第6回] 「Ma vie en courgette」1 [第7回] 「Ma vie en courgette」2 [第8回] ベルギー/ ケベックについて知っていることを話す。調べる。 [第9回] Le gamin au vélo 1 [第10回] Le gamin au vélo2 [第11回] Mommy 1 [第12回] Mommy 2 [第13回] ショート・スケッチをつくる [第14回] ショートスケッチの発表・まとめ		
3. 履修上の注意 1 年次にフランス語の初級を履修していることが本科目履修の前提条件となります。 （テキストでは、1 年次の学習事項の続きに相当する内容を学びます） 「読む・書く」も学びますが、「聞く・話す」の比重が大きい授業となります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 履修学生の積極的参加が期待されます。 また、東京やその近郊で開催されるフランス語圏関連の展覧会やイベントにも足を運ぶ機会を作る予定です。 身近なフランスを見つけるアンテナを張りましょう！		
5. 教科書 授業時に指示します。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験・口頭発表あるいはレポート：70% 平常点：30%		
9. その他		

科 目 名	単位数	担当者
スペイン語Ⅰについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スペイン語は、スペインを始めラテンアメリカ諸国等で4億人余りが話している言語です。授業では、初めてスペイン語に触れる人を対象に、まず、英語とは少し異なる文字と発音の学習から始め、スペイン語で最低限の意志を伝える、ある程度のコミュニケーションを成立させる、という段階を経て、自分の感情や身近な事柄の表現もできるように、さらにはスペイン語圏の文化背景についても紹介します。スペイン語圏を旅する際、人と知り合い、自分のことを話し相手の話を聞けるようになること、辞書を片手に初歩的な文章の読解ができるようになることを目指します。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAIに対応する科目です。		
2. 授業内容 主に文法に重点をおいて、スペイン語の初級を学びます。 発音も重視しつつ、日常的なやさしい表現の習得を通じて、1年間で初級文法のあらましを習得していきます。ごく簡単な会話ができ、やさしい文章なら辞書を用いて自分で読める水準に達することを目標にしています。		
3. 履修上の注意 語学の学習は、予習・復習なしには成り立ちません。初級クラスでは音声データ等を活用して、授業中に習ったことをしっかりと身につけ、つぎの段階に進む基礎を作っていく必要があります。 必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。 「スペイン語Ⅰa」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「スペイン語Ⅰa」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。 「スペイン語Ⅰb」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「スペイン語Ⅰb」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当者の指示に従って下さい。		
5. 教科書 教科書販売所の教科書一覧に従って購入してください。		
6. 参考書 各科目のシラバスを参照。		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「スペイン語会話」についての説明も参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語 I a 農	1 単位	福原 弘識
2022～2025 年度入学者 スペイン語 I a 農		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 この授業では、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びます。現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。 スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいけます。動詞の活用、名詞／形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのために復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。 《授業の概要》 教科書に沿って文法事項の解説を行い、一通り解説が終わったら、受講生を指名して教科書の例文の音読と解釈、練習問題への解答をしてもらい、文法力や語彙を習得します。毎回、宿題、予習などの課題を義務づけます。またプリントを配布して補足的説明も行います。		
2. 授業内容 1 イントロダクション、アルファベットなど 2 第1課：名詞の性数と冠詞など ― 小テスト：挨拶[p. 10] 3 第1課：主格人称代名詞、動詞 ser など ― 小テスト：数（0-10）[p. 9] 4 第2課：所有形容詞前置形、指示形容詞など ― 小テスト：国名国籍[p. 9] 5 第2課：形容詞、数 1-100 など ― 小テスト：主格人称代名詞と動詞 ser の活用[p. 14] 6 第3課：動詞 estar、場所の表現など ― 小テスト：数（1-100）[p. 18] 7 第3課：動詞 tener、第4課：直説法現在規則動詞など ― 小テスト：主格人称代名詞と動詞 estar の活用[p. 20] 8 第4課：hay、時刻表現など ― 小テスト：動詞 tener の活用[p. 22] 9 第5課：動詞 ir、主な前置詞、疑問詞(1) など ― 小テスト：直説法現在規則動詞の意味と活用[p. 24] 10 第5課：動詞 ver, hacer, poner, salir、疑問詞(2) など ― 小テスト：5 課の動詞の意味と活用[p. 28, 30] 11 第6課：直接目的格代名詞、語幹母音変化動詞など ― 小テスト：曜日と月[p. 30] 12 第6課：不定詞表現、目的格人称代名詞の位置など ― 小テスト：疑問詞の表現[p. 28, 30] 13 第7課：間接目的格代名詞など ― 小テスト：語幹母音変化動詞の意味と活用[p. 32] 14a 期末考査 14b 授業全体の振り返りと試験の正答解説 ※講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 授業には必ずテキストと辞書を持参すること。辞書は必ず購入してもらいます。 間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。 言語はまず第一に音声ですから、声に出すことが何よりも大事です。スペイン語は堂々とした言語ですので、大きい声を出してください。 教科書にあるすべての文を音読してくることを求めます。練習問題や課題を自宅でやってくる必要があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。 復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。		
5. 教科書 『エル オリソンテ(Español en el horizonte)』エウヘエオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治著 白水社、2500 円（税別）		
6. 参考書 第1回目のイントロダクションで辞書と参考書を紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 学期末テスト 70%、小テスト 15%、授業への参加度 15%として総合的に評価する。		

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12：30-13：30

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語 I a 政	1 単位	ロペス・ルナ, ソニア
2022～2025 年度入学者 スペイン語 I a 政		
1. 授業の概要・到達目標 このコースの目標は、現在形の基本的な考え方をスペイン語で表現できるようになること、そして語彙と発音を学ぶことです。動詞の活用（規則／不規則）にも細心の注意を払います。スペイン語学習とスペイン語圏文化に関する情報を組み合わせることで、受講生は新しいスキルをコミュニケーションの中で実践することができます。このコースはスペイン語と日本語で行われ、時折英語も使います。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] アルファベット、発音、アクセント、数字の 1～10 [第 2 回] 人称代名詞、動詞「ser」、職業、国籍、疑問詞 I [第 3 回] 定冠詞と不定冠詞、名詞の性数、色 [第 4 回] 所有詞 I、動詞「ser」と「estar」 [第 5 回] 動詞の現在形 規則動詞 [第 6 回] 疑問詞 II、数字の 11～30、時間、曜日 [第 7 回] ミニテスト、指示詞 I と II、所有詞 II [第 8 回] 数字の 30～100、動詞「tener」、人の記述、家族の紹介 [第 9 回] 「hay」と「estar」の使い分け [第 10 回] 動詞「ir」、一年の月と季節 [第 11 回] 計画を表現する：「～に行く」、「～したい」、「～しなければならない」 [第 12 回] 原因や目的を表す：「porque」、「para」 [第 13 回] 前期の復習 [第 14 回] 試験、まとめと振り返り ※講義内容は、必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ○毎回の学習内容について全て理解した上で学習を進めていくことが大切です。スペイン語は、発音はしやすいものの、動詞の活用や名詞に合わせた性数変化など覚えることが多い言語でもあります。ですが、授業への積極的な参加、復習、確認テストのための学習を怠らないことで、着実に習得できます。コツコツと学習・練習を続けてゆきましょう。 ○一度迷子になると、ついていくのが大変です。やむを得ず欠席した場合は、その回の内容を必ず自分でフォローしてください。その上で理解できなかった箇所については質問してください。 ○自分で考えた上でわからないことは、遠慮なく聞いてください。 ○5 回以上欠席した場合には、原則として評価の対象外となります。 ○授業には、辞書（紙または電子辞書）を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○予習：指定された場合には、その範囲の未修単語の意味を調べてきてください（1 時間程度）。 ○復習：授業で取り組んだ問題の見直しを行ってください。また、宿題も復習になります。必ず授業前に余裕をもって取り組んでください（1 時間程度）。		
5. 教科書 ¡Muy bien! - 朝日出版社 - Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu, 2600 円＋税。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ミニテスト（20%）、期末テスト（40%）、授業参加（20%）、宿題（20%）で評価します。		
9. その他 最初の講義で指示する。		

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語 I a 化	1 単位	メンドサ
2022～2025 年度入学者 スペイン語 I a 化		
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。 スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいけます。動詞の活用、名詞/形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。		
2. 授業内容 第1回：挨拶と自己紹介をする。アルファベットと発音、スペイン語圏の国々。 第2回：テスト。国々と国籍、簡単な単語、スペイン圏の世界遺産。 第3回：テスト。他者を紹介する、国籍、職業。 第4回：テスト。ser と tener 動詞ー現在形、文の使い方。主語人称代名詞、スペイン語の動詞について。 第5回：テスト。テスト。定冠詞と不定冠詞の用法。規則動詞ー現在形。相手を指す代名詞。疑問代名詞。 第6回：テスト。名詞の性、名詞の数。形容詞の性数、形容詞の用法。 第7回：テスト。電話番号や住所を尋ねる。tú と usted の使い方。 第8回：テスト。家族を紹介する。個人情報やりとりする、物や人の住所。 第9回：テスト。所有（誰それの）を表現する。所有形容詞前置形、従属節の作り方。 第10回：テスト。時刻の表し方。estar 動詞ー現在形。指し代名詞。スペイン人の生活習慣ー時間。 第11回：テスト。時間を尋ねると伝える。スペイン語圏の家族、お祝いの習慣。 第12回：テスト。仕事（場所、職業、時間帯）について話す。日常生活について話す。 第13回：テスト。朝食を注文する。再帰代名詞ー現在形。不規則動詞ー現在形。前置詞、前置詞の主な用法（a l＋不定）詞。 第14回：期末テスト。		
3. 履修上の注意 すべての授業への出席と時間厳守が必須です。各授業への参加は、対応するポイントを獲得するために完全である必要があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必ず授業の予習・復習をしておくこと。		
5. 教科書 Español cuatro destrezas（朝日新聞社）		
6. 参考書 『ポケット プログレッシブ 西和・和西辞典』（小学館）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 小テスト 36%、授業の参加度と課題 36%、期末テスト 28%により総合的に評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語 I a 生	1 単位	福原 弘識
2022～2025 年度入学者 スペイン語 I a 生		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 この授業では、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びます。現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。 スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいけます。動詞の活用、名詞／形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。 《授業の概要》 教科書に沿って文法事項の解説を行い、一通り解説が終わったら、受講生を指名して教科書の例文の音読と解釈、練習問題への解答をしてもらい、文法力や語彙を習得します。毎回、宿題、予習などの課題を義務づけます。またプリントを配布して補足的説明も行います。		
2. 授業内容 1 イントロダクション、アルファベットなど 2 第1課：名詞の性数と冠詞など — 小テスト：挨拶[p. 10] 3 第1課：主格人称代名詞、動詞 ser など — 小テスト：数（0-10）[p. 9] 4 第2課：所有形容詞前置形、指示形容詞など — 小テスト：国名国籍[p. 9] 5 第2課：形容詞、数 1-100 など — 小テスト：主格人称代名詞と動詞 ser の活用[p. 14] 6 第3課：動詞 estar、場所の表現など — 小テスト：数（1-100）[p. 18] 7 第3課：動詞 tener、第4課：直説法現在規則動詞など — 小テスト：主格人称代名詞と動詞 estar の活用[p. 20] 8 第4課：hay、時刻表現など — 小テスト：動詞 tener の活用[p. 22] 9 第5課：動詞 ir、主な前置詞、疑問詞(1) など — 小テスト：直説法現在規則動詞の意味と活用[p. 24] 10 第5課：動詞 ver, hacer, poner, salir、疑問詞(2) など — 小テスト：5 課の動詞の意味と活用[p. 28, 30] 11 第6課：直接目的格代名詞、語幹母音変化動詞など — 小テスト：曜日と月[p. 30] 12 第6課：不定詞表現、目的格人称代名詞の位置など — 小テスト：疑問詞の表現[p. 28, 30] 13 第7課：間接目的格代名詞など — 小テスト：語幹母音変化動詞の意味と活用[p. 32] 14a 期末考査 14b 授業全体の振り返りと試験の正答解説 ※講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 授業には必ずテキストと辞書を持参すること。辞書は必ず購入してもらいます。 間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。 言語はまず第一に音声ですから、声に出すことが何よりも大事です。スペイン語は堂々とした言語ですので、大きい声を出してください。 教科書にあるすべての文を音読してくることを求めます。練習問題や課題を自宅でやってくる必要があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。 復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。		
5. 教科書 『エル オリソンテ(Español en el horizonte)』エウヘエオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治著 白水社、2500 円（税別）		
6. 参考書 第1回目のイントロダクションで辞書と参考書を紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 学期末テスト 70%、小テスト 15%、授業への参加度 15%として総合的に評価する。		

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12：30-13：30

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語 I b 農	1 単位	福原 弘識
2022～2025 年度入学者 スペイン語 I b 農		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 この授業では、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていきます。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の短い文章を理解することを到達目標とします。 学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受検など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてください。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。 《授業の概要》 教科書に沿って文法事項の解説を行い、一通り解説が終わったら、受講生を指名して教科書の例文の音読と解釈、練習問題への解答をしてもらい、文法力や語彙を習得します。毎回、宿題、予習などの課題を義務づけます。またプリントを配布して補足的説明も行います。		
2. 授業内容 1 イントロダクション、第7課：動詞 dar, decir, traer、動詞 oír, venir, saber, conocer など 2 第7課：天候表現など、第8課：再帰動詞など ― 小テスト：7Aの動詞の意味と活用[p. 36] 3 第8課：再帰動詞のその他の用法、義務表現など ― 小テスト：7Bの動詞の意味と活用[p. 38] 4 第9課：前置詞格人称代名詞、動詞 gustar など ― 小テスト：再帰動詞の活用と意味[p. 40] 5 第9課：gustar 型動詞、所有形容詞後置形など ― 小テスト：再帰動詞の活用と意味[p. 42] 6 第10課：比較級、最上級など ― 小テスト：8課の表現[p. 40, 42] 7 第10課：不定語・否定語、感嘆文など ― 小テスト：9課の表現[p. 44, 46] 8 第11課：直説法点過去規則動詞、数 101-9000 など ― 小テスト：10課の表現[p. 48, 50] 9 第11課：直説法点過去不規則活用動詞など ― 小テスト：点過去規則動詞の活用と意味[p. 52] 10 第12課：直説法線過去など ― 小テスト：点過去不規則動詞の活用と意味[p. 54] 11 第12課：点過去と線過去、直接話法・間接話法など ― 小テスト：線過去動詞の活用と意味[p. 56] 12 第13課：過去分詞、直説法現在完了など ― 小テスト：数（101-9000）の単語[p. 52] 13 第13課：過去分詞のその他の用法、数 10000- ― 小テスト：過去分詞の活用と意味[p. 60] 14a 期末考査 14b 授業全体の振り返りと試験の正答解説 ※講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 授業には必ずテキストと辞書を持参すること。辞書は必ず購入してもらいます。 間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。 言語はまず第一に音声ですから、声に出すことが何よりも大事です。スペイン語は堂々とした言語ですので、大きい声を出してください。 教科書にあるすべての文を音読してくることを求めます。練習問題や課題を自宅でやってくる必要があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。 復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。		
5. 教科書 『エル オリソンテ(Español en el horizonte)』エウヘエオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治著 白水社、2500 円（税別）		
6. 参考書 授業内で随時指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 学期末テスト 70%、小テスト 15%、授業への参加度 15%として総合的に評価する。		

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12：30-13：30

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語 I b 政	1 単位	ロペス・ルナ, ソニア
2022～2025 年度入学者 スペイン語 I b 政		
1. 授業の概要・到達目標 このコースの目標は、現在形の基本的な考え方をスペイン語で表現できるようになること、そして語彙と発音を学ぶことです。動詞の活用（規則／不規則）にも細心の注意を払います。スペイン語学習とスペイン語圏文化に関する情報を組み合わせることで、受講生は新しいスキルをコミュニケーションの中で実践することができます。このコースはスペイン語と日本語で行われ、時折英語も使います。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] 前期の復習 [第 2 回] 前置詞を伴う人称代名詞、動詞 「gustar」、「encantar」、「interesar」、嗜好の一致と不一致の表現 [第 3 回] 動詞＋不定詞：「poder」、「querer」、「preferir」、頻度 [第 4 回] 不規則活用する動詞 I、直接目的人称代名詞 [第 5 回] 数字の 100～1000 以上、序数、不定語：「たくさん」、「とても」、比較 [第 6 回] 不規則活用する動詞 II [第 7 回] ミニテスト、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞 [第 8 回] 動詞 「saber」、「poder」、「conocer」、動詞 「ser」＋ 形容詞と「estar」＋ 形容詞 [第 9 回] 代名（再帰）動詞、再帰代名詞 [第 10 回] 天気 [第 11 回] 動詞 「estar」＋ 形容詞（体調や気分） [第 12 回] 動詞「tener」＋ 名詞（感覚）、動詞「doler」 [第 13 回] 後期の復習 [第 14 回] 試験、まとめと振り返り ※講義内容は、必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ○毎回の学習内容について全て理解した上で学習を進めていくことが大切です。スペイン語は、発音はしやすいものの、動詞の活用や名詞に合わせた性数変化など覚えることが多い言語でもあります。ですが、授業への積極的な参加、復習、確認テストのための学習を怠らないことで、着実に習得できます。コツコツと学習・練習を続けてゆきましょう。 ○一度迷子になると、ついていくのが大変です。やむを得ず欠席した場合は、その回の内容を必ず自分でフォローしてください。その上で理解できなかった箇所については質問してください。 ○自分で考えた上でわからないことは、遠慮なく聞いてください。 ○5 回以上欠席した場合には、原則として評価の対象外となります。 ○授業には、辞書（紙または電子辞書）を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○予習：指定された場合には、その範囲の未修単語の意味を調べてきてください（1 時間程度）。 ○復習：授業で取り組んだ問題の見直しを行ってください。また、宿題も復習になります。必ず授業前に余裕をもって取り組んでください（1 時間程度）。		
5. 教科書 ¡Muy bien! - 朝日出版社 - Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu, 2600 円＋税。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ミニテスト（20%）、期末テスト（40%）、授業参加（20%）、宿題（20%）で評価します。		
9. その他 最初の講義で指示する。		

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語 I b 化	1 単位	メンドサ
2022～2025 年度入学者 スペイン語 I b 化		
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。 スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいけます。動詞の活用、名詞/形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。		
2. 授業内容 第1回：住まいを描写する。家具や電化製品の名前。 第2回：テスト。場所や存在を示す。ホテルの予約をする。 第3回：テスト。定冠詞と不定冠詞。hay（存在を表す）と estar（所在を表す）。 第4回：テスト。序数詞。スペインの住まい。 第5回：テスト。食べる。レストランで食事を注文する。 第6回：テスト。好みを表現する。gustar 動詞。querer 動詞。 第7回：テスト。料理のレシピを理解する。命令形の規則形。 第8回：テスト。スペイン圏の食習慣。 第9回：テスト。地区。交通機関について情報をやりとりする、指示をする。 第10回：テスト。命令形、不規則。命令形の用法。ser と estar の用法。 第11回：テスト。依頼する。住んでいる地区を描写する。 第12回：テスト。所有形容詞後置形。 第13回：テスト。スペインの都市。サンティアゴ・デ・コンポステラ。 第14回：期末テスト。		
3. 履修上の注意 毎回出される文法の練習問題の宿題を次の授業までに必ずしておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必ず授業の予習・復習をしておくこと。		
5. 教科書 Español cuatro destrezas（朝日新聞社）		
6. 参考書 ポケット プログレッシブ 西和・和西辞典』（小学館）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 小テスト 36%、授業の参加度と課題 36%、期末テスト 28%により総合的に評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語 I b 生	1 単位	福原 弘識
2022～2025 年度入学者 スペイン語 I b 生		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 この授業では、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていきます。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の短い文章を理解することを到達目標とします。 学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受検など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてください。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。 《授業の概要》 教科書に沿って文法事項の解説を行い、一通り解説が終わったら、受講生を指名して教科書の例文の音読と解釈、練習問題への解答をしてもらい、文法力や語彙を習得します。毎回、宿題、予習などの課題を義務づけます。またプリントを配布して補足的説明も行います。		
2. 授業内容 1 イントロダクション、第7課：動詞 dar, decir, traer、動詞 oír, venir, saber, conocer など 2 第7課：天候表現など、第8課：再帰動詞など ― 小テスト：7Aの動詞の意味と活用[p. 36] 3 第8課：再帰動詞のその他の用法、義務表現など ― 小テスト：7Bの動詞の意味と活用[p. 38] 4 第9課：前置詞格人称代名詞、動詞 gustar など ― 小テスト：再帰動詞の活用と意味[p. 40] 5 第9課：gustar 型動詞、所有形容詞後置形など ― 小テスト：再帰動詞の活用と意味[p. 42] 6 第10課：比較級、最上級など ― 小テスト：8課の表現[p. 40, 42] 7 第10課：不定語・否定語、感嘆文など ― 小テスト：9課の表現[p. 44, 46] 8 第11課：直説法点過去規則動詞、数 101-9000 など ― 小テスト：10課の表現[p. 48, 50] 9 第11課：直説法点過去不規則活用動詞など ― 小テスト：点過去規則動詞の活用と意味[p. 52] 10 第12課：直説法線過去など ― 小テスト：点過去不規則動詞の活用と意味[p. 54] 11 第12課：点過去と線過去、直接話法・間接話法など ― 小テスト：線過去動詞の活用と意味[p. 56] 12 第13課：過去分詞、直説法現在完了など ― 小テスト：数（101-9000）の単語[p. 52] 13 第13課：過去分詞のその他の用法、数 10000- ― 小テスト：過去分詞の活用と意味[p. 60] 14a 期末考査 14b 授業全体の振り返りと試験の正答解説 ※講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 授業には必ずテキストと辞書を持参すること。辞書は必ず購入してもらいます。 間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。 言語はまず第一に音声ですから、声に出すことが何よりも大事です。スペイン語は堂々とした言語ですので、大きい声を出してください。 教科書にあるすべての文を音読してくることを求めます。練習問題や課題を自宅でやってくる必要があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。 復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。		
5. 教科書 『エル オリソンテ (Español en el horizonte)』エウヘエオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治著 白水社、2500 円（税別）		
6. 参考書 授業内で随時指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 学期末テスト 70%、小テスト 15%、授業への参加度 15%として総合的に評価する。		

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12：30-13：30

科 目 名	単位数	担当者
スペイン語Ⅱについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 スペイン語は、スペインを始めラテンアメリカ諸国等で4億人余りが話している言語です。授業では、初めてスペイン語に触れる人を対象に、まず、英語とは少し異なる文字と発音の学習から始め、スペイン語で最低限の意志を伝える、ある程度のコミュニケーションを成立させる、という段階を経て、自分の感情や身近な事柄の表現もできるように、さらにはスペイン語圏の文化背景についても紹介します。スペイン語圏を旅する際、人と知り合い、自分のことを話し相手の話を聞けるようになること、辞書を片手に初歩的な文章の読解ができるようになることを目指します。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 読解や会話に重点をおいてスペイン語を学びます。 発音も重視しつつ、日常的なやさしい表現の習得を通じて、1年間で初級文法のあらましを習得していきます。ごく簡単な会話ができ、やさしい文章なら辞書を用いて自分で読める水準に達することを目標にしています。		
3. 履修上の注意 語学の学習は、予習・復習なしには成り立ちません。初級クラスでは音声データ等を活用して、授業中に習ったことをしっかりと身につけ、つぎの段階に進む基礎を作っていく必要があります。 必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。 「スペイン語Ⅱa」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「スペイン語Ⅱa」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。 「スペイン語Ⅱb」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「スペイン語Ⅱb」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当者の指示に従って下さい。		
5. 教科書 教科書販売所の教科書一覧に従って購入してください。		
6. 参考書 各科目のシラバスを参照。		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「スペイン語会話」についての説明も参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅱa 農	1 単位	ロペス・ルナ, ソニア
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅱa 農		
1. 授業の概要・到達目標 このコースの目標は、現在形の基本的な考え方をスペイン語で表現できるようになること、そして語彙と発音を学ぶことです。動詞の活用（規則／不規則）にも細心の注意を払います。スペイン語学習とスペイン語圏文化に関する情報を組み合わせることで、受講生は新しいスキルをコミュニケーションの中で実践することができます。このコースはスペイン語と日本語で行われ、時折英語も使います。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] アルファベット、発音、アクセント、数字の 1～10 [第 2 回] 人称代名詞、動詞「ser」、職業、国籍、疑問詞 I [第 3 回] 定冠詞と不定冠詞、名詞の性数、色 [第 4 回] 所有詞 I、動詞「ser」と「estar」 [第 5 回] 動詞の現在形 規則動詞 [第 6 回] 疑問詞 II、数字の 11～30、時間、曜日 [第 7 回] ミニテスト、指示詞 I と II、所有詞 II [第 8 回] 数字の 30～100、動詞「tener」、人の記述、家族の紹介 [第 9 回] 「hay」と「estar」の使い分け [第 10 回] 動詞「ir」、一年の月と季節 [第 11 回] 計画を表現する：「～に行く」、「～したい」、「～しなければならない」 [第 12 回] 原因や目的を表す：「porque」、「para」 [第 13 回] 前期の復習 [第 14 回] 試験、まとめと振り返り ※講義内容は、必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ○毎回の学習内容について全て理解した上で学習を進めていくことが大切です。スペイン語は、発音はしやすいものの、動詞の活用や名詞に合わせた性数変化など覚えることが多い言語でもあります。ですが、授業への積極的な参加、復習、確認テストのための学習を怠らないことで、着実に習得できます。コツコツと学習・練習を続けてゆきましょう。 ○一度迷子になると、ついていくのが大変です。やむを得ず欠席した場合は、その回の内容を必ず自分でフォローしてください。その上で理解できなかった箇所については質問してください。 ○自分で考えた上でわからないことは、遠慮なく聞いてください。 ○5 回以上欠席した場合には、原則として評価の対象外となります。 ○授業には、辞書（紙または電子辞書）を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○予習：指定された場合には、その範囲の未修単語の意味を調べてきてください（1 時間程度）。 ○復習：授業で取り組んだ問題の見直しを行ってください。また、宿題も復習になります。必ず授業前に余裕をもって取り組んでください（1 時間程度）。		
5. 教科書 ¡Muy bien! - 朝日出版社 - Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu, 2600 円＋税。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ミニテスト（20%）、期末テスト（40%）、授業参加（20%）、宿題（20%）で評価します。		
9. その他 最初の講義で指示する。		

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅱa 政	1 単位	渡辺 有美
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅱa 政		
1. 授業の概要・到達目標 [授業の概要] この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。 スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいけます。 動詞の活用、名詞/形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。 またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。 [到達目標] 1、基本的な挨拶や自己紹介をスペイン語でできるようになる。 2、現在形の動詞を使った簡単な文章を作成できる。 3、基本的な日常会話を理解し、応答できる。 4、スペイン語圏の文化に関する基礎知識を身につける。		
2. 授業内容 春学期は主に、スペイン語検定 6 級の範囲を習得します 第 1 回 イントロダクション（スペイン語とは）、アルファベット、母音、子音 第 2 回 音節、アクセント、数字 第 3 回 名詞、冠詞、数字 第 4 回 形容詞、数字 第 5 回 直説法現在形 SER/ESTAR 動詞、否定文、疑問文、数字 第 6 回 直説法現在形 ESTAR/HAY 動詞、不定語 第 7 回 中間試験 第 8 回 指示詞、所有詞 第 9 回 直説法現在形規則動詞 第 10 回 目的格人称代名詞 第 11 回 直説法現在形最頻出の不規則動詞（1） 第 12 回 直説法現在形最頻出の不規則動詞（2） 第 13 回 直説法現在形まとめ 第 14 回 a：定期試験 b：全体の振り返り [授業形式] 講義（文法・語彙の説明） 演習（課題に取り組む） ペアワーク（会話練習） リスニング（音声教材や動画） 文化コンテンツ（文化トピックの動画等）		
3. 履修上の注意 授業回数の 3 分の 1 以上を特別な理由なく欠席した場合、試験は受験はできない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業で出された課題は、授業直前に慌てて取り組むのではなく、必ず事前に自力で取り組んでおくこと。 ・授業を主体的に受け、授業時間内に講義内容を理解し、演習を通して理解を深めること。また、各自の復習時に繰り返し問題を解き、学習内容の定着を図ること。 ・身の回りにある「スペイン語」や「スペイン語圏（スペイン・ラテンアメリカ）」に関心を持ち、日常的に触れること。 ・初習外国語は、自発的かつ継続的な学習によって習得度に大きな差が生じる。積極的に授業に参加し、自主学習を習慣化すること。 授業外学習時間の目安 本授業では、1 回の授業につき、主として復習および課題への取り組みとして、60～90 分程度の授業外学習を行うことが望ましい。 授業で学習した文法事項や表現について、授業後に繰り返し練習し、理解の定着を図ること。 ・初習外国語は、自発的かつ継続的な学習で習得度に大きな差が出るので、積極的に授業に参加し、自主勉強を習慣化すること。		
5. 教科書 教科書：『初級スペイン語エクセレンテ!!!三訂版 Excelente! ! !』渡辺有美他、朝日出版社 補助資料：教科書付属のワーク練習問題、授業内に配布するプリントやスライド資料		

6. 参考書

参考書については、授業時間内に紹介する。

購入や学習方法について希望がある場合は、相談に応じる。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題および試験に対するフィードバックは、授業時間内に行い、重要なポイントや誤りやすい点について解説する。

8. 成績評価の方法

- ・語学力（定期試験・中間試験・小テスト等）：80%

- ・平常点（授業参加態度・課題提出状況等）：20%

ただし、授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験および中間試験の受験資格を失う。

※特別な理由とは、大学が認める公欠、忌引、診断書を伴う病気・けが、感染症、天災や交通機関の乱れ等を指す。

9. その他

- ・授業の進度に応じて、「スペイン語技能検定」について紹介する。

- ・授業用のノートを用意すること。

- ・配布プリントが多くなるため、ファイルを用意するなどして紛失しないように管理すること。

- ・本授業に関する連絡および相談は、原則としてメールで受け付ける。

- ・このクラスに関する事項については、まず担当教員（渡辺）まで連絡・相談すること。メールアドレスは Oh-o! Meiji にて周知する。

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅱa 化	1 単位	渡辺 有美
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅱa 化		
1. 授業の概要・到達目標 [授業の概要] この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。 スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいきます。 動詞の活用、名詞/形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。 またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。 [到達目標] 1、基本的な挨拶や自己紹介をスペイン語でできるようになる。 2、現在形の動詞を使った簡単な文章を作成できる。 3、基本的な日常会話を理解し、応答できる。 4、スペイン語圏の文化に関する基礎知識を身につける。		
2. 授業内容 春学期は主に、スペイン語検定 6 級の範囲を習得します 第 1 回 イントロダクション（スペイン語とは）、アルファベット、母音、子音 第 2 回 音節、アクセント、数字 第 3 回 名詞、冠詞、数字 第 4 回 形容詞、数字 第 5 回 直説法現在形 SER/ESTAR 動詞、否定文、疑問文、数字 第 6 回 直説法現在形 ESTAR/HAY 動詞、不定語 第 7 回 中間試験 第 8 回 指示詞、所有詞 第 9 回 直説法現在形規則動詞 第 10 回 目的格人称代名詞 第 11 回 直説法現在形最頻出の不規則動詞（1） 第 12 回 直説法現在形最頻出の不規則動詞（2） 第 13 回 直説法現在形まとめ 第 14 回 a：定期試験 b：全体の振り返り [授業形式] 講義（文法・語彙の説明） 演習（課題に取り組む） ペアワーク（会話練習） リスニング（音声教材や動画） 文化コンテンツ（文化トピックの動画等）		
3. 履修上の注意 授業回数の 3 分の 1 以上を特別な理由なく欠席した場合、試験は受験はできない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業で出された課題は、授業直前に慌てて取り組むのではなく、必ず事前に自力で取り組んでおくこと。 ・授業を主体的に受け、授業時間内に講義内容を理解し、演習を通して理解を深めること。また、各自の復習時に繰り返し問題を解き、学習内容の定着を図ること。 ・身の回りにある「スペイン語」や「スペイン語圏（スペイン・ラテンアメリカ）」に関心を持ち、日常的に触れること。 ・初習外国語は、自発的かつ継続的な学習によって習得度に大きな差が生じる。積極的に授業に参加し、自主学習を習慣化すること。 授業外学習時間の目安 本授業では、1 回の授業につき、主として復習および課題への取り組みとして、60～90 分程度の授業外学習を行うことが望ましい。 授業で学習した文法事項や表現について、授業後に繰り返し練習し、理解の定着を図ること。		
5. 教科書 教科書：『初級スペイン語エクセレンテ!!!三訂版 Excelente! !!』渡辺有美他、朝日出版社 補助資料：教科書付属のワーク練習問題、授業内に配布するプリントやスライド資料		

6. 参考書

参考書については、授業時間内に紹介する。

購入や学習方法について希望がある場合は、相談に応じる。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題および試験に対するフィードバックは、授業時間内に行い、重要なポイントや誤りやすい点について解説する。

8. 成績評価の方法

- ・語学力（定期試験・中間試験・小テスト等）：80%

- ・平常点（授業参加態度・課題提出状況等）：20%

ただし、授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験および中間試験の受験資格を失う。

※特別な理由とは、大学が認める公欠、忌引、診断書を伴う病気・けが、感染症、天災や交通機関の乱れ等を指す。

9. その他

- ・授業の進度に応じて、「スペイン語技能検定」について紹介する。

- ・授業用のノートを用意すること。

- ・配布プリントが多くなるため、ファイルを用意するなどして紛失しないように管理すること。

- ・本授業に関する連絡および相談は、原則としてメールで受け付ける。

- ・このクラスに関する事項については、まず担当教員（渡辺）まで連絡・相談すること。メールアドレスは Oh-o! Meiji にて周知する。

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅱa 生	1 単位	メンドサ
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅱa 生		
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。 スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいけます。動詞の活用、名詞/形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。		
2. 授業内容 第1回：挨拶と自己紹介をする。アルファベットと発音、スペイン語圏の国々。 第2回：テスト。国々と国籍、簡単な単語、スペイン圏の世界遺産。 第3回：テスト。他者を紹介する、国籍、職業。 第4回：テスト。ser と tener 動詞－現在形、文の使い方。主語人称代名詞、スペイン語の動詞について。 第5回：テスト。テスト。定冠詞と不定冠詞の用法。規則動詞－現在形。相手を指す代名詞。疑問代名詞。 第6回：テスト。名詞の性、名詞の数。形容詞の性数、形容詞の用法。 第7回：テスト。電話番号や住所を尋ねる。tú と usted の使い方。 第8回：テスト。家族を紹介する。個人情報をやりとりする、物や人の住所。 第9回：テスト。所有（誰そのの）を表現する。所有形容詞前置形、従属節の作り方。 第10回：テスト。時刻の表し方。estar 動詞－現在形。指し代名詞。スペイン人の生活習慣－時間。 第11回：テスト。時間を尋ねると伝える。スペイン語圏の家族、お祝いの習慣。 第12回：テスト。仕事（場所、職業、時間帯）について話す。日常生活について話す。 第13回：テスト。朝食を注文する。再帰代名詞－現在形。不規則動詞－現在形。前置詞、前置詞の主な用法（al＋不定）詞。 第14回：期末テスト。		
3. 履修上の注意 毎回出される文法の練習問題の宿題を次の授業までに必ずしておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の予習・復習をしておくこと。		
5. 教科書 Español cuatro destrezas（朝日新聞社）		
6. 参考書 ポケット プログレッシブ 西和・和西辞典』（小学館）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 小テスト 36%、授業の参加度と課題 36%、期末テスト 28%により総合的に評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅱb 農	1 単位	ロペス・ルナ, ソニア
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅱb 農		
1. 授業の概要・到達目標 このコースはスペイン語Ⅰaの続編です。このコースの目標は、現在形の基本的な考え方をスペイン語で表現できるようになること、そして語彙と発音を学ぶことです。動詞の活用（規則／不規則）にも細心の注意を払います。スペイン語学習とスペイン語圏文化に関する情報を組み合わせることで、受講生は新しいスキルをコミュニケーションの中で実践することができます。このコースはスペイン語と日本語で行われ、時折英語も使います。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] 前期の復習 [第 2 回] 前置詞を伴う人称代名詞、動詞 「gustar」、「encantar」、「interesar」、嗜好の一致と不一致の表現 [第 3 回] 動詞＋不定詞：「poder」、「querer」、「preferir」、頻度 [第 4 回] 不規則活用する動詞Ⅰ、直接目的人称代名詞 [第 5 回] 数字の 100～1000 以上、序数、不定語：「たくさん」、「とても」、比較 [第 6 回] 不規則活用する動詞Ⅱ [第 7 回] ミニテスト、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞 [第 8 回] 動詞 「saber」、「poder」、「conocer」、動詞 「ser」＋ 形容詞と「estar」＋ 形容詞 [第 9 回] 代名（再帰）動詞、再帰代名詞 [第 10 回] 天気 [第 11 回] 動詞 「estar」＋ 形容詞（体調や気分） [第 12 回] 動詞「tener」＋ 名詞（感覚）、動詞「doler」 [第 13 回] 後期の復習 [第 14 回] 試験、まとめと振り返り ※講義内容は、必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ○毎回の学習内容について全て理解した上で学習を進めていくことが大切です。スペイン語は、発音はしやすいものの、動詞の活用や名詞に合わせた性数変化など覚えることが多い言語でもあります。ですが、授業への積極的な参加、復習、確認テストのための学習を怠らないことで、着実に習得できます。コツコツと学習・練習を続けてゆきましょう。 ○一度迷子になると、ついていくのが大変です。やむを得ず欠席した場合は、その回の内容を必ず自分でフォローしてください。その上で理解できなかった箇所については質問してください。 ○自分で考えた上でわからないことは、遠慮なく聞いてください。 ○5 回以上欠席した場合には、原則として評価の対象外となります。 ○授業には、辞書（紙または電子辞書）を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○予習：指定された場合には、その範囲の未修単語の意味を調べてきてください（1 時間程度）。 ○復習：授業で取り組んだ問題の見直しを行ってください。また、宿題も復習になります。必ず授業前に余裕をもって取り組んでください（1 時間程度）。		
5. 教科書 ¡Muy bien! - 朝日出版社 - Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu, 2600 円＋税。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ミニテスト（20%）、期末テスト（40%）、授業参加（20%）、宿題（20%）で評価します。		
9. その他 最初の講義で指示する。		

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅱb 政	1 単位	渡辺 有美
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅱb 政		
1. 授業の概要・到達目標 [授業の概要] この授業では、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていきます。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とします。学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受験など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてください。 [到達目標] 1、基本的な挨拶や自己紹介に加え、日常生活に関連する話題について短い会話ができるようになる。 2、現在形、過去形、現在完了形を使用した簡単な文章を作成し、短い出来事を表現できる。 3、日常会話の内容を聞き取り、要点を理解した上で適切に応答できる。 4、スペイン語圏の文化や伝統、基本的な地理・社会事情について学び、基礎知識を広げる。		
2. 授業内容 秋学期は主に、スペイン語検定5級の範囲を習得します 第1回：イントロダクション（春学期の復習、秋学期の授業について） 第2回：gustar 型動詞、前置詞格人称代名詞 第3回：再帰動詞、関係詞 第4回：過去分詞、現在完了 第5回：現在分詞、現在進行形 第6回：比較級・最上級・同等比較 第7回：a：第1回～第6回のまとめ b：中間試験 第8回：直説法点過去（1） 第9回：直説法点過去（2） 第10回：直説法線過去 第11回：点過去と線過去 第12回：点過去と線過去と現在完了 第13回：第8回～第12回のまとめ 第14回 a：定期試験 b：秋学期のまとめ [授業形式] 講義（文法・語彙の説明） 演習（課題に取り組む） ペアワーク（会話練習） リスニング（音声教材や動画） 文化コンテンツ（文化トピックの動画等）		
3. 履修上の注意 授業回数の3分の1以上を特別な理由なく欠席した場合、試験の受験はできない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業で出された課題は、授業直前に慌てて取り組むのではなく、必ず事前に自力で取り組んでおくこと。 ・授業を主体的に受け、授業時間内に講義内容を理解し、演習を通して理解を深めること。また、各自の復習時に繰り返し問題を解き、学習内容の定着を図ること。 ・身の回りにある「スペイン語」や「スペイン語圏（スペイン・ラテンアメリカ）」に関心を持ち、日常的に触れること。 ・初習外国語は、自発的かつ継続的な学習によって習得度に大きな差が生じる。積極的に授業に参加し、自主学習を習慣化すること。 授業外学習時間の目安 本授業では、1回の授業につき、主として復習および課題への取り組みとして、60～90分程度の授業外学習を行うことが望ましい。 授業で学習した文法事項や表現について、授業後に繰り返し練習し、理解の定着を図ること。		
5. 教科書 教科書：『初級スペイン語エクセレンテ!!!三訂版 Excelente! !!』渡辺有美他、朝日出版社 補助資料：教科書付属のワーク練習問題、授業内に配布するプリントやスライド資料		

6. 参考書

参考書については、授業時間内に紹介する。

購入や学習方法について希望がある場合は、相談に応じる。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題および試験に対するフィードバックは、授業時間内に行い、重要なポイントや誤りやすい点について解説する。

8. 成績評価の方法

- ・語学力（定期試験・中間試験・小テスト等）：80%

- ・平常点（授業参加態度・課題提出状況等）：20%

ただし、授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験および中間試験の受験資格を失う。

※特別な理由とは、大学が認める公欠、忌引、診断書を伴う病気・けが、感染症、天災や交通機関の乱れ等を指す。

9. その他

- ・授業の進度に応じて、「スペイン語技能検定」について紹介する。

- ・授業用のノートを用意すること。

- ・配布プリントが多くなるため、ファイルを用意するなどして紛失しないように管理すること。

- ・本授業に関する連絡および相談は、原則としてメールで受け付ける。

- ・このクラスに関する事項については、まず担当教員（渡辺）まで連絡・相談すること。メールアドレスは Oh-o! Meiji にて周知する。

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅱb 化	1 単位	渡辺 有美
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅱb 化		
1. 授業の概要・到達目標 [授業の概要] この授業では、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていきます。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とします。学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受験など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてください。 [到達目標] 1、基本的な挨拶や自己紹介に加え、日常生活に関連する話題について短い会話ができるようになる。 2、現在形、過去形、現在完了形を使用した簡単な文章を作成し、短い出来事を表現できる。 3、日常会話の内容を聞き取り、要点を理解した上で適切に応答できる。 4、スペイン語圏の文化や伝統、基本的な地理・社会事情について学び、基礎知識を広げる。		
2. 授業内容 秋学期は主に、スペイン語検定5級の範囲を習得します 第1回：イントロダクション（春学期の復習、秋学期の授業について） 第2回：gustar 型動詞、前置詞格人称代名詞 第3回：再帰動詞、関係詞 第4回：過去分詞、現在完了 第5回：現在分詞、現在進行形 第6回：比較級・最上級・同等比較 第7回：a：第1回～第6回のまとめ b：中間試験 第8回：直説法点過去（1） 第9回：直説法点過去（2） 第10回：直説法線過去 第11回：点過去と線過去 第12回：点過去と線過去と現在完了 第13回：第8回～第12回のまとめ 第14回 a：定期試験 b：秋学期のまとめ [授業形式] 講義（文法・語彙の説明） 演習（課題に取り組む） ペアワーク（会話練習） リスニング（音声教材や動画） 文化コンテンツ（文化トピックの動画等）		
3. 履修上の注意 授業回数の3分の1以上を特別な理由なく欠席した場合、試験の受験はできない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業で出された課題は、授業直前に慌てて取り組むのではなく、必ず事前に自力で取り組んでおくこと。 ・授業を主体的に受け、授業時間内に講義内容を理解し、演習を通して理解を深めること。また、各自の復習時に繰り返し問題を解き、学習内容の定着を図ること。 ・身の回りにある「スペイン語」や「スペイン語圏（スペイン・ラテンアメリカ）」に関心を持ち、日常的に触れること。 ・初習外国語は、自発的かつ継続的な学習によって習得度に大きな差が生じる。積極的に授業に参加し、自主学習を習慣化すること。 授業外学習時間の目安 本授業では、1回の授業につき、主として復習および課題への取り組みとして、60～90分程度の授業外学習を行うことが望ましい。 授業で学習した文法事項や表現について、授業後に繰り返し練習し、理解の定着を図ること。		
5. 教科書 教科書：『初級スペイン語エクセレンテ!!!三訂版 Excelente! !!』渡辺有美他、朝日出版社 補助資料：教科書付属のワーク練習問題、授業内に配布するプリントやスライド資料		

6. 参考書

参考書については、授業時間内に紹介する。

購入や学習方法について希望がある場合は、相談に応じる。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題および試験に対するフィードバックは、授業時間内に行い、重要なポイントや誤りやすい点について解説する。

8. 成績評価の方法

- ・語学力（定期試験・中間試験・小テスト等）：80%

- ・平常点（授業参加態度・課題提出状況等）：20%

ただし、授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験および中間試験の受験資格を失う。

※特別な理由とは、大学が認める公欠、忌引、診断書を伴う病気・けが、感染症、天災や交通機関の乱れ等を指す。

9. その他

- ・授業の進度に応じて、「スペイン語技能検定」について紹介する。

- ・授業用のノートを用意すること。

- ・配布プリントが多くなるため、ファイルを用意するなどして紛失しないように管理すること。

- ・本授業に関する連絡および相談は、原則としてメールで受け付ける。

- ・このクラスに関する事項については、まず担当教員（渡辺）まで連絡・相談すること。メールアドレスは Oh-o! Meiji にて周知する。

科目ナンバー (AG) LAN141N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅱb 生	1 単位	メンドサ
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅱb 生		
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていきます。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とします。 学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受検など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてください。		
2. 授業内容 第1回：住まいを描写する。家具や電化製品の名前。 第2回：テスト。場所や存在を示す。ホテルの予約をする。 第3回：テスト。定冠詞と不定冠詞。hay（存在を表す）と estar（所在を表す）。 第4回：テスト。序数詞。スペインの住まい。 第5回：テスト。食べる。レストランで食事を注文する。 第6回：テスト。好みを表現する。gustar 動詞。querer 動詞。 第7回：テスト。料理のレシピを理解する。命令形の規則形。 第8回：スペイン圏の食習慣。テスト。 第9回：テスト。地区。交通機関について情報をやりとりする、指示をする。 第10回：テスト。命令形、不規則。命令形の用法。ser と estar の用法。 第11回：テスト。依頼する。住んでいる地区を描写する。 第12回：テスト。所有形容詞後置形。テスト。 第13回：テスト。スペインの都市。サンティアゴ・デ・コンポステラ。 第14回：期末テスト。		
3. 履修上の注意 毎回出される文法の練習問題の宿題を次の授業までに必ずしておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で学習した内容を次回までに復習すること。		
5. 教科書 Español cuatro destrezas（朝日新聞社）		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 小テスト 36%、授業の参加度と課題 36%、期末テスト 28%により総合的に評価する。		
9. その他		

科 目 名	単位数	担当者
スペイン語Ⅲについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 スペイン語をさらに深く学びたい人のために、自由選択科目として設けられています。二年次から四年次までのどの時期にも履習でき、重複履習が可能です。大学生らしい語学授業の愉しみを味わうことのできる科目です。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 一年次の学習の足りなかったところを補い、さらにスペイン語の運用能力を高めるため、一年次の学習を基礎に、コミュニケーション能力の開発、中級から上級テキストの講読など受講生の希望も取り入れながら、ことばの背景となる「文化」の理解にも踏み込んだ授業が行われます。 具体的な授業内容に関しては該当科目のシラバスを参照してください。		
3. 履修上の注意 語学の授業なので予習することが必要です。そして自分なりの目標をたてることがそれを容易にしてくれるものと思います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当者の指示に従うこと。		
5. 教科書 担当者の指示に従うこと。		
6. 参考書 担当者の指示に従うこと。		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「スペイン語会話」についての説明も参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN241N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅲ (1)	1 単位	メンドサ
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅲ (1)		
1. 授業の概要・到達目標 文法の総復習をしながら、直接法のあらゆる動詞の活用を駆使し、簡単な日常会話レベルのスペイン語力をつけられるよう、練習していきます。		
2. 授業内容 第1回：友達と出かける。電話で話す。約束をする。 第2回：進行中の動作をする。お願いする。住んでいる地区を描写する。 第3回：文化について、スペイン語圏の若者の余暇の過ごし方。 第4回：休暇。生き方を尋ねる。教える、過去（昨日）のことを話す。 第5回：天候について話す。 一年の月や季節。 第6回：文化について、スペインで休暇を過ごす。 第7回：料理のレシピを理解する。命令形の規則形。 第8回：スペイン圏の食習慣。 第9回：買い物で使う表現：色、洋服について描写する。比較をする。 第10回：命令形、不規則。命令形の用法。ser と estar の用法。 第11回：健康と病気。体の都立や病気について話す。 第12回：過去の習慣について話す。 第13回：これからのプランやしたいことについて話す。 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 2年生以上の学生は、この科目の単位を何度でも取得できます。この科目は、学生が各自のレベルに応じて、残りの学年でもスペイン語を学び続けられるように支援します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で学習した内容を次回までに復習しておくこと。		
5. 教科書 プリントを配る。 短い動画のモデルに従って、個人で作文を作成します。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 評価は授業の課題 100%により総合的に行う。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN241N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スペイン語Ⅲ (2)	1 単位	メンドサ
2022～2025 年度入学者 スペイン語Ⅲ (2)		
1. 授業の概要・到達目標 文法の総復習をしながら、直接法のあらゆる動詞の活用を駆使し、簡単な日常会話レベルのスペイン語力をつけられるよう、練習していきます。		
2. 授業内容 第1回：現在分詞。紹介する。待ち合わせる。賛成と断る返事。 第2回：外見や性格を描写する。 第3回：形容詞と反対。若者の関心。週末の時間の過ごし方。ト。 第4回：店の名前。点過去。過去の話。天気について話す。 第5回：メキシコの祭り：カルナバル、聖週間、お盆、クリスマスと正月。 第6回：夏休みについての手紙。スペインでの休暇。 第7回：直接目的・間接目的格。装いについて述べる。 第8回：比較級。指示代名詞。 第9回：好きなこと。絵について。ピカソのゲルニカ。 第10回：体の部分。痛みについての表現。 第11回：住んでいた地区の描写。線過去の使い方。 第12回：インカ文明について。山への旅。習慣について話す。 第13回：スペインの都市。バルセロナ。 第14回：復習。		
3. 履修上の注意 2 年生以上の学生は、この科目の単位を何度でも取得できます。この科目は、学生が各自のレベルに応じて、残りの学年でもスペイン語を学び続けられるように支援します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で学習した内容を次回までに復習しておくこと。		
5. 教科書 プリントを配る。短い動画のモデルに沿って、個人で作文を作成します。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 評価は授業の課題 100%により総合的に行う。		
9. その他		

科 目 名	単位数	担当者
中国語Ⅰについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 中国語は、母語話者約9億人、総話者10億人以上という世界最大規模の広がりを持つ言語です。長い交流の歴史を通して、漢字のみならず、文化の深層を形成する思想や概念等、多くの要素が中国から日本に伝わり、現在に活かされています。漢字を用いる言語ですが、日本語とは意味の異なるものもあり、発音においては、声調が意味を区別する点や日本語にはない音が存在することが、学習上の重要なポイントとなります。中国語はまた、本土から台湾・東南アジアへ至る多層的な言語文化圏を成しており、各地域の文化の在り方も様々です。言語の構造や発音の習得に加えて、これら言語文化圏の多様性に触れ、科学的交流、国際協力や情報理解の基盤としての視野を広げることが本授業の目標です。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 中国語Ⅰでは、原則として言語の構造の学習、文法の習得に重点が置かれます。 中国語Ⅰも中国語Ⅱもゼロからスタートする人を対象としますので、中国語を学ぶ初歩として、中国語の発音体系—ピンイン、中国語の表記文字—簡体字を始め、初級文法、基本文型などの習得が不可欠となります。従って、いずれの場合も、発音、基礎文法、初歩会話、平易な文章の読解など、総合的な中国語の基礎知識を養います。		
3. 履修上の注意 必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。 「中国語Ⅰa」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「中国語Ⅰa」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。 「中国語Ⅰb」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「中国語Ⅰb」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各科目の担当者の指示に従って下さい。		
5. 教科書 各担当教員が選定します。		
6. 参考書 各担当教員が紹介します。		
7. 成績評価の方法 各担当教員の授業シラバス「成績評価の方法」を参照の上、必要事項を確認して下さい。 定期試験、また通常の授業への積極的参加等「平常点」も含め、評価します。		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える場合は、学部間共通外国語科目（MLP）の「中国語会話」、夏期に実施される「中国語会話（和泉キャンパスでの集中講座）」などについての説明も参照のこと。		

科目ナンバー (AG)LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語 I a 農	1 単位	阿部 亘
2022～2025 年度入学者 中国語 I a 農		
1. 授業の概要・到達目標 〔概要〕 初めて中国語を学ぶ人のための授業です。1 年かけて中国語の基礎を学びます。中国語圏の文化や習慣なども紹介しながら、楽しく学んでいける授業を目指します。 使用教材は『シンプルチャイニーズ東京 会話篇』です。春学期の Ia では教科書の前半（第 1 課～第 5 課）を、秋学期の Ib では後半（第 6 課～第 13 課）を扱います。授業は基本的に対面形式で行われます。 〔到達目標〕 ・ 基礎的な語彙や文法を使いこなせるようになる。 ・ 挨拶や自己紹介など、日常の場で用いられる簡単な中国語を理解し、自在に使えるようになる。 ・ 言語の学習とともに、中国語圏の文化や習慣への理解を深める。		
2. 授業内容 〔第 1 回〕 発音 1 声調/短母音/複母音/あいさつことば (1) 〔第 2 回〕 発音 2 子音/無気音と有気音/そり舌音/あいさつことば (2) 〔第 3 回〕 発音 3 鼻音を伴う母音/声調の組み合わせ/数字の発音を覚えよう/あいさつことば (3) 〔第 4 回〕 発音 1～3 の復習 〔第 5 回〕 第 1 課 人称代名詞/“是”の文/否定を表す“不”/疑問を表す“吗”/名前のたずね方 〔第 6 回〕 第 2 課 動詞が述語になる文/疑問詞“什么”“哪儿”“谁”を使う疑問文/語気助詞“吧”と“呢” 〔第 7 回〕 第 1～2 課の復習 〔第 8 回〕 第 3 課 指示詞/“～的”/副詞“也”と“都”/形容詞が述語になる文 〔第 9 回〕 第 4 課 数の言い方/数量詞；“有”と“没有”/“几”と“多少” 〔第 10 回〕 第 5 課 指示詞/存在の表現/年月日の言い方/連動文 〔第 11 回〕 第 3～5 課の復習 〔第 12 回〕 復習 1 〔第 13 回〕 総復習&ロールプレイ 〔第 14 回〕 理解度の確認（期末試験）		
3. 履修上の注意 集団・個別を問わず声を出しての練習が多い授業になると思いますので、そのつもりで準備をしてきてください。 どんな語学もそうですが、授業に出席しているだけでは身につけることはできません。外国語はスポーツや楽器演奏に近い一種の身体技能です。そのため、繰り返しの練習は不可欠です。とりわけ中国語は発音が重要であるため、言葉のリズム、口のかたち、舌の位置などに注意しながら練習をしましょう。早くからシャドーイングに取り組むことをおすすめします。 勉強法は向き不向きがあるので、自分にあった勉強法をみつけましょう。自分な好きなものと結びつけて学ぶのが近道です。（勉強法については相談に乗ります）		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 ・ 新出単語の意味を確認、発音についても音声をチェックしておく。 ・ 本文および例文の意味を日本語で説明できるようにしておく。練習問題を事前に解いておく。 【復習】 ・ 授業で学んだ内容を、音声を繰り返し聴き、声に出して練習する。テキストおよび例文を簡体字で書けるようにする。 ・ 授業中に適宜出される課題を完成させる。		
5. 教科書 早稲田大学理工学術院中国語部会編『シンプルチャイニーズ 東京 会話篇』（朝日出版社、2025 年〔第 10 刷〕） 頻繁に改訂が行われているため、最新版を入手するようにしてください。		
6. 参考書 相原茂・石田知子・戸沼市子著『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社、2016 年） 上野恵司『中国語発音の基礎』（NHK 出版、2002 年） このほか適宜授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題を採点・添削して返却するほか、リアクションペーパーへのコメントなどでフィードバックを行う予定です。		

8. 成績評価の方法

試験：70%

平常点：30%

※平常点は出席、課題、小テストなどで総合的に評価します。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語 I a 政	1 単位	陸 薇
2022～2025 年度入学者 中国語 I a 政		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業は、中国語を初めて学ぶ大学生を対象とし、文法の基礎を重視しながら中国語運用能力の土台を養うことを目的とする。 ピンインの習得から始め、基礎的な語彙・文法事項を学びつつ、簡単な会話表現や短文読解へと段階的に進む。 《授業の到達目標》 本授業を通して、以下の到達を目指す。 1. 中国語のピンインと基本的な発音を理解し、正しく読めるようになる。 2. 初級レベルの文法事項を理解し、簡単な中国語の文のしくみを把握できるようになる。 3. あいさつや自己紹介など、基礎的な会話表現を理解し、用いることができるようになる。 4. 短くやさしい中国語の文章を読み、内容の大意をつかめるようになる。 5. 初歩的な中国語の文を、日本語として自然に訳す基礎的な力を身につける。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進み方、成績評価等について説明する。 発音編 発音一 中国語の音節 発音一、1. 子音の前半 2. 単母音 3. 音節 4. 四声 第2回：発音二、1. 子音の後半 2. 複母音 3. 声調符号のつけ方 第3回：発音三、1. そり舌 2. 声調の変化 3. 隔音記号 第4回：発音四、1. 「儿 er」化（アル化音） 2. 声調の組み合わせの練習 基礎会話・短文編 第5回：第1課 我叫田中太郎（前） 学習ポイント1. 判断動詞“是” 2. 名前の聞き方 3. 人称代名詞 第6回：第1課（後） 置き換え練習 総合練習 第7回：中国文化の紹介、中間試験 第8回：第2課 这是什么？（前） 学習ポイント1. 疑問代名詞を用いる疑問文 2. 指示代名詞 3. 連体修飾語として用いる「的」「名詞＋的＋名詞」 第9回：第2課（後） 置き換え練習 総合練習 第10回：第3課 食堂的咖喱饭好吃吗？（前） 学習ポイント1. 形容詞述語文 2. 形容詞の反復疑問文 3. 慣用句：「不太～」あまり～ない 第11回：第3課（後） 置き換え練習 総合練習 第12回：第4課 你有电脑吗？（前） 学習ポイント1. 「所有」の関係を表す「有」 2. モノを数える量詞「数詞＋量詞＋名詞」 第13回：第4課（後） 置き換え練習 総合練習 第14回：定期試験と解説		
3. 履修上の注意 課題は、各課の学習後に提出してください。日々の積み重ねが学習の理解につながる。 授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験を受験することができないので、ご注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 予習：次の授業で扱う単語や表現を確認し、音声を聞いて発音に慣れておく。 2. 復習：授業で学んだ発音・表現・会話文を繰り返し練習し、実際に声に出して定着を図る。 3. 課題：課題は宿題として課し、学習内容の理解と定着を図る。		
5. 教科書 21世紀新漢語教材研究チーム著 「21世紀新漢語」初級編 出版社 郁文堂		
6. 参考書 『中日辞典』小学館／講談社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出された課題については、授業内または個別に解説・講評を行う。 2. 必要に応じて発音や表現について具体的な指導を行う。		

8. 成績評価の方法

語学力（定期試験、中間試験）70%

平常点（授業参加度、授業態度、課題の提出状況等）30%

評価方法に関する備考

1. 発音編と基礎会話・短文編第1課の学習終了後に中間テストを実施する。採点後は学生に返却する。追試は原則として実施しない。
2. 定期試験の追試は原則として実施しない。但し、病気や事故など、その他やむを得ない理由があり、証明書を提出した場合限り、認めることがある。なお、評価方法については、第1回の授業で詳しく説明する。

9. その他

オフィスアワーや連絡方法（E-mail）については、第1回の授業でお伝えする。

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語 I a 化	1 単位	中本 梅衣
2022～2025 年度入学者 中国語 I a 化		
1. 授業の概要・到達目標 中国語を初めて学ぶ学生を対象として楽しみながら学び、後期の中国語Ⅱにつなげていく。 到達目標は、(1) ピンイン(発音表記)と正確な発音の習得、(2) 日常生活で使われる基本的な単語と会話文の習得、(3) 初歩的な文法力を身につけることに置く。 中国語は特に発音が命なので、間違えてもいいから大きな声を出して発音してもらおう。語彙・文法を学ぶために教科書の表現を暗記する。中国の文化・社会についても随時取り上げる。		
2. 授業内容 第1回： オリエンテーション 年間授業の計画についての説明と指示。 第2回： 発音1 ピンイン、声調、単母音。 第3回： 発音2 子音。 第4回： 発音3 複合母音(前半)。 第5回： 発音4 複合母音(後半)と挨拶言葉。 第6回： 発音小テストと第一課「学習の要点と文型練習」。 第7回： 第一課本文と練習問題、副課文。 第8回： 第二課「学習の要点と文型練習」。 第9回： 第二課本文と練習問題、副課文。 第10回： 第三課「学習の要点と文型練習」。 第11回： 第三課本文と練習問題、副課文。 第12回： 第四課「学習の要点と文型練習」。 第13回： 第四課本文と練習問題、副課文。 第14回： 期末試験。		
3. 履修上の注意 1 毎回宿題がありますので、必ず授業前にやっておいて下さい。授業前にチェックします。これは成績評価に含まれます。 2 毎回必ず教科書を持ってくる。忘れたら5点減点します。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 1 毎回教科書の予習と復習をして下さい。 2 毎回教員が出した補充問題もやって下さい。		
5. 教科書 『初級中国語 花ばな 一改訂版』池上貞子ほか、朝日出版社、2200 円。		
6. 参考書 『中日辞典』・『日中辞典』は必需品！電子辞書を勧める。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業への取り組み 30%、中間テスト 30%、期末試験 40%。		
9. その他		

科目ナンバー (AG)LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語 I a 生	1 単位	許 家晟
2022～2025 年度入学者 中国語 I a 生		
1. 授業の概要・到達目標 中国語を初めて学習する者が対象です。この授業では、中国語の発音をはじめ、基本的な語彙・表現・文法を学習します。 中国語の知識として身に付けるだけでなく、中国語でコミュニケーションできるようになることを目指します。具体的には、耳で中国語の音声に馴染み、発音できるように学びます。中国語の発音を表記する「ピンイン」のルールも覚え、発音を聞いて「ピンイン」で書き、また「ピンイン」を見て発音できるようにします。語彙・表現・文法に関しては、それぞれの意味の理解はもちろん、いつ、だれと、どのような話をするときに、どのように使えるかを意識的に考え、それらを使って、言いたいことを中国語で伝えられる力をつけます。		
2. 授業内容 [第 1 回] 中国語を学ぶ上での留意点、発音〈1〉：声調、単母音、複母音、あいさつ（1） [第 2 回] 発音〈2〉：子音、有気音、無気音、そり舌音、あいさつ（2） [第 3 回] 発音〈3〉：鼻音を伴う母音、声調の組み合わせ、あいさつ（3） [第 4 回] 発音〈4〉：発音の強化練習および総復習 [第 5 回] 第 1 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 6 回] 第 2 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 7 回] 第 3 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 8 回] 復習〈1〉：第 1～3 課の復習 [第 9 回] 第 4 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 10 回] 第 5 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 11 回] 第 6 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 12 回] 復習〈2〉：第 1～6 課 [第 13 回] 学習状況の確認（口頭形式） [第 14 回] a：筆記試験 b：講義全体の振り返りと試験の正答解説		
3. 履修上の注意 開講前に必ず教科書を用意してください。 毎回、出席を取ります。特別な事情がない限り、遅刻や欠席は減点の対象となります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、リスニング小テストを行いますので、授業までに復習すること。		
5. 教科書 『インタラクティブで中国語』（山本範子他、朝日出版社、2025 年初版）		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にその都度フィードバックを行う		
8. 成績評価の方法 期末テスト（70%）、小テスト（30%）に出席状況を加味して総合点を算出し、60 点以上を合格とします。4 回以上欠席した者は単位を認めません。出席点はありませんが、欠席および遅刻がある場合、総合点から減点します。欠席は 1 回につき 3 点、遅刻は 1 回につき 2 点という基準で減点します。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語 I b 農	1 単位	阿部 亘
2022～2025 年度入学者 中国語 I b 農		
1. 授業の概要・到達目標 〔概要〕 初めて中国語を学ぶ人のための授業です。1 年かけて中国語の基礎を学びます。中国語圏の文化や習慣なども紹介しながら、楽しく学んでいける授業を目指します。 使用教材は『シンプルチャイニーズ東京 会話篇』です。春学期の Ia では教科書の前半（第 1 課～第 5 課）を、秋学期の Ib では後半（第 6 課～第 13 課）を扱います。授業は基本的に対面形式で行われます。 〔到達目標〕 ・ 基礎的な語彙や文法を使いこなせるようになる。 ・ 挨拶や自己紹介など、日常の場で用いられる簡単な中国語を理解し、自在に使えるようになる。 ・ 言語の学習を通じて、中国語圏の文化や習慣への理解を深める。		
2. 授業内容 〔第 1 回〕 第 6 課 完了を表す“了”/時刻・曜日の言い方/変化・到達を表す“了”/前置詞“跟” 〔第 2 回〕 第 7 課 助動詞“想”/反復疑問文/前置詞“在” 〔第 3 回〕 第 8 課 助動詞“会”“能”“可以”/様態補語 〔第 4 回〕 第 6～8 課の復習 〔第 5 回〕 第 9 課 比較をあらわす“比”/経験をあらわす“过”/前置詞“给”/選択疑問文“还是” 〔第 6 回〕 第 10 課 前置詞“从”“到”“离”/“要”/時間の回数を表す言葉 〔第 7 回〕 第 11 課 動作の進行を表す“在”/動作・状態の持続を表す“着” 〔第 8 回〕 第 9～11 課の復習 〔第 9 回〕 第 12 課 “要…了”“快要…了”/結果補語 〔第 10 回〕 第 13 課 “是…的”/方向補語/“一点儿”と“有点儿”/“怎么” 〔第 11 回〕 第 12～13 課の復習 〔第 12 回〕 復習 2 〔第 13 回〕 総復習 〔第 14 回〕 理解度の確認（期末試験）		
3. 履修上の注意 集団・個別を問わず声を出しての練習が多い授業になると思いますので、そのつもりで準備をしてきてください。 どんな語学もそうですが、授業に出席しているだけでは身につけることはできません。外国語はスポーツや楽器演奏に近い一種の身体技能です。そのため、繰り返しの練習は不可欠です。とりわけ中国語は発音が重要であるため、言葉のリズム、口のかたち、舌の位置などに注意しながら練習をしましょう。早くからシャドーイングに取り組むことをおすすめします。 勉強法は向き不向きがあるので、自分にあった勉強法を見つけましょう。自分な好きなものと結びつけて学ぶのが近道です。（勉強法については相談に乗ります）		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 ・ 新出単語の意味を確認、発音についても音声をチェックしておく。 ・ 本文および例文の意味を日本語で説明できるようにしておく。練習問題を事前に解いておく。 【復習】 ・ 授業で学んだ内容を、音声を繰り返し聴き、声に出して練習する。テキストおよび例文を簡体字で書けるようにする。 ・ 授業中に適宜出される課題を完成させる。		
5. 教科書 早稲田大学理工学術院中国語部会編『シンプルチャイニーズ 東京 会話篇』（朝日出版社、2025 年〔第 10 刷〕） 頻繁に改訂が行われているため、最新版を入手するようにしてください。		
6. 参考書 相原茂・石田知子・戸沼市子著『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社、2016 年） 上野恵司『中国語発音の基礎』（NHK 出版、2002 年） このほか適宜授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題を採点・添削して返却するほか、リアクションペーパーへのコメントなどでフィードバックを行う予定です。		

8. 成績評価の方法

試験：70%

平常点：30%

※平常点は出席、課題、小テストなどで総合的に評価します。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語 I b 政	1 単位	陸 薇
2022～2025 年度入学者 中国語 I b 政		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業は、中国語を初めて学ぶ大学生を対象とし、文法の基礎を重視しながら中国語運用能力の土台を養うことを目的とする。ピンインの習得から始め、基礎的な語彙・文法事項を学びつつ、簡単な会話表現や短文読解へと段階的に進む。 《授業の到達目標》 本授業を通して、以下の到達を目指す。 1. 中国語のピンインと基本的な発音を理解し、正しく読めるようになる。 2. 初級レベルの文法事項を理解し、簡単な中国語の文のしくみを把握できるようになる。 3. あいさつや自己紹介など、基礎的な会話表現を理解し、用いることができるようになる。 4. 短くやさしい中国語の文章を読み、内容の大意をつかめるようになる。 5. 初歩的な中国語の文を、日本語として自然に訳す基礎的な力を身につける。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進み方、成績評価等について説明する。前期の復習 第5課 你家有几口人？（前） 学習ポイント1. 存在を表す「有」 2. 年齢の聞き方 3. 誕生日の聞き方 4. 数字の読み方と年月日の言い方 第2回：第5課（後）置き換え練習 総合練習 第3回：第6課 你去哪儿？（前） 学習ポイント1. 動詞述語文 2. 場所指示代名詞 3. 疑問文「名詞＋呢」 第4回：第6課（後）置き換え練習 総合練習 第5回：第7課 王老师在哪儿？（前） 学習ポイント1. 存在を表す「在」 2. 選択疑問文「A＋还是＋B」～それとも～ 3. 曜日の言い方 4. 時間詞の言い方 第6回：第7課（後）置き換え練習 総合練習 第7回：中国文化の紹介、中間試験 第8回：第8課 从你家到学校远吗？（前） 学習ポイント1. 前置詞「从～到～」 「离」 2. 時刻の言い方 3. 自己紹介 第9回：第8課（後）置き換え練習 総合練習 第10回：第9課 你在做什么？（前） 学習ポイント1. 進行形を表す「正在～」 「在～」 「正～」 2. 願望を表す「想～」 3. 「去」の連動文「主語＋去＋（場所）＋動詞＋目的語」 4. 短文 第11回：第9課（後）置き換え練習 総合練習 第12回：第10課 我爸爸比我高（前） 学習ポイント1. 比較を表す「比」「没有」 2. 前置詞「给～」 3. 中国貨幣の知識 4. 短文 第13回：第10課（後）置き換え練習 総合練習 第14回：定期試験と解説		
3. 履修上の注意 課題は、各課の学習後に提出してください。日々の積み重ねが学習の理解につながる。 授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験を受験することができないので、ご注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 予習：次の授業で扱う単語や表現を確認し、音声を聞いて発音に慣れておく。 2. 復習：授業で学んだ発音・表現・会話文を繰り返し練習し、実際に声に出して定着を図る。 3. 課題：課題は宿題として課し、学習内容の理解と定着を図る。		
5. 教科書 21世紀新漢語教材研究チーム著 「21世紀新漢語」初級編 出版社 郁文堂		
6. 参考書 『中日辞典』小学館／講談社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出された課題については、授業内または個別に解説・講評を行う。 2. 必要に応じて発音や表現について具体的な指導を行う。		

8. 成績評価の方法

語学力（定期試験、中間試験）70%

平常点（授業参加度、授業態度、課題の提出状況等）30%

評価方法に関する備考

1. 第7課の学習終了後に中間テストを実施する。採点後は学生に返却する。追試は原則として実施しない。
2. 定期試験の追試は原則として実施しない。但し、病気や事故など、その他やむを得ない理由があり、証明書を提出した場合限り、認めることがある。なお、評価方法については、第1回の授業で詳しく説明する。

9. その他

オフィスアワーや連絡方法（E-mail）については、第1回の授業でお伝えする。

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語 I b 化	1 単位	中本 梅衣
2022～2025 年度入学者 中国語 I b 化		
1. 授業の概要・到達目標 中国語 I を学んだ学生を対象とし、より中国語の能力を高める。 達成目標は、(1) 語彙を増やすこと、(2) 多様な場面における会話表現の習得、(3) 辞書を使いながら読み書き能力を習得することである。 中国語 I の復習として、発音と基本的な表現の再確認をする。色々な会話表現を学びながら、語彙数を増やし、文法力を高める。辞書の使い方を学び、読解・作文能力を習得する。中国語でメールのやりとりもできるようにする。		
2. 授業内容 第 1 回：第五課「学習の要点と文型練習」。 第 2 回： 第五課本文と練習問題、副課文。 第 3 回： 第六課「学習の要点と文型練習」。 第 4 回： 第六課本文と練習問題、副課文。 第 5 回： 第七課「学習の要点と文型練習」。 第 6 回： 第七課本文と練習問題、副課文。 第 7 回： 作文の発表会。 第 8 回： 第八課「学習の要点と文型練習」。 第 9 回：第八課本文と練習問題、副課文。 第 10 回：第九課「学習の要点と文型練習」。 第 11 回：第九課本文と練習問題、副課文。 第 12 回：第十課「学習の要点と文型練習」。 第 13 回：第十課本文と練習問題、副課文。 第 14 回：期末試験。		
3. 履修上の注意 1 毎回宿題がありますので、必ず授業前にやっておいて下さい。授業前にチェックします。これは成績評価に含まれます。 2 毎回必ず教科書を持ってくる。忘れたら 5 点減点します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1 毎回教科書の予習と復習をして下さい。 2 毎回教員が出した補充問題もやって下さい。		
5. 教科書 『初級中国語 花ばな 一改訂版一』池上貞子ほか、朝日出版社、2200 円。		
6. 参考書 『中日辞典』・『日中辞典』は必需品！電子辞書を勧める。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業への取り組み 30%、作文及び口頭発表 30%、期末試験 40%。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語 I b 生	1 単位	許 家晟
2022～2025 年度入学者 中国語 I b 生		
1. 授業の概要・到達目標 春学期の「中国語 1 b」を履修した人が対象です。この授業では、中国語の基本的な語彙・表現・文法を学習します。 それぞれの意味の理解はもちろん、いつ、だれと、どのような話をするときに、どのように使えるかを意識的に考え、それらを使って、言いたいことを中国語で伝えられる力をつけることが目標です。		
2. 授業内容 [第 1 回] 第 7 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 2 回] 第 8 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 3 回] 第 9 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 4 回] 復習〈1〉: 第 7～9 課の復習 [第 5 回] 第 10 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 6 回] 第 11 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 7 回] 第 12 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 8 回] 復習〈2〉: 第 10～12 課の復習 [第 9 回] 第 13 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 10 回] 第 14 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 11 回] 第 15 課 単語、文法ポイント、本文、トレーニング [第 12 回] 復習〈3〉: 第 13～15 課 [第 13 回] 学習状況の確認（口頭形式） [第 14 回] a：筆記試験 b：講義全体の振り返りと試験の正答解説		
3. 履修上の注意 開講前に必ず教科書を用意してください。 毎回、出席を取ります。特別な事情がない限り、遅刻や欠席は減点の対象となります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、リスニング小テストを行いますので、授業までに復習すること。		
5. 教科書 『インタラクティブで中国語』（山本範子他、朝日出版社、2025 年初版）		
6. 参考書 『中国語は面白い』新井一二三、講談社 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』相原茂・石田知子・戸沼市子、同学社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にその都度フィードバックを行う		
8. 成績評価の方法 期末テスト（70%）、小テスト（30%）に出席状況を加味して総合点を算出し、60 点以上を合格とします。4 回以上欠席した者は単位を認めません。出席点はありませんが、欠席および遅刻がある場合、総合点から減点します。欠席は 1 回につき 3 点、遅刻は 1 回につき 2 点という基準で減点します。		
9. その他		

科 目 名	単位数	担当者
中国語Ⅱについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 中国語は、母語話者約9億人、総話者10億人以上という世界最大規模の広がりを持つ言語です。長い交流の歴史を通して、漢字のみならず、文化の深層を形成する思想や概念等、多くの要素が中国から日本に伝わり、現在に活かされています。漢字を用いる言語ですが、日本語とは意味の異なるものもあり、発音においては、声調が意味を区別する点や日本語にはない音が存在することが、学習上の重要なポイントとなります。中国語はまた、本土から台湾・東南アジアへ至る多層的な言語文化圏を成しており、各地域の文化の在り方も様々です。言語の構造や発音の習得に加えて、これら言語文化圏の多様性に触れ、科学的交流、国際協力や情報理解の基盤としての視野を広げることが本授業の目標です。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 中国語Ⅱでは原則として講読、口頭表現に学習の重点が置かれます。 しかし中国語Ⅱも初修者を対象としますので、中国語を学ぶ初歩として、中国語の発音体系—ピンイン、中国語の表記文字—簡体字を始め、初級文法、基本文型などの習得は不可欠です。したがって、中国語Ⅰと同様に、発音、基礎文法、平易な文章の読解などの学びを継続しつつ、中国語の基礎知識実践の場が提供されます。		
3. 履修上の注意 必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。 「中国語Ⅱa」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「中国語Ⅱa」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。 「中国語Ⅱb」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「中国語Ⅱb」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員の指示に従って下さい。		
5. 教科書 各担当教員の選定したものを使用します。		
6. 参考書 各担当教員が紹介します。		
7. 成績評価の方法 各担当教員の授業シラバス「成績評価の方法」を参照の上、必要事項を確認して下さい。 定期試験、また通常の授業への積極的参加等「平常点」も含め、評価します。		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える場合は、学部間共通外国語科目（MLP）の「中国語会話」、夏期に実施される「中国語会話（和泉キャンパスでの集中講座）」などについての説明も参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅱa 農	1 単位	陸 薇
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅱa 農		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業は、会話を中心とした初級中国語科目である。 中国語は発音や声調、抑揚、リズムがとても重要な言語である。本授業では、正しい発音を身につけながら、実際にたくさん声に出して練習する。 聞く練習と話す練習を繰り返し行い、日常で使える中国語表現を楽しく学ぶ。同時に簡体字の読み方・書き方にも触れ、中国語の基礎力を身につける。 《授業の到達目標》 この授業を通して、次のことができるようになることを目指す。 1. 中国語の基本的な発音や声調を理解し、はっきり発音できる 2. 簡単な中国語を聞いて内容を理解できる 3. 日常的な場面で、簡単な中国語の会話ができる		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進み方、成績評価等について説明する。 第1課 中国語の音節 発音（1） 声調 第2回：第2課 発音（2）単母音、複母音 第3回：第3課 発音（3）子音 ① 第4回：第4課 発音（4）子音 ② 第5回：第5課 初対面の自己紹介（前） 学習ポイント1. 動詞“是” 2. 助詞“的” 3. 名前の言い方、尋ね方 第6回：第5課（後）ドリル 会話練習 第7回：中国文化の紹介、中間試験 第8回：第6課 誕生日祝いに何を食べる？（前） 学習ポイント1. 年齢の言い方 2. 年月日の言い方 3. SV0 第9回：第6課（後）ドリル 会話練習 第10回：第7課 家族の話（前） 学習ポイント1. 存在を表す“有” 2. 所在を表す“在” 3. 選択疑問文 第11回：第7課（後）ドリル 会話練習 第12回：第8課パンダを見に行こう！（前） 学習ポイント1. 形容詞述語文 2. 動詞“喜欢” 3. 連動文 第13回：第8課（後）ドリル 会話練習 第14回：定期試験と解説		
3. 履修上の注意 課題は、各課の学習後に提出してください。日々の積み重ねが学習の理解につながる。 授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験を受験することができないので、ご注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 予習：次の授業で扱う単語や表現を確認し、音声を聞いて発音に慣れておく。 2. 復習：授業で学んだ発音・表現・会話を繰り返し練習し、実際に声に出して定着を図る。 3. 課題：課題は宿題として課し、学習内容の理解と定着を図る。		
5. 教科書 陳淑梅、劉渥氷・著 「初めての異文化おもしろ体験」 初級中国語 朝日出版社		
6. 参考書 『中日辞典』小学館／講談社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出された課題については、授業内または個別に解説・講評を行う。 2. 必要に応じて発音や表現について具体的な指導を行う。		

8. 成績評価の方法

語学力（期末試験、中間試験）70%

平常点（授業参加度、授業態度、課題の提出状況等）30%

評価方法に関する備考

1. 発音編と第5課の学習終了後に中間テストを実施する。採点後は学生に返却する。追試は原則として実施しない。
2. 定期試験の追試は原則として実施しない。但し、病気や事故など、その他やむを得ない理由があり、証明書を提出した場合限り、認めることがある。なお、評価方法については、第1回の授業で詳しく説明する。

9. その他

オフィスアワーや連絡方法（E-mail）については、第1回の授業でお伝えする。

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅱa 政	1 単位	陸 薇
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅱa 政		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業は、会話を中心とした初級中国語科目である。 中国語は発音や声調、抑揚、リズムがとても重要な言語である。本授業では、正しい発音を身につけながら、実際にたくさん声に出して練習する。 聞く練習と話す練習を繰り返し行い、日常で使える中国語表現を楽しく学ぶ。同時に簡体字の読み方・書き方にも触れ、中国語の基礎力を身につける。 《授業の到達目標》 この授業を通して、次のことができるようになることを目指す。 1. 中国語の基本的な発音や声調を理解し、はっきり発音できる 2. 簡単な中国語を聞いて内容を理解できる 3. 日常的な場面で、簡単な中国語の会話ができる		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進み方、成績評価等について説明する。 第1課 中国語の音節 発音（1） 声調 第2回：第2課 発音（2）単母音、複母音 第3回：第3課 発音（3）子音 ① 第4回：第4課 発音（4）子音 ② 第5回：第5課 初対面の自己紹介（前） 学習ポイント1. 動詞“是” 2. 助詞“的” 3. 名前の言い方、尋ね方 第6回：第5課（後）ドリル 会話練習 第7回：中国文化の紹介、中間試験 第8回：第6課 誕生日祝いに何を食べる？（前） 学習ポイント1. 年齢の言い方 2. 年月日の言い方 3. SV0 第9回：第6課（後）ドリル 会話練習 第10回：第7課 家族の話（前） 学習ポイント1. 存在を表す“有” 2. 所在を表す“在” 3. 選択疑問文 第11回：第7課（後）ドリル 会話練習 第12回：第8課パンダを見に行こう！（前） 学習ポイント1. 形容詞述語文 2. 動詞“喜欢” 3. 連動文 第13回：第8課（後）ドリル 会話練習 第14回：定期試験と解説		
3. 履修上の注意 課題は、各課の学習後に提出してください。日々の積み重ねが学習の理解につながる。 授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験を受験することができないので、ご注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 予習：次の授業で扱う単語や表現を確認し、音声を聞いて発音に慣れておく。 2. 復習：授業で学んだ発音・表現・会話を繰り返し練習し、実際に声に出して定着を図る。 3. 課題：課題は宿題として課し、学習内容の理解と定着を図る。		
5. 教科書 陳淑梅、劉渥氷・著 「初めての異文化おもしろ体験」 初級中国語 朝日出版社		
6. 参考書 『中日辞典』小学館／講談社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出された課題については、授業内または個別に解説・講評を行う。 2. 必要に応じて発音や表現について具体的な指導を行う。		

8. 成績評価の方法

語学力（期末試験、中間試験）70%

平常点（授業参加度、授業態度、課題の提出状況等）30%

評価方法に関する備考

1. 発音編と第5課の学習終了後に中間テストを実施する。採点後は学生に返却する。追試は原則として実施しない。
2. 定期試験の追試は原則として実施しない。但し、病気や事故など、その他やむを得ない理由があり、証明書を提出した場合限り、認めることがある。なお、評価方法については、第1回の授業で詳しく説明する。

9. その他

オフィスアワーや連絡方法（E-mail）については、第1回の授業でお伝えする。

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅱa 化	1 単位	陸 薇
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅱa 化		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業は、会話を中心とした初級中国語科目である。 中国語は発音や声調、抑揚、リズムがとても重要な言語である。本授業では、正しい発音を身につけながら、実際にたくさん声に出して練習する。 聞く練習と話す練習を繰り返し行い、日常で使える中国語表現を楽しく学ぶ。同時に簡体字の読み方・書き方にも触れ、中国語の基礎力を身につける。 《授業の到達目標》 この授業を通して、次のことができるようになることを目指す。 1. 中国語の基本的な発音や声調を理解し、はっきり発音できる 2. 簡単な中国語を聞いて内容を理解できる 3. 日常的な場面で、簡単な中国語の会話ができる		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進み方、成績評価等について説明する。 第1課 中国語の音節 発音（1） 声調 第2回：第2課 発音（2）単母音、複母音 第3回：第3課 発音（3）子音 ① 第4回：第4課 発音（4）子音 ② 第5回：第5課 初対面の自己紹介（前） 学習ポイント1. 動詞“是” 2. 助詞“的” 3. 名前の言い方、尋ね方 第6回：第5課（後）ドリル 会話練習 第7回：中国文化の紹介、中間試験 第8回：第6課 誕生日祝いに何を食べる？（前） 学習ポイント1. 年齢の言い方 2. 年月日の言い方 3. SV0 第9回：第6課（後）ドリル 会話練習 第10回：第7課 家族の話（前） 学習ポイント1. 存在を表す“有” 2. 所在を表す“在” 3. 選択疑問文 第11回：第7課（後）ドリル 会話練習 第12回：第8課パンダを見に行こう！（前） 学習ポイント1. 形容詞述語文 2. 動詞“喜欢” 3. 連動文 第13回：第8課（後）ドリル 会話練習 第14回：定期試験と解説		
3. 履修上の注意 課題は、各課の学習後に提出してください。日々の積み重ねが学習の理解につながる。 授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験を受験することができないので、ご注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 予習：次の授業で扱う単語や表現を確認し、音声を聞いて発音に慣れておく。 2. 復習：授業で学んだ発音・表現・会話を繰り返し練習し、実際に声に出して定着を図る。 3. 課題：課題は宿題として課し、学習内容の理解と定着を図る。		
5. 教科書 陳淑梅、劉渥氷・著 「初めての異文化おもしろ体験」 初級中国語 朝日出版社		
6. 参考書 『中日辞典』小学館／講談社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出された課題については、授業内または個別に解説・講評を行う。 2. 必要に応じて発音や表現について具体的な指導を行う。		

8. 成績評価の方法

語学力（期末試験、中間試験）70%

平常点（授業参加度、授業態度、課題の提出状況等）30%

評価方法に関する備考

1. 発音編と第5課の学習終了後に中間テストを実施する。採点後は学生に返却する。追試は原則として実施しない。
2. 定期試験の追試は原則として実施しない。但し、病気や事故など、その他やむを得ない理由があり、証明書を提出した場合限り、認めることがある。なお、評価方法については、第1回の授業で詳しく説明する。

9. その他

オフィスアワーや連絡方法（E-mail）については、第1回の授業でお伝えする。

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅱa 生	1 単位	中本 梅衣
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅱa 生		
1. 授業の概要・到達目標 中国語を初めて学ぶ学生を対象として楽しみながら学び、後期の中国語Ⅱにつなげていく。 到達目標は、(1) ピンイン(発音表記)と正確な発音の習得、(2) 日常生活で使われる基本的な単語と会話文の習得、(3) 初歩的な文法力を身につけることに置く。 中国語は特に発音が命なので、間違えてもいいから大きな声を出して発音してもらおう。語彙・文法を学ぶために教科書の表現を暗記する。中国の文化・社会についても随時取り上げる。		
2. 授業内容 第1回： オリエンテーション 年間授業の計画についての説明と指示。 第2回： 発音1 ピンイン、声調、単母音。 第3回： 発音2 子音。 第4回： 発音3 複合母音(前半)。 第5回： 発音4 複合母音(後半)と挨拶言葉。 第6回： 発音小テストと第一課「学習の要点と文型練習」。 第7回： 第一課本文と練習問題、副課文。 第8回： 第二課「学習の要点と文型練習」。 第9回： 第二課本文と練習問題、副課文。 第10回： 第三課「学習の要点と文型練習」。 第11回： 第三課本文と練習問題、副課文。 第12回： 第四課「学習の要点と文型練習」。 第13回： 第四課本文と練習問題、副課文。 第14回： 期末試験。		
3. 履修上の注意 1 毎回宿題がありますので、必ず授業前にやっておいて下さい。授業前にチェックします。これは成績評価に含まれます。 2 毎回必ず教科書を持ってくる。忘れたら5点減点します。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 1 毎回教科書の予習と復習をして下さい。 2 毎回教員が出した補充問題もやって下さい。		
5. 教科書 『初級中国語 花ばな 一改訂版』池上貞子ほか、朝日出版社、2200 円。		
6. 参考書 『中日辞典』・『日中辞典』は必需品！電子辞書を勧める。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業への取り組み 30%、中間テスト 30%、期末試験 40%。		
9. その他		

科目ナンバー (AG)LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅱb 農	1 単位	陸 薇
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅱb 農		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業は、会話を中心とした初級中国語科目である。 中国語は発音や声調、抑揚、リズムがとても重要な言語である。本授業では、正しい発音を身につけながら、実際にたくさん声に出して練習する。 聞く練習と話す練習を繰り返し行い、日常で使える中国語表現を楽しく学ぶ。同時に簡体字の読み方・書き方にも触れ、中国語の基礎力を身につける。 《授業の到達目標》 この授業を通して、次のことができるようになることを目指す。 1. 中国語の基本的な発音や声調を理解し、はっきり発音できる 2. 簡単な中国語を聞いて内容を理解できる 3. 日常的な場面で、簡単な中国語の会話ができる		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進み方、成績評価等について説明する。前期の復習 第9課 ショッピング（前） 学習ポイント 1. 助動詞“想” “要” 2. 量詞 3. 100 以上の数字の言い方 第2回：第9課（後）ドリル 会話練習 第3回：第10課 一緒に昼ご飯を食べましょう。（前） 学習ポイント 1. 動作の進行の言い方 2. 状態の変化を表す助詞“了” 3. 時刻の言い方 第4回：第10課（後）ドリル 会話練習 第5回：第11課 中国料理屋で 学習ポイント 1. 料理を注文するときの言い方 2. 比較を表す表現 3. 動詞の重ね方 第6回：第11課（後）ドリル 会話練習 第7回：中国文化の紹介、中間試験 第8回：第12課 中秋節（前） 学習ポイント 1. 動作の実現・完成を表す助詞“了” 2. 経験を表す“过” 3. 副詞“有点儿”と量詞“一点儿”の使い方 第9回：第12課（後）ドリル 会話練習 第10回：第13課 道を尋ねる（前） 学習ポイント 1. 助動詞“可以” 2. 前置詞“从”、“往” “在” 3. 時間量の言い方 第11回：第13課（後）ドリル 会話練習 第12回：第14課 カラオケで（前） 学習ポイント 1. 結果補語 2. 助動詞“会”、“能” 3. 様態補語 第13回：第14課（後）ドリル 会話練習 第14回：定期試験と解説		
3. 履修上の注意 課題は、各課の学習後に提出してください。日々の積み重ねが学習の理解につながる。 授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験を受験することができないので、ご注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 予習：次の授業で扱う単語や表現を確認し、音声を聞いて発音に慣れておく。 2. 復習：授業で学んだ発音・表現・会話を繰り返し練習し、実際に声に出して定着を図る。 3. 課題：課題は宿題として課し、学習内容の理解と定着を図る。		
5. 教科書 陳淑梅、劉渥氷・著 「初めての異文化おもしろ体験」 初級中国語 朝日出版社		
6. 参考書 『中日辞典』小学館／講談社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出された課題については、授業内または個別に解説・講評を行う。 2. 必要に応じて発音や表現について具体的な指導を行う。		

8. 成績評価の方法

語学力（期末試験、中間試験）70%

平常点（授業参加度、授業態度、課題の提出状況等）30%

評価方法に関する備考

1. 第11課の学習終了後に中間テストを実施する。採点後は学生に返却する。追試は原則として実施しない。
2. 定期試験の追試は原則として実施しない。但し、病気や事故など、その他やむを得ない理由があり、証明書を提出した場合限り、認めることがある。なお、評価方法については、第1回の授業で詳しく説明する。

9. その他

オフィスアワーや連絡方法（E-mail）については、第1回の授業でお伝えする。

科目ナンバー (AG)LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅱb 政	1 単位	陸 薇
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅱb 政		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業は、会話を中心とした初級中国語科目である。 中国語は発音や声調、抑揚、リズムがとても重要な言語である。本授業では、正しい発音を身につけながら、実際にたくさん声に出して練習する。 聞く練習と話す練習を繰り返し行い、日常で使える中国語表現を楽しく学ぶ。同時に簡体字の読み方・書き方にも触れ、中国語の基礎力を身につける。 《授業の到達目標》 この授業を通して、次のことができるようになることを目指す。 1. 中国語の基本的な発音や声調を理解し、はっきり発音できる 2. 簡単な中国語を聞いて内容を理解できる 3. 日常的な場面で、簡単な中国語の会話ができる		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進み方、成績評価等について説明する。前期の復習 第9課 ショッピング（前） 学習ポイント 1. 助動詞“想” “要” 2. 量詞 3. 100 以上の数字の言い方 第2回：第9課（後）ドリル 会話練習 第3回：第10課 一緒に昼ご飯を食べましょう。（前） 学習ポイント 1. 動作の進行の言い方 2. 状態の変化を表す助詞“了” 3. 時刻の言い方 第4回：第10課（後）ドリル 会話練習 第5回：第11課 中国料理屋で 学習ポイント 1. 料理を注文するときの言い方 2. 比較を表す表現 3. 動詞の重ね方 第6回：第11課（後）ドリル 会話練習 第7回：中国文化の紹介、中間試験 第8回：第12課 中秋節（前） 学習ポイント 1. 動作の実現・完成を表す助詞“了” 2. 経験を表す“过” 3. 副詞“有点儿”と量詞“一点儿”の使い方 第9回：第12課（後）ドリル 会話練習 第10回：第13課 道を尋ねる（前） 学習ポイント 1. 助動詞“可以” 2. 前置詞“从”、“往” “在” 3. 時間量の言い方 第11回：第13課（後）ドリル 会話練習 第12回：第14課 カラオケで（前） 学習ポイント 1. 結果補語 2. 助動詞“会”、“能” 3. 様態補語 第13回：第14課（後）ドリル 会話練習 第14回：定期試験と解説		
3. 履修上の注意 課題は、各課の学習後に提出してください。日々の積み重ねが学習の理解につながる。 授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験を受験することができないので、ご注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 予習：次の授業で扱う単語や表現を確認し、音声を聞いて発音に慣れておく。 2. 復習：授業で学んだ発音・表現・会話を繰り返し練習し、実際に声に出して定着を図る。 3. 課題：課題は宿題として課し、学習内容の理解と定着を図る。		
5. 教科書 陳淑梅、劉渥氷・著 「初めての異文化おもしろ体験」 初級中国語 朝日出版社		
6. 参考書 『中日辞典』小学館／講談社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出された課題については、授業内または個別に解説・講評を行う。 2. 必要に応じて発音や表現について具体的な指導を行う。		

8. 成績評価の方法

語学力（期末試験、中間試験）70%

平常点（授業参加度、授業態度、課題の提出状況等）30%

評価方法に関する備考

1. 第11課の学習終了後に中間テストを実施する。採点後は学生に返却する。追試は原則として実施しない。
2. 定期試験の追試は原則として実施しない。但し、病気や事故など、その他やむを得ない理由があり、証明書を提出した場合限り、認めることがある。なお、評価方法については、第1回の授業で詳しく説明する。

9. その他

オフィスアワーや連絡方法（E-mail）については、第1回の授業でお伝えする。

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅱb 化	1 単位	陸 薇
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅱb 化		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業は、会話を中心とした初級中国語科目である。 中国語は発音や声調、抑揚、リズムがとても重要な言語である。本授業では、正しい発音を身につけながら、実際にたくさん声に出して練習する。 聞く練習と話す練習を繰り返し行い、日常で使える中国語表現を楽しく学ぶ。同時に簡体字の読み方・書き方にも触れ、中国語の基礎力を身につける。 《授業の到達目標》 この授業を通して、次のことができるようになることを目指す。 1. 中国語の基本的な発音や声調を理解し、はっきり発音できる 2. 簡単な中国語を聞いて内容を理解できる 3. 日常的な場面で、簡単な中国語の会話ができる		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進み方、成績評価等について説明する。前期の復習 第9課 ショッピング（前） 学習ポイント 1. 助動詞“想” “要” 2. 量詞 3. 100 以上の数字の言い方 第2回：第9課（後）ドリル 会話練習 第3回：第10課 一緒に昼ご飯を食べましょう。（前） 学習ポイント 1. 動作の進行の言い方 2. 状態の変化を表す助詞“了” 3. 時刻の言い方 第4回：第10課（後）ドリル 会話練習 第5回：第11課 中国料理屋で 学習ポイント 1. 料理を注文するときの言い方 2. 比較を表す表現 3. 動詞の重ね方 第6回：第11課（後）ドリル 会話練習 第7回：中国文化の紹介、中間試験 第8回：第12課 中秋節（前） 学習ポイント 1. 動作の実現・完成を表す助詞“了” 2. 経験を表す“过” 3. 副詞“有点儿”と量詞“一点儿”の使い方 第9回：第12課（後）ドリル 会話練習 第10回：第13課 道を尋ねる（前） 学習ポイント 1. 助動詞“可以” 2. 前置詞“从”、“往” “在” 3. 時間量の言い方 第11回：第13課（後）ドリル 会話練習 第12回：第14課 カラオケで（前） 学習ポイント 1. 結果補語 2. 助動詞“会”、“能” 3. 様態補語 第13回：第14課（後）ドリル 会話練習 第14回：定期試験と解説		
3. 履修上の注意 課題は、各課の学習後に提出してください。日々の積み重ねが学習の理解につながる。 授業回数の3分の1以上を、特別な理由なく欠席した場合は、定期試験を受験することができないので、ご注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 予習：次の授業で扱う単語や表現を確認し、音声を聞いて発音に慣れておく。 2. 復習：授業で学んだ発音・表現・会話を繰り返し練習し、実際に声に出して定着を図る。 3. 課題：課題は宿題として課し、学習内容の理解と定着を図る。		
5. 教科書 陳淑梅、劉渥氷・著 「初めての異文化おもしろ体験」 初級中国語 朝日出版社		
6. 参考書 『中日辞典』小学館／講談社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出された課題については、授業内または個別に解説・講評を行う。 2. 必要に応じて発音や表現について具体的な指導を行う。		

8. 成績評価の方法

語学力（期末試験、中間試験）70%

平常点（授業参加度、授業態度、課題の提出状況等）30%

評価方法に関する備考

1. 第11課の学習終了後に中間テストを実施する。採点後は学生に返却する。追試は原則として実施しない。
2. 定期試験の追試は原則として実施しない。但し、病気や事故など、その他やむを得ない理由があり、証明書を提出した場合限り、認めることがある。なお、評価方法については、第1回の授業で詳しく説明する。

9. その他

オフィスアワーや連絡方法（E-mail）については、第1回の授業でお伝えする。

科目ナンバー (AG) LAN161N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅱb 生	1 単位	中本 梅衣
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅱb 生		
1. 授業の概要・到達目標 中国語Ⅰを学んだ学生を対象とし、より中国語の能力を高める。 達成目標は、(１) 語彙を増やすこと、(２) 多様な場面における会話表現の習得、(３) 辞書を使いながら読み書き能力を習得することである。 中国語Ⅰの復習として、発音と基本的な表現の再確認をする。色々な会話表現を学びながら、語彙数を増やし、文法力を高める。辞書の使い方を学び、読解・作文能力を習得する。中国語でメールのやりとりもできるようにする。		
2. 授業内容 第１回：第五課「学習の要点と文型練習」。 第２回： 第五課本文と練習問題、副課文。 第３回： 第六課「学習の要点と文型練習」。 第４回： 第六課本文と練習問題、副課文。 第５回： 第七課「学習の要点と文型練習」。 第６回： 第七課本文と練習問題、副課文。 第７回： 作文の発表会。 第８回： 第八課「学習の要点と文型練習」。 第９回：第八課本文と練習問題、副課文。 第１０回：第九課「学習の要点と文型練習」。 第１１回：第九課本文と練習問題、副課文。 第１２回：第十課「学習の要点と文型練習」。 第１３回：第十課本文と練習問題、副課文。 第１４回：期末試験。		
3. 履修上の注意 １ 毎回宿題がありますので、必ず授業前にやっておいて下さい。授業前にチェックします。これは成績評価に含まれます。 ２ 毎回必ず教科書を持ってくる。忘れたら５点減点します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 １ 毎回教科書の予習と復習をして下さい。 ２ 毎回教員が出した補充問題もやって下さい。		
5. 教科書 『初級中国語 花ばな 一改訂版一』池上貞子ほか、朝日出版社、2200 円。		
6. 参考書 『中日辞典』・『日中辞典』は必需品！電子辞書を勧める。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業への取り組み 30%、作文及び口頭発表 30%、期末試験 40%。		
9. その他 特になし。		

科 目 名	単位数	担当者
中国語Ⅲについて	各1単位	
1. 授業の概要・到達目標 中国語をさらに深く学びたい人のために、自由選択科目として設けられています。二年次から四年次までのどの時期にも履習でき、重複履習が可能です。少人数でじっくり学ぶことができ、大学の語学授業の愉しみを味わうことのできる科目です。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。		
2. 授業内容 一年次の授業で扱い切れなかった事柄を補いつつ、さらに中国語の運用能力を高めるため、一年次の学習を基礎に、履修者の希望も取り入れながら、中級・上級テキストの講読などを行います。又、ことばの背景となる文化・社会の理解にも踏み込んだ解説を行います。 個々の授業内容に関しては該当するシラバスを参照してください。		
3. 履修上の注意 語学の授業なので予習することが必要です。そして自分なりの目標をたてることがそれを容易にしてくれるものと思います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当者の指示に従って下さい。		
5. 教科書 各科目のシラバスを参照して下さい。		
6. 参考書 担当者の指示に従うこと。		
7. 成績評価の方法 担当者の指示に従うこと。		
8. その他 尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「中国語会話」、夏期に実施される「中国語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。		

科目ナンバー (AG) LAN261N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅲ (1)	1 単位	許 家晟
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅲ (1)		
1. 授業の概要・到達目標 この授業は中国語の基礎文法を一通り学習した者を対象に、一年次に学習した内容を復習しながら、日常生活に使う会話や読解力を身につけていく授業です。受講生の人数・レベル・要望等合わせて、臨機応変に進めていきます。 また、授業前後の予習復習が必須。 なお、農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目となります。		
2. 授業内容 第 1 回：a イン트로ダクション b 自己紹介 第 2 回：第 1 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 3 回：第 1 課 会話練習，リスニング練習 第 4 回：第 2 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 5 回：第 2 課 会話練習，リスニング練習 第 6 回：第 3 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 7 回：第 3 課 会話練習，リスニング練習 第 8 回：第 4 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 9 回：第 4 課 会話練習，リスニング練習 第 10 回：第 5 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 11 回：第 5 課 会話練習，リスニング練習 第 12 回：第 6 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 13 回：第 6 課 会話練習，リスニング練習 第 14 回：a 総合復習，b 期末理解度確認 その他：課題，小テスト		
3. 履修上の注意 辞書を各自用意して下さい。紙媒体のものでも電子辞書でも構いません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業ではテキストの訳読を行いますので，30 分程度をかけて，音読の練習と，口頭で和訳ができるようにして下さい。また第 2 回以降，毎回単語の小テストを行いますので，15 分程度学習をし，規定の範囲の単語を答えられるようにしてきて下さい。		
5. 教科書 『上を目指す実践中級中国語』（複数，白帝社，2026 年初版）		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（小テスト，授業参加度など）を 30%，期末試験を 70%とします。なお，3 分の 1 以上欠席すると期末試験の受験資格を失いますので注意して下さい。		
9. その他 オフィスアワー，および連絡先については Oh-o!Meiji のほうに掲載します。		

科目ナンバー (AG) LAN261N		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 中国語Ⅲ (2)	1 単位	許 家晟
2022～2025 年度入学者 中国語Ⅲ (2)		
1. 授業の概要・到達目標 この授業は中国語の基礎文法を一通り学習した者を対象に、一年次に学習した内容を復習しながら、日常生活に使う会話や読解力を身につけていく授業です。受講生の人数・レベル・要望等合わせて、臨機応変に進めていきます。 また、授業前後の予習復習が必須。 なお、農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A に対応する科目となります。		
2. 授業内容 第 1 回：a イントロダクション b 自己紹介 第 2 回：第 7 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 3 回：第 7 課 会話練習，リスニング練習 第 4 回：第 8 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 5 回：第 8 課 会話練習，リスニング練習 第 6 回：第 9 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 7 回：第 9 課 会話練習，リスニング練習 第 8 回：第 10 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 9 回：第 10 課 会話練習，リスニング練習 第 10 回：第 11 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 11 回：第 11 課 会話練習，リスニング練習 第 12 回：第 12 課 文法ポイントや表現のパターンの学習 第 13 回：第 12 課 会話練習，リスニング練習 第 14 回：a 総合復習，b 期末理解度確認 その他：課題，小テスト		
3. 履修上の注意 辞書を各自用意して下さい。紙媒体のものでも電子辞書でも構いません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業ではテキストの訳読を行いますので，30 分程度をかけて，音読の練習と，口頭で和訳ができるようにして下さい。また第 2 回以降，毎回単語の小テストを行いますので，15 分程度学習をし，規定の範囲の単語を答えられるようにして下さい。		
5. 教科書 『上を目指す実践中級中国語』（複数，白帝社，2026 年初版）		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（小テスト，授業参加度など）を 30%，期末試験を 70%とします。なお，3 分の 1 以上欠席すると期末試験の受験資格を失いますので注意して下さい。		
9. その他 オフィスアワー，および連絡先については Oh-o!Meiji のほうに掲載します。		

2026年度以降入学者

総合教育科目
保健・体育科目群

2022～2025年度入学者

総合科目
保健・体育科目群

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 1 組・男子	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 1 組・男子		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修する。ここで行うスポーツ種目はバレーボールである。 授業の到達目標は 第一に体力の向上である。入試後の体力の回復と卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二にスポーツを楽しむために必要な競技ルールや審判法について学ぶと共に基本技能の習得すること。 積極的に授業に参加し、スポーツを大いに楽しむことを望む。 《授業の概要》 初回はイントロダクション 2 回目に体力・形態測定を行い自己の体力水準を確認 3 回目以降はバレーボールに関する講義と実技を行う 視覚教材を用いる場合もある。 農学部食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の G に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（受講の仕方、体育施設の使用法、授業展開及び成績評価） 第 2 回：測定（体力および形態） 第 3 回：講義（競技規則と審判法） 第 4 回：基本技能（パス&サーブ）、簡易ゲーム 第 5 回：基本技能（サーブ&レシーブ）、簡易ゲーム 第 6 回：基本技能（スパイク&ブロック）、簡易ゲーム 第 7 回：基本技能（サーブ・レシーブ・トス・スパイク&ブロック）、簡易ゲーム 第 8 回：応用技能（レシーブ・トス・スパイク）、ゲーム（競技規則と審判法の確認） 第 9 回：応用技能（レシーブ・トス・スパイク）、ゲーム 第 10 回～第 12 回：：ゲーム（リーグ戦） 第 13 回：技能テスト 第 14 回：技能テスト（予備日） 筆記試験（競技ルール） ※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある		
3. 履修上の注意 1. 必ず健康診断を受診すること。 2. 服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない） 3. 時間や期限を厳守すること。 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は初回授業時に指示をする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日頃から怪我予防や疲労回復のためにストレッチ等を行うようにする。 授業で取り扱うスポーツ競技（バレーボール）に関するメディア等の情報に興味関心を持つ。 事前に競技に関するルール等を調べておくとよい。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う予定である。。		
8. 成績評価の方法 評価の対象者・・・開講数の 2/3 以上の出席者 評価項目 技能テスト（40%）		

レポートまたは筆記試験（20%）
平常点（40%）

9. その他

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 2 組・男子	1 単位	立花 泰則
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 2 組・男子		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「テニス」です。第 2 回から第 8 回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュにおける打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、マシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行い、受講生の能力に応じた実習を行います。第 9 回以降はルール、ゲームの進め方および審判法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。 《達成目標》 基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の G に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第 2 回：体力測定（筋力、全身持久力、柔軟性、体脂肪率など） 第 3 回：ラケットとボールに慣れる、テニスの歴史 第 4 回：グラウンドストローク（フォアハンド） 第 5 回：グラウンドストローク（バックハンド） 第 6 回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック） 第 7 回：ボレー（フォアハンド・バックハンド） 第 8 回：スマッシュ、サーブ 第 9 回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム 第 10 回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム 第 11 回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム 第 12 回：ゲーム 第 13 回：ゲーム 第 14 回：ゲーム ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 4 月の健康診断を受けて下さい。 テニスに適したシューズや運動着を用意して下さい。また各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料等を適宜提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にその都度解説します。		
8. 成績評価の方法 平常点・授業への取り組み方 80% 実技評価（技術達成度とゲーム成績）20%		
9. その他 体育館 1 階体育事務室 火曜日 12：30～13：30		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 3 組・男子	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 3 組・男子		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修し、農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標のGに対応する科目である。 授業では、ソフトボールを通して、生涯スポーツを実践しうる知識・技能の習得を目標とする。また、体力の維持向上、心身のストレス解消、コミュニケーション技能獲得の場といったスポーツの魅力を学習者に理解させるよう授業展開する。 ソフトボールは、ベースボール型の球技としてボールが大きく、コートが小さくすむことなどから初心者初級者でも実施しやすい球技である。授業の達成目標は、基本的技能の習得、ゲームを安全に行える総合的な技能の習得、ルールの理解にある。 《授業の概要》 まず、体力や形態測定を行い、体力のバランスなど判定する。そして、ソフトボールによってその改善を目指す。授業では、基本的な技能の獲得やゲームを通しての総合的な技能の獲得をより高めるために、十分な運動量を設定している。		
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅰとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第2回 体力・形態測定…筋力、パワー、全身持久力、敏捷性、柔軟性、体重、体脂肪率など 第3回 ソフトボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の習得 第4回 基本的技能の習得Ⅰ 係争物（ボール）に慣れることと、キャッチボール 第5回 基本的技能の習得Ⅱ 走塁（ベースランニング競争やタッチアップ） 第6回 基本的技能の習得Ⅲ 連携・中継プレー、シートノックなど守備の基本技能 第7回 基本的技能の習得Ⅳ バッティング（ティー・トス・フリー） 第8回 基本的技能の習得Ⅴ ピッチング（スイングショットやウィンドミル）とバッテリー 第9回 ルールの理解と簡易ゲームⅠ 簡易ゲームによるルールの理解 第10回 簡易ゲームⅡ 簡易ゲームによる様々なポジションの練習と、ゲーム進行方法の理解 第11回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅰ（ダブルプレーや中継プレーなど守備面の戦術） 第12回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅱ（バントやヒットエンドランなどの攻撃面の戦術） 第13回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅲ（投手・捕手・審判を体験） 第14回 ソフトボールのまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）		
3. 履修上の注意 授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 用具の使用方法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 気温・湿度などの環境に対応して、帽子、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 健康診断を受診していること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、実技テスト・ルール審判法レポートの解説と総評を行う。		
8. 成績評価の方法 平常点（学習への意欲や受講時の態度）50 点 レポート（ルールと審判法について）20 点 実技テスト（基本的な技能および総合的な技能について）30 点 以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。		

9. その他

質問等は、授業開講時間前後に体育館教員室まで。

- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する
- ・連絡先：最初の講義で示す

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・男子(1)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・男子(1)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、バレーボールです。 本授業では、バレーボールの基本技術やルール、競技特性を理解し、ゲームを通してスポーツの楽しさを体験することを目的とする。また、実技を通して体力の向上や健康の維持増進を図るとともに、チームスポーツに必要な協力やコミュニケーションの重要性について学習する。さらに、技術練習やゲーム形式の活動を通して、バレーボールを継続的に楽しむための基礎的な技能と知識を身につけ、生涯スポーツへの動機づけとする。 ＜到達目標＞ 1. バレーボールの特性やルールを理解することができる。 2. パス・サーブ・レシーブなどの基礎的な技術を習得し、ゲームに参加することができる。 3. チームプレーを通して協力しながらゲームを行うことができる。 4. バレーボールを通して体力の向上と健康の維持増進を図ることができる。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] バレーボールの基礎知識と基本動作 [第3回] 基本技術①（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス） [第4回] 基本技術②（サーブ、レシーブ） [第5回] 基本技術③（トス、スパイク） [第6回] 基本技術④（ブロック、攻撃の連携） [第7回] 戦術の基礎（攻撃のフォーメーション） [第8回] 戦術の基礎（守備のフォーメーション） [第9回] ゲーム（ルールの確認） [第10回] ゲーム（様々なルール） [第11回] リーグ戦① [第12回] リーグ戦② [第13回] リーグ戦③ [第14回] リーグ戦④、まとめ ※天候や必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 4月の健康診断を受けること。 必ず運動着、屋外用シューズを着用すること。 必要に応じて、タオルや飲料を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 日頃から授業で学んだ準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチなどを行うようにする。		
5. 教科書 必要に応じて資料を配布		
6. 参考書 必要に応じて資料を配布		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・男子(2)	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・男子(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修する。ここで行うスポーツ種目はテニスである。 授業の到達目標は 第一に体力の向上である。入試後の体力の回復と卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二にスポーツを楽しむために必要な競技ルールや審判法について学ぶと共に基本技能の習得すること。 積極的に授業に参加し、スポーツを大いに楽しむことを望む。 《授業の概要》 初回はイントロダクション 2回目に体力・形態測定を行い自己の体力水準を確認 3回目以降はテニスに関する講義と実技を行う 視覚教材を用いる場合もある。 農学部食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の G に対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（受講の仕方、体育施設の使用法、授業展開及び成績評価） 第2回：測定（体力および形態） 第3回：講義（競技規則と審判法） 第4回：ショートラリーを中心としてのストローク練習、簡易ゲーム 第5回：ショートラリーからのストロークラリー練習、簡易ゲーム 第6回：グランドストローク練習、簡易ゲーム 第7回：グランドストローク練習、簡易ゲーム 第8回：サービス&レシーブ練習、シングルスゲームのルールと審判法 第9回：ボレー練習、シングルスゲーム 第10回：サービス&レシーブ練習、ボレー練習、ダブルスゲームのルールと審判法 第11回：ダブルスゲーム 第12回：ダブルスゲーム 第13回：技能テスト 第14回：技能テスト（予備日） 筆記試験（競技ルール） ※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある		
3. 履修上の注意 1. 必ず健康診断を受診すること。 2. 服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない） 3. 時間や期限を厳守すること。 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は初回授業時に指示をする。運動に適した服装（ジーパン不可）と可能であればテニスシューズで参加の事		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日頃から怪我予防や疲労回復のためにストレッチ等を行うようにする。 授業で取り扱うスポーツ競技（テニス）に関するメディア等の情報に興味関心を持つ。 事前に競技に関するルール等を調べておくとよい。		
5. 教科書 特に指定はしない		
6. 参考書 特に指定はしない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人カードを使い授業課題習得度を把握、それをもとに個別指導を行う予定である。		
8. 成績評価の方法 評価対象者・・・開講数の 2/3 以上の出席者		

評価項目

技能テスト (40%)
レポートまたは筆記テスト (20%)
平常点 (40%)

9. その他

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 7 組・男子	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 7 組・男子		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修する。ここで行うスポーツ種目はソフトボールである。 授業の到達目標は 第一に体力の向上である。入試後の体力の回復と卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二にスポーツを楽しむために必要な競技ルールや審判法について学ぶと共に基本技能の習得すること。 積極的に授業参加し、スポーツを大いに楽しむことを望む。 《授業の概要》 初回はイントロダクション 2 回目に体力・形態測定を行い自己の体力水準を確認 3 回目以降はソフトボールに関する講義と実技を行う。 視覚教材を用いる場合もある。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（受講の仕方、体育施設の使用法、授業展開及び成績評価、注意事項） 第2回：測定（体力および形態） 第3回：講義（競技規則と審判法） 第4回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（内野①） 第5回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（内野②） 第6回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（外野①） 第7回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（外野②） 第8回：シートバッティング（ルールと審判法の確認） 第9回：ゲーム（特別ルール） 第10回～第12回：ゲーム 第13回：技能テスト 第14回：技能テスト（予備日） 筆記試験（競技規則） ※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある		
3. 履修上の注意 1. 必ず健康診断を受診すること。 2. 服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない） 3. 時間や期限を厳守すること。 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は授業時に指示をする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 授業では技能テストを行う。休み時間等を利用して個人練習をするように心掛ける。 日頃から怪我予防や疲労回復のためにストレッチ等を行うようにする。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う予定である。		
8. 成績評価の方法 評価対象者・・・開講数の 2/3 以上の出席者 評価項目 技能テスト（40%） 筆記試験（20%） 平常点（40%）		

9. その他

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 8 組・男子	1 単位	立花 泰則
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 8 組・男子		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュにおける打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、マシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行い、受講生の能力に応じた実習を行います。第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。 《達成目標》 基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：体力測定（筋力、全身持久力、柔軟性、体脂肪率など） 第3回：ラケットとボールに慣れる、テニスの歴史 第4回：グラウンドストローク（フォアハンド） 第5回：グラウンドストローク（バックハンド） 第6回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック） 第7回：ボレー（フォアハンド・バックハンド） 第8回：スマッシュ、サーブ 第9回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム 第10回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム 第11回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム 第12回：ゲーム 第13回：ゲーム 第14回：ゲーム * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 4月の健康診断を受けて下さい。 テニスに適したシューズや運動着を用意して下さい。また各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業や扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料等を適宜配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にその都度解説します。		
8. 成績評価の方法 平常点・授業への取り組み方 80% 実技評価（技術達成度とゲーム成績） 20%		
9. その他 保健体育第Ⅱ研究室（3号館4階411号室） オフィスアワー：月曜 12：00～13：00 E-mail：aki@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 9 組・男子	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 9 組・男子		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修し、授業では、バレーボールを通して、生涯スポーツを実践しうる知識・技能の習得を目標とする。また、体力の維持向上、心身のストレス解消、コミュニケーション技能獲得の場といったスポーツの魅力を学習者に理解させるよう授業展開する。 バレーボールは、ネット型のチームスポーツで、ボールを前腕部と掌を中心に身体どこかにてボールをコントロールする球技である。授業の達成目標は、基本的技能の習得、ゲームを安全に行える総合的な技能の習得、ルールの理解にある。 《授業の概要》 まず、体力や形態測定を行い、体力的なバランスなどを判断する。そして、バレーボールによって体力の維持向上を目指す。授業では、基本的な技能の獲得やゲームを通しての総合的な技能の獲得をより高めるために、十分な運動量を設定している。		
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅰとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第2回 体力・形態測定…筋力、パワー、全身持久力、敏捷性、柔軟性、体重、体脂肪率など 第3回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の習得 第4回 基本的技能の習得Ⅰ 係争物（ボール）に慣れることと、基本的な操作と技術 第5回 基本的技能の習得Ⅱ アンダーハンドパス、オーバーハンドパスの2種のパスワーク 第6回 基本的技能の習得Ⅲ アンダーハンドサーブ、サイドハンドサーブ、などのサーブ技能 第7回 基本的技能の習得Ⅳ オープンスパイクを中心にしたアタック技能 第8回 基本的技能の習得Ⅴ レシーブ、サーブカットといった守備的技能 第9回 ルールの理解 簡易ゲームによるルールの理解 第10回 簡易ゲームによる総合的技能の習得 ワンバウンドゲーム、サーブの位置の緩和など簡易ゲームによるゲーム進行の学習 第11回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅰ（オープンスキルの獲得）6人制バレーボール 第12回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅱ（戦術的な理解度を深める）守備位置やフォーメーション 第13回 さまざまな競技方法による楽しみ方 9人制バレーボールなど 第14回 バレーボールのまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）		
3. 履修上の注意 授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 用具の使用手法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 健康診断を受診していること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14回授業にて、実技テスト・ルール審判法レポートの解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 平常点（学習への意欲や受講時の態度）50 点 レポート（ルールと審判法について）20 点 実技テスト（基本的な技能および総合的な技能について）30 点 以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。		
9. その他 質問等は、授業開講時間前後に体育館教員室まで。 ・オフィスアワー：最初の講義で指示する		

・連絡先：最初の講義で示す

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 10 組・男子	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 10 組・男子		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修する。ここで行うスポーツ種目はソフトボールである。 授業の到達目標は 第一に体力の向上である。入試後の体力の回復と卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二にスポーツを楽しむために必要な競技ルールや審判法について学ぶと共に基本技能の習得すること。 積極的に授業参加し、スポーツを大いに楽しむことを望む。 《授業の概要》 初回はイントロダクション 2 回目に体力・形態測定を行い自己の体力水準を確認 3 回目以降はソフトボールに関する講義と実技を行う。 視覚教材を用いる場合もある。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（受講の仕方、体育施設の使用法、授業展開及び成績評価、注意事項） 第2回：測定（体力および形態） 第3回：講義（競技規則と審判法） 第4回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（内野①） 第5回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（内野②） 第6回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（外野①） 第7回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（外野②） 第8回：シートバッティング（ルールと審判法の確認） 第9回：ゲーム（特別ルール） 第10回～第12回：ゲーム 第13回：技能テスト 第14回：技能テスト（予備日） 筆記試験（競技規則） ※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある		
3. 履修上の注意 1. 必ず健康診断を受診すること。 2. 服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない） 3. 時間や期限を厳守すること。 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は授業時に指示をする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 授業では技能テストを行う。休み時間等を利用して個人練習をするように心掛ける。 日頃から怪我予防や疲労回復のためにストレッチ等を行うようにする。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う予定である。		
8. 成績評価の方法 評価対象者・・・開講数の 2/3 以上の出席者 評価項目 技能テスト（40%） 筆記試験 （20%） 平常点 （40%）		

9. その他

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 11 組・男子	1 単位	立花 泰則
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 11 組・男子		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュにおける打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、マシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行い、受講生の能力に応じた実習を行います。第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。 《達成目標》 基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：体力測定（筋力、全身持久力、柔軟性、体脂肪率など） 第3回：ラケットとボールに慣れる、テニスの歴史 第4回：グラウンドストローク（フォアハンド） 第5回：グラウンドストローク（バックハンド） 第6回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック） 第7回：ボレー（フォアハンド・バックハンド） 第8回：スマッシュ、サーブ 第9回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム 第10回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム 第11回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム 第12回：ゲーム 第13回：ゲーム 第14回：ゲーム ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 4月の健康診断を受けて下さい。 テニスに適したシューズや運動着を用意して下さい。また各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料を適宜配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にその都度解説します。		
8. 成績評価の方法 平常点・授業への取り組み方 80% 実技評価（技術達成度とゲーム成績） 20%		
9. その他 体育館1階体育事務室 火曜日 12：30～13：30		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 12 組・男子	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 12 組・男子		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修し、授業では、バレーボールを通して、生涯スポーツを実践しうる知識・技能の習得を目標とする。また、体力の維持向上、心身のストレス解消、コミュニケーション技能獲得の場といったスポーツの魅力を学習者に理解させるよう授業展開する。 バレーボールは、ネット型のチームスポーツで、ボールを前腕部と掌を中心に身体どこかにてボールをコントロールする球技である。授業の達成目標は、基本的技能の習得、ゲームを安全に行える総合的な技能の習得、ルールの理解にある。 《授業の概要》 まず、体力や形態測定を行い、体力的なバランスなどを判断する。そして、バレーボールによって体力の維持向上を目指す。授業では、基本的な技能の獲得やゲームを通しての総合的な技能の獲得をより高めるために、十分な運動量を設定している。		
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅰとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第2回 体力・形態測定…筋力、パワー、全身持久力、敏捷性、柔軟性、体重、体脂肪率など 第3回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の習得 第4回 基本的技能の習得Ⅰ 係争物（ボール）に慣れることと、基本的な操作と技術 第5回 基本的技能の習得Ⅱ アンダーハンドパス、オーバーハンドパスの2種のパスワーク 第6回 基本的技能の習得Ⅲ アンダーハンドサーブ、サイドハンドサーブ、などのサーブ技能 第7回 基本的技能の習得Ⅳ オープンスパイクを中心にしたアタック技能 第8回 基本的技能の習得Ⅴ レシーブ、サーブカットといった守備的技能 第9回 ルールの理解 簡易ゲームによるルールの理解 第10回 簡易ゲームによる総合的な技能の習得 ワンバウンドゲーム、サーブの位置の緩和など簡易ゲームによるゲーム進行の学習 第11回 ゲームによる総合的な技能の習得Ⅰ（オープンスキルの獲得）6人制バレーボール 第12回 ゲームによる総合的な技能の習得Ⅱ（戦術的な理解度を深める）守備位置やフォーメーション 第13回 さまざまな競技方法による楽しみ方 9人制バレーボールなど 第14回 バレーボールのまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）		
3. 履修上の注意 授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 用具の使用手法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 健康診断を受診していること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14回授業にて、実技テスト・ルール審判法レポートの解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点 レポート（ルールと審判法について）20点 実技テスト（基本的な技能および総合的な技能について）30点 以上 100点中、60点以上で単位を与える。		
9. その他 質問等は、授業開講時間前後に体育館教員室まで。 ・オフィスアワー：最初の講義で指示する		

・連絡先：最初の講義で示す

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 農・女子(1)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 農・女子(1)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、ソフトバレーボールです。 本授業では、ソフトバレーボールの基本技術やルール、競技特性を理解し、ゲームを通してスポーツの楽しさを体験することを目的とする。また、実技を通して体力の向上や健康の維持増進を図るとともに、チームスポーツに必要な協力やコミュニケーションの重要性について学習する。さらに、技術練習やゲーム形式の活動を通して、ソフトバレーボールを継続的に楽しむための基礎的な技能と知識を身につけ、生涯スポーツへの動機づけとする。 ＜到達目標＞ 1. ソフトバレーボールの特性やルールを理解することができる。 2. パス・サーブ・レシーブなどの基礎的な技術を習得し、ゲームに参加することができる。 3. チームプレーを通して仲間と協力しながらゲームを行うことができる。 4. ソフトバレーボールを通して体力の向上と健康の維持増進を図ることができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] ソフトバレーボールの基礎知識と基本動作 [第3回] 基本技術①（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス） [第4回] 基本技術②（サーブ、レシーブ） [第5回] 基本技術③（トス、アタック） [第6回] 基本技術④（ブロック、連携プレー） [第7回] 戦術の基礎（攻撃の組み立て） [第8回] 戦術の基礎（守備の配置とフォロー） [第9回] ゲーム（ルールの確認） [第10回] ゲーム（様々なルール） [第11回] リーグ戦① [第12回] リーグ戦② [第13回] リーグ戦③ [第14回] リーグ戦④ ※必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 4 月の健康診断を受けること。 必ず運動着、室内用シューズを着用すること。 必要に応じて、タオルや飲料を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 日頃から授業で学んだ準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチなどを行うようにする。		
5. 教科書 必要に応じて資料を配布		
6. 参考書 必要に応じて資料を配布		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 農・女子(2)	1 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 農・女子(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ネットプレー（ボレーやスマッシュ）における打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、ボールマシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行います。また受講生の能力に応じた練習方法も提供します。第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判方法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。 《達成目標》 基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：ラケットとボールに慣れる運動、テニスの歴史 第3回：グラウンドストローク（フォアハンド） 第4回：グラウンドストローク（バックハンド） 第5回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック） 第6回：ボレー（フォアハンド・バックハンド） 第7回：スマッシュ、サーブ 第8回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム 第9回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム 第10回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム 第11回：ゲーム 第12回：ゲーム 第13回：ゲーム 第14回：ゲーム * 内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・4月の健康診断を受けて下さい。 ・テニスに適したシューズと運動着を用意して下さい。また各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業のテーマとなった技術を確認し、各自の技術的課題点をまとめておいて下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料を適宜配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的技術を習得する段階でビデオ撮影等を行って、フォームのチェック・修正に役立てます。		
8. 成績評価の方法 ・平常点と授業への取り組み方 80% ・実技評価（技術達成度とゲーム成績） 20%		
9. その他 保健体育第Ⅱ研究室（3号館4階411号室） オフィスアワー：月曜 12：30～13：30 E-mail：aki@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・女子(1)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・女子(1)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、バレーボールです。 本授業では、バレーボールの基本技術やルール、競技特性を理解し、ゲームを通してスポーツの楽しさを体験することを目的とする。また、実技を通して体力の向上や健康の維持増進を図るとともに、チームスポーツに必要な協力やコミュニケーションの重要性について学習する。さらに、技術練習やゲーム形式の活動を通して、バレーボールを継続的に楽しむための基礎的な技能と知識を身につけ、生涯スポーツへの動機づけとする。 ＜到達目標＞ 1. バレーボールの特性やルールを理解することができる。 2. パス・サーブ・レシーブなどの基礎的な技術を習得し、ゲームに参加することができる。 3. チームプレーを通して協力しながらゲームを行うことができる。 4. バレーボールを通して体力の向上と健康の維持増進を図ることができる。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] バレーボールの基礎知識と基本動作 [第3回] 基本技術①（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス） [第4回] 基本技術②（サーブ、レシーブ） [第5回] 基本技術③（トス、スパイク） [第6回] 基本技術④（ブロック、攻撃の連携） [第7回] 戦術の基礎（攻撃のフォーメーション） [第8回] 戦術の基礎（守備のフォーメーション） [第9回] ゲーム（ルールの確認） [第10回] ゲーム（様々なルール） [第11回] リーグ戦① [第12回] リーグ戦② [第13回] リーグ戦③ [第14回] リーグ戦④、まとめ ※天候や必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 4月の健康診断を受けること。 必ず運動着、屋外用シューズを着用すること。 必要に応じて、タオルや飲料を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 日頃から授業で学んだ準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチなどを行うようにする。		
5. 教科書 必要に応じて資料を配布		
6. 参考書 必要に応じて資料を配布		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・女子(2)	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・女子(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修する。ここで行うスポーツ種目はテニスである。 授業の到達目標は 第一に体力の向上である。入試後の体力の回復と卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二にスポーツを楽しむために必要な競技ルールや審判法について学ぶと共に基本技能の習得すること。 積極的に授業に参加し、スポーツを大いに楽しむことを望む。 《授業の概要》 初回はイントロダクション 2 回目に体力・形態測定を行い自己の体力水準を確認 3 回目以降はテニスに関する講義と実技を行う 視覚教材を用いる場合もある。 農学部食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の G に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（受講の仕方、体育施設の使用法、授業展開及び成績評価） 第 2 回：測定（体力および形態） 第 3 回：講義（競技規則と審判法） 第 4 回：ショートラリーを中心としてのストローク練習、簡易ゲーム 第 5 回：ショートラリーからのストロークラリー練習、簡易ゲーム 第 6 回：グランドストローク練習、簡易ゲーム 第 7 回：グランドストローク練習、簡易ゲーム 第 8 回：サービス&レシーブ練習、シングルスゲームのルールと審判法 第 9 回：ボレー練習、シングルスゲーム 第 10 回：サービス&レシーブ練習、ボレー練習、ダブルスゲームのルールと審判法 第 11 回：ダブルスゲーム 第 12 回：ダブルスゲーム 第 13 回：技能テスト 第 14 回：技能テスト（予備日） 筆記試験（競技ルール） ※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある		
3. 履修上の注意 1. 屋内で行うため、体育館用シューズと運動のできる服装を用意する。 服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない） 2. 必ず健康診断を受診すること。 3. 時間を厳守すること。 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は授業時に指示をする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 怪我予防や疲労回復のために日頃からストレッチ等を行うようにする。 授業で取り扱うスポーツ競技（テニス）に関するメディア等の情報に興味関心を持つ。 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う予定である。。		
8. 成績評価の方法 評価対象者・・・開講数の 2/3 以上の出席者		

評価項目

技能テスト (40%)

筆記テスト (20%)

平常点 (40%)

9. その他

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・女子(3)	1 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 化・女子(3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「フィットネス」です。フィットネスでは最初に体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体重、体脂肪率、筋肉量、皮下脂肪厚および骨密度などの測定を行います。また運動、睡眠、食事などの日常生活状況の確認も行います。これらのデータに基づいて受講生それぞれが目標を設定し、それに適したトレーニングプログラムを、担当者と話し合って作成します。そのプログラムに基づいてトレーニングを継続していきます。そして最終授業では、トレーニング効果やプログラムの有効性を検証します。 《達成目標》 自分の体力や健康状態を客観的に把握できること。自分の現状に合った適切なトレーニングプログラムを作成・実行できること。これらの能力を養うとともに、日常生活に運動を取り入れる習慣を身に付けることを目標とします。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：体力測定（筋力、有酸素能力、柔軟性） 第3回：体組成測定（体重、体脂肪率、筋肉量、皮下脂肪厚、骨密度） 第4回：自重トレーニングや機器を用いたトレーニングの解説 第5回：トレーニングプログラムの作成 第6回：トレーニングプログラムの実行 第7回：トレーニングプログラムの実行 第8回：トレーニングプログラムの実行 第9回：トレーニングプログラムの修正 第10回：トレーニングプログラムの実行 第11回：トレーニングプログラムの実行 第12回：体力測定（筋力、有酸素能力、柔軟性） 第13回：体組成測定（体重、体脂肪率、筋肉量、皮下脂肪厚、骨密度） 第14回：トレーニングプログラムの評価 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・4月の健康診断を受けて下さい。 ・服装は運動に適したものとします。 ・必要に応じて、タオルや飲料を持参して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：前回の授業を踏まえた上で、トレーニングメニューの内容（負荷強度や頻度など）を再考し、必要があれば変更してください 復習：授業で扱ったトレーニングのうち、自宅でも実行可能な種目については、日常生活の中に取り入れてみてください。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料等を適宜配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時のみでなく、日常生活においても運動を習慣化して下さい。		
8. 成績評価の方法 ・平常点や授業への取り組み方 80% ・実技評価（トレーニングメニューの評価と目標値達成度） 20%		
9. その他 保健体育第Ⅱ研究室（3号館4階411号室） オフィスアワー：月曜 12：30～13：30 E-mail：aki@meiji.ac.jp		

--

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 生・女子(1)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 生・女子(1)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、ソフトバレーボールです。 本授業では、ソフトバレーボールの基本技術やルール、競技特性を理解し、ゲームを通してスポーツの楽しさを体験することを目的とする。また、実技を通して体力の向上や健康の維持増進を図るとともに、チームスポーツに必要な協力やコミュニケーションの重要性について学習する。さらに、技術練習やゲーム形式の活動を通して、ソフトバレーボールを継続的に楽しむための基礎的な技能と知識を身につけ、生涯スポーツへの動機づけとする。 ＜到達目標＞ 1. ソフトバレーボールの特性やルールを理解することができる。 2. パス・サーブ・レシーブなどの基礎的な技術を習得し、ゲームに参加することができる。 3. チームプレーを通して仲間と協力しながらゲームを行うことができる。 4. ソフトバレーボールを通して体力の向上と健康の維持増進を図ることができる。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] ソフトバレーボールの基礎知識と基本動作 [第3回] 基本技術①（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス） [第4回] 基本技術②（サーブ、レシーブ） [第5回] 基本技術③（トス、アタック） [第6回] 基本技術④（ブロック、連携プレー） [第7回] 戦術の基礎（攻撃の組み立て） [第8回] 戦術の基礎（守備の配置とフォロー） [第9回] ゲーム（ルールの確認） [第10回] ゲーム（様々なルール） [第11回] リーグ戦① [第12回] リーグ戦② [第13回] リーグ戦③ [第14回] リーグ戦④ ※必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 4 月の健康診断を受けること。 必ず運動着、室内用シューズを着用すること。 必要に応じて、タオルや飲料を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 日頃から授業で学んだ準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチなどを行うようにする。		
5. 教科書 必要に応じて資料を配布		
6. 参考書 必要に応じて資料を配布		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 生・女子(2)	1 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 生・女子(2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ネットプレー（ボレーやスマッシュ）における打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、ボールマシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行います。また受講生の能力に応じた練習方法も提供します。第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判方法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。 《達成目標》 基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：ラケットとボールに慣れる運動、テニスの歴史 第3回：グラウンドストローク（フォアハンド） 第4回：グラウンドストローク（バックハンド） 第5回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック） 第6回：ボレー（フォアハンド・バックハンド） 第7回：スマッシュ、サーブ 第8回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム 第9回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム 第10回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム 第11回：ゲーム 第12回：ゲーム 第13回：ゲーム 第14回：ゲーム * 内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・4月の健康診断を受けて下さい。 ・テニスに適したシューズと運動着を用意して下さい。 ・各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業のテーマとなった技術を確認し、各自の技術的な課題点をまとめておいて下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 適宜印刷資料を配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的技術を習得する段階でビデオ撮影等を行って、フォームのチェック・修正に役立てます。		
8. 成績評価の方法 ・平常点と授業への取り組み方 80% ・実技評価（技術達成度とゲーム成績） 20%		
9. その他 保健体育第Ⅱ研究室（3号館4階411号室） オフィスアワー：月曜 12：30～13：30 E-mail：aki@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 政・女子(1)	1 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 政・女子(1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ネットプレー（ボレーやスマッシュ）における打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、ボールマシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行います。また受講生の能力に応じた練習方法も提供します。第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判方法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。 《達成目標》 基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：ラケットとボールに慣れる運動、テニスの歴史 第3回：グラウンドストローク（フォアハンド） 第4回：グラウンドストローク（バックハンド） 第5回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック） 第6回：ボレー（フォアハンド・バックハンド） 第7回：スマッシュ、サーブ 第8回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム 第9回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム 第10回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム 第11回：ゲーム 第12回：ゲーム 第13回：ゲーム 第14回：ゲーム * 内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・4月の健康診断を受けて下さい。 ・テニスに適したシューズと運動着を用意して下さい。 ・各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業のテーマとなった技術を確認し、各自の技術的な課題点をまとめておいて下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 適宜印刷資料を配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的技術を習得する段階でビデオ撮影等を行って、フォームのチェック・修正に役立てます。		
8. 成績評価の方法 ・平常点と授業への取り組み方 80% ・実技評価（技術達成度とゲーム成績） 20%		
9. その他 保健体育第Ⅱ研究室（3号館4階411号室） オフィスアワー：月曜 12：30～13：30 E-mail：aki@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ 政・女子(2)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅰ 政・女子(2)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、ソフトバレーボールです。 本授業では、ソフトバレーボールの基本技術やルール、競技特性を理解し、ゲームを通してスポーツの楽しさを体験することを目的とする。また、実技を通して体力の向上や健康の維持増進を図るとともに、チームスポーツに必要な協力やコミュニケーションの重要性について学習する。さらに、技術練習やゲーム形式の活動を通して、ソフトバレーボールを継続的に楽しむための基礎的な技能と知識を身につけ、生涯スポーツへの動機づけとする。 ＜到達目標＞ 1. ソフトバレーボールの特性やルールを理解することができる。 2. パス・サーブ・レシーブなどの基礎的な技術を習得し、ゲームに参加することができる。 3. チームプレーを通して仲間と協力しながらゲームを行うことができる。 4. ソフトバレーボールを通して体力の向上と健康の維持増進を図ることができる。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] ソフトバレーボールの基礎知識と基本動作 [第3回] 基本技術①（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス） [第4回] 基本技術②（サーブ、レシーブ） [第5回] 基本技術③（トス、アタック） [第6回] 基本技術④（ブロック、連携プレー） [第7回] 戦術の基礎（攻撃の組み立て） [第8回] 戦術の基礎（守備の配置とフォロー） [第9回] ゲーム（ルールの確認） [第10回] ゲーム（様々なルール） [第11回] リーグ戦① [第12回] リーグ戦② [第13回] リーグ戦③ [第14回] リーグ戦④ ※必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 4月の健康診断を受けること。 必ず運動着、室内用シューズを着用すること。 必要に応じて、タオルや飲料を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 日頃から授業で学んだ準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチなどを行うようにする。		
5. 教科書 必要に応じて資料を配布		
6. 参考書 必要に応じて資料を配布		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (ST)HES243J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (1)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (1)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、フットサルです。 本授業では、フットサルの楽しさを体験するとともに、技術練習やゲームを通して適切な運動習慣を身につけ、健康増進や体力づくりに関する基礎的な知識と方法を学習する。さらに、チームスポーツとしての活動を通して、チームワークの重要性を理解し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ＜到達目標＞ 1. フットサルの特性やルールを理解することができる。 2. 基礎的なボールコントロールやパス、シュートなどの技術を習得し、ゲームを楽しむことができる。 3. 戦術やポジショニングを理解し、状況に応じたプレーを行うことができる。 4. チームスポーツを通して協力しながらプレーし、コミュニケーション能力を高めることができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] サッカーとフットサルの違い [第3回] 基本的なボールの扱い [第4回] キックの基本 [第5回] パスの練習 [第6回] 2人組・3人組の戦術 [第7回] チーム戦術 [第8回] ポゼッションの練習 [第9回] シュートの基本 [第10回] 2人組のシュート [第11回] ミニゲーム [第12回] リーグ戦① [第13回] リーグ戦② [第14回] リーグ戦③ ※天候や必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 4月の健康診断を受けること。 必ず運動着、屋外用シューズを着用すること。 必要に応じて、タオルや飲料を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 日頃から授業で学んだ準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチなどを行うようにする。		
5. 教科書 必要に応じて資料を配布		
6. 参考書 必要に応じて資料を配布		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (2)	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・本授業の種目は卓球（体育館）の実習となる。 ・スポーツ実習は、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。 ・1 年次の秋学期から 4 年次の秋学期までに複数履修することができる。 ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。 ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。 ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。 ・食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標の G に対応する科目である。 《授業の概要》 ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。 ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチーム（ペア）づくりを行う。 ・履修定員数は 30 名。		
2. 授業内容 以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第 2 回 卓球の特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング 第 3 回 簡易ゲームによる基本的技能と基本的なルールの確認（ダブルス、シングルス） 第 4 回 基本技能の習得Ⅰ フォアハンドの基本とラリー、フットワーク、フォアハンドでのサーブ 第 5 回 基本技能の習得Ⅱ バックハンドの基本とラリー、フットワーク、バックハンドでのサーブ 第 6 回 応用技能の習得Ⅰ フォア・バックハンド（ロングとショート、クロスとストレート） 第 7 回 応用技能の習得Ⅱ フォア・バックハンド（ドライブ、カット、つつつき） 第 8 回 応用技能の習得Ⅲ サービス（フォア・バックハンド、上・下・横回転）とレシーブ 第 9 回 応用技能の習得Ⅳ スマッシュ、レシーブ 第 10 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅰ ダブルスでの動き方と戦術 第 11 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅱ ダブルス（ルールと審判法の理解、審判の実践） 第 12 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅲ シングルス（ルールと審判法の理解、審判の実践） 第 13 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅳ 団体戦 5 人から 6 人チーム 第 14 回 卓球のまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）		
3. 履修上の注意 ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 ・用具の使用方法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 ・健康診断を受診していること。 ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）60 点		

- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）20 点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20 点
- ・以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (3)	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (3)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・ 本授業の種目は卓球（体育館）の実習となる。 ・ スポーツ実習は、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。 ・ 1 年次の秋学期から 4 年次の秋学期までに複数履修することができる。 ・ 一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。 ・ 初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。 ・ 基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。 ・ 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標の G に対応する科目である。 《授業の概要》 ・ 授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。 ・ 一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチーム（ペア）づくりを行う。 ・ 履修定員数は 30 名。		
2. 授業内容 以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第 2 回 卓球の特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング 第 3 回 簡易ゲームによる基本的技能と基本的なルールの確認（ダブルス、シングルス） 第 4 回 基本技能の習得Ⅰ フォアハンドの基本とラリー、フットワーク、フォアハンドでのサーブ 第 5 回 基本技能の習得Ⅱ バックハンドの基本とラリー、フットワーク、バックハンドでのサーブ 第 6 回 応用技能の習得Ⅰ フォア・バックハンド（ロングとショート、クロスとストレート） 第 7 回 応用技能の習得Ⅱ フォア・バックハンド（ドライブ、カット、つつつき） 第 8 回 応用技能の習得Ⅲ サービス（フォア・バックハンド、上・下・横回転）とレシーブ 第 9 回 応用技能の習得Ⅳ スマッシュ、レシーブ 第 10 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅰ ダブルスでの動き方と戦術 第 11 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅱ ダブルス（ルールと審判法の理解、審判の実践） 第 12 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅲ シングルス（ルールと審判法の理解、審判の実践） 第 13 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅳ 団体戦 5 人から 6 人チーム 第 14 回 卓球のまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）		
3. 履修上の注意 ・ 授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 ・ 運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 ・ 用具の使用法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 ・ 気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 ・ 健康診断を受診していること。 ・ 授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 ・ 平常点（学習への意欲や受講時の態度）60 点		

- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）20 点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20 点
- ・以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (4)	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (4)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・本授業の種目はバスケットボール（体育館）の実習となる。 ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。 ・1 年次の秋学期から 4 年次の秋学期までに複数履修することができる。 ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。 ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。 ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。 ・食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標の G に対応する科目である。 《授業の概要》 ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。 ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。 ・履修定員数は 30 名。		
2. 授業内容 以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第 2 回 バスケットボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング 第 3 回 ハーフコートでのゲームによる基本的個人技能の確認 第 4 回 簡易ゲームによる基本的個人技能の確認 第 5 回 ハーフコートでのゲームによる基本的戦術の確認 第 6 回 簡易ゲームによる基本的戦術の確認 第 7 回 簡易ゲームによるルールと審判（タイマーの使い方）の確認 第 8 回 4 分ゲームによる総合的技能の習得 1 第 9 回 4 分ゲームによる総合的技能の習得 2 第 10 回 4 分ゲームによる総合的技能の習得 3 第 11 回 5 分ゲームによる総合的技能の習得 1 第 12 回 5 分ゲームによる総合的技能の習得 2 第 13 回 5 分ゲームによる総合的技能の習得 3 第 14 回 バスケットボールのまとめ		
3. 履修上の注意 ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。 ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 ・健康診断を受診していること。 ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）60 点		

- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）20 点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20 点
- ・以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (5)	1 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (5)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「フィットネス」です。受講生各々が体力や体格などについて目標を設定し、それに適ったトレーニングプログラムを作成・実行します。最初に体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度など）の測定を行います。これらのデータを参考にして、自分に合ったトレーニングプログラムを担当者と相談しながら作成します。その際、採用するトレーニング内容については、筋力トレーニングマシン、エアロバイク、補助トレーニング機器および自重を利用する方法などを選択します。このプログラムに基づいて半期間トレーニングを行い、体力や体組成などの変化を検証します。 《到達目標》 自分の体力や健康状態を客観的に把握したり、自分の現状に合った適切なトレーニングプログラムを作成・実行できる能力を養います。更に日常生活において、運動を取り入れる習慣を身に付けることも目標とします。 ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：体力測定（筋力、有酸素運動能力、柔軟性） 第3回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度） 第4回：トレーニングプログラムの作成 第6回：トレーニングプログラムの実行 第7回：トレーニングプログラムの実行 第8回：トレーニングプログラムの実行 第9回：トレーニングプログラムの修正 第10回：トレーニングプログラムの実行 第11回：トレーニングプログラムの実行 第12回：体力測定（筋力、有酸素運動能力、柔軟性）、トレーニングプログラムの実行 第13回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）、トレーニングプログラムの実行 第14回：トレーニングプログラムの評価 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・4月の健康診断を受けて下さい。 ・必要に応じて飲料やタオルを用意して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：トレーニングの強度や頻度が適切であるかを考察し、変更すべき点があれば次回の授業に反映させてください。 復習：授業で配布した資料やトレーニング記録表を参考に、実施したトレーニングの方法や期待できる効果を確認して下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料を適宜配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（体脂肪率、筋肉量、皮下脂肪厚および骨密度など）を測定・記録します。また毎時間、トレーニングの状況や改善点を記録します。これらのデータに基づいて、担当教員と話し合いながら最適なプログラムを構築していきます。		
8. 成績評価の方法 ・平常点と授業への取り組み方 50% ・実技評価（トレーニングメニュー評価と目標値達成度） 50%		
9. その他 保健体育第Ⅱ研究室（3号館4階411号室） オフィスアワー：月曜 12：30～13：30		

E-mail: aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (6)	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (6)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅱは1年次の秋以降、各学年に設定されている。また、年間に履修できるのは一種目（1単位）であるが、異なる種目を選択することでどの学年においても重複履修が可能となる。 ここで行うスポーツ種目は初心者から経験者そして幅広い年齢層に親しまれているバドミントンである。 授業の到達目標は 第一に、体力の向上である。卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二に、スポーツを理解するために、必要な競技ルールや審判法について学ぶとともに基本技能を習得すること。 第三に、積極的に授業に参加し、仲間とスポーツを大いに楽しみコミュニケーションスキルを習得すること。 《授業の概要》 授業ではベースとして基本技能の習得と、競技規則を理解しゲームの運営ができるようになること、また、準備や片付け、練習やゲームを実施する中でいろんな仲間と連携をとる事で、コミュニケーションスキルを養う。 初回にイントロダクション内で簡単な技能レベルによるグループ分けを行う。 第二回以降はグループごとにテーマと目標を設定し基本練習とゲームを行う。 視覚教材を用いる場合もある。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、講義（競技規則と審判法） 第2回：基本練習（サーブ、クリアー）、ゲーム（半面シングルス） 第3回：基本練習（ドライブ）、ゲーム（半面シングルス） 第4回：基本練習（ヘアピン）、ゲーム（半面シングルス） 第5回：基本練習（スマッシュ&レシーブ）ゲーム（半面シングルス） 第6回：基本練習（ALL）、ゲーム（シングルの競技規則と審判法確認） 第7回：基本練習（ALL）、ゲーム（シングルス） 第8回：基本練習（ALL）、ゲーム（ダブルスの競技規則と審判法確認） 第9回：基本練習（ALL）、ゲーム（ダブルス） 第10回：基本練習（ALL）、ゲーム（ダブルス） 第11回：基本練習（ALL）、ゲーム（ダブルス） 第12回：基本練習（ALL）、ゲーム（団体戦） 第13回：技能テスト 第14回：技能テスト（予備）、筆記テスト ※詳細は授業時に指示をする。		
3. 履修上の注意 1. 屋内で行うため、体育館用シューズと運動のできる服装を用意する（怪我予防のため裸足や靴下での参加は不可）。 服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない） 2. 必ず健康診断を受診すること。 3. 時間を厳守すること。 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は授業時に指示をする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 怪我予防や疲労回復のために日頃からストレッチ等を行うようにする。 授業で取り扱うスポーツ競技（バドミントン）に関するメディア等の情報に興味関心を持つ。 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う予定である。		

8. 成績評価の方法

評価対象者・・・開講数の 2/3 以上の出席者

評価項目

技能テスト (40%)

筆記テスト (20%)

平常点 (40%)

9. その他

履修に関して施設と安全面を考慮して授業運営上定員を設定する。

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (ST)HES243J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (7)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (7)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、フットサルです。 本授業では、フットサルの楽しさを体験するとともに、技術練習やゲームを通して適切な運動習慣を身につけ、健康増進や体力づくりに関する基礎的な知識と方法を学習する。さらに、チームスポーツとしての活動を通して、チームワークの重要性を理解し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ＜到達目標＞ 1. フットサルの特性やルールを理解することができる。 2. 基礎的なボールコントロールやパス、シュートなどの技術を習得し、ゲームを楽しむことができる。 3. 戦術やポジショニングを理解し、状況に応じたプレーを行うことができる。 4. チームスポーツを通して協力しながらプレーし、コミュニケーション能力を高めることができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] サッカーとフットサルの違い [第3回] 基本的なボールの扱い [第4回] キックの基本 [第5回] パスの練習 [第6回] 2人組・3人組の戦術 [第7回] チーム戦術 [第8回] ポゼッションの練習 [第9回] シュートの基本 [第10回] 2人組のシュート [第11回] ミニゲーム [第12回] リーグ戦① [第13回] リーグ戦② [第14回] リーグ戦③ ※天候や必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 4月の健康診断を受けること。 必ず運動着、屋外用シューズを着用すること。 必要に応じて、タオルや飲料を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 日頃から授業で学んだ準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチなどを行うようにする。		
5. 教科書 必要に応じて資料を配布		
6. 参考書 必要に応じて資料を配布		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (8)	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (8)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅱは1年次の秋以降、各学年に設定されている。また、年間に履修できるのは一種目（1単位）であるが、異なる種目を選択することでどの学年においても重複履修が可能となる。 ここで言うスポーツ種目はテニスである。生涯スポーツとして社会人となっても個人の体力に応じて楽しめるスポーツである。 授業の到達目標は 第一に、体力の向上である。卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二に、スポーツを理解するために、必要な競技ルールや審判法について学ぶとともに基本技能を習得すること。 第三に、積極的に授業に参加し、仲間とスポーツを大いに楽しみコミュニケーションスキルを習得すること。 《授業の概要》 授業ではベースとして基本技能の習得と、競技規則を理解しゲームの運営ができるようになること、また、準備や片付け、練習やゲームを実施する中でいろんな仲間と連携をとる事で、コミュニケーションスキルを養う。 初回にイントロダクション内で簡単な技能レベルによるグループ分けを行う。 第二回以降はグループごとにテーマと目標を設定し基本練習とゲームを行う。 視覚教材を用いる場合もある。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回：（教室講義）ガイダンス、授業計画、評価について 第2回：ショートラリーを中心としてのストローク練習、簡易ゲーム 第3回：ショートラリーからのストロークラリー練習、簡易ゲーム 第4回：グランドストローク（フォアハンドストローク、バックハンドストローク）練習、簡易ゲーム 第5回：グランドストローク（フォアハンドストローク、バックハンドストローク）練習、簡易ゲーム 第6回：サービス練習、シングルスゲームのルール 第7回：サービス&レシーブ練習、シングルスゲーム 第8回：ボレー（フォアボレー、バックボレー）基本練習、シングルスゲーム 第9回：ボレー練習、ダブルスゲームのルール 第10回：ダブルスゲーム 第11回：ダブルスゲーム 第12回：ダブルスゲーム、 第13回：テニスのスキルテスト 第14回：筆記テスト（競技規則）&まとめ ※天候や受講生の技能のレベルや習熟度等により変更する可能性がある。		
3. 履修上の注意 1. 屋外で行うため、服装は運動に適したものを着用すること。（ジーンズ、サンダル、革靴などは認めない） 2. 必ず健康診断を受診すること。 3. 時間を厳守すること。 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は授業時に指示をする。運動に適した服装（ジーパン不可）とテニスシューズで参加の事。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 怪我予防や疲労回復のために日頃からストレッチ等を行うようにする。 授業で取り扱うスポーツ競技（テニス）に関するメディア等の情報に興味関心を持つ。 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人カードを活用し授業課題習得度を把握、それをもとに授業中および終了後に課題達成度などについて随時フィードバックする予定である。		

8. 成績評価の方法

評価対象者・・・開講数の2／3以上の出席者

評価項目

技能テスト（40%）

筆記テスト（20%）

平常点（40%）

※詳細は授業時に説明をする

9. その他

履修に関して施設と安全面を考慮して授業運営上定員を設定する。

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (9)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (9)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、バドミントンです。 本授業では、バドミントンの楽しさと喜びを実感するとともに、自身の健康と体力向上を図り、技術・戦術の向上やルール・競技特性などの理解を通じて生涯スポーツの基礎となる経験値を高めることを目的とする。また、体力に合わせてゲームを楽しむためのトレーニング方法などについても学習する。 ＜到達目標＞ 1. バドミントンの特性を理解することができる 2. バドミントンの基礎的な技術を習得し、試合をすることができる 3. バドミントンのルールやマナーを理解し実践できる 4. 練習や試合を通じて仲間と協調性や公平性を保つことができる 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] バドミントンのラケット操作と基本打法 [第3回] バドミントンの基本打法①（ヘアピン、ロブ、ドロップ） [第4回] バドミントンの基本打法②（ドライブ、スマッシュ） [第5回] バドミントンの基本打法①（クリア、サービス） [第6回] シングルスゲームのルール確認とゲーム実践 [第7回] シングルスゲームと技術的課題の整理 [第8回] シングルのグループ対抗戦① [第9回] シングルのグループ対抗戦② [第10回] ダブルスゲームのルール確認とゲーム実践 [第11回] ダブルスゲームと技術的課題の整理 [第12回] ダブルスのグループ対抗戦① [第13回] ダブルスのグループ対抗戦② [第14回] ダブルスのグループ対抗戦③ ※必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 必ず実技授業に適した服装で、体育館用スポーツシューズを着用して参加すること。 ジーパンや素足での授業参加は認めない。また飲み物やタオルが必要な場合は、各自で準備し持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習：バドミントンのルールと作戦についての予習をする。 事後学習：作戦について振り返り、より良いゲームをするためにはどのように改善すべきかを考える。 対面授業に出席する前日は、十分な睡眠時間を確保し、バランスの良い食事を摂取するなど、体調管理に気を付けること。 授業後は、必要に応じて水分補給やストレッチングなどを各自しっかりと行うこと。		
5. 教科書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (10)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (10)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、フットサルです。 本授業では、フットサルの楽しさを体験するとともに、技術練習やゲームを通して適切な運動習慣を身につけ、健康増進や体力づくりに関する基礎的な知識と方法を学習する。さらに、チームスポーツとしての活動を通して、チームワークの重要性を理解し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ＜到達目標＞ 1. フットサルの特性やルールを理解することができる。 2. 基礎的なボールコントロールやパス、シュートなどの技術を習得し、ゲームを楽しむことができる。 3. 戦術やポジショニングを理解し、状況に応じたプレーを行うことができる。 4. チームスポーツを通して協力しながらプレーし、コミュニケーション能力を高めることができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] サッカーとフットサルの違い [第3回] 基本的なボールの扱い [第4回] キックの基本 [第5回] パスの練習 [第6回] 2人組・3人組の戦術 [第7回] チーム戦術 [第8回] ポゼッションの練習 [第9回] シュートの基本 [第10回] 2人組のシュート [第11回] ミニゲーム [第12回] リーグ戦① [第13回] リーグ戦② [第14回] リーグ戦③ ※天候や必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 4月の健康診断を受けること。 必ず運動着、屋外用シューズを着用すること。 必要に応じて、タオルや飲料を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。 日頃から授業で学んだ準備運動、整理運動、傷害予防のためのストレッチなどを行うようにする。		
5. 教科書 必要に応じて資料を配布		
6. 参考書 必要に応じて資料を配布		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (11)	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (11)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅱは1年次の秋以降、各学年に設定されている。また、年間に履修できるのは一種目（1単位）であるが、異なる種目を選択することでどの学年においても重複履修が可能となる。 ここで行うスポーツ種目は初心者から経験者そして幅広い年齢層に親しまれているバドミントンである。 授業の到達目標は 第一に、体力の向上である。卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二に、スポーツを理解するために、必要な競技ルールや審判法について学ぶとともに基本技能を習得すること。 第三に、積極的に授業に参加し、仲間とスポーツを大いに楽しみコミュニケーションスキルを習得すること。 《授業の概要》 授業ではベースとして基本技能の習得と、競技規則を理解しゲームの運営ができるようになること、また、準備や片付け、練習やゲームを実施する中でいろんな仲間と連携をとる事で、コミュニケーションスキルを養う。 初回にイントロダクション内で簡単な技能レベルによるグループ分けを行う。 第二回以降はグループごとにテーマと目標を設定し基本練習とゲームを行う。 視覚教材を用いる場合もある。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、講義（競技規則と審判法） 第2回：基本練習（サーブ、クリアー）、ゲーム（半面シングルス） 第3回：基本練習（ドライブ）、ゲーム（半面シングルス） 第4回：基本練習（ヘアピン）、ゲーム（半面シングルス） 第5回：基本練習（スマッシュ&レシーブ）ゲーム（半面シングルス） 第6回：基本練習（ALL）、ゲーム（シングルの競技規則と審判法確認） 第7回：基本練習（ALL）、ゲーム（シングルス） 第8回：基本練習（ALL）、ゲーム（ダブルスの競技規則と審判法確認） 第9回：基本練習（ALL）、ゲーム（ダブルス） 第10回：基本練習（ALL）、ゲーム（ダブルス） 第11回：基本練習（ALL）、ゲーム（ダブルス） 第12回：基本練習（ALL）、ゲーム（団体戦） 第13回：技能テスト 第14回：技能テスト（予備）、筆記テスト ※詳細は授業時に指示をする。		
3. 履修上の注意 1. 屋内で行うため、体育館用シューズと運動のできる服装を用意する（裸足、靴下での参加は怪我防止のため不可）。 服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない）。 2. 必ず健康診断を受診すること。 3. 時間を厳守すること。 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は授業時に指示をする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・怪我予防や疲労回復のために日頃からストレッチ等を行うようにする。 ・授業で取り扱うスポーツ競技（バドミントン）に関するメディア等の情報に興味関心を持つ。 ・競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		

7. 課題に対するフィードバックの方法

個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う予定である。

8. 成績評価の方法

評価対象者・・・開講数の 2/3 以上の出席者

評価項目

技能テスト (40%)

筆記テスト (20%)

平常点 (40%)

9. その他

履修に関して施設と安全面を考慮して授業運営上定員を設定する。

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (12)	1 単位	立花 泰則
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (12)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「ストレッチ＆トレーニング」です。受講生各々が体力や体格などについて目標を設定し、それに適したトレーニングプログラムを作成・実行します。授業を始めるにあたり、体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）などの測定を行います。これらのデータを参考にして、自分に合ったトレーニングプログラムを作成します。その際、採用するトレーニング内容については、筋力トレーニングマシン、エアロバイク、補助トレーニング機器および自重を利用する方法などを選択します。このプログラムに基づいて半期間トレーニングを行い、体力や体組成などの変化を検証します。 《達成目標》 自分の体力や健康状態を客観的に把握しつつ、科学的根拠に基づいた適切なトレーニングプログラムを作成し、実行する方法を習得します。また日常生活に運動を取り入れる習慣の重要性を理解し、健康管理を行う能力を養います。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の G に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第 2 回：体力測定（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性） 第 3 回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度） 第 4 回：トレーニングプログラムの作成 第 6 回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第 7 回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第 8 回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第 9 回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第 10 回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定、トレーニングプログラムの修正 第 11 回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第 12 回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第 13 回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第 14 回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定・評価 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 4 月の健康診断を受けて下さい。 必要に応じて飲料やタオルを用意して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習：授業で配布した資料やトレーニング記録票を参考に、授業で行ったトレーニングの方法や効果を復習しておいてください。 予習：トレーニングの強度や頻度が適切であるかを考察し、次の授業で行うトレーニング内容に反映させてください。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料を適宜提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にその都度解説します。		
8. 成績評価の方法 平常点と授業への取り組み方 50% 実技評価（トレーニングメニュー評価と目標値達成度） 50%		
9. その他 体育館 1 階体育事務室 火曜日 12：30～13：30		

科目ナンバー (ST)HES243J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (13)	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (13)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・本授業の種目は、フットサル（人工芝）の実習となる。 ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。 ・1 年次の秋学期から 4 年次の秋学期までに複数履修することができる。 ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。 ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。 ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。 ・食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標の G に対応する科目である。 《授業の概要》 ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。 ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。 ・履修定員数は 30 名。		
2. 授業内容 以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第 2 回 フットサルの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング 第 3 回 簡易ゲームによる基本的技能の確認 第 4 回 ミニゲーム 1（ハーフコート、や 2/3 大のコート） 第 5 回 ゲーム（リーグ戦形式 7-10 分ゲーム） 第 6 回 ゲーム（リーグ戦形式 7-10 分ゲーム） 第 7 回 ゲーム（リーグ戦形式 7-10 分ゲーム） 第 8 回 ゲーム（リーグ戦形式 7-10 分ゲーム） 第 9 回 ゲーム（リーグ戦形式 7-10 分ゲーム） 第 10 回 ゲーム（リーグ戦形式 7-10 分ゲーム） 第 11 回 ゲーム（リーグ戦形式 7-10 分ゲーム） 第 12 回 ゲーム（リーグ戦形式 7-10 分ゲーム） 第 13 回 ゲーム（リーグ戦形式 7-10 分ゲーム） 第 14 回 フットサルのまとめ		
3. 履修上の注意 ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 ・用具の使用方法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 ・健康診断を受診していること。 ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）80 点		

- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）10 点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）10 点
- ・以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (ST)HES243J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (14)	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (14)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅱは1年次の秋学期以降、各学年に設定されている。また、年間に履修できるのは一種目（1単位）のみであるが、異なる種目を選択することでどの学年においても重複履修が可能となる。 本授業では軟式野球を行う。日本では野球が国民的スポーツであることは言うまでもなく、その技能はソフトボールにも応用できることから生涯を通して行えるスポーツとして位置づけられる。 授業の到達目標は 第一に、体力の向上である。卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二に、スポーツを理解するために、必要な競技ルールや審判法について学ぶとともに基本技能を習得すること。 第三に、積極的に授業に参加し、仲間とスポーツを大いに楽しみコミュニケーションスキルを習得すること。 《授業の概要》 授業ではベースとして基本技能の習得と、競技規則を理解しゲームの運営ができるようになること。 また、準備や片付け、練習やゲームを実施する中でいろんな仲間と連携をとる事で、コミュニケーションスキルを養う。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、講義（競技規則と審判法） 第2回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（内野①） 第3回：基本技能＆守備練習（内野②） 第4回：基本技能＆守備練習（外野①） 第5回：基本技能＆守備練習（外野②） 第6回：基本技能＆守備練習（連携プレー）、シートバッティング 第7回：基本技能＆ゲーム（特別ルール、ルールと審判法の確認） 第8回～第12回：ゲーム（正規ルール） 第13回：技能テスト 第14回：技能テスト（予備日） 筆記試験（競技規則） ※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある		
3. 履修上の注意 1. 屋外で行うため、服装は運動に適したものを着用すること。（ジーンズ、サンダル、革靴などは認めない） 2. 必ず健康診断を受診すること。 3. 時間を厳守すること。 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は授業時に指示をする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で取り扱うスポーツ競技（野球）はよくメディア等に取り上げられるので興味関心を持つ。 日頃から怪我予防や疲労回復のためにストレッチ等を行うようにする。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う予定である。。		
8. 成績評価の方法 評価対象者・・・開講数の 2/3 以上の出席者 評価項目 技能テスト（40%） 筆記テスト（20%） 平常点（40%） ※詳細は授業時に説明をする。		

9. その他

履修に関して施設と安全面を考慮して授業運営上定員を設定する。

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (15)	1 単位	立花 泰則
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (15)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「卓球」です。第2回から第7回までは基本的な技術習得が中心となります。ストローク（フォアハンド・バックハンド）、突っつき、スマッシュ、サーブ、レシーブなどの反復練習を行うとともに、ビデオ撮影による動作チェックを用いて受講生の能力に応じた実習を行います。 第8回以降はルール、ゲームの進め方や審判法を理解しながら、ゲームを行う能力を身に付けます（シングルスとダブルス）。ゲームは総当たりを行った後、技能レベルに応じたグループ別のリーグ戦を行います。 《達成目標》 卓球のゲームを行うための基本技術の習得を目指しつつ、卓球を通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。また卓球の歴史や文化的意義についても理解していきます。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：卓球台のセットの仕方、ラケットとボールに慣れる 第3回：フォアハンドストローク 第4回：バックハンドストローク 第5回：突っつき 第6回：スマッシュ 第7回：サーブ、レシーブ 第8回：ルール解説と審判法、ゲームの進め方、ゲーム 第9回：シングルスゲーム（戦術の解説）、ゲーム 第10回：総当たりゲーム 第11回：総当たりゲーム 第12回：グループ別リーグ戦 第13回：グループ別リーグ戦 第14回：ダブルスゲーム（フォーメーション・戦術の解説）、ゲーム ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 4月の健康診断を受けて下さい。 体育館シューズを用意して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料を適宜配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にその都度解説します。		
8. 成績評価の方法 平常点と授業への取り組み方 50% 実技評価（技術達成度とゲーム成績） 50%		
9. その他 体育館 1 階体育事務室 火曜日 12：30～13：30		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (16)	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (16)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・本授業の種目はバレーボールの実習となる。 ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。 ・1 年次の秋学期から 4 年次の秋学期までに複数履修することができる。 ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。 ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。 ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。 ・食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標の G に対応する科目である。 《授業の概要》 ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。 ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。 ・履修定員数は 30 名。		
2. 授業内容 以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第 2 回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の確認 第 3 回 簡易ゲームによる基本的な個人技能の確認（パス・レシーブ・サーブ・スパイク） 第 4 回 簡易ゲームによる戦術やポジションの役割についての確認 第 5 回 簡易ゲームによるルール、審判、得点係の確認 第 6 回 15 点制でのゲーム 1 第 7 回 15 点制でのゲーム 2 第 8 回 15 点制でのゲーム 3 第 9 回 15 点制でのゲーム 4 第 10 回 25 点制でのゲーム 1 第 11 回 25 点制でのゲーム 2 第 12 回 25 点制でのゲーム 3 第 13 回 25 点制でのゲーム 4 第 14 回 バレーボールのまとめ		
3. 履修上の注意 ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 ・用具の使用方法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 ・健康診断を受診していること。 ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）60 点		

- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）20 点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20 点
- ・以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (ST)HES243J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (17)	1 単位	渡邊 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (17)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 スポーツ実習Ⅱは1年次の秋学期以降、各学年に設定されている。また、年間に履修できるのは一種目（1単位）のみであるが、異なる種目を選択することでどの学年においても重複履修が可能となる。 本授業ではソフトボールを行う。競技人口は多く生涯を通して行えるスポーツである。 授業の到達目標は 第一に、体力の向上である。卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。 第二に、スポーツを理解するために、必要な競技ルールや審判法について学ぶとともに基本技能を習得すること。 第三に、積極的に授業に参加し、仲間とスポーツを大いに楽しみコミュニケーションスキルを習得すること。 《授業の概要》 授業ではベースとして基本技能の習得と、競技規則を理解しゲームの運営ができるようになること。 また、準備や片付け、練習やゲームを実施する中でいろんな仲間と連携をとる事で、コミュニケーションスキルを養う。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、講義（競技規則と審判法） 第2回：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング）＆守備練習（内野①） 第3回：基本技能＆守備練習（内野②） 第4回：基本技能＆守備練習（外野①） 第5回：基本技能＆守備練習（外野②） 第6回：基本技能＆守備練習（連携プレー）、シートバッティング 第7回：基本技能＆ゲーム（特別ルール、ルールと審判法の確認） 第8回～第12回：ゲーム（正規ルール） 第13回：技能テスト 第14回：技能テスト（予備日） 筆記試験（競技規則） ※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある		
3. 履修上の注意 1. 屋外で行うため、服装は運動に適したものを着用すること。（ジーンズ、サンダル、革靴などは認めない） 2. 必ず健康診断を受診すること。 3. 時間を厳守すること 4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。 ※詳細は授業時に指示をする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で取り扱うスポーツ競技（ソフトボール）について事前にルール等を学習しておく。 ま日頃から怪我予防のためにストレッチ等を行うようにする。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う予定である。。		
8. 成績評価の方法 評価対象者・・・開講数の 2/3 以上の出席者 評価項目 技能テスト（40%） 筆記テスト（20%） 平常点（40%） ※詳細は授業時に説明をする。		

9. その他

履修に関して施設と安全面を考慮して授業運営上定員を設定する。

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (18)	1 単位	立花 泰則
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (18)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「ストレッチ＆トレーニング」です。受講生各々が体力や体格などについて目標を設定し、それに適ったトレーニングプログラムを作成・実行します。授業を始めるにあたり、体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）などの測定を行います。これらのデータを参考にして、自分に合ったトレーニングプログラムを作成します。その際、採用するトレーニング内容については、筋力トレーニングマシン、エアロバイク、補助トレーニング機器および自重を利用する方法などを選択します。このプログラムに基づいて半期間トレーニングを行い、体力や体組成などの変化を検証します。 《達成目標》 自分の体力や健康状態を客観的に把握しつつ、科学的根拠に基づいた適切なトレーニングプログラムを作成し、実行する方法を習得します。また日常生活に運動を取り入れる習慣の重要性を理解し、健康管理を行う能力を養います。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：体力測定（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性） 第3回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度） 第4回：トレーニングプログラムの作成 第6回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第7回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第8回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第9回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第10回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定、トレーニングプログラムの修正 第11回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第12回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第13回：ストレッチ＆トレーニングプログラムの実行 第14回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定・評価 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 4 月の健康診断を受けて下さい。 必要に応じて飲料やタオルを用意して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習：授業で配布した資料やトレーニング記録票を参考に、授業で行ったトレーニングの方法や効果を復習しておいてください。 予習：トレーニングの強度や頻度が適切であるかを考察し、次の授業で行うトレーニング内容に反映させてください。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料を適宜提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にその都度解説します。		
8. 成績評価の方法 平常点と授業への取り組み方 50% 実技評価（トレーニングメニュー評価と目標値達成度） 50%		
9. その他 体育館 1 階体育事務室 火曜日 12：30～13：30		

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (19)	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (19)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・本授業の種目はバレーボール（体育館）の実習となる。 ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。 ・1 年次の秋学期から 4 年次の秋学期までに複数履修することができる。 ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。 ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。 ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。 ・食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標の G に対応する科目である。 《授業の概要》 ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。 ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。 ・履修定員数は 30 名。		
2. 授業内容 以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第 2 回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の確認 第 3 回 簡易ゲームによる基本的な個人技能の確認（パス・レシーブ・サーブ・スパイク） 第 4 回 簡易ゲームによる戦術やポジションの役割についての確認 第 5 回 簡易ゲームによるルール、審判、得点係の確認 第 6 回 15 点制でのゲーム 1 第 7 回 15 点制でのゲーム 2 第 8 回 15 点制でのゲーム 3 第 9 回 15 点制でのゲーム 4 第 10 回 25 点制でのゲーム 1 第 11 回 25 点制でのゲーム 2 第 12 回 25 点制でのゲーム 3 第 13 回 25 点制でのゲーム 4 第 14 回 バレーボールのまとめ		
3. 履修上の注意 ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 ・用具の使用方法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 ・健康診断を受診していること。 ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）60 点		

- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）20 点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20 点
- ・以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (20)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (20)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、バドミントンです。 本授業では、バドミントンの楽しさと喜びを実感するとともに、自身の健康と体力向上を図り、技術・戦術の向上やルール・競技特性などの理解を通じて生涯スポーツの基礎となる経験値を高めることを目的とする。また、体力に合わせてゲームを楽しむためのトレーニング方法などについても学習する。 ＜到達目標＞ 1. バドミントンの特性を理解することができる 2. バドミントンの基礎的な技術を習得し、試合をすることができる 3. バドミントンのルールやマナーを理解し実践できる 4. 練習や試合を通じて仲間と協調性や公平性を保つことができる 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] バドミントンのラケット操作と基本打法 [第3回] バドミントンの基本打法①（ヘアピン、ロブ、ドロップ） [第4回] バドミントンの基本打法②（ドライブ、スマッシュ） [第5回] バドミントンの基本打法①（クリア、サービス） [第6回] シングルスゲームのルール確認とゲーム実践 [第7回] シングルスゲームと技術的課題の整理 [第8回] シングルのグループ対抗戦① [第9回] シングルのグループ対抗戦② [第10回] ダブルスゲームのルール確認とゲーム実践 [第11回] ダブルスゲームと技術的課題の整理 [第12回] ダブルスのグループ対抗戦① [第13回] ダブルスのグループ対抗戦② [第14回] ダブルスのグループ対抗戦③ ※必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 必ず実技授業に適した服装で、体育館用スポーツシューズを着用して参加すること。 ジーパンや素足での授業参加は認めない。また飲み物やタオルが必要な場合は、各自で準備し持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習：バドミントンのルールと作戦についての予習をする。 事後学習：作戦について振り返り、より良いゲームをするためにはどのように改善すべきかを考える。 対面授業に出席する前日は、十分な睡眠時間を確保し、バランスの良い食事を摂取するなど、体調管理に気を付けること。 授業後は、必要に応じて水分補給やストレッチングなどを各自しっかりと行うこと。		
5. 教科書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (21)	1 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (21)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「フィットネス」です。受講生各々が体力や体格などについて目標を設定し、それに適ったトレーニングプログラムを作成・実行します。最初に体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度など）の測定を行います。これらのデータを参考にして、自分に合ったトレーニングプログラムを担当者と相談しながら作成します。その際、採用するトレーニング内容については、筋力トレーニングマシン、エアロバイク、補助トレーニング機器および自重を利用する方法などを選択します。このプログラムに基づいて半期間トレーニングを行い、体力や体組成などの変化を検証します。 《到達目標》 自分の体力や健康状態を客観的に把握したり、自分の現状に合った適切なトレーニングプログラムを作成・実行できる能力を養います。更に日常生活において、運動を取り入れる習慣を身に付けることも目標とします。 ※ 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：体力測定（筋力、有酸素運動能力、柔軟性） 第3回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度） 第4回：トレーニングプログラムの作成 第6回：トレーニングプログラムの実行 第7回：トレーニングプログラムの実行 第8回：トレーニングプログラムの実行 第9回：トレーニングプログラムの修正 第10回：トレーニングプログラムの実行 第11回：トレーニングプログラムの実行 第12回：体力測定（筋力、有酸素運動能力、柔軟性）、トレーニングプログラムの実行 第13回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）、トレーニングプログラムの実行 第14回：トレーニングプログラムの評価 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・4月の健康診断を受けて下さい。 ・必要に応じて飲料やタオルを用意して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：トレーニングの強度や頻度が適切であるかを考察し、変更すべき点があれば次回の授業に反映させてください。 復習：授業で配布した資料やトレーニング記録表を参考に、実施したトレーニングの方法や期待できる効果を確認して下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料を適宜配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（体脂肪率、筋肉量、皮下脂肪厚および骨密度など）を測定・記録する。また、毎時間、トレーニング状況や内容の改善点を記録する。これらのデータに基づいて、担当教員と話し合いながら最適なプログラムを構築していく。		
8. 成績評価の方法 ・平常点と授業への取り組み方 50% ・実技評価（トレーニングメニュー評価と目標達成度） 50%		
9. その他 保健体育第Ⅱ研究室（3号館4階411号室） オフィスアワー：月曜 12：30～13：30 E-mail: aki@meiji.ac.jp		

--

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (22)	1 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (22)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 種目は、バドミントンです。 本授業では、バドミントンの楽しさと喜びを実感するとともに、自身の健康と体力向上を図り、技術・戦術の向上やルール・競技特性などの理解を通じて生涯スポーツの基礎となる経験値を高めることを目的とする。また、体力に合わせてゲームを楽しむためのトレーニング方法などについても学習する。 ＜到達目標＞ 1. バドミントンの特性を理解することができる 2. バドミントンの基礎的な技術を習得し、試合をすることができる 3. バドミントンのルールやマナーを理解し実践できる 4. 練習や試合を通じて仲間と協調性や公平性を保つことができる 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第1回] ガイダンス [第2回] バドミントンのラケット操作と基本打法 [第3回] バドミントンの基本打法①（ヘアピン、ロブ、ドロップ） [第4回] バドミントンの基本打法②（ドライブ、スマッシュ） [第5回] バドミントンの基本打法①（クリア、サービス） [第6回] シングルスゲームのルール確認とゲーム実践 [第7回] シングルスゲームと技術的課題の整理 [第8回] シングルのグループ対抗戦① [第9回] シングルのグループ対抗戦② [第10回] ダブルスゲームのルール確認とゲーム実践 [第11回] ダブルスゲームと技術的課題の整理 [第12回] ダブルスのグループ対抗戦① [第13回] ダブルスのグループ対抗戦② [第14回] ダブルスのグループ対抗戦③ ※必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 必ず実技授業に適した服装で、体育館用スポーツシューズを着用して参加すること。 ジーパンや素足での授業参加は認めない。また飲み物やタオルが必要な場合は、各自で準備し持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習：バドミントンのルールと作戦についての予習をする。 事後学習：作戦について振り返り、より良いゲームをするためにはどのように改善すべきかを考える。 対面授業に出席する前日は、十分な睡眠時間を確保し、バランスの良い食事を摂取するなど、体調管理に気を付けること。 授業後は、必要に応じて水分補給やストレッチングなどを各自しっかりと行うこと。		
5. 教科書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に都度説明をするとともに、授業最終回には授業全体に対する講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業に取り組む姿勢 60%、目標達成度 20%、レポート 10%、技能 10%として、最終成績の目安として評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (23)	1 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (23)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 対象種目は「フィットネス」です。受講生各々が体力や体格などについて目標を設定し、それに適ったトレーニングプログラムを作成・実行します。最初に体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度など）の測定を行います。これらのデータを参考にして、自分に合ったトレーニングプログラムを担当者と相談しながら作成します。その際、採用するトレーニング内容については、筋力トレーニングマシン、エアロバイク、補助トレーニング機器および自重を利用する方法などを選択します。このプログラムに基づいて半期間トレーニングを行い、体力や体組成などの変化を検証します。 《到達目標》 自分の体力や健康状態を客観的に把握したり、自分の現状に合った適切なトレーニングプログラムを作成・実行できる能力を養います。更に日常生活において、運動を取り入れる習慣を身に付けることも目標とします。 ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のGに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意） 第2回：体力測定（筋力，有酸素運動能力，柔軟性） 第3回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度） 第4回：トレーニングプログラムの作成 第6回：トレーニングプログラムの実行 第7回：トレーニングプログラムの実行 第8回：トレーニングプログラムの実行 第9回：トレーニングプログラムの修正 第10回：トレーニングプログラムの実行 第11回：トレーニングプログラムの実行 第12回：体力測定（筋力，有酸素運動能力，柔軟性）、トレーニングプログラムの実行 第13回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）、トレーニングプログラムの実行 第14回：トレーニングプログラムの評価 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・4月の健康診断を受けて下さい。 ・必要に応じて飲料やタオルを用意して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：トレーニングの強度や頻度が適切であるかを考察し、変更すべき点があれば次回の授業に反映させてください。 復習：授業で配布した資料やトレーニング記録表を参考にして、実施したトレーニング方法や期待できる効果を確認して下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 印刷資料を適宜配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（体脂肪率、筋肉量、皮下脂肪厚および骨密度など）を測定・記録します。また、毎時間のトレーニング状況やプログラム内容の改善点を記録します。これらのデータに基づいて、担当教員と話し合いながら最適なプログラムを構築していきます。		
8. 成績評価の方法 ・平常点と授業への取り組み方 50% ・実技評価（トレーニングメニュー評価と目標達成度） 50%		
9. その他 保健体育第Ⅱ研究室（3号館4階411号室） オフィスアワー：月曜12：30～13：30 E-mail：aki@meiji.ac.jp		

--

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (24)	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (24)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・本授業の種目は卓球（体育館）の実習となる。 ・スポーツ実習は、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。 ・1 年次の秋学期から 4 年次の秋学期までに複数履修することができる。 ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。 ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。 ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。 ・食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標の G に対応する科目である。 《授業の概要》 ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。 ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチーム（ペア）づくりを行う。 ・履修定員数は 30 名。		
2. 授業内容 以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第 2 回 卓球の特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング 第 3 回 簡易ゲームによる基本的技能と基本的なルールの確認（ダブルス、シングルス） 第 4 回 基本技能の習得Ⅰ フォアハンドの基本とラリー、フットワーク、フォアハンドでのサーブ 第 5 回 基本技能の習得Ⅱ バックハンドの基本とラリー、フットワーク、バックハンドでのサーブ 第 6 回 応用技能の習得Ⅰ フォア・バックハンド（ロングとショート、クロスとストレート） 第 7 回 応用技能の習得Ⅱ フォア・バックハンド（ドライブ、カット、つつつき） 第 8 回 応用技能の習得Ⅲ サービス（フォア・バックハンド、上・下・横回転）とレシーブ 第 9 回 応用技能の習得Ⅳ スマッシュ、レシーブ 第 10 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅰ ダブルスでの動き方と戦術 第 11 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅱ ダブルス（ルールと審判法の理解、審判の実践） 第 12 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅲ シングルス（ルールと審判法の理解、審判の実践） 第 13 回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅳ 団体戦 5 人から 6 人チーム 第 14 回 卓球のまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）		
3. 履修上の注意 ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 ・用具の使用方法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 ・健康診断を受診していること。 ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）60 点		

- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）20 点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20 点
- ・以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (25)	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (25)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・本授業の種目はバスケットボール（体育館）の実習となる。 ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。 ・1 年次の秋学期から 4 年次の秋学期までに複数履修することができる。 ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。 ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。 ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。 ・食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標の G に対応する科目である。 《授業の概要》 ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。 ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。 ・履修定員数は 30 名。		
2. 授業内容 以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第 2 回 バスケットボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング 第 3 回 ハーフコートでのゲームによる基本的個人技能の確認 第 4 回 簡易ゲームによる基本的個人技能の確認 第 5 回 ハーフコートでのゲームによる基本的戦術の確認 第 6 回 簡易ゲームによる基本的戦術の確認 第 7 回 簡易ゲームによるルールと審判（タイマーの使い方）の確認 第 8 回 4 分ゲームによる総合的技能の習得 1 第 9 回 4 分ゲームによる総合的技能の習得 2 第 10 回 4 分ゲームによる総合的技能の習得 3 第 11 回 5 分ゲームによる総合的技能の習得 1 第 12 回 5 分ゲームによる総合的技能の習得 2 第 13 回 5 分ゲームによる総合的技能の習得 3 第 14 回 バスケットボールのまとめ		
3. 履修上の注意 ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 ・用具の使用方法と管理について、自他の安全に十分配慮すること。 ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 ・健康診断を受診していること。 ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）50 点		

- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）30 点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20 点
- ・以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (26)	1 単位	片瀬 文雄
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (26)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・本授業の種目はバレーボール（体育館）の実習となる。 ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。 ・1 年次の秋学期から 4 年次の秋学期までに複数履修することができる。 ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。 ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。 ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。 ・食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）は、学習目標の G に対応する科目である。 《授業の概要》 ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。 ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。 ・履修定員数は 30 名。		
2. 授業内容 以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について） 第 2 回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の確認 第 3 回 簡易ゲームによる基本的な個人技能の確認（パス・レシーブ・サーブ・スパイク） 第 4 回 簡易ゲームによる戦術やポジションの役割についての確認 第 5 回 簡易ゲームによるルール、審判、得点係の確認 第 6 回 15 点制でのゲーム 1 第 7 回 15 点制でのゲーム 2 第 8 回 15 点制でのゲーム 3 第 9 回 15 点制でのゲーム 4 第 10 回 25 点制でのゲーム 1 第 11 回 25 点制でのゲーム 2 第 12 回 25 点制でのゲーム 3 第 13 回 25 点制でのゲーム 4 第 14 回 バレーボールのまとめ		
3. 履修上の注意 ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。 ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。 ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。 ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。 ・健康診断を受診していること。 ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく		
5. 教科書 特に無し		
6. 参考書 授業中にプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 14 回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う		
8. 成績評価の方法 ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）60 点		

- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）20 点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20 点
- ・以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅲ (冬季集中)	1 単位	加納・戸枝・片瀬
2022～2025 年度入学者 スポーツ実習Ⅲ (冬季集中)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 スキーの学外集中授業です。履修定員は 35 名。実習期間は 2027 年 2 月 1 日～4 日（3 泊 4 日）、実習地は長野県菅平高原スキー場。授業は 3 回の事前学習とゲレンデ実習で構成されています。なおゲレンデ実習では、履修者のスキー技能レベルに応じた班別講習を行います。 《到達目標》 履修者のレベルに応じた講習を行い、スキー技能の向上を目指します。また、スキーや雪山に関する知識を身に付け、大自然の中で安全に身体を動かすことを体験することで、生涯スポーツとしてのスキーを実践する能力を養うことを目標とします。更に、学外で宿泊を伴う唯一のスポーツ実習であることから、ゲレンデや宿舎での集団生活におけるマナーや協調性を養うことも重要であると考えています。 ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の G に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回 a：事前学習（イントロダクション） 第 2 回：事前学習（実習の概要説明） 第 3 回：事前学習（スキー用具や服装） 第 4 回：班分け、スキー用具の取り扱い方、スキーを装着しての移動（歩行、登行、方向転換、転び方など） 第 5 回：ゲレンデにおけるマナーの解説、ゲレンデ実習（止まり方、曲がり方） 第 6 回：ゲレンデ実習（ブルークボーゲン） 第 7 回：ゲレンデ実習（シュテムターン） 第 8 回：ゲレンデ実習（直滑降、斜滑降、スケーティング） 第 9 回：ゲレンデ実習（パラレルターンへの導入） 第 10 回：ゲレンデ実習（パラレルターン） 第 11 回：ゲレンデ実習（急斜面・緩斜面の滑走） 第 12 回：ゲレンデ実習（こぶの滑り方） 第 13 回：ゲレンデ実習（総合滑走） 第 14 回：ゲレンデ実習（総合滑走） ＊講義内容は必要に応じて変更する事があります。		
3. 履修上の注意 ・履修希望者は初回ガイダンスを必ず受講して下さい（ガイダンスにて履修者を確定します）。 ・4 月の健康診断を受けて下さい。 ・3 泊 4 日の全日程が授業である、という心構えで履修して下さい。 《初回ガイダンスについて》 初回ガイダンスの開催日時と場所は以下の通りです。 日時：2026 年 4 月 9 日（木）12:45～13:15 場所：体育館 2 階フロア なお、履修定員は 35 名となっています。履修希望者数がこれを超えた場合は、抽選を行って履修者を確定します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：スキー技術について、参考書（「スキー教本」大学 スキー 研究会編）等で調べておいてください。		
5. 教科書 印刷資料を配布します。		
6. 参考書 「スキー教本」大学スキー研究会編		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゲレンデ実習中に滑走フォームをビデオ撮影し、その日の班別ミーティングにて動作チェックを行います。これにより、各自の滑り方を客観的に把握すると同時に、修正点を確認します。		
8. 成績評価の方法 班別の実技試験、平常点・実習への取り組み方によって総合的に評価します。		

9. その他

保健体育第 II 研究室（3号館 411 号室）

オフィスアワー：月曜 12：30～13：30

E-mail: aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 運動学 (1)	2 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 運動学 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 本授業では、身体運動を科学的に理解するための基礎知識について学ぶ。骨格や筋肉の働き、エネルギー供給、神経系による運動制御、運動学習などを取り上げ、運動の仕組みを理解するとともに、安全で効果的なスポーツ活動に必要な知識を身につける。 ＜到達目標＞ 1. 体力や身体の構造（骨格・筋肉）など、身体運動に関わる基礎的な身体機能を理解することができる。 2. エネルギー供給や栄養、体温調節など、運動時の身体反応について説明することができる。 3. 神経系による運動制御や運動学習の仕組みについて理解することができる。 4. スポーツ障害の発生要因を理解し、運動を安全に実施するための基礎的知識を身につけることができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] 体力と運動 [第 3 回] 身体の構造（骨格と筋肉） [第 4 回] 筋肉の構造と働き [第 5 回] 筋力トレーニングの理論 [第 6 回] エネルギー供給系と運動 [第 7 回] 栄養とエネルギー供給 [第 8 回] エネルギー代謝 [第 9 回] 体温調整と運動環境 [第 10 回] 神経系の構造と機能 [第 11 回] 運動制御のメカニズム [第 12 回] 運動学習 [第 13 回] スポーツ障害 [第 14 回] まとめ ※必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 運動とそのメカニズムについて、興味を持って履修すること。 授業内でグループワークをすることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：次回の授業内容について概要を把握しておくこと。 復習：授業時に配布したプリントの内容を説明できるように復習しておくこと。		
5. 教科書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験により評価する		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) HES121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 運動学 (2)	2 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 運動学 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 運動を習慣的に行う事によって、体組成（筋、脂肪、骨）は変化します。「筋力を高めるためには」、「余分な体脂肪を減らすためには」、「骨を丈夫にするためには」といったテーマに対して、どのようなトレーニングが効果的であるかを運動生理学や運動力学の観点から明らかにしていきます。また、スポーツにおける熟練者と未熟練者の動作の違いをバイオメカニクスの分析から明らかにします。一流選手は「速く走る」、「遠くへ跳ぶ」、「速いボールを投げる」ためにどのような動作を行っているのかを解説するとともに、運動の巧緻性における中枢神経の働きについても考えていきます。 《到達目標》 運動することが身体に及ぼす影響やスポーツ・パフォーマンスについて、これらを科学的に捉えて理解する能力を養うことが本講義の目標です。 ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（授業内容の概略と受講の仕方） 第2回：骨の生理学（太くて丈夫な骨を作る） 第3回：筋の生理学（1）（随意最大筋力と筋線維タイプ） 第4回：筋の生理学（2）（絶対筋力と神経系機能） 第5回：筋力トレーニング（トレーニングの原則～最新のトレーニング法） 第6回：サルコペニア（筋力の加齢変化） 第7回：体脂肪の生理学（脂肪細胞増減のメカニズム、白色・ベージュ・白色脂肪細胞） 第8回：運動と体脂肪（余分な体脂肪を減らすための exercise） 第9回：持久力の生理学（トレーニング方法と生理学的効果） 第10回：運動と脳（動きの巧みさと脳の働き） 第11回：「速いボールを投げるには」、「速く走るためには」（バイオメカニクスの分析から） 第12回：栄養と運動（トレーニング効果を高める栄養摂取） 第13回：ストレスと運動（運動でストレスに勝つ） 第14回：運動がもたらす身体からのメッセージ物質（筋、脂肪、骨から分泌される生理活性物質） * 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。		
3. 履修上の注意 「身体がどのような過程を経て運動を発現させているのか?」、「運動することが身体にどのような影響を及ぼすのか?」といった問題意識を持って受講して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ 次回の授業内容について事前に参考書等で調べておいてください。 ・ 授業時に配布したプリントのポイントとなる内容を、説明できるように復習しておいてください。		
5. 教科書 プリントを配布します。		
6. 参考書 「21 世紀のフィットネス・デザイン—スポーツ科学に基づく健康・体力づくり」（文化書房博文社）中原凱文・角田直也編著		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験により評価します。		
9. その他 保健体育第 II 研究室（3 号館 4 階 411 号室） オフィスアワー：火曜日 12：30～13：30 aki@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) HES121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 健康科学 (1)	2 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 健康科学 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 私たちの健康に関わる生活習慣病、感染症、ストレスによる心身症などについて講義します。現在、日本人の死因別死亡割合の約 4 6 % が「三大生活習慣病（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）」で占められています。これらの疾病の原因や予防法を解説します。また、人類を脅かす「感染症（新型コロナや AIDS など）」に対する理解を深める事や、ストレス社会を生きて行く上で必要と考えられる「ストレスとの上手な付き合い方」などについても論じていきます。 《達成目標》 健康管理のために必要な知識や実践方法を習得するとともに、健康に関するエビデンスを理解する能力を養う事を目標とします。 ※農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C に対応する科目です。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（授業内容の概略と受講の仕方） 第 2 回：ライフサイクルと健康（健康問題を年齢との関係から考える） 第 3 回：生活習慣病とは（三大生活習慣病の概要） 第 4 回：体内の脂肪（皮下脂肪、内臓脂肪、血中脂質） 第 5 回：メタボリックシンドローム（内臓脂肪が健康に及ぼす影響） 第 6 回：肥瘦関連遺伝子（消費エネルギー構成要素との関係） 第 7 回：栄養としての脂肪（飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、トランス脂肪酸） 第 8 回：大腸がん（原因と予防法） 第 9 回：胃がん（原因と予防法） 第 10 回：肺がん、子宮頸がん（原因と予防法） 第 11 回：ストレスと健康（ストレスが免疫に及ぼす影響） 第 12 回：ストレス耐性を高める（運動と栄養） 第 13 回：感染症（新型コロナ、インフルエンザ、STI など）の基礎知識と対策 第 14 回：健康に生きて行くために（まとめ） * 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。		
3. 履修上の注意 自分の健康診断の結果や体脂肪率などを把握しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：次回の授業内容について、事前に参考書等で概要を把握しておいてください。 復習：授業時に配布したプリントのポイントを理解し、自分の生活に生かせるよう考えてください。		
5. 教科書 プリントを配布します。		
6. 参考書 「21 世紀のフィットネス・デザイン—スポーツ科学に基づく健康・体力づくり」（文化書房博文社）中原凱文・角田直也編著		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験により評価します。		
9. その他 保健体育第 II 研究室（3 号館 4 階 411 号室） オフィスアワー：月曜 12：30～13：30 aki@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG)HES121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 健康科学 (2)	2 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 健康科学 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 現代社会では、生活習慣病やストレス、睡眠不足、生活環境の変化などが人々の健康に大きな影響を与えている。本授業では、ライフサイクルと健康、ストレス、自律神経、運動、睡眠、食生活などをテーマに、健康の維持・増進に関する基礎的な知識を学習する。また、生活習慣病の予防、健康格差、デジタル社会における健康管理など、現代社会における健康課題について理解を深める。授業を通して、自身の生活習慣を見直し、健康的な生活を主体的に実践するための知識と考え方を身につけることを目的とする。 ＜到達目標＞ 1. 健康に関する基礎的な知識（運動、睡眠、食生活、ストレスなど）を理解することができる。 2. 生活習慣病やストレスなど、現代社会における健康問題について説明することができる。 3. 健康に影響を与える社会的・環境的要因について理解することができる。 4. 学習内容をもとに、自身の健康管理や生活習慣の改善について考えることができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第1回] イントロダクション [第2回] ライフサイクルと健康 [第3回] ストレスとは [第4回] 自律神経と健康 [第5回] 運動の効果（精神的効果） [第6回] 運動の効果（身体的効果） [第7回] 睡眠と運動 [第8回] 飲酒・喫煙と運動 [第9回] 食と健康 [第10回] 生活習慣病とその予防 [第11回] 自然と心身の健康 [第12回] 健康格差と社会的要因 [第13回] デジタル時代の健康管理 [第14回] 自分の健康をデザインする（まとめ） ※必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 健康とライフスタイルについて、興味を持って履修すること。 授業内でグループワークをすることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：次回の授業内容について概要を把握しておくこと。 復習：授業時に配布したプリントの内容を説明できるように復習しておくこと。		
5. 教科書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験により評価する		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

2026年度以降入学者

総合教育科目
総合教育ゼミナール

2022～2025年度入学者

総合科目
総合科目ゼミナール

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（哲学・倫理学）	4 単位	長田 蔵人
2022～2025 年度入学者 人文科学ゼミナール（哲学）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この講義では、日常生活上のちょっとした疑問から学問的なテーマまで、さまざまなレベルで生じる大小の問題を掘り下げ、仲間との議論を通じて、自分や他者がどのような価値観や考え方に基づいて生きているのかを捉え直すことが目指される。 それは、自分の判断を知らぬまに一定の方向に導いている「思考の枠組み」の存在に気づく、つまり「自分自身を知る」ということであり、また、他者の思考や感情に対する理解力と寛容さを身に着ける、ということでもある。 自明のこととして素通りしている考え方を自明視せず、なぜそのように考えられるのか、他にどのような考え方がありうるのかを問うことで、柔軟な思考力と他者の立場に対する理解力を養いたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の F に対応する科目である。 《到達目標》 （１）自発的な問題意識に基づく「問いの発見」から考察を進めることにより、主体的・自立的な思考力を身に付ける。 （２）討論における他者との意見交換を通じて、問題に対するより深い理解と多角的な視点を身に付ける。		
2. 授業内容 * 下記の内容は扱われるテーマの事例であり、そのほかにも参加者が自由にテーマを提案できます。 【春学期】 第 1 回 a のみ：イントロダクション ― 進め方とテーマについて 第 2 回 プロフィールを偽った作家が与えた感動は本物か？（１） 第 3 回 プロフィールを偽った作家が与えた感動は本物か？（２） 第 4 回 家畜を育てさせて食べさせるのは正しい食育か？（１） 第 5 回 家畜を育てさせて食べさせるのは正しい食育か？（２） 第 6 回 自殺はつねに悪か？（１） 第 7 回 自殺はつねに悪か？（２） 第 8 回 普遍的な「美しさ」は存在するか？（１） 第 9 回 普遍的な「美しさ」は存在するか？（２） 第 10 回 AI の哲学・情報哲学（１） 第 11 回 AI の哲学・情報哲学（２） 第 12 回 差別とは何か？（１） 第 13 回 差別とは何か？（２） 第 14 回 総括 【秋学期】 第 1 回 a のみ：イントロダクション ― 進め方とテーマについて 第 2 回 芸術は公的資金によって助成されるべきか？（１） 第 3 回 芸術は公的資金によって助成されるべきか？（２） 第 4 回 ヘイト・スピーチとは何か？（１） 第 5 回 ヘイト・スピーチとは何か？（２） 第 6 回 殺人はつねに悪か？（１） 第 7 回 殺人はつねに悪か？（２） 第 8 回 自動運転の自家用車が起こした事故の責任は誰が取るのか？（１） 第 9 回 自動運転の自家用車が起こした事故の責任は誰が取るのか？（２） 第 10 回 人権とは何か？なぜそれは守られるべきなのか？（１） 第 11 回 人権とは何か？なぜそれは守られるべきなのか？（１） 第 12 回 人は必ず働くべきか？どのように働くべきか？（１） 第 13 回 人は必ず働くべきか？どのように働くべきか？（２） 第 14 回 総括		
3. 履修上の注意 自明と思われる自分たちの考え方が、どのような基礎の上に成立しているのか、既存の「思考の枠組み」に対する問題意識を持つことを心がけてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に渡された資料やテキストの指定箇所をあらかじめ通読しておくこと。 また授業後も扱われた箇所を再読し、自分なりの考えや疑問点を整理して中間・期末レポートに備えるように。		

5. 教科書

特に使用しない。必要な資料は授業中に配布する。

6. 参考書

石井洋二郎, 藤垣裕子, 『大人になるためのリベラルアーツ』(東京大学出版会, 2016 年)
児玉聡, 『実践・倫理学 ― 現代の問題を考えるために』(勁草書房, 2020 年)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

中間レポート 40%, 期末レポート 60%

9. その他

連絡先: kurandoo@meiji.ac.jp

研究室: 哲学研究室 (3 号館 4 階 401 号室)

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（日本文化）	4 単位	松下 浩幸
2022～2025 年度入学者 人文科学ゼミナール（文章表現）		
1. 授業の概要・到達目標 読む・書く・考える—Japan Studies 日本の〈社会〉と〈文化〉をめぐって— 春学期は日本の文化と社会について考える代表的なテキストを読み、日本の現在・過去・未来について考える。また、書評を書くことで文章作成の技術を学ぶ。 夏休みにはフィールド・ワークによる取材実習を予定している。 秋学期には各自が設定したテーマに沿った読書会、及び各自の研究テーマにそったレポート作成を行う。そして、年度末には研究の成果を文集にまとめる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の F に対応する科目である。		
2. 授業内容 【春学期】 〔第 1 回〕 イントロダクション・履修上の注意点と授業計画について 〔第 2 回〕 昨年度のゼミ文集を読む 〔第 3 回～第 7 回〕 読書会（1） 日本の社会について考える テキスト：岡本亮輔『聖地巡礼』（中公新書） 〔第 8 回〕 書評の合評会・その 1 〔第 9 回～第 13 回〕 読書会（2） 東京の未来について考える テキスト：吉見俊哉『東京裏返し』（集英社新書） 〔第 14 回〕 書評の合評会・その 2 ※取り上げるテキスト等は、履修者の関心等により変更することがある。 【夏休み】フィールド・ワーク「東京の歴史をを歩く」 参考図書：『大学的東京ガイド』（昭和堂）、森まゆみ『東京遺産』（岩波新書） 【秋学期】 〔第 1 回〕 イントロダクション・秋学期の授業計画について 〔第 2 回～第 3 回〕 取材実習の成果を文章化する 〔第 4 回～第 8 回〕 インタビューの仕方、メモの取り方、文章作成の練習 参考図書：『情報生産者になってみた』（ちくま新書） 〔第 9 回～第 12 回〕 取材のための計画を立てる 〔第 13 回～第 14 回〕 各自のテーマ発表を行う +ゼミ文集の作成を行う。		
3. 履修上の注意 ・通常の授業と同様に履修期間中に登録してください。入室の試験や面談等はありません。 ・初回の授業で履修の仕方や授業の進め方について詳しく説明するので、履修者希望者は必ず出席すること。 ・「1 年間履修」（2026 年度）は 3 年生・4 年生ともに可能。 ・「2 年間履修」（2026～27）+「ゼミナール論文」（2027 年度作成）は 3 年生のみ可能。 ・履修に関する質問は以下のメールアドレスを利用ください。 松下：matuhiro@meiji.ac.jp		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習—課題の図書を読み、各自のコメントを準備する。 ・復習—議論の内容をまとめ、疑問点等を整理し、次回の授業に備える。		
5. 教科書 ・「授業内容」に記した通り。		
6. 参考書 ・大久保喬樹『日本文化論の系譜』（中公新書） ・樺島忠夫『文章術—「伝わる書き方」の練習』（角川 one テーマ 21） ・上野千鶴子『情報生産者になる』（ちくま新書） ・花村太郎『知的トレーニングの技術』（ちくま学芸文庫） ・永江 朗『インタビュー術!』（講談社現代新書） ・野村 進『調べる技術・書く技術』（講談社現代新書） ・関満 博『現場主義の知的生産法』（ちくま新書） ・大宅壮一文庫編『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・授業において適宜、課題についてのコメントを、個別または全体に対して行う。		

8. 成績評価の方法

- ・発表及びレポート作成によって、総合的に行う。

9. その他

- ・オフィスアワー 月曜日 13:00～14:30
- ・研究室・第一校舎3号館402号（日本語研究室）
- ・メールアドレス: matuhiro@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール (英文学)	4 単位	樋渡 さゆり
2022～2025 年度入学者 外国文化ゼミナール (英語) (1)		
1. 授業の概要・到達目標 「風景で読む英文学」 《授業の概要》 英文学をとおして人と環境について考え、グローバル時代における文化理解に向けて複眼的な視点を身につけます。自然・風景・言語をキーワードとして詩人 W. ワーズワスほか近代英文学の作品に親しみ、風景画・写真・地図などの視聴覚資料を参照することで、風景の光と影、そして自然観の変遷が見えてきます。この文脈から、歴史上の参照点として、科学者であり著述家でもあるニュートンと C. ダーウィンの功績に光を当てます。少人数制の利点を生かし、適宜、履修者の希望を反映して進めます。 英語原典を講読し、改めて一言語としての英語の特徴を知り、英語らしいロジックへの理解を深めます。 《到達目標》 言語文化的な面から文化の諸相を理解する視点を身につける。 英文学の言語表現上の特徴と風土的、社会的、思想的背景を考え、発展的課題として、私たちを取り巻く文化・社会・環境をあらためて意識する。 ディスカッションやプレゼンテーション、課題提出とフィードバックを経て、主体的に思考し、意見を発信できるよう目指す。 * 農学科食糧生産・環境コースの学習・教育目標 A・F に対応		
2. 授業内容 《春学期》 第 1 回：Module b のみ：イントロダクション 第 2 回から第 13 回まで、毎回テキストを講読する 第 14 回：まとめ 《秋学期》 第 1 回：Module b のみ：秋学期イントロダクション 第 2 回から第 13 回まで、毎回テキストを講読する 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 履修を考えている場合は仮登録をして、クラスウェブ上の資料を参照してください 科目配当学年に鑑み、第一外国語または第二外国語として英語Ⅰ・英語Ⅱの必修単位を修得していることを履修条件とします		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予定範囲のテキストをあらかじめ読んで出席すると理解が深まる 受講後は内容をふりかえり、関心をもった事柄については積極的に調べ、自主的に学びを展開する		
5. 教科書 プリントまたは電子資料 おもに英語文献を読み、補助的に日本語文献を使用		
6. 参考書 段階を追ってクラスウェブに掲示		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出はクラスウェブを利用 フィードバックはクラスウェブのコメント欄で各履修者へ返す、授業で取り上げる、などの方法をとる		
8. 成績評価の方法 平常点（授業参加状況・課題提出など）60%、レポート・プレゼンテーション 40%		
9. その他 1. 連絡方法→クラスウェブ上の連絡欄ほか授業で提示 2. オフィスアワー→質問は授業時に受けます。積極的な問題提起・話題提供を歓迎します（面談を希望する場合は授業終了時または事前連絡でアポイントメントをとってください） 場所： 英語第Ⅰ研究室（第一校舎 3 号館 4 階 403） 時間： 在室中は可能な限り対応		

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（比較文化）	4 単位	織田 哲司
2022～2025 年度入学者 外国文化ゼミナール（英語）(2)		
1. 授業の概要・到達目標 比較神話の試み 《授業の概要》 このゼミナールは神と神話について考えます—神は存在するのか/しないのか、神は単一の存在なのか/複数存在するのか、神はどのような機能をもっているのか—このような諸問題についてリサーチと議論を重ねます。ときには、教室を抜け出てみんなで神社へ足を延ばして、われわれの先祖がなぜある場所にある神様をお祀りしたのか、などを実際の風景の中で考えてみるのもいいかもしれません。 ただ、漠然と神について考えるのはつかみどころがないかもしれませんから、各自地元の神社のご祭神や歴史を調べたり、日本神話と西洋の神話を比較しながら神について考えていきます。 この作業は神だけでなく、じつは日本と西洋の人間について比較することにほかなりません。神について考えることは人間について考えることであると気づけば、このゼミナールは豊かな知の体験の場となるでしょう。 ※総合教育ゼミナールの履修方法は以下のようになっています。 a. 3 年次または 4 年次の 1 年間のみの履修-----この場合は成績評価の末、1 年分の単位が付与される b. 3 年次と 4 年次の 2 年連続の履修-----この場合は成績評価の末、各年次分の授業の単位のほか、ゼミナール論文を提出することにより論文の単位も付与される ただし、2027 年度は担当者がサバティカルのため開講されませんので、2026 年度履修者は a の方法のみの履修となります。 《到達目標》 歴史学や考古学が明らかにしてきた知見をもとに日本の古代文化を概観することにより、次のような学習目標が達成できると期待される： 1. 現代まで連続と続く日本文化の根源的な世界観を理解することができる。 2. 西洋文化と日本文化の相違点を比較することができる。 3. 日本そして日本人の成り立ちを理解することにより、それを自分のことばで説明することができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 ガイダンスとイントロダクション 第 2 回～第 3 回 神と人間の関係について考える 第 4 回～第 7 回 東西の神統系譜を比較する 第 8 回～第 14 回 神と神話をめぐる諸問題を考える 第 15 回～第 28 回 リサーチの結果の発表と議論		
3. 履修上の注意 十分な予習、復習と出席というまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、日本語や日本文化のみならず英語や西洋文化にも興味をもつことが非常に重要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji System から配信する資料の該当箇所をふり返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料や下に掲げる教科書・参考書に目を通しておくこと。		
5. 教科書 とくになし。		
6. 参考書 必要に応じて授業中に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リサーチ結果に対する講評は授業内で行う。		
8. 成績評価の方法 年間授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。授業内での議論参加度 50%、レポート 50%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。		
9. その他 英語第Ⅳ研究室（3 号館 3 階 3-406） オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。		

電子メール : oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（英語文芸文化）	4 単位	狩野 晃一
2022～2025 年度入学者 外国文化ゼミナール（英語）(3)		
1. 授業の概要・到達目標 — 中世イギリス文学の「世界」を旅する — 《授業の達成目標およびテーマ》 中世イギリス文学の作品を味わいながら、その背後にある歴史・文化・他言語文学からの影響をたどり、中世の人々がどのように世界を理解し、どんな物語を紡いだのかを探っていきます。 ただ読むだけではなく、自分の解釈を言葉にし、仲間と議論し、発表することで、作品を“生きた知”として体得します。 《授業の狙い》 ・ 中世イギリス文学の主要作品と背景知識を理解する ・ 中世の書物文化・写本文化に触れ、文学を物質文化として捉える視点を身につける ・ 他言語文学（古ノルド語・フランス語・イタリア語など）との交流を理解する ・ テキストを読み解き、自分の見解をまとめ、表現する力を養う ・ ディスカッションとプレゼンテーションを通して批判的・創造的思考を深める		
2. 授業内容 【春学期】 春学期では、中世英語文学の骨格を知るための“基礎編”として、英語の時代区分～中英語文学の展開までを段階的に学びます。 第1回：イントロダクション、中世英語文学とは。 第2回：英語、英文学の時代区分とその特徴 1 第3回：英語、英文学の時代区分とその特徴 2 第4回：古英語期の文学 1 第5回：古英語期の文学 2 第6回：中間まとめ 1 第7回：中英語期の文学 1 第8回：中英語期の文学 2 第9回：中英語期の文学 3 第10回：中間まとめ 2 第11回：中英語期の文学 5 第12回：中英語期の文学 6 第13回：中英語期の文学 7 第14回：中間のまとめ 3 【秋学期】 秋学期は“探究編”。春学期に身につけた基礎をもとに、言語間の文学交流やテーマ別研究、そして最終プレゼンテーションへと発展させます。 第1回：春学期の復習と秋学期のイントロダクション（文献案内） 第2回：古ノルド語文学との関連 第3回：中世フランス語文学との関連 第4回：中世イタリア語文学との関連 第5回：時代別ディスカッション 1（古英語） 第6回：時代別ディスカッション 2（中英語） 第7回：テーマ別文献研究 1 第8回：テーマ別ディスカッション 1 第9回：テーマ別文献研究 2 第10回：テーマ別ディスカッション 2 第11回：テーマ別文献研究 3 第12回：テーマ別ディスカッション 3 第13回：プレゼンテーション 1 第14回：プレゼンテーション 2、まとめ		
3. 履修上の注意 ・ 文学や歴史だけでなく、言語・書物・文化など“広い視野”で物事を考える姿勢を歓迎します。 ・ 異文化や異言語に対する好奇心を持って積極的に参加してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ イントロダクションおよび各回で指示する文献・資料を事前に読んでくること。 ・ 読解内容を自分なりに整理し、授業での議論につなげられるよう準備すること。		

5. 教科書

特に使用しない。配布する資料に基づいて進める。

6. 参考書

Secular Lyrics of the XIVth and XVth Centuries, 2nd ed, R. H. Robbins (ed.), (Oxford. Clarendon P, 1955)

Medieval Lyric: Middle English Lyrics, Ballads, and Carols, John Hirsh (ed.), (Blackwell, 2005)

Medieval English Lyrics, T. Silverstein (ed.), (Faber, 1971)

Old and Middle English Poetry (Blackwell Essential Literature, 2002)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中のディスカッション、プレゼンテーション（60%）、レポート（40%）の総合評価とする。

9. その他

オフィス・アワー：木曜日昼休み

英語第Ⅱ研究室（3号館4階3-404号室）

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（言語学）	4 単位	下永 裕基
2022～2025 年度入学者 外国文化ゼミナール（英語）(4)		
1. 授業の概要・到達目標 ことばの世界を“楽しむ”方法をさぐる このゼミナールは3・4年生を対象に、言語学のキーワードを活用しながら、「ことば」と「文化」の関係を探っていきます。 ◆母語である日本語（留学生の場合はそれぞれの言語） ◆多くの学生が本格的に学んでいる英語 ◆その他の言語（手話も含む）、および文字（点字も含む） など、言語および言語表現全般を題材とし、それぞれの学生が関心をもっていること、ふだんの生活のなかでふと気になったことを、言語学的に考察し、それが人間の文化の多様性にどのように寄与しているかを共に学びます。 学生が主体となって進めていくゼミナールですが、言語学的考察をするうえで必要な知識については、担当教員が助言します。 ことばに関心をもつ学生の参加を期待しています。 日本語の世界、英語の世界、場合によってはラテン語や日本手話などの世界を包括的に捉え、ことばを理解することの醍醐味を見出していきます。 1年間の考察をまとめて『ゼミナール通信』を発行します。		
2. 授業内容 ◆（提供）とはこちらから投げかけるヒントです。 参加学生の興味関心に応じて、実際のゼミナールでは内容を変更することがあります。 ◆参加学生は、自分の関心を中心として「ことば」を考察できるよう、話の“ネタ”や疑問点を集めてきてください。 その“ネタ”や疑問点について、何らかの解答が用意できていなくてもかまいません。 ＜春学期＞ 第1回：（提供）音声学と音韻論 1 第2回：（提供）音声学と音韻論 2 第3回：（提供）音声学と音韻論 3 第4回：（提供）言語の変化と信頼性 1 第5回：（提供）言語の変化と信頼性 2 第6回：（提供）言語の変化と信頼性 3 第7回：（提供）言語と哲学 1 第8回：（提供）言語と哲学 2 第9回：（提供）言語と哲学 3 第10回：（提供）言語をめぐる神話 1 第11回：（提供）言語をめぐる神話 2 第12回：（提供）手話の世界 1 第13回：（提供）手話の世界 2 第14回：（提供）夏休みの間の言語観察 ＜秋学期＞ 第1回：（提供）意味変化と語源 第2回：（提供）語源の世界 1 第3回：（提供）語源の世界 2 第4回：（提供）語源の世界 3 第5回：（提供）語源の世界 4 第6回：（提供）語源の世界 5 第7回：（提供）英文法をつくった人々 第8回：（提供）英文法を壊す人々 第9回：（提供）言語にみられる変化 1 第10回：（提供）言語にみられる変化 2 第11回：（提供）言語にみられる変化 3 第12回：（提供）言語にみられる変化 4 第13回：1年を通しての議論から得たもの 第14回：a レポート提出 b 提供資料とリアクションの総括		
3. 履修上の注意 辞書（電子辞書可）を必ず携帯してください。受講者は、言語（英語・日本語・その他の外国語、手話、方言等）に高い関心を有し、積極的に議論に参加できる人でなければなりません。		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教員から投げかける素材をヒントにしつつ、ふだんから身の周りの「ことば」をよく観察し、面白いと感じたことについては、「なにが」「どのように」面白いと感じたかを表現できるようにしてください。

5. 教科書

ハンドアウト教材を使用します。

6. 参考書

渡部昇一『英文法を撫でる』（PHP新書）

織田哲司『英語の語源探訪』（大修館書店）

佐々木健一『辞書になった男』（文春文庫）

その他、必要に応じて紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出課題に対しては提出物への直接のコメントとして提出者に提供します。

発表課題に対しては、ゼミナール参加者が相互に行うリアクションと合わせて、教員コメントとして口頭で行います。

8. 成績評価の方法

平素のゼミナールにおける取組み・積極的参加 50%

発表（“ネタ”・疑問点の提供）および期末レポート（『ゼミナール通信』） 50%

9. その他

研究室は3号館4階3-405にある。

オフィスアワー 火曜 15:20～18:00、水曜 13:30～16:00

その他、在室時には可能な限り対応します。

連絡先 ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（多文化共生）	4 単位	長谷川 安代
2022～2025 年度入学者 外国文化ゼミナール（英語）(5)		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 本ゼミナールのテーマは、「地域社会における多文化共生」です。日本で暮らす在留外国人数は年々増加しています。令和7年6月末の在留外国人数は、395 万 6,619 人（前年末比 18 万 7,642 人、5.0%増）で、過去最高を更新しています（出入国在留管理庁）。みなさんが暮らす地域でも外国人と出会う機会や外国の食材店やレストランなどが増えてきているのではないのでしょうか。いまや、外国に行かずとも、「外国文化」は、私たちの身近なところにあります。こうしたなか、文化の「違い」に起因する地域社会の課題も生じてきています。まずは、身近な「外国文化」に関心を持ち、文化の「違い」・多様性を知り、そして、「違い」を尊重し合いながら、外国人住民・日本人住民が対等な関係で、ともにつくる地域社会のあり方（多文化共生）について、考えていきます。 ＜授業の到達目標＞ ・日本における多文化化の現状を知る。 ・「外国文化」に関心をもつ。 ・多文化共生にかかる取組みを知る。 ・自らの考えを論理的に述べることができる。 ・ファシリテーションのスキルを習得する。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A に対応する科目である。		
2. 授業内容 ◆春学期 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] チームビルディング [第 3 回] 日本における多文化化の現状 [第 4 回] シミュレーション「ひょうたん島問題」① [第 5 回] 自分自身が暮らす地域の現状を知る① [第 6 回] 自分自身が暮らす地域の現状を知る② [第 7 回] 文献講読とディスカッション① [第 8 回] 文献講読とディスカッション② [第 9 回] 文献講読とディスカッション③ [第 10 回] 文献講読とディスカッション④ [第 11 回] 文献講読とディスカッション⑤ [第 12 回] 文献講読とディスカッション⑥ [第 13 回] フィールド調査の計画 [第 14 回] フィールド調査の計画の共有と準備 ※ 授業内容・順番は履修学生の人数や希望に応じて、調整します。 ◆秋学期 [第 1 回] 前期の振り返り 発表準備 [第 2 回] フィールド調査結果の発表① [第 3 回] フィールド調査結果の発表② [第 4 回] シミュレーション「ひょうたん島問題」② [第 5 回] 取組み事例の紹介とディスカッション① [第 6 回] 取組み事例の紹介とディスカッション② [第 7 回] ファイナルプレゼンテーションのテーマの検討 [第 8 回] 取組み事例の紹介とディスカッション③ [第 9 回] 取組み事例の紹介とディスカッション④ [第 10 回] ファイナルプレゼンテーション準備 [第 11 回] ファイナルプレゼンテーション① [第 12 回] ファイナルプレゼンテーション② [第 13 回] ファイナルプレゼンテーション③ [第 14 回] 全体の振り返り ※ 授業内容・順番は受講学生の人数や希望に応じて調整します。		
3. 履修上の注意 ・履修学生が主体的にゼミナール運営を行います。 ・授業には、PC、Tablet 等のデバイスを持参してください。 ・夏休み期間中に、身近な「外国文化」に触れるミニフィールド調査を実施していただきます。（帰省先での調査でも OK です。）		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・履修学生からの話題提供、文献紹介、受講生間でのディスカッションを中心にゼミを進行しますので、話題提供のための準備が必要です。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

徳田剛ほか編（２０１９）『地方発 外国人住民との地域づくり：多文化共生の現場から』、晃洋書房

徳田剛ほか編（２０２３）『地方発 多文化共生のしくみづくり』、晃洋書房

是川 夕（２０２５）『ニッポンの移民―増え続ける外国人とどう向き合うか』、ちくま新書

そのほか、必要に応じて、文献を紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントします。

8. 成績評価の方法

・平常点（話題提供、ディスカッションへの参加度、ゼミ運営への貢献度など）:70%

・ファイナルプレゼンテーション:30%

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（ドイツ語圏の文化）	4 単位	辻 朋季
2022～2025 年度入学者 外国文化ゼミナール（ドイツ語）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ドイツおよびドイツ語圏（オーストリアやスイス）に関する歴史・文化・社会などに関する様々なテーマについて、学生が自ら考え、調べ、意見を発表し、他の参加者と議論する場にするのが目標です。日本との比較を通して、これからの私たちの社会や暮らしについても考えていきたいと思います。またテーマ発表の準備を通して、学術研究の基礎的なプロセス（問題の所在を明らかにする、先行研究など関連資料を探す、自分なりの解釈を提示する、プレゼン資料を作る、ハンドアウトを作成する、文献リストを作る）についても習得していきます。 《授業の概要》 基本的に、履修者の興味に沿って議論のテーマを選び、関連するテキストを選んでいきたいと思っています。過去の履修者が興味を持っていたテーマは次の通りです：日独の大学制度の比較（大学の意義やキャリアパス）、ドイツ人の働き方と休暇、ドイツの作家トーマス・マンの『魔の山』と映画『風立ちぬ』との関連、旧ユーゴスラヴィア（かつてのオーストリア領）の歴史、第一次世界大戦がヨーロッパに与えた影響、日本における『第九』の歴史、ナチスドイツの環境政策・景観保護、第二次世界大戦とドイツ、日本とドイツの外国人労働者問題の比較など。 受講者には、各学期に調べたいテーマ（または書評をしたい本）を一つ選んでもらい、その成果を発表してもらいます。その後、発表についての質疑応答とディスカッションを行います。その他、関連する映画の鑑賞なども予定しています。この科目は農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標 F に対応する科目です。		
2. 授業内容 春学期 第 1 回：イントロダクション、20 年前の「100 人の村」との比較で見る世界情勢の変化 第 2 回：どんなテーマに興味があるか、履修者同士のブレインストーミング 第 3 回：ドイツの歴史と文化について（解説） 第 4 回：現代のドイツについて（解説） 第 5 回：ドイツの食文化について 第 6 回：ドイツの働き方や余暇の過ごし方について 第 7 回：ドイツ語圏の国々について（オーストリア、スイスなど） 第 8 回：発表とディスカッション（1） 第 9 回：発表とディスカッション（2） 第 10 回：発表とディスカッション（3） 第 11 回：ドイツ映画の鑑賞 第 12 回：映画についてのディスカッション 第 13 回：全体での討論 第 14 回 a のみ：今学期のまとめ 秋学期 第 1 回： イントロダクション 第 2 回：秋学期の発表テーマと担当決め 第 3 回：2025 年上半期の日本、ドイツ、世界の情勢を振り返る 第 4 回：関連文献の講読（1） 第 5 回：関連文献の講読（2） 第 6 回：関連文献の講読（3） 第 7 回：発表とディスカッション（1） 第 8 回：発表とディスカッション（2） 第 9 回：発表とディスカッション（3） 第 10 回：映画鑑賞 第 11 回：映画についてのディスカッション 第 12 回：全体での討論 第 13 回：前回の続き 第 14 回 a のみ：今年度のまとめ 半期に一度程度、ゲスト講師を招いての特別授業も企画中です。		
3. 履修上の注意 3 年次または 4 年次のみの 1 年間の履修も可能です。また学科のゼミや研究室とも兼ねることが出来ます。ドイツ語の知識は必要としませんが、あれば理解が深まるため、なるべく授業と並行してドイツ語を学習したり、ドイツ関連の文献の講読をしたりするのが望ましいでしょう。 学生主導のゼミナールにしたいので、参加学生が何事にも好奇心を持って自由に発言し、主体的に授業に取り組むことを期待します。		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容 文献講読に当たっては、事前にプリントを配布するので、授業時までに読んでくること。発表に当たっては、先行研究なども比較・対照しつつ、自らが設定したテーマについての独自の視点を提示することが求められます。
5. 教科書
6. 参考書 『ドイツの街角から』、高橋憲著、郁文堂、2017 年。 『知ってほしい国ドイツ』、新野守広・飯田道子（編著）、高文研、2017 年。
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内またはクラスウェブ経由でのコメント
8. 成績評価の方法 授業参加（50%）、テーマ発表とレポート（50%）。
9. その他 研究室：第 1 校舎 3 号館 4 0 7 号室。オフィスアワー等は初回授業時に伝えます。

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（フランス語圏の文化）	4 単位	高瀬 智子
2022～2025 年度入学者 外国文化ゼミナール（フランス語）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 フランス語圏に視点を置いてみると、世界はどのように見えるかを観察することで視野を広げるのがこのゼミの目的です。 今年度は、TV5Monde（フランスの国際放送のサイト）の作成したルポルタージュ、また、フランスの児童向け哲学書を通して、フランスを外側と内側から観察する「旅」にでかけ、皆さんと共に、フランス・フランス語圏の多用な文化を発見していきます。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の F に対応する科目です。 《授業の概要》 春学期は、旅をテーマに、フランス語の面では「聞取り」にフォーカスしながら、フランス人の旅のスタイル、そして、フランス語圏の町や地方等についての知識を広げます。色々な地方や旅のスタイルから、興味を持った点についてのプレゼンテーションを 7・14 回目のゼミにて実施の予定です。 秋学期は、「哲学のおやつ」というテーマで、フランスの子供たちが大学に入る前の段階でどのように「哲学」に親しんでいるか、主に短いテキストの「読解」を通して知り、また提供されるテーマに関連するディスカッションを行います。哲学をお茶の友に語り合う秋。あなたにとって哲学は？という視点でのプレゼンテーションを 2 回予定しています。 教室の中のみでなく、直接フランス語圏の文化に触れられる場所に足を運ぶ機会を作ることをも計画しています。		
2. 授業内容 [第 1 回] a イン트로ダクション : フランスを外側と内側から観察する～旅～ b ブレインストーミング：フランスについて知っていることは？ [第 2 回] 「旅」に求めるのはどんな非日常？ [第 3 回] 「有名人」に出会う旅 [第 4 回] 「役に立つ」観光 [第 5 回] 持続可能な宿泊のスタイル？ [第 6 回] フランス人がしてみたい日本の旅？ [第 7 回] Présentation : Quel est votre voyage idéal ? [第 8 回] フランス語圏の色々な町・地方～知らなかったパリ？ [第 9 回] ブリュッセル [第 10 回] コート・ダジュール [第 11 回] ミディ・ピレネー [第 12 回] ハノイ [第 13 回] サンゴール氏と明治大学アフリカ文庫 [第 14 回] Présentation : Qu'est-ce qui t'intéresse ? [第 15 回] a イン트로ダクション b 内側からの旅—哲学のおやつ、って何？ [第 16 回] 時間について [第 17 回] 美しさと醜さについて [第 18 回] 自由について [第 19 回] 善と悪について [第 20 回] 権力について [第 21 回] Présentation : Votre Goûter Philo ? [第 22 回] フランスの教育制度と「バカロレア」 [第 23 回] 平和について [第 24 回] 不寛容と差別について [第 25 回] 自然と公害 [第 26 回] 映画『小さな哲学者たち』 [第 27 回] フランスの高校生の読む哲学書？ [第 28 回] a Présentation : C'est ma philosophie à moi. b まとめ		
3. 履修上の注意 1 年次にフランス語を履修していることが望ましいです。、フランス語を読むための努力が必要になります。 ゼミナールの授業は受講者のみなさんの積極的な参加によって成立するものです。各回の内容は場合により変更されることもあります。 欠席が授業回数の 3 分の 1 を超過すると、原則として単位取得はできません。 「ゼミナール」は通年科目ですので、半期だけの履修はできません。注意して下さい。		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

春学期、秋学期、ともに、テーマに関するプレゼンテーションの機会が2回ずつあります。
興味を持ったことを掘り下げるために、準備の際は、ネット上の情報にとどまらず、書籍も読みましょう。
参考文献の候補は、開講時に順次ご紹介します。

5. 教科書

Web上に公開されている、動画・記事を使用予定
毎回必要資料を配布、または、クラスウェブに掲載します。
特定の教科書は使用しません。

6. 参考書

『現代フランスを知るための62章』三浦信孝 他 （明石書店）
『もっと知りたいフランス 歴史と文化を旅する5章』 斎藤広信・ベルナール・レウルス （駿河台出版社）
比較的シンプルなフランス語で読めるメディアのリンク
1jour 1 actu
<https://www.1jour1actu.com/>
20 minutes
<https://www.20minutes.fr/>

開講後、その他の参考文献・サイトに関して順次お知らせします。

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのアンケート機能・レポート機能を必要に応じて使用します。

8. 成績評価の方法

レポート・プレゼン：70%
平常点：30%

9. その他

履修者のプロフィール、ニーズや希望により、ゼミナールの内容は変更される場合もあります。

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（身体運動学）（1）	4 単位	加納 明彦
2022～2025 年度入学者 身体運動学ゼミナール（1）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 テーマは以下の2つとします。 (1)「運動における巧みな動きのメカニズムを明らかにする」 (2)「健康の自己管理法を構築する」 受講生は上記の2つのテーマの内、いずれかを選択します。 テーマ（1）では各種スポーツの技術や走、跳、投などの基本動作を対象にして、高速度ビデオカメラによる動作分析や床反力、筋電図の測定を行います。それらの客観的データから、「ヒトの巧みな動きのメカニズム」を明らかにします。なお研究対象とする運動は、各受講生が自由に選択することとします。 テーマ（2）ではトレーニングや栄養摂取のプログラムを作成し実践します。その際、体重、体脂肪率、筋肉量、脂肪量、骨密度、筋力などを測定し、その効果を検証します。 《到達目標》 身体運動やスポーツを科学的に捉える能力を養います。健康を管理する上で効果的な運動や食事のプログラムを作成・実践する能力を養います。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のFに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（ゼミの進め方と受講の仕方について） 第2～3回：テーマの解説（過去の卒論紹介、研究テーマの検討） 第4回：実験・測定装置の使用法（高速度ビデオカメラ） 第5回：実験・測定装置の使用法（フォースプレート） 第6回：実験・装置の使用法（筋電計） 第7回：実験・装置の使用法（体組成測定計、超音波皮下脂肪厚計、骨密度計） 第8回：テーマの決定 第9～10回：文献収集、先行研究の読み合わせ 第11回：予備実験の計画・準備 第12～13回：予備実験 第14回：データ分析の方法・まとめ方の解説 第15～16回：本実験の計画・準備 第19～21回：本実験 第22～25回：本実験のデータ分析 第26～28回：レポート作成・発表 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 運動学または健康科学を履修しておくことを望みます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：授業で出題された課題について、文献等（授業時に指示）で調べておいてください。 復習：前回授業に関する疑問点や発展的課題等を確認します。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 適宜、文献や資料を提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 実験で得られたデータから、スポーツ競技力や健康・体力を向上をさせるために必要な具体的方法を考察し、実践に結び付けます。		
8. 成績評価の方法 レポートと平常点で評価します（配点：レポート 50 点、平常点 50 点）。レポート課題は受講生の研究テーマに関するものとします。		

9. その他

保健体育第 II 研究室（3 号館 4 階 411 号室）

フィスアワー：月曜 12：30～13：30

E-mail アドレス：aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 総合教育ゼミナール（身体運動学）（2）	4 単位	戸枝 美咲
2022～2025 年度入学者 身体運動学ゼミナール（2）		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 本ゼミナールでは、ヒトの身体運動や健康を題材としたテーマについて実験や測定を通して研究を行う。文献調査、実験計画の作成、測定・分析を行いながら研究を進める。また、測定機器の使用方法やデータ分析の方法を学び、得られた結果を整理してレポート作成および発表を行うことで、研究の基本的な進め方を理解する。 ＜到達目標＞ 1. 研究テーマに関する文献を収集・整理し、研究課題を設定することができる。 2. 実験や測定の方法を理解し、適切にデータを収集することができる。 3. 得られたデータを整理・分析し、結果を考察することができる。 4. 研究内容をレポートや発表を通して分かりやすくまとめることができる。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2～3 回] テーマの紹介 [第 4～7 回] 実験・測定装置の使用方法 [第 8 回] テーマの決定 [第 9～11 回] 文献収集・論文紹介 [第 12 回] 予備実験の準備 [第 13～14 回] 予備実験 [第 15～16 回] データ分析の解説 [第 17～18 回] 本実験の準備 [第 19～21 回] 本実験 [第 22～24 回] 本実験のデータ分析 [第 25～28 回] レポートの作成・発表 ※必要に応じて、内容を若干変更することがある		
3. 履修上の注意 運動学もしくは健康科学を履修しておくこと		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：授業で出題された課題について、文献等（授業時に指示）で調べておくこと。 復習：前回授業に関する疑問点や発展的課題等を確認すること。		
5. 教科書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配付する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 実験で得られたデータを分析・考察し、結果の理解を深める。		
8. 成績評価の方法 レポートと平常点で評価します（配点：レポート 50 点、平常点 50 点）。 レポート課題は受講生の研究テーマに関するものとする。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

複数学科 設置科目

ここに記載されている科目は、複数学科に共通して設置されている専門科目の授業科目です。

科目ナンバー (AG)MAT191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 数学概論	2 単位	梅田 典晃
2022～2025 年度入学者 数学概論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 大学教養程度の標準的な線型代数学の理解と、将来において様々な分野へ応用できるような数学的なものの考え方や計算法の習得を目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目である。 《授業の概要》 線型代数学の基礎について講義をする。		
2. 授業内容 高等学校で行列を学習していない事を考慮し、2次・3次正方行列で具体例を多く挙げて、掃き出し法や行列式とその応用等をわかりやすく解説する。 第1回：行列の定義 第2回：行列の演算 第3回：掃き出し法と行列の階数 第4回：連立1次方程式 第5回：逆行列 第6回：行列式の定義 第7回：行列式の計算 第8回：行列式の性質 第9回：余因子展開 第10回：余因子展開による行列式の計算 第11回：余因子展開と逆行列 第12回：クラメールの公式 第13回：ベクトルの定義と計算 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 半期科目のため、講義内で演習に当てる時間が少ないので、各自、教科書等の問題を解いておくようにすること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 数学は復習が大切なので、授業で扱った問題や、教科書の練習問題などを自分で解いておくこと。		
5. 教科書 『やさしく学べる線形代数』石村園子 著（共立出版）		
6. 参考書 『線形代数学講義（改訂版）』，対馬龍司（共立出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji 上で行う。		
8. 成績評価の方法 期末レポート 100%で評価する。		
9. その他 質問等で使う連絡先は最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) BPH191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 物理学概論	2 単位	小山 岳人
2022～2025 年度入学者 物理学概論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 農学を含む各分野で用いられる実験装置は物理法則に従って動いており、その挙動を理解するためには物理の知識が必要です。また、物理的なものの考え方は、様々な科学的な分野の背景にもなっています。この授業では、物理学の基本分野である力学・波動学・熱力学・電磁気学の各分野について、微分積分等の数学を用いてさまざまな量を定量的に扱い、これにより緒概念を説明します。 《到達目標》 いろいろな物理現象は少数の基本的な原理から導けること、また、それらの現象・原理の多くは数式で定量的に表されることを理解し、実際にそれらを使いこなせるようになることを目標とします。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習教科目標のCに対応する科目です。		
2. 授業内容 第1回：《イントロダクション》 《力学1》運動を表す物理概念 第2回：《力学2》力とその種類・万有引力と重力/力と運動の法則 第3回：《力学3》抵抗のある場合の運動/仕事とエネルギー・エネルギー保存則 第4回：《力学4》力積と運動量/回転運動と角運動量 第5回：《力学5》剛体の運動/振動 第6回：《波動学》波動/音と光 第7回：《熱力学1》圧力と温度・内部エネルギー/仕事と熱 第8回：《熱力学2》熱力学第1法則/熱力学第2法則 第9回：《熱力学3》エントロピー/熱力学関数 第10回：《電磁気学1》電荷と電場/電圧と電流 第11回：《電磁気学2》電流が作る磁場/磁場が電流に与える力・電磁誘導 第12回：《電磁気学3》電気回路素子/電気回路の振動現象 第13回：《電磁気学4》交流回路と電磁波の基礎 第14回：《総合復習》		
3. 履修上の注意 この科目の履修に当たり、高校での物理または春学期科目「物理学基礎」といった講義を履修していることを期待しています。これらの講義で現れた概念について、物理量を定量的に扱うため、数学を用います。特に、ベクトル、三角関数、微分積分学の概念・計算を用いて説明したり、問題を解いたりします。 * 春学期「物理学基礎」の履修を迷われている方へ：春学期「物理学基礎」を履修していなくても、この秋学期「物理学概論」を履修することは可能です。ただし、高校での物理・数学の履修がない方・少ない方で「物理学概論」のみを履修される場合、例年皆さん大変苦労されている模様です。よって該当の方は、難しくても毎回必ず受講・レポート提出する、という覚悟が必要と思われます。そこで特に物理・数学の両方に心配のある方は、ベクトル・微積分の数学を用いない「物理学基礎」でまず物理的基礎を学び、その後「物理学概論」を履修すると、すでに学んだことを高度な数学とともに学ぶことが可能になります。これによって皆さんが必要な単位を取得しやすくなると思いますので、是非ご検討ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義では物理のいろいろな概念・法則が出てきます。その理解を深めるため、講義の前に、配布される講義用スライドを資料に目を通しておくとともに、教科書の対応箇所を読んでおいて下さい。そして講義後に内容の確認・補強のため、講義資料・教科書を参照してもらいながらレポートに取り組んでもらいます。さらにこのレポートの締め切り後に、レポートの解答例を配布しますので、これを見ながらレポートの答え合わせをしてください。		
5. 教科書 『楽しみながら学ぶ物理入門』 山崎耕三 （共立出版）		
6. 参考書 『Essential 物理学』 阿部龍蔵 （サイエンス社） 『第5版 基礎物理学』 原 康夫 （学術図書出版社） 『物理学演習問題集』 原 康夫・右近 修治 （学術図書出版社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回のレポートにおいて質問等があった場合には、同じ回のクラスウェブ・レポート欄に、フィードバックファイルで返答します。		

8. 成績評価の方法

定期試験 60%, 毎回講義後のレポート・授業貢献 40%

総合点の 60%以上を単位修得の条件とする。

9. その他

オフィスアワー： 授業時間の前後に講師控室にいます。

科目ナンバー (AG) BPH294J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 物理学実験 (1)	1 単位	奥出 信一郎
2022～2025 年度入学者 物理学実験 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標およびテーマ》 理科の数多くの基本原理や法則は物理学に基づいたものです。物理学実験は、実験を通して原理、法則の「物理量」を測定したり、「物理現象」を観察する実験科学です。この実験は種々の装置や器具を操作しながら計測したり観察したりします。これにより、「計測概念」、「単位系や精度」、「計測方法」を学びます。また、物理量の計測から私達の日常周辺で起こっている出来事が物理現象であることが理解できます。自動車もスマートフォンもパソコンも物理学実験から誕生したと言っても過言ではないでしょう。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。 《授業の概要》 実験テーマは授業内容にある物理学全分野から選ばれています。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション・安全教育 第2回 長さ・体積の測定 第3回 面積の測定 第4回 密度の測定 第5回 重力加速度の測定 第6回 音速の測定 第7回 熱の仕事率（ジュール定数）の測定 第8回 レンズの焦点距離の測定 第9回 光の回折現象と光スペクトルの波長測定 第10回 等電位線（電流の可視化）と電位差測定 第11回 背景放射線量測定と β 線吸収量測定 この授業では、3・4限セットで1回と記載しています。		
3. 履修上の注意 高校・大学で物理学の授業を履修していると実験内容をより深く理解できます。履修していない場合でも実験操作に支障をきたすことはありませんので、安心して履修してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実験の原理について事前に予習しておくこと。		
5. 教科書 なし。プリントを配布。		
6. 参考書 『六訂 物理学学実験』 吉田、武居編（三省堂） 『理科年表』東京天文台（丸善）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された実験レポートは、2週間後までに添削して返却する。		
8. 成績評価の方法 実験レポート（50％）と平常点（実験への参加態度・貢献度50％）により評価します。		
9. その他 土曜日の物理学実験と同じ内容です。どちらかを選択してください。 授業以外の時間帯で、対面での質問を希望する場合には、土曜日担当の鈴木が受け付けます。 生物物理学研究室（6号館3階 6－309A号室）に来てください。 オフィスアワーは特に指定しません。		

科目ナンバー (AG) BPH294J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 物理学実験 (2)	1 単位	鈴木 博実
2022～2025 年度入学者 物理学実験 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標およびテーマ》 理科の数多くの基本原理や法則は物理学に基づいたものです。物理学実験は、実験を通して原理、法則の「物理量」を測定したり、「物理現象」を観察する実験科学です。この実験は種々の装置や器具を操作しながら計測したり観察したりします。これにより、「計測概念」、「単位系や精度」、「計測方法」を学びます。また、物理量の計測から私達の日常周辺で起こっている出来事が物理現象であることが理解できます。自動車もスマートフォンもパソコンも物理学実験から誕生したと言っても過言ではないでしょう。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です。 《授業の概要》 実験テーマは授業内容にある物理学全分野から選ばれています。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション・安全教育 第2回 長さ・体積の測定 第3回 面積の測定 第4回 密度の測定 第5回 重力加速度の測定 第6回 音速の測定 第7回 熱の仕事率（ジュール定数）の測定 第8回 レンズの焦点距離の測定 第9回 光の回折現象と光スペクトルの波長測定 第10回 等電位線（電流の可視化）と電位差測定 第11回 背景放射線量測定と β 線吸収量測定 この授業では、3・4 限セットで1回と記載しています。		
3. 履修上の注意 高校・大学で物理学の授業を履修していると実験内容をより深く理解できます。履修していない場合でも実験操作に支障をきたすことはありませんので、安心して履修してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実験の原理について事前に予習しておくこと。		
5. 教科書 なし。プリントを配布。		
6. 参考書 『六訂 物理学実験』 吉田、武居編（三省堂） 『理科年表』東京天文台（丸善）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された実験レポートは、2 週間後までに添削して返却する。		
8. 成績評価の方法 実験レポート（50％）と平常点（実験への参加態度・貢献度50％）により評価します。		
9. その他 金曜日の物理学実験と同じ内容です。どちらかを選択してください。 質問などがあれば、生物物理学研究室（6号館3階 6－309A 号室）に来てください。 オフィスアワーは特に指定しません。		

科目ナンバー (AG) BCH394J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 化学実験	1 単位	長田・竹中・中村・石丸・小林・森 本・大谷
2022～2025 年度入学者 化学実験		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 自然科学の知識の大半は実験を通し得てきたものです。我々が学び研究する農学は基礎自然科学から成る応用科学であり、また、実践の科学といわれています。とくに化学は最も基本的な柱であり、農学部学生の基本的必須体系です。この化学実験の目的は、各自が実験ノートを作成し、主体的に実験し、レポートを作成することで、基本的実験操作と化学反応の機構の考察や定量分析の理論を習得することにあります。 《授業の概要》 定性分析と定量分析を行います。具体的には、定性分析では、無機陽イオンの系統的分離と確認を通じて、実験操作に慣れるとともに、化学反応を体験します。最終的に、未知試料に含まれる陽イオンを特定します。定量分析では、滴定法と比色法の理論と実験操作を理解・習得します。データーの統計処理とレポートの作成方法を学び、最後に実際の食品を分析します。指示に従って、レポートを作成し提出します。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：班分け，安全教育，器具の準備・洗浄（試薬調整）等 〈定性分析： 1・3 属陽イオンの系統分析〉 第2回：基本操作・試薬調整 第3回：第1 属陽イオンの分離と確認 第4回：第3 属陽イオンの分離と確認 第5回：未知試料の分析 〈定量分析：統計処理〉 第6回：定量分析・容量分析用計量器の取り扱い：滴定：ビュレット・ホールピペット・メスフラスコ 第7回：食酢中の酢酸の定量（中和滴定） 第8回：分光光度計・電子天秤・オートピペットの取り扱い：検量線の作成と濃度の決定 第9回：水道水中の残留塩素の定量（分光光度法） 実験内容および順序は必要に応じて変更します。初回の授業でお知らせします。 この実験授業については3・4 限セットで1 回と記載しています。		
3. 履修上の注意 実験は危険が伴うために白衣の着用，ローヒールの靴を履くこと。遅刻は厳禁です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実験内容について事前に学習し、実験ノートに整理しておく必要があります。 実験操作や反応の経過（概観・溶液の色の変化・沈殿の生成の有無と色）さらに実験結果の記録は、常に知識の裏付けとなります。またその際行なった実験が失敗したとしても実験に対して重要な示唆が与えられることから、必ず実験ノートを用意し自分のノートで実験を行う必要があります。		
5. 教科書 実験に必要なプリントを適時配布します。		
6. 参考書 『定性分析』浅田誠一他 技報堂出版 『定量分析』同上		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 平常点を重視し、実験ノートや実験に取り組む姿勢（50%）と、それに加え未知試料のテストおよび各実験のレポート（50%）で評価します。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) AGR151J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 地学概論	2 単位	中村 修子
2022～2025 年度入学者 地学概論		
1. 授業の概要・到達目標 太陽系の惑星 地球は、誕生から 46 億年もの間ダイナミックに活動を続けている。その地球に生命が誕生し、地球環境と生物は互いを 変化させあう共進化の途上にある。自然界の一生物種として人間がこの惑星に生きるとき、地球環境を理解し認識することは重要である。 講義前半では、生物の活動の舞台となる地球の成り立ち、大気・海洋・地殻の形成と進化、それらの相互関係を俯瞰し、1 つのシステム として「地球環境」を捉えることを目標とする。後半は生命進化を軸に地球史を辿り、相互にどのように関係し影響を及ぼしてきたかを 探る。 現在直面する気候変動問題を通しサイエンスと社会の繋がりについても目を向けたい。人間社会中心の視点から離れ、グローバルな時 空間スケールで物事を捉え、自然界におけるヒトの立ち位置を見つめたい。 本講義は農学科の基礎科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A および C に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（地球科学へのいざない） b：太陽系と地球の概観、惑星形成 第 2 回：初期地球・分化 第 3 回：内部エネルギーとプレートテクトニクス、火山 第 4 回：地震の基礎知識 第 5 回：自然の作用、地形形成 第 6 回：外部エネルギー、大気 第 7 回：海洋、大気海洋相互作用 第 8 回：地球生命史 1（生命誕生と生物進化） 第 9 回：地球生命史 2（大気進化、スノーボールアース） 第 10 回：地球生命史 3（上陸） 第 11 回：大量絶滅 1（P/T） 大量絶滅 2（K/T） 第 12 回：気候変動 第 13 回：人類進出 第 14 回：サンゴ礁から見る地球環境、将来予測		
3. 履修上の注意 履修前提科目・同時履修が望ましい科目は特になし。高校での地学履修歴は不問です。 地球科学は物理・化学・生物を包括しますが、丁寧な解説を心がけます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義資料 PDF は事前に Oh-o!Meiji に掲載します。各自ダウンロード・印刷して準備すること。 予習は特に必要ないが、課題を通して講義のポイントを掴んでほしい		
5. 教科書 講義は基本的にパワーポイント資料で行う（PDF をダウンロード・配布資料とします） 地学の履修経験のない人には、（自身の学習用としての）教科書／参考書として以下を推奨します はじめて学ぶ大学教養地学 杉本憲彦・杵島正洋・松本直記 慶応義塾大学出版会 ISBN978-4-7664-2662-5 惑星地球の進化 松本良・浦辺徹郎・田近英一 放送大学教育振興会 ISBN978-4-595-31447-6		
6. 参考書 ・地球・惑星・生命 日本地球惑星科学連合編 東京大学出版会 ・地球惑星科学（全 14 巻）岩波書店 ほか多数、授業でも紹介します。興味あるものから手に取ってみてください		
7. 課題に対するフィードバックの方法 次週の授業にて、注意点など講評を行う		
8. 成績評価の方法 講義でのアンケート課題（出欠を兼ねる、30%）、および期末試験／レポート（70%）にて評価する 試験形態については状況により変更あり。決まり次第連絡します		

9. その他

質問・連絡・要望などは課題提出フォームで受付け, 対応します.

科目ナンバー (AG) AGR154J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 地学実験 (1)	1 単位	菅野・小島・矢崎
2022～2025 年度入学者 地学実験 (1)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 地学は、地球を取り巻く様々な現象を取り扱う基礎的学問である。その分野は広く、天文学、気象学、地質学、地形学、土壌学、陸水学、海洋学などに及ぶ。農業も地学分野と無関係には成立していない。地学実験では、地学実験では、広範囲に及ぶ基礎学の中から分野を選び、気象と地形（矢崎）、地盤と水の関係（小島）、岩石の性質（菅野）、天文(菅野)について、実験、実習、観察を行う。 《到達目標》 身近な現象についての関心を広げ、理解を深めることを目的とする。 農学科の食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D・H に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a イントロダクション（全員） b レポートの書き方・安全教育（小島） 第 2 回 生田キャンパス内の気象観測（矢崎） 第 3 回 地上天気図の作成（矢崎） 第 4 回 大気と土壌の間の CO2 交換の測定（矢崎） 第 5 回 地形図の読み方と作成（矢崎） 第 6 回 岩石と鉱物の種類と性質（菅野） 第 7 回 岩石の特定（菅野） 第 8 回 天体観測の基礎（菅野） 第 9 回 河川の流れの速さと石の移動（小島） 第 10 回 地盤の安定（小島） ※実験の内容・順番・担当者は変更することがあります。 天候によって実験の内容を変更することがあります。 ※3・4 限セットで 1 回と記載しています。		
3. 履修上の注意 実験に支障があるので遅刻をしないこと。実験の予定を変更することがあるので事前の連絡に注意すること。教職等の実習で、欠席が予定される場合には、欠席をしなくてもよい年次で履修することが望ましい。農学科の学生は、「地学概論」「土壌学」「ランドスケープ入門」「生産環境学入門」等を履修し、理解を深めていくことを望む。 秋学期履修の学生も必ず春学期に履修登録をすること。秋学期の追加履修は認めない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中の指示に従ってレポートの作成をすること。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。		
6. 参考書 必要に応じて講義内で提示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出されたレポートへのコメントをもって行う。		
8. 成績評価の方法 レポート 70%、実験に取り組む姿勢 30%とする。 レポートが課されている実験では、レポートの提出のない場合は出席と認めない。		
9. その他 オフィスアワー 菅野 環境デザイン研究室 4-306A 木 12:30ー13:20 小島 水資源学研究室 4-304A 水 12:40ー13:20 矢崎 環境気象学研究室 4-308A 火 実験後、その他在室時は対応しますので、メール等でご連絡をお願いします。		

科目ナンバー (AG) AGR154J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 地学実験 (2)	1 単位	菅野・小島・矢崎
2022～2025 年度入学者 地学実験 (2)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 地学は、地球を取り巻く様々な現象を取り扱う基礎的学問である。その分野は広く、天文学、気象学、地質学、地形学、土壌学、陸水学、海洋学などに及ぶ。農業も地学分野と無関係には成立していない。地学実験では、地学実験では、広範囲に及ぶ基礎学の中から分野を選び、気象と地形（矢崎）、地盤と水の関係（小島）、岩石の性質（菅野）、天文(菅野)について、実験、実習、観察を行う。 《到達目標》 身近な現象についての関心を広げ、理解を深めることを目的とする。 農学科の食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D・H に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a イントロダクション（全員） b レポートの書き方・安全教育（小島） 第 2 回 生田キャンパス内の気象観測（矢崎） 第 3 回 地上天気図の作成（矢崎） 第 4 回 大気と土壌の間の CO2 交換の測定（矢崎） 第 5 回 地形図の読み方と作成（矢崎） 第 6 回 岩石と鉱物の種類と性質（菅野） 第 7 回 岩石の特定（菅野） 第 8 回 天体観測の基礎（菅野） 第 9 回 河川の流れの速さと石の移動（小島） 第 10 回 地盤の安定（小島） ※実験の内容・順番・担当者は変更することがあります。 天候によって実験の内容を変更することがあります。 ※3・4 限セットで 1 回と記載しています。		
3. 履修上の注意 実験に支障がでるので遅刻をしないこと。実験の予定を変更することがあるので事前の連絡に注意すること。教職等の実習で、欠席が予定される場合には、欠席をしなくてもよい年次で履修することが望ましい。農学科の学生は、「地学概論」「土壌学」「ランドスケープ入門」「生産環境学入門」等を履修し、理解を深めていくことを望む。 秋学期履修の学生も必ず春学期に履修登録をすること。秋学期の追加履修は認めない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中の指示に従ってレポートの作成をすること。		
5. 教科書 適宜プリントを配布する。		
6. 参考書 必要に応じて講義内で提示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出されたレポートへのコメントをもって行う。		
8. 成績評価の方法 レポート 70%、実験に取り組む姿勢 30%とする。 レポートが課されている実験では、レポートの提出のない場合は出席と認めない。		
9. その他 オフィスアワー 菅野 環境デザイン研究室 4-306A 木 12:30－13:20 小島 水資源学研究室 4-304A 水 12:40－13:20 矢崎 環境気象学研究室 4-308A 火 実験後、その他在室時は対応しますので、メール等でご連絡をお願いします。		

科目ナンバー (AG) CBI331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 実験動物学	2 単位	倉島 洋介
2022～2025 年度入学者 実験動物学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、基礎医学・生命科学研究を行う上での実験動物及び動物実験に関する知見について説明する。本実験動物学の基礎知識を学び、実験動物の種類や遺伝学、発生工学、飼育管理、感染症対策、動物実験施設、倫理および関連法規について理解を深める。また、生命科学研究における実験動物の役割と限界について学ぶ。 【到達目標】 1. 実験動物学および動物実験の基本概念を理解する。 2. 実験動物の適切な利用方法と管理方法を説明できる。 3. 動物実験に関する倫理および関連法規を理解する。 4. 生命科学研究における実験動物の意義と限界を説明できる。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション、実験動物学（実験動物科学）及び動物実験の定義と生命科学としての位置づけ（2026/10/3） [第 2 回] 実験用動物の分類、疾患モデル動物の設計と選択（2026/10/3） [第 3 回] 動物実験の適正な実施法（2026/10/10） [第 4 回] 実験動物から何が分かったのか：生命科学へのインパクト（2026/10/10） [第 5 回] 比較遺伝学（遺伝と育種）（2026/10/24） [第 6 回] 発生工学、遺伝子改変動物、ゲノム編集動物の作製と病態解析法（2026/10/24） [第 7 回] 動物実験の倫理（2026/11/7） [第 8 回] 飼育管理学（2026/11/7） [第 9 回] 動物実験施設（2026/11/28） [第 10 回] 疾病学・人畜共通感染症（2026/11/28） [第 11 回] 微生物モニタリングと実験動物授受における微生物学的ステータス（2026/12/12） [第 12 回] 実験動物研究の限界とヒトへの外挿（2026/12/12） [第 13 回] 関連法規及び動物実験法&まとめ（2026/12/19） [第 14 回] 試験（2027/1/9）		
3. 履修上の注意 積極的に質問し理解を深めること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義内容がかなり広範に渡っているので、授業で紹介した内容、特に重要な箇所についてはノートを取り、参考書等で復習しておくこと。		
5. 教科書 指定なし		
6. 参考書 『獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 実験動物学（第 2 版）』久和 茂(編)（朝倉書店） 『実験動物の技術と応用 入門編 増補改訂版』（社）日本実験動物協会 編（アドスリ） 『実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準の解説』環境省 『最新実験動物学』前島一淑，笠井憲雪著（朝倉書店） 『ジーンターゲティングの最新技術』八木健編（羊土社） 『実験動物の基礎と技術 I 総論』日本実験動物協会（丸善） 『実験動物の基礎と技術 II 各論』日本実験動物協会（丸善）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中もしくはメール等での質疑応答で行う		
8. 成績評価の方法 授業への参加度及び試験[第 14 回]（2027/1/9）の成績により評価する（授業への参加度：30%、試験：70%）。		
9. その他 E-mail: yosukek@chiba-u.jp 質問事項については上記 email にて受け付けます。 倉島洋介：千葉大学 大学院医学研究院 イノベーション医学分野/国際アレルギー粘膜免疫学分野		

科目ナンバー (AG)PHY341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生物物理学	2 単位	鈴木 博実
2022～2025 年度入学者 生物物理学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生命現象を研究する上であまり関係がないと思われがちな物理学がいかに生命現象やその測定装置と関連しているかの理解を深めることを目的とする。 《授業の概要》 生物物理学のうち特に農学部に関連性が高い4つのテーマを取り上げ、様々な現象が、物理法則や物理学的思考でどのように理解しモデル化出来るかを示す。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：タンパク質の立体構造形成原理（1）タンパク質の構造と物性 第3回：タンパク質の立体構造形成原理（2）立体構造予測 第4回：タンパク質の立体構造形成原理（3）フォールディング機構 第5回：イオンチャネル（1）電気信号発生メカニズム 第6回：イオンチャネル（2）イオンチャネルの構造と機能 第7回：イオンチャネル（3）イオン透過の物理学 第8回：イオンチャネル（4）チャネル開閉の物理学 第9回：様々な顕微鏡（1）顕微鏡の原理 第10回：様々な顕微鏡（2）種々の光学顕微鏡 第11回：様々な顕微鏡（3）電子顕微鏡，X線顕微鏡，原子間力顕微鏡 第12回：系統推定（1）系統解析の基礎 第13回：系統推定（2）距離法 第14回：系統推定（3）最尤法、ベイズ法		
3. 履修上の注意 農芸化学科の場合は物理学（力学・熱力学）、物理学（電磁気学・光学）を生命科学科の場合は物理学概論を履修していることが望ましいが、これらの科目を履修していない場合でも履修可。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業範囲について、配布するプリントなどで、事前に予習しておくこと。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『シリーズ・ニューバイオフィジックス』（共立出版社，1997 年） 『タンパク質の構造と機能』（メディカル・サイエンス・インターナショナル，2005 年） 『バイオインフォマティクス第2版』（メディカル・サイエンス・インターナショナル，2005 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 第4回、第8回、第11回の講義終了後にレポート課題を提示し、それぞれ、第6回、第10回、第13回講義までにオンラインでレポートを提出してもらう。 提出されたレポートは翌週に添削して返却する。		
8. 成績評価の方法 成績は学期末試験 60%、レポート 30%、平常点（授業参加・貢献度）10%で判断する。		
9. その他 生物物理学研究室（6号館3階6－309A号室） オフィスアワーは特に設定しません。質問等があれば研究室に来てください。		

科目ナンバー (CC) CST111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 職業指導	2 単位	阿部 英之助
2022～2025 年度入学者 職業指導		
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、現代社会における職業教育の意義と課題を学ぶとともに職業教育の現状について理解を深めます。 具体的には、①青年期における進路選択問題、②高等学校における職業指導および職業教育の実際、③職業指導および職業選択の課題、以上の3点を通じて、青年期における職業教育を理解します。 この講義の到達目標は、①現代社会における職業の役割と労働構造の変化について把握する。②学校教育における職業教育の意義と歴史について理解する。③青年期における職業指導および職業選択について理解し、進路指導の方法を修得することです。具体的な事例を通じて現代社会および学校教育の現状と、様々な視点から職業指導および職業教育の在り様を理解していきます。また同時に、受講生のキャリア意識やキャリアガイダンスも併せながら授業を展開していきます。		
2. 授業内容 第1回：a：イントロダクション（講義のねらい、職業指導の意義） b：現代社会における職業（1）～現代社会の現状とその理解～ 第2回：現代社会における職業（2）～働くことの意義を考える～ 第3回：現代社会における職業（3）～労働構造問題と格差社会～ 第4回：現代社会における職業（4）～労働基準法と労働環境問題～ 第5回：青年期の進路と進路指導（1）～高校生の進路動向と進路保障～ 第6回：青年期の進路と進路指導（2）～高校生の就職状況と就職問題～ 第7回：高等学校における職業指導（1）～普通教育と専門教育～ 第8回：高等学校における職業指導（2）～農業高校の現状と高度専門化の対応～ 第9回：高等学校における職業指導（3）～高等教育における職業教育～ 第10回：高等学校における職業指導（4）～職業教育の課題と職業指導の実際～ 第11回：新たな職業指導の問題と課題～障がい者雇用の現状と実際～ 第12回：諸外国の職業指導の実態（1）～諸外国の職業教育の現状～ 第13回：諸外国の職業指導の実態（2）～ドイツ・イギリスの事例から～ 第14回：a：講義全体ふりかえり b：試験		
3. 履修上の注意 この講義は、基本的には教員免許取得（高校・農業・理科免許等）を目指している学生及び教職志望向きの資格科目である。それ以外でも、授業内容に興味・関心があれば、履修は妨げません。 最初に新聞・雑誌や調査データなどの具体的な事例の紹介を通して、現代社会における職業世界の姿を知り、その背景にある理論的位置づけなどを学んでいきます。また、授業毎に簡単な「コメント」や「ワークシート」を通して、自分の見解・意見をまとめる作業を行い、授業内容の定着を図りたいと思います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に次の講義に使用する資料または内容によってはワークシートを配布しますので、事前に読み込んでおくか、関連事項のキーワード検索を行い、講義内容の理解を深めてください（必要時間としては30～1時間程度）。また、授業回数が半分を過ぎたら、中間まとめと中間チェック・テストを行いますので、配布した講義資料及びノートはしっかり復習しておいてください。		
5. 教科書 教科書は使用しませんが、教員が作成した講義資料を使用します。		
6. 参考書 『新時代のキャリア教育と職業指導』佐藤史人編（法律文化社）2018 年 『職業教育・産業教育ハンドブック』日本産業教育学会編（大学教育出版）2013 年 『日本と世界の職業教育』堀内達夫編（法律文化社）2013 年 『キャリア教育のウソ』児美川孝一郎（筑摩書房）2013 年 『夢があふれる社会に希望はあるのか』児美川孝一郎（ベストセラーズ）2016 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間まとめと中間チェック・テストの解説については、 Oh -o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法		

成績評価は、平常点（授業への参加度・貢献度、発言など）15%、授業小レポート課題 15%、学期末試験 70%の合計 100%によって総合的に評価をします。試験は、対面で実施する。また、皆さんの積極的な関わりを期待しますが、授業に直接関係のない私語は厳禁とします。場合によっては、退席と評価対象外として処理させていただきます。

9. その他

農学科

農
学
科

科目ナンバー (AG) BCH191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 化学概論	2 単位	高須賀 智子
2022～2025 年度入学者 化学概論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 物質や現象をより深く理解するために、化学的視点および素養を身に付け、考える力を養っていきましょう。各テーマのエッセンスについて、自分の手で図解できるようになること、自分の言葉で説明できるようになることが到達目標です。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・C に対応する科目となっています。 《授業の概要》 本科目では、原子と電子、元素と周期表、化学結合、化学反応など基本的な化学の考え方を学びます。化学は物質の性質や変化の様子、すなわち森羅万象を学ぶ学問であると同時に、自然の素晴らしさ・かけがえのなさを教えてくれる学問です。我々の身の回りには、化学製品がいたるところに使われており、化学製品なくしては生活ができないほどです。また、現在、人類は食糧・環境・エネルギーの問題に直面しており、地球全体での解決が求められていますが、このような課題に対しても化学は大いに役立つ学問の一つです。		
2. 授業内容 第 1 回から 9 回までは、化学の基本を学びます。その後、農学科の専門科目につながる有機化学を取り上げる予定です。第 10 回から 14 回の内容については、授業の進行程度など必要に応じて変更となる場合があります。講義は教科書の内容をまとめたワークシートを使用して進めていきます。各講義の最後に「まとめと質問シート」を書いて提出していただきます。 第 1 回 イントロダクション：化学の基礎（数・単位・研究、水分子） 第 2 回 元素、原子、電子 第 3 回 化学結合（その 1：共有結合と分子、極性） 第 4 回 化学結合（その 2：分子内および分子間に働く力） 第 5 回 化学反応 第 6 回 反応速度と化学平衡 第 7 回 酸・塩基と緩衝液 第 8 回 エネルギー 第 9 回 酸化と還元 第 10 回 有機化学（その 1：脂肪族炭化水素と官能基） 第 11 回 有機化学（その 2：芳香族化合物、異性体） 第 12 回 有機化学（その 3：化学反応機構） 第 13 回 生体分子 第 14 回 (a のみ) 光		
3. 履修上の注意 高校で化学基礎及び化学を履修していることが望ましいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第 1 回のイントロダクションで、第 2 回から第 14 回の講義内容と教科書の対応表をお配りしますので、教科書の当該箇所を熟読し、予め配布するワークシートの穴埋めをする予習をして下さい。高校では習っていない内容もありますので、予習していないと講義内容を理解するのが難しい回もあります。また、講義のはじめに前回内容の小テストを行いますので、各講義で指示するワークシートの重要部分を中心に復習して、確実に図示あるいは説明できるようにしておくことが望ましいです。		
5. 教科書 「ライフサイエンスのための基礎化学」 R. Sutton・B. Rockett・P. Swindelles 著 影近弘之・平野智也 訳 （東京化学同人） 2011 年		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 「まとめと質問シート」に書かれた質問やコメントに対するフィードバックをファイルにまとめて、クラスウェブから配信します。必要に応じて、翌週講義のはじめに説明します。また、小テストの解答例を Oh-o!Meiji で公開するとともに、採点後のファイルを個人宛に返却します。		
8. 成績評価の方法		

平常点（まとめと質問シート 14 回分）10%、アンケート（初回に 1 回、詳細はその他欄をご覧ください）＋小テスト 13 回分 40%、期末テスト 50%で評価します。期末テストは持ち込み不可で、講義全体からの出題となります。

9. その他

第 1 回目のときに履修者の皆さんのバックグラウンドを知るために高校までの履修状況等についてアンケートを行う予定です。ご協力をお願い致します。

遅刻・欠席などで「まとめと質問シート」と小テストを提出できない場合は、後から提出可能ですが、遅延減点対象となります。ただし、感染症による病欠など止むを得ない場合は対象となりません。

小職は東京農工大学に所属しているため、問合わせ・連絡はメールにてお願いします。

メールアドレス : takasuka@cc.tuat.ac.jp です。

科目ナンバー (AG) AGR121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 栽培学入門	2 単位	岩崎直・塩津・糸山
2022～2025 年度入学者 栽培学入門		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 指数関数的勢いで増加する世界人口は今や 72 億に達し、一人当たりの食糧供給量は減少の傾向をたどっている。したがって、われわれ人類の生存は、最も重要な産業である「農業」における「作物」の栽培を通じた「食糧」供給の多寡にかかっている。本講義では、農業の成り立ちと役割、植物資源の種類、生理生態、環境と生産、生産技術の基礎などを概観する。 農学科の基礎科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C および E に対応する科目である。 《到達目標》 農学を学ぶ諸兄が生産技術の理論を理解するのに役立つ基礎知識を充当し、それらを応用して「食糧生産（作物栽培）」における諸問題を解決する能力を修得することを目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション（栽培学とは） 第 2 回：農業の成り立ちと作物の栽培 第 3 回：植物資源と作物 第 4 回：作物の分類 第 5 回：栽培植物の構造と機能 第 6 回：作物の生理・生態（光合成と物質生産性） 第 7 回：作物の生理・生態（環境適応性） 第 8 回：作物の栽培・管理 第 9 回：生産と環境 第 10 回：生産技術の基礎 第 11 回：環境変動と食糧生産 第 12 回：収量と品質 第 13 回：植物資源の活用 第 14 回：農学における情報活用の重要性		
3. 履修上の注意 「農業」「食糧」「温暖化」「バイオマス」「持続性」「健康」等のキーワードに敏感であって欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。		
5. 教科書 特に指定しないが、必要な資料は配付する。		
6. 参考書 植物生産学概論（星川清親 編著、文永堂出版） 栽培学-環境と持続的農業-（森田茂紀 他、朝倉書店） 栽培学大要（江原 薫、養賢堂） 農学とは何か（田附貞洋・生井兵治 編、朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 100%定期試験で評価する。		
9. その他 作物学研究室（5 号館 2 階 202A） オフィスアワー：水曜日：12：40～13：30、質問などがあれば気軽に研究室まで来てください。 応用昆虫学研究室（5 号館 2 階 208A） オフィスアワー：火曜日 12:40～13:20、会議や出張が多いため事前に連絡することが望ましい。 連絡先：mushi(at)meiji.ac.jp (at)を@に変更すること。		

科目ナンバー (AG) AGR161J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 アニマルサイエンス入門	2 単位	溝口・川口・佐々木
2022～2025 年度入学者 アニマルサイエンス入門		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の達成目標及びテーマ＞ 動物に関心のある学生が、動物の基礎知識を幅広く学習し、動物の生産の基礎が理解できるようにする。本授業は動物系を学ぶ礎としての位置づけである。 ＜授業の概要＞ ウシ・ブタ・ニワトリなどの畜産動物を中心に、動向、行動、疾病、栄養、繁殖などについて学習する。また、学生同士で議論するアクティブラーニング手法も取り入れる。本授業は、農学科基礎科目群導入科目の一つである。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C・E に対応する科目である。		
2. 授業内容 1. 畜産動向について（佐々木） 2. 畜産生産物について（佐々木） 3. 動物の衛生（佐々木） 4. 動物の行動（川口） 5. 動物の環境（川口） 6. 動物の疾病（川口） 7. 動物の生産と繁殖（佐々木） 8. 単胃動物・反芻動物・鶏の栄養（溝口） 9. 動物でのエネルギー変換と栄養素（ミネラルとビタミン）（溝口） 10. 動物の飼料とその原料（溝口） 11. 新聞記事を用いたアクティブラーニング 1（溝口・川口・佐々木） 12. 新聞記事を用いたアクティブラーニング 2（溝口・川口・佐々木） 13. 新聞記事を用いたアクティブラーニング 3（溝口・川口・佐々木） 14. 新聞記事を用いたアクティブラーニング 4（溝口・川口・佐々木） *授業内容は必要に応じて変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 各教員の最初の授業での指示に従い、配布するプリントなどをよく読み理解する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の後は、プリントなどを振り返り復習すること。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 畜産学入門（文永堂出版、2012） 最新 畜産ハンドブック（講談社、2014） 畜産学概論（朝倉書店、2021）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて講義にて解説する		
8. 成績評価の方法 教員毎に実施する小テストなどにより評価する。		
9. その他 動物生産学研究室（5 号館 5 階 501A） 動物環境学研究室（5 号館 5 階 502A） 動物遺伝資源学研究室（5 号館 3 階 305A）		

科目ナンバー (AG) AGR181J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ランドスケープ入門	2 単位	菅野・矢崎・小泉
2022～2025 年度入学者 ランドスケープ入門		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ランドスケープには、生態学の階層としての景観、および人と社会の間で形成される景観という意味があり、いずれも自然に調和した人間社会の形成を目的としている。本実験は将来生態系の調査・管理・保全、およびランドスケープ・デザインに関わることを目指す学生向けに開講する。 《授業の概要》 第一部では、ランドスケープの視点を紹介したうえで、緑地学の成果としての人工的な空間施設である庭園や公園について、歴史的な発展過程を紹介する。次に、身近な生田のランドスケープから世界のランドスケープまで、ランドスケープデザインの見方、考え方について理解する。 第二部では、ランドスケープを構成する生態系について、その概念や機能の重要性を紹介する。次に、都市、森林、湿地の微気象や物質循環の形成過程を概説し、それぞれの環境問題の現状と課題について理解を深める。 第三部では、生態学研究においてランドスケープに着目する意義や利点について、事例を交えながら紹介する。特に、植物に共生する微生物を題材として、生物群集とランドスケープの関係性について理解を深める。		
2. 授業内容 第一部 ランドスケープ・デザインの世界（菅野） 第1回 イントロダクション：学際的分野としてのランドスケープ 第2回 身の回りのランドスケープ・デザインとその見方・とらえ方 第3回 日本と西洋の庭園、その歴史とデザイン 第4回 都市公園と自然公園のランドスケープデザイン 第5回 ランドスケープ・デザインのあるべき形 第二部 ランドスケープの気象と物質循環（矢崎） 第6回 植物と環境の相互作用と生態系機能という考え方 第7回 人々を取り巻く環境とその変化：地球温暖化 第8回 都市の気象と生活環境：ヒートアイランド現象への対策 第9回 森林生態系の微気象・物質循環：大気環境を調節する炭素吸収源 第10回 湿原生態系の微気象・物質循環：多様な生物を支える炭素貯蔵庫 第三部 生態学とランドスケープ（小泉） 第11回 ランドスケープと生物群集 第12回 気候変動と高山帯の生物群集 第13回 生態的特性が形づくるランドスケープ 第14回 ランドスケープを捉える時空間スケール		
3. 履修上の注意 特になし		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 三つの部分ごとに、初回に各回の内容について説明するので、その指示に従って授業の前にかんたんな用意を行うこと。授業の後には、指示に従って、各自でふりかえりを行うこと。		
5. 教科書 特に教科書は定めないが、第1回～第5回の「ランドスケープ・デザイン」のパートに関して、この分野に関心のある学生は『空間から読み解く 環境デザイン入門』菅野博真著（彰国社）を積極的に活用いただきたい。 他のパートに関しては、特に定めない。		
6. 参考書 『空間から読み解く 環境デザイン入門』 菅野博真著（彰国社） 『生態学入門 第2版』 日本生態学会編（東京化学同人）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 矢崎担当分について、授業後 OhoMeiji 上で理解を問う課題を掲示し、後日解説する。またコメントを残せるようにする。 テスト・課題等の答えは、採点后 Oho Meiji で返却し、各自振り返ることができるようにする。		

8. 成績評価の方法

毎回出欠をとり、原則として4回以上欠席すると評価の対象としない。出席は加点要素とはしない。担当する3人の教員が指示するレポート等の課題を行い、期日までに提出すること。3人の教員による評価点の合算により、最終評価とする。

9. その他

連絡先とオフィスアワー

菅野博貢（カンノヒロツグ） kanno@meiji.ac.jp 環境デザイン研究室 4-306A号室, 水曜日と木曜日の12:45~13:30)

矢崎友嗣（ヤザキトモツグ） [[url=mailto:yazakitm@meiji.ac.jp](mailto:yazakitm@meiji.ac.jp)] yazakitm@meiji.ac.jp 環境気象学研究室 4-308A号室, 授業後、その他も随時対応しますのでメールで連絡を取ってください。

小泉敬彦（コイズミタカヒコ） メールアドレスは初回授業でお知らせします。 アグロエコロジー研究室 4-213A室, 水曜日12:45~13:15

科目ナンバー (AG) AGR151J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生産環境学入門	2 単位	小島・服部
2022～2025 年度入学者 生産環境学入門		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 作物は、水田や畑地やかんがいのための水、土などがあってはじめて栽培が可能になる。また、食料生産には、生産の場であるとともに生活の場である農村や、周辺の自然環境との関係が重要となる。 この授業では、生産環境整備の歴史を概観した上で、水田や畑の構造と機能、水循環やかんがい・排水、農村空間の諸問題まで、生産環境整備に関する多様な視点を提供する。 《授業の達成目標》 生産環境整備の必要性とその内容、生産環境整備と地域環境の関係を理解することを目標とする。 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A・C・E に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（小島・服部） 第 2 回：生産環境整備の歴史Ⅰ（服部） 第 3 回：生産環境整備の歴史Ⅱ（服部） 第 4 回：水の循環と農業～水は足りているか～（小島） 第 5 回：かんがいと排水～水・土地管理の現場から～（小島） 第 6 回：国際河川をめぐって～水はだれのものか～ 第 7 回：農地開発の現場から～ブータン王国～（小島） 第 8 回：農業用水はどこからくるか ～愛知用水～（小島） 第 9 回：営農と環境保全～コウノトリから考える～（小島） 第 10 回：農地の多面的機能（小島） 第 11 回：農地・農業生産をめぐる諸問題～汚染・エネルギー問題・ストックマネジメント～（小島） 第 12 回：生産環境整備の担い手（服部） 第 13 回：生産環境整備のしくみ（服部） 第 14 回：生産環境整備の現場（小島）		
3. 履修上の注意 授業の順序を変更することがある。 服部担当分はオンデマンド型で実施する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 生産環境に関するニュースに日頃、目を配るとともに、参考書の該当部分を事前に読んでおくこと。 授業で不明な部分がないかを確認し、ある場合は次回講義終了までに質問をする等で解決すること。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 『豊かで美しい地域環境をつくる ー地域環境工学概論ー』地域環境工学概論編集委員会 農業農村工学会 シリーズ〈地域環境工学〉『農村地域計画学』渡邊紹裕・星野敏・清水夏樹 編著 朝倉書店		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出されたレポートへのコメントをもって行う。		
8. 成績評価の方法 複数回のレポートによって評価する。 レポートの詳細については、授業の中で指示する。		
9. その他 オフィスアワー 小島 水資源学研究室（4 号館 3 階 304 A 号室） 水曜日 12：40～13：20 服部俊宏：地域環境計画研究室（4 号館 2 階 214A 室） メール（hattori@meiji.ac.jp）で問い合わせること		

科目ナンバー (AG) STA191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 基礎生物統計学	2 単位	濱崎 甲資
2022～2025 年度入学者 基礎生物統計学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生物学・農学の理論や仮説に基づくモデル空間と、実験や試験などからデータとして観測される現実空間との関係を認識し、生物学・農学における確率モデルを用いた統計分析の必要性を理解すること。 また、実験・データの背後にある生物の実態を想像する習慣を身につけること。 農学科 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目である。 《授業の概要》 自然現象と生物学モデルの食い違いを説明するための確率モデルの役割、科学的推論としての推定・検定法などについて解説する。背景には難しい数学も含まれているが、図や表で直感的に理解できればよいことも多い。		
2. 授業内容 [第 1 回] 生物統計学とは何か [第 2 回] 現実空間とモデル空間の関係 [第 3 回] メンデルの遺伝実験と確率モデル [第 4 回] 確率変数と二項分布 [第 5 回] 二項分布における確率の計算 [第 6 回] 珍しいできごとと統計的仮説検定 [第 7 回] 大標本での近似計算 [第 8 回] 離散分布に対する近似関数の補正 [第 9 回] 計数データとよく使われる離散確率分布 [第 10 回] 確率分布の性質 [第 11 回] 適合度検定と正確な検定 [第 12 回] 生物学・農学データの種類 [第 13 回] 計量データの特性 [第 14 回] 基本統計およびヒストグラム		
3. 履修上の注意 精度の高い実験の設計方法（実験計画法）や、さまざまな実験データに対する具体的な解析手法を理解するためには、秋学期の『応用生物統計学』も履修していただきたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後、学んだ内容について復習をしておくこと。		
5. 教科書 適当な教科書がないので、講義中に配布するプリントを使って説明する。		
6. 参考書 講義の中で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 演習課題および定期試験に対する全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、平常点（課題の提出）30%		
9. その他 オフィスアワー：最初の講義で指示する。 連絡先：メールアドレス hamazaki@ut-biomet.org ホームページ https://sites.google.com/view/kosukehamazaki		

科目ナンバー (AG)STA191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 応用生物統計学	2 単位	濱崎 甲資
2022～2025 年度入学者 応用生物統計学		
1. 授業の概要・到達目標 生物統計学では、状況の違いに応じてモデルや解析手法も複雑に変化し、場合によっては、専門家への相談が必要になることもある。この講義では、このような状況の変化に対応して、簡単な分析は自力でできるようになりつつ、かつ、相談に必要な『データの性質や解析手法の種類についての知識』を身に付けてほしい。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目である。 《授業の概要》 計量データの構造（単位、制度、数値）に基づいた確率モデルを紹介し、各種の統計分析の考え方と分析法について概説する。複雑な数式も出てくるが、数値を入れて計算する式、読み下して内容を理解しておく式、鑑賞するだけでよい式などがある。 《到達目標》 2つの標本平均の比較、分散分析、線形回帰などの基本的な確率モデルを理解する。		
2. 授業内容 [第1回] 計量データおよび連続確率分布についての確認 [第2回] 確率変数の性質 [第3回] 期待値および分布パラメータ [第4回] 算術平均の分布 [第5回] 2つの平均値の比較（t 検定） [第6回] ウェルチの近似検定 [第7回] 実験計画法の意味 [第8回] 分散分析の考え方 [第9回] 品種適応性試験のデータ解析 [第10回] 収量比較試験のデータ解析と多重比較 [第11回] 直線の当てはめ [第12回] 回帰分析 [第13回] 多変量解析の考え方 その1：回帰分析・主成分分析 [第14回] 多変量解析の考え方 その2：重回帰分析・正準相関分析		
3. 履修上の注意 講義内容は一応独立しているが、春学期の『基礎生物統計学』を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後、学んだ内容について復習をしておくこと。		
5. 教科書 適当な教科書がないので、講義中に配布するプリントを使って説明する。		
6. 参考書 講義の中で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 演習課題および定期試験に対する全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、平常点（課題の提出）30%		
9. その他 オフィスアワー：最初の講義で指示する。 連絡先：メールアドレス hamazaki@ut-biomet.org ホームページ https://sites.google.com/view/kosukehamazaki		

科目ナンバー (AG) BBI221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物生理学	2 単位	根本 圭介
2022～2025 年度入学者 植物生理学		
1. 授業の概要・到達目標 達成目標とテーマ：本講義は、作物栽培を理解する上で必要となる植物生理学の知識を習得することを達成目標とする。 授業の概要：上記の目標に鑑み、本講義では農業技術体系に合わせて生理学の諸知識を再編成した上で、解説する。第 1～3 章では作物の基本的な生理を、第 4～6 章では栽培環境への作物の生理的適応を、第 7～11 章では各種の栽培技術の植物生理学的な背景を学ぶ。最後の 2 章では、植物生理学に端を発する技術が世界農業に与えてきたインパクトを、代表的な事例について分析する。		
2. 授業内容 [第 1 回] 作物の生活環と農業 [第 2 回] 作物の同化と異化 [第 3 回] 作物個体群の挙動 [第 4 回] 気象環境と作物 ① フェノロジーほか [第 5 回] 気象環境と作物 ② 気象生産力ほか [第 6 回] 土壌環境と作物 ① 栄養素の動態 [第 7 回] 土壌環境と作物 ② 土壌環境と生産性 [第 8 回] 作物-微生物間の相互作用 [第 9 回] 作物-動物間の相互作用 [第 10 回] 作物-雑草間の相互作用 [第 11 回] 作物の生長調節 [第 12 回] 植物生理学と農業 ① 化学肥料 [第 13 回] 植物生理学と農業 ② 除草剤 [第 14 回] a のみ：補遺「農学の歴史と体系」		
3. 履修上の注意 生物学の予備知識に乏しくても理解できるよう配慮するが、全 14 回を通して 1 つの纏まった論理・概念を伝える予定であり、全回出席を心がけること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はとくに必要ないが、復習は必ず行い、不明点があれば質問すること。		
5. 教科書 使用しない		
6. 参考書 使用しない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーを適宜実施し、翌週に講評・解説する。		
8. 成績評価の方法 授業への参加態度を 40%、定期試験を 60%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) BBI271J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 マクロ生物学入門	2 単位	小泉 敬彦
2022～2025 年度入学者 マクロ生物学入門		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 マクロ生物学は、大型の動物と植物を中心に、時に微生物も含めて、生物が示す現象をマクロスケールで理解する学問である。本授業では、生物と環境の関係を軸に、生物がどのように進化し、集団や群集をつくり、生態系を形づくっているのかを順に学ぶ。さらに、環境変動や人間活動に対して生態系がどのように応答するかを理解し、生態学の知識が環境問題や保全にどのように役立つのかを考える。グループワークを取り入れ、主体的・協同的な学びを促す。 《到達目標》 本授業を通して、学生は生物と環境の相互作用を進化・個体群・群集・生態系の各階層から統合的に理解できるようになることを目標とする。生態学の基本概念や理論を用いて、自然界の構造や変化を説明し、生物多様性の成立と維持の仕組みを科学的に捉える力を身につける。また、環境問題や保全に関する社会的課題に対して、生態学的知見をもとに根拠ある考察や判断ができる基礎的能力の獲得を目指す。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習教育目標の A・C に対応する科目である。		
2. 授業内容 〔第 1 回〕生態学とは何か 〔第 2 回〕進化 〔第 3 回〕系統 〔第 4 回〕個体群 〔第 5 回〕遺伝的多様性 〔第 6 回〕有性生殖と血縁度 〔第 7 回〕捕食と被食 〔第 8 回〕競争と共生 〔第 9 回〕食物網 〔第 10 回〕生物多様性 〔第 11 回〕攪乱と遷移 〔第 12 回〕環境問題と保全 〔第 13 回〕生態学の研究へ 〔第 14 回〕a: 試験 b: 解説とまとめ		
3. 履修上の注意 講義前に Oh-o!Meiji へ掲載する講義資料を各自端末にダウンロードもしくはプリントアウトして授業に臨むこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義前に Oh-o!Meiji へ掲載する講義資料を用いて予習・復習を行うこと。		
5. 教科書 Oh-o!Meiji より配布する講義資料		
6. 参考書 『生態学入門 第 2 版』日本生態学会 編（東京化学同人） 『保全遺伝学入門』Richard Frankham, Jonathan D. Ballou, David A. Briscoe 著（文一総合出版） 『ゲノムが拓く生態学』種生物学会 編（文一総合出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業への貢献度 50% で評価する。 ただし、欠席が 1/3 を超えた場合は評価の対象としない。		
9. その他 アグロエコロジー研究室（4 号館 2 階 213A） オフィスアワー：最初の講義で示す。 連絡先：最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) AGR211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物遺伝資源学	2 単位	半田 高
2022～2025 年度入学者 植物遺伝資源学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農業の発展と共に食料の生産性が高まった現在において、また将来の食料生産において、なぜ遺伝資源が重要なのか、遺伝資源を食料生産にどのように利用していくのかを理解する。 《授業の概要》 人類が狩猟・採集生活から農業という方法で食料を得るようになって以来、栽培植物や家畜は人間による選抜・淘汰を受けるようになった。その結果、多くの有用形質を持った動植物が現れ、人類の食料生産に利用されてきている。本講義では各種作物における遺伝資源の利用の現状と変遷の過程について概説する。農学科、生物資源関係の基礎科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A および C に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：遺伝資源の定義およびその重要性 第 2 回：野生植物と栽培植物の差異 第 3 回：栽培植物の進化 I 第 4 回：栽培植物の進化 II 第 5 回：栽培植物の進化 III 第 6 回：遺伝資源の利用 I 第 7 回：遺伝資源の利用 II 第 8 回：遺伝資源の利用 III 第 9 回：品種の画一化の現状とその危険性 第 10 回：遺伝資源の維持・評価・保存 第 11 回：遺伝資源の探索・収集・導入 第 12 回：遺伝資源探索・収集の実際 I 第 13 回：遺伝資源探索・収集の実際 II 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 授業内容は変更することがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 植物関連の農学基礎科目（植物分類・形態学、基礎植物育種学、植物生理生態学）と生物統計学（基礎・応用）を履修しておくかまたは事前に自分で学習しておくことが望ましい。		
5. 教科書 特に指定しないが、必要な資料は配付する。		
6. 参考書 初回の講義時間で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席率 6 割以上の者を評価対象とし、定期試験で評価する。		
9. その他 花卉園芸学研究室（5 号館 3 階 303 A） オフィスパワー：火曜日：12：40～13：20、 質問などがあれば気軽に研究室まで来てください。		

科目ナンバー (AG) AGR261J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物遺伝資源学	2 単位	溝口 康
2022～2025 年度入学者 動物遺伝資源学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ヒトと動物との関わりについての歴史と、その動物の遺伝資源の多様性・保存・調査等について学び、広い視野から動物遺伝資源について考える。また、近年急速に進歩した動物分子遺伝学について学び、ミクロの世界から動物遺伝資源について理解を深めることを目的とする。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・C に対応する科目である。 《授業の概要》 本講義の前半は、動物遺伝資源の中でも特にヒトとの関わりの深い動物について、その起源と有用性について解説する。中盤は、動物遺伝資源の多様性や保存方法等について解説する。後半は、最新のトピック紹介も取り入れて動物分子遺伝学について解説する。		
2. 授業内容 第 1 回：動物遺伝資源学の概論 第 2 回：野生動物の家畜化 第 3 回：野生動物の遺伝資源 第 4 回：動物の遺伝資源（1）牛・水牛の利用と品種 第 5 回：動物の遺伝資源（2）豚・鶏の利用と品種 第 6 回：動物の遺伝資源（3）馬・羊・山羊の利用と品種 第 7 回：動物の遺伝資源（4）犬・猫・その他動物の利用と品種 第 8 回：動物遺伝資源の保存 第 9 回：動物分子遺伝学の概要 第 10 回：動物の遺伝的多様性およびその遺伝資源の調査（1） 第 11 回：動物の遺伝的多様性およびその遺伝資源の調査（2） 第 12 回：動物の毛色・行動に関する分子遺伝学（1） 第 13 回：動物の毛色・行動に関する分子遺伝学（2） 第 14 回：動物ゲノム科学 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本講義を履修前または同時期に動物関連の科目を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習は、講義時に配布したレジメを参照し、参考書などを用いて当該箇所の理解を深める。		
5. 教科書 毎回の講義時にレジメを配布するので、教科書は使用しない。		
6. 参考書 「世界哺乳類図鑑」著：ジュリエット・クラットン=ブロック・翻訳：渡辺健太郎 新樹社 「生物資源とその利用」天野卓ら著 三共出版 「動物と人間の歴史」江口保暢著 築地出版 「品種改良の世界史 家畜編」正田陽一編 悠書館 「獣医遺伝育種学」国枝哲夫・今川和彦・鈴木勝士編 朝倉書店 「アジアの在来家畜」在来家畜研究会編 名古屋大学出版会 「世界家畜品種事典」正田陽一監修 東洋書林		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて講義にて解説する		
8. 成績評価の方法 原則として、期末試験により評価する。		
9. その他 研究室名 動物遺伝資源学研究室（5 号館 3 階 305 A） オフィスアワー：月曜日：12:40～13:30		

科目ナンバー (AG) DES128J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 基礎図法	2 単位	菅野 博貢
2022～2025 年度入学者 基礎図法		
1. 授業の概要・到達目標 ランドスケープ・デザインの基礎的な作図方法について実践を交えながら学びます。最初に製図で用いる用具についてその種類や使用方法について学習し、続いて製図記号や植栽の描き方等基礎的な知識を学んだ後、平面図、立面図、断面図などの作図法について学習します。後半は立体的な図法について学び、具体的な庭園（または公園）を例にランドスケープ・デザインのプロセスを実践してみます。モノを描くことが苦手な学生でも、初歩からはじめますので、絵を描くことの上手下手は関係ありません。 ランドスケープ・デザインの計画・設計における基礎的な表現力を身につけることを到達目標とします。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のCに対応する科目です（2023 年度入学者まで対象）。		
2. 授業内容 第1回 a：今後の授業のすすめ方について b：製図用具の種類と使い方について 第2回 設計製図基礎 その1 製図に用いる線の種類とその意味 第3回 設計製図基礎 その2 製図に用いる記号の種類とその意味 第4回 設計製図基礎 その3 製図に用いる植物の平面図上の表現方法 第5回 設計製図基礎 その4 製図に用いる植物の立面図上の表現方法 第6回 平面図の描き方 第7回 立面図の描き方 第8回 断面図の描き方 第9回 立体表現（アクソノメトリック）による作図法 第10回 立体表現（アクソノメトリック）による実践的な作図法 第11回 立体表現（アイソメトリック）による作図法 第12回 公園をデザインし簡易透視図で描く（その1） 第13回 公園をデザインし簡易透視図で描く（その2） 第14回 公園のデザイン（最終課題）について講評会・まとめ		
3. 履修上の注意 毎回授業時間中に課題を完成させ、チェックを受けてから次に進むこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回資料を配布するので、授業内で行う課題の作成が遅れた場合は次週までに資料をもとに完了させること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『造園図面の表現と描法』（誠文堂新光社） 『はじめてのランドスケープ・デザイン』八木健一著（学芸出版社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業中の課題 50％、最終課題 50％の割合で評価する。		
9. その他 履修者はA3 のトレーシングペーパーパッド、4B～2Hの鉛筆、消しゴム、製図用三角定規を準備して講義に臨むこと。		

科目ナンバー (AG)BI0111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 分子生物学（農）	2 単位	金勝 一樹
2022～2025 年度入学者 分子生物学（農）		
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 近年の「分子生物学」の進歩は目覚ましいものがあり、蓄積された知見は、農業や農学のあらゆる分野で重要視されています。したがって農学を学ぶ者にとって、分子生物学の知識は農学の専門領域に進むための基盤となります。この講義では、生物の基本単位である「細胞」、細胞内での働き手である「タンパク質」、そしてタンパク質の設計図である「遺伝子」に視点を当てて分子生物学の基礎について解説します。授業は、各項目で重要となるポイントを設問形式で「理解のポイント」として明示し、その設問に対する回答を考えながら受講することにより重要ポイントを理解できるように進めていきます。また、知識として修得しておくべき「用語」は整理して提示します。これらの「理解のポイント」と「用語」、さらに講義中に参照する図表を掲載したプリントを配布するので、それらを活用して分子生物学を体系的に修得していただければと考えています。なおこの講義は、農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）については、学習・教育目標のCに対応する科目になります。 ＜到達目標＞ 細胞小器官の役割、遺伝子の構造と機能および遺伝子発現の過程と制御機構についての知識を習得し、農学における専門分野の領域での学びや研究に活かすことができるようになること。		
2. 授業内容 第1回 はじめに 第2回 生物を構成する単位である細胞 第3回 細胞内での働き手であるタンパク質の構造 第4回 生命の連続性と遺伝情報 ①メンデルの見た世界～ワトソン・クリックの DNA 分子モデル 第5回 生命の連続性と遺伝情報 ②遺伝子の複製（replication） 第6回 生命の連続性と遺伝情報 ③転写（transcription）のしくみ ～DNA から RNA へ 第7回 生命の連続性と遺伝情報 ④翻訳（translation）のしくみ～RNA からタンパク質へ 第8回 生命の連続性と遺伝情報 ⑤遺伝子発現の制御機構 第9回 生命の連続性と遺伝情報 ⑥翻訳されたタンパク質の細胞内輸送 第10回 真核生物における細胞周期の制御機構 ①細胞周期のチェックポイント 第11回 真核生物における細胞周期の制御機構②分裂期の制御機構 第12回 細胞のシグナル伝達機構 第13回 生命の起源とゲノムの進化 第14回 講義の総括 期末試験		
3. 履修上の注意 この講義は対面授業により実施します。履修要件は特に設定しません。出席は 0h-o! Meiji の出欠管理機能を用いて行います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で使用する「資料」や「ノートの補足」を 0h-o! Meiji で配付するので、それらを参考に予習・復習を行って下さい。		
5. 教科書 指定なし。		
6. 参考書 『Essential 細胞生物学改訂第5版』南江堂 『分子遺伝学の基礎』岡山博人監訳（東京化学同人） 『細胞の分子生物学 第6版』中村桂子・松原謙一監訳（ニュートンプレス）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末に行う筆記試験により成績を評価する（定期試験 100%）。		
9. その他 講義に関する質問等は、メールで随時受け付けます。その際に「件名」には「明治大学分子生物学について」と明記してください。 オフィスアワー： 出講日の 12:40～13:20（中央講義棟講師控室） 連絡先メールアドレス： kanekatu@cc.tuat.ac.jp		

科目ナンバー (AG)BI0211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 バイオテクノロジー	2 単位	大里 修一
2022～2025 年度入学者 バイオテクノロジー		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本講義では、生物を利用して食料、医薬品、生物材料などを生産する技術としてのバイオテクノロジーを学ぶ。まず、その基盤となる生化学、分子生物学、細胞工学の基本事項を確認する。次に、核酸やタンパク質、細胞の解析法、ならびに遺伝子組換え技術の基本的な考え方と手法を扱う。さらに、植物の形質転換法を含む関連技術を取り上げ、農学との接点を具体的に理解する。加えて、農業分野におけるバイオテクノロジーの応用事例を通して、その有用性と社会的意義について考える。 「食糧生産・環境コース」（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C に対応する科目である。 《到達目標》 バイオテクノロジーを支える生化学、分子生物学、細胞工学、遺伝子工学の基本概念を説明できる。核酸、タンパク質、細胞に関する代表的な解析法について、目的と特徴を理解して説明できる。遺伝子組換え技術および植物の形質転換法について、基本原理と流れを理解できる。農学分野におけるバイオテクノロジーの代表的応用例を挙げ、その意義を説明できる。バイオテクノロジーの有用性と課題を踏まえ、農学における役割と可能性を自ら考察できる。		
2. 授業内容 第 01 回：イントロダクション：バイオテクノロジーと遺伝子工学 第 02 回：細胞の基礎知識と遺伝子の働き (1) 第 03 回：細胞の基礎知識と遺伝子の働き (2) 第 04 回：核酸の解析 (1) 第 05 回：核酸の解析 (2) 第 06 回：核酸の解析 (3) 第 07 回：タンパク質や細胞の解析 第 08 回：遺伝子組換え技術とその方法 (1) 第 09 回：遺伝子組換え技術とその方法 (2) 第 10 回：遺伝子組換え技術とその方法 (3) 第 11 回：植物の形質転換法；CBT 説明 第 12 回：農業バイオテクノロジー (1) 第 13 回：農業バイオテクノロジー (2) 第 14 回：農業バイオテクノロジー (3) ★ 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。 ★ 本講義は遺伝子工学(農)の読み替え科目です。		
3. 履修上の注意 「分子生物学」などの基礎科目を履修しておくことが望ましい。 各回の内容は相互に関連するため、継続的に受講し、復習することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布する資料について、適宜予習・復習を行うこと。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 授業の中で紹介していく。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題等については、講義内または Oh-o! Meiji システムを通じて解説・講評を行う。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、定期試験（100%）により行う。 なお、定期試験は、Computer Based Testing（CBT：コンピュータを用いて解答する試験）または紙媒体による筆記試験のいずれかの方法で実施する予定である。		
9. その他 植物病理学研究室（5 号館 3 階 5-302A 室） オフィスアワー：金曜日		

連絡先 : ohsato.meiji@gmail.com (◎は@)

科目ナンバー (AG)BBI141J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物生理・栄養学	2 単位	渡辺 元
2022～2025 年度入学者 動物生理・栄養学		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 哺乳動物は特殊化された器官とシステムを持ち、それらを調整・統合して個体としての生命活動を営んでいる。これら生命活動システムの基本を学習する。卒業後にも役に立つ基礎知識である。農学科の共通基礎科目の一つであり、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標のCに対応する科目である。 到達目標 動物や生命に関心のある学生が、哺乳動物の基礎的な生理学がわかるようになる。		
2. 授業内容 第1回：恒常性について 第2回：動物の組織・器官・器官系 第3回：中枢・末梢神経系 第4回：感覚器系 第5回：筋系 第6回：循環器系と免疫系 第7回：呼吸器系 第8回：消化器系 第9回：動物の栄養1：炭水化物、脂質、タンパク質 第10回：動物の栄養2：代謝とエネルギー変換 第11回：動物の栄養3：ビタミン・ミネラル・微量元素 第12回：泌尿器系 第13回：内分泌系とストレス 第14回：生殖器系 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 教科書や配布する資料だけでなく、参考書も読み、理解を深めること。動物生理の不思議さ、面白さも知って欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に Oh-o! Meiji より配布資料をダウンロードし、読むこと。授業の後には授業内容を参考書等も用いて理解しなおすこと。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『キャンベル生物学原書 11 版』池内昌彦ら 監修、翻訳（丸善出版） 『Biology: A Global Approach, Global Edition』Pearson Education Limited; 12th Ed. 『新生理学（Q シリーズ）』【電子版付き】 日本医事新報社；改訂第 8 版（2023/5/12） 『生体のしくみ標準テキスト第 3 版 』【動画付き】株式会社医学映像教育センター；第 3 版 『カラススケッチ生理学第 2 版』永田豊監訳（廣川書店） 『シンプル生理学 改訂第 6 版』貴邑富久子/根来英雄 著（南江堂） 『ギャノン生理学 原書 25 版』Kim E. Barrett ら 著 岡田 泰伸ら 監訳（丸善出版） 『Ganong's Review of Medical Physiology, 26thEd』 Kim E. Barrett ら 著 （McGraw-Hill） 『動物の体の仕組み』尼崎肇 著（ファームプレス）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 単元ごとに Oh-o Meiji でミニテストを行い（50%）、学期末試験（50%）を行い、合計したものを評価とする。		
9. その他 オフィスアワー：講義終了後 10 分。 動物環境学研究室（5 号館 5 階 502 号室） 連絡先：gen@cc.tuat.ac.jp		

--

科目ナンバー (AG) AGR361J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物生産制御学	2 単位	佐藤 礼一郎
2022～2025 年度入学者 動物生産制御学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 主要家畜（牛・豚・鶏）の生産を対象に、遺伝・繁殖・栄養・飼養管理・環境・疾病・制度を横断的に学び、動物生産を科学的に「制御」する考え方を修得することを目的とする。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C・D に対応する科目である。 《授業の概要》 最新の畜産統計と基礎理論を軸に、家畜の生産性・安全性・持続可能性を左右する要因について概説し、産業動物の生産制御についての理解醸成を計る。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション、動物生産制御学の概念と畜産の現代的課題 第 2 回：飼料資源と栄養管理の基礎 第 3 回：代謝プロファイルテスト（MPT）と栄養評価 第 4 回：草地利用と放牧管理 第 5 回：環境問題と畜産生産 第 6 回：持続可能な畜産と国際動向 第 7 回：スマート農業と畜産 DX 第 8 回：動物の保定とハンドリング 第 9 回：農場従事者とのコミュニケーションと指導 第 10 回：産業動物に関する法令と獣医師の責務 第 11 回：産業動物における医療倫理 第 12 回：肉用牛・乳用牛の代表的な疾病①（乳房炎、代謝性疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、運動器疾患など） 第 13 回：肉用牛・乳用牛の代表的な疾病②（外科疾患） 第 14 回：a：試験, b：講義全体の振り返りと試験の正答解説		
3. 履修上の注意 動物関連の科目を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の講義に先立ち、「最新 畜産ハンドブック」の該当章を通読し、専門用語や統計指標の意味を確認すること。講義後は配布資料と教科書を用いて内容を復習する。		
5. 教科書		
6. 参考書 『最新 畜産ハンドブック』扇元敬司他（講談社） 『乳牛管理の基礎と応用』柏村文郎他著（デーリィ・ジャパン社） 『新しい子牛の科学』家畜感染症学会編（緑書房）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験（小試験、定期試験）やレポート課題についての質問は各講義時間後もしくはメールにて受け付ける。		
8. 成績評価の方法 下記により評価を行う。 ・授業参加度 20%（小テスト、レポート、授業内課題等への取組状況を総合的に評価する） ・定期試験 80% ※以下の場合には評価対象としない。 ・必要出席数の 1/3 以上欠席している場合（遅刻 3 回で欠席 1 回相当とする） ・課題レポートを期限までに提出していない場合		
9. その他 連絡先：佐藤 礼一郎 宮崎大学農学部獣医学科 産業動物内科学研究室 r-sato@miyazaki-u.ac.jp		

--

科目ナンバー (AG) AGR151J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 土壌学	2 単位	伊東 雄樹
2022～2025 年度入学者 土壌学		
1. 授業の概要・到達目標 講義では、農学分野において作物と並んで重要な作物栽培の培地として土壌を扱う。受講生は、作物栽培の培地としての土壌について、その生成、性質、周辺環境との関係に関する基礎的な知識を獲得することができる。 受講生は、どのようにして“土壌”が作られるのか、なぜ水や肥料分は土壌に保持されるのか、作物生産にとって土壌のどのような性質が重要なかを学習することで、学期末には土壌を単なるブラックボックスではなく、物理的・化学的・生物学的反応装置として科学的な視点から説明できるようになることが目標である。 農学科の基礎科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A、C、D に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回]：土壌の生成 [第 2 回]：有機物の働き [第 3 回]：土壌生物の働き [第 4 回]：土壌の骨格 [第 5 回]：土壌中の水と空気 [第 6 回]：土壌の温度 [第 7 回]：養分保持 [第 8 回]：陽イオン交換と pH 緩衝能 [第 9 回]：土壌の酸性化 [第 10 回]：土壌肥沃度と作物の養分 [第 11 回]：耕地土壌の特徴 [第 12 回]：土壌汚染 [第 13 回]：土壌保全 [第 14 回]：まとめ		
3. 履修上の注意 「土壌物理学」（2027 年度開講予定）「肥料学」の基礎となる科目である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の講義前に教科書の該当箇所を読み、講義後には自分のノートを読み返して理解を深めること。必要に応じて参考図書を読んだり、ネット検索することをお勧めする。		
5. 教科書 『新版土壌学の基礎』松中照夫著（農村漁村文化協会，2018 年）		
6. 参考書 『土壌環境学』岡崎正規編（朝倉書店，2020 年） 『改訂 土壌学概論』犬伏和之・安西徹郎編（朝倉書店，2020 年） 『土 地球最後のナゾ～100 億人を養う土壌を求めて』藤井一至著（光文社新書，2018 年） 『土壌の基礎知識』藤原俊六郎著（農文協，2013 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji 上で行なう。		
8. 成績評価の方法 成績は、学期末試験 80%，小テスト 20%で評価する。		
9. その他 オフィスアワー：最初の講義で指示する。 連絡先（mail）：最初の講義で指示する。		

科目ナンバー (AG) BBI161J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生物多様性進化学	2 単位	新屋 良治
2022～2025 年度入学者 生物多様性進化学		
1. 授業の概要・到達目標 地球上には、数千万ともいわれる生物種が存在する。それらの生態、生息環境、生活史は千差万別であり、体の構造も組成も、繁殖の様式も実に多様である。生物がこれほどまでの多様性を持つに至ったのはなぜなのか。本講義では、まずこれらの不思議を共有し、「生物」や「生物学」のおもしろさを感じることから始める。講義では、現代生物学において残された大きな謎を主なトピックとして取り上げ、生物多様化の事例を数多く紹介するとともに、多様性が生じる仕組み、多様な生物同士の相互作用、生物と環境との関わりについて理解することを目標とする。大学生物学の入門講義として、生物や生物学の奥深さやおもしろさを体感してもらいたい。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・C に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：生物の多様性とは何か？（イントロダクション） 第 2 回：未知の生物は存在するか？ 第 3 回：生命とは何か？種とは何か？ 第 4 回：新種はいかにして誕生するか？ 第 5 回：なぜ性は存在するか？ 第 6 回：なぜオスは競争にさらされる？ 第 7 回：せめぎ合い、助けあいで生物は進化する？ 第 8 回：私たちはパラサイトに操られている？ 第 9 回：私たちは共生者無しでは生きていけない？ 第 10 回：私たちは感染症をコントロールできるか？ 第 11 回：生物はいかにして語り合うか？ 第 12 回：生物はなぜ死ぬのか？ 第 13 回：形の多様性はなぜ生じるのか？ 第 14 回：a：試験 b：試験の正答解説 * 講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 農学を学ぶために必要な、生物学の基礎を理解するための科目である。講義では、生物多様化の事例を数多く紹介するとともに、多様性が生じる仕組み、多様な生物同士の相互作用、生物と環境との関わりについて理解することを目標とする。講義中、受講者に意見を求めることがあるので、その際積極的に発言すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した内容について文献等で調べ、自ら理解を深めること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 講義中に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験（100％）で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGR211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 基礎植物育種学	2 単位	津田 勝利
2022～2025 年度入学者 基礎植物育種学		
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 作物の改良（育種）は、植物に本来備わる「しくみ」を巧みに利用しつつ人為的に進化を促す営みであり、その理解には深い生物学的知識が不可欠である。本講義では、植物が地球環境との相互作用の中でどのように発生・繁殖のシステムを進化させ、今日の繁栄に至ったかを概説する。さらに、「栽培化・育種」を例に、これらのシステムがどのように改変・利用されてきたかを取り上げる。 【到達目標】 植物の体の構造やライフサイクル、生殖過程を生物学的に説明できるようになることを目標とする。また、発芽・成長・開花・収量・品質など育種に重要な形質がどのような分子機構によって制御されているかを理解し、その知識をもとに作物改良の方向性を考察できる基礎的な力を身につける。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C および D に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション：進化する作物と育種学 [第 2 回] 遺伝の基礎：形質が伝わり多様化する仕組み [第 3 回] 植物のボディプランと生活環の変遷 [第 4 回] 地球と植物進化の相互作用 [第 5 回] 種子と花の発明 [第 6 回] 人類が引き起こした進化：栽培化 [第 7 回] いつ芽を出すか？種子休眠と育種のジレンマ [第 8 回] 植物が曲がる理由：屈曲性の制御 [第 9 回] いつ収穫できるか？花成ホルモンと早晩性 [第 10 回] 収量を増やす幹細胞制御 [第 11 回] ロスを減らす工夫 1：草丈と脱粒性 [第 12 回] ロスを減らす工夫 2：老化と熟成 [第 13 回] 美味しさの育種：食感・味・毒性 [第 14 回] まとめ		
3. 履修上の注意 分子生物学・遺伝学や植物科学に関する農学基礎科目を履修しておくか、事前に自分で学習しておくことが望ましいですが、事前知識がなくても理解できるよう最低限の補足を行います。植物育種学（3 年次）の基礎となるので、この分野に興味がある場合は 2 年次に履修することを勧めます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した内容について、配布資料や参考書を用いて適宜復習すること。 不明な部分や興味を持った点がある場合、自ら文献を調査する・質問するなどして理解を深めること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 講義中に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に説明するか、もしくは Oh-o!Meiji システムを介して行う。		
8. 成績評価の方法 成績は定期試験 70%と、出席・小テスト 30%の合計で評価します。		
9. その他 植物育種学研究室（5 号館 2 階 209A 室） オフィスアワー：特に定めません。在室時であればいつでも来てください。事前に連絡をいただければ、確実に在室している日時を調整します。連絡先は最初の講義で周知します。		

科目ナンバー (AG) AGR251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 測量学Ⅰ	2 単位	樽屋 啓之
2022～2025 年度入学者 測量学Ⅰ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 測量は、地表面上の諸点の位置情報を取得・処理・記述するための技術であり、国土の利用に必須のものである。 測量学Ⅰでは、測量学の基礎の習得に主眼を置き、基本的な計測技術や理論等の習得を目的とする。 《授業の概要》 地上測量（距離測量・角測量・水準測量）によって測量の三要素（距離・角度・高さ）を計測し、地表面上の諸点の座標を決定することにより各種地図の作成につなぐための基礎的な手法を学ぶ。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標のCに対応する科目である。		
2. 授業内容 [第1回] イントロダクション [第2回] 距離の計測法と測定データのまとめ方 [第3回] 角度の計測法と測定データのまとめ方 [第4回] 水準測量の方法と測定データのまとめ方 [第5回] 測量の座標系の表し方と三角・水準測量 [第6回] 基準点測量とトラバース測量の方法 [第7回] 測量誤差の処理方法 [第8回] 地形測量の目的と方法 [第9回] 測量データによる面積と体積の算定方法 [第10回] 測定データの保存・管理と電子平板 [第11回] 河川、水路、道路の測量と設計・施工 [第12回] 写真測量の目的と方法 [第13回] 地図の作成とGIS [第14回] 要点とまとめ		
3. 履修上の注意 引き続き、測量学Ⅱを履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の最後に、次の授業の予習項目を伝えるので、該当する箇所を予習しておくこと。 授業後は、講義内容について整理し、授業で扱った課題について復習すること。		
5. 教科書 『絵とき測量』 粟津清蔵監修 包国勝・茶畑洋介・平田健一・小松博英 共著（オーム社）		
6. 参考書 『図説わかる測量』猪木幹雄ほか（学芸出版社） 『基礎測量学』長谷川昌弘ほか（電気書院）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で取り扱った課題は回答期間の終了後、Oh-o!Meiji で解答および解説を公開する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70% 平常点（課題提出などを含む）30%		
9. その他 オフィスアワー：最初の講義で指示する。		

科目ナンバー (AG) BBI194J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農学基礎実験 (1 班) (2 班)	1 単位	網島 彩香
2022～2025 年度入学者 農学基礎実験 (1 班) (2 班)		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農学科では様々な分野の教育・研究が行われている。本実験では、各分野に共通して必要とされる基礎的な実験・調査の方法、さらには、データの処理方法やレポートの書き方について学ぶことを目標としている。 《授業の概要》 農学科基礎科目群の導入科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の D・G・H に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンス（安全教育、倫理教育） 第 2 回：キャンパスツアー 第 3 回：レポート作成法 第 4 回：図書館を活用した文献検索 第 5 回：野外調査 第 6 回：観察とスケッチ 第 7 回：顕微鏡を用いた観察と計測 第 8 回：試薬の調製 第 9 回：無菌操作 第 10 回：電気泳動 第 11 回：データの処理と統計 第 12 回：まとめ ※この実験授業は 3・4 限セットで 1 回と記載している。 ※実験材料や天候の都合により、実験内容や順番が変更される場合もある。		
3. 履修上の注意 実験中は白衣を着用すること。また、屋外に出る場合もあるので動きやすい服装を心がけること。毎回、実験のはじめには説明を行うので、遅刻することのないように注意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後のレポート課題は遅れずに提出すること。		
5. 教科書 必要な資料は配付する。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席状況を含む実験への取り組み態度およびレポートの提出状況により評価する。		
9. その他 応用昆虫学研究室（5 号館 2 階 208A 号室） オフィスアワー：火曜日 12:40～13:20、会議や出張が多いため事前に連絡することが望ましい。 連絡先：mushi(at)meiji.ac.jp (at)を@に変更すること。 植物病理学研究室（5 号館 3 階 302 号室） オフィスアワー：金曜日 12：40～13：20 連絡先：E-mail：ohsato.meiji(at)gmail.com (at)を@に変更すること。		

科目ナンバー (AG) IND311J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 技術者倫理	2 単位	名倉 理紗
2022～2025 年度入学者 技術者倫理		
1. 授業の概要・到達目標 本授業は、技術士（農業部門 農業土木）を有している講師が、当該資格をもって企業での業務に従事した実務経験をもとに、技術者倫理の重要性や適切な対応・行動等について講義を行うものである。 特に、大学で学んだことを活かした職業への就職を希望している方に受講を勧める。 近年の技術革新は、産業の発展の源であり、現代経済社会の発展の源である一方、社会及び環境に対して大変大きな影響力を持っている。倫理に反する事故、偽装、不正行為は社会の信用を著しく低下させるため、技術の担い手である技術者一人一人が、技術者倫理を理解し行動することが大変重要である。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の B に対応する科目である。 《到達目標》 1. 技術者倫理の必要性について理解する。 2. 技術者は専門家であるがゆえに社会に対して重大な責任があることを認識できる。 3. 公衆の安全を守ることが最重要であることを認識する。 4. 組織の中での技術者のとるべき行動について認識する。 5. 自分とは意見が異なる人がいることを理解し、コミュニケーションの重要性を認識する。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンス・技術者倫理とは 第 2 回：技術者倫理の重要性及び技術者倫理の重層構造、技術士の義務と責務、技術士制度と技術士法における倫理規定 第 3 回：組織における技術者倫理（1）（スペースシャトル事故の事例と教訓等） 第 4 回：組織における技術者倫理（2）（組織での技術者の在り方） 第 5 回：技術者のアイデンティティ 第 6 回：事故の責任 第 7 回：法的責任とモラル責任 第 8 回：コンプライアンス・AI 利用 第 9 回：説明責任 第 10 回：内部告発・警笛鳴らし 第 11 回：公務員倫理 第 12 回：ライティングディベート 第 13 回：ライティングディベート解説 第 14 回：a: 技術者倫理のまとめ b: 試験（記述式）		
3. 履修上の注意 ・技術者倫理は、実際に起きている事故・偽装・不正行為の事例からの教訓を学ぶことが必要であるため、日頃から技術に関連するニュースをチェックすること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・配布資料をよく読み、授業で説明したことを復習すること。		
5. 教科書 特に定めない。授業にてプリントを配布する。		
6. 参考書 特に定めない。授業にてプリントを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験の解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 ・第 14 回（最終回）の試験 70% ・平常点（授業参加、課題の提出） 30%		
9. その他 ・連絡先：（名倉）r-nagura@in-lab.co.jp メールの件名の最初に【技術者倫理】と記載すること。		

--

科目ナンバー (AG) AGR221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 作物学概論	2 単位	塩津 文隆
2022～2025 年度入学者 作物学概論		
1. 授業の概要・到達目標 作物学は、人類の生存に必須である食糧生産に作物生産の理論と技術を与える主要な学問である。本講義では、作物と人類とのかかわり、作物生産過程の基本と環境との関係、作物の栽培・管理技術などについて概説する。 作物の特徴や作物学の基礎的理論を修得する。また、作物の生育と環境との関係ならびに生産を制限する要因を理解し、それらを作物学が関連する分野において応用する能力を修得する。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C および D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション（農業と作物） 第 2 回：日本と世界の作物生産 第 3 回：作物の種類と品種 第 4 回：作物の形態学的特徴 第 5 回：作物の形態形成と生活環 第 6 回：作物の生理・生態 第 7 回：作物の光合成・呼吸 第 8 回：作物の養水分吸収 第 9 回：作物生産と環境 第 10 回：作物の多収とその基礎 第 11 回：作物の栽培と管理 1 耕耘，施肥，雑草防除など 第 12 回：作物の栽培と管理技術 2 作付体系，持続的作物生産 第 13 回：収穫物の品質と機能性 第 14 回：作物生産の課題および将来展望		
3. 履修上の注意 あらかじめ「栽培学入門」、「農学実験Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では教科書や参考書を読んで概要を把握すること。復習ではキーワードや専門用語をおさえ、それらの意味を整理すること。		
5. 教科書 指定しない		
6. 参考書 『作物学概論』 斎藤邦行・今井勝 他著（八千代出版） 『作物学概論』 大門弘幸 編著（朝倉書店） 『作物学 第 2 版』 根本圭介・平田昌彦 編著（文永堂出版） 『作物学用語事典』 日本作物学会 編（農文協） 『作物生産生理学の基礎』 平沢正・大杉立 編著（農文協）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験（100％） なお、変更がある場合は講義で周知する。		
9. その他 作物学研究室（5 号館 2 階 202A 室） オフィスアワー：水曜日 12：30～13：20、質問などがあれば研究室まで来てください。 連絡先は講義内で周知する。		

科目ナンバー (AG) AGR231J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 園芸学概論	2 単位	岩崎直・半田・元木
2022～2025 年度入学者 園芸学概論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 園芸作物の特徴および園芸学の基礎理論を理解し、園芸学が包含する各分野に応用する能力を修得する。 《授業の概要》 園芸学とは果樹、野菜、花き（観賞植物）作物に関する科学であり、それらの育種、生産、保蔵、流通、利用、加工などを含めた広い分野が体系化されている。本講義では園芸学の各分野における基礎的な事項を概説する。農学科、生物資源関係の専攻科目（共通基幹科目）で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C および D に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] a：園芸の定義と範囲（元木） b：園芸の起源と役割（元木） [第 2 回]：園芸作物の生理（岩崎） [第 3 回]：果樹園芸の定義・特徴（岩崎） [第 4 回]：果樹園芸の発達の歴史・果樹の起源と分類（岩崎） [第 5 回]：樹体の生育と環境（岩崎） [第 6 回]：結実の生理（岩崎） [第 7 回]：野菜園芸の基礎（元木） [第 8 回]：野菜園芸の歴史と発展（元木） [第 9 回]：野菜栽培の基礎と実際（元木） [第 10 回]：野菜の食品価値（元木） [第 11 回]：花卉園芸の歴史と文化（半田） [第 12 回]：花卉遺伝資源と分類（半田） [第 13 回]：花卉の育種と繁殖（半田） [第 14 回]：花卉の栽培と利用（半田）		
3. 履修上の注意 授業内容と順序は変更する場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 植物関連の農学基礎科目（植物分類・形態学、基礎植物育種学、植物遺伝資源学、植物生理生態学）を履修しておくかまたは事前に自分で学習しておくこと。		
5. 教科書 指定なし。		
6. 参考書 「園芸学の基礎」（鈴木正彦編著、農文協） 「園芸学入門 第 2 版」（今西秀雄・小池安比古編著、朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席回数 6 割以上の者を評価対象とし、定期試験で評価する。		
9. その他 オフィスアワー 岩崎直人（果樹園芸学研究室、5 号館 3 階 306 A） 水曜日：12：40－13：30 半田 高（花卉園芸学研究室、5 号館 3 階 303 A） 火曜日：12：40－13：20 元木 悟（野菜園芸学研究室、5 号館 3 階 301 A） 水曜日：12：30－13：00 質問などがあれば気軽に研究室まで来てください。		

科目ナンバー (AG) AGR261J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物生産・福祉学	2 単位	佐々木 羊介
2022～2025 年度入学者 動物生産・福祉学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農場の大規模化に伴い、飼養管理の方法が個体管理から群管理へ変遷したことにより、動物生産の現場では動物福祉（アニマルウェルフェア）の考え方を踏まえた飼養管理が求められている。そこで本授業では、動物生産に関する基本的な知識や動物福祉に関する考え方および疫学のアプローチを幅広く学習し、理解することを目的とする。 《授業の概要》 本授業では、ウシ・ブタ・ニワトリなどの産業動物における飼養管理と動物福祉（アニマルウェルフェア）や疫学を用いた疾病の予防方法等に関して解説する。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：動物生産・福祉学の概要 第 2 回：産業動物の生産/経営システム 第 3 回：産業動物に対する動物福祉（アニマルウェルフェア） 第 4 回：ウシの飼養管理とアニマルウェルフェア 第 5 回：ブタの飼養管理とアニマルウェルフェア 第 6 回：ニワトリの飼養管理とアニマルウェルフェア 第 7 回：産業動物に関する学術研究の発展方法 1 第 8 回：産業動物に関する学術研究の発展方法 2 第 9 回：疫学の概要と動物生産における活用法 第 10 回：疫学研究と実験デザインの設定 1 第 11 回：疫学研究と実験デザインの設定 2 第 12 回：防疫体制と疾病の予防方法 第 13 回：生産データの活用法や経済評価 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 講義内容について、小テストまたは課題に対するレポートの提出を課すため、提出期限を厳守すること。本講義を履修前または同時期に動物関連の科目を履修していることが望ましい。特にアニマルサイエンス入門と動物資源繁殖学を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各授業における講義資料を Web で配布するため、資料を用いて予習・復習を行うこと。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 畜産学入門（文永堂出版、2012） 最新 畜産ハンドブック（講談社、2014） 獣医疫学〈第三版〉（近代出版、2022）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける		
8. 成績評価の方法 毎回出席を取り、講義での定期テスト（50%）、課題レポート 2 回（30%）、小テスト（20%）で評価する。		
9. その他 動物生産学研究室（5 号館 5 階 501A） オフィスアワー：火曜日：12:30～13:10		

科目ナンバー (AG) AGR241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物保護学概論	2 単位	糸山・大里・新屋
2022～2025 年度入学者 植物保護学概論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 植物保護学は植物の病気や害虫，線虫等による被害の防除を目的とする分野である。植物保護学概論では，病害虫の特徴や植物と病害虫との相互関係について広く理解し，植物病理学，応用昆虫学，植物線虫学の基礎的知識を習得することを目標とする。 《授業の概要》 植物病理学の分野では，病気の原因や伝染方法を解明し，それを防ぐための基礎的・応用的手法を研究する。本講義では，植物の病気がどのような病原によって，どのような環境下で，どのような機構で引き起こされるかを概説する。応用昆虫学の分野では，昆虫の生理・生態学的な特性を活かした害虫防除方法を研究する。本講義では，昆虫に関する様々な基礎的知見を概説し，新たな害虫管理について考察する。植物線虫学の分野では，線虫の生物学的特性を解明し，新たな防除法の開発に繋がる研究を行う。本講義では，線虫という生物を知ることから始め，農林業上の問題や防除法についても概説する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては，学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション：植物の病害虫とは何か？（糸山①） 第 2 回：昆虫と人間の関わり（糸山②） 第 3 回：昆虫の生活史特性（糸山③） 第 4 回：植物の病気とは（大里①） 第 5 回：病原と病気の発生（大里②） 第 6 回：植物の伝染病（大里③） 第 7 回：小さな巨人－線虫（新屋①） 第 8 回：線虫の多様な生活史（新屋②） 第 9 回：農薬を減らす本当の理由（糸山④） 第 10 回：害虫と付き合う方法（糸山⑤） 第 11 回：昆虫とヒトの病気（糸山⑥） 第 12 回：線虫と他の生物の関係（新屋③） 第 13 回：植物寄生性線虫病（新屋④） 第 14 回：病気の伝染・診断・管理（大里④） ※講義の内容や順序は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 レポートの提出期限は厳守すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 生物学，化学の基礎的素養を習得しておくこと。		
5. 教科書		
6. 参考書 『植物病理学』 眞山滋志ら 著（文永堂出版） 『植物病理学』 大木理 著（東京化学同人） 『植物医科学』 難波成任ら 著（養賢堂） 『応用昆虫学』 石川幸男・野村昌史 編著（朝倉書店） 『バイオロジカル・コントロール 第 2 版』 仲井まどか・日本典秀 編著（朝倉書店） 『線虫の生物学』 石橋信義 著（東京大学出版会）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験の答えは採点後に Oh-o! Meiji で返却する。		
8. 成績評価の方法 期末試験（75%）とレポート（25%）で評価する。		
9. その他 糸山：応用昆虫学研究室（5 号館 2 階 208 号室） オフィスアワー：火曜日 12:40～13:20		

連絡先：E-mail：mushi@meiji.ac.jp（◎は@）

大里：植物病理学研究室（5号館3階302号室）

オフィスアワー：木曜日および金曜日 12:30～13:30

連絡先：E-mail：ohsato.meiji@gmail.com（◎は@）

新屋：植物線虫学研究室（5号館3階307号室）

オフィスアワー：在室していれば随時可。

※各研究室のHP等も参照すること。

科目ナンバー (AG) AGR281J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境気象学	2 単位	矢崎 友嗣
2022～2025 年度入学者 環境気象学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本科目は、持続可能な人間活動と自然環境の両立に関係する気象や気候、植物生産に関する基礎的知識の習得を目標とする。授業では、全球～局地スケールあるいは群落スケールといった様々なスケールでの気象現象、生態系の水・物質循環について考え方を説明し、人の生活環境や農業生産との関係や、近年問題となっている気候変化（地球温暖化）について理解することを目標とする。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C および D に対応する科目である。 《授業の概要》 本科目は 4 つのパートに分けられる。まず、様々なスケールでの気象現象と生活環境について説明し、続いてさまざまな生態系の水、エネルギー、物質循環を説明する。最後に、地球温暖化の現状、影響と対策、近年の新たな環境評価技術について紹介する。		
2. 授業内容 環境気象学 第一部 様々なスケールの気象現象 第 1 回：「環境気象学」で学ぶこと（イントロダクション） 第 2 回：全球スケールの気象と気候、バイオームの形成 第 3 回：(a) バイオームの一次生産 (b) メソスケールの気象 第 4 回：(a) 地形がつくる局地気象 (b) 都市の気象（ヒートアイランド） 第二部 生態系の環境調節機能と水・炭素循環 第 5 回：生態系がもつ環境調節機能とその評価 第 6 回：水循環 と地表面エネルギー収支 第 7 回：陸域生態系の炭素循環と遷移や攪乱の影響 第三部 地球温暖化と大気汚染 第 8 回：地球温暖化 ―現状とメカニズム、及び対策 第 9 回：地球温暖化緩和と生態系保全 第 10 回：大気汚染・酸性雨とオゾン層破壊 第四部 環境変化や気象災害に適応するための新たな技術 第 11 回：気象観測とリモートセンシング技術 第 12 回：生態系保全や農業生産現場における微気象や炭素循環の解析と予測 第 13 回：数値モデルを利用した環境モニタリング 第 14 回：まとめと振り返りと補足		
3. 履修上の注意 ランドスケープ入門、農学実験Ⅴ、3 年生科目の生産気象学とあわせて履修すると理解が深化する。 普段から気象や環境問題に関するニュースや記事などに関心を持っておくこと。 計算問題を解くことがあるので関数電卓や表計算ソフトがインストールされたパソコンを準備してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布する資料や講義内容を振り返り、不明な部分があれば質問するなど、不明な点は残さないこと。		
5. 教科書 パワーポイントと配布資料により授業を進める。		
6. 参考書 『農業気象・環境学 第 3 版』大政謙次ほか（朝倉書店） 2020 年 『農業気象学入門』鮫島良次ほか（文永堂出版） 2021 年 『農学・生態学のための気象環境学』文字信貴他（丸善） 1997 年 『地球環境変動の生態学』日本生態学会編（共立出版） 『気象ハンドブック第 3 版』新田尚 他著（朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回、OhoMeiji 上で理解を問う課題を掲示し、後日解説する。またコメントを残せるようにする。 テストの答えは、採点后 Oho Meiji で返却し、各自振り返ることができるようにする。		
8. 成績評価の方法 評価は、授業後に提示する理解を問う課題（計 30％）と試験（70％）で行う。		

9. その他

連絡先：環境気象学研究室（4号館 308A 号室）

yazakitm@meiji.ac.jp

オフィスアワーは設定しませんが、授業の質問は授業後や対応可能な時に受付けます。

メールでお問い合わせください。

科目ナンバー (AG) AGR251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農地工学	2 単位	小島 信彦
2022～2025 年度入学者 農地工学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 作物生産は、水田や畑を灌漑するための水、肥沃な土壌を適切に管理することによって可能になる。また、食料生産には、農地を取り巻く周辺の自然環境との適切な関係が重要である。 この授業では、農地工学の歴史を概観した上で、水田と畑の構造と機能、水田と畑の灌漑・排水、農地防災の諸問題まで、農地に関する様々な工学的な視点を提供する。 《授業の達成目標》 農地工学の必要性とその内容、食料生産と農地整備の関係を理解することを目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の A・C・E に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：農地および農地環境工学 第 2 回：農業農村整備事業と土地改良法 第 3 回：水田の圃場整備 (1) 第 4 回：水田の圃場整備 (2) 第 5 回：水田の灌漑と排水 (1) 第 6 回：水田の灌漑と排水 (2) 第 7 回：畑地の圃場整備と造成 第 8 回：畑地の灌漑と排水 (1) 第 9 回：畑地の灌漑と排水 (2) 第 10 回：農地の保全と防災 (1) 第 11 回：農地の保全と防災 (2) 第 12 回：農地の多面的機能 第 13 回：乾燥地・開発地域の農地環境工学 (1) 第 14 回：乾燥地・開発地域の農地環境工学 (2)		
3. 履修上の注意 授業の順序を変更することがある。 生産環境学入門を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義は教科書に沿って進めるので、予習によって不明な用語等を把握して講義の際に確認することを勧める。 復習の小テストを行うので必ず解答すること。		
5. 教科書 『農地環境工学第 2 版』塩沢昌・山路永司・吉田修一郎編（文永堂出版）		
6. 参考書 必要に応じて講義中に示す。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji の小テスト機能の正答例によって行う。		
8. 成績評価の方法 小テスト 20%と期末テスト 80%の合計で評価する。		
9. その他 オフィスアワー 小島信彦：水資源学研究室（4 号館 3 階 304 A 号室） 水曜日 12：40～13：20		

科目ナンバー (AG) AGR251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 応用力学	2 単位	小林 大樹
2022～2025 年度入学者 応用力学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ダムや水路，橋梁など農業生産を支える様々な構造物を設計するためには，外力の作用のもとで構造物内部にはたらく力と構造物の変位を正しく求めることが必要である。 本講義では構造物を設計するために必要な諸量の基本的な計算手法を習得することを目標とする。 《授業の概要》 応用力学では，力のつり合いにより静定構造物の支点反力や断面力が計算できることを学ぶ。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては，学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション、力の合成と分解 第 2 回：関数電卓の使い方、モーメント 第 3 回：外力と構造物のモデル化 第 4 回：はりの断面力①：単純ばり、集中荷重 第 5 回：はりの断面力②：単純ばり、等分布荷重 第 6 回：はりの断面力③：片持ちばり 第 7 回：はりの断面力④：張出しばり 第 8 回：はりにおける荷重と各断面力の関係 第 9 回：材料の性質と強さ 第 10 回：断面の性質①：断面 1 次モーメント 第 11 回：断面の性質②：断面 2 次モーメント 第 12 回：部材の応力①：曲げ応力 第 13 回：部材の応力②：せん断応力 第 14 回：要点整理		
3. 履修上の注意 1) 「力」の基礎から解説するので、高校物理の履修を必須としない。 2) 引き続き，構造力学を履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、講義予定項目について教科書の該当部分を読んでおくこと。また講義後は該当する教科書のページを再確認して、課題や演習問題に取り組むこと。		
5. 教科書 『基礎から学ぶ構造力学』藤本一男他（森北出版）		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業の最後に演習問題を課題として与える。 課題のフィードバックは次回の授業にて行う。		
8. 成績評価の方法 平常点（課題提出）：30％ 定期試験：70％		
9. その他 オフィスアワー：最初の講義で指示する。 連絡先（mail）：kobayashi_d@meiji.ac.jp 授業と定期試験において関数電卓を使用する。 関数電卓は Canon F-789SG を推奨し、授業中でこの機種を使って使用方法の説明をする。		

科目ナンバー (AG) AGR251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 土質力学	2 単位	森 洋
2022～2025 年度入学者 土質力学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 地下水の過剰な汲み上げによる地盤沈下、大雨による斜面崩壊や地震による液状化現象などは、農地や農業水利施設へも大きな影響を与える。施設構造物の構築のみならず防災面からも、地盤を構成する土の力学的特性について知ることは重要である。土質力学では、土の基本的物理量の表わし方を学んだ後、土の種類や水分量の違いによって地盤に生じる様々な破壊現象について、そのメカニズムを考える。また、土質力学は、水理学や構造力学、応用力学、測量学と並んで農業生産環境設備に関する大事な基礎科目の一つである。 《到達目標》 土の力学的特性の基礎を理解し、持続的食糧生産の基盤となる農地、並びに農地周辺での地盤に生じる破壊現象に関して正しく理解して説明できることを目標とする。専攻科目群＜基幹科目＞においては、学習・教育目標の C (◎)・D (○) に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：土質力学一般 第 2 回：土の基本的物理量 第 3 回：土のコンシステンシー 第 4 回：確認問題解説 1 第 5 回：土の締固め 第 6 回：土の透水 第 7 回：確認問題解説 2 第 8 回：有効応力と間隙水圧 第 9 回：土の圧密 第 10 回：確認問題解説 3 第 11 回：土のせん断強度 第 12 回：土圧 第 13 回：確認問題解説 4 第 14 回：支持力・斜面安定・地中内応力		
3. 履修上の注意 「応用力学」や「構造力学」を履修することが望ましい。 前回の授業内容に関わる確認問題（小テスト）を毎回課しながら、その理解度に従って授業を進めていく。 関数電卓を常備すること。 教科書の購入を奨励するが、購入しなくても済むように関係するプリントを配付する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、教科書の該当箇所を読んでおくこと。 復習として、教科書の該当箇所を再度読みながら確認問題を解くこと。		
5. 教科書 『土質力学』 石原研而・著（丸善出版）		
6. 参考書 『土質実験 基本と手引き』 地盤工学会編（丸善出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 前回の授業内容に関わる確認問題（小テスト）の解答を、次回の授業で解説することで課題に対するフィードバックを実施する。		
8. 成績評価の方法 確認問題（小テスト） 60%と平常点（授業への参加態度・貢献度） 40%		
9. その他 オフィスアワーと連絡先：最初の講義で提示する。		

科目ナンバー (AG) AGR251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 水理学	2 単位	小島 信彦
2022～2025 年度入学者 水理学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 水理学では、河川・運河・農業用排水路など土木工学の一分野として、流れを取り扱うのが一般的であるが、その他、水辺の空間の利用や公園のせせらぎなど、地域環境の整備に水を使用する場合にも、水の挙動の基本的な性質を知っていることは重要である。また、水理学は生産環境整備に関わる大事な基礎科目の一つである。 講義では、最初に水の基本的性質について解説を行う。つぎに、水の流れの性質や表わし方について学ぶ。 《到達目標》 水理学では、水の流れに関する基本的事項を理解し、実際の水理設計へ適応させるための基礎を身につけることを目的とする。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a：水理学とは何か b：水理学の対象となる構造物と流れ 第 2 回：水の物理的性質流れ 第 3 回：水の流れの種類 第 4 回：静水圧の性質 第 5 回：マノメーター 第 6 回：連続の式とベルヌーイの定理 第 7 回：ベルヌーイの定理の応用 第 8 回：小オリフィス・大オリフィス 第 9 回：もぐりオリフィス 第 10 回：口金 第 11 回：平板に作用する水圧 第 12 回：傾斜平板に作用する水圧 第 13 回：浮体と浮力 第 14 回：水門・まとめ ※理解度によって内容・進度を変更することがある。		
3. 履修上の注意 講義は、高校の数学 II までに学んだことを基礎として行う。「生産環境学入門」、「農地工学」を履修していることが望ましい。実務に興味のある学生は応用水理学の履修を推奨する。また、農学実験 VI では水理学に関する基礎的な実験を行うので、履修することを推奨する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回復習の宿題を出すので、決められた期日までに必ず提出すること。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 水理学の教科書は多数出版されているので、購入する場合は吟味して自分に合ったものを見つけること。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の宿題は次の回の授業の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験（70%）および復習の宿題（毎週提出）（30%）により評価する。宿題の提出が 7 割に満たない場合は評価の対象としない。		
9. その他 水資源学研究室（4 号館 3 階 304 A 号室） オフィスアワー：水曜日 12：40～13：20		

科目ナンバー (AG) AGR291J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生産システム学概論	2 単位	池田 敬
2022～2025 年度入学者 生産システム学概論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 食料生産を支える、農業技術・生産システムにはどのようなものがあるのか、特に農業現場に出たことのない学生にも分かりやすく説明する。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標のCに対応する科目である。 《授業の概要》 農業は生物を育てることで人間の生活を豊かにする産業であるが、それには数多くの要因が複雑に絡み合っている。生産システム学概論では、農業生産システムの入門編として、現在の農業が抱える問題や改善点を具体的な事例を挙げて紹介し、体系化された農業システム下でどのような解決法があるのか、考えるようにする。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション 生産システムとは 第2回：現在の農業が抱える問題 その1 第3回：現在の農業が抱える問題 その2 第4回：民間の農業参入 第5回：農業生産におけるシステム化1 苗 第6回：農業生産におけるシステム化2 施設栽培と養液栽培 第7回：農業生産におけるシステム化3 植物工場 第8回：農業生産におけるシステム化4 トマト栽培 第9回：農業生産におけるシステム化5 イチゴ栽培 第10回：農業生産におけるシステム化6 収穫後システム 第11回：環境保全型農業 第12回：流通のシステム化 第13回：農業情報処理 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 授業は、幅広い農学分野を紹介します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞等の農業に関する記事を注視すること。		
5. 教科書 授業中に資料を配付する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験で評価を行う。		
9. その他 オフィスアワー 木曜日昼休み		

科目ナンバー (AG) AGR261J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物行動学	2 単位	川口 真以子
2022～2025 年度入学者 動物行動学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標及びテーマ》 動物はどのような時にどのような行動をするのだろうか。本講義では、産業動物や伴侶動物といった家畜の典型的な行動とその発現機序を理解することにより、話すことのできない動物の福祉と効率的な飼育管理の両立に有用な知識を習得することを目標とする。 《授業の概要》 主要な家畜や実験動物における社会性、情動、繁殖、養育、摂食などの行動について紹介し、その背景となる生理、神経-内分泌について解説する。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：動物行動学の概論と家畜の起源 第 2 回：社会性行動 第 3 回：動物行動の調節機構：脳 第 4 回：動物行動の調節機構：ホルモン 第 5 回：情動行動 第 6 回：なわばりとフェロモン 第 7 回：学習行動 第 8 回：脳の性分化 第 9 回：動物行動学研究の基礎的手法 第 10 回：摂食行動 第 11 回：性行動ときずなの形成 第 12 回：養育行動 第 13 回：攻撃行動 第 14 回：遊び行動 その他、野生動物の行動、行動学的研究に関する話題 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本講義を履修前、または同時期に、動物生理・栄養学や農学実験 II など動物関連の科目を履修していることが望ましい。配布資料や参考書をよく読んで理解を深め、動物行動の面白さや様々な動物とのかかわりの楽しさを知って欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に Oh-o! Meiji より配布資料をダウンロードし読むこと。授業の後には授業内容を参考書等も用いて理解しなおすこと。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『脳とホルモンの行動学 わかりやすい行動神経内分泌学 第 2 版』近藤保彦ら 著（西村書店） 『改訂版 動物行動図説』動物の行動と管理学会 編（朝倉書店） 『カールソン神経科学テキスト 一脳と行動一 原書 13 版』Neil R. Carlson 著 中村 克樹 監訳（丸善出版） 『獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 動物行動学』森祐司ら 著（インターズー） 『ソロモンの指輪』Konrad Lorenz 著 日高敏隆 訳（早川書房）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義で提示される課題について、必要に応じて講義にて解説する。		
8. 成績評価の方法 ミニテスト（50％）と学期末試験（50％）を行い合計したものを評価とする。		
9. その他 動物環境学研究室（5 号館 5 階 502 号室） オフィスアワー：講義終了後 10 分。		

科目ナンバー (AG) AGR211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 資源植物学	2 単位	元木 悟
2022～2025 年度入学者 資源植物学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 資源植物と人間の関わりを理解し、利用部位や利用目的に基づいて資源植物を分類・把握するとともに、資源植物の特徴やその利用について学ぶ。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。 《授業の概要》 人類は多くの植物を資源として利用し、食糧など生存に必要な資源植物を手に入れている。資源植物には、穀類や豆類、野菜類、牧草類ばかりでなく、人間の役に立つ多くの作物種やその近縁種が幅広く含まれる。本講義では、利用部位とその生産性の特性、資源植物の多様性とその環境適応性について概説する。		
2. 授業内容 第 1 回 a のみ：資源植物の定義 第 2 回：地球上の生物と資源植物 第 3 回：利用部位による分類と基本的な形態 第 4 回：資源植物の利用形態とその利用（種子・果実）その 1 第 5 回：資源植物の利用形態とその利用（種子・果実）その 2 第 6 回：資源植物の利用形態とその利用（種子・果実）その 3 第 7 回：資源植物の利用形態とその利用（茎・根）その 1 第 8 回：資源植物の利用形態とその利用（茎・根）その 2 第 9 回：資源植物の利用形態とその利用（茎・根）その 3 第 10 回：資源植物の利用形態とその利用（葉・花）その 1 第 11 回：資源植物の利用形態とその利用（葉・花）その 2 第 12 回：資源植物の利用形態とその利用（葉・花）その 3 第 13 回：資源植物の多様性とその利用（薬用資源植物など） 第 14 回：資源植物の多様性とその利用（工業原料作物と飼料作物など）		
3. 履修上の注意 栽培学入門など、植物関連の基礎科目を履修していると理解しやすい。 授業内容と順序は変更する場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 植物関連の農学基礎科目（栽培学入門など）を履修しておくか、または事前に自分で学習しておくこと。		
5. 教科書 特に指定しないが、必要な資料は配付する。		
6. 参考書 講義のなかで紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席回数 6 割以上の者を評価対象とし、定期試験 100%で評価する。		
9. その他 野菜園芸学研究室（5 号館 3 階 301A） オフィスアワー： 水曜日 12：30－13：00 E-mail： motoki@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) BB1271J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 保全生態学	2 単位	岡田 久子
2022～2025 年度入学者 保全生態学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 現代は生命の歴史始まって以来の大量絶滅の時代であり、この生物多様性の危機を救い、健全な生態系を維持するための科学である保全生態学の体系を身につける。保全生態学は基礎学と応用学の両面を持っているので、基礎的な知識を習得するだけでなく、生きものの保全のあり方を自分のものとすることを目標とする。 《授業の概要》 地球に生まれた生物はさまざまな環境で進化してきた。地球の歴史、生物の歴史を振り返り、生物と自然環境との相互作用を考える。地球上のあらゆる環境はそれぞれの地形と歴史に育まれたもので、わが国の主要な自然である里山などの二次的な自然や湖・河川などを対象に生物多様性の重要性を理解する。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習教育目標の A・C・E に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：なぜ保全生態学を学ぶのか 第 2 回：自然に対する人間の影響 第 3 回：生息地の破壊 第 4 回：生息地のかく乱 第 5 回：持続可能性はなくなったのか 第 6 回：保護区の選定 第 7 回：保護区の設計と管理 第 8 回：生物多様性とはなにか 第 9 回：森川海のつながり 第 10 回：生態系の機能と構造 第 11 回：生態系における生物生産 第 12 回：生態系とランドスケープの保全 第 13 回：生態学的な復元 第 14 回 a のみ：生物多様性国家戦略から学ぶ		
3. 履修上の注意 生物多様性や自然環境の保全のニュースの背景に関心をもってほしい。明治大学のキャンパスとその周辺の自然にあり方について見識を持ってほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で示した内容について調べておく。		
5. 教科書 使用しない。資料を配布する。		
6. 参考書 『保全生態学入門』 鷲谷いづみ・矢原徹一（文一総合出版） 『保全生物学』 樋口広芳ほか（東大出版会）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末レポート 85%、平常点（小課題などの提出物）15% により評価する。 欠席が 5 回を超える場合は、学期末レポートを受けつけない。		
9. その他 2 号館 1 階講師控室 および 応用植物生態学研究室（4 号館 2 階 213 号室） オフィスアワー：授業の前後 1 時間 E-mail: hokada@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) ENV221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ランドスケープデザイン学	2 単位	菅野 博貢
2022～2025 年度入学者 ランドスケープデザイン学		
1. 授業の概要・到達目標 「ランドスケープデザイン学」では、私たちの身近な生活空間から都市・農村空間までの幅広い環境を対象とし、造園学、都市計画学、建築学等の視点から、それらの有する形態・デザインを読み解くための知識を身に着けます。最初に空間の読み解き方について解説した後、日本と西洋の歴史的ランドスケープデザインを学びつつ、それらが現代の空間に用いられていることを見ていきます。伝統的な環境デザインについて一通り学んだ後に、現代の都市や農村空間の成り立ち、問題点についても考えていきます。 身近な生活環境を見る目を養いつつ、都市や農村の景観、環境問題について自律的に考える能力を身につけることを達成目標とします。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の D・E に対応する科目となります（2023 年度入学者まで対象）。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション - ランドスケープ・デザインとは何か？ 第 2 回 ランドスケープ・デザインの基本的な見方（前半） 第 3 回 ランドスケープ・デザインの基本的な見方（後半）／日本の基層文化と庭園のはじまり 第 4 回 仏教伝来（浄土式庭園）から平安時代の庭園 第 5 回 書院の庭／禅宗の庭 第 6 回 露地の空間 第 7 回 大名庭園／中国の庭園 第 8 回 西洋の古代～中世の空間デザインとその今日的空間への応用 第 9 回 中世の庭園／イスラムの庭園 第 10 回 イタリア庭園、フランス整形園のデザインとその今日的空間への応用 第 11 回 イギリス風景園及びガーデニングのデザインと今日的空間への応用 第 12 回 19 世紀末のデザイン 第 13 回 20 世紀前半のデザイン・ムーヴメント 第 14 回 20 世紀後半～現在のデザイン・ムーヴメントとランドスケープ・デザイン		
3. 履修上の注意 私達の身の回りの空間には、多くの歴史的デザインが埋め込まれています。これらは知識がないと気づけないものですが、この授業を通してそれらを見分ける眼を養います。3 週目以降、授業中に学んだデザインと関係する身のまわりにあるデザインを見つけて報告してもらい、それらを分析したり議論の対象にします。受講期間中は、常に身の回りの空間やデザインに注意を向けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 身のまわりの環境に存在するデザインを注意深く見て、理解することに主眼をおきますが、インターネット上には関連する画像が無数にありますので、積極的に利用し、事前にデザインのイメージを獲得することを勧めます。		
5. 教科書 菅野博貢著『空間から読み解く 環境デザイン入門』を教科書として使用します。教科書を軸に講義を進めますので、事前に準備してください。		
6. 参考書 その回ごとの内容にそって紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業中のリアクション・ペーパー50%，期末テスト 50%の割合で評価します。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGR224J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農学実験Ⅰ	1 単位	塩津・池田・津田
2022～2025 年度入学者 農学実験Ⅰ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 作物の合理的な生産を行うためには形態・生理生態の特徴、遺伝様式、環境要因などを知ることが必要である。本実験では材料植物、顕微鏡、培養器具、分析機器の取り扱いの説明を受けた後に、個人またはグループで実験を行う。 《到達目標》 本実験では、作物の生育と環境の関係や育種技術を理解するために、基礎的実験を行い、特別研究での実験実施能力を涵養する。の専攻科目の共通科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の D・G および H に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：オリエンテーション（実験のねらい、器具の使用法説明、安全教育、班分け） 第 2 回：イチゴアントシアニン含量の測定 第 3 回：各種の糖のモル濃度と糖度計の検量 第 4 回：限界原形質分離観察による細胞浸透圧の推定 第 5 回：種子、葉、茎などの形態観察 第 6 回：根の形態観察および活力や長さの測定 第 7 回：米の食味官能試験 第 8 回：作物の遺伝子解析（原理説明と実験） 第 9 回：作物の遺伝子解析（実験データの解析とまとめ） 第 10 回：変異体の観察から紐解く植物の形態形成		
3. 履修上の注意 各回とも最初に説明を行うので、遅刻しないこと。実験材料の適期との関係により実施順序を変更することがある。 白衣を着用する必要がある実験があるので注意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 不明な内容を明確にし、次の授業までに質問等で解決しておくこと。		
5. 教科書 教科書は使用しない。適宜プリントを用意する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 毎回出席をとり、欠席が 4 回以上のものは評価対象としない。各テーマへの取り組みの態度とレポートを評価の対象とする。		
9. その他 池田 敬（生産システム学研究室、5 号館 2 階 201A） 塩津文隆（作物学研究室、5 号館 2 階 202A） 津田勝利（植物育種学研究室、5 号館 2 階 209A） オフィスアワー 担当実験終了後の 1 時間		

科目ナンバー (AG) AGR264J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農学実験Ⅱ	1 単位	溝口・川口・佐々木
2022～2025 年度入学者 農学実験Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 動物の機構を畜産動物の観察を通じて学ぶ。動物行動について学ぶ。実験動物の福祉についても学ぶ。分子生物学についても学ぶ。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の D・G・H に対応する科目である。 《授業の概要》 ヤギのスケッチを行う。ラットを用い実験動物の扱い方および動物行動の測定方法について学ぶ。得られたデータから新しい仮説を考え発表することを経験する。分子生物学について、DNA の抽出と電気泳動を行う。		
2. 授業内容 第 1 回：農学実験Ⅱの心構え（安全教育を含む）（溝口・川口・佐々木） 第 2 回：ヤギの飼養管理（溝口・川口・佐々木） 第 3 回：ラットのオープンフィールド試験（川口） 第 4 回：牛・豚の枝肉格付の理論・評価技術と精肉の官能評価（佐々木） 第 5 回：反芻動物の飼養管理と乳製品の官能評価（佐々木） 第 6 回：ラットの社会性行動試験（川口） 第 7 回：動物研究の実践（溝口・川口・佐々木） 第 8 回：実験結果についてのディスカッション（川口） 第 9 回：DNA の抽出と PCR を用いた DNA 断片増幅（溝口） 第 10 回：DNA 電気泳動（溝口） 第 11 回：実験結果を基にした仮説の発表（川口） 第 12 回：予備とレポートまとめ（溝口・川口・佐々木） ※授業内容は必要に応じて変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 実験に関する説明は毎回開始前に行うので遅刻しないこと。アニマルサイエンス入門を履修済みが望ましい。履修希望者多数の場合は選考します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 資料を事前に掲載するため、予習しておくこと（佐々木分）。 プリントを配布するので、予習しておくこと（川口分）。 分子生物学に関連する内容について、本やウェブを用いて調べておくこと（溝口）。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 『動物の体の仕組み』著者名（尼崎肇）出版社名（ファームプレス） 『ギャノン生理学 原書 26 版』W. F. Ganong 著 岡田 泰伸ら 監訳（丸善出版） 『脳とホルモンの行動学 わかりやすい行動神経内分泌学 第 2 版』近藤保彦ら 著（西村書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各班の発表に対する評価書を Oh-o! Meiji で公開する（川口担当会分）。		
8. 成績評価の方法 毎回出席を取り、各種レポート（100%）から評価する。		
9. その他 オフィスアワー：実験終了後 10 分程度		

科目ナンバー (AG) AGR244J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農学実験Ⅲ	1 単位	糸山・大里・新屋・ 綱島
2022～2025 年度入学者 農学実験Ⅲ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農学実験Ⅲは植物保護の分野に関わる内容の実験である。作物や緑化樹に寄生する病原菌や線虫類、昆虫類の形態的特徴や生理・生態の特性、被害の特徴等を正しく理解するとともに、これらの制御に関する基本的な知識と技術の習得を目的とする実験を行う。 《授業の概要》 植物病原菌および線虫の形態観察法・分離法・同定法、昆虫の形態観察法・個体群調査法などの習得を行う。 農学科専攻科目の共通基幹科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の D・G・H に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション、安全教育、顕微鏡の割当て（全員） 第 2 回：チョウ目昆虫の外部形態、内部形態の観察（綱島・糸山） 第 3 回：微小害虫の形態観察（綱島・糸山） 第 4 回：植物病原糸状菌の分離および培養法（綱島・大里） 第 5 回：植物病原糸状菌の菌糸・分生子の観察（綱島・大里） 第 6 回：植物病原糸状菌の接種法（綱島・大里） 第 7 回：野外からの線虫分離と観察（綱島・新屋） 第 8 回：線虫の行動観察（綱島・新屋） 第 9 回：線虫の発生（綱島・新屋） 第 10 回：昆虫の採集と分類（綱島・糸山） 第 11 回：まとめ（全員） * 実験材料の準備の都合により、実験内容と順番の変更がありうる。		
3. 履修上の注意 毎回、実験のはじめに実験の説明を行うので遅刻することの無いように注意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 不明な内容を明確にし、次の授業までに質問等で解決しておくこと。		
5. 教科書 特に定めない。毎回、実験の資料を配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出したレポートは採点後に授業内あるいは Oh-o! Meiji にて返却する。		
8. 成績評価の方法 出席状況を含む実験への取り組み態度およびレポートの提出状況により評価する。		
9. その他 応用昆虫学研究室（5 号館 2 階 208 A 号室） オフィスアワー：火曜日 12:40～13:20、会議や出張が多いため事前に連絡することが望ましい。 連絡先：mushi(at)meiji.ac.jp (at) を@に変更すること。 植物病理学研究室（5 号館 3 階 302 A 号室） オフィスアワー：金曜日 12:00～14:00 連絡先：E-mail：ohsato.meiji(at)gmail.com (at) を@に変更すること。 植物線虫学研究室（5 号館 3 階 307 A 号室） オフィスアワー：在室していれば随時可。 ※各研究室の HP 等も参照すること。		

科目ナンバー (AG) AGR234J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農学実験Ⅳ	1 単位	岩崎直・半田・元木
2022～2025 年度入学者 農学実験Ⅳ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 園芸作物の品質や成分の評価に関する実験を行い、評価方法を修得するとともに品質向上に関連する栽培技術を理解する。 《授業の概要》 生産物の品質は栽培方法や品種の特性で大きく異なる。生産物の形質・品質を的確に評価することは、安全で品質の高い生産物を生産する栽培技術を考えるうえで重要である。そこで、農学実験Ⅳでは園芸作物を用いて、生産物の品質構成要素を理解するため、青果物の品種特性と品質評価に関する実験を行う。農学科、共通の専攻科目であり、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の D、G および H に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ イントロダクション・安全教育（全員） 第 2 回：野菜の鮮度保持とその評価① フルーツセクターおよび屈折糖度計を用いたミニトマトの糖度測定（元木） 第 3 回：野菜の鮮度保持とその評価② 反射式光度計を利用したビタミン C の測定（元木） 第 4 回：園芸作物に含まれるカロテンおよびリコペンの抽出および定量（元木） 第 5 回：果実の形態観察と品質の測定Ⅰ（岩崎） 第 6 回：果実の形態観察と品質の測定Ⅱ（岩崎） 第 7 回：果実品質に影響する要因の解析（岩崎） 第 8 回：植物からの DNA 抽出と電気泳動（半田） 第 9 回：PCR 法による遺伝子の検出と品種識別（半田） 第 10 回：TLC による花色分析（半田） ※ 3・4 限セットで 1 回と記載している。		
3. 履修上の注意 ・ 毎回実験に先だって手順や注意点の説明をするため遅刻しないこと。 ・ 白衣を準備すること。 ・ 材料の関係で予定の項目が入れ替わることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の実験で習得する測定・分析・解析方法に関連する分野について調べることで深く学習し、レポートを作成する。		
5. 教科書 特に指定しない。 毎回、必要な資料を配布する。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席が 6 回以上の者のみを評価対象とし、実験に参加したレポートを評価する。		
9. その他 オフィスアワー 岩崎直人（果樹園芸学研究室、5 号館 3 階 306 A） 水曜日：12：40－13：30 半田 高（花卉園芸学研究室、5 号館 3 階 303 A） 火曜日：12：30－13：30 元木 悟（野菜園芸学研究室、5 号館 3 階 301 A） 水曜日：12：30－13：00		

科目ナンバー (AG) ENV294J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農学実験Ⅴ	1 単位	菅野・矢崎・小泉
2022～2025 年度入学者 農学実験Ⅴ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本実験は将来生態系の調査・管理・保全、およびランドスケープ・デザインに関わることを目指す学生向けに開講する。 《授業の概要》 大学キャンパス内の生物、非生物環境及びランドスケープデザインを対象とした実験や実践を通じて、生態学、微気象学、ランドスケープデザインの入門とする。		
2. 授業内容 1 回目 a ガイダンス、実習準備の指示、安全教育（矢崎、小泉）、b 気象観測測器の使用手法（矢崎） 2 回目 データロガーを使った地温・土壌含水率の測定（矢崎） 3 回目 林縁の微気象環境傾度の調査（矢崎） 4 回目 密閉チャンバー法による光合成速度の測定（矢崎） 5 回目 農場での菌類収集と実体顕微鏡観察（小泉） 6 回目 森林の菌類観察とゲノムデータベースの活用（小泉） 7 回目 統計ソフト R を用いたデータ解析（小泉） 8～9 回目 予備日 第 10 回 緑地をデザインするための現地調査とその取りまとめ（菅野） 第 11 回 マインドマップによるデザインコンセプトのまとめ方（菅野） 第 12 回 緑地空間のゾーニング、動線計画、景観計画の検討 第 13 回 緑地デザインの実践方法について（菅野） 第 14 回 実践した緑地デザインの講評（菅野）		
3. 履修上の注意 屋外に出る実験があるため、肌を露出しない汚れてもよい服装で、屋外作業にも対応できるような準備で臨むこと。 雨天で屋外での実験が困難な場合は、対応を Oho!Meiji で当日午前中に連絡するので、連絡に留意すること。 また雨天延期になった場合は予備日に実験をすることがあるので、他に予定を入れないこと。 第 10 回以降は屋内で実施するので、服装などの配慮は不要とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第 1 回の授業の際に、各回の準備学習の内容について説明する。毎回の実験について、事前に主要な概念と方法について予習してくること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 参考書として『やさしい造園図面の描き方』『続やさしい造園図面の描き方』建築資料研究社等		
7. 課題に対するフィードバックの方法 矢崎、小泉担当分について、レポートはコメントを付して返却するので、今後に生かすこと。		
8. 成績評価の方法 毎回出欠をとり、4 分の 3 以上の出席がなければ評価の対象としない。出席は加点要素とはしない。 レポート、図面などの成果品で評価する。		
9. その他 オフィスアワー 菅野 博貢（カンノ ヒロツグ）環境デザイン研究室、4-306A 室、kanno@meiji.ac.jp、（金曜日昼） 矢崎 友嗣（ヤザキ トモツグ）環境気象学研究室、4-308A 室、yazakitm@meiji.ac.jp、金曜日実験後、その他も対応しますのでアポを取ってください。 小泉 敬彦（コイズミ タカヒコ）アグロエコロジー研究室、4-213A 室、メールアドレス、オフィスアワーは初回にお知らせします。		

科目ナンバー (AG) AGR254J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農学実験Ⅵ	1 単位	小島 信彦
2022～2025 年度入学者 農学実験Ⅵ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生産環境の整備や地域環境の改善のために必要な土や水の基本的性質について実験するとともに、生産環境や地域の整備に用いられるコンクリートの作製方法や強度に関する実験を行う。これらの実験項目は、実際の現場で仕事を行う上で不可欠なものである。また、データの整理については、パソコン等を用いて行う。 《到達目標》 土や水、材料に関して教室で学んでいる基本的な重要な事項を、実験を通して体験的に習得し、理解することを到達目標とする。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の D・G・H に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション b：安全教育 第 2 回：管水路の摩擦損失係数 第 3 回：オリフィスの流量係数 第 4 回：開水路の流速分布 第 5 回：土粒子の密度測定 第 6 回：土の液性限界・塑性限界試験 第 7 回：コンクリート供試体の作製とスランプ試験 第 8 回：コンクリートの強度試験 第 9 回：現地見学（希望者のみ） 第 10 回 a：まとめ ※実験の順番や内容は変更することがあります。		
3. 履修上の注意 実験に支障が出るので遅刻しないこと。 実験内容に直接関係のある「水理学」「応用水理学」の履修が望ましい。また、関連する「材料施工学」「土壌学」「土壌物理学」「地学実験」「土質力学」を履修することを推奨する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に実験に関連する講義内容を復習しておくこと。 不明な内容を明確にし、次の授業までに質問等で解決しておくこと。		
5. 教科書 教科書は使用しない。実験に関するプリントを配布する。		
6. 参考書 文献等はプリントにて紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出されたレポートへのコメントをもって行う。		
8. 成績評価の方法 実験への参加態度 30%、レポート 70%とする。ただし、出席日数が 2/3 に満たないものは評価の対象としない。また、レポートが要求されている実験については、出席とともにレポート提出をもって出席と認定する。		
9. その他 オフィスアワー： 小島信彦：水資源学研究室（4 号館 3 階 304 A 号室） 水曜日 12：40～13：20		

科目ナンバー (AG) INS915J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 専門実習 I	1 単位	小島・佐々木
2022～2025 年度入学者 専門実習 I		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 農学科には、講義のほかに各種の実験・実習科目が設置されているが、時間的に必ずしも十分ではない。農学科では、現場での実務に対する意識を高めることは非常に重要であると考えている。3 年次以降においては、インターンシップにも対応した科目である。当科目は、重複履修（一度単位を修得した科目を再度履修すること）を認めているので、一つの現場にとどまらず、さまざまな現場を体験することを奨励する。 現場での実習、実習中の日誌および実習のまとめの作成、報告会での発表を行うものとする。 《到達目標》 専門実習では、単位認定を行うことにより、学生諸君が学外における農業体験等の実習に積極的に参加して、農学への関心や卒業後の進路への思考を大いに高めてもらうことを目的としている。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の G・H に対応する科目である。		
2. 授業内容 実習の流れは、以下のとおりである。 ・実習先を決定 ↓ ・農学部事務室へ実習参加届の提出（実習先・実習内容のわかる書類を添付する） ↓ ・書類審査により、単位認定の対象としての可否を決定 ↓ ・実習に参加 ↓ ・実習記録の提出 実習日誌（実習者本人） 実習のまとめ（実習者本人） 実習実施報告書（実習先担当者が記入・捺印） ↓ ・実習報告会での発表		
3. 履修上の注意 ・履修希望者はガイダンスに必ず出席すること。 ・定められた期日までに必ず実習参加届を提出すること。 ・実習先については、教員が紹介することもあるが、原則として自分で探すこと。 ・実習期間は実働 5 日以上とする。（原則として 5 日連続勤務） ・実習先の適否については事前に担当教員に確認をとること。 ・重複履修に当たっては、過去の実習内容と異なることが望ましい。 ・単位認定の対象とならなかった場合ならびに実習先が見つからなかった場合の履修取り消しを認める。 ・2・3 月の実習に参加した場合は、次年度の履修科目として取扱う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 まず事前に実習先を探してみること。見つからない場合は教員に相談する。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 とくに定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 実習報告会において担当教員からコメントする。		
8. 成績評価の方法 実習後の提出書類 3 点および実習報告会で発表を行った者について評価する。 実習場所責任者評価（40%）、実習日誌・まとめ（50%）、発表（10%）とする。		

9. その他

オフィスアワー

小島 水資源学研究室（4号館3階304A）

水曜日 12：40～13：20

佐々木 動物生産学研究室（5号館5階501A）

火曜日：12:30～13:10

科目ナンバー (AG) INS915J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 専門実習Ⅱ	2 単位	小島・佐々木
2022～2025 年度入学者 専門実習Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 農学科には、講義のほかに各種の実験・実習科目が設置されているが、時間的に必ずしも十分ではない。農学科では、現場での実務に対する意識を高めることは非常に重要であると考えている。3 年次以降においては、インターンシップにも対応した科目である。当科目は、重複履修（一度単位を修得した科目を再度履修すること）を認めているので、一つの現場にとどまらず、さまざまな現場を体験することを奨励する。 現場での実習、実習中の日誌および実習のまとめの作成、報告会での発表を行うものとする。 《到達目標》 専門実習では、単位認定を行うことにより、学生諸君が学外における農業体験等の実習に積極的に参加して、農学への関心や卒業後の進路への思考を大いに高めてもらうことを目的としている。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の G・H に対応する科目である。		
2. 授業内容 実習の流れは、以下のとおりである。 ・実習先の決定 ↓ ・農学部事務室へ実習参加届の提出（実習先・実習内容のわかる書類を添付する） ↓ ・書類審査により、単位認定の対象としての可否を決定 ↓ ・実習に参加 ↓ ・実習記録の提出 実習日誌（実習者本人） 実習のまとめ（実習者本人） 実習実施報告書（実習先担当者が記入・捺印） ↓ ・実習報告会での発表		
3. 履修上の注意 ・履修希望者はガイダンスに必ず出席すること。 ・定められた期日までに必ず実習参加届を提出すること。 ・実習先については、教員が紹介することもあるが、原則として自分で探すこと。 ・実習期間は実働 10 日以上とする。（少なくとも 5 日間は連続勤務すること） ・実習先の適否については事前に担当教員に確認をとること。 ・重複履修に当たっては、過去の実習内容と異なることが望ましい。 ・単位認定の対象とならなかった場合ならびに実習先が見つからなかった場合の履修取り消しを認める。 ・2・3 月の実習に参加した場合は、次年度の履修科目として取扱う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 まず事前に実習先を探してみること。見つからない場合は教員に相談する。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 とくに定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 実習発表会において担当教員からコメントする。		
8. 成績評価の方法 実習後の提出書類 3 点および実習報告会で発表を行った者について評価する。 実習場所責任者評価（40%）、実習日誌・まとめ（50%）、発表（10%）とする。		

9. その他

オフィスアワー

小島 水資源学研究室（4号館3階304A）

水曜日 12：40～13：20

佐々木 動物生産学研究室（5号館5階501A）

火曜日：12:30～13:10

科目ナンバー (AG) AGR321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食用作物学	2 単位	塩津 文隆
2022～2025 年度入学者 食用作物学		
1. 授業の概要・到達目標 人間の主食となる食用作物の定義、生産状況などについて概説する。そのあと、穀類、マメ類、イモ類に分類し、それぞれの作物の来歴、形態、生長、生理生態、品種、栽培技術、品質などについて解説する。また、近年の地球環境問題と作物生産に関連する内容についても講義の中で触れる。本講義では、食用作物の特徴やその重要性などの基礎的知識を学修し、それらを実際の食用作物生産の現場において応用する能力を修得する。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C および D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション 第 2 回：日本と世界の食糧生産の動向 第 3 回：穀類（イネ 1 来歴・生産状況，形態，生長・発育） 第 4 回：穀類（イネ 2 生理生態） 第 5 回：穀類（イネ 3 品種・育種） 第 6 回：穀類（イネ 4 栽培，品質） 第 7 回：穀類（コムギ，オオムギ，その他のムギ類） 第 8 回：穀類（トウモロコシ，モロコシ） 第 9 回：穀類（キビ，アワ，その他の穀類） 第 10 回：マメ類（ダイズ） 第 11 回：マメ類（ラッカセイ，アズキ，その他のマメ類） 第 12 回：イモ類（ジャガイモ） 第 13 回：イモ類（サツマイモ，キャッサバ，その他のイモ類） 第 14 回：地球環境と作物生産		
3. 履修上の注意 本講義では食用作物分野で特に重要な作物を取り扱う。あらかじめ「栽培学入門」、「植物生理学」、「作物学概論」を受講しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では教科書や参考書を読んで概要を把握すること。復習ではキーワードや専門用語をおさえ，それらの意味を整理すること。		
5. 教科書 『作物学』 今井勝・平沢正 編著（文永堂出版）		
6. 参考書 『農学基礎シリーズ 作物学の基礎 I 食用作物』 後藤雄佐・新田洋司・中村聡 著（農文協） 『作物学 第 2 版』 根本圭介・平田昌彦（文永堂出版） 『作物学用語事典』 日本作物学会 編（農文協）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験（100％） なお、変更がある場合は講義内で周知する。		
9. その他 作物学研究室（5 号館 2 階 202A 室） オフィスアワー：水曜日 12：30～13：20，質問などがあれば研究室まで来てください。		

科目ナンバー (AG) AGR321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 工芸作物学	2 単位	大潟 直樹
2022～2025 年度入学者 工芸作物学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 工芸作物は、繊維、油糧、甘味資源、香辛料等、人が社会生活を発展させたり、生活領域を拡大するために必要とされる多様な目的で利用されています。また、工芸作物は人が利用するまでに多くの処理・加工（しかも家庭内の過程ではなく工業的過程）を要することが特徴であり、加工・製造業が必要とされる作物です。栽培適地が世界的に偏在しているものが多く、綿や砂糖、茶等、生産から流通に至る過程で世界史に大きな影響を与えてきました。国内でも、茶、砂糖、でん粉等の工芸作物は国内生産されており、地域経済を支える重要な作物です。授業では、これらについて用途、作物ごとにスライドを用いて行います。併せて国内農業の抱える諸問題も平易に解説します。 《到達目標》 本講義では、用途別に類型化した作物群を基礎として、いくつかの重要な工芸作物、特に国内生産されている作物に関するヒトの生活上の必要性、作物化された過程・歴史、実際の生産・加工技術の理論を理解し、農作物の多様性、可能性、また、それを応用する能力を得ることを目標とします。		
2. 授業内容 工芸作物はヒトが生活する上で必要とする様々な用途の原料として利用されています。その多くは栽培上の最適な地帯で生産され、各国へ輸出されていますが、必要性が高い用途の原料では、各地帯において異なる植物が作物化されています。例えば、ショ糖は高緯度地帯ではてん菜から生産され、低緯度地帯ではさとうきびから生産され、同じショ糖が生産されています。用途ごとに各工芸作物のヒトとの関係や栽培化された経緯、また原料品質の重要性などを授業内容とします。多品目に渡るため、一つの品目を集中的に教授することはできませんが、国内で栽培されている工芸作物を中心に、概論的、横断的に学ぶことにより、農業の持つ可能性と現代における問題点を理解できるようになることを目的とします。 第1回：工芸作物総論 第2回：繊維作物 第3回：油料作物（1） 第4回：油料作物（2） 第5回：嗜好料作物（1） 第6回：嗜好料作物（2） 第7回：香辛料作物 第8回：芳香油料作物 第9回：染料作物 第10回：薬用作物 第11回：糖料作物 第12回：デンプン・糊料作物 第13回：ゴム・樹脂料作物 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 集中講義で行う予定です。授業日毎に課題を出しますので、レポートを提出してもらいます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 とくにありません。		
5. 教科書 とくにありません。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 合計 100 点を定期試験によって 70%、レポート評価によって 30%で案分し、その合計点によって評価します。このためレポートを提出しない生徒は定期試験で 100 点をとっても合計点は 70 点になります。		
9. その他 オフィスアワー：最初の講義で指示する メールアドレス：最初の講義で示す		

--

科目ナンバー (AG) AGR331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 野菜園芸学	2 単位	元木 悟
2022～2025 年度入学者 野菜園芸学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 野菜は人間の生存にとって欠かせない食材であると同時に、食生活を豊かにする嗜好性の高い食材でもある。本講義では野菜の生産や利用、さらには新しい野菜の開発や導入などにおける諸問題を解決する能力を得るための基礎を論述する。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。 《授業の概要》 主要野菜（葉茎菜類ではアスパラガスやキャベツ、ハクサイ、レタス、ネギ、タマネギなど、花菜類ではブロッコリーやカリフラワーなど、根菜類ではダイコンやニンジンなど、果菜類ではトマトやピーマン、イチゴ、エダマメなど）を具体例として挙げ、野菜の発育生理および生態と生産技術について述べる。また、野菜生産の歴史と現状、さらには先進的な生産技術についても論述する。		
2. 授業内容 第 1 回 a のみ：野菜園芸の栽培環境と作型 第 2 回：野菜園芸の現状と経営の特徴 第 3 回：葉茎菜類 その 1. 茎菜類（アスパラガス） 第 4 回：葉茎菜類 その 2. 茎菜類（アスパラガスなど） 第 5 回：葉茎菜類 その 3. 葉菜類（結球・非結球野菜：キャベツ、ハクサイ、レタスなど） 第 6 回：葉茎菜類 その 4. 葉菜類（ハウレンソウと鱗茎野菜：ネギ、タマネギなど） 第 7 回：花菜類（ブロッコリー、カリフラワーなど） 第 8 回：根菜類（ダイコン、ニンジン、サトイモなど） 第 9 回：果菜類 その 1. ナス科（トマト、ピーマンなど） 第 10 回：果菜類 その 2. ウリ科（キュウリ、カボチャなど）およびバラ科（イチゴ） 第 11 回：果菜類 その 3. マメ科（エダマメなど）およびイネ科（スイートコーンなど） 第 12 回：その他の品目（薬用作物、キノコ類など） 第 13 回：野菜の販売戦略と地域活性化 第 14 回：野菜の品質と鮮度保持、流通と販売		
3. 履修上の注意 栽培学入門や資源植物学、園芸学概論など、植物関連の基礎科目を履修していると理解しやすい。 授業内容と順序は変更する場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 植物関連の農学基礎科目（栽培学入門や資源植物学、園芸学概論など）を履修しておくか、または事前に自分で学習しておくこと。		
5. 教科書 『野菜園芸学の基礎』 篠原 温 編著 （農文協）		
6. 参考書 『園芸学 第 2 版』 金山喜則 編 （文永堂出版） 『野菜園芸学 第 2 版』 金山喜則 編 （文永堂出版） 『園芸利用学』 山内直樹・今堀義洋 編 （文永堂出版） 『園芸生産学』 小池安比古 編著 （朝倉書店） 『図説 野菜新書』 矢澤 進 編著 （朝倉書店） ほか		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席回数 6 割以上の者を評価対象とし、定期試験 100%で評価する。		
9. その他 野菜園芸学研究室（5 号館 3 階 301 A） オフィスアワー： 水曜日 12：30－13：00 E-mail： motoki@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGR331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 花卉園芸学	2 単位	半田 高
2022～2025 年度入学者 花卉園芸学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 観賞植物である花卉は、他の農作物とは異なる育種・栽培・利用が行われている。本講義では、花卉の多様性や人間の感性に与える効果を考えながら、花卉の特徴やその利用について学ぶ。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。 《授業の概要》 本講義では花卉（観賞植物）の遺伝資源・分類・育種・繁殖・栽培・利用の現状や技術について様々な資料をもとに解説し、将来展望を討議する。		
2. 授業内容 第 1 回：花卉とは？ 第 2 回：花卉園芸の歴史 第 3 回：花卉遺伝資源と生態 第 4 回：花卉の分類 第 5 回：花卉の育種 第 6 回：花卉の繁殖 第 7 回：光と花卉 第 8 回：温度と花卉 第 9 回：土と花卉 第 10 回：水・肥料・植物生長調節物質と花卉 第 11 回：花卉の病虫害防除 第 12 回：花卉の流通 第 13 回：花卉の利用 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 特になし。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 園芸学概論は必ず受講しておくこと。 植物系の農学基礎科目（植物分類・形態学、基礎植物育種学、植物遺伝資源学、植物生理生態学）を履修しておくかまたは事前に自分で学習しておくことが望ましい。		
5. 教科書 特に定めない。 講義毎に資料を配布する。		
6. 参考書 腰岡政二「花卉園芸学の基礎」（農文協） 大川 清「花卉園芸総論」（養賢堂） 今西英雄「花卉園芸学」（川島書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席率 6 割以上のものを評価対象とし、授業でのミニレポート（30%）ならびに学期末の試験（70%）で評価する。		
9. その他 半田 高 花卉園芸学研究室（5 号館 3 階 303A） オフィスアワー：火曜日 12：40-13：20		

科目ナンバー (AG) AGR331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 果樹園芸学	2 単位	岩崎 直人
2022～2025 年度入学者 果樹園芸学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 今日までに確立された果実生産技術の理論を理解することにより、それらを応用する能力を習得することを目標とする。 《授業の概要》 果樹は他の園芸作物とは異なってほとんどが樹木作物であり、永年作物である。また、樹を育てることではなく果実を生産することが目的であることから、栽培管理上注意しなければならない点が1年生作物に比べて異なることも多い。本講義では日本で栽培されている主要な果樹の生理・生態的特徴について解説する。 農学科、生物資源関係の専攻科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C および D に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第1回] aのみ:イントロダクション（果樹園芸の定義） [第2回] 果樹の栽培と環境（適地適作と休眠） [第3回] 果樹の種類と結果習性 [第4回] 花芽分化とそれに関与する要因 [第5回] 受粉受精と結実（自家受粉と他家受粉） [第6回] 果樹の単為生殖（珠心胚の形成）とその利用 [第7回] 果実の発育と組織学のおよび生理学的変化 [第8回] 樹体の物質生産と転流 [第9回] 品質構成要素と生産環境 [第10回] 果実の成熟生理と果実の機能性 [第11回] 果実の貯蔵と流通 [第12回] 樹形とせん定、時期と方法 [第13回] 樹勢・結実と樹体の物質生産 [第14回] 果樹の育種・栄養繁殖の利点と欠点		
3. 履修上の注意 植物関連の基礎科目を履修していると理解しやすい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。		
5. 教科書 特に指定しないが、必要な資料は配付する。		
6. 参考書 果樹園芸学（米森敬三 編集，朝倉書店） 果樹園芸大要（小林 章 著，養賢堂） 果樹園芸学の基礎（伴野 潔・山田 寿・平 智 著，農文協） 果樹園芸学（金浜耕基 編，文永堂出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 100%定期試験で評価する。		
9. その他 果樹園芸学研究室（5号館3階306A） オフィスアワー：水曜日：12：40～13：30、質問などがあれば気軽に研究室まで来てください。		

科目ナンバー（AG）AGR331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 園芸植物繁殖学	2 単位	岩崎 直人
2022～2025 年度入学者 園芸植物繁殖学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 園芸作物の主要な繁殖法である種子繁殖法と栄養繁殖法の理論を理解し、応用する能力を修得することを目標とする。 《授業の概要》 植物の主要な繁殖法である種子繁殖および栄養繁殖法に係わる諸問題について解説するとともに、園芸作物を中心に繁殖に関連する植物の生理について講述する。また、特に永年作物における繁殖法による植物機能の調節や、苗木生産の手法等についても解説する。 農学科、生物資源関係の専攻科目（共通基幹科目）で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C および D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a のみ：ガイダンス・種苗生産の目的 第 2 回：繁殖に用いられる組織および器官とその性質 第 3 回：種子繁殖の生理 第 4 回：単為生殖とその利用 第 5 回：接ぎ木繁殖の理論 第 6 回：接ぎ木繁殖法の種類と台木 第 7 回：接ぎ木繁殖による機能の付与 第 8 回：挿し木・取り木繁殖の理論 第 9 回：挿し木繁殖における発根の生理 第 10 回：挿し木の方法と特徴 第 11 回：組織培養による繁殖法 第 12 回：スノキ属の大量増殖法・根挿し 第 13 回：種苗生産の現状 第 14 回：種苗法について・まとめ		
3. 履修上の注意 植物関連の基礎科目を履修していると理解しやすい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。		
5. 教科書 特に指定しないが、必要な資料は配付する。		
6. 参考書 園芸種苗生産学（今西英雄 他，朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 100%定期試験で評価する。		
9. その他 果樹園芸学研究室（5 号館 3 階 306 A） オフィスアワー：水曜日：12：40～13：30、質問などがあれば気軽に研究室まで来てください。		

科目ナンバー (AG) AGR321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物成長制御学	2 単位	池田・元木・矢崎
2022～2025 年度入学者 植物成長制御学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標およびテーマ》 植物の成長のしくみは、私たちの想像以上に精緻である。いろいろな植物における成長のしくみを理解することで植物の成長を制御し、農業の生産現場において作物の生産性向上につなげる手法を学ぶ。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C、D に対応する科目である。 《授業の概要》 実際の栽培現場で行われている植物の成長制御の手法を紹介しながら、栽培環境や気象環境などと植物の成長を制御するための技術について概説する。また、植物の成長を制御する物理的および化学的要因について概説し、それらの諸要因と植物ホルモンとの関連、農業における植物成長調整剤の利用についても講述する。さらに、青果物および切り花の鮮度保持と貯蔵についても概説する。		
2. 授業内容 第 1 回：植物成長制御学とは 第 2 回：施設における環境制御 温度 第 3 回：施設における環境制御 風 第 4 回：施設における環境制御 光 その 1 第 5 回：施設における環境制御 光 その 2 CO2 ほか 第 6 回：施設における環境制御 制御技術 第 7 回：気象・土壌環境調節による寒締めハウレンソウの栽培 第 8 回：北海道・十勝の大規模農地の土壌環境調節（土壌凍結深さ制御によるばれいしょ野良生え対策） 第 9 回：カナダのピートモス採掘跡地の環境制御と湿地農業（Paludiculture） 第 10 回：栽培環境と成長制御 その 1 第 11 回：栽培環境と成長制御 その 2 第 12 回：農業における植物成長調整剤の利用 第 13 回：青果物の鮮度保持と貯蔵 第 14 回：切り花の鮮度保持と貯蔵		
3. 履修上の注意 栽培学入門や資源植物学，作物学概論，園芸学概論，生産システム学概論，野菜園芸学，生産システム学，生産気象学など，植物および農業気象関連の科目を履修していると理解しやすい。授業内容と順序は変更する場合がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 植物関連の農学基礎科目（栽培学入門）を履修しておくか，または事前に自分で学習しておくこと。		
5. 教科書 特に指定しないが，必要な資料は配付する。		
6. 参考書 講義のなかで紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席回数 6 割以上の者を評価対象とし，定期試験 100%で評価する。 オンラインの資料は講義当日中に閲覧すること（翌日以降の閲覧は欠席扱いとなる）。		
9. その他 オフィスアワー 元木 悟（野菜園芸学研究室，5 号館 3 階 301A） 水曜日：12：30－13：00 E-mail：motoki@meiji.ac.jp 池田 敬（生産システム学研究室，5 号館 2 階 201A） 木曜日：12：40－13：20 E-mail：agrisys@meiji.ac.jp 矢崎友嗣（環境気象学研究室，4 号館 3 階 308A）		

水曜日：12：40－13：20

E-mail： yazakitm@meiji.ac.jp

質問などがあれば気軽に研究室まで来て下さい。

科目ナンバー (AG) AGR311J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物育種学	2 単位	津田 勝利
2022～2025 年度入学者 植物育種学		
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 本講義では、植物の繁殖様式に応じて作物を計画的に改良するための育種学の原理と技術を学ぶ。栽培化の歴史を通して人類が植物をどのように変化させてきたかを理解し、遺伝法則の発見以降の従来育種からゲノム解析・遺伝子組換え・ゲノム編集などの分子育種技術に至るまでの育種手法の発展とその考え方を体系的に捉える。また、それらがどのように補完しながら作物改良に活用されているかを具体例とともに紹介する。 【到達目標】 植物育種における遺伝的変異の創出・選抜・固定の基本原則を説明できるようになることを目標とする。また、繁殖様式に応じた育種法の特徴を理解し、従来育種と分子育種技術の役割を踏まえて作物改良の方針を考察できる基礎的な能力を身につける。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C および D に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回]：イントロダクション：品種と育種 [第 2 回]：植物はどのように増えるか？繁殖と生殖の様式 [第 3 回]：計画的育種のための遺伝学基礎 [第 4 回]：作物はどこからきたか？ゲノム科学が紐解く栽培化と育種の歴史 [第 5 回]：質的形質と量的形質 [第 6 回]：変異の活用と創出：遺伝的多様性と人為的突然変異の有用性 [第 7 回]：自殖性作物の育種 [第 8 回]：他殖性植物の育種 [第 9 回]：栄養繁殖性植物の育種 [第 10 回]：ゲノム分析と倍数性育種 [第 11 回]：ゲノム科学の時代と遺伝資源の価値 [第 12 回]：遺伝子組換えとゲノム編集による育種 [第 13 回]：育種目標：どんな改良を目指すのか？ [第 14 回]：まとめ		
3. 履修上の注意 分子生物学・遺伝学や植物科学に関する農学基礎科目を履修しておくか、事前に自分で学習しておくことが望ましいですが、事前知識がなくても理解できるよう最低限の補足を行います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した内容について、配布資料や参考書を用いて適宜復習すること。 不明な部分や興味を持った点がある場合、自ら文献を調査する・質問するなどして理解を深めること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 植物育種学 第 5 版 北柴大泰・西尾剛 編（文永堂出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に説明するか、もしくは Oh-o!Meiji システムを介して行う。		
8. 成績評価の方法 成績は定期試験 7 0 %と、出席・小テスト 3 0 %の合計で評価します。		
9. その他 植物育種学研究室（5 号館 2 階 209A 室） オフィスアワー：特に定めません。在室時であればいつでも来てください。事前に連絡をいただければ、確実に在室している日時を調整します。連絡先は最初の講義で周知します。		

科目ナンバー (AG) AGR391J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生産システム学	2 単位	池田 敬
2022～2025 年度入学者 生産システム学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農業における生産効率化技術や、施設栽培・養液栽培に関する技術を詳しく説明する。また栽培環境に関わる計測技術などを説明することで、現代農業の現状を理解できるようにする。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標のD・Eに対応する科目である。 《授業の概要》 作物生産には大きく分けて2つのファクターがある。農作物（ソフト）と環境（ハード）である。生産システム学では、主に施設栽培および養液栽培を中心として、環境とそこで育つ農作物を相互に考察することで、それらがいかに密接に関係しているのか、重要性を認識する。		
2. 授業内容 第1回：施設内農作物生産 第2回：農業施設の構造および資材 第3回：養液栽培システム1 水耕 第4回：養液栽培システム2 固形培地耕 第5回：養液栽培システム3 養液土耕 第6回：農業の機械化 第7回：ロボットの農業への応用 第8回：ポストハーベットのシステム化 第9回：様々な環境における農業システム1 第10回：様々な環境における農業システム2 第11回：植物および環境計測技術1 水 第12回：植物および環境計測技術2 その他 第13回：生産システムの将来・宇宙農業 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 生産システム学概論を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞等の農業に関する記事を注視すること。		
5. 教科書 授業中に資料を配付する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験（もしくはレポート）で評価を行う。		
9. その他 オフィスアワー 金曜日昼休み		

科目ナンバー (AG) AGR361J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物育種学	2 単位	溝口 康
2022～2025 年度入学者 動物育種学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 動物育種は、動物の生産・繁殖等の形質能力を正確に予測し、選抜・交配を繰り返し、動物の遺伝的能力を望ましいものへと改良を図ることである。特に産業動物における経済的に価値のある形質の遺伝的能力の改良は、動物生産上とても重要な目標となる。本講義は、これらを遂行するための基礎的理論とその技術について、理解を深めることを目的とする。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。 《授業の概要》 動物育種学の基本的な考え方と、育種対象となる遺伝形質における動物の選抜方法及びその交配計画について解説する。また、現在までに行われている各動物種の育種手法についても解説し、その特徴と今後の育種の展望について考える。		
2. 授業内容 第 1 回：動物育種学の概論 第 2 回：遺伝の原理と遺伝様式 第 3 回：育種対象となる遺伝形質 第 4 回：集団における遺伝的構成 第 5 回：育種目標とその計画 第 6 回：遺伝的パラメーターの推定 第 7 回：量的形質の選抜方法 第 8 回：ゲノム情報を活用した選抜方法 第 9 回：交配様式とその計画 第 10 回：肉牛の育種学 第 11 回：乳牛の育種学 第 12 回：豚の育種学 第 13 回：鶏（卵用、肉用）の育種学 第 14 回：まとめ * 講義内容は必要に応じて変更することがあります		
3. 履修上の注意 本講義を履修前または同時期に動物関連の科目を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習は、講義時に配布したレジメを参照し、参考書などを用いて当該箇所の理解を深める。		
5. 教科書 毎回の講義時にレジメを配布するので、教科書は使用しない。		
6. 参考書 「応用動物遺伝学」東條英昭・佐々木義之・国枝哲夫編 朝倉書店 「獣医遺伝育種学」国枝哲夫・今川和彦・鈴木勝士編 朝倉書店 「動物遺伝育種学」祝前博明・国枝哲夫・野村哲郎・万年英之編 朝倉書店		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて講義にて解説する		
8. 成績評価の方法 原則として、期末試験により評価する。		
9. その他 研究室名 動物遺伝資源学研究室（5 号館 3 階 305 A） オフィスアワー：月曜日：12:40～13:30		

科目ナンバー (AG) AGR261J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物資源繁殖学	2 単位	佐々木 羊介
2022～2025 年度入学者 動物資源繁殖学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 世界人口の増加に伴う食料問題への対応として、安定した動物生産やそのための生産基盤の構築が求められている。そこで本授業では、動物繁殖に関する基本的な知識や動物生産システムと繁殖管理の関わり合いに関する考え方を幅広く学習し、理解することを目的とする。 《授業の概要》 本授業では、動物繁殖に関する基本的な知識を解説し、ウシ・ブタ・ニワトリなどの産業動物の生産システムと繁殖管理との関わり合いを解説する。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：動物資源繁殖学の概要 第 2 回：産業動物の種類とその役割 第 3 回：雌と雄の生殖器の構造と機能 第 4 回：雌と雄の繁殖生理と内分泌 第 5 回：肉用牛のライフサイクルと生産システム 第 6 回：肉用牛の繁殖管理 第 7 回：乳用牛のライフサイクルと生産システム 第 8 回：乳用牛の繁殖管理 第 9 回：ブタのライフサイクルと生産システム 第 10 回：ブタの繁殖管理 第 11 回：ニワトリのライフサイクルと生産システム 第 12 回：ニワトリの繁殖管理 第 13 回：繁殖群の計数管理 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 講義内容について、小テストまたは課題に対するレポートの提出を課すため、提出期限を厳守すること。本講義を履修前または同時期に動物関連の科目を履修していることが望ましい。特にアニマルサイエンス入門を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各授業における講義資料を Web で配布するため、資料を用いて予習・復習を行うこと。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 畜産学入門（文永堂出版、2012） 最新 畜産ハンドブック（講談社、2014） 獣医疫学〈第三版〉（近代出版、2022）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける		
8. 成績評価の方法 毎回出席を取り、講義での定期テスト（50%）、課題レポート 2 回（30%）、小テスト（20%）で評価する。		
9. その他 動物生産学研究室（5 号館 5 階 501A） オフィスアワー：火曜日：12:30～13:10		

科目ナンバー (AG) AGR361J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物資源機能利用学	2 単位	水野谷 航
2022～2025 年度入学者 動物資源機能利用学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 家畜から生産される動物資源（畜産物）のうち、主として食肉、牛乳、鶏卵およびそれらから製造される加工品を対象に、生産性や品質保証などを理解し、さらにこれら畜産物の処理、加工、貯蔵、流通上の技術的諸問題、食品としての機能性、食文化に至るまで、総合的に学習を進める。視聴覚教材と双方向型の手法も取り入れ、実践的な授業を目指す。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。 《授業の到達目標及びテーマ》 ・畜産物のうち、主として食肉、卵、牛乳を対象に、生産性や品質保証などについて説明できる。 ・畜産物の処理、加工、流通上の技術的諸問題を説明できる。 ・動物性食品の栄養機能性、食文化などを理解し説明できる。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンスと食肉・食肉加工の歴史 第 2 回：食肉生産と流通の現況 第 3 回：と畜、解体処理、法的規制 第 4 回：食肉の格付 第 5 回：骨格筋の構造 第 6 回：筋肉から食肉への変換 第 7 回：食肉の保存：微生物制御と寒冷短縮 第 8 回：食肉製品の種類と製造法 第 9 回：食肉の加工特性と塩せき剤の作用 第 10 回：食肉の栄養と機能性 第 11 回：牛乳の栄養成分 第 12 回：乳製品の製造技術 第 13 回：鶏卵の生産、鮮度と品質の栄養機能性 第 14 回：野生鳥獣肉について		
3. 履修上の注意 化学，生物学を基礎にした内容であることから，既修得の関連基礎科目を復習しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に授業内容をまとめたスライド資料（PDF）を Oh-o! Meiji にアップロードするのでそれを使って予習する。授業後は授業中に説明した内容をスライド資料（PDF）に自身で書き込んだものを復習教材として見直す。習った項目について興味がある事項は自分で積極的に調べることを推奨する。授業時間外に授業の内容に関する復習用の小テストをオンラインで実施する。		
5. 教科書 適宜配布する資料および下記の参考書の内容に沿って授業を進める。		
6. 参考書 『畜産物利用学』 斉藤忠夫他編（文永堂出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間外に課した小テストを、その次の講義内で解説する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、平常点（授業参加・貢献度、小テスト）50% 欠席が 1/3 を超えた場合は評価の対象としない		
9. その他 オフィスアワー：最初の講義で指示する 連絡先：メールアドレス mizunoya@azabu-u. ac. jp 担当教員研究室 HP：https://lab-navi. azabu-u. ac. jp/va-09/		

科目ナンバー (AG) AGR321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 熱帯農学	2 単位	皆川 礼子
2022～2025 年度入学者 熱帯農学		
1. 授業の概要・到達目標 《概要》 熱帯地域の自然環境（気候、植生、土壌など）を利用した伝統的な農業形態と農業技術の改善による近代農業、さらに大規模なプランテーションについて学ぶ。また、地球温暖化や熱帯林破壊などの問題と熱帯地域で行われている農業の現状を理解し、グローバルな視点で熱帯農業のあり方について考える。 《目標》 熱帯の環境に適応した熱帯農業の特性、代表的な熱帯の作物の種類と栽培方法を理解する。そして、熱帯農業資源の評価、熱帯産作物の流通、熱帯農業の展望をまとめ、熱帯における農業のあり方に関する思考力を養うことを目標とする。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A・C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：「熱帯農学」とは 熱帯の特性と農業の起源 第 2 回：熱帯の環境（1） 気候と作物の種類 第 3 回：熱帯の環境（2） 生物相と農業 第 4 回：熱帯の環境（3） 生態系と農業的土地利用 第 5 回：熱帯の伝統的な農業（1） アグロフォレストリー 第 6 回：熱帯の伝統的な農業（2） 栽培の起源と作物 第 7 回：畑作の特性と栽培技術（1） 熱帯果実 第 8 回：畑作の特性と栽培技術（2） イモ類 第 9 回：畑作の特性と栽培技術（3） プランテーション 第 10 回：畑作の特性と栽培技術（4） 香辛料と嗜好品 第 11 回：稲作の現状と生産性 第 12 回：熱帯における農地の造成と農地の改良・保全 第 13 回：熱帯林と共存する 第 14 回：熱帯地域で生産される農作物の流通・熱帯農業の展望		
3. 履修上の注意 熱帯地域で行われている農業に関するすべてに興味を持ち、授業に参加すること。シャトルカードなどを利用し、質問や意見を積極的に伝えることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞やインターネットなどで最新の情報を得ること。興味ある事項は文献などで調べて知識を増やしてほしい。受講後は必ず資料を参考にして復習し、次の講義まで理解しておくこと。		
5. 教科書 指定しない。		
6. 参考書 『熱帯農業概論』田中 明・編著（築地書館） 『熱帯生態学』長野敏英・編（朝倉書店） 『熱帯雨林総論』T. C. ホイットモア著、熊崎 実・小林繁男監訳（築地書館） それぞれの講義に必要な資料は Oh-o! Meiji を通じて配信する。各自ダウンロードして利用すること。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験の解説と講評は、Oh-o! Meiji を通じて配信するので、各自確認すること。		
8. 成績評価の方法 成績評価は期末試験の結果（100%）で判定する。		
9. その他 オフィスアワー：第 1 回目の講義で示す。 連絡先：第 1 回目の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) AGR321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 肥料学	2 単位	伊藤 紘子
2022～2025 年度入学者 肥料学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本講義では、まず日本における肥料の取り扱いに関する法令と様々な肥料の種類と特性を知り、作物が必要とする無機養分の種類と土壌環境中における化学形態の変化や、作物による吸収と体内での働きおよび欠乏症等を学ぶ。さらに土壌、微生物との相互作用、それらを用いたバイオ肥料の利用について学ぶ。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A・C・D に対応する科目である。 《授業の達成目標》 農業生産現場で利用される肥料資材に関して、その成分を保証するための法令、肥料の種類、それを作物等へ施用するときの原理、作用機構、肥料が環境におよぼす影響等を知り、作物生産のための肥料の有効利用技術の基盤となる知識を修得する。		
2. 授業内容 第 1 回：肥料学とは、肥料法と肥料の定義・分類 第 2 回：肥料に関する特殊な用語について 第 3 回：肥料学に必要な土壌に関する知識の復習、窒素の土壌中における挙動と作物による吸収と働き 第 4 回：主な窒素質肥料の種類と製造法・特性 第 5 回：主なりん酸質肥料の種類と製造法、土壌中での挙動と作物による吸収と働き 第 6 回：主な加里質肥料の種類、土壌中での挙動と作物による吸収と働き 第 7 回：石灰質肥料とアルカリ分と土壌中での挙動、苦土（質）肥料 第 8 回：マンガン質肥料、ほう素質肥料、添加が許される微量元素（鉄、銅、亜鉛）、けい酸質肥料 第 9 回：植物における必須元素の欠乏症と過剰症、不良土壌における植物の応答 第 10 回：複合肥料（化成肥料、配合肥料）の種類と特徴、肥効調節型肥料、緩効性肥料 第 11 回：有機質肥料の種類と特性、堆肥と土壌改良資材の種類と特性 第 12 回：施肥に関わる法則性 第 13 回：植物に対する特異的な養分供給機構とバイオ肥料 第 14 回：講義内容の総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 「土壌学」「作物学概論」「植物生理学」など植物関連の農学基礎科目を履修しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 今回の授業範囲についてポータルを通じて講義資料（PDF）を配布するので、事前に教科書等で内容を予習しておくこと。この資料については講義時に印刷等して持参すること。 また、講義ごとに小テストを課す。小テストで分からなかったところや理解不足のところは、次の講義までに調べるか、小テストの質問欄にて質問すること。		
5. 教科書 『新植物栄養学・肥料学 改訂版』、米山忠克・長谷川功・関本均編（朝倉書店） また、ポータルを通じて講義資料（PDF）を配布する。		
6. 参考書 ①『土壌肥料用語事典 第 2 版』 藤原俊六郎、安西徹郎、小川吉雄、加藤哲郎 編 （農文協） ②『ポケット肥料要覧』（農林統計協会）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回講義の最初に、前講義後に課した小テストと質問への解説を行う。提出されたレポートについては、まとめの講義にて総評と解説を行う。		
8. 成績評価の方法 平常点（講義への参加・質問などの貢献度、授業後の確認テスト、授業内テスト）50% とレポート 50%により総合的に評価する。 レポート課題は 10～12 回のいずれかの講義で示す。 理由によらず、欠席が 5 回以上の学生は成績評価の対象としない。		

9. その他

オフィスアワーおよび連絡先：最初の講義で指示する。
その他、内容・方法・順番の変更があり得るので、Oh-o!Meiji での連絡に留意すること。

科目ナンバー (AG) AGR341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物病理学	2 単位	大里 修一
2022～2025 年度入学者 植物病理学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本講義では、植物病原菌の病原性と植物の病害抵抗性との関係について学ぶ。植物病理学の基本概念を確認したうえで、宿主－病原菌相互作用を生理・生化学的および分子遺伝学的視点から概説する。さらに、病原菌の分化型やレース、植物の静的・動的病害抵抗性、病原性の発現機構について理解を深める。加えて、分子植物病理学の考え方を通して、植物の病気を分子レベルで捉える視点を養う。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。 《到達目標》 植物病理学における基本概念と、宿主－病原菌相互作用の基礎を説明できる。植物病原菌における病原性の分化、分化型、レースの考え方を理解し、説明できる。植物の静的病害抵抗性および動的病害抵抗性の仕組みを理解し、その特徴を説明できる。病原菌の病原性およびその発現機構について、生理・生化学的、分子遺伝学的観点から理解できる。植物病害の成立と防除について、分子レベルの知見を踏まえて考察できる。		
2. 授業内容 第 01 回：ガイダンス・植物病理学とは 第 02 回：病原菌における病原性の分化 第 03 回：病原菌の分化型とレース 第 04 回：植物の病害抵抗性機構の概要(1) 第 05 回：植物の病害抵抗性機構の概要(2) 第 06 回：植物の静的病害抵抗性 第 07 回：植物の動的病害抵抗性(1) 第 08 回：植物の動的病害抵抗性(2) 第 09 回：植物の動的病害抵抗性(3) 第 10 回：病原菌の病原性(1) 第 11 回：病原菌の病原性(2) 第 12 回：病原性の発現機構 第 13 回：分子植物病理学(1) 第 14 回：分子植物病理学(2)		
3. 履修上の注意 「植物保護学概論」を履修し、菌類病および細菌病に関する基礎知識を身につけておくこと。また、「植物病害制御学」もあわせて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布する資料や教科書、参考書の該当箇所について、講義内容に応じて予習・復習を行うこと。各回の講義後には、重要な用語や概念を整理し、理解を深めること。		
5. 教科書 『植物病理学』 眞山滋志ら 著（文永堂出版）2020 年 / 第 2 版		
6. 参考書 『植物病理学』大木 理 著（東京化学同人）2019 年 / 第 2 版 『植物病理学の基礎』夏秋啓子ら 著（農文教）2022 年 『植物医科学』 難波成任ら 著（養賢堂）2022 年 / 第 2 版		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テスト等を実施した場合は、講義内または Oh-o! Meiji システムを通じて解説・講評を行う。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、定期試験（100％）により行う。 なお、定期試験は、Computer Based Testing（CBT：コンピュータを用いて解答する試験）または紙媒体による筆記試験のいずれかの方法で実施する予定である。		
9. その他 植物病理学研究室 (5 号館 3 階 5-302A 室) オフィスアワー：金曜日		

連絡先 : ohsato.meiji@gmail.com (◎は@)

科目ナンバー (AG) AGR341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物ウイルス学	2 単位	佐々木 信光
2022～2025 年度入学者 植物ウイルス学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 植物病原体の一つである植物ウイルスの形態的・構造的特徴，感染・増殖機構および病害防除などについて，生物学および植物病理的観点から総合的に理解することを目標とする。 《授業の概要》 植物ウイルス研究の歴史的経緯を踏まえつつ，現代科学によって解明されてきたウイルスの生物学的性状や感染・増殖・伝搬機構および植物のウイルス感染防御機構に関する総合的な講義を行う。また，ウイルス病の診断方法や防除・制御方法やウイルス自体のバイオテクノロジーツールとしての利用について最新の研究成果を交えて説明する。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては，学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション b：ウイルスの研究史 第 2 回：ウイルス感染による被害と病徴 第 3 回：ウイルスの粒子構造と分類 第 4 回：ウイルスの精製と定量 第 5 回：ウイルスゲノムの構造と遺伝子の発現 第 6 回：ウイルスの複製機構 第 7 回：ウイルスの移行機構 第 8 回：ウイルスの伝染 第 9 回：植物のウイルス抵抗性 第 10 回：ウイルス病の防除 第 11 回：ウイルスの検出と診断 第 12 回：ウイロイド 第 13 回：バイオテクノロジーツールとしてのウイルス 第 14 回 a：まとめ b：試験		
3. 履修上の注意 授業は配布する資料とパワーポイントを用いて行う。植物病理学及び分子生物学の基本的な知識を学習しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配布した資料に事前に目を通しておくこと。		
5. 教科書 特に指定しない。ただし、講義内容は参考書欄に記載されている『植物ウイルス学』池上正人ら著（朝倉書店，2009 年）を基本としている。		
6. 参考書 『植物ウイルス学』池上正人ら著（朝倉書店，2009 年） 『最新植物病理学』奥田誠一ら著（朝倉書店，2004 年） 『新編植物ウイルス学』平井篤造ら著（養賢堂，1988 年） 『植物のウイルス病物語』都丸敬一著（全国農村教育協会，2001 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 講義における参加態度（10%）および定期試験の成績に基づき評価する（90%）。参加態度は、講義中に行うアンケートのコメントおよび質問内容により判断する。		
9. その他 東京農工大学遺伝子実験施設 E15 室 TEL:042-367-5840（直通） E-mail: chaki@cc.tuat.ac.jp URL:http://www.tuat.ac.jp/~idenshi/		

科目ナンバー (AG) AGR341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物病害制御学	2 単位	小松 健
2022～2025 年度入学者 植物病害制御学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 微生物によって引き起こされる植物の生育障害を病気、それが人間による食用植物の生産に被害を及ぼすときに病害と呼ぶ。本講義では、植物病害の診断・制御に現在使用されている手段と、研究の進展により見えてきた制御法の将来像について理解を深めることを目標とする。さらに、農業生産と流通のグローバル化に伴う植物病害の拡散を制御するための植物検疫技術の現状と問題点、植物検疫制度についても学習し、理解を深める。その結果として、生き物と環境に関わる基礎的な知識と応用能力、自然環境と調和した持続的食糧生産システムに関する知識と、植物病害の拡散・制御の理解に必須な国際的な視点が習得可能である。 《授業の概要》 この授業では、植物病原体の種類と特徴、植物病原体の生活環と伝染方法、植物-病原体の相互関係、化学的・物理的・耕種的・生物的防除法の例と作用メカニズムや利点・欠点、植物検疫制度などについて具体例に基づいて概説する。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：植物病害とその被害の現状 第 2 回：植物病原体の種類、診断に関する概論 第 3 回：植物病害発生のメカニズムと制御に関する概論 第 4 回：糸状菌病の特徴、診断と制御（1）概論 第 5 回：糸状菌病の特徴、診断と制御（2）詳説 第 6 回：糸状菌病の化学的制御法：殺菌剤の作用メカニズム 第 7 回：化学的制御法の効率的な適用と欠点 第 8 回：農薬の安全性評価と化学的制御法に関する最新トピック 第 9 回：細菌・ファイトプラズマ病の特徴、診断と制御 第 10 回：ウイルス・ウイロイド病の特徴、診断と制御 第 11 回：植物病害の疫学 第 12 回：植物検疫制度：輸出入の国際検疫と国内検疫 第 13 回：国際的な植物防疫体制 第 14 回：a:植物病害の総合的防除・b:定期試験		
3. 履修上の注意 「植物病理学概論」を履修しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配布するプリント、Oh-o! Meiji にアップする資料等を用いて、講義での疑問点をあらかじめ考えておくこと。講義後は資料に改めて目を通し、理解度を確認しておくこと。		
5. 教科書 特に指定しない。講義内容は参考書欄記載のものに準拠している。		
6. 参考書 『植物病理学 第二版』土佐幸雄・眞山滋志編（文永堂出版） 『新版 農薬の科学』宮川恒ら編著（朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 試験成績（100 点満点）+授業参加度で評価する。 基本的に試験の結果を大きく重んじる。		
9. その他 質問・議論その他は常時メール（akomatsu@cc.tuat.ac.jp）で受けつける。 これまでの試験問題と解答は受講者に公開する。問題形式は似ているためある程度過去問を勉強すれば合格の可能性は高いが、講義に出るだけでは合格は難しい。 これまでの試験の成績分布は以下の通り。 2022 年 S: 13%, A: 21%, B: 29%, C: 23%, F: 14%		

2023 年	S: 8%, A: 28%, B: 32%, C: 18%, F: 14%
2024 年	S: 16%, A: 17%, B: 24%, C: 26%, F: 17%
2025 年	S: 10%, A: 31%, B: 22%, C: 27%, F: 10%

科目ナンバー (AG) AGR341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 応用昆虫学	2 単位	糸山・網島
2022～2025 年度入学者 応用昆虫学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 昆虫類は最も種多様性が大きい生物であり、我々人間は様々な場面で昆虫に遭遇する。『応用昆虫学』では、昆虫と人との関わりについて理解を深め、昆虫学および害虫防除に関する基礎的知識の習得を目標とする。 《授業の概要》 昆虫の生物学的特性について、様々な視点から概説する。また、農業や日常生活で遭遇する害虫の特徴や被害について紹介する。 農学科専攻科目の分野別科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C および D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：はじめにー人間と昆虫の関わりー 第 2 回：昆虫概論（1）形態的な特徴と多様性 第 3 回：昆虫概論（2）生活史戦略 第 4 回：昆虫概論（3）活動を支える生理特性 第 5 回：昆虫概論（4）昆虫の発育制御機構と制虫剤 第 6 回：昆虫概論（5）情報交換とフェロモン 第 7 回：水稻の害虫とその被害 第 8 回：畑作物の害虫とその被害 第 9 回：植物ウイルスと媒介害虫 第 10 回：野菜・花きの害虫とその被害（1） 第 11 回：野菜・花きの害虫とその被害（2） 第 12 回：果樹・茶の害虫とその被害 第 13 回：衣食住の害虫とその被害 第 14 回：昆虫の産業利用 ＊講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 『植物保護学概論』を履修していることが望ましい。また、『栽培学入門』をはじめとする関連科目の受講も推奨する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日頃から昆虫、さらには生物全般に興味を持つこと。各回の授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。		
5. 教科書 特に定めない。必要な資料は配付する。		
6. 参考書 『応用昆虫学』石川幸男・野村昌史 編著（朝倉書店） 『最新応用昆虫学』田付貞洋・河野義明 編著（朝倉書店） 『昆虫生理生態学』河野義明・田付貞洋 編著（朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験の答えは採点后に Oh-o! Meiji で返却する。		
8. 成績評価の方法 期末試験（100%）で評価する。		
9. その他 応用昆虫学研究室（5 号館 2 階 208 号室） オフィスアワー：火曜日 12：40～13：20、その他の時間も含めて訪問する場合は事前にアポイントを取ること。 連絡先：mushi(at)meiji.ac.jp (at)を@に変更すること。 研究室 HP：http://www.isc.meiji.ac.jp/~entomol/index.html		

科目ナンバー (AG) AGR341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 害虫管理学	2 単位	糸山 享
2022～2025 年度入学者 害虫管理学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 化学農薬の開発によって害虫防除の技術は飛躍的に進歩したが、農薬だけに頼った歴史は、「害虫の薬剤抵抗性」「圃場や周辺環境の生物相攪乱」「環境や野生動物」「人体への残留」といった多くの負の遺産を遺した。こうした事態を反省し、近年では環境負荷の低減を目指した総合的害虫管理（Integrated Pest Management; IPM）の理論を農業生産の現場に取り入れることが一般化してきた。『昆虫制御学』では、IPM の概念を理解し、化学農薬を含む様々な防除技術とその特性を活かした害虫管理システムを構築する為の基礎的知見を身に付けることを目的とする。 《授業の概要》 IPM の定義や鍵となる概念、害虫管理システムを構成する防除技術について解説する。専攻科目の分野別科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C および D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：害虫防除の歴史－農薬以前の害虫防除－ 第 2 回：農薬の全盛と影 第 3 回：殺虫剤抵抗性の発達 第 4 回：天敵至上主義の台頭とその限界 第 5 回：複数防除法の合理的統合－IPM の概念（1）－ 第 6 回：基礎的防除法－IPM の技術（1）－ 第 7 回：副次的防除法－IPM の技術（2）－ 第 8 回：害虫個体群の密度低減－IPM の技術（3）－ 第 9 回：害虫の根絶－IPM の技術（4）－ 第 10 回：被害許容水準とシステム管理－IPM の概念（2）－ 第 11 回：IPM の問題点と見直し－IPM の概念（3）－ 第 12 回：生産現場における IPM の実践と普及 第 13 回：生態系の機能を活かした害虫管理へ 第 14 回：これからの害虫管理 ※講義の内容や順番は必要に応じて変更する場合がある		
3. 履修上の注意 『植物保護学概論』および『応用昆虫学』を履修していることが望ましい。また、『栽培学入門』をはじめとする関連科目の受講も推奨する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。		
5. 教科書 特に定めない。必要な資料は配布する。		
6. 参考書 『バイオロジカル・コントロール-第 2 版-』 仲井まどか・日本典秀編（朝倉書店） 『総合的害虫管理学』 中筋房夫著（養賢堂） 『天敵』 矢野英二著（養賢堂） 『新版 農薬の科学』 宮川恒・田村廣人・浅見忠男著（朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験の答えは採点後に Oh-o! Meiji で返却する。		
8. 成績評価の方法 期末試験（100%）で評価する。 当年の授業で配布したプリントのみ試験への持ち込みを許可する場合がある。		
9. その他 応用昆虫学研究室（5 号館 2 階 208A） オフィスアワー：火曜日 12:40～13:20、会議や出張が多いため事前に連絡することが望ましい。 連絡先：mushi (at) meiji . ac . jp （at）を@に変更すること。		

研究室 HP : <http://www.isc.meiji.ac.jp/~entomol/index.html>

科目ナンバー (AG) AGR341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物線虫学	2 単位	新屋 良治
2022～2025 年度入学者 植物線虫学		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 線虫はその種数およびバイオマスともに地球上で最も繁栄している動物の 1 つである。多くは地球生態系における分解者としての役割を担っているが、 動植物に寄生し様々な病気を引き起こすものも多数存在する。本講義では様々な種類の線虫における生物学的特徴や他の生物との関わり、さらには寄生線虫病について解説する。 ＜到達目標＞ 多様な線虫の生物学的特徴や線虫と私たち人間生活との関わりについて理解を深め、寄生性線虫の制御法を学ぶことを目標とする。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション：線虫という生き物 第 2 回：線虫の系統と体構造 第 3 回：モデル生物としての線虫 第 4 回：線虫の性・繁殖 第 5 回：線虫の行動 第 6 回：線虫の環境適応・ゲノム 第 7 回：植物寄生性線虫：定着性線虫 第 8 回：植物寄生性線虫：移動性・外部寄生性線虫 第 9 回：植物寄生性線虫：侵入種問題 1 第 10 回：植物寄生性線虫：侵入種問題 2 第 11 回：植物寄生性線虫：検出と防除 1 第 12 回：植物寄生性線虫：検出と防除 2 第 13 回：植物寄生性線虫：検出と防除 3 第 14 回：a：試験 b：試験の正答解説 ＊講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 線虫の生物学および線虫が引き起こす寄生線虫病を理解するための科目である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した内容について文献等で調べること。授業中に不明な点があればその都度質問すること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『線虫の生物学』石橋信義（東京大学出版会） 『線虫-1000 細胞のシンフォニー』小原雄治編（共立出版） 『The Biology of Nematodes』Donald L Lee（CRC Press）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験（100%）により評価する。		
9. その他 植物線虫学研究室（5 号館 3 階 307A 号室） オフィスアワー：在室していれば随時可。質問等があれば気軽に研究室まで来てください。		

科目ナンバー (AG) AGR341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 雑草学	2 単位	岩上 哲史
2022～2025 年度入学者 雑草学		
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 農耕地及び非農耕地の管理上重要となる雑草の特性を知り、雑草防除の難しさとともに、雑草防除法について学ぶ。また現代農業における代表的な雑草防除技術である除草剤について、代表的な除草剤の作用機構について学ぶとともに、除草剤に対する雑草の抵抗性「進化現象」について理解する。講義では遺伝子組換えや次世代シーケンサーなど植物科学において利用されるテクノロジーについても紹介し、これらの雑草研究への応用について紹介したい。 「到達目標」 ①雑草の概念について理解する。 ②日本と世界の代表的な雑草を理解する。 ③雑草に固有の生理・生態的特性を理解する。 ④雑草群落の特性を理解する。 ⑤除草剤や耕種的方法による雑草防除法を理解する。 ⑥代表的な除草剤の作用機構について理解する。 ⑦雑草の除草剤抵抗性について理解する。 ⑧雑草防除を難しくさせる雑草の特性を理解する。 「農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）」においては、学習・教育目標の A・D・E に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] 雑草とは何か・雑草の起源 [第 2 回] 雑草の個体群の動態 [第 3 回] 雑草の発芽 [第 4 回] 農耕地における雑草防除法 [第 5 回] 除草剤の概説 1 [第 6 回] 除草剤の概説 2 [第 7 回] 中間試験 [第 8 回] バイオテクノロジーと雑草管理 [第 9 回] 除草剤抵抗性雑草 1 [第 10 回] 除草剤抵抗性雑草 2 [第 11 回] 除草剤抵抗性雑草 3 [第 12 回] 雑草ゲノミクス [第 13 回] 外来雑草・アレロパシー [第 14 回] 期末試験 ※授業内容は進捗状況に応じ変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 3 年生以上の専門性を高めたい人に向けた講義としています。 基礎的ではありますが、分子生物学や生化学に基づく内容も含まれるので、基本的な知識はあるとよいと思います。 また栽培学に関する基礎知識があると理解しやすいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義では毎回レジュメを配布します。アップロードが直前になってしまうこともあるかと思いますが、ご了承ください。 予習は不要です。		
5. 教科書 特になし		
6. 参考書 『雑草学総論』伊藤操子著（養賢堂） 『雑草学入門』山口裕文監（講談社） 『身近な雑草の生物学』根本・富永編著（朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回コメントや質問を提出してもらいます。質問については翌週以降に解説するようにします。		

8. 成績評価の方法

講義における参加態度（約 20%）および定期試験の成績に基づき評価する（約 80%）。参加態度は講義ごとに提出してもらうコメントや質問、小テストにより判断する。

9. その他

東京農工大学農学部 応用生物科学科
〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8
E-mail: iwakamis@go.tuat.ac.jp
Website: <https://siwakami.xsrv.jp/>

科目ナンバー (AG) AGR341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 野生動物学	2 単位	加藤 卓也
2022～2025 年度入学者 野生動物学		
1. 授業の概要・到達目標 生物多様性の保全は国際的な課題であり、日本においても様々な取り組みがみられる。人と自然との関わりの変化は野生動物にも影響をもたらし、絶滅の危機に瀕する生物種が増加する一方、個体数増加や分布域の拡大により農林業被害や生態系への被害を深刻化させている生物種もいる。さらに、国際的な人や物資の輸送増加に伴う外来種の導入も、生物多様性を損失させるおそれがある。近年、我が国ではシカ、イノシシ、クマ類（ツキノワグマ、ヒグマ）、サルなどの大型哺乳類による農林業被害や人身被害、また外来種アライグマ等による農業被害や生活被害などの問題が、中山間地域のみならず都市部にも拡大し社会的にも強い関心事となっている。そして、生態系のバランスが崩れることは、野生動物から人や家畜へ、あるいは人や家畜から野生動物への共通感染症の媒介など新たな問題にも波及している。 本講義では、人と野生動物との関係性の変遷を背景に、野生動物問題の対象動物の生態と現状、被害発生のメカニズム、野生動物管理に関わる法制度と地域の取り組みについて触れ、野生動物管理の理論と問題解決のための課題について学ぶ。 農学科専攻科目の分野別科目で、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A・C・D に対応する科目である 到達目標 （１） 野生動物管理の基本的な理論を概説できる。 （２） 野生動物の基本的な生態と社会的課題を例示して説明できる。 （３） 野生動物管理のための制度を理解し、基本的な施策について議論できる。		
2. 授業内容 〔第 1 回〕 生物多様性と野生動物 生物多様性の基本的な概念や保全の意義に触れ、どのような脅威があるかを学ぶ。 人と野生動物との関わりが、持続可能な社会の発展に不可欠であることを考える。 〔第 2 回〕 野生動物管理－ワイルドライフ・マネジメントとは 日本の哺乳類相の特徴や歴史的変遷を導入とし、「ワイルドライフ・マネジメント」の概要を学ぶ。 〔第 3 回〕 野生動物の基本生態と社会的課題 1 ニホンジカ・イノシシ ニホンジカ及びイノシシの分布、基本的な生態に加え、社会的課題について学ぶ。 〔第 4 回〕 野生動物の基本生態と社会的課題 2 クマ類 クマ類（ヒグマ、ツキノワグマ）の分布、基本的な生態に加え、社会的課題について学ぶ。 〔第 5 回〕 野生動物の基本生態と社会的課題 3 ニホンザル ニホンザルの分布、基本的な生態に加え、社会的課題について学ぶ。 〔第 6 回〕 野生動物管理・被害対策に関わる法制度 鳥獣保護管理法及び鳥獣被害防止特措法を、それぞれの背景と共に学ぶ。 野生動物管理・被害対策における国、都道府県、市町村の役割について理解する。 〔第 7 回〕 a：中間試験（日本の中大型獣における野生動物管理） b：正答解説 〔第 8 回〕 野生動物の捕獲とアニマルウェルフェア 野生動物の捕獲に関する法制度、捕獲方法、アニマルウェルフェアについて学ぶ。 〔第 9 回〕 野生動物の疾病と感染症伝播の問題 野生動物に関わる疾病について、まず基本的事項を理解する。 国内で昨今問題となっている感染症を紹介し、その対策の現状を学ぶ。 〔第 10 回〕 絶滅の危機と回避 野生生物種の減少要因について学び、多くの種が絶滅の危機にあることを理解する。 絶滅を回避すべく実施されている取組を、関連法とともに紹介する。 〔第 11 回〕 外来種問題 侵略的外来種の導入と定着は、生物多様性の損失にきわめて強い悪影響を及ぼす。 基本的概念と、何が問題なのかを理解する。 〔第 12 回〕 外来哺乳類の管理 外来哺乳類の問題と対策について、主に国内事例を題材として関連法とともに学ぶ。 〔第 13 回〕 野生動物管理の人材育成と持続可能な資源利用 野生動物管理の一環として、ジビエとしての利活用が推奨されている。 将来的に重要な論点について考えてもらおうべく話題提供を行う。 〔第 14 回〕 a：期末試験 b：正答解説と講評		
3. 履修上の注意 野生動物問題に関わる記事やニュースに関心を持つことが望ましい。 指定教科書でカバーできない内容については、可能な限り資料を配付する。		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の講義に関連する事項について、教科書やインターネット上の記事などで調べておく和良好的。
また、講義で扱った専門用語や理論について、教科書等で復習すること。

5. 教科書

『実践 野生動物管理学』 鷲谷いづみ 監修・編著/梶 光一・横山真弓・鈴木正嗣 編著 （培風館）

6. 参考書

『増補版 野生動物管理－理論と技術－』羽山伸一・三浦慎悟・梶光一・鈴木正嗣 編（文永堂出版）
『野生動物問題への挑戦』羽山伸一（東京大学出版会）
『コアカリ 野生動物学 第2版』日本野生動物医学会 編（文永堂出版）
『日本の動物政策』打越綾子（ナカニシヤ出版）

7. 課題に対するフィードバックの方法

第7回及び第14回のbモジュールで、それぞれ中間試験と期末試験の正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

中間試験（40%）、期末試験（60%）とする。

9. その他

科目ナンバー (AG) AGR361J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物環境学	2 単位	川口 真以子
2022～2025 年度入学者 動物環境学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標及びテーマ》 環境は動物に対し、個体発生から成熟期、あるいは進化の過程といった、さまざまな場面で影響を及ぼす。また、動物が環境に与える影響も糞尿臭から砂漠化に至るまで幅広い。このような動物と環境の相互作用について広い視野で理解することで、動物の飼育管理における環境負荷の軽減、生産物の安全性および動物福祉の両立についての今後のあるべき姿を考えることを目的とする。 《授業の概要》 さまざまな環境がもたらす動物への影響について、動物生理や行動を中心に紹介すると同時に、動物飼育が環境に及ぼす影響についても解説する。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・E・F に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：環境が動物に及ぼす影響 第 2 回：妊娠期の環境と動物の発達 第 3 回：生育環境と動物の発達 第 4 回：プレゼンテーション①（個人で発表、グループ決め） 第 5 回：グループディスカッション 第 6 回：成熟動物への環境の影響 第 7 回：暑熱・寒冷の動物への影響 第 8 回：環境中化学物質が動物に及ぼす影響 1 第 9 回：環境中化学物質が動物に及ぼす影響 2 第 10 回：放射線が動物に及ぼす影響 1 第 11 回：放射線が動物に及ぼす影響 2 第 12 回：畜産が環境に及ぼす影響 第 13 回：プレゼンテーション②（チームで発表） 第 14 回：期末試験と解説 その他、動物トピック ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本講義を履修前、または同時期に、動物行動学などの動物関連の科目を履修していることが望ましい。環境と動物、そしてヒトの関係に興味を持ち、その将来像について考えてほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に Oh-o! Meiji より配布資料をダウンロードし読むこと。授業の後には授業内容を参考書等も用いて理解しなおすこと。プレゼンテーションに際してはパワーポイントファイルの作成・発表練習が事前に必要となる。受講者の人数に応じて、プレゼンテーション②はグループで発表ではなく、単独で発表になる場合がある。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『最新畜産学』水間豊ら 著（朝倉書店） 『脳とホルモンの行動学 わかりやすい行動神経内分泌学 第 2 版』近藤保彦ら 著（西村書店） 『新編 畜産環境保全論（第 2 版）』押田敏雄ら 著（養賢堂） 『奪われし未来<増補改訂版>』T. Colborn ら 著 長尾力ら 訳（翔泳社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 毎回簡単な意見発表を行い（15%）、プレゼンテーション①では動物環境学に関連する新聞記事の紹介を行い（20%）、プレゼンテーション②では課題についてグループの意見を発表し（15%）、学期末試験（50%）を行い合計したものを評価とする。		

9. その他

動物環境学研究室（5号館5階502号室）

オフィスアワー：講義終了後10分。

科目ナンバー (AG) AGR261J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物感染症学	2 単位	大松 勉
2022～2025 年度入学者 動物感染症学		
1. 授業の概要・到達目標 COVID-19 をはじめとする野生動物を由来とするヒトの感染症のみならず、豚熱や鳥インフルエンザなどの動物で発生することでヒトの社会生活にも大きな影響を及ぼす感染症は非常に多く、それらは身近な問題となっている。本講義では動物の感染症を中心に、宿主免疫、病原体、防疫という3つの観点から講義することで、感染症に関する理解を深め、多角的に説明できることを目標とする。		
2. 授業内容 [第1回] イントロダクション [第2回] 宿主免疫：概論 [第3回] 宿主免疫：自然免疫による防御機構 [第4回] 宿主免疫：獲得免疫とリンパ球 [第5回] 宿主免疫：自然免疫と獲得免疫 [第6回] 宿主免疫：腫瘍免疫 [第7回] 宿主免疫：免疫性疾患 [第8回] 宿主免疫：感染症と免疫 [第9回] 動物の感染症：病原体概論 [第10回] 動物の感染症：ウシで問題となる感染症 [第11回] 動物の感染症：ブタで問題となる感染症 [第12回] 動物の感染症：ニワトリで問題となる感染症 [第13回] 家畜疾病と防疫 1 [第14回] 家畜疾病と防疫 2		
3. 履修上の注意 生物学関連授業を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義後に資料等を振り返り復習すること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 「免疫学の基礎」入村達郎監修、東京化学同人 「スタンダード免疫学」小林芳郎、笠原忠編、丸善出版 その他は授業中に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 毎回の小テスト 30%、学期末試験 70%により評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGR381J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生産気象学	2 単位	矢崎 友嗣
2022～2025 年度入学者 生産気象学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農地や生態系の環境や物質循環、作物生産を理解するうえで重要な地表面付近の微気象の形成の仕組みを理解する、すなわち農業気象に深く関係する科目である。さらに、気象に対する植物生産の応答の仕組みについても論考する。農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C および D に対応する科目である。 《授業の概要》 気象は作物生産環境や生態系における現象の理解にとって重要な要素である。本科目では、地表面付近の気象環境、植物との関係、及び生産性向上のための環境調節について、その理論や現場での応用を説明する。また、微気象や物質循環の計測方法についても紹介する。		
2. 授業内容 以下のように授業を進める予定だが、順序を変更することがある 第一部 気象現象を理解するための物理的背景 第 1 回：「生産気象学」で学ぶこと（イントロダクション） 第 2 回：放射環境（1）放射の理論と気象現象 第 3 回：熱や水（水蒸気）の基本的な性質 第 4 回：大気鉛直構造と雲の形成、降水現象 第二部 地表面付近のエネルギー・物質の挙動 第 5 回：地表面付近の風とエネルギー・物質の輸送 第 6 回：地表面付近のエネルギー収支（1）理論と様々な地表面の例 第 7 回：地表面付近のエネルギー収支（2）観測と計算の手法 第 8 回：地形と夜間の冷却 第三部 環境－植物の相互作用と生産現場における応用 第 9 回：環境に対する植物や生態系の応答（1）蒸散と水ポテンシャル 第 10 回：環境に対する植物や生態系の応答（2）光合成と呼吸 第 11 回：農耕地の環境調節 第 12 回：農業気象災害とその対策 第 13 回：畜舎、貯蔵庫の環境調節 第 14 回：まとめと振り返りと計算問題		
3. 履修上の注意 「環境気象学」や「植物成長制御学」とあわせて履修すると理解が深化する。 普段から気象や農業、環境問題などに関するニュースや記事などに関心を持つておくこと。 計算問題を解くため、MS Excel がインストールされたノートパソコン、タブレット端末または、関数電卓を準備すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布する資料や講義内容を振り返り、不明な部分があれば質問するなど、不明な点は残さないこと。		
5. 教科書 パワーポイントと配布資料により授業を進める。		
6. 参考書 『農業気象・環境学 第 3 版』大政謙次ほか（朝倉書店）2020 年 4 月刊行 『農業気象学入門』鮫島良次ほか（文永堂出版）2021 年 1 月刊行 『農学・生態学のための気象環境学』文字信貴他（丸善）1997 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回、OhoMeiji 上で理解を問う課題を掲示し、後日解説する。またコメントを残せるようにする。 学期末のテストは、採点后 Oho Meiji で返却し、各自振り返ることができるようにする。		
8. 成績評価の方法 評価は毎回の授業後の理解を問う課題（計 30%）と学期末の課題（70%）で行う。		
9. その他 連絡先：環境気象学研究室（4 号館 308A 号室） vazakitm@meiji.ac.jp		

オフィスアワーは設定しませんが、授業終了後質問等に対応します。
その他も可能なときは対応しますので、メールでご連絡ください

科目ナンバー (AG) AGR351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 応用水理学	2 単位	小島 信彦
2022～2025 年度入学者 応用水理学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 応用水理学では、開水路や管水路の実際の設計において必要とされる設計方法を学び、それらを基に実際の水路はどうあるべきかについて考える。水理学で学んだことを基にして、実際のパイプラインや開水路、水利構造物の設計に必要な基礎事項について講義する。 《到達目標》 水利構造物について簡単な水理設計ができるようになることを目的とする。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：水理学の講義内容の復習 第 2 回：管水路の損失水頭 第 3 回：摩擦以外の損失水頭 第 4 回：管径が異なる場合の損失水頭 第 5 回：サイホンと伏越し 第 6 回：水車とポンプ 第 7 回：管径の決定方法 第 8 回：複断面水路 第 9 回：等流水深 第 10 回：限界水深 第 11 回：刃形堰 第 12 回：運動量の法則 第 13 回：広頂堰と跳水 第 14 回：水利構造物の設計（まとめ） ※理解度によって内容を変更することがある。		
3. 履修上の注意 水理学を履修し理解を深めておくこと。生産環境学入門・農地工学・農学実験 VI を履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回宿題を出すので決められた期日までに必ず提出すること。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 多くの水理学の教科書が出版されているので手に取って、自分に合ったものを見つけること。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題提出日の次の授業で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 学期末試験（70％）および復習の宿題（毎回）（30％）により評価する。宿題の提出が7割に満たない場合は評価の対象としない。		
9. その他 水資源学研究室（4 号館 3 階 304 A 号室） オフィスパワー：水曜日 12：40～13：20		

科目ナンバー (AG) AGR251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 構造力学	2 単位	小林 大樹
2022～2025 年度入学者 構造力学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標》 ダムや水路、橋梁などの農業生産を支える様々な構造物を設計・維持管理するためには、対象が受ける外力のもとで、構造物内部にはたらく力と構造物の変位や変形を求める必要がある。 本講義では構造物を設計するために必要な諸量の計算手法を習得することを目標とする。 《授業の概要》 構造力学では、はりのたわみ、トラス構造物の解析、柱の解析について学び、続いて不静定構造物の解析方法について講義する。さらに、実用的な解析方法として PC による構造計算を学ぶ。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：はりのたわみ①：たわみの微分方程式 第 3 回：はりのたわみ②：各々のはりにおけるたわみ 第 4 回：トラス構造①：トラス構造とは 第 5 回：トラス構造②：トラス構造の解法 第 6 回：柱の強度と設計①：短柱の解法 第 7 回：柱の強度と設計②：長柱の解法（オイラーの座屈理論） 第 8 回：ラーメン構造の解法 第 9 回：不静定構造物の解法①：不静定構造物とは 第 10 回：不静定構造物の解法②：応力法による不静定ばりの解法 第 11 回：PC による構造計算① モデルの描き方 第 12 回：PC による構造計算② 構造計算の方法 第 13 回：PC による構造計算③ 総合演習 第 14 回：要点整理		
3. 履修上の注意 「応用力学」の単位を取得していることが強く望まれる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、講義予定項目について教科書の該当部分を読んでおくこと。また講義後は該当する教科書のページを再確認して、課題や演習問題に取り組むこと。		
5. 教科書 『基礎から学ぶ構造力学』藤本一男他（森北出版）		
6. 参考書 特に指定しない。教科書の範囲外の内容については、講師から資料を配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の最後に演習問題を課題として与える。 課題のフィードバックは次回の授業にて行う。		
8. 成績評価の方法 平常点（課題提出） 40% 定期試験 60%		
9. その他 オフィスアワー：最初の講義で指示する 連絡先（mail）：kobayashi_d@meiji.ac.jp 授業と定期試験において関数電卓を使用する。		

科目ナンバー (AG) AGR351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 材料施工学	2 単位	鈴木 哲也
2022～2025 年度入学者 材料施工学		
1. 授業の概要・到達目標 (1) 材料科学に関する基礎的な知識を身につける（主にコンクリート工学）。 (2) 非破壊検査法の基礎知識を身につける。 (3) 農業生産・地域環境を支える主要な基盤構造物の種類と役割を理解する。 (4) 基盤施設のマネジメント法を理解する。		
2. 授業内容 [第 1 回] 授業の進め方, イントロダクション, 総説：環境マテリアル・施工学概要 - 材料科学と農業インフラ学 - [第 2 回] 材料の種類と機能・性能 - 延性材料と脆性材料 - [第 3 回] 材料の環境負荷とその評価法 - 材料科学における LCA と LCC - エコマテリアルとしての材料の改質と環境親和型材料 [第 4 回] 材料解析の数理 (1) 数学基礎 [第 5 回] 材料解析の数理 (2) 材料物性への応用 (1) [第 6 回] 材料解析の数理 (3) 材料物性への応用 (2) [第 7 回] 材料各論 (1) 延性材料（木質材料, 金属材料） [第 8 回] 材料各論 (2) 脆性材料（コンクリート材料, 土質材料） [第 9 回] 材料各論 (3) 材料物性の評価法：破壊試験, 非破壊試験の種類 [第 10 回] 材料の性能設計法 - 許容応力度法, 限界状態設計法, 性能設計法 - [第 11 回] 非破壊検査による材料物性評価 [第 12 回] まとめ [第 13 回] 期末考査 [第 14 回] 期末考査・解説		
3. 履修上の注意 本科目は土曜日開講の集中講義です。2026 年度は 4/18（土）（1～2 限）, 5/9（土）（1～4 限）, 5/23（土）（1～4 限）, 6/6（土）（1～4 限）に開講します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義最後に次回の内容と予習内容を提示します。		
5. 教科書 『建設材料』中嶋清実（著）, コロナ社		
6. 参考書 (1) 『社会基盤メンテナンス工学』土木学会メンテナンス工学連合小委員会（編著）, 東京大学出版会 (2) 『マテリアルの力学的信頼性 - 安全設計のための弾性力学』榎学著, 内田老鶴圃（第 4 回, 第 5 回講義） (3) 『土木技術者の木材工学入門』土木学会木材工学委員会（第 7 回講義） (4) 『機能保全における性能設計入門』, 農業農村工学会（第 9 回講義）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-Meiji にて返却します。		
8. 成績評価の方法 期末試験により評価します。2/3 以上の出席を要す。		
9. その他 質問等は, E_mail で受け付けます。		

科目ナンバー (AG) AGR351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農業水利学	2 単位	小島 信彦
2022～2025 年度入学者 農業水利学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「水」は人類のみならず，地球上のあらゆる生物にとって欠けがいのない資源であり，適切な水循環を維持していくことは非常に重要である。人間の水利用と降雨などによる自然の水供給，生態系とのバランスに配慮した持続的な水利用を念頭に置き，農業用水を中心に，水資源と水利用，水利施設，水文循環について講義を行う。本科目は食糧生産・生産環境の両方に関わる専門科目である。 《到達目標》 農業水利学では，これからの農業用水の適切な利用について考えるための基本事項を身につけることを目的とする。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A・D・E に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：水資源開発の現場から 第 2 回：世界の水資源量と国際河川 第 3 回：世界の水使用量とアジア・モンスーン地域 第 4 回：日本の水資源量と使用量 第 5 回：水資源開発 第 6 回：農業用水の課題 第 7 回：貯水池・ダムの構造 第 8 回：ダムの問題点 第 9 回：頭首工 第 10 回：水路工 第 11 回：流出解析手法 1 洪水流出解析 第 12 回：流出解析手法 2 長期流出解析 第 13 回：今後の水資源開発 溪流取水工 第 14 回：まとめ 農業水利施設整備に必要な要素 ※新しいトピックに触れるために授業内容が前後することがあります。		
3. 履修上の注意 「水」なしには農業は成立しないので，生産を支える基礎分野であるとの意識を持って講義に参加することを望む。 「生産環境学入門」「農地工学」を履修していることが望ましい。また「水理学」「応用水理学」「材料施工学」「土質力学」「農村計画学」「農学実験 VI」等を履修し，理解を深めてほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 水に関するニュースはチェックしておくこと。また，講義中に示された事例については自分で調べて確認しておくこと。 レポートには真剣に取り組むこと。		
5. 教科書 とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。		
6. 参考書 『水危機 ほんとうの話』 沖大幹 著 新潮選書 『地域環境水文学』 田中丸治哉 他著 朝倉書店		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に課したレポートについてはその内容に該当する授業の際に解説を行う。		
8. 成績評価の方法 学期末試験（50％）およびレポート（50％）により評価する。		
9. その他 水資源学研究室（4 号館 3 階 304 A 号室） オフィスアワー：水曜日 12：40～13：20		

科目ナンバー (AG) AGR251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 測量学Ⅱ	2 単位	コーディネーター：小島
2022～2025 年度入学者 測量学Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 測量は、地表面上の諸点の位置情報を取得・処理・記述するための技術であり、国土の利用に必須のものである。 測量学Ⅱでは、測量学Ⅰ（測量の基礎と原理）の理解をベースに現在世の中でこれらの測量技術がどのように応用されているのかその実状を理解することを目的として、国内の実務に携わる技術者、研究者による測量関連技術の講義をオムニバス方式で実施する。 《授業の概要》 測量学の新しい概念である空間情報工学を取り扱う。 空間情報工学の先端技術としてリモートセンシング、全地球測位システム、地理情報システム、デジタル写真測量等について学ぶ。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標のDに対応する科目である。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス ～測量学Ⅱの内容（小島信彦・コーディネーター） 第2回：リモートセンシング（1）原理（農研機構・坂本利弘） 第3回：リモートセンシング（2）応用（農研機構・坂本利弘） 第4回：GNSS 測量（1）原理（農研機構・坂本利弘） 第5回：GNSS 測量（2）応用（農研機構・坂本利弘） 第6回：ドローン測量（農研機構・坂本利弘） 第7回：ダム湖や海底の深浅測量（農研機構・向井章恵） 第8回：建設工事を支える現場の測量技術（日本道路（株）・丸山昌礼） 第9回：IC 施工の最先端技術（日本道路（株）・丸山昌礼） 第10回：災害調査のための測量技術（アジア航測（株）・千葉達朗） 第11回：赤色立体地図の作成と活用（アジア航測（株）・千葉達朗） 第12回：QGIS を用いた地図の作成と解析技術（（株）三祐コンサルタンツ・千頭麻子） 第13回：地図と水文環境（兼任講師・樽屋啓之） 第14回：まとめ（小島信彦・コーディネーター）		
3. 履修上の注意 測量学Ⅰを履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後は、レポート・課題に取り組むとともに講義内容について整理すること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 参考書については各講義で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji でコメントを公開する。		
8. 成績評価の方法 講義に関する課題・レポートによって評価する。 詳細は各講義の際に提示する。		
9. その他 授業について不明な点は、小島までお問い合わせください。 小島：オフィスアワー 水曜日 12:40～13:20（4 号館 3 階 4-304） mkoji@meiji.ac.jp 各講師の連絡先は授業時に紹介する。		

科目ナンバー (AG) ENV321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生物多様性再生学	2 単位	岡田 久子
2022～2025 年度入学者 生物多様性再生学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生物多様性再生学は、生物多様性の保全と再生が求められている現代において、その基礎となる考え方と具体的な手法を学ぶ学問である。生態学と緑地学の境界領域であり、生態学的な学問の体系的な理解と、実務における基本的な技術の習得を目標とする。 生物多様性保全・再生の実務から学ぶことをテーマとする。 《授業の概要》 生物多様性再生学では保全生態学と景観生態学を基礎として、現実の世界で取り組まれている多様な事例を取り上げ、さらに事例の組み合わせとしての地域づくりについて述べる。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習教育目標の B・C・E に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回 生物多様性再生学の基礎―「景観論」 第 2 回 目標とする自然 第 3 回 環境ポテンシャル 第 4 回 エコロジカルネットワーク 第 5 回 インパクトと反応 第 6 回 里山の環境の成り立ち 第 7 回 人とみどりの空間 第 8 回 多自然河川工法と礫河原生態系の再生 第 9 回 里山の保全と再生 第 10 回 ミティゲーション 第 11 回 生きものと人間の関係 第 12 回 生物多様性地域戦略を生かす 第 13 回 緑の基本計画の活用 第 14 回 多様な生きものと共存する未来		
3. 履修上の注意 身の回りには、生物多様性再生学にかかわるさまざまな社会的活動が存在する。アンテナを伸ばしそれらの活動から学んでほしい。 授業科目としては、緑地学入門、保全生態学、緑地管理学と関連する科目である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、講義内容に関係した課題を提示するので提出すること		
5. 教科書 亀山章監修 倉本宣・佐伯いく代編「新版生態工学」朝倉書店 （2021）		
6. 参考書 「生態工学」朝倉書店 亀山章編 （2002） 「保全生態学入門」文一総合出版 鷲谷いづみ他 （1996）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末レポート 85%、平常点（小課題などの提出物）15% により評価する。 欠席が 5 回を超える場合は、学期末レポートを受けつけない。		
9. その他 オフィスアワー 授業前後 1 時間（農学部 2 号館講師控室、または 4 号館 4-213A） メールアドレス hokada@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGR381J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ランドスケープ工学	2 単位	人見 誠マルセール
2022～2025 年度入学者 ランドスケープ工学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本講義では、現代社会における緑地空間の役割や要求に応える実務を軸として、緑地・造園技術について学ぶことを目的としています。ただ緑を増やすのではなく、誰のための緑地なのか、施主や利用者の立場的な違いや営利/非営利目的の空間なのか。様々な需要の下で創出される緑地。その緑地空間の在り方を考えるには技術として緑化に関する知識を得るだけではなく、哲学的な背景をも含め、社会的背景や時代の移り変わりと共に変化する緑の価値、そして根源にある人々と空間との関わりについても俯瞰する視野をもつことが重要であると考えます。 講義の軸として、理論編と実践編を設定し、理論編では緑地の在り方から設計手法、公共緑地の作られ方など、緑地工学に関する知識を獲得することを目指します。実践編では先に得られた知識をもとに、実際の業務等で行われた設計を材料として、造園・設計を志す者として求められる各工種の考え方と技術についての理解を深める目的での講義を行います。 食糧・環境コースにあつては学習・教育目標の E・D に対応する科目。 《授業の概要》 講義の前半は理論編として、緑地工学の成り立ちと社会に対して果たす役割について学ぶ。 緑地を含めた景観の価値について、人々の生活によって成り立っていた風景から、意図的な眺めを作る目的で発展してきた技術と価値観の変容、公共空間での緑の価値について取り上げる。また、場の賑わいと緑の在り方、緑地工学の技術的貢献の場として動物園を事例として緑地の在り方について学ぶ。 設計編では、実際の設計業務を軸として緑地工学と関連する種々の技術について学ぶ。 公園設計事例を用いて、緑地空間を成立させるための関連技術および緑地工学の役割について理解する。		
2. 授業内容 第 1 テーマ「ランドスケープ工学の役割」 ・緑の価値と表象 ・風景と景観から読み解く緑の価値： 日常的実践の場としての農村景観を事例に 第 2 テーマ「ランドスケープの構成要素」 ・ランドスケープを構成する諸要素について 第 3 テーマ「眺めの創出とその役割」 ・眺めの創出の歴史 ランドスケープと技術的蓄積 ・モダンランドスケープから見る緑地の価値の変遷 第 4 テーマ「公共緑地の作られ方」 ・賑わいと緑地～公園と指定管理までを対象とした緑と場所の価値について 第 5 テーマ「ランドスケープの設計プロセス」 ・設計理論と実務を参考とした各種設計工程とその理解に向けて 第 6 テーマ「設計事例と社会的価値の発信」 ・設計事例と社会的価値の発信 第 7 テーマ「ランドスケープ設計と動物園」 ・動物園における緑地工学の役割と考え方 ※講義内容は必要に応じて前後・変更となる場合があります。		
3. 履修上の注意 集中講義日程にて、各日 2 コマ講義を実施します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 単純に緑を増やすことが良しとされる時代は終わり、価値観が多様化・複雑化した現代社会に対して、何のために緑を増やすのか、誰のために緑を使うのかを理解しておくことが、緑を増やす（＝緑地工学）の技術を用いることの根拠となります。 日頃から、「なぜ？」という問題意識をもって自分の好きな緑空間や公園、日常的な生活の場での緑のなどに目を向けておくと思いいます。		
5. 教科書 必要に応じて講義前にプリントの配布、PDF データのアップロード等を行う。		
6. 参考書 風景という知：近代のパラダイムを超えて オギユスタン・ベルク 他、適宜講義内にて出典とともに伝えます。		

7. 課題に対するフィードバックの方法
8. 成績評価の方法 レポートで評価する。
9. その他 オフィスアワー ・ 集中講義日に対応いたします。

科目ナンバー (AG) AGR381J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 景観園芸学	2 単位	豊田 正博
2022～2025 年度入学者 景観園芸学		
1. 授業の概要・到達目標 人と植物の関わり、景観の構造、植物や園芸の特性とそれらを活用したまちづくりなどについて、学生が住むまち・ふるさとの事例紹介や課題（人口・環境など）の発表、ディスカッションを通して理解を深める。植物や自然を取入れたバイオフィリックデザイン、緑を活用した健康づくりと関連する園芸療法・農福連携・ユニバーサル農園についても解説する。人と自然・植物の関係を理解し、自然と調和し、かつ人々が健康に暮らせる生活環境の創造について考える力を養う。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C、D に対応する科目である。		
2. 授業内容 第 1 回：景観園芸とは 第 2 回：人と植物の関わり 第 3 回：景観の構造と緑の役割 第 4 回：わがまちの景観の今 発表 第 5 回：わがまちの課題（1） 発表 第 6 回：わがまちの課題（2） 発表 第 7 回：植物や自然がもたらすストレス回復と構内の癒しの環境調査 第 8 回：バイオフィリックデザイン 第 9 回：脳のはたらきと園芸療法の癒し 第 10 回：子供や母親のための公園の活用 第 11 回：高齢者のための庭・公園の活用 第 12 回：地域における緑の活用事例 第 13 回：わがまちにおけるみどりの活用 第 14 回：a：まとめ b：試験		
3. 履修上の注意 集中講義です。講義初日までに準備学習が必要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習課題：あなたが住むまち（ふるさとも可）の、下記情報①②③について、各市町村 HP、町史資料等から事前に資料を集める。その資料をもとに、要点を箇条書きにして初日の授業に臨むこと。（授業ではあなたが住むまちについて集めた資料をもとに発表する。要点は A4 用紙 2－3 枚にまとめる。要点の提出は最終日とする） ネット検索の場合は、情報源 URL も記録しておく。 ①自然（気候、環境など）、歴史・文化（祭・行事など） ②緑に関するまちづくりの施策・計画 ③近隣公園・緑地・市民農園・ユニバーサル農園などの（子ども・成人・高齢者・障害者等への）活用事例		
5. 教科書 教科書は使用しない。プリントを配布する。		
6. 参考書 『自然をデザインする』 レイチェル・カブラン他著、羽生和紀監訳（誠信書房）2400 円+税		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける		
8. 成績評価の方法 事前課題（50％）、および試験（50％）で評価を行う。		
9. その他 所属先：兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科		

科目ナンバー (AG) AGR381J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ランドスケープエコロジー	2 単位	ホーテス シュテファ
2022～2025 年度入学者 ランドスケープエコロジー		
1. 授業の概要・到達目標 ランドスケープエコロジーにおいては、生物と環境の相互作用が生み出す広域的なパターンを分析する。森林や草原、湿地などに構成される自然のランドスケープを我々人間が大きく変えて、里地・里山など伝統的な農村環境から集約的な資源生産のために整備された植林や農地、水産業や運搬のために改変された水辺までが広く分布する。近年は、世界的に人口が都市に集中するようになって、都市的ランドスケープや「シティースケープ」も注目を集めている。これらのパターンとその変化を引き起こすプロセスの理解は、持続可能な土地利用を計画的に進める上で必要不可欠である。 ランドスケープの主要な概念と用語について整理し、世界や日本の代表的なランドスケープの地形や地質、気候や水文条件などについて確認し、植生や植物群落、生物群集について把握する。土地利用・土地被覆と水循環や炭素、窒素の循環、地域のエネルギー収支の関係について最新の研究成果を確認する。ランドスケープに関する分野横断的な知見がどのように政策や計画の立案に活用されるか、基礎研究の成果の応用について考察する。 農学科食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標のD・Eに対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] ランドスケープエコロジーの概念 [第 2 回] ランドスケープエコロジーの主要な研究方法 [第 3 回] 地球規模のパターン [第 4 回] ヨーロッパのランドスケープ [第 5 回] アジア大陸のランドスケープ [第 6 回] 日本の植生 [第 7 回] 森林の植物群落 [第 8 回] 草原の植物群落 [第 9 回] 湿地の植物群落 [第 10 回] 里地・里山と近代的農村環境 [第 11 回] 都市的ランドスケープ [第 12 回] 土地利用・土地被覆と物質循環 [第 13 回] ランドスケープエコロジーと持続可能な発展 [第 14 回] ランドスケープエコロジーを活かした土地利用計画		
3. 履修上の注意 授業中質問したり、履修者同士で議論したりする時間を設ける。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考資料の内容について次の授業までに確認する。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 日本景観生態学会. (2022). 景観生態学. 共立出版. その他講義の都度紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 翌週の授業において課題に対して質問することによって理解度を確認する。不明な点について改めて説明する。		
8. 成績評価の方法 平常点（40%）、レポート（期末 1 回、60%）		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGR381J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ランドスケープ情報論	2 単位	人見 誠マルセール
2022～2025 年度入学者 ランドスケープ情報論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本講義では、ランドスケープ設計において不可欠な CAD を用いた空間情報の扱いとその表現について学ぶ。CAD は、設計者の意図を正確な寸法・形状として図面化し、平面図・断面図・立面図などを通じて施工や合意形成に用いられる設計支援ツールであり、本講義では公園・緑地設計に携わる人材として求められる基本を身につけることを目指す。 《授業の概要》 CAD の基本概念、CAD ソフトの基本操作と図面構成、レイヤの役割を理解した上で、ランドスケープ設計における平面図および詳細図が示しうる空間情報について作図とともに学ぶ。講義の後半では GIS の基本的な考え方や役割の違いを理解したうえで設計・計画における GIS 等の空間情報の扱いについても触れる予定である。 集中講座により、2 コマずつテーマに沿って講義を進める。ランドスケープ工学/緑地工学とリンクする内容が多いため、ランドスケープ工学/緑地工学も合わせて履修することが望ましい。		
2. 授業内容 第 1 回 ランドスケープ設計と空間情報について 第 2 回 CAD の基本概念と図面の構造 第 3 回 CAD 作図の基本操作 第 4 回 CAD による図面構成：レイヤと情報整理 第 5 回 設計項目と図面 第 6 回 ランドスケープ設計における平面図 第 7 回 ランドスケープ設計における詳細図 第 8 回 断面図、立面図と景観表現 第 9 回 造成図 土量計算 点高法 断面法 第 10 回 割付図と座標 IP 座標 第 11 回 設備設計と図面 1 第 12 回 設備設計と図面 2 第 13 回 GIS を用いた空間情報の可視化と計画への応用 1 第 14 回 GIS を用いた空間情報の可視化と計画への応用 2		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ランドスケープ工学（緑地工学）の講義における「何のために緑を増やすのか」という問いに対して、ランドスケープ工学は概念的な答えを導き出すための講義となる。本講義（ランドスケープ情報論）では、その問いに対しての回答方法としての「図面」の扱い方について学ぶものである。 スケッチアップや JWCAD などの CAD ソフトや、Qgis などの GIS ソフトについて、体験版・無料版、学生ライセンスで扱うことができるソフト（アプリ）について触れておくと、講義への理解が深まると思います。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 課題レポートにて評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) ENV391J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 アグロエコロジー	2 単位	小泉 敬彦
2022～2025 年度入学者 ランドスケープ活用学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 アグロエコロジーは、生態学の考え方を農業に応用し、自然のしくみを活かした持続可能な食料生産のあり方を探る学問である。本授業では、植物の成長に関わる環境要因や生物間相互作用から、個体群・群集レベルの過程へと段階的に学び、農生態系がどのように成り立ち、変動するのかを理解する。個体から生態系へと視点を広げながら、持続可能な農生態系を支える生態学的条件を考察する。グループワークを取り入れ、主体的・協同的な学びを促す。 《到達目標》 本授業を通じて、作物生産が単一の要因ではなく、複数の環境要因や生物的要因の相互作用によって決まることを生態学的に説明できるようになることを目標とする。また、個体群動態や遺伝的多様性、攪乱と回復といった概念を用いて農生態系の変動を理解し、管理の影響を論理的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習教育目標の D・E に対応する科目である。		
2. 授業内容 [第 1 回] アグロエコロジーとは何か [第 2 回] 自然生態系と農生態系 [第 3 回] 植物と光 [第 4 回] 植物と温度・水・風 [第 5 回] 土壌の役割 [第 6 回] 生物間相互作用 [第 7 回] 環境要因の相互作用 [第 8 回] 個体群動態と生活史戦略 [第 9 回] 育種と遺伝的多様性 [第 10 回] 作物群集と多様性の効果 [第 11 回] 攪乱・遷移と農地管理 [第 12 回] 農生態系へのエネルギー投入 [第 13 回] 持続可能なシステムへの転換 [第 14 回] a: 試験 b: 解説とまとめ		
3. 履修上の注意 講義前に Oh-o!Meiji へ掲載する講義資料を各自端末にダウンロードもしくはプリントアウトして授業に臨むこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義前に Oh-o!Meiji へ掲載する講義資料を用いて予習・復習を行うこと。		
5. 教科書 Oh-o!Meiji より配布する講義資料		
6. 参考書 『アグロエコロジー 持続可能なフードシステムの生態学』スティーヴン・グリースマン 著（農山漁村文化協会）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、授業への貢献度 50% で評価する。 ただし、欠席が 1/3 を超えた場合は評価の対象としない。		
9. その他 アグロエコロジー研究室（4 号館 2 階 213A） オフィスアワー：最初の講義で示す。 連絡先：最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG) AGR381J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ランドスケープ設計学	2 単位	柳原 博史
2022～2025 年度入学者 ランドスケープ設計学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 動植物と人間環境の関係性について、計画・設計という応用的観点から考え、あるべき緑地や身の回りの環境を探究します。 将来造園建設業において「造園施工管理技術検定」による技術者資格の取得を目指す学生、自然環境の保全・維持に関わる学生にも役立つ知識や考え方を講義します。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目です。 《授業の概要》 前半は講義と並行に、各自の緑地調査と発表を行い、後半は提案、設計製図、デザインの練習を行います。		
2. 授業内容 第 1 回 緑地を計画するとは？ 第 2 回 日本庭園 第 3 回 西洋庭園 第 4 回 都市公園 第 5 回 自然公園 第 6 回 グリーン・インフラ 第 7 回 アクティビティ 第 8 回 遊び環境 第 9 回 モニュメント 第 10 回 屋上庭園・壁面緑化 第 11 回 植栽 第 12 回 設計の実践 その 1 第 13 回 設計の実践 その 2 第 14 回 ふりかえりとまとめ 各回に、テーマ毎の報告を行います。		
3. 履修上の注意 「環境デザイン学」と「ランドスケープ設計学」は、前者が理論編、後者が実践編という位置づけですので、できるだけ両方を受講してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テーマごとの発表（調査やパワーポイント作成など）や設計課題（作図・スケッチ）を行います。また、日常的にいろいろな風景や、公園・緑地などを観察し、どのような仕組みや意図があるかを読み解き、改善点、改善方法があるかなどを考えられるようになります。		
5. 教科書 特に指定しない		
6. 参考書 授業の中で適宜紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業中の発表（複数回）（50%）、設計課題（50%）を総合して最終的な評価とします。		
9. その他 オフィスアワーは、木曜日の 16：00～18：00。 メールアドレス：y@mindscape.jp		

科目ナンバー (AG) AGR381J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ランドスケープ計画学	2 単位	菅野 博貢
2022～2025 年度入学者 ランドスケープ計画学		
1. 授業の概要・到達目標 ランドスケープ計画学では、公園や緑道など身近な緑地空間がどのような意味を持ち、構成されているのか、デザインの歴史や素材などから読み解いた後、実際に計画が策定される手順に沿って学習を進めます。まず、計画コンセプトが形成される際のブレインストーミングからはじめ（これは近年、公共の緑地空間を計画・策定する際に求められる市民とのワークショップを行うことも想定しています）、景観計画や動線計画、植栽計画などについて学習します。終盤にかけては実際の緑地計画・設計の現場について紹介するとともに、より広がりのある学問領域として、近年盛んになりつつあるサウンド・スเคープなどの視覚以外の感覚に訴求するデザインも紹介していく計画です。一通り緑地計画の内容を理解し、将来関連の職業についた際に幅広く対応できる能力を身につけることを到達目標とします。 尚、食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては、学習・教育目標の C・D に対応する科目となります（2023 年度入学者まで対象）。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（緑地計画学のすすめかた）、緑地計画とは何か？ 第 2 回 身近なランドスケープ・デザインを読む 第 3 回 身近なランドスケープ・デザインを評価する 第 4 回 日本庭園のランドスケープ・デザイン 第 5 回 西洋庭園のランドスケープ・デザイン 第 6 回 現代のランドスケープ・デザインを俯瞰する 第 7 回 緑地計画におけるソフトとハードのデザインについて考える 第 8 回 デザインの発想法について学ぶ（マインドマップ、KJ 法など） 第 9 回 計画のプロセス、上位計画の見方について学ぶ 第 10 回 景観計画とゾーニング計画 第 11 回 動線計画と施設配置計画 第 12 回 植栽計画（植栽用植物の理解と実践的使用方法） 第 13 回 素材から考えるランドスケープ・デザイン 第 14 回 造成計画の基礎（地形を読んで考える）／ 五感に訴えるランドスケープ・デザインについて考察する		
3. 履修上の注意 農学実験Ⅴと連携します。必須ではありませんが、本講義を理論、農学実験Ⅴを実践として位置づけていますので、両方を同時に履修するとより教育的効果が高まります。また、両授業の連携のために授業内容の順番を調整することがあります。 ゾーニング計画や動線計画などを学ぶ際には、設計演習なども織り交ぜて行います。事前に Oh-o! Meiji に PDF のデータを掲載しますので、各自プリントアウトしてお持ちください。また、演習の際には、鉛筆と消しゴムを用意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 身近な公園、緑道、庭園などの空間とそのデザインに注意を向けるとともに、首都圏に多数存在する歴史的な庭園や公園なども積極的に訪問してみてください。		
5. 教科書 菅野博貢著『空間から読み解く 環境デザイン入門』を用います。尚「ランドスケープ・デザイン学」との共通の教科書となります。		
6. 参考書 その回ごとの内容にそって紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業中の演習 50%、期末テスト 50%の割合で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 文献調査・特別研究（卒論）	2 単位	農学科教員
2022～2025 年度入学者 文献調査・特別研究（卒論）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 与えられた制約のもとでの問題解決に必要なデザイン能力の養成や専門知識の応用力を身につける。文献調査では、自主的・継続的に特別研究のテーマに関連した情報の収集を行って特別研究に活かすとともに、プレゼンテーション能力を身につけることを目的としている。 《授業の概要》 教員の指導のもとで、研究テーマの設定と研究計画の立案を行い、必要な情報を収集しながら、2 年間に亘って研究を遂行する。得られたデータをもとに論文を取りまとめ、学科の卒論発表会で発表する。 食糧生産・環境コース（2023 年度以前に入学した学生が対象）においては学習・教育目標の A・F・G・H に対応する科目である。		
2. 授業内容 テーマにより内容が異なるため、指導教員と相談して決定する。		
3. 履修上の注意 食糧生産・環境コースの学生は必修科目である。 以下のとおり、2 年次終了時において、各研究室が「履修していることが望ましい」とする科目がある。 作物学研究室 「作物学概論」「農学実験Ⅰ」 動物生産学研究室 「アニマルサイエンス入門」「動物資源繁殖学」「動物生産・福祉学」「農学実験Ⅱ」 動物遺伝資源学研究室 「動物遺伝資源学」「農学実験Ⅲ」 動物環境学研究室 「動物行動学」「農学実験Ⅳ」 応用昆虫学研究室 「植物保護学概論」「農学実験Ⅴ」 野菜園芸学研究室 「園芸学概論」「農学実験Ⅵ」 花卉園芸学研究室 「園芸学概論」「農学実験Ⅶ」 応用植物生態学研究室 「ランドスケープ入門」「農学実験Ⅷ」 環境デザイン研究室 「基礎図法」「ランドスケープ入門」「農学実験Ⅸ」 環境気象学研究室 「ランドスケープ入門」「環境気象学」「農学実験Ⅹ」 土地資源学研究室 「農学実験Ⅺ」 水資源学研究室 「生産環境学入門」「農学実験Ⅻ」 地域環境計画研究室 「生産環境学入門」「農村計画学」 アグリサイエンス研究室 「アグリサイエンス論」		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指導教員の指示に従うこと。		
5. 教科書 特に指定しないが、指導教員と相談する。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		

8. 成績評価の方法

研究姿勢 40%, 発表 30%, 論文 30%の割合で評価する。なお、評価は関連分野の複数の教員で行う。

9. その他

農芸化学科

科目ナンバー (AG) AGC191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農芸化学	2 単位	農芸化学科教員
2022～2025 年度入学者 農芸化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 人間生活に密着した農芸化学の理念と方針を理解し、これから学ぶことと社会とのつながりを知ることを目的とします。将来の自分の可能性を考えるきっかけとなることを期待しています。 《授業の概要》 この授業では農芸化学の食品・環境・生物機能分野について、学科の全教員から、個々の研究分野の解説と関連する話題、研究の展開、将来の展望などについて講義します。		
2. 授業内容 農芸化学科では、生物機能を応用したバイオテクノロジーと最新のサイエンスを融合した手法を用い、人間生活に関わりのある食品・環境分野の諸課題を解決するための教育研究を行っています。人間生活に密着したバイオサイエンスを通して、幅広い知識・スキル、チャレンジ精神、高いコミュニケーション能力を有する人材を育成します。積極的に行動し、仲間を作り、社会に貢献できる人として成長し、将来社会をリードしていく「個」として活躍するための基礎力の養成を目標としています。具体的には、食品・環境分野における健康・機能・安全・保全を評価し高めるために必要な幅広い教育研究を行なっています。これらの内容について以下の予定（目安）で講義します。 第1回 ガイダンス 農芸化学とは 第2～4回 食品分野（複数担当） 第5～7回 環境分野（複数担当） 第8～10回 生物機能分野（複数担当） 第11～14回 微生物科学分野（複数担当） 日程は進行状況によっては変更することがあります。 第1回のガイダンスにおいて、具体的なスケジュールを提示します。		
3. 履修上の注意 授業では、幅広い農芸化学分野を紹介します。学生自らが、図書館等の書籍や文献で理解を深めることを期待します。自習の成果として農芸化学分野でのレポートを提出する必要があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配布する資料に目を通し、知識を深めておくこと。		
5. 教科書 「農芸化学に学ぶ」日本農芸化学会のHP、 https://www.jsbba.or.jp/manabu/site/menu.html 教科書は指定しません。授業の中で資料を配布し、参考書を紹介します。		
6. 参考書 農芸化学の事典 生田参考開架 R613/32//S その他講義において紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて授業時間内で解説し、Oh-o! Meiji システム等も利用します。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、毎回担当教員に提出した小レポートと最終レポートにて行ないます。詳しくは最初の授業で説明します。		
9. その他 農芸化学科全教員が担当する予定です。担当教員ごとに小レポート（A5 版）を課し、出席表に替えて提出を求めます。		

科目ナンバー (AG)ACH241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 必修化学	2 単位	安 保 充
2022～2025 年度入学者 必修化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 原子・分子の成り立ちから、化学結合やその安定性など分子レベルでの内容を理解した後、スペクトルやエネルギー準位、熱力学・化学平衡など化学量論的な内容も学習する。本講義では農芸化学の専門科目の学習に役立つ化学の基礎を概説する。 《授業の概要》 原子の電子配置や周期性、分子レベルでの構造、安定性などの議論から化学結合に関しては有機化学への導入部分として、また、熱力学や平衡論では物理化学・分析化学の基礎部分を担う。また、反応速度については酵素化学・有機化学の導入的内容が含まれる他、配位化学など無機化学に相当する内容や核化学の導入についても解説する。		
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 原子、分子、化合物 第2回：原子の構造と安定性（光と電磁波）（ボーアモデル、量子数と原子軌道） 第3回：化学結合（イオン結合、イオン化エネルギー） 第4回：化学結合（点電子構造、共有結合） 第5回：分子の形（VSEPR モデル、混成軌道、分子軌道理論） 第6回：気体の法則（ボイル、シャルル、ドルトンの分圧の法則） 第7回：熱化学（エンタルピー、エントロピー、自由エネルギー変化） 第8回：化学平衡 第9回：酸塩基（酸と塩基の性質） 第10回：酸塩基（中和反応、緩衝液） 第11回：酸化と還元（半反応式・酸化還元電位） 第12回：酸化と還元（電位差分析・ネルンストの式） 第13回：化学反応速度論 第14回：総括		
3. 履修上の注意 高校で化学を履修していない学生は復習の時間を要する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書を予習して授業に出席すること。		
5. 教科書 マクマリー 一般化学（上）（下） J. McMURRY（ほか）著 （東京化学同人）		
6. 参考書 トロウ 化学入門 N. TRO（ほか）著 （東京化学同人）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストのフィードバックコメントは Oh!Meiji システムを介して返却する。		
8. 成績評価の方法 講義中の演習（30％）と期末の試験（70％）		
9. その他		

科目ナンバー (AG) BCH121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 有機化学	2 単位	荒谷 博
2022～2025 年度入学者 有機化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標》 生体や食品に含まれるほとんどの成分は有機化合物であり、それらは酵素による化学変換あるいは非酵素的な反応によって作られる。これらの有機化合物の構造や反応を学ぶことは「農芸化学」に必須であり、不可避である。生化学等で学習する代謝反応や食品に含まれる成分の生成過程などの“反応機構”を理解し、書けるようになることが目標である。本科目で学習する内容は生物有機化学の基礎ともなるものであり、この科目をしっかりと理解するための準備段階でもある。したがって、単位の取得のみを目的としたその場しのぎの学習は避けるべきである。有機化学を基盤とする研究分野に進みたいと思う者は 3 年次終了までに参考書として示した成書のいずれかを、自主的に学習することが望ましい。 《授業の概要》 化学（必修）や生化学Ⅰ（必修）で学習した電子構造、酸・塩基などの内容は理解していることを前提に、教科書の 1～9 章の内容について講義を進める。講義内容は概ね教科書に沿って行うが、一部内容の追加や省略がある。 生物有機化学では有機化学で学習した内容を基盤に、農芸化学の様々な分野で頻出するカルボニル化合物、アミンなどの反応を学習する。		
2. 授業内容 * 講義は概ね教科書に沿って進行する。 * 括弧内には教科書の該当する章を示した。 第 1 回：ガイダンス、一般化学の復習（1） 第 2 回：有機化合物の構造の書き方と立体化学（2） 第 3 回：酸・塩基（3） 第 4 回：アルカン ― 有機化合物の基本（4） 第 5-6 回：アルケン、アルキンの反応（5） 第 7-9 回：ハロゲン化アルキルの置換反応と脱離反応（6） アルコール、エーテル、およびエポキシドの反応（7） 第 10 回：中間試験 第 11-13 回：非局在化電子が及ぼす効果、共鳴寄与式、芳香族性（8） ベンゼンの反応および置換ベンゼンの配向性（9）		
3. 履修上の注意 本科目は農芸化学科の必修科目である。 有機化学に関わる基礎科目は研究室配属前に「化学」→「有機化学」→「有機化学・有機分析実験」→「生物有機化学」のように順次学習するようにプログラムされている。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 シラバスの予定にしたがって教科書を予習し、受講後は各章内の問題を解くなどして復習すること。有機化学は高校までの学習と同様に演習問題を解くことで効率の良い学習効果が得られるので、章末問題も解かずして良い成績を修めることは難しいでしょう。 構造式の骨格構造での描画を早々にマスターし、効率の良い学習を心掛けたい。		
5. 教科書 『成書を読む前の有機化学』 荒谷 博 著、（化学同人、2026 刊行予定）		
6. 参考書 『ボルハルト・ショア有機化学 第 8 版 上下』 K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著、古賀ら訳（化学同人、2019、2020） 『スミス有機化学 第 5 版 上下』 J. G. Smith 著、山本ら訳（化学同人、2017、2018） 『マリンス有機化学 上下』 R. J. Mullins 著、磯部ら訳（東京化学同人、2024）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間試験等必要に応じてクラスウェブから配信する。		
8. 成績評価の方法 期末試験を概ね 90%、中間試験および平常点を併せて概ね 10%として評価する。 詳細は講義初日および最終日に説明する。 期末試験の試験範囲は教科書の 1～9 章とする。		

9. その他

天然物有機化学研究室（第一校 5 号館 507A 号室）

科目ナンバー (AG)BI0121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生化学Ⅰ	2 単位	石丸 喜朗
2022～2025 年度入学者 生化学Ⅰ（化）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生命維持のしくみを，生物を構成する化合物とその性質・機能から講義する。その際に，高等学校での履修の多様化にできるだけ配慮し，教科書に沿って授業を進めると共に，可能な限り平易に講義する。 《到達目標》 高等学校の生物・化学で学んだ生体構成成分について分子・原子のレベルから理解できるように講義を進める。具体的には，構成する元素，特に「炭素，窒素，酸素，水素」の電子配置等の特質が、どのように生物内での反応と関わるかを講義する。この講義は，2 年次以降の専攻分野の講義を理解する上で必須となる。生物を構成する化合物の構造，性質，機能を理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（生化学入門） 第 2 回：水 第 3 回：アミノ酸 第 4 回：タンパク質の一次構造 第 5 回：タンパク質：三次元構造 第 6 回：タンパク質：機能 第 7 回：酵素の特性 第 8 回：酵素の反応速度論 第 9 回：酵素の反応機構 第 10 回：補酵素とビタミン 第 11 回：単糖類の構造と性質 第 12 回：多糖類とその他の糖類 第 13 回：脂質と生体膜 第 14 回：総括		
3. 履修上の注意 生化学Ⅰと生化学Ⅱを合わせて理解することで、生化学の基礎を習得することができる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、シラバスに従って教科書の該当部分を予習し，理解できない部分があれば授業で質問すること。復習として、教科書の章末問題を解いて巻末の解答を確認し、参考書の該当箇所を読むこと。		
5. 教科書 『ホートン生化学 第 5 版』鈴木紘一他監訳（東京化学同人）		
6. 参考書 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第 1 巻 細胞生物学』デイヴィッド・サダヴァ他著，石崎泰樹他監訳（講談社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験（90％）と授業への貢献度（10％）で評価する。		
9. その他 食品機能化学研究室（第一校舎 5 号館 6 階 603 号室）		

科目ナンバー (AG)BI0121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生化学Ⅱ	2 単位	島田 友裕
2022～2025 年度入学者 生化学Ⅱ（化）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生命のしくみを、代謝と生体エネルギーを中心として、その構成と制御機構から講義する。教科書に沿って授業を進めると共に、可能な限り平易に講義する。 《到達目標》 細胞構成成分の異化・同化に関わる代謝系およびエネルギー生成について、その構成および制御機構を学ぶことにより、生命の仕組みを動的に理解することを目標とする。この講義は以後の農芸化学科全般の講義を理解するための基礎となるので、十分に予習・復習して理解すること。		
2. 授業内容 第1回：本講義の概要 第2回：代謝について 第3回：酵素活性制御の基礎 第4回：代謝活性制御の基礎 第5回：解糖系 第6回：糖新生 第7回：ペントースリン酸経路 第8回：グリコーゲン代謝 第9回：TCA 回路 第10回：電子伝達系と ATP 合成 第11回：脂質代謝 第12回：アミノ酸代謝 第13回：ヌクレオチド代謝 第14回：総括		
3. 履修上の注意 講義を受ける前に教科書を予習し、受講後は必ず復習すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義中に理解できないときは、質問や復習をすること。		
5. 教科書 『ホートン生化学』第5版 鈴木紘一他訳 東京化学同人		
6. 参考書 適宜、講義中に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストにより自身の理解度を把握すること。理解できないときは、教科書を熟読するなど、講義後に十分に復習をすること。		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績（80％）と、出席状況兼小テスト（20％）により評価する。		
9. その他 質問は授業終了後または研究室にて受け付ける。 ゲノム微生物学研究室（3号館3階3－308A号室）		

科目ナンバー (AG) AGC121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 必修生物学	2 単位	中島 春紫
2022～2025 年度入学者 微生物学Ⅰ（化）		
1. 授業の概要・到達目標 人間生活に密着した食品・環境・生物機能の各分野について探求する農芸化学では、化学と生物がすべての学問の基礎となっている。必修生物学では、生物に関する基本的な知識を体系的に習得しておくことにより、農芸化学の発展的な講義科目の理解を容易にし、学習効果の向上に資することを目的としている。 ＜授業の概要＞ 生命の基本単位である細胞の基本的な構造を説明する。生命活動を支える有機分子と化学反応を触媒する酵素の機能について概説し、生物のエネルギー獲得機構について解説する。生命を次世代につなぐ遺伝現象の表現型およびその分子機構を説明するとともに、DNA を取り扱う応用技術について解説する。地球上に現存する生物の進化の歴史と系統的な分類学を説明した上で、ウイルス・細菌・菌類・植物・動物について、それぞれ構造と機能について体系的に解説する。動物の項については、人間の健康を守るための栄養吸収と感覚系・運動系・神経系および免疫系について重点的に解説する。最後に、地球環境と生態系について概説し、環境を守る取り組みについて紹介する。		
2. 授業内容 第1回：生命と有機分子 第2回：細胞の構造 第3回：エネルギー獲得機構 第4回：細胞分裂と遺伝学 第5回：DNA の生物学 第6回：バイオテクノロジー 第7回：進化 第8回：微生物と菌類 第9回：植物と動物 第10回：植物の応答と生殖 第11回：動物の形態と機能 第12回：感覚器と免疫系 第13回：生態学 第14回 a：まとめ 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「微生物学」とともに必修科目なので必ず履修すること		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 高校で生物学を十分に学習してこなかった学生に配慮しているが、講義内容の深い理解には化学と生物の基礎的な知識が必要となるので、日頃より高校レベルの参考書等を随時参照して必要な知識の収集と理解に務めること。 講義中に配布するプリントの内容について、データ解析演習および用語の解説を重点的に復習し、専門知識と専門用語を系統的に学習すること。		
5. 教科書 東京化学同人「マダー生物学」第5版(2021)の内容に沿って講義が組み立てられているので、「マダー生物学」を入手しておくことを推奨する。講義内容を解説するプリントを毎回配布し、プリントに沿って講義を実施する。		
6. 参考書 「マダー生物学（原書第5版）」S. S. Madar（東京化学同人） 「キャンベル生物学（第11版）」N. A. Campbell, J. B. Reece（丸善） 「日本の伝統 発酵の科学」中島春紫（講談社ブルーバックス）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験の結果により評価する。出席状況を考慮する。		
9. その他 講義に関する質問等は随時受け付ける。 微生物生態学研究室（5号館5階506号室）		

E-mail: harushi@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGC121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 微生物学	2 単位	山田 千早
2022～2025 年度入学者 微生物学Ⅱ（化）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 微生物の多様性、分類、代謝、遺伝子発現のしくみについて、基礎的な概念から応用利用に至るまで、体系的に講義する。さらに、発酵やバイオテクノロジーなどの実例を通して、微生物が産業、環境、医療などの分野で果たす役割について理解を深める。 《授業の達成目標及びテーマ》 多様な微生物の形態、分類、代謝、生息環境について体系的に学び、微生物がさまざまな環境で生育可能である生理学的・遺伝学的理由を理解する。また、発酵やバイオテクノロジーなどにおける微生物の工業的利用を通して、微生物と人類社会との関わりについて理解を深める。さらに、微生物の基本概念を理解し、環境や産業における微生物の役割について説明できるようになることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス、微生物とは何か 微生物の多様性、生育環境、地球環境や人間社会における役割について概説する。 第2回：微生物学の歴史 微生物発見の歴史、Pasteur や Koch による微生物学の確立、純粋培養法の発展について学ぶ。 第3回：微生物の取り扱いと培養 滅菌法、無菌操作、微生物培養法、微生物保存法など、微生物を研究するための基本的技術について理解する。 第4回：微生物の観察と測定 顕微鏡による微生物観察、微生物の大きさや細胞数の測定方法について学ぶ。 第5回：微生物の分類と系統 微生物分類の考え方、分類指標、16S rRNA 遺伝子解析など、分子系統に基づく分類法について理解する。 第6回：微生物の種類と特徴 細菌、アーキア、真菌、ウイルスなどの微生物の多様な種類と特徴について学ぶ。 第7回：微生物の栄養と増殖 炭素源・窒素源などの栄養要求性、増殖曲線、微生物の増殖特性について理解する。 第8回：微生物の代謝（1）エネルギー代謝 酵素反応、解糖系、発酵など、微生物がエネルギーを獲得する基本的な代謝経路について学ぶ。 第9回：微生物の代謝（2）呼吸と ATP 合成 電子伝達系、プロトン駆動力、ATP 合成など、呼吸によるエネルギー獲得機構について理解する。 第10回：微生物の代謝（3）生合成反応 アミノ酸、核酸、脂質などの生体関連化合物の合成に関わる代謝経路について学ぶ。 第11回：微生物の遺伝学 DNA の構造、転写、翻訳など、微生物における遺伝情報の発現などについて理解する。 第12回：遺伝子制御と遺伝子工学 遺伝子発現制御、変異、遺伝子伝播、遺伝子組換え技術などについて学ぶ。 第13回：微生物の利用 発酵食品、抗生物質生産、バイオテクノロジーなど、微生物の産業的利用について理解する。 第14回：微生物生態と物質循環、まとめ 微生物間相互作用、炭素・窒素などの元素循環における微生物の役割を学び、講義内容を総括する。 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「必修生物学」とともに必修科目なので、必ず履修すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習方法として、配布資料を読み不明な点や理解できない点を拾い出して参考書などで調べる。それでもわからない時はそのままにしないで、講義の後に教員に質問すること。		
5. 教科書 「基礎から学ぶ微生物学」 石井正治 著 羊土社		
6. 参考書 「Brock 微生物学」 室伏、関 監訳（オーム社） 「基礎生物学テキストシリーズ 4 微生物学」青木著（化学同人） 「ベーシックマスター微生物学」堀越弘毅 監修（オーム社） 「Q&A で学ぶやさしい微生物学」浜本著（講談社サイエンティフィク）		

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を介して、または次回の授業冒頭で解説する。

8. 成績評価の方法

授業への参加度 30%

小テストと定期試験 70%

9. その他

講義に関する質問等は随時受け付けますが、不在の時もあるので、来室の際はあらかじめメールをください。メールでの質問も受け付けます。

発酵食品学研究室（5号館6階601号室）

E-mail: chihaya@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 基礎分子生物学	2 単位	前田 理久
2022～2025 年度入学者 基礎分子生物学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 分子生物学は日進月歩で、その内容も広く、深くなっています。限られた時間内で最低限必要な現象の理解を主眼として進めます。講義は基本的な内容を中心に行いますが、その内容も膨大な量になっていますので、より高度なものに関しては、なるべく講義中に各個人で勉強できるように配慮するようにします。 《到達目標》 分子生物学は今や現代人の常識として位置づけられています。新聞やニュースが理解できるだけでなく、身近な健康、医療、環境においても十分に判断できる根拠となる知識として必須です。分子生物学の中心は、情報の概念と情報識別の原理です。これらを確実に理解することが目標です。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス，イントロダクション 第2回：遺伝子とゲノムの暗号 第3回：DNA の構造，複製とその操作 (1) 第4回：DNA の構造，複製とその操作 (2) 第5回：遺伝子発現の分子遺伝学 (1) 第6回：遺伝子発現の分子遺伝学 (2) 第7回：遺伝子調節の分子機構 (1) 第8回：遺伝子調節の分子機構 (2) 第9回：ゲノミクスと遺伝子工学 (1) 第10回：ゲノミクスと遺伝子工学 (2) 第11回：変異と DNA 修復の分子機構 (1) 第12回：変異と DNA 修復の分子機構 (2) 第13回：分子進化と集団遺伝学 (1) 第14回：分子進化と集団遺伝学 (2) 講義内容は必要に応じて変更することがあります。 各回には、教科書の章に相当するタイトルが記されていますが、適宜、教科書の他の章の内容も講義の中に取り入れることがあります。		
3. 履修上の注意 生命現象の理解は、物理化学の法則に基づく分子と分子の相互作用および生化学反応を理解することが基礎となります。ある程度の化学、生物化学の基礎知識が必要です。各自勉強しておくようにしてください。また、高校で生物を選択していない人は各自高校生物の関係部分も勉強しておくとう理解がよりスムーズになります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書は予習・復習・自習用として指定しています。練習問題や発展的学習もできる構成になっています。 講義の進行はガイダンス時に計画を示すのできちんと予習して臨むようにして下さい。 例年講義中盤から脱落する人が多くみられます。予習・復習の手を抜かないことが肝心です。 現象を正しく理解し、適切な用語を用いて説明できることが目標です。図を見て何となく分かった気になって、その後の作業を怠らないように注意してください。		
5. 教科書 「エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学」（化学同人） 講義には必ず教科書を持ってくること。 予習・復習、および文章表現の参考として利用できる。		
6. 参考書 「分子細胞生物学 第9版」（東京化学同人） 「ワトソン 遺伝子の分子生物学 第7版」（東京電気大学出版局） 「細胞の分子生物学 第6版」（ニュートンプレス）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 レポート課題、宿題、自由課題を課すことがあります。 評価は、基本的に学期末定期試験で行いますが、上記のアクティビティも評価に組み入れる予定ですので、積極的に取り組んでください。		

9. その他

講義に関する質問等は随時受け付けます。

微生物遺伝学研究室（5号館6階605号室）

E-mail: mmaeda@meiji.ac.jp

また、チューデント・アシスタント(SA)が皆さんの学習のお手伝いをしますので、活用するようにして下さい。

詳細は、講義の初めの時間あるいはポータルで案内します。

科目ナンバー (AG) BCH121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生物有機化学（化）	2 単位	久城 哲夫
2022～2025 年度入学者 生物有機化学（化）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生体や食品に含まれる有機化合物は、生命体や食品等を構成する重要な物質であり、炭素、水素、酸素、窒素、硫黄、リンなどから構成されている。有機化合物の合成、変換、分解等の過程を、反応機構を書くことで「化学的」に理解することは、農芸化学科の学生に必須である。生体内の生化学反応（代謝反応）は、全て有機化学の反応によって成り立っており、その反応機構を理解することで、生化学反応を「化学的」に理解することができる。さらに、農芸化学科の多くの研究室で研究されている様々な生体内反応を理解するためにも有機化学の反応の理解が必須である。 生物有機化学（農化）の学習内容は、有機化学の内容を引き継ぎ、まず生体内の代謝反応で特に重要なカルボニル基の化学と反応を学習する。さらに、これらの反応が生体内の代謝経路で実際に働いている様子を学習する。特に中心的な代謝経路である解糖系やクエン酸回路などについて紹介する。 授業では、線構造式、立体化学、脱離反応、置換反応などが始めから登場し、これらの内容を理解するために、有機化学の内容の修得は不可欠である。学習が不十分な学生は事前に有機化学の教科書を再学習することを強く勧める。有機化学との継続性を持たせるために、教科書は有機化学と同じ「ブルース有機化学概説」を用いる。さらに、代謝経路を参照するために生化学 I, II で用いている教科書「ホートン生化学 第 5 版」を用いる。 《到達目標》 カルボニル化合物の反応機構を修得し、生体内の生化学反応を「化学的」に解析することができるようにする。また、授業で扱っていない初見の生化学反応に遭遇した場合にも、その反応が理解できるようになりたい。		
2. 授業内容 [第 1-3 回] カルボン酸とカルボン酸誘導体の反応 [第 4-6 回] アルデヒドとケトンの反応 [第 7-9 回] カルボニル化合物の α 炭素の反応 エノラートの反応 [第 10 回] 脂肪酸の生合成と分解反応 [第 11 回] 解糖系の代謝反応 [第 12 回] クエン酸回路の代謝反応 [第 13 回] アミノ酸の生合成と分解反応 [第 14 回] まとめ、補足		
3. 履修上の注意 有機化学の単位未修得者および B 以下の成績の者は夏季休業中に再学習することを強く勧める。特に再履修者は、他の教科書を併せて読むなどの学習の工夫が必要かもしれない。また、生化学 I, II の内容の復習もしておくことが必要である。 有機化学の教科書中に「この科目で成功する秘訣は、試験の前日に詰め込むのではなく毎晩少しずつやることである。詰め込みは、ほかの科目ではうまくいくかもしれないが、有機化学では難しい。」とある。生物有機化学（農化）の単位を確実に修得するには、計画的な学習が必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 有機化学の内容を修得していない者は、事前に総復習しておくこと。 シラバスの予定にしたがって教科書を予習し、受講後は各章内の問題を解くなどして復習すること。 有機化学は演習問題を解くことで効率の良い学習ができるので、問題を繰り返し解くことを勧める。 また、生化学 I, II の内容も総復習しておくこと。特に代謝経路に関する項目を復習することを勧める。		
5. 教科書 『ブルース有機化学概説 第 3 版』P. Y. ブルース著、大船ら監訳（化学同人、2016） 『ホートン生化学 第 5 版』Morgan, Horton, Scrimgeour, Perry 著、鈴木ら監訳（東京化学同人、2013）		
6. 参考書 『マクマリー生化学反応機構 第 2 版』McMurry, Begley 著、長野ら監訳（東京化学同人、2018） 『生物有機化学がわかる講義』清田洋正著（講談社サイエンティフィク、2010）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義中の課題や小テストに関して、後の講義で解説を行うと共に、Oh-o! Meiji を通して個別のコメントを返却する。		
8. 成績評価の方法 期末試験を 90%、授業への貢献度を 10%として評価する。		

9. その他

ケミカルバイオロジー研究室（第一校舎 6 号館 406A 号室）

科目ナンバー (AG) AGC251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 栄養科学	2 単位	金子 賢太郎
2022～2025 年度入学者 栄養科学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 食べることは生命活動を維持するために必須の行為であり、生活習慣病の世界的な蔓延とも相まって、食と健康・栄養に対する社会的ニーズは高まっています。また食品は私たちの身体と同じく多種多様な化合物の集合体であり、互いに協調しながら相互作用を行っています。本講義では食品中に含まれるエネルギー産生栄養素（糖質、脂質、タンパク質）および微量栄養素（ビタミン、ミネラル）について、その消化・吸収・代謝・生理作用について概説します。さらに日本人の食事摂取基準等の解説を通して正しい栄養状態の理解を深めると共に、口から摂取した食品に含まれる栄養素などの機能性成分の生体内での役割（機能性）を解説します。 《到達目標》 食品摂取および栄養素や代謝産物の体内における消化・吸収・代謝について理解を深めると共に、食品摂取が身体に及ぼす生理作用について理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：栄養科学と日本人の食事摂取基準 第3回：食物の摂取：栄養素の消化・吸収の概要① 第4回：栄養素の消化・吸収の概要② 第5回：細胞内での栄養素代謝の概要&糖質の消化・吸収・代謝 第6回：糖代謝の制御 第7回：脂質の消化・吸収・代謝 第8回：脂質の生理 第9回：タンパク質の消化・吸収・代謝 第10回：タンパク質の生理 第11回：その他の栄養素の生理作用 第12回：食、栄養、食欲、健康について 第13回：食と生活習慣病 第14回：総括 講義内容や順番は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 3、4年生向きに開催される「栄養生化学」の受講を考えている学生は、本講義の受講を望みます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配布資料やノートにより復習を行うこと。本講義は特に前提となる履修科目を指定しませんが、生化学の基礎的な知識が必要です。		
5. 教科書 特に指定しません。講義はプリントを配布して行います。		
6. 参考書 『楽しくわかる栄養学』中村丁次・著（羊土社） 『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学』田地陽一・編（羊土社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義中に課題に対して解説を行います。		
8. 成績評価の方法 定期試験を中心として、小テスト・課題・平常点などにより総合的に評価します。		
9. その他 講義に関する質問等は随時受け付けます。 メール（kanekok@meiji.ac.jp）での問い合わせ、もしくは、金子の居室（栄養生化学研究室：5号館6階606室）まで気軽にお越しください。		

科目ナンバー (AG) AGC251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品化学	2 単位	竹中 麻子
2022～2025 年度入学者 食品化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 食品はわれわれが食事のたびに口にする身近なものである。食品からの栄養素の摂取が生命や健康の維持に必要であることに加え、食品のおいしさや疾病予防効果も近年大きな注目を集めている。この講義では、栄養素として機能する食品成分の構造、性質について解説する。農芸化学科のカリキュラムの中で、食品系科目の基礎として位置づけられる講義である。 《到達目標》 食品中の水分・炭水化物・脂質・タンパク質の構造と性質、はたらきについて理解することを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（食品とは、食品の機能、食品に関する諸問題） 第2回：水分（食品中の水の存在形態） 第3回：水分（水分活性） 第4回：炭水化物（単糖，二糖類の構造と性質） 第5回：炭水化物（オリゴ糖，多糖類の構造と機能） 第6回：炭水化物（食物繊維の物性と機能） 第7回：脂質（脂肪酸の構造と性質） 第8回：脂質（食品中の主要な油脂の特徴） 第9回：脂質（リン脂質，コレステロール） 第10回：タンパク質（タンパク質・アミノ酸の構造と機能、タンパク質の変性） 第11回：タンパク質（植物食品中の主要なタンパク質） 第12回：タンパク質（動物食品中の主要なタンパク質） 第13回：食品成分表 第14回：総括		
3. 履修上の注意 各回の講義終了時に小テストを行う。小テスト回答時に講義への質問・コメントも受け付ける。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、教科書およびクラスウェブ等に提示された資料の該当箇所を読んでおくこと。復習として、教科書及び資料の該当箇所を読み、不明な点は質問すること。		
5. 教科書 『わかりやすい食品化学（第2版）』吉田勉・監修，早瀬文孝・佐藤隆一郎編著（三共出版）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答および質問・コメントへのフィードバックは、Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載あるいはクラスウェブから個別に回答する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（60％）と小テスト（40％）の成績で評価する。		
9. その他 講義に関する質問は随時受け付ける。 食品生化学研究室（5号館6階602号室） E-mail: takenaka@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGC281J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境科学	2 単位	村上 周一郎
2022～2025 年度入学者 環境科学		
1. 授業の概要・到達目標 産業の発展や人口増加に伴い、我々を取り巻く環境は様々な影響を受け、変化していきます。この講義では、まず環境問題を誘発する要因について説明します。次に現在、あるいは今後人類の将来に大きな問題となる可能性のある事項、特に広い地域・大陸レベル、あるいは地球規模の問題を概説します。また身近な環境問題として、廃棄物やリサイクル、さらに将来における1つのモデルとして循環型社会について説明していきます。 この講義を通して環境や環境問題に関する基本的な知識を学び、農学部を卒業する学生として必要な素養を身につけることをこの講義の到達目標としています。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション—この授業で学ぶこと— 第2回：環境に影響を与える因子-1（人口の増加） 第3回：環境に影響を与える因子-2（エネルギー・電気） 第4回：物質の循環 第5回：オゾン層の破壊 第6回：温室効果ガスの種類と挙動 第7回：地球温暖化と IPCC の活動 第8回：COP とパリ議定書 第9回：砂漠化 第10回：水環境の悪化（有機物・富栄養化、処理） 第11回：水質（抗生物質の拡散） 第12回：廃棄物の処理とリサイクル 第13回：緑の保全と循環型社会・SDGs 第14回 a：試験 b：試験の正答解説 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この講義では、幅広い分野を網羅的に取り扱うため、授業は各論的に進行します。そのため、より内容を理解するためには、授業への積極的な出席と授業内容の復讐を要望します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 板書したノートと授業中に配付するプリントの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば参考書等に目を通しておくこと。		
5. 教科書 特に定めません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。		
6. 参考書 『環境科学要論、第2版』、世良 力 著（東京化学同人） 『環境』 齋藤 勝裕 著（三共出版） 『環境科学』 金原 粲 著（実践出版） 『環境科学』 吉原利一編（Ohmsha） 『環境の科学 三訂版』 山口勝三、菊地立、齋藤紘一 共著（培風館）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（10%）と期末テスト（90%）により評価します。		
9. その他 特にオフィスアワーは設けませんが、質問等があれば研究室（3号館 3-304A）に来てください。 連絡先：smura@meiji.ac.jp, 044-934-7098		

科目ナンバー (AG) AGC211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 土壌化学	2 単位	加藤 雅彦
2022～2025 年度入学者 土壌化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本講義は、土壌の化学的機構を中心に土壌の構造と機能を基礎科学の視点から理解することを目的とする。本講義で得られる知識は、土壌の農業生産機能や環境保全機能を理解するために必要となる。 土壌は、植物が生育するために不可欠な基盤であるとともに、足元の土壌も地球を構成する地圏の一部であり、大気圏、水圏、生物圏と常に相互作用している。また土壌中では、化学的、生物的、物理的に相互に絶えず関連している。そのため、農業生産や土壌環境保全の維持発展には、土壌の基礎機構の理解が必要となる。 《授業の概要》 本講義では、普段あまりにも身近過ぎて、あまり気にされていない土壌とは何かをその性状から成り立ちまで概説する。次に、土壌の化学的機構を中心に土壌中の基礎機構を実現象と関連付けながら説明していく。		
2. 授業内容 第1回：土壌学とは（土壌学の歴史、土と土壌の違い、土壌学と他学問との関連、土壌の機能：なぜ土壌学を学ぶ必要があるのかを概説） 第2回：土壌とはいったい何か-土壌の構成物質と土壌ができるまで- 第3回：土壌中での主要反応と物質挙動変化 第4回：科学的な土壌の分類-土壌の三相構造と組成- 第5回：土壌粘土鉱物の構造と機能 第6回：土壌有機物の生成と機能 第7回：土壌中の水の役割-植物への水供給と物質移動- 第8回：土壌での荷電発現と物質の吸着 第9回：土壌 pH と土壌の pH 緩衝能 第10回：土壌での物質挙動 1-陽イオン- 第11回：土壌での物質挙動 2-陰イオン- 第12回：土壌生物の種類と働き 第13回：物質循環と土壌微生物-窒素循環を例に- 第14回 a：定期試験 b：講義全体のふりかえりとまとめ		
3. 履修上の注意 基礎化学の知識を必要とする。また基礎的な物理・生物の素養があることが望まれる。「土壌化学」は、「土壌圏科学」、「土壌環境保全学」の基礎的理論を構成する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：各講義回に該当する教科書について一読する。 復習：配布した資料、板書内容と関連付けながら教科書の該当部分を再読する。		
5. 教科書 講義時に配布する資料 『改訂 土壌学概論』 犬伏和之・白鳥豊編 朝倉書店		
6. 参考書 『新版 土壌学の基礎－生成・機能・肥沃度・環境（農学基礎シリーズ）』 松中照夫著 農文協 『土壌サイエンス入門』 三枝正彦・木村真人編 文永堂出版 『最新土壌学』 久馬一剛編 朝倉書店 『環境土壌学』 松井健・岡崎正規編 朝倉書店		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験（60％）＋小テスト・レポート（40％） 2/3 以上の出席が期末試験受験のための必要条件である。		
9. その他 土壌圏科学研究室（3 号館 3 階 302A）		

オフィスアワー：在室していれば随時可（メールにて事前問い合わせすることが望ましい）
E-mail: mkatoh@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 分子生物学（化）	2 単位	小山内 崇
2022～2025 年度入学者 分子生物学（化）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生命現象は、個々の生化学反応の上に成り立っているが、それが細胞あるいは個体レベルで秩序が保たれているのは、それらを制御してシステムとして機能するようにするメカニズムがあるからである。このメカニズムの理解と解明に道具としてあるいは考え方として重要な分子生物学の普遍性と発展性について一定の理解が得られることを目的とする。また、この授業はバイオベンチャーを創業した経験のある教員が担当することになっており、分子生物学という基礎研究が、いかに社会へとつながっていくかを理解するための基盤となる。 《授業の概要》 講義では、ゲノム上にある生物学的情報がどのように機能しているかをこれまでの知見をまとめて行う。全体を通して、遺伝子の発現、複製、組換えといった生命現象の根本を担う反応群のメカニズムについて講義を行う。講義は教科書の内容に準拠して行うが、適宜、参考書やその他の教材を用いて進める。また、分子生物学手法や病気と遺伝子の関係についても触れる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：細胞の構造と機能 第3回：糖・脂質・タンパク質 第4回：遺伝子の構造と DNA 複製 第5回：DNA の損傷と修復 第6回：原核生物の転写制御 第7回：真核生物の転写制御（基本転写装置） 第8回：真核生物の転写制御（エピジェネティクス） 第9回：分子生物学的技術（基本的技術） 第10回：分子生物学的技術（最新技術） 第11回：遺伝子と病気（遺伝病） 第12回：遺伝子と病気（DNA の損傷） 第13回：遺伝子と病気（癌と遺伝子） 第14回：試験と解説 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 事前に基礎分子生物学の内容を復習しておくことよい。生命現象を理解する上で、高校生物および他の関連講義の内容が役に立つので、復習しておくこと。教科書は予習、復習に利用できるもので活用すること。 講義当日は、教科書を持参しなくてもよい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 生命現象を理解する上で、高校生物および他の関連講義の内容が役に立つので、復習しておくこと。教科書は予習、復習に利用できるもので活用すること。		
5. 教科書 「ベーシックマスター分子生物学」改訂2版（オーム社） ※もし基礎分子生物学のエッセンシャルを持っており、金銭的な余裕がない場合には、ベーシックマスターの購入は必須ではない		
6. 参考書 田村隆明『分子生物学超図解ノート』（羊土社） 「ワトソン 遺伝子の分子生物学 第7版」（東京電気大学出版局）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 評価は、学期末試験・小テスト・平常点を総合的に判断して行う。およその配分は、学期末試験（60～70%）、小テストなど（20～30%）、平常点（10%）である。配分は、学期ごとに適宜調整する。		
9. その他 環境バイオテクノロジー研究室（3号館3階3-310号室） E-mail: tosanai@meiji.ac.jp		

メールでの質問を歓迎します。面会希望の場合はメールでアポイントメントをとることを推奨する。実務経験より、単に受け身の講義を受けるだけでなく、自分で積極的調べたり、発言したりすることも重要であると認識している。このため、講義中にクイズなどを出すことで、学生が能動的に勉強することを試みる。

科目ナンバー (AG) BCH221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 有機分析化学	2 単位	瀬戸 義哉
2022～2025 年度入学者 有機分析化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 有機化合物の各種機器分析による構造解析は有機化学の中でも重要なテーマの一つである。本講義では、他の講義内容も考慮して、分析化学の中でも、実際の化学構造を決定するために利用する手法である質量分析法と核磁気共鳴法を主な対象とし、それらの手法について概説する。また、それらの手法を利用した低分子化合物の構造解析法について実践練習も行いながら学習する。さらに、質量分析の実用例として、近年生命科学分野で良く見られる手法となったメタボロームやプロテオームに加え、植物ホルモンの分析手法を概説する。化合物の構造決定や分析手法についての基礎的な知識を身に着けることを目標とする。 《授業の概要》 質量分析法について概説するとともに、質量分析法がどのように生命科学研究に利用されているのか、幾つか実例なども含めて概説する。また、核磁気共鳴（NMR）についてもその手法を学ぶとともに、実際の化合物のスペクトルを利用した、構造決定のトレーニングを行う。講義内容をより深く理解する目的で、毎回、前回の講義内容についての小テストを実施する。		
2. 授業内容 第1回：質量分析法とは。各種イオン化法について。 第2回：分子の精密質量の決定。 第3回：フラグメンテーション（原理） 第4回：フラグメンテーション（実例） 第5回：質量分析の実用例：植物ホルモン分析、メタボローム、プロテオーム 第6回：核磁気共鳴法とは 第7回：化学シフト（遮蔽について） 第8回：カップリング①カップリングの基本と原理 第9回：カップリング②複雑なカップリング 第10回： ¹³ CNMR、 第11回：二次元 NMR、 第12回：IR、UV、蛍光分析 第13回：分子構造の決定練習① 第14回：a: 期末試験 b: 講義全体のまとめ		
3. 履修上の注意 講義は配布する資料に基づいて進める。また、シラバスに基づき、指定した教科書の該当箇所について、予習・復習を勧める。有機化合物の構造決定は演習が重要なので、教科書中の問題に積極的に挑戦することを勧める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 理解できない部分があれば授業中に質問するか、オフィスに来てください。		
5. 教科書 『ビギナーズ有機構造解析』、川端潤、（化学同人）、2015 年		
6. 参考書 『有機化合物のスペクトルによる同定法 第7版』、荒木ら訳、（東京化学同人）、2006 年 『資源天然物化学（改訂版）』秋久ら、（共立出版）、2017 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の最後に小テストを実施し、次の週の講義の最初に解説を行う。		
8. 成績評価の方法 成績は期末試験（75%程度）と小テスト・出席などによる平常点（25%程度）で評価します。期末試験と平常点の割合は、およそなので、年度ごとに若干の変動があります。		
9. その他 植物制御化学研究室（第一校舎 3 号館 3 階 306A 室） オフィスアワーは特に指定しません。質問・疑問があれば研究室に来てください。		

科目ナンバー (AG) BCH211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 物理化学	2 単位	中村 卓
2022～2025 年度入学者 物理化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農芸化学科の必修科目（2）で 2 年生以上が対象です。本授業では農芸化学分野で必要となる物理化学の基礎知識と基本概念を理解し、我々が五感で感じられる物事を定量的に考え説明できる様になることを目標とします。 《授業の概要》 化学は多様な物事を分子（原子）という概念で理解する学問です。その中で、物理化学は定量性を特徴とする体系です。具体的には、物理的な手法で物質の構造・性質・変化を探究し、物質全般に通用する原理や仕組みを定量的に明らかにします。物理化学では数式が多く出てきますが、数式を単に覚えるのではなく、式の意味の捉え方や背景にある概念を習得することが重要です。社会の仕事でも定量的（数値）に物事を考え判断することが求められます。定量的な考え方をマスターするためには、授業を聴くだけでなく、自分で考え問題を解き、解説を聞いて確認することが最も効率的です。		
2. 授業内容 第 1 回：物理化学の位置づけと基礎 【熱力学】 第 2 回：基本概念と気体分子運動論 第 3 回：熱力学第一法則 第 4 回：エントロピーと自発変化 第 5 回：ギブズエネルギー 第 6 回：化学平衡 第 7 回：イオンと電子の輸送 第 8 回：熱力学のまとめと中間試験 1 【化学反応】 第 9 回：反応速度 第 10 回：反応式の解釈 第 11 回：複雑な生化学過程 第 12 回：化学反応のまとめと中間試験 2 【分光光学と生体分子の構造】 第 13 回：分子の回転と振動＋光分光法と光生物学 第 14 回：高分子と分子集団		
3. 履修上の注意 進行状況によっては内容を変更する場合があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習のために資料 PDF を Oh-o! Meiji を通じてあらかじめ配信します。授業中に自習用として出された演習問題について、次回の授業の開始時に小テストを行ないます。2 回の中間試験では解答公開後の自己採点提出を求めます。		
5. 教科書 教科書は指定しません。授業の中で資料を配布します。		
6. 参考書 『アトキンス生命科学のための物理化学第 2 版』P. Atkins ら著，千原秀昭ら訳，（東京化学同人，2014） シラバス本・464/1292/B/S 『アトキンス物理化学要論第 6 版』P. Atkins, J. de Paula 著，千原秀昭ら訳，（東京化学同人，2016）シラバス本・431/832/J/S 『現代物理化学』寺嶋正秀ら著，（化学同人，2015）シラバス本・431/966//S 自宅からも使える電子資料の紹介 Maruzen eBook Library（MeL）Oh-Meiji のクラスウェブの授業内容・資料でリンクを紹介		
7. 課題に対するフィードバックの方法 前回の演習問題について、授業の開始時に小テストを行なった後、解説します。中間試験の解答は Oh-o! Meiji を通じて配信し、自己採点訂正レポートの提出を求めます。		
8. 成績評価の方法 学期末試験 60%と平常点（小テスト・中間試験等）40%で評価します。		

9. その他

食品研究室（5 号館，503 号室）オフィスアワー：特に設けていませんが、質問があれば気軽に研究室に来て下さい。

科目ナンバー (AG) AGC211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物栄養学	2 単位	田畑 亮
2022～2025 年度入学者 植物栄養学		
1. 授業の概要・到達目標 植物は移動ができず外的条件の影響を受けやすいですが、一方で様々な環境の変化によく対応して生きています。この授業では、こうした植物をとりまく環境条件のうち、植物が必要とする無機栄養（ミネラル）の種類と濃度や、その吸収と分配の仕方について述べます。植物栄養学の知識に基づいて、作物の生産性のみならず、地球環境や人間の健康との関係性についても理解を深めます。		
2. 授業内容 第1回：授業概要の紹介 第2回：植物栄養学の歴史 第3回：肥料と農業 第4回：植物の必須元素、光合成、輸送 第5回：植物の栄養吸収と長距離輸送、植物生理学 第6回：窒素の吸収・輸送・代謝 第7回：リン、カリウムの吸収・輸送・代謝 第8回：カルシウム、マグネシウム、硫黄の吸収・輸送・代謝 第9回：微量必須元素の吸収・輸送・代謝 第10回：微量必須元素の吸収・輸送・代謝 第11回：有用元素、有害元素の吸収・輸送 第12回：植物の栄養欠乏に対する応答 第13回：植物栄養学と社会実装例 第14回：まとめとテスト対策		
3. 履修上の注意 植物環境制御学（3年次）の基礎となるので、この分野に興味がある学生は2年次に履修をおえておくことが望めます。 質問のある場合は、学生各自の大学アドレスから tabaryo@meiji.ac.jp までへ連絡をください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習・復習は、授業スライドや教科書の関連ページを読んでください。 理解できない部分があれば、授業中に質問するか、研究室へ来てください。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 『植物栄養学』第3版（文英堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 成績は期末試験（70%）と、出席と小テスト（30%）の合計で評価します。		
9. その他 植物環境制御学研究室；5号館505号A室 メールアドレス：tabaryo@meiji.ac.jp オフィスアワーは特に指定しませんので、質問がある場合は研究室に来てください。		

科目ナンバー (AG)BI0231J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 細胞生物学（化）	2 単位	中北 智哉
2022～2025 年度入学者 細胞生物学（化）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生物個体は多くの細胞からできている。生体が恒常性を維持するためには、細胞・臓器・器官が連携してはたらかなければならず、さまざまな物質と情報のやりとりが必要となる。この講義では、細胞の構造、細胞内・細胞間の物質移動、細胞間・細胞内シグナル伝達、そして細胞のライフサイクルについて、主に動物細胞をモデルとして解説する。 《到達目標》 細胞の構造、細胞内・細胞間の物質移動、細胞間・細胞内シグナル伝達、細胞のライフサイクルの基礎について理解することを到達目標とする。		
2. 授業内容 細胞の組成と組織 ・細胞膜 ・細胞骨格 ・細胞間結合 細胞の物質授受 ・細胞膜の物質輸送 ・細胞内タンパク質輸送 ・細胞内小胞輸送 細胞のシグナル伝達 ・核内受容体の細胞内シグナル伝達 ・G タンパク質共役型受容体の細胞内シグナル伝達 ・酵素共役型受容体の細胞内シグナル伝達 細胞のライフサイクル ・細胞周期 ・がん化とその制御		
3. 履修上の注意 各回の講義終了時に小テストを実施し、これを出席点とみなす。小テスト回答時に講義への質問・コメントも受け付ける。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、クラスウェブ等に提示された資料の該当箇所を読んでおくこと。復習として、資料及び参考書の該当箇所を読み、不明な点は質問すること。		
5. 教科書 指定しない。		
6. 参考書 『Essential 細胞生物学 原書第 5 版』中村桂子・松原謙一監訳（南江堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストと演習問題の解説および質問・コメントへのフィードバックは、翌週の授業までに Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載、あるいは Oh-o! Meiji から個別に行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験（60％）と小テスト（40％）の結果で評価する。		
9. その他 講義に関する質問は随時受け付ける。 日本女子大学食科学部助教 中北智哉 E-mail: nakagitat@fc.jwu.ac.jp までいつでもどうぞ。		

科目ナンバー (AG) BPH211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 物理学（力学・熱力学）	2 単位	鈴木 博実
2022～2025 年度入学者 物理学（力学・熱力学）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 物理学は自然科学の中で最も基礎的な学問のひとつであり、様々な科学技術の基礎となっています。この授業では物理学の基礎的な知識の理解を図るとともに物理学を学ぶ上で必要な演繹的思考に親しみ、様々な問題を解決する際の考え方の取得を目指します。 《授業の概要》 力学、弾性体及び熱力学を中心に、基本的な物理の言葉としての数式と、それが持つ物理的な意味について講義を行います。 また、各單元ごとに小テストを行い、理解度の確認を行います。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（必要となる数学的知識（ベクトル、微分、積分）の復習、直線運動） 第2回：力、力の釣合い 第3回：運動の法則、一様な重力場での運動 第4回：仕事、ポテンシャル 第5回：力学的エネルギー 第6回：運動量と力積、運動量保存則 第7回：角運動量、円運動 第8回：剛体の釣合い、剛体の運動 第9回：固定軸を持つ剛体、剛体の平面運動 第10回：弾性体、ばねの振動、弾性率 第11回：定常流、ベルヌーイの法則 第12回：温度と熱、状態方程式 第13回：熱力学の第一法則、カルノーサイクル 第14回：熱力学の第二法則、不可逆反応		
3. 履修上の注意 基礎物理学を履修（あるいは同時履修）していることが望ましい。 練習問題をきちんと解けるようにしておくこと（なぜ解答のような式が成立するかを理解すること）。 小テストで理解度をチェックする。 物理学（電磁気学・光学）（旧カリキュラム物理学 II）と共に履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した問題を解けるように復習しておくこと。		
5. 教科書 『第5版物理学基礎』原康夫著（学術図書出版社、2016 年）		
6. 参考書 『物理学へのガイド』田辺行人、塚田昌甫共著（裳華房、1995 年） 『Essential 物理学』阿部龍蔵著（サイエンス社、2003 年） 『高校と大学をつなぐ穴埋め式 力学』藤城武彦、北村照幸共著（講談社、2011 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題については、次回の講義で黒板で解答してもらい、答え合わせを行う。 小テストについては、翌週に採点したものを返却する。 なお、間違った問題についてはレポートとして翌週以降に提出してもらい、それを添削して返却する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験 60%、小テスト 30%、平常点（授業参加・貢献度）10%で評価する。		
9. その他 生物物理学研究室（6号館3階 6－309A 号室） オフィスアワーは特に指定しません。質問等があれば研究室に来てください。		

科目ナンバー (AG)BPH221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 物理学（電磁気学・光学）	2 単位	鈴木 博実
2022～2025 年度入学者 物理学（電磁気学・光学）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 物理学（力学・熱力学）（旧カリキュラム物理学 I）で学んだ内容を深め、物理学を学ぶ上で必要な演繹的思考に親しみ、様々な問題を解決する際の考え方の取得を目指します。 《授業の概要》 電磁気、波、光、相対性理論などを学習し、様々な測定装置等で利用されている物理学の原理の理解を図ります。 各単元終了に小テストを行い、理解度の確認を行います。		
2. 授業内容 第 1 回：クーロンの法則、電場 第 2 回：ガウスの法則 第 3 回：電位 第 4 回：導体、静電誘導、キャパシター 第 5 回：誘電体、誘電率 第 6 回：直流、オームの法則、キルヒホッフの法則、ジュール熱 第 7 回：磁荷と磁場、磁気双極子、磁性体 第 8 回：電流と磁場、アンペールの法則 第 9 回：電磁誘導、インダクタンス、交流回路 第 10 回：磁場のエネルギー、磁場の基礎方程式 第 11 回：マクスウェルの方程式、電磁波 第 12 回：波の性質、定在波、音波 第 13 回：光の反射・屈折、干渉 第 14 回：ローレンツ変換、質量とエネルギー、相対性理論		
3. 履修上の注意 物理学（力学・熱力学）（旧カリキュラム物理学 I）を履修していることが望ましい。 練習問題をきちんと解けるようにしておくこと。 小テストで理解度をチェックする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した問題を解けるように復習しておくこと。		
5. 教科書 『第 5 版物理学基礎』原康夫著（学術図書出版社、2016 年）		
6. 参考書 『物理学へのガイド』田辺行人、塚田昌甫共著（裳華房、1995 年） 『Essential 物理学』阿部龍蔵著（サイエンス社、2003 年） 『高校と大学をつなぐ穴埋め式 電磁気学』遠藤雅守、櫛田淳子、北林照幸、藤城武彦共著（講談社、2011 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題については、次回の講義で黒板で解答してもらい、答え合わせを行う。 小テストについては、翌週に採点したものを返却する。 なお、間違った問題についてはレポートとして翌週以降に提出してもらい、それを添削して返却する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験 60%、小テスト 30%、平常点（授業参加・貢献度）10%で評価する。		
9. その他 生物物理学研究室（6 号館 3 階 6－309A 号室） オフィスアワーは特に指定しません。質問等があれば研究室に来てください。		

科目ナンバー (AG) AGC351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品生化学	2 単位	竹中 麻子
2022～2025 年度入学者 食品生化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 食品成分の中には、三大栄養素（炭水化物・脂質・タンパク質）以外にも、三大栄養素の代謝を助けるはたらきをもつビタミン・ミネラルや、おいしさに関わるはたらきをもつ成分が含まれている。この講義では、こうした食品成分の構造や性質について学ぶ。まず、ビタミン・ミネラルの構造・性質・作用について解説し、さらに食品のおいしさに関わる成分（色，味，香り成分）の構造と性質についても解説する。「食品化学」に続けて学ぶ科目として位置づけられる。 《到達目標》 ビタミン・ミネラルおよび美味しさに関わる食品成分（色，味，香り成分）の構造・性質・はたらきを理解することを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：脂溶性ビタミン（ビタミンA，D） 第3回：脂溶性ビタミン（ビタミンE，K） 第4回：水溶性ビタミン（ビタミンB1、B2、B6，ナイアシン） 第5回：水溶性ビタミン（パントテン酸、ビオチン、葉酸、ビタミンB12、C） 第6回：ミネラル（カルシウム、マグネシウム、リン、ナトリウム、カリウム） 第7回：a ミネラル（鉄、亜鉛） b 栄養機能食品 第8回：食品中の色素成分（ポリフィリン色素、カロテノイド色素） 第9回：食品中の色素成分（フラボノイド色素、その他の色素） 第10回：a 色素の褐変 b 味のイントロダクション 第11回：食品中の味成分（甘味、酸味、塩味） 第12回：食品中の味成分（苦味、うま味、その他の味） 第13回：食品中の香り成分 第14回：総括		
3. 履修上の注意 「食品化学」を受講していることが望ましい。 各回の講義終了時に小テストを行う。小テスト回答時に講義への質問・コメントも受け付ける。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として，教科書およびクラスウェブ等に提示された資料の該当箇所を読んでおくこと。復習として，教科書及び資料の該当箇所を読み、不明な点は質問すること。		
5. 教科書 『わかりやすい食品化学（第2版）』吉田勉・監修，早瀬文孝・佐藤隆一郎編著（三共出版）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解説および質問・コメントへのフィードバックは、翌週の授業までに Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載、あるいは Oh-o! Meiji から個別に行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験（60％）と小テスト（40％）の成績で評価する。		
9. その他 講義に関する質問は随時受け付ける。 食品生化学研究室（5号館602号室） E-mail: takenaka@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGC351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 栄養生化学	2 単位	金子 賢太郎
2022～2025 年度入学者 栄養生化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 私たちは食品に含まれる栄養素を摂取することで生命活動を維持している。栄養素は糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルに大別され、五大栄養素と呼ばれる。さらに糖質、脂質、タンパク質は生体内で代謝されることによりエネルギーを作り出せることからエネルギー産生栄養素（三大栄養素）として知られる。本講義では、私達の日常の活動を支える三大栄養素の巧みな消化・吸収・代謝・生理機構について細胞レベル、分子レベル、個体レベルで解説します。特に本講義では、カラダの視点も踏まえて、食・栄養素の機能を捉えとともに、栄養（生体恒常性の維持）のために摂取された栄養素について、内分泌や代謝の観点も踏まえて考えていきます。 《到達目標》 本講義では摂取した栄養素の生体内において代謝される化学的変化の仕組みについて理解を深め、さらに、ホルモンや視床下部におけるエネルギー恒常性維持機構、内分泌代謝機構、栄養素や食品由来機能性成分の持つ生体調節機能、生活習慣病や加齢との関わりについて正確な知識を得ることで、食品や食品由来栄養シグナルの持つ生体調節機能に対する理解を深めることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：栄養に関わる諸問題と食品の機能、食欲制御 第3回：消化と吸収について全般的に 第4回：糖質：消化・吸収・グルコース代謝 第5回：糖質：血糖値の調節機構 第6回：脂質：消化・吸収・分布・代謝 第7回：脂質：ケトン体・コレステロール・エイコサノイド 第8回：タンパク質：消化・吸収・代謝 第9回：タンパク質：ペプチドホルモン 第10回：全身レベルのエネルギー収支 第11回：脳における食欲制御機構 第12回：栄養成分と生体調節機能 第13回：生活習慣病との関わり 第14回：総括 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「栄養科学」を受講していることが望ましいですが、基礎から概説するため、特に注意点はありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配布資料やノートにより復習を行うこと。		
5. 教科書 特に指定しません。講義はプリントを配布して行います。		
6. 参考書 『エッセンシャル栄養化学』佐々木努・編著（講談社） 『もっとよくわかる！食と栄養のサイエンス』佐々木努・編（羊土社） 『Introduction to Nutrition and Metabolism』（CRC Press）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義中に課題に対して解説を行います。		
8. 成績評価の方法 定期試験を中心として、小テスト・課題・平常点などにより総合的に評価します。		
9. その他 講義に関する質問等は随時受け付けます。 メール（kanekok@meiji.ac.jp）での問い合わせ、もしくは、金子の居室（栄養生化学研究室：5号館6階606室）まで気軽にお越しください。		

科目ナンバー (AG) AGC291J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品衛生学	2 単位	長田 恭一
2022～2025 年度入学者 食品衛生学		
1. 授業の概要・到達目標 食の多様化に伴い、我々は多くの加工食品あるいは輸入食材を摂取することが日常的になっている。このような食環境下で、人体に影響がないように、食の安全性を確保しなければならない。本講義では、食品衛生行政、食品工場の設計、二次汚染防止策、食品の腐敗指標、微生物やウイルスによる食中毒について詳しく解説する。 現在の日本の食品衛生の行政ならびに食中毒の基礎について理解することを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：食品衛生学の目的とリスク分析 第2回：食品衛生行政 第3回：食品衛生行政と食品表示 第4回：異物混入と衛生動物 第5回：食品工場設計と二次汚染防止について 第6回：食品の腐敗とその測定指標 第7回：食品と微生物 第8回：国内の食中毒発生状況 第9回：サルモネラ食中毒症 第10回：腸炎ビブリオ食中毒と黄色ブドウ球菌による食中毒 第11回：ボツリヌス菌による食中毒、腸管出血性大腸炎による食中毒 第12回：ウエルシュ菌、カンピロバクターによる食中毒、その他の食中毒細菌について 第13回：ノロウイルスによる食中毒と肝炎ウイルスについて 第14回：ウイルスに関する最新的话题		
3. 履修上の注意 微生物学を履修し、よく理解しておくことを希望します。 公務員あるいは食品関連企業の技術職で食品衛生監視員、管理者になることを希望する場合は必須となります。 食品衛生監視員として公務員受験を志望される方には、専門分野の試験内容の40%以上を占めることをお知らせします。 なお、本年度も外部講師を招聘（東海大学医学部 野田先生）し、コロナウイルスを中心にウイルス学の基礎について学習する予定です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義では毎回レジュメを配布します。また、2回目からは重要事項を講義最初にまとめますので復習して下さい。また、食中毒に関するニュース等に興味をもってください。		
5. 教科書 2019 年度より資料については教科書を使用しています。 教科書：東京化学同人：新スタンダード栄養・食物シリーズ8 食品衛生学第2版（一色賢司編）		
6. 参考書 医歯薬出版：新食品衛生学要説 その他有り		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テスト実施の場合は解答の解説をする。 期末試験については O-Meiji を通じて正答を公表する。		
8. 成績評価の方法 定期試験により評価する。合格は 60 点以上である。 3-4 回不定期に出席調査をする。授業参加評価としてプラス評価にのみ利用する。 外部講師招聘時にはレポートを課し、10%程度の評価点を加算する。		
9. その他 受講態度に応じて試験難易度を変えています。 講義内容について相談等があれば対応します。講義後に連絡してください。		

科目ナンバー (AG) AGC351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品機能化学	2 単位	石丸 喜朗
2022～2025 年度入学者 食品機能化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 食品成分のタンパク質、脂質、炭水化物、ポリフェノール、色素などの3次機能（生体調節機能）について講義する。 《到達目標》 体の仕組みを理解するとともに、食品機能について化学的知識および生化学的知識を身につけ、応用力をつけること。機能性食品などの近年問題となっている効能、安全性について正確な知識を得るとともに正しい情報を社会に発信する。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（食品機能学の展開） 第2回：味覚と嗅覚の受容機構 第3回：ミネラルの吸収促進成分、血糖上昇抑制成分 第4回：抗肥満および脂質異常症の予防改善作用成分 第5回：腸内環境を整える成分 第6回：骨・歯の健康と骨粗鬆症・う蝕予防成分 第7回：抗疲労効果成分、活性酸素と抗酸化成分 第8回：高血圧と降圧作用成分 第9回：脳・神経系の機能に関与する成分 第10回：免疫と免疫機能活性化・調節成分 第11回：アレルギーと抗アレルギー作用成分 第12回：がんと抗がん作用成分 第13回：抗菌成分、食品機能研究の新展開 第14回 a：試験 b：講義全体のふりかえりと試験の正答解説		
3. 履修上の注意 食品化学、生化学Ⅰ、Ⅱ、有機化学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、シラバスに従って教科書の該当部分を予習し、理解できない部分があれば授業で質問すること。復習として、教科書及び参考書の該当部分を読むこと。		
5. 教科書 『わかりやすい食品機能学』森田英利他編著（三共出版）		
6. 参考書 『食品学 食品成分と機能性』久保田紀久枝他編（東京化学同人）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験（90％）と授業への貢献度（10％）で評価する。		
9. その他 食品機能化学研究室（第一校舎 5 号館 6 階 603 号室）		

科目ナンバー (AG) AGC351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品工学	2 単位	中村 卓
2022～2025 年度入学者 食品工学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標》 食品分野において工業的に製品を製造する際の基礎知識を学びます。特に、プロセス単位操作の工学的な考え方を習得し、食品素材と加工食品の製造工程を理解することを目的とします。さらに食品開発の目標の一つである「おいしさ」について理解します。 《授業の概要》 「ものづくり」においてプロセスの妥当性を判断するには、原料から製品に至るまでの段階を分解して技術単位（単位操作）で考え、その技術単位への投入量と排出量からエネルギー収支・物質収支を定量的に考える必要があります。また、食品素材と加工食品について実際の製造工程をまじえながら「ものづくり」について学びます。さらに、食品開発のターゲットである「おいしさ」の捉え方・考え方について学びます。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進め方・成績評価 ものづくり：定量的に考える：式・単位（意味）、分けて考える（構造化）：損益分岐点・ボイラー、全体として考える（抽象化・具体化）：弾性・粘性、 第2回：割って考える：スケールアップ・無次元化、足して考える：粘弾性（レオロジー） 基本概念と装置 第3回：物質移動：エネルギー保存：ベルヌーイの定理・レイノルズ数：ポンプ 第4回：熱移動：伝熱：伝導フーリエの法則・対流ニュートンの冷却法則：熱交換機 第5回：殺菌：菌の耐熱パラメーターD 値、Z 値、F 値：殺菌機・サニタリー仕様 第6回：乳化：o/w, w/o(転相・相分離)・ストークスの式・攪拌：乳化機 第7回：特別授業 食品企業の製品開発において専門力を活かすには 食品素材と生産設備 第8回：小麦粉：種類・粉碎・篩・粉体トラブル・粉体製品・グルテンタンパク質ネットワーク構造 第9回：油脂：種類（液体・固体）・加工 油脂結晶・チョコレート 第10回：糖類：澱粉（相転移・糊化老化）・甘味料種類・バイオリアクター・クロマト分離 加工食品の製造装置と計算問題 第11回：乳製品：牛乳・ヨーグルト・チーズ・アイスクリーム 小麦製品：麺類・パン類・クッキー 飲料：お茶・コーヒー・野菜ジュース 包装 第12回：魚畜肉製品：蒲鉾・ハム 大豆製品：豆乳・豆腐・納豆 プラントベース 官能評価 おいしさの捉え方・考え方 第13回：おいしさ：風味と食感 オノマトペ&感性&食品開発 脳科学：知覚（生理学）・認知（心理学） 五感：視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚とレオロジー まとめ 第14回： 「ものづくり」：制御システム・生産工学・サニタリーシステム ：総括：プロダクトアウトからマーケットインへ R&D&M , B to B to C		
3. 履修上の注意 毎回の授業の最初に前回授業の提出課題の解説から始めます。その後、その回の講義内容を説明しながら質問します。また、例題を解きます。最後に、提出課題を説明します。 工学的な考え方を習得するためには、授業を聴くだけでなく、自分で考え問題を解き、解説を聞いて確認することが最も効率的です。食品開発（ものづくり）に興味のある学生に履修を勧めます。なお、進行状況によっては順番・内容を変更する場合があります。特に第7回は外部からの講師を予定していますので場合によっては順番の変更があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 食品化学・物理化学を前提としています。復習として授業中に出された提出課題を解いて Oh-o! Meiji を通じて提出する必要があります。次回授業初めの解答解説を聞いて、なぜ間違えたかを追加提出します。		
5. 教科書 教科書は指定しません。授業の中で資料を配布し、参考書を紹介します。		
6. 参考書 『基礎食品工学』（建帛社 1996 年）生田図書館開架 588/510/ 『食品工学・生物化学工学』（丸善 1999 年）開架 588/479/ 『化学工学の計算法』（東京電機大学出版社 1999 年）開架 571/333// 電子ブック 『図解食品加工プロセス』（工業調査会 2003 年）開架 588/542/ 『食品工学入門：食品を造る基礎科学』（カルチュレード，2014.2）開架 588/683/ 『食品工学ハンドブック / 日本食品工学会編』（朝倉書店，2006.1）開架/R588/79/ 『レオロジーの世界：基本概念から特性・構造・観測法まで』/尾崎著 428.3/49//S		

『食品物性用語辞典』 / 種谷真一 [ほか] 共著 R498/87//S
『食品とテクスチャー』 / 川端晶子編著 498.5/515-4//S
『澱粉科学の事典』 / 不破編 588.2/3//S
『澱粉の辞典』日本応用糖質学会(監修) 朝倉書店 2025 年
『食品多糖類』 / 国崎直道 [ほか] 共著 498.5/429//S
『製菓用油脂ハンドブック』 / 蜂谷巖著 R576/44//S
『スタンフォード神経生物学』/Liqun Luo 著 柚崎ら監訳 491.3/1153/B/
『カンデル神経科学』Eric R. Kandel ら編 (2022) 491.3/1017/E/S
『食品の組織構造とおいしさ』峯木ら編 (幸書店 2025 年) 498.5/1268//S 電子ブック

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の初めの解説に加え、Oh-o! Meiji を通じても行います。

8. 成績評価の方法

毎回の課題提出と学期末評価を行います。成績は平常点（提出課題等）70%と学期末評価 30%で判定（予定）を基本としますが、詳細は初回の授業で解説します。

9. その他

食品工学研究室（第 1 校舎 5 号館 5 階 503 A 室）オフィスアワーは特に指定しませんが、質問があれば気軽に研究室に来てください。

科目ナンバー (AG) AGC321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 発酵食品学	2 単位	山田 千早
2022～2025 年度入学者 発酵食品学		
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、様々な発酵食品の製造原理を学び、発酵食品がもつ栄養価、保存性、風味などの特徴について理解することを目的とする。発酵食品は微生物の代謝を利用した食品加工技術であり、微生物学および食品科学の観点からその仕組みを理解することが重要である。特に、発酵食品の製造に関与する微生物の種類や役割に着目し、微生物の働きと食品発酵との関係を科学的に理解する。 近年、健康志向の高まりに伴い、発酵食品は特定保健用食品や機能性食品としても注目されている。本授業では、このような背景を踏まえ、腸内細菌とヒトの健康との関係やプロバイオティクスの概念についても解説し、発酵食品と健康との関連を体系的に理解することを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス： 多様な発酵食品と発酵文化について 第2回：発酵食品を作る微生物の役割 全体の概要 第3回：チョコレート：(株) 明治 宇都宮先生 第4回：乳酸菌とヨーグルト：(株) 明治 山本先生 第5回：プロバイオティクスと腸管免疫：理化学研究所 成島先生 第6回：チーズ：(株) 明治 渡邊先生 第7回：醸造の概略 日本酒 第8回：ビール：アサヒホールディングス (株) 鈴木先生 第9回：ワインなどのアルコール飲料 第10回：酢：東京大学 新井先生 第11回：味噌 第12回：醤油：キッコーマン (株) 伊藤先生 第13回：納豆・漬物 第14回：魚の発酵食品、その他の発酵食品 外部講師のスケジュール上、講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 履修前提科目 「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 不明な点や理解できない点を拾い出して参考書などで調べる。また質問として準備すること。		
5. 教科書 ・講義資料 PDF 版 Oh-meiji を介して 印刷物の配布は行わない		
6. 参考書 『発酵食品』（小泉武夫著、講談社） 『47 都道府県・発酵文化百科』（北本勝ひこ著、丸善出版） 『日本の伝統 発酵の科学』（中島春紫著、ブルーバックス） 『乳酸菌とビフィズス菌のサイエンス』（京都大学学術出版会） 『“進化している発酵食品” 学』（佐々木著（明治大学出版会）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を介して、または講義冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 授業への参加度（紙のリアクションペーパーによる出席点と毎回講義後に Oh-meiji を介して課題の提出）30% 定期試験 70%（持ち込み不可）		
9. その他 スケジュールは外部講師の都合により変更の可能性が有ります。 講義に関する質問等は随時受け付けますが、不在の時もあるので、来室の際はあらかじめメールをください。 メールでの質問も受け付けます。 発酵食品学研究室（5号館6階 601 号室） E-mail: chihaya@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGC341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 天然物有機化学	2 単位	荒谷 博
2022～2025 年度入学者 天然物有機化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 様々な天然有機化合物の構造と生合成経路を有機化学的に理解することを目的とする。 本講義の内容を理解することにより、ある天然有機化合物が示されたとき、その構造的特长から生合成経路を予測できるようになる。 なお、生合成経路をしっかりと理解するためには有機化学反応を正しく理解していることが重要である。 また、本講義では食品衛生に関わる数多くの天然有機化合物を学ぶので、食品衛生に係わる職に就くことを考えている者は履修することが望ましい。 《授業の概要》 様々な天然有機化合物について、構造、生合成、生物活性等について解説する。		
2. 授業内容 概ね以下のように講義を進める。 第 1 回：天然物有機化学とは？序論および抽出、単離・精製法 第 2 回：有機化合物の構造決定法、立体化学、天然有機化合物の単離例 第 3 回：生合成概要 第 4 回：ポリケチド 第 5 回：脂質 第 6 回：テルペノイド（1） 第 7 回：テルペノイド（2） 第 8 回：シキミ酸経路 第 9 回：フラボノイド、ファイトアレキシン 第 10 回：アミノ酸、アルカロイド 第 11 回：植物ホルモン 第 12 回：昆虫ホルモン、フェロモン 第 13 回：生物間作用物質（1） 第 14 回：生物間作用物質（2）、全講義の総括		
3. 履修上の注意 農芸化学科の専攻科目であり、3 年次以降に履修が可能である。有機化学および生化学の理解を深めておくこと。秋学期科目の「ケミカルバイオロジー」の基礎となる内容が多く含まれているので、ケミカルバイオロジーを履修予定の学生は本科目を履修することを勧める。 本講義では食品衛生に係わる数多くの天然有機化合物を学ぶので、食品衛生に係わる職に就くことを考えている者も履修すべきである。 期末試験では手書きの A4 用紙 1 枚のみ持ち込み可とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本科目をしっかりと理解するには、「有機化学」の基礎が必要である。事前に有機化学で学んだ内容を復習したうえで授業に挑むことが望ましい。基礎となる代表的な生合成経路の理解は必須である。 授業中に解説する代表的な化合物については、名称とおおよその構造的特徴をイメージできる程度に復習することが望ましい。		
5. 教科書 複数の参考書等から必要な部位を抜粋した資料を配布する。		
6. 参考書 『パートナー天然物化学 改訂第 4 版』海老塚ら著（南江堂、2023） 『マクマリー生化学反応機構 第 2 版』長野哲雄監訳（東京化学同人、2018）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問があれば、講義後もしくは研究室居室で対応する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験 80％、平常点＋レポートを 20％として評価する。 なお、平常点は出席状況や授業態度などを総合した評価である。		
9. その他 天然物有機化学研究室（5 号館 5 階 507A 号室）		

科目ナンバー (AG) AGC341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ケミカルバイオロジー	2 単位	久城 哲夫
2022～2025 年度入学者 ケミカルバイオロジー		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 我々の身の回りの生物（とくに微生物や植物）が生産する有機化合物（天然物）を、生物がどのように生合成しているのかを解説する。特に、多様で複雑な構造を有するポリケタイドやテルペノイド化合物の生合成の原理と反応を中心に紹介する。また、たんぱく質の合成過程で遺伝暗号の翻訳を担うアミノアシル tRNA 合成酵素について、その機能や遺伝暗号の進化との関係を紹介し、最近解明されてきた新たな二次機能についても紹介する。 《演習の達成目標及びテーマ》 生命現象を化学レベルで扱うケミカルバイオロジーの視点を習得させることを目標とする。特に生体分子に関する化学や反応について十分に理解することを目指す。ケミカルバイオロジーは、従来の学問領域をまたぐ横断的な分野であり、学際的な視点を養うことが重要である。		
2. 授業内容 第 1 回：ケミカルバイオロジーとは？ 第 2 回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド 1） 第 3 回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド 2） 第 4 回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド 3） 第 5 回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド 4） 第 6 回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド 5） 第 7 回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド 6） 第 8 回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（テルペノイド 1） 第 9 回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（テルペノイド 2） 第 10 回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（テルペノイド 3） 第 11 回：タンパク質翻訳系 第 12 回：アミノアシル tRNA 合成酵素 第 13 回：遺伝暗号の進化 第 14 回：アミノアシル tRNA 合成酵素の二次機能		
3. 履修上の注意 農芸化学科の専攻科目であり、3 年次以降に履修可能。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 有機化学の反応が多く登場します。有機化学ⅠとⅡの内容をしっかりと習得しておいて下さい。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 『マクマリー生化学反応機構』J. McMurry, T. Begley 著，長野哲雄監訳，（東京化学同人，2007） 『医薬品天然物化学』P. M. Dewick 著，海老塚豊監訳，（南江堂，2004） 『ケミカルバイオロジーの基礎』C. M. ドブソン，J. A. ジェラード，A. J. プラット著，三原久和訳，（化学同人，2004） 『基礎から学ぶ植物代謝生化学』水谷正治，土反伸和，杉山暁史編，（羊土社，2019）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義中の課題や小テストに関して、後の講義で解説を行うと共に、Oh-o! Meiji を通して個別のコメントを返却する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験と平常点で評価します。授業への貢献度 40%，定期試験 60%。		
9. その他 ケミカルバイオロジー研究室（6 号館，406 号室）オフィスアワー：特に設けていません。いつでもどうぞ。		

科目ナンバー (AG) AGC331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 応用生化学	2 単位	島田 友裕
2022～2025 年度入学者 応用生化学		
1. 授業の概要・到達目標 酵素は生体内で起こる化学反応を触媒するタンパク質であり、近年では、その機能に加えて化学構造の情報により分子として扱われるようになってきた。本講義では、酵素化学の基礎から応用までを講義する。また、酵素に関する様々な知識や解析法から利活用までを理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：酵素とは 第 2 回：タンパク質としての物理化学的性質 第 3 回：酵素タンパク質の構造と解析法 第 4 回：酵素の立体構造 第 5 回：複合的な酵素系 第 6 回：酵素の精製 第 7 回：酵素活性の反応速度論 第 8 回：酵素の作用 第 9 回：酵素活性の調節 第 10 回：酵素の応用 第 11 回：酵素の遺伝子工学 第 12 回：酵素の探索、改変 第 13 回：酵素の安定化、固定化 第 14 回：総括		
3. 履修上の注意 シラバスに沿って予習し、受講後は復習すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義中に理解できないときは、質問や復習をすること。		
5. 教科書 毎回、プリントを配布する。		
6. 参考書 『初めての酵素化学』第 1 版 井上國世 シーエムシー出版		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績によって評価する。出席は毎回とり、評価に加える。		
9. その他 質問は授業終了後または研究室にて受け付ける。 ゲノム微生物学研究室（3 号館 3 0 8 A 号室）		

科目ナンバー (AG) AGC311J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物環境制御学	2 単位	田畑 亮
2022～2025 年度入学者 植物環境制御学		
1. 授業の概要・到達目標 植物（農作物）を良好に育てるために、人々は植物の発達や栽培環境を人為的に調節・制御してきた。本授業では、作物栽培や施設園芸など場面における植物生育環境制御法の基礎となる知識や技術について概説する。特に、植物栄養学、植物生長調整技術、植物微生物相互作用などの知見について触れる。このようにして、植物をとりまく種々な環境と、栽培技術の進歩や肥料資源の獲得方法について理解させ、この知識に基づいて、植物の生育や環境条件を調節・制御して作物生産を増進する最新の技術や今後期待される技術についても理解を深める。		
2. 授業内容 第1回：授業概要 第2回：植物発生生理学、土壌中の栄養環境と植物窒素獲得戦略 第3回：植物の窒素吸収を制御する長距離シグナル 第4回：土壌環境に含まれる微量元素と植物の鉄獲得戦略 第5回：有害元素、植物栄養学の社会実装例（植物育種と環境制御） 第6回：ペプチドホルモンによる植物生育制御（硫酸化ペプチドなど） 第7回：ペプチドホルモンによる植物生育制御（CLE ペプチドなど） 第8回：ペプチドホルモン（システインリッチペプチド）や応用研究 第9回：接ぎ木 第10回：接ぎ木 第11回：ゲノム編集技術による植物生長制御 第12回：微生物を利用した栽培制御とバイオスティミュラント 第13回：日本の施設園芸の課題と今後 第14回：まとめとテスト対策		
3. 履修上の注意 植物栄養学と土壌化学を履修済であることが強く望まれる。 授業の始めに、前回の授業の復習を実施します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習・復習は、授業スライドや教科書の関連ページを読んでください。 理解できない部分があれば、授業中に質問するか、研究室へ来てください。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 とくに定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 成績は期末試験（70％）と、出席と小テスト（30％）の合計で評価します。		
9. その他 植物環境制御学研究室：5号館505号A室 メールアドレス：tabaryo@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGC381J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境分析化学	2 単位	安 保 充
2022～2025 年度入学者 環境分析化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 各種機器分析法に必要な学習を行う。分析原理だけでなく、実際の分析例を挙げて説明し、研究に活用できる分析化学的知識の習得を目指す。 《授業の概要》 分析化学の中から分離分析、分光分析について解説する。分離分析では分離法の原理とその応用について、分光分析では電磁波の吸収・放射を利用して何を分析できるのかについて説明する。 無機成分の分析手法を中心に、一部有機成分の分析手法についても述べる。		
2. 授業内容 第1回：分離分析（概説）、クロマトグラフィー（分配・吸着） 第2回：クロマトグラフィー（イオン交換・ゲル濾過） 第3回：クロマトグラフィー（アフィニティー・理論、理論段数） 第4回：クロマトグラフィー（理論段高さ）、HPLC 第5回：ガスクロマトグラフィー（GC, GC-MS） 第6回：ゲル電気泳動、キャピラリー電気泳動（CE） 第7回：蛍光 X 線分析 第8回：原子吸光分析、炎光法 第9回：フレイムレス原子吸光分析 第10回：ICP 発光分析 (OES), ICP-質量分析（MS） 第11回：蛍光分析 第12回：質量分析（MS） 第13回：電解分析 (CV, CA) 第14回：検量線と検出限界		
3. 履修上の注意 必修化学、物理化学の講義を受講していれば理解しやすい 参考書を利用すること		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で説明する資料は、講義の前後 1 週間程度 Oh!Meiji に掲示します。併せて掲示する練習問題や小テストで知識が身についているか確認すること。		
5. 教科書 指定しない		
6. 参考書 『これからの環境分析化学入門』 小熊幸一（ほか）編集（講談社） 『分析化学 I, II, III』 井村久則（ほか）著（丸善） 『分析化学の基本操作』 上本道久著（丸善出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テスト・課題に対するフィードバックは、Oh!Meiji システムを使ってコメントを返却する。		
8. 成績評価の方法 講義中の演習（30%）と期末の試験（70%）		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGC311J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 土壌圏科学	2 単位	加藤 雅彦
2022～2025 年度入学者 土壌圏科学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本講義は、土壌の持つ化学的、生物的、物理的機能が農業生産の維持向上あるいは環境変化に伴う農業生産と密接な関係にあることを理解する。加えて、土壌を限りある資源と捉え、健全な状態で次世代に引き継ぐにはどのような工夫が必要になるか土壌の応用科学の視点から理解することを目的とする。 《授業の概要》 本講義では、土壌学と農業生産との関連を概説し、日本や世界の土壌について紹介する。次いで、土壌中での元素（養分、有害金属等）の形態・挙動とその評価を説明するとともに、農業生産、農業環境と土壌学の係りについて実現象を関連付ながら詳説していく。		
2. 授業内容 第1回：農業生産と土壌、地球・都市・地域環境保全と土壌について 第2回：土壌断面から土壌の生成を観る—日本の土壌と世界の土壌— 第3回：土壌中での元素（養分・有害金属等）の形態・挙動とその評価 第4回：作物生産と土壌-植物生育と土壌科学的条件- 第5回：なぜ肥料が必要なのか-植物必須元素と土壌成分、無機肥料と有機肥料- 第6回：国際的資源と農業生産-養分動態から資源の有効活用を考える- 第7回：作物生産と施肥-土壌分析と土壌診断- 第8回：畑土壌の特徴と作物生産 第9回：水田土壌の特徴と作物生産 第10回：樹園地・茶園・草地土壌の特徴と作物生産 第11回：農業と温室効果ガス 第12回：温暖化と農作物 第13回：人口増加・環境破壊と土壌環境 第14回 a：定期試験 b：講義全体のふりかえりとまとめ		
3. 履修上の注意 履修前提科目：土壌化学		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：各講義回に該当する教科書について一読する。 復習：配布した資料、板書内容と関連付けながら教科書の該当部分を再読する。		
5. 教科書 講義時に配布する資料 『改訂 土壌学概論』 犬伏和之・白鳥豊編 朝倉書店		
6. 参考書 『新版 土壌学の基礎—生成・機能・肥沃度・環境（農学基礎シリーズ）』 松中照夫著 農文協 『土壌サイエンス入門』 三枝正彦・木村真人編 文永堂出版 『最新土壌学』 久馬一剛編 朝倉書店 『環境土壌学』 松井健・岡崎正規編 朝倉書店		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験（70%）＋小テスト・レポート（30%） 2/3 以上の出席が期末試験受験のための必要条件である。		
9. その他 土壌圏科学研究室（3 号館 3 階 302A） オフィスアワー：在室していれば随時可（メールにて事前問い合 わせすることが望ましい） E-mail: mkatoh@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGC371J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境バイオテクノロジー	2 単位	小山内 崇
2022～2025 年度入学者 環境バイオテクノロジー		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生物を利用した環境技術について理解することを目的とする。遺伝子、代謝、細胞の改変を行うバイオテクノロジーの基礎を習得し、また、エネルギーやプラスチックについて基礎的な解説を行い、バイオテクノロジーを利用した環境問題への取り組みについて考えていく。また、この講義は、バイオベンチャーを創業した教員が担当する講義であり、これまで得た知識がいかに社会で役立つかを意識することも行う。 《授業の概要》 遺伝子工学と代謝工学を中心に講義を行う。遺伝子と代謝の基礎を復習するとともに、最新の遺伝子工学・代謝工学を学ぶ。また、科学技術と環境および社会の接点について学んでいく。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：遺伝子工学Ⅰ DNA・遺伝子の基礎 復習を兼ねて 第3回：遺伝子工学Ⅱ 遺伝子改変の実際 第4回：遺伝子工学Ⅲ 最新の遺伝子工学 第5回：代謝工学Ⅰ 代謝の基礎 復習を兼ねて 第6回：代謝工学Ⅱ 代謝改変の実際 第7回：代謝工学Ⅲ 代謝工学とバイオプラスチック 第8回：代謝工学Ⅳ メタボロミクス 第9回：環境とバイオテクノロジーⅠ 基礎用語解説 第10回：環境とバイオテクノロジーⅡ バイオリファイナリー 第11回：環境とバイオテクノロジーⅢ バイオエネルギー 第12回：科学と一般社会の関係Ⅰ 遺伝子組換え作物 第13回：科学と一般社会の関係Ⅱ LCA, ESG など 第14回：まとめと定期試験解説 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 単位取得に必須な課題があることに留意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に分子生物学や生化学、環境分野の授業の復習をしておくが良い。		
5. 教科書 教科書は指定しない。講義内容を解説するプリントを配布する。		
6. 参考書 参考書は特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 課題、平常点など（20～40%）、定期試験（60～80%）。その年の成績によって割合が変化する。 また、対面・オンライン講義を合わせて出席の半分以上が単位取得に必須。		
9. その他 環境バイオテクノロジー研究室（3号館3階3-310号室） E-mail: tosanai@meiji.ac.jp メールでの質問を歓迎します。面会希望の場合はメールでアポイントメントをとることを推奨する。実務経験より、単に受け身の講義を受けるだけでなく、自分で積極的調べたり、発言したりすることも重要であると認識している。このため、講義中にクイズなどを出すことで、学生が能動的に勉強することを試みる。		

科目ナンバー (AG) AGC321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 微生物化学	2 単位	村上 周一郎
2022～2025 年度入学者 微生物化学		
1. 授業の概要・到達目標 これまで人類は、生活を豊かにするために微生物のもつ様々な能力を利用して、必要な様々な物質を生産してきました。この講義では、「微生物による有用物質の生産」、特にアルコール発酵、乳酸発酵、アミノ酸発酵について、工業製品としてこれらの物質の生産することに焦点を絞って概説します。講義の中では、用いる微生物、その発酵プロセス、今後に向けての課題等を解説します。 最終的にこの講義を通じ、微生物による主要な物質生産方法を理解するとともに、応用面における微生物のもつ様々な可能性をイメージできるようになることを到達目標と考えています。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション—この授業で学ぶこと— 第2回：アルコール発酵-1（代謝経路） 第3回：アルコール発酵-2（糖質原料の利用） 第4回：アルコール発酵-3（糖化とデンプン質原料の利用） 第5回：アルコール発酵-4（植物繊維系原料の利用） 第6回：アルコール発酵-5（アーミング酵母の利用） 第7回：乳酸発酵-1（代謝経路と微生物） 第8回：乳酸発酵-2（発酵プロセス） 第9回：アミノ酸発酵-1（代謝経路） 第10回：アミノ酸発酵-2（直接発酵法） 第11回：変異処理による微生物の育種法 第12回：アミノ酸発酵-3（代謝制御発酵） 第13回：アミノ酸発酵-4（酵素法） 第14回 a：試験 b：試験の正答解説 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義内容を容易に理解するために、2 年生秋学期開講の「微生物生理学」を受講することを希望します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 板書した内容と授業中に配付するプリントの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば参考書等に目を通しておくこと。		
5. 教科書 特に定めません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。		
6. 参考書 『微生物学』 青木健次編 （化学同人） 『発酵ハンドブック』（財）バイオインダストリー協会編 （共立出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（10%）と期末テスト（90%）により評価します。		
9. その他 特にオフィスアワーは設けませんが、質問等があれば研究室（3 号館 3-304 A）に来てください。 連絡先：smura@meiji.ac.jp, 044-934-7098		

科目ナンバー (AG) AGC321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 微生物遺伝学	2 単位	前田 理久
2022～2025 年度入学者 微生物遺伝学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本講義では、微生物の生理、生態の特徴を概観し、遺伝学については実践的に、微生物ゲノムについては詳しく取り扱います。また最先端の分子生物学的研究、さらには医学、農学、工学への応用を紹介し、将来を展望します。 《到達目標》 現代の分子生物学は急速な発展を遂げている。これらの基本的な概念の大部分は、微生物の研究からなされてきたものです。また、研究手法、新しい方法論の確立などにも多大な貢献をしています。 遺伝学の基本的な考え方とその利用、さらに微生物の可能性を知ることが目的とします。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション、微生物学の概観 第 2 回：微生物学の基本 (1) 第 3 回：微生物学の基本 (2) 第 4 回：微生物学の基本 (3) 第 5 回：微生物の遺伝学と遺伝子工学 (1) 第 6 回：微生物の遺伝学と遺伝子工学 (2) 第 7 回：微生物の遺伝学と遺伝子工学 (3) 第 8 回：微生物のゲノム (1) 第 9 回：微生物の代謝 (1) 第 10 回：微生物の代謝 (2) 第 11 回：微生物の代謝 (3) 第 12 回：微生物のゲノム (2) 第 13 回：微生物の生態 (1) 第 14 回：微生物の生態 (2) 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 微生物学、生化学、分子生物学関連の講義は履修している方が望ましい。重要なことは興味を持って積極的に自分で勉強する姿勢です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習、復習、さらには自習用に教科書を指定しています。 講義の計画はガイダンスで案内しますので、予めよく読んで予習しておいて下さい。 講義資料はプリントで配付します。 講義は、教科書の内容に、さらに必要に応じて補足して行います。		
5. 教科書 「基礎から学ぶ微生物学」羊土社		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 小テストまたはレポート課題を課します。 評価は、学期末試験 (70%)、小テストまたは課題 (30%) を総合的に判断して行います。		
9. その他 微生物遺伝学研究室 (5 号館 6 階 605 号室) オフィスアワー：金曜日 17：10～18：00 E-mail：mmaeda@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGC321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 微生物生態学	2 単位	中島 春紫
2022～2025 年度入学者 微生物生態学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 地球上のさまざまな環境に生息する微生物の多様性および能力について実践的な知識を体系的に習得することを目指す。種々の微生物について概説するとともに、乳酸菌、放線菌、酵母、糸状菌など人類と関わりの深い微生物について利用法および伝統的な発酵食品の製造法を含めて解説する。 《授業の概要》 多様な環境に生息する微生物の生態・種々の微生物に関する各論・微生物の研究法・微生物の利用法・遺伝子組換えおよびゲノム編集技術と社会との関わりについて、実例を挙げて可能な限り簡明に講義する。		
2. 授業内容 第 1 回：生物学を学ぶこと 第 2 回：微生物の生態と研究法 第 3 回：グラム陽性菌と陰性菌 第 4 回：乳酸菌と放線菌 第 5 回：エネルギー獲得と呼吸 第 6 回：原生生物 第 7 回：酵母の生態と利用 第 8 回：糸状菌の生態と利用 第 9 回：糸状菌とキノコ 第 10 回：抗菌治療と医薬品 第 11 回：微生物と酵素 第 12 回：麹菌の話 第 13 回：遺伝子組換えとゲノム編集 第 14 回 a：まとめ 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「環境微生物学」と合わせて受講することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 微生物に関する基礎的な知識が前提となるので、必修の微生物学Ⅰおよび微生物学Ⅱの内容を復習しておくこと。配布したプリントの内容について、用語の解説を重点的に復習し、専門知識と専門用語を系統的に学習すること。		
5. 教科書 教科書は指定しない。講義内容を解説するプリントを毎回配布する。		
6. 参考書 「キャンベル生物学（第 11 版）」（丸善） 「マダー生物学（原書第 5 版）」S. S. Madar（東京化学同人） 「ベーシックマスター微生物学」（オーム社） 「ブラック微生物学 第 3 版」（丸善） 「エッセンシャル 土壌微生物学」南澤究、妹尾啓史（講談社） 「図解 微生物学入門」井上明・中島春紫（オーム社） 「発酵の科学」中島春紫（講談社ブルーバックス）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験の結果により評価する。出席状況を考慮する。		
9. その他 講義に関する質問等は随時受け付ける。 微生物生態学研究室（5 号館 5 階 506 号室） E-mail: harushi@meiji.ac.jp		

--

科目ナンバー (AG)CB1351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生命システム工学	2 単位	芝 清隆
2022～2025 年度入学者 生命システム工学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、「生命」を単なる物質の集合ではなく、動的な「システム」として捉え、その成り立ちと変容の原理を多角的視点から理解し、その工学的な制御の現状について理解することを目指します。 20 世紀の生命科学は「真理への希求」を原動力に、因果関係を追究する帰納の科学として輝かしい成果を上げました。しかし 21 世紀に入り、膨大なデータから相関関係を見出すプラグマティック（実用主義的）な戦略へと興味の中心が移り、科学の文化的な枠組みは大きく変容しています。本講義では、戦後のサイバネティクスから複雑系科学、システムバイオロジーへと続くシステム論的アプローチの歴史を辿りつつ、現代の潮流を俯瞰し、「答えが得にくい複雑なシステム」といかに向き合い、制御すべきかを考えます。 理解の柱として、システムの特徴である以下の 3 つの軸を提示します。 － 階層性 (Hierarchy)：素粒子の標準模型から始まり、物質がいかにして「情報」を宿し、最終的に「マインド（心）」という高次の階層を形成するに至るのか。生命の多層的な構造を一気通貫に理解する智慧を養います。 － 創発性 (Emergence)：生命の歴史を 138 億年の宇宙の時間軸の中で捉え直します。進化をダーウィンの進化論 1.0、木村の進化論 2.0、プリゴジンの進化論 3.0 と段階的に理解し、単純な要素の組み合わせから、予測不可能な新しい性質がいかにして「創発」するかを考察します。 － 強靱性 (Robustness)：生命システムがいかにして外部の揺らぎや内部のエラーに対して安定性を保つのか。ナレッジ・プラットフォームを用いた疾患解析等の具体的な体験を通じて、生体システムの持つ堅牢な設計思想（ロバストネス）の実態を学びます。 講義では、AI との対話や各種ナレッジ・プラットフォームの実習を取り入れ、解析が容易ではないシステムに対して、自らの視点と論理を構築する力を養います。 【到達目標】 － 20 世紀の「因果・真理」を重視する科学から、現代の「相関・実用」を重視する戦略変更への流れを理解した上で、システム論の歴史的系譜を説明できる。 － 宇宙誕生からマインドへと至る「階層性」の概念に基づき、生命現象を 138 億年の時間軸に沿って統合的に考察できる。 － 進化論の発展段階（進化論 1.0～進化論 3.0）を理解し、生命システムにおける「創発」のメカニズムについて論理的に記述できる。 － ナレッジ・プラットフォームを活用し、生体システムの「強靱性（Robustness）」について、疾患等の具体的な事例から解析・考察できる。 － 「答えが得にくいシステム」の理解や制御に関して、既存の枠組みや安易な相関関係に流されず、自らの視点と論理に基づいた考えを提示できる。		
2. 授業内容 第 1 回：修道院 ～すべての細胞は細胞から～ 本講義の全体像と成績評価の方法について解説する。システムがもつ「階層性」「強靱性」「創発性」について整理する。続いて、生命システムの階層性の起点としての「細胞」の重要性を概説する。ロバート・フックの『ミクログラフィア』1665 年を近代生物学の起点と設定し、19 世紀の「すべての細胞は細胞から」に結実するまでの 200 年にわたるプロローグを描き出す。 第 2 回：混沌 ～分かると分からなくなる～ プラトン、アリストテレス、孔子らが提起した「我々は究極の真理に到達できるのか」という問題は、本講義の最終回で再び問われる重要なテーマである。アリストテレスに端を発する「分類」の系譜が、18 世紀のリンネによる博物学として結実する過程を概観する。続いて、視点を「細胞」に戻し、生命システムの驚異的な特性である「変容」を考察する。 第 3 回：HORTA ～シンプルなのに複雑～ システムの階層性を学ぶ。デモクリトスの原子論から始まり、ラボアジエの質量保存の法則、ドルトンの原子説、アボガドロの分子説へと至る、物質観の変遷を辿る。さらに、「素粒子の標準模型」まで階層を掘り下げる。続いて、地球生命はなぜ炭素を基本元素として選択したのかを、化学結合の柔軟性とエネルギーの観点や宇宙変容の時間軸からも考察する。 第 4 回：Moby Dick ～全ては電子の偏り～ 生命現象の根源的な力である「化学結合」の正体に迫る。化学結合の概念を確立し「電子の偏り」の重要性を提唱したポーリングの多大な貢献を紹介する。これをもとに生体高分子が利用する「力」の特異性について学ぶ。続いて生体高分子を「脂肪酸」「糖」「アミノ酸」「ヌクレオチド」の順に分類して理解を深める。これらは構成元素（C, H, N, O, P）が順次加わることで複雑化している。 第 5 回：ホムンクルス ～禁忌への挑戦～ 化学や薬学の母体となった錬金術を再評価する。錬金術から近代科学への転換点において、フランシス・ベーコンの「帰納法」とデカルトの「演繹法」の重要性を学ぶ。続いて、ヘルモントやレディの実験から始まり、パスツールによって決着した「生命の自然発生説」を巡る論争を紹介。その背景にあったキリスト教的価値観による拘束と、科学的実証がそれをいかに乗り越えてきたかを学ぶ。古代からの「遺伝」概念を整理し、メンデルによる発見を詳述する。最後に、物理学による X 線構造解析など、物理・化学・遺伝学の知が 1953 年の「黄金の解」に向けて結集していく背景を紹介する。 第 6 回：1953 ～至高の瞬間～ 現代生物学における唯一無二の絶対普遍的な真理といえる、DNA 二重らせん構造の解明を、当時の科学者たちの熱量をそのままに追体験する。ワトソンとクリック、X 線回折写真の鍵を握るウィルキンスとフランクリン、そして当時最強のライバルであったポーリング。それぞれの知性が、どのようにして「構造が機能を説明する」という究極の真理に辿り着いたのか、そのドラマチックなプロセスを詳述する。二重らせん構造が解明された瞬間、生命は「物質」の階層を超え、「情報」という新たな階層へと昇華した。わずか 4 種類の塩基配列が、		

いかにして無限の多様性を生み出すのか。情報の複製と変異というシステムの根幹が、この美しい構造によっていかに完璧に担保されているかを考察する。

第7回：DNA教 ～美は真実?～

我々は究極の真理に到達できるのか。ギリシャ時代から続くこの問いに立ち返り、18世紀の哲学者ヒュームやカントが直面した「認識の限界」と苦悩を紹介する。科学的真実とは「知というシステムの構造化」によって形成されるものであることを説明する。その具体例として、第6回で学んだDNA構造の中に潜む「美」を取り上げ、ピタゴラスが魅了された「説明のつかない美」が、いかに現代科学の深層にも横たわっているかを考察する。続いて、1953年以降の分子生物学の歴史を概観する。セントラルドグマの確立から遺伝暗号の解読までの流れを辿りつつ、「理論」以上に「実験手法の開発」がいかに知の境界を押し広げてきたかを紹介する。「何が分かるか」は「どのように測るか」に依存するという実験科学の本質を学び、手法の革新が新たな知のシステムを構築していくダイナミズムを理解する。

第8回：ユカちゃん ～Sacrosanct：踏み込むべきか?～

DNAだけを化学合成しても、そこから生命が立ち上がるわけではない。第1回で掲げた「すべての細胞は細胞から」という命題に立ち返り、システムとしての細胞の重要性を再確認する。特に、第4回で学んだ脂質の知識を深め、細胞の境界である「生体膜」の高度な機能を学ぶ。細胞内オルガネラの構造と機能を紹介するとともに、ミトコンドリア等の起源とされる「細胞内共生説」を紐解く。また、いろいろな生命操作技術の現状を紹介し、神聖不可侵（Sacrosanct）な領域への介入は、科学の勝利なのか、冒涇なのかを考える。

第9回：心霊現象研究協会 ～未完の自由～

ダーウィンの進化論が生まれた19世紀は、それまでの「神が創造した不変の世界」から、「変化し続ける動的な世界」へと人々の認識が転換した時期にあたる。ダーウィンがどこまでを主張し、何について沈黙したのかを学び、また、ダーウィン後の展開として、彼の理論が「社会進化学」や「優生学」へと哀しく曲解されていった負の歴史にも触れる。続いて、138億年前の「タイムゼロ」から現在に至る宇宙と生物の歴史を一気通貫に旅する。「宇宙の誕生と元素の創発」「最初の細胞」「真核生物」「多細胞生物」「ヒト属の多様な進化」といった鍵イベントが、地球の環境変容といかに関連しているかを説明し、進化がシステム内の相互作用から生み出されることを感じる。

第10回：負のエントロピーを食す ～秩序の創発と方向性～

物理学における「エントロピー」の概念が、クラウドジウスからシャノンに至るまでいかに受容され、生命理解に応用されてきたかを辿る。シュレーディンガーが説いた「生命は負のエントロピーを食べて生きている」という言葉の真意を読み解く。続いて、エネルギーの散逸が非平衡な状態で秩序を生み出すプリゴジンの「散逸構造論」を解説し、20世紀のポスト構造主義の思潮と、システム全体が運動して変容すると考える「進化論 3.0」の視座を提示。「進化に方向性はあるのか」という問いを軸に、地球生命が数十億年かけて磨き上げてきたエネルギー獲得システムの進化の足跡を考察する。

第11回：エレクトロンパレード ～力が先か、知恵が先か～

生命体が持つ「酵素触媒」の物理的本質に迫る。タンパク質の立体構造がいかにして一義的に形成されるのか、触媒部位に金属イオンを抱え込むことでいかなる化学的特性を獲得しているのかを考える。続いて生命が48億年の歴史の中で追究してきた「エネルギーの高効率化」を、酸素呼吸の獲得、「ATP合成酵素」の発明、ミトコンドリアの共生、などを軸に学ぶ。最後に、初期生命体の進化仮説を概観し、「最初の最初」はいまだ謎に満ちているという科学のフロンティアを提示する。

第12回：たった2万数千個 ～ゲノムという他者～

20世紀後半のシステムズバイオロジーやゲノム生物学の潮流を振り返り、生命理解において「大規模量処理能力」がいかに決定的な役割を果たしたかを解説する。多様な生物のゲノム構造を比較し、ヒトゲノムの大部分がいまだ機能不明な配列で占められているという不可解な事実を提示する。続いて、木村資生による「進化論 2.0」の核心に触れ、自然選択に依らない分子レベルの進化のあり方を学ぶ。また、進化論を工学的に応用した「分子進化工学」の手法を紹介。ナレッジ・プラットフォームを用いた演習を通じて、遺伝子ネットワークが「制御可能なシステム」として理解できるのかを検討する。

第13回：北京の蝶 ～因果から相関へ～

20世紀末に起きた「複雑系ブーム」を振り返り、「我々は複雑なシステムを本当に理解できるのか、あるいは全ては後付けの説明に過ぎないのか」という認識論的課題を提示する。生物種の比較やゲノムの動的な側面を例示し、我々がいかに「静止した存在」ではなく「絶え間なく変化する動的な存在」であるかを説く。続いて、現代の重要課題である「がん研究」を取り上げる。細胞のがん化がいかに動的な現象であるかを理解した上で、がん関連ナレッジ・プラットフォームを用いた実践的演習を行う。さらに、遺伝子を越えたメタ情報である「エピジェネティクス」の研究動向を紹介。21世紀の科学が「因果の追究」から「相関重視」へと戦略変更した実態を、抗がん剤の臨床開発の流れを例に浮き彫りにする。

第14回：サイバネティクス ～世界はただ、そういうふうになっているのだ～

戦後直後のサイバネティクス会議が持っていた先進性を再評価する。還元論的な制御から全体論的なシステム論へと至る知の系譜を整理する。続いて、本講義の締めくくりとして「生命の誕生は物質で説明できるのか」「ここは物質の延長線上にあるのか」という根源的問題を再定義する。ポストモダン的な「動成生物学」の視点に立ち、相互作用から情報が生まれるシステムのあり方を展望する。そこにAIが新たな「相互作用」として介入することで、生命は我々の予想を遙かに超えた新たな創発＝進化を遂げるのではないか、というメッセージで14回の講義を締めくくる。

3. 履修上の注意

デジタル・ツールとネットワーク：本授業では、クラスウェブ（Oh-o! Meiji）を介した課題提出や、生成AIとの対話、各種ナレッジ・プラットフォーム（KEGG等）を用いた探索的学習を行います。毎回の授業に、インターネットに接続可能なPCまたはタブレット端末を必ず持参してください。

生成AIの利用について：いくつかの出題課題の中で生成AI（ChatGPT, Claude, Gemini等）を活用しますが、有料プランに加入する必要はありません。各サービスの無料版の範囲内で十分に学習効果が得られるよう配慮します。

「生命とは何か」を「システム」として問う：単なる知識の暗記ではなく、「生命」をひとつの「システム」として捉える視点を重視します。科学・歴史・哲学を横断しながら、正解のない問いに対して自分なりの答えを導き出す知的な粘り強さを求めます。

アクティブな参加：100分の授業時間を活用し、講義だけでなく、実際のデータベース操作やシミュレーション等の演習を織り交ぜます。受動的に「聴く」のではなく、自ら「動かし、考える」プロセスに主体的に取り組んでください。

前提知識：高校やこれまでの教養科目（基礎科目）での生物履修の有無は問いませんが、未履修者は必要に応じて提示する参考資料等で基礎用語を補完する意欲を持って臨んでください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

単位修得のためには、各回につき以下の予習・復習（計4時間程度）が必要です。

予習（2 時間程度）
授業前にクラスウェブにアップロードされる講義資料を事前に読み込み、全体の流れを把握しておくこと。
復習（2 時間程度）
講義ノートと資料を見返し、授業内で扱った「生命をシステムとして捉える視点」を自分の言葉で整理すること。
演習をおこなった回は、紹介した公共ナレッジ・プラットフォームへ実際に再度アクセスし、操作方法や情報の引き出し方を復習すること。不明な点は次のフィードバック時間に質問できるようまとめておくこと。

5. 教科書

特定の教科書は使用しません。

6. 参考書

*『[url=https://amzn.to/3ZrIKli](https://amzn.to/3ZrIKli)]入門 生化学』出版社：裳華房、著者：佐藤 健 生化学の基礎を体系的に学ぶための標準的な参考書です。 プリント版：2,640 円 / 電子版：2,376 円（2026 年調べ）（昨年教科書に指定していましたが、今年は参考図書とします。あれば参考になりますが、なくても理解の妨げにはなりません）
*『[url=https://amzn.to/4tikDcy](https://amzn.to/4tikDcy)]細胞の分子生物学[url=https://amzn.to/4tikDcy](https://amzn.to/4tikDcy)] 原書第 7 版』ニュートンプレス （定番の教科書ですが、高価なので、必要な時に図書室で読むとかでよいかと思います）

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎授業におこなう小テストで、特に間違いが多かった課題については、次の授業で解説をおこないます。
また授業終了時の小テスト時に、クラスウェブにてその日の授業に関する質問を受け付け、次の授業で必要に応じて解説します。

8. 成績評価の方法

【成績評価の方法】

本講義の到達目標である「生命システム工学的視座の獲得」の達成度を測るため、以下の基準と配分に基づき、厳正に評価を行います。

1. 評価方法と配分 成績評価は、100 点満点中 60 点以上を合格とし、以下の 2 つの要素の合計で判定します。

平常点（70%） 毎回の授業における取り組みを重視します。具体的には以下の 2 点を評価対象とします。

授業中に実施する小テスト（クラスウェブを使用）

授業終了時に出题する「確認課題」でその日の講義テーマに対する理解を確認（クラスウェブを使用）

期末試験（30%） 学期の最後に、講義内容全体を総括する試験（クラスウェブを通じて実施予定）をおこないます。単なる知識の暗記ではなく、生命を「分子」と「システム」の統合的視点から捉えられているかを確認します。

2. 評価基準 明治大学の成績評価基準（S・A・B・C・F）に準拠し、総合点 60 点以上を合格とします。

3. 欠席時等の対応

授業への出席は単位修得の前提条件です。

病欠、忌引、部活動の公式試合、学会発表など、やむを得ない事情で欠席する場合には、証明となる書類（診断書、大会要項等）を提出した受講者に限り、代替課題を課します。この代替課題の評価をもって、該当回の平常点として扱います。

代替課題の提出方法や詳細は、その都度クラスウェブにて指示します。

9. その他

昨年本授業を履修した学生さんたちの感想

- 「正解のない問い」に対して、自分なりの根拠ある答えを導き出す訓練ができる点が特徴の授業です。
- 他の授業と比較して、生成 AI といった現在の我々に身近なツールを取り入れているので、とても楽しく講義や課題に取り組むことができます。
- 分野ごとに章が分かれている高校生物とは対照的に、この授業では時系列をふまえながら生物の幅広い分野を関連付けて学ぶことができるため、「生命」の全体像をつかみやすくなっています。
- 生物学的な内容を世界史や哲学的な内容からも学ぶことができるため、自分の視野を広げたい人や、理系ではなかなか勉強できない分野を学びたい人にお勧めです。
- サイトを使って実際に手を動かしながら、タンパク質や酵素のことを学ぶことができます。今まであまりサイトを使ったことがなかったので、とても感動しました。
- 倫理的な分野も扱うため、生物に興味がある人だけでなく、哲学的な話が好きな人にもおすすめです。
- 毎回最初に提示して下さる動画が面白かったです。ジュラシック・パークを観たいと思います。
- 私は生物を高校で勉強していませんでしたが、生物初心者でも内容が分かりやすく、一緒に作業もできるのが良かったです！
- 生物学を歴史的背景から最先端の知見まで、幅広い時系列で理解したい人におすすめです。
- 今までとは別の視点で生物を学習できる良い機会でした。身近なことから専門的なことまで幅広く生命について触れられ、学びました。

科目ナンバー (AG) AGC351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品健康科学	2 単位	長田 恭一
2022～2025 年度入学者 食品健康科学		
1. 授業の概要・到達目標 前半はさまざまな植物性成分の三大栄養素ならびに微量の機能性成分について解説する。後半は、機能性を発揮する食品、脂質の機能性、抗酸化食品成分、肥満と糖尿病を予防する食品成分、脂質異常症を予防する食品成分について解説する。 毎日摂取している植物性食品素材の成分と健康に資する機能性、特定保健食品等を含む機能性食品と健康との関係、脂質に関わる疾病とその予防について理解することを到達目標とする。		
2. 授業内容 1 ガイダンス 穀類の科学（成分と一般論） 2 いも類、豆類の科学（成分と一般論） 3 種実類の科学（成分と一般論） 4 野菜類の科学（成分と一般論） 5 果実類の科学（成分と一般論） 6 きのこと類、海藻類の科学（成分と一般論） 7 中間テスト 機能性食品の分類と最近の話題 8 食事蛋白質と健康 9 食事脂質と健康Ⅰ（脂質代謝への影響） 10 食事脂質と健康ⅠⅠ（炎症、免疫機能、疾病との関係） 11 脂質代謝と肥満、糖尿病、脂質異常症 12 機能性脂質、有害脂質と健康（中鎖脂肪酸、共役脂肪酸、トランス酸、グリシドール脂肪酸エステルと健康） 13 カロテノイド色素と健康（カロテノイド色素と健康） 14 ポリフェノール類と健康（カテキン類、フラボン、アントシアニン類）		
3. 履修上の注意 食品化学および食品栄養学の基礎を理解していること。2 年次に食品化学実験を履修していることを希望します。 農芸化学科以外の学生が履修する場合、化学的用語を多用しますのでよく復習して下さい。但し、試験等では構造式等を書かせることはありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義では毎回、試料とレジュメを配布します。また、2 回目からは重要事項を講義最初にまとめますので復習して下さい。また、毎日摂取している植物性食品素材に興味をもち、健康食品等にも興味をもっていることが望ましい。		
5. 教科書 とくに、指定しない。		
6. 参考書 三共出版：わかりやすい食品機能栄養学 その他有り		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テスト実施の場合は解答の解説をする。 期末試験については O-Meiji を通じて正答を公表する。		
8. 成績評価の方法 中間試験と定期試験の合計 120 点（200 点満点）以上である。 3-4 回不定期に出席調査を行う。なお、調査結果は授業参加度の評価としてプラス評価にのみ利用する。		
9. その他 受講態度に応じて試験難易度を変えています。 講義内容について相談等があれば対応します。講義後に連絡してください。 再試験、レポートによる再評価はしません。		

科目ナンバー (AG) AGC351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品冷凍冷蔵学	2 単位	萩原 知明
2022～2025 年度入学者 食品冷凍冷蔵学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 低温を獲得する原理、食品の低温保存技術、食品の低温貯蔵中における品質劣化要因、食品の低温下における物理化学的变化、そして食品を凍結させるために必要なエネルギーおよび時間の推定に関わる伝熱論の基礎について講義します。 《授業の到達目標》 生鮮食品や加工食品の低温貯蔵方法は、各種食品が低温下に置かれたときの化学・生化学的变化に基づいています。また、食品成分のうち、70%近くを占める水の状態変化が解凍後の食品の質に影響を及ぼしています。 さらに、冷却とは物品から熱エネルギーを奪う操作です。そのためにエネルギーを必要とし、地球温暖化やオゾン層破壊といった環境問題にも関わりがあります。 これまでに大学で学んできたことを活かし、総合的な視野に立って、食品の低温貯蔵を理解しましょう。		
2. 授業内容 第1回：食品冷凍技術の現状と課題 第2回：低温保存による食品の品質保持の原理 第3回：低温をつくりだす仕組み（冷凍機の原理） 第4回：食品の冷却・凍結過程Ⅰ 第5回：食品の冷却・凍結過程Ⅱ 第6回：食品の冷蔵および凍結貯蔵中における変化 第7回：食品の解凍過程 第8回：水産物の低温保存 第9回：畜産物の低温保存 第10回：農産物の低温保存 第11回：調理冷凍食品およびアイスクリームの製造 第12回：凍結を利用した食品加工手法（凍結乾燥（フリーズドライ）、凍結濃縮） 第13回：凍結に必要なエネルギーおよび凍結所要時間の予測 第14回：食品冷凍に関する最新の研究動向：過冷却凍結、不凍タンパク質		
3. 履修上の注意 物理化学、食品化学を修得していることが望ましい。また、関連する科目として食品衛生学、食品工学、動物資源化学、植物資源化学、水産資源化学を受講することを望みます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習では、配布資料の図表や授業内容を振り返り、ノートを整理しましょう。 自宅の冷凍庫で生鮮食品を凍結保存してみたり、市販冷凍食品を買って食べてみたいしましょう。		
5. 教科書 教科書は指定しません。授業において参考資料を配付します。		
6. 参考書 『食品冷凍技術』日本冷凍空調学会（日本冷凍空調学会、2009 年） 『冷凍食品入門』尾辻昭秀著（日本食糧新聞社、2014 年） 『冷凍食品を知る』野口 敏著（丸善、1997 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末定期試験の成績で評価します。期末定期試験 100% ただし試験を受けるためには3分の2以上の出席が必要です。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGC351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品安全学	2 単位	長田 恭一
2022～2025 年度入学者 食品安全学		
1. 授業の概要・到達目標 食料自給率の低下、食の多様化に伴い、我々は多くの輸入食材を利用し、また、加工食品を摂取しています。輸入食材には国内で使用されていない農薬の使用の問題があります。一方、加工食品には保存等の目的で食品添加物を利用しなければなりません。日本の食品の安全性は世界の中でも最も高いレベルで保たれていると思われませんが、健康に食生活を営む上での食品の安全性に関わる知識を正しく理解する必要があります。本講義では、化学物質による有害性、植物素材や魚介類の毒素、食品添加物、寄生虫に関する基礎を解説します。 本講義では、食の安全に関して、食品衛生学で教授する分野を除く化学物質による有害性、植物素材や魚介類の毒素、食品添加物、寄生虫と食との関係を理解することを到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回：化学物質による有害作用 第2回：食品成分の変質に伴う有害物質 第3回：フグ毒とシガテラ毒 第4回：麻痺性貝毒と下痢性貝毒、その他のマリントキシン 第5回：キノコの毒素 第6回：山野草等の毒素 第7回：農薬の問題、ポジティブリスト制度、ポストハーベストについて 第8回：カビ毒 第9回：食品添加物の分類と役割 第10回：食品添加物の安全性と表示 第11回：野菜や飲料水由来の寄生虫 第12回：獣肉由来の寄生虫 第13回：魚介類由来の寄生虫 第14回：食品アレルギー問題、BSE、遺伝子組み換え食品発がん物質等の最近の安全問題		
3. 履修上の注意 食品衛生学を履修していることを希望します。 化学的な用語や構造式等が出る場合がありますが、とくに高度な化学的素養は求めていませんので生物が得意な方でも問題ありません。 食品の安全性に興味をもっていることを希望します。 公務員あるいは食品関連企業の技術職で食品衛生監視員、管理者になることを希望する場合は必須となります。 食品衛生監視員として公務員受験を志望される方には、専門分野の試験内容の40%以上（食品衛生学と合わせて80%以上）を占めることをお知らせします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義では毎回レジュメを配布します。また、2回目からは重要事項を講義最初にまとめますので復習して下さい。また、キノコや魚介類の毒素による食中毒、食品の安全性に関するニュース等に興味をもってください。		
5. 教科書 2019 年度より資料については教科書を使用します。資料は配布しません。 教科書：東京化学同人：新スタンダード栄養・食物シリーズ8 食品衛生学第2版（一色賢司編）		
6. 参考書 医歯薬出版：新食品衛生学要説 その他有り		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テスト実施の場合は解答の解説をする。 期末試験については O-Meiji を通じて正答を公表する。		
8. 成績評価の方法 定期試験により評価する。合格は 60 点以上である。 3-4 回不定期に出席調査をする。授業参加評価としてプラス評価にのみ利用する。		
9. その他 受講態度に応じて試験難易度を変えています。 講義内容について相談等があれば対応します。講義後に連絡してください。		

科目ナンバー (AG) AGC351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品免疫学	2 単位	薬袋 裕二
2022～2025 年度入学者 食品免疫学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 脊椎動物は神経系、内分泌系など数多くのネットワークが複雑に絡み合い、最終的に生体の恒常性を維持している。その中でも免疫系は細菌などの非自己を排除して、確立した自己の持続的な形成を保たせている。しかしながら、その自己を形成しているアミノ酸、炭水化物、脂質などは全て「非自己」である食物から腸管を経て得ているのである。また細菌が体表に触れる面積が一番大きい器官も腸管である。すなわち腸管では矛盾した処理を日々行っている不思議な器官である。本講義では免疫学の基礎を個体レベル、分子レベルで理解してもらうことを目指すとともに、腸管免疫、食物アレルギーなどについて講述し理解せしめる。 《授業の概要》 この授業では免疫機序をまず勉強し、後半で腸管免疫、食物アレルギーなど理解する。		
2. 授業内容 第1回：免疫と免疫系を構成するもの 第2回：感染初期の自然免疫 第3回：自然免疫から適応免疫へ・免疫担当細胞 第4回：抗体分子のタンパク構造 第5回：多様な抗体が生合成される遺伝子機構 第6回：T細胞レセプターと MHC 分子 第7回：抗原提示 第8回：リンパ球の分化 第9回：T細胞の活性化 第10回：B細胞の活性化 (体液性免疫) 第11回：食品アレルギー、粘膜免疫 第12回：栄養と免疫 第13回：食品による免疫修飾 第14回：経口免疫寛容と治療への応用		
3. 履修上の注意 タンパク質の構造、細胞の分化などを理解しておく。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回 高校の「生物」の教科書の「免疫」領域を復習しておく。 第2回～14回 配布したプリントを読んで復習をしておくこと。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『食品とからだ』上野川修一（朝倉書店） 『免疫生物学』笹月健彦（南江堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 成績は学期末試験 100%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGC321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 応用微生物学	2 単位	中島・村上
2022～2025 年度入学者 応用微生物学		
1. 授業の概要・到達目標 本講義は、外部講師を中心としたオムニバス形式で実施する。 人類は古来より微生物の存在を認識する以前から、発酵食品や酒類の醸造などさまざまな形で微生物を利用してきた。科学技術の進展により微生物の生態や特性が明らかにされ、伝統的な微生物の利用のメカニズムが解明されると共に、新たな微生物の利用法が次々に開発されている。環境負荷の少ない微生物の利用は、持続的社會形成の上でも大きく貢献することが期待されている。本講義では、産業界で活躍する外部講師を招き、微生物利用の実情について学び、微生物と共に生活することの意義について実感できるようになることを目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：麹菌で作る化粧品 (中島春紫) 第 2 回：微生物を利用した発酵生産の歴史 (和地正明：東京科学大学) 第 3 回：代謝工学に基づく発酵生産菌の育種 (和地正明：東京科学大学) 第 4 回：抗生物質の探索 (和地正明：東京科学大学) 第 5 回：うま味と微生物 (外内尚人：山口大学) 第 6 回：酢酸菌利用の食文化 (外内尚人：山口大学) 第 7 回：微生物研究と社会実装 (外内尚人：山口大学) 第 8 回：ビール・清涼飲料における微生物と品質管理 (下津智志：アサヒビール) 第 9 回：光合成で世界を変えた微生物 (田中寛：東京科学大学) 第 10 回：好アルカリ性微生物の基礎と応用 (伊藤政博：東洋大学) 第 11 回：しょう油造りに欠かせない微生物たち (伊藤孝太郎：キッコーマン) 第 12 回：“国酒”を醸す微生物たち (山川結：玉乃光酒造) 第 13 回：熟成肉製造に使われる低温性接合菌 (村上周一郎) 第 14 回：まとめ 東京科学大学の和地正明氏は、応用微生物学の研究・講義経験が豊かであり、新規の抗生物質を探索・分離した経験を有する。現：山口大学の外内尚人氏は味の素（株）において長年アミノ酸および酢酸の生産菌の開発および社会実装に携わった経験を有する。アサヒビールの下津氏は微生物を用いる発酵食品の品質管理の現場を熟知し、その問題点および解決策を提示する。キッコーマンの伊藤孝太郎氏はしょう油醸造に関与する麹菌、しょう油乳酸菌、しょう油酵母の研究経歴を有する専門家である。東京科学大学の伊藤政博氏はアルカリ性環境における微生物の単離・解析・応用の分野の専門家であり、工業的な応用例について簡明に解説する。東京科学大学の田中寛氏は光合成を行う微生物研究に関する実績を有し、光合成の本質について解説する。玉乃光酒造の山川結氏は明治大学の出身であり、日本酒製造の現場から微生物の働きと日本酒文化について解説する。		
3. 履修上の注意 出席を重視する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 外部講師の講義は 1 話完結であり、講義の初めに語られる背景説明のイントロダクションを聞き逃すと理解が難しくなる。講義には遅刻せずに出席し、事前にアップロードされる資料および適宜配布されるプリントなどを参照して内容の理解に努めること。		
5. 教科書 教科書は指定しない。		
6. 参考書 「キャンベル生物学（第 11 版）」N. A. Campbell, J. B. Reece（丸善） 「マダー生物学（原書第 5 版）」S. S. Madar（東京化学同人） 「微生物学」大木理（東京化学同人） 「ベーシックマスター微生物学」堀越弘毅監修（オーム社） 「発酵の科学」中島春紫（講談社ブルーバックス） 「発酵醸造学」北本勝ひこ監修（朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験は実施しない。 毎回の講義終了後に、講義の感想や課題について 200 - 300 字程度記述したレポートを提出する。 レポートを適宜採点し、出席および講義への取り組みを評価・集計して成績評価とする。		

9. その他

講義に関する質問や問い合わせは担当の中島春紫まで。微生物生態学研究室 5 号館 5 階 506 号室 E-mail: harusi@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGC341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農薬化学	2 単位	コーディネーター：瀬戸
2022～2025 年度入学者 農薬化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 人類は農業を始めてから今日に至るまで、絶えず病害虫や雑草に悩まされ続けている。この病害虫や雑草などの生物的ストレスから農作物を保護する資材が農薬である。本講義では、農薬に関する基礎的な知識を学ぶとともに、代表的な農薬の化学構造、生物活性、作用機構などを化学と生物の両面から理解することを目指す。 《授業の概要》 農薬の歴史、役割、研究開発の手法、安全性などの説明から始めて、代表的な農薬について、化学構造、生物活性、作用機構、選択性、農薬の標的分子・代謝分解などについて講述し、その後、総合的病害虫雑草管理（IPM）及び農薬と密接な関係にある遺伝子組換え作物を紹介した後、農薬科学の新技术と農薬の将来について言及する。講義内容をより深く理解してもらうため、随時、講義内容についての小テストを実施する。 本講義は、オムニバス講義として、5名の外部講師の先生方に講義いただく予定です。外部講師の先生方は、すべて、三井化学クロップ＆ライフソリューション社に所属する農薬の専門家の先生方になります。		
2. 授業内容 第1回：農薬の歴史、農薬の果たす役割、農薬の研究開発 第2回：農薬の一般的知識（農薬の名称、用途別分類、製剤）、農薬取締法の概要、農薬の登録、農薬の安全性など 第3回：害虫防除剤その1（殺虫剤） 第4回：害虫防除剤その2（殺ダニ剤、殺線虫剤） 第5回：病害防除剤その1（病害抵抗性を誘導する殺菌剤） 第6回：病害防除剤その2（呼吸阻害剤などのその他殺菌剤） 第7回：植物制御剤その1（葉緑体を標的とする除草剤） 第8回：植物制御剤その2（葉緑体以外の代謝系などを標的とする除草剤、植物成長調整剤） 第9回：農薬の標的分子（酵素、受容体、イオンチャンネル他） 第10回：農薬の代謝分解（加水分解、酸化、抱合など） 第11回：微生物農薬、総合的病害虫雑草管理（IPM） 第12回：遺伝子組換え作物、ゲノム編集作物 第13回：農薬の権利化、農薬創製の新技术、農薬の将来 第14回：講義全体のまとめ、期末試験		
3. 履修上の注意 配布する資料に基づいて講義を進める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第2回目の授業から授業の初めに質問を受け付ける。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 「新版農薬の科学」宮川恒・田村廣人・浅見忠男（朝倉書店）2019 年 農薬の関する情報を調べるための Web サイト 日本農薬学会：農薬について知ろう http://pssj2.jp/rikai/index.shtml 農薬工業会：農薬の作用機構分類 https://www.jcpa.or.jp/labo/ 農林水産省：農薬コーナー https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日の後半に期末試験（4 課題程からなる自筆のレポート）を実施し、後日、講評を個別配信する。		
8. 成績評価の方法 成績は出席などによる平常点 30%程度、期末試験 70%程度を予定していますが、変更の可能性もあるため、第 1 回目の講義の際にアナウンスします。		

9. その他

特になし。

科目ナンバー (AG)ACH331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 高分子化学	2 単位	三浦 裕
2022～2025 年度入学者 高分子化学		
1. 授業の概要・到達目標 プラスチックを含む高分子化合物は、私たちの身の回りで多く恩恵をもたらしており、農産物の生産や食品の品質保持などにも用いられ、私たちが安心して豊かな生活を営む上で不可欠となっております。また近年では、タンパク質、核酸、多糖類などの高分子が医薬品開発にも重要な役割を果たすようになってきており、従来までの工業的に応用されているプラスチックに関わる知識に加えて、その構造や物性への理解が益々求められるようになってきています。本講義では、高分子の基礎から最新の応用例までを実例を挙げながら解説し、高分子科学ならびに材料化学に対する理解を深めます。 《授業の到達目標》 化学的にも物理的にも低分子化合物には見られない数多くの特徴を有する高分子に関して、その合成、構造、物性、機能を基礎から実用面まで学習します。本講義を通して高分子化学の理解はもとより、農学部の方が学ぶ機会の多い生体高分子の実用的理解を深め、新しい時代にふさわしい物質観を育てることを目指します。		
2. 授業内容 [第 1 回] 高分子概論 [第 2 回] 高分子の歴史と概念 [第 3 回] 高分子の分子形態 (1) [第 4 回] 高分子の分子形態 (2) [第 5 回] 高分子合成 (1)：連鎖重合 [第 6 回] 高分子合成 (2)：連鎖重合 [第 7 回] 高分子合成 (3)：逐次重合 [第 8 回] 高分子の反応 [第 9 回] リビング重合 [第 10 回] 高分子の分子構造制御 [第 11 回] 高分子の高次構造 (1) [第 12 回] 高分子の高次構造 (2) [第 13 回] 高分子の固体物性 [第 14 回] まとめ		
3. 履修上の注意 化学を履修していること、また、有機化学および物理化学の基礎知識を有していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 初回講義以降は授業中に説明します。		
5. 教科書 2025 年度は配付資料にて講義を行います。		
6. 参考書 初回講義で適宜紹介しますが、基本的には高分子化学や高分子科学の書名で出版されているどの書でもよいと思います。また、「明大生のための高分子化学（農芸化学科版）」永井一清編も参考になりますのでお勧めします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 初回講義以降は授業中に説明します。		
8. 成績評価の方法 出席日数を満たしている者に対して 100 点満点で成績評価を行います。この 100 点の振り分けは、授業中に実施する小テスト、演習問題やレポート等計 40 点、学期末に行われる定期試験 60 点です。		
9. その他 オフィスアワーは、第 1 回目の講義の中で、受講者の他の履修科目と重複しないことを確認して決定します。		

科目ナンバー (AG) AGC381J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境化学	2 単位	殷 熙洙
2022～2025 年度入学者 環境化学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 21 世紀に至るまで人類が築いてきた輝かしい繁栄とは裏腹に、46 億年の歴史を持つ地球に様々な問題を解決できずに次世代に残す事態になっている。環境化学は環境汚染に係わる様々な物質は何であろうか、また、それらの物質の発生源は何か、さらに、ヒトや生態系にどのような影響を及ぼすか、汚染や被害を軽減または防ぐ方法はあるのかについて様々な事例とともに最先端の環境修復技術を学び、「環境保全の大切さ」を考える。 《授業の概要・到達目標》 本授業では、地球環境問題に対し、巨視的観点や微視的観点でその原因を詳細に探り、より現実的なアプローチで地球環境と生態系が共存共栄できるように方策を考えるとともに、環境保全の意識を高めることである。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション—この授業で学ぶこと— 第 2 回：環境問題の歴史と環境基準 第 3 回：環境における化学物質の挙動 第 4 回：環境の現状と対策（大気環境） 第 5 回：環境の現状と対策（水環境） 第 6 回：環境の現状と対策（土壌環境と廃棄物） 第 7 回：環境の現状と対策（残留性有機汚染物質：POP s） 第 8 回：環境汚染物質の測定法（主な環境測定方法） 第 9 回：環境汚染物質の測定法（大気、水質、土壌） 第 10 回：その他の測定法（残留農薬等） 第 11 回：環境とエネルギー 第 12 回：資源のリサイクルと無害化処理 第 13 回：地球にやさしい化学をめざして 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 授業内容は、多義にわたるので毎回出席すること。講義の形式は、基本的にパワーポイントを用い、図、表、画像を中心に説明する。また、必要に応じてハンドアウトも使用する。受講者には毎回授業内容に対するディスカッションを積極的に行う。それを通じて環境に対する価値観の多様性を認識して学ぶ。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内容に不明な部分があれば授業中またはメールで質問すること。次回の授業範囲について事前に各自論点を調べておくこと。		
5. 教科書 特に指定はしないが、環境化学（齋藤勝裕、山崎鈴子・東京化学同人 ISBN：4807914863）を主に参考する。		
6. 参考書 環境化学（エキスパート応用化学テキストシリーズ）（坂田 昌弘（共著），講談社，2015 年），地球の環境と化学物質（安原 昭夫（著），三共出版，2013 年），環境リスク解析入門 化学物質編（吉田 喜久，中西 準子（著），東京図書，2006 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中の意見交換、レポート等によるフィードバック		
8. 成績評価の方法 成績評価に関しては、出席状況、授業態度等を考慮した平常点、中間レポートおよび期末テストまたはレポートの成績に基づき総合的に評価する。その評価比率は、原則として、平常点 20%，中間レポート 30%，期末テスト 50%とする。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) ENV321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 土壌環境保全学	2 単位	肴倉 宏史
2022～2025 年度入学者 土壌環境保全学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 土壌を含む地圏は大気圏、水圏、生物圏とともに、地球環境、生活環境の維持に大きく関与している。本授業では、土壌環境保全に関する基礎的な次項から最新の課題や取り組みを学び、様々な課題に対応するための適切な判断力を身につけることを目標とする。 《授業の概要》 本授業では、土壌汚染の歴史、汚染物質の種類、ならびに関連法規を概説する。次いで、土壌汚染の未然防止や修復のための技術、さらには、廃棄物、自然由来有害物質、自然災害、放射性物質、地球温暖化等の様々な課題について、基礎事項を踏まえながら詳説していく。		
2. 授業内容 第 1 回：土壌汚染の歴史（ガイダンス含む） 第 2 回：土壌汚染とリスク 第 3 回：汚染原因物質 第 4 回：土壌環境基準と土壌汚染対策法 第 5 回：地下水の動き 第 6 回：汚染物質の動き 第 7 回：土壌汚染の対策技術 第 8 回：自然由来の有害物質 第 9 回：廃棄物の埋立 第 1 0 回：放射性物質と土壌環境保全 第 1 1 回：自然災害と土壌環境保全 第 1 2 回：地球温暖化と土壌環境保全 第 1 3 回：小レポートの解説 第 1 4 回：期末試験		
3. 履修上の注意 履修前提科目：土壌化学、土壌圏科学		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、講義日の前日（月曜）までに、講義スライドを Oh!Meiji に掲載します。各自でダウンロードや印刷を行い、持参してください。 毎回、小レポートを課します。講義時間内に提出してください。		
5. 教科書 講義前に配布するスライド資料		
6. 参考書 適宜、紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験（50％）＋小レポート（40％）＋出席（10％） 毎回、出欠を確認します。皆勤賞あり。また、期末試験を除く 13 回の講義中 9 回以上の出席を、期末試験受験のための必要条件とします。		
9. その他 質問等はメールで連絡してください。 E-mail: sakanakura@nies.go.jp		

科目ナンバー (AG) AGC321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 微生物生理学	2 単位	村上 周一郎
2022～2025 年度入学者 微生物生理学		
1. 授業の概要・到達目標 微生物は、小さいながらも様々な環境に適応し生命活動を続けています。この講義では、微生物細胞を作り出すために必要な炭素や窒素を異化、または同化する方法、生体成分の生合成経路、そして微生物が生命活動を維持するために必要なエネルギーを獲得する方法やそのエネルギーをどのように利用しているかを説明していきます。またその代謝経路において key となる酵素について説明します。 現在様々な産業分野で微生物の代謝経路や酵素は、もの作りに利用されています。そのことを踏まえ、本講義では微生物細胞内での物質の流れをイメージし、それを産業利用するための基礎力を養うことを到達目標としています。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション—この授業で学ぶこと— 第2回：炭素の利用—1（EMP 経路） 第3回：炭素の利用—2（ペントースリン酸経路） 第4回：炭素の利用—3（エントナー—ドゥドルフ経路、他） 第5回：炭素の利用—4（エタノール、乳酸の生成） 第6回：炭素の利用—5（TCA サイクル、有機溶媒発酵） 第7回：脂質の代謝、グリオキシル酸経路 第8回：電子伝達系を介したエネルギー生産—1（酸素呼吸） 第9回：電子伝達系を介したエネルギー生産—2（脱窒） 第10回：植物型光合成と炭酸固定 第11回：細菌型光合成と炭酸固定 第12回：アミノ酸の生合成 第13回：芳香族化合物の分解 第14回 a：試験 b：試験の正答解説 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この講義は、3 年生秋学期開講の「微生物化学」と対をなすように位置づけています。この講義を受講された学生諸君は、「微生物化学」を受講することを希望します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 板書した内容と授業中に配付するプリントの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば参考書等に目を通しておくこと。		
5. 教科書 特に定めません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。		
6. 参考書 『微生物学』 青木健次編 （化学同人） 『細胞機能と代謝マップⅠ 細胞の代謝・物質の動態』 日本生化学会編 （東京化学同人）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（10%）と期末テスト（90%）により評価します。		
9. その他 特にオフィスアワーは設けませんが、質問等があれば研究室（3 号館 3-304A）に来てください。 連絡先：smura@meiji.ac.jp, 044-934-7098		

科目ナンバー (AG) AGC321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境微生物学	2 単位	中島 春紫
2022～2025 年度入学者 環境微生物学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 人類と不断の戦いを繰り広げてきた病原性微生物および、特殊な環境下に生息する多様な微生物に関する実践的な知識を体系的に修得すること。 《授業の概要》 病原性微生物による疾患・感染症の防除法・物質循環・特殊環境微生物の能力と利用・微生物の環境浄化への利用等について、実例を挙げて可能な限り簡明に講義する。		
2. 授業内容 第1回：病原性微生物（1） 第2回：病原性微生物（2） 第3回：病原性微生物（3） 第4回：ウイルスの構造と感染症 第5回：公衆衛生と疫学 第6回：バイオ燃料・材料 第7回：物質循環 第8回：好熱菌と古細菌 第9回：好塩菌・嫌気性菌 第10回：好酸・好アルカリ菌 第11回：有機溶媒・極限環境 第12回：排水処理 第13回：環境修復 第14回 a：まとめ 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「微生物生態学」を履修してから受講することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 微生物に関する基礎的な知識が前提となるので、必修の微生物学Ⅰおよび微生物学Ⅱの内容を復習しておくこと。配布したプリントの内容について、用語の解説を重点的に復習し、専門知識と専門用語を系統的に学習すること。		
5. 教科書 教科書は指定しない。プリントを毎回配布する。		
6. 参考書 「キャンベル生物学（第11版）」N. A. Campbell, J. B. Reece（丸善） 「マダー生物学（原書第5版）」S. S. Madar（東京化学同人） 「ベーシックマスター微生物学」（オーム社） 「ブラック微生物学 第3版」（丸善） 「図解 微生物学入門」井上明・中島春紫（オーム社） 「エッセンシャル 土壌微生物学」南澤究、妹尾啓史（講談社） 「発酵の科学」中島春紫（講談社ブルーバックス）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験の結果により評価する。出席状況を考慮する。		
9. その他 講義に関する質問等は随時受け付ける。 微生物生態学研究室（5号館5階506号室） E-mail: harushi@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGC191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 化粧品科学	2 単位	早瀬 基
2022～2025 年度入学者 化粧品科学		
1. 授業の概要・到達目標 概要：化粧品は様々な分野の素材・技術を用いて設計されています。これらを理解することは化粧品だけでなく、食品などの他の産業分野への応用の可能性にもつながります。この授業では化粧品そのものを概説するとともに、それを開発・設計・製造するための原料・技術を解説します。また、企業の現場において製品開発にかかわる企業人として、製品の開発時に必要な背景情報（法規、知財など）への配慮も解説します。 到達目標：化粧品を実例として素材の産業への展開や、その製品化に必要とされる技術・配慮を理解できます。また、消費財における技術情報に関するリテラシーに関し考える場を提供します。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション 化粧品・化粧品産業とは [第 2 回] 化粧品原料各論 1 水・水性成分（糖・アルコール類） [第 3 回] 化粧品原料各論 2 油性基剤 [第 4 回] 化粧品原料各論 3 界面活性剤・乳化剤 [第 5 回] 化粧品原料各論 4 高分子物質 [第 6 回] 化粧品原料各論 5 生理活性物質/医薬部外品有効成分 [第 7 回] 化粧品原料各論 6 嗜好性調製物質（色素・香料・清涼剤など） [第 8 回] 化粧品原料各論 7 製剤安定化剤（防腐剤・緩衝剤・キレート剤など） [第 9 回] 化粧品原料の製造技術（化学合成・天然抽出・発酵） [第 10 回] 化粧品製剤技術 乳化/可溶化/分散/リポソーム・ベシクル [第 11 回] 化粧品製造技術 [第 12 回] 化粧品評価技術 1 製剤安定性など確認技術/製剤物性評価技術 [第 13 回] 化粧品評価技術 2 皮膚科学/皮膚計測/細胞評価/使用試験 [第 14 回] 化粧品開発の流れ/マーケティング 討論：未来の化粧品		
3. 履修上の注意 この講義は対面授業により実施します。 コメントシート（こちらから提示したことに対する意見や講義中により発生した質問などを数行程度）を 1～14 回の各講義終了時に提出していただきます。そのため、筆記用具、メモ帳は必須です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で使用する資料の一部（PDF）を Oh-o! Meiji にて事前配布しますので、それを用いて予習・復習を行ってください。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『『化粧品科学へのいざない』シリーズ第 1～5 巻』坂本一民、山下裕司 編、薬事日報社 「トコトンやさしい化粧品の本 第 2 版」 福井寛 著 日刊工業新聞社 「化粧品の正しく使えばあなたはもっとキレイになる。」 川島真 著 幻冬舎 その他は講義中に提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回提出されたコメントシートのフィードバックは次回講義、または Oh-o! Meiji にて解説します。 12 回目の講義で課題を提示した期末レポートを第 14 回の 1 週間前までに提出していただき、その解説は 14 回目に行います。		
8. 成績評価の方法 コメントシート 14 回（75%）と期末レポート（25%）との合計点から成績を評価します。第 1 回の講義のガイダンス部分において、より詳細な説明をする予定です。		
9. その他 オフィスアワー：講義終了後 15 分 連絡先（メールアドレス）は Oh-o! Meiji にて開示します。		

科目ナンバー (AG)BI0124J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生化学・物理化学実験	2 単位	金子・島田・鈴木・小林・森本
2022～2025 年度入学者 生化学・物理化学実験		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本実験ではタンパク質・アミノ酸・糖などの生体構成成分を対象にして、これらの物質が持つ生体にとって必須の性質を実験により確認する。また、ここで行う実験を通して、実験の準備、実験の基本技術、実験データの取り扱い、レポートの書き方、等 実験を行う上での最も基本的な事柄について、一連のトレーニングを行う。 《到達目標》 生体構成成分の構造、性質、機能を理解すること、および実験を行う上での基本事項の修得を目標とする。		
2. 授業内容 第1回 ガイダンス・安全教育、実験書の配布 (金子賢太郎、島田友裕、鈴木博実 担当) ○酵素に関する実験 1. 比色による定量の基礎 第2回 p-Nitrophenol の吸光スペクトル測定 第3回 p-Nitrophenol の比色による定量 (Lambert-Beer の法則) 2. アルカリ性ホスファターゼを用いた酵素反応の実験 第4回 アルカリ性ホスファターゼの至適 pH 第5回 アルカリ性ホスファターゼの至適温度 第6回 反応速度に及ぼす酵素濃度の影響 第7回 反応速度に及ぼす基質濃度の影響：Km, Vmax 測定 (第2-7回, 金子賢太郎担当) ○タンパク質の分離・精製に関する実験 1. 寒天ゲル電気泳動 第8回 酸性・塩基性条件下におけるタンパク質の電気泳動 第9回 染色・脱染色 2. ゲルクロマトグラフィー (分子篩) その1 第10回 BlueDextran 2000 と Phenol Red との分離 第11回 パソコンによるデータ処理 3. ゲルクロマトグラフィー (分子篩) その2 第12回 BSA と Lysozyme の分離・精製 第13回 Lysoplate を用いた Lysozyme の溶菌域の測定 (第8-13回, 島田友裕担当) ○糖・アミノ酸・水に関する実験 1. 糖・アミノ酸の旋光度測定 第14回 糖濃度と旋光度 第15回 L-Alanine と D-Alanine の旋光度の測定 2. 分子間の水素結合力 第16回 水とアルコールの表面張力測定 3. アミノ酸の電離平衡 第17回 pH測定の基礎 (pH 測定の原理と実際) 第18回 緩衝液の緩衝能 第19回 アミノ酸の電離平衡と等電点 (第14-19回, 鈴木博実担当) (この実験は3・4・5限セットで1回とし、1週に2回の実験を行います。)		
3. 履修上の注意 実験の初日にガイダンスを行い、実験書の配布および注意事項を説明するので必ず出席すること。 実験は毎回出席すること。このことは単位を得るための必要条件である。 実験当日は最初に実験内容および注意事項の説明があるので、遅刻厳禁である。遅刻したものは当日の実験を行わせない。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 実験に先立って実験書を精読し、実験内容を理解しておくことが必須である。 実験終了後は実験レポートの提出が求められるので、指定された日時に時間厳守で提出すること。(時間外の提出は受け取らない)		
5. 教科書 ・実験書はガイダンス時に配布する。		
6. 参考書 ・『実験データを正しく扱うために』 化学同人編集部 編 (化学同人) ・『ホートン 生化学 (第5版)』 鈴木紘一 他訳 (東京化学同人)		

- ・『シーゲル 生化学計算法』 永井 裕 他訳 （廣川書店）
- ・『生物化学実験法 11 ギルろ過法（第2版）』 志村憲助 他著 （学会出版センター）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実験レポートによる。ただし、出席は評価を得るための必要条件である。

9. その他

科目ナンバー (AG) AGC114J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境化学実験	1 単位	安保・小山内・田畑・加藤・小佐見・大谷
2022～2025 年度入学者 環境化学実験		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 環境化学実験および環境分析実験では、環境を構成する水圏（Hydrosphere）、土壌圏（Pedosphere）、生物（植物）圏（Biosphere）を対象として、水圏・土壌圏の化学反応的性質や、植物の元素吸収による生育反応、土壌の環境保全機能・養分保持機能、植物の環境応答などの実験を通し、農芸化学の基礎である分析化学や機器分析の基本的理論と土壌、植物の基本的機能の理解を目的としている。また、化学分析における安全教育にも重点を置き、本実験で使用する実験器具の他、毒・劇物薬品や可燃性ガスの取り扱いを教育する。 《授業の概要》 各分野の基礎的学問概要を講義ののち、環境化学実験では主として化学電子天秤、分光光度計、原子吸光光度計、pH メーターの原理と使用法、土壌固体の緩衝作用、土壌の重金属吸着、植物形質の環境応答、微細藻類の色素抽出および分離など基本的な分析操作と環境機能の基本原則に関する実験を行う。また、データ処理には部分的にパソコンを使用する。 初回に安全教育を行う。		
2. 授業内容 水圏環境実験 1. 水試料の硬度測定（キレート滴定） 土壌圏環境実験 1. 土壌学について 2. 土壌 pH と土壌の pH 緩衝能：pH メーター 3. 土壌のリン（陰イオン）吸着実験：吸光分析；分光光度計 4. 土壌の重金属（陽イオン）吸着実験：Cu, Zn 原子吸光分析；原子吸光光度計 環境応答植物実験 1. 植物栄養条件（N・P・K 各 2 水準）の設定と、播種 2. 培養液の補充と、実験計画法（直交表）の説明 3. 遊離態無機成分（汁液中成分）分析用試薬の調整 4. 植物環境応答形質の観察と遊離態無機成分の測定（N：簡易比色法，P：分光光度法，K：イオン電極法）および解析 微細藻類実験 1. 藻類からの色素タンパク質の抽出 2. 順相クロマトグラフィーによる色素の分離		
3. 履修上の注意 実験ノートを準備し、実験の行程、起きた現象、測定データを必ず記載すること。 実験終了後に各自のノートを参考に結果の論議を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実験テキストを熟読し、実験の方法・原理を理解した上で受講すること。		
5. 教科書 1. 『分析化学実験 第 2 版』 内海 他著 （東京化学社） 2. 『土壌学の基礎』 松中照夫著 （農文協） 3. 『作物栄養肥料学』 松田敬一郎著 （文永堂出版）		
6. 参考書 1. 『分析化学の基本操作』 上本道久著（丸善出版） 2. 『土壌環境分析法』（博友社） 3. 『植物栄養分析法』（博友社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポート課題に対して Oh!Meiji を介してフィードバックコメントを付ける。		
8. 成績評価の方法 実験レポートの内容、実験ノートの内容および出席状況によるが各実験系で 2 回以上の欠席は評価対象としない。		
9. その他 各担当教員のオフィスアワー時に対応する。		

科目ナンバー (AG) AGC214J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境分析実験	1 単位	安保・小山内・田畑・加藤・小佐見
2022～2025 年度入学者 環境分析実験		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 理系教育における実験科目の目的は、学生各自が自らの手で能動的に対象物の化学的構造・機能・現象を解析し、対象物をより本質的に理解することにある。環境化学・分析実験では、環境を構成する水圏（Hydroshpere）、土壌圏（Pedosphere）、生物（植物）圏（Biosphere）を対象として実験を行い、農芸化学の基礎である分析化学、機器分析の基本的理論と土壌、植物の基本的諸機能の理解を目的としている。また、化学分析における安全教育にも重点を置き、本実験で使用する実験器具の他、毒・劇物薬品や可燃性ガスの取り扱いを教育する。 《授業の概要》 水圏環境実験では、水質汚濁・汚染の指標元素の定量分析、土壌圏環境実験では土壌のイオン交換体としての機能解析、環境応答植物実験では環境応答栽培実験で得られた植物試料の成分分析を行い、栽培環境と元素吸収の関係など、各環境機能および現象の基本原理の理解を得る。微細藻類実験では、色素タンパク質の抽出、定量および、SDS-PAGE を用いた分離と検出を行う。		
2. 授業内容 水圏環境実験 1. 硫酸イオンの定量（重量分析法） 2. 硫酸銅水溶液中の銅の定量（酸化還元滴定法） 土壌圏環境実験 1. 酢酸アンモニウムによる土壌からの陽イオンの交換浸出および塩化ナトリウム溶液による NH4+の交換浸出 2. 原子吸光光度法による交換性陽イオンの定量、滴定法による NH4+の定量と陽イオン交換容量の算出 環境応答植物実験 1. 植物体の湿式分解：乾燥試料の粉碎と、硫酸・過酸化水素分解。 2. 植物体中の無機成分含有率の測定 （1）水蒸気蒸留・滴定法による全窒素の測定 （2） 分光光度法による全リンの測定。植物体中無機元素に関する統計的検討 微細藻類実験 1. 色素タンパク質の抽出とタンパク質の分離・定量 2. SDS-PAGE による色素タンパク質の分離と検出（セミドライプロッターを用いた膜への転写）		
3. 履修上の注意 実験ノートを準備し、実験の行程、起きた現象、測定データを必ず記載すること。 実験終了後に各自のノートを参考に結果の論議を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実験テキストを熟読し、実験の方法・原理を理解した上で受講すること。		
5. 教科書 1. 『分析化学実験 第2版』 内海 他著 （東京教学社） 2. 『土壌学の基礎』 松中照夫著 （農文協） 3. 『作物栄養肥料学』 松田敬一郎著 （文永堂出版）		
6. 参考書 1. 『分析化学の基本操作』 上本道久著（丸善出版） 2. 『土壌環境分析法』（博友社） 3. 『植物栄養分析法』（博友社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポート課題に対して Oh!Meiji を介してフィードバックコメントを付ける。		
8. 成績評価の方法 実験レポートの内容、実験ノートの内容および出席状況によるが各実験系で2回以上の欠席は評価対象としない。		
9. その他 各担当教員のオフィスアワー時に対応する。		

科目ナンバー (AG) BCH224J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 有機化学・有機分析実験	2 単位	荒谷・久城・鈴木泰・大谷・森本・小佐見
2022～2025 年度入学者 有機化学・有機分析実験		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本実験では、生薬由来の成分の分離・精製などを行い、クロマトグラフィーによる同定およびスペクトル解析法などを学ぶ。天然物有機化学・有機合成化学および有機分析化学に関する実験の単位操作を修得することを目的とする。 《授業の概要》 天然物有機化学・有機合成化学および有機分析化学に共通のクロマトグラフィーを学んだ後に、生薬からの目的化合物の分離・精製、有機化合物の合成、有機化合物の反応を理解、習得するための実験を行う。これらすべての実験を通して、クロマトグラフィーによる化合物の同定と NMR 等 による構造解析および有機分子の極性を官能基の種類および TLC 上の挙動と関連付けて考察する。		
2. 授業内容 第 1 回：本実験全体を通した説明・安全教育 第 2 回：ガラス細工の基礎—キャピラリーの作成（荒谷／久城／瀬戸） 第 3 回：薄層クロマトグラフィー（TLC）の基礎技術（久城） 第 4～9 回：紫根からのシコニンの単離・精製およびシコニンの化学分解、誘導体化、分光学的手法による構造確認（荒谷） 第 10～15 回：コレステロール 3-OH の保護・脱保護の化学とハイドロボレーションおよびこれらの反応の立体化学的解析（久城） 第 16～21 回：イネ馬鹿苗病菌の生産するジベレリンの粗精製と分析。サリチル酸、サリチル酸メチルの分液操作による分離と純度検定（瀬戸） 第 22 回：実験全体の解説および試験		
3. 履修上の注意 配布資料で実験内容を調べ、教科書等で予習すること。実験ノートを必ず作成して実験時には実験ノートで実験が進められるようにまとめておくこと。 すべての実験は順調に進行すれば、定められた時間内に終了するように設計してあるが、予習不足による手順の拙さ次第では数時間遅延することもある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、実験ノートの見開きの一面にスキーム形式で実験内容を作成して、必要な試薬や器具についても確認すること。実験中は実験ノートのもう一面に実験経過の観察を記録すること。実験後に観察した現象や実験結果について考察すること。		
5. 教科書 配布するプリントにしたがって実験を進める。単位操作を修得するため教科書として『続・実験を安全に行うために』化学同人編集部（化学同人）を指定する。		
6. 参考書 『第 2 版機器分析のてびき 1, 2 とデータ集』泉ら著（化学同人） 『続・実験を安全に行うために』化学同人編集部（化学同人） 『研究室で役立つ有機実験のナビゲーター』上村明男訳（丸善） 『有機化学実験法』三橋ら著（培風館） 『生命科学のための化学実験』高橋ら著（東京化学社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 成績は出欠、実験に臨む態度、実験ノートおよび試験の結果などに基づいて評価する。 なお、試験は実験ノートのみ持ち込み可とし、試験終了後に実験ノートは回収し評価します。 （評価後、実験ノートは返却します。）		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) AGC124J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 微生物学実験	1 単位	中島・前田・村上・山田・小佐見・小林
2022～2025 年度入学者 微生物学実験		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 身近にはあるが目には見えない微生物を“みる”，“すばらしい能力を体験する”，“調べる”ことを通して，その特徴を把握する。 《授業の概要》 嫌気性菌を含む各種の細菌、酵母、糸状菌などの微生物を対象に培地作製、無菌操作，顕微鏡観察などの微生物取り扱いの基本的な操作を繰り返し体験することにより習得する。また，生物にとって重要なゲノム（DNA）についても実際にその実体，はたらきを体験し，理解する。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス・安全教育 第2～5回：細菌の培養と同定実験 ・培地調製と植菌 ・コロニー計測法と濁度法による細菌の計測 ・同定試験（形態観察，Gram 染色，運動性，オキシダーゼ・カタラーゼ試験） 第6～9回：形態観察 顕微鏡観察：顕微鏡の操作に習熟する ・培地調製と無菌操作 ・血球計数器による酵母の細胞数測定 ・糸状菌の形態観察とマイクロメーターによる大きさの計測 第10～13回：発酵食品と微生物 ・発酵乳微生物の単離 ・生理的性質の観察 ・乳への作用の検定 レポート * 実験内容は必要に応じて変更することがあります。 * この実験は2時限セットで1回とし、1週に2回の実験を行います。		
3. 履修上の注意 実験に当たっては内容を十分に把握することが重要であるので必ず予習をすること。疑問はまず自らが“調べる”ことによって解決を目指すことが大切である。 実験は3つの実験室に分かれて，各実験週1回3～4週にわたって行う。レポートは各実験に対して1回提出する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実験後に観察した現象や実験結果について考察すること。		
5. 教科書 教科書は指定しない。実験に必要な資料，プロトコル等はプリントを配布する。		
6. 参考書 『新版微生物学実験法』（講談社サイエンティフィク） 『生物工学実験書』改訂版 日本生物工学会編（培風館）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席を重視する。提出されたレポートの内容により評価する。		
9. その他 中島春紫 (微生物生態学研究室：5号館5階506A号室) 前田理久 (微生物遺伝学研究室：5号館6階605A号室) 村上周一郎 (微生物化学研究室：3号館3階304A号室) 山田千早 (発酵食品学研究室：5号館6階601A号室)		

科目ナンバー (AG) AGC274J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 バイオテクノロジー実験	1 単位	中島・前田・村上・山田・小佐見・大谷
2022～2025 年度入学者 バイオテクノロジー実験		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 バイオテクノロジー分野における基本操作である有用微生物の分離法および同定法を学び、有用物質の生産法と検出法を理解する。またバイオテクノロジーを支える遺伝子操作法について理解を深める。 《授業の概要》 自然界からアミラーゼおよびプロテアーゼ生産微生物を分離し、その菌学的諸性質を検討する。ペニシリン発酵を行い、バイオアッセイにより生成したペニシリンを定量する。大腸菌を形質転換し、遺伝子発現を確認するとともに形質転換株からプラスミド DNA を検出する。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス・安全教育 第2～4回：有用微生物の分離・同定 ・微生物単離用および生理試験用培地の調製 ・土壌試料より加水分解酵素生産菌の純粋分離 ・分離した細菌の顕微鏡観察と生理学的性質の検討 第5～7回：抗生物質生産菌の分離とペニシリン発酵 ・ペニシリン発酵（培地の調製、植菌、培養） ・バイオアッセイ法によるペニシリンの定量 第8～10回：微生物遺伝子工学実験 遺伝子工学で必要とされる超基本的な実験操作を身につける ・緑色蛍光タンパク質を大腸菌で生産させる ・組換え大腸菌の核酸を解析する レポート * 実験内容は必要に応じて変更することがあります。 * この実験は2時限セットで1回と記載しています。		
3. 履修上の注意 実験に当たっては内容を十分に把握することが重要であるので必ず予習をすること。疑問はまず自らが“調べる”ことによって解決を目指すことが大切である。 実験は3つの実験室に分かれて、各実験週1回3～4週にわたって行う。レポートは各実験に対して1回提出する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実験後に観察した現象や実験結果について考察すること。		
5. 教科書 教科書は指定しない。実験に必要な資料、プロトコル等はプリントを配布する。		
6. 参考書 『新版微生物学実験法』（講談社サイエンティフィク） 『生物工学実験書』改訂版 日本生物工学会編（培風館）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席を重視する。提出されたレポートの内容により評価する。		
9. その他 中島春紫 （微生物生態学研究室：5号館5階506A号室） 前田理久 （微生物遺伝学研究室：5号館6階605A号室） 村上周一郎 （微生物化学研究室：3号館3階304A号室）		

科目ナンバー (AG) AGC254J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品化学・食品分析実験	1 単位	長田・石丸・竹中・中村・森本・小林・大谷
2022～2025 年度入学者 食品化学・食品分析実験		
1. 授業の概要・到達目標 各自で食品の成分を定量しその結果を各自で評価する。各自の味覚評価と味覚受容体の遺伝子解析を行う。なお、実験内容の配分は初回に説明する。詳細を以下に示す。 食品の一般成分分析および特殊分析実験を行なう。五味識別試験と苦味受容体の遺伝子解析を行う。学生実験の集大成として、正確に定量できるか各自で確認する。農芸化学科の専攻科目で2年生以上が対象である。 各自で食品の成分を定量しその結果を各自で評価し、食品の成分を理解する。食品成分を受け取る味覚受容体について、各自の遺伝子型を判定し、味覚の仕組みを理解する。なお、実験内容の配分は初回に説明する。詳細を以下に示す。		
2. 授業内容 実験Ⅰ 1. ビタミンC 定量用の試料の調製 2. 果実またはジュース中のビタミンC の定量（2 つの方法） 3. 食品の水分活性の定量（2 つの方法） 実験Ⅱ 4. 五基本味の識別試験 5. ゲノム DNA の抽出、PCR 増幅 6. 制限酵素処理、遺伝子型判定（アガロース電気泳動法） 実験Ⅲ 7. 食品の水分、灰分、粗脂肪の定量 8. 食用油脂の酸価測定と経時的劣化の評価 9. 食用油脂の過酸価測定と経時的劣化の評価 状況によっては内容を変更することもあります。 また、この実験授業は3・4 限セットで1 回と記載しています。なお、実験内容によっては4 限目を過ぎることがあります。 初回にガイダンス及び安全教育教育を行います。		
3. 履修上の注意 実験前に注意事項を述べるので遅刻しないこと。強アルカリ液等を使用する実験の場合、保護眼鏡を必ず着用のこと。脂質等の実験では引火性溶剤を使用するので火気に厳重注意する事。実験Ⅱ では、同意書を提出すること。初回は、実験手引書および分析試料の配布・全体説明・クラス別説明・実験準備を行なう。実験は3 つの実験室に分かれ、各実験室で実験Ⅰ-Ⅲを行なう。その後実験室を移動して同様に繰り返す。レポートは3 回（各実験室で1 回）提出する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、自前に手引きをよく読んで実験に臨むこと。また、データは実験終了後すぐにまとめておくこと。		
5. 教科書 実験書として「食品化学実験の手引き」を配布する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポート返却または Oh-o! Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 成績は実験に対する姿勢（50%）・レポート（50%）に基づいて評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 文献調査及び特別研究（卒論）	4 単位	農芸化学科教員
2022～2025 年度入学者 文献調査及び特別研究（卒論）		
1. 授業の概要・到達目標 教員の指導のもとで、研究テーマの設定と実験計画の立案を行い、研究遂行に必要な情報を収集しながら2年間にわたって実験を遂行する。得られたデータをもとに論文を取りまとめ、学科の卒論発表会で発表する。文献調査では、自主的・継続的に特別研究のテーマに関連した情報の収集を行って特別研究に活かすとともに、プレゼンテーション能力を身につけることを目的としている。		
2. 授業内容 研究室により内容が異なるため、指導教員と相談して決定する。		
3. 履修上の注意 2年間の継続履修が必要です。 入室予定の研究内容をよく理解し、準備学習をしておくこと。 学生実験をすべて履修していることが好ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に指定しないが、研究室により内容が異なるため、指導教員と相談すること。		
5. 教科書 特に指定しないが、指導教員と相談すること。		
6. 参考書 特に指定しないが、指導教員と相談すること。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 実験報告会や卒論中間発表会、文献セミナー、さらに日々の実験を通じて、課題の確認やディスカッションを行う。		
8. 成績評価の方法 研究への取り組み、文献の読解力、研究成果のまとめと発表、卒業論文を総合的に評価する。		
9. その他		

生命科学科

科目ナンバー (AG) CBI191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生命科学入門	2 単位	生命科学科教員
2022～2025 年度入学者 生命科学入門		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生命科学は生物学を基盤として、多岐多様な学問分野にまたがり、生命現象を解析・理解し、得られた科学的理解を応用に結びつける学問である。この授業では、生命科学の面白さ、重要性、今後期待される発展・人間生活への還元などについて、生命科学科教員がそれぞれの専門分野に基づいて解説する。話題の対象は、動物・植物・微生物の各研究分野、および生命科学研究に重要なタンパク質や遺伝子その他の生物種横断的な生物情報の研究分野とする。 《授業の達成目標》 生命科学入門では、各教員の多彩な研究分野の紹介から生命科学とは何かを読み取り、自然科学と生命科学への興味を高めるとともに理解を深め、専門科目を学ぶ意欲と研究に対する興味・関心を涵養する。		
2. 授業内容 「美肌を目指して今日から菌活」（浅沼） 「組織の発生とシグナル伝達」（乾） 「エピジェネティクスとは？ - 動物の遺伝子機能を自在に操るために - 」（大鐘） 「植物も会話する：植物の化学交信と応答の研究」（賀来） 「植物の巧みな環境応答と植物ホルモン」（川上） 「オスとメスの分子生物学」（河野） 「酵母の細胞生物学とプロテオミクス」（紀藤） 「環境ストレスに対する植物の生存戦略」（高橋） 「植物の形づくりを支える細胞極性」（田中） 「線虫で学ぶ遺伝情報伝播システム ～全身に広がる RNAi～」（出嶋） 「生理活性物質と細胞応答」（戸村） 「粘膜免疫システムのユニーク性」（長竹） 「生体リズムの研究」（中村） 「神経科学から紐解く脳の健康」（橋本） 「健康維持・増進に役立つ酵母のチカラ」（浜本） 「がんの分子生物学」（吉田） 「生命維持における膜交通・分解系の重要性 ～植物オートファジーに焦点を当てながら～」（吉本） 「疾病の原因となる生体内の有機化学反応」（渡辺） レポート作成と提出		
3. 履修上の注意 授業では個々の講義の記録を取り、講義から得られた新知識を図書館等での書籍・文献から更に充実させ、生命科学という学問分野を理解するように努力することが学生に期待されている。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回のタイトルに関連した背景・知識を図書館等であらかじめ調べる。個々の講義で得られた知識を、予習した知識と照らし合わせながらまとめること。		
5. 教科書 使用しない。		
6. 参考書 使用しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題レポートについてのコメント対応は、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 毎回実施される小テストまたは小レポート等（90%）および授業への貢献度（10%）。		
9. その他 授業内容は変更されることがある。 担当者実施順は学期はじめに決定し、第 1 回の授業にて通知する。 質問は、講義の前後に受け付ける。また、必要な場合には、各教員の研究室もしくはメールで受け付ける。		

--

科目ナンバー (AG) BCH191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 化学要論	2 単位	宮島 謙
2022～2025 年度入学者 化学要論		
1. 授業の概要・到達目標 生物を含むあらゆる物質は分子や原子から構成されている。化学はそれらの性質や変化を研究する学問である。その基礎知識を学ぶことは、生命科学や農学研究をすすめるうえでも必要不可欠なものである。本講義では物質の性質や構造、反応、法則に関する化学的知識を学ぶ。とくに高校で十分に化学を学習していない学生がいることを想定して基礎に重点を置き、現象の化学的説明や考察方法を身につけることを目標とする。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション（科学における化学） [第 2 回] 原子・元素と周期表 [第 3 回] 原子と原子のつながり [第 4 回] モルと化学反応式、濃度 (1) [第 5 回] モルと化学反応式、濃度 (2) [第 6 回] 酸化と還元 [第 7 回] 物質の状態、前半の復習 [第 8 回] 気体の性質 [第 9 回] 化学反応と熱エネルギー [第 10 回] 化学反応と化学平衡 [第 11 回] 水と溶液 [第 12 回] 透析と浸透圧 [第 13 回] 酸および塩基と pH [第 14 回] 放射線と放射能、後半の復習		
3. 履修上の注意 受験で化学を選択しなかった者は、高校化学の教科書を参照し、講義の予習・復習につとめること。化学既習者も配布した講義資料 PDF ファイルを参考に復習につとめること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の内容を中心に、スライドを使って授業を行う。		
5. 教科書 『はじめて学ぶ化学』野島高彦著、化学同人		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の最初に、前回の授業で提示した課題の解説を行う。		
8. 成績評価の方法 講義での小テストを 40%、期末試験を 60%の目安で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG)BI0191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物生命科学	2 単位	乾 雅史
2022～2025 年度入学者 動物生命科学		
1. 授業の概要・到達目標 動物における生命現象を理解するためには動物個体という複雑な系の理解とその背景にある分子レベルの理解がともに重要である。本講義では動物の発生現象という視点から個体レベルの現象と分子レベルの現象を講義する。多細胞生物の発生は複数種類の細胞の分化と形態形成が調和して起こる複雑な過程である。本講義ではまず個体発生過程における細胞の分化（細胞レベルの現象）や形態形成（組織・個体レベルの現象）について講義し、その過程に不可欠である細胞間のコミュニケーションについて、特に進化的に保存されたシグナル伝達経路（分子レベルの現象）に着目して講義する。 多細胞生物の発生の基礎およびその過程で働く進化的に保存されたシグナル伝達経路の代表的な役割について理解すること、またそれを通じて分子レベルの現象と個体レベルの現象がどのように結びつくのかを理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：多細胞生物の発生と細胞間コミュニケーション 第2回：発生生物学の基礎 1 受精から原腸陥入まで 第3回：発生生物学の基礎 2 細胞の分化と形態形成 第4回：発生生物学の基礎 3 三胚葉からの組織・器官の発生 I 第5回：発生生物学の基礎 4 三胚葉からの組織・器官の発生 II 第6回：シグナル伝達・細胞のコミュニケーション概論 1 第7回：シグナル伝達・細胞のコミュニケーション概論 2 第8回：Hedgehog シグナルとその発生における役割 第9回：TGFβ/BMP シグナルとその発生における役割 第10回：Notch/RTK シグナルとその発生における役割 第11回：Wnt シグナルとその発生における役割 第12回：Hippo シグナルとその発生における役割 第13回：ゲノム編集とシグナル伝達 第14回：a 講義全体のまとめ b 試験		
3. 履修上の注意 高校生物未習者は並行して細胞生物学・分子生物学の基礎を学習することが望まれる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布するレジュメおよびノートを振り返り、不明な点があれば次回の授業で質問すること。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 『ギルバート発生生物学』Scott T. Gilbert 著 阿形清和 高橋淑子 監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル社） 『細胞のシグナル伝達 システムとしての共通原理にもとづく理解』Wendell Lim, Bruce Mayer, Tony Pawson 著 監訳 西田栄介（メディカル・サイエンス・インターナショナル社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の講義で提示される課題について、Oh-o!Meiji を通じて、あるいは次の回の講義でフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 期末試験 70%と授業への貢献度 30%で評価する。		
9. その他 生命科学科・動物再生システム学研究室		

科目ナンバー (AG)BI0191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物生命科学	2 単位	高橋 直紀
2022～2025 年度入学者 植物生命科学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 植物は動物とは異なる体制を進化させることで、地球上の様々な環境での生存を可能にしてきた。そして、近年の植物科学の進展により、植物の特徴が遺伝子や分子レベルで理解されるようになってきた。本授業では、植物の構造や発生・分化、環境応答、生物間相互作用などの基礎知識を習得することで、植物の生命過程への理解を深めることを目標とする。 《授業の概要》 植物の基本的成り立ちを細胞、組織、器官レベルで理解するとともに、光合成や植物ホルモン、胚発生や種子形成、花発生など、他生物では見られない植物の特徴について学ぶ。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] 植物の構造と細胞骨格 [第 3 回] 物質輸送 [第 4 回] 光合成 [第 5 回] 細胞周期制御 [第 6 回] 植物ホルモン [第 7 回] 光形態形成 [第 8 回] 胚発生 [第 9 回] 種子の休眠・発芽 [第 10 回] 植物の成長と器官形成 [第 11 回] 花成と花の発生・配偶体 [第 12 回] 植物の老化と細胞死 [第 13 回] 生物間相互作用 [第 14 回] 植物の環境応答		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義前に、事前にクラスウェブにアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。また、授業後に復習をすることで、理解を深めるようにする。不明な部分があれば、積極的に質問すること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『植物生理学・発生学 第 6 版』 テイツ/ザイガー編（講談社） 『植物の生化学・分子生物学』 Buchanan, Gruissem, Jones 編（学会出版センター）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回、20 分程度課題に対する解説を行う。		
8. 成績評価の方法 課題提出（30%）、期末試験（70%）により評価する。		
9. その他 研究室：植物適応制御学研究室（第一校舎 2 号館 403 号室）		

科目ナンバー (AG)BI0111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 分子生物学入門	2 単位	戸村 秀明
2022～2025 年度入学者 分子生物学入門		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 遺伝を司る物質の構造，機能を中心に解説する。 《授業の到達目標》 遺伝現象の分子メカニズムを解明する過程で誕生した分子生物学は，今日の生命科学研究を理解するための基盤となっている。本講義では，分子生物学の基礎的事項が理解できることを目標としている。		
2. 授業内容 第 1 回：遺伝物質としての DNA の発見 第 2 回：核酸の性質 第 3 回：タンパク質の性質 第 4 回：DNA の複製 第 5 回：DNA の変異と修復 第 6 回：転写と修飾 第 7 回：翻訳 第 8 回：まとめ I 第 9 回：細菌の分子遺伝 第 10 回：DNA の取り扱い 第 11 回：遺伝子工学 第 12 回：染色体・ゲノム 第 13 回：RNA の役割 第 14 回：まとめ II 講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 専攻科目群を学ぶための基礎事項を講義するので、わからないままにせず、講義で使用するプリント等を利用してきちっと復習することが必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の重要項目を選んで解説するので，講義前に教科書を一読しておくこと 講義中と復習用に使用するプリントを用意するので、それを使って復習を行うこと。		
5. 教科書 『基礎分子生物学 第 5 版』 田村隆明・村松正實 著（東京化学同人）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 試験により評価する。レポートなどの課題を課した場合は，試験（80%），レポート等（20%）とする。		
9. その他 細胞情報制御学研究室（5 号館 4 階 4 0 7 号室）		

科目ナンバー (AG) AGR111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 遺伝学	2 単位	大鐘 潤
2022～2025 年度入学者 遺伝学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生物が自身の形質を次世代に伝える遺伝、および長い世代をかけて環境に適応させてきた進化について、遺伝因子を仮定した古典遺伝学から、DNA 配列を基盤としたゲノム科学・分子生物学的観点での分子遺伝学への橋渡しを中心とし、遺伝学の基礎について理解することを目標とする。 《授業の概要》 様々な遺伝様式や遺伝現象の古典的・現代的解析法を中心に解説するとともに、遺伝子と変異・発生・育種・病気・進化などとの関係について基礎的な項目を概説する。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンス、DNA/遺伝子の基礎 第 2 回：DNA：遺伝子とゲノムの遺伝暗号 第 3 回：古典遺伝学（メンデルの法則を中心に） 第 4 回：染色体から見た遺伝の基礎（連鎖と遺伝地図） 第 5 回：核型と染色体の挙動 第 6 回：DNA：化学構造，複製 第 7 回：DNA：変異，修復 第 8 回：遺伝子発現の分子遺伝学 第 9 回：遺伝子制御の分子機構 第 10 回：病気と遺伝学 第 11 回：集団遺伝学 第 12 回：進化 第 13 回：量的形質の遺伝学 第 14 回：量的形質の遺伝学・まとめ		
3. 履修上の注意 下に指定する参考書のうち、『Essential 遺伝学 3rd edition』『エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学（原著第 7 版）』を中心に他の参考書からの必要事項を取り入れて、スライドを用いた講義を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義資料は Oh-o! Meiji にて事前に閲覧できるようにするので、いずれかの参考書で授業の該当箇所を予習し、講義で聞き逃した箇所を中心に復習すること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 『Essential 遺伝学 3rd edition』D. L. ハートル/E. W. ジョーンズ共著，布山喜章/石和貞男訳，培風館 『エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学（原著第 7 版）』ダニエル・L・ハートル、化学同人 『クロー遺伝学概説 原書第 8 版』J. F. クロー著，木村資生/太田朋子共訳，培風館 『これだけは知っておきたい図解ジェネティクス』江島洋介著，オーム社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に 2 回行う小テストについては、提出期限後に問題に関する解説を Oh-o! Meiji に掲載する。		
8. 成績評価の方法 平常点 30%（授業中に 2 回程度行う小テスト），期末試験 70%で評価する。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示する。		

科目ナンバー (AG)BI0231J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 細胞生物学（生）	2 単位	吉田 健一
2022～2025 年度入学者 細胞生物学（生）		
1. 授業の概要・到達目標 細胞生物学では、細胞の構造と機能の理解を通して、生命科学を学ぶうえで必要な基礎的概念の習得を目指す。この講義では、1) 細胞内の分子であるタンパク質、DNA および RNA が共同して一つの生命系を維持する基本機構の理解、2) 膜を利用した輸送経路とエネルギー生産、3) 細胞が動き、刺激に応答し、成長するメカニズムとは、等について動物細胞を中心に講述する。 生物学の基礎知識を持つ大学生が、より専門性の高い講義を学習することで、細胞生物学の真髄を理解することを目指す。本講義では原核細胞と真核細胞との比較を念頭に置いて講義を進め、2 年時以降の専門科目を学ぶ上での知識獲得を目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：細胞とは 第 2 回：細胞の化学成分とエネルギー 第 3 回：タンパク質の構造と機能 第 4 回：DNA と染色体 第 5 回：DNA 複製と修復 第 6 回：DNA からタンパク質へ 第 7 回：遺伝子発現の調節 第 8 回：遺伝子とゲノムの進化 第 9 回：膜の構造 第 10 回：膜を横切る輸送 第 11 回：細胞内区画とタンパク質の輸送 第 12 回：細胞のシグナル伝達 第 13 回：細胞骨格・細胞周期 第 14 回（a モジュール）：組織の成り立ち・幹細胞・がん		
3. 履修上の注意 授業の前後、指定された教科書の該当箇所を通読し、理解を深めておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内容を振り返り、不明な部分があれば授業後に質問すること。また、次の回の内容について教科書に目を通しておくこと。		
5. 教科書 『Essential 細胞生物学 原書第 5 版』 B. Alberts 他 著 中村桂子・松原謙一・榊佳之・水島昇 監訳（南江堂）		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に課題に対する総評、解説を加えるなどして適切にフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 授業中に実施する小テスト（50%）、レポート課題（50%）で評価する。		
9. その他 分子発生学研究室（6 号館 4 階 410A 号室）。オフィスアワーは特に指定しないが、質問のための来室は随時受け付けます。		

科目ナンバー (AG) BCH121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生物有機化学（生）	2 単位	渡辺 寛人
2022～2025 年度入学者 生物有機化学（生）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業では生命現象を踏まえつつ、有機化合物の構造と性質、および有機化学反応について、電子の動きを中心に解説を行う。 《授業の到達目標》 生命現象を支える諸反応は、細胞内外において起こる有機化学反応であるといっても過言ではない。この授業では、生命科学を学習・研究するための基礎となる基本的有機化合物の構造とそれに関わる反応とについて理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：生命科学における有機化学の役割 第2回：原子の構造、共有結合と分子軌道 第3回：アルカン、化合物命名法、構造異性体、配座異性体 第4回：アルケン、幾何異性体、光学異性体 第5回：芳香族化合物、共鳴 第6回：化学反応と活性化エネルギー 第7回：アルカンのラジカル反応 第8回：アルケンの求電子付加反応 第9回：芳香族の求電子置換反応 第10回：ハロゲン化アルキルの求核置換反応、アルコール 第11回：カルボニル化合物の求核付加反応（1） 第12回：カルボニル化合物の求核付加反応（2） 第13回：カルボン酸、エーテル、エステル 第14回：アミン、アミド、複素環化合物・まとめ		
3. 履修上の注意 「化学要論」を履修していることが望ましい。 とくに、化学を苦手とする学生は「化学要論」を予め必ず履修すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考書や授業中に配布する資料、Oh-o! Meiji システムに掲載される資料・練習問題等を活用して予習・復習を行い、不明な点があれば質問すること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 『ハート基礎有機化学』秋葉・奥訳（培風館） 『ブルース有機化学概説』大船他監訳（化学同人） 『ビギナーズ有機化学』川端著（化学同人） この他の参考書については、授業中に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題（任意提出）に対してはフィードバックコメントを付けて返却する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験のみで評価する。		
9. その他 生体機能物質学研究室（2号館4階 2-401A号室） オフィスアワー：水曜日 12：10～12：50 質問したい場合は、これ以外の時間帯でも遠慮なく来てほしい。 E-mail: hwata@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG)BI0121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 基礎生化学	2 単位	渡辺 麻衣
2022～2025 年度入学者 生化学Ⅰ（生体成分・酵素）		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 生化学は、生体を構成する分子とその反応を化学的視点から理解する学問である。本講義では、生化学を理解する上で基礎となる生体成分・酵素について解説する。 DNA などの核酸を起点として、タンパク質、糖・脂質、酵素、エネルギー代謝へと体系的に学ぶ。講義内に小テストを行う。 ＜到達目標＞ 1. 核酸の構造と情報保存の原理を説明できる。 2. タンパク質の構造と機能の関係を説明できる。 3. 糖・脂質など主要な生体成分の特徴を説明できる。 4. 酵素の性質および基本的な反応原理を説明できる。 5. 生命を構成する分子とエネルギーの関係を統合的に理解できる。		
2. 授業内容 [第 1 回] 生化学の基礎（生命を分子で考える） [第 2 回] 水の性質・ミネラル [第 3 回] 化学反応と自由エネルギー [第 4 回] 核酸Ⅰ：DNA の構造 [第 5 回] 核酸Ⅱ：複製・転写・翻訳の概念 [第 6 回] アミノ酸 [第 7 回] タンパク質Ⅰ：構造 [第 8 回] タンパク質Ⅱ：機能 [第 9 回] 糖 [第 10 回] 脂質 [第 11 回] 糖鎖生合成 [第 12 回] 酵素Ⅰ：基本的性質 [第 13 回] 酵素Ⅱ：反応速度の概念 [第 14 回] エネルギー代謝の基礎（ATP と代謝の概観）		
3. 履修上の注意 講義はパワーポイントを使用する。資料は事前に配布するため、各自ダウンロードして予習を行うこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業で使用する資料を事前にダウンロードし、わからない単語などについて調べておくこと。 講義内で生じた疑問について、自身で調べるなどして復習すること。資料を事前に読み予習を行うこと。講義後はノート整理と小テストの復習を行い理解の定着を図る。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 ヴォート基礎生化学 イラストレイテッド生化学 これだけ！ 生化学		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎授業で小テストを配布し、講義で小テストの解説をする。		
8. 成績評価の方法 期末テスト 60%、小テスト、授業への参加度 40%。		
9. その他 講義中にアンケートツールを使用する。QR コードを読み取れる端末をもっていることが望ましい。 電子メールにて質問等を受け付ける。連絡先は最初の講義で示す。		

科目ナンバー (AG)BI0111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 分子生物学（生）	2 単位	田中 博和
2022～2025 年度入学者 分子生物学（生）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生物の遺伝的形質は遺伝子によって決定される。本講義では、遺伝子がどのようなものであり、その中の情報がどのような仕組みで発揮（発現）されるのかを理解することを目標とする。 《授業の概要》 遺伝子の働きについて、その構造や情報の単位、情報の発現などを、図表を提示しながら解説する。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：細胞を構成する物質 第 3 回：遺伝子の性質 第 4 回：核酸の性質と機能 第 5 回：DNA 複製 第 6 回：ヌクレオチド鎖の中の情報 第 7 回：遺伝子情報の発現 第 8 回：遺伝子情報の転写機構 第 9 回：タンパク質の生合成 第 10 回：遺伝子が決めるタンパク質の構造と機能 第 11 回：遺伝子の働きの調節 第 12 回：遺伝子機能の攪乱 第 13 回：遺伝子組み換え 第 14 回：a: まとめ 講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 生化学の基礎知識が必要となる。理解度を確認するために小テストを行うことがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必要な資料は授業時に配布する。授業後は配布資料と参考書で復習して理解を深めることが望ましい。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『ヴォート基礎生化学』田宮他・訳（東京化学同人） 『理系総合のための生命科学』東京大学生命科学教科書編集委員会（羊土社） 『細胞の分子生物学』中村・松原監訳（南江堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についてはクラスウェブでフィードバックを行うか、次回以降の講義で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験（60%）、小テストや授業への貢献度（40%）で評価する。 単位を取得するためには欠席が 5 回以内であることが必要である。		
9. その他 植物発生制御学研究室（2 号館 4 階 402 号室） 質問等は随時受け付ける。		

科目ナンバー (AG) AGC121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 微生物学 I	2 単位	浜本 牧子
2022～2025 年度入学者 微生物学 I (生)		
1. 授業の概要・到達目標 微生物、特に生命科学分野において大切な真正細菌、放線菌、古細菌、糸状菌、酵母、バクテリオファージの分類、形態、細胞構造とその機能、栄養、生理、および生育について講述します。 通常肉眼では見ることでできない微生物は多種多様な生き物であり、地球上の物質循環や食品・医薬品などの物質生産において人間生活に重要な役割を果たしています。一方、最新の生命科学研究に欠かせないバイオテクノロジーは伝統的な微生物の研究を基盤に発展してきました。本講義は、微生物とはどのような生き物か、どのような種類がいるのか、またどのようにして生命活動を営んでいるのかなどの微生物に関する基礎知識を理解し、身に付けることを到達目標とします。本講義は、2 年次以降に学ぶ微生物学 II および微生物工学を理解するための基礎となります。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション（微生物とは） 第 1 回 b：微生物の基礎 第 2 回：原核微生物と真核微生物 第 3 回：微生物の分類 第 4 回：真正細菌の形態・分類 第 5 回：放線菌、古細菌の形態・分類 第 6 回：真菌類の形態・分類 第 7 回：酵母の形態・分類 第 8 回：バクテリオファージの形態・分類 第 9 回：原核細胞と真核細胞の構造・機能の違い 第 10 回：原核微生物の構造と機能 第 11 回：真核微生物の構造と機能 第 12 回：バクテリオファージの構造と機能 第 13 回：微生物の生理 第 14 回：a のみ：まとめ		
3. 履修上の注意 微生物学は生化学、分子生物学など幅広い分野と連携しながら発展してきたものであるため、これら関連分野の同時履修が望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に参考書の該当箇所を読み、予習を行うこと。授業後は配付プリントおよび参考書を用いて復習し、理解を深めること。不明な部分があれば授業で質問すること。		
5. 教科書 特に定めません。プリントを配付します。		
6. 参考書 * 微生物学の参考書 『Q & A で学ぶ やさしい微生物学』浜本哲郎・浜本牧子 著（講談社） 『遺伝子・細胞から見た 応用微生物学』阪井康能他 編著（朝倉書店） 『応用微生物学』塚越規弘 編（朝倉書店） 『応用微生物学 第 2 版』清水昌・堀之内末治 編（文永堂出版） 『ベーシックマスター微生物学』堀越弘毅 監修（オーム社） * 微生物学を理解する上で必要な生化学の参考書 『ヴォート基礎生化学 第 5 版』田宮信雄他訳（東京化学同人）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の中で行う。		
8. 成績評価の方法 授業中に実施する課題 20%、期末試験 80%		
9. その他 微生物工学研究室（6 号館 3 階 301 号室）		

科目ナンバー (AG)BI0221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物生化学	2 単位	浅沼 成人
2022～2025 年度入学者 生化学Ⅱ（動物代謝）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本講義では、動物の細胞内でどのように物質の転換が生じ、エネルギーが生み出されるかを化学反応として捉え、生命活動がいかに巧妙なシステムで行われているかを学習する。また、動物の体内で生じる生化学反応の基礎知識を身につけ、生命科学の応用科目の学習に役立てる。応用的な題目としては、皮膚科学についての基礎知識を学び、その中で生じる代謝反応について学習する。 《授業の達成目標》 代謝学の基礎となる代謝エネルギーについて学習する。主要栄養素である糖、脂質、タンパク質からどのようにエネルギーが生成されるかを化学的に捉え、生命活動の理解を深める。さらに、美容皮膚科学に関する代謝反応を学習する。		
2. 授業内容 第1回：エネルギー代謝_1 基礎代謝学 第2回：エネルギー代謝_2 ミトコンドリア代謝 第3回：エネルギー代謝_3 糖新生、ペントースリン酸回路 第4回：エネルギー代謝_4 グリコーゲン代謝 第5回：脂質代謝_1 脂肪酸の代謝 第6回：脂質代謝_2 肥満の生化学 第7回：タンパク質代謝_1 タンパク質の消化と分解 第8回：タンパク質代謝_2 アミノ酸の代謝 第9回：美容皮膚科学_1 皮膚科学の基礎 第10回：美容皮膚科学_2 皮膚の保湿とバリア機能 第11回：美容皮膚科学_3 腸内代謝と皮膚 第12回：美容皮膚科学_4 肌老化の科学 第13回：美容皮膚科学_5 美白の科学 第14回：美容皮膚科学_6 ニキビの科学 （進捗状況により、項目の入れ替え、内容の変更などがある。）		
3. 履修上の注意 （1）高校までの「生物」の確認、（2）「生化学Ⅰ」と「細胞生物学」の講義内容の復習が、本科目の学習には望まれる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ノートをしっかりとり、毎回の講義に持参することが望ましい。予習としては、ノートを見直し、前回までの講義内容について頭に入れておくことが望ましい。復習としては、講義時のメモノートの内容を整理し、内容を確認しながら、清書版のノートを再作成することが望ましい。不明な参考用語等については、参考者等で調べることが望ましい。		
5. 教科書 指定無し。自習には、参考書をご利用ください。		
6. 参考書 ・東京化学同人 ヴォート 基礎生化学 第5版 ISBN9784807909254 ・化学同人 マッキー 生化学 第6版 ISBN 9784759819434 ・南山堂 あたらしい美容皮膚科学 日本美容皮膚科学会（監）ISBN9784525341510		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題レポートについてのコメント対応は、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認して下さい。		
8. 成績評価の方法 課題レポート（20％）、授業への貢献度（20％）、期末試験（60％）を基本として総合的に評価します。		
9. その他 本講義に関する質問、発展学習の相談等は、春学期期間の月曜日～金曜日のLモジュールの時間帯に、研究室にて受付いたします。		

科目ナンバー (AG)BI0221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物生化学	2 単位	井上 悠子
2022～2025 年度入学者 生化学Ⅲ（植物代謝）		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 植物の代謝によって作られる様々な物質は、地球上の生物の生命活動にとって不可欠である。植物がそれらの物質を作る機構とその生理的な意義について解説を行う。 【到達目標】 本講義では、生物の生存に必須である様々な代謝産物が植物によってどのように合成されるのかを学ぶことを通じて、植物の生存戦略および環境応答について理解することを目的とする。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] 植物とは何か？ [第 3 回] 光合成 1 [第 4 回] 光合成 2 [第 5 回] 光合成 3 [第 6 回] 呼吸 [第 7 回] 必須元素の吸収と輸送 1 [第 8 回] 必須元素の吸収と輸送 2 [第 9 回] 必須元素の吸収と輸送 3 [第 10 回] 二次代謝 1 [第 11 回] 二次代謝 2 [第 12 回] 二次代謝 3 [第 13 回] 二次代謝 4 [第 14 回] まとめ 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。		
3. 履修上の注意 講義はスライドを使用し、必要な資料については授業時に配布します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で配られた配布資料などを用いて復習を行い、次回の授業までに理解を深めておくことが望ましい。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 「エッセンシャル植物生理学 農学系のための基礎」牧野周、渡辺正夫、村井耕二、榊原均（講談社） 「基礎から学ぶ植物代謝生化学」水谷正治、土反伸和、杉山暁史（羊土社） 「新植物栄養・肥料学」米山忠克、長谷川功、関本均（朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小レポートを課し、理解度確かめる。		
8. 成績評価の方法 小レポート（30%）、定期試験（70%）で評価します。		
9. その他 質問は随時受け付けます。また連絡先については、初回の講義でお知らせします。		

科目ナンバー (AG) CBI268J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 バイオインフォマティクス入門	2 単位	出嶋 克史
2022～2025 年度入学者 バイオインフォマティクス入門		
1. 授業の概要・到達目標 《到達目標》 バイオインフォマティクスは、生命科学実験データから新たな知見を引き出すために欠かせないスキルである。膨大な生命情報は公共データベースに集約されており、それらを適切に検索・活用する能力が研究を始めるための第一歩となる。本授業では、主要な公共データベースやウェブ解析ツールの操作方法の習得、Excel や Python を使ってプログラミングの基礎から統計解析までを実体験する。これらを通じて、データの集計や可視化を自ら行える論理的思考力と実践的な解析能力を養うことを目標とする。 《授業の概要》 研究の基礎となる文献検索の手法から始め、遺伝子・タンパク質データベースや配列解析ツールの利用法を、演習形式で実践的に学ぶ。また、Excel を用いて生命科学データ解析に不可欠な統計解析（検定・推定・統計リテラシー）を基礎から習得する。加えて、Python を使い、変数の扱い、条件分岐や繰り返し処理といった基本概念から、DNA 配列データの処理、グラフ描画による可視化までを体験する。さらに、モデル生物データベースや遺伝子変異の in silico 解析にも触れ、バイオインフォマティクスの多角的なアプローチを体系的に学習する。		
2. 授業内容 [第 1 回] バイオインフォマティクスとは？ [第 2 回] 文献を調べる：文献データベース [第 3 回] 遺伝子の情報を調べる：塩基配列データベース [第 4 回] タンパク質の情報を調べる：アミノ酸配列データベース [第 5 回] 配列の類似性を調べる：BLAST [第 6 回] 多重アラインメントと系統樹 [第 7 回] バイオデータ解析のための統計入門 1（Excel 編） [第 8 回] バイオデータ解析のための統計入門 2（Excel 編） [第 9 回] バイオデータ解析のためのプログラミング入門 [第 10 回] Python で簡単なデータ処理を体験する [第 11 回] 解析ツールと Python の連携（1）配列の解析 [第 12 回] 解析ツールと Python の連携（2）データの可視化 [第 13 回] モデル生物データベースとゲノムブラウザ [第 14 回] Web データベースを用いた遺伝子変異の解析		
3. 履修上の注意 分子生物学などの基礎知識を学習しておくこと。また、PC の基本的操作（ファイルの保存、ウェブサイトの閲覧、キーボード入力など）について、予め理解をしておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji クラスウェブに掲載する各回の授業資料を予め閲覧し、内容の概略について予習をするとともに、各回の課題を通して知識の習熟に努める。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 バイオインフォマティクス入門 第 2 版（慶應義塾大学出版会）2022 年 Python ではじめるバイオインフォマティクス ―可読性・拡張性・再現性のあるコードを書くために（オライリー・ジャパン）2023 年 実験医学別冊 改訂 独習 Python バイオ情報解析（羊土社）2025 年 バイオインフォマティクス：Python による実践レシピ（朝倉書店）2020 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義もしくは Oh-o! Meiji クラスウェブにおいて課題の解説または講評などを行う。		
8. 成績評価の方法 1～2 回の講義毎に課す課題 75%と平常点 25%で評価する。		
9. その他 遺伝情報システム学研究室（6 号館 3 階 6－306）		

科目ナンバー (AG)BI0211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 遺伝子工学	2 単位	橋本 恵
2022～2025 年度入学者 遺伝子工学		
1. 授業の概要・到達目標 [授業の概要] 本講義では遺伝子操作技術や PCR など遺伝子工学の基盤技術の成り立ちから、その原理や応用を概説します。新たな技術がもたらす恩恵と危険性について関連法規と倫理問題について学びながらディスカッションしていきます。 [到達目標] 具体的な本講義のゴールは以下の通りです。 ・遺伝子工学の成り立ちを知り、基礎研究がもたらす発見の重要性と、それらの応用がもたらす新たな可能性理解する。 ・遺伝子工学に関連する法令や倫理問題を理解する。 ・最新の遺伝子工学技術の理論と原理、その発展を知る。		
2. 授業内容 第 1 回：遺伝子工学とは 第 2 回：遺伝子工学の材料Ⅰ 第 3 回：遺伝子工学の材料Ⅱ 第 4 回：DNA クローニング 第 5 回：タンパク質産生制御 第 6 回：核酸検出技術 第 7 回：PCR の原理と応用 第 8 回：ゲノム解析法 第 9 回：遺伝子発現・産生解析法 第 10 回：ゲノム工学と倫理問題 第 11 回：小型核酸による細胞制御 第 12 回：エピゲノムと解析 第 13 回：医療における遺伝子工学 第 14 回：講義全体の総合復習 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 基礎的な細胞生物学、分子生物学の用語は理解している前提で講義を進めます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 レポートを課すので、その課題遂行を通じて予習・復習・調査・考察を行ってください。		
5. 教科書 指定はありません。		
6. 参考書 『基礎から学ぶ遺伝子工学 第 3 版』田村隆明 （羊土社）2022 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業への積極的参加や出席状況（10%），中間レポート（30%），期末試験（60%）を基本として総合的に評価します。		
9. その他 講義に関する質問を受け付けるオフィスアワーについては講義中に連絡します。		

科目ナンバー 未設定		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 キャリア教育	1 単位	生命科学科教員
2022～2025 年度入学者 キャリア教育		
1. 授業の概要・到達目標 物事に取り組む姿勢を学び、将来の生き方、社会での実務に対する意識を高めるとともに、学問に対する関心を高めることを目的とする。このため、学外における企業研修に参加し、大学の講義や実験・実習のみでは身につけることの出来ない事柄を、体験を通して学ぶ。この科目は、学外の企業・公的機関等で行う実習と報告会をその内容とする。		
2. 授業内容 ＜ガイダンス＞ キャリア教育に関する説明、および実習の心構えなどについて説明する。 ＜学外実習＞ 1) 実習希望者が実習先を決定 2) 書類審査及び報告会等により、単位認定の可否を決定 3) 実習への参加 4) 実習記録の提出 実習レポート（実習日誌及び実習報告書等）の提出（実習者本人） 実習受け入れ実施報告書の提出（実習先担当者） ＜実習報告会＞ 各自の実習についてプレゼンテーション資料等を作成し、報告する。		
3. 履修上の注意 ・必ずガイダンスに参加する。 ・指定された期日までに実習参加届けを提出する。 ・実習先は、全学版 Meiji Job Trial あるいは農学部 に依頼があった企業等とする。1～2 年次の実習は企業等が行うタイプ2キャリア教育のプログラムに相当するものとする。3 年次はタイプ 3 と 4 に相当するインターンシップも対象とする。タイプについては以下のリンクを参照：https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/20230920-app_ope02-1.pdf ・実習期間は、実働 5 日間以上とする。 ・単位認定の対象にならなかった場合、ならびに実習先が見つからなかった場合は、履修取り消しを認める。 ・実習は夏季あるいは春季休業期間中に行う。春休み期間に実習を行う場合は、次年度の履修科目とする。 ・配当学年は 1～3 年、1 年に 1 回、3 単位を上限とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実習先の社会的役割、目的、業務内容などを事前に把握する。 実習を通して考えたこと、身につけたことを、大学における学習、研究室活動等にフィードバックする意識を持つ。		
5. 教科書 実習先で紹介・指定される可能性がある。		
6. 参考書 実習先で紹介・指定される可能性がある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実習レポート（40%）、実習受け入れ実施報告書（30%）、報告会の発表（30%）		
9. その他 不明な点は農学部事務室、または担当教員（就職担当教員、カリキュラム担当教員、学科長）に問い合わせること。		

科目ナンバー (AG)BBI241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物生理学Ⅰ	2 単位	中村 孝博
2022～2025 年度入学者 動物生理学Ⅰ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 ヒトを含む哺乳類を中心とした高等動物における各種生体機能について、機能別に詳説する。また、動物の生殖に関する生理現象についても解説する。 《授業の到達目標》 動物生理学Ⅱとあわせ、「生体の機能調節機構」について理解することを最終目標とする。そのために本講義では、各器官の役割について深く理解する。各項目の到達目標は講義内に示す。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：細胞の基本構造・機能と組織 第3回：血液 第4回：循環系Ⅰ（心臓の機能） 第5回：循環系Ⅱ（刺激伝導系） 第6回：循環系Ⅲ（血液系とリンパ系） 第7回：呼吸系Ⅰ（呼吸生理の基礎） 第8回：呼吸系Ⅱ（呼吸調節） 第9回：消化と吸収Ⅰ（消化液の分泌） 第10回：消化と吸収Ⅱ（消化管の運動と吸収） 第11回：排泄系Ⅰ（腎臓の機能） 第12回：排泄系Ⅱ（尿の生成と排泄） 第13回：生殖の生理Ⅰ（性周期とホルモン） 第14回：生殖の生理Ⅱ（生殖器の機能と受精～妊娠・分娩）		
3. 履修上の注意 1 年次に履修可能な生命科学科目の内容を十分に理解していることが望ましい。講義では教科書を用い、重要な部分は板書するので、ノートを用意すること。また、生理学への理解を深めるために、秋学期に設定されている動物生理学Ⅱとのセット履修を推奨している。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後は、各項目で設定されている到達目標を達成できたかを各自で確認し、達成するまで参考書等を用い復習すること。		
5. 教科書 基礎生理学ノート（一粒書房）		
6. 参考書 シンプル生理学（南江堂） 標準生理学（医学書院） 生理学・解剖学（羊土社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各項目に小テストを設けているため、それをもとに理解度を自分自身で判断する。		
8. 成績評価の方法 平常点（指名時の受け答え、授業内の小テスト、小レポートなど）30%、定期試験（持ち込み可）の成績 70%を基本として総合的に評価する。評価方法については、講義中に確認する。		
9. その他 講義に関する質問は動物生理学研究室（5 号館 4 階 5-405 室）で受け付けます。オフィスアワーは別途連絡します。		

科目ナンバー (AG) BBI241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物生理学Ⅱ	2 単位	中村 孝博
2022～2025 年度入学者 動物生理学Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生体機能の中でも統合生理機能を担う神経系・内分泌系についての講義を行う。前半では復習も兼ね生理学領域に必要な遺伝情報の発現・発現調節・転写翻訳についての知識を再確認し、統合生理機能を理解するうえで重要な概日リズム機構について概説する。その後、内分泌系・神経系について詳説する。最終的に分子レベルから生体の機能調節機構を理解するための知識や考え方について解説する。 《授業の達成目標》 「生体の機能調節機構を分子・細胞レベルから説明できる」ことを目標とする。動物生理学Ⅰで理解した各器官の生理機能について個体として機能するための調節の仕組みを、細胞間及び細胞内における生体分子の相互作用と、分子情報の流れという視点から再構築する。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション及び遺伝子の基本構造・機能、遺伝子発現（セントラルドグマ） 第2回：概日リズムの生理学 第3回：内分泌系Ⅰ（ホルモンの基礎） 第4回：内分泌系Ⅱ（各ホルモンの働きⅠ） 第5回：内分泌系Ⅲ（各ホルモンの働きⅡ） 第6回：神経系Ⅰ（中枢神経系・末梢神経系Ⅰ） 第7回：神経系Ⅱ（中枢神経系・末梢神経系Ⅱ） 第8回：神経系Ⅲ（ニューロンの構造・機能と伝導） 第9回：神経系Ⅳ（シナプス伝達と神経ネットワーク） 第10回：感覚系Ⅰ（感覚の一般的性質） 第11回：感覚系Ⅱ（体性感覚・内臓感覚） 第12回：感覚系Ⅲ（特殊感覚） 第13回：筋収縮機構 第14回：生体の機能調節（体温調節，血糖調節）		
3. 履修上の注意 動物生理学Ⅰの内容を理解していることを前提として講義を進めるため、動物生理学Ⅰとのセット履修を強く勧める。講義では配布プリントを用い、重要な部分は板書するので、プリントをまとめるバインダーやノートを用意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後は、各項目で設定されている到達目標を達成できたかを各自で確認し、達成するまで参考書等を用い復習すること。		
5. 教科書 基礎生理学ノート（一粒書房）		
6. 参考書 シンプル生理学（南江堂） インテグレートッドシリーズ生理学（東京化学同人） 標準生理学（医学書院） 生理学・解剖学（羊土社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各項目に小テストを設けているため、それをもとに理解度を自分自身で判断する。		
8. 成績評価の方法 平常点（指名時の受け答え，授業内の小テスト，レポートなど）30%，定期試験（持ち込み可）の成績 70%を基本として総合的に評価する。評価方法については、講義中に確認する。		
9. その他 講義に関する質問は動物生理学研究室（5号館4階 5-405室）で受け付けます。オフィスアワーは別途連絡します。		

科目ナンバー (AG)BB1291J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生殖生物学	2 単位	河野・宮戸
2022～2025 年度入学者 生殖生物学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 有性生殖を営む動物の配偶子形成・受精・初期発生，哺乳類における着床・胎仔発育・性行動などを取り上げ，その機構や特徴などを解説するとともに，生物学的解釈について講義する。さらに，動物生殖の人為的操作の技術内容・意義・応用・課題・展望等について学ぶ。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：不妊症の現状 第2回：減数分裂 第3回：生殖細胞の形成（卵子形成） 第4回：生殖細胞の形成（精子形成） 第5回：生殖細胞の形成（精子形成） 第6回：雌性生殖器の形態と機能 第7回：雄性生殖器の形態と機能 第8回：性周期と性行動 第9回：受精と卵子の活性化 第10回：着床、胎生機構 第11回：初期発生とエピジェネティクス 第12回：性分化 第13回：不妊症・ART 第14回 a：総括 b：試験問題の傾向		
3. 履修上の注意 授業は主にパワーポイントを用いて行い，資料は Oh-o! Meiji にて配布します。授業開始までに各自ダウンロードし，印刷等しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業内容について、Oh-o! Meiji よりダウンロードした資料をもとに教科書や文献等で調べておくこと。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 『繁殖生物学』 日本繁殖生物学会編（インターズー）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回，授業に対する質問・疑問を回収します。皆さんの質問・疑問の一部について，次の授業のはじめに解説・フィードバックをする予定です。		
8. 成績評価の方法 定期試験（100%）にて評価します。毎回出席を取り，欠席回数が5 回以上の場合，受験資格を失うことがあります。		
9. その他 質問のための来室(2 号館 4 階 405 号室) やメール(nkawano@meiji.ac.jp)は随時受け付けます。		

科目ナンバー (AG) BB1231J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生体機構学 I	2 単位	長竹 貴広
2022～2025 年度入学者 生体機構学 I		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生体機構学は体の構造と機能を細胞レベルから個体レベルまで広範に学ぶ動物科学全般の基礎となる学問である。前半は、動物の体を構成する各器官について解説する。後半は、生体機構学で学ぶ各項目（系）のうち、近年重要視されてきている免疫系を特に取り上げ、免疫細胞の分化機構や働きについての基礎を詳説する。 《授業の到達目標》 解剖学的知識を身につけ、免疫系の基礎を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：解剖学用語、細胞と組織 第 2 回：運動器系（骨格系、筋系） 第 3 回：循環器系（血液系、リンパ系） 第 4 回：呼吸器系 第 5 回：消化器系 1（口腔、咽頭、食道、胃） 第 6 回：消化器系 2（小腸、大腸） 第 7 回：消化器系 3（肝臓、膵臓） 第 8 回：泌尿器系 第 9 回：生殖器系 第 10 回：免疫系 1（免疫系概論） 第 11 回：免疫系 2（胸腺の構造と機能、T 細胞分化の仕組み） 第 12 回：免疫系 3（B 細胞分化の仕組み、抗体の構造と機能） 第 13 回：免疫系 4（獲得免疫系） 第 14 回：免疫系 5（自然免疫系）		
3. 履修上の注意 生体機構学 II と合わせて履修することが望ましい。積極的に質問し理解を深めること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した内容については参考書等で復習しておくこと。		
5. 教科書 指定しない。		
6. 参考書 指定しないが参考書の例をあげる。 『人体の構造と機能 第 6 版』上田晃・内田さえ・鍵谷方子・原田彰宏 著（医歯薬出版） 『免疫系のしくみ-免疫学入門- 第 4 版』Lauren Sompayrac 著、桑田啓貴・岡橋暢夫 訳（東京化学同人） 『新 T 細胞のイムノバイオロジー』小安重夫（羊土社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中の質疑応答で行う。		
8. 成績評価の方法 学期末試験のみで評価する。		
9. その他 生体機構学研究室（第一校舎 5 号館 4 階 401 号室） E-mail：nagatake@meiji.ac.jp オフィスアワーは設けないが、質問したい場合は遠慮なく来てほしい。		

科目ナンバー (AG) BB1231J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生体機構学Ⅱ	2 単位	長竹 貴広
2022～2025 年度入学者 生体機構学Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生体機構学Ⅰで学習した基礎を発展させ、より複雑なシステムを形成し統合生理機能を担う内分泌系・神経系・免疫系を扱う。前半は、内分泌系と神経系の構造と機能を解説する。後半は、免疫反応の仕組みと制御についての基礎を詳説する。 《授業の到達目標》 解剖学的知識を身につけ、細胞間情報伝達機構の基礎を理解し、説明できるようになることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：内分泌系1（視床下部、下垂体） 第2回：内分泌系2（甲状腺、副腎など） 第3回：神経系1（神経系の発生、構成） 第4回：神経系2（脳神経） 第5回：神経系3（脊髄、神経伝導路、自律神経系） 第6回：神経系4（脳） 第7回：神経系5（感覚器） 第8回：免疫系1（免疫系概論・復習） 第9回：免疫系2（抗原のプロセッシングと抗原提示） 第10回：免疫系3（免疫細胞の体内動態） 第11回：免疫系4（粘膜免疫機構） 第12回：免疫系5（リンパ組織構築の分子機構） 第13回：免疫系6（ワクチン、アレルギー） 第14回：免疫系7（免疫を制御する腸内環境因子）		
3. 履修上の注意 生体機構学Ⅰと合わせて履修することが望ましい。積極的に質問し理解を深めること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した内容については参考書等で復習しておくこと。		
5. 教科書 指定しない。		
6. 参考書 指定しないが参考書の例をあげる。 『人体の構造と機能 第6版』上田晃・内田さえ・鍵谷方子・原田彰宏 著（医歯薬出版） 『免疫系のしくみ-免疫学入門- 第4版』Lauren Sompayrac 著、桑田啓貴・岡橋暢夫 訳（東京化学同人） 『新T細胞の免疫バイオロジー』小安重夫（羊土社） 『粘膜免疫 腸は免疫の司令塔』清野宏・石川博通・名倉宏 編集（中山書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中の質疑応答で行う。		
8. 成績評価の方法 学期末試験のみで評価する。		
9. その他 生体機構学研究室（第一校舎5号館4階401号室） E-mail：nagatake@meiji.ac.jp オフィスアワーは設けないが、質問したい場合は遠慮なく来てほしい。		

科目ナンバー (AG) CBI211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生体防御学	2 単位	河野 菜摘子
2022～2025 年度入学者 生体防御学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 動物の生体防御について基本的なしくみを理解することを目的とします。 《授業の概要》 私たちの体内には、一生を通じて非自己生物・物質が頻繁に侵入してきます。生体防御システムによって、これらが速やかに取り除かれることで生体恒常性が維持され、そのシステムが破綻すると健康を保つことが難しくなります。授業では様々な動物の生体防御システムを知ると同時に、免疫学が発達してきた背景を学びます。後半では、身近に感じられる免疫システムに着目して解説します。		
2. 授業内容 第1回：生体防御とは 第2回：生体防御の進化（自然免疫） 第3回：生体防御の進化（獲得免疫） 第4回：免疫学誕生の歴史 第5回：非自己認識システム 第6回：抗体産生理論 第7回：記憶する免疫 第8回：自分を攻撃しないしくみ 第9回：アレルギー疾患 第10回：免疫学の新しい課題 第11回：免疫寛容システム（共生細菌） 第12回：免疫寛容システム（経口免疫寛容） 第13回：免疫寛容システム（体内受精・妊娠） 第14回：a：総括、b：定期試験		
3. 履修上の注意 授業は主にパワーポイントを用いて行い、資料は Oh-o! Meiji にて配布します。授業開始までに各自ダウンロードし、印刷等しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業で使用する資料を事前にダウンロードし、教科書等で調べておくこと。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回、授業に対する質問・疑問を回収します。代表的な皆さんの質問・疑問について、次の授業のはじめに解説・フィードバックをする予定です。		
8. 成績評価の方法 定期試験（100%）にて評価します。毎回出席を取り、欠席回数が 5 回以上の場合、受験資格を失うことがあります。		
9. その他 質問のための来室（2 号館 4 階 405 号室）やメール (nkawano@meiji.ac.jp) は随時受け付けます。		

科目ナンバー (AG)BBI291J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物栄養学	2 単位	浅沼 成人
2022～2025 年度入学者 動物栄養学 I		
1. 授業の概要・到達目標 <div class="ql-editor" contenteditable=true>《授業の概要》 動物栄養学では、ヒトも含めた動物全般の栄養に関する基本的な事柄を扱う。内容としては、栄養成分が、生命活動にどう役立つかを説明する。特にヒトやペット動物の場合は健康との関連が重要となるので、この観点との関係性を考察する。また、動物の生命活動には腸内細菌が深く関わることから、腸内細菌がどのように宿主動物の生命活動に関係するかを学習する。 《授業の到達目標》 動物栄養学では、栄養素の特性を知り、それらを摂取することによる健康効果を学ぶ。さらに、消化管に生息する腸内細菌と宿主動物との関わり合い、特に健康増進効果について学ぶ。		
2. 授業内容 <div class="ql-editor" contenteditable=true>第 1 回：栄養学の概要、主要栄養素の栄養効果 第 2 回：微量栄養素（ビタミン、ミネラル）の生理作用 第 3 回：栄養素の消化と吸収 第 4 回：脂肪の消化と吸収 第 5 回：栄養成分の美容効果 第 6 回：腸内細菌とヒトとの関わり合い 第 7 回：腸内細菌とメタボリックシンドローム 第 8 回：腸内細菌とストレス 第 9 回：腸内細菌による有益物質の生成 第 10 回：腸内細菌による有害物質の生成 第 11 回：腸内細菌による発癌抑制 第 12 回：腸粘膜免疫系 第 13 回：腸内細菌による免疫制御 第 14 回：腸内細菌による健康効果のまとめ		
3. 履修上の注意 <div class="ql-editor" contenteditable=true>生命科学科カリキュラムの生化学 I および II、微生物学 I および II、動物生理学 I および II、生体機構学 I および II、生体防御学の単位を修得していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <div class="ql-editor" contenteditable=true>ノートをしっかりとリ、毎回の講義に持参することが望ましい。予習としては、ノートを見直し、前回までの講義内容について頭に入れておくことが望ましい。復習としては、講義時のメモノートの内容を整理し、内容を確認しながら、清書版のノートを再作成することが望ましい。不明な参考用語等については、参考書等で調べることを望ましい。		
5. 教科書 <div class="ql-editor" contenteditable=true>指定無し。特に購入する必要はないが、栄養、ダイエット、腸内細菌、発酵食品、免疫、アレルギー等を取り扱う書籍を積極的に目を通すことが望ましい。また、上記のキーワードを特集した雑誌、TV 番組、web page 等にも関心を持ち、チェックすることが望ましい。		
6. 参考書 <div class="ql-editor" contenteditable=true>・講談社 エssenシャル 栄養化学 佐々木努編集 ISBN978-4-06-523806-6 ・東京化学同人 ヴォート 基礎生化学 第 5 版 ISBN9784807909254 ・実験医学別冊 もっとよくわかる！シリーズ 改訂版 もっとよくわかる！腸内細菌叢 ”もう 1 つの臓器” を知り、健康・疾患を制御する！ 福田真嗣/編 羊土社 (ISBN978-4-7581-2211-5)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 <div class="ql-editor" contenteditable=true>課題レポートについてのコメント対応は、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 <div class="ql-editor" contenteditable=true>課題レポート（60 %）、期末試験（40 %）を基本として総合的に評価します。		

9. その他

<div class="ql-editor" contenteditable="true"> 本講義に関する質問、発展学習の相談等は、春学期期間の月曜日～金曜日のL モジュールの時間帯に、研究室にて受付いたします。

科目ナンバー (AG) CBI321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 神経科学	2 単位	橋本 恵
2022～2025 年度入学者 神経科学		
1. 授業の概要・到達目標 [授業の概要] 神経系の成り立ちや活動の分子メカニズムから、脳高次機能の発現に至るまで、最新の知見を交えながら神経生物学に関する講義を行い、さらに精神・神経疾患発症に関わる分子メカニズムについても紹介する。 [到達目標] 本講義の目的は、脊椎動物が有する中枢と末梢の神経系機能を、分子・細胞・組織・個体といった様々な次元で生物学的に理解することである。まず、神経系の構造や神経伝達の基礎的な仕組みを学び、続いて運動機能や自律神経制御、記憶といった高次機能の成り立ちを知り、疾患についても学ぶ。これにより、神経系が司る身体活動について考察を深める。		
2. 授業内容 第1回：神経科学入門 第2回：脳を構成する細胞 第3回：神経電気信号 第4回：神経伝達 第5回：神経伝達物質 第6回：脳の発生 第7回：神経回路の形成 第8回：感覚 第9回：神経信号が制御する運動 第10回：生体機能調節 第11回：学習と記憶 第12回：神経疾患 第13回：神経免疫 第14回：精神疾患		
3. 履修上の注意 基礎的な細胞生物学、分子生物学の用語は理解している前提で講義を進めます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 レポートを課すので、その課題遂行を通じて予習・復習・調査・考察を行ってください。		
5. 教科書 指定はありません。		
6. 参考書 (1) 工藤 佳久, 改訂版 もっとよくわかる! 脳神経科学～やっぱり脳はとってもスゴイのだ!, 羊土社, ISBN: 4758122105 (2) 岡良隆, 基礎から学ぶ神経生物学, オーム社, ISBN: 4274211959 (3) 宮下保司(監修), カンデル神経科学 第2版, メディカルサイエンスインターナショナル, ISBN: 4815730555		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業への出席状況や積極的参加(30%), 中間レポート(35%), 期末レポート(35%)を基本として総合的に評価します。		
9. その他 講義に関する質問を受け付けるオフィスアワーについては講義中に連絡します。		

科目ナンバー (AG)BI0241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 分子発生学	2 単位	吉田 健一
2022～2025 年度入学者 分子発生学		
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、発生学の歴史を概観するとともに、主要なモデル生物の胚発生について個体発生と系統発生の観点から講述する。具体的には、 1) 一個の受精卵から出発し、 個体形成へと至る生物のボディープランとは何か、 またそれはどのようにして明らかにされたか、 2) シグナルはいかにしてパターンを形成するのか、 3) 細胞分化を決定する因子の作用メカニズムとは、 等について講述する。 本講義の到達目標は以下の3点である。1) モデル生物の胚発生を比較横断的に理解することで、 発生を分子レベルで理解するための知識を身に付ける。また、 2) 動物の発生機構を集団レベルで理解することで、 種分化すなわち進化を理解するための素養を身に付ける。最後に、 3) 人体の初期発生について最新の知見を習得する。		
2. 授業内容 第1回 a：分子発生学とは（イントロダクション） 第2回：体をつくるためのプログラムと共通の遺伝子セット（1） 第3回：体をつくるためのプログラムと共通の遺伝子セット（2） 第4回：動物とは（1） 第5回：動物とは（2） 第6回：個体発生と系統発生をつなぐモデル 第7回：発生と進化 第8回：発生と分化 第9回：キイロショウジョウバエの胚発生（1） 第10回：キイロショウジョウバエの胚発生（2） 第11回：両生類の胚発生 第12回：羊膜類の胚発生 第13回：脊椎動物の器官形成（1） 第14回：脊椎動物の器官形成（2）		
3. 履修上の注意 細胞生物学を履修し、動物細胞に関する基本事項の理解を深めておくことが強く望まれる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前後、教科書と参考書の該当箇所を通読し、理解を深めておくこと。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『ウィルト発生生物学』 F. Wilt/S. Hake 著 赤坂甲治/大隅典子/八杉貞雄 監訳（東京化学同人） 『ウォルパート発生生物学』 L. Wolpert/T. Cheryll 著 武田洋幸/田村宏治 監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に課題に対する総評、解説を加えるなどして適切にフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 授業中に実施する小テスト（50%）、レポート課題（50%）で評価する。		
9. その他 分子発生学研究室（6号館4階410A号室）。		

科目ナンバー (AG)BI0221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生体機能物質学	2 単位	渡辺 寛人
2022～2025 年度入学者 生体機能物質学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 おもに動物の生体機能について概説するとともにそれに関わる物質について化学的側面と生物学的側面から解説を行う。 《授業の到達目標》 われわれが日常摂取する食品にはさまざまな生体機能を調節する因子が含まれる。それら機能因子の構造と機能について理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：生体機能と食品機能因子 第2回：生理活性脂質の構造と機能 第3回：脂質酸化の機構と関連疾患 第4回：生理活性ペプチドの構造と機能 第5回：食品機能因子の研究手法 第6回：腸管における物質透過機構 第7回：薬物代謝 第8回：腸管免疫と食品アレルギー 第9回：糖質の構造と機能 第10回：タンパク質の修飾と機能低下 第11回：活性酸素種と生体機能 第12回：抗酸化物質の構造と機能 第13回：変異原物質 第14回：味覚の情報伝達・まとめ		
3. 履修上の注意 生化学, 有機化学の基礎知識を身につけておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考書や授業中に配布する資料等を活用して予習・復習を行い，不明な点があれば質問すること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 『食と健康』村上・森光編（丸善） 他の参考書については，授業中に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末試験のみで評価する。		
9. その他 生体機能物質学研究室（2号館4階2-401A号室） オフィスアワー：水曜日 12：10～12：50 質問したい場合は，これ以外の時間帯でも遠慮なく来てほしい。 E-mail: hwata@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) BB1221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物細胞生物学	2 単位	吉本 光希
2022～2025 年度入学者 植物細胞生物学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 植物細胞の構造・機能・動態についての基本的知識・理解を得る。オルガネラ機能、さらにオルガネラの相互作用による植物の高次機能発現を理解する。 《授業の概要》 大地に根を張り移動することのできない植物は、動物、微生物にはみられない独自の機能を進化させてきた。本講義では、複雑で多様な植物の高次機能をオルガネラの構造・動態・機能の視点から解説する。		
2. 授業内容 第 1 回：植物の機能特性 第 2 回：葉緑体機能と植物の高次機能発現 第 3 回：ミトコンドリア機能と植物の高次機能発現 第 4 回：ペルオキシソーム機能と植物の高次機能発現 第 5 回：液胞機能と植物の高次機能発現 第 6 回：植物機能に必須なタンパク質の選別輸送 第 7 回：小胞輸送による植物の機能制御（１）液胞へのターゲティングと分泌 第 8 回：小胞輸送による植物の機能制御（２）ゴルジ体でのタンパク質の修飾 第 9 回：小胞輸送による植物の機能制御（３）エンドサイトーシス 第 10 回：植物細胞の機能発現における細胞骨格 第 11 回：細胞内分解系による生体制御（１）ユビキチン-プロテアソーム系 第 12 回：細胞内分解系による生体制御（２）オートファジー 第 13 回：オルガネラ機能制御による植物バイオテクノロジー 第 14 回：a のみ：まとめ		
3. 履修上の注意 必要な資料は授業時に配布する。授業後は配布プリントと下記の参考書で復習して理解を深めることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回の講義の理解を確かめるための小テストを行う場合がある。配布プリントと下記の参考書で復習しておくことが望ましい。		
5. 教科書 特に指定しない。下記の参考書で理解を深めることを勧める。		
6. 参考書 『植物の生化学・分子生物学』Bob B. Buchanan 他 編集（杉山達夫 監修、岡田清孝 他 監訳）（学会出版センター） 『細胞工学』別冊、植物細胞工学シリーズ 17、『植物オルガネラの分化と多様性』西村いくこ 他 監修（秀潤社） 『ユビキチン-プロテアソーム系とオートファジー』田中啓二・大隅良典 編集（共立出版） 他		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストなどの解説については、次講義で行うか、Oh-o! Meiji を通じて配信する場合もあるため、クラスウェブを確認すること。		
8. 成績評価の方法 小テスト・レポート・授業への参加度（30%）および期末試験（70%）により評価する。		
9. その他 生命科学科環境応答生物学研究室（２号館４階 406A 室） 質問などは随時受け付ける。 E-mail : kohki_yoshimoto@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) BBI211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物環境生理学	2 単位	川上 直人
2022～2025 年度入学者 植物環境生理学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 植物が環境を感知して応答するしくみ、および環境と成長との関わりを学び、その生物学的な意味を考える。また、植物が持つ能力・機能を知り、その保全と利用の方策を考える。 《授業の概要》 植物は外界の厳しい環境に対する耐性機構を発達させるとともに、地球の自転や公転などによる環境変化を成長・分化のシグナルとして巧みに利用している。ここでは、物理・化学的な環境を感知し、鋭敏に応答して柔軟に生育する植物の有様を紹介するとともに、組織、細胞あるいは分子レベルで解明されてきた成長制御の仕組みを考え、理解する。		
2. 授業内容 〔第 1 回〕 植物と環境・人と植物 〔第 2 回〕 光と植物 〔第 3 回〕 光の受容と反応 〔第 4 回〕 光情報伝達と植物ホルモン作用の制御 〔第 5 回〕 重力を感知し、反応するメカニズム 〔第 6 回〕 植物の極性とオーキシン 〔第 7 回〕 抗重力屈性 〔第 8 回〕 水と植物 〔第 9 回〕 細胞の伸長と植物ホルモン 〔第 10 回〕 ソース・シンク、老化と物質輸送 〔第 11 回〕 温度と植物 〔第 12 回〕 温度の記憶・エピジェネティクスと花芽形成・低温馴化 〔第 13 回〕 温度の受容と情報伝達 〔第 14 回〕 概日リズム・概日時計と環境応答		
3. 履修上の注意 「植物生命科学」、「分子生物学入門」、「遺伝学」、「生化学Ⅰ」を履修していることが望ましい。また、春学期に「環境応答植物学」、「生化学Ⅲ（植物代謝）」、「植物細胞生物学」、秋学期に「植物機能制御学」、「環境応答生物学」、「分子遺伝学」を併せて履修することを勧める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 普段、何気なく見過ごしている身の回りの植物に目を向け、その柔軟な成長・分化の様子を感じ取る。また、図書館の情報検索機能を活用し、興味を持った事柄を調査し、理解を深める。 講義で取り上げられた話題や、自分自身が興味を持ったことについて、図書館、OPAC、CiNii などを利用してより深く調べる。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 『植物生理学 第 2 版』三村・深城・鶴見編著（2019 年：化学同人） 『エッセンシャル 植物生理学 農学系のための基礎』牧野・渡辺・村井・榊原著（2022 年：講談社） 『絵でわかる 植物の世界』大場監修、清水著（2004 年：講談社） 『新しい植物ホルモンの科学 第 3 版』浅見・柿本編（2016 年：講談社） 『植物まるかじり叢書 2 植物は感じて生きている』瀧澤美奈子著、日本植物生理学会監修（2008 年：化学同人）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 アンケートに寄せられた疑問や質問については、次の回に回答する。また、クラスウェブに寄せられた質問や意見については、随時クラスウェブ等で回答する。		
8. 成績評価の方法 毎回のアンケート 20%、授業に臨む姿勢 20%、定期試験 60%で評価する。		
9. その他 植物分子生理学研究室 5 号館 4 階 403 号室 E-mail: kawakami@meiji.ac.jp		

質問などは随時受け付ける。

科目ナンバー (AG) BBI221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物分子生理学	2 単位	川上 直人
2022～2025 年度入学者 植物分子生理学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 植物の形態形成、成長・分化、環境応答に深く関わる植物ホルモンの代謝や情報伝達メカニズムについて理解を深める。 《授業の概要》 動物のように脳や神経を持たない植物は、植物ホルモンのような低分子化合物を生産・利用することで成長・分化を巧みに制御している。本講義では植物ホルモンの役割を概説するとともに、近年分子遺伝学的手法を用いて明らかにされてきた植物ホルモンの生合成とその調節、作用に至るまでの情報伝達機構について解説する。また、成長・分化を制御する光や温度、乾燥などの環境情報に対する植物の応答と植物ホルモン関わりについても考察する。		
2. 授業内容 〔第 1 回〕 植物の成長・分化・環境応答と植物ホルモン 〔第 2 回〕 ジベレリンの作用と量的調節 〔第 3 回〕 環境要因によるジベレリン作用の制御と情報伝達 〔第 4 回〕 エチレンの作用と合成の制御 〔第 5 回〕 エチレンの情報伝達経路 〔第 6 回〕 アブシシン酸の作用と量的制御 〔第 7 回〕 アブシシン酸情報伝達の分子機構 〔第 8 回〕 アレロパシー、共生・寄生とストリゴラクトン 〔第 9 回〕 ストリゴラクトンの作用と情報伝達 〔第 10 回〕 サイトカイニンの作用と情報伝達 〔第 11 回〕 ブラシノステロイドの作用 〔第 12 回〕 ジャスモン酸の作用 〔第 13 回〕 ペプチド因子とフロリゲン 〔第 14 回〕 植物ホルモンのクロストーク		
3. 履修上の注意 遺伝学、分子生物学、植物科学などの基礎知識があることを前提に講義を進める。このため、関連科目の復習や自習を強く勧める。資料は毎回配布する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に教科書の講義内容に関連する部分を一読しておく。 講義で取り上げられた話題や、興味を持ったことについては、図書館の HP を活用した資料・文献検索（CiNii や Web of Science の活用による和文、原著論文の取得）により理解を深める。基礎的事項の復習や学習は、教科書・参考書を活用するとよい。		
5. 教科書 『新しい植物ホルモンの科学 第 3 版』 浅見・柿本編（講談社）		
6. 参考書 『植物生理学・発生学 原著第 6 版』 テイツ・ザイガー・モラー・マーフィー編、西谷・島崎監訳（講談社） 『植物生理学 第 2 版』 三村・深城・鶴見編著（2019 年：化学同人） 『エッセンシャル 植物生理学 農学系のための基礎』 牧野・渡辺・村井・榎原著（2022 年：講談社） 『絵でわかる 植物の世界』 大場監修，清水著（2004 年：講談社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小レポートなどの課題については、次の回の講義にて回答する。また、クラスウェブに寄せられた質問や意見については、随時クラスウェブ等で回答する。		
8. 成績評価の方法 小レポート 20%、授業に臨む姿勢 20%、定期試験 60%		
9. その他 植物分子生理学研究室：5 号館 4 階 403 号室 E-mail: kawakami@meiji.ac.jp 質問などは随時受け付ける。		

科目ナンバー (AG) BBI221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物工学	2 単位	高橋 直紀
2022～2025 年度入学者 植物工学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 植物工学は植物科学を基盤として、近年大きく発展してきた。本授業では、遺伝子組換えによる植物を改良する技術やその原理についての基礎的な知識に加え、その応用についての専門的な知識を持つことを目標とする。 《授業の概要》 植物の組織培養、細胞融合、遺伝子組換えについての技術やその応用についての分子生物学・生化学的知見を身につけるとともに、遺伝子発現制御技術やゲノム編集技術、そして植物工学の現状と今後について学ぶ。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] 植物細胞の特徴と分化全能性 [第 3 回] 植物培養、プロトプラスト、細胞融合技術 [第 4 回] 植物遺伝子組換え技術 [第 5 回] 遺伝子組換えによる除草剤耐性作物作出の原理 [第 6 回] 遺伝子組換えによる耐病性・耐虫性作物作出の原理 [第 7 回] 温度ストレス耐性植物の原理と応用 [第 8 回] 耐塩性植物の原理と応用 [第 9 回] 植物による環境浄化の原理と応用 [第 10 回] 植物遺伝子の発現制御技術 [第 11 回] 植物のゲノム編集技術 [第 12 回] 遺伝子組換え作物の現状 [第 13 回] 遺伝子組換えと法規制 [第 14 回] 植物遺伝子組換え・ゲノム編集の未来像		
3. 履修上の注意 分子生物学、生化学、植物科学の基礎知識を必要とすることから、未履修の場合は自習する必要がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義前に、事前にクラスウェブにアップロードされる講義資料に目を通しておく。また、講義後に復習をすることで、理解を深めるようにする。不明な部分があれば、積極的に質問すること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『植物工学の基礎』長田敏行編（東京化学同人） 『植物細胞遺伝子工学』多田雄一著（三恵社） 『植物分子生理学入門』横山明穂編（学会出版センター）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回、20 分程度課題に対する解説を行う。		
8. 成績評価の方法 課題提出（30%）、期末試験（70%）により評価する。		
9. その他 研究室：植物適応制御学研究室（第一校舎 2 号館 403 号室）		

科目ナンバー (AG)BI0251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境応答生物学	2 単位	吉本 光希
2022～2025 年度入学者 環境応答生物学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生物の環境応答の基本となる環境因子の認識・受容とその情報の細胞内伝達機構の基本的仕組みを理解することを目的とする。 《授業の概要》 受容体を中心に代表的なシグナル伝達機構について学ぶ。できるだけ典型的な例を用い、基本的理解を深める。		
2. 授業内容 第 1 回：環境応答とは何か 第 2 回：生物の環境応答を支えるシグナル伝達 第 3 回：3 量体 G タンパク質とサイクリック AMP を介したグリコーゲン代謝の制御 第 4 回：3 量体 G タンパク質とホスホリパーゼ C を介するシグナル伝達 第 5 回：Ca ²⁺ を介するシグナル伝達 第 6 回：酵素型受容体：チロシンキナーゼ受容体 第 7 回：酵素型受容体：PI3 キナーゼ系、非受容体型チロシンキナーゼ 第 8 回：酵素型受容体：セリン・スレオニンキナーゼ型受容体、グアニル酸シクラーゼ型受容体など 第 9 回：タンパク分解の制御を含むシグナル伝達系：Notch, Wnt, Hedgehog, NF-κB (1) 第 10 回：タンパク分解の制御を含むシグナル伝達系：Notch, Wnt, Hedgehog, NF-κB (2) 第 11 回：細胞表層受容体を介さないシグナル伝達：脂溶性リガンド受容体と遺伝子発現調節機構 第 12 回：シグナル伝達経路のクロストークとネットワーク 第 13 回：シグナル伝達研究のトピックス 第 14 回：a のみ：まとめ		
3. 履修上の注意 必要な資料は授業時に配布する。授業後は配布プリントと下記の参考書で復習して理解を深めることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回の講義の理解を確かめるための小テストを行う場合がある。配布プリントと下記の参考書で復習しておくことが望ましい。		
5. 教科書 特に指定しない。下記の参考書で理解を深めることを勧める。		
6. 参考書 『分子生物学講義中継 Part2』（羊土社） 『Molecular Biology of The Cell 第 6 版』（Garland Science）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストなどの解説については、次講義で行うか、Oh-o! Meiji を通じて配信する場合もあるため、クラスウェブを確認すること。		
8. 成績評価の方法 小テスト・レポート・授業への参加度（30%）および期末試験（70%）により評価する。		
9. その他 生命科学科環境応答生物学研究室（2 号館 4 階 406A 室） 質問などは随時受け付ける。 E-mail : kohki_yoshimoto@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) BBI281J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境応答植物学	2 単位	賀来 華江
2022～2025 年度入学者 環境応答植物学		
1. 授業の概要・到達目標 高等植物は動物と異なり自由に移動することができない。このため、植物は様々な環境ストレスや生物的ストレスに対応するための独自の仕組みを発達させてきた。植物のシグナル伝達機構や環境応答に関する研究は動物系に比べて遅れているが、動物と共通した機構と植物固有のものがあることが分かり始めている。本講義では植物固有の環境応答機構を中心に、物理・化学的環境、生物的環境に対応するための仕組みを個別に掘り下げ、植物の持つ生存戦略の理解を深めることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション (植物と動物の生き方の相違) 第2回：植物の環境応答 第3回：乾燥ストレスに対する応答 第4回：高温ストレスに対する応答 第5回：低温ストレスに対する応答 第6回：凍傷ストレスに対する応答 第7回：金属ストレスに対する応答 第8回：傷害に対する応急処置 第9回：傷害に対する防御応答 第10回：植物の生存戦略 第11回：植物免疫 第12回：病原菌の逆襲 第13回：防御のシグナル応答 第14回：微生物との共生応答		
3. 履修上の注意 本講義は「植物細胞生物学」及び「植物環境生理学」の講義を合わせて受講することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業において、課題を出題し、それについて文献等で調べること。		
5. 教科書 指定しない。関連する DVD の鑑賞とプリントを配布するが、下記の参考書で理解を深めることを勧める。		
6. 参考書 『植物のシグナル伝達－分子と応答』出版社名：共立出版 『植物における環境と生物ストレスに対する応答』出版社名：共立出版 『細胞工学』別冊、植物細胞工学シリーズ 11, 『植物の環境応答』出版社 名：秀潤社 『Biochemistry and Molecular Biology of Plants』出版社名：(American Society of Plant Physiologists)		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験（70%）、授業中及び提出課題レポート（30%）で評価する。		
9. その他 環境応答植物学研究室（5号館1階107号室）		

科目ナンバー (AG) BBI251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 分子遺伝学	2 単位	渡邊 雄一郎
2022～2025 年度入学者 分子遺伝学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 古典的なメンデル遺伝の法則と分子生物学の理解を起点に、形質と遺伝子発現との関係、そして生命の“表現型”に関係した責任“遺伝子”を特定/クローニングするまでの研究の流れ、考え方を理解する。遺伝的相補、遺伝的 DNA マーカー/SNP、ハプロタイプ、量的形質 (QTL)、GWAS、モデル生物、逆遺伝学といった、最近の生命科学分野で登場する遺伝学の術語/用語 d を理解する。 《授業の概要》 遺伝学の理解は、分子生物学的な解析やゲノム情報の解釈をする上で不可欠である。古典的なメンデルの法則から始まり、分子生物学との関連から顕性/潜性遺伝子がどのような状況なのか、遺伝子がどのような形質を生物に与えているかを解説する。最近の研究の場における遺伝学のアプローチ、染色体上の DNA マーカー、ハプロタイプ、量的形質 (QTL)、比較ゲノミクス、逆遺伝学、エピジェネティクスの基礎についても考察をする。研究の過程に秘められた事実、そこから発せられるメッセージも伝える。モデル生物や有史以来農業の歴史の中で育成されてきた品種、系統の研究から遺伝学的に明らかとなったことなどを紹介する。		
2. 授業内容 第 1 回： 形質とは 表現型（フェノタイプ）と遺伝子型（ジェノタイプ）、比較からの気づき、遺伝用語の確認（交配、顕性と潜性、分離の法則） 分子遺伝学で学んだ遺伝子の構造との関連 第 2 回： 顕性（優性）形質/潜性（劣性）形質と遺伝子との対応 遺伝子、DNA、染色体、ゲノム、複製、転写、翻訳、遺伝子発現調節との関連、ABO 式血液型決定因子の遺伝子の実体 第 3 回： 変異と形質との関係 微生物遺伝学、形質転換、変異、遺伝病の原因、ミュータジェネシス法、スクリーニング、アリル(対立遺伝子)、戻し交配の意義 第 4 回： 掛け合わせと相補 アリルとローカス(遺伝子座)、遺伝子破壊、変異体の単離、交配による allelism test、相補性検定、複数の遺伝子座の関係 責任遺伝子の特定/単離、クローニング、遺伝子治療、cDNA 導入による相補 第 5 回： ゲノム情報と染色体地図、一つの表現型に影響する遺伝子間の関係 連鎖群－染色体、類似遺伝子、 pleiotropism (多面発現性)、サプレッサー変異体の解析、エピスタシス、戻し交配の意義 第 7 回： DNA 多型現象と組換え 交配結果が教えてくれること、ハプロタイプ、DNA 鑑定、SNP 第 8 回： 遺伝子を取る/特定するとはどのようなことか 染色体歩行と責任遺伝子の特定、形質の相補、育種 第 9 回： ゲノム情報からの遺伝学・逆遺伝学的アプローチ トランスポゾンタギングと positional cloning、ミュータントパネル、栽培品種・系統、ゲノム編集、RNAi 第 10 回：微生物の遺伝学、大腸菌 大腸菌、酵母、ゲノム上の遺伝子配置の特徴（原核生物と真核生物の比較） ライブラリーによる相補、発酵、 第 11 回：動物の遺伝学、モデル動物、比較ゲノミクス 線虫、ショウジョウバエ、ゼブラフィッシュ、マウス エピジェネティクス ヒストン/DNA がうける化学修飾とクロマチン状態変化、遺伝子発現 有用遺伝子の探索、家畜の形質の理解そして応用、 GWAS (ゲノムワイド関連解析) 第 12 回：植物の遺伝学、モデル植物 比較ゲノミクス、類似遺伝子、遺伝的冗長性 シロイヌナズナ、イネ、ゼニゴケ、ケミカルジェネティクス 量的形質 (QTL)、類似遺伝子、ホモログ(homolog)、オルソログ(ortholog)、パラログ(paralog) ヒストン/DNA がうける化学修飾とクロマチン状態変化、遺伝子発現 第 13 回：将来の遺伝学と周辺領域の未来 分子生物学との関連確認、プロモーター/エンハンサー再考、オプトジェネティクス（光遺伝学）、 第 14 回： 理解の確認（学期末試験）		
3. 履修上の注意 通常授業時間後に理解を図るため、授業の後に簡単な演習問題（アンケート）、学期途中でのレポート提出を求める。 コンスタントに学習をするつもりで履修して欲しい。にわか勉強でこなそうとしないで欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji システムに 毎回の授業資料を PDF として事前にアップするので、読んだ上で授業に臨むこと。 わからない言葉、専門用語は自主的に調べることも行うことを望む。 さまざまな関連書籍を読んでほしい。		

5. 教科書

『生命と情報—分子遺伝学入門—』東京大学出版会 渡辺雄一郎著

6. 参考書

クロー遺伝学概説（原書第8版）培風館 J. F. クロー著 木村資生，太田朋子訳

物語 遺伝学の歴史 中公新書 平野博之 著

エビジェネティクス 岩波新書 仲野 徹 著

ノーベル賞論文に見る生命科学研究の思考法 道上達男、阿部光知、末次憲之、坪井貴司編 丸善出版

「腹八分目」の生物学 健康長寿の食とはなにか 岩波科学ライブラリー 小幡史明 著

7. 課題に対するフィードバックの方法

個々に受けた質問や提出レポートでの気づいた点を、授業中で出席者全員に対してコメントを共有する。授業で質問を積極的にすること。

8. 成績評価の方法

学期末試験を主体に評価する。授業で課す簡単な演習問題（アンケート）、レポートの提出状況なども加味することがある。

9. その他

日常生活の中で身近な生命現象から遺伝学的に考える素材を考えてみてほしい。

科目ナンバー (AG) BBI221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 植物機能制御学	2 単位	田中 博和
2022～2025 年度入学者 植物機能制御学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 植物は動物とは異なるしくみで多細胞系を構築し、生長や環境応答に関わる独自の制御システムを発達させている。本講義では、植物の高次機能発現を支える細胞の成り立ちや器官形成の分子的背景を理解することを目標とする。 《授業の概要》 本講義では、複雑で多様な植物の高次機能に関わる鍵因子の働きについて、分子遺伝学、細胞生物学、発生生物学の観点から解説する。		
2. 授業内容 第 1 回：植物の機能特性 第 2 回：花器官の形成 第 3 回：植物の生殖と細胞間の認識 第 4 回：植物の胚形成 第 5 回：植物における軸形成 第 6 回：小胞輸送による植物の機能制御 第 7 回：細胞の極性に関わる生体制御 第 8 回：根の構造と機能 第 9 回：根における細胞分化の制御 第 10 回：根の成長と分岐 第 11 回：地上部の分裂組織の構築と機能 第 12 回：分裂と分化の切り替え 第 13 回：地上部の器官における軸と組織分化 第 14 回：a: まとめ		
3. 履修上の注意 理解度を確保するために小テストを行うことがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必要な資料は授業時に配布する。授業後は配布資料と参考書で復習して理解を深めることが望ましい。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『植物の生化学・分子生物学』 杉山達夫 監修、岡田清孝他・監訳（学会出版センター） 『植物生理学』 三村徹郎、鶴見誠二 編著（化学同人）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についてはクラスウェブでフィードバックを行うか、次回以降の講義で解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験（60%）、小テストや授業への貢献度（40%）で評価する。		
9. その他 植物発生制御学研究室（2 号館 4 階 402 号室） 質問等は随時受け付ける。		

科目ナンバー (AG) CBI211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 糖鎖生物学	2 単位	賀来 華江
2022～2025 年度入学者 糖鎖生物学		
1. 授業の概要・到達目標 糖質はこれまでエネルギー源や甘味料の素材，生体組織構築などの面を中心に関心が持たれてきた。一方，最近の研究は糖鎖（糖のつながったもの）が生体内での蛋白質品質管理，細胞内輸送，細胞・生物間相互作用，癌化，分化，受精など様々な生物学的場面で重要な役割を果たしていることを明らかにしている。本講義では，糖鎖の構造と生物機能，糖鎖認識を介した生体制御機構，病気と糖鎖などに関して学び、また、今日的な視点から見た糖鎖の生物学的な機能とその基礎となる糖の生化学について理解することを目的とする。		
2. 授業内容 第1回：糖とは 第2回：糖の基礎化学 第3回：オリゴ糖および糖鎖の構造と解析法 第4回：植物・動物レクチンの特性および疾病と糖鎖 第5回：糖タンパク質の糖鎖：構造と生合成 第6回：糖タンパク質の糖鎖：生物機能 第7回：プロテオグリカン・ペプチドグリカン 第8回：糖脂質 第9回：GPI アンカー型糖鎖 第10回：生活に密着する糖鎖（1） 第11回：生活に密着する糖鎖（2） 第12回：植物の持つ特有な糖鎖と機能 第13回：微生物の持つ特有な糖鎖と機能 第14回：糖鎖に関する課題の発表		
3. 履修上の注意 「化学要論」，「生物有機化学」，「生化学Ⅰ」など，1・2年次において化学系の講義を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業において、課題を出題し、それについて文献等で調べ、発表を行う。		
5. 教科書 指定しない。下記の参考書で理解を深めることを勧める。		
6. 参考書 『わかる実験医学シリーズ ポストゲノム時代の糖鎖生物学がわかる』（羊土社） 『Introduction to Glycobiology 2nd edition』（Oxford University Press） 『コールドスプリングハーバー 糖鎖生物学 第2版』（丸善）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験（70%）、授業中の発表および提出レポート課題（30%）で評価する。		
9. その他 環境応答植物学研究室（5号館1階107号室）		

科目ナンバー (AG)BI0221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 タンパク質科学Ⅰ	2 単位	紀藤 圭治
2022～2025 年度入学者 タンパク質科学Ⅰ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標及びテーマ》 タンパク質は最も重要な生体内分子の一つであり、実に様々な特性・機能を有しているが、これは多様性に富んだ構造と化学的性質に起因するものである。また、タンパク質を対象とする研究手法としては、伝統的な生化学実験に基づくものから最新のプロテオミクス研究まで多岐にわたり、幅広い知識を必要とする。本講義では、タンパク質の性質および機能の多様性について構造および化学的な側面と関連付けて理解するとともに、タンパク質研究のための解析手法について学習することを目標とする。 《授業の概要》 タンパク質の機能の多様性について、構造および化学的性質と関連付けて概説する。またタンパク質を取り扱う実験手法として、精製および機能解析などについてプロテオミクスも含めた幅広い解説を行う。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス・アミノ酸 第2回：タンパク質の分類 第3回：タンパク質の分離と精製（1） 第4回：タンパク質の分離と精製（2） 第5回：精製後の純度評価と定量 第6回：抗体とアミノ酸配列分析 第7回：タンパク質の構造の階層性 第8回：タンパク質の構造と機能 第9回：タンパク質の構造解析法 第10回：フォールディング 第11回：修飾と機能調節 第12回：タンパク質の相互作用 第13回：タンパク質の大規模解析 第14回：まとめと総合解説		
3. 履修上の注意 本科目は、生化学Ⅰ、分子生物学、細胞生物学などとの関連が深いため、これら該当科目の履修が望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 生化学Ⅰ、分子生物学、細胞生物学などの関連科目の内容を事前によく理解しておくこと。講義後に、各回の授業内容の関連事項について適宜参考書に目を通すことで理解を深めること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 「ストライヤー生化学」入村達郎他訳（東京化学同人） 「ポストゲノム時代のタンパク質科学」高木淳一訳（化学同人） 「新・タンパク質精製法」塚田欣司訳（シュプリンガー・フェアラーク社） 「ポストシーケンスタンパク質実験法―構造・機能解析の基礎」大島泰郎他編（東京化学同人） 「ポストシーケンスタンパク質実験法―構造・機能解析の実際」大島泰郎他編（東京化学同人）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義のなかで課題を課すことはほとんどないが、講義内容について質問があった場合には、必要に応じて Oh-o! Meiji クラスウェブにその内容と追加の開設を掲載する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験（80％）と授業での平常点（20％）で評価する。		
9. その他 プロテオミクス研究室（5号館4階402号室）。 kito@meiji.ac.jp。内線：7820		

科目ナンバー (AG) CBI241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 タンパク質科学Ⅱ	2 単位	紀藤 圭治
2022～2025 年度入学者 タンパク質科学Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 タンパク質は生命活動の中核を成す生体分子群であり、多種多様なタンパク質の機能を知することは生命現象の分子レベルでの理解に必要不可欠である。数多くのタンパク質の働きを明らかにするためには、個々の分子に焦点を当てたアプローチだけではなく、生命現象への各分子の関わりを包括的に調べて理解することが重要となる。本講義では、タンパク質やそれらをコードする遺伝子およびその転写産物について、包括的な解析手法を理解するとともに、大規模な解析結果からどのようにしてタンパク質の機能を知ることができるのかを学習する 《授業の概要》 タンパク質や対応する遺伝子およびその転写産物を包括的に解析するアプローチとして、ゲノム研究、トランスクリプトーム解析、プロテオーム解析などの手法について解説する。また、包括的な解析結果から生命現象におけるタンパク質の関わりや機能を知るための考え方を講義するとともに、個別の分子に焦点を当てた生化学または分子生物学的アプローチとも適宜対比させることで、包括的なアプローチの長所および短所についても解説を行う。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 第2回：分子生物学とゲノム解析 第3回：オミクス研究におけるゲノム解析の意義 第4回：トランスクリプトーム解析とその解釈 第5回：クラスタリングと Gene Ontology 解析 第6回：高速 DNA シーケンス解析技術とその応用 第7回：様々なプロテオーム解析方法（1） 第8回：様々なプロテオーム解析方法（2） 第9回：質量分析の原理とタンパク質の同定方法 第10回：質量分析によるタンパク質の定量方法 第11回：質量分析を活用した翻訳後修飾の大規模解析 第12回：タンパク質複合体の解析とその意義 第13回：オミクス解析（網羅的計測）の目指すもの 第14回：まとめと総合解説		
3. 履修上の注意 本科目は、生化学Ⅰ、分子生物学、細胞生物学、などとの関連が深く、またタンパク質科学Ⅰでの内容を理解しているものとして講義を進めるため、これら該当科目の履修が望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 生化学Ⅰ、分子生物学、細胞生物学、タンパク質科学Ⅰなどの関連科目の内容を事前によく理解しておくこと。講義後に、各回の授業内容の関連事項について適宜参考書に目を通すことで理解を深めること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 「ポストゲノム時代のタンパク質科学」高木淳一訳（化学同人） 「ポストシーケンスタンパク質実験法―構造・機能解析の基礎」大島泰郎他編（東京化学同人） 「ポストシーケンスタンパク質実験法―構造・機能解析の実際」大島泰郎他編（東京化学同人）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義のなかで課題を課すことはほとんどないが、講義内容について質問があった場合には、必要に応じて Oh-o! Meiji クラスウェブにその内容と追加の解説を掲載する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験（80％）と授業での平常点（20％）で評価する。		
9. その他 プロテオミクス研究室（5号館4階402号室）。 kito@meiji.ac.jp。内線：7820		

--

科目ナンバー (AG) AGC121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 微生物学Ⅱ	2 単位	松山 晃久
2022～2025 年度入学者 微生物学Ⅱ（生）		
1. 授業の概要・到達目標 ●授業の達成目標及びテーマ 本講義では、主に微生物の代謝および遺伝子工学について取り扱います。 細胞は、多様な酵素反応を用いて様々な物質を他の物質に変換することでエネルギーを産生し、また、逆にそのエネルギーを利用して新たな物質を合成することで生命を維持しています。本講義では、このような微生物細胞内で機能している代謝経路について学び、エネルギー代謝への理解を深めることを目指します。 担当教員は、酵母の全遺伝子を用いた大規模実験系の構築および運用を含む研究に従事し、細胞内代謝をはじめとする多様な細胞内プロセスの解析を行ってきました。また、酵母に加えて、脱窒細菌、微細藻類、糸状菌など、複数の微生物を対象とした研究経験を有しています。どのような生物においても、生命現象の中心には本講義で解説する代謝が位置しており、さらに生命現象を分子レベルで理解するためには、遺伝子やタンパク質を操作する技術が不可欠です。後半では、生命科学分野の研究に欠かせない組換え DNA 技術の基本を学ぶとともに、前半で学習した代謝の制御がどのように行われているのかを分子レベルで理解することを目標とします。 ●授業の概要 多種多様な微生物のエネルギー代謝と制御機構について講述します。また、後半では組換え DNA 技術等の基盤となっている分子遺伝学について講述します。 微生物学ⅠとⅡを続けて履修することは生命科学科の他の専攻科目を理解するうえで大変有益ですが、それぞれ講義内容は大きく異なります。本講義で扱う代謝や DNA 関連のプロセスのほとんどは、微生物だけでなく高等生物にも広く保存されていることから、将来、動物細胞等を用いた研究を希望している学生にとっても非常に重要ですが、本講義では微生物特有の現象・制御機構によりフォーカスした内容を解説します。		
2. 授業内容 【授業内容】 第1回： 概論（代謝と遺伝子工学） 第2回： 代謝とは ー代謝の重要因子ー 第3回： エネルギー代謝1 ー発酵・解糖系ー 第4回： エネルギー代謝2 ーTCA サイクルー 第5回： エネルギー代謝3 ー好気呼吸ー 第6回： エネルギー代謝4 ー嫌気呼吸・光合成（概論）ー 第7回： 微生物における代謝制御機構 第8回： 微生物の遺伝子発現とシグナル伝達 第9回： 分子レベルで見る微生物の代謝制御機構 第10回： 組換え DNA 技術と遺伝子工学1 ー組換え DNA 技術ー 第11回： 組換え DNA 技術と遺伝子工学2 ー宿主・ベクター系ー 第12回： 微生物研究のための遺伝学の基礎 第13回： 酵母を中心とした分子遺伝学 第14回： 組換え DNA 関連技術		
3. 履修上の注意 微生物学は生化学、分子生物学など幅広い分野と連携しながら発展してきたものであるため、これら関連分野の学習も必要です。 高校生物等を履修していない学生についても理解できる平易な内容にするように努めますが、内容がより理解できるようにするために「遺伝学」「分子生物学」等の基本的な生物学の知識を学べる講義の受講をお勧めします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の講義の後に解説動画を提供しますので、復習等に役立ててください。前回までの講義資料の穴埋めを完成させ、理解が追いついていないところは解説動画や参考書等を利用して調べておいてください。		
5. 教科書 特に定めません。各講義の開始時に資料を配付します。資料は白黒印刷となります。 資料は穴埋め式となっていますので、聴講しながら必要事項を記載していき、最後にまとめるとオリジナルの教科書が完成します。資料は紙媒体としてだけでなく、電子ファイル（カラー版）としても提供しますので、事前にタブレット端末等にダウンロードし、講義中に空欄への入力を行うことも可能です。欠席等の理由により資料がない場合も電子ファイルをダウンロードして利用してください。		
6. 参考書 『Q & A で学ぶ やさしい微生物学』 浜本哲郎・浜本牧子著（講談社サイエンティフィク） 『応用微生物学』 塚越規弘編（朝倉書店） 『応用微生物学 第2版』 清水昌、堀之内末治編（文永堂出版） 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1-2巻（ブルーボックス）』（講談社）		

『ヴォート基礎生化学』 田宮信雄他訳（東京化学同人）

7. 課題に対するフィードバックの方法

期末試験やレポート課題に関する解説を Oh-o! Meiji を通じて提供しますので確認してください。

8. 成績評価の方法

出席票の提出により出欠を毎回確認します。期末試験またはレポート課題による評価を行います。授業への参加度 40%, 期末試験またはレポート課題 60% として最終的な成績評価を行います。

9. その他

本講義は「微生物学」と銘打っていますが、講義内容は高等生物にも広く当てはまるものであり、ほぼすべての生物の研究に役立つ基礎的な知識を提供します。そのため、将来、微生物以外の生物を対象とした研究を志す学生にも、本講義の受講を推奨します。

講義に対する質問・相談等は e-mail（akihisa@riken.jp）までお気軽にご連絡下さい。何らかの事情により授業への出席が困難な学生等についても可能な限り対応します。

科目ナンバー (AG) BBI291J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 微生物工学	2 単位	浜本 牧子
2022～2025 年度入学者 微生物工学		
1. 授業の概要・到達目標 微生物が利用されている形体および範囲、伝統的な発酵技術から最先端の代謝制御発酵、微生物を用いた環境修復・浄化、さらにバイオマス資源を利用したエネルギー生産について講述します。 自然界に無数に生息している微生物は、エネルギー代謝をはじめ、実に多種多様な生き物であり、それぞれには優れた潜在能力が備わっています。本講義ではこのような微生物のもつ有用な機能を、農業から工業生産、遺伝子工学、環境問題、エネルギー生産などの幅広い分野で利用している応用微生物学を理解し、知識を身に付けることを達成目標とします。微生物学の基礎を習得することを目標としている微生物学Ⅰ およびⅡ に引き続いて、本講義を履修することにより微生物学の全容が理解でき、生命科学科の他の専攻科目を理解するうえで極めて重要です。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（微生物工学とは） 第1回 b：微生物と産業 第2回：微生物とその扱い① 培地成分 第3回：微生物とその扱い② 顕微鏡（1） 第4回：微生物とその扱い③ 顕微鏡（2） 第5回：有用物質生産と微生物① 培養容器と生産性 第6回：有用物質生産と微生物② うま味物質としてのアミノ酸と核酸 第7回：有用物質生産と微生物③ 乳酸菌とビフィズス菌 第8回：食品開発研究と微生物 第9回：食品の衛生管理と微生物 第10回：抗菌技術と微生物 第11回：排水処理技術と微生物 第12回：バイオテクノロジーと微生物 第13回：クォーラムセンシングとその応用 第14回：a のみ：まとめ		
3. 履修上の注意 微生物学Ⅰ・Ⅱ（生命科学科）、および微生物学に関連の深い生化学、分子生物学も履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に参考書の該当箇所を読み、予習を行うこと。授業後は配付プリントおよび参考書を用いて復習し、理解を深めること。不明な部分があれば授業で質問すること。		
5. 教科書 特に定めません。プリントを配付します。		
6. 参考書 『Q & A で学ぶ やさしい微生物学』浜本哲郎・浜本牧子著（講談社） 『遺伝子・細胞から見た 応用微生物学』阪井康能他 編著（朝倉書店） 『応用微生物学』塚越規弘編（朝倉書店） 『環境微生物学』大森俊雄編（昭晃堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の中で行う。		
8. 成績評価の方法 授業中に実施する課題 20 %、期末試験 80 %		
9. その他 微生物工学研究室（6号館3階301号室）		

科目ナンバー (AG)BI0291J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ウイルス学概論	2 単位	小松 健
2022～2025 年度入学者 ウイルス学概論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ウイルスは歴史上、我々人間に直接的な脅威となるのみならず、家畜や農作物にも感染し被害を及ぼし続けてきた。しかし、新型コロナウイルスの発生とその後の経緯に顕著にあらわれているように、その制御は未だ十分になされているとは言いがたく、今後も人類の脅威となり続けることは間違いない。その一つの原因はウイルスの巧みな宿主への感染戦略と、その宿主の抵抗性に対応した進化にあり、こうしたメカニズムを理解することが本講義の一つの目標である。 さらにウイルスは、その単純なゲノム構成と宿主への依存性から、分子生物学研究のツール・研究対象として利用されてきた歴史があり、さまざまな知見をもたらしてきた。こうした知見には、倫理上・安全管理上研究が難しい動物ウイルス以外で発見されてきたものも多く、多様な宿主のウイルスについて知ることは、いかなる研究を志す学生にも非常に有益であることは間違いない。本講義では、こうした病原体としての脅威ならびに遺伝情報を担う分子としてのウイルスの異なる側面に関する知識と、現代生物学に適用可能な視点を習得可能である。 《授業の概要》 この授業では、ウイルスがこれまで人類にどのように捉えられてきたのか、その生物との違いは何か、という点から説き起こし、ウイルスの種類と特徴、ゲノム構成、その宿主への感染環について概説する。さらに、細菌、動物、植物に感染するウイルスの代表的なものを取りあげつつ、菌類ウイルスや巨大ウイルスなどの研究がもたらしたインパクトについても紹介し受講者の興味の範囲を広げる。さらに、ウイルスがどのように研究されてきてどのような科学知見を人類にもたらしてきたのか、という点についても述べていく。		
2. 授業内容 第1回：ウイルスの発見と人類との戦いの歴史 第2回：ウイルスとは何か 第3回：ウイルスの構造とゲノム核酸 第4回：ゲノム核酸の種類とその複製—Baltimore classification 第5回：ウイルスの進化と分類 第6回：動物ウイルス①・重要ウイルス病の紹介、レセプターによる侵入 第7回：動物ウイルス②・伝搬と免疫応答、レトロウイルスとがん遺伝子 第8回：植物ウイルス・動物ウイルスとの違いと特徴 第9回：菌類ウイルス・マイナーにしてフロンティア 第10回：細菌や古細菌のウイルス・巨大ウイルス 第11回：ウイルスの検出と抗ウイルス薬 第12回：ウイルスの逆遺伝学系とワクチン 第13回：ウイルスの感染戦略を解き明かす先端研究 第14回：講義のまとめ		
3. 履修上の注意 授業の理解のためには分子生物学の知識が必要である。特に、DNA と RNA の違い、遺伝子発現機構、細胞生物学に関する知識を前提として話をするため、楽しく受講するにはそれなりにこのあたりの勉強が好きであったほうがよい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配布するプリント、Oh-o! Meiji にアップする資料等を用いて、講義での疑問点をあらかじめ考えておくこと。講義後は資料に改めて目を通し、理解度を確認しておくこと。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『生命科学のためのウイルス学』下遠野邦忠・瀬谷 司 監訳（南江堂；2012） 『ずかん ウイルス』武村政春・宮沢孝幸 監修（技術評論社；2020）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は特に課さない。質問はメールやフォームで毎回受け付ける。		
8. 成績評価の方法 試験成績（100 点満点）+授業参加度で評価する。 基本的に試験の結果を大きく重んじる。		

9. その他

質問・議論その他は常時メール（akomatsu@cc.tuat.ac.jp）で受けつける。

過去の試験問題は全て公開する。それと類似した問題を出題する。基本的なウイルスの知識を身につけて単位を習得するだけならば試験問題の勉強で可能である。

講義では、ウイルスという不思議で生命科学の最も興味深い対象について、最新の知見や他の分野とのつながりも含めて話をする。毎週1限で、講義内容は決して簡単ではなく話もあちこちに飛ぶが、これまでの講義では飽きたらない興味深いことを学んでみたい、研究室での研究に何か生かしてみたい、という好奇心あふれる学生にはぜひ参加いただきたい。大学の学費に見合うだけのものは提供したいと考えている。

科目ナンバー (AG) CBI291J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生物統計学	2 単位	石井 和雄
2022～2025 年度入学者 生物統計学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生物統計は大学の卒業論文作成時のデータ解析のみならず、この分野で研究を続けていく上で必要不可欠な知識である。社会人となり他分野に就職したときも、生物統計を履修することで得た知識は統計資料から必要な情報を読み取るための有用なツールとなる。近年、統計解析ソフトの高機能化により、実験結果を入力して解析方法を選ぶだけで結果が得られるようになってきた。そのため間違った解析法を選択し、誤った結論を導き出してしまう危険性が高くなっている。さらに、研究のための試験設計を立てるに当たり、統計処理が可能な設計にできなかったために研究自体が無駄になることもある。そこで本講義では、統計の基礎知識を理解するとともに、自らが実験をおこなったときに適切な統計手法を選択することのできる能力を習得することを目標とする。 《授業の概要》 具体的な事例データを用いた演習問題をこなしながら統計処理の基礎的な知識を習得する。		
2. 授業内容 第1回：統計学概論：統計解析法と実験計画法 第2回：基本統計量：平均値、分散など 第3回：データの分類：データの種類とその性質 第4回：分布の種類：分布の基礎と共分散 第5回：統計的検定と推定（1） 第6回：統計的検定と推定（2） 第7回：統計的検定と推定（3） 第8回：多重比較（1）：多重比較の基礎 第9回：多重比較（2）：さまざまな多重比較法 第10回：回帰分析：回帰と相関 第11回：変量解析（1）：多変量解析とは 第12回：変量解析（2）：重回帰分析 第13回：変量解析（3）：主成分分析 第14回：ノンパラメトリック検定		
3. 履修上の注意 √ 計算ができる、計算機を持参のこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 今回の授業内容をあらかじめプリントして配布するので、それを用いて事前に疑問点を整理しておく。さらにプリント内の演習問題を解くことを復習とする。		
5. 教科書 特になし、プリントを配布する予定。		
6. 参考書 『すぐわかる統計処理』 石村貞夫著 （東京図書） 『バイオサイエンスの統計学』 市原清志著 （南江堂） 『SAS による実験データの解析』 竹内啓監修 （東京大学出版会）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末試験と出席で判定する。欠席が3回以上の場合、評価対象としない。		
9. その他 所属：〒305-0901 茨城県つくば市池の台2 畜産草地研究所 家畜育種増殖研究チーム E-mail: kazishi@affrc.go.jp		

科目ナンバー (AG) CBI268J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 バイオインフォマティクス	2 単位	出嶋 克史
2022～2025 年度入学者 バイオインフォマティクス		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 生命科学研究では大規模なデータを効率的に処理・解析する能力が不可欠となっている。本授業では、データベース利用や配列解析に加え、Python を用いたデータ操作・可視化の基礎を習得する。Pandas や Biopython を用いた配列・発現データ処理、RNA-seq 解析の流れ、深層学習を含む最新技術にも触れる。 《授業の概要》 前半では、生命情報データベースの活用法や次世代シーケンス（NGS）データの基礎を学び、Google Colaboratory 上で Python（Pandas、Matplotlib など）によるデータ操作と可視化を行う。中盤では、Biopython を用いた配列操作や BLAST の自動化など、効率的な解析手法を扱う。後半は、実際の RNA-seq データを用いた解析ワークフローを実践し、深層学習による構造予測の基礎も学ぶ。なお、本講義の目的は、生命科学データ解析に必要な基本概念の理解であり、プログラミング習得自体を目的とするものではない。		
2. 授業内容 [第 1 回] ガイダンス：バイオインフォマティクスとは？ [第 2 回] 生命情報データベース [第 3 回] 配列相同性検索 [第 4 回] 次世代シーケンサ(NGS) とオミクス解析 [第 5 回] Python の基礎と Google Colab の使い方 [第 6 回] Pandas を使ったデータ操作の基礎 [第 7 回] バイオデータの可視化：Matplotlib [第 8 回] 総合演習 1 [第 9 回] Biopython で配列操作を自動化する [第 10 回] Biopython で BLAST を自動化する [第 11 回] RNA-seq 解析①_データの前処理と評価 [第 12 回] RNA-seq 解析②_変動遺伝子の抽出とパスウェイ解析 [第 13 回] 深層学習によるタンパク質構造解析 [第 14 回] まとめと総合演習 2		
3. 履修上の注意 バイオインフォマティクス入門、遺伝学、分子生物学などの基礎知識を学習しておくこと。また、PC の基本的操作（ファイルの保存、ウェブサイトの閲覧、キーボード入力など）について、予め理解をしておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji クラスウェブに掲載する各回の授業資料を予め閲覧し、内容の概略について予習をするとともに、各回の課題を通して知識の習熟に努める。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 バイオインフォマティクス入門 第 2 版（慶應義塾大学出版会）2022 年 Python ではじめるバイオインフォマティクス ―可読性・拡張性・再現性のあるコードを書くために（オライリー・ジャパン）2023 年 実験医学別冊 改訂 独習 Python バイオ情報解析（羊土社）2025 年 バイオインフォマティクス：Python による実践レシピ（朝倉書店）2020 年 改訂版 RNA-Seq データ解析 WET ラボのための超鉄板レシピ（羊土社）2023 年 実験医学別冊：Python で実践 生命科学データの機械学習（羊土社）2023 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義もしくは Oh-o! Meiji クラスウェブにおいて課題の解説または講評などを行う。		
8. 成績評価の方法 1～2 回の講義毎に課す演習課題 75%と平常点 25%で評価する。		
9. その他 遺伝情報システム学研究室（6 号館 3 階 6－306）		

科目ナンバー (AG) CBI241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ゲノム機能工学	2 単位	大鐘 潤
2022～2025 年度入学者 ゲノム機能工学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 遺伝子組み換えを基に細胞・個体レベルでゲノムを操作するゲノム工学と、転写調節機構として近年注目されているエピジェネティクスを操作するエピゲノム工学をあわせた、新しい学問としてのゲノム機能工学の基礎について理解することを目標とする。 《授業の概要》 まずこの授業の根幹となる真核生物ゲノムの基本構造や各機能単位の役割とともに、遺伝子組換えによるゲノム工学の基礎について概説する。近年注目され始めたエピジェネティクスについては、様々な DNA、ヒストンへのエピジェネティック修飾、それらの役割、解析法、生物種間でのエピジェネティック制御の共通性や相違について解説する。これらを総合してエピジェネティクスを中心とした細胞分化、個体発生、組み換え遺伝子の発現制御、エピゲノム改変による細胞機能の変化、などについて主にほ乳類での最新の知見を紹介する。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 第2回：ゲノムの基礎1 第3回：ゲノムの基礎2 第4回：ゲノム工学1 第5回：ゲノム工学2 第6回：エピジェネティクスの基礎1 第7回：エピジェネティクスの基礎2 第8回：モデル生物のエピジェネティクス 第9回：ほ乳類のエピジェネティクス 第10回：細胞分化・個体発生とエピジェネティクス 第11回：ゲノム改変とエピジェネティクス 第12回：病気とエピジェネティクス 第13回：エピゲノム改変 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 この授業は「分子生物学入門」「遺伝学」「細胞生物学」の履修を前提に講義を進めるので、必ず理解している必要がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 エピジェネティクスを中心としたゲノム機能工学は、体細胞核初期化や細胞の分化・脱分化・分化転換の分子メカニズムとして近年注目を集めている分野ではあるが、今のところ一冊ですべてをカバーできる教科書がない。専門用語などについても授業中に初めて聞くものがほとんどだと思われるが、授業で使うスライドは Oh-o! Meiji にて閲覧できるようにするので、下に指定する参考書などとともに予習・復習することが望ましい。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 入門書 『エピジェネティクス入門』 佐々木裕之（岩波書店） 『エピジェネティクス-新しい生命像をえがく』 仲野徹（岩波新書） 『エピゲノムと生命』 太田邦史（講談社ブルーバックス） 専門書 『エピジェネティクス：その分子機構から高次生命機能まで』 田嶋正二編（化学同人） 『エピジェネティクスキーワード事典』 牛島俊和，眞貝洋一編（羊土社） 『DNA メチル化研究法』 塩田邦郎，服部中編（学会出版センター）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜、講義中やメールでの質問などに回答する。		
8. 成績評価の方法 定期試験により評価するが、レポート等を課したときはそれも評価対象とする場合がある。		

9. その他

ゲノム機能工学研究室

科目ナンバー (AG)BI0251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 細胞情報制御学	2 単位	戸村 秀明
2022～2025 年度入学者 細胞情報制御学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 シグナル伝達系を構成する個々の要素が、どのようにお互いに作用しあって生命現象を制御しているのかに主眼を置き、解説する。 《授業の到達目標》 細胞情報（シグナル伝達）を「システム」としてとらえ、その「システム」を制御することが、どのように私たちの生活に関わっているのかをグループワーク、プレゼンテーションを通して、理解する。		
2. 授業内容 第 1 回：シグナル伝達とは？ 第 2 回：細胞内シグナル伝達系Ⅰ 第 3 回：細胞内シグナル伝達系Ⅱ 第 4 回：細胞間シグナルⅠ 第 5 回：細胞間シグナルⅡ 第 6 回：シグナル伝達と細胞増殖Ⅰ 第 7 回：シグナル伝達と細胞増殖Ⅱ 第 8 回：シグナル伝達と細胞接着Ⅰ 第 9 回：シグナル伝達と細胞接着Ⅱ 第 10 回：シグナル伝達と細胞周期—概論Ⅰ 第 11 回：シグナル伝達と細胞周期—概論Ⅱ 第 12 回：細胞周期の制御Ⅰ 第 13 回：細胞周期の制御Ⅱ 第 14 回：まとめ 講義内容は必要に応じて変更することがある		
3. 履修上の注意 シグナル伝達系を構成する個々の要素に関しては、すでに理解しているものとして授業を進めるので、「環境応答生物学」を事前に履修しておくことを強く勧める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考書の内容を基準として、自ら他の資料を調べていく必要がある。 また調べたものをまとめて発表してもらう。そのため、資料の下調べと発表準備が事前に必要である。 出席者は各回の発表内容をまとめたものを毎回提出する。		
5. 教科書 特に指定はしない。		
6. 参考書 『分子生物学講義中継 part2』 井出利憲著（羊土社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表後、質疑応答を行い課題に対する理解を深める。		
8. 成績評価の方法 発表・試験により評価する。レポートなどの課題を課した場合は、発表・試験（８０％）、レポート等（２０％）とする。		
9. その他 研究室：細胞情報制御学研究室（５号館４階４０７号室）		

科目ナンバー (AG)BI0241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 動物再生システム学	2 単位	乾 雅史
2022～2025 年度入学者 動物再生システム学		
1. 授業の概要・到達目標 失われた体の一部を回復するという再生現象は多くの動物種で見られるが、その細胞・分子的なメカニズムは多様であり、また種ごと・組織ごとに再生のポテンシャルは大きく異なる。我々ヒトがもつ再生能力は限られているため、生命科学の知識や技術を用いた再生医療による機能の回復が望まれる。本講義では前半に様々な動物の再生現象の分子・細胞メカニズムや研究の歴史、受精卵からの形態形成過程である個体発生の過程について講義する。後半では多能性幹細胞や組織の恒常性を支える幹細胞、発生・再生・幹細胞研究の成果を応用する再生医療について技術的・社会的な側面から現状と課題を講義する。 様々な組織再生メカニズムについて類似点や相違点など分子細胞レベルでの理解を深め、また個体発生、組織再生、再生医療の関係について理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション：動物の再生とは？ 第 2 回：様々な動物の再生：相違点と共通点（ヒドラ、プラナリア、節足動物、脊椎動物） 第 3 回：細胞の分化と形態形成 第 4 回：細胞間コミュニケーション 第 5 回：再生組織の細胞の起源 第 6 回：再生上皮 第 7 回：再生過程の制御因子 第 8 回：再生組織の形態形成 第 9 回：個体発生と組織再生 第 10 回：幹細胞と分化 第 11 回：組織幹細胞 第 12 回：再生医療 1 第 13 回：再生医療 2 第 14 回：再生医療 3		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義後は授業中に配布するレジュメおよび講義のノートを見返し、不明な点があれば次回の授業で質問すること		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 『ギルバート発生生物学』Scott T. Gilbert 著 阿形清和 高橋淑子 監訳 （メディカル・サイエンス・インターナショナル社） 『Principles of Regenerative Biology』Bruce M. Carlson 著 (Academic Press 社) 『幹細胞』ジョナサン・スラック著 八代嘉美 訳 （岩波科学ライブラリー）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の講義で提示される課題について、Oh-o!Meiji を通じて、あるいは次の回の講義でフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 期末試験 70%と授業への貢献度 30%で評価する。		
9. その他 生命科学科・動物再生システム学研究室		

科目ナンバー (AG) CBI394J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生命科学実験Ⅰ	2 単位	浅沼・田中・乾・荒川
2022～2025 年度入学者 生命科学実験Ⅰ		
1. 授業の概要・到達目標 植物、動物および微生物を実験材料として用い、その取り扱い、基本的操作、肉眼および顕微鏡による細胞・組織の観察、生体（または、その一部）を用いた生理機能、有用代謝産物に関する実験を行う。 本実験・実習を習得することにより、植物、動物および微生物の形態、構造および機能の実際を理解するとともに、生体材料の取り扱い、基本的操作、および実験データの解析法を身に付け、生物の基本である観察力を養うことを達成目標とする。		
2. 授業内容 ※この実験授業については3・4 限セットで1 回と記載しています。 第1 回：ガイダンス・安全教育（担当者全員） 第2 回：マウス胚の観察・骨格標本作成（乾） 第3 回：ツメガエル胚・ニワトリ胚の観察（乾） 第4 回：植物の分裂組織と組織切片の観察（田中） 第5 回：植物ホルモンによる細胞・組織の変化（田中） 第6 回：培地作製と無菌操作、微生物の純粋分離（浅沼） 第7 回：皮膚共生菌のスクリーニング、細菌細胞のグラム染色と観察（浅沼） 第8 回：まとめ（担当者全員）		
3. 履修上の注意 ・ 毎回実験に先立って手順や注意点の説明を行うので遅刻しないこと。 ・ 実験用の白衣と実験ノートを必ず用意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実験毎に配付するプリントの該当箇所を事前に読み、次回の実験内容について参考書に目を通し、不明な部分があれば授業で質問すること。授業終了後は、実験ノートを振り返り、実験内容の復習をすること。		
5. 教科書 教科書は指定しない。実験毎にプリントを配付する。		
6. 参考書 『植物生理学』三村徹郎、鶴見誠二 編著（化学同人） 『ギルバート発生生物学』Scott T. Gilbert 著 監訳 阿形清和 高橋淑子（メディカル・サイエンス・インターナショナル社） 『実験応用生命化学』東京大学大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻・応用生命工学専攻編（朝倉書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 実験中、もしくは実験終了後にフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 動物、植物、微生物の3 分野の実験の評価の平均を成績とする。評価方法はレポート7 0 %、平常点3 0 %とする。		
9. その他 レポートの提出期限を厳守すること。 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) CBI394J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生命科学実験Ⅱ	2 単位	大鐘・吉田・高橋・荒川
2022～2025 年度入学者 生命科学実験Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生命の仕組みの本質は化学反応である。従って未知なる生命現象を理解・探究するためには、化学の知識のみでなく、化学の実験手法を熟知し、理論的に展開・立証することが重要で不可欠である。 《授業の到達目標》 本実験では、生命の主要な成分である糖類及び核酸およびタンパク質（酵素）に着目し、様々な化学分析方法を学習するとともに、基礎的な化学実験の実践を通して実験技術を習得することが目標である。		
2. 授業内容 第1回：全体ガイダンス・安全教育 第2回：化学分析用試薬・機器に関する取り扱い技術 第3回：酵素活性の測定 第4回：細胞からの DNA 単離、定量、分析 第5回：化学反応による核酸塩基の変換、検出法 第6回：制限酵素による DNA 切断反応の分析 第7回：制限酵素反応後の切断断片の性状解析 この授業については3・4 限セットで1 回と記載しています。		
3. 履修上の注意 遅刻は認めない。白衣および実験ノートを必ず用意すること。第1 回目の講義にグループ分けを行うので、必ず出席すること。（無断欠席の場合は、履修を断ります。）		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「特別講義：川崎市の下水道の水質規制」の動画を視聴すること。		
5. 教科書 教科書は指定しない。 履修者には実験マニュアルを配布する。		
6. 参考書 特になし。 履修者には実験マニュアルを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 3 教員に提出するそれぞれのレポートと平常点（出欠状況と実験への参加態度）によって評価して成績（100%）とする。3 教員の担当するすべての実験についてレポートを提出しないと成績評価の対象とはなりません。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) CBI394J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生命科学実験Ⅲ	2 単位	吉本・紀藤・出嶋・渡辺麻
2022～2025 年度入学者 生命科学実験Ⅲ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 タンパク質の特性を理解し、その性質を応用した分離・分析と酵素活性の計測を行う。 《授業の到達目標》 本実験では、生体成分に関する研究方法について、その原理を理解するとともに基本的な技術を習得することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回 a のみ：ガイダンス・安全教育（担当者全員） 第2回：タンパク質の分離・精製（イオン交換クロマトグラフィー）①（出嶋） 第3回：タンパク質の分離・精製（イオン交換クロマトグラフィー）②（出嶋） 第4回：タンパク質の分析（SDS-PAGE）①（出嶋） 第5回：タンパク質の分析（SDS-PAGE）②（出嶋） 第6回：タンパク質の同定（データ解析）（出嶋） 第7回：タンパク質の分離・精製①（アフィニティー精製）（紀藤） 第8回：タンパク質の分離・精製②（アフィニティー精製）（紀藤） 第9回：ウエスタンブロッティングによるタンパク質の検出と定量①（紀藤） 第10回：ウエスタンブロッティングによるタンパク質の検出と定量②（紀藤） 第11回：タンパク質の精製効率の解析（紀藤） 第12回：タンパク質の抽出・精製（ゲルろ過クロマトグラフィー）（吉本） 第13回：タンパク質の定量（吉本） 第14回：ザイモグラフィーによるタンパク質分解活性の検出（吉本） 第15回：タンパク質分解酵素の活性測定（吉本） 第16回：タンパク質分解酵素活性の解析（吉本） （この実験は3・4限セットで1回とし記載しており、1週に2回の実験を行います。）		
3. 履修上の注意 化学実験には、特に厳密さと丁寧さが要求されるので、慎重な態度で臨んでほしい。また、単に技術の習得だけでなく、作業を通して知識や理論、あるいは物質についての理解を深めることも実験の重要な目的であるので、関連分野については自身で勉強するのが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配布する実験マニュアルを事前に熟読し、実験操作をよく理解しておくこと。実験後には得られたデータを整理し、実験原理の理解を深めること。		
5. 教科書 使用しない。実験時にマニュアルを配布する。		
6. 参考書 使用しない。実験時にマニュアルを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートなどの課題に対する解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信する場合もあるため、クラスウェブを確認すること。		
8. 成績評価の方法 授業への参加度・授業での平常点およびレポートによって評価する。		
9. その他 オフィスアワーについては別途説明する。		

科目ナンバー (AG) CBI394J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 生命科学実験Ⅳ	2 単位	河野・長竹・橋本・渡辺麻
2022～2025 年度入学者 生命科学実験Ⅳ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 生命科学の分野で行われている様々な研究方法の中から、実験動物を扱う基本的な実験を行う。 《授業の到達目標及びテーマ》 「生命体の成り立ち」を理解するとともに、そのために必要な生命科学研究に関連する実験技能を習得することがテーマである。具体的な到達目標として、（１）実験動物を適切に取り扱い、適切な方法による観察・処置ができる。（２）タンパク質や遺伝子操作に関する基礎知識を持ち、基本的な実験操作ができる。また、到達目標を達成する過程において重要な（３）実験方法の理論的背景、方法、実験結果の処理と報告、考察、レポート作成ができるようになることや、（４）これらの実験技術がどのように展開できるかを考慮に入れ、実験・研究の進め方を習得することも到達目標として設定している。		
2. 授業内容 第 1 週目に、ガイダンスとして本実験に関わる遺伝子組換えや動物実験に関する法令についての説明を含めた安全教育を行い、学生実験の説明、諸注意を与える。実験実施はクラス単位で 3 グループに分かれ、各グループは、橋本、長竹、河野の 3 教員がそれぞれ行う計 5 回のコース（A, B, C）を順番にすべて履修する。 第 1 回：ガイダンス、細胞培養（A：橋本） 第 2 回：培養細胞を用いた細胞生存解析（A：橋本） 第 3 回：マウス中枢神経系の解剖（A：橋本） 第 4 回：脳切片を用いた酵素抗体染色（A：橋本） 第 5 回：脳切片を用いた酵素抗体染色 2 日目（A：橋本） 第 6 回：ガイダンス・マウスの解剖（B：長竹） 第 7 回：マウス組織切片の組織学的解析 1（B：長竹） 第 8 回：マウス組織切片の組織学的解析 2（B：長竹） 第 9 回：ELISA による糞便 IgA の定量 1（B：長竹） 第 10 回：ELISA による糞便 IgA の定量 2（B：長竹） 第 11 回：ガイダンス・データベースの利用方法（C：河野） 第 12 回：マウスの解剖と組織回収（C：河野） 第 13 回：マウスゲノムの精製・PCR（C：河野） 第 14 回：PCR 産物の電気泳動と評価（C：河野） 第 15 回：グループによる実験結果の発表（C：河野） 3 つのグループは、上記の A, B, C のコースを異なった順序・日程で演習する。 実験レポートの提出期限は実験日時、教員毎に異なる。		
3. 履修上の注意 遅刻は欠席と見なし、単位取得には原則として全回出席が必須である。レポートは全てのコースについて提出することが必要条件である。実験に集中し、実験操作の結果を注意深く観察し、結果に至った原因を考察し、自然科学に対する好奇心を育成することが必要である。実験に集中できない学生には退出を命じる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 初回のガイダンス時に配布する実験テキストをあらかじめ熟読し、当日の実験に備えること。また、各実験終了後には実験の結果をまとめ、考察を忘れないこと。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 なし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題レポートに対するコメント対応は、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 成績は 3 教員による成績評価値の平均を持って判定する。教員による成績評価はレポート（50%）、実験中の態度および参加度（50%）で行う。		

9. その他

オフィスアワーは特に定めない。質問等は教員にメールでコンタクトし、適宜に直接の質疑応答を行う。

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 文献調査・特別研究（卒論）	1 単位	生命科学科教員
2022～2025 年度入学者 文献調査・特別研究（卒論）		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 教員の指導のもとで研究テーマを設定し、実験計画を立案し、2 年間にわたって特別研究を遂行する。文献調査では特別研究のテーマに関連した情報の収集を行い、論文や総説などを読解してゼミ形式で発表する。特別研究で得られた実験データをもとに論文を取りまとめ、卒論発表会で発表する。 《授業の到達目標》 特別研究を行うことによって、実験手法を学び、実験結果を解析する能力や問題解決に必要な応用力を身につける。文献調査では、論文読解から科学的な知識を深めるとともに、発表を通じてプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。総合的には自然科学研究を遂行する際の留意点の学習、実験計画を構築する能力の育成が達成目標である。		
2. 授業内容 研究室により研究領域が異なるので、履修者は教員と相談の上で特別研究と文献調査の授業内容を決定する。		
3. 履修上の注意 2 年間の継続履修が必要。研究内容をよく理解し、それに応じた準備学習をしておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究室のテーマおよび関連分野の背景および基礎的事項について、日常的に調査し、理解する。また、研究分野の最新情報に目を配る。		
5. 教科書 特に指定しないが、随時指定する。		
6. 参考書 特に指定しないが、随時指定する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 研究内容のレポートについて、添削したものを共有し、研究の進捗状況と今後の計画について対面で議論する。		
8. 成績評価の方法 研究姿勢、文献の読解力、研究成果の発表、論文を総合的に評価する。		
9. その他		

食料環境政策学科

科目ナンバー (AG) AGE191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食料環境政策学を学ぶ	2 単位	食料環境政策学科教員
2022～2025 年度入学者 食料環境政策学を学ぶ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 食料環境政策学科に所属する専任教員によるオムニバス方式の授業である。よって、各教員が1回ずつ、それぞれの専門分野の立場からこうした「食と農」や「環境と資源」の現代的問題を切り口に、それぞれの学問体系の基礎を平易に概説することが本授業の特徴である。 《授業の達成目標》 今日、めまぐるしく変化する現代経済・社会のなかで、「食と農」「環境と資源」の問題やその社会的役割が改めて問われている。この授業のねらいは、食料環境政策学科でこれから学ぼうとする初学者（1年生）を対象に、主に「食と農」や「環境と資源」をテーマとした部分について、まず社会科学的なものの見方、考え方を身につけ、問題意識を醸成することにある。		
2. 授業内容 第1回(4/13)：イントロダクション（橋口） 第2回(4/20)：農業のもつ特質を経営的な視点で考える（竹本） 第3回(4/27)：途上国の食と農を考える（暁剛） 第4回(5/11)：農村の現場から農業・農村政策の展開を考える（橋口） 第5回(5/18)：食料の貿易と国際ルール（作山） 第6回(5/25)：世界の人口と食料：飢餓と飽食の併存（池上） 第7回(6/1)：フードシステムとはなにか：牛乳・乳製品から考える 第8回(6/8)：つくる人と食べる人をどうつなぐかー大学生の地域連携活動からー（本所） 第9回(6/15)：環境問題は何故生じるかを考える（佐々木） 第10回(6/22)：共有資源と経済、および人間関係（岡） 第11回(6/29)：食ビジネスと持続可能性（中嶋） 第12回(7/6)：農業は環境にやさしいか（藤栄） 第13回(7/13)：食文化について考える（片野） 第14回(7/20)：地域問題と地域ガバナンスを考える（小田切） ※担当教員の校務等の都合で順序が入れ替わることがある。		
3. 履修上の注意 受講生は関心ある分野を見出し、2年次以降のプロジェクトゼミやゼミナールの選択時に役立ててほしい。 ノートと配付資料をまとめるファイルを準備することをお薦めする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、参考書のうち各回の該当箇所（担当教員の執筆箇所）を読んでおくこと。 復習としては、各回の授業内容をノートにまとめること。		
5. 教科書 特になし		
6. 参考書 廣政幸生編著『持続可能性と環境・食・農』（日本経済評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 毎回の授業時のレポートの評価点を合計して成績評価を行う。		
9. その他 各授業回の内容について各回の担当教員まで。 その他問い合わせ先は以下のとおりです。 岡通太郎：m-oka@meiji.ac.jp 暁剛：xiaogang@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGE131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食料環境政策入門	2 単位	作山 巧
2022～2025 年度入学者 食料環境政策入門		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 予備知識を持たない1年生を対象に、日本の食料・農業・農村の現状とそれらに関する政策の動向を中心に講義する。農林水産省に行政官として25年間勤務し、本授業の教科書である『食料・農業・農村白書』も執筆した教員の体験談を随所に交えた講義を行う。また、同白書の最新版を執筆した農林水産省の現役官僚をゲスト講師として招き、特集を解説してもらう。 ＜授業の到達目標＞ 食料・農業・農村の現状を把握した上で、それらが直面する問題点や解決すべき政策的な課題について包括的に学習することによって、2年次以降の専門的な科目の履修に必要な知識を習得する。		
2. 授業内容 第1回 a のみ：イントロダクション 第2回：世界の食料需給と食料自給率 第3回：農業生産の動向 第4回：農業生産資材と輸入の安定化 第5回：農業生産額と農地・担い手の動向 第6回：農業経営の安定と展開 第7回：女性農業者と農業基盤整備 第8回：特集（ゲスト講師の講義） 第9回：農林水産物・食品の輸出促進 第10回：持続的な食料システム 第11回：食料消費の動向 第12回：環境と調和のとれた食料システムの確立 第13回：農村の振興と都市農村交流 第14回：農地の保全と鳥獣被害対策 ※シラバスの執筆時点では教科書が未刊行のため、2025年度の内容を記載している。		
3. 履修上の注意 受講に当たって特段の予備知識は前提としない。毎回の小テストに必要となるスマートフォンやパソコン等の電子機器を持参する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書とそれをベースとした講義資料はクラスウェブに掲載されており、事前に読んだ上で受講すること。また、講義時の小テストと講義後の感想の提出を毎回行う。		
5. 教科書 『令和8年版食料・農業・農村白書』農林水産省編（日経印刷）2026年 ※農林水産省のウェブサイトに掲載されているため、購入は任意である。		
6. 参考書 『知識ゼロからの現代農業入門』八木宏典監修（家の光協会）2019年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答例や代表的な質問に対する回答は、次回授業の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 毎回の授業開始時の着席（25%）、小テストへの解答（50%）、感想の提出（25%）により評価する（定期試験は実施せず、レポート等による事後的な救済も行わない）。		
9. その他 教員の連絡先は sakuyama@meiji.ac.jp である。なお、欠席に関する照会は、第1回講義資料と「シラバスの補足」をよく読んだ上で行うこと。		

科目ナンバー (AG)ECN111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 経済学入門	2 単位	岡 通太郎
2022～2025 年度入学者 経済学入門		
1. 授業の概要・到達目標 ミクロ経済学では需給曲線の意味および市場の失敗、マクロ経済学では景気と失業の理論および成長理論と環境経済政策を軸としつつ理論と実例を交えながら解説する。 ミクロ経済学とマクロ経済学の入門レベルを習得したうえで、現代社会の諸経済課題を理解するのに必要な最新の経済理論学習への基礎作りを目指す。		
2. 授業内容 第1回：ミクロ経済学とマクロ経済学とは何か。交換、希少性、機会費用を中心に。 第2回：需要と供給とは。消費者の限界効用。 第3回：企業の限界費用。市場メカニズム。 第4回：労働市場。独占・寡占は何をもたらすか、なぜ起こるか。 第5回：ゲーム理論。外部性。環境問題の経済学的理解。 第6回：不完全情報の世界と食料環境問題。 第7回：GDP・三面等価の原則。経済書指標の見方。 第8回：有効需要。非自発的失業。ケインズ。 第9回：貯蓄と投資。政府の役割。 第10回：財政政策、IS－LM 分析、金融政策、ハイパワードマネー。 第11回：景気と失業。循環的失業と構造的失業。 第12回：インフレ・デフレ。バブル経済とその崩壊。 第13回：経済成長・国際経済。比較優位。円高・円安の功罪。 第14回：経済政策の実例　まとめ		
3. 履修上の注意 時事問題を事例に解説することが多いので出席を心がけること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回の講義の内容を1行でまとめてくること。		
5. 教科書 井堀利宏『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA		
6. 参考書 特になし		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末に行われる試験において評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG)ECN111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ミクロ経済学	2 単位	中嶋 晋作
2022～2025 年度入学者 ミクロ経済学		
1. 授業の概要・到達目標 食料環境政策に必要なミクロ経済学の基礎について、主に消費者行動、企業行動に焦点を当てて、できるだけ平易に解説する。講義を受け、練習問題を繰り返し解くことで、ミクロ経済学の基礎を習得することを目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション 第 1 回 b：経済学とは何か 第 2 回：経済学の数学基礎<1> 第 3 回：経済学の数学基礎<2> 第 4 回：消費者行動の理論<1> 第 5 回：消費者行動の理論<2> 第 6 回：消費者行動の理論<3> 第 7 回：企業行動の理論<1> 第 8 回：企業行動の理論<2> 第 9 回：企業行動の理論<3> 第 10 回：市場均衡<1> 第 11 回：市場均衡<2> 第 12 回：市場の失敗<1> 第 13 回：市場の失敗<2> 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 微分を多用するが、数学について特別な準備は必要ない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。		
5. 教科書 『ミクロ経済学入門の入門』坂井豊貴著（岩波新書）2017 年 『経済数学入門の入門』田中久稔著（岩波新書）2018 年		
6. 参考書 『ミクロ経済学』芦谷政浩著（有斐閣）2009 年 『ミクロ経済学の力』神取道宏著（日本評論社）2014 年 『ミクロ経済学の技』神取道宏著（日本評論社）2018 年 『改訂版 経済学で出る数学―高校数学からきちんと攻める―』尾山大輔・安田洋祐編著（日本評論社）2013 年 『増補 農業と人間：食と農の未来を考える』生源寺眞一著（岩波書店）2026 年 『農業経済学 第 6 版』荏開津典生・鈴木宣弘著（岩波書店）2026 年 『農業経済論 新版』速水佑次郎・神門善久著（岩波書店）2002 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 レポートおよび学期末試験によって評価する。具体的には、レポート 50%、学期末試験 50%とする。		
9. その他 食ビジネス論研究室（3 号館 4 階 422A 号室） E-mail：anakajim@meiji.ac.jp TEL：044-934-7129		

科目ナンバー (AG)ECN111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 マクロ経済学	2 単位	佐々木 宏樹
2022～2025 年度入学者 マクロ経済学		
1. 授業の概要・到達目標 授業では、マクロ経済学の基本的な専門用語や理論、現実の経済問題と理論の関係性について解説を行う。マクロ経済学のスタンダードテキストである「マンキューマクロ経済学Ⅰ」に従って講義を進める。毎回の講義を受けた後、各自、練習問題を繰り返し解くことが必要。 マクロ経済理論の総合的な理解を通じて、実際の経済問題を理論的に考える能力を身につけることが目標。		
2. 授業内容 [第1回] イントロダクション、科学としてのマクロ経済学 [第2回] マクロ経済学のデータ [第3回] 国民所得：どこから来てどこへ行くのか [第4回] 貨幣システム：どのようなものでどのように機能するか [第5回] インフレーション：原因と影響と社会的コスト [第6回] 開放経済 [第7回] 失業と労働市場 [第8回] 中間試験（第1～7回） [第9回] 景気変動へのイントロダクション [第10回] 総需要Ⅰ：IS－LMモデルの構築 [第11回] 総需要Ⅱ：IS－LMモデルの応用 [第12回] 開放経済再訪：マンデル＝フレミング・モデルと為替相場制度 [第13回] 総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ [第14回] まとめと復習		
3. 履修上の注意 日頃より、経済ニュースに興味を持ち、世の中の経済の仕組みを考えるよう心掛けること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、復習用の練習問題を課すので、各自復習を行うことが必要。		
5. 教科書 『マンキュー マクロ経済学Ⅰ入門篇(第5版)』 マンキュー, N. グレゴリー（東洋経済新報社）2024 年		
6. 参考書 『マクロ経済学』アセモグル・レブソン・リスト著（東洋経済新報社）2019 年 『マクロ経済学 - 入門の「一歩前」から応用まで』平口良司・稲葉大著（有斐閣）2020 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の初めに行う。		
8. 成績評価の方法 講義後の課題（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）を基準として評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG)ECN111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 政治経済学	2 単位	橋口 卓也
2022～2025 年度入学者 政治経済学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 マルクス経済学上、最も著名な書物は、いうまでもなく『資本論』であるが、本講義では、その要点をできるだけ分かりやすく解説するとともに、現代経済・現代社会とを繋ぐ接点についてもふれる。 《到達目標》 本講義で取り扱う「政治経済学」は、古典派経済学の成果を踏襲しつつ、それらへの批判から生まれた「マルクス経済学」的視点に基づく。それは資本主義経済の歴史的理解と、政治体制、経済体制への批判的考察を中心に形成されてきたものである。本講義では単にマルクスの唱えた経済理論をなぞるのではなく、現代社会の抱える諸問題をも視野に入れ、社会事象を複眼的に観察する視点を養うようにしたい。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：「政治経済学」の経済学史上の位置づけ 第3回：資本主義成立期の社会の特徴 第4回：商品とは何か 第5回：価値とは何か 第6回：貨幣とは何か 第7回：資本とは何か 第8回：労働力商品の特殊性 第9回：剰余価値について 第10回：「地代論」の世界 第11回：「政治経済学」的視点からの農業問題―農民層分解― 第12回：「政治経済学」的視点からの農業問題―集団農場― 第13回：「政治経済学」的視点から見た現代社会 第14回：総括と質疑応答		
3. 履修上の注意 内容を理解するために、連続して講義を受講することが望ましい。やむをえず、実習等で欠席した場合も、内容把握に努めること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、原則として、前回講義の終わりに重要なキーワードを提示するので、それらについて事前に自分なりに調べてくること。ノートや配布プリントに基づいて、講義内容を十分に理解するように、復習すること。		
5. 教科書 特に指定しない。必要に応じてプリント等を配布する。		
6. 参考書 ・北村洋基『改定新版 現代社会経済学』（桜井書店、2013 年） ・松石勝彦編著『現代の経済学入門』（同成社、2010 年） ・小幡道昭『経済原論 基礎と演習』（東京大学出版会、2009 年） ・若森章孝・小池渺・森岡孝二『入門・政治経済学』（ミネルヴァ書房、2007 年） 他、適宜、講義の中で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて、次回の講義でコメントや解説を行う。		
8. 成績評価の方法 小テスト等を実施する可能性があるが、それら自体は最終的な成績には反映しない。成績評価は定期試験 100%とする。		
9. その他 《担当教員連絡先》 研究室（第一校舎 3 号館 4 階、3－413A、Tel：044-934-7121） e-mail：hashiguchi.takuya@nifty.com		

科目ナンバー (AG) AGE131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 政策科学入門	2 単位	小田切 徳美
2022～2025 年度入学者 政策科学入門		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 食料環境政策学は「食料」と「環境」という現代的なキーワードに彩られている。しかし、それと同時にこの分野で大切なのは「政策」である。この場合の「政策」とは、国や市町村の施策を意味する狭い概念ではない。むしろ、問題の所在を科学的につきとめ、それに対して「どうしたらよいのか」と問い、解決策を提示し、実践を支援するという幅広い概念である。政策科学とはこうした、問題把握―原因解明―解決策の提示―実践（支援）―解決策の評価という一連の過程を含んでいる。本講義では、様々なトピックス（地域、農業、食料、環境）を取り上げ、それに対してその分野でいかなる処方箋が打ち出されてきたのかという現実を素材として、政策科学の概要を講述する。本講義は「入門」講義であり、食料環境政策学科の1～2年生を主な対象とする。 《授業の概要》 政策科学は問題を抱える「現場」にこそ、存在するものに他ならない。そこで、本講義では食料、環境、農業、地域の各分野のトピックスを取り上げたうえで、生きた政策科学のあり方を検討する。その際、それぞれのトピックの実態認識を深めるため、動画の利用を積極的に行う。		
2. 授業内容 第1回：政策科学とは何か 第2回：食料問題と政策〈1〉－国際貿易 第3回：食料問題と政策〈2〉－食料自給率問題 第4回：農業問題と政策〈1〉－兼業農家問題（前半） 第5回：農業問題と政策〈2〉－兼業農家問題（後半） 第6回：農業問題と政策〈3〉－集落営農問題 第7回：地域問題と政策〈1〉－地域間格差問題 第8回：地域問題と政策〈2〉－中山間地域問題 第9回：環境問題と政策〈1〉－環境保全型農業政策 第10回：環境問題と政策〈2〉－有機農業 第11回：環境問題と政策〈3〉－地球温暖化問題 第12回：政策科学と実態調査 第13回：政策科学と統計分析 第14回：講義の振り返り ※講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 授業中の私語等は厳禁とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で配布するレジュメ（Oh-o! Meiji のクラスウェブを利用する）を再読して、疑問等があれば次回講義の場で質問をしていただきたい（リアクション・ペーパーに書いても可）。 また、次回の内容の目的・目標を講義の最後に触れるので、関連情報の事前収集を予習として行うこと。		
5. 教科書 教科書は指定しない。毎回の講義で配布するプリント等（講義レジュメ）をテキストとする。		
6. 参考書 参考書は指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパーによる感想等の提出を課題とし、そのなかから優れたものや印象的なものは次回に紹介し、さらに質問についても次回講義で積極的に回答する。		
8. 成績評価の方法 1. 学期末試験を行い、それによって評価する（定期試験 100%）。ただし、毎回、講義内容に関する感想（質問も含む）を書くリアクション・ペーパー（課題）の提出機会を作り、その内容が優れたものを、次回の講義で紹介すると同時に、成績の加点要素とする（最大 20%）。 2. 本講義は、食料環境政策学科の「入門」講義であり、1～2年生を主な対象としている。したがって、入門期を修了した同学科の3～4年生は、より高い基準による成績評価となる。		

9. その他

地域ガバナンス論研究室（3号館4階 3-420A）
odagiri@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)S0C111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 社会学入門	2 単位	牧野 修也
2022～2025 年度入学者 社会学入門		
1. 授業の概要・到達目標 社会学は、個人と集団・組織をキー概念として、これらがいかにつながるのかということに着目する学問である。この視点に基づいて、社会関係や社会意識や社会変動を捉え、明らかにしていく。この点を前提として、以下のことを到達目標とする ① 社会と世間の違いを説明できる。 ②個人がいかなる社会的存在であることを説明できる。③個人と集団・組織の関係を説明できる ④ 個別の領域における社会変動の要因と報告制を分析し、説明することができる。④社会学的思考を持って、現実社会を分析できる		
2. 授業内容 [第 1 回] ガイダンス 社会とは何か？ [第 2 回] 社会科学と社会学の関係 [第 3 回] 自我の形成 [第 4 回] アイデンティティ・現代人のアイデンティティの特徴 [第 5 回] 社会的役割と人間関係 [第 6 回] メディアとアイデンティティ [第 7 回] 集団と組織 [第 8 回] 官僚制理論・マクドナルド化・感情労働 [第 9 回] 家族とは何か？—家族モデルの変化 [第 10 回] 家と家族の関係―「家」と「近代家族」 [第 11 回] フェミニズムとジェンダー [第 12 回] 農村社会と都市社会の原型と変容 [第 13 回] 都市化のプロセス [第 14 回] グローバリゼーションと地域社会		
3. 履修上の注意 ①原則として、全回の講義に出席すること ②提出物は期限を厳守すること		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：事前に配付する配付資料・テキストの該当箇所を読む 復習：講義内容をまとめ、疑問点や質問があるかどうかを確認する		
5. 教科書 松本康監修小池靖・貞包英之編 2024『社会学の基礎』有斐閣		
6. 参考書 講義中に適宜提示する・教科書に記載されている参考文献		
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問等については、講義時に口頭で応答する		
8. 成績評価の方法 中間レポート 2 回 10 点×2 合計 20 点 期末試験 80 点		
9. その他 講義の前後しか、大学にいないので、講義前後の教室で質問等がある場合はして下さい。もしくは、開講後に受講者のみに提示するメールにて。ただし、メールの場合は即時の反応はできないので、時間的余裕を持って下さい。		

科目ナンバー (AG) STA111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 統計学入門	2 単位	藤 栄 剛
2022～2025 年度入学者 統計学入門		
1. 授業の概要・到達目標 「ビッグ・データ」や「データ・サイエンス」といった言葉を耳にしたことがある人は多いのではないのでしょうか。現代社会では、これまで以上にデータの情報量が増加し、コンピュータの普及と技術進歩によって、情報処理能力は飛躍的に向上している。多量の情報から、社会現象を説明する規則性や法則性を見だし、それらをベースに企業の販売戦略や政策の立案などの意思決定に活かすためには、統計学の基礎知識は不可欠である。本講義では、統計学の基礎的知識・手法を概説する。本講義の目標は、今後の専門科目の履修、フィールドワーク実習でのデータの取りまとめや卒業論文作成などに、統計学の基本的な考え方を活用できるようになることである。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクションー統計学とはー 第 2 回：度数分布 第 3 回：さまざまな平均 第 4 回：データの散らばり 第 5 回：ローレンツ曲線とジニ係数 第 6 回：相関係数 第 7 回：回帰分析 第 8 回：小括：これまでのふりかえり 第 9 回：確率変数と確率分布 (1) 第 10 回：確率変数と確率分布 (2) 第 11 回：推測統計ー母平均の区間推定ー 第 12 回：仮説検定 (1)ーその考え方ー 第 13 回：仮説検定 (2)ー母平均の検定ー 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 履修にあたって、高度な数学的知識は不要であるが、講義内容を理解するための意欲と努力は不可欠である。講義では、数理的な表現を可能な限り避け、文系学生にとって理解しやすい内容となるよう、努める。なお、高校数学ⅡB 程度の知識があれば、授業内容の理解に資する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 統計学の習得には、演習が重要です。繰り返し演習を行うことで、理解が進みます。配付資料を振り返り、適宜復習すること。特に、数学に苦手意識を持つ者は、復習が必須である。		
5. 教科書 使用しない。変更がある場合には、初回講義時に指示する。		
6. 参考書 白砂堤津耶（2015）『例題で学ぶ 初歩からの統計学 第 2 版』日本評論社。 宮川公男（2022）『基本統計学 第 5 版』有斐閣。 久保克行（2021）『経営学のための統計学・データ分析』東洋経済新報社。 その他参考書については、講義時に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験と講義後の課題で評価する。課題は初回と最終回の講義を除き、原則毎回出します。なお、変更がある場合には、初回講義時に指示する。		
9. その他 資源経済論研究室（3 号館 4 階 3-415A）		

科目ナンバー (AG)MAN191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 経営学入門	2 単位	福原 康司
2022～2025 年度入学者 経営学入門		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 日本の農業を取り巻く経営環境は、現在劇的な変革期にある。高齢化に伴う後継者・労働力の不足、経営規模の小規模化、市場のグローバル化に伴う収益性の低下が問題・課題として指摘され、こうした経営環境の変化に適応するため、法人化、ICT や AI を駆使したスマート農業、6 次産業を通じたブランド化など、具体例をあげれば枚挙に暇がない。こうした状況下にあつて、農業を営む人達が経営学を学ぶことは喫緊の課題と言えるだろう。 本講義では、農業と経営学とを関連付けられる諸理論を取り上げ、初学者でも分かりやすく自分事として捉えられるよう説明する。 〈到達目標〉 経営学の諸理論を農業と結びつけて考えられる思考様式、また経営学の基本的なリテラシーを養い、農業経営に関する書籍や論文を読む際の基本的知識を養うことを達成目標とする。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション [第 2 回] 農業を取り巻く経営環境と適応理論（グループワーク） [第 3 回] 農業を取り巻く経営環境と適応理論（フィードバックと理論的解説） [第 4 回] ビジネスアーキテクチャーと SDGs 経営（グループワーク） [第 5 回] ビジネスアーキテクチャーと SDGs 経営（フィードバックと理論的解説） [第 6 回] 経営戦略（グループワーク） [第 7 回] 経営戦略（フィードバックと理論的解説） [第 8 回] マーケティング（グループワーク） [第 9 回] マーケティング（フィードバックと理論的解説） [第 10 回] 管理の原則と管理者の仕事（グループワーク） [第 11 回] 管理の原則と管理者の仕事（フィードバックと理論的解説） [第 12 回] リーダーシップとモチベーション（グループワーク） [第 13 回] リーダーシップとモチベーション（フィードバックと理論的解説） [第 14 回] まとめ		
3. 履修上の注意 授業はパワーポイントを用いて、適宜タブレット PC や板書に書き込みを行う。パワーポイントのスライドの重要な箇所を空所にした講義ノートを授業内で配布し、スライドを見ながら空所補充してもらうスタイルを採用する。また、講義内容に関連するトピックスについて、定期的にグループワークを行ってもらう。したがって、アクティブラーニングを採用するので、受け身で講義に参加すると単位が危ぶまれるのでご注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布した講義ノートを基に、教科書の内容と照合して予習や復習を行って欲しい。また、グループワークでは事前に予備知識を持ち寄らないとアイデアが思いつかないトピックスもあり、そうした回はグループワークの内容を事前に提示するので、図書館のデータベースを利用して事前学習をしてもらうことになる。		
5. 教科書 特に指定しない		
6. 参考書 佐々木利廣・福原康司編著（2022）『自分事化の組織論』学文社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期的に行うグループワークの内容を電子掲示板にアップロードしてもらうので、その内容についてコメントの付記や口頭でフィードバックを行う。また、素晴らしいアイデアを投稿したグループには加点評価を行う。		
8. 成績評価の方法 授業貢献度（グループワーク）：30～40 点 期末試験：60～70 点 ※期末試験の平均点によってグループワークの授業貢献度の評価割合が変わる		

9. その他

講義に関する問い合わせは、fukuhara@meiji.ac.jp に下さい。

科目ナンバー (AG)ACC111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 会計学入門	2 単位	本所 靖博
2022～2025 年度入学者 会計学入門		
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ ・テーマ：ビジネス社会の3大必須言語の1つ（＝経済がわかる会計）のいろはを学ぶ （1）会計は経済主体が行う経済活動を見える化（情報化）するビジネス言語の1つです。 （2）この言語（会計言語）は簿記という方法で作成され、財務諸表という形で表現されます。 ＜到達目標＞ 簿記のしくみと財務諸表の読み方をマスターし、経済がわかるようにすることを到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回（4/15）：会計へのいざない（授業の進め方と学習の動機づけ） 第2回（4/22）：簿記の基礎（1）：簿記の全体像 第3回（4/29）：簿記の基礎（2）：B/SとP/L 第4回（5/13）：簿記の基礎（3）複式簿記のしくみ 第5回（5/20）：簿記の基礎（4）仕訳と転記 第6回（5/27）：簿記の基礎（5）決算手続き 第7回（6/3）：簿記の基礎（6）商品売買の記帳方法と簿記のまとめ 第8回（6/10）：農業簿記 第9回（6/17）：中間テスト（試験範囲：第2回～第7回） 第10回（6/24）：財務諸表の読み方（1） 第11回（7/1）：財務諸表の読み方（2）－収益性分析の基礎－ 第12回（7/8）：財務諸表の読み方（3）－収益性分析の応用－ 第13回（7/15）：財務諸表の読み方（4）－安全性分析－ 第14回（7/22）：財務諸表の読み方（5）－まとめ－ ※第1回の授業で詳細な授業計画表を配付します。		
3. 履修上の注意 ・初回の授業に出て、学習の動機付けに基づいて履修することと、よい授業にするための環境づくり（座席登録制とメリハリある授業環境）に協力してくれれば、他には特にありません。 ・学習単位によりますが電卓が必要です。期末試験時も電卓があることが望ましいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・毎回のレジュメにある例題、練習問題を復習することが望ましい。 ・簿記や経営分析に関する初学者向けの本を読んでおくとう理解が深まるに役立ちます。		
5. 教科書 教科書は使用せずレジュメを配付します。		
6. 参考書 ・滝沢ななみ著『みんなが欲しかった簿記の教科書 日商3級商業簿記(第13版)』（TAC出版） ・大原簿記学校・日本ビジネス技能検定協会編『農業簿記検定教科書3級（第2版）』（大原出版） ・大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級〔第5版〕』（中央経済社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 コメントカードについてフィードバックコメントを書いて返却する予定です。 中間テストは答案を返却し、解答解説を行います。		
8. 成績評価の方法 ・平常点 40%、中間試験 20%、期末試験 40%で評価する。 ポイント制：合計ポイント（200p）＝平常点（80p）＋試験（120p） ▼平常点： ・コメントカードのやりとり（1回の授業につき 0-5p） ・平常点 64p 以上を S・A の必要最低条件とし、40p 未満は F とします。 ▼テスト：中間試験 40p 満点、期末試験：80p 満点 ただし、期末試験が 40 点未満のものは基準ポイントに達していても F とします。 ▼加点ボーナス：		

農業簿記検定受験または合格者には平常点に加点します。

▼最終成績：

S (180p 以上)、A (160p 以上)、B (140p 以上)、C (120p 以上)、F (120p 未満)、T (未受)

9. その他

研究室：3号館4階の3-412A

E-mail：honjo@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) ECN181J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 社会経済史入門	2 単位	中村 塑
2022～2025 年度入学者 社会経済史入門		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 今から 500 年以上前の大航海時代から現代に至るまでのグローバル・ヒストリー、中でもヨーロッパとアジアの関係に注目する。ヒト・モノ・カネ・情報は地球の上でどのような動きをしてきたのか、また日本は世界とどのような関係を持ってきたのかについて講義する。 授業の到達目標 貧困や飢餓、環境の悪化といった国や地域を超えたグローバルな問題が形成されてきた歴史的過程について理解できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション（グローバル・ヒストリーとは） 第 2 回：アジア域内交易と大航海時代 第 3 回：近世東アジアの国際環境①（中国） 第 4 回：近世東アジアの国際環境②（日本） 第 5 回：インドの植民地化とイギリス 第 6 回：イギリス産業革命 第 7 回：「パクス・ブリタニカ」の時代 第 8 回：アジアの近代化①（中国・タイ） 第 9 回：アジアの近代化②（日本） 第 10 回：アジア経済のモノカルチャー化と再編 第 11 回：両大戦間期の世界経済 第 12 回：両大戦間期の日本経済 第 13 回：戦後世界経済の再建と動揺 第 14 回：授業のまとめ		
3. 履修上の注意 日本史や世界史について特別な準備は必要ない。可能であれば大学入学前に使用した歴史の教科書や参考書等を読み直してほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、参考書の該当箇所を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと。 復習として、講義レジュメをよく見直し、授業中に教員が話したことを振り返ること。		
5. 教科書 指定しない。講義レジュメを配布する。		
6. 参考書 『グローバル経済史入門』杉山伸也（岩波書店）2014 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の中で、小レポートについてコメントをする。		
8. 成績評価の方法 試験（70％）と毎回の講義の最後に実施する小レポート（30％）で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) SOC151J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 社会調査法入門	2 単位	片野 洋平
2022～2025 年度入学者 社会調査法入門		
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、社会調査の基礎知識や方法を習得し、社会調査を実践できる力と社会調査の結果を読みとく力を身につけることを目標とする。 様々な情報や複雑に絡み合う社会を、どのように観察し、どのように分析し、あるいはどのように理解していけばいいのだろうか。もっとシンプルに表現すれば、「事実に基づいて自らの考えを形作ることは」どうしたら可能であろうか。 本講義では、これまで人類が作り上げてきた科学的思考の基礎的な部分のうち、人々や社会を対象とする社会科学の思考様式の基礎的な部分を学習することを狙う。 さらに、本講義で得た知見は、「正しく未来を予測する」（データをもとに原因の推論を行う）「他者の行動の合理性を理解する」といった学生諸君が社会人になったあと役に立つことを想定している。 授業は、1 年生にもわかりやすく興味をもっていただけるように工夫して行う。		
2. 授業内容 第 1 回 内的動機的重要性 授業を受けるうえで得する TIPS 第 2 回 事実と意見 根拠と主張 論拠 第 3 回 素朴な観察と見せ方 1 量的調査の基礎 第 4 回 素朴な観察と見せ方 2 質的調査の基礎 第 5 回 概念化 比較 第 6 回 仮説と問い 第 7 回 相関関係 第 8 回 因果関係 第 9 回 アンケート調査の実際 質的調査の実際 第 10 回 クロス集計 質的調査結果の見方 第 11 回 質的調査の意義と目的 第 12 回 質的調査の分析の実際 第 13 回 読み書きのツボを押さえる 第 14 回 調査でやってはいけない NG 集 これまでの授業のまとめ ※講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本講義が目指すのは、調査研究の目的に応じて、具体的な調査方法を自ら選択し実行できる力を身につけることである。講義で学んだことを実践することがとても大事になるので、授業で学習したことを授業時間以外でも工夫して実践することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習・復習については適宜授業で提示する。 「社会で起きている問題とは何か?」「どうしたら解決できるのか?」といった意識を持って授業に臨むこと。		
5. 教科書		
6. 参考書 ・『創造の方法学』高根正昭 講談社現代新書 ・佐藤郁哉著『社会調査の考え方（上・下）』東京大学出版会 ・西内啓著『一億人のための統計解析』日経 BP 社 上記に加え、必要な場合は授業内で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 小レポートなど課題：20％、テスト：80％ オンライン授業となった場合別途指示する予定である。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGR191J																																
科目名	単位数	担当者																														
2026 年度以降入学者 農学入門	2 単位	農場教員																														
2022～2025 年度入学者 農学入門																																
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農業・食料・環境の社会科学および自然科学を学ぶ学生で、農業技術に関する基礎知識がほとんどない学生が、日本農業の現状を学び、問題点を理解する場とする。受講により農業に対する基礎知識が修得でき、大学における農業技術や農業経営の理解力が向上し、農学教育や研究に寄与することを目的とする。 《授業の概要》 農業の概要を理解するために、稲作・畑作・園芸・工芸・畜産等の様々な形態の農業の基礎知識と肥料や農薬の役割を紹介するとともに、食の安全をめざした環境保全型農業など多様な農業活動を紹介する。さらに地球環境や食料問題などの課題についても紹介し、これからの農業のあり方を考える。																																
2. 授業内容 <table><tr><td>講義内容（仮）</td><td>担当者</td></tr><tr><td>第1回 工芸作物 伊藤</td><td></td></tr><tr><td>第2回 染料植物「ムラサキ」と紫根染 伊藤</td><td></td></tr><tr><td>第3回 野菜栽培の基礎知識 川岸</td><td></td></tr><tr><td>第4回 北海道における良食味米品種の育成 川岸</td><td></td></tr><tr><td>第5回 首都東京の農業 齋藤</td><td></td></tr><tr><td>第6回 野菜の播種、植え付けから収穫まで 齋藤</td><td></td></tr><tr><td>第7回 土壌学1 武田</td><td></td></tr><tr><td>第8回 土壌学2 武田</td><td></td></tr><tr><td>第9回 生育モデルについて 岩崎</td><td></td></tr><tr><td>第10回 生産現場の支援 岩崎</td><td></td></tr><tr><td>第11回 農耕地土壌の現状と施肥技術 鎌田</td><td></td></tr><tr><td>第12回 地域の特徴を活かした農業生産の展開 鎌田</td><td></td></tr><tr><td>第13回 六次産業化と食品加工原理 徳田</td><td></td></tr><tr><td>第14回 六次産業化のトレンド 徳田</td><td></td></tr></table> ※講義内容、講義の順番は、必要に応じて変更することがあります。			講義内容（仮）	担当者	第1回 工芸作物 伊藤		第2回 染料植物「ムラサキ」と紫根染 伊藤		第3回 野菜栽培の基礎知識 川岸		第4回 北海道における良食味米品種の育成 川岸		第5回 首都東京の農業 齋藤		第6回 野菜の播種、植え付けから収穫まで 齋藤		第7回 土壌学1 武田		第8回 土壌学2 武田		第9回 生育モデルについて 岩崎		第10回 生産現場の支援 岩崎		第11回 農耕地土壌の現状と施肥技術 鎌田		第12回 地域の特徴を活かした農業生産の展開 鎌田		第13回 六次産業化と食品加工原理 徳田		第14回 六次産業化のトレンド 徳田	
講義内容（仮）	担当者																															
第1回 工芸作物 伊藤																																
第2回 染料植物「ムラサキ」と紫根染 伊藤																																
第3回 野菜栽培の基礎知識 川岸																																
第4回 北海道における良食味米品種の育成 川岸																																
第5回 首都東京の農業 齋藤																																
第6回 野菜の播種、植え付けから収穫まで 齋藤																																
第7回 土壌学1 武田																																
第8回 土壌学2 武田																																
第9回 生育モデルについて 岩崎																																
第10回 生産現場の支援 岩崎																																
第11回 農耕地土壌の現状と施肥技術 鎌田																																
第12回 地域の特徴を活かした農業生産の展開 鎌田																																
第13回 六次産業化と食品加工原理 徳田																																
第14回 六次産業化のトレンド 徳田																																
3. 履修上の注意 農業、食料、環境等の問題に興味を持って臨むこと。																																
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で取り上げた内容について、関連する書籍、雑誌等を読み、学習するとともに理解を深めること。																																
5. 教科書 特に定めない。必要に応じて資料を配布する。																																
6. 参考書 講義の中で紹介する。																																
7. 課題に対するフィードバックの方法																																
8. 成績評価の方法 各担当教員のレポート（100％）で評価する。																																
9. その他 担当教員の研究室所在地は黒川農場である。																																

科目ナンバー (AG) ENV191J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境学入門	2 単位	コーディネーター：岡・本所
2022～2025 年度入学者 環境学入門		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 持続可能性、持続可能性と農業、GAP、環境問題、里山環境、環境 NPO 活動、循環型社会それぞれについての専門家の方々を講師としてお招きし、分かりやすく環境学について論じていただく。なお、専門家のうち実務経験のある講師については具体的な実務経験およびその経験を活かした教育内容について授業内容に記載する。 《到達目標》 環境学の分野を農学および社会科学の視点から理解することが達成目標である。受講生が農業（自然）に関連した身近な環境について専門家から知識を得て、環境と人間生活の関わりを考えながら、環境問題にどのように対処するかを考察し、2 学年以降に学ぶ科目の基礎としてほしい。		
2. 授業内容 第 1 回 (9/21)：持続可能性とは何だろうか（本学農学部元教授 廣政幸生） 第 2 回 (9/28)：持続可能性と人の行動（本学農学部元教授 廣政幸生） 第 3 回 (10/5)：持続可能性と Well-being（本学農学部元教授 廣政幸生） 第 4 回 (10/12)：持続可能な農業とグローバル GAP（横田コーポレーション合同会社代表 横田敏恭） 1981 年から 2013 年まで 32 年間、農林水産省において植物防疫、生産、農業対策、農林水産技術等の業務に従事、2013 年から独立起業し、GAP 普及推進など農業と法律に強い農業コンサルタントとしての実務経験も有する。こうした経験を踏まえ、持続可能な農業を推進するための環境整備について具体的事例を交えた授業を展開する。第 5 回授業も同様。 第 5 回 (10/19)：農業と農薬一法規制と現状－（横田コーポレーション合同会社代表 横田敏恭） 第 6 回 (10/26)：食料と環境問題（千葉大学名誉教授 小林弘明） 第 7 回 (11/9)：森林資源と環境問題（千葉大学名誉教授 小林弘明） 第 8 回 (11/16)：エネルギー資源と環境問題（千葉大学名誉教授 小林弘明） 第 9 回 (11/23)：里山の環境の成り立ち（本学農学部兼任講師 岡田久子） 第 10 回 (11/30)：都市近郊の環境の成り立ち（本学農学部兼任講師 岡田久子） 第 11 回 (12/7)：NPO が取り組む森林保全活動（認定 NPO 法人 JUON NETWORK 事務局長 鹿住貴之） 大学卒業後、1997 年に全国大学生協同組合連合会で「ボランティア情報ステーション」を担当し、1998 年に設立された都市と農山漁村を結ぶ JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）に参画、1999 年より同事務局長（同ネットワークは同年 NPO 法人となる）として、まちとむらの架け橋となる様々な業務に従事、現在まで認定 NPO 法人職員として様々な市民活動にも携わっている。NPO 法人が行う森林保全・環境保全活動について具体的事例を交えた授業を展開する。第 12 回授業も同様。 第 12 回 (12/14)：日本の環境保全 NPO 活動（認定 NPO 法人 JUON NETWORK 事務局長 鹿住貴之） 第 13 回 (12/21)：循環型社会での食料・農業問題（全国酪農協同組合連合会 丹戸 靖） 本学農学研究科にて 2006 年に博士（農学）の学位を取得以来、現在に至るまで約 20 年以上、全国酪農協同組合連合会において食品廃棄物のリサイクルなど循環型社会に寄与する業務に従事してきた。こうした経験を踏まえ、食と農をめぐる循環型社会推進のための取組について具体的事例を交えた授業を展開する。第 14 回授業も同様。 第 14 回 (1/18)：食品廃棄物のリサイクル化（全国酪農協同組合連合会 丹戸 靖）		
3. 履修上の注意 専門家による講義だが、文系学生にも分かりやすいように依頼してある。 内容は、深く広いので、心得て受けること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回の内容を 1 行で整理してくること		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 教員によって紹介することがある		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 各教員の講義において行うミニ試験かミニレポートによる評価点の算術平均によって総合評価とする。		

9. その他

- ・実務経験のある教員の授業は以下の授業回です
第4回～第5回、第11回～第14回
- ・本授業はT Aが授業運営をサポートします。
- ・オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG) AGE192J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 基礎ゼミ	2 単位	食料環境政策学科教員
2022～2025 年度入学者 基礎ゼミ		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本学科において、今後、学ぶ上での基礎の基礎、いわば、現代版大学生活での学問リテラシーについて学ぶ。 《授業の概要》 学科教員全員が担当するゼミナール形式の少人数授業である。食料、農業、資源、環境の各問題についての基礎的な見方、文献図書の探し方、検索の仕方、情報源である新聞の見方、課題図書を通じた文献の読み方、レポートの作り方、課題の発表の仕方、討論の仕方について、教員の指導により身につける。		
2. 授業内容 第1回：当学科で学びへの誘い（いざない） 第2回：フィールドワーク入門 第3回：新聞の読み方とディスカッションの基本 第4回：新聞の読み方とディスカッションの実践 第5回：図書館利用法（新聞記事検索実習） 第6回：リサーチリテラシー：聞く力 第7回：リサーチリテラシー：読む力と書く力 第8回：文献の読み方とディベートの実践（1） 第9回：文献の読み方とディベートの実践（2） 第10回：図書館利用法（レジュメ・レポート作成・文献検索演習） 第11回：文献の読み方とディベートの実践（3） 第12回：文献の読み方とディベートの実践（4） 第13回：文献の読み方とディベートの実践（5） 第14回：まとめ学習：レポートの作成・提出 ※順番、内容は担当教員によって変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 ゼミナール形式なので、授業へ積極的参加が重要である。 学科として、1年生全員が履修することを推奨する。 ガイダンス期間中にグループ分けと担当教員の割当を発表する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員によって指示された新聞記事および教科書の輪読箇所について事前に読んでおくこと。また、必要に応じてレジュメを作成すること。 この授業で学んだことを参考にして、他の授業科目等で出された課題やレポート作成に取り組むこと。授業で議論したこと（ディスカッションしたこと・ディベートしたこと）をノートにまとめてみたり、他のメンバーと議論を実践してみること。		
5. 教科書 廣政幸生編著『持続可能性と環境・食・農』（日本経済評論社）		
6. 参考書 山形大学基盤教育院編『なせば成る！—スタートアップセミナー学習マニュアル（改訂版）』（山形大学出版会） 世界思想社編集部編『大学生学びのハンドブック（3訂版）』（世界思想社） 山田剛史・林創著『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』（ミネルヴァ書房）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点・授業への参加意欲度（50%）とレジュメ・レポートの内容（50%）によって成績評価を行う。		
9. その他 グループ割当後の問い合わせは各担当教員まで。 その他の問い合わせは先は、以下の教員まで。 岡通太郎：m-oka@meiji.ac.jp 暁剛：xiaogang@meiji.ac.jp		

--

科目ナンバー (AG) AGE192J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 プロジェクトゼミ	0 単位	食料環境政策学科教員
2022～2025 年度入学者 プロジェクトゼミ		
1. 授業の概要・到達目標 プロジェクトゼミでは、リサーチ・リテラシーの定着を図ります。本授業の目標は、3年生以降のリサーチ・ゼミで必要とされる、論理的思考力やリサーチ・リテラシー（聞く力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）の基礎力を高めることにあります。このため、本授業では、ゼミの基本となる文献輪読、リサーチ・リテラシーの基礎学習を行うことで、リサーチ・リテラシーや論理的思考力を涵養します。さらに、各ゼミで設定されるプロジェクトによる基礎的なアクティブ・ラーニングを通じて、リサーチ・リテラシーの定着を図るとともに、論理構築力を養います。		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 文献輪読（1） 第3回 文献輪読（2） 第4回 文献輪読（3） 第5回 文献輪読（4） 第6回 文献輪読（5） 第7回 文献輪読（6） 第8回 リサーチ・リテラシーを磨く（1） 第9回 リサーチ・リテラシーを磨く（2） 第10回 リサーチ・リテラシーを磨く（3） 第11回 プロジェクトとプレゼンテーション（1） 第12回 プロジェクトとプレゼンテーション（2） 第13回 プロジェクトとプレゼンテーション（3） 第14回 プロジェクトとプレゼンテーション（4） ※授業内容は各教員により異なる。		
3. 履修上の注意 7月中旬頃に履修ガイダンスを実施するので、履修希望者は参加必須である。 そのガイダンスで配布する志望届をもとに、2年生春学期までの通算 GPA と希望順位を併用して割当を決定し、秋学期授業開始日一週間前頃に割当結果を発表する。 時間割では木曜日と金曜日に設定されているが、履修できるのは1つだけである。どの担当教員を希望するかは自由である。 少人数のゼミナール形式で行うので、食料・農業・農村・環境・資源問題に興味や関心を持ち、積極的に参加することが必須である。 なお、3年次からのリサーチ・ゼミは11月～12月初め頃にかけて行う説明会および選考によって決定する。すなわち、この「プロジェクトゼミ」が3年次からのゼミナールに自動継続するものではない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員から指定された教科書の輪読箇所は、レジュメ作成当番にかかわらず、事前に読んでおき、議論したいことや自分の考えについてまとめておくこと。 発表当番の際はレジュメやプレゼンファイルを作成すること。 議論したことは論点を整理してまとめノートを作成しておくこと。		
5. 教科書 山田剛史・林創『大学生のためのリサーチ・リテラシー入門：研究のための8つの力』ミネルヴァ書房、2011。ならびに各ゼミ教員が指定する輪読教材。各ゼミ教員が指定する輪読教材は、7月に実施予定の「プロジェクトゼミ履修ガイダンス」で配布する募集要項に記載する。 割当決定後、秋学期授業開始時に丸善明大マート店で購入できるよう受講者人数分の教材を手配する。		
6. 参考書 特になし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各担当教員が授業中にコメント指導する形でフィードバックを行う		
8. 成績評価の方法 平常点（受講態度・授業での発表発言・レポート提出等）によって成績評価を行う。平常点については担当者によって異なるので、初回の授業で説明する。		

9. その他

割当後の問い合わせは各担当教員まで。

その他の問い合わせは先は、以下の教員まで。

岡通太郎 : m-oka@meiji.ac.jp

曉剛 : xiaogang@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE195J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 ファームステイ実習	2 単位	食料環境政策学科教員
2022～2025 年度入学者 ファームステイ実習		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 この実習は、農村において農家に宿泊して農作業に従事し、農家生活の実態に触れ、総合的に現実の農業や農村生活を体得することを目的としている。 《授業の概要》 農家の人々と起居寝食をともにすることによって、経営・家計・生活を総合的に把握し、さらに農村生活の実情に触れ、農業や農村の問題を考え、それによって経験を豊かにし、食料環境政策学の学びに役立ててほしい。		
2. 授業内容 受け入れ実習地側の事情を優先するので、具体的な実習地および実施期間は確定していない。2026 年度に予定している実習地と主な実習内容は以下のとおりである（いずれか一か所に参加することになる）。 (1)5 月上旬：茨城県つくば市・坂東市（田植補助・和牛・その他農作業）（担当：橋口） (2)5 月中下旬：福島県金山町（水稲・エゴマ・赤かぼちゃ）（担当：大江） (3)6 月中下旬の火曜～月曜：愛知県田原市（施設園芸・露地野菜・養豚）（担当：片野） (4)7 月上旬：山梨県笛吹市（桃・ブドウ）（担当：岡） (5)8/1～8/7 の予定：福島県喜多方市・北塩原村（キュウリ・チェリートマト等）（担当：本所） (6)8 月下旬～9 月初め：群馬県嬬恋村（キャベツ）（担当：作山） (7)9 月上旬：岐阜県中津川市（水稲・各種野菜）（担当：高地） (8)9 月下旬：栃木県大田原市・那須塩原市・那須町（水稲・酪農・園芸作物）（担当：佐々木） (9)10 月上旬：新潟県小千谷市（水稲・各種野菜）（担当：小田切） (10)10 月上旬：群馬県板倉町（水稲収穫・キュウリ収穫、出荷・ブロッコリー・その他）（担当：長岡） (11)10 月下旬：千葉県銚子市（キャベツ等）（担当：藤栄） (12)11 月上旬：静岡県東伊豆市（花き・イチゴ等）（担当：中嶋） (13)11 月上旬：長野県下條村（柿収穫・柿皮むき・その他）（担当：長岡） （第 1 回）事前説明会および事前学習 （第 2 回～第 14 回）現地での実習（6 泊 7 日）およびレポート作成		
3. 履修上の注意 この実習は、農繁期に農家に 1 週間泊り込んで行うものである。そのため、積極性と協調性のある学生であることは必須の条件である。 実習前および実習中の病気や事故等について十分注意しなければならない。 年度当初に行う履修説明会において、説明ならびに実習地決定を行う。説明会への遅刻・欠席者の履修は認めないので説明会開催日程（4 月 10 日）の掲示を見落とすことのないよう注意すること。 事前に社会調査法入門・農場実習を受講していることがのぞましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員の指示に基づいて、農業センサス等の統計資料を参考にして事前学習をし、各自の問題意識と参加意識を高めておくこと。 社会調査法入門に基づく聞き取り調査の準備をしておくこと。 授業で学ぶことと現場で学ぶことを結びつけて実習後の学習にも役立てること。		
5. 教科書 教科書は使用しない		
6. 参考書 特になし		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 事前説明会および実習期間中の平常点・実習態度（70%）、実習後の作業日誌およびレポート（30%）により成績評価を行う。		
9. その他 実習先割当後の問い合わせは各担当教員まで。 その他問い合わせ先は次の教員まで。 →岡通太郎：m-oka@meiji.ac.jp		

→曉剛 : xiaogang@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE195J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 海外農業体験	2 単位	池上・暁
2022～2025 年度入学者 海外農業体験		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業は、海外においてその国の農業がいかに行われているのかを、現地の人々や風土に触れて、体得することを目的としている。本授業は、事前学習、1 週間の海外現地実習および現地実習後のレポート作成から構成されている。 《到達目標》 この授業を通して、海外の農業・農村の実態や課題に関する理解が深まることが期待される。		
2. 授業内容 2026 年度は、モンゴル国ウランバートル市およびその周辺において、現地実習を実施する予定である（実施場所については変更もあり得る）。実習時期は6月上旬頃（2025 年度は6月6日～12日）を予定している。 実習時期、実習内容、実施場所等の詳細は、4 月に実施するガイダンスにおいて説明するので、掲示等に注意すること。		
3. 履修上の注意 本授業は、2 年次の学生を対象としている。海外で実習を行う関係上、希望者多数の場合、選抜を行う。海外現地実習への参加費は自己負担である。参加費や実習内容の詳細等については、4 月のガイダンスにおいて説明する。説明会開催日程の掲示等を見落とすことのないよう、注意すること。 本授業は、実際に海外に出かけて行うものであり、現地関係機関や現地の人々の全面的な協力を受けている。そのため、現地関係者に失礼のないよう、また明治大学の学生として恥ずかしくないよう、行動には十分気をつけなければならない。さらに、長期間にわたる集団生活になるので、協調性も必要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4 月のガイダンスにおいて説明する。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 小長谷有紀・前川愛【編著】（2014）『現代モンゴルを知るための 50 章』明石書店。 窪田新一【編著】（2022）『モンゴルはどこへ行く』論創社。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当教員より Oh-o!Meiji 等を利用して説明する。		
8. 成績評価の方法 4 月のガイダンスにおいて説明する。		
9. その他 コーディネーター：暁剛 研究室：3 号館 4 2 3 A 室 連絡先：xiaogang@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGE241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食料貿易論	2 単位	作山 巧
2022～2025 年度入学者 食料貿易論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 食料は、工業品と異なって国内消費の余剰分が輸出される傾向が強いことから、食料貿易の実態を把握するためには、食料需給に関する理解が必要となる。このため本講義では、食料の需給と貿易の現状に関して、（１）貿易の決定要因、（２）世界と日本の現状、（３）個別品目や主要国の主要国の現状、という３つの観点から解説する。 《授業の到達目標》 世界の食料需給の動向と穀物を中心とする食料貿易の現状について学習することによって、それが日本の食料消費や食料需給に与える影響を理解する。		
2. 授業内容 第 1 回 a のみ：イントロダクション 第 2 回：貿易利益と貿易構造の決定要因 第 3 回：産業内貿易と輸出の決定要因 第 4 回：世界の食料需給の動向 第 5 回：世界の食料貿易の動向 第 6 回：世界の食料貿易と持続可能性 第 7 回：日本の食料輸入の動向 第 8 回：日本の食料輸出の動向 第 9 回：日本の食料輸出の促進政策 第 10 回：食料需給の将来予測 第 11 回：とうもろこし貿易と米国 第 12 回：コメ貿易とアジア 第 13 回：大豆貿易とブラジル 第 14 回：小麦貿易とロシア・ウクライナ		
3. 履修上の注意 受講に当たって特段の予備知識は前提としないが、秋学期の「食と農の貿易ルール」を併せて受講することが望ましい。なお、食料貿易論研究室への入室を希望する学生は、2 年次での本科目の受講を求める。 毎回の小テストに必要なスマートフォンやパソコン等の電子機器を持参する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義資料はクラスウェブに掲載されており、事前に読んだ上で受講すること。また、毎回の講義時に関連する新聞記事を輪読し、講義時の小テストと講義後の感想の提出を求める。		
5. 教科書 教科書は使用せず、教員が作成したパワーポイントの資料を用いて講義する。		
6. 参考書 1. 『図解知識ゼロからの食料安全保障入門』平澤明彦・阮蔚・小針美和監修（家の光協会）2024 年（全般） 2. 『現実から学ぶ国際経済学』伊藤萬里・田中鮎夢（有斐閣）2023 年（第 2・3 回） 3. 『おいしい日本の届け方：食品の海外輸出テクニックをわかりやすく解説』農林水産省（Gakken）2025 年（第 9 回） 4. 『地図でスッと頭に入る世界の三大穀物』宮路秀作監修（昭文社）2022 年（第 11～14 回）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答例や代表的な質問に対する回答は、次回授業の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 毎回の小テストへの解答（67％）と感想の提出（33％）により評価する（定期試験は実施せず、レポート等による事後的な救済も行わない）。		
9. その他 教員の連絡先は sakuyama@meiji.ac.jp である。なお、欠席に関する照会は、第 1 回講義資料と「シラバスの補足」をよく読んだ上で行うこと。		

科目ナンバー (AG) AGE241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フードシステム論	2 単位	大江 徹男
2022～2025 年度入学者 フードシステム論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 「フードシステム」とは、農産物・食品の生産から流通、消費までの全過程における商取引全体を指す。「産地の巨大化」と「小売主導の流通再編」によってフードシステムは大きく変化しており、本講義ではこれらの過程の包括的理解を目的とする。 《授業の概要》 最初に流通の基本的な概念、近年の状況について包括的に説明した後に、卸売、小売といった個別テーマについてビデオ等を利用しながら説明する。		
2. 授業内容 [第 1 回] a のみ：イントロダクション（フードシステムで何を学ぶか） [第 2 回] 流通はなぜ必要か―流通の理論的根拠 [第 3 回] 農産物価格の特徴 [第 4 回] 生鮮農産物流通と卸売市場の機能 [第 5 回] 青果物と農協のマーケティング [第 6 回] 大規模経営体と契約生産 [第 7 回] コメの流通と価格形成 [第 8 回] 食肉の流通とブランド化 [第 9 回] 小売業の現状と課題―何が問題なのか [第 10 回] 小売企業の事業戦略―スーパー [第 11 回] 小売企業の事業戦略―コンビニエンスストア [第 12 回] 小売をめぐる論点①（限界地の小売機能） [第 13 回] 小売をめぐる論点②（食品廃棄） [第 14 回] 小売をめぐる論点③（独占禁止法違反）（産地マーケティング）		
3. 履修上の注意 主体的かつ積極的な授業参加が望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義の内容については、身近な小売店等においてどのように実践されているか確認して下さい。		
5. 教科書 特に定めない。必要な資料を Oh-meiji にアップする。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験と毎回講義終了後に提出してもらったコメントで評価する。 定期試験が 70%、コメントが 30%。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) AGE241J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食ビジネス論	2 単位	中嶋 晋作
2022～2025 年度入学者 食ビジネス論		
1. 授業の概要・到達目標 現代の食と農は、人口構造の変化、グローバル化の進展、技術革新、環境制約の強まりなどを背景として、大きな曲がり角に直面している。本講義では、こうした変化を的確に捉えるために、食と農、ならびにそれらを支える社会的・制度的枠組みの現状と課題を体系的に検討する。食生活の変化、食をめぐる産業構造（食ビジネス）、および社会的に必要なとされる制度の形成過程とその背景について、社会科学の視点、特に経済学的視点に基づいて分析し、実証的・理論的に考察できる分析能力と専門知識の修得を目標とする。 まず、分析の基礎枠組みとしてフードシステムの概念を導入し、その構造、機能、主体間関係を整理する。次に、戦後日本における食料消費構造の変遷を数量データに基づいて検討し、近年の特徴や課題を明らかにする。その上で、食を支える農業、食品製造業、流通業、小売業について、産業組織論の視点から市場構造、企業行動、競争政策のあり方を分析する。さらに、近年消費者の関心が集中している食の安全・信頼問題を取り上げ、情報の非対称性、リスク認知、制度設計といった観点から、その問題構造と対応策を検討する。最後に、現代の消費者行動や価値観の変化を踏まえつつ、オルタナティブ・フードシステムの理論的背景と実践的可能性について考察し、持続可能なフードシステムの設計について議論する。		
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション 第1回 b：食ビジネスとは何か 第2回：フードシステムとは何か 第3回：わが国の食料消費<1> 第4回：わが国の食料消費<2> 第5回：農業とフードシステムの連関構造<1> 第6回：農業とフードシステムの連関構造<2> 第7回：食ビジネスの産業組織とゲーム理論<1> 第8回：食ビジネスの産業組織とゲーム理論<2> 第9回：食の安全・安心<1> 第10回：食の安全・安心<2> 第11回：農産物流通 第12回：オルタナティブ・フードシステム：産直・農産物直売所・農業の6次産業化<1> 第13回：オルタナティブ・フードシステム：産直・農産物直売所・農業の6次産業化<2> 第14回：新しい食ビジネス・まとめ		
3. 履修上の注意 数式を使用することがあるが、数学について特別な準備は必要ない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。		
5. 教科書 『よくわかる食物学：食への誘い』藤原葉子編著（朝倉書店）2026 年		
6. 参考書 『フードシステムの経済学 第6版』時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博著（医歯薬出版）2019 年 『増補 農業と人間：食と農の未来を考える』生源寺真一著（岩波書店）2026 年 『食の安全と安心の経済学』中嶋康博著（コープ出版）2004 年 『食べる経済学』下川哲著（大和書房）2021 年 『日本流通史：小売業の近現代』満園勇著（有斐閣）2021 年 『お酒の経済学：日本酒のグローバル化からサワーの躍進まで』都留康著（中公新書）2020 年 『新しい市場のつくりかた』三宅秀道（東洋経済新報社）2012 年 『食糧と人類：飢餓を克服した大増産の文明史』ルース・ドフリース著、小川敏子訳（日本経済新聞出版）2016 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 レポート、平常点（毎回のミニレポート）および学期末試験によって評価する。具体的には、レポート 20%，平常点 30%，学期末試験 50%とする。		

9. その他

食ビジネス論研究室（3号館4階422A号室）

E-mail : anakajim@meiji.ac.jp

TEL : 044-934-7129

科目ナンバー (AG) AGE261J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食料農業社会学	2 単位	片野 洋平
2022～2025 年度入学者 食料農業社会学		
1. 授業の概要・到達目標 私たちは日常生活の中で、数多くの選択や判断を行っています。しかし、その背景にある社会の仕組みや地域とのつながりを、十分に意識する機会は多くありません。とりわけ、私たちの食や農を支えてきた地域社会をめぐっては、近年、大きな変化が生じています。我が国全体に見られる人口減少に加え、人々の都市への移動、少子高齢化の進行などにより、地域社会は、これまで前提とされてきた条件が成り立たなくなる中で、存続や変化のあり方そのものを問い直される状況に置かれています。こうした変化は、地域社会の将来像だけでなく、私たちが当然のものとしてきた社会の見方にも影響を及ぼしています。 私たちは誰もが、特定の時代や社会、制度の中で育ち、その前提を「自然なもの」「動かしがたいもの」として身につけています。しかし、それらの前提は、地域社会の状況が変化するにつれて、必ずしも自明なものとして成り立ち続けるとは限りません。それらは決して中立的なものではなく、ある歴史的・社会的条件のもとで形づくられてきたものです。 本授業では、そうした前提を否定するのではなく、それがどのような過程を経て成立してきたのかを理解することで、自分自身の立っている視点や判断の基準を、一段引いた位置から捉え直すことを目指します。具体的には、「地域社会は今後どのようなかたちで存続し、変化していくのか」という問いを軸に、授業を進めていきます。その際、社会学者・鶴見和子の内発的発展論を議論の出発点とし、さらに近年発展が著しい科学技術社会論（STS）の知見を補助線として用いながら、政策や制度、技術がどのような社会理解を前提に成り立っているのかに目を向け、地域社会の在り方を多角的に考察します。 そのうえで本授業では、内発的発展論が提示してきた視点を踏まえつつ、制度や制約のもとで人びとが行ってきた工夫や実践に注目し、それらを捉えるための概念として「内発的創造性」を位置づけ直すことを、学問上の到達点とします。受講者は本授業を通じて、今後の地域社会の在り方について理解を深めるとともに、自らが属している社会や制度を一つの見方に固定せず、判断や選択を行う際に、その前提や限界を意識できる視点を身につけることをゴールとします。		
2. 授業内容 第1回：地域社会はなぜ、社会の未来を先取りしているのか 人口減少・都市化・高齢化から考える社会の変化 なぜ「地域」を見るのか 地域社会で起きている変化（人口減少・移動・少子高齢化） 地域は「遅れた場所」ではなく、社会変化の先行事例 第2回：内発的発展論とは何か 鶴見和子の問題意識 成長・開発中心の発展観を問い直す なぜ従来の「発展」観では地域を説明できなくなったのか 第3回：内発的発展論とは何か 柳田国男・南方熊楠・折口信夫・今西錦司 内発的発展論の射程と限界 第4回：科学技術社会論（STS）とは何か 技術・制度・政策はなぜ中立ではないのか STSの基本的な考え方 知識・制度・技術に埋め込まれた社会理解 第5回：STSから見た制度・分類・評価 なぜ「正しい制度」が現場で機能しないのか 分類・標準・指標・専門知 第6回：STSは現場をどう読むのか 制度と実践のズレを捉える視点 ブラックボックス化 翻訳・調整・やりくり 第7回：内発的発展から内発的創造性へ 制度の制約下で生まれる工夫と実践 内発的発展論の再整理「内発的創造性」という概念の導入 なぜ新しい概念が必要なのか 第8回：なぜ放置される土地が生まれたのか 空き家・耕作放棄地・放置山林の背景 第9回：土地制度と生活実践のズレ 日南町における土地利用の現実 第10回：地域社会と教育の課題 都市型教育モデルは地域でどう翻訳されたのか 第11回：教育現場における内発的創造 制度の制約下で生まれた実践 翻訳・調整・関係づくり		

第12回：地域医療をめぐる制度と実践
資源不足の中で何が問題になるのか
制度疲労と現場の工夫

第13回：内発的創造性とは何か

土地・教育・医療の事例から概念を再構成する

第14回：まとめと今後の課題

地域社会から、社会全体の未来を考える

※講義内容は、受講者の関心や進度に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

地域社会で現在起きている問題は、遠い場所の特別な出来事ではなく、今後、都市に暮らす私たち自身の生活や働き方にも、時間差で現れてくる課題であると言われています。本講義では、地域社会の問題を、将来のどこかで直面するかもしれない自分自身の選択や判断の問題として捉え直すことを通じて、受講生が主体的に考えながら学ぶことを期待します。

授業では資料を適宜配布しますが、議論の流れや気づきを自分の言葉で整理するために、ノートをきちんと取ることを求めます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業の復習を通じて、各人が授業内容を理解するとともに、各人が授業で扱った課題に対する自分なりの解答を見出す努力を行うことを期待する。

5. 教科書

特に指定しない

6. 参考書

片野洋平『放置資産がコミュニティを毀損する：地域社会に放置された家屋・農地・山林をどう管理するのか』ミネルヴァ書房 2024

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

リアクションペーパー（20%）、期末試験（80%）で評価する。
オンライン授業となる場合別途指示します。

9. その他

食料農業社会学研究室（3号館4階416A号室）

ご質問やわからないことがあれば下記までご連絡ください。

katano@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE231J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農業政策論	2 単位	橋口 卓也
2022～2025 年度入学者 農業政策論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 農業政策の目的と必要性について講義した後、戦後の日本経済の変化と農業政策の対応について、できるだけ多くの歴史的事象などを紹介しながら解説を加えていく。その際には、当時のイメージが湧くような画像・動画なども提示するようにしたい。 《到達目標》 本講義では、主として戦後の日本の農業政策の展開過程をたどりながら、日本経済の変化の中で、農業政策それ自体と、その位置づけがどのように変化してきたのかを理解することを到達目標とする。また、現在は戦後の日本の農業政策展開の中でも一大転換期に当たっていると言える。できるだけ現在の政策課題をめぐる論点についても触れ、その背景と目的について理解できることも到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：農業政策の目的と必要性 第3回：日本における農業・農村の経済的位置とその変化 第4回：戦前の日本農業の姿 第5回：大戦後の混乱期の農業政策の動揺 第6回：高度成長期までの農業政策の展開 第7回：第1次高度成長と基本法農政 第8回：第2次高度成長と総合農政 第9回：高度成長の破綻と地域農政の登場 第10回：経済構造調整と市場主義農政 第11回：世界貿易体制と国際化対応農政 第12回：国際化対応農政下での新たな政策手法の展開 第13回：農政転換と農業政策の展望 第14回：総括と質疑応答		
3. 履修上の注意 他の科目では、「森林・水産政策論」との関連が深い。農林水産業、第1次産業のことを全体的に学びたい場合には、併せて受講することを薦める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、原則として、前回講義の終わりに重要なキーワードを提示するので、それらについて事前に自分なりに調べてくること。ノートや配布プリントに基づいて、講義内容を十分に理解するように、復習すること。		
5. 教科書 特に指定しない。必要に応じてプリント等を配布する。		
6. 参考書 『農業・食料問題入門』田代洋一著（大月書店、2012 年） 『日本農政の 50 年』北出俊昭著（日本経済評論社、2001 年） 『現代農業政策論』増田萬孝著（農林統計協会、1998 年） 『食と農の戦後史』岸康彦著（日本経済新聞社、1996 年） 他、適宜、講義の中で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて、次回の講義でコメントや解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験の内容と密接に関連する小テストやレポートを実施する可能性があるが、それら自体は最終的な成績には反映しない。成績評価は定期試験 100%とする。		
9. その他 《担当教員連絡先》 研究室（第一校舎 3 号館 4 階、3-413A、Tel：044-934-7121） e-mail：hashiguchi.takuya@nifty.com		

科目ナンバー (AG) AGE221J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農業マネジメント論	2 単位	竹本 田持
2022～2025 年度入学者 農業マネジメント論		
1. 授業の概要・到達目標 「マネジメント」には管理、管理手腕、処理能力などの意味があり、多くの場合「経営」という言葉が充てられます。本講義における「農業マネジメント」では、農業のマネジメントを中心として、農村（地域）のマネジメントも含まれます。 農業のマネジメントは、農村における個別経済主体としての農業経営の行動メカニズムを、社会経済条件と関連させつつ理解することを目指します。農村（地域）のマネジメントは、個別農業経営の多様性を前提として、地域としての成長・発展戦略を担う主体について事例を交えて考えます。 農業・農村をとりまく諸条件の現状を視野に入れつつ、マネジメントの基礎的知識を習得するため、ビデオや事例紹介資料などもトピックとして使いながら、できるだけ具体的に講義します。また、最近では実施できていませんが、可能であれば現場で活躍する人から直接お話しいただく機会をつくりたいと思います。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（農業とは、マネジメントとは何か） 第2回 農業経営の特質 第3回 家族経営の特徴 第4回 経営費と生産費 第5回 規模と集約度 第6回 経営の単一化と複合化 第7回 経営多角化の論理 第8回 農業経営の法人化 第9回 企業の農業参入 第10回 地域のマネジメント 第11回 地域資源を活用したアグリビジネス 第12回 都市における農業振興 第13回 農業経営の支援組織と政策 第14回 講義内容の総括とポイント整理		
3. 履修上の注意 農業経営や地域農業に関する問題に関心を持ち、積極的な姿勢で受講して下さい。毎回、講義のリアクションペーパー（ビデオ等の感想文を含む）の提出を求め、成績評価に反映します。 3年次に農業マネジメント論ゼミを履修しようと考えている人は、この講義を2年次に履修して下さい。 また、秋学期「農業経営の発展と地域農業」は本講義と深く関わりますので、あわせて履修するようにしてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布するレジュメ、統計等の資料を読み返して、用語や仕組みへの理解を深めて下さい。 新聞等で、農業経営や地域農業に関わる記事に目を通し、現状を把握するよう努めるようにして下さい。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 『食料・農業・農村政策の動向』（食料・農業・農村白書） 『農業経営者の時代』金沢・稲本・八木編（農林統計協会） 『ゼミナール経営学入門』伊丹・加護野著（日本経済新聞社） 『未来を語る日本農業史』野田公夫著（昭和堂） 他にも授業において紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に提出されたリアクションペーパーの記述からピックアップして、次回講義の最初に説明や補足を行います。		
8. 成績評価の方法 授業中に提出されたリアクションペーパー（30%）、授業への貢献度（10%）、中間ミニテスト（20%）、学期末試験（40%）によって評価します。中間ミニテストを行わなかった場合は、リアクションペーパー（40%）、授業への貢献度（10%）、学期末試験（50%）で評価します。		
9. その他 オフィスアワー：木曜日（不定期）15 時 30 分～16 時 30 分 農業マネジメント論研究室（3 号館 4 階 3-417A） takemoto@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGE231J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 国際農業経済論	2 単位	暁 剛
2022～2025 年度入学者 国際農業経済論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 経済のグローバル化が進むなかで、農業経済学の社会的役割が改めて問われている。農業の最も重要な役割は、食料供給（量的にも・質的にも）であるが、他方では水や土地の制約といった資源・環境問題を抱えている。本授業では、食料・農業・農村の実態に関する知識や理論について学ぶ。 《授業の目標》 本授業の目標は、日本をはじめとする世界の食料・農業・農村にかかわる主要な問題を、経済学的に理解することにある。本授業を受講することで、農業経済学の知識と理論を身につけることができる。		
2. 授業内容 第1回：農業経済学とは 第2回：農業部門の相対的縮小 第3回：食料の需要と供給 第4回：農業生産と土地 第5回：家族農業 第6回：農産物の市場組織 第7回：農産物貿易と農業保護政策 第8回：世界の人口と食料 第9回：食生活の成熟とフード・システム 第10回：農業の近代化 第11回：資源・環境と農業 第12回：日本の農業と食料 第13回：農業政策と農業経済学 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 特にない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回目の授業以降、授業内に紹介した参考書などについて予習すること。授業終了後、ノートに基づき復習すること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『農業経済学 [第5版]』、荏開津典生・鈴木宣弘、岩波書店、2020年。 『農業経済学事典』、日本農業経済学会編、丸善出版、2019年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックや解説は授業の最初に行う。		
8. 成績評価の方法 ミニレポート40％、定期試験60％。		
9. その他 研究室：3号館423A号室 E-mail: xiaogang@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGE251J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 国際開発論	2 単位	池上 彰英
2022～2025 年度入学者 国際開発論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 主にアジアの経験にもとづき、開発途上国の社会・経済がかかえる諸問題の提示、開発途上国の経済発展メカニズムの解明、ならびに各国政府の開発への取り組みの紹介、日本の果たすべき役割の検討などを行う。 《到達目標》 国際開発論の課題は、開発途上国が経済発展の過程において直面する様々な問題を社会科学的に分析することにある。本講義は、とくに政治経済学的手法を用いて、この課題に接近する。本講義を受講することで、開発途上国とくにアジア諸国の経済発展過程における諸問題とその解決策に関する、基本的な知識が身につくことが期待される。		
2. 授業内容 第1回：国際開発論の課題 第2回：アジアの経済発展と社会発展 第3回：新興アジア経済論の視点と課題 第4回：世界経済とアジア 第5回：中国の台頭と域内貿易の深化 第6回：技術のパラダイム変化と後発企業の戦略 第7回：アジア工業化の担い手 第8回：要素投入型成長の限界 第9回：中進国の罠とイノベーション 第10回：人口転換、人口ボーナス 第11回：高齢化社会の到来と人口オーナス 第12回：格差の拡大とストレスの増大 第13回：経済と社会のリバランス、日本の役割 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 アジア諸国の第二次大戦後の歴史と経済地理に関する基本的な知識が備わっていることを前提に授業を進める。経済学の基礎は必要であるが、数式は用いない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は教科書を用いるので、事前に教科書の該当箇所を読み、次回の授業内容に関する専門用語等については調べておくこと。復習として、教科書の該当箇所を読み返すとともに、授業で紹介した問題について文献等で調べること。		
5. 教科書 『新興アジア経済論』 末廣昭 （岩波書店） 2014年		
6. 参考書 『キャッチアップ型工業化論』 末廣昭 （名古屋大学出版会） 2000年 『老いてゆくアジア』 大泉啓一郎 （中央公論新社） 2007年 『アジア経済とは何か』 後藤健太 （中央公論新社） 2019年 『アジア開発史』 アジア開発銀行著 澤田康幸監訳 （勁草書房） 2021年 『新興国は世界を変えるか』 恒川恵市 （中央公論新社） 2023年 『新・東アジアの開発経済学』 大野健一・櫻井宏二郎・伊藤恵子・大橋英夫 （有斐閣） 2024年 『世界開発報告2024 中所得国の罠』 世界銀行編著 田村勝省訳 （一灯社） 2025年（英語版は世界銀行のウェブサイトから無料でダウンロードできる）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間に解説する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（70％）、ミニレポート（30％）		
9. その他 連絡先：国際開発論研究室（3号館414A号室） E-mail: akihide@meiji.ac.jp		

--

科目ナンバー (AG) AGE271J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境経済論	2 単位	佐々木 宏樹
2022～2025 年度入学者 環境経済論		
1. 授業の概要・到達目標 ミクロ経済理論を用い、企業・農家行動、消費者行動によって環境問題が何故生じるか、そして、環境問題を解決するための政策措置について学習する。われわれの日常の行動を見直し、環境問題に対しどのように対処すればよいのかについても考察する。 環境問題を経済学の観点から解明し、理解を深めることが目標である。		
2. 授業内容 [第1回] イントロダクション、環境問題と経済学 [第2回] 私たちの生活と環境 [第3回] 環境問題発生メカニズム（1）外部性と市場の失敗 [第4回] 環境問題発生メカニズム（2）共有資源の利用と管理 [第5回] 環境問題発生メカニズム（3）公共財とフリーライド問題 [第6回] 環境政策の基礎理論（1）直接規制と市場メカニズム [第7回] 環境政策の基礎理論（2）環境税と補助金 [第8回] 環境政策の基礎理論（3）直接交渉による解決 [第9回] 環境政策の基礎理論（4）排出量取引 [第10回] 環境政策への応用（1）政策手段の選択 [第11回] 環境政策への応用（2）廃棄物政策 [第12回] 環境政策への応用（3）地球温暖化政策 [第13回] 環境政策への応用（3）ナッジと環境政策 [第14回] 環境の価値評価		
3. 履修上の注意 初歩的なミクロ経済学の知識が必要である。現実の環境問題の背景をよく理解するように努めること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料を振り返り、適宜復習すること。また、必要に応じて参考書を参照すること。		
5. 教科書 『環境経済学をつかむ(第5版)』栗山浩一・馬奈木俊介（有斐閣）2024 年		
6. 参考書 『環境経済学の第一歩』大沼あゆみ、柘植隆宏（有斐閣）2021 年 『入門環境経済学』有村俊秀・日引聡（中公新書）2023 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の始めに行う。		
8. 成績評価の方法 期末試験（80%）、講義に関する小レポート（20%）で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGE211J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 資源経済論	2 単位	藤栄 剛
2022～2025 年度入学者 資源経済論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本講義では、自然資源の利用に関わる問題、とりわけ、生物多様性の保全をテーマとして、その特質や現状を経済学的な側面から理解し、自然資源やその有効利用に関わる問題に対する理解を深めることを目標とします。 《授業の概要》 我々は資源や環境を利用することで、経済活動を営んでいます。しかし、その過剰利用によって、いったん資源や環境の状態が悪化してしまうと、その改善は非常に難しくなります。種の絶滅や生態系の消失に代表される生物多様性の減少・劣化は、その典型例です。そこで、本講義ではこうした自然資源の利用をめぐる問題の中でも、特に生物多様性の保全に着目し、生物多様性が減少する背景を解説するとともに、保全のための条件を経済学的な観点から検討します。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクションー生物多様性と人間社会ー 第2回：生物多様性保全の論理と便益 第3回：生態系サービスの経済的評価（1）ーその便益と付加価値化ー 第4回：生態系サービスの経済的評価（2）ー開発と生態系サービスー 第5回：環境・生態系サービスの価値評価（1）ー利用価値と非利用価値ー 第6回：環境・生態系サービスの価値評価（2）ー顕示選好法と表明選好法ー 第7回：小括 第8回：グリーン財生産と生物多様性保全（1）ーグリーン財の需要と供給ー 第9回：グリーン財生産と生物多様性保全（2）ー認証財と非認証財の市場ー 第10回：生物多様性の利用・保全と管理（1）ー利用形態と利用制限ー 第11回：生物多様性の利用・保全と管理（2）ー国際的枠組みー 第12回：貧困と生物多様性（1）ー貧困との関係ー 第13回：貧困と生物多様性（2）ー所得分配との関係ー 第14回：まとめ ※授業内容を変更する場合には、主に初回講義でお伝えします。		
3. 履修上の注意 初歩的なミクロ経済学の知識を有することがのぞましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料を振り返り、適宜復習すること。また、必要に応じて参考書を参照し、発展的な内容についても目を通すことがのぞましい。		
5. 教科書 使用しない。変更がある場合には、初回講義時に指示する。		
6. 参考書 大沼あゆみ（2014）『生物多様性保全の経済学』有斐閣。 栗山浩一・馬奈木俊介（2024）『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣。 バリー・C・フィールド（2016）『入門 自然資源経済学』庄子康・柘植隆宏・栗山浩一訳、日本評論社。 環境経済・政策学会編（2018）『環境経済・政策学事典』丸善。 大沼あゆみ・柘植隆宏（2021）『環境経済学の第一歩』有斐閣。 その他参考書については、講義時に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末試験と講義後の課題で評価します。なお、変更がある場合には、初回講義時に指示します。		
9. その他 資源経済論研究室（3号館4階 3-415A）		

科目ナンバー (AG) AGE271J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境資源会計論	2 単位	本所 靖博
2022～2025 年度入学者 環境資源会計論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 ・ 授業のテーマ：「持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるか」 1999 年に当時の環境庁がガイドラインを発表したのを契機に環境会計・環境報告の導入や ISO14001 の認証を受ける企業が相次ぐようになった。環境報告書は企業の社会的責任（CSR）と関連して、CSR 報告書・持続可能性報告書・統合報告書への発展している。さらに SDGs の取組とあいまって持続可能な社会づくりに会計分野の思考が取り入れられており、具体的な事例を紹介しながら、このテーマと一緒に考えたい。 ・ 達成目標： （1）環境報告書・CSR 報告書・持続可能性報告書・統合報告書を読む力を養います。 （2）各経済主体の経済活動を情報化して誰かに説明するという会計の本質を正しく理解しましょう。 この授業は専攻科目Ⅰ（選択）である。 《授業の概要》 各経済主体が取り組む環境保全活動の成果の見える化などの会計的手法を学習します。 ECO 検定への取得にも役立つ内容に触れます。		
2. 授業内容 第 1 回（4/15）： a：環境会計へのいざない➡授業の進め方と学習の動機づけ b：会計とは何か 第 2 回（4/22）： a：会計的なものの見方・考え方 b：環境資源と環境問題 第 3 回（4/29）：持続可能な社会づくりとアカウンタビリティ ※メディア授業（オンデマンド配信）の予定 第 4 回（5/13）：家庭部門の環境問題と会計的アプローチ 第 5 回（5/20）：企業部門の環境問題と会計的アプローチ 第 6 回（5/27）：環境会計ガイドライン（1）－保全コスト 第 7 回（6/3）：環境会計ガイドライン（2）－保全効果と経済効果 第 8 回（6/10）：環境経営指標 第 9 回（6/17）：環境報告と環境報告ガイドライン・サステナ基準 第 10 回（6/24）：CSR 報告書・持続可能性報告書・統合報告書 第 11 回（7/1）：CSR から CSV へ 第 12 回（7/8）：環境資産と環境負債 第 13 回（7/15）：森林資源と林業会計 第 14 回（7/22）：授業のまとめ（b のみ） ※授業内容は実際の授業進度により変更する場合がありますが、その場合は Oh-o!Meiji のクラスウェブと授業でお知らせします。初回の授業でも授業計画表を配付します。		
3. 履修上の注意 ・ 履修を予定又は検討している学生は学習の動機づけやよい授業環境づくりの為、第 1 回の授業には必ず参加してください。 ・ 第 1 回授業に参加がない場合は平常点を減点します。なお、やむを得ない事情は事前に相談があった場合に考慮します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ECO 検定の公式テキストを事前に読んでおくことで授業の理解が増すことが多いです。 授業後は試験までに指定持込用紙にまとめノートを作成しておくとういでしょう。		
5. 教科書 教科書は使用せずレジュメを配付します。		
6. 参考書 東京商工会議所編『改訂 10 版環境社会検定 eco 検定公式テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 コメントカードについてフィードバックコメントを書いて次回授業で返却する予定です。		

8. 成績評価の方法

成績は平常点が 20% で期末試験が 80% で評価します。詳しくは次のとおりです。

※ポイント制 ☞ 合計ポイント (100p) = 期末試験 (80p) + 平常点 (20p + α)

▼平常点 : 20p を超えた場合はそのまま加算します。

- ・出席はとりません。期末試験の受験要件 (最低出席回数) もありません。
- ・コメントカードのやりとり 1 回につき平常点 2p 前後を加算します。
- ・初回の授業への参加 (コメントカード提出) で 4p 加点、初回の授業に不参加 (コメントカード提出なし) で 4p 減点します。
- ・ECO 検定受験または合格で平常点に + α を加算します。

▼期末試験 : 100 点満点を 80p に換算します。

▼最終成績 : S (90p 以上)、A (80p 以上)、B (70p 以上)、C (60p 以上)、F (60p 未満)、T (未受)

9. その他

問い合わせ先 :

環境資源会計論研究室 (3 号館 4 階 3-412A)

E-mail: honjo@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE231J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 地域ガバナンス論	2 単位	小田切 徳美
2022～2025 年度入学者 地域ガバナンス論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農村地域には、多様な問題が発現している。また、中央・地方政府のみならず、地域住民やその自治組織、各種の機能組織、さらには地域外の都市住民、NPO 等の多様な主体が政策にかかわり始めている。このような政策の内容や主体に関する多様性を十分に踏まえ、かつそれを各論としてのみではなく、体系化・総合化した新しい農村政策論（農村ガバナンス学）の構築が、国内はもとより諸外国においても新たな課題となっている。 《授業の概要》 本講義では、上記の新しい農村政策論の構築を意識しつつ、農村地域の現状、あるべき姿、それに導く政策を多面的に講述する。その際、それぞれのトピックの実態認識を深めるため、動画の利用を積極的に行う。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクションー農村とはー 第 2 回：いまなぜ農村か 第 3 回：農村問題の展開と現状〈1〉ー人の空洞化 第 4 回：農村問題の展開と現状〈2〉ー土地・むらの空洞化 第 5 回：農村における地域づくりの枠組み〈1〉ー3 つの要素 第 6 回：農村における地域づくりの枠組み〈2〉ー各要素 第 7 回：地域づくりの 3 要素の論点〈1〉ーしくみ・人材づくり 第 8 回：地域づくりの 3 要素の論点〈2〉ー産業づくり 第 9 回：農村再生への支援策 第 10 回：農村再生の実践例 第 11 回：農村再生の論点 第 12 回：応用トピックス<1>ー田園回帰 第 13 回：応用トピックス<1>ーポストコロナ社会 第 14 回：総括ー地域ガバナンスとはー ※講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 地域ガバナンス論は、農業経済学、地域経済学、行政学、財政学、農村社会学、社会教育論等の本格的学際分野として位置付く。したがって、受講生には関連科目の積極的履修を期待したい。 なお、講義中の私語は厳禁とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で配布するレジュメ（Oh-o! Meiji のクラスウェブを利用する）を再読して、疑問等があれば次回講義の場で質問をしていただきたい（リアクション・ペーパーに書いても可）。また、次回の内容の目的・目標を講義の最後に触れるので、関連情報の事前収集を予習として行うこと。		
5. 教科書 教科書は指定しない。毎回の講義で配布するプリント（講義レジュメ）をテキストとする。		
6. 参考書 小田切徳美『農山村は消滅しない』（岩波新書）、『にぎやかな過疎をつくる』（農山漁村文化協会）は本講義の内容と重なる。しかし、今年度講義は、両書の執筆以降の新たな実態認識や理論的枠組みを含み、完全に一致するものではない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパーによる感想等の提出を課題とし、そのなかから優れたものや印象的なものは次回に紹介し、さらに質問についても次回講義で積極的に回答する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験を行い、それによって評価する（定期試験 100%）。ただし、毎回、講義内容に関する感想（質問も含む）を書くリアクション・ペーパー（課題）の提出機会を作り、その内容が優れたものを、次回の講義で紹介すると同時に、成績の加点要素とする（最大 20%）。		
9. その他 地域ガバナンス論研究室（3 号館 4 階 3-420 A） odagiri@meiji.ac.jp		

--

科目ナンバー (AG) AGE271J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 共生社会論	2 単位	岡 通太郎
2022～2025 年度入学者 共生社会論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 なぜ共生する（ともに生きる）ことが必要とされるのか。地球環境資源問題を念頭におきつつ総合的に解説する。(1) 近代化パラダイムに内在する問題点の発見と整理, (2) 試行錯誤を繰り返す環境政策の理論と現実, および近代的成長パラダイムそのものの再検討, (3) 問題解決の一例として, 龍神村, 白神山地, ソロモン諸島, マルク諸島などにおけるローカルな環境資源管理の事例を論考し, 地域の「知恵」から学ぶ「グローバル・コモンズ」という概念を理解せしめる。 《授業の概要》 地球環境資源問題の理解には発想の転換が求められるため, 異文化世界における日常生活をスライドや動画にて視覚的に理解し, 頭をやわらかくしながら授業を進める。		
2. 授業内容 第1回 なぜ共生が求められるのか 第2回 国家と国家の共生問題 第3回 途上国と先進国の共生 第4回 先進国と先進国の共生 第5回 ヒトと自然の共生問題 第6回 経済発展と自然の共生〈1〉 第7回 経済発展と自然の共生〈2〉 第8回 共生パラダイムへ向けて 第9回 成長とは何か 第10回 消費者が生み出す共生パラダイム 第11回 内発的発展論 第12回 地域経済論 第13回 コモンズ論〈1〉 第14回 コモンズ論〈2〉		
3. 履修上の注意 共生社会特論（秋学期）への連続履修が望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回の内容を1行で整理してくる。		
5. 教科書 特に指定しない		
6. 参考書 『コモンズの社会学：森・川・海の資源共同管理を考える』著者名（井上真・宮内泰介編）出版社名（新曜社） 『環境政策の経済学：理論と現実』著者名（植田和弘他編著）出版社名（日本評論社） 『リーディングス環境第5巻：持続可能な発展』著者名（植田和弘他編）出版社名（有斐閣） 『環境経済学』著者名（植田和弘）出版社名（岩波書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 成績は, 毎回の講義の最後に行なわれる小レポート（3～5行）50%, 学期末試験 50%をもって判定する。		
9. その他 質問は 共生社会論研究室（3号館4階 421A号室） m-oka@meiji.ac.jp まで		

科目ナンバー (AG) AGE361J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 現代社会と食	2 単位	片野 洋平
2022～2025 年度入学者 現代社会と食		
1. 授業の概要・到達目標 本講義の目的は、私たちが日常的に接している「食」を、社会・制度・科学・倫理が交差する総合的な文化現象として理解する視点を身につけることである。とりわけ本講義では、身近な庶民魚である「鰯（イワシ）」を手がかりとして、食と社会構造、味覚や健康知識の社会的形成、科学知と制度の関係、資源管理と倫理の射程といった、現代の食文化研究における基本的論点を段階的に学ぶ。「鰯」を手掛かりとする理由は、「鰯」が食における様々な側面で現れてくるため、受講者の理解を促すと考えるからである。たとえて言うならば、「鰯」は、サッカーにも、野球にも、バレーボールにも登場するボールのような存在である。同じボールであっても、競技が違えば役割や意味が変わるように、鰯もまた、社会・科学・制度・倫理という異なる文脈の中で、まったく異なる姿を見せる。したがって、本授業は、「鰯」についての授業ではないことにご注意いただきたい。 本講義を通じて受講者は、食文化研究の基礎概念と理論的枠組みを理解する、食をめぐる科学・制度・倫理の問題を批判的に捉える力を養う、日常の食経験を社会的・文化的に問い直す視点を獲得することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：食文化とは何を問う学問か なぜ「食」から社会が見えるのか 第2回 共食とは何か——食ることと社会の形成 第3回 近代化と食の分断——共食の理想はいかに肥大したか 第4回 イワシという資源——共物性の視点 食べ物を「資源」として考える 第5回 イワシはおいしくなったのか？——味覚の社会史 第6回 味覚・身体・社会——なぜ私たちはイワシを食べなくなったのか 第7回 食と健康——栄養はどのように語られてきたか 第8回 DHA／EPA という言語——科学はいつ道徳になるのか 第9回 食と資源管理——海はどのように管理されてきたか 第10回 開放・半閉鎖・閉鎖の海——制度と自然のリズム 第11回 食と倫理——私たちはどこまで責任を感じるのか 第12回 グローバルな食と倫理の限界 第13回 統合 生態的スケールという考え方 第14回 まとめ：食を通じて社会と呼吸する 全体の統合と振り返り * 講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 受講生は興味を持って授業に臨んでほしい。授業中における質問・疑問・コメントを歓迎する。資料は配布する予定だが、各人がきちんとノートを取ることを期待する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業の復習を通じて、各人が授業内容を理解するとともに、各人が授業で扱った課題に対する自分なりの解答を見出す努力を行うことを期待する。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 適宜授業の中で紹介する		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 リアクションペーパーなど（20%）、期末試験：（80%）で評価します。		
9. その他 食料農業社会学研究室（3号館4階416A号室） 質問等ございましたら katano@meiji.ac.jp までご連絡ください。		

科目ナンバー (AG) AGC351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食生活の科学	2 単位	米澤 円華
2022～2025 年度入学者 食生活の科学		
1. 授業の概要・到達目標 ●授業の概要：食べ物の機能、日本の食生活と疾病構造の変遷、フードシステムと食料消費行動の変化と国際潮流について講義する。現在の食料問題、栄養課題について理解を深め、持続的で健康的な食生活のあり方について議論する。 ●授業の達成目標及びテーマ：食べ物の機能、適切な食生活が持続可能な社会の実現と健康な身体づくりに及ぼす影響について理解することを教育目標とし、持続可能で健康的な食生活のあり方を説明できることを達成目標とする。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション、食生活・栄養とは [第 2 回] 食品の定義と種類、食品標準成分表 [第 3 回] 食べ物の一次機能（栄養機能） [第 4 回] 食べ物の二次機能（嗜好機能） [第 5 回] 食べ物の三次機能（生体調節機能） [第 6 回] 食べ物の消化と吸収メカニズム [第 7 回] 食事摂取基準、国民健康・栄養調査 [第 8 回] フードシステム、プラネタリーヘルス [第 9 回] 世界における健康課題：栄養不良の二重負荷 [第 10 回] 日本の栄養政策 [第 11 回] 日本における健康課題と対策 その 1 [第 12 回] 日本における健康課題と対策 その 2 [第 13 回] 健康的な食事と食品ベースの食事ガイドライン、持続可能で健康的な食事 [第 14 回] まとめ		
3. 履修上の注意 ・事前に配信する講義資料をダウンロードの上で持参するか、PC を持参して講義を受けましょう（講義時の紙媒体での配布は行いません） ・毎回、授業で紹介したテーマを復習するとともに、当該テーマを自らの食生活や周辺の人々の食生活場面に照らし合わせて理解を深め、積極的・意欲的に改善に取り組むことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・毎回、Oh-o! Meiji システムを介して授業当日朝に配布する資料をダウンロードして授業に臨んでください。 ・不明な点は授業中、授業前後に質問し、適切な理解に努めましょう。 ・授業後に配布資料の内容を確認しながら 20 分程度の Oh-o! Meiji システムを介する小課題に必ず回答しましょう。回答によって出席を確認します。		
5. 教科書 ・特に指定しない。		
6. 参考書 ・「コンパクト 基礎栄養学」朝倉書店 ・「食品学Ⅰ 改訂第 2 版」羊土社 ・「コンパクト 公衆栄養学（第 3 版）」朝倉書店 ・「日本人の食事摂取基準 2025」厚生労働省 ・「食卓から地球を変える あなたと未来をつなぐフードシステム」日本評論社 ・「国際栄養学」建帛社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・第 1～13 回までは毎回、Oh-o! Meiji システムを利用して小課題を配信します。小課題のフィードバック（正答及び解説）を次授業の最初に行います。 ・第 14 回の授業では最終レポートのピアレビューを行います。これはご自身のレポートの改善・他人の考えを知ることが目的であり、お互いのレポート評価は成績評価に影響しません。		
8. 成績評価の方法 ・第 1～13 回まで実施する小課題への回答によって出席を確認し、評価対象者としします。提出〆切は授業当日の 24 時です。 ・小課題の最後の設問は授業時スライドで示します。授業に出席していても、小課題の提出がなければ欠席とみなします。 ・実習や演習などやむを得ない事情で欠席する場合は、授業前日までにメール（mdkynzw@meiji.ac.jp）でご連絡ください。講義終了後に個別に設問をお知らせします。		

- ・最終的な成績評価は小課題の合計点（40%）、授業への積極的参加状況（20%）、試験に代わる課題レポート（40%）から総合的に行います。
- ・欠席が4回以上では成績評価ができません。

9. その他

科目ナンバー (AG) AGE341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品ブランド化戦略論	2 単位	大江 徹男
2022～2025 年度入学者 食品ブランド化戦略論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 近年、食品の安全性をめぐる問題が注目を浴びている。本講義では、安全性の経済学的意味や安全性を考察する上で必要不可欠なリスク分析と安全に関する事例研究について説明する。また、リスク分析を踏まえたより積極的な安全性への取り組みとして、ブランド化戦略について紹介する。つまり、安全性を前提としての農産物及び食品のブランド化について説明する。 《授業の概要》 最初に食品リスクの理論的説明をおこなう。そのうえで、食品安全に関する個別具体的事例を検証しながら、わが国の食品安全行政とブランド化について述べる。ビデオ等の視覚教材を活用する。		
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション（食品安全リスク論で何を学ぶか） 第2回 食品の安全性とはーリスク分析 第3回 リスク評価について（概論） 第4回 リスク評価について（ダイオキシン） 第5回 リスク評価について（食品添加物） 第6回 食品公害ー水俣病 第7回 食の安全をめぐる論点と有機農産物 第8回 ローカル認証 第9回 地理的表示保護制度 第10回 地理的表示制度と有機農産物の現状と課題 第11回 国際認証制度 第12回 ブランド化の事例ー伝統野菜 第13回 ブランド化の事例ー銘柄牛 第14回 ブランド化の事例ーワイン		
3. 履修上の注意 積極的かつ主体的な参加を期待する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義の内容については、自分の生活の中で実際のどのように実践されているか、確認して下さい。		
5. 教科書 教科書は使用せず、必要な資料を Oh-meiji にアップする。		
6. 参考書 特になし		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験と講義終了後に毎回提出してもらうコメントで評価する。 定期試験が 70%、毎回提出するコメントが 30%。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) AGE341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食品マーケティング論	2 単位	中嶋 晋作
2022～2025 年度入学者 食品マーケティング論		
1. 授業の概要・到達目標		
授業概要 マーケティングは、企業行動の分析にとどまらず、農業・食品産業を含むフードシステム全体の構造と機能を理解するための重要な理論的枠組みを提供する。本講義では、農産物・食料を対象として、流通構造、企業行動、消費者行動、制度設計を統合的に捉え、社会科学的視点、とりわけ経済学的視点からマーケティングを理論的に理解することを目的とする。 講義の前半では、マーケティング理論の基礎概念（マーケティング戦略、製品デザイン、プライシング、消費者行動等）を、農業・食品分野の具体的事例と結び付けて整理する。後半では、近年重要性が高まっているデータの利活用に焦点を当て、マーケティングリサーチの理論的背景、データ取得手法、分析枠組みについて解説し、実証分析に基づく意思決定の考え方を学ぶ。		
授業の到達目標 本講義は、マーケティングを理論的・分析的に理解し、食料・農業分野の現実問題に応用できる能力の修得を目指す。そのため、概念理解にとどまらず、理論とデータを用いて現象を説明・考察する力を養うことを重視する。 本講義の到達目標は、以下の2点とする。 1. マーケティング理論の主要な概念・用語について、その理論的背景を踏まえて説明できること 2. マーケティング活動におけるデータの役割を理解し、データに基づく分析や意思決定の重要性を論理的に説明できること		
2. 授業内容		
第1回 a：イントロダクション 第1回 b：食品マーケティングとは何か 第2回：食料・農産物とマーケティング 第3回：マーケティングコンセプト 第4回：マーケティング戦略の決定 第5回：製品デザイン 第6回：プライシング 第7回：コミュニケーションと広告 第8回：プロモーション 第9回：消費者行動 第10回：SNS とマーケティング 第11回：マーケティングリサーチⅠ：データを扱う際の概要 第12回：マーケティングリサーチⅡ：調査を伴うデータ分析 第13回：マーケティングリサーチⅢ：顕示選好データ分析 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意		
数式を使用することがあるが、数学について特別な準備は必要ない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
授業中に配布するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。		
5. 教科書		
教科書は特に定めない。		
6. 参考書		
『マーケティング戦略 第6版』和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著（有斐閣）2022 年 『マーケティング・リサーチ入門』星野崇宏・上田雅夫（有斐閣）2018 年 『マーケティング・データ分析：実務とリサーチをつなぐ』田頭拓己（有斐閣）2025 年 『フードシステムの経済学 第6版』時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博著（医歯薬出版）2019 年 『食べる経済学』下川哲著（大和書房）2021 年 『お酒の経済学：日本酒のグローバル化からサワーの躍進まで』都留康著（中公新書）2020 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法		
レポートおよび学期末試験によって評価する。具体的には、レポート 50%、学期末試験 50%とする。		

9. その他

食ビジネス論研究室（3号館4階422A号室）

E-mail : anakajim@meiji.ac.jp

TEL : 044-934-7129

科目ナンバー (AG) AGE341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 6 次産業化論	2 単位	澤野 久美
2022～2025 年度入学者 6 次産業化論		
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、6 次産業化について、基本的な考え方や理論を理解するとともに、多様な事例を通じて、農業者や事業者がなぜ取り組みを始めたのか、どのように取り組んでいるのか、どのように価値や文化を創造しているのかを学ぶ。その際、農業者、経営者、あるいは事業者としての選択・経営哲学・考え方、事業の成り立ちや工夫、地域の人々や他産業との関わりなどを、事例から読み取り、理解することを重視する。また、6 次産業化の取組では、女性たちが関わっていることが多い。それはなぜなのかについても学ぶ。本講義では、①6 次産業化に関する基本的な考え方を理解すること、②事例から見える現状、課題・改善点、多様な地域資源からいかに価値を創造していくのか等について、自分の言葉で整理して説明できることを到達目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：6 次産業化とはなにか 第 3 回：農産物直売所（1） 直売・直売所とは 第 4 回：農産物直売所（2） 事例 第 5 回：農産物直売所（3） 事例 第 6 回：農産加工（1） 加工とは、 事例（トマトケチャップ等） 第 7 回：農産加工（2） 女性による取組、事例（漬物、味噌等） 第 8 回：農産加工（3） 女性による取組、事例（ジェラート） 第 9 回：農産加工（4） 酒類の加工、事例（シードル等） 第 10 回：農家レストラン（1）農家レストランとは、事例 第 11 回：農家レストラン（2）事例 第 12 回：農家民宿・農泊 第 13 回：学校給食 第 14 回：在来作物 ※都合により授業回を入れ替えたり、内容・事例を変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 実際の取組から真摯に学ぶこと。6 次産業化に関する実際の取組への理解を促すため、各業態において関連する理論や産業についても適宜紹介する。履修者の理解を促すため、映像資料も使用する。農業・農村問題、食料問題やそれに関わる問題に広く関心を持ち、知識を深めること。授業で担当講師が使用する PowerPoint 資料は配布しないため、講義内容のメモを取ること。授業中の迷惑行為には、厳重に対処する。特に、授業中の私語は、他の履修者の学ぶ権利を侵害する行為であることから慎むこと。私語をしている履修者には、担当講師が学生証などにより氏名および学籍番号を確認し、当該履修者の退席を命ずるとともに、成績評価の際に大幅な減点を課す。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で紹介した事例と同様の取組を行っている事例を調べてみる。実践者はなぜ取り組もうと考えたのだろうか。その背景や理由を探求してみよう。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 特になし。必要に応じて講義中に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、ミニレポート・リアクションペーパー30%。ミニレポート・リアクションペーパーは、毎回は課さない。ミニレポート・リアクションペーパーは、事例に対する理解度に加えて、履修者独自の視点を重視して評価するため、①他者や生成 AI 等の意見をコピーして作成したと思われるものは減点、②他の履修生の参考となるような意見や学術的な観点から評価すべき意見が書かれていた場合には、更に加点する。		
9. その他 オフィスアワー・連絡先は、初回の講義で指示する。		

科目ナンバー (AG) AGE341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食文化と農業ビジネス	2 単位	高地 紗世
2022～2025 年度入学者 食文化と農業ビジネス		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 「食文化と農業ビジネス」というテーマは、食料環境政策学科のカバーする専門領域のほとんどすべてと結びついています。そうしたことを踏まえ、現代の私たちの食生活や食文化の特徴とそれらがどのように形成されてきたかについて多角的に学ぶとともに、食と農の関係性や農業ビジネスのありかたについて考えます。特に第 8 回と第 9 回の授業では、日本の食文化に欠かせないコメと稲作について取り上げます。その文化的な側面と、現代の消費・流通・生産やブランド米の開発などの各過程を見ながら、それらの関係性にも理解を深めます。一方、日本では稲作のみならず、地理的・社会的条件によって多様な農業が営まれてきました。また、近年は農産物の生産のみならず様々なサービスや事業を行う農業経営体も見られます。そこで都市農業における取組などを事例として紹介し、農業の可能性を探ります。 《到達目標》 本講義の到達目標は、①日本を中心に食文化と農業の基本的関係を説明できるようになること、②現代の食と農業ビジネスの関係性について基礎的な認識を持つこと、③そのうえで、それらについて自分の考えを表明できる・発想できるようになることです。		
2. 授業内容 [第 1 回] 授業イントロダクション―授業の進めかたと食文化の考えかた― [第 2 回] 現代日本の食生活と農業 [第 3 回] 食に関する行動と思想 [第 4 回] 世界の食と農―多様性と伝播― [第 5 回] 西洋の食文化 [第 6 回] アジア諸国の食文化 [第 7 回] 日本の食文化―歴史と地域性― [第 8 回] コメと稲作①―日本における歴史と文化― [第 9 回] コメと稲作②―米が食卓に届くまで― [第 10 回] 都市農業の取組と可能性―都市農地の保全・地産地消・経営多角化― [第 11 回] 食と農を支える多様な担い手①―農家家族と女性― [第 12 回] 食と農を支える多様な担い手②―農業への新規参入― [第 13 回] 間食と菓子 [第 14 回] まとめ		
3. 履修上の注意 ・私語、撮影は禁止します。 ・ノートと筆記用具を用意し、よくメモをとりましょう。 ・授業資料は授業終了後に Oh-o! Meiji で配布します。 ・授業の進行状況等により、内容に変更が生じる場合があります。変更が生じる場合はその都度お伝えします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・特別な準備・予習は必要ありませんが、これまで学んできた学科の各授業と関連づけて聞いてください。 ・復習は各自で行いましょう。 ・授業内容で疑問を持った部分については、紹介する参考文献や関連する論文を読むなど、主体的に調べてください。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 『食文化入門』、石毛直道・鄭大聲編著、講談社サイエンティフィク、1995 『石毛直道 食の文化を語る』、石毛直道、ドメス出版、2009 『現代食文化論』、小川聖子・野林厚志編著、建帛社、2024 その他の文献については授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーや質問に対するフィードバックは次回の授業中に行います。		
8. 成績評価の方法 授業中に記入・提出するリアクションペーパー (50%)、学期末試験 (50%)		

9. その他

連絡先は初回の授業でお知らせします。

科目ナンバー (AG) AGE391J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食農メディア論A	2 単位	榊田 みどり
2022～2025 年度入学者 食農メディア論A		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 農業ジャーナリストとして 40 年以上、現場取材をしてきた経験と人脈を活かし、メディアから得られる農業・農村の情報を多角的な視点と長期的な視野でとらえ直す力を養う。同時に、特定のメディアのみを鵜呑みにせず、農業・農村の現場に生きる人々の実像への関心と理解を深め、現場を基点に自ら考える力を養う。 《授業の概要》 マスメディアにしろSNSにしろ、メディアが発する農業・農村像は、現場情報の一部を切り取るため、どうしても一面的な視点からの発信になりがちです。また、発信元の立場によって情報の切り取り方や視点も異なります。講義では、テレビや新聞・雑誌の記事などを題材に、記事とは異なる視点での情報や農業・農村現場の実例などを紹介するほか、実際に農村現場に関わる記者や農業者などをゲストに迎え、情報を複眼でとらえ直す習慣を身につけていただきたいと思います。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション～メディアの中の農業・農村の虚像と実像 第2回：縦軸（時間軸）で見る農業・農村に関する論調変化（1）米食をめぐる論調変化 第3回：縦軸（時間軸）で見る農業・農村に関する論調変化（2）都市農業をめぐる論調変化 第4回：横軸（都市/農村）で見る農業・農村に関する論調変化（1）ローカルメディアと中央メディア 第5回：横軸（都市/農村）で見る農業・農村に関する論調変化（2）農林業センサス報道を考える 第6回：視点が変われば論調も変わる～生活報道と経済報道の比較～（ゲスト授業） 第7回：農業・農村のリアル（1）農業の多様性と新しい農業のカタチ 第8回：農業・農村のリアル（2）「多様な担い手」論 第9回：農業・農村のリアル（3）農業×マルチワーク（ゲスト授業） 第10回：農業×〇〇による価値創出（1）6次産業化の可能性とリスク 第11回：農業×〇〇による価値創出（2）農業×アート（ゲスト授業） 第12回：農業×〇〇による価値創出（3）農業×福祉 第13回：農業×〇〇による価値創出（4）地域商社化～地域を基点にした食農システム 第14回：講義全体のふりかえりとまとめ		
3. 履修上の注意 講義中に簡単なレポートを求めることがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習・復習に努めること。		
5. 教科書 特に定めません。授業前に、当日のテキスト（p p ファイル）をO h o ! M e i j i にU p します。		
6. 参考書 使用しません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 期末レポート 90%、平常点 10%。 （ゲスト授業のときは必ず、他にも適宜、リアクションペーパーの提出を求めます）		
9. その他 農業・農政・地方・食に関する記事やニュースに日頃から関心を持ってください。		

科目ナンバー (AG) AGE391J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食農メディア論B	2 単位	尾原 浩子
2022～2025 年度入学者 食農メディア論B		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の到達目標】メディアで報道される農業や農村と現場の違いについて学んだ上で、きつい、古い、すたれている、あるいは尊い、美しいといった画一的なイメージではない農の姿を知り、多様な農業・農村の価値や課題を把握する。米価高騰などの社会情勢と食や農の報道の関係を読み解く力を身に着ける。誰の立場、どこから見るからで農業・農村の形は変わる。農業や農村を現場視点で自らの力で考えられる力を養う。 【授業の概要】SNS の普及を踏まえた食と農のメディア、報道、発信の変遷や現状と同時に、広がっていく農業と他分野の連携や、農村に挑む多彩なチャレンジャーらを紹介する。農業の多面的な価値について掘り下げて解説する。ゲストスピーカーを招き、現場の声に接する機会を設ける。		
2. 授業内容 [第1回] イントロダクション 授業の方針や説明 [第2回] 農業の多面的機能と価値、課題①農政の流れと新聞報道、近年台頭する SNS [第3回] 農業の多面的機能と価値、課題②小規模農業と大規模農業 [第4回] 農業の多面的機能と価値、課題③農村に可能性を感じる人たちと新たなしごと [第5回] 農業の多面的機能と価値、課題④人口減少と過疎高齢化が進む農山村の現場から [第6回] 農業の多面的機能と価値、課題⑤中山間地域の協同 [第7回] 農業の多面的機能と価値、課題⑥学校や病院など地域の暮らしと農業 [第8回] 地域を基軸にした食・農①食料供給基地の変遷 [第9回] 地域を基軸にした食・農②消費者とのつながり [第10回] 地域を基軸にした食・農③都市と農村 分断から関係へ [第11回] 地域を基軸にした食・農④気候変動 [第12回] 地域を基軸にした食・農⑤多角化する農業とメディア [第13回] 地域を基軸にした食・農⑥広がる多様な連携 [第14回] 統括とレポート		
3. 履修上の注意 本講義は、現役の農業専門紙記者による講義となります。したがって、受講者には農業経済学や地域経済学、農村社会学など農・地域に関する専門科目の積極的受講をすることで、本講義の理解をより深めてほしいと思います。講義中にゲスト講師を呼ぶときは特に、傾聴のルールを守ってください。ゲスト講師を呼ぶときのリアクションペーパーは、ゲスト講師にも共有します。講義で分からないこと、求めることなどは積極的に提案してください（リアクションペーパーに記入、直接伝えるなど）講義内容は必要に応じて変更することがあります。ゲスト講師を呼ぶときは事前に説明します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 農業や地域に関する報道やニュース、SNS を気に留めてください。次回の授業内容の目的や概要を講義の最後に触れるので、関連情報の事前収集に努めてください。ゲスト講師の関連書物なども事前に紹介しますので、目を通してみてください。		
5. 教科書 教科書は特に指定しませんが、新聞記事に目を通すように心がけてください。		
6. 参考書 使用しませんが、農業や農村に関する新聞、雑誌、テレビニュース、インターネットを気に留めて読んでみてください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーによる感想等の提出を課題とし、その中から優れたものや印象的なものは次回の授業で紹介しします。質問についても次回講義で回答するなどで相互の関係を強めたいと考えます。		
8. 成績評価の方法 学期末レポート 50%、リアクションペーパー 50%		
9. その他 農業、地方、農政、食に関する記事やニュースに日ごろから関心を持ってください。講師の連絡先は obara.hiroko@agrinews.co.jp です。		

科目ナンバー (AG) AGE321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農業経営の発展と地域農業	2 単位	澤野 久美
2022～2025 年度入学者 農業経営の発展と地域農業		
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、日本の農業経営や地域農業、食料をめぐる現状、直面している課題や新たな可能性等について、農業・農村における女性、高齢者、障害者、農業法人による取組など、実際の取組を紹介しながら解説する。農業経営学の基本的なトピックも解説する。実際の取組をふまえながら、それらに取り組んでいる人々が何をどのように考えて選択して行動しているのか、また取組として何が課題なのか、その課題を解決するためにはどうしたらよいのかを考えてほしい。本講義で紹介する理論や様々な取組を通じて、①持続可能な農業経営や地域農業のあり方について考察し、自分の意見を述べられるようになること、②事例を通して課題と背景を論理的に説明できるようになることを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：戦後の農業・農村などにおける変化 第3回：農業のマネジメント 第4回：農業法人の人的資源管理（1） 人的資源管理の基礎、農業法人での採用など 第5回：農業法人の人的資源管理（2）働くことのモチベーション 第6回：新規就農 第7回：経営継承 第8回：食品製造業 第9回：日本酒 第10回：農福連携（1） 農福連携の基礎 第11回：農福連携（2） 農業法人等での取組 第12回：農業・農村と女性（1） 農業分野で働く女性 第13回：農業・農村と女性（2） 経営参画 第14回：農業・農村と女性（3） スマート農業の可能性 ※都合により、授業回を入れ替える可能性がある。		
3. 履修上の注意 実際の取組から真摯に学ぶこと。農業・農村問題やそれに関わる問題に広く関心を持ち、知識を深めること。履修者の理解を促すため、映像資料も使用する。授業で担当講師が使用する PowerPoint 資料は配布しないため、講義内容のメモを取る。授業中の迷惑行為には、厳重に対処する。特に、授業中の私語は、他の履修者の学ぶ権利を侵害する行為であることから慎むこと。私語をしている履修者には、担当講師が学生証などにより氏名および学籍番号を確認し、当該履修者の退席を命ずるとともに、成績評価の際に大幅な減点を課す。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 図書、新聞、Web 等を活用して、各トピックに関わる内容をまとめる。本講義では、あなた自身がどう働いていきたいか、今後の人生をどう歩みたいか、社会とどうかかわりたいか、ということにも関わる内容を取り上げる。自分はどう考えるのか、なぜそのように考えるのか、例えば自分にとってのモチベーションは何か・それはなぜか、自分はなぜその業種で働きたいのか・それはなぜか、大学卒業後に農業・農村とどうか関わりたいと考えるか・それはなぜか、などを授業前および授業後に考えてみてほしい。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 特に定めない。必要に応じて授業内で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出されたミニレポート・リアクションペーパーの内容は、次回以降の授業内で紹介することがある。		
8. 成績評価の方法 定期試験 60%、リアクションペーパー40%。リアクションペーパーは、毎回は課さない。ミニレポート・リアクションペーパーは、事例に対する理解度に加えて、履修者独自の視点を重視して評価するため、①他者や生成 AI 等の意見をコピーして作成したと思われるものは減点、②他の履修生の参考となるような意見や学術的な観点から評価すべき意見が書かれていた場合には、更に加点する。		
9. その他 オフィスアワー・連絡先は、初回の講義で指示する。		

科目ナンバー (AG) AGE391J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農業史	2 単位	中村 塑
2022～2025 年度入学者 農業史		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 当たり前のことであるが、人間は食料なくしては生きていくことができない。したがって人間は、人間に食料を供給する第1次産業、特に農業とともに長い歴史を歩んできた。しかしながら、人間が作った社会の仕組みは各時代によって異なるため、社会の影響を受けやすいという性格を持つ農業は、それぞれの時代ならではの姿もあらわしてきた。農業について、時代を越えてつながっている点は何であるのか、各時代の中でのみみられた点は何であるのか、つまり歴史の連続している面と断絶している面の双方を意識しながら授業を進めていく。 授業の到達目標 日本における農業の歩みを学び、現代日本農業が有する諸問題の歴史的背景について理解できるようになる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション（農業史とは） 第2回：原始の農業 第3回：古代の農業 第4回：中世の農業 第5回：近世の農業①（新田開発の進展） 第6回：近世の農業②（集約農業の追求） 第7回：近世の農業③（農書の成立） 第8回：近世の農業④（商業的農業の隆盛） 第9回：近現代の農業①（地租改正と農業） 第10回：近現代の農業②（農業・農村問題の登場） 第11回：近現代の農業③（小作争議の勃発） 第12回：近現代の農業④（戦時・戦後期の農業） 第13回：近現代の農業⑤（高度経済成長と農業） 第14回：授業のまとめ		
3. 履修上の注意 日本史について特別な準備は必要ない。可能であれば大学入学前に使用した日本史の教科書や参考書等を読み直してほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、参考書の該当箇所を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと。 復習として、講義レジュメをよく見直し、授業中に教員が話したことを振り返ること。		
5. 教科書 指定しない。講義レジュメを配布する。		
6. 参考書 『日本農業史』木村茂光編（吉川弘文館）2010 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の中で、小レポートについてコメントをする。		
8. 成績評価の方法 試験（70％）と毎回の講義の最後に実施する小レポート（30％）で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG)ARS311J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 アジア農業論	2 単位	池上 彰英
2022～2025 年度入学者 アジア農業論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 中国と日本の農業は「人が多く耕地が少ない」、家族農業経営が主体である等の共通性を有する一方、耕地の所有制度（中国は集団所有制）、総合農協の有無（中国には日本のような農協は存在しない）、企業の農業参入（中国では日本以上に企業の農業参入が進んでおり政府も積極的にこれを奨励）等においては、大きな違いも存在する。本講義では、中国の社会経済システムおよび経済発展の歴史を概観したのち、中国の食料・農業・農村問題と農業政策に関する全般的な紹介を行う。また、台湾農業に関する紹介も行う。 《授業の到達目標》 本講義を受講することで、中国の社会経済システムに関する基本的な知識と中国農業に関する専門的な知識が身につくことが期待される。また、本講義を通じて、日本の農業と農業政策を相対化する視点が身につくことも期待される。		
2. 授業内容 第 1 回：中国農業論の課題、中国入門 1（中国の歴史と民族） 第 2 回：中国入門 2（中国の人口、「戸口」制度） 第 3 回：中国入門 3（中国の社会経済システム） 第 4 回：中国の農業地理 1（中国農業地理の基本） 第 5 回：中国の農業地理 2（地域別の農業の特色） 第 6 回：世界のなかの中国農業、日本農業との比較 第 7 回：中国の食料需給 1（生産と消費） 第 8 回：中国の食料需給 2（貿易） 第 9 回：中国の経済発展と農業問題 第 10 回：中国の農業政策 1（農業搾取政策から農業保護政策への転換） 第 11 回：中国の農業政策 2（農業構造問題と新型農業経営体系の構築） 第 12 回：中国の農業企業の事例分析 第 13 回：台湾の農業 第 14 回：中国農業が直面する課題と対策		
3. 履修上の注意 とくにない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に参考書に目を通しておくこと。授業後は、レジュメやノートの内容を復習するとともに、授業で紹介した問題について文献等で調べること。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 中国農業に関する専門書 『中国農村改革と農業産業化』 池上彰英・寶劔久俊編（アジア経済研究所） 2009 年 『中国の食糧流通システム』 池上彰英（御茶の水書房） 2012 年 『WTO 体制下の中国農業・農村問題』 田島俊雄・池上彰英編（東京大学出版会） 2017 年 『中国農村の現在』 田原史記（中央公論新社） 2024 年 中国入門書 『現代中国経済〔新版〕』 丸川知雄（有斐閣） 2021 年 『はじめて出会う中国〔改訂版〕』 園田茂人編（有斐閣） 2022 年 『現代中国を知るための 54 章【第 7 版】』 藤野彰編（明石書店） 2024 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間に解説する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（70％）、ミニレポート（30％）		

9. その他

連絡先：国際開発論研究室（3号館414A号室）

E-mail: akihide@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 比較農業論	2 単位	暁 剛
2022～2025 年度入学者 比較農業論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業では、世界の農業について広く浅く概説したのち、比較検討を行う。世界の農業は、自然条件（気候、地形、土壌など）と、社会条件（生産の目的、経営組織、農地の所有形態、経営体の規模、機械化・労働力、農業政策など）により大きく異なる。アメリカの地理学者であるホイットルセイ（1890～1956年）は、作物と家畜の組合せ、作物栽培・家畜飼養の方法、労働・資本投下の程度と収益性、生産物の仕向け先、住居・農業施設の状態という5つの指標に基づき、世界の農業を13に分類（区分）した。ホイットルセイによる農業の分類（農業地域区分）は、自然条件・経済条件・文化的要素を取り入れた総合的な分類であり、指標のとり方も妥当であるため、現在も広く用いられている。 《授業の到達目標》 本授業の目標は、世界農業の地域区分、世界農業の多様性、農業をめぐる歴史性などについて比較検討することにある。本授業を受講することで、世界の農業に関する地理的分類や基本的な知識、多様性を身につけることができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：遊牧 第3回：焼畑農業 第4回：粗放的定住農業 第5回：集約的稲作農業 第6回：集約的畑作農業 第7回：混合農業 第8回：酪農 第9回：園芸農業 第10回：地中海式農業 第11回：企業的穀物農業 第12回：企業的牧畜業 第13回：プランテーション農業 第14回：まとめ（比較検討）		
3. 履修上の注意 特にない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回目の授業以降、授業内に紹介した参考書などについて予習すること。授業終了後、ノートに基づき復習すること。		
5. 教科書 特にない。		
6. 参考書 『世界農業の形成過程』、デーヴィッド・グリッグ/飯沼二郎、大明堂、1977年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックや解説は授業の最初に行う。		
8. 成績評価の方法 ミニレポート40％、定期試験60％。		
9. その他 研究室：3号館423A号室 E-mail: xiaogang@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGE341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 国際食料需給論	2 単位	池上 彰英
2022～2025 年度入学者 国際食料需給論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 なぜ現在の世界には飢餓と飽食が併存しているのでしょうか。本講義は、食料不足と食料過剰の併存という現象に着目して、国際食料需給の過去、現在、未来について考える。アフリカ等の最貧国を除くと、現在の食料需給の焦点は主食問題ではなく、畜産物消費の増大にともなう飼料問題であり、最近ではこれにバイオエネルギーの問題が付け加わってきている。本講義は、世界の食料需給の現状から入り、歴史分析を踏まえて、食料需給の将来展望について検討する。 《到達目標》 本講義を受講することで、世界的な食料需給問題の性格や食料需給の歴史と現状に関する理解が深まることが期待される。		
2. 授業内容 第1回：国際食料需給をめぐる論点 第2回：世界の飢餓の現状と展望 第3回：経済発展に伴う食料需給問題の焦点の変化 第4回：食料需給に関するデータベース等の紹介 第5回：食料需給に関するデータベースの活用 第6回：世界の穀物需給の基本構造 第7回：世界の三大穀物と大豆の需給 第8回：世界の畜産物需給の基本構造 第9回：世界の食肉、鶏卵等の需給 第10回：世界の油糧作物、植物油需給 第11回：バイオマスエネルギーと食料 第12回：“Food Security”と日本の食料安全保障 第13回：日本の食料政策 第14回：授業のまとめ		
3. 履修上の注意 とくにない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に参考書等に目を通しておくこと。授業後は、レジュメやノートの内容を復習するとともに、授業で紹介した問題について文献等で調べること。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 『The State of Food Security and Nutrition in the World』 FAO 最新版は2025年（FAOのホームページからダウンロード可能） 『FAOSTAT（FAOの統計データベース）』 FAO （FAOのホームページからダウンロード可能） 『食料安全保障月報』 農林水産省 （農林水産省のホームページからダウンロード可能）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で説明する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（70％）、ミニレポート（30％）		
9. その他 連絡先：国際開発論研究室（3号館414A号室） E-mail: akihide@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) AGE331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 食と農の貿易ルール	2 単位	作山 巧
2022～2025 年度入学者 食と農の貿易ルール		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 食料貿易に関する国際ルールについて講義する。具体的には、(1) 全世界を対象とする WTO (世界貿易機関)、(2) 主に二国間で締結される FTA (自由貿易協定) や EPA (経済連携協定)、(3) TPP (環太平洋パートナーシップ) 協定のように、経済規模の大きな日本・米国・EU・中国が相互に締結するメガ FTA、という 3 つの種類の貿易協定について解説する。教員は、農林水産省でこれら全ての交渉に従事した経験があり、その体験談を随所に交えた講義を行う。また、米国のトランプ政権による関税政策の背景や問題点にも言及する。 《授業の到達目標》 WTO のルールが依然として食料貿易で重要な役割を果たしている現状を把握した上で、FTA・EPA やメガ FTA が拡大した理由や問題点、それらが日本の食料・農業に与える影響について理解する。		
2. 授業内容 第 1 回 a のみ：イントロダクション 第 2 回：食と農の貿易ルールを学ぶために (教科書第 1 章) 第 3 回：GATT の歴史と基本原則 (教科書第 2 章) 第 4 回：GATT ウルグアイ・ラウンド農業合意 (教科書第 3 章) 第 5 回：WTO 農業協定の実施状況 (教科書第 4 章) 第 6 回：WTO 協定下の重要品目の貿易制度 (教科書第 5 章) 第 7 回：WTO ドーハ・ラウンド交渉 (教科書第 6 章) 第 8 回：WTO 衛生植物検疫協定と紛争解決制度 (教科書第 7 章) 第 9 回：WTO 知的所有権貿易協定と地理的表示 (教科書第 8 章) 第 10 回：世界の FTA の動向 (教科書第 9 章) 第 11 回：日本の EPA の動向 (教科書第 10 章) 第 12 回：環太平洋パートナーシップ (TPP) 協定 (教科書第 11 章) 第 13 回：日 EU 経済連携協定 (日欧 EPA) (教科書第 12 章) 第 14 回：メガ FTA 時代の日本の食と農 (教科書第 13 章)		
3. 履修上の注意 受講に当たって特段の予備知識は前提としないが、春学期の「食料貿易論」を併せて受講することが望ましい。なお、食料貿易論研究室への入室を希望する学生は、2 年次での本科目の受講を求める。 毎回の小テストに必要となるスマートフォンやパソコン等の電子機器を持参する。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 教科書は開講前に必ず購入し、事前に該当部分を読み、毎回の講義に持参すること。また、教科書に掲載された設問を用いた講義時の小テストと講義後の感想の提出を毎回行う (解答用紙の提出時に教科書を一人ずつ確認するため、それを持参しないと小テストに解答できない)。		
5. 教科書 『食と農の貿易ルール入門—基礎から分かる WTO と EPA/TPP』作山巧 (昭和堂) 2023 年		
6. 参考書 1. 『WTO・FTA 法入門』(第 2 版) 小林友彦・飯野文・小寺智史・福永有夏 (法律文化社) 2020 年 (全般) 2. 『貿易紛争と WTO：ルールに基づく紛争解決の事例研究』 福永有夏 (法律文化社) 2022 年 (第 8 回) 3. 『農林水産物・飲食品の地理的表示』高橋梯二 (農山漁村文化協会) 2015 年 (第 9 回) 4. 『2024 年版世界貿易投資報告』ジェトロ編 (日本貿易振興機構ウェブサイト) 2024 年 (第 10 回) 5. 『詳解経済連携協定』外務省経済連携協定研究会 (日本経済評論社) 2022 年 (第 11 回) 6. 『日本の TPP 交渉参加の真実：その政策過程の解明』作山巧 (文真堂) 2015 年 (第 12 回)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答例や代表的な質問に対する回答は、次回授業の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 毎回の小テストへの解答 (67%) と感想の提出 (33%) により評価する (定期試験は実施せず、レポート等による事後的な救済も行わない)。		

9. その他

教員の連絡先は sakuyama@meiji.ac.jp である。なお、欠席に関する照会は、第 1 回講義資料と「シラバスの補足」をよく読んだ上で行うこと。

科目ナンバー (AG) AGE351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 国際協力論	2 単位	コーディネーター：暁・池上
2022～2025 年度入学者 国際協力論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 国際協力は単なる同情や損得勘定で行われるものではなく、明確な理念や様々な手法、実務的実行体制に裏打ちされている。しかし実際の途上国開発協力では、厳しい現実の前にそうした理念や手法が当てはまらない場合も多い。この講義では、国際機関での勤務や開発協力の経験の豊富な3名のゲスト講師が、実際の農業開発援助事業の実例を参考に、開発協力で直面する様々な問題と対応策について講義する。また、開発経済理論や国際援助機関の基準も引用しながら、なぜ農業開発協力が必要なのか、どのような手段と問題があり、どう解決しようとしてきたのかをさぐる。授業全体を通じて、他の国の人のために働くことの難しさ、喜び、驚きを感じてもらい、国際協力への関心と認識を高めてもらうことを目指す。ゲスト講師の坪田邦夫氏はFAO、OECD、世界銀行、ADB、APO等国際機関での勤務経験が豊富で、現在は（公財）日本農業研究所客員研究員を務める。同じく杉野智英氏は現在（国研）国際農林水産業研究センターの研究員、高木茂氏は（株）NTCインターナショナルの開発コンサルタントを務める。いずれのゲスト講師も国際協力プロジェクトへの参加経験が豊富である。コーディネーターの池上も国際農林水産業研究センターでの勤務経験があり、中国を中心とする国際協力プロジェクトへの参加経験が豊富である。 《到達目標》 国際協力といってもその範囲は広い。ここでは、将来受講生が様々な国際的な仕事にかかわる可能性があることを考慮し、国際貢献に関する理論と国際協力の実務や問題について、大学生としての専門的知識を習得することを目指す。		
2. 授業内容 第1回：国際協力論：課題（池上彰英） 第2回：国際協力と国際機関の役割（坪田邦夫） 第3回：国際開発協力の基礎理論（坪田邦夫） 第4回：国際協力理念の変遷（坪田邦夫） 第5回：国際研究協力とは（杉野智英） 第6回：国際協力から学ぶインドネシアの経験から（杉野智英） 第7回：開発協力とジェンダー・宗教（高木茂） 第8回：アフリカ開発協力（高木茂） 第9回：開発援助とコンサルタント・NGOの役割（高木茂） 第10回：現場から見た開発協力の光と影（高木茂） 第11回：国際協力（ODA）の手法（坪田邦夫） 第12回：事例分析ーインドネシア精米・中国牧畜民定住（坪田邦夫） 第13回：故中村医師の活動が伝えるもの（坪田邦夫） 第14回：国際協力論：まとめと展望（坪田邦夫） 授業の順番等は変更する可能性がある。		
3. 履修上の注意 外務省やJICA、世界銀行、国際機関などのホームページを事前に閲覧し、国際協力について一通りの知識は持っていてほしい。授業は、各講師が自分自身の国際機関等での経験や国際協力プロジェクトへの参加経験に基づいて作成した一連の資料を用いて行う。必ず出席して具体的な話を体感して欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考書等を事前学習することで、国際協力の考え方と基本的な専門用語を適宜整理し、頭の中に入れておくこと。国際協力という性格上、海外を相手にすることになるので、予習・復習に使う参考書も、できれば英語で読んでほしい。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 『開発経済学（新版）』 速水佑次郎 （創文社） 2000年 『国際協力機構統合報告書』 国際協力機構（JICA） 最新版は2025年 『世界開発報告（World Development Report）』 世界銀行（World Bank Group） 最新版は2025年 『入門 開発経済学』 山形辰史 （中央公論新社） 2023年 『なぜ貧しい国はなくなるのか（第3版）』 大塚啓二郎 （日本経済新聞出版） 2025年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゲスト講師またはコーディネーターの教員が、授業または Oh-o!Meiji 等を利用して説明する。		

8. 成績評価の方法

毎回の授業終了後に課すミニレポートの点数により成績を評価する。
レポート評価点の合計が60%以上であることが単位認定のラインである。

9. その他

コーディネーター連絡先：国際開発論研究室（3号館414A号室）
E-mail：akihide@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 途上国と一次産品論	2 単位	大江 徹男
2022～2025 年度入学者 途上国と一次産品論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 貧困問題を考えるために、主にアフリカに焦点を絞って、同地域の農業と食料の現状、貧困について、一次産品に着目しながら、理論的かつ歴史的に理解することを目的とする。 《授業の概要》 欧米諸国とアフリカの歴史的関係性を対象に、国際経済学（貿易理論）、経済史等を駆使しながら、現在のアフリカにおける貧困や世界の農産物貿易の状況について、理論的かつ実証的に説明する。 内容は、図表やビデオを活用して、可能な限り理解しやすいように説明する。		
2. 授業内容 [第 1 回] a のみ：イントロダクション（フードシステム論特講で何を学ぶか） [第 2 回] アフリカ経済の現状と課題 [第 3 回] アフリカ農業の現状と課題 [第 4 回] 大航海時代とヨーロッパの貿易の変化 [第 5 回] 世界市場の形成とイギリスの貿易拡大 [第 6 回] 奴隷貿易とイギリスの産業革命 [第 7 回] アフリカの植民地化－ケニアの事例（農業） [第 8 回] アフリカの植民地化－南アフリカの事例（鉱物） [第 9 回] 一次産品の価格形成・流通① [第 10 回] 一次産品の価格形成・流通② [第 11 回] 公正な貿易－フェアトレード① [第 12 回] 公正な貿易－フェアトレード② [第 13 回] 連帯経済の可能性 [第 14 回] WTO 体制下における途上国の農産物貿易問題		
3. 履修上の注意 主体的かつ積極的な授業参加が望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義の内容について、身の回りの食品について途上国でどのように生産・流通されているか、調べてみましょう。		
5. 教科書 特に定めない。必要な資料を Oh-meiji にアップする。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 定期試験と講義終了後毎回提出してもらうコメントで評価を行う。 定期試験が 70%、コメントが 30%。		
9. その他 オフィスアワーは別途指示します。		

科目ナンバー (AG) AGE341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 先進国の食と環境	2 単位	和泉 真理
2022～2025 年度入学者 先進国の食と環境		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 食・農・環境はその土地の自然・歴史・社会・文化に根付く固有・保守的なものであるが、グローバル化がこれらの分野でも急速に進んでいることも事実である。今や日本の食・農・環境に関する考察を、海外の動向との比較抜きに行うことはできない。本授業では、先進国の食と農と環境を巡る最新のトピックについて学ぶことを通じ、その多様性と共通性を認識し、先進国の1つである日本と諸外国との比較から日本の食・農・環境を評価するという視点を持つことを目的とする。 《授業の概要》 本講義では、先進国特に欧州を中心に食と農と環境について毎回様々なトピックを扱い、その背景や各国の具体的な食・農・環境に関する取組や政策の紹介、日本との比較について、画像、動画なども活用しつつ講義を行う。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、先進国特有の食・農・環境をめぐる諸問題 第2回 先進国の食料消費・食生活 第3回 食品の規格・表示・認証 第4回 有機農業と有機産品市場 第5回 食料安全保障 第6回 フードシステムの特徴と構造 第7回 食・農・環境を変える多様なプレイヤー達 第8回 先進国の農業（農地・農業経営） 第9回 先進国の農業（農業・農業政策実施のツール） 第10回 農業と環境保全：両立のための手法 第11回 環境に偏重するヨーロッパの農業政策 第12回 EU 離脱後の英国農政 第13回 協同組合 第14回 都市と農村を結ぶ ※講義内容は変更することがあります。		
3. 履修上の注意 食や環境に関わるニュースや自身の周辺の事象に常に関心を払い、問題意識を持って講義に参加し、積極的に質問をしてほしい。 なお、海外について学ぶ以上最低限の英語力は必要であり、英語の資料、動画も用いて講義を行う。 授業においては各自 PC を持参することを推奨する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で使したパワーポイント資料やレジュメを再読し、疑問等があれば次回講義の場で質問をしていただきたい（コメント・ペーパーに書いても可）。 講義のレジュメを授業前にクラスウェブにアップロードするので、授業中に参考にするなど活用してほしい。		
5. 教科書 特に指定しない。準備したパワーポイント等や講義用レジュメを用いて授業を行う。		
6. 参考書 より詳細・具体的な内容については以下を参考にしてほしい。 （一社）日本協同組合連携機構のサイトに掲載されている和泉の「EU の農業・農村・環境」シリーズ https://www.japan.coop/wp/publications/study/localagri/eu_agri 日本農業新聞で毎週月曜日に掲載される「グローバル GX」の記事 農林水産省ホームページの「海外農林水産情報」 https://www.maff.go.jp/j/yusyutu_kokusai/kokuchi/index.html		
7. 課題に対するフィードバックの方法 指定したメールアドレスを用いて行う。 メールアドレスは初回講義時に提示する。		

8. 成績評価の方法

講義毎に、テーマを指定したコメント・ペーパーの提出を求め、その提出状況及び内容によって評価する（100%）。

9. その他

科目ナンバー (AG) AGE351J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 途上国の食と環境	2 単位	暁 剛
2022～2025 年度入学者 途上国の食と環境		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 多くの途上国は、第二次世界大戦後、宗主国の植民地や傀儡政権から独立を果たした。本授業は、アジアにおける途上国や地域を中心に取り上げる。とくにモンゴル国と内モンゴル自治区（中国版図に含まれる）の事例を通じて、社会経済・食料・農業・環境・地域文化などの領域に焦点を当てて、第二次世界大戦前後の歴史的展開や現状などについて広く浅く紹介する。 《授業の到達目標》 本授業を受講することで、アジアにおける途上国や地域に関する基礎的ではあるが全般的な知識、ならびにモンゴル国や内モンゴル自治区に関する専門的な知識を身につけることができる。		
2. 授業内容 第 1 回：途上国の国家形成 1 第 2 回：途上国の国家形成 2 第 3 回：途上国における農業搾取 第 4 回：途上国における第一次産業の役割 第 5 回：途上国における第二次産業の役割 第 6 回：途上国における第三次産業の役割 第 7 回：国際政治経済環境を考える 第 8 回：工業化に伴う問題を考える 第 9 回：途上国政府の役割を考える 第 10 回：モンゴル国の政治・経済 第 11 回：カシミヤと日本人 第 12 回：雑豆と日本人 第 13 回：結婚式からみる内モンゴル 第 14 回：まとめ		
3. 履修上の注意 特にない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第 1 回目の授業以降、授業内に紹介した参考書などについて予習すること。授業終了後、ノートに基づき復習すること。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 『途上国を考える』、高木保興・河合明宣、放送大学教育振興会、2014 年。 『アジア開発史：政策・市場・技術発展の 50 年を振り返る』、アジア開発銀行 [著]、澤田康幸 [監訳]、勁草書房、2021 年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックや解説は授業の最初に行う。		
8. 成績評価の方法 ミニレポート 40％、定期試験 60％。		
9. その他 研究室：3 号館 423A 号室 E-mail: xiaogang@meiji.ac.jp		

科目ナンバー (AG) LAW341J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農業・環境法	2 単位	奥田 進一
2022～2025 年度入学者 農業・環境法		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 農地が法律によって適正に規律され、安定した農業経営が保障されることは、国家経済の基盤です。産業としての農業を法的側面から捉えるとともに、環境問題として認識し、農業の有する多面的機能を具体的な事例を通じて考えます。なお、本授業では、農業だけでなく、林業、漁業、畜産業も対象として、第一次産業全体に関する法政策について理解を深めます。 《授業の到達目標》 農地、農家、農業経営をめぐる農業関係法に則して、農地所有や利用関係を規律している法律の仕組みについて環境保全の視点から理解できることを目標とします。		
2. 授業内容 第1回：農業法政策の体系 これから学ぶ農業法の全体像について紹介し、わが国の法体系の中での位置づけを確認する。 第2回：土地法制度の概説 民法の物権法総論を中心として、土地権利関係についての基礎知識の確認作業を行い、あわせて農地法の概要について解説する。 第3回：農地制度の変遷～明治維新から農地解放まで 明治維新から今日までの農業法政策について概観したうえで、とうに戦後農政の問題点や食料自給率の低下問題を指摘しながら、農業法の体系について全体像を紹介する。 第4回：農地流動化 農地の売買、賃貸借、転用等が、農地法においてどのように規制され、あるいはどのように緩和されてきたのについて、歴史的経緯も踏まえて理解を深める。 第5回：土地改良事業と区画整理法 土地改良区の設立とその意義、農地および農業組織の近代化に関する法政策について紹介する。 第6回：都市化と農地の法政策 都市計画法において農村がどのように扱われてきたのかについて、東京圏を中心とした具体的事例を紹介しながら問題点を指摘し、農村の景観保護について考える。 第7回：新基本法と農業の多面的機能 1999 年の食料農業農村基本法（新農基法）の概要を紹介したうえで、そこで軸とされている農業の多面的機能について環境問題の側面から理解を深める。 第8回：農村金融問題と法 農村は都市とは異なる論理や担保で金融システムが機能しているが、とくに農協を中心とする集金・融資の状況について理解を深める。 第9回：里山保全とコモンズ 農村の景観保護を中心として、いわゆる里地里山の保全に対して、既存の各種法政策がどの程度機能しているのかについて、コモンズ論の視点から考える。 第10回：漁業と海をめぐる法政策と権利 2018 年改正漁業法の動向を中心に、漁業権および漁業協同組合の将来像を解説する。 第11回：森林保全と経営の法政策 森林の保全と利用に関係する各種の法政策を紹介し、人口減少社会において森林をいかに経営するのかという問題を考える。 第12回：農業水利と仮想水 河川法における農業水利権をめぐる問題点を指摘しつつ、世界最大の水輸入国たるわが国の農業水利権の方向性を考える。 第13回：フードマイレージと地産地消 フード・マイレージの考え方を理解したうえで、地産地消について多角的に検証する。また、地産地消の推進を阻む現行法の問題点についても触れる。 第14回：a：定期試験 b：試験の解説 ＊講義内容は必要に応じて変更したり、前後する可能性があります。		
3. 履修上の注意 講義で採り上げる農地法等の条文を、農林水産省の Web サイト等を通じて入手しておいて下さい。詳細は講義中に指示します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で使用するレジュメがある場合は、あらかじめ予告したうえで Oh!Meiji にアップロードします。かならずダウンロードして一読してから講義に臨んでください。なお、レジュメの教室での配布は原則としてしませんが、担当者の事情によりアップロードが間に合わなかったり、追加や補足資料がある場合には配布します。		

5. 教科書

初回講義の際に指示します。

6. 参考書

河相一成『農地法制の変遷～近代から現代まで』（光陽出版社、2019）

大西敏夫『都市化と農地保全の展開史』（筑波書房、2018）

7. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験実施後に、解答例と採点講評を Oh-o!Meiji において公開します。

8. 成績評価の方法

定期試験の結果を以て評価します。

9. その他

質問等がある場合は遠慮なくメールを送って下さい。

sokuda@takushoku-u. ac. jp（奥田進一）

科目ナンバー (AG) AGE311J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 農業・資源問題の経済学	2 単位	藤栄 剛
2022～2025 年度入学者 農業・資源問題の経済学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本講義の目標は、農業問題や資源問題を経済学的な側面から検討することによって、その現状や特質、さらにメカニズムに対する理解を深めることです。 《授業の概要》 授業の前半は、資源問題について、たとえば生物資源や海洋資源などをはじめとする資源利用のあり方をめぐる問題や制度・政策を経済学的な観点から検討します。授業の後半は、農業問題について、ミクロ経済学をベースに、国際比較などを通じて、農業形態の決定要因などを概説するとともに、歴史的な視点や新たな研究動向もふまえて、農業の特質や固有性を検討します。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクションー農業・資源問題と経済学ー 第2回：共有資源の利用と管理（1）ーコモンズの悲劇と社会関係資本ー 第3回：共有資源の利用と管理（2）ー地域社会とコモンズー 第4回：海洋資源（1）ー漁業のモデルー 第5回：海洋資源（2）ー海洋資源管理のための政策・手段ー 第6回：小括 第7回：世界の農業と日本農業 第8回：国民経済と農業 第9回：経済発展と農業 第10回：小括 第11回：農業の技術選択と技術進歩 第12回：農業の技術的特質と技術普及 第13回：農業の経営組織 第14回：まとめ ※ただし、必要に応じて、授業内容を変更することがある。		
3. 履修上の注意 初歩的なミクロ経済学の知識を有することがのぞましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料を振り返り、適宜復習すること。また、必要に応じて参考書を参照し、発展的な内容についても目を通すことがのぞましい。		
5. 教科書 使用しない。変更がある場合には、初回講義時に指示する。		
6. 参考書 バリー・C・フィールド（2016）『入門 自然資源経済学』庄子康・柘植隆宏・栗山浩一訳、日本評論社。 栗山浩一・馬奈木俊介（2024）『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣。 荏開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学 第5版』岩波書店。 速水佑次郎・神門善久（2002）『農業経済論 新版』岩波書店。 木村茂光編（2010）『日本農業史』吉川弘文館。 大塚啓二郎（2023）『「革新と発展」の開発経済学』東洋経済新報社。 その他参考書については、講義中に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 講義後の課題と期末試験で評価する。変更がある場合には、初回講義時に指示する。		
9. その他 資源経済論研究室（3号館4階 3-415A）		

科目ナンバー (AG) AGE371J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 環境行動経済学	2 単位	岡 通太郎
2022～2025 年度入学者 環境行動経済学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 共生社会の実現に向けた新しい試みを体系的かつ具体的に理解する。『「情」報の経済学』, 「コモンズの社会」という2つの概念を軸に, 近代社会における個人主義の限界を論考しつつ, 共生社会を実現させる経済理論の構築を目指す。自らの効用の最大化を目的とする市場経済システムの中で, 自分以外の他者と共生しようとする行為は可能なのか。自発的参加, 連帯意識, 利他心の保険機能, 社会的評価, 情報の非対称性, ゲーム理論, 行動経済学, 実験経済学, 「つながり」を求める心, 等々の概念を利用しながら冷静かつ客観的に理解する。 《授業の概要》 多くのスライドや動画を利用しつつ世界の異文化社会をイメージしながら, 本講義が実践的な共生社会論の知識体系であることを具体的に解説する。		
2. 授業内容 第1回 個人主義の経済学と共生社会 第2回 共生社会と「情」報 第3回 「情」とは何か 第4回 社会的ジレンマの経済学 第5回 コモンズ論と経済学の融合 第6回 「情」報の経済学の誕生 第7回 利他行動と利己行動 第8回 共生と強制 第9回 他者との関係性から生まれる効用 第10回 ニードとグリード 第11回 NPO の経済学 第12回 「情」と経済の融合〈1〉 制度 第13回 「情」と経済の融合〈2〉 貨幣 第14回 人は「情」を用いる生き物か		
3. 履修上の注意 共生社会論（春学期）からの連続履修が望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回の内容を1行で整理してくる。		
5. 教科書 特に指定しない		
6. 参考書 『コモンズの人類学』秋道智彌（人文書院） 『循環の経済学：持続可能な社会の条件』室田武他（学陽書房） 『ボランティア経済学への招待』香西泰・下河辺淳（実業之日本社） 『ボランティア経済の誕生：自発する経済とコミュニティー』金子郁容他（実業之日本社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 成績は, 毎回の講義の最後に行なわれる小レポート（3～5行）50%, 学期末試験 50%をもって判定する。		
9. その他 質問は 共生社会論研究室（3号館4階 421A号室） m-oka@meiji.ac.jp まで		

科目ナンバー (AG) AGE371J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 持続可能性の経済学	2 単位	佐々木 宏樹
2022～2025 年度入学者 持続可能性の経済学		
1. 授業の概要・到達目標 本講義は、環境経済論の第二部として位置付けられ、持続的な発展や持続可能性の定義や食料農業分野における具体的問題と政策について学習する。 環境と両立する経済成長や経済活動を意味する概念である「持続的な発展」や「持続可能性」の意味を理解し、食、農業と環境の問題に対する思考力を養うことをねらいとしている。		
2. 授業内容 [第 1 回] イントロダクション、持続可能性と生産者・消費者・社会の対応 [第 2 回] 地球環境問題と環境経済学（1）国際貿易・環境規制・技術進歩 [第 3 回] 地球環境問題と環境経済学（2）持続可能な発展・エネルギー経済 [第 4 回] 持続可能な農業と環境問題（1）国際的な現状 [第 5 回] 持続可能な農業と環境問題（2）農業環境政策の展開 [第 6 回] 持続可能な農業と環境問題（3）地球温暖化 [第 7 回] 持続可能な農業と環境問題（4）生物多様性 [第 8 回] 持続可能な農業と環境問題（5）資源循環と再生可能エネルギー [第 9 回] 食と環境問題（1）持続可能な消費 [第 10 回] 食と環境問題（2）アニマルベースフードとプラントベースフード [第 11 回] 企業と環境問題（1）企業の環境対策 [第 12 回] 企業と環境問題（2）企業に求められる社会的責任 [第 13 回] 企業と環境問題（3）企業と環境リスク [第 14 回] 企業と環境問題（4）生物多様性と生態系		
3. 履修上の注意 環境経済論を履修しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料を振り返り、適宜復習すること。また、必要に応じて参考書を参照すること。		
5. 教科書 『環境経済学をつかむ(第 5 版)』栗山浩一・馬奈木俊介（有斐閣）2024 年		
6. 参考書 『環境経済学の第一歩』大沼あゆみ・柘植隆宏（有斐閣）2021 年 『SDGs』蟹江憲史（中公新書）2020 年 『SDGs』南博・稲場雅紀（岩波新書）2020 年 『持続的農業の経済学：サステナブルな窒素利用の実現』栗山浩一（編）（中央経済社）2024 年 『日本の農業環境政策：持続的な美しい農業・農村を目指して』荘林幹太郎・佐々木宏樹（農林統計協会）2018 年 『食べる経済学』下川哲（大和書房）2021 『マッキンゼーが読み解く食と農の未来』アンドレ アンドニアン・川西剛史・山田唯人（日経 BP 日本経済新聞出版本部）2020 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の始めに行う。		
8. 成績評価の方法 期末試験（80%）、講義に関する小レポート（20%）で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) AGE371J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 持続可能性の会計学	2 単位	本所 靖博
2022～2025 年度入学者 持続可能性の会計学		
1. 授業の概要・到達目標 《授業のテーマ》 「財政と管理会計から持続可能な社会・組織づくりを考える」 《授業の達成目標》 (1) 財政学の基礎知識に基づいて、主に「資源」配分の観点から社会的課題について「公共政策のあり方」を考える力を養います。また、国や地方自治体が税金を使って「政策課題」をどう解決すべきかを考える力を養います。 (2) 管理会計の基礎知識に基づいて、持続可能な組織であるために経営者がどのような意思決定を行うべきかを考える力を養います。 《授業の概要》 (1) 国や地方自治体の会計である「財政」に着目し、「財政学」の基礎知識を学習します。 (2) 「管理会計」「原価計算」の基礎知識を学習します。		
2. 授業内容 第 1 回 (9/30) : a : 授業の進め方と学習の動機づけ b : 財政の機能 第 2 回 (10/7) : 政府予算と地方財政 第 3 回 (10/14) : 公債の発行と財政赤字 第 4 回 (10/21) : 公共財の理論と財政政策 第 5 回 (10/28) : 租税理論と租税体系 第 6 回 (11/4) : 消費課税のしくみ 第 7 回 (11/11) : 所得課税のしくみ 第 8 回 (11/18) : 資産課税のしくみ 第 9 回 (11/25) : 財政から持続可能な社会づくりを考える 第 10 回 (12/2) : 管理会計・原価計算の基礎知識 第 11 回 (12/9) : 短期利益計画 : C V P 分析 第 12 回 (12/16) : 意思決定と会計 (1) : 差額原価収益分析 第 13 回 (1/13) : 意思決定と会計 (2) : 設備投資の経済性計算 第 14 回 (1/20) b のみ : 意思決定と会計 (3) : まとめ ※授業内容は進度等により変更する場合がありますが、Oh-o!Meiji のクラスウェブと授業にて知らせます。 初回の授業で詳細な授業計画表を配付します。		
3. 履修上の注意 ・履修を予定又は検討している学生は学習の動機づけやよい授業環境づくりの為、第 1 回の授業には必ず参加してください。 ・第 1 回の授業に参加がない場合は平常点を減点します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・財政学や公共経済学、租税、管理会計に関する入門的な書籍や新聞記事を事前に読んでおくことで授業の理解が増すでしょう。 ・レジュメに掲載されている復習問題を解くこと。授業で配付の指定用紙にまとめノートをしておきましょう。		
5. 教科書 教科書は使用せずレジュメを配付します。		
6. 参考書 特になし（授業内容に関連して授業の中で紹介することがある）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 コメントカードについて次の授業までにフィードバックコメントを返す予定です。		
8. 成績評価の方法 成績は平常点が 20%で期末試験が 80%で評価します。詳細は次のとおりです。 ※ポイント制 ⇄ 合計ポイント (100p) = 期末試験 (80p) + 平常点 (20p + α) ▼平常点 : 20p を超えた場合はそのまま加算します。 ・出席はとりません。期末試験の受験要件（最低出席回数）もありません。 ・コメントカードのやりとり 1 回につき平常点 2p 前後を加点します。 ・初回の授業への参加（コメントカード提出）で 4p 加点、初回の授業に不参加（コメントカード提出なし）で 4p 減点します。		

▼期末試験：100 点満点を 80p に換算します。

▼最終成績：S（90p 以上）、A（80p 以上）、B（70p 以上）、C（60p 以上）、F（60p 未満）、T（未受）

9. その他

環境資源会計論研究室（3 号館 4 階 3-412A）

E-mail: honjo@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 内発的発展論	2 単位	小田切 徳美
2022～2025 年度入学者 内発的発展論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 本講義では、地域経済論により「内発的発展」のあり方を論じること目的とする。 経済原論の世界には「空間」が存在しない。国民はすべて 1 点に集まり、資本もそこにのみ立地することが仮定されている。しかし、現実の経済では、当然のことながら、地理的なひろがりが存在する。そして、多くの国では、人々の居住や資本立地の偏在が発生し（過疎・過密現象）、その結果、無視できない経済的社会的な地域間格差が顕在化している。地域経済論は、こうした問題が何故発生し、そしてその問題の本質（要因）は何かを明らかにすることを課題とする。 そのうえで、こうした状況からの「内発的発展」にかかわる、理論と実践を掘り下げて学ぶこと課題とする。 《授業の概要》 本講義の前半では、上記の課題解明を目的として、戦後日本経済と国土開発政策の展開を素材として、地域経済と地域経済政策のあるべき姿を講述する。また、後半では、地域問題のいくつかの各論、そして内発的発展の理論の課題について講述する。その際、実態認識を深めるため、動画の利用を積極的に行う。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：イントロダクションー戦後日本の概観ー 第 3 回：日本経済と国土開発政策＜ 1 ＞ー旧全総 第 4 回：日本経済と国土開発政策＜ 2 ＞ー新全総 第 5 回：日本経済と国土開発政策＜ 3 ＞ー三全総 第 6 回：日本経済と国土開発政策＜ 4 ＞ー四全総 第 7 回：小括ー国土開発計画の一貫性ー 第 8 回：＜補論 1＞日本における地域間格差 第 9 回：＜補論 2＞地方自治とは何かー内発的発展の基盤としてー 第 10 回：新しい国土開発政策の展開と可能性 第 11 回：新しい内発的発展論 第 12 回：応用トピックス＜ 1 ＞ー地方自治と内発的発展 第 13 回：応用トピックス＜ 2 ＞ー関係人口と内発的発展 第 14 回：総括ー内発的発展に向けてー ※講義内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 1. 新しい領域の講義であるために、講義の内容は柔軟に変更することもある。 2. 講義中の私語は厳禁とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で配布するレジュメ（Oh-o! Meiji のクラスウェブを利用する）を再読して、疑問等があれば次回講義の場で質問をしていただきたい（リアクション・ペーパーに書いても可）。 また、次回の内容の目的・目標を講義の最後に触れるので、関連情報の事前収集を予習として行うこと。		
5. 教科書 教科書は指定しない。毎回の講義で配布するプリント（講義レジュメ）をテキストとする。		
6. 参考書 小田切徳美『にぎやかな過疎をつくる』（農山漁村文化協会、2024 年）の一部が参考になる。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパーによる感想等の提出を課題とし、そのなかから優れたものや印象的なものは次回に紹介し、さらに質問についても次回講義で積極的に回答する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験を行い、それによって評価する（定期試験 100%）。ただし、毎回、講義内容に関する感想（質問も含む）を書くリアクション・ペーパー（課題）の提出機会を作り、その内容が優れたものを、次回の講義で紹介すると同時に、成績の加点要素とする（最大 20%）。		

9. その他

地域ガバナンス論研究室（3号館4階 3-420A）
odagiri@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) ECN321J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 協同組合論	2 単位	コーディネーター：大江・橋口
2022～2025 年度入学者 協同組合論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 講義は主に 2 人の講師によって実施される。ガイダンスの後、内田多喜生講師（農林中金総合研究所）から、協同組合の歴史と理念等について概括的な講義が展開される。そして、農業協同組合に関して詳細な解説が加えられる。次に、藤木千草講師（ワーカーズ・コレクティブ及び非営利・協同支援センター）から、消費生活協同組合及びワーカーズ協同組合について、その動向と社会的な意義について講義が行われる。 《到達目標》 国際連合は、2012 年を国際協同組合年として定め、現代社会における協同組合の役割の重要性を訴えた。本講義においては、「協同組合思想」とはどのようなものか、それはどのようにして生まれ、どのような変化をとげてきたかを概観するとともに、主に農業協同組合（農協）、消費生活協同組合（生協）、ワーカーズ協同組合を題材とし、現在のわが国における協同組合組織の具体的な取り組みの状況、課題等を論ずる。それらを通じ、格差の拡大、地域の疲弊等、現代社会の抱える様々な問題に対し、協同組合がどのような役割を果たしうるか、そのために解決すべき課題等を考えることとする。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクションー協同組合論を学ぶことの意義ー（橋口卓也） 第 2 回：協同組合とはー歴史、定義、原則、特徴ー（内田多喜生） 第 3 回：わが国農協の歴史（同上） 第 4 回：農協と組合員の関係（組織面）（同上） 第 5 回：農協と組合員の関係（事業面）（同上） 第 6 回：農協の事業（続）、様々な農協（同上） 第 7 回：農業政策と農協、協同組合と公益（同上） 第 8 回：消費生活協同組合（生協）について（1）（藤木千草） 第 9 回：消費生活協同組合（生協）について（2）（同上） 第 10 回：ワーカーズ協同組合（労働者協同組合）とは（同上） 第 11 回：ワーカーズ協同組合と社会制度の課題（1）ー法制度の現状ー（同上） 第 12 回：ワーカーズ協同組合と社会制度の課題（2）ー事例紹介ー（同上） 第 13 回：ワーカーズ協同組合の視点からの課題解決プランの発表（同上） 第 14 回：総括と質疑応答（橋口卓也）		
3. 履修上の注意 日常から、協同組合に関する情報に関心をもち、その動向について注目しておくことを望む。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、講義の内容に沿った協同組合をめぐる重要事項について、自分なりに調べてくること。ノートや配布プリントに基づいて、講義内容を十分に理解するように、復習すること。なお、藤木講師担当分は「演習シート」が課題として出されることがあるので、それに対応すること。		
5. 教科書 〔藤木講師担当分〕ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン『小さな起業で、楽しく生きる～仲間と始める地域協働ビジネス』ほんの木、2014 年）。 他に、必要に応じてプリント等を配布する。		
6. 参考書 ・風見正三・山口浩平編著『コミュニティビジネス入門 地域市民の社会的事業』（学芸出版社、2009 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義時間内にミニレポート等を実施する場合や、逆に次回講義までに課題を課す場合があるが、いずれも次回講義時間内にコメント等を行う（各講師の最後の講義については、その限りではない）。		
8. 成績評価の方法 原則として、各回終了後に、ミニレポート（講義の理解度を測るアンケートのようなものや、提案など）を課します。 評価の採点配分は、ミニレポートが 30%相当（1 回当たりでは 30 点÷14 回＝約 2 点分相当）、全講義期間終了後の定期試験）が 70%です。		

9. その他

《コーディネーター担当教員：橋口卓也 連絡先》

研究室（第一校舎3号館4階、3-413A、Tel：044-934-7121）

e-mail：hashiguchi.takuya@nifty.com

科目ナンバー (AG) AGE331J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 森林・水産政策論	2 単位	橋口 卓也
2022～2025 年度入学者 森林・水産政策論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 日本の林業・水産業の現状や林産物・水産物の流通・消費・貿易の構造について解説する。また、森林・水産政策の展開過程を追いながら、森林組合・漁業協同組合など関連団体の果たす役割についても講義する。その際、できるだけ、農業政策や農業政策に関わる諸団体との共通点、関連性や相違点などにも注意を払うようにしたい。 《到達目標》 日本は、周囲を海に囲まれる一方、広大な森林地帯を擁している。わが国の食料需給を考える上で、水産物の位置づけは極めて重要である。また、国土管理を意識した土地問題・資源問題を考慮する上では、森林・林野の位置づけを抜きにすることもできない。本講義では、日本の林業や水産業の現状や課題とともに、森林政策、水産政策の概要を理解することを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：日本の林業の実態 第3回：日本の水産業の実態 第4回：林産物の流通と消費 第5回：水産物の流通と消費 第6回：林産物貿易・水産物貿易の現状と課題 第7回：森林資源をめぐる問題 第8回：水産資源をめぐる問題 第9回：森林政策の展開と特徴 第10回：水産政策の展開と特徴 第11回：森林政策・水産政策と農業政策との比較 第12回：森林組合・漁業協同組合の役割と課題－農協との比較－ 第13回：関連団体・組織の役割と課題 第14回：総括と質疑応答		
3. 履修上の注意 本講義を含めて、農・林・水産政策を横断的に見るために、「農業政策論」も履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、講義の内容に沿った森林政策・水産政策をめぐる重要事項について、自分なりに調べてくること。ノートや配布プリントに基づいて、講義内容を十分に理解するように、習すること。		
5. 教科書 特に指定しない。必要に応じてプリント等を配布する。		
6. 参考書 『日本漁業の真実』濱田武士著（ちくま新書、2014 年） 『水産経済学―政策的接近―』小野征一郎著（成山堂書店、2007 年） 『森林政策学』堺正紘編著（日本林業調査会、2004 年） 『農林漁業政策の新方向』岸康彦編著（農林統計協会、2002 年） 『森林・林業・山村問題研究入門』船越昭治編著（地球社、1999 年） 他、適宜、講義の中で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて、次回の講義でコメントや解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験の内容と密接に関連する小テストを実施する可能性があるが、それら自体は最終的な成績には反映しない。成績評価は定期試験 100%とする。ただし、特別な場合には、講義への出席態度をもって加点措置をとることもありうる。		
9. その他 《担当教員連絡先》 研究室（第一校舎 3 号館 4 階、3-413A、Tel：044-934-7121） e-mail：hashiguchi.takuya@nifty.com		

--

科目ナンバー 未設定		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 キャリア探求実習	1 単位	食料環境政策学科教員
2022～2025 年度入学者 キャリア探求実習		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 食料環境政策学科では、講義の他に基礎ゼミやプロジェクトゼミなどの演習科目およびファームステイ実習などの実習科目が設置されているが、食料環境政策学は現場で実際に何が起きているのかという姿勢を重要視している。そのため、現場から問題を発見したり、問題解決の糸口を探ることはとても大切と考えている。そこで、キャリア探求実習で単位認定を行うことにより、学生諸君が学外における農業実習や企業実習に積極的に参加して、学問的関心や将来の進路への思考を大いに高めてもらうことを目的としている。この科目は専攻科目 II（選択）で、2 年次以降、各学年において重複履修が可能である。 《授業の概要》 授業は実習参加前のオリエンテーション、現場での実習および実習後の報告会での発表からなる。		
2. 授業内容 実習の流れは以下のとおりである。 ・事前説明会（4 月ガイダンス時） ・キャリア探求実習先紹介 ・受講者各自が実習先を決定 ・履修登録および参加申請 ・書類審査等により単位認定の可否を決定 ・実習の参加 ・実習記録の提出 （実習日誌、実習レポートを本人が提出） （実習受入実施報告書を実習先担当者が提出） ・事後報告会での発表 （第 1 回）事前説明会（メディアで提供） （第 2 回～第 13 回）実習先での実習（実働 5 日以上） （第 14 回）事後報告会（対面で実施）		
3. 履修上の注意 履修を予または検討している学生は事前説明会に必ず出席すること。 指定された期日までに実習参加届の提出。 実習先については、教員が紹介することもあるが、原則として自分で探すこと。なお、全学版キャリア探求実習を利用することもできる。 実習期間は原則として一週間（実働 5 日間）以上とする。 単位認定の対象にならなかった場合ならびに実習先が見つからなかった場合は履修取消を認める。 2～3 月の春休みに実習に参加した場合は、次年度の履修科目として扱う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 なぜキャリア探求実習に参加するのか、なぜその実習先に参加するのか、参加目的を明確にしておくこと。 実習先および実習先の仕事内容に関連する事前調査を十分に行うこと。 実習実施中はつねに問題意識をもち、振り返り作業を行い、日誌に書き留めておくこと。 実習実施後は、実習報告書をまとめ、そこで得たことを今後の学生生活に役立てること。 事後報告会に向けてプレゼンテーションの準備をすること。		
5. 教科書 特に使用しない。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終報告会の際に直接コメントにてフィードバックを行う		
8. 成績評価の方法 実習後の提出書類 3 点および実習報告会での発表を行った者について評価する。 実習日誌および実習レポート（40%）、実習受入実施報告書（40%）、事後報告会での発表（20%）とする。		

9. その他

問い合わせ先は次の担当教員まで。

- ・ 市田知子 : ichida@meiji.ac.jp
- ・ 岡 通太郎 : m-oka@meiji.ac.jp
- ・ 曉 剛 : xiaogang@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE391J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 「食料環境政策」総合講座	2 単位	コーディネーター：暁・中嶋
2022～2025 年度入学者 「食料環境政策」総合講座		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要・到達目標》 本学科での学習をより深めようとする学生に対し、「食料」・「環境」・「農業」・「農村」・「政策」の最前線において、どのような問題があり、その問題解決に向け如何に思索し、どのような手段、方法を採用するのかなどを、各方面で活躍されている方々から直に講義して頂く。本講義により得た知見とレギュラー教員による講義を組み合わせることで、現代社会の諸事情を深く考察し、学生生活後半の勉学態度やキャリア形成に繋げることを期待している。それぞれの分野の最前線で活躍されている方々（実務経験者）を講師として招き、「食料」、「環境」、「農業」、「農村」、「政策」について、現状、課題、対応などについて論じていただく。 以下は、各講師の実務経験と、実務経験に基づく講義内容である。 坪田邦夫氏は、国際機関での勤務期間が長く経験が豊富であるため、世界食糧需給見通しについて講義する。受講者は国際機関と世界食糧需給見通しについて理解が深まる。 白石好孝氏は、プロの農家として体験農園などについて講義する。受講者は体験農園や都市農業について理解が深まる。 榊田みどり氏は、現役の農業ジャーナリストで、全国の農業現場に詳しい。受講者は農業とメディアについて農業ジャーナリストから直接学べる。 高橋寛氏は、イオンアグリ創造株式会社で農場の新設などを長く担当している。受講者は企業の農業参入について学べる。 深作勝己氏は、深田農園の園主である。受講者は観光農園や農業の6次産業化などについて学べる。 鎌田真悟氏は、恵那川上屋の代表者である。受講者は菓子屋（生産流通）、生産者、お客様（消費）などの三者の関係について学べる。 中村圭佑氏は、農業メーカーに勤めた後、FOODBOX（株）を起業した。受講者は規格外品の農作物を、新たな商品として蘇らせる方法などを学べる。 小林郁彦氏は、新潟県長岡地域振興局に勤めている。受講者は地域農業の維持・発展、農業普及などについて学べる。 大谷行輝氏は、株式会社シイズンドアグリ代表者である。受講者は有機質肥料製造業について学べる。 金井健氏は、全国農業協同組合中央会に長く勤め、JAグループについて講義する。受講者はJAグループについて理解が深まる。 山崎康弘氏、（株）山治の代表者であり、豊洲における水産物流通について講義する。受講者は日本の水産物や豊洲市場について理解が深まる。 古橋佳也氏は、関東生乳販売農業協同組合連合会に勤めており、生乳の生産流通に詳しい。受講者は生乳の生産・流通・消費について理解が深まる。 菅野芳秀氏は、循環型地域社会づくりの先駆者である。受講者は循環型地域社会づくりについて理解が深まる。		
2. 授業内容 第1回 国際機関による世界食糧需給見通し（坪田邦夫氏 元農学部特任教授） 第2回 都市と農業の共生：練馬・白石農園のとりくみ（白石好孝氏 白石農園・大泉風のがっこう） 第3回 私がジャーナリストと呼ばれるようになるまで（榊田みどり氏 元農学部客員教授・農業ジャーナリスト） 第4回 イオングループの農業参入：農業のありかたを考える（高橋寛氏 イオンアグリ創造株式会社） 第5回 農業と観光農園、農業の6次産業化（深作勝己氏 深田農園） 第6回 三者（菓子屋、生産者、お客様）が喜ぶ仕組みづくり（鎌田真悟氏 恵那川上屋） 第7回 プロ農家が変わる、これからの食・農業界（中村圭佑氏 FOODBOX（株）） 第8回 地域農業の維持・発展と普及指導員（小林郁彦氏 新潟県長岡地域振興局） 第9回 高機能性肥料販売と野菜生産ネットワークを創る（大谷行輝氏 株式会社シイズンドアグリ） 第10回 農業団体と食料・農業（金井健氏 全国農業協同組合中央会） 第11回 豊洲から世界に「美味しい」水産物を売る（山崎康弘氏 （株）山治） 第12回 わが国の酪農産業の特性と生乳の取引（古橋佳也氏 関東生乳販売農業協同組合連合会） 第13回 私が農業に見ている希望：次世代への持続型社会のタスキ渡し（菅野芳秀氏 菅野農園園主） 第14回 まとめ（中嶋晋作 コーディネーター） ※第1回目の授業で授業計画表を提示する。 ※講師の都合で順序・担当者・内容を変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 第一線で活躍されている方々の講義なので、内容は広く、深い。心得て受けること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 現実の農業・農村の問題は何かを常に考えること。 講師の講義をより深めるために、何をすればよいかを考えること。		
5. 教科書 特に定めない。		

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

第14回において、課題に対するフィードバックや解説を行う。

8. 成績評価の方法

出席と毎回のレポートで評価をする。

9. その他

コーディネーター：中嶋晋作

研究室：3号館422A号室

E-mail: anakajim@meiji.ac.jp

科目ナンバー (CC)LAW111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 法律学概論	2 単位	田村 翔
2022～2025 年度入学者 法律学概論		
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、そもそも法とは何であるのか、法と道徳とはどのような関係にあるのか、法の種類・体系、法を解釈するとはどういうことか、などの基本的な事項について確認したうえで、私たちの社会生活における様々な具体的場面を素材として、そこに実際にかかわりうる法律にはどのようなものがあるのか、そのそれぞれの法律の目的や具体的な内容を学習していきます。 また、本講義では、全 14 回の授業を通じ、私たちの社会生活と大きなかわりを有する様々な法（法律）を概観し、その目的や具体的な内容を理解していくことで、法（法律）の役割の重要性を一層強く意識し、法的思考力（リーガル・マインド）、すなわち、様々な利益を有する様々な人々が共同生活を送る現代社会において時としてそれらの利益が対立し（法的）紛争が起きた際に、そこではそもそもどのような利益がどのように対立し問題となっているのか、複雑に絡み合う事情を整理したうえで真の問題点を見出し、そこで見出された問題点を説得力のある形で他者にも説明することで紛争解決のための交渉を可能にする力、法的コミュニケーション能力を獲得することを到達目標とします。		
2. 授業内容 第 1 回：法とは何か 第 2 回：法の発展 第 3 回：法と裁判，裁判の基準となるもの 第 4 回：法の解釈 第 5 回：法の分類 第 6 回：国家と法（1）—日本国憲法の基本原理 第 7 回：国家と法（2）—基本的人権の尊重 第 8 回：犯罪と法（1）—刑法の機能と刑罰の目的 第 9 回：犯罪と法（2）—犯罪の成立要件と刑法の基本原理 第 10 回：財産関係と法（1）—民法・財産法の内容と基本原則 第 11 回：財産関係と法（2）—物権と債権，契約の意義 第 12 回：家族生活と法（1）—民法・家族法の基本原則，婚姻と離婚 第 13 回：家族関係と法（2）—親子と相続 第 14 回 a：国際社会と法—国際法 b：試験		
3. 履修上の注意 本講義の授業は、基本的に指定の教科書や適宜配布する授業プリント，板書などを用い講義形式で行いますが、随時こちらから授業内容と関連した質問を投げかけ，学生からの発言を求めたり，リアクションペーパーを配布し，その提出をしてもらうことがあります。 また，各回の授業内容は原則として上記の計画に沿って実施しますが，その進行具合などによっては一部計画が変更されることもあります。 授業に参加する際は，授業内容と関係のない私語の禁止など，一般的な授業マナーを守ってください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の授業に参加するにあたっては，あらかじめシラバス（上記授業内容計画）で実施する授業内容を確認したうえで，教科書でその内容が記載された箇所に目を通してください（予習）。 また，各回の授業後には，授業内での板書や指定の参考書，配布プリントがあった場合にはそれも利活用し，再度教科書を読み込むなどしてその回に実施した授業内容を自分なりに理解できるようにしてください（復習）。 もっとも，法律学概論の講義においては，回によっては非常に抽象度の高い授業内容が実施されることもあり，事前の予習段階で完全に授業内容を理解・把握することは難しいものとも思われます。そのため，予習段階ではその回の授業内容の大枠をつかみ，準備学習としては，とくに復習に力を入れるよう心がけてください（決して，予習が重要ではない，という意味ではありません）。 なお，授業内容についてわからなかった点・不明な点などは，授業中ないし授業終了後に質問を受け付けますので，必ず，疑問を疑問のままに終わらせないようにしてください。		
5. 教科書 『法学入門』早川吉尚（有斐閣，2016 年） なお，教科書の使用方法等については，初回の授業時に説明いたします。教科書の購入については，その説明を受けてからで構いません。		
6. 参考書 『現代法学入門〔第 4 版〕』伊藤正己・加藤一郎編（有斐閣双書，2005 年） 『エッセンシャル法学〔第 8 版〕』大谷實編（成文堂，2025 年） 『現代実定法入門〈第 3 版〉』原田大樹（弘文堂，2023 年） 『高校生からの法学入門』中央大学法学部編（中央大学出版部，2016 年）		

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題等があった場合には、その提出日以降の授業時間内で説明します。

8. 成績評価の方法

試験 80%, 授業への貢献度 20%で評価します（あくまで予定であり、変更の可能性があります。変更する場合は適宜アナウンスいたします）。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAW961J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 民法Ⅰ	2 単位	戸田 知行
2022～2025 年度入学者 民法Ⅰ		
1. 授業の概要・到達目標 民法Ⅰでは、民法の中で特に身近な家族法（親族法、相続法）およびそれに関連する民法総則の一部（第一編第二章「人」）を取り上げる。人は生まれると親子関係に入り、成長・独立して婚姻関係に入り、子供が生まれるとまた親子関係に入る。そして、年をとると、場合によっては後見関係に入り、最後には死亡し相続関係が生じる。本講座は、これらの関係を規律する法の基礎を習得することを目的とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、民法とは？ 第2回：権利能力1（権利能力の始期、終期（失踪宣告の前まで）） 第3回：権利能力2（権利能力の終期（失踪宣告以降））、親族とは？ 氏名 第4回：相続1（相続とは？ 相続人、相続分、代襲相続、相続失格、相続の承認・放棄） 第5回：行為能力1（意思能力と行為能力、未成年者）、親権・未成年後見 第6回：親子（実子、養子） 第7回：行為能力2（成年被後見人・被保佐人・被補助人）、成年後見・保佐・補助、扶養 第8回：行為能力3（制限能力者の相手方の保護）、任意後見 第9回：婚姻1（成立） 第10回：婚姻2（効力） 第11回：婚姻3（解消）、内縁 第12回：相続2（相続の効力1） 第13回：相続3（相続の効力2、相続回復請求権、財産分離・相続人の不存在） 第14回：相続4（遺留分、遺言、死因贈与） ・各回の予定は、一応のものであり、変更の可能性がある。		
3. 履修上の注意 各種資格・採用試験にも対応するため、かなり高度な内容にも踏み込むが、受験希望者以外は、骨組みの理解ができれば十分である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 出席者は、事前に問題について考え、またテキストを読むなどして、「わからない所」をはっきりさせて、講義に臨むこと。復習として、重要な論点について、講義のノート、配布したレジュメ、テキストなどから自分なりの整理ノートを作ること。		
5. 教科書 『民法7 親族・相続〔第8版〕』（有斐閣アルマ） 高橋朋子・床谷文雄・棚村政行 （有斐閣） 令和七年(2025)を一応指定するが、その他、各自が気に入ったものでも構わない。		
6. 参考書 『民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第9版〕』 潮見佳男・道垣内弘人編 （有斐閣） 令和五年(2023) 『民法判例百選Ⅲ 親族・相続〔第3版〕』 大村敦志・沖野真已編 （有斐閣） 令和五年(2023)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験の解説に該当するものは、毎回配布するレジュメの中に、すでに記載してある。疑問がある人に対しては、出講日に訪ねてもらえれば、個別に対応する。		
8. 成績評価の方法 期末の試験で行う。		
9. その他 留意点は、講義の中で述べる。		

科目ナンバー (AG) LAW961J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 民法Ⅱ	2 単位	戸田 知行
2022～2025 年度入学者 民法Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 民法Ⅱでは、契約上の救済と不法行為責任を取り上げる。前者は、例えば、購入した物やサービスが期待外れだった場合の救済で、欠陥のある契約をなかったことにしたり（例 錯誤・詐欺・強迫による取消し）、契約の成立を前提に、契約違反の責任（債務不履行責任、担保責任）として、履行の追完や損害賠償をさせたり、契約解除を認めるというものである。後者は、例えば、交通事故で怪我をした場合の救済で、加害者から被害者に損害賠償をさせるというものである。主に契約関係にない当事者間で問題となる。本講座では、これらの要件・効果の基礎を習得することを目的とする。		
2. 授業内容 第1回：損害賠償法総論 1（責任の種類、安全配慮義務違反の責任） 第2回：損害賠償法総論 2（契約締結上の過失責任等） 第3回：不法行為 1（成立要件（故意・過失）、責任無能力者の監督義務者等の責任） 第4回：不法行為 2（成立要件（権利侵害と違法性）） 第5回：不法行為 3（成立要件（因果関係）） 第6回：不法行為 4（効果（方法、損害賠償請求権者、損害賠償額の算定）） 第7回：不法行為 5（効果（損害賠償額の減額事由、損害賠償請求権の性質）） 第8回：不法行為 6（使用者責任、注文者の責任） 第9回：不法行為 7（土地工作物責任、営造物責任、運行供用者責任、動物占有者の責任、失火責任法） 第10回：不法行為 8（共同不法行為）、法律行為 1（総論、内容の適法性・社会的妥当性） 第11回：法律行為 2（意思表示の構造・効力発生時期、心裡留保、通謀虚偽表示） 第12回：法律行為 3（錯誤、詐欺、強迫） 第13回：債務不履行責任 第14回：売主の担保責任 ・各回の予定は、一応のものであり、変更の可能性がある。		
3. 履修上の注意 各種資格・採用試験にも対応するため、かなり高度な内容にも踏み込むが、受験希望者以外は、骨組みの理解ができれば十分である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 出席者は、事前に問題について考え、また指示された文献を読むなどして、「わからない所」をはっきりさせて、講義に臨むこと。復習として、重要な論点について、講義のノート、配布したレジュメ、指示された文献などから自分なりの整理ノートを作ること。		
5. 教科書 特に指定しない。毎回レジュメを配布する。その他、講義の中で文献を指示する。		
6. 参考書 『民法判例百選Ⅱ 債権 [第9版]』 窪田充見・森田宏樹編（有斐閣） 令和五年(2023) 『民法判例百選Ⅰ 総則・物権 [第9版]』 潮見佳男・道垣内弘人編（有斐閣） 令和五年(2023)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験の解説に該当するものは、毎回配布するレジュメの中に、すでに記載してある。疑問がある人に対しては、出講日に訪ねてもらえれば、個別に対応する。		
8. 成績評価の方法 期末の試験で行う。		
9. その他 留意点は、講義の中で述べる。		

科目ナンバー (AG)POL911J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 政治学 I	2 単位	三森 ちかし
2022～2025 年度入学者 政治学 I		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 21 世紀のヨーロッパでは大幅な政治変動が起きています。2002 年には共通通貨ユーロが導入され、2004 年には旧東欧諸国を中心とする 10 もの国々が EU に加入しました。加盟国は最大時 28（現在は 27）、ユーロ参加国も 20 にまで増加しました。また、シェンゲン協定によって EU 域外国も含む 27 の国でパスポートなしの自由な移動が可能となっています。飛躍的な発展を遂げたヨーロッパの統合ですが、その一方で拡大に応じた EU の構造改革に手間取り、各国での EU 懐疑派の台頭を招きました。それは 2016 年の国民投票による英国の EU 離脱の決定（BREXIT）、そして 2021 年の完全離脱に繋がりました。また、ヒトの移動の自由は難民問題やテロの脅威、さらにはコロナ禍やウクライナ戦争によって危機に晒されています。この講義では、ヨーロッパの統合の過程を見ていくことで、国家および国際政治についての理解を深めることを目的とします。 《授業の概要》 下記の各タイトルに従った講義を行います。		
2. 授業内容 第二次世界大戦前の「汎ヨーロッパ運動」から現在の EU に至るまでの過程を辿ります。現在の EU の動向についても、大きな動きがあればその都度解説を行います。 第 1 回：EU とは何か 第 2 回：リヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギーと「汎ヨーロッパ」 第 3 回：戦後の欧州統合運動—欧州評議会— 第 4 回：ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSC） 第 5 回：ヨーロッパ経済共同体（EEC）の結成 第 6 回：仏独枢軸の始まり 第 7 回：ド・ゴールの挑戦—「65 年危機」— 第 8 回：拡大 EC の登場と仏独枢軸の危機 第 9 回：チンデマンス報告 第 10 回：ヨーロッパ統合の再始動 第 11 回：サッチャーと英国の財政負担問題 第 12 回：単一欧州議定書 第 13 回：EU の誕生 第 14 回：a. 定期試験・解説 b. まとめ		
3. 履修上の注意 新聞、ニュースなどでヨーロッパに関する知識を深めておいて下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義開始前に、参考書に少しでも目を通しておいてください。質問があれば随時行ってください。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 『新 EU 論』植田隆子ほか（信山社） 『ヨーロッパ統合の政治史』金丸輝男ほか（有斐閣） 『EU の政治』田中俊郎（岩波書店） 『EU—欧州統合の現在— 第 4 版』鷲江義勝ほか（創元社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末に定期試験を行って評価します。		
9. その他 特になし		

科目ナンバー (AG)POL911J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 政治学Ⅱ	2 単位	三森 ちかし
2022～2025 年度入学者 政治学Ⅱ		
1. 授業の概要・到達目標 21 世紀のヨーロッパでは大幅な政治変動が起きています。2002 年には共通通貨ユーロが導入され、2004 年には旧東欧諸国を中心とする 10 もの国々が EU に加入しました。加盟国は最大時 28（現在は 27）、ユーロ参加国も 20 にまで増加しました。また、シェンゲン協定によって EU 域外国も含む 27 の国でパスポートなしの自由な移動が可能となっています。飛躍的な発展を遂げたヨーロッパの統合ですが、その一方で拡大に応じた EU の構造改革に手間取り、各国での EU 懐疑派の台頭を招きました。それは 2016 年の国民投票による英国の EU 離脱の決定（BREXIT）、そして 2021 年の完全離脱に繋がりました。また、ヒトの移動の自由は難民問題やテロの脅威、さらにはコロナ禍やウクライナ戦争によって危機に晒されています。この講義では、ヨーロッパの統合の過程を見ていくことで、国家および国際政治についての理解を深めることを目的とします。 《授業の概要》 下記の各タイトルに従った講義を行います。		
2. 授業内容 EU 加盟国の紹介から、EU の諸機関および政策などについて学びます。 第 1 回：EU 加盟国の紹介〈1〉 第 2 回：EU 加盟国の紹介〈2〉 第 3 回：EU 加盟国の紹介〈3〉 第 4 回：EU の構造 第 5 回：EU の諸機関 第 6 回：EU の基本条約〈1〉 第 7 回：EU の基本条約〈2〉 第 8 回：欧州基本権憲章 第 9 回：EU の諸政策 第 10 回：共通通貨ユーロ 第 11 回：トルコおよびノルウェーの加盟問題 第 12 回：英国の EU 離脱問題 第 13 回：EU と日本の関係 第 14 回：定期試験		
3. 履修上の注意 政治学Ⅰの履修を前提として講義を行います。新聞、ニュースなどでヨーロッパに関する知識を深めておいて下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義開始前に、参考書を読んでおいてください。質問があれば随時行ってください。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 『新 EU 論』植田隆子ほか（信山社） 『EU の政治』田中俊郎（岩波書店） 『EU—欧州統合の現在—第 4 版』鷲江義勝ほか（創元社） 『EU の知識』藤井良広（日本経済新聞社） 『「ブレグジット」という激震：混迷するイギリス政治』スティーブン・デイ、カ久昌幸（ミネルヴァ書房、）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末に定期試験を行って評価します。		
9. その他 特になし		

科目ナンバー (CC)HIS111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 日本史概論	2 単位	伊勢 弘志
2022～2025 年度入学者 日本史概論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業概要》 ・現在の日本社会の前提になっている近現代の国際環境・社会環境を講義する。 ・私たちの社会が世界の潮流と密接であることを理解するために、政治学や現代思想にも着目し、私たちにどれほど影響しているかを考察する。 ・また、歴史学で得た「道具としての知識」を実社会で活用するため、「考える力」を訓練できるように「歴史学的思考法」について考える。 《到達目標》 1. 近現代とはどのような時代であるのかを知り、その理解の上に現在の日本社会や東アジア情勢の前提が理解できる。 2. 現在の教育問題・歴史認識問題などについて多面的な分析ができる。 3. 「道具としての知識」を実社会や教育の現場で活用するために、「考える力」を訓練する。その上で、「なぜ勉強をするのか？」について自身の答えをもてる。		
2. 授業内容 1 : 歴史を学ばないとどうなるか？ 2 : 「自由」と「勝手」はどう違うか？ - 戦後社会と歴史認識 3 : 「敗戦」と「聖断」－原爆はなぜ2 発落とされたのか？ 4 : 「東京裁判」－何を裁き・何を裁かなかったか？ 5 : 「国家の安全」と「国民の安全」 - 「戦後帝国主義」の登場 6 : 「安心」と「安全」はどう違うか？ 7 : 「文明」と「文化」は何が違うか？ - 「高度経済成長」と国民生活 8 : 「近代化論」 - 冷戦下の歴史認識と佐藤栄作内閣 9 : 「日本列島改造論」と「公共財」 - 高度経済成長の終焉と遺産 10 : 「相互依存」の世界 - 私たちの暮らしはどう成り立っているか？ 11 : 「能力主義社会」は成立するか？ - 「新自由主義」の世界 12 : 「自由」と「民主」はどう違うか？ 13 : 「働く」とは何か？ - 問い直される資本主義 14 : 「民主主義」の中の「個」／フリーライド&サイレントマジョリティー		
3. 履修上の注意 ◎ 初回の授業時に、成績評定の方法などを説明するので、必ず把握したうえで履修すること。 (理解のないまま履修した場合、成績評定に不利になる場合があります。) ① 教科書は必ず用意すること。 ② 毎時の講義内容について、次の講義までに教科書を読んで理解を深めておくこと。 ③ 知識（内容知）を獲得するだけでなく、知るための調べ方・自身の関心や疑問を自ら解決するための知識（方法知）を獲得し、さらに「考える力」を訓練できるよう留意すること。 ＊ 教室では特別な理由のない限り PC・スマホは使用できません。必ず理解した上で履修すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ① 教科書を読んで、自らの意見・考えをノートしておくこと。 ② 自ら調べて学習すること（「教わるのを待つ」姿勢ではなく、「自身で学ぶ」姿勢で臨むこと）。		
5. 教科書 伊勢弘志『明日のための現代史』〔下巻〕（芙蓉書房出版、2022 年）。		
6. 参考書 使用しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間の前後に教室で対応する。		

8. 成績評価の方法

レポート（およびプラスアルファとしてのリアクションペーパーによる加点）

9. その他

初回の授業時に成績評定や単位認定についての詳細を説明します。履修にあたっては必ずその内容を把握しておくこと。

科目ナンバー (CC)HIS121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 東洋史概論	2 単位	小松原 ゆり
2022～2025 年度入学者 東洋史概論		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 10 世紀から 20 世紀にかけての中国を中心とした東アジアの歴史を学びます。具体的な内容としては、宋・元・明・清の各中国王朝と、中華民国、中華人民共和国の歴史を概観し、その政治・社会・文化の特質について検証していきます。「たて」の歴史に加えて、中国とその周辺諸国（モンゴル、チベット、朝鮮、日本など）との「よこ」の歴史にも注目することで、東アジアの歴史を多角的に考察していきます。 《到達目標》 宋代から現代にかけての中国を中心とした東アジアの歴史に関する知識を習得することを目標とします。		
2. 授業内容 第 1 回： a：オリエンテーション b：アジアに関する映像の鑑賞 第 2 回： 唐宋変革と北方の諸勢力 第 3 回： 宋の社会と文化 第 4 回： モンゴル帝国の登場と元の拡大 第 5 回： 元の支配構造と宗教・文化 第 6 回： 明の建国と諸制度の改革 第 7 回： 明の海禁政策と倭寇 第 8 回： 明の崩壊と清初期の歴史 第 9 回： 清の全盛期と皇帝たち 第 10 回： 19 世紀：国内の動乱と列強諸国の進出 第 11 回： 清の崩壊と中華民国の成立 第 12 回： 混乱の中国と日本の大陸進出 第 13 回：「ふたつ」の中国と現代アジア情勢 第 14 回： a：まとめ b：テスト ※授業の進行状況によって内容が変更する場合があります。		
3. 履修上の注意 毎回出欠確認を兼ねたリアクションペーパー（意見や質問）を提出してもらいます。講義中の私語、スマホ、パソコンなどの使用は禁止。受講者の積極的な参加を求めます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：次の回の内容について事前に調べたり、参考書に目を通しておくと、授業の内容をより把握できるでしょう。復習：授業内で興味を持ったトピックをさらに掘り下げて調べてみましょう。		
5. 教科書 授業毎にプリントを配布します。パワーポイントを使いながら、視覚的にも歴史を学んでいきます。		
6. 参考書 『紫禁城の栄光―明・清全史』岡田英弘・神田信夫・松村潤，講談社学術文庫，2006 年，『海と帝国 明清時代（中国の歴史 09）』上田信，講談社，2005 年，『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』岩波新書，2010 年，『歴史からみる中国』吉澤誠一郎編著，NHK出版，2013 年，など。各回に関係する参考文献については、授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回のリアクションペーパーの内容については、次の授業で情報を共有し解説を行う予定です。		
8. 成績評価の方法 期末テスト：60%，授業への貢献度：40%（出欠，リアクションペーパー，積極性，授業態度等を含む）。基本的に出席が全回数の半分に満たない場合は単位を認めません。		
9. その他		

科目ナンバー (CC)HIS131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 西洋史概論	2 単位	渡辺 知
2022～2025 年度入学者 西洋史概論		
1. 授業の概要・到達目標 15 世紀のポルトガル、スペインのヨーロッパ外への進出に始まる世界の一体化の過程を世界システム論の観点から概観し、ヨーロッパ近代の歩みが世界の諸地域に与えた影響について考えてみたいと思います。ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。		
2. 授業内容 以下の通り授業を進める予定ですが、進行具合によって若干の変更を加えることもあります。 第 1 回 世界の一体化 この講義のテーマについて説明します。 第 2 回 大航海時代以前のヨーロッパ 1 11～13 世紀のヨーロッパの経済、社会について説明します。 第 3 回 大航海時代以前のヨーロッパ 2 14 世紀以降ヨーロッパで危機的状況が深まっていく過程を説明します。 第 4 回 ポルトガルとアジア ポルトガルがアフリカ、アジアに進出していく過程とその影響について説明します。 第 5 回 スペインとアメリカ 1 スペインのアメリカ進出の過程とアメリカに与えた影響について説明します。 第 6 回 スペインとアメリカ 2 スペインのアメリカ進出がスペインと世界の一体化に与えた影響について説明します。 第 7 回 17 世紀のヨーロッパ 「17 世紀の危機」論争を紹介しつつ、西ヨーロッパ諸国の台頭を説明します。 第 8 回 第一次イギリス帝国の形成 イギリスがオランダ、フランスと対立しながらその帝国を形成する過程を説明します。 第 9 回 イギリス商業革命 イギリスの帝国形成がイギリスの経済、社会に与えた影響について説明します。 第 10 回 西インド諸島と砂糖 イギリスの植民地支配が西インド諸島に与えた影響について説明します。 第 11 回 アフリカと大西洋奴隷貿易 イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国による大西洋奴隷貿易の展開とその影響について説明します。 第 12 回 フランス革命と環大西洋革命 1 フランス革命の展開について説明します。 第 13 回 フランス革命と環大西洋革命 2 フランス革命をその時期大西洋の両岸で起きた出来事と関連付けながらその意義を説明します。 第 14 回 a まとめ b 試験		
3. 履修上の注意 西洋の歴史に興味のある方はもちろん、これまで歴史になじみがなかった方の受講も歓迎します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した問題について参考文献等で調べてください。授業前に前回の授業ノート、参考文献を見返し、まとめておいてください。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 参考文献として以下の文献を紹介しておきます。授業で随時、紹介してきます。 川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業でコメントします。		
8. 成績評価の方法 授業の区切りに授業内容のまとめや感想を書いて頂き、これを平常点とします。学期末には試験を行い、成績はこれらの総合評価とします（学期末試験 80%、平常点 20%）。		
9. その他 オフィスアワーは最初の授業でお知らせします。		

科目ナンバー (CC) GE0131J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 地誌学概論	2 単位	山本 由美子
2022～2025 年度入学者 地誌学概論		
1. 授業の概要・到達目標 地誌学とは特定の地域の特性（地域性）を総合的に解明する学問といわれているが、なぜ訪れたことも、訪れるつもりもない地域のことを知る必要があるのだろうか。本講義は「なぜ、誰のために、地誌学という学問が必要・有用なのか」、あるいは「地誌学とはどうあるべきか」などの素朴かつ根本的な問いから出発する。そのうえで、国内外の様々な地域に関する地誌を、実用・他分野の地域的記述（ウィキペディア、観光書、環境史など）とも比較しながら 解説・検討する。本講義を通じて、対象地域に関する知識（環境と生活、文化、生業と産業、農業、まちづくり、国 土開発、地域活性化など）を増やすだけではなく、地域記述の存在意義や分析方法、あるいは社会的影響などについても、批判的に考える習慣とスキルを身につけることを到達目標とする。		
2. 授業内容 主な項目は以下の通り。ただし変更の可能性はある。変更の際には事前に連絡をする。 01. 授業の概要・自己紹介 02. 地誌・地誌学とはなにか：地域性、風土、景観、権力（第 1、2 章） 03. 地誌の道具（第 3、4 章）・面白い地誌とは（第 5 章） 04. 都市の個性（第 6 章） 05. 産業・都市（第 7 章） 06. 自然と人間・環境史（第 8、 9 章） 07. まちやむらの変遷（第 10 章） 08. 通期課題中間ディスカッション 09. 交通、交易、観光（第 11 章） 10. 災害と共に生きる（第 12 章） 11. 外国地誌 1（第 15 章） 12. 外国地誌 2（第 20 章） 13. 地誌は役に立つか 14. a. 期末試験 b. まとめ・解説		
3. 履修上の注意 授業においては、教官の講義を聞いて理解するだけでなく、学生による質問、意見や感想を共有することを通じて、お互いの学びの質を高めることが大切である。よって授業への出席はもちろんであるが、予習や事前課題を通じて準備を整え、積極的に授業に参加する姿勢が必須である。 授業内でグループディスカッションや質疑応答など、インタラクティブな参加型の授業を行う予定である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業・ディスカッションに参加するためにも、指定の締切日までに課題の作業を仕上げてくることが求められる。課題には、教科書と指定文献（ニュース、雑誌記事、学術文献）の解説、映像資料（ビデオ）の視聴、授業内容に対する感想や 質問、小論文などが含まれる。		
5. 教科書 『みわたす・つなげる地誌学』上杉和央・小野映介（古今書院）2023 年		
6. 参考書 『地誌学概論（第 2 版）』矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（朝倉書店） 2020 年 『つながりの地理学：マイノリティと周縁からの地誌』熊谷圭知（古今書院） 2022 年 『地理・地誌・地理学の論理構造』田邊裕（古今書院） 2024 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各課題の提出物に対して、評価や助言などを添えて返却する。また学生の希望に応じて、口頭で課題 に対する助言や、授業内容に関する補足的解説を行う。		
8. 成績評価の方法 中間テスト（30％）＋通期課題（45％）＋授業参加・貢献度及び質問票の提出（25％） 3 回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 履修人数によって調整する可能性がある。 より詳細な評価基準については授業内で説明する。		

9. その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題（心身の健康、人間関係、経済的問題など）が生じた場合には、積極的に学生相談室を利用することをすすめる。

科目ナンバー (AG) GE0911J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 地理学概論	2 単位	山本 由美子
2022～2025 年度入学者 地理学概論		
1. 授業の概要・到達目標 地理学とは、空間をめぐる学問であり、対象とする空間の中の疑問を探り、そしてその答えを表現していくのが、地理学全体に共通する方向性である。本講義では、人文地理学的な視点を主眼に、私たちが日々生活するこの世界で起こっている様々な問題の中から、多様な事象を取り上げ、具体的な事例の紹介とともに地理学の基礎的な概念や研究課題について解説していく。また、地域、環境、文化、経済、開発、及び社会と関連した多岐にわたる現象を考察する研究視点を持つ地理学的な視点を紹介していく。		
2. 授業内容 主な項目は以下の通り。ただし変更の可能性がある。変更の際には事前に連絡をする。 01. 授業概要・地理学とは何か・自己紹介 02. 人口と開発 03. 資源・エネルギー 04. 農林水産業の立地と分布 05. 工業化と経済発展 06. 観光と地域 07. 集落の形態と構造 08. 都市と社会 09. 開発と地域 10. 国土政策・地域政策 11. 環境問題 12. 世界と日本 13. 地理学と社会 14. a. 期末テスト b. まとめ・解説		
3. 履修上の注意 授業においては、教官の講義を聞いて理解するだけでなく、学生による質問、意見や感想を共有することを通じて、お互いの学びの質を高めることが大切である。そのため、授業への出席はもちろんであるが、予習や事前課題を通じて準備を整え、積極的に授業に参加する姿勢が必須である。 授業内でグループディスカッションや質疑応答など、インタラクティブな参加型の授業を行う予定である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業・ディスカッションに参加するためにも、指定の締切日までに課題の作業を仕上げてくることが求められる。課題には、教科書と必要に応じて指定文献（ニュース、雑誌記事、学術文献）の解説、映像資料（ビデオ）の視聴、授業内容に対する感想や 質問、小論文などが含まれる。		
5. 教科書 「みわたす・つなげる 人文地理学」上杉和央、香川雄一、近藤章夫編 古今書院 2021 年 ISBN: 978-4-7722-8121-8 C3025		
6. 参考書 授業内で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各課題の提出物に対して、評価や助言、またその理由などを添えて返却する。また学生の希望に応じて、口頭で課題に対する助言や授業内容に関する捕捉的解説を行う。		
8. 成績評価の方法 中間テスト（30％）＋期末テスト（45％）＋授業参加・貢献度及び質問票の提出（25％） 3 回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 履修人数によって調整する可能性がある。 より詳細な評価基準については授業内で説明する。		
9. その他 学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題（心身の健康、人間関係、経済的問題など）が生じた場合 には、積極的に学生相談室を利用することをすすめる。		

科目ナンバー (CC) PHL111J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 哲学概論	2 単位	長田 蔵人
2022～2025 年度入学者 哲学概論		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 西洋哲学の歴史ではその初期から、のちに「形而上学 (metaphysics)」と呼ばれることになる学問が探究されてきた。それは伝統的には、「存在者であるかぎりの存在者」の探究とされ、「存在するとはどのようなことか」「何が存在するのか」「現実 (reality) とは何か」などを一般的に問う、「哲学の中の哲学」とも言うべき探究であった。近代以降、それは「存在論 (ontology)」とも呼ばれ、自然科学や論理学の飛躍的な発展を踏まえて、現代においても新しい状況の中で見直され問い直されている。たとえば、「生物種は存在するか」「種が存在するとすれば、それは何であるのか」「虚構 (フィクション) の対象はどのような意味で存在し、どのような意味で存在しないのか」などといった問いもその探求のうちに含まれる。 本講義では、現代存在論において何が問われているのか、どのような考え方が主張されているのかを概観し、私たちが自明であると思っている「存在」の奥深さや哲学的思考の意義について理解を深めていきたい。 【到達目標】 (1) 現代の存在論において、何がどのように問題にされているかということを、その問題の背景や意義を踏まえて説明できる。 (2) 存在論の諸問題に対する多様な考え方や立場が、どのような根拠に基づいて主張されているかを説明できる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション ― 形而上学とは何か 第2回 「何が存在するのか」という問いの意味 第3回 存在論の方法について 第4回 カテゴリーの体系 第5回 普遍的性質は存在するか (1) 第6回 普遍的性質は存在するか (2) 第7回 生物種の存在論 第8回 可能的世界の存在論 第9回 虚構的对象の存在論 第10回 世界とは何か 第11回 世界は存在するか (1) 第12回 世界は存在するか (2) 第13回 科学的世界像の存在論 第14回 a: まとめ／b: 試験		
3. 履修上の注意 出席数が授業回数の 3 分の 2 を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。 また、特段の事情がない限り、20 分以上の遅刻は出席としては認められませんので、注意してください。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 あらかじめ配布されるレジュメと資料を熟読のうえ、疑問点をまとめておくこと。 また授業後は、レジュメを中心にノートを整理し、正確な理解と自分なりの考えを深めたうえで、ミニ・レポート課題を提出する。		
5. 教科書 教科書は使用せず、レジュメと資料を配布する。		
6. 参考書 倉田剛、『現代存在論講義 ― ファンダメンタルズ』(新曜社、2017 年) 倉田剛、『現代存在論講義 ― 物質的对象・種・虚構』(新曜社、2017 年) マルクス・ガブリエル、『なぜ世界は存在しないのか』(講談社、2018 年)		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ミニ・レポート 30%、 期末試験 70%		
9. その他 連絡先: kurandoo@meiji.ac.jp 研究室: 哲学研究室 (3 号館 4 階 401 号室)		

--

科目ナンバー (CC)PHL121J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 倫理学概論	2 単位	長田 蔵人
2022～2025 年度入学者 倫理学概論		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 人類はそれぞれの時代と地域において、人はどう生きるべきか、いかに振る舞うべきかについて思索をめぐらせ、それを特有の「宗教的戒律」や「道徳的規範」として表現してきた。西洋哲学の伝統では、そのような「規範」や「価値」への問いが、「倫理学 (ethics)」という 1 つの合理的・批判的な学問へと仕上げられ、望ましい生き方や振る舞いについて、「根拠」を持って語る可能性が追求されてきた。 本講義では、この倫理学という学問における人間の思索の追体験を通じて、私たちが無意識のうちに前提している価値観や人生観の、多様な源流を理解することを目指す。そこで得られる視点から、自分自身の「価値観」や「思考の枠組み」を客観視し、評価し直してもらいたい。 日本は東洋思想と西洋思想から決定的な影響を受けつつ、独自の倫理観・価値観を発展させてきた。そこで本講義では、これらを順に扱っていく。 【到達目標】 (1) それぞれの回ごとのテーマについて、議論の概要を自分自身で説明できる。 (2) そこで提示されている問題に対する自分自身の考えを、筋道を立てて論じられる。		
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション—倫理学とは何か？ 第 2 回 古代ギリシャの倫理思想 第 3 回 古代中国の倫理思想 第 4 回 ヘブライの宗教とイスラーム 第 5 回 古代日本人の宗教と倫理 第 6 回 古代日本人の政治理念 第 7 回 神仏習合と怨霊信仰 第 8 回 武士道の理念 第 9 回 西洋近代の倫理思想 第 10 回 労働と公正な社会 第 11 回 日本の近代化と戦後日本人の精神 第 12 回 現代日本人の宗教意識 第 13 回 グローバル化時代の倫理 第 14 回 a: まとめ／b: 試験		
3. 履修上の注意 出席数が授業回数の 3 分の 2 を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。 また、特段の事情がない限り、20 分以上の遅刻は出席としては認められませんので、注意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ配布されるレジュメと資料を熟読のうえ、疑問点をまとめておくこと。 また授業後は、レジュメを中心にノートを整理し、正確な理解と自分なりの考えを深めたうえで、ミニ・レポート課題を提出する。		
5. 教科書 教科書は使用せず、レジュメを配布する。		
6. 参考書 山脇直司、『ヨーロッパ社会思想史』（東京大学出版会、1992 年） マイケル・ピュエット、『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』（早川書房、2018 年） 末木文美士、『日本思想史』（岩波書店、2020 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ミニ・レポート 30%、 期末試験 70%		
9. その他 連絡先: kurandoo@meiji.ac.jp 研究室: 哲学研究室 (3 号館 4 階 401 号室)		

--

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 フィールドワーク実習	2 単位	食料環境政策学科教員
2022～2025 年度入学者 フィールドワーク実習		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》《授業の概要》 教員の指導のもとで、リサーチゼミ・卒論ゼミと関連して、必要なフィールドリサーチスキルを身につけることを目的として、実際に教員が設定した調査実習先でフィールドワークを行い、必要な調査・分析・とりまとめ・発表等を行う。 なお、リサーチゼミ・卒論ゼミでは、研究テーマを設定し、2年間を通じて、文献の講読と卒業論文の作成を行う。リサーチゼミでは広く研究テーマに関連した著書や論文などを講読・読解し、ゼミナール形式で発表し、議論する。さらにゼミナールという場における議論の仕方をも学ぶ。卒論の作成に当たっては、関連文献を読解し、データを収集し、調査を行うなどして、その結果を論文に取りまとめる。特に、自らの問題関心を明確にし、そのテーマに沿った論文を執筆する能力を身につけることを目的とする。		
2. 授業内容 研究室により研究領域・実習先が異なるので、履修者は教員の指導のもと、フィールドワークの内容を決定し、実習の準備・本調査に参加する。		
3. 履修上の注意 トータルで4学期の履修が必要。単位が認定される場合はリサーチゼミ・卒論ゼミと一括して4年次秋学期に付与する。 但し、学習態度の内容によっては、単位を付与しない場合もあり得るので、注意すること。 なお、英語農学研究室を履修した場合はフィールドワーク実習は履修できず、リサーチゼミ・卒論ゼミだけの履修となる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 常に問題意識を持ち、幅広く知識を深めること。		
5. 教科書 指導教員が指定する。		
6. 参考書 指導教員が指定する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 指導教員が指示する。		
8. 成績評価の方法 実習への参加態度・フィールドワークへの取り組み姿勢を考慮して評価する。 また、リサーチゼミ・卒論ゼミでのゼミでの研究姿勢、文献の読解力、発表、議論への参加、卒業論文も併せて総合的に評価する。		
9. その他		

科目ナンバー (AG) IND412J		
科目名	単位数	担当者
2026 年度以降入学者 リサーチゼミ・卒論ゼミ	8 単位	食料環境政策学科教員
2022～2025 年度入学者 リサーチゼミ・卒論ゼミ		
1. 授業の概要・到達目標 教員の指導のもとで、研究テーマを設定し、2年間を通じて、文献の講読と卒業論文の作成を行う。リサーチゼミでは広く研究テーマに関連した著書や論文などを講読・読解し、ゼミナール形式で発表し、議論する。さらにゼミナールという場における議論の仕方をも学ぶ。卒論の作成に当たっては、関連文献を読解し、データを収集し、調査を行うなどして、その結果を論文に取りまとめる。特に、自らの問題関心を明確にし、そのテーマに沿った論文を執筆する能力を身につけることを目的とする。		
2. 授業内容 研究室により研究領域が異なるので、履修者は教員の指導のもと、文献調査と卒論テーマの内容を決定する。		
3. 履修上の注意 トータルで4学期の履修が必要。単位が認定される場合はフィールドワーク実習と一括して4年次秋学期に付与する。 但し、学習態度の内容によっては、単位を付与しない場合もあり得るので、注意すること。 なお、英語農学研究室を履修した場合はフィールドワーク実習は履修できず、リサーチゼミ・卒論ゼミだけの履修となる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 常に問題意識を持ち、幅広く知識を深めること。		
5. 教科書 指導教員が指定する。		
6. 参考書 指導教員が指定する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 指導教員がリサーチゼミ・卒論ゼミの授業のなかで指示する。		
8. 成績評価の方法 ゼミでの研究姿勢、文献の読解力、発表、議論への参加、卒業論文を総合的に評価する。 またフィールドワーク実習がある場合は、実習への参加態度も合わせて考慮して評価する。		
9. その他		